

145 G857 v.15

AC Zokuzoku gunsho ruiju

East Asia

PLEASE DO NOT REMOVE

CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY



Digitized by the Internet Archive in 2009 with funding from Ontario Council of University Libraries

續 多人人 第 +

AC 145 G857





# 續々群書類從第十五

## 例言

顯 非 本 書 何 命 5 昭 編 黑 を を ٤ 人 n 受 古 註 論 は 7: 0 Ш U け 今 歌 眞 L 所 3 集 文 7 7 為 道 た を 註 部 始 氏 以 加 か 3 第 藏 B め 7 ^ 知 \_\_ + 平 1-た れ 0 本 ٤ 卷 難 假 參 編 y な L 議 り、 叉 L 字 は 敎 僧 1 之 序 然 交 本 顯 9 書 長 顯 管 文 n 昭 昭 本 內 0 0 ど 省 から 古 f to 閣 說 け 註 文 後 以 を 今 9 \_\_\_ 近 7 庫 揭 鳥 集 册 來 註 藏 げ、 羽 校 は 0 訂 古 次 天 以 群 B 皇 下 に 書 せ 寫 0 片 自 文 干 4) 類 ٤ 但 假 說 治 從 f 元 種 字 を 正 見 底 記 年 を 編 ż 本 本 某 L 收 1: \$ 0) を 议 或 親 編 頭 底 12 王 書 木 は 入 ば 是 頭 は ٤ 0 せ

俊 賴 1 藤 原 傳 季 集 \_\_\_ 世 1= 卷 於 俊 3 歌 賴 學 が 歌 0 學 班 上 1 を 知 つ 3 3 7 1= 足 故 事 3 を B 記 0 な せ 12 3 B B 0 傳

來 本 ٤ 0) 2 本 清 は 水 寫 濱 本 臣 な 校 3 本 を を 以 以 7 7 魯 訂 魚 IE 0) せ 誤 り、 尠 か 5 す 黑 川 氏 號 温 木 在 底

材 續 1-歌 漏 林 良 12 材 た 集 20 6 補 卷 Ch 下 1: 河 3 B 邊 長 0 流 な 9 0 著 本 哥 1= 貞 L て、 享 元 年 條 板 禪 を 閤 以 0 T 歌 校 林 訂 良

せ

り、

書 和 新 梨 L Vi 7 歌 T 本 黑 0 會 緒 集 Ш 彼 從 氏 0) 定 を 來  $\equiv$ 藏 流 開 歌 岩 \_\_^ 寫 1-卷 3 學 本 家 於 戶 1: を け 作 3 0) H 採 3 者 唱 茂 E 收 歌 詳 睡 ^ 0 せ 道 な な 來 0 9 9 5 著 法 9 ず、二 式 本 L 1 書 論 L 0) 條 ---は T 破 家 帝 制 班 1 其 流 國 to 0) 细 0 温 拘 詞 江 書 3 束 或 1-館 は 空 を 記 藏 足 7 脱 L 1-3 木 せ 2 E た を を 採 3 は 0) 8 な E 收 歌 等 9 0 せ 學 1 本 1-り、

新 1 撰 至 莵 3 玖 連 波 歌 集 多 ----集 4-8) 卷 た 3 宗 3 祇 0 法 な 4) 師 宽 0 保 撰  $\equiv$ 1-年. L 板 7 を 永 底 亨 本 よ ٤ 4) 明 黑 應 川 時 氏 代

心 連 採 敬 集 宗 收 良 せ 祇 材 り、 其 ----他 卷 0 人 作 々 者 0 詳 作 な 例 5 ず を 支 記 L 那 た 0 3 人 B 物 0) 故 1 事 L を 記 7 寬 Ų 永 更 八 1-年 專 板 順

を

岩 語 倉 本 永 ٤ ٤ 中 八 清 稱 世 年 水 帝 す 期 に 物 語 成 以 國 る 前 圖 は n 卷 書 誤 0 3 作 館 9 風 本 な な 葉 作 を 3 和 者 3 以 2 事 歌 詳 集 7 ٤ は な 校 識 1: 5 勿 ず、 訂 者 論 本 書 な せ 0) 但 り、 確 る 0) 時 歌 ~ 靗 代 L を E あ 後 收 9 つ 內 世 め V 7 閣 本 た 文 書 3 は、 を 龜 庫 包 正 見 藏 山 本  $\equiv$ n 天 位 ば 皇 を 物 鎌 文 底

歌 風 L 3 に 得 を に ~ B つ 十 揭 れ 四 憾 げ な 首 È 5 た ζ 0 3 物 歌 は 語 を \_\_ 全 見 あ 卷 3 部 n を 傳 ば 今 は 是 作 傳 5 亦 者 ず 鎌 詳 n 黑 3 倉 な 5 B 川 中 ず、但 0 春 世 期 ۷ 村 中 以 風 0 1 說 前 葉 は 1= 和 0 只 歌 風 作 五. 葉 集 な 首 1-集 ろ 見 を を 本 ź 書 考 推 た 3 知 0

例

3 0 3 な 12 は 全 部 - -卷 ば 7), 6) な 4) L かる 二、 々 3 4) 木 は 丹

鶴本を採收せり、

中 4) 古 兵 頃 物 部 か ili. な 卿 0 £" 色 め 物 1-葉 3 部 作 和 た 歌 3 卷 4) 集 E L 風 作 3 0) 0 葉 1-省 詳 は な 和 3 歌 あ な 集 5 n ~ ず、黑 L 無 ど 8 ٤ 名 草 V 川 を 子 春 9 4) 等 村 < 水 1 0 書 靗 8 つ に、 黑 見 た 此 川 Ž な 12 5 0) 氏 詞 藏 は 物 室 E · 清/i. 本 岸 WJ 5 は 交 腹 水 O)

由豆流校本を採收せり、

源 か 3 日 H 家 記 記 長 に H 1 書 L 記 て け ..... 徒 9 卷 纵 ٤ 草 あ 本 3 に 書 殘 は は 即 3 家 5 松 長 2 3 か ^ 12 建 仁 な 举 9 1-よ 4) 木 淋 L 承 黑 元 かしい 川 ~ 氏 歌 わ 慰 0) 1: 本 事 9 1 を を 採 il. 家 収 12 せ

せり、

本 編 6 編 12 た 次 1-4) 玆 就 に 3 7 言 は 感 畠 謝 山 徤 0 意 和 を 田 表 英 す。 松 彌 富 濱 雄 0) = 氏 接 助 を

與

例

言

明治四十年七月

五

例 言 六

## 續々群 書類從第十五歌文部二

目
N.Ea
錄

風につれなき物語	岩清水物語	連集良材	新撰莵玖波集	和歌會式	梨本集	續歌林良材集	俊賴口傳集	顯昭古今集註
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	五. 〇九	四七九	····	三五二		五五五四	一七五	

兵部

卿物

語

目

餘

源家長日記:

文部二目錄

終

歌

續

R

群

書

類

從第十五

-

## 歌文部

顯 昭古今集註卷第

春 Ë

題不 知

4

×

カ

キ ٤ アルカカ ケナ 讀 人不 ŀ 知

工 = 牛 jν ゥ ク ス テ ナ ケ Æ 才 ~

ダ ユ 催馬 フ IJ 樂 ツ 梅 枝

>

歌

也

۱

w

=

ナ

IJ

テ

4

X

ガ

エ

1

加

ŀ

云

也

篇

ナ

ク

=

1

花

サ

カ

ヌ

前

3

IJ

フ IJ

IJ Æ

V

文 =

=

ナ

鶯 ナ 云 ケ ۲\* 春 力 Æ ケ ナ テ ヲ 冬 ŀ 云 7 ۱ر 春 ゥ = = 雪 カ • w フ ŀ w 云 ŀ フ 3 ŭ X

ナ フ ŋ 12. 4 1 w 3 ヲ メ w × ナ 1)

歟春

貫之

=

ヴ w Æ ナ ン チ ŋ ケ w

カ

ス

3

ダ

チ

1

メ

Æ

ハ

w

ノ

ユ

丰

フ

v

ナ

\*

サ

= メ 1 コ 1 ノ メ グ ₹ イ ヅ N ヲ **=** 

1

X

ナ 4 イ 3 フ IJ ナ 7 ŋ ケ 春 春 ۲° 1 ŀ 木 フ w イ Ħ フ 4 ユ 丰 也 1 æ ノ、 但 テ 花 人 7 葉ヲ云 1 似 食 メ ダ ス Æ 也 w w 事 物 オ w ヲ ホ 1 7 3 丰 ツ ラ ン 1

此

歌

サ

X ク w

寛皇テ
平皇花 御 ナ 時 后#キ 宮里歌 合語モ 歌ジハ 歌 サチルトヨメルハナチルトヨメル 12 友景であり

フ 人 鶯 ナ Ł 力 シ ヲ ヲ ヲ セ゛ N 3 サ Ì 1 カ ブ 2 ス ヲ ヲ カ フ = 3 ダ せ 11 ŀ IJ P サ ブ h w 1 3 ン メ ^ ダ ٧ テ 便 フ w 3 風 ŋ ナ = 1 ŋ V æ 1 = イ サ ヲ 云 ダ 春 ザ ク ソ ナ フ 1 ŀ フ 1 丰 1 テ 7 ス ン ゥ 誘 w æ V 云 引 シ 18 7 也 花 ٤ ス N K w シ ス サ グ ナ =

テ

ホ

ソ

1. ク ス テ Æ ٤ 1 7 ス ナ ソ ナ ナ ガ チ ク E = = ホ ン 1 次第 ヌ ヤ ヲ 7 サ 18 ŀ オ æ Æ 在 ハ 原棟 ザ ゥ 12 力 梁 ナ

w

子

顋 昭 古 今 集 註 卷

1 春 ヌ w ~ カ = シ 1) ナ 2 ナ Ի ラ ラ 7 花 部 云 ラ ナ シ H 1 ナ 7 ナ サ 12 F ŀ ソ 1) 7 ラ BZ 验 A 同 V ~ ハ 云 長 1 丰 ウ 歐 カ 卿 ١٠ = = ク ナ 力 + 7 云 1] ラ ٤ = ш カ ス ガ ズ V = 又 ス シ ハ テ Ш Æ 派 息 3/ E 家 テ 赤 不 懷 = 7 = 印 云 常 E  $\exists$ 7 然 1 也 T E ナ ゥ 歟 17 ヲ 7 丰 相 ヲ 1 w 作 ナ ウ ナ 1 3/ 者 IJ 2 产 w

1)

### ハ ナ ヤ 丰 シ ワ カ ク サ 讀 ツ 7 人

不

知

歟 カ 使

E

=

Æ

V

カ

ス

カ

1

ハ

ケ 知 IJ

フ

題

不

IJ 殺 せ カ 7 ケ v 卿 3 1) Æ 昔 云 = ヲ 業  $\Rightarrow$ E 45 V V IJ 7 ۱۷ 伊 ۱۰ カ シ 李 1) 柳 チ カ 郁 韶 歌 伊 机 勢 カ \_ V + \_ オ = グ 2 シ テ サ ケ -2 3 2 ツ ラ F =

1 使 118

カ 3 3 11 キ 1 L 齋宮 給 ナ チ ケ ~ ガ ス 1 サ \_ \_ 2 丰 しナ w テ 2 人 力 Æ 1 1 Æ E 1 彼 1) オ 丰 2 = 3 業 ス ナ 宫 カ Ł 7 11 平 ク ケ メ カ Ŀ 力 7 7 給 ۱ر 15 7 N ヌ Æ \_ 1) 2 1 陸 ス 4 ケ 與 ナ ケ サ 3 ` IJ V 12 シ テ 2 iv ン ナ 心 7 -18 ス 野 ガ ゲ X 3 7 = ク Դ シ \_\_ 6 シ 水 サ iv ツ 丰  $\exists$ タコ 7 7 15 ウコ = 1 ナ 7 ツ オ ٢ ر ر 工 4 カ 7 ケ シ テ 1 15 iv ケ p ヲ t 1) 7 w 7

> フ 力 カ w 1 京 ŀ \_\_ 1 テ Ľ Æ 35 H V 舍 110 = ヲ テ 2 æ ナ 1 = " 3 步 X 1] w ケ ŀ ナ w ス + 1 æ Ŀ 27 ナ 1%

頭書 去 山 间 1) 21 F 7 不少覺敗 云 相 之 215 BI F ÉD 書 フ 具. 為 メ 三向 叢 11 \_\_\_ -------3 云 假 狩 113 尾 テ カ 1 E 皈 伊 使 張 7 ヲ ス 1) 叁 如 使 1) 1 ス 或 物 ナ ゥ 使 iv 之山 一齊宮 尾 話 1) 造 \_\_ IV 1 張 テ 个 ナ \_\_ 21 1 7 1 國 野 教 應 3/ 1) ·E 1] 牛 委 狩 7 -旁無 心得 行 狩 n 卿 勅 見 便 1 ス 便 國 義 1% 12 111 7 洪 1 \_\_\_ 史 アラ 男 iv 勅 V 100 15 25 7 献 他 假是 颇 1) 此 ズ 政 ۱ر ---應 假 洪 7 影 假 使 テ ·大 5 不

高 ク 7 -ヲ Ł 7 カ 1 昭 2 カ サ 2 = 1 1 = 云 一付 伊 サ = 7 シ to 勢 IJ 1 þ 1% 此 母 ケ 1] 7 釋 齋 1) ク 7 ケ 111 常 堂 ff) 有 サ 1 2 勢國 ナ 18 1 \_ = 條 何 1) 7 3 7 12 ケ t 3 七 王: 不 iv カ テ IJ X 祁 人 1) イ ヲ = 1 = Æ 御 ナ 1 ツ = 1] イ 人 1) 7 フコ フ 1 5 イ t 仰 ٤ = 1% \_ 弘 V h 條 y 18 1 约 ナ 1 牛 MI h ŀ 5 云 250 子 TE iv カ

1

3 3 1) 平 ŀ t ッ ۲ 云 ŀ 云 ヤ 2 が如り 密通之故 テ カ カ 王系圖二云恬子內 ャ 厅 と 7 ス = k 1) = ゴ 叉云 テ ケ 1.0 w IJ ١. ۲ 年六月八日薨云 但 30 ユ U | 觀元年十月為一伊勢齊王 | 同十八年退之 此詞等者別シテ 齋宮 通云 殿 給 111 一仲實古今目錄云業平朝 V 丰 = 4 ヲ フ 1 3 = 7 サ 18 w P ヲ サ ィ ノク 々二二二 ク ラ ヲ シ ヲ 在 1 4 ナ テ IJ ス 歟又 ナ 原 テ × 2 2 Æ 7 1 ノ = ナ 3/ ナ ナ イ チ ケ IJ 3 3 力 考伊 X 1) ヲ ラ 7 " ~ イ 11 ケ 親王文德天皇/女母同二惟 ナ ナ 尾 テ 7 ケ k = IJ IJ 3 18 = ス 12 勢物 ガ > ガ = 張 3/ 3 1 Ł w ユ 然者讓位之時退之全非二 ッ 7 7 サル ヲ ヲ IJ 事 次 7 t シ n 3/ ŀ へ参ぶ 國 サ = IJ ス ŀ V ŀ ケ ヲ ソ タ 語云 = ナ トイフ事イカ ス 1 IJ w Z 臣為,,勅使,參,,伊 丰 = = = = 3 イ ガ タ ツ ~ = ヲ ケ ス リテ 4 jν 110 IJ ŀ ~ w セ チ サ カ Ł U カ 使 4 ナ カ 文 7 ١, ブ ŋ フ = ヌ 7 齋宮 シ ナ ŋ カ ガ イ = 7 ~ ラ = 工 デ 11 w ŀ IJ ケ オ ケ イ 3/ 7 ヲリ サ ッ 7 ŀ IJ ボ 10 7 ズ 4 ダ 1 3 ホ V 延喜 大 高 考 ١, ラ ŀ 1 七 カ カ 1 工 18 ケ 3/ 業 テ ヲ 7 ス ワ ٤ 3 ヌ ヲ " ラ

> ٤ Æ 5 シ ŋ n 7 フ 7 テ = 工 イ 1 ヲ 力 シ ク テ 7 ۱۷ V = ゥ ス

此集 露之怖 リ此相 生師 水尾 髮,到,陸奧,云 云 或 條 御 尚 后 時 違尤可二會釋一事也 ハ春日野ト 一云々高階茂範為、子仍為一高階姓一也三二 在 一仍高家子」今不 ナ Ŧī. 歟依 中 w 將為と ~" 一々條后也二 シ イ 御 ヒ伊勢物語 息 1件后1出 事一配 叉中 所 を一伊 染 將與,齊宮,密 流 殿 勢一云々 之 后 = 家 條所見 ハ 相構 ナ 武藏野ト N ~ 其 依如有二 平 **シ** 〈後爲二 文 굸 通 云 次 12 題 生 令

假事 成畢 頭書 水 ス 染殿 裏書 尾 也伊 173 然者敦 童 IJ 姓 生 ケ 勢物 抄 階 清 ヲ w 1 云 茂 丰 云 和 女 長 在 入道 範 サ 語 テ ヲ 御 F 五中將 高 店 云 サ ガ 師 丰 猶 也 此 階 依 尙 ナ シ 二條 ノ人 子 IJ 良房公ノ女也〇 證ナリ〇大 1 ハ ŀ ク 云 依二二條后 ブ后 成 フ 裏書云齋宮通... 3/ 是依二密事一為 不以参い齊宮 1 テ iv ナリ長 師 3 配 7 尚ヲ高階 流 t 密 房 イ Ի = ス 通 ኑ\* 書 ホ H 在 ŋ 女 ユ = ス チ 氏 Ŧi. 西巴 カ w 17 N IJ 流 中 サ ጉ ス

範

ナ ラ 物マ X ヲ イ 7 1 ヲ 7 4 ハ イ ヌ ガ 12 1 w 3/ 夫 w 1 ク ÷E 婦 力 æ ŀ w \_ 婦 ~ ワ 7 ヲ 力 1% 1 = ~ ク メ ナ ス -V p +  $\Box$ ハホ サ 7 3/ > ア 今 ŀ 12 = イ 力 ٧٠ か ヲ 力 1) ク 7 1 NE ク イ र्यन |-ク 7 ク 考 = V カ カ 1 ナ 2  $\exists$ , フ 伊 サ 12 ヲ w シ カ サ 18 ~ 3 ツ  $\exists$ 伊 木 範シ イ 1 7 經 ス ٤ \_\_ 1 弘 ナ ク ダ 7 1] 勢 カ フ 信 物 1,0 サ カ 力 7 ス ツ 才 ツ } ガ ッ 1) 物 1 基サ 3/ 鄉 半 3 カ V イ F 7 云 ٤ 7 -6 3 語 = ナト カ + ク 10 ラ 1) 7 --ŀ 云 F 21 云  $\exists$ --Ŀ 3/ Z; » X U サ 考 カ イ 才 7 ィ = t イ 1 ŀ 云 3 ダ ナ ス ガ ルソ 5 ٧٠ 术 ヲ カ ^ 1 约 ゥ フ イ ハ メ  $\Rightarrow$ フ 2 IJ 也伊 × 20 ツ 15 ク 12 物 -オ \_ 12 b 12 サ F +)-3,4 5 妻 サ 7 事 同 カ カ 証 7 IJ ボ = イ 174 3 ---ŀ  $\Rightarrow$ レ 叉 + 7 坳 サ -6 = 1 カ 3/ ツ カ 1 丰 ナ 3 18 T ス 才 丰 テ Æ ツ pp] ク Ľ 7 V カ 7 1) ナ 10 1 3/ 3 カ 名 7 12 术 = ソ ~ \_\_ サ 丰 11 ナ V ツ メ > 力 ケ ク 2 " h 1 ŀ ŀ 7 1 7 7 ١.٠ 7 3/ 7 7 相 ` w 2 テ 茎 ツ フェ -ツ  $\supset$ イ " 7 p カ ヲ ŀ Æ 遠 1% サ Æ 7 ナ 7 方 7 イ 7 -フ 撰 ŀ イ ヲ 411 = 7 3/ 1% -E 3 ^ ŀ カ = 1 ۴ ス + 式 フ ŀ  $\exists$ 111 ン  $\exists$ ガ 叉 17 ス 3 b 3 w 7 ヲ  $\Rightarrow$  $\rightrightarrows$  $\exists$ 國 NA ソ

ス

フ

1]

ナ

パ

7

カフ

ナリ

ッテ

マノ

2,

ŀ

イ

フサ

ナ

リヲ

=

イ

17

7

X

~3

ク

1

フ

V

18

ケ

7

古 カ 卿 U V IJ 3 カ 云 我 フ 7 ---1 K ~" ŀ カ 1) Æ テ =>  $\Box$ ス = ヹ ŀ ヲ 女 Æ > 才 æ V ツ ŀ =3 1) E ~ イ X P 7 1. V 1) イ w ナ イ 1% 3 ^ 12 12 12 12 æ -73 Æ 3/ 7 7. 又 7 149 73 -1-73 7 TI-7 3/ 丰 3/ -1)-1% 7 1 相 イ -)j 1. E 流 7 7 1) 13 ŀ 311 in -3 12 17

カ

Æ

工 7 ツ 3 サ נל ナ ユ オ ッ 3 3/ 3 オ テ テ 3/ 1 テ 2, w ハ 12 Æ 1 サ ナ × V ケ フ 15 ノヽ w IJ 1 又 " 7 10 ス ケ -17-20 V 7 ウ -7

可ニ俊

5 ウ 1% 1% テ 1 テ ツ 7 V " w 1 オ 六 10 ラ V 3/ 1 U 丰 3 =

7 イ 力 セ T 7 = + カ 17 =3 ケ T 12 æ 1 w サ × 7 w  $\exists$ ŀ -3 h IJ

テ 7 1) æ = 侍 7 イ 7 H × 力 フ 力 -E IJ 10 1 70 叉 ゾ 1 =7 3 私 ŀ フ 1 w カコ n E 书 丰 7 7 3 ナ ÷E 1 1 菲 テ = V 3 ----7 10 7 フ イ 衣 1 ~3 3/ フ 1 12 7 \_7 iv 1. 3/ + サ 歌 俊 1% × ·E 郊 -=3 1 ラ 朝 1º P ツ 7 7 1 1 2 7 7 ナ 释 ナ 12 7 7 ナ ナ

+ ŀ 1 110 æ ŀ 我 3 3 ス ガ F = X V ガ カ ヲ セ = 1 ガ 1 Ľ = ワ æ = 7 3 1 ジ 7 ガ 1 X カ 7 3 7 1 也 N 3 X = 歌 シ ŀ フ 3 N ケ 1 1 ハ IV 3 = 3 V 3 =6 ガ X F 1, 工 7 ヲ ユ 不 w フ w Ł ズ ŀ = 亦 ヲ 1 w 7 ヲ シ 3 然 ク ヲ 4 ŀ ヲ 叉 ~ オ 20 ナ 7 V 水 才 ホ ナ ヲ 1, **=**/ 4 ク ヲ サ ナ 110 セ æ > ヲ ズ Ħ 毛 1 V = 歌 3 7 セ ŀ 10 ス ガ ŀ ナ ツ = = w 七 1 ヲ テ 7 ワ = 才

3/ オ ホ テ ラ 1 ホ 1 IJ ノ p ナ 僧 \* ヲ IF 漏 3 昭 X w 7

ナ

メ

テ

1

カ

ク

7

ゥ

ス

カ

ラ

カ 7 ナナ N 3 1 F 7 IJ 7 ろ t 1 # E IJ カ ケ テ シ ラ ツ ユ ヲ ダ 7 = æ ヌ ク

說 州 云 P 此 ナ 朝 歌 ŀ 3 **字** 絲 注 in X 末 ン カ ラ 潜 1) 7 セ 校 N Æ Æ 峄 如 院 シ 1 7 イ 7 ケ 個 12 御 1) フ ヌ フ 廢妄 テ日 本 V **今**案之朝 春 普 æ 118 如此 名 敷 通 3 V 本 w 照 Z" 也 7 サ 也 3 ٤ 絲 7 Æ サ ダ 瑶 デ 3 IV 3 J.\* 穀 云 璃經 ヌ 7 イ 義 1,\* IJ 長 ホ = ٧, 1. 卿 ズ ŋ 朱 Æ イ 淺綠 普 春 3 ヌ フ ハ ソ 立 湎 ٦, ~3 ケ 於靈 ラ 1) ソ 也 說 カ w ラ 又 ナ ラ ヲ 同 御 3 = IJ ズ w 南 卿 サ ナ 本

> ラト 林 フ ~ V 1 th w = 210 丰 坐 蒼 力 1 ŀ 柳ヲ 天 ス ハ ツ ス 3 2, 10 N } 淺 ŀ 也 1 ケ æ 緑 テ 1 B アサ 落 7 ŀ 云 サ 3 w 210 } 也 1 }° Æ 3 æ 萬葉 野 F. y 4 ヲ IJ w ヲ フ 淺 春 ŀ 歟 ナ = 綠 非 7 æ 1 淺綠 置 曉 ナ 1 ŋ 也 空 フ F 7 F 書 云 サ 7 サ 也 = サ w ス 亭 1. 詞 ダ 3 IJ 歌 ッ ١, ŋ 春 ソ

Æ Æ ワ V チ ン ŀ フ ŋ ナ IJ ユ ク ナ w ハ w ハ æ ) 3 ŀ = ラ ダ 不 ~ v

題

不

知

讀人

知

P

鳥 鶯 謂二之百舌一也云 仲 或 IJ 1 Ħ 3 スし 7 イへ 夏 子 × フ = IJ 此 æ ナ 4 ヤ ナキ リ春 歌 ラ ۱ر = 7 = 反舌 月反舌 ラ チ 11 テ 7 次 半 1 ツ || 者百 1, チ  $\pm i$ ラ 夏 牛 鳴 IJ 無聲 ŀ 故 ズ 月 K テ 詞 舌鳥 ŀ 1) 惣ジ サレ 也 = 初 オ ハ チ 1 萬 鶯ヲ云也其故 チ ハ ŀ Æ 也變 ィ ի 葉云 バ鶯 1. フ テ  $\Rightarrow$ IJ 百 1) 工 ٧٠ ツ反舌 ヲモ ワ 干 其聲 | 効: æ セ クレ Æ 百 ク 1 ズ n Ŧ. 鳥 十云 、チ 力 ヲ ŀ ŀ 1, 丰 禮記 ŀ 云 ナ 11 1 1 百鳥之鳴 ウ = 担 IJ 鳥 ŀ イ イ 1 或 リト グ 1 フ 1 工 月 ~3 w 丰 1 IV = Ł 鶯 别 分 カ 7 3 1 J. 3 ス 誻 故 ラ サ ヲ æ ŀ

1

7

1.

1)

7

-6

鶯

}

H

v

云敷

案

云

2

= Æ

1

カ

10

1

ボ

工

後

抬

錄 今

=

1

百 營

T. 1

島 サ

省

ŀ

鶯

不入心也六

帖

歌

云

ŀ

1) 歌

ツ

チ 丰 イ

ス

+ 歌

ナ

1

ツ

iv æ

カ 7

卡 チ

ツ

ヲ カ 思 ij テ 1 ガ 3 說 × 工 w 7 丰 Æ 7 7 チ テ 1. = IJ 3/ 非為為 ^ 7 ji JI 貝衆 河 IJ 5 內 息 躬 12 ナ 恒 1]

3 ~

5 ク

2 E 73 æ

 $\sqsubseteq$ 

此 ラ テ

歌

ハ

1 ク --才

ヅ ラ

V ハ

=

テ

タ・ガ脱

ズ

w = ŀ ク p V ツ ٧, テ 力 1) 3/ 力 ^ N ナ IJ =/ ラ ク æ 1 3 チ ユ 丰 フ IJ

音 ナ æ ク 3 7 3 ナ 3 チ 1) 37 チ ユ カ ユ 丰 丰 カ 7 18 ケ ウ 丰 フャ ク カ ケ ス 7 \_ 1) v フ ٥ د ر = ィ 穀 又 ナ 11 V オ 2 2, 長 N 甲 卿 ナ 1  $\Rightarrow$ 裴 3 1 Æ 云 ŀ 歌 五 1 イ 3 = フ チ 音 V ナ w -~3 > ノ 3 ッ・ 12 カ カ 3 ラ ク E イ = V カ デ 3 7 17 ナ 子 1 U ラ テ iv ク 7 云 3 +)-ズ 1) ~ カ ク 7 3/ × p 同 w 木 カ -

> p グ

ナナ V

2 フ

丰 カ

ナ

7

E 20

=

フ E

w

サ ラ

定

卡

侍

ラ

隨

73

-3-

-17

 $\Box$ 

1)

フ カ 3

せ ナ 12 テ

丰 ホ

ナ

5

10

73 w

E 1 1

ナゴ ツ

子

7 ク = -汉

プコ

2 丰 1

2

ナ 7

7 5 ス

111 ズ V ホ テ

12

丰 11

1-

=

又

カック

ツゖク

H

Ш

2, = "

ン P

V

カ 1)

V 7 Ji

ナ

=1 70

7 ラ w ケ b 1 カ V ユ V w 3 古 メ 15 丰 ナ 1) ズ E V 1 ク ٥, 1 IJ 郎 チ 1 ヲ 7 7 3/ V 人 V 7 V 17 ナ ナ  $\exists i$ ヲ Ŧi. テ ---カ カ イ > 18 1 V 3 告 ナ 作 -6 ク 丰 E ナ 7 ク 1) 晋 カ 音 X ス ラ 1 TO 7 1) 1) カ 3 ŀ 7 オ 詞 ナ ラ 古 7 2 3 水 V 3 7 カ 术 7 E ST ナ ザ 7 ۷ ١ 2 Æ 7 --D 1 =/ 1 テ ŀ ナ 7 フ 腦 \_\_\_ ワ 2. ٧, Z 丰 常 w イ ---ン 17 æ ۱۰ 15 iv 7 1 IJ = × フ サ 釋 1% r P 行 æ 3/ 3 \_\_ ŀ 경기 1) 金 2 ラ 3 カ 丰 ツ コ 10 尤可 イ 觸  $\exists$ ナ ナ ラ フ 也 3 1 ケ ン 7 10 7 釋 所 イ カ ナ 1 ケ ク テ V =6 1 H 奴 7 丰 7 1 1% 丰 7 ~~ V 1 -6 =/ テ テ iv 但 フ ケ プ 12"  $\supset$ 13 1 15 æ 7 你 H IJ IJ 71 111 -17 3 ソ 二 71 カ 7 丰 7 釋 2 7 1 ケ × カ ナー b F -3 1 1) 歌 1] 1 3 18 P 1% 3 7 V 3 1 liil b ラ フ 70 E' テ フ 71 3 ナ 3 + 5 =6 5 iv 7 " 3; W = 丰 ケ 7.0 111 1) 1.1 鳥 F E  $\exists$ -1

兩

字

同

歟

萬

葉

春

歌

其

數

侍

17

案サ 11/1 ク ケ カ 3 V フ ヌ ナ フ 1,0 ラ 7 = ~3 月 ケ フ 7 ŀ 7 18 イ V ウ 3/ ኑ フ サ 3/ 凰 3 ~3 t ヲ = 工 丰 = 丰 イ 2 = 3 侍 ス ~ 7 ~3 也 IJ w ラ 丰 テ ハ ズ = ゾ 1 カ 1 ク カ 3 イ 10 = Ł 3/ テ = モ ク 1 1 3/ ウ チ Æ = = ~ ゥ 叉 = モ 御 ツ カ

4 F × 7 ク ラ ン ナ 7 = 1) ホ t ケ フ ~ w 1 = テ w = ク ラ フ t 7 t ッ ラ 3 ユ \_ 丰  $\Rightarrow$ ユ V

7

ズ

~

w

x

ŋ

٠,

3

1) 立

丰 ワ 葉 ŀ カ 11 = ヌ フ 歌 春 サ w ラ ナ イ 7 ~ Æ 3 云 ^ ~ × フ ト X 1 フ ン = ナ ~ イ 7 チ ナ 1 t 13 フ 無 3/ フ 2 1 丰 w ヲ 春 ウ ス = カ 相相 ŀ = 1 ラ 歌 春 ケ Æ 8 サ チ イ 達 今 ヲ п 丰 ク カ フ 日 U 110 歟 安 > ヲ フ 也 E  $\Rightarrow$ r 春 叉 工 Æ = ウ 3/ チ w 春 萬 H ラ 1 部 Æ 子 才 ٧, æ = 葉 ウ ユ 1, ŀ ~ 也 Æ ^ • ラ æ w 歌 ケ U ~3 ン フ ホ ハ 訓 L春 ~ フ テ ٧, カ 굸 V ٥, ナ 相 1 ジ 部 æ 丰 ٢ 牛 t 後 テ タ = ウ P 3 = ハ ス 今 同 撰 ラ ナ 3/ 1 メ v 10 ر ر IJ サ 詞 ~ 五 才 t 3 云 ラ w 歌 吾 E ス . 3 也 110 3/ ト ナ IJ = = 此 日 サ 萬 Æ 工 1 w 2 V

> ズ ヲ 上 = = ン つウ ユ 日 v メ ŀ ŀ ) <u>ا</u> イ ハ ア ナ 11 V = 11 7 ホ 3 春 フ 春 = 日 1 = ハ ユ イ ŀ ŀ フ 云テ 不 ~ カ 下 回 ラ =

叉 叉 = Æ IJ 才 ~ 詠春 1 ~ 部 = 春 3 Æ 義 っナ 3 宜 Դ テ ナ ٧, サ ŋ ハ ~ ク ツ V ャ ١, = = サ 夏べ 1 7 ۱ر t 秋 ナ = ~" ノ 冬べ ŀ ハ Æ ナ ŀ 3 × フ

詞 ナ サ = 泊つい ヌ 2 + ヲ ハ = シ 云 賴也 = 7 ŀ 七 ッ X サ ク ダ 云 カ 1 1) 1 F 也 テ ダ t ッ 3 ナ 7 r × Æ 1 IJ 力 ١, 七 3 ラ 大 ケ 4 云 1) X ラ w = = 泊 萬 ŀ Æ ٧, 相 サ 1) w P デ 7 紀 瀨 グ 市 葉 ウ カ ダ 4 1. ホ サ カ # -ヌ IJ 1 ヅ 5 7 = ラ 1] 1 納 1 云 = æ 1 ~ w 然 サ ス 泊 テ P 1 言 3 ハ 7 7 者 IJ ナ 3 3/ ٧, 1 メ 瀨 w 1 ŀ 殺長 名 ケ サ カ 1) ヲ ŀ チ ŀ = ッ ウ = ダ ツ カ ヲ E 1 = t ツ ŀ 卿 長 カ 子 ケ 1) ٤ 1 1. 此 サ 云 1 谷 IJ テ IJ = ダ ス 云 歌 雄 セ 3/ ケ t ١٠ = ハ 3 V 長 サ 1 X 1) カ 7 1 7 メ グ w र्यान ナ ガ 谷 P カ 1 IJ 人 w ケ 證 同 カ 1) 丰 フ ケ 1 r V 1 家 本 ナ 此 テ ナ 117 ズ カ 11 V 歟 集 丰 7 t 110 w 力 テ 小ラ 七 ン ク

云 ス w タ カ 此 1] カ ナ 3 i = 秋 汉 ナ 3 丰 工 フェ IJ ス -1}-1 ス 1 7 ン 7 p ク 干 7 -ラ 1) ラ 1 ١٠ ナ ケ イ カ -1}-カ ナ 1. w to 1) W iv 力 0 同 1. ウ イ 嗣 11 丰 也 フ 工 叉 子 = 此 \_\_ 1 集 ٥ ر T æ 第 工 + × E æ

\_ w ウ 1 ツ 7 イ 3 ク × T ~ ŀ Ŀ w \_\_ = メ 7 ケ カ 1) Z ケ 12 又 -6 2 1 × ヲ 1 2, X ナ 1 ) チ ۱ر ナ ツ 1) 3 ラ ケ ツ ユ w ) 丰 ヲ E ŀ

7

~

批 ケ n w ク ヲ X 12 ガ Z r Æ 7 カ 1 V ク ヌ イ w 1 F フ 1 云 1 也 目 IH フ N'S Ŀ æ ١٠ 也 晚 ŀ ۱ر 朝 ナ ~ ダ 慕 1 1 ズ 1 云 ٧٠ } 机 1 イ 云 1 フ 心 3 11 \_ ١, 書 枢 A 又 7 1 校 Ŀ 中 牛 1 13" = Z b 1% 二 扎 イ 二 w 7

フ 111 寬 ٢ 平 1 御 ~ 串 7 丰 ٠, サ カ 1 ラ フ 宫 ナ 1, 1 歌 云 合 1 111 歌

チ 1 ウ w 舌 ソ 內 ス テ 7 テ 3 1 -テ 7 1 音 イ 7 -7 ナ フ w V ^ 敘 丰 110 長 カ æ 卿 1 3 7 Z ゥ 3/ 2 × F ダ ヲ 1 ナ ケ ر ر ナ 1) IJ 是 ウ 1% テ ダ 顿 1 テ 性 机 兩 轉 字 水 老 ٤

机

菅

品品

詩

E

聽

が砌

形

泉

轉

倍

整

1

ツ

7

1)

ユ

フ

テ 丰 サ ~ ナ × ŀ F ナ ŀ 3/ ~ 1) ナ ナ 丰 V ナ 1 V 3 1) 111-ハ 12 V フ AITE \_ 7 カ 俗 ŀ 東近 是 2 to 7 -= 7 " 7 111 æ 3/ ウ 変 7° 1 7= 20 -70 V 1% N 1) 袖 × 3/ 12 3/ 是 テ 才 7 1 7 + 7 ン ١٠ 8 ١٠ 哥次 ナ 慙 デ 1 ------泉 此 1 フ + [11] 人 ウ フュ 1) 177 学 ۱۰ 1 ---ツ 7 =3 E 12 " 17 1 ケ +)nº ラ 1%° ナ 松 牛 73 7 1% ツ サ 20 ナコ 1) + " ŀ N 10 -17ŀ 1.0 メ IL = IJ 1 ۱۰ ゥ チ デ -}-郁 工 1 12 12 ソ

文字 7 ス ダ 1 N) 7 ヌ 17 7 デ = 1 ラ プブ 1 也 7 デ ッ E ン = ウ 7 1) 汉 袖 10 丰 3/ ス 7 2 1) ナ 丰 w 1) 1 カ -= 3 1--7 30 1) 3 w 3 ヺ゙ 3 ケ ス ١٠ 和 12 丰 ナ ~ 110 1 ウ 丰 2 7 iv 4)-111 イ ッ 1 1L 12 輔 1 ス ヲ 7 尙 7 フ w ŀ w  $\Box$ 10 11 w 111 ウ -1 勝 = 1 3 ナ ~ 俗 ナ 犯 -6 IV X 7 1% 1-IJ 丰 7 ١, HI 7° = 7 ٠, 法 15 か 1) 3/  $\Rightarrow$ 1 カ p 2 稍 ナ ウ か ス =/ æ 70 1 æ 1) 1% 此 18 ウ 勝 12 ブブ 1 7 1 云 ツ 7 身 1 集 1% ナ E Ŀ ン 7 許 37 テ ナ 1% デ シ 1 7 1º 33 7 7 12 グ 1 云 2 3 ラ 111 21: =1 70 +> テ ス 2, Æ ナ 1 イ -1)-ゕ゚ X 3/ 3/ 2 -6 ヺ 7: 才 1 1 ン 1 1 イ 1 2 V ナ イ オ -)] ツ -3 3 フ ス 2 13 ラ w テ  $\Rightarrow$ 

顯昭古今集註卷一

ヲ 叉 P 7 I シ ラ = 7 п カ ソ ャ 2 ٢ ラ ウ = シ 木 ラ 7 ス 1 テ 3/ ハ ソ ズ グ 又 P デ ク ガ ナ 轉 慙 ケ フ ラ رر 來 ス V ~ ズ ン ナ w カ 1 心 ラ メ Æ 3 ナ サ ヌ 4 F X ラ = ヌ 7 1] ハ 7 1 N ゥ 叉 = イ ッ 此 水 力 集 U Ł 10 フ ン Z ŀ 丰 = デ 1 = = 7 1 Æ T

モヤ

ダ

チ

カ

ク

シ

"

P ~ ス 題 カ 3 シ ゥ ラ ス Ł テ 1 ズ ニ此宗言猿 1 =6 云 ス サ ムカ歌 2 X シ也 17 ヌ ア山 サ ウ り寺 ク 7 ラ 7 3 IJ ハ ナ ナ = æ 人 17 1 シ ŀ 云 ナ ラ オ ズ ナ 1) æ と

ン

ワ

Z

3

٠,

p

サ

2

テ

3

^

ツ

ŀ

=

70

4

潰 歌 サ 7 P E E ۱ر 1 ス X 歌 X ナ X IJ 1 ス E +> サ テ 心 ク シ サ IJ 不 躬 サ 與 1) 3 ナ 1 7 ヌ T フ 恒 馬 カ シ サ ヌ IJ N 人 カ ク ウ ケ 花 Æ 1 7 詠 サ 7 = 七 テ 1 ク 歌 1 北 w Æ オ w 7 ズ ハ 云 後 3 ヲ ٤ イ 1 人 #1 ソ ヌ 拾 7 ヲ 111 メ ŀ ヲ ヌ 云 E" ヲ 遺 w t 也 興 フ V 11 俗 ス 夏部 7 X 此 人 コ V ズ サ 經 ク ヌ ŀ 集 E 詞 = w 3 サ 歌 信 = 力 E 7 ス ヲ ズ 惠慶 7 ワ サ  $\Rightarrow$ 毛 云 1 ŀ p メ 不 7 ス フ 7 云 難 3/ ガ 3/ サ 鼬 E オ ズ 批 ナ 歌 サ 徬 ク メ ŀ 7 ス 示 7 IJ Ĺ = サ = ス 7 云 ス 7 抑 此 X ラ 111 7 カ サ ダ -等 1 カ 此 丰 ソ = ヌ w 2 カ 7 ヲ 抬 ス 7 人 3 Ի

> 歌 左 7 t サ 右 7 X ク オ ヲ 難 ラ 水 11 ズ 7 2, 工 w ラ カ ~ = 3 V ス ŀ 4 9 = ク y × 憚 V ケ ズ 7 ŀ ノト w w = ハ >> ~ w t 3 古 力 L 事 ラ ス 歌 也 7 3 > 不 3 t 子 ŀ = 7 シ 17 æ テ 躬 ヺ 恒 =

3 テ 也 ク ヤ ノ P ダ 7 3 t 7 ヤ w ス 7 1 ヲ ヲ ٤ カ サ ŀ 18 丰 = ク 尾 1 ラ カ 1 1 = ダ ヲ イ 1 U ラ 3 フ フ ヲ 4 テ 2 ハ 13 尾 サ 3 3 尾 ク メ 1 子 ラ Ŀ w 1 ハ ŀ イ 尾 ナ フ X テ 素 也 ナ t 15 = 7 1 イ 1 性 サ = フ ヲ 丰 是 IJ 1

敎 ラ 18 1 Ի Ш 長 產 ろ 210 ヲ E = = せ 卿 3 ク ナ 1 フ ŀ 云 サ 花 ŀ 七 1 2, K ۱ 事 ク 7 > 7 九 新 æ ワ 條 院 ラ 17 ŀ 7 也 イ ガ 萬 7 右 凡 IJ ナ 御 ~ トラ配力 3 諸 w 丞 Æ ス 本 テ 本 チ 相 ~3 = 4 シ ハ ŀ = ユ 1 シ r ılı 聚 ılı 顕 キ 日 7 ハ ナ 中 櫻 テ ŀ + カ 1) 118 Æ 7 云 70 行 ケ ŀ 先 此 事 ラ 17/2 7 カ 7 起 家 惠 ケ 1 訊 ---٢ 1) ŀ 1) ナ 彼 テ 7 E コ 力 1) 物 w 御 3 丰 V 舍 叉 = 本 ŀ X キ = コ ツ ッ ŀ Æ 1) テ ユ ソ ŀ 1 ナ Æ 3/ 3/ イ V サ ^ ナ 3/ テ カ ッ ッ 詞 7 A ŀ ヅ

ラ 1 x 7 3 Ł = フ イ 1 w + ス = 3 セ フ 先 フ w 1] = ソ 2 文 朝 起 ッ 7 テ Æ = 1 丰 字 = ŀ テ ŀ 15 1 云 ナ 7 7 工 ツ 111 Æ カ æ カ 7 ナ 3 カ ŀ 1 丰 カ 1 1 ŀ 平 7 ナ × 2 フ 牛 E 云 17 云 凤 ŀ ハ æ ツ 力 事 與 也 7 ツ 云  $\exists$ 1 ŀ ツ ナ 7 ヲ = ツ 1 1 } 蒿 ラ イ メ IJ æ 也 ッ t テ ツ カ 不 ŀ ッ ナ V 3 テ 丰 1 ŀ 7 1 1, æ 相 ッ 家 云 テ 7 = Æ テ 7 違 事 ッ B ٧, æ 也 3 歟 111 ウ 1 æ イ 丰 2, 70 此 w = 相 ラ フ ツ 1 7  $\exists$ 家 云 7 7 + 1 H 7 ツ 1 義 產 3 ク 1 丰 ッ 11 1 人 ク 行 -テ 111 1 1 -釋 3 事 3 ト

Æ 3 ŀ 7 3/ 17 7 7 フ 7 丰 テ 日 \_\_\_ ハ 丰 ユ w ツ ユ ナ ラ

起

7

"

ヲ IJ

ク イ ツ

18 ン

ッ

家

1 1 7 1

坳

1 シ

1 ラ テ 歌

=/

ŀ =

ナ

IJ

r

力 }-

 $\exists$ 

ጉ =3 ッ

タ

ナ

ズ 7 1

先

Æ  $\exists$ 

3/

シ

Æ

3

7 w

1 力

1

イ

ラ

ズ

第

紫

3

ジ

1

釋

3

ラ

w

7 1

オ = 7 = ~"

æ

4

ガ }

ケ イ \_ =

ヌ ^ Æ 1 -11-

事

H1. 7 1 力 1

国

歌

云

カ 七 カ = 7

ク 2,

 $\Rightarrow$ 釋

٤

2

久 2 p 3 オ カ + Æ V 7 1 w サ ラ X テ 7 7 ラ 7 17 7 ッ 3 テ w 3 1 メ 12 カ w ス 3 ス 貫 チ カ 之 7 ス ラ

> 3 1 1 -70 2 X V 1) サ カ h テ 3 3/ ク ク ケ ス 3 Դ -77 ラ w V 力 1 3 :6 亞 ŀ 人 1 ١ر -E =E 子 7 1 ノ ハ t 丰 ナ ヲ 話 ン 18 メ 7 ゥ ŀ 1 テ 外 1 チ 17 サ ヌ 2 1 Æ テ 云 4 73 E 1 1 詞 サ Z 1) 1 才 =3 12 フリ ツ メ 111 112 1 ----ソ 丰 w 17 [ii] 1% 丰 E 7 +}-1% 背 1 ٥, 心 部 1 牛 ナ フブ 3 3/ E 义 ウ 73 1 V -10 云 カ ŀ 1) 7 3/ 1º 7 12 法 ラ 15 73 73 h 4)-2 1% X 7 iv 1 15 心 チ ヲ Æ 也

1

1 ト

3

w 7 人 ス Æ ナ IJ V チ 1 3 ナ 1] --- $\Rightarrow$ ソ ダ テ V サ 7 ラ ノヽ ナ 1 3 \_\_ 7

A

不

4:11

ナ

ザ 穀 17 V 1. 1) 長 卿 ŀ カ ケ ク iv 3 云 花 × ナデ = w --花 111 3 1 -女 IJ + テ カ 1  $\exists$ 1) 歌 ン \_ ナ X \* w y" 次 ~" ラ 3/ V 業 シ 18 丰 7 215 人 nº ٢ 7 ナ + Æ 1) 3/ 7 -7 1 1 チ

1

カ

215

朝

1)

1 4 Æ フ  $\Rightarrow$ ナ ス 1 1 3 7 ~ ス 1 p 工 丰 1 ン フ 17 ナ 7 =/ 丰 T ス 1 7

晒 ズ 只 昭 云 此 12 贈 ጉ 答 伊 力 外 4 1) 物 女 1 歌 7 1) テ 11: E nii 111 ---1 -E 哥先 女 h テ イ

ス

先 躰 其 ソ 1) シ カ ~ ガ 毛毛 -6 ŀ = 3 ŀ V 3 及 リフ 體 達 4) ۴ 我 ス テ ナ ゥ シ 不 1 1 3/ 1 ٤ Æ ガ タリ ラ 見 申 N'S ス 人 本 サ 其 牛 ヲ v V Æ = = ズ フ 歌 故 迈 30 11 相 叉 セ = 15 メ 1 1 シ イ ハ 工 ~3 7 ど花 思 ŀ ズ シ ŀ 叶 7 シ 7 3 1 Æ Æ フ ノヽ 歌 カ 見下 事 樣 我 シ サ ŀ ウ 7 イ ナ 故 1 = 詞 才 ラ カ Æ 7 IJ 左 被 子 フ 7 シミ 思 テ 11 カ 力 ヲ 4 = Æ = ス トジ 事 朋 ウ ラ 1 ナ ヲ テ ナ ダ 1) 7 カ ガ ノ 京 • 7 日雪 申 7 1] H Æ 4 ス ~3 w ス ŀ ŋ ジ ኑ 大 u ^ w 侍 3 IJ 夫 人 テ シ ~ ヲ イ ŀ ر ر w カ 1 ~ = 3 牛 侍 雪 本 ŀ 机 ク 顯 ゾ ~ ケ = 11 > Æ ハ ハ Æ ハ 或 此 w 花 デ 難 歌 叉 和 輔 尤 歌 也 云 ٤ イ V ハ 7 返 人 今 で得 ナ ۴ 7 其 1 ナ 1, ŀ フ 鸚 サ ۲ 本 卿 太 ハ 歌 Ė 扳 意 就鳥 Z 17 3 Ի ナ 7 歌 1 歌 釋 w オ ^ シ ザ 花 ハ 意 歌 ク 申 ~ ホ = IJ 扳 Æ ŀ = = = 七 7 花鼠 ラ 本 7 侍 1 歟 歌 シ 别 釋 ラ シ P フ イ シ ハ書  $\equiv$ サ w 今 贈 ダ ウ 歌 ウ ラ シ チ 1 Ł ス 3/ w 返 7 汉 業 其 詞 シ IJ カ ジ ガ = ヲ 2 2 ガ ハ 7 = ユ雪 1 > 不 沂 ラ 和 ナ IJ > 詞 イ 7 ッ マハ カ ハ ŀ = Ł ハ コ ジキ 迈 丰 ガ 來 ズ テ 歌 7 = 1 ハ イ ン ソ 2 セ • 見 シ ^ 囘 1 歌 ŀ 2 フ ~ 7 = ŀ 1 ラ 力 ノト U 答 ゾ イ ラ ゾ ŀ カ ダ ٤ タ w ズ Æ w F =

> 叶 フ 歟 ~ 口 丰 ン案と 7 ŋ 云 K 叉 私 案云 巴 答 Æ 和 1 義 = 相

t E Ł = ゥ w フ ッ 丰 T IJ ケ w ŀ 3/ 3 3 ケ

w

ラ カ V 1 ナ t ۱ر 1 7 w ク ヌ ハ 3 V w = ۴ シ ダ = Ł 伊 ŀ 勢 =

•

P

ニサ

ク

7

花 歌 ナ 1 ソ 年 メ イ イ t 1 ハ 1, イ ヌ 同 P 攻\* IJ ヲ ~ P *>*\ ス 3 ~ 諸 デ 7 ガ イ 7 w 心 1) = V 3 Ł テ 新 辞 カ w タ æ P カ ダ 1 也 ٤ ハ Ξ V 7 詞 ケ ŀ 侍 而 院 本 月 11 V 皆 月 カ 1 イ ヌ = V  $\Rightarrow$ ケ テ 御 **}** ッ 俊 7 7 Ł ク ン カ w 本 同 イ ナ 1 カ テ チ サ 賴 7 フ IJ ヌ Ł 100 1 = イ 心 カ ヲ テ 朝 -) 人 7 風 V ハ ハ ٧. フ 第 ナ ナ P 7 3/ 3 7 7 臣 詞 雨 也 1) 力 カ 丰 ガ ヲ ハ ノヽ 7 カ =7 7 上 春 ズ メ 許 旬 略 ダ ス V = V V 7 7 12 t 1 ŀ t ヲ P = P 3/ • テ ダ ク カ 1 也 人 侍 ر ر ハ 1 1 = カ = V イ 七 F 12 せ ス ケ 3 7 P = 1 テ ヤ Ł ヌ w ダ = 7 ヌ w カ 3 春 草 詷 テ ŀ ウ V ŀ ŀ 木 V = ٤ ヲ w セ イ 2 1 ŀ 木 ٧, P ス = Æ オ 1. ヌ Ŀ Ł Æ 3 7 1 云 彌 ハ ŀ 侍 シ 1 17 フ カ 也 生 E IV セ ダ イ ダ ~ ~ 抑 故 w = IV V ヌ フ 共 ズ w ン t 1 此

歌 顯昭古今集註卷第一

3/ シ 侍 始終 テ + 末 莊 7 以 サ せ 遺 1 ヌ 恨 ラ ス 云 ヌ w ナ > 12 論 7] 俊 7 惠 イ ナ ス 1. ス 人 æ ス 12 w 1 1 þ 云 E 義 \_\_ 此 ヲ 執 歌

叉 歌 w ウ " 3 チ = 3/ ナ タ 1) 子 A ソ N ン 前 1 w 70 丰 サ -1}æ ナ 子 歌 王 カ ゥ 7 ラ ク æ 力 院 ナ 丰 2 3 ~3 \_\_ ~ 7 カ 7 ス 73° 2 カ 丰 to 1 3/ 3 ラ H 哥於 カ E V 7 家 -73 7 ウ 7 サ 合 作 テ ッッ 3/ 1 1 p = \_ 1 花 老 ŀ 久 イ ) ホ 1 サ セ 113 w カ 丰 Ł 13 ~ ヌ = 歌 カ 111. ホ ク 3 古 ラ テ テ 7 æ ヤ カ X 1 1 7 ヌ ウ 哥於 ナ 1 w 1] ナ t カ 1 ۱ر 叉 ク 詷 ナ ナ Ŀ ウ 7: イ イ ナ ŀ ケ チ カ 伊 テ 1) 1 E w カ 1% ク チ æ ٠, æ 15 ٧٠ テ テ IJ カ N 7 沂 ٧, ナ 來 ナ ヌ w æ 机 N 1% w p 2

ノミ

### 春下

1 iv フョ U 題 カ ス 3 不 17 ス 知 ナ ユ ク ٤ ク t 7 1 サ ク ラ ナ FIT! ウ ツ A 不 7.7 知 ۱۷ 2 b

穀 ラ 又 歌 ウ ウ 1 U 3/ カ 1 ツ カ ッ U =3 云 ウ 卿 ) 4 × U ク ŋ ツ フ 1 7 フ ^ 2. 1) 云 工 X 77 ŀ ウ 私 1 --1 クレト フ カ 7.7 3 ツ 3 7 Æ ウ 2 17 11 メ ~ 工 1 オ 同 か 1% 1) 7 ツ カ 叉 ナ in 1 チ 丰 ナ 3 D 30 ナ 丰 U 3 7 Z ソ フ IJ w テ  $\exists$ 2, フ 工 ス ŀ 1V ŀ ~ カ ラ = ウ イ ク ١٠ 7 丰 フ 7 ッ ٥, 1 フ ۱ر カ ウ iv 17 D ~ サ 是 ナ サ フ 3 + ツ ウ 子 1) " 1) ゥ 3 1 U ッ 然 枝 5 7 フ ウ 7 U 者 1 心 15 ツ E 2 ١٠ ナ ウ ス ナ 7 \_7 T 2 w 1) ケ 7 ツ 1 1) ス ŀ 1) 菊 ÷E 70 1) ツ w E iv 2 丰 7 于 葉 73

フ

7)

7

7

丰

ヌ

ナ

w

~3

t

シ

Դ

テ

此

歌

=

U

7

カ

N

チ

ラ

iv

トッ

H P

ルト

1. IV

Z

カ

セ

ナ

アトチ

タスル

1)

ヲ カ ウ

3

テメフ

フ

ケナョ

顯昭古今集註卷一

ニコイノ

チト

ワ

ス

テ

-17-

=

ス

Ł

子

**シ**/

ヌ

3/

サ

ク

5

رر

ナ

チ

IJ

7

~

カ

Ł

フ カ ン シ ナ ~3 7 3/ × Æ I T オ P 叉 = 15 カ ナ A = ク カ IJ フ ス チ フ ٤ ボ ッ ナ ク ク # ク 1) IJ ŀ Æ Z \_ ユ ケ チ Æ カ テ 义 ヲ ٤ ケ 1 15 力 w ナ イ サ 3 w ラ = シ IV ゥ ス 詞 ン = 1] 3/ ٤ 3/ ヲ p ク ス = シ ッ 相 ウ ゥ ゥ ッ = ガ 是 シ ナ 力 ŀ V П п ŀ Æ 才 ~ ッ ツ ッ iv 4). Æ 3 V ソ ホ 3/ p . p u 是 3 シ ヌ ŀ + w X w ク Ш 丰 フ フ 申 テ チ Æ ヲ 吹 æ = 1 ŋ = ٥, = 3/ F ŀ ナ ナ カ 3 1 ナ 3 イ ケ 1 ر ر ソ = 3 3 IJ ナ ク ウ テ ヲ 1. IJ 5 Z P 11 17 t メ 2 又 オ Æ ハ = ツ 3 7 1 ハ ~ iv ハ 秋 是 1. イ ゥ 1] テ イ 此 æ 3 イ ~ IJ カ フ カ T Ŀ ツ セ ケ 3 T チ 或 丰 ŀ 歌 ハ 11 Æ 云 ッ タ メ ۱ر п w 1 シ iv カ チ フ E æ カ フ 17 1 w ヲ ヲ カ サ ŋ ク 7 = 風 歌 4 チ ゥ シ 11 ク V 3 w ヌ カ  $\neg$ 1 ` = ナ ウ 3/ = ŀ w ラ w X ナ ス = w せ U カ ゥ t = ク テ ŀ サ ١, ヲ V =6 w = ケ ツ フ F ŀ カ ٤ 1 オ ゥ ク ŀ イ ウ ソ ッ テ w ナ テ 七 ス テ ッ 5 ~ フ ッ = 3 ゥ =

> 3 チ チ 17 7 7 7 ス ガ iv 2 1 ŀ 云 花 地 ノ チ IV 7 + V = 家 工 ク ~

> > 7

カ ッ ッ セ チ 3 IJ ) = 3 ケ = ŋ æ = ス w カ ナ サ ク ラ サ ク ŀ 3 3/

滅 せ = ヲ ヲ 3 =  $\Rightarrow$ iv w 3 ŀ ウ 古 IJ 力 ナ ŀ 水 æ 1 X h カ ス ツ サ ナ ザ フ 7 ザ ウ 1 IJ 歌 丰 12 七 ハ 3 \* ク ク ナ ク ッ サ 7 テ  $\exists$ = 4 3 ŀ ラ ラ ŋ ナ ラ せ 1 7 ナ 2 1 X IJ 1 サ 1 ١, タ 3 ツ シ ナ n U ٠, 題 ク 櫻花 T Ľ ッ 411 1 ス 丰 ウ ŀ シ 七 ラ ナ ザ 4日 3 = ガ ~ ウ 丰 3 ス 3 > 外 + ク 題 カ ŀ 3 2 ٧, 1) ッ ŀ > 3 ŀ ナム カ イフ ラ ナ = 昭 ナ ナ 云 ヌ 人 七 3 æ 丰 ス 1. テ 考 ラ シ オ 1 也 = = ヌ 3 4 同 古 故 7 ク ハ 1 ホ ŀ 2 ケ 3 ナ ナ 歌 人 E 心 3 ナ ナ ク ナ 3 2 ヲ ッ サ が 别 1 也 合 云 ス w IJ オ 3 **シ**/ ナ ~3 ク 申 常 = ク テ = IJ ~ 1 1] ヌ 术 フ ŋ X 3 ラ ラ 侍 カ = 1 ケ ケ ナ ッ サ ナ 菅家萬 P ダ 1 ŀ = シ ٠, ク 生 テ  $\Rightarrow$ V ガ カ ŋ 櫻花 别 æ セ ۱ر > 18 ラ ナ 3 テ ゥ サ 題 = ナ 7 1) フ п ナ ヲ ガ 3/ ッ V 然 葉 ウ ŀ ク ク ウ = w ホ ŀ IJ ヲ 力 セ 11 者 3 1 ラ 集 ~ } 虚 V 3 ッ ナ 7 ハ 3 3 别 X ダ フ テ 4 シ 丰 七 ~3 X ク 蟬

物 歟

雲 林 院 = テ サ ク ラ 1 7 1] ケ w ヲ 承当 3 始 法\*ョ 師

ツ サ 丰 ク ラ 工 チ カ テ iv ナ ス ŀ = D 25 w ナ カ ラ ユ + ン フ ij ッ

ツ

催

之心 頼申 t \* ラ 工 之時 ガ 半 = 又 カブ = 八之條 ク テ 17 ~3 \_ 7 >  $\exists$ ラ 清 雖レ 1) 圃 チ チ 輔朝 難」消 35 ン = П 致 此 w 7 也 w = 承均 = 7 1% ナ 秀 臣 抑 1 也 ス イ ラ E 云新撰中 一逸後撰 法 3 ラ 12 3 -3-ズ ス 師 7 1 \_ 歌 カ " 哥 t テ ヲ せ 者 オ ラ 此二首共入、之案、 合 ス V 同 ク 歌 不入八古今一數 w U ٤ 意之故不く入之由 +} 入二古 サ 3/ ر ر 丰 2 ク ~3 \_\_ 工 カラ ŋ 今 ラ × w 1 テ ケ ラし、 = 花 チ TID w Ի 貫 IJ 3 1. 丰 云 俊 歌 75 工

> 111 此 加

原 天 朝 =

ナ

1)

=

ヲ

3

テ

3

X

1

= ケ

官因 女香 朝侍 臣也 下女 云チ フモ

ス Æ 汉 ウ V ッ = 3 U  $\equiv$ X テ Ł ラ ~ w F 15 1 ŋ 21 in 工 ク 力 ~ 5 E 3/ w ラ 1 U ヌ シ 7 = X テ チ 1 サ イ 7 ^ ラ w

丰

ŀ

丰

ウ

70

ナ

2

+}

カ

IJ

7

5

N

チ

ラ

L

-E

ウ

詞 111,

然 頭 宁 佐 庭 ŋ 歌 テ 何 ケ 馬 14: 顽 櫻 因 ŀ 173 汉 7 水 香 F. = 7 有 w 15 等 衞 7 ン w 7 ヺ゙ 或 胖 此 歌 岩 チ 1 號 號 iv 2 ツ 歌 7/18 曲 云 所 IV 不 2 サ = 兵衞 號 兵 当 ガ ラ 茶 ク × 12 衞 散 侍 ラ 如 敗 テ ~ 佐 大 相 2 7 1. .73 チ 和兵 此 チ 或 人 ink 云 或 1% 11/2 3/ 詞等用意シテ 歌ヲ 本 " 病 ---オ -17-衛 ナ p -力 思 ク 讀 ス " Ir. 1 7 ラ VIII 12 = ŀ 35 1 ナ II.F 號 × 循行 3 ŋ 店 iv テ -1}-111 II X 1 -1. 11 7 1 1 1 iv ラ 1% 批 低 ス ivik 此 掘 如 兵 敗 ŀ 颇大 113 :1: iv Z W. ヲ F. 73 佪 排

此 サ ウ Æ = 歌 チ 丰 U 1 案抄 在 ク 12 サ ・ラ 力 林 3 ワ = ク 院 工 44 ラ ナ V サ 集 Z テ D Æ カ 花 サ ウ チ 叉 ŋ 3 普 1) ク ŀ + V ナ ラ 316 云 1 18 71 乙 本 本 我 1) Ŀ 1 = 不 \_ ナ 1 ŀ ٠, 叉 ラ サ 7 III ۲ X × カ 3 1-川 デ デ 1) ヌ + 1% 1% 之 7 12 カ ク 1) ŋ 此 -+} ナ 111 水 1 訊 1/1 フォ 1 1) V 7 ٤ ナ IJ ŀ

顯 昭 古 今 集 註 色

ユ 力 ٤ 1] w 1 ŀ ホ = 1. 年 オ ヲ E 云 ホ ハ 也 1. V ナ サ 2 1 w 花 = ŀ = 身 = テ ヲ 世 3 \_ せ テ T 讀 IJ ツ 也 丰 A サ 1 サ カ

サ ク ラ 7 ŀ ク チ IJ ハ ~ リ ケ w ヲ 3 ヌ N

ッ ラ ユ キ

۴

ラ

サ

ス

ヤ

ハ

7

ラ

ヌ

サ

ク

ラ

ハ

ナ

3

w

ワ

V

サ

٤

=

=

シ ナ

ッ

= رر

п 力

ナ

N'A ナ ŀ テ ŀ P = 1 也 見記 シ +} ŀ 我 t ^ ウ IJ 1 フ ナ ŀ • ヌ P 11 チ E ケ ) ラ ラ 花 ウ **シ** ŀ シ 1) ナ 7 ハ ~3 ッ サ ŀ ッ イ 力 4 未 七 サ ŀ フ 力 カ  $\rightrightarrows$ ハ 歌 ラ ナ グ カ E イ オ 開 ズ w 丰 ナ W D ズ フ 前 シ ナ P 3 Æ  $\exists$ = = 工 テ 丰 ナ ۴ 1 1 ハ 同 ク ` 歌 7 11 11 7 ` 詞 = ハ T jν ラ ナ ップ \_ \_ +)-4 ナ ŀ t A テ IJ 云 シ カ 力 3 ヌ ゥ 斞 ŀ 7 +)-デ 詞 ŀ ٤ V = 云 7 力 \_ 也 = 北 ゴ 丰 ズ 工 カ ナ 毛 力 • ŀ ナ ク 3 キ n = ヤ ス ク シ = ユ 丰 F = ッ 7 7 ク 7 ٦ 3/ V カ 流ナ 1. " ラ 1 チ ダ カ サ ヌ 云 17 ラ =

詞 テ 書 ナ カ 1 ウ 15 n w 閑 ヲ 3 院 テ = テ 3 × サ ク w ラ 7 花 1 11 カ رر 水 = チ IJ

新 院 御 本 雅 院 1 7 IJ ソ V 1 1 ر ر v 1% 1) 江 御 曹

> 子 東云 不以可以讀」之 傍 也 K 前 11 坊 力 也 1、水トハ林の大河東 1、水トハ林 自 中 = 中 御 御溝等也自餘 北 自= 壬生 1 河

ク ٤ サ ナ カ ス サクラ 1 チ w ۲ ノハ ラ カ IJ 2 1 ナ F 1 ケ チ # w ヲ رر w 3 メ 7 w ٤ = シ 紀 ッ 友 = ` HI U ナ

條 返 ス w グ 7 ۴ 七 伊 歌 云 テ IJ X テ サ テ シ サ 勢 條 此 扣 后 ŀ カ 力 ス 彼 ラ 歌 ナ 1 ッ ガ ナ ッ 此 1 ٤ 集 ゥ + 集 子 7 サ ŀ IJ 3 V ハ 月 宮 空 1 ラ ス テ 3 IJ カ رر = 1 7 グ ズ ス ヲ フ 1 7 ケ フ 3 ٤ ゥ X テ カ w þ w ソ 1 イ w 工 ソ 卷 ク ラ キ ス Ł チ フ 7 ŋ ッ フ 伊 17 テ 7 ヲ 七 ス 1 丰 1 w ッ 云 ŧ 給 本 月 3 1 Ŀ V 力 3 1 フ カ 歌 ウ 3 w ッ w Ł ッ 力 ١. ッ 工 = 寬 IJ 或 ラ サ ラ ス ラ チ ソ = ッ 10 月 1 ナ 平 ス ケ = 月 ク IJ 2 カサカ 10 ハ 家 ガ ス w 7 4 w ソ ン ٤ ウ ノ事御 ス ラ ラ 3 ハ ŀ F メ 4 ٤ ナサ ヲ ヲ テ ~3 サ IV H ヲ チ 3 コ カ 云 ヲ ヲ イ 1 3 オ 丰 ラ 力。此 IJ カ ゾ 或 桂 ス フ 給 タ ナ 7 ケ ŀ ٢ カ æ 月 フ 才 サ 1 ゴ 1 ッ iV w オ w ヒタリト 云 ヲ ラ W ŀ \_ 7 F フ カ 3 是 義 御 t 七 キ キ X ス

= w

n ス X V 3 18 V ダ 是 7 者  $\Rightarrow$ ソ ソ N ラ /\ = ヲ 月 八 オ 7 Æ 月 汉 1 7 3/ ナ æ カ カ イ ------イ 才 1 2 Ł \_ w ス 違 證 w 歌 サ フ ~" --b カ テ ラ ハ 3 ズ ~ 3

ヌ 3 7 ٥, ナ 7 来 P 7 サ ヲ 歌 シゲト 7 ラ カ皇テ 毛心目 2, カエメ クサル スニ カく ~ か 126. カキ ス也 3 ッ Ł ラ 1 ユ \_ 3/ 丰 ラ V

3

ワ

p

7

1

 $\equiv$ 

輪

1

ili

111

3/

カ

Æ

カ

7

ス

カ

٧,

然

Æ

隱

112

古 ズ 語 題 哉 111, 不 此 1 知 イ カ 7 ŀ 詞 `イ ヲ フ 女 イ 字 Ł サ 21 物 3 ス ヲ 北 iv 11 歟 3 是 111 ナ 人 æ 1. 古 5 語 7 ズ 1 --躰 1 担 7

1 w 1 \_7 チ ŀ \_\_ ナ 1) ハ ケ ナ 1] フコ サ カ 1) 1 7 1) ナ メ 1 7 Ł Ξ 2 = 1

1

ナ テ 7 7 1) ナ = 7 ŀ Ł メ 1. 3 3 w 7 ッ ~3 ٧, 子 丰 T ナ }-ラ ラ 云 2, 113 ズ ٧. ラ ス 111 X  $\Rightarrow$ 3/ 1,0 テ Æ 3/ イ 7 2 カ チ 3/ 1 ナ 7 ヺ゙ 次 ク

7 ラ ナ 寬 4 ナ ŀ チ 御 3/ 77 驻 J' 4 后 1 ナ 宮 \_ サ カ 歌 ラ ク 合 7 1 7 3 汉 歌 1 ナ ツ 7 藤 ŀ P 原 次 3 FIL メ 風 カ 12 八道濱和 ,成成 子孫 iv

カ

1)

丰

ナ

7

1

ヲ

サ

ラ

3

テ

1%

iv

ク チ ラ ク + Ł 1 1 ツ サ \_ ŀ 7 1. IJ テ Æ 1 カ -E 1 V 7  $\exists$ ッ 7 " チ -J-7 ---+) ٥, ŀ  $\exists$ × 3 F. 3 サ 13

 $\exists$ ッ ス ^ ゥ ハ グ ヲ ヒ 1 ス カ 1 ナ ١, フ ク 牛 7 E チ メ 12 w , ナ ヲ 1% 才 性 :1:

70

w

ナ

1)

テ 鳥 云 テ ヲ = 水 鳴 7 ウ ナ 1 7 1) ケ チ ガ ラ 7 鳥 1 ギ ナ 云 ١٠ ۱۷ 7 111, 云 ブ ス プ ナ 111 丰 ウ 丰 ラ 4 ŀ ŀ チ 1 釋 1.0 1 25 蕊 ゥ プ 70 毛 ラ キ }-チ 1 新り 請 1 V 7 ス " 11 71 =3 1V 70 X 風 テ 12 イ 1 3 カ ŀ 同 7 Zi ラ 10 K 110 111 31 夏 112 1 1-キ 也 IIII ン 1 訊  $\Rightarrow$ 37 ヲ = ラ チ 放 工 ナ ツ ١٠, 臣 to 1) チ 卯印 -Vª

7 ツ サ 7 ケ 3/ = ガ゛ w ٧. \_\_ 12 7 3 2, 7 4 デ 7, " ~ 工。 71 4,000 400-40 7 女 ١٠, 3/ ١,٠ 7 J. 15 æ ク IV ン 1 示 21 ク 3 " ラ 手 7 æ 7 ^ +)-丰 1)

y

7

ン

チ

1)

15

iv

ŀ 3 ヲ = ス =6 1) ) 敦 歌 ナ 3 1 チ Æ 卿 女 7 ガ æ チ 云 7 7 ウ L 1 チ カ ナ IJ ケ L 2 \_ 1) 1 V 3 :3 テ ٤ 70 レ カ 1 テ 7 ٧, 3 イ to 花 メ T 1 1) 7 -17-3/ 丰 =1 カ ガ 7 1] 工 1 ソ テ Æ 70 10 花 3 V 1 7 チ 7 æ 1 工

案 宁 賀 4 北 狛 丰 テ Ш 3/ 瓜 今 = 3 力 越 ケ 生 路 ケ 3 w Æ ili 养 越 瓜 iv テ 4: 和 紅 顯 歌花 葉逍 ŋ 歌 北 昭 Ш 1 白 序 カ ハ 部紅葉冬部雪 育 遙 7 ケ 11 = K 17 古 1 V 云 然者 志 温 11 ウ FZ 記 其 歷 云 ŋ 1 別 淨土寺 フ 上也惠慶 瓜生 後 越 所 中 志賀 也 w 7 條 山 路 是 ラ上 7 山 法 而 7 フ 御 ハ 越 如 IJ 北 Æ 師 時 Ш ŀ 意 ]. ガ 行 殿 淨 詞 越 イ Ail. H 云 1-111 12 3 人 今 光 城 IJ IJ

力 題 山 = 賀 工 ili 越 此 歌 ١, 可以 ナ 1, 通 = 3 櫻弁紅葉 IJ テ 此題 可以 歟 春

ス テ 順

ツ不

審

敗 歌 屏

裕

抬

遺

成 郎

Ш 首

路

題

·#

ラ

紅 集 集

葉

1 æ E

IJ

iffi

1

題

志 所

智

Ш

越

入

部

風

書

=

志賀

越力

ダ

iv

=

 $\exists$ 

メ

w 7

ŀ 1)

ナ

=

チ

3

工

又

7

テ 橋

チ

ŋ 元 百 Ш

=

ケ

IJ 落 春 キ

イ 花

力 1 =

`

٠, =

ス

キ ク ŀ

奉歌 ŀ テ 3 X w

ヌ 才

ス

Ł

· E

フ

子 1 チ シ テ ۱ر シ w ) カ P 7 ^ = ゥ チ 4 V テ ソ 素 = ŀ 性 Æ イ رر

ŀ ヲ Æ フ 191 ŀ° チ 1. 7 ッ 思 w 人 t ١,٠ ウ **シ** = :云詞 旅 子 ヲ 也 ス テ Ł\* ・カ脱 子 ナ 3/ テ ŀ 云 シ 也 ガ

> ク V = カ 心 イ ク = ホ V ۲ ッ シ 力 セ Ł ラ ホ カ = 11 ` ŀ × ラ ッ t ヌ E" w ズ 1. ŀ • ク 7 子 = シ 3 ケ ٤ 1) 7 Æ ガ 物 テ IJ ナ ン ^ 1 也 ŀ N 2 15 也 カ タ ŀ 2 イ 叉 E" フ ケ 3 ۱ر 說 1) 1 メ カ ハ 殺 粮 IJ V 長 7 也 カ イ 伊 卿 ۲ V ハ 勢 イ 7 云 V 物 ŀ テ ゴ ٤ 語 ۱ر ŀ Æ フ ス ク ス = 3 Ł" チ ŀ Æ = ヲ 力 ユ Æ

**今案云** サ ゥ 1 ソ 頭實 ブ ズ 力 力 フ 只世 心 コ V V 古 本 也 ŀ 7 1 異 平 間 歌 ۲ ヲ w 說 ッ ヲ 力 = カ Ŀ 7 オ 18 1 定 句 ヤ 3 ۱ر イ Æ 1 V = 1 フ Æ Ł 定 ラ 讀 ١, ス 7 = 也 ズ ナ ハ = ッ チ 友 ゥ テ 1 ŀ • ŀ 歌 ハ 3 Æ 1 友 思 イ Æ Æ = ヲ 叉 心 テ ッ イ 許 Ł ŀ = ٠ د ハ 注 ŀ ヲ ズ キ 春 テ 七 テ カ Æ サ テ 春 ılı IJ 7 カ ŀ Ш ハ テ X = Æ 别 ズ サ 7 テ

1

V

= ŀ ス 7 ク 2 詞 궄 フ + IJ コ 中 , Æ ケ 3 1 w D と 女 カ ŀ 7 ١, ッ ハ ナ J° E 3/ 7 Æ = 3 ŋ テ 7 1 カ 3 日 ナ メ ハ ク ナ w Æ ッ チ 3 躬 w 3 IJ 21 ナ 恒 カ = ŀ

テ 7 ナ ン ナ ブ ッ F 3 7 イ 1 Æ フ 7 ノヽ 敘 ナ 1) 長 12 ス 卿 3 ~3 3/ V 云 叉第十 ヲ Ш ~ Æ ッ = 3 Æ 卷 ワ 1 ラ 詞 ~ Ľ = 云 人 ナ Æ 1 ١, ゥ ヲ チ ハ ナ IJ 2 ッ テ V

3 3 シ 3 テ ケ ツ w מל 所 ۱ر -3/ カ ケ IJ w テ ン  $\exists$ ナ IJ ケ w 人 1 許 1 チ

貫之

+

V

サ

7

ラ

カ

ス

3

1

~

3

IJ

7:

1

カ

\_\_

Æ

テ

シ

٤

F

=

櫻 春 ナ 2 シ ケ 同  $\Rightarrow$ 花 7 73 3 ク 1) in ع 17 カ ヲ ナ サ 釋 + シ ス 3/ 3 p ツ テ w 云 カ イ ۱۰ 2 3 +}-V 15 1) ~3 物 ッ ナ 1 × 秋 ナ V =/ ŋ 2 ッ イ テ ツ 班 又 ソ フ ッ 部 3 2, ٠ د 昭 後 -3 Ŀ ~ ユ ~ 云 草ナ 此 百 b + 歌 V Z 此 1,0 歌 和 1 = æ カ Y. 花 削 ツ P 霞 香 3/ Æ 摘 1 歌 3 = ッ 7 1 事 ップ 誾 題 t -2 百 叉 オ ヲ テ 1 Æ 1 和1 櫻 女 ボ Æ シ 香 帖 サ = 1, ツ ۸ر テ 7 ナ ナ => 花 3 æ カ 3 ツ テ 歌 ヲ ナ ツ × 子 1 亡 チ 17 3/ 3 17 = ユ 굸 サ ク 又 ツ V ッシ ク 1 ラ 花 フ

ケ師宿

ナクユホ

1

云

事

石朝

=

1

オハ

1

力

" 也曜

ン

7

ラ

2 )

ナ

佛

供

若

丰

3

花時ッモ

ヲサミナ

Æ

ツ

愈

灌

頂ヲ塔臣

ナモョ

ドッリ

云ミ

事テ

E

オニコ或

ホ

ク軟リルドッ

3/

リ 子

3

210

を収得

ス花

秋

ユ

ク

ナー

1

1.0

オ

t

ヴ

櫻

7

3

111

ヌ

w

ゥ

ス

7

7

X

7

7

~3

シ

輔

話

侍ッ

シ

フ

牛

僧

3 ス せ テ E 1% IJ 力 V 4 7 18 1 12 w 7 N. ナコ + 111. **4**H -70 古 个 -E 歌 サ 7 大旨 ラ -17-ナ 2 7 5 " -,-7-7-

1.

ナ ナ ラ ク 7 ヲ ろ ソ 1) 7 沟 3 テ ホ F 素 \* ス 性

イ ソ ۷. ソ 1 力 カ = ナ 1] フ ケ w 丰 3 P = 7 ホ ŀ 6 丰 ス コ 玊 ۱۷ カ ŋ I

城 石 1 力 上寺 京 = 力 ナ 7 3 w キ 1. ヌ ユ ス イ 1) フ w r = カ 1 サ 大 ウ + 和 相 V ケ 國 彼 バ ス イ = = 70 ン 7 ٧٠ IJ フ w 奈 力 w 7 丰 良 3 カ 111 ク = 彐 P カ IJ Æ 兩 \_ 度皇 1 コ ŀ ス ŀ 居 平 7 示

天 石 上 穗宮

賢 イ 줒 ン 力 石 3 Ŀ フ 廣 w 高宮 牛 ャ 3 u ŀ 石 F = 布 留

ヌ

オ

Æ

フ

æ

力

ラ

3 カ 三社 11 カ フ IJ フ 3 7 ጉ ゥ 18 3/ ナ 1 チ 2 1. フ ナ カ ŋ 詞 ツ 公家 7 1" ソ ケ ツ 7 ス 1" 丰 力 w = 幣 イ 7 h ス w = 也 V フ V 然 = ヌ 7 7 3 3 动 1 1] ス イ 社 ŀ ン 3 イ 力 1) Ŀ ン

> 叉 7 ラ ザ ソ ケ 3 t フ w 叉 ij ス ŀ IJ 18 フ ŀ 18 7 云 故 後 神 フ 1 ラ ス 3 カ w コ カ E 撰 绝 IJ イ 10 1, 3 T = ケ ツ 3 ナ }-+ 1 iv 子 = 歌 ٤ U フ æ ナ ケ w w 7 1, イ -6 = 云 IJ サ IJ 丰 17 フ 3 平 = -E イ 詞 イ 或 フ 城 バ 1 = 1 ۱۰ コ ٤ Z 宮 テ ~3 ン 心 ズ ソ Ŧ 同 ŀ ヲ Æ 神 4 力 柿 力 1 7  $\overline{H}$ ۱۷ V 3 = 添 ラ = ヤ 力 ナ 音 3 7 ユ 叉 詞 社 ナ F. 3 w 3 ガ ナ セ 18 ズ (頭書)ナ 那 此 セ 衣 ナ チ ス シ フ 平常ナ テ 石 テ ラ カ = 18 w w Ŀ 安京ラ キ フ ŀ フ フ 3 ガ t ジ コ w コ w 山 + 1 X ゾ 1 1 + 7 ŀ 邊 歌 ナ テ ソ コ w 1 æ 郡 1 ŀ イ ラ 1 フ イ 7 リカ 平: 7 7 也 カ ッ ジ = キ ŋ ゥ 城 10 ジ ٤ 7 今 ナ 3 デ ケ タ 七

V ホ ŀ ッ キ 題 不 ス ナ 细 力 ナ ク サ 1 7 7 ダ 7 v 無 其 讀 ハ 謂 ナ ナ ヲ 不 ウ 细 ŀ 7

テ ナ 2 サ ナ ガ F ナ ŀ ガ ŀ 7 3 = 3 ナ }-3 ク 12 メ ナ ヲ ij ナ 歌 ソ IJ V 子 ガ 追選 3 = ナ ゥ 7 歌 ラ 1-U 云 111 云 也 グ ホ ---萬 ャ ŀ w 葉 1 7  $\exists$ 7 チ = ス ハ カ U 汝 7 -テ 3 P ウ 7 カ ダ 丰

顯

昭

古

工 不 嘲 ナ p 2. À ~ 知 四面 1: 云 俊 ナ 八造 古 1 綱 六 3 話 朝 1 7 濟具 力。提 午 存 7 1 息が汝 之許 1 18 汝 鵬 キ 1) 111 爲之 始 號子 鳴 ス 大宮長鳴り ケ 1 Ill 3 +" Ŧi. フ 1 禪 歟 iÈ ス H 1 師 得テ T 1 Ŧi 7 集 ナ 日 t 號僻 iv 歌 Ti ス 大宮 詠 3 2, 1 K 郭 皇詠 12 : E 公 稲 ツ 7 \_ 17 懷 子 哥太 3/ p E 논 1 111 7 云 小学 才 丰 ラ FZ E

イオ

=E

E

3

ン

12

ŀ

牛

>

7

~~

7:

ŀ

7

丰

ス

t

ラ

ク

V

ナ

" 7 ŀ 1) " 才 p チ 2, 7 1 テ ン テ ク IJ フ 10 E -7 3 テ 或 1 7 ŀ 义 1 IV ク ٤ IJ 3 フ テ 才 ナ ŀ w 1 テ 人 -7 7 ナ ナ 云 サ 1) 1 ッ ŀ ン 1] 1) 放 フ IJ ツ V ン 15 3/ w 私 = 丰 ン 7 長  $\exists$ フ ŀ ナ 7 45 iiii 卿 1) 丰 3 ッ V ` 云 1 ヲ 7 11/1 ク 1 3 U 1 ٧, K 7 カ 奎 ナ カ =>/ 1] 7 テ ŀ ハ 于 17 ラ テ イ --V V 1 17 丰 ナ ナ 111 1 叉 ン 1 11 ント 汉 此 = ^ 又 丰 カ ク 2, ノト テ 7 ラ 歌 才 フ 1 ŀ ŀ ン 7 7 1. 15 テ 1 ク 1 テ Æ 3 X ŀ 本 Ł P ン ŀ U V 21 V ナ 躰 1) テ 2 丰 = Æ 2, 布 = Ľ 12 \_\_ V  $\Rightarrow$ イ 1 1 テ 1) 110 1 丰 1 テ ) 3/ ン ŀ サ オ 丰 丰 テ デ 7 ŀ 紅 p 1 1) 1 -E Æ ٥, . 1 /\ = 7 ウ デ デ フ ツ ŀ t. 1

7 臣 納 11 E テ 難 V Æ ラ 中 イ 1 カ =1 ップ 3 大 北 7 - 1 1 ゥ 10 原 ズ ケ =3 ツ =3 10 = 细 家 給 納 别 侍 國 サ ブラ 215 チ 3 Ŀ 不 Ľ° 1 3/ Ŀ 戲 紹 北 18 + キ 1% 言 1 仰 亦 1) 3 又或 以 1) 刨 7 -} 丰 方 -} 4 1 IV to カ 2, 岩 成 テ 1) ラ 1) 1 7 オ 3 7 ナ :1: カ 25 人云 ti 4 君 ナ ケ ラ Æ 1 3  $\exists$ ^ ٢ E 歌 家 先 7 IJ 13 ラ 1) ケ キ 1 iv 1) IV 出 結  $\mathcal{H}$ i. IV 1. テ 101 14-木 5 ケ 1 IJ 2 IV 21 相 1IIE 分 歌 5 ツ 3 付 E" ti 12 iv 丰 思 ~1 也 チ ツ 个 41 \_\_ 1 \_\_\_ ケ \_2 ---2, ス 印 1% 12 THE 111 西 -E 5 3 ナコ IJ 1. J' " U 3 斐 iv j j セ 此 ヤ 17 75 15 U ケ イ ) ッさ 女 -1 此 テ 1 1% 70 女 ッ jν カ -)1 7 w W. =3 時 书 4 包 -/5 7 1) 7 5 1 P イ 1 ゥ ユ Ŀ =3 ナ E TE テ 7 ナ 7 4/2 ク ilii ソ ٠ ر ŀ 1/3 岩 in フ J.C 仲 水 カ 7 1 = カ ス 1 -= 些 此 11: Ŀ 7 7 12 以 E ソ = --r 1 カ 谷 Ti: 72 ナ 贈 牛 E" 10 120 7 1 3 3 \_ 149 ---此 撰 彼 r 大 浙大 テ テ テ 73 \_\_ 7 1 人 1 F. 歌 彼 5 + 臣 73 73 IJ 政 E° 时 テ 7 HI = 3 1 云 T. キ ク 大 大 後 汉 73 ナ " -)1 工 女 ŀ V

定

3

"

w

1

7

ili

"

1"

ケ

ス

iv

F

1

1)

私

Z

此

文

2 カ <u>ښ</u> 七 ٠/ ワ カ 5 子 = ŀ 1 カ ナ シ キ ノヽ イ カ = チ キ

リシナコリナルラム

返シ

シ 1 フ ツ 7 \* = テ 7 ス V カ チ キ IJ ケ L サ 1% 义 ナ 丰 يات. メ チ

t

之詠 指 信 今 ジ iv 2 ナ 111 案 カ 部次 ク 愈 彼 者 ラ 7 ۲ 兩 女者 歌 丰 バ カ ラ テ ヲ 1. IJ ラ テ ク 本 國 Æ 袋 经 書 院 w V = ŀ ナ = 卿 ` 古 チ 1 95 25 卉 ス 1 今無 妻 T 丰 其 1 4 1 キ モ 꽒 ŀ 任 作 オ 7 + 原 ヌ 亍 者 書 如 = 100 北 = タ ŀ 方 2 カ 內 此 1 也 ス 15 ク ス 讀 曾 E" シ ^ 1 シ 又 71 太 ツ w 云 æ 政 15 イ 爲 事 僻 大 カ ٧, 25 モ 事 臣 ラ ッ 3/ 仲 ク 歐 ス

シ ٤ 丰 t 7 示 1 7 丰 ス 7 IJ テ グ V 力 7 サ w

1.

子

ヲ

ソ

ナ

ク

教 テ  $\Rightarrow$ ヲ テ H 聊 テ æ モ 1 ウ ウ ナ 云 チ 5 3/ ヲ 耐 IJ タ 1 ~~ 物 七 カ テ チ せ テ ŀ ١, ナ テ 云 7) IV 1 ŀ 哥 テ  $\rightrightarrows$ ノヽ Æ 也 ウ ハ • 1 ŀ ^ チ 11 テ イ ナ 7 IJ 1 1] カ 補 IJ 15 1 也 朝朝 フ テ 人 事 タ 臣 ナ 也 ウ 10 ウ チ カ ٠, ヲ ス チ w IJ

> w IJ ラ ス 3 w カ 上一一一一一一一一一 3 ャ 1 2 シ シ 7 チ ١ L\_7 ッ テ 也 ハ イ w 邓小手爭與 ャ ウ 70 イ ヌ 3 ŀ ~ 1 4 ウ 亦 フナン我報 ヲ 1 3 ŀ 3 ウ Æ 誰力 テ • Ł 1 チ 7 キ I ワ ハ 屛 ス B ^ 7 風 = ラ 1 テ ノ ŀ w 2, グ 年 工 4 ナ ッ 7 1 ナ テ サ ナ 7 V IV 4 丰 ナ t ハ 花 ワ ウ 1 ソ カ 7 3 チ 17 メ 詠 戀 1 3 シ ۱ر 也 ッ ŀ ~ 7 ナ 子 キ テ 7 7 ダ カ ナ

宁 毅 丰 ŀ 輔 19 1 ヌ t = = th 朝 七 = 3 シ 7 ケ 長 7 V 日 卿 3 工 臣 イ ラ 2 = 七 IJ 後 ズ イ 1) ゝ、 云 1 2, ŀ E 云 叉 松 IJ ク t 也 10 ス t ズ テ 校 郭 シ ナ ギ w 3 = ŀ 3 ラ 校 颠 公 テ 7 2, 1 t イ ヤ • t ヲ テ 1 ŀ IJ 17 7 フ 7 ハ 八 ヲ ナ テ シ ヲ 3 18 = = ボ 3 ナ 夜 F デ ヤ ŀ ン ヤ 七 P ŀ 3 V ŀ ッ ク ッ ŀ X ナ ŀ 3 ブ 18 = テ 1 テ ゥ ヤ 7 山 テ IJ イ ŀ 3 力 テ 丰 シ X フ コ 2 2 1 3 ク 1 w ン t F 18 V 1 ŋ 1 w 3 イ フカ 後 3 ナ IJ ナ 云 1 イ 1 3/ = ナ イ フ w ŀ ŀ カ ۱ر = 7 ŀ P メ ŀ フ = カ テ ゥ 3 ッ = Ł 文字 ナ ス 3 テ P 詞 サ • = ス ゲ ヲ ナ 11 3 П ス ŀ 义 2 3 3/ 云 = 3 1] IV カ 7 丰 7 18 = = デ ワ iĽ ナ E\* 1 7 = シ = = æ 3 ソ 也 清 iv ŀ 又

歌 バ 1 ツ イ ケ 工 被 夫 1. 3/ デ ケ フ ラ w 八之次 カ Æ ナ テ 1/2 ホ V 入二州 ナ 古 V E 1." = ズ 也 ラ 宁 13 \_ Æ ۱ر 六 ŀ 1|1 ズ \_\_ 13 ~3 沈 人歌 古 カ 侍 7 ŀ r IJ THE STATE OF ケ 今 旭 イ 1 叉 7 1V 真 猿 此 1 ۲ ギ Ł 愈 許 名 不 九 テ 歌 ス ン 也 序 知 大 1 メ TE. --ŀ 夫 ナ テ カ ソ 1 大 汉 カ ナ 丰 九 友 ケ 1 ケ 1 ۱۷ 集 黑 IJ フ ズ :6 V 3 訊 大 何 11: 250 シ 1) 世 1 A 方 F 15 詞 テ 歌 不 ナ 7 云 几 1. 17 丰 7 = 條 古 Z 111 ]-此 グ  $\equiv$ 事 猿 彼 ナ 嗣 1 九 Æ 集 ヲ 1)

æ 3 t ス 丰 ク 寬平 ラ カ テ 丰 御 3 序 ナ チ ラ后宮 ク 7 7 1 ~ 歌 w 合 六 ŀ 1 歌 7 丰 ス 7 友 カ P 則 ŀ ヲ 2

ス 7 ガ テ b ハ 難レ 過小 云 也 サ 丰 7 丰 ツ 工 ラ ガ テ ユ 丰 1 如 =/

ナ 古 7 ッ 物 ク 語 w 3 シ 1 フ ス カ × X }-F ス v 7 ٠٠. カ 六 ッ ŀ 丰 7 7 牛 イ ス ナ フ ク 1 イ Ł ~ ŀ IJ 7 又 工

萬

東

7

Æ

3

17

七

夕

訊

-

Ŀ

7

丰

ラ イ

ス ナ

ŀ

1

7

5

2

キ

ケ 7

IJ

フ 3

ナ ラ

グ

V

ŀ

+

7

4)-

ク

X

w

Æ

7

5

2

云

云

兩

3

ク

0

D

工 F

7 3

ス

7 -10

75

U 1

7

ラ

7

2.

1 17

Æ

稻

E -E 3

1 3 ŀ

カ ナ

3

1) X 3

> 1) w サ ケ \_ つ ラ =/ ٢ テ 六 テ 1 ヲ 丿 3.0 7 ス ١,٠ -7 æ " ウ 1) 17 か 1 1% ツ 义 111 ツ 1 7-7 4

ヲ 7 也 7 1 ケ = 前 IJ ス 72 丰 六 E A カ -70 ス コ i ナ p 10 H ク 又 æ ---7 子 丰 Ľ ヲ ナリ 7 7 411 2 = 工 -7 1% \_\_ ス ガ 7 70 70 -70 ナ Z 2 1 1) -1-= 樹 1 ス 7 -3 Midi 7: [iii] 木 カ 5/1 " -73 -3 ナ 1. 1. 7 1111 1 - -71

ヲ ス チ ス 7 ŀ ノ 7 1 チ サ -ス = 7 IJ ク ツ 工 7 => V テ ス 7 3 0 × 12 P FE テ ナ 僧 \_ JE: フコ 福 \_0 \ 昭 " 工

3

١٠

釋 ナ 如 ス =2 V ラ 10 æ チ 又 蓮花 IJ ス U 7 ス æ 或 7 1 7 \_ 在 テ ŀ 11 人 イ = 泥 テ ナ 7 フ 1 水 7 1% ナ ---V 1 1 w ウ 250 ナ IJ 1 1 注: 7 w ケ  $\exists$ 4 北 " 1) IJ イ ٠, ~3 ファ 紹 イ カ 2, 1 IJ ク 7 1 デ 文 7 3/ ス ラ 3 ~ チ -1 7 1 12 ス -E カ " 不 -5w 3 E 工 ス 111 12 7 -染 7 ŀ ŀ J° 湿 数 25 IJ ク 世 長 7 A 1) -3 [11] 卿 1. - 3 72: 4 - 10

事 ヲ п ヲ ŧ 3 IJ チ + ス 心 カ 3 = 1" ゥ シ ヲ ス 1 17 ŀ P ŋ 丰 1 テ テ ン オ チ ゴ Æ ボ ŋ ス ヲ ア ユ シ w シ バ カ 也 3 ~ ラ サ 3 ズ ナ ズ ŀ 叉 ガ 3 ラ ر 我 チ チ ン ス ス = > ŀ ッ Æ ユ ア

ろ

}

本云文治元年十月八 重賜羌聲 B 注進

建久二年三月六日 大王了

奉授禪定

顯

昭

題 昭

侍從雅有

ノア

羊

ヲ

シ

Æ

弘安五年二月五日

校了 書了

弘安四年十

一月十二日

ŀ

顯昭古今集註卷第四

秋 Ŀ

題不知

テ 7 秋風 1 フ コソ フ サ ク ナ ŀ ŋ シ 力 イ ツ 7 イナハ 讀人不知 ソ 3

丰

然而 俊賴 夜 ガ ツ IJ ヲ ゴ ス 月日 公朝臣 w ダ ィ 3 テ 叉古歌 カ ガ デ 無名集云 カ ホ 1. 秋 カ シ ナ 牛 風 7 = ス フ = 7 ŀ ス > 7 ナ ŀ ス ガ ゥ 1 力 Æ w ラ ナ ウ ダ ŀ 3 = ワ フ ヲ 3 グ ٦ 力 3 ラ ス iv ナ カ フ サ シ ツ w ナ 1) to Æ 年 2 3 カ

アマ 也 ヲ 今日 カ カ E ヤ = シ 力 チ ス > ヲ 野 フ ラ 朋 子 = H ワタ 若 ケ フ セ ツ 2 中 P ク 汉 カ X ナ ラ jν 是 ダ ッ 同

メ

ゥ テ + 舟 御本 書タ ニハ紅葉ヲハシ ŋ 但考實 ム紅葉 方集 = ŀ 云 カ シ ア V ス チ w w P カ = 橋 チ ラ ヲ 力 直 3 ス

グ 水 4. 老 ナ 18 215 ス 部次 1. " 7 251 IJ × U ŀ 15 ル 宁 H 明代 70 集 13 來 本 才 K 冰 ~3 ホ 3 ク 外外 フ\* = 3 X 112 1) Jj ]n 所 所 詠 見 111

寬

\_

ヌ

3

サ

ŀ

丰

人

\_\_ ス

カ

IJ

ラ

3

X ŀ ゥ

w 才

1

Æ V 7.

IJ

1.

E 御

ウ

テ

-カ

" 1

六

to

ラ ラ

ケ 7

n

7 7 -<del>-----</del> ケ 1 カ ン => --7 ケ サ w 70 3 ラ ナ 3 久 1 IJ ツ 7 1% IJ テ 子

集 ク ナ 鄁 3 æ 17 7 之 侍 tis + テ ŀ ク ١, = 7 +} 隆 侍 ガ 7 キ V ひ Æ 5 シ 70 自 ズ 彩 ケ ケ ١, ラ ユ 3 7 ヌ 3/ 奎 サ IV 4 ヌ æ = r ナ -7 7 ラ -11-本 ナ 年 7 11 ナ :/ w ŀ 儀 ナ 流 キ 118 = 1) ---^ 1 : 们 7 7 ナ ス ŀ 7 ŀ ⊐° ŀ ١٠ 執 枢 申 事 ス ス ッ ŋ ろ キ " イ ヲ 侍 17 釋 7 ヲ " 1) カ = フ 丰 シ 1 フ デ ス ٧, 屯 ハ = ٧. 7 テ 殺 テ 7 ツ 7 七 カ ]. ソ П 侍 ス 又 ス V 侍 1 ァ ワ ナ × 長 1) 7 テ 汉 卿 12 メ = 15 ~ 12 ツ 伊 ŀ 1 ワ IJ ~" V 7 云 皆 諸 テ 勃 1% ナ 7 7 カ 2 =>/ = 33 丰 大 1] ラ 俊 ス -1}-7 子 ン w 1% 輔 ク 本 3 110 ١, ガ ヌ 轁 iv キ 事 テ 枢 1) F 1) 朝 1-~ カ ホ 七 自 申 云 ケ F × ヌ テ ナ 詞 12 筆 \_ ホ 7 無 \_ ŀ 皆 名 ١, ŀ 7 1 ラ Æ =3 7

> 义 13 ---7 12 5 7) 3 1. ~  $\Rightarrow$ 如 1% カ 1, 73 文 カ 1 17 殿 此 ズ = 1) 15 Æ E IJ 5 カ 1 W. 大 ŀ 人 加 " Æ ٠, U 7 17 カ [11] 1% V ナ ケ カ Z T 'n 葉 111 iv 1 E 12 ラ 3 ~3 15 削 =3 イ 作 4 4 3/ -1)-歌 歌 7 y 20 也 カ サ 7 15 云 1 無 70 7 フ ŀ F ウ 5 70 1 " Z \_\_\_\_\_ 3 13 -Va 不 念 利 7 7 7 ナ 7) 3/ -E [11] 11 7) 3 \_7 又 川 此 12 1.0 10 12 紙 F 3 \_1 7 也 7 .1: Æ

詞 3 2, 云 ウ カ 次 2 ナ 3 = 1) ケ 1 ツ w ツ 术 イ ---デ E -1 1. 7 ツ 7 IJ テ 秋 0 枢 7

始 長 納 己 九 カ 卿 His 近 條 7 ナ 2 世 Ti 清 ľį 右 ナ 12 妖 貫 囲 信 カバ 3 ٦ IJ 以 右 公語 テ 相 丰 失 遺 侍 1 . . . 是間之飯 ッ 1 3 01 新 14 誠 E 5 此 कोरं 蓝 延 IJ 含 看 云 1 製 長 然 故母 111 in H \_\_ 芳 ヲ 43 1 1= 不 真之力尤逃, 年六月 含 サ 常 ハ Sit 3 也 Æ \_ 不 依 此 ナ 1 7 混 约 一十六旦 キ 事委注 ---3 非常ニ失い テ 寶 ŀ 3 一侧 六 キ 36 12: 殊 119 府 7 1 之 殃 漏洞 7 Aitt IJ 111 V 命 所 此 ケ 云 イ フェ 144 7 12 in 1) 1. , in 化 ŘÍ 人 テ カ E 大 1 1 111 1 +

ッ } 惟 ۱ر 貞 ŀ + 3 コ 7 家 カ 子 1 1 歌 7 合 丰 7. 歌 1 3 ン 讀 æ 1 人 ヲ 不 知 æ フ

7

イ 1 ッ カ 題 7 不 ŀ IJ 知 ナ ハ 新 ŋ 院 ケ 御 w 本 = ۱ر ィ ッ æ b ハ 7 1) 同 意 也

ŀ

イ

シ n ラ 7 + ク 1 æ 3 = 1 ۱ ッ 子 \* ウ チ カ ハ 3/ ŀ フ カ 1) 1 73 ケ サ ^ 3 ユ

俊 題 サ 中 不 3 イ カ 1 ン カ 古 シ ラ 轁 + 111 ŀ 秋 7 月 ザ V ズ V 1 m 12 語 ナ ラ 力 4  $\exists$ ツ 7 ズ 兔 月 侍 月 集 メ カ + ズ > カ H 其定 下供 タ サ シ シ = 7 = 云 15 集 1V ŀ ŀ ŀ カ オ サ 書さ山さニ 旬 IJ ク = 云 机 3 U 也。戶 入 テ カ 7 K カ ユ 1 シ 3 ヤタ苑 上伊 清 末 ダ ズ ズ 1 æ IJ ハ ユ. iv サ 田子独 輔 カ ŀ 1 ナ ソ ~ 1V 考 15 テ = ヲ ŀ 集 ガ ^ ラ w ^ 1 詠 歌 ŀ サ 人 ヤ 1 イ 云 Æ w 1 3 テ 而 云 也 朗 3 3  $\Rightarrow$ ブ ハ 古 冬 集 メ 題 談 ŀ ユ ソ カ 此 ٧, IJ 諸 今 3 1. 昭 iT. イ ~3 IJ 歌 3 カ 訊 云 注 4 云 ٤ 力 ケ 1 7 名 影 ラ 松 テ = 云 V 力 ・サ 付 ナ 座 左 此 ズ ŀ ゲ サ 人 テ 1) 省 IJ 京 歌 イ ŀ 云 :: 1 ^ 會 其 ŋ ٦ 力 ス 歌 ハ 作 ~ æ ユ 机 集 ヲ 夫 ~ ズ =

> ナ サ 丰 7 論 事 1) ズ ŀ 此 也 7 ズサへ 歌 力 w 7 ラ ハ 古  $\square \check{-}$ ズ 7 ヲ座 今 ŀ U 三日言 シ テ 申 カヘタル カ æ 侍 ゲ 力 シ サ 隨 ズ ^ チ歌 古チ サ 終 ŀ 今讀 本 云 ニ合 Դ = = 共 入ル 執 ソ タニ = 3 影 ケ サ イ V 1] 计 ナ ۴ ŀ

IJ ۲ サ 7 サ カ タ w ラ 1 月 1 カ ッ ラ æ 秋 ハ ナ ヲ Æ 3 チ ス V ハ

峯

t テ

花 後 ズ 月 Æ カ 秋 撰 ラ 柱 桂 1% 題 ^ 紅 帯 1 = 不 貫 テ 秋 花 葉 月 之 知 白 3 1 1 1 歌 メ 春 桂 3 1w メ 作 サ æ 云 ス 1 w 牛 1 7 此 心 IV 紅 ナ ハ 歌 w 工 葉 ヤ 等 2 秋 サ カ ハ 花 æ 秋 7 ス ス ラ 3 3 ス ガ 1 サ ~ 1% ッ ク ナ フ キ ~ 子 べ = 此 Ł 以禁歌 カ 1 丰 \* 讀 ラ 花 人 = = 不 ズ 紅 ヤ 言江心 ケ 葉 然 知 ヤ 以 ナ IJ 者 詩 ラ = ٤ ナ 春 18 サ

1 Ł カ ク ケ ラ = シ ソ 7 ナ 1] 丰 ケ ッ w w ナ = ٤ ۱۷ 7 V ヌ ŀ 3 ッ ٧, 山

效 1) ŀ シ 長 ١, チ 卿 虫 丰 云 卯 サ ٤ 云 牛 ガ カキナ 蟬 ナ ラ 117 丰 3/ ナノセ設 弟 ŀ シ 12 嘣 ハ 1 h 业 ホ 1. æ 力 名 力 ケ 云 ケ IJ ナ 也 IJ y ユ ナ = フ 丰 ッ 顯 昭 ガ ッ カ ナ w ス 云 ナ 2 ナ ٤ D ~ ブ 日 ナ ラ

額 昭 占 今 集 # 卷 DU

詞 清 云 輔 衞 7 Æ 云 始 v ナ 7 去、杏飛蜂、及、歸 ١٠ 良宗 又 塘ト云又盐 ^ 1 イ 案方 \_\_ 丰 ŀ ツ ケ ハ 秦晋 カ IV ١, ラ 11 Ш 爾 チ = = 柳 ŀ 雅 -١٠ 力 棲盐、盐子集韻或作 蟬 云也又此 ٤ = ゲ 似 F グ ナ ラ 云楚 蟬 IJ シ ケ M 歌在 ) 1) 小 ナ ŀ 三猿丸 蜩 丰 讀 ケ þ 也 n 能 宋 7

テァ

E イ 1 æ 111 チ p 7 Æ ナ ^ ナ 丰 ク ヌ iv カ IJ 力 シ ラ ツ 工 1 イ U 1 w 丰

牛

テ

ŀ

7

萬 1% + イ 省 15 葉 毛 F. 1. 歌 3 : ス 17 ~ チ 云 = P ッ 1) 3 Æ ク 此 ケ ケ 1 F ナ 集 ラ サ U 1. 3 ッ 3 7 7 丰 ŀ 3 E X カ カ + ラ 17 1) 113 25 -> ガ 1 73 チ ク 于 1% IJ \_\_ F. ナ Mi 3 77 æ ク 子 ŀ ١٧ 此 ナ ナ + 云 心 2 ナ = 器 ~ 1) " 萬 ۱ر カ 丰 薬 丰 コ水 ス \_ 1 73 = 七 7 ン 1

丰 w カ y ス 7 111 ゥ カ ス \_ 3 テ イ = カ IJ カ 子 1 宁 ン ナ 7 ナ w

消 物 獻 話 戶 和 云 歌 3 延喜御 リ終 シテ 唱 時 奉 候 召 霞字-人 易 行 臺下 恒 --々嘲哢爱三躬 少童 時 秋鴈適鳴 于 朋芽 有 恒 月 勍 111

> 撰式 7 丰 瀧 色一設對一春山一先可以表一多山一云 ŀ 口 + 7 戶 和 ヲ サ 歌 稱 シ 中 八階 日 カラ ケ + 到 ミフ 佳 1 = 境 70 第 云 ラ ナ 詠 1. 7 次 437 3 清 ·K 12 71 J 相計 1 歟 X 人 初 = 12 此歌心 1:X 不表 111 一 名 50

等 カブ 花 ナ 7-111 1) シ P iv 3 水 70 +" : フュ ナ iv 12 力 = 73 3 ク ヲ 1) ナ サ ラ 丰 シ 1 3/ テ ٥ 棚 3 ガ ŀ 1. ~ 3 杨 浪 1) 2 カ フジ 5 シ 1 F = 1% ナ 7 5 ガ イ ク 2 73 7 27 ナ 71 ラ 7 3 ケ ッ र्भा 12 ス 3 35 ١,٠ " ガ ŀ 3 ~" ラブ 1) 12 ツ = ス イ 3/ 12 7 5 7 iv 1 カ ŀ ラブ 3/ ケ 丰 7 卡 ガ i 3/ 15 111 彼 æ \_\_ ラ ク 6 カ ラ 11 1% ナ テ ナ 12 " 2 プロ 水 3 1 Æ E 又 = ラ ラ 7 丰 丰 = 10 75 3 -17 ヲ 7 113 P 7 3 37 2 ---ソ 3 ラ ラゴ 70 3 1 X 3 1 3 ナ -10 71 7 シ 111 5 1.0 チ 應 7 义 =/ þ.º 丰 w 10 ッ 12 11 ラ 7 7 IV 2. ブブ 1 子 3/ 33 -1 \_ 1-10 ン 7 ~ 7 =/ ナ 3 1 河 1% ١, テ テ v シ 荻 --1)-丰 ナガ × 工 111 1: w F 柴 ス 11 1. 5 12 1 => 12 1. 1" 1 1 -11 ナ 7 3 枝 フゴ 23 1-2. ナ IJ 也 ナ -7 出品 =1 フゴ 5 X 37 12 F° 此 ス 5 3 111 111 -1} ナ 12 20 7

ソ サ ク 7 シ サ オ 就 7 t カ ٦ = 3 1 云 中 ナ ク ケ 3 カ ۲ シ ケ 3/ ク ŀ 1 = ۲ サ 月 整 考 1 云 1 ŋ ス t 詞 叉 古 ) 3 3 ッ ケ 才 サ 語 X 7 キ ヲ サ 7; 拾 ワ IJ ャ カ 18 3 ٦ 3 遺 清 ソ 丰 ス 1% ケ ャ サレ r ナ 明 3 ッ V 淸 ٤ ナ IJ 七 1 7 3 輔 ŀ 此 而 サ = フェ 力 1 ヲ ク サ t 4 ŀ 工 清 今 7 ケ ) 1) = 中 3 ント 力 也 是 シ ケ ス H ŋ サ ゥ 1% 3 ろ 顯 竹 雲 光 ŀ 丰 17 1 昭 テ 云 云 1 1 1 = 葉 應 歌 1 詞 云 丰 丰 萬葉 ヲ 心 1) 7 1 1 3 磬 聲 バッソ = 丰 ス Ł 清テフ ヲ サ ナ =3 1

7 イ キ 7 + p ナ ク ハ ナ ラ サ 4 丰 = ケ IJ ス 力 +}  $\Rightarrow$ 7 ~ 1 シ カ

1)

ŀ

1)

=

Æ

-77

3

フ

=

1

73

力 7

サ ナ

7

松

2

力

ŀ ス

ナ ヲ

ナ

ク

又

貫

之

集

イ

ダ 1 =

ツ

ラ E

-

3

= 3

フ 1

w

モ Æ V

1

1. ラ 力

ス

力

サ

7

松

モ

7

ク

人與風歌

7

E

シ

iv

1

=

せ

4

ス

國 J. テ 17 7 ヲ 7 1 1 力 3 高 ) サ ヲ 2 サ ılı 砂 1 7 J° ŀ P ク 1 ٦ 尾 云 ラ ノ サ IJ Ш 1 所 ク th ヲ シ Æ ılı ŋ 上 ラ フコ IJ 1 惣名 ナ テ 7 Ŀ ハ 1 1. ラ 云 カ イ 工 カサ 也 サ 书 3 ズ ١٠ 素 Ш 石沙 X = ` 7 J° n 性 積 ナ W 2, 1 歌 1 1) -)j テ ヲ 多シ 此 = ナ 花 成 3 ナ 歌 IlI 2 77 山 皆 ラ 파 ス サ = 心 テ ズ 3 本 カ 7 松、 ナ ス 詠 P = サ = IJ ス フェ ッ æ = ズ Ш 播 力 サ ヲ w 歌 + 厘 7 p

> 7 10 ッ 1 × 1 1 7 名 テ ス ソ 11 3 = ヲ ナ 3 1 力 ŀ カ w X 所 ラ ナ V サ 3 3 ッ 11 12 1 2 2 ٤ ゴ 無一相 ク ナ ٧٠ ر ر テ 彼播 サ IJ 1 7 郡 3 此 ッ 4 X E 違二云 磨國 ラニ ス 素性 名 1) 3 俊 力 3 也 松 サ ガ 賴 12 1 -ヲ 花 ダ ヲ 今 1 朝 = ) 考 Ł カ 臣 Ш 1 サ ヲ 1 = 下云 古 干 哥欠 7 1 1 = 1% 松 今 松 ゔ テ 1 = オ æ w 讀 我 t ス w \_ ホ 我 也 テ 力 n ヲ 1 IV 里 ハ ナ 7 ク 1% 3 y 松 1 7 = IJ シ F ılı 名 Æ ナ ツ ソ

南、 賀 注 17 3 ŋ ヲ 松 歟 テ 7 ヲ せ ŀ ケ w 1) ヲ w Æ t 美囊 麻 僻 叉考 ケ E = ٤ 1. 事 ス ナ 1) 屯 Ł 揖 後拾 也 力 ゲ 1  $\Rightarrow$ 叉松 彼 抑 サ 丰 3 3/ 國 高 力 ゴ ッ IV 赤 形 ラ 1 1 惣 穗 + 汉 松 1 2 播 ŋ 力 7 佐 郡 磨 サ 1 此 æ 3 7 别 用 歌 國 テ 1 = ス  $\Rightarrow$ 云 ダ 等 = ヅ 言 郡 7 Æ ハ 藤 E ラ £ 明 名 原義 ワ 粟 ノヘ = ノヽ 右 ス 1 ナ IJ 神航 俊 1 定 w IJ 力 -7 賀古 賴 松 崎 3 ヌ 1 朝 高 シ ワ Ŧ Ł w 雁 臣 砂 V = 口 櫻 EII タ ŀ

ナ ١,٠ ٥ ٧ 播 牌 サ シ ガ 1% ク

牛 2 力 7 ۲ 7 テ r. Æ 3 1) ガ テ 1% ۱ر 1] ~3 1) **=**/ ケ ケ IV w 人 ッ 1 デ 7 = キ

7 キ ス 丰 V サ ) 1) フ ケ w 1) 工 \_ サ ケ w ナ 3 ハ Æ ŀ 1 = U

原 不 真"葉 シ Æ 3 俊惠 里 棒ぐモ 1 工 U 書 X 小 1 3 ッ 1 F ケ 萬 ガ デ H 1.5 w 葉 3 ク 7 X 真 故 ガ 才 花 サ ij 申 榛 デ = カ ハ 眞 侍 花 中 ケ 1. フ サ 野 書 又 シ w Æ )V ク 島 ダ 如 ١ キ \_\_ 萩 是 ク 何 萩 ク ハミナ ナ 也 榛 キ 力 原 ナ ŋ 小 中 ラ 其 萩 3 ŀ 大 = ズ 7 Æ ナ 萬 書 ハ イ 18 カ ギ 大 フ 葉 ケ フ V w 7] テ = テ キ 眞 草 +" 春 7 枝 野 部 ŀ サ 住 云 3 ラ 榛 テ テ 3 IJ -

才 丰 子 題 丰 カ 不 テ 3/ 知 = ス ス w ィ U ツ ク イ 7 3 IJ 3 P 3 人 Ł ŀ IJ ラ 7 ズ 1V 人

7

ス \* 子 ガ 力 テ テ 同 ---事 ス iv #1 難と寝 1-云 11 前 12 所 注 1 丰 工 ガ テ、

7 7 ij テ ケ w 3 5 オ チ 9 L ン 3/ ヌ 牛 7 丰 . 牛 1 工 ダ Æ 1. F

"

1

ŀ

3

サ

牛

I

7

サ

力

7

1 ナジ

7

ツ

I 3

ヲ

-7

ツ 力

カ

I 1

h

3 ダ

1

-V2 カ

" 牛

于 I

7 ダ

也 チ 想 此 ユ V 又 歌 Æ ---萬 ŀ 3/ 力 在 葉 或 3 ラ ケ X 云 w 集 ス 持 IJ 本 工 9 集 7 ラ 7 E カ 1) 工 牛 ス 3/ ダ 叉 ワ カ Æ 考 ス 牛 工 1% 詞 萬 1 ワ 1% 1 伙 来 工 æ • 共 汉 ŀ \_\_\_ 云 兩 7 ŀ æ ŀ 7 カ ъ ヲ ケ 同 3/ 1] 心 工 Ł 6 牛 此 = 愈 + ヲ [ii] 集 フ ク Ti. 1 3 ř V -,0 E

キ 此 サ キ 2, F 歌 × 7 ガ 3 カ IJ ガ TE. ノト 2 ナ ナ 7 ŀ × ク チ 丸 萩 3 1 ŀ W × ラ 工 花 詞 1) ヲ ヲ 2 机 云 X 1 女 カ 1) ヺ゙ 1 1 工 1 Æ ツ フ 子 1. ŀ 7 3 = 葉 カ メ + Æ 1] 1) ヲ IJ = 73 カ ケ フ -F 2, 1 w V X テ 1 Ξł 云 3 7 12 1: 71 iv 工 73

ズ 3 カデ 7 1) ŀ IJ 7 シ 3 ヲ 3 7 ŀ 1 ナ チ 3 1 3 7 + ス w 7 シ ガ 15 ヲ ヲ 7 ŀ +" F 1) ナ 3 シ ガ 1 ズ 2 ガ -70 ナ 7 1) チ 7 ク 1 ŀ カ サ w ヲ ŀ 3 ス 牛 ŀ 111 ゲ ヲ 3 3 卡 F ŀ 3 ガ゙ サ E 3 3 牛 3/ 7 ~ 7 ッ ナジ 111 1 サ F ١, 1 イ ヲ 丰 丰 3 7 3 +)ŀ 7 7 3 丰 3 ナガ ナ 7 3 = ナ

ラ

テ

也

隨叉萬葉別

之內

此

等

初

何

7

寬

45

御

時

1

后

宮

歌

合

ノ

ゥ

Z

在

原

萬 院 イ 3 ブ Æ ダ イ ヲ + ガ ŀ ッ = 葉 ス 御 フ ナ ゥ N 3 ン ゥ 3 ヲ w **=** Ħ シ ガ 集 本 ワ ŀ ラ ヲ " V w ŀ ス ヲ ナ 子 = 7 3 7 ナ 7 ラ カ 1-7 1 7 18 " ŀ 3 大 IJ シ X サ 3 ラ シ t ガ 4 ナ V 3 本 旨 ~ ッ ッ ス シ ŀ フ X 丰 子 ヲ グ ガ 3 F 7 文 IJ ヲ ユ IJ F ガ ユ 7 ハ ィ 7 シ ラ 3 ス カ 丰 3/ シ シ 4 ケ イ 1 ボ 1-丰 1 3 ~ 3 ゲ 露 3 Æ ッ フ ^ ダ 10 タ シ 3 3 シ 1 ガ ハ ノハ 3 結 ヲ 1 ユ ~ ス 2 \* 11 7 3 ガ ダ 3 1 3 ハ ケ貿 3/ 又 為 ガ ジ ケ IJ = 3 ŀ ٥, ヲ P ナ 子 ラヲ サ ヲ ラ ギ P v Æ V オ 2 ッ ヲ 1 3 3 霜 テ 1. 丰 ス 1 X 39 ス ホ 18 7 ŀ ゥ ノ カ イ 7 7 ŀ V 丰 ヲ ゥ ナ IJ ŀ ラ P せ 3 P ŀ ハ カミガ 111 7 古 ワ ユ P ケ IJ \* 3 ガ ラ 7 ガ 3 ラ心 111 是 物 イ カ カ 7 ヲ シ F 丰 シ ヲ 3/ 3 子 " 3 ウ 丰 ゥ ス 3 ソ ス 3 ŀ  $\Rightarrow$ 歟 露 秋 ヲ ヲ オ 1 3 ガ 3 7 ッ 7 ソ ŀ 7 ヲ 3 ラト 111 1 イ 7 ナ ス ガ p ヲ ラ 1 1 カ 3 丰 V 3 ナ 此 IJ 1 ヌ ŀ ۴ フ セ × ジ 3 ガ ヲ 3 叉考 歌 1 1-=E = ~ 丰 子 1 カ 1 3 ハ 7 ٥, 3 ヲ æ 7 サ ヲ シ ガ P ラ 7 3 4 P

> ン定飲が 葉 ケ カ ŋ 芸 叉 ア カ ス ツ ナ フ ン = テ(頭 ユ 秋 ツ ッ ツ 3 7 ユ ユ ٢ 為秋 ŀ ナ ٠/ フ シ ッ 3 7暮か シ 屯 ケ Æ ノ 7 此 シ = ヌ IJ ハユジノ 木 衣 歌 サ ŀ Ŧ 此 ナ テ 2 Æ ヲ ッ L 丰 ヌ 秋 フ 初 ユ 是 是 IJ ユ V 云露 ジ 秋 フ ~ ヌ シ ン 凝 Æ 相 イ Æ Æ ノ詞 露霜 六帖 イ ~ 秋 ダ 義 Æ 今歌 古今萬葉共 歌云 風 カ = 豁 = タ ハ æ 末 「イ 歟 E イ カ Æ = 歟 ナ ŀ æ チ 叉 ヲ カ ٤ 萬 不 IJ ダ ッ

ユ

w

ŀ カ ٤ ホ ŀ ヲ 題 = 3 = 不 カ ウ 知 タ チ w ナ 3 ٠, な IJ 1 ヲ 3 ナ 3/ ワ 遍 V ヲ チ 昭 = +

ŀ ŀ チ 7 此 ソ V V 歌 3 7 1 = ヌ IJ 法 ホ ヲ 此 = 12 1) 師 = 集 X  $\exists$ ナ ス > ナ 1 1 序 IJ 身 ス = メ カ ガ 3 = シ = テ テ せ ヲ テ 詞 ハ ズ 2 11 ヲ 女 7 人 女 7 = v 3 嵯 V = 3 = )V シ رر 峨 3/ IJ 3 ŀ 花 ラ オ 野 ソ カリ イ 1 ス チ = フ カ ナ タ テ テ ソレト ナ ホ 馬 1 IV 3 = ヲ 3 7 3 3 メ ウ 7 IJ X 1 ナ テ 棟盆 チ IJ w ヲ ラ オ 也 梁力 • ŀ 女 3 チ 叉 ヲ w 3/ テ Æ = w = = ソ ヲ ス ŀ

袖 7 1 丰 3 1 野 工 ラ 革 1 グ Æ 1 カ 花 ス 3 牛 ホ = イ テ ~ 子 ク

١. ウ ソ カ 秋 デ 1. ---\_ 1 野 ナ 7 ŀ 1) 1 3 罩 W × コ 1% ワ 11 1) T =E 牛 オ 此 歌 テ 1 1 ホ 歌 合 7 力 ~ 7 ゥ 子 w = 證 ر ر ス 同 7 中 = 人 事 -ン ---1 代 7 机 デ 3 集 ŀ 花 Z 1 13 ヲ F. テ 3 ズ ス 7 7 病 工 ~ ン 3/ 丰 1 IV 3/ 1 力 t ヲ 1 部 ラ サ 1 17 哥於 ヌ ヹ 3 Æ = \_ 2 1 Æ t ~3 12 ٤ カ 丰 ナ ス ク t ナ 1) w

不知

ズ

ッ

۲ 7 7 ŀ ナ + ŀ 1 カ ر ر ナ × 1 7 Ŀ E 1 7 7 丰 1 7 ---オ -E ٤ ス V

ムモ

× E 3/ 3 Æ H E ス ŀ 力 X ŀ ŀ = Ł :1; ク 1) ク 云 +}-3 E 1 -也 ナ 112 7 3 1 ŀ 111 テ ン 3 + ハ 3 テ 7 メ Ŀ ŀ ヲ 2 17 + 3 Æ ~ 机 力 3 1 1% 2 ٧, ナ 7 IJ 1 1 ク 2 ナ F ヺ チ 1 ク Z 1 Æ ス E" ナ +}-花 詞 力 Ł ガ 12 1 -X グ 17 ŀ カ 1 E ソ 六 E 7 E 1% ナ ラ ナ 1  $\exists$ 1. カ 2 × 毛 ク 1) 1) w チ Ł 1 = 义 ズ ŀ 7 7 此 ナ 17 ナ +> u 集 ナ 7 E 1 春 t ブ 卫 E

> ウ 是 丰 ケ カ V V シ ŀ テ ク 2 同 1) " 15 1 カ 4)-7 好 in チ ソ E U 2 佰 他 111 IJ 1 汉 E w 也 相 ヌ 7 1 3 女 iv カ 1 A 1 IIV カ U -र्रेत æ Æ 1 人 ン 1 ウ ١٧ + 1 木 3/ ス フi V 才 カ ツ : ラ 1% X -E 2 25 17 ヌ 叉 7 ゔ 2, IV Ł ١٠ iv 7 3 汉 カ t サ リ メ 20 ٢ 此 ツ × 1 歌 ユ 1 ズ 2 カ 1 7E 我 1 \_ 3 カ × ガ 1 ナ 2 又 輔 12 才 何 3/ 17 18 卯 チ テ 111 7 Æ 71 Ľ 5 1) 33 3 1% iv [in] イ 1 iv 3 " U 5

禰寺唐 雕 此 1 カ 丰 受 べおは 鴨 歌 カ VI ク ク キ 1 妆 首 N サ 1E 草 33 1 テ 1 =/ 人九 衣 7 サ カ " カ 丰 15 丰 ス 1 1 集 审 ツ w テ 7 デ 17 衣 丰 ŀ サ TIX 113 1 ·E ク ツ 1 水 愈 1) \_7 サ " 摺 T 工 =3 ン 1 7 ク 2 " 丰 子 1 -+}-1) 3 7 ク 1. 2 × 10 1 或 ク -1)-E 1 1] 不 ++ 3 1 1 ウ 7 或 月 定 1: 1 ٧ ر " 1) 真 ナ ク 3 ツ TI 萬 ツ 1) フ 1 X ユ 荣 叉 17 工 ۴ -)1 7 イ 又雞 Ma 2 ン 5 +) 1.7 歌 7 1) 和 17 1-Z 名 此 1 元 1 1 Z 波 ÷E ` > \ ツ

仁 フ 和 1 12 17 力 丰 ١,٠ = ラ = 2 2 才 F テ 3/ オ 3

部

云

2

1

ナ

1%

チ

3

12

カ

17

1)

3

1)

人

3

IJ

顯昭古今集註卷第

ケ IJ 3 Æ ŋ 1 ケ チ ガ w = ダ 1 リ キ セッ ゥ = ッ = ガ ィ ハ ヲ , 秋 = 1 家 3 1 = 野 テ t = ッ 1.5 ダ テ ク IJ IJ ダ

セッ ゥ

サ キ

ŀ

7

レ

テ

۲

ŀ

フ

ŋ

=

シ

ヤ

ŀ

ナ

ヤ

æ

7

カ

Æ

3

チ

シ

ヌ

ラ

ン

ッ テ 7 ケ

御 ŋ

N

ŀ **シ**/ Æ セ 7 テ. ガ 秋 ガ 力 + キ テ 1 或 ラ E 萬葉 ナ ۸, = 3 ----1) ガ ナー = 前 ١, キ ラ 1 垣 3 7 ŀ ŀ 3 IV カ 清 或 小 ケ ٠, 垣 IJ 輔之野 -V ヲ 3 セ イ Æ 也萬葉二 1 フ 1 3 ナ 力 11 丰 N 或 子 ~3 3/ ハ 草 7 籬 對

ŀ

カ

キ

テ

ラ

3

メ

IJ

キ IJ タチテカ 題不 知 リソ ナ ク ナ N 力 ダ ヲ カ 1 7 讀人不 シ ダ 知

ハ ラ

ラ フ 力 タ ワ ヲ 痲 t カ ゥ 祉 7 力 チ ナ 7 1 メ ルレ アシ 7 ッ 紅 ス 7 此 葉 タ ŋ 世 歌 ) ヲ = 2 3 ~ 力 ハ 三十六人撰 テ ラ 力 ダ ۰ 3 IJ ヲ 所名 ケ メ カ w w ノ ニハ アシ 也古 ŀ 丰 人 歌 ダ = 九歌 1 云 イ ガ ۸, 7 ラ 7 云 12 7 ス ケ カ

フ IV カ = 1 イ 力 キ = ٠, フ ク

ス チ ゥ 7 ッ + p ٤ 7 ケ ズ IJ }-不 堪 ŀ 云 也 ス E 神 7 1 丰 イ = ガ ۸, 丰

+ オ ホ テ ٤ サ 池 力 カ IV ~ ス キ = キ \_ 7 7 ウ U 工 ナ ŋ ス IJ ケ w

ŀ

ゥ 3 才 ケ Æ 2 ٤ 3/ キ ク ヲ オ ホ サ ŀ ケ æ 1 1

> ソ 1)

=1

Æ ٤

タ

カ

٢

ヲ

ŀ 才 云 ホ サ 111 1 池 ŀ ハ Ł u + 1 池 ナ 1] フ w 7 1 大 13

u 7 シ テ ラ \_ ギ ヲ 7 ラ 21 -70 ナ 7 7 ラ  $\exists$ ス 2 iv ノト " 3 E 7 3 丰 ッ 7 子 ŀ

セ  $\Rightarrow$ 

12

2

ラ

キ

ク

رر

ナ

テ 云 ii ` + Hi U 111 V 7 ス 7 テ 丰 1 w 7 ~ in 7 1, キ o-V ス オ 1. æ ٥, 3/ E =E 7 ス 1 1 ツ 云 キ 1 也 ク 云 ŀ 也 E ヲ \_ 3/ 7 3 テ 13 ク ŀ

12 藤 原 關 雄

4

ŀ P

-

= カ

÷€ ^

1) Ł

ر ر

~ シ

IJ ゥ

4 ッ

ŀ フ

キ

\_ "

3

X

w p

3

ツ

サ

カ

7

ラ

デ

-7

1) オ 3 2 IV P ŀ 7 キ 1 ナ 1 ク テ カ 丰 Æ 3 チ チ 1) 又 ^ 3/ テ w ۲. 1 ٤ ナコ

+ ナ ナ \_\_ 3 -7 'n 3 ١, 7 7) IV カ -+)--F 15 æ 紅 丰 2 **E**3 -5 11 メ 葉 18 E iv 111 15 1] 也 3 古 チ 7 如 イ E 人 歌 丰 ŀ 云 ナジ 1. ---٧, ٤ ー「オ 石 カ 丰 カ 1 ヲ 1) 1 ケ ク カ ツ ŀ 云 12 ャ ナ 15 3 ٠٠ = ~~ テ 才 F 1) æ カ 7: 1 = イ チ キ ナ t ·V ٧, ウ 4 ク ŀ \_\_ 力 7 3/ 3/ 15 云 丰 也 ス ス ~ 7 シ ウ ソ V 五 W サ ŀ° T ウ ス ツ ナ 7 オ チ 屯

1)

ナ ケ 條 ナデ w V 1 1 后 グ キ w \_ 東 御 カ 宮 ス 屏 7 風 ---3 ウェ ス 35 -70 iv ツ ス 題 1. 1% 7i  $\exists$ テ 1 U ŀ  $\exists i$ x 紀 72 菜 ウ 12 ÷/

チ -3 1 " 中 ク フ w iv 力 1 : 3 E キ カ ス 1% フ 久 力 ۱ 業 カ 21 ラ 7 朝 V ナ 斗

宫 ヤハ風イ 111 Ш 此 力 テ ク カ ク龍川テタ崎 見 大 崎 訊 ナ 汉 1 洲 3 ツ田北シ m カ 和 E 沙 3 カゴ 12 儿川河日五 3 ノ過 國 號 711 御 ン 12 Æ 崎 ン大龍ノ河ケ 1 歟 7 3 芸 ŀ 丰 il įū, ئا タ利川チナル 在 ク カ 云 ツ國川リ五 ケ 1F 1/1 タ龍トヤ々此 ŀ V ズ 歌 11 3 ノ田號シ私河 云 7 ク 1) 順 港 ナ ŀ 枕 カ山スキ 2 1 艺 友 12 カ 本 >: ハノルハ ハノ邊・ナーハーは一川には一川には一川には一川には一川には一川には一川には、 云 T 111 ihin ラ 闸 ク iv H 無力 ŀ ク 歌 ヲ = 10 3/ ヤ HZ 備 ク 3 武士の大学を Ti 「シラナト 7 書 考 X ナ 10 イ 1 7 之集 御 1) 2 IIi 中 3/ w 1 -6 7 宝 2 7 ŀ 3/ キ ŀ \_\_ 11 11 丰 THE STATE OF THE S 抑 [1] テ 集 1% ナ = V E フェ 2 ノ間 ii t 明 11 岸 得 X 7 1 ズ 歌とエリタテ ---Z ケ 111 批 10 輔 1) 水 1 詠 リ邊久 ク 朝 Hai 1% 1 云 ŀ 1 シガエ 崎口打也 忠 寬 2 inf 1 l'ii 7 11 3 川ノ任山カラル重 米 考 13 1/1 : 10 1 トキセ代ハリ路之ミシテンサミニ筑 IJ 岢大 哥大 IJ ッ 12 Zi

川面ナムエ 汉 3) 3 テ 1 u ナ ılı 云 何ピロタ " , ١. ŀ ガ t 山 1) ihin 所 テ 峼 ~ 3 ム森ハト ア大清 ナ H 7 カ ヲ 2 п = り和輔トノ朝 歌 讀 シ Ł" = ケ ŀ V 7 テ 1. 攻 ナ 1 カ ヲ æ シハ國臣山古ニ古 アン 其 見 ラ 7 ケ æ 崎今ア今 th テ カ IJ 八 崎 希 Z 7 3 シ 不ミバ物 定大 幡 エ山ニタ崎付 ヲ デ 4 111 ス Z Ш 1) 有リ川東然ト ヲ 也 シ ~ リ川タ 和 就 多 > ケ ク 力 曲 1) ラ 國 1) 往 V ハ 此 中 大 不條 也 11 = ズ w im 阿板不 = 叉 和 人 而 1 カ Ш 第 10 = ヲ ス 7 12 信審 ナ Ш ŋ iki mil " ~ \_ 數也 Ľ 崎 仲 淀 カ ナ グ 又山 カ 內 111 ŋ ゥ ılı 植 111 100 ガ 崎士 7 ヲ ナ 7 テ ١, Z = 4 遠 室 龍 大 カ ili E 3 タ カ 和 崎 隔 Ш Ш " 4  $\mathbf{H}$ 3 3

ス ッ 久 題 カ 不 知 æ = チ 3 ダ V テ ナ カ w メ ŋ ワ 讀 久 人 ラ 不 知 1 = シ

7

IJ

又

Ш

崎

方

=

Æ

有

歟

歌 何 卿 也

丰

中

P

次

ナ

١, 其 机 仲 云 됊 1 曲 同 御 朝 見 昭 此 歌 臣 歌 ス 朝 古 三首 1) 批 7 貫 清 斂 今 w 之存 中 長 B 人 輔 朝 卿 錄 ナ 首春歌 臣 云 云 ラ 是 云 = 1 同 平 御 1 朝 武天 聖武 ナ カ 之由 ゥ 5 1 阜 天 w > 1 歟 皇 御 御 3 ハ 古 歌 歌 シ カ 今 御 也 ク 1, 1 書 ナ 在 歌 ナ ハ ラ -位署 也 平 2 三萬 序 城 7 薬 : 天 フ = 云 皂 秋 力 Æ ス

> 書 歌 以 大 新 往 無 者 12 和 Ā 若 同 省 古 撰 時 三萬葉 清 龍田河 一个序 九 物 中 在 為 名 如 語 不と 平 平 拾遺集等 三萬葉歌 再安部 九 此 可 武 紅葉詠之歌 又貫之撰ノ 城 輔 一有乎 之條 御詠 注 朝臣 天皇撰萬葉者桓武天皇也 著 若 如如何 藤 者 存...古今假名序之心 者 爲二 能 原 何 新 可レ奉と 12 稱二 别 撰 宮 仲 帝 丸泳 聖武之御 也設雖 御 者 之條又今得 代人 ::新撰::乎假名序 弘仁以後之人 書 九起 三型武御 中 詠 云 數 何 哉 又 H 12 然 敎 意事 放 叉 奉 此

下 歌 知 長 7 ナ ナ ケ ノト 願置裏書云古今第 題 話 コフ 卿 カ ラ カ iv ヌ 不 # IV 人 3 ノ、 凊 ナ メ 知 3 不 ラ in シ 讀 サ 知 ラ 1) カ : ス 輔 花 俊 ŀ 7 人 1, 3/ 惠 7 不 人 3 ソ ` 等 御 サ ナ 力 ラ 知 1 丰 歌 ŋ 二云春 1. 1 1 丰 يت 1% ツ 春 = ŀ ス ケ = シ ナ ナ w シ 御 ッ ユ 歌 歌 ウ 丰 ダ ナ ス カ ン 下 ラ 同 ラ 1V ŀ 中 カ ~ 7 第 ナ ナ t フ 3 1 ノヽ ノト = ラ 3 四 3 2 1% -6 ス 3 又 同 云 , 7 3 カ P -ナ 第 此 秋 フ ナ チ V 3 = 歌 歌 ラ L 3  $\mathcal{H}$ ŀ カ ス 私 タ E 1. 云 7 ·E 題 此 秋 3 1 1 レ w V 云 独 歌 御 テ 歌 カ U

知 1 ラ 1 不 帝 ŀ 混 レズ 乾 芈 秋 新 丰 ۴ 3 3 ヲ 五 ヲ III JE. 御 æ 3 ス -77 v 御 往 ナ ٢ 7 イ X 7 ク 76 E 哥 書ノ内ニ 丰 書シ 製卜 祭良 ン之然 ラ カ 12 也 ヲ :1: ٥, 心 Æ 3/ サ 頭 兩 何 ナ = ナ・ 1 ヌ 7 得 秋 ナ 也春 花 云 秋 ノ京 æ イ 牛 昭 帝 7 1 浴秋 丰 古今第 由 訊金 ウ Ŧì 谷 ヌ 云聖武 7 カ **争カ二帝** 牛 ŋ 三下 チ 同 7 X 15 1. 3 カ 25 歌 下泳 第 注 省 トステ カ -7 1 1 + + 六 力 ラ 7 + ヲ 坐 御 7 イ ス 注 E 省 14 慥 製 云 1] 七 レ ~ ク 东 > ス 10 + n × ノ名ヲ同 省 萬葉 春 ナ ラ v 5 }-ッ = }-\_ 1] 7 云 + 良 ----平 ٠, 雜 云 18 爱 17 12 テ チ 毛 ノヽ E 1 Ŀ 1] þ 擂 武 集ヲ聖 里 奈 ナ 知 אַת 丰 ノ ソ 依 ^ ٠, 11 7 亚 1] 題 ナ ス ク ナ 良 也 人 ナ 3 又 樣 12 カ 之別 A テ 是 春 不 ヲ ヲ ۴ v 御 秋 7 ナ F\* 云 或 五 製 111 サ 18 義 歌 ラ 1 可 知 + 御 人 ナ īF. =3 : 3/ セ カ 1 讀 書 ナ ラ 御 首 フ 牛 製 ナ F" 110 7 3 V 12 不 人 就 歌 1 ラ 得 12 ヺ サ 盽 ラ ハ 1 ` カ 帝 [1] サ 丰 Ή 毛 3 イ ŀ イ 也 1.

> 叉 北 丰 時 カ 汉 -フ ヌ 物 似 数 7 ナ ۴ ++ 1 6 チ ダ 12 × 1-7 ٠, 10 ŀ P 7 7 献 テ 絹 云 卿 テ ス iv .7 1 文 旅 机 1 ヲ シ 7 7 Æ F 云 U =7 字 于 nb ∄ + ツ -1 3 云 ス Æ ヺ 說 义 ラ ナナ ク iv -Fŀ ス 12 ŀ 118 to •" ŀ \_\_ 7 7 115 1 丰 紅 1% 2, 4 3 ヌ U 供 TIX 染 ク 莱 チ サ ١, - 52ª 1 次 ŀ 1. 人 5 7 ŀ ス 云 前 大 云 24 1 IJ ti. 六 汉 111 mili 文 11 ク 66 云 -1 ŀ D 2 ٥, 字 12 1) ク 2. iv ~" V 义 ヺ ク 7 以 丰 IV 2 715 汉 ŀ F \_2 Air 1 ŀ ۱۷ ヺ 輔 丰 2. ス 朝 ク 當 +" mil! 12 紀 + 术 ソ 果 13 ŀ -7 -2 Y's v \_3 合 ナ 7 Z 然 佛 1) 12. + Z -2 E pint ! mil 1 旅 ì 华加 12 +)-

頭畫 加 12 御 ヲ TO XI 7 ik 示 Æ 人 イ カ 私 此 云 + 1. 7 K IV ク H 7 [11] 1-ナ 1 ナ テ チ 人 1) 往 云 12 + 1 12 : 歌 => 3/ 不 ŀ ナ 化学 10 。慥之故 V 清 21 3/ 1 輔 也 E 定 1% ガ 木 1/1 佛 故 2. 歌 ナ ク inn 111 ---ラ 鄉 ŀ ٠, Z 物 ìE. 1% 3 歌 7 5 ナサ - 3 73 ----1 F. -Ve .0 % 牛 " 肌 1

\_\_\_

物

ス

テ

7

ッ

12

7

1%

2,

ク

1

云

T-

[11]

1

Z

11

批

大麻 神 以 歟 テ テ 書二手祭 ιĽ 1) 作 古 シ ブ ヲ 4 ッ サ チ 3 1 社 1 語 ラ ) ヲ 3 ス [陰 ŀ ワ ヌ テ デ カ 叉 爲 抬 カ 陽 3 ク ス カ 1) サ イ 力 w = 工 }-一或書 此 遺 ケ 7 ダ w F Bib フ V フ 二白和幣 3 机 心 良岑 集第 ŋ ク 力 云 × ユ E E ハ リ叉御 或 ₹種 院 シ 7 ヲ フ 7 = ヌ カ 7 書 秀岡 シ デ 八 ケ 7 3 サ サ ヌ 麻以 禮 -是木綿 云 デ サ 七 ŀ ップ IJ ŀ オ ヲ シ イ 織又 大 友 幣 テ 为 }ŀ 3 イ ホ 為 品 讀 云 ク ヌ サ ジ フ t ÷/ 同 7 7 順 書 X 11 同 歐 7 也 +} ケ 物 ダ ラ 7 サ ハ 和名 六 案之 又 和禁物 ヲ テ 紙 ヲ ク 12 Æ ク ッ 同 幣美數 幣 ヌ 帖 1 ツ ヲ オ 木 3 æ 7 後二 = 第 歌 丰 7 カ 1 3 1 一点几 ヌ ヌ ホ ^ 7 ハ 云 サ F -サ 丰 サ 2 カ = 7 木ヲ 幣帛 其 テ -イ 九 カ 3/ 丰 ナ ナ 力 ろ = 之內 テ テ ス チ サ ナ ナ 木 ラ = 1) 種 或 殺 7 グ t 12 オ ツ カ ケ 1. テ ラ サ ナ 7 t カ ラ 書 書 7 ケ w \_\_ 굸 ホ 殖 3 丰 テ 卿 タ 1 フ テ ス

ス

ク

歟

如 薬

何 集

萬

葉

ス

4

4

١٠

或 昭

と響

或書: ケリ

手

向 證

成

三瘤 ノヽ

ヌ

サ 1

ŀ

1

力

之

w ギ

w

ナ

丰

萬

書

醴

云

K

顯

云

佛

ス

4

ケ

無

ナ

ヲ

w カ

2 ヌ

ス カ

讀 第 ガ デ テ 丰 IJ カ カ ス ヅ サ Æ ダ 1) ナ ス 也 シ 110 ガ IV モ 7 ス 1 才 返 2 ス ケ カ 又 ツ IJ ッ ス ŀ 四 ナ ホ w Æ ス 徐 オ ケ ヲ ŀ 12 w カ ラ 1 3 = 굸 2 又 業 1 テ 人 撰 ŀ 7 ナ ラ ナ モ ヲ 15 サ Ł 4 神 ク IJ オ ツ 丰 1 ス 3 ٢ ソ Z = 秋 案 サ ク テ 12 テ ナ v シ = IV ヌ ホ 7 献 ク 1) 1% ナ w 7 テ = 七 オ V 3 1 ガ テ ヌ = 業 無 テ 陰 3 t ラ ズ サ ヌ Ł" ガ ŀ ~ 又 ホ 設 陽 テ w ヲ 平 フ 敎 サ 1 ツ ダ 7 ヌ 1 = V = 相 遣 サ 朝 = 長 1 カ 1 師 1) 毛 = 1 7 D \_ 15 æ ヲ ナ 10 ナ テ ŀ ケ 臣 人 卿 ィ カ 1 ŀ \_\_ 色 趣 1 シ IJ 丰 モ フ ナ 1 w ヲ ヲ ۲  $\Rightarrow$ 7 7 = V 굸 叉 ス 物 ラ カ R 1) カ ケ ケ 12 ヤ 7 = ŀ オ 3 工 -谷 ス w 所 ウ w ケ ホ シ w 子 V ヲ = = オ = 帖 絹 麻 叉 串 デ 人 ナ ナ 1. ン ソ ダ ヌ = 15 ٤ ホ H 清 ス +}-IJ サ 丰 ŀ 也 ヌ 云 = ク ŀ モ 丰 = ス ヌ サ ラ サ ŀ 而 サ t 1 輔 ダ Æ 7 ヌ ŀ 3 ノト 讀 讀 ヲ メ 1 7 ヲ ヅ サ Æ 3/ V 1 力 10 セ 云 也 用 紙 YIII ダ オ ナ サ ٤ ズ ケ フ シ 7 T 和 7 ツ 7 叉 ク デ 仍 旅 ヲ テ w 返 ラ w ホ カ 1) 7 ダ Æ = 歌 テ 1) 同 12 宏 ナ デ 又 3 1 ナ ヌ

題 昭 古 今 集 註 卷 Ti

> 17 ワ

サ

ヲ

キ

12

1

3

1)

違

ヌ

サ

ス

ス シ ク ツ 11 ラ V ダ フ カ 2 12 ナ ラ ١. Æ 3 3 3 X チ 1) 21 ハの頭 ナ サ書 カ iv 代帖 力 1 = 100 物又 ナ チサ ٤ ゴデ 也下 ) 云 3 2 T 1 ili =

3 此 7 ナ カ カ w 集 カ IV 云 回 ナ ラ 歌 テ " 御 ラ = w 1) Æ チ ツ 义 寸: ラ ナ ナ に 1 メ 5 1 有 2 1 和 1% ナ 1) w 3 3 1% 7 カ Ŀ ٧, 公任 此 物 カ IJ 行 カ 7 IJ 3 ケ ッ \_\_ V 71 哥 12 話 21 天 幸 ユ iv F. 1% 久 IV ケ カ ス 不 紅 卿 抬 相 皇 F. 7 ク 集如 ラ カ w ス カ カ 古今 遺 東 似 此 1) タ集如 人 ツ 御 " 1 21 . 等 敷 1 此 丰 九 歌 ケ ラ ツ グ : 4,400 Æ ٧, 集注 者 ナ 1 X ガ = iv 丰 御 ナコ シ Æ -A ゾ 力 ノト 共 ナデ F. ス チ 丰 汉 = 7 3 21 21 九 12 人 云 7 御 7 萬 中 ツ 1 ツ チ 九 歌 ン 7 集如 紅 共 薬 1 1% ナ 次 ツ ダ + 7 25 集云 也 此 7 バ 集 ナ 葉 次 カ = 1 カ ツ カ カ ス 而 兹 清 70 ス 1% 1 w T. = Z カ カ ٥, 此 1) 紅 天 ナ テ ) 軸 IJ カ Æ 1 iv 7 7 集 ケ 葉 紅 皇 7 朝 : ŀ 又 2 " = ٠, ١ ر ノ 無 紅 ル 大 葉 臣 : 17 Æ チ 7 17 ス 6 E テ 葉 叉 3 和 グ ヺ ッ 71 1 .4 ٧, -E 其: 拾 · F-ナ 3/ 物 -ye V Æ 文 チ 如 御 注 人 覧 遺 テ 話 IJ 1 3 71 17 2 to 21 家 Ш 九 チ ナ 集 次 牛 ナ w ケ D -E 云

> 備 九 此 嗣 於 者 九 九 カ 三龍 等 集 歌 三室等 歌 11: 12 又有:高木 詞等 者 之 質 六 カ 田 說 3 往 ツ 川之詞 何 相 已相 三不 1 3 ラ 不 又 加 牛 ·審·大 ill, 勿 注 儿 ılı 達 1 栗歌 之說 論 古 别人 又 ili 有 大 宁 和 ---1 之哉 極 等 和 物 首 秋 岩 阴 相 彌 111 ---風 抑 爲 FI 似 以 拾 有 以 フ 則 無一作 香 ili 州 遺 牛 所 歌 111 此 信受 监 集 ン 之說 歌 ŻE 等 者 in Z il Fi 此 义 ラ 削 利1 H 煎 於 11 歌 1 决 煎 州 JII 三宝 公 11 訊 岩 者 个 流 [1] 11: 任 18 111 52 AIK. pip 有 放 往 卿 Ill 有 名 人 2 歌 人 撰

ホ 又 旅 -衣 ス 云 V 担 长 ヌ -E V 尹服 们 イ 1 オ 1. H 或 テ E ホ 服 ナ 本 1 丰 又 3 7 十 7 X 1 イ 7 71 " 3 ス 1) ヲ ラ 1." 7): ス皮衣 1 P E Æ 义 w Æ 1 1 1 7 シ 藤 ヅ フ -Va 1) 1 チ 1 1 义 皮 衣 核 此: 7 ·J-7 3 歌 ナ -1 E 1E 卡 7.7 1 テ ż 1 -E 猿 7 ナ 1) ツ 儿 V V 萬 工 w

t -7 1% TE E ti 7 1 : 1 ギ E\* 1 = 1 1% カ 家 1) iv 女 :1: 1 歌 1 ヺ 7 \_\_ 歌 7 7 丰 1 ١٠ イ 3 忠 ナ 77 3 才 :1: 光 E 1 ŀ

×

普

心则

长川

+

ス藤

ル女

身立

ナモ

中藤

76

ナテ

り総

1

IJ 1 ナ 3 ダ ナ IJ ケ 1]

詞 オ 1) 1 2 丰 ナ ホ = H ŀ カ = オ 苅 回 ケ ŋ 水 借 有 N カ 或 せ 虚ヲ 又云 子 H 15 サ 田 假 1) ッ 守 2 家 ホ 1 " 無 7 }-シ 燠 IJ 名 又 丰 云 • 置 T 苅 ス E 1) カ ヲ カ w 風 然者 ヲ 穗 義 丰 12 レ 借 抄 ヌ カ 廬 ŀ カ 衣 廬 ウ = = E テ 1. 委 イ ス 寒 云 注 ガ カ 7 也 ク 之 1) 13 萬 秋 1] イ ツ = 穗 葉 ホ ホ ユ F ン カ

71 V w ス 韻 = 不 オ 知 フ w ٤ ツ チ 1 ホ = 3 ラ 3 = 又 A ノヽ =/ 3 7 ラ 1 ズ

-7

サ

7

シ

テ

カ

ŋ

ŀ

也

ラ

=

7

丰

٠ ر

テ

ヌ

1

カ

傳懷州程本 俗 子 也 ナ " 1) チ ٢ ッ 順 1 チ 和 境僚播省 稆 ŀ 名 飢種異 云 ŀ 而 如尚而已 カ ŀ 稳 書生非 5 Z 日郎 文 別 別 別 別 党 1] ŀ 71 カ 1) ケ 17 ス ヲ 3 1] H 叉 カ 7 1 槽力 Ŀ 灼族禾口 日日自力 イ 1 禾嘉生オ ヅ 野穀也と X w 生旅或卜 1) 4 日生作ど

詞 V 云 IJ ケ + 17 w Ш =  $\exists$ 僧 X w Æ 漏 タ 5 ガ IJ = 7 性 カ

1) モ ŀ 3 3 チ 2 人 7 ソ テ ス X = = + イ V テ Æ テ 1 ナ 2 7 + ハ カ +

> 普 ŀ 别 ラ w ス 3/ 1 D 梅 ウ 物 1) ケ w ŀ 通 X 云 花 也 薷 -3 欰 ガ イ v 竹 袖 ŀ シ 加 フ 1 ŀ IJ 切木耳(頭書) 件 芷 何 ŀ = 云 カ イ 和 詞 イ ŀ キ = 清 名 テ IJ 丰 カ カ 也南 萬 私 輔 革訊 5 サ 丰 丰 イ 草文 朝 テ 葉 V ズ 7 云 生地 蕗 順 臣 ダ 3 ツ サ = 云 主曹 染 和 云 々州 ク E P ケ ٦ 叉黨 菌 名 松 ラ カ ŀ 7 ٤ ノト 厖 丰 ス ン 丰 ガ ヲ 3 3 云 テ 菌 ケ 亂韻 IJ X X 2  $\exists$ 毛 身汝 ク IJ 1] F チ 7 1 1 モ テ サ 菌 ŀ 2, ッ カ E 云 車 7 w E\* 子 也 キ X ン テ 7 ラ ŀ V = = デ 17 ス ŀ イ = ハ チ テ ケ ク ケ ン 3 ガ X サ 1) 7 12  $\Rightarrow$ = 1 叉 + 1] Ľ IJ 3

ナ カ ッ 丰 1 ツ コ モ IJ 1 亡 大 井 = テ  $\exists$ × in

ツ

ラ

工

丰

ヤ ユ 7 フ 干 ツ ク ١٠ ク 3 ヲ 12 ラ ク ラ 2 ノ t 7 = ナ ク シ カ ノ = 卫 7 ゥ チ =

1) ヲ ユ 2 3 ナ 也 此 フ ツ 工 ナ ラ ッ 歌 15 10 鹿 ク 4 不 7 7 3 ス 1) 3 ナ N グ カ ヌ 1 ク 7 ラ 12 幕 月 = IJ 1 ~ t 3 卫 7 和 H 丰 カ 7 ツ 心 ウ ラ ŀ コ 极 也 チ 也 to イ E 叉 1) ユ -21 萬 7 4 ----フ 葉 + 大 1 サ ク 井 ラ 7 1) チ E W 工 w 西 此 1 カ 7 集 ケ ッ ク Ш ノ 冬 ク Z E ナ E 18 3 1 ナ 7 丰 ユ 3

題 昭 古 今 集 註 卷  $\pm i$ 

テ チ フ 17 ラ .7 7 ナ  $\exists$ タ ジ オ ツ ッ 术 子 コ ツ E カ æ IJ ナ イ ナ 3/ > ٢ 1 Æ -6  $\exists$ = メ 3 チ iv X IJ ٠ ر 7 又 サ 3 = ツ ス 子 2, ケ

耐 此 秋 ケ ス = カ 2 ヌ 3 ィ サ 11 ケ タ \_ テ ŀ 7 ケ 3 秋 1% = 1) × 2 1) 1 ケ п 又 テ 又 ٧, サ ŀ 前 工 ^ ケ \_\_ 3 > X 18 洋 JĮ: カ w セ ? ナ ガ iv 1) 樣 1 t 道 ウ Æ = 3 加 Æ -X 3 旅 舳 1) チ 7 人 叉 7 18 式 道 ス 又 和 2, サ 加

名

=

道

祖

舳

1

カ

+

ラ

ス

2,

ケ

1

カ

3

ŀ

∃

3

道

加

神

云酸者 旅 テ ス ク ズ F ナ ٢ ŀ 同 カ ナ テ ヲ F. ハ T; 丰 守 餞 酒 1) 初 テ カ 1 今案 食 j サ ケ ス 7 IJ ヲ 益 2 w 7 送 心 其 = 1 1 D 之時 義 餞 誓 iv か E 加 人云 7 7 7 ~ ]. = テ 屈 疝 ŋ 丰 18  $\exists$ 裝 馬 祖 ナ 12 和 也 X 莚 伙 束 サ ŀ IJ 1) X 然 ヲ 1. im ハ テ 人 亚 7 15 2, 而 サ通 道 ク ク A 2 = 遠 1) ケ 15 加 12 H-JL) ラ 所 歌 1 前 ٠, ヌ 汉 111 7 ス サ 3 = 行 道 釋 物 7 フ × シ 1) 7 ~" \_ カ 1 云 献 ナ 初 ラ ケ Till! 17 ١ 골림 够 ジ ラ

IV

7

モ

2

~

ハ

ナ

20

ケ

ŀ

云

也

通

云今人

一酸行

E

祖

道

狙

也

流鹊 敷

記

曾

7

良

道

加加

旭

収 加

羝

LI

酮

111,

風

仍

三加

序

<u>-</u> 굸

12

机 送 導 去 敷 E 出 者引前之言送者從 食也廣韻酒 共工氏之子 為 注 で行 站 聘 がな 好三遠 ili 食送、人也書 行 注 之名委と土 遊心心之以 後 祖 之稱 始 寅能 也 18 釋 注 15 山 TH 伏 ili 中 11 JHi 能 洪

此 成 時 放以 叉 行 令と饗以 II. ŀ 加 或 之緣也祖餞兩字 誓 談 之人一也此 注 加加 一守護神一下 物 不公留二宮 云 云 セ 1 遊子 我常好 1) ナ = 其 1) ر ر 游 Ŀ テ ٥, 事見 擁一護其身 中 月 子 黄 三旅 一分道祖 帝 枢 八月 行 = 集注文選祖序之所 共 四 7 之遊 派遊之路 + ヲミ = ij 加 人 カ = | 響成 | 道利 テ 2 1 1 岩 2 也旅之人ニ 最 人 t 如 ケテ介い前 死 末子 ゔ゙ 7 我 テ 승: 去云々 有 ill ラ カ 神一人之護 旅 好 20 から門 也餞送之起 ラ 一付旅 þ 行之者 其 旅 -J-ズ 欲 íř 後 カ ジ死 之遊 酒

1/2

道

IJ

旅 必

机 ラ

## 題 知

ヲ ダ

ス ツ

テ タ

ヌ t

キ

3/ シ

テ キ

7

=

ヲ

IJ

カ

ク

力

3

ナ

ッ

キ

シ

ク

7

×

フ

V

ŀ

云

也

葉

コ

サ

総

テ

モ

ク ズ

夏野

=

7

カ

ξ 萬

シ

ク 歌

サ 云

モ

3 1

チ

ス ŀ

IJ

ケ

IJ

イ t

毛 ヲ 讀 知

シ Æ ケ モ ナ ナ 2 2 シ フ タ = 緯\* ラ テ u モ ダ シ サ ヌ ン V キ ダ カ 7 X ヲ ŋ ス 12 7 絹 ラ = 布 ŀ 2 3 メ ダ シ E ラ テ 力 オ ヌ 7 ヲ ナ キ 7 v 3 ナ ヲ シ 子 萬 葉 = 力 æ 3 = 歌 莚 子 チ

ユ = フ 3 緒 ユ サ 丰 フ n  $\Rightarrow$ ラ H Æ 3/ 藺 テ サ 2 シ = 3 チ シ 7 フ ナ 力 丰 7 Þ

7

1%

テ

=

3/

ヲ

ヌ

丰

=

ゥ

テ

7

2

1)

7

七 フ

ヲ

ŀ

7

サ

12

ナ

1]

此 此 示 本 叉 歌 ツ -3 ` 萬 新 = + カ Ш 歟 IJ 葉 院 13 文 テ 御 力 云 萬 ス 本 7 葉歌 ナ 1 = = Ш ŀ ٤ 3 ٠, キ ス 1 云 テ カ カ ユ 1 ケ 丰 3 キ ユ -1) 7 ン フ ユ ス (1) ılı サ フ カ 然 丰 ŀ w 者 歟 ラ 7 ılı ス シ 衣 タ 1) 普 テ カ 力 1 此 +} 丰 É 通 7 雲 本 歌 1 2 ili 相 th シ 彻 1% 1 ユ モ 葛 如 鯫 カ 7 牛

> = 4 好 ッ フ 7 丰 也 V ラ IJ w カ 3/ フ シ 1 丰 野 ラ ラ ッ ŀ ヤ僻マ事 ナ ユ キ ツ ラ 丰 2 ጉ 也良宗案 10 アリコ 1 フ ク ラ ٠, ~ 繼 ナ 貞 力 説きが 4 ラ テ フ ワ ズ (頭書)清 V カ ŀ 云 也 ミ本輔 ョーか ッ ス シタ本 10 カ 丰 丰 7 テ カ ヲ アキ 1% 3/ ルト ナ

葉 心 iv カ モ 也 1 ユ = キ チ 秋 ラ チ -穂ヲシ 繼 カ 7 7 ク ツ カ テ ン 毛 t 3 ケ 111 1 7 = 7 ヌ 2 シ ヲ ラ 麻 7 シ ŀ 花 ナミ 7 有 押 ŀ 然者 シ ヲ ٤ オ ク キ ヲ 7 IJ ツ ) 3 ツ 7 ユート ナ t 工 シ ナ Ł' = 7 手 1 毛 カ = 讀 ダ ス 觸 ŀ 牛 1) 1 7 萬 丰 ッ 云

久 河 1 せ ガ 力 半 1 ゥ t ツ 然 N H ゾ ス せ ヌ ス ケ 而 殊 1 タ 詞 ギ Z 3 + 也 ラ 12 3 瀨 タ w 力 义 3/ ギ 11 ズ j. 12 1 3/ 1) ツ イ 云 E ر ر テ テ 也 且 フ 牛 只 7 シ 又 1 ^ 瀧 消 ダ ツ 3 毛 ヌ 丰 V w ツ ヲ ガ ヌ ウ ラ 4 ŀ ス 11 1 = ヲ 5 ^ シ  $\exists$ 17 辛 丰 -1 1 3 イ 讀 7 心 ツ ツ 1 瀧 云 フ 7 ナ 1-也 サ 1 H1, F ŀ 毛 力 云 イ ス = ラ 云 IJ ガ フ 丰 ケ ズ 也 凡 I) ツ ツ ヌ

頭

戀 ス ナ 部 丰 ス + 77 小 v 2 HI 歌 15 ŀ 70 云 イ 丰 ヲ 7° 1 2 U ス カ ノト ナ ス 1% + n 7 ナ " 70 = Ŀ ナ ナ ス 7 V ツ 7 ` テ 是 -E 次 1% ~

w 又 7 H ナ ガ ツ 1. 集 セ カ 3 -X ヤ 1) -7 1 オ カ ٧٠ チ -E ス 1 ŀ 1% +" 1% + ッ + ナ・ チ ツ 11 ツ 111 7 水 1 17 7 カ + セ ۷ ١ チ 丰 1% ナ \* カゴ カ " 子 iv " P

 $\exists$ イ カ 7 +}-\_\_ w Æ ラ 3 チ ナ カ w オ 7 P 7 7 ユ 丰 ケ ノ = 3

ラ × ユ 3/ 7 + h " ~ 15 ス 3 又 X 1 111 萬 1] サ ヅ 111 集 F 4 ---٥, 雪 消 卫 消 7 工 雲 丰 ツ 1 水 b ケ 2 1 r 111 雪 蓝 フ 3 消 葉 チ 1 雪 1 歌 ナ スと 家 云 #1 ツ ユ 11 キ Æ 丰 4 3 ス 1V ン カ 汉 フ ナコ ヌ

フ ラ w サ 2 r ズ 120 雲 3 シ 机 ユ 丰 1 3 t 7 Æ ン ラ チ Fi カ 15 V Ł 1 Ł Æ

3

ユ

丰 如 サ フ 11 ナ 1 1 ラ 此 ラ 7 ヌ 讀 iv ۲ 也 12 サ ٧, フ X ŀ 7t w 丰 = 3/ サ ナ = 3 **ի** ١° X ケ IJ 12 3 7 3 2 ٧, ス 吉 3 カ カ J' 野 シ 飛頭 心島ト 部組 1 7 モ明 兼 3 書目 盛 1) 77 丰 歌 3 或 フ ) 3 iv 1) ノヽ ラ サ iv 7 1 チ

r

ラ

所

七

1)

雪 12 3 テ カ E: 歔 点 サ F ス 野 H 1 良 本 サ Ill \_1 紀 Z · F-义 ク 1% 3 -77 7 太 1) ナ 7 1) 1 ili ヺ 1 1 7 イ カ +} ->-7 3 111 ラ 丰 12 -70 フ ナ 11 -E テ 12 1) 137 此 111 3 サ -> 7 70 1L 10 此 ナデ 也 -7 工 丰 1. JL. -5-才 13 愈 3 X 1) æ 7: 1% 1) 12 7) -7 1 -7 1] 1 -2 ノト 深

無 都 チ 1 吉 77 1-調問 平 野 ケ 果 心 1 書 御 得 Ill Z 思 1 ツ -云 占 丰 沂 2 1) 18 15 P 卆 是吉野 サ W =3 ----- 3 13 良 フ 3 12 都 放宮ヲ 12 メ 급 1 1] 17 Ti. 歌合 此 野 1 不 TF. 7 21 ili 知 1 12 1 -1 歌 ---サ Z テ 被 1 遠 先 7 (宮 3 -1-R 扎 7° V ~~~ -J-

則 则

ウ \_ 彩 加 ナ ラ ス ス 元 1) チ P -}) 儀 7 1-力 歌能 松 ク 111 次 枕因 th 3 フ ナ T' 12 1) けった Æ 7 110 ス坤 ル機 )V 1.7 Zo 物小 雪 7 ス ナ諸 τ) 1 11 リ國 T ガ 云 3/ 5 Æ = -70 1% ŀ ナ 毛 13 th b 座 }-1 1. 1 花 1 ス 松 ·E 抄 R 狀 ---1 \_j 2. 71 7 能 之第 松 1 " 末 因 7 .7 松、 カ 17 11--7

4 ž

ナ

テ

ン ŀ Æ = ス 2 サ 力 ス ノアマキ w 雪

= ) 歌 7 w 人 3 ク 力 キ 1 Æ Ի ノ人 九

歌也

IJ ノケヌヘク ) 力 ユ メノコト ギル ホ 丰 ウ ス ソヘテ 霧合 カ チ ゥ ナ ユ フ ヌ キ ٢ 7 ŋ ユ キミヲ 丰 キ ッ キ カ モ ŀ 11 リアフアサカスミ」トモョ ハルサリクレハシ 1 Æ ホ 空ノキ ム」又云「打霧 」是歌等ノ詞皆同心也又「アキ フ 工 アヒミテ ラ ア ヌ リテ カ = +" 2, 天で雪 ウ リト 7 3 カス フ ユ Ŀ ナ ス キ w カニ ナク サ ナ ij in 间 フ 1% IJ カ 天雲霧 メ IJ 萬 No モ ス w ーリカ 也 ツ 二 カ

> 弘安四 弘安五年二 年十 月六 禪定

月 出 日

書 校丁

侍從雅有

本云 文治元年 十月十五 日注進之 重賜差聲

顯

昭

古

今

集

註

卷

六

+

ク

Æ

=

u

ナ

ŋ

# 顯昭古今集註卷第七

## 賀歌

# 題不知

丰

۱۷

3/

~~

リワ

テカ

=7

ケミ

ムチ

スヨ

7 =

テマ

セサ・レイシノイ

不

\_、

ホ 知

ŀ

ナ

此: 後 序 キ w ١. } : 歌 ス 云 11 = -) = 相 ヲ カ ス 10 = 7 イ 思テ ガ ケ Ri 3 イ 12 ハ 1% 1 1 ~ ク 書 丰 サ オ イ チ 3 ホ 相 丰 1 Ŀ 砂 10  $\exists$ ナ ナ E ---2 ホ  $\exists$ V P 1) 12 ス ]-ケ 為 イ 古 ŀ ナ 1 1 チ ~ 嚴之頭 歌 ラ 2 デ 7 3 ハ 八 イ ŀ 2, \_ 21 ス ŀ 如 3 シ v ر ر 洋 デ 此 人 イ ر ر カ 示 K ŀ 言語 4 1-2, 12 游 1) 111 ナ ^ 也 3 此 1) + 1 耳 =7 w 歌 21 ケ ŀ  $\exists$ 1 3 カ ŀ 1-1 カ ツ TI /: 子 ク ナ ナ 15 コ イ ラ 1) 12 Ł" 子 テ

7

ウ

-

1

V

+

 $\exists$ 

ヲ

カ

ン

ッ

7

君

カ

1

1

チ

T B

リッ

カ

+}

ヤヲサニノ

オカ

キュ

ックカ

7 7

E

1)

是

八 ワ

百力

ユピ

2

1

7

サル

コ モ

Æ

=

ア薬

æ

~

マスミ

ゴセハ

ズ

オ

ホ

カ

1

\_

3

コメ

1)

萬

哥於

チ 3/ フ 13 サ 3 ホ 事 ŀ 然 = シ 1 111 3 者 1. デ ソ t 3 7 1 シ 1 ナ ~ 1) 1) 7 示; イ ク サ カ サ 次 ン 3 ズ ラ ili ツ ٥, テ ŀ 子 7 能 1." Æ ٧, 因 12 7 7 イ 1 所 1" -75 ソ 12 宁 戲 加 ---カ ٥, ナクエストス ナ 教 元 -,= 1. 虚 能 1 卯川 -va ----7 デ 鳥鹽也 サ Z ٥, 此 甲 告 II. ٠, 哥允 湛 21 カュ 1 國 r ---= 3 チョラッ同 7 ナ ----111 H テ 44 ク ヲ上 1 1 æ +

也 云 又 大 詞 ナ = F 7 ズ 1. 17 丰 孫 納 歌 蓝 1 w ジ V 公任 ۲ 姬 ---7  $\exists$ ノジ 歌 丰 31 集 式 ]. 1 12 チ ŀ  $\Rightarrow$ 卿 \_\_ 和1 新 此 去 ナ ン 1. 714 摧 水 水 歌 ١٠ カ ត្តីតៀ Æ 3 Ä 1. 是 八 カ 7. = ヲ 八 フェ ケ イ 病等 也 病 1 7 图器 同 + 7 18 2 illi 丰 1 1 w 云 긔; -17-ナ ス = 教 雖 第 哥於 汉 フ 1. V T \_\_ 長卿 多其 斗 力 1 1 iv ラ 1 -= ス 17 1 +> ラ ナ 111 3 1 匹 1 ザ 心 iv 1] 1 X 15 中尤可。避者 病八 ŢIJ. X 古 歌 ~ 17 3 in E IJ 用 チ キ ナ ١٠ ツ シ 揃 篇之內 [11] 215 1] 414 サ カ =1 7 1 1 11: Mi - ,,, 70 ク T æ V 辞 カ 7 ナ ~~ 心 1. 此 [1] 1% 14 ·y ス .Ili ラ 7 -E ·E 길; [11] :11: 3/ 70 礼 公 12 3 7 イ ル 排 ナ 12 JU テ 1E -1 ラ 排 [1] 水 [ii] 1-1 你 =3 病 1 1) 卯月 -10 1 1% 始 代 1 ŀ ナ 此 1 7 ヲ IJ t ラ 同 7 1 ヌ N'A 病 IJ ^ ナ シ 同 N フ Æ = = 4 ス ۴ 七病 撰 1) 筝 w ١ チ ナ 7 113 同 , ٢ 注 = 平 此 1 中 ١. 如 iv 1 Æ カ 也 1 п レ之八 机 病 也 サ 1 ラ ŀ 7 w 工 イ バ 何 174 ŋ 1 110 w 2 ズ ヲ ヌ 7 ŋ フ 3 但 事 病 ~" 캢 IJ 心 事 心 詞 1 ゥ + = 病 光 近 叉 詞 = カ ŀ ハ フ 北 ス 1 ハ 仁 來 ハ 、ナ 7 文 次 鴈 辞 ٨ 同 ~ 面 カ フ ラ · 御 À 後 字 ラ \_ ŀ 同 事 シ K ダ ヌ 代 ギ 委注 此 = 7 也 ŋ ケ 病 也 ŀ ŀ ŀ 1 7 サ等 濱 孫 同心 公 シ 叉 ŀ 7 ~ ス V 才 = IJ 成 姬 申 テ 任 同 ゲ 1 云 フ 1) V H = 卿 也 難 1 也 卿 義 事 心 叉 1. ス = 7 撰 P 詞 、喜撰 云 叉 達 里 中 抄 其 Æ 21 W t w 之之四 7 同 教 等 詞 諸 物 詞 ナ ナ = 18 ガ • ŀ 詞 也 長 詞 心 テ [7] ŋ Æ 3 同 iv 病 = イ 然者 力 病 卿 オ t ケ # カ 又文字病 ハ 毛 フ 何 注 ハ ホ = V サ ٧, ホ ス ヤ リ 仁 7 ナ ١, 和 不 IJ カ E" シ 7 載 7 ケ テ 和 ,Ľ 歌 ス ヲ T IJ ス 同 = ゲ 之 御 ŀ 詞 心 p 詷 ケ = = V

+

ナ t

ス

~ 毛

ナ ŀ t ŀ t 也

ソ モ ソ

1 ナ 7 ク ラ ヂ 云 チ カ 也 = 2 ソ ケ = + 云 八 ラ ナ t 七 ŀ 2 ヂ 年 賀 也 年 ŀ = V 侍 7 ン Ŧ 1º H チ 毛 イ ク 人 ŀ 7 ŀ + 歌 年 ナ 歌 フ 3 t = 7 1 7 ガ ス ヲ ヲ ワ テ ŀ カ A ス IJ ナ = 賀 = 2 = ÷E 可以 ラ w 敎 ン 1 ガ 1. 7 シ 也 1 給 ラ 新 十十 長 ^ ダ 年 ŀ 通 ラ チ 光孝天皇仁祖(頭書)良宗 Æ Æ 7 云 院 4 テ 7 宗 八 ヲ 卿 12 シ ハ = w 业 御 許 3 丰 萬 3 カ V 云 ヲ 時 ハ • 此 本 ナ 八 證 是 和 3 ヲ 也 ス ユ 11 丰 歌 = 千 ` カ V ŀ 本 IJ 丰 1 (頭 t 和案 ハ 御 イフ = ٧, 次 八 元遍年昭 御 年 顯 4 t リ = テ ソ 書 歌 テ 丰 + 門 チ = 昭 ŀ F ン 一乙巳十月ナーニ七十ノ賀 = ر ر 3 P = 僻ソ 仁 才 1 3 カ 1 ~ t メ 1 1 モ Z 如 事チチ カ ク 和 ス 新 賀 イ モ = = チ w オ 此 院 フ t 7 シ ٤ ラ ナ ホ フ 3 御 叉 テ ソ フ 丿 ケ 萬 毛 ッ 2 ŀ w 2 リ賜 祝 時 我 御 前 ヂ 7 Y ~ = 3 • ハ 7 IV 第コ 僧 年 祝 人 案 r 歌 ŀ シ ŀ リ 本 シ 18 ン 八卜 詞 M 有 Æ 正 ヲ

逼

ソ

ヤニ チリヨ記 7 云々○通宗が 能が ナ本 1) )

仁 = 御 和 ヲ 3 1 ١, p カ ン デ 3 7 = 賀 = オ = 3/ ノヽ シ п ガ ~ 子 3/ 7 3 杖 w 時

題 昭 古 今 集 註 卷 七 t オ カ

ソ Æ 3

チ

或 テ +

人 = 1

云

八

萬

年

也

t

۱د

八

也

ン

~

+

也

チ

7

Ł ノ

1 Ł

to

2 t

7

カ

ンチ

チ

=

ŀ

り

ン

~

テ

ŀ

1

X

7

丰

テ

無

カ Æ

ナ

カ 昭

卡

3

P フ 3 ツ w ケ ク 郁 V to 1] 牛切 ケ 7] IV ケ ヲ 2 3 ツ テ 7 御 נל ヲ ラ 11 \_ = チ カ } 1 通 1) -1-テ サ =3 カ E

= チ

101

丰 B 年 サ 1 ナ 111 智 ン ズ 3 工 7 7 ヲ カ IJ p ン 7 = 長 ヌ -サ カ ソ 110 ク ŀ #1 チ 卿 ~ +}-テ 清 比 カ 石 ス ++ カ ١٠ 1 云 5 1 7 12 サ 7 神 カ カ イ 輔 7 ナ Æ 1 7 朝 -3 ン カ 六、 1 ホ t 1] 是 11 2, ~ -7 b 1) ホ 旨 サ 牛 2 汉 111 テ ウ 1) 12 ١, ١ ر ス カ 1] K 法 事 + v 1% ス 3 1 ny 1 ケ V 18 文 7 物 7 18 7 2 丰 カ = ٢ = ス T-18 1 云 市中 ズ æ 3 テ = 7 +" 1) 年 SE 1 广 1 ^ 3/ p ŀ ガ \_\_\_ 佛 X ` > iv 抬 デ オ チ 7 ゾ iv = 3 1 A 工 汉 ボ 7 才 3/ 1 3/ 7 工 3/ IJ 1 サ 集 ク 1 T キ 术 モ 2, ザ 丰 -7-村 ッ゛ 云 ユ = 丰 3 サ 上前 ナ 1 w フ ナ 工 = カ 1 ノト ク 又 17 8: 物 E ガ 工 X 水 E 物 カ イ ス 1) 1 1 7 ズ ナ t Z 乳 サ ズ フ 5 1 キ Ā V 1 IV ス ~ ヲ フ E カ カ \_ 11 3/ 13 d'a

ソ = Æ

徬

A 13

+

文 ズ

2 1 1

~3 1

3 フ ++

昭 ---丰

云

チ

カ メ

1

イ -+

"

丰 3 ナ

テ 2 V カ

此

義

1

E

++

æ

1

丰 1

= 4 1

ユ

又 ++

 $\exists$ 

U

3 フ = w

テ

ケ

=3

X

1 1

力 12

心 カ

テ 1

サ

カ フ

1 =

3

w

7

+

=

叉

イ

1

1

ヲ

カ

八さト F. 此 ソ 1 7 カ F Z フ フュ 3 70 せ -6 百 イ 五カ ラ =/ 自 莊 十さを Ili 1 7 1 12 V = =1 音通カ ン 台頭 石分为 美 サ -2 ズ p 石 73 E ス Ŀ サ <u>-7</u>. サ ホ 家 文 上書 1] ク ク サ ク 1 為 副 ~ 7 7 1. 1 カ 1 カ 7 也小 17-いはル 出 カ 7 1 大 2 1 カ テ カ V Ł Ш ヲ 1 7 ラ 歌 7 方 ヺ 丰 心/ -> 給 13 \_ 21 3 \_7 = カ ヲ 地乳上 1 3 Ŧî. 1% ズ ン 11 3/ 3 1 工 モ 工 キ == 觀百 紹 音 汉 才 給 ク w 1 テ 2 ŀ 1 =3 =3 3 - : ス Ł 抬 7 ヲ 二十三 3 Z 12 水 V 1 1 3 iv 見斛事 川 IV 乳 ナ H.F ナ 70 フ 扙 イ L カ 1 1 3 本 ナ P -75 丰 É 房 集 5 1) 2 7 ヺ ~~ り食 E 行 F. SHE 5 チ 义 か 1 7 伙 -3 イ 7 ツ 7 ラ 歌 33 チ ---北 報 1 H 1. ッ 1% ク オ F 12 V 老 1) 或 岩 2 18 10 77 ŀ 12 + 例 宁 -6 12 1 才 此 サ F -17 為 配 I. Ł IJ 1. 财 H ス イ ١١ =6 サ カ 振 74 1 ウゴ 1% .1 ナノ E 7 サ ---1 1 13 フ 1 ·F. 111 行 我 注 1% 17 7 73 12 J. -71 b ŀ I. -17 但 サ 1 ŀ ナ 丰 215 丰 13 1. 111 " 1 E 21 K フコ JL +)-2 給 1 13 J. 1% 71 13 イ -10 Ŀ V 丰 7 Hi 條 ナ 1-12 5 12 政 12 自 ノ、 70 ナ 18 才 5 ÷ 2. 13 ナ 7 12 w -70 石 12 -F-2 ·j. 11 1 V 加 3 ナ 70 1 18 Ti -E 也 今 ---V

7 カ貞嘉ト ŀ カ チ IJ カ ٤ ク E V ヲ 1 ラ 7 1 3 2 1 3 フ ナ n 消

ツ作力 教長 云 云 子 フ \* ス 釋 1 ナ カゴ ス E 工 ラ テ 机 ク 7 -1)-4 7= 11 17 J. 7 = ナ 卿 ナ ラ ガ 1 ŋ 1% 3 w w 2 六 w = 萬 コデフ 2 カ 3 V ナ V Æ 子 3 73 ラ チ 굸 ヒポリ モダト 老 葉 7 = + IJ 1% ガ フ 7 ヌ ヌ テ秀ソ 萬 1. ス w ジ字モ 丰 > = 此 IJ 葉 JĽ. ヲ 萬 1 チ カ フ ス ク = IJ 歌 葉 ŀ IJ 7 ハ グ 12 カ 2 カ 7 ツ サ ス ガ 1 3 æ カ 云 シ = サ 云 ス 子 1 \*" カ カ ス ヲ 1 チ \_ 水 事 テ サ 才 ナ w 7 IJ 3 ク = ハ 小野篁歌 タ カ 梅 2, \* 子 -) 3 フ 419 サ 定マ サ ン サリ 花 1. 子 3/ 1% 子 1) = 工 バ 1. ク 霜 文字 ク ラ カ 1 ソ ŀ フ  $\exists$ V ナ 7 シ 7 チ E w E 15 15 云 シ 文 コ此オ カ = ユ IJ  $\exists$ 1 w カ  $\exists$ カ 7-モッと ツ 7 1) グ X = 7 ナ 1) カ ハ 丰 ク 17 .1 7 カ ラ 1 w 艾 イ 3/ ۲ ŋ 源 口比力 か 秋 示 力 25 ŀ フ ٤ 云 7 ク ナ 担 th 3 ŀ ガ p 7 フョ イ Æ = 詞 IV × 1) フ ス 1 17 1 丰 利 カ 1% 3/ カ テ  $\Box$ w フ ヲ ŀ

> バ雨 カナフ フリ メ紅

ル時 ダ 丰 " 3 **=** 1 ヲ 15

>

四

+

1

賀

チ カ X ) ヲ カ 丰 ノ山 ス = テ カ Ŧ 1 イ ケ w 子 ٤ ヲ 3 ŀ X × w テ ヲ ツ w ダ 紀ナラ キ 惟記才 7 シ 岡カホ

ラ

 $\pm$ 

3

1

可!思 之故 岡 證 此 也 殿 フ カ 名 抑 サ ヲ 本 并目 カ 勝 カ 食合一之料 此 1" 日 命 ヲ ヲ 不不 三目 武藏 說 注 疑二惟凞歟之 錄等皆載 錄 云 及1沙 ユ 一之由 P 紀 ŀ ノ介 7 畢 所 テ 惟 顯 陪從範光所 龜 3 註 一惟 汰 固 昭案之此案左道所為也諸古今 7 Щ 3 此 由 岡 進一也又第 事上 ナリ ケ カ 名 一而文殿衆等不と 歟 w IJ 不ン聞 後代自:此說出來之時 貫 何 ケ 」申也云々依」之書,改 シート 名 無 左右 w 八卷 ŀ 紀 = 惟介カッメ イ 丰 詞 = 一可以削二乗惟 ŋ ヲ 丿 机 知:此人 藤原 同 7 ク 於二院 名 Ш ŋ 歟 ŀ = 7

顯 昭 古 今 集 註 卷 七 云

ホ

IJ

カ

>

オ

ホ

イ

7

ウ

チ

\*

3

۱۷

昭

宣

公ナ

IJ

書頭

# 顯 昭 集 註

## 别 淵 部

題 不 纽

> Æ 原 行 25

1

ŀ Ŀ

利

7

B ٥٠,٥ 3 イ チ w ナ 松 7 1 ~ 7 ウコ ソ 13 カ 1 ~ 2 云域 ılı ス ŋ イ 待 ナ 1) = ゴブ ٠ د 能 = ワ V ۱ر シバ ソ カ 因 1 フ Ш V 坤 テ 1 w 元 ナ 3 ユ 儀 1] キ 子 云 イカ ナ 田 = 邮 オ アミスパー 13 }-國 フ ノ因 中幡云 w -ム風 前 7 ~~ 下二 云ア也 1) ッ ナル峯 其 月山 二 7 3 タナ オ 丰 イ ゴン ノバフ ナ カ

サ

7,0

ŀ

詞 汉 7 テ 7 7 = ŋ 北 3 = 1 カ 或 = シ ٥, 浦丹 越 下後 ツ ~ 7 シ ^ 3 扣 w 1 ~ ナ 伙 15 > ナ カコ Ш 者 IJ イ カ 3 × 1 = 越 ケ 17 17 Æ 3/ 則 12 クダの頭 歌 1 Ā 3 越 X シ 中 = -1) 1) シ 越 3 テ田 3 品き等品 萬 後 メ U 3 葉 iv 7 テ 集 ク カ 2 ツ 五避 Nh 子 カ 心テ iv 1 1 1 Ili シ 云 イ 3/ ナ フ ケ ザ 抗 1. = w 物 前 3 カ 3

ヲ 1) ク 朝 -17-サ }-1) ヺ - 72

7

. ;

7 15 7 -1)-11 10 1 テ 150 1 7 70 1 -1}æ サ 1 \_1\_ 150 2 フ 义 1 70 ŀ Z -1}-1 11 ナ - 9 }i 12 -6 7 ク 1 略 -7 =/ 70 -5 : 1 -1)ŀ 1

1) 7 女 11 ŀ ソ 1 12 Æ 跃 17 =3 1] キ X テ IJ 2, 1 云 æ カ 也 A 3 7 义 1 3 -+}-4 丰 1) ヲ 17 150 -}j° =3 ]-\_\_\_ ナ ~ 1. 2, 7 ŀ æ 31 ソ 1-X 1 1 -75 IJ 5 カコ 2. 1 - 9 7) F ŀ 1 公 丰 +

10 詷 IJ 云 <u>-1</u> テ 2. 工 曉 子 V ---サ ]-" 此 イ ズ デ ガ 哥次 1% 7 1 " ッ 福 ナ }-7 テ ^ V ~ -7 15 フコ 7) ナコ 1) 1) 7 3 7 - 7 ウ 12 11. 17 \_ T. 人 5 4 iv 家 15 > 女 -}----7 1]

pri キ 3 1 7 云 w 3 ッ 7 テ カ 3 チ 1) J' 1 E 7 ガ V 1] ラ ウ 3 七 ヺ゙ 1) 3 1 1) X チ テ ケ ٥, カルマ ~ iv 150 ウ ~ ナコ -}1 ガ ス 1) 1] + 7

> フコ ッ

IJ グ

3

ŀ

1

" -7

-}1 37 也

E

ナ

.7 1) 2.

IV

亚

領

7

120

ケ カ 府 ラ テ 1% Ü 737 E ッ 5 3 ス テ w " 12 别 7 ツ カ -+-٤ イ 使 メ 1 デ ---, 7 教 カ 7 3 ラ ナコ 10 2 4) 卿 w 12 12 ヲ K 411 1 唐 フ 人 ナ 1 1] 近 カ 10 1%

7

サ

ナ

ク 3 E

-

3 "

+

0

3 5

ŀ w

3

次

7

子

٥,

才

Æ

٤

13

チ

又

テ ス

カ

3 カ

チ

7

1)

ケ

iv

1

丰

藤

原

公

\_\_

3

サ

5 5 110

12 -E ~ 1

ウ

7

17

1º ナゴ

-E

\_

ツ

太

能ラ

ナ籠

1) > 利

女

t A ~ ザ K キ 7 カ 3 1) 1) テ 力 カ 3 ナ ŋ Ľ, ガ 1 テ E IJ = シ 7 テ デ ヲ 77 ク -}) IJ

Ի 7 IJ ヲ シ 3 = チ ナ ケ ラ v 21 ナ 7 3 ヌ = オ W 示 カ ス ٠, 3 源 + 点 ウシ 實錄 Ի 1

Ł

ع テ と ŀ 3 + t IJ カ ŀ IJ ナ بع Ի ) t iv Ի イ フ = 1 ナ ŋ Λ t ŋ ナ

ラ )V ス Ի X ス ヲ チ シ 力 フ Ł 也 ナ (頭 チ 1. パイキウシトテ留ナ カ 3 Ł 2 = E 7 = ラ 心 ズ ۷, ワ T = トヨ ナシ我 カゴ ナ ラ = 1) ズ ` 心 n テ 3 人 IJ ) オ ス

調 カ ス w カ Ł ^ ŋ 花 ナ Ш 2, ŀ 3/ 7 ゥ ケ デ w Դ 7 ラ 丰 ユ = フ 3 サ 3 IJ ッ

僧 IF. 漏 昭

IJ

ケ

夕暮 ŀ リト n -7 カ ク 丰 ٠, 7 7 1. 11 I ヌ カ ナ 3 w = 工 シ Ի P

彼僧正 花 ŀ 三元慶寺座主 山 アリ又春花山 子 Ш ) Æ ` 堂房ナ 階 イ ナ Ի = Æ 7 - 故號 F 二寛平幸シ給 ŋ カ 詠 東 7 リ教長卿 ili ズ = シ N ク 山僧 處 花 7 担 ヌ 正云 Ш ኑ 注 チ 丰 シ 七 1 遍 ŋ K ハ ハ 元慶 昭 叉 シ シ 歌 目 ŀ ŋ 寺 錄 ナ ヺ IJ カ 云 花 于 ナ Z 7 山 誀 1)

> 態書 鄉皆預」席夜談至」曉二年午春三月賜一封戶一 **巳冬十月饗三遍昭** 法眼和尚位 史」初清和天皇貞觀十一年二 ヲ 一元慶寺、又曰貞觀十有一年春二月沙門遍昭 ||權僧正||台徒 至.陽成天皇元慶元年丁酉十二月, 韶 7 テ ガ 今夜之宿 キノ山 台徒綱位之始元慶三年己亥冬十月 僧正復昭爲始小松帝仁和元年乙 ŀ 于仁壽殿 3 せ 工 サ 3 せ カ 4 質 シ 建二伽藍 ŀ ソ ..七十算. 也 3 V = IJ 其後經  $\Rightarrow$ 良宗案 配 1 題位公 =紀 3 聽= セ 賜 國 テ

董車

彼寺 歟 遍 Ш バ V 條 **兴或畫圖** 院 昭 = ŀ 一云々 ノ院,又號,東宮,而依、為,, 彼院之御所 |有||御出家||之故也近衞東洞院 = 工 ハ 寬平 ナ 工 法皇臨 7 ヌ 2, カ Ի ナ 年 書ル 幸 ŀ 入滅然者件臨幸 山 本 3 7 如 エ アリ 何法金剛院ノ歌 3 カ シ 又號: 花山 ŀ 八行幸歟 子 ヲバ本ハ カ フ 7 心 院 ガ 岩 也 丰 名:東 號 以 サ ハ 於三 t

雲林院ノ ŋ iv ケ w = = コノ +) ク 含利 ラ 1 花 會 ノ = Ш Æ ŀ \_ ) = 3 ボ リテ IJ テ

> ħ 3

漏 昭

顯 昭 古 今 集 註 卷

八

ŋ

1

カ

ŀ

ヤ 1% ~ チ 力 1. せ 7 --iv サ ク 7 ラ フ 丰 V 牛 3 ス V ナ 2 ナ 1 ~ 丰 V

調 **達廣告** w 親 丰 1/1 ヲ 云 下《刺世案 仁 国信 王 御 \_7 11 キ 高学 ス 7 Land Lal 和 フ ノ、 V 丰 位 3 フ 丰 丰 市 國 3 3 丰 \_> \ -7 1. 十字葛弥郡 教 = ツ 才 カ ---ク 21 教 त्ता 丰 1. 丰 1. 中上が五人である。 1. 鄉 1 ス シ 7 長 云 紅 卿 ~ Ji 云 7 大 東 3 \_ IV 旌 ٥, X ラキノシモラ 和1 デ テ オ ナ 風 フ 1 國 親 7 1) 朱 丰 力 ٧ ١ 忍海 有 **冰紅** H バ 7 テラノウラ 下 抗E 留 3 1) ナデ ----72 二風 給 郡 如卷盖  $\Box$ ラ 3/ Ł 治疗派?二 上かア 才 ケ ケ ナ }-傍龍 1." 3 w iv 1 云 二揚重字 胩 也 7 3/ " 7 1 1. V =3 } 其毛 X 由 7 ス 上、平洋リ 也誤 時 12 12 也 w ズ 411 風 フ IL

テ カ 丰 丰 カ E 丰 3 ク ツ夏題 ク 7 シネ不 1 1% ŀ 细 3/ 7  $\exists$ 1 メ ŀ フ 1 ٧٠ 教 人 フ ヲ ラ 卿 ナ 13 ナリ 2, I 丰 イ ۱۰ 7 1% w " 7 サ シ フ メ 3 イ V フ 人 ŀ X シ 1 3 V メ 丰 ラ ~ w ヌ ズ ナ IJ 丰 仝 IJ 70

7

E 云

3 æ イ

x

12

助 カ 1

=

1 ク

ŀ ス

オ

ナ 7

3 IJ

ク

1 \_\_

云

113 せ イ

世 テ

= -

1

7

丰

ッ

۷ ١

7

ナ

丰

3

牛

ク

ナ ラ 又 F X ソ ナ 1% 37 7 ナ -7 12 V 2. V ラ 牛 3/ \* 1) }-又 力 カ 13 ナ 相 ナ ナ ヤ |ŀ 又 V -1 7 4 1 1) チ 1) 7 1-18 = 3 才 案 ヌ テ ン イ 才 Æ ·E æ 輔 ナ 才 力; 7 V 1 iv + 70 又 10 1. 丰 术 テ V 13 ス 1 3 11: 工 2. + 丰 丰 ン 12 7 7 111 Zi ナ V 3 -1-7 21 -1 1 又 1) 1) 7 丰 7 w 1 -E V 10 V 此 +" 1. 10 = X -75 144 ŀ 7" 2. Z 1-人 = 3 3 3 1.2 1-卡 光 5 1" 1 ン イ ŀ 3 -10 1." 3 1 1) 5 1% テ " -11-70 7 10 70 ŀ - E-X 1 -5 1. 此 y X ٥, -> 20 -3 1 7 人 1 7 1 17 ナ 5 ·一 卿 义 3 12 : 1 1) ŀ ->-70 12 Z;

X 1 ガ 11 V 7 1 ス 3 果 × テ 1 3/ 12 イ ヌ Zi 歐 プコ 2 昭 7 = ス ヌ 力 X 2 ノヽ 卡 -E ヌ -1-か 1 1 7 7 73 Zi 7 in 5 ŀ 云 13 ラ カ キ ŀ 1 ス ٧, E × 18 Z

## 覊 旅

7 イ 7 テ シ ハ Æ A ラ U カ フ = 1) シ Æ サ = テ ケ 月 3 ヲ V 3 ハ テ カ ス 3 カ メ ナ w w 安部 3 n サ 仲 丸 t

7

トハ能

1.

子 ŀ

タル夜山フ詞也

のアケバー

7 ⅎ

=/

イカニ 叉云

デ

ア

1)

∃

ムナ

y ナ

振跳

書

7

ラ

放 1

フ =/ 굸

ŋ

7

心

ナ

唐 此 ゥ 1 IJ シ ス カ 1 1) デ 敎 歌 n 1 ッ P 7 ラ 長 朋 ナ ス ク ケ シ フ = IJ 此 卿 サ n サ ス 2 = フ 心 IJ オ ) w シ ナ 1 = ŋ IJ カ シケレ P ク H 3 ス ケ ケ シ --フ 1 4 ŋ デ カ ガ 本 テ ケ フ w w 仲 テ 1 Æ ス ヲ 丸 = 7 ド仲 シ ŀ ٤ = トモ循語ラ 此 力 IJ ケ テ 7 1 7 フ = = ヲ ス IJ 7 ケ IJ 7 7 æ 集 17 ゥ ガ サ 1 12 政 タ 3 U Ш 굸 留ム デ ヲ ウ 1 タ カ 1V 3 春 = 一也避 3 ŋ ガ ヲ IV 3 丰 ŀ シ 部 テ ナ 4 オ ナ ~ 7 シ = テ 1 IJ = 2 ス ヲ Æ 3 Æ IJ 花 ŀ 云 テ テ ٤ w × 1 ッ サ 1 文字 カ 月 テ テ ナ イ w 力 カ イ ケ 力 ナ フ デ ŀ 1 イ Ł ラ 工 ナ ク デ ヲ iv 3 イ ~ カ 儀 風 サ ス **シ**/ ブ 力 4 1 = カ V ク ナ チ ŋ IJ シ カ 11 カ オ = テ IJ w ス ダ Æ ッ

Ł

+

オ

æ

ホ

ユ

IV

カ

毛

カ

7

3

3

タ

V

2 1º

世

俗

詞

フ V タ E

IJ

ナ 7

ッ

1

カ

ラ

IJ 3

サ

ク

3

IJ

叉

萬 ラ 振

7

力

ハ

丰 ァ

ŋ

ダ

チ IJ ケヨトフテ

ワ

7.

iv

キ 7

3

٧,

丰

ヌ

3

フ

リ

7

フ

キ

テ

3

カ +

ッ

キ フ

レ

٤ ŀ

ŀ

メ ≯

3

シ

ファマ 萬 t 18 ŋ 7 ٤ 葉 シ フ ユ ス = 11 IJ ヲ ス = サ 1 7 7 ク ラ ŋ フ ン ^ IJ フ テ ダ ギ ٤ ヌ テ IJ テ ソート 3 = サ 力 **卜**古 X 中 3 ケ ケ ŋ w ス 讀リ 3 ŀ 物 7 iv ケ ハ夜路ハ = 3 花 3 x 1 ナ IJ 7 ン カ 顯 ケ シ 吉 フ ヲ ラ 昭 w ヌ ケ ケ 振 シ 考 風 フリ 1 2 = 離 テ Æ 云 = ケ 侍 又云璇頭 3 フ ガ シエ 1) X シ IJ サ テ 3 + 此 ウ

詞

ヲ

ラ

グ

3

Ш IJ カ 1 IJ 1 = ifi フ サ サ ヲ ŋ ク 1 シ 7 示 デ タ サ 7 1 1 力 7 ッ 7 ガ カ フ ク 月 iv 丰 w 12 テ ヲ ズ ヲ = カ 唐 7 1 フ 7 3 デ 思 IJ iv w 7 テ オ ナ 7 IJ カ 1 IJ ナ イ Æ フ Н 萬 ギ 本 フ E 7 IV [葉歌 テ P ŀ ヲ = = 3 ナ in オ 1 7 ウ テ 1) 毛 Æ U 15 故 ヲ タ ダ ٤ }-省 貔 10 t 7 = 3 ナ ン w w 2 ガ 3 ラ 1. 1 7 ラ、ハ 僻 ラ 力 3 1 ズ サ ッ = 工 或 \* フ タ

顯 昭 古 今 集 註 卷 九

7 ク 也 パ F カ 3 =E カ 震 同 3 ス カ 3 = 1 ズ ク +) カ 月 龜 安部 7 -3 iĽ チ 1) ナ オ 12 フ ス 7 ١ = -郡 ナ 10 ガ ナ E 2 ダ ١٠ æ t 年 開 朝 1) テ 馬 か フ ナ カゴ 12 2 1 ~ 案唐 臣 八 安 此 本 工 1 ŀ ~3 \_ ~ 3 2 iv ヌ = Ξ 公 仲 月 部 明 體 ク ケ カ र्रात = 工 ~ ツ 書 他 11 仲 祭 州 ナ ナ X ケ ス キ v 1 田田 大 東 麿 1 キ IJ ナ 1] V 7 1 イ 1 ン バ ١, 夷 唐 H 者 是 テ Ш 2 ۴ カ 1 オ 2 サ ナ ラ ٢ F 傳 Z ヌ 光 11 ケ ŀ -7 ン 1% 丰 ッ ホ ٧, V 2 ヲ 禄 71 務 京 戶 ) ラ ケ 3 1 カ ス 11 ^ V ٠, 百 贈三路州大都督朝 大 寫 大 ス テ 1 1 ハ Ł \_ \_\_ =  $\Box$ = ス 萬葉 輔 夜 夫散騎常侍兼 四十五云聖武立改 ナ 丰 餞 テ t 1 1 E カ E |遺唐留學問 船 ナ ソ ŀ ケ 拾 × II: 2 77 24 カ 1 1] Z  $\mathcal{T}_{i}$ ケ 4 カ ク ス 1 1] フ = ` 後 位 フ 又 7 カ · 7 カ w V ケ 文 E 13 ナ ラ 抬 汉 触 ス 12 又 空 1] 1 1] =>/ 子 ツ カ 12 ズ = 生 御 **÷** 事 ラ 7 ク ナ カ = 衡 中 從 デ フ ナ 1 イ 3/ iv 7 1 2 水 ハ 部 中 八 3 元 w フ カ 部k V ~

門

助

致趙

立默

郎

一鴻臚寺

為請

師從

獻

大

幅布

為

=白龜

開

元

初

栗

Ĥ

復朝

儒

授レ經部

贄 四

也昔 乃還 悉賞 有 梗 姓 以誅天曆九 天慶三年 賜二姓韓一名 元亨釋書第 一歲 神宮 海道 領復 r a H 恐當、從 我是坂本之翁也 空宝武 栖 止觀一又上一 叡山 謁二 生此國 **、更臭氣** 賊將 1 生此方 名 物 更繇 人 原寺勢赤夢嚴 货 正月 111 朝 -F E 年 降 心心與 BI Ŀ 明 孝 九月 湳 一以、選入、唐禀二儒學 寺勝雲 二藤 \_ 衡仕 朋 於二美州 一个出 ·載釋 起 元 LI W. 領 州 月十三 1 1 立 飯 純 圳 二十 以 至,練官 朝 桥 朋 友 + JAA. 11: 明神十五就:天王寺蒋仙! 家 第一 真云 出 jŸ. 左 间 元 一左散騎常侍-安南 四 必為 山南神宮寺 修 一日午時 家 E 補 姓 朝 H 日 三天平勝 將門伏 初 +-々又案に國 闕 Ri 毗 到明 算意一得 滅年七十九 名真仁 告 為 Billi 儀 沙 13 仲 師 赤雲自 IC -75 E 清节 PH 不 友多 任 攝 慕 一化綠星 誅 法 明 二唐帝 資 天寶 完 修二 品 14 + 三顯密之與 业 华 朋 恐 45 任 mi 贞 一月於 東 四 不 共誤 年 外 変 元 11 平 ăß 亦還 來 天 良宗 Fi. 報 江三 4 TE 高修 7 11j 縣 H 王法 月 彩 颇 紀 來 新 1 金彼 未 伏 住 月 又 載 去

顧昭古今集註卷九

時年 古今 敏好:讀書 靈龜二年丙 時代一者定為 1十大曆 萬葉歌 自 夫 斷 十、有六 굸 、磨幷奈良帝御歌 是有 本朝寶龜元年 而 紀以 一錄云安陪 庚戌也 比 審 天 撰 一名仲麿 侍者 、皇寶 大曆 衡遊官 仲麼歌 年丙辰,入唐時年十有六歲以二大曆二八頭書)舊本云私云三字不審也良宗 、注著作者軟若又不、入、之軟彼 安陪 侍 龜 是不二覺悟一 位 王系圖云元 從 也 仲 唐 元 五年正月 也 或 年 仲磨等遣」唐大伴山守 朝 也抑 雖」貴心不」忌」 庚 御 說 賜 若慥不い考言 戌 長以り 唐 中 云 实 新 朝 銀 中 安陪朝 歟 朝 撰 正天皇靈龜 青 公 永 此 所存 氏 選為, 入唐留學問 集 光 衡売年 名 禄 也 彈 歌 此 歟 大 衡 云 TE 同 歸 人之時 載 仲 丽 夫 字 12 事 弘 毎言 麿 叉 也 云 五考年之 也 為大侠又 一年,薨则享年之之以:靈龜二 大。仲 年 歌 te + 12 仲 著 新 以 從 曆氣實 本 鄉 條 撰 歟 後 辰 朝 姓 Fr. 國 生 位 中 此 小 聰 年

ŋ 7 7 ラ クニ イ ヌ • 7 ッ ŀ カ テ サ 京 V ナ ケ N w 人 ŀ ノア許 丰 小 野 = フ 遣 朝 子 臣 4

敷能可い案と之

ワ Ħ 7 ダ 1 7 1 ツ ラ 1) ヤ 舟 ソ 3/ -カ ケ テ = 丰 ィ テ ヌ ŀ 人 = ٥, ッ ケ

歌旋 也頭 是 チ ク 島 歌 ラ ク X テ チ カ ヤ æ 島 月 作 7 1) ス 7 7 13 7 ソ iv Æ w 隱 云 IJ 丰 ク ヌ 3 w = Ħ ŀ 3/ シ 秋 云 7 岐 ラ ノト K ŀ X ŀ X = ヌ t 7 丰 日 7 叉 最 ŋ 7 國 1 ダ 1 ~ = V w ١٠ > 前 御 凡 歌 Ħ P シ フ シ ~ 歌 7 メ ጉ  $\exists$ オ 國下毛郡 屏 歌 出 論 7 ン 7 枕 ŀ ~ E グ E 1 工 ホ 月 風 義 シ ナ 3 7 IJ ヲ 20 イ ク 屯 3 萬 陸 = 7 ワ ツ ラ 33 3 ŀ 15 æ ^ ŀ = 此 P 統二夜 云 1 ス テ 1 葉 陸 與 1 IJ テ V ٠, 題可い為三九 ナ 作 詞 ウ : 風 出 IV } 云 世 3 カ 也 **今**案 ッ 歌 7 t 机 ナ ナ ス 3 33 t ラ 月 叉 此 丰 ゥ ラ ユ 力 IJ ス 國 ソ 7 〈拾遺集 中 歌讀 イ 歌 云 ハ ヌ 1 ナ イ 1,0 E\* ₹/ V = ハ ン 或 Æ ハ 力 シ ワ ダ ア ハ V Æ 示 18 月十三夜之證 シ 備 人 力 ス IJ 中 E 7 ス ラ ガ V ガ ハ 相 云 7 不 7 E ワ 後 ヲ IJ 3 ኑ V 18 7 違 7 ヲ 东 延 ダ イ 7 凡 ]1] 1 イ 力 ソ カ T セ [4] 3 相 IJ テ 水 子 7 浦 シ IJ ~ ソ 3 躬 w 11 卡 調 ヌ 心 ツ 3/ ボ Ł 7 7 IJ 7 恒 也 郡 ク =3 九 2 力 ダ テ カ = Æ 7 V ハ 7 年 歟 集 Æ 力 3 ケ 3 ダ

郡 7 11 ナ 13 古 ヤ w V ٦° 宁 ン 1 島 出 訊 第 Æ 33 7 -[[-出 } 諸 110 33 陸 法 國 陇 FIL 風 1 歌 刚 ŀ 歌 沂 -7 入 12 通 5 1-11 37 汉 V 110 ス 17 通 最 w 最 #11 1: ジ 5 H H1 如 此 出 ボ 入 77 V w

侍 有人 澤 島 VA ツ アル ア間 代 1 也 ズ T ル y A 云 月 副 = 3 ٢ 負 1) 初 年. 共 所 復 ル頭 テ ダ Ł 使 V = + 其 河 カ TI p = IE = り七 兒 ヲ 1 -+}-テ 3 ン H 五. 年 求 鳥 = 被 IJ w 11: 3 位 テ 形 間 四 Ŀ ス ~Ve 五 -1 月 人 雞 ナ 丰 テ FIT iv Н 任 頭 羅 " 許 愈 使 カ ヲ 停 名 7 郊 1 = 毛 ズ 刑 鳥 云 物 承 w サ カ チ 7 船 頭 位 也 テ 事 13 和 V 7 云 137 鳥 八 テ 風 7 元 iv ナ我頭 輔 四己 + 年 オ 女 7 1] 正鳥下 人 其 チ 1 ŨŰ 記 流 ) 强 島 都 ィ 1 ラ 云 際 年 月 頭夕 IJ 堀 IJ ŋ 律: 2 1 岐 七 + ハル 羅兒合 1 江 テ イ 1 國 A 九 力 フ シ ス 輔 H 力頭 鳥 出 東 ヌ = t 0 7-又 33 下海女 y =

衣 都 カ 1 テ 長 七 卿 t -ケ 云 フ 11 3 力 1 נל 1 ۱۷ ラ ۱۷ ラ 1 ィ ッ ツ 3 11 力 カ ٧, ٧, . カ 力 ~ to カ t 七 7 サ ١٠, 大 2 和 3/

> 挑《國 ナ 3 ツ IJ ン 河方二 ナ x 京 頭書 IJ ヲ オ ツ せ ケ V = 泉 ラ ラ IJ 31.7 1) ソ 1. ヌ カ 六 t 號 鹿カリ ク Ш 3 -7 ン 3 カ 3/ ٧, 3 Æ 清 計 背·云 ウ カ 1 ヤ ユ ユ ì t -E ス ウ > 丰 山さな 3 フ 1 力 イ 3 1 ŀ 3 ŀ ヲ 定 云 1%  $\Box$ × 10 1 1 ٥, 邇 雁 ラ 4 私 1 2. 成 カ ナ 也 1 T カ 京 沙水 ク 1 ッ サ ケ 7 1) V Z 才 云 歌 17 此 ヤク ŀ 1% 1% H 18 \_ 示 Ili 3 所 イ 文 原等タ 出 カ ウ イ ケ 111 \_\_ ŀ 名 葉 IH ケ ケ 411 7 3 フ IJ t フ 工 キ 處 ダ 此 1 7 ŀ ŀ° 也 部 ラ 1 ----73 'n イ イ ŀ 70 脳 3/ = ツ 云  $\Box$ 21 1 片 フ 也 1 1 10 1 H A. E ン イ П ケ F 2 物 7 -70 ٥, 原 集 オ " Ш 内 京 F 城 3 12 = -7 111 = 713 H 7 也 ウ 1 TI. ル 7 70 1 3 73 ナル ク キ IJ + 111, 3 云 11 IJ : × 7 Z 八 題 1% サ 丰 ラ 1 12 12 70 : 1 1 原第 7 担 iv -2 グ 3 浉 1.3 -)1 : } 义 137 义 4 33 5 1 ŀ -7 u

ク 水 船 1 叉 孫 7 シ 姬 式 1 ン 思 7 = カ 家 3/ 7 シ イ 5 テ 'n 7 ケ + フ 丰 3 1) フョ 1 = ~ 5 -7 1 73 7 y V リ -2

カ ホ 3 10 1 ウ 1 ラ ŀ 松 1 ツ ホ 1 7 1 4 12 ナ IJ ŀ 叉 y ク 狀 1 云 Z in 也 :1: -+)-7

ケ テ ケ 术\* P ŀ ナ w 꺄. ₹/ 7 ŀ = ŋ 7 V 7 1 風 ホ 7 11 工 デ ٧, ケ 案 ン 丰 ズ 云 カ 1 先達 #1 æ = 3 月 ヲ 7. テ 此 テ X 不 沙 IJ 徬 歌 + 1) ツ 審 汰 ナ 文 ホ 丰 公 3/ 3 = = カ 1 カ 侍 ケ 任 4 ` ナ ゴ ケ w 丰 卿 ラ ŀ H = = ヲ 工 紅 ◡ ヌ ハ > ラ 葉 t  $\Rightarrow$ • ⇉ 7 說 ŀ • v n -5 吹 申 = U 汉 工 U ユ オ 朋 人 ŋ ナ 7 工 ヌ U 石 7 ラ ケ 歌 7 ソ ス ŋ 浦 ŋ ナ サ ラ V t 3/ ス ナ IJ テ = ~ 島 カ 1) 才 オ

出 歌 審之故數九首皆雖 >之始入:古今集,之條甚以 三疑殆 一被家集 >之而此明石浦之詠 - 者 一乎隨 机 此 歌寫 有一此 專 疑 何 一之山 示 不審 此 歌 入..萬葉 并多部 也歌後注 公任 卿 存之世 二乎何 者此 梅 歌 殊 不

九歌

淡

路

島 十三首

ヲ

 $\exists$ 

メ

w

=

ャ

}

申

人

=6

7

IJ

+ 集

萬葉

中人

w

カ ヌ ラ

者-

三百餘首者

彼

中 抑

之由

人丸ガ歌 入人丸ガ家集ニモ 不」書シテ歌 ッ ノバ 7 カ ナ 'n X ŀ 明 友卜 カ 石 3 7 三此 不以見仍古 リ不 スル 浦 1 歌 Λ 審 云 或 Ł フ 人云 故 今 歌 ŀ 歐 1) = 萬 フ カ ハ 丰 IF. 棄 次 ク 1] 集 作 æ 老 æ

> ス ナシ ŀ サ 1 ヲ ナ 1 少毛 下歌 フ 1) イ ٤ 文字 テ フ テ 丰 1 カ ŀ 71 7 ズツ 1 丰 = 旬 カ ッ ケ U 1 ゲ y 18 = カ = タ 1 3 本頭 ヲ オ ス シ カ ラ " 書)力 リ 丰 = ケ 1 テ U 本 ク iv ス 1 カ J. 云バ テ 丰 ン タ ッ t Ľ ٠,٢ 1) **卜垣川** "

旅 = 7 1 U ŭ シ 毛 ン 丰 ヲ オ ッ 3 Æ 2 ` フ ナ ŀ テ v = 3 3 3/ ッ ケ w 7 シ 7 V 業平 ۱ر 朝 w 丰

歌 = ス = ヲ ŀ 机 ŀ 丰 ッ イ テ フ ~ =  $\mathcal{F}_{i}$ ŀ ኑ ٧, 文字 イ w æ フ カ ŀ ヲ = ハ ス 妻 丰 ク w ナ 7 人 又 ŋ iv カ ኑ 事 衣羊 シ ヲ ツ ラ ŀ 讀 , = Æ ナ #1 ス ダ V チ 工 テ = ナ 3/ 1 ŋ ッ ۱ر カ 折 丰 ヲ 句 ッ 京

w 1 詞 フ フ ユ = 云 事 ŀ 1 **4**H フ U ナ 馬 也 サ 毛 毛 = ソ 1) 內 U 國 裏 7 = サ IJ 時書 カ ŀ " 工 詞詞 E ケ 7 朝 1) イ IV 屯 餉 人 テ Ł 7 1 1 = ŀ ŀ 18 ユ カ " 歌 1 フ IJ サ ハ サ ユ 3 ケ 丰 3 IJ N フ 時 1 サ ケ 丿 カ カ カ IJ 12 = ゲ **١**,° フ 1 " V = 1 3 ス Æ 私 7 Æ デ ٢ 3 云 1) ク 1% 1 斗 伊 メ ウ ゥ フ 3 テ 勢 ス ŀ X ラ カ 物 12 ケ ŀ

叉 テ 17 IJ イ 1 V 御 タ ハ 3/ イ Æ ^ 1] ッ P Ľ" 7 テ E 飯 餉 ク ス = ~ ホ テ 歐 3 字 } V 也 1 ク 7 1 E. 35 F 15 イ -IJ ·~ 义 18  $\rightrightarrows$ フュ フ ケ 干 云 17 2 = 1] 1 郇 ナ 1 3 イ 頁 1-7 1.0 + ٢ 云 御 ヲ カ 力 人 愈 111 ク V 4 ナュ サ 馬大 12 1 17 V V 餉 1 此 ٤ イ 18 \_\_ 集 1 3 Ŀ テ 旅 ヌ ツ 春 1 行 1) ウ = 幸 饋 性 Æ 3 ^ 馬 テ 訊 ---}-----源 = モ カ E = 負 7 ケ 1 Æ オ

v ク ラ 世 ス ゔ゚ 水 w  $\exists$ 丰 3/ 1 w P 1 = V ダ イ ŀ 3 IJ キ ダ 力 ケ ナ Ŀ イ = -= 1) ケ フ 1 才 7 1 ۱۷ ダ V = 1 1] 7 3 斗 ツ 118 8 ۱ر 1 = X 7 テ ガ 7 3 17 ヌ 7 カ サ ŀ = p w 3 1] ケ 1 æ ŀ 3 3 ナ 1 = テ テ カ 1. フ カ ラ サ 1] 7 1 2 カ ~ 3  $\rightrightarrows$ = 業平 "" 7 1 ケ U 7 iv 1 7 丰 河 71 1 朝 III IJ ツ ۱۰ ---カ 臣 -1}-ケ イ イ ٧ ر ラ

せ 3 ズ = ナ 此 IJ 歌 = ヲ ケ 力 V ~ 18 ス 1. 1 Æ = 3 3 1 + ~ ツ 1 ŋ 0 テ 7 カ 17 ~ 3 ツ x 3/ 子 w J.

カ

ワリ

7 Ł ラ ŀ F 七 ン = オ Ł ۴ Æ ダ フ と 丰 ~ ス + 3 -7 テ ハ 7 ŀ カ w 人

Æ

1. ッ ラ タీメ 教 年 人 ヲ ヲ ナ カ ソ 力 7 18 25 F 7 キ オ w せ ス V = ラ 1 ŀ V V 3 1. Æ E 1 宁 3 カ ヒ Æ 7 Ł 3 Λ = ۱ر 3 ダ ダ 18 3 1 卿 パ 旬 ナ 1) バ 案 1) ス +} 1 フ = テ Æ P ヤ 1 70 N 云 テ ス ~ F. ٦ 110 返 ナ か ナ 3 1 イ  $\supset$ ボ = 1 ~" ,頭 E. グ 水 18 1 キ シ 力 カ カ フ  $\Xi$ ٧, 11 V 18 丰 歌川書 ダ ス ŀ 3 丰 而 ヲ u + iv 12 × 1 Ł ٥ در +}-教 ス Λ ŀ キ iv 1 F -モ X 7 V I  $\overset{n-1}{V}^{p}$ 川年 長 テ 年 1 IV ス 7 w æ カ 3/ 7 t カコ +} モ 1 = 7 11 君 卿 サ 1] 평 --= も 1," カ " カ ŀ 11 ٥, ۱۷ 1 3 E = 無度ナ 工 IV 才 1 イ 70 7 3 1 ラ \_\_ カ 7 10 ŀ Æ 心多 度 度 ラ ラ ニナル 義 ナ ~ イ 毛 イ カ 1 18 77 力 ス 110 Ł -ラ バ + 1 +} Ŀ 丰 ŀ イハ 7 + フ ٢ -V 2 3 2 力多 テ iv ~ ナ テ ナ ナ 木 部 ジ 丰 旬 ス ス ケ F E 3 牛 ラ 3/ 7 Ŀ° 人 = ٥, 18 1 木 1 又 1 w 3 7 中港へ 1 ナ テ 惟 ;イ ダ 3 ---イ 1V P ٢ 丰 メ 7 F4= =1 ナ 水 V コ党力 サ 12 3/ 1% 高 フ Ł 1.  $\supset$ ~vp X 1 2 衍 1) iv 10 カ ~ カ 1 12  $\exists$ 73 术 70 18 = カ ス 10 JI 77 サ ٨ = p 年: 說 ケ 牛 丰 1. 1% 3 イ 术 ス シ  $\Rightarrow$ 21 10 1) iv 5 7-V = 77 1. \_\_\_ 41 17 被 3/ = ヲ 3 -73 1: 15 フョ 7 1 ヲ ->-ナ 1 ŀ V 7 77 -----1/= ٥٠ ~ ソ 1 16 テ 7-汉 3 テ -> iv 1. IJ 汴 5 I. -E 17 **E**3

ス

4

ケ

ッ

IJ

袖

毛

丰

w

^

\*

=

Æ

=

チ

=

7

ケ

w

ヲ

1 iv 御 3 = 家 文 テ V w म ١, E 又 t 愱 ŀ 1 ス タ 萬 カ 工 ナ 葉 1 ス 集 バ ŀ ヤ タ = = 1. ソ ソ カ 心 1 ィ w 數 = 人 フ 3 7 ~ ŀ 也 ŋ ケ ィ テ V ٤ 此 テ 7 ٤ 返 7 = ハ 歌 1 ボ イ カ シ 3 3 7 ク イ

3 ス

\* 丰 71 7 7 3 ホ w ٤ = ワ ク 7 ŀ ጉ 3 3 ~ ٤ 1 タ サ IJ ケ ス = Ŀ 4 霞 シ 毛 イ ナ 丰 カ モ ダ ク 1 L\_ タ ツ キ リ ッ ٤ チ ス 3 ナ シ フ 7 ン 7 サ テ カ リ 子 カ ラ ワ ヌ カ ワ ŀ = ナ V ス カ ` カ ワ t カ ク ヌ = ノ = 7 カ ワ = 丰 7 Ł " ~ ラ ヌ 7 **シ** 牛 7 7 チ = セ 凡 サ キ 丿 = = Ł キ Ł 3 2 カ カ 7 = ٤ カ = キ フ シ • 秋 ボ ~v セ 7 ナテ キ ゥ シ セ ッ 風 = ス 3 平 1 フ ナ 7 = ス 丰 フ ッ ン フ IJ 工 子 ラシ 3 ダ 1 キ 丰 丰 ウ ٤ ナ カ = ケ æ ŀ 7 7 Æ テ = フ せ シ ŀ 3 Ŀ

7 , 神 ス ٤ ケ Ш 雀 院 ヌ = サ テ > ナ モ 3 ラ ŀ = IJ ケ = オ 7 w ~ **シ** ス ヌ 7 2 3/ ケ ケ w ャ 菅原 時 7 æ 朝 タ 3 臣 チ 2 7 =

ヂ

7 ÷E

1

メ

w

歌

ソ

1

カ

ズ

シ

ラ

ズ

(頭書)

フヒ

ケモ

トキ Ħ

~

紐

Ш 丰 1 IJ

フ ケ

詞ナ

1 7 \_

シ =

素性 法 師

> 3 ラ

神 朱 t カ サ 4

度 雀 名 15 V 院 於 書 IJ 紅 御 院 11 手向 薬 如 テ ナ 1 ١,٠ 7 院 此 錦 寬 = \_\_ Ш 書 故 ヲ 平 -詠 也 响 也 法 テ m 給 此 前 1 1 此 御 朱雀 歌 7 院號 ヲ 3 歌 心 也 申 メ • 院 IJ = 也 = 7 不可 寬平 或 謚 1 • ハ 號 雀 カ ٧, イ = 法 之後 隨 = 院 フ 7 テ 皇宮 詞 古 1 カ 幣 後 也 バ ス 瀧 亭 カ 萬 院 ŀ モ 延喜 游 IJ 葉 3 ŀ 子 也 管 避 Æ 3 IJ = 給 力 7 御 付. ハ 隨 御 時 ケ

幸

子

iv

字

後

ナ

意 事 或 見 ŀ ナ ナ 2 カ 1 = ナ ハ 歟 給 1, 1 v イ シ 7 ٤ ハ 讀 物 1 ッ = П  $\neg$ -}1 輔 也 IJ 7 ŀ = 此 11 卿 IJ メ V フ シ ヒ 手. 歌 ナ ク カ セ = Ł 袖 ク テ 丰 向 w 7 天 メ シ ナ Ш 11 ハ ` Ш 前 7 デ 1 ナ IJ ヲ = 7 テ ウ P タ イ 1 2 ケ 1 3 天 リー但 御 丰 フ ゥ メ シ 3/ 7 ÷E 同 神 キ 詠 丰 = w =  $\Rightarrow$ 此 世 ~ ヲ 7 110 ` = 古今云 歟 歌 IJ æ 15 丰 > ŀ U ナ ク 牛 1 ス ス 7 7 ツ エ ŋ カ フ 3 m ク + ッ 2 7 彼 バ ケ ^ 7 ~ 7 V ソ ハ 7 宮 歌 w to ク ス シ 7 シ ス 瀧 テ 神 3 n オ w Ł 近 其 丰 カ ŀ = Æ チ カ 7 會 記 ラ ラ 衞 ツ ٤

夢 テ 1] 丰 院僧院 1) ケ 1 \_ 7 其 カ X 度 义 テ 1] カ テ 後 ケ ス 3 ク " w 7 T 仍 素 詠 朝 御 1) 今 我 3 1 丰 3 ク ---ハ 性片 取 14: ŭ デ イ ラ 1 歟 = かモ 1- $\exists$ =3 w 住假 見 住 本 7 æ 2 in ナ 1 1-ス ŀ 18 所名 我 テ 所 4年 丰 7 IJ 云 せ 1 Æ 2 ----1 Æ 素 レ良名 素 法 歌 歌 紅 3 n Z -72 TJ -72 バ固 栗 性 マク 性 ナ ウ ク 力 1 7 ٧, ツ朝世 一重崇 貫 デ 供 ラ 方 1 オ 也 ス 77 3 レ臣良 之 錦 本 詠 御 -,40 丰 Æ 3 ) 6 X 7 3 ナト 因 假俗 號 李 抄 發 オ ス 丰 =7 " セ フ カ t V 二名院 良良 w ゥ " テ 113 是 3 111 云 V ٥, 12 ス 名き講 1 然 ナ 權 チ 卿 シ 1 ヲ 7 六 5 20 3 大 因 答 が変和 又 僧 to ナ ナ 此 iv ク ナ ス n 云 V 7 朝 此 彼 x ŀ 此 1% F t 示 3 2, V 3 Æ 2, 也因 1 丰 部 歌 シ N. 御 ダ 11 イ イ ٥, カ 7 石 1] × ダ L 圓 ^ チ ク 1 詠 ٧, 也 ъ 1 深 吉 ) 1) ケ 1 \_ ケ 17 ~ コ 1 ス -7 = 時 恩 歌 里产 丰 =7 12 12 w r イ 丽 6 住 机 叉 僧 F } 3/ フ ----ク 7 w TI コ 素性ま R 瀧 政 歌 テ 歌 X 1 \_\_ 牛 カ IF. V U 70 -家 " 因 デ 1] HI ケ 1 7 U 3

ザ

V

۲

ヲ

**(H** 

ン 111

=3

ナ

1)

部次 ナ

7.7

テ 1) 18

1

物 1

> : 3 -

11 ウ ラ ナ

シ

テ

ス \_ イ 12

7 1 3/ イ 1 2

٧, 0 w

-----

名

ヺ ソ

3

70 力;

1)

ス

ナ +>-

1

歌

花

1

ヅ 1 ヺ゙ ナ 7 1

ン

テ 3

セ 1

IJ

ク

1 iL チ カ

1

フ 1)

1

E

1 3

7

シ

F

1 E

7

1. カ ナ ク ナ

THE PARTY

是

Ž.

ナ 此

サ 也 ラ 7 ス

テ

カ 3 ン t

E

シ 7

ク

ズ 示 7

1. チ ズ ゲ

111 鳥 テ

" 7

又

テ ウ

Ł

ス

`

11

\_7

文

17

7 11(1)

ク

٤ 1

ズ

1

W.

1.

儀

7

サ

V

15

部

-E

115

友

1-テ

作

常

子

-E 7

> Ł -E

п 1)

F

ナ

2

7 + 1% -也

70

13 -1 - 1 1. 义 1. 1 -77

ウ

7 1

1]

-+ 3

テ 7

兴

1 カ

iĽ ク 17

力 iv V

ナ --7 1)

ス'

11:

1

1:

3 12 :

3 V

15

テ 7

シ

1%

7

-7

ス

1. -70

i

73 常

人

## 顯 昭 占 今 集 卷第 ---

物

U カ ウ ラ ガ 1 Ł ナ ス 1 シ ツ ク = ン 六 チ テ 小 原 ١ ウ

ク

٤

ス

ŀ

1

15

= =

ŀ

ナ

ク

7

:

Æ

6

+ ラ

1

1

例

歌

---

73

引

櫻

1."

7

3

3 1 1)

ス

7

13

ス 7

11:

名 云

3

ス

I 公

ナ Mi

カ

=7 樣

F

敏 朝

顯 昭 古 今 集 註 卷 - t

卿

撰

敏

行

歌

省

中

此

在

原

144 哥

春

セ

ッ 惣 此 t ク +" 2 V w ヲ 也 物 ジ 部 雲 ナ ナ V 1 t ハ 3 ソ カ ホ ス ソ 名 ラ # 11 1) ス 3 1 ク ۲, 1 1 ブ 撰 是 カ 7 3 サ ウ 7 ナ シ 歌 Æ 1 雁 3 7 集 ク 折 隱 : ス テ タ ٢ ソ せ 1 × ギ ホ モ 鶴 カ 題 シ 旬 ナ メ } 3 IJ )V ŀ ス ス イ ク 題 E ウ ナ セ ヌ 1 ナ 又 ヲ 我 ハ シ 省 1 1 イ 1) 7 \_\_ 1) 名 V ッ 7 = 丰 )V 3 3 テ 1) 不 叉 又 フ 此 シ 四 ス セ = 18 カ メ ス • 7 ウ 又 瀨 力 時 ゥ IJ ナ 鳴 3  $\Rightarrow$ ٢ w = ス ヲ 7 可 ク 3 = 3 ソ 牛 1 Ľ 7. 工 = メ ナ バ 1) ナ ٤ 云 又 サ サ U P 7 1 玉 ウ ナ 1 7 ŋ ハ П ホ ス 歟 ス ウ IJ ゥ ナ 又 t ダ ガ IJ サ = رر ٢ コ 7 此 蕨 物 丰 ケ ラ ス ゲ 7 3 = ツ w 1 • 1 V 心 物 歌 歌 1 才 V タ セ ソ 7 ウ ナ ッ 11 = 名 L チ テ ナ ラ ナ 7 ホ 3 X 工 ク +" ナ ソ 省 是 æ 1 ゥ カ = 3 1, ヲ 1 ハ \_ ヌ ス = 歌 ナ ナ A 7 1) サ ス 也 3 18 I 7 w 3 ラ 1) 1 沂 ŀ V セ カ ウ メ サ ヲ テ Æ 7 w 1 メ 來 歌 N 3 サ カ ^ 行 1) ナ ツ 1 IJ IJ 1 ホ E w w ク V t = ス 力 七 ゲ 3 ŀ 叉 ナ = 但 此 Ш 心 友 チ ラ ナ 3 11 3 ŀ = 2 IJ

> ナ = رر カ ナ ウ 力 ラ せ メ

₹

ツ

3

V

ダ

7

ソ

3

ヌ

ス

w

と

u

テ

7

力

X æ 1 3 IJ ナ v テ ダ 7 ヲ ッ 7 メ t = 忠 V ナ 峯 2.

ソ

ŀ

ウ

ツ

セ

3

4

カ

カ タ カ = 2 3 ハ ク × 3 テ ラ ŀ カ 衣 ク IJ シ = 3 題 返 Ŧ ウ タ メ ス 7 1] ~ E ス シ ŀ 此 丰 テ 7 歌 ŋ サ 集 ナ Æ ユ ŀ ヌ ヲ ス ŋ w ケ フ 2 E • カ 7 iv ク カ 3 ŋ メ ナ シ ス ゥ ク L IJ ッ V 3 叉 袖 袖 1) V 7 ダ 本 = シ 丰 Æ 11 Æ 歌 ッ ヲ 1 力 モ ナ 1 ハ 7 ヲ t 袖 ウ 同 = 7 = 18 ۷ ケ ソ = 1 ` = デ シ ッ 1) 此 ッ 同 w 7 部 = 物 ヲ 2 7 ッ ~3 3 1 ٤ 木

丰 7 カ ナ ウ × = 示 = ッ 出 ッ 子 ナ w ^ ク Æ 3 工 ヌ 力 ナ = ٤ シ カ IV

X

3

Λ

3/

ラ

ズ

7 メ Æ 詞 7 ウ 7 #1 ナ ゥ ウ ٤ ナ 1 テ ウ 1 サ 丰 7 Æ ケ ウ M 1 ナ 云 メ 也 IV ウ 1 請 7 3 ウ 和 ナ 21 ナ X X = 花 1 = 1 ٤ シ æ ウ 3 2 B メ メ メ ナ 7 ナ ナ 1) 1) IJ 7 萬 ナ ユ ナ E" 3 丰 葉 1 シ メ ツ ナ 3 子 1. = カ 2, 云 D

ス 1 ラ カ カ ケ ク 1) L\_\_ \_ 或 ウ ザ x 学 ク 1 ラ 梅 ٧, ナ b +> カ + 丰 或 5 IV 島 ン 柝 1 ナ = 10 是 カ ケ 17 21 ウ X

カ ŀ 頭 息 教 ウ ツ 昭 所 フ 丰 ケ 想 ザ ~~ 卿 1 順 歌 1 ス ク 云 ツ æ 和 ラ 台 : 6 カ カ ナ 2 3 23 \_ ス 11 メ 1 ツ w ~~~ IJ 朱 サ ザ ~ 子 ナ 又 櫻 ク ナ 7 w カ 櫻 ラ ラ ラ カ = 桃 書 ŀ ヌ 1 ۱ر ハ þ テ 題 カ サ 3 力点 -6 カ 共 7 ク 15 カ ヲ w w ラ 書 ザ か 1 ザカ  $\exists$ = V IJ ク カバ メ テ E 1 ラザ ラ カ IV 1 カ トク ŀ ナ サ 18 せ 云ラ ヲ Ħ フチ 17 ク フ カ カ 沂 ラ X ク = ij Æ 71 b = 11 叉 カ 御 1 E

ザ 7 オ 7 =E Æ シ iv ク æ 云 机 ナ ラ テ カ 7 7 ij þ 櫻 }-カ h 然 桃 • イ 3/ Æ E ヲ w フ U 3 ヺ 朱 ヺ ~ ク ż バ 太 フ 楔 テ IJ キ £ オ 游 ゥ 义 芦 = 1 æ カ b to カ テ ラ 丰 = ッ 叉 ケ 7 ヲ Æ ヌ ~ 蘇 ク カ カ 12 ゥ 1 カ ナ " 芳 ケ \_ ス イ = 1, 1) ク 7 \_ イ U バ テ 3 3 þ ٧ ر n \_ ザ ゥ サ X 12 ٧, 七 \_ ク 1) メ 作 テ ラ ラ ス ク 力 7 花 A w ラ -ゥ ナ ッグ æ ŀ 3 キ 海 佰 1) イ 3 ス 叉 1% ス -1 カ フ b X ス T 18

> 房 菓 ス 事 柯 但 云 高 7 汉 夏 ラ 花 訪 ナ ヲ 也 w w 廟 F\* Λ 18 7 イ ナ IJ 注 良 1 良 ッ カ IJ カ Æ イ E iI 公宗案潜 ク ik IJ 子 ス 2 含 梅 w 杆 -セ R ŋ 桃  $\rightrightarrows$ 1 月 餘 ~: 1) 子 イ 3 =6 7 华 学 楊 丰 美 狢 ٤ 櫻 仲 1 V 朶ナ 說 詩 朱 ナ ナ 櫻 110 桃 1 夏 ラ IJ 文 齋 櫻 崖 イ 桃 五 ナ 天 1. 11: 云涉 村思 纸 -f-١ر 1 月 17 意 ツ 桃 根 7 亦 H H 為 差 1) 7 水 7 易 桃 木 木 息 以 111 詩 求 V 亦 \_\_\_ = ス 取 訓 X 1) iv 含 楔 鴻 菓 20 F. 物 ナ ナ 桃 也 福 桃 以 + シ 7. w IJ 献 45 花 451 薦 Sparith Sparretty 為 17 原 楔 渡 衣 ラ 於 ナ ١٧ -E 4.5 桃 カラ 115 IJ ナ THE 桃 ファ 廟 少十 仲 + 腈 ラ 17

3 ~ 1 3 丰 3/ 7 1 6 3  $\exists$ ツ 3 ラ 1 1% 丰 = ウ カ Ł イ ツ w 7 友 ワ ヲ 則。 力 1%

7

カ

ス

~

1

チ 木 敎 1] テ Æ 10 ヌ ク 勝 卿 3 臣 ス 2, 云 1 カ ガ カ チ 歌 ラ 12 ر ر r 木 7 ホガテ ク 1 7 ス 7 カ 名 }-= ケ ナ ナ IJ ハ 17 テ IV ~ ۸, Æ IV ナ シ ナ ナ 7 IJ Æ 私 オ 7 ヲ -7Eilii -)1 15 次第二 1 113 拉 V ラ Ti ス + 仝

テ

Æ

1/1

ナ

モマトフテフカナ

Æ ŋ N タ 又 長 ナ シ ŀ ŀ ŀ = ン P 或 ŋ ት 1 ケ ナ ŀ 7 イ ヌ À 丰 ウ ゾ 云萩 Ł 同 ろ V V ガ 云 ヲ iv ヌ 18 ス = 外 ナ ゴ Æ Ł 1 工 N 1 ク 書 ナ ŀ ジ ŀ IJ ⊐° チ = = ス 机 蹞 ナ シ 1] Ł = n U = 伊 昭 7 1 サ レ = = ハ 東京 二 埶 ١, \_ 才 云 V キ 坳 シ ヌ ŀ ホ ٠, t ŀ = ク 7 ゥ w カ Æ 7 1 ŀ ナ ŀ ウ ナ ハ フ テ + ヲ ~3 ナ 3 Æ ス IV 虫 花 ッ w X メ 4 = 也 者 ヲ ケ w カ w ハ ۲ ŀ 111 ノヽ 2 2 I ハ チ 2 イ 緣 子 1 ン > 7 ~3 æ Ł Ш テ 力 サ 1 1 110 IV IJ 丰 ス フ ナ 力 イ シ 無 ク ガ フ 7 ワ w IJ æ ハ 文 ナ 動 ク ~ =

朱雀 ナ 院 シ ŀ ヲミ イ フ ナへ 五 文字 シ 7 ヲ 句 ハ セ 7 カ ŀ 3/ 7 ラ = = 7 7 丰 3

ク )V Ш ソ テ ナ 3 3 子 ₹ タ w チ ナ ラ 3/ ナ ク シ カ 1 = ッ ケ ラ 4 ユ 7 丰 キ ヲ

敎 チ \_ 1 æ 卿 ッ 7 12 云 + フ 3 サ IJ 子 タ 1 カ ラ 1 チ 1 ナ 七 駒 キ ラ ) **=**/ ŀ イ ٧٠ 峯 3 ハ 立 X カ .12 ŀ 習 ナ 巖 IJ 量 高 踏 遠 ガ ш ウ タ タ

> 是ヲ 叉橋 法師 ワ ት カ 高 也 3 3 V 輔難」之俊 ŀ 自 遠 為 X 工 IJ 仲 ガ ガ ィ コ 書)隆季 當 江州 關 X ガ ٤ ナ 郭 世 ヌ 4 で成不と 上路之時 判 歌 公 イ ナ 者 X ~ 是心歟習 = 難關 歌 カ æ Æ ホ 云石 ŀ 々門 ŋ イ = -清 關 = 力 t 逢 Æ 顯 關 ノ石 ッ 一時 1" 昭 ŀ 路 キ ŀ イ 云萬葉 雨 テ 平 人 題 門 有:條 ナ -立.隱關石門 ŀ フ K = ٠, 關 丰 3 カ 子ナラシ 别 K タ 石 テ 々物 門 心 ブ ス イ 7 ナ ク 丰 ŀ ス 侍 ナ 3 3 リレ 良運 拾遺 X 云 キ IJ キ IJ 12 =

1 頭圖裏書 = 7 云 ナ イ ラ 逢 坂 18 力 駒 知 石 云 ŀ 良運 フ 何蹈」之乎其時 3 有 歌 ナ 立 歟 一歟懐 良暹 ラ 三隱關 シ 返答云 圓 Ш 石門 云 タ 良暹閉口 彼 チ 一之由 イ 石 ッ 7 フ 申 1V 云 廉か 丰 サ ヲ K 聞 相 IJ カ 呷 テ > ,, 懷圓 ラ 岩 七 丰

シヲニ

ソ フ IJ ウ " ハ ^ U テ Ł = イ サ ケ フ iv )V サ ŀ 1 ハ ナ 3 4 ት 7 シ 7 = ホ

۲

テ フ サ 111 IJ フ ウ iv 帽 ハ サ チ ŀ ^ ŀ ハ 1 テ ^ J ハ 花 テ ウ ナ 3 1 IJ チ 2 云 穀 7 同 ŀ 長 カ イ 4 卿 七 也 注: テ 顯 七 ŀ 昭 IJ シ イ 叉 1 フ 云 ウ 或 也 Æ チ A ウ オ 云 ボ 7 チ 工 カ フ 7 セ Ŋ カ ズ 叉 テ ハ 七 ウ イ ラ

顧昭古今集註卷十

ガ

1 チ ナ チ 3 工 iv カ 侍 7 X 17 ヲ 1 ス 題 IJ 17 w ソ 工 カ All 萬 デ テ ク テ ラ 3 = 葉 7 7 ŀ \_ 7 -略 1) 2, 3 イ ワ 1) ク = ノヽ =/ フ カ テ テ 此 ١٠ 7 ~3 紫 袖 歌 イ フ ŀ 3/ ツ 苑 ナ フ ス 1) 1 1 心 ナ ~3 1/ Z ٧, Æ 7) 丰 テ ^ 15 ---1 to = イ テ ソ 7 É ボ テ -+} 1 E 1 妙 T カ 7 フ 15 3 ズ IJ ナ ŀ カ × 袖 此 オ 7 12 ٥, フ 集 1 1] 水, カ ^ テ 1) 袖 工 1 木 ゾ 1 7 ~ オ 110 ^ 歌 ŀ 3 ツ テ w Æ 水\* X

1) ゥ ス 2 1 28 ナ

1

我 = 宿 = 3/ 1 E ナ 7 iv フ = 3/ ス ク ŀ IJ 7 ス ン )野 1 ナ無 ケ ナ w ヲ 1

ガ 通 1 .7 フ w ス カ 1 t = = 1. 1] ツ 3 = 1 ス ソ 1 -917 ラ ダ ク D ナ 工 ン 7 ŀ ナ ヲ ナ ラ 工 1 ケ 3/ キ 1 フ V V 17 æ 7 3 1] 1. ŀ 3/ フ to 此 IJ 7 ス 1 3 フ 證 × w 木 フ 7 1) 3 N. 此 ナ 1 3 IJ 3 古 ス 野 シ 1 1) ガ 宁 丰 後 1 ノ ナ ク ナ 抬 2 歌 ゲ ラ ケ V 第 ナ 丰 2 V ---四 w ŀ 15 w æ 旬 ヲ 3 + 1 普 X 7 IJ ナ

> ナーの頭 查查 ナ to 27 ナ ナ 1] F. 何野 故ナ ---1 = 1 昭 カ カ ٥, 來二 15 ク ナ デコ 花ソ 7 IV 云 カ ナ鳥 1. 7 1 ナガ 1. 1) =3 : 7° メ 70 1 3 ゾニ 半 2. w 1. ク我 E 也 テ + ナ 1 フ 1. F 1 11 = 25 TF 3 1 10 歌 1. ·E チ リ野 ナ ラ 1 ナ ク 丰 ス 7 ゾ V ナ 1 1 = 11 1-云 7 + ナガ iiii 111, 2

E w

チ 2 iv ツ 1 5 ケ 力 ------1) 7 7, ソ 3/ ŀ t ٥, ナ 1 t イ 1% 7.7 ヲ 1 3 ナ 2. サ ヺ -7-ク 名矢 預田 50

ゥ

ン

ガ ケ 7: ----111 5 3/ II" iv 條 ケ = 3/ w ハ 水 ŀ 丰 1-=3 +} 牛 丰 to せ 牛 -1----١٠ 7 東 ナ 111 X 樂 宫 ŀ° 1 7 -イ E ---ケ ケ 3 用 U HE IV ッ to 7 IJ ス 3 and Specific で頭が F° 2 Z ナ 水 7 1. 4= 7 17 1 H V ナナ ŀ 3 -1-= t 九 -6 7 u 14 1) ウ 也 1 ton in 7 サト 也 サ =7

給卡 トコ 12 4 F コ是 口目 サマ 八后 給給

11 ナ ナ 12 1 1 牛 丰 Æ 7 カ ラ ナ -tj-ラ x 1 E + キ 7 ---2 ケ 70 1) フ t 1] ス ----E 3 デ 7 ) 第

教 ケ コ 長 " 1 北 17 卿 18 1 Z 竹 ナ メ F 枝 + 2 1 + ウ ケ 12 " ス ナ + + 1] 1) 老 佛 111 名 ス VIII. w 人 17 E 云 Ť 木 1 1 也 ツ Z w 11 12 IV 也

1 2

ラ

ケ 長

p

1 Æ

1.

٤

テ

21

ス

シ

IL

ユ

ズ

殺

卿

注

ナ

iv

定

ナ カ

17 キ

进 ナ

释 ガ =3

7

--

E 1 カ

ナ ナ

١٠

7

w 18 1

ラ

ナ イ ナ

۲, フ ゲ

= =

7 11 ヲ

昭 子 3 ) 云蓍 ケ N 担 八草也 フ ス ス -7 神 7 ٧, 草心靈草也 ` 丰 ` + ハ 是著 ŀ 一萬葉 机 3 X = )V ハ 玉箒ヲ ツ 春 題 テ ッ

コ來 3/ ク ኑ コ間ノ ٤ オ ッ Æ ` ヲ V ハ ユ フ 7 V 1

Ę

ワ

見 工 ス w 哉 ヲ ッ ラ 毛 カ ユ ケ 丰 = 1

網 此 ン酔云 經 歌 無 ハ 三兩證本1 k 與渠卜書 ク ŋ V 1 Ŧi. 辛 オ E 1 內 ٧, 草 担 也 齊 一懷香 酒 之時 ŀ 服 カ ケ 之則 IJ 焚

ホ ŀ 丰 t ス 7 : 37 子 ) ク æ = t 7 3/ ス ŋ ٤ ラ = 1 シ 7 7 IJ ッ

ŀ

+

ケ

ユ

+

ŀ

3 置 野 也 3 卿 3 云 3/ 37 ılı シ =E 卜云草 37 ナ 紫苑 丰 ŀ イ 也 フ 蹞 ク ヤ 詔 ス 7 ジ IJ 云 ハ 3/ = 知 テ 母 主 根 ŀ 歸 7 カ 草 18 大黄 ケ 也 IJ 才 或 ホ ŀ **シ**/ 1 兒

メ

IJ

オ

丰

7

丰

3

t

=

~3

ジ

罩 1 æ 書 ŋ 然者是等別 12 坳 歐

ッ セ 3 カ ラ 1 力 ラ \* ハ ギ = 1 = ŀ 2 V 3 ŀ 3 ス Λ 7 シ ラ 1 ズ ユ ク

32

压 秋 1 カ ケ IJ サ iv æ 7 ` 7 iv 歟 ヲ ゥ

=

ヌ

ソ

カ

ナ

シ

丰

力 ノヽ ナ ブ サ

フ

カ

t

ブ

4

7 ダ ~ 1 夢 = ナ = 力 ハ ナ 7 サ 7 4 ウ ッ • = ス = æ

7 カ ス = U ヲ iv

`

IJ

順

和

名

=

教長 女青 ŀ 卿 力 云 キ カ テ カ w 7 子 -17-草 1 7 ŀ 3 ナ メ IJ 是 黰 歟 昭 云

ナ 7 6 サ ハ ガ 1% ŋ ` J\* Ł ケ ŀ サ カ IJ ス = ケ 73 1 V ŀ = ) æ カ ŀ シ ス iv

ン

ツ ユ ハ ン メ ケ in

啦

云

懸

苦也

1 , チ ŀ テ ガ ス ッ ユ ヲ ス , 4 = カ ダ ケ V ۸ر E シ 1 ゲ 7 iv Ł シ

ラ

= ナ ク E > ク = ワ 1 æ 躬 Ľ, 恒 ₹/ 1 歌 ラ 2 = = ŀ ワ ٠, ٤ æ シ 1 ラ ワ = ٤° 7 シ シ ク ラナ、キ ŀ 云 也 此 ソレト 集ノ

オ

3

1 才, ワ キ カ 7 中 ナ テ IJ 3 ヲ 15 IJ t ク 3 IJ æ ワ ٤ シ 丰 ハ

=

ヤ 小

=

3/

7

町

頭書 ヤ = キ 1 Ŀ 中 テ ŀ 3 云 ヤ 詞 = 7 ン シ \_7 7 ŀ Æ -7 = 所 1 1 1 名 郎 ナ IJ

顯 昭 古 今 集 註 卷 +

詞 ナ 1]

7 ン ス ŀ 此 7 = 2 Ի 歌 カ ŀ = = V ス 1 テ 思 女 無 力 ŀ IJ +> ナ 7 テ ス ケ = ソ 3 1) ヲ 3/ 水 15 ~ + 1 丰 1. ス ヲ IJ 在 オ = V IJ ^ 丰 7 丰 7 Æ 伊 成 シ 1 テ デ Ł ]. 势 人 丰 7 3 3 7 = 物 云 ) テ 3 IJ 3 t t 3 7 ŀ ケ 2, = 3 to カ ~ w 7 = 2, 水 v 此 7 ~ カ  $\exists$ ヲ ŀ 1. イ ハ 3/ 丰 7 111 ナ ナ ナ = ハ カ 3 テ 113 2 F 2 2 V P 3 11 1 ケ 1 1 テ 7 ク = t ٢ 7 イ t **=**/ ケ ズ フ = -" 7 7 2 テ 12 = 7 ク 少 ŀ 7 7

7 w ス ハ カ 7 F, 10 サ シ 丰 ŀ き所ノ イ 1) 名 1 ナカ ٤ 1) ガ 事 机

ク カ 致 12 チ 長 = 卿 ナ 7 グ 云 1 3 3 w ナ ッ サ ウ ラ 3 3 2 ) = シ 7 ッ ク w +} ヲ 丰 ٠, iv ナ ナ 17 2 イ カ 7 ++

牛

カ 1 力 7 カ ラ = イ サ \* " カ ラ サ 丰 = ワ タ 1] ケ 2 ナ 3 チ ノヽ

7

1

Æ

ŀ

7

ラ

++

1)

ケ

1)

+} 1 = 丰 3 ひ 3 1 Æ 1] 21 3 ラ ップ H 吉 ウ ŀ 3 テ 7 = ツ ハ ٥, 17 ~3 1] 1) \_ 齋 萬 加加 果 宫 輿 = 7 1) 3 -7 給 ナゴ ++ 1 7 キ カ ŀ ラ キ + イ カ 丰 デ ラ

们

言

T.

也但 临行

十善

二粒

然者

如

三別 智

YF.

洲

4:

加加

変

1:

坂

後

テ カ 1) 給 ナ 1)

1 ス 7 カ ワ ---カ -)j ク 1 寺の U カリ -}1 1. \*\* to カ = 7 PI 拧紙 12 八紙 カ ケ此 11 1 6 和 ?

7

カ

15

ゥ

フ

Z

n

シ

ラ

-2

+

穀 1 東 = 卿 17 サ ナ 云 紙 カ 1) 层 Ł ン = V 1-7 1 ~ ナ フ IJ ヺ゙ 內 ン V イ ひ = ヺ デ 111 1% 12 俗 12 2 111 イ 17 カ 卡 7 仁 111 カゴ : 和 ス 븏 7 フュ

カ グ 中

カ

٧٠

ŀ

云

也

夏 カ 7 サ 7 ` 1 ゥ T カ ナ ١٠ シ ケ V iv ヌ ~ 110 " 1 工 7 忠 カ 1% 义 1 ナ 丰

1) 內 左 教 ヲ V 42 イ 右 長 カ 大 17 卿 節 レ 和 テ カ B 近 Z > 殿 13 1) 衞 時 = 宇 是 Ŀ 1 1 V ナ FE 口 子 ١ ۱ر = 郡 近 3 IJ 1) 河 h 六 ŋ 也 iI. Tr. 内 = 近 入 人 = シ iI. テ > 宇 ٥, ゲ 小 或 御 名 寸 ~3 ク 農 邢 :1: iv 7 松 餇 2. 郡 イ 野 才 ス 1% ハ ラ ガ ナ ~ Æ ~ カ 志 ス 1 ٤ 1) 10 1] 胍 右 1% = オ E 雉 昭 ナ 1. :1: Ш 云 人 \_\_ ラ p L 賀 ナ ウ 置 5 E ナ 1% テ ŶIJſ

歟 前 ダ 4 カ 申 15 宇 Ł 陷 大臣大饗之時施 和 郡 也又六人 三榮耀 御 鷹餉中 - 也隨」便于用 = 無素氏

ソメ ۴, ) 7 ハ ス 人|也

凡宮茂

ゥ キ 3 ヲ 1 3 ソ メ 1 1 3 Æ ) נל v ユ ク ク Æ ) 7 ١٠ グ

ッ

t

7

フ

Æ

ŀ

=

オ不二聞及一事也 ア文字 詞 歌 ダ 大和 ŀ 彼 ッ ヲ 7 沫 ılı 卿 ッ 物 7 ì ヲ ナ 7 云 v 云詞 Ĺ サ 語 F ŀ フ ゥ キ <sub>フ</sub> 聲 丰 3 Ŧ ラ 也 歌 物 X ŀ 3  $\exists$ 但 讀 フ カ ヲ IJ = ヲ 此 院 机 顕 3 テ 3 3 U 歌 ]1] テ シ ヲ 7 1 3 昭 ソ 兩證 ヲ 尻 カ 7 18 ハ 云 3 = 歌 雲沫 ラ = 7 ヲ ٠, X ン 本無シ之ア テ ŀ IJ = ヌ = V 18 遊女白 1 云 遁 ラ 3 カ サ ゝ 詞 隱 世 メ E w 7 1 題 ŀ 云 ŀ 事 ガ ŀ 1 也 ař. オ ヲ Æ > Æ Œ V 古歌 ナ 召 イ 示 ŀ t ナ ダ デ ィ ラ 侍 IJ 七 Ľ w 波 雲 ラ フ ツ ラ Ł ナ w w = 3 ~3 2 トハ 云ト 此 沫 沫 ŀ カ IJ シ

둪 白 此 歌 游 女 ナ 13 此 チ 歌 ۴ 1) ٧٠ 7 7 ŀ ッ 云 カ 證 = ウ 歌 31 ナ 1)

ッ

ヤ

7

7

7

7 IJ

=

ン

3 ユ

7

チ

ŀ

ŀ

シ

ク

カ

丰

IJ

7

IJ

ケ

2

۱ر

ク

Æ

ス

1 3/ ソ ホ 3/ 7 = F 3 IJ w ス 所 110 3 w ヲ カ シ N's IJ 担 ヲ 11 雲名 自 ヲ 3 ኑ X カ 身 ۳, w ナ Щi ヲ 7 13 = w 千鳥 ケ 3 セ 18 ク テ Æ ナ Æ シ ス w テ ッ カ ılı 阜 7 ヲ オ 13 パ 3

ラ 丰 ス ク V カ カ 1 ツ 月 7 ラ 7 ソ カ ッ ャ ラ 7 3 7 ハ ナ w Ł カ リ 源 ヲ 忠 ナ 1

=

チ 7

依子 ノ心 今案ニ 敎長 レ隱若鬘宮ヲ隱セ 也 ŀ ラ 3 オ 故 ッ 母 ヤ 云 ホ ナ 詞 重 內 ラ ク 卿 仲 カ E w 一家卿 ナ 此 11 作 裏書云カク 親 カ ス 野 Ł 云 後 侍 好 秋 王 親 رر ナ 10 云此 也 Ŧ 1) 美 ], ŋ 光 シ ヌ ナ 云 或 木 ŀ 母 孫 カ 不 ヲ 隱題 也云 人云 更 也 柱 ŋ 花 云 可以 n 衣 又鬘 宮 登 實 シ ŀ  $\exists$ 歟 用之歟 たく頭書)柱 題ト云 從 蓮 チ ŀ = ナ ŀ 宮ノ字許 7 宮ト 字 五 7 ラ w = 云 位 3 ン v ス = 々然而是セ 申 天 ŀ カ ナ 1 1 ハ其文字ヲ皆アラ ŀ À 皇 源 サ 何 力二 w ナ 3 ハリコソ 貞 ヲ ŀ ヌ ヲ 7 1V æ V 皇女 カ ŋ 義 釋 -3 1 IJ 1,0 同 ク 民 申 IJ 3 月 月 シ ノレトヨメ 部 学 テ 花 シ 天 t Æ テ 皇 テ 卿 7 ナ 桂 7 2 ئا 桂 昇 A 詩 內 7 チ 力 皇女 ŋ 實 大娘 IJ テ ナ 親 ヌ 花 =: ŀ 1) t Æ

-

74

ナ w 1 1 1) カ = \_\_ ŀ テ 1-3 テ 云 力 3 华 111. ク ナ 伙 7 ---ス カ m v ナ 清 ズ IJ ク サ 末日 輔 ス V 事 营 13 \_ Æ 岩 ヲ V 7 是 カ 1V 柱 部 1 ク 橋 1 サ \_\_ 宮ヲ 出 1 18 官 柱 10 カ ヲ 1 IJ 17 ク カ 在 7-ク 同 则 w to  $\supset$ 

義

ヲ

丰

20

都

良

香

2

1

ナ + 水 ヲ to カ 也 丰 V ピッパコ イ " タ焼シ w ラ 丰 カカカ モョシ ス 7 ス = カ 3 2 工 1 ヌ ナ テ 3 E ス ŀ IJ カ \_\_ ハ ゥ ヲ ツ 丰 3 と

ス

w

カ w カ ラ ス ス ザ 3 3 ラ ナ ナ ~ カ ガ 3/ 3/ カ 3 ٤ チ ナ カ 1) せ ر ر 7 丰 144 ク w 春

カ

1)

昭 穀 Ł カ テ 長 和 3 3 F17 卯 ŀ ス Ľ E チ チ 3 3 云 初ナ カ 文 ナ ナ ナジ 1] ク ガ ク 3 水 シ ٤ 15 チ 秋 ス 人 カ チ ナ 云 7 3 ス iv ハムナ カ 73 長 ٤ ヂ 1) カ 3 ガ ラ 7 カ 1) 1 3/ 11 15 ノヽ Ξ3 テ 1 Ŀ 春 ナ チ ガ 73 3 カコ 1) 2 1 ^ ハ ~ ラ 汝 ۱ر 云 カ シ 111 3 #1 霞 震 長 ヲ ラ 1 30 111 ~ V ŀ 班百 ガ ---3

7

7

テ

3

ナ

十 %

ガ雨

x

7

カ

ケ

テ

ナ チ 1) 7 ナ 1- 03 又 カ 丰 ラ メ ナ \_ 37 7 ダ w ク 3 -1-× 1 1 テ 1 7 ٤ ケ 15 ユ V 5 18 ۱ر 11 =2 11 5 ` 17 iv ン 1 ·E

僧 門 担 \_\_ t 1) 都 院 ウ 末 儿 ナ 如 歌 書 御 \_ 旬 1 也 本 チ ナ 此 \_ 僧 通 IJ \_\_ カ 作 Œ 本 ۱۷ ヌ ナ ヲ 老 通 平 ~3 メ ۱ر 本 昭 淑 丰 7 誦 也 院 1 カ 11 不 昭 仲 nii 御 ズ 7 害 也 本 也 シ ク 院 H B テ -1----錄 歌 御 1 メ 1 停 11: 水 ---" 77 #1 æ X 12 15 平寂 巾 #: 7  $\exists$ 改 目 以 ク 7 也 不 1 Th 17 哀傷 常 \_\_\_ 7 13 浪 1/1 X 部 111 用彩 illi ナ iv 延 延 M ナ 木

本云 文治 建 久 兀 年 年 -13 月 JL 11 H H 本 71: 授 進 酮 2 定 Ti 大 以另 差 -1-46 Mi 抓 昭 昭

Ŧi. 年 月 九 H 授 ME 侍 從 雅 11

安

引、

## 戀歌

## 題不知

在原元方

= オ ŀ 4 ŀ ۱ر ヲ p 7 7 ッ オ カ F ナ = 丰 ツ ` 7 フ サ カ 7 七 丰 ) = ナ ス

ル営 7 E th フ 3 メ サ رر 1) 7 カ 然 フ ァ サ to 11 彼 力 \* Щ 關 Ш 1 3 .傍 城 IJ ナ ハ 1 ツ山 遠江 西 ナ 1) 階 ት 7 サカノ 1 サ ŀ カ 闘コト ٤ ナ リハ ハ山 p IJ 西小 オ 南ア = 7

12 ス チ ヲ ヲ カ # ~ ッ IJ 3/ 7 ラ ハ ナ V 3 ŀ ソ オ æ フ 3 ン = テ æ ٤ ŀ = =

敎 3 カ æ 長卿 ٤ = 12 ナ ヲ ハ ラ 7 云 ラ Ł 告 セ 1 ズ w iv = ナ = i 1) = > 題 ヲ D 昭 ヲ カ U 云 ヲ ^ 此 カ + 歌 = ツ ッ ŀ 1 人 ラ オ イ = セ Æ ^ ッ w IJ ŀ 1 此 沂 イ U 歌 來 ヲ フ ヲ = 才

7 丰 ッ = 7 ŀ 7 T ナ in IJ 1 叉 ٢ オ ナ 1 æ ホ フ = = 1 • = イ 72 ٦ 12 フ ヲ ヲ ス 7 デ + 7 = 我 b ダ ッ イ カ フ w 7 æ = Λ Æ U

> ィ ŀ テ ナ Æ カ 7 ゥ フ 3 ズ w U ヌ チ ŀ ~ = 15 ヲ ŀ 7 ŀ w æ シ ツ サ ガ F ケ ゾ ヌ 1 V w ナ ナ 110 オ ~ 1 ガ + チ \* in イ 2 ツ 工 サ 7 = カ w w チ 3 ヅ = 10 我 ソ 丰 ⇉ オ ン 7 テ > ホ ハ 3/ = 心 テ カ 7 ナ = ヲ D ダ ラ ガ ソ 7 = æ ゾ ラ Æ 7 = ノト ١ ホ V 3 = 7 3 ス F ` 3/ = п ナ 牛 チ 7 11 ٦ オ ラ 7 カ U 7 Æ コ 1 ヲ 丰 フ ク ナ 1) t

丰

オ

ゥ

⇉

ヲ

W 此 左 タ IJ 近 兩 ケ 1 義 2 iv ゥ ク 7 w 18 7 = 7 1 Ł 3 シ ヲ ク ダ IJ 1 ス 御 ダ ٤ 案可い 11 2 カ 3 1] ۲ 候 ヲ = 也 ダ ン テ ナ

タト

٢ 通 ヌ 人 ケ 3 æ 又 此 ケ ŀ 12 女 サ ナ 1 IJ 3 ス 云 ٠, ガ 3 IJ = ズ ハ X 亦 Æ 條 1 3/ 7 ラ 1 カ 力 后 = = ズ ŀ 3 Æ ナ ŋ = 云 工 業 ケ ザ w V 1) 平 ケ 15 Æ 其 此 V 3 心 前 3 11 歟 ラ 111 サ ッ モ E カ 聊 也 V

在原業平朝臣

ケ

カ 7 x ラ ク ス ラ 3 サ æ 七 ヌ Ł 1  $\rightrightarrows$ Ł 3/ 丰 7 t ナ ク

キテイハムオモヒ

3

٧

w

シ

ラ

ヌ

ナ

=

カ

7

P

ナ

ク

7

フミ

ヤス

ナモ

\_

題

昭

古

今

集

註

卷

-+

コンシルヘナリケン

ス X ヲ 左 朝 輔 カ 7 カ 7 T 10 詞 3 7 珍 近 臣 ラ 手 M ク > ク w 17 V H ユ ユ ٤ \_ 1 テ テ キ F 1 フ 日 結 = ~" ケ 11 ٤ ガ 申 II' E 荒 與 ナ ス ヲ 侍 キ ツ = w カ ハ 7 義 書 7 IJ イガ手 1) 7 w チ ガ 同 IJ U P 3/ U テ手結 樣 其 右 7 左 ٤ フ サ 7 抄 ٤ 1 六 ナ 1 5. 云 此 下共四 義 ラ 沂 ŋ 沂 ガ 丰 ク 1 H H Ħ 古 馬 11 H #1 贈 V ン コ ィ ٤ 1% E H 1 1 ٠, 1 場 宁 件 左 子 1 丰 13/ 天 カ 7 = ハ æ ハ ٢ 近 下 1. 丰 ヲ 1) ナデ 右 釋 イ 近 イ = イ E 衞 近 歌 南 次 H 第 物 7 Ł t 個 7 ン 同 丰 フ 1 ダ F शन イ ラ 1 舍 此 ナ 3/ 3/ 1 7 ---t 1 業平 荒 義 褐 手 テ テ テ 1) 1 カ 1) 7 シ 人 V 7 \* ラ 17 1) 3 Ŧ. 殺 IJ ŀ 結 侍 難 1 3 w ン 1 + ガ ス n 云 1) t ゔ゚ 1 結 長 才 ゾ 朊 丰 義 1 歌 11 ナ 卿 Ŧi. w H ٢ ウ フド 7 F ヲ 1 2,  $\supset$ \* 7 +}-東 F ゥ 11 7 7 7 ガ 7 ٢ ゴ Æ 工 云 ツ 有 ラ + 裕 7 b サ H  $\mathcal{F}_{i}$ カ 3/ 丰 Ħ. 左 身 13 -= 作 4 15 Ł ナ = ヲ 2 7 = ラ 月 ナ ケ 7 H 京 1 該 左 者 申 丰 7 女 ク テ 1] 机 大 耶 7 也 カ w 近 清 外 右 夫 ナ F H ス 武 女 3 1 110 7 ツ 17 ク 17 1) 丰 ナ IJ 輔 沂 顕 1 ス ガ IIII

> 語 異 FILE 有 迈 見 返 3/ ナ E ナ 伊 ナ 7 12 \_ 工 77 シシ ズ ラ 勢 誰 Ŀ 汉 V シ カ Æ Æ ۴ 5 ズ 物 IJ 1 7 ケ 3 w 7 省 m æ 又 -E 語 t フ シ ラ ズ 古 ナ 贈 不 不 ナ inf ラ =E ズ 1 E 公 今集 \_\_ ク 仁 10 見上 ナ 3 誰 ヌ 可 力 1 ワ 又 何 E ガ゛ -伊 7" 1 人 是 丰 七 條 力 X 3/ 伊 势 用 70 テ ノムト = 7 ス 后 1) 物 十 纳 ナ イ 1)H 人 テ 70 又業 F H 物 7 異 ノレト 小 ナ ١٠ THE L 77 青花 云 111 物 ク 総 1) 歌 = 政 1 米 1 FLI याः 7 p) I 1-5 木 ハ 215 + 返 你 11/2 + 同 1 iv =1 1) テ 75 一條 111 1 木 3 X 3/ 担 趴 1 后 業 和 41: Ē -5 -} 1) 12 215 大 大 大 3 1 术 1 樣 退 后 哥尔 鏡 F(1) -> 111 和 " 均加 柳 10 文 ナリ

臣 人 サ 叉 示 カ 業 ケ 法 12 3/ ス V 1/1 IV 平 ス 18 10 伊 ガ 寺 右 ٤ ス サ 勢 入 7 次 近 テ -7 道 物 1) V ヅ /-殿 馬 1 話 カ 3 To 圳 1) ラ H 1 1 朱 7: カ 義 il. ١ر 1 H 雀 11 イ \_ カ 力 2 to ッ テ 丰 カ ガ 1 V  $\overline{f_i}$ 7 3 ٤ ヌ 11 1 月 IJ t J.T. 頭 7 Ti 7 ケ 1% 7 書紙? 丰 テ H V テ メ ナゴ 1) 12 パ \_ 七十 心 1% \_\_\_ 1 ケ 紙" 7 3/ + ゾ 12 1) ナ 俊 Mi -1/ 3 73 3 IJ 賴 招 メ ケ 12 iv 朝 云 IV 73

此 事 7/4 7 ツ ズ カ ガ カ 4 7 ~ オ ガ 道 ナ 111 w Æ 贈 ٢ ケ IJ ŋ シ ボ ナ 所 經 נל ~ 3 3 カ 答 廣 業 義 7 2 7 ソ 1] 110 存 ク ヌ ガ 丰 , ラ 平 侍 1 ヲ ٤ 1 ~" 11 左 申 1 ナ Ł 子 事 ズ 力 ŀ 誦 シ 机 經 沂 IJ Ł ス 也 æ 叉 右 侍 サ 左 1 丰 力 カ = ヲ ~ ŀ ス 3/ 7) 眞 テ # 1) w 伊 沂 沂 卿 1] ŀ ナ Æ æ ^ ス ヌ Æ ナ 難 此 シ テ ガ 中 勢 117 ŀ ナ 丰 P IV オ to 7 П 1 # 物 將 結 義 申 ラ æ ダ ヌ 歌 æ Ł H = カ 15 モ 1 ヌ 人 將 普 沙 侍 申 ハ 3 オ K ŀ 語 右 丰 1 イ ヲ Æ 1" w 誦 沂 ス 汰 H 110 ケ I カ 示" ナ カ 4 ጉ ウ 中 サ ナ ŀ IJ 木 丰 H 此 工 太 IV ス 1 V w V = テ 將 本 ナ テ 顕 1 3/ ケ w オ 110 H V ヌ ŀ = 力 俊 3/ ヲ w 由 オ 1 ナ 事 æ 丰 ヲ 季 道 3 7 ホ 右 將 耳 ラ ^ 丰 賴 1 E V ス カ Λ \* V 侍 = 卿 經 w 沂 外 + ナ 1) ス 15 シ 110 E 1 ケ ツ 云 ナ 隨 文 ン Æ 1 丰 3/ カ 1] 丰 = 才 2 7 w ス E 1) オ ッ 7 馬 ケ 歌 ップ H 1 テ ラ ~3 書 7 5 = 7 場 次 丰 カ = カ w 1) iv = 心 子 3/ 傳 1] ケ 叉 左 第 テ テ 歌 オ \_ V 1. ŀ テ フ D 俊 侍 ジ 3 俊 テ } 近 テ 7 ク 700 ÷ 古 ŀ t ス æ ハ テ 但 道 ~3 3 賴 ツ = 力 Æ w 賴 7

大 物 # F ナ カ J w w F = 2 丰 オ 1 3 丰 7 7 ラ 此 顉 語 IJ ス オ ス カ デ カ ン ~ 3/ イ カ 通 = モ = 扳 侍 ラ 返 ナ 25 カ ラ 3 大 3 フ ガ :1: 12 フ 1 2 ラ 和 イ 3/ 7) 丰 æ 3/ ヌ サ ズ 1 7 7 ŀ Ł 汉 但 ヲ 七 條 物 V オ T 7 1 御 7 Ħ ヅ 1 1 7 ヌ 事 后 語 覺 丰 六 ヌ 丰 ŀ 3 本 7 æ U 1 コ A ナ 條 ラ ス 通 F 7 ナ 1 力 • = 業 ラ 所 伊 ケ ジ 10 1 ツ 3/ IJ テ 1 ラ = U 勢 事 后 2 平 ス ガ ス フ ク 7 ŀ 7 2 ゾ 此 E 2 ハ 歌 4 云 " 3/ ガ 物 ŀ ٢ ŀ V 3/ ~ ヤ 13 オ 歌 [空 古 話 オ 3/ ガ 1 子 丰 ナ K 1 コ゜ 1 3/ ガ 3 7 7 或 宁 迈 丰 1 ŀ ン ン 7 イ = æ カ 7 3 叉 ウ サ ナ ケ ナ 3/ ハ p ハ 也 力 7 人 歌 古 タ語 ナ ラ サ 3/ ケ ガ 3 1) = 3/ ガ フ 云 IJ イ 1 1 ヲ女 个 ッ 丰 1. 私 人 此 サ ラ 次 汉 1 1 1. t V ズ 2 æ 云 ナ 扳 1ŀ ス 申 Æ 返 才 ~ V 丰 -7 7 2 -7 丰 1 古 難 2 丰 ガ 歌 カ 7 1 フュ æ 屯 1. Y ハ 7 物 力 • V ŀ 10 -卆 ゼ ス Ł = メ サ オ カ ユ ス V ウ ナ ラ ŀ ク ラ 7 ヅ ス = =6 又 = 7 7 ボ w 贈 3/ IJ 7 ヲ ラ ウ サ 工 力 \_ 3/ 子 ス 1 æ w ソ カ 答 ŀ カ 1 カ 世 伊 サ 太 × ゥ テ V = テ 粉錢 担 3/ 3 御 ク 教 3 シ 2 歌 サ 力 F ス E

T " クレト ナ カ 10 ラ 7 w ソ 2 モ ク ズ 7 カ モ テ 1 7 æ ス カ 3 ス ヲ ナ -110 才 元 ラ ナ 誰 1 ナ ~" 云 1 チ 1) 17 -77 1 U イ to V 六 3 ナ ヌ ケ ジ ٤ ス フ 17 IJ 12 カ 3 ケ 7 I 1 又 讀 歌 ク 董 ク =1 w 5 1-Æ v + フ Æ 15 7 シ 也 Æ ヲ 7 IJ = シ ナ カ 1 返 w 7 2 V 1) +}-ス テ テ : ク ナ ナ 誰 丰 抄 = IJ 17 13 此 テ シ V 大 V 歌 = ワ カ テ 云 ケ ス ス 1 歌 カ 2 ケ 1 7 ١, 和 ŀ 一十 古 才 ラ ズ 3 イ リ Z" 半 × 1 -V ノ返 " 3/ 物 古今 シ 思 IJ 今 デ テ t カ æ V 力 ハ 1 18 17 1 語 云 17 イ テ 又 = 半 2, 物 7 w ---1 7 = テ 云 1 歌 ٠, 話 ナ 3 3 1 カ 7 ス 2 ス 3 オ カ 撰 シ オ ŀ 此 シ 7 丰 2, 1 = = 大 12 = ナ ۴ 3 ŀ = ナ 云歌 者 リ カ 7 オ 1 テ 7 E 和 = 17 カ 7 ィ テ ジ = シ 本歌 iv ٢ キ 1 ラ 3 ケ ŧ w Æ -3 ٤ 物語 p 返 H ラ 女 ラ IJ 也 با テ 3 12 Æ 3/ = 3 カ 3 3 將 ク w 1] ス \_? 才 7 イ X 7 iv 7 ズ ハ w 心 何 此 w 12 ŀ p V æ 3/ IV ŧ 3 イ 3 3/ V ラ 云 ; 女 カ -ケ 7 丰 久 ガ 3 ---7 ٤ ホ = w 才 3 文 テ 7 7 3 ヌ 1. 12 ス 1] 17 ソ 12 ٧, 3/ 六 タ 111 1 ナ 1 カ 1) ラ 1 iv iv 7 心 == 1 æ = Æ 3/ ツ 国 3 ガ 汉 P ケ カ ナ = ナ 7 w X カ

> 何 1 1 イ 7 ナ T ナj' \_ 伊 7 又 間 r ----子 ユ 3/ 子 ٢ 7 業 李 御 公 又 11 サ カ 力 11 テ T 条 物 デ ズ \_ 平 カ 其 == 工 候 省 18 和1 定 ラ 集 記 2 力 イ ----\_ 牛 不 物 ---1.7 -= V 事 丰 テ ۲ ١, 7 省 話 テ ス 入 無 料 1% 才 也 7 iv E 又 IV 7 = \_ iv 7 ユ w ウ Mi ÷E オ 11 ン 35 × ク ~" 昭 = ٤ ボ ^ 返歌 アラ ハ ナ 7 シ = ツ 云 此 Ti. 11 普 普 此 シ V 力 古今問 豪抄 メ 問 不 7 ナ 通 通 13 = カ 業平 注 ナ 伊 カ 3/ Īij ク ラ 约 11 キ 1 ~" 大 歌 用 坳 答 ヺ゙ X カ ナ 7 カ 牛 歌 也 木 和 デ 1) ツ 70 ン 此 ウ 物 ナ 又 ウェ メ 1 義等 大 省 FIL + 歌 テ 迈 オ 和 7 ŀ 7 断 = ΞĴ 术 ъ H. 117 物 ラ ツ 1% 17 U Pil 7 ッ゜ 如 木 2, カ カ ダ

力 ナ ク 3 ス 丰 17 サ 1 カ 1 7 ~ 1 ÷ \_ フコ 丰 ス ス 1% -E " ナゴ 1 1 X " 3 ユ " 丰 子 111 1 イ カ 5 42 フ ----6 7 テ \_\_ ヲ 110 ツ = イ 1 丰 ワ カ デ ッ 1 工 ケ 1% 13 3/ 73 テ IJ 5 ŀ 3/ ك オ生ケ 15 -Æ U 1 文字 =6 7: ٤ 12 iv 7 7 7 デ 女 73 IV 7 カ ク 1 ン ~3 iv 1) -E 7 王 ~ 3 3 F ケ 14: 1% 半 1% サ \_\_ iv 17 3 N 1 思、 イ 1 丰 力 21 = 1 ツ 11 E 7 1 フコ U

使、參內 13 Æ ッ 3/ 康宮 子 Æ ナ ヌ N 1. 內  $\exists$ 1 藏 フ 關 ガ U 的自家神 ナ J° 近 IJ ŀ 春 3/ H コ 馬 祭 M. 1 歌 寮 ハ 不 月 コ ニジテ冬 Ł 申 U 內 H 地 君 未 ハ 间 日 1

E 後 ケ IJ 撰 四 忠 云 H 小 埊 將 川点使 ガ 使 祭 サ 已用 如 子 上同十一月同 タ、 何 或 A ガ 春 云 沂 H

使

=

1

デ

ス

5

w

ŀ

カ

ヲ チ

æ

=

テ チ

ヲ

タ

t カ 1) ケ = w 題 愈 シ æ " 不 411 ケ オ ス æ ٤ 3 タ V テ ワ 衞 V = フ 1 讀 イ A æ **シ**/ 不 小 知 使 w ラ X

٤

1

敎 云 シ w ナ ŋ カ ŀ Æ ŀ 今 卿 3 " カ イ " = 3 カ X 云 テ 7 Æ = to カ iv 12 w = æ カ 許 ŀ ス ラ 2 Æ Æ 2 フ p 1 7 3 = 文 ダ 子 サ カ 1 3 3 3 w 2 æ ブ テ チ カ w テ ŀ = 木 7= サ 3 力 4 オ ケ ~3 サ IJ ユ 1) 力 ٤ 1 ٢ 葉 ラ V タ ズ in 1 7 ウ ヌ 1. w 1 1 ·E 7 3/ 3 1 =  $\exists$ E カ 7 P V カ州ダ 1) 1 1 3 E 萬 IJ IJ ッ ス ハ ` = = 薬 根 ナ コ龍ミ IJ 76 フ テ 3 æ ズ 1 3 云 ヲ ッ V オ 子 ク オ 3 ス L 7 11 æ æ 3 76 义 風 ラ フ ケ ダ P E

> 7 1 カ 1

ケ

カ ナ ハ 3 ケ ャ 1 ス ヌ フ ٤ V w ン テ ٢ XIJ ر ر 力 3/ ナ 應 3 又 3/ > > -= 丰 7 シ ダ E V T テ ヲ 1 才 ユ フ Æ 云 ス フ 丰 ワ ス 丰 3 カ カ Ł • 丰 7 1 7 = Ł IJ カ æ 丰 ン ケ テ

葛ガユ 手 会衣 縋 ッラ w 11 丰 ケ 力 ٢ = 3 3 ヲ X iv キタ 3 シ タ 1) フ ツ ダ カ 服 物 Ţ. 1. N テ 丰 1) 1 ナ カ ケ セ V 襷 繦 丰 ・テ 歌 不 N. 7 サ ヌ = = 3 ハ 同 ク ダ ナ ナ シ 云 ヤ ŀ ----シ 7 案レ 此 「タ 萬葉 ヲ ス テ IJ ソ 1 = 2 w 7 集 祭 之 丰 古 ク 110 ソ ゲ 3 シ ス E 7 不入而衣服具 祀 1 語 デ ラ ス = ユ カ E" ハ タ 其 フ 拾 云歟又 ク ウ ナ T 7 T 7 六 ス 遺 王手次下 = 3 力 = ス 3/ n 也是等 丰 せ 丰 ٢ カ 3 17 1 1 ス 云  $\Box$ 力 順 君 以 テ ス ナ 丰 力 ケ 力 ス 1 ケ 和 ゲ U 7 チ 丰 7 ラ 力 力 又 子 7 ナ 名 ケ カ 7 ス E E カ カ ٠, 辟力 ---」又云「 テ ハ キ 神 ナ # ^ ク オ = ٤ 3 ス 入」之課 葛ラ 7 ハ テ 1 + 7 テ = 丰 シ X " ÷E IV ス 祭 左 ŀ ŋ 2. ナ ス æ カ 爲 イ 右 A 祀 ケ 丰 が製以 Ξ n フ 12 ス V ヒ 3/ V 1 具 ナ X ナ ŀ ダ 3 2 力 ヤチ F. 是 IJ w 7 IJ 肩 オ ヤ ケ ス Æ = = 同 瀬は ナ 力 + 7 Æ ŀ 子 ス キ カ

テ

ŀ 3

ルベシ

in 或  $\rightrightarrows$ ケ 工 \_ 1 フ T 人 ハ Ш カ Z グ 工 云 臨 ク フ E 1 ス w 讀 丰 ヲ 時 ノヽ ナ 1 ス 祭 1% 1) IJ 7 2, ス 1 萬 スの頭 舞 ケ 干 莱 V きまり ナ Λ iv ---Ш 1. 1 ŽТ 7 フピ 袴 1. = 説ス = 3 3/ 1 7 ハカ シ X ス 工 不か カ 可步 チ 1) w ₽, 3 叉 1 1 ス 然フ テ 二 工 Æ 力 3/ 丰 フ ケ イ フ ス フ ヲ 18 叉 iv イ せ 萬 3 フ t 是 葉 1% 或 -72 E ヲ 2 說

ヲ ス = 12 力 ۲ ナ 又 6 iv ン ス ナ =7 丰 ウ ラ ナ = 1% 艾 ٢ ٧, 7 1 Æ 丰

3

ダ

1 ウ 1] ウ 型 カ U 又 葉赤 人 ス 越 フ ラ 1 12 11 チ 次 ス 萬 フ 1 I" ナ 葉 圃 A ١, =3 イ 1 1 射 3 = ツ フ 歌 ウ ウ 水 7 繩 子 3 子 云 ラ ラ 九 1 73 = 7 ウ 1 サ 哥公 フ ス ダ 1 笙 藤 ラ ウ 江 3/ 云 キ 71  $\exists$ テ Ŧ 1% 7 村 テ 子 1 波 彼 グ ウ フ \_ = ユ -70 ラ カ 7 工 1 ------开 3 120 2 工 丰 \_ 7 徐 布 3 ウ ウ 2 ズ 1 12 勢 ラ 1% チ 1 ヌ フ ナ 誤 11 IJ スト Ł ツ イ IJ イ 福 1 ソ 1. ツ テ 子 担 也 13 -2 6 1% 叉 不 -+}-17 3 7 IJ 4:11 × 1 1% V カ 华 7 イ T ٠, 内 示

3 7

コフ

E

スヨ

ルサ

カ

ナ

"

ク

ス

t

7

カ

1

7

ツ

1

7

1

"

1.

-E

T

カ

1% フ 丰 王 7 文 メ 1 t 二 2, 7 字 仁 +" チ IJ ツ 6 IV カ 7 1 ツ ij 丰 7-70 工 カ゛ ٠, ッ テ 25 是 歌 5 10 1 7. ス フ ク ツ 1 ナ ッ ナ 才 E -E w  $\exists$ 10 丰 ナ ツ カ ク 毛 ク ク ナナ 式 3 ケ 18 12 丰 \_\_\_ 3 p 12 1 1 3 ス ヌ ナ サ 水 æ 1 メ ヲ 7 12 Æ ---暮 X iv ツ 3 1 カ ナ 1 ナ 丰 フ 1 ナ 1 1) ッ 月 1 カ ٧, nn 才 11 7 ヲ 2 \_ 枢 萬 7 7 = 7 Æ 10 73 18 サ IJ 11 1% 70 ٢ 東 7 邊 イ ク 1: X テ テ ナ \_ 12 云 1 ツ t フ 旬 ク IJ =3 70 ス V 1 :3 サ F. ヲ 1 V アッサ " E H 110 ナ -1)-7 1 111 1 1 世 ノヽ 工品 カ 70 イ カ ナ シかト 7 7 1 义 X -E 1 7 17 73 7 F Z イ 2, h æ 1] スタフ 1 イ 又 1 テ ٢ 六 工。 w t

1) ラ ナ 1 ١ر 1 3 7 1 1." 7 毛 ス 10 = 此 カ 1% テ ナ 3 ~ 淀 淀 X " 12 ۲ 1. ノヽ 111 17 辛 111, 3 iĽ 1 -)] 又 1 1 IJ T 13 ナ イ 1. = ガ 1 3 17 E 1 2. フ  $\Rightarrow$ 萬 =3 E メ 3 ナ カコ E シ 莱 IJ 1] ク メ = 歌 叉 1) 11 水 1 1 云 义 柱 3 111 7 7 ア 7 ナ 1 70 サ 六 宁 ラ iv Ji 7 ス ファ 治 ラ 73 Ł V 7 מל 11 丰 21 æ 2. カ 3 木 2 ス 70 1. 丰 1 10 711 1 " 5 =3 73 शा デ 川 1% ij X 1 1 Æ 1 カ -1 17 17 又 落 1. 12 x 27 3 7 カ 1 サ " -6

ŀ ١. ッ Ł 淵 テ イ 3 ケ 瀨 深 フ ス ナ 7 4 w ケ 名 w 1 V Æ 18 3/ ジ = 3 F. フ ン 3 IJ 111 チ 叉云 メーリ テ テ せ ヌ 河 7 深 瀬 w ッ 7 ク 瀨 ラ 淺 ナ ナ ŋ = 力 + ガ テ 3 心 w 1. ナ ナ ` 3 IJ フ = チ 七 ナ = U ナ ケ 3 = w テ

フ

Ł ィ ŀ u イ ス テ オ ヌ Æ ク w シ ク V ナ 丰 > ス 工 ツ 2, ナ

紅 丰 ŀ 讀 妆 也 ス 萬 末 工 葉 ッ 3 2 IJ 云 ١٠ サ ナ 3 ケ 1 ソ 11 末 イ = 7 П 3 3 = IJ イ 見 ツ テ ッ 4 ス 7 サ 1 t V Æ = 215 ۲ ス 2 工 ク ツ V 2 花 ナ

ア + 7 フ 3/ > ソ ヲ ナ ナ = 7 シ IJ + ク ر ر ナ 7 1 11 = P = ٤

敎 w ŀ 云 薄 長 ~ 3/ t 卿 \* ウ æ = = サ フ 7 = 云 ス 1 3 イ ヲ ~ 1 IJ 11 テ ナ カ > ラ サ 2 イ = ズ ŀ ケ デ 7 テ 中 w 7 ジ 秋 ナ IJ 3 花 ク テ サ ^ 7 w 1 サ 1. ナ ク 3 1) X ハ = サ w フ ナ 1 1 ナ V 1 17 110 1) 3 7 紅 = イ X V テ ナ IJ 宁 구 ゾ イ = 紫 7 イ ナ U

丰 ワ カ = ソ ٤ E ス 12 2 カ × ナ 1 ホ ッ 工 = ゥ 7 Ł ス 7 子 = ナ 丰 ヌ

> 枝 萬 也 IJ ホ ス 葉 ッ 子 ツ 哥 ŀ w 工 ユ 云 ホ ヲ ホ 末 = ブ ヌ イ シ 子 ハ æ 五 V 1 퍔 物 カ ブ イ ダ ケ 同 子 フ メ ケ 1 ŀ ル æ 末 力 V 云 前 IJ 枝 也 ナ 11 = テ Æ ス ホ ヅ 4 1 F 3 X 工 • 1 ヲ ŀ タ フ ス イ ツ w ヲ F 册 サ フ ナ ナ 丰 w イ w IJ 1 フ ヲ サ テ ~3 云 初 シ 下 ガ

æ ナ Ŀ IJ せ = シ ケ ŀ ラ 3 3/ ダ ナ ラ シ カ = 七 シ ₹ ン 丰 カ 3 ٠, ゥ ケ ス

=

1 申 ŀ 3/ ヌ = 屯 3 3 3 讀 7 1] ホ X ン 間 IJ シ 丰 ~ IJ ナ +" 又 萬 ス 歌 不 iv iv ガ ハ 葉 ガ 知 事 他 河 献 æ 古 IJ ナ ナ ŀ 1 ٤ テ 此 IJ デ IJ 7 テ 社 潔身 大官 歌 古 3 IJ オ = 前 ダ 賀 歌 ۱ر 凡 1 ラ 伊 伊 茂 會 ヲ 7 = \_ 1 勢物 勢 ナ 示 シ 御 カ Æ 1 物 御 カ 7 3 ガ F 社 ケ IJ 腴 丰 作 X w 貴船 御 = 者 歌 ヲ ッ w • 水 手 ス 中 7 10 Æ 7 18 ラ 3 3 ŋ ヲ 洗 ケ F 業平 片 w 工 作 工 Ŧ ŀ シ 3 事 グ 3 ガ ヌ カ 1 ŀ 汉 ケ V 3 オ ラ 1,8 ラ 中 Æ w ン 條 7 IJ ハ 古 コ 神 ギ フ 宁 1) Ш 1

1 = ŀ ス ナ 7 ナ -7 カ コ Ł 3

タ

7

ッ カ 子 7 \_ to

15 = ٢ 丰 ラ 又 4 w 1 12 1 1 3 11 3 次。 b 770 12 1 ナ IV ス 物 1] N 7= ヲ 7 " 1 カ 18 V 17 ナ ヌ 3 7 ŀ 1 = ヲ ツ ۱۷ 7 X 次 カ 3/ テ 210 ツ 絡 又 カ 1 = 12 ヌ な テ ナ V 12 = 結 ズ IJ 絡 1

ズ

サ

チ A

7 ئ

> 3 ヌ

1 1.

ハ 3

ラ

3 to

フ =

1

Æ U

ع 工

1 ラ

3/

w

ラ

X

市

云

終

ツ

カ

iv

IV

7

ナ 束 = 1

IJ 411.

17 7 218 コ

イ

フ

1

ナ 7 7

テ チ チ ヌ 1 字 ŀ サ 7 ラ チ = オ 云 + 書 ホ 1. 11 フ チ 草 1% t Æ ٧, 淺茅 1 かり w 3 ナ 7 1 = 麻 1 送 IJ ガ 原 茅 7 1 7 也 茅 ~ ŀ +}-オ チ 1 iv 力 ۲ 7 キ 11 im 方 1% オ 7 汉 iv ジ 沂 ラ 7 カ ٢ w 來 1 110 ク 7 -貴 オ ٢ 3 76 所 深 1% ク 3 ۲ ス æ 1 × 1 朝 7 1) 云 iv 学 111 丰 也 ヲ 萬 7 1 V 1 7 葉 + 7 サ

茅

カ

花 葉

散

ユ

ク

ミレ

ハレト

歌

=

テ

Æ p ~3

種

フ

人

ナ

ケ

15

子

フォ

10

4

h

シ

ラ

1

也

Ŀ

ノ二首

サ

ガ カ

1)

ダ 叉

12 7 Ի

事

=

テ

Ill

1

7

サ 3

チ

1 久 T ヹ

3

ラ

人

7 葉

4 =

ゥ 旒

E

ナ

1] 5

ソ iv

10

iv =6

野

ラ > 茁

ズ

" フ

カ 12

ラ 野

> オ 1

ł-

~

1)

iv ナ

歌

7

1 7

Æ

1)

Æ

1

云

文

字

カ

事

ナ

3

义

Mili

萬

秋

サ

ク

ク

æ 7

7 1)

ラ 此

3/

7

カ 2.

7 カ 1)

浴

茅 人 Im ッ 1 讀 北 ナ 物 3 1) 3 3 = 1) 7 3 7 T 行 サ ナ + ノ、 原 ラ 7 ケ カ " ヲ 1 × ヲ 3 7 花 シ 發 ス テ 1) E' iv フ U 1 15 ス 又 7 7 カ 歌 1 人 = 長 IV 此 メ ŋ 1 カ 此 E 3 歌 7 ス ブ カ 卿 7 ケ 歌 =3 7 =E -- $\Rightarrow$ Ш 3 リー IJ ナ ナ 7 フ サ TI 2 ス ラ -ナ 城 シ F. チ 7 尤 ス 7 w 1 = ~" = E 7 Ŀ ノト 或 7 小 イ ナ ノ 3 7 7 1 麻 3/ 15 サ 7 ク ス -学 ラ フ 1) サ 野 n 1 ク ク ヲ ŀ 1 フ ホ Z. V チ ヺ 1 シ ナ ٠, ナ 力 2 ブ ス 1. Æ ヲト 3 サ = ラ 戀慕 1 ク 3 H 3 1) 1) 1 ŀ フ 1 ŀ Æ 2 カ フ X 工 ブ E サ ヲ Ξ ŀ 1 普 リミ 3 ラ 皿 7 ヲ Z. 1 7 1 1 ヲ 2, \* 所 云 3 也 又 2 12 ŀ 昭 1 V 1 3 12 1 ナ 忍 アリ X 事 フ 3 3 上是等 1. X Z: フ カ ٦° 区 12 11 1% 12 7 シ E ナ 1-2, 3 又萬 1 史 TF ツ " 7) 人 1 -1) 7 カ 1 朝 物 11 忍、 ヺ ン 7 -f-++ ン リ又「サ フスヲ 經 藥 篠 5 チ 30 7 イ ナ 2 1 7 :3 70 茅 テ 戀 + 原 フ 10 10 フ ---~ = 3 E TF 原 7 歌 5 " 1 ŀ in -1 云 x 不 1 5 ヲ 7 丰 7 也 " 3

ヲ 歌 7 共 3 ٤ ケ ŀ = N 忍、 ラ シ ケ メレ 12 戀 ラ 色 ノ歌 + 3 = ナップ 1) t ィ ゲ シ ナ 丰 テ オ ク ヌ シ テ Æ ^ 忍戀 ノマ フ 思 = ノ歌 クラ ハ 物ヲ シ 1 ヲ 1 : フ カ 干 7 = w ツ ソ カ = 10 3/ = 1 ラ 4 E ソ

1 Ł ŀ セ ツ 7 ゥ サ = ス X ッ カ IJ 子 ス ッ w w 7 7 1 ゥ 15 ナ t コ 72

ス

ナ

萬 ŀ 七 ス カ 丰 ッ ツ 1) ヶ 才 カ 7 æ ス ケ 1) ク シ ヲ w サ 歌 1 别 1) ス æ w ス 坳 チ オ 1 1 ヲ 云 Ł 才 ダ IV Æ Ľ, 13 也 魚 7 =6 7 18 ス ダ ッ t フ ŀ ラ 針 ٠, = 铂 w ヌ 七 = 子 1 ク ウ タ ウ 3 ナ = 7 18 ٤ 3/ 丰 1 3/ 7 in カ ケ ウ ップ ケ シ P = ヲ 7 若 ラ ナ ウ ケ 11 ハ ス ŀ ツ U 1) ク ス IJ ナ 水 ナ ク Æ オ +} 1 オ シ 2 17 ッ Æ 1 = ス 網 ጉ 1 Æ æ 1 ズ 4 12 テ IJ = カ フ ۲ 力 ナ Ħ ブ 7 ٤ ズ 18 ウ ク ナ t 7 ラ ス V IJ 3/ IJ +} テ テ 17 ス ٤ ズ iv ケ ウ 1 ŀ ヹ ÷. 7 工 ズ 1 ۲ ケ 3 ヲ ゥ ナ か シ 丰 ኑ ト 3-10 = ラ 中八 テ 7 板 7 イ ツ 3 ハ ホ チャ 泛 1 1. ヌ シ 力 ١,\* = ナ 力種 人 ナ E ナ = ツ = 7 1. 17 サ 1. 力 ケ ウ ヲ イ p p

> ケ ゥ 1 17 力 ウ ٤ 3 t 1 ユ 7 力 7 • 1 2 ス = ク ٤ ナ ッ 7 ハ ウ チ ス テ 浮 ク 笑 w 緒 シ 1 h カ

3 イ セ t オ ~ ٤ 7 ス ラ

1) 但 ጉ 町 ヲ 力 IV Ł オ 1) 3 7 ナ 拷 水 ブ = ク Æ ス Æ ナ 7 セ 1 歟又萬葉 子 繩 w 1] ガ ス 7 1 w ~ テ ガ ヲ 2 iv 丰 7 ŀ ケ ッ ケ ク 緒 3/ = 7 1) 私 ツ ナ 力 グ = ク IV テ ナ ŀ 云 IV 1) 1) 5 ナ V ŀ u ナ 1) 7 シ ナニオ 萬 ス 1/8 ハ 物 + 葉 ヲ 才 ~ 1 タ 1 3 1 7 シ ブ X ヲ 1 丰 Æ イ ナ イ = ر ر w ス IJ ۲ カ ク ゥ テ 網 > V タ 7 w テ人ヲ 萬葉云 テ 綱サン 2 18 ク 2 1) ケ IJ ナ Ի アマ 1 7 ナ ŀ イ 手テノ ツ 7 3 = イ テ出 繩六大 ケ 1 w 七 グ ツ V = 網デイ 「タ テ タ 7 1 æ 1) 3/ = 1 ハ 4 7 7 魚 丰 ツ 1 7 ナ タ " ヺ フ IV 3 = ŋ 3 繩 ク 7 丰 X ホ = ハ 7 w ۲ = イ ナ ケ フ ) ヲ テ 1) 4 1 1 ケ t ナ シ = リ 7 子 ナ ッ ጉ ウ 致 新 網 IJ w 18 3  $\Rightarrow$ ス ١٠ 1 1) IJ ナ ク 長 院 ク 日 = 是 = 永 , 卿 本 ツ オ ナ IJ ٤ 御 N ン 3 ナ 丰 ナ IJ ッ 本 シ 紀 ダ ス ッ 有 IV ジ æ ツ

过 昭 古 今 集 註 卷 +

3

IJ

1

7

ケ

ヲ

F 7 カ 3/ ク カ = Æ 也 1 サ 4 1 7 ク イ 1) 工 1 3/ ラ ナ 3 1 =/ ラ ス 70 ٢

牛 テ イ 7 Æ ス ユ テ 1% フ ダ 7 3/ -7 ッ ガ 7 1 ヵ゜ 1 1 3/ Æ ナ ゴ Æ 4 = 3 丰 1 F X ユ 7 フド 3/ 1 1 ヲ 1) 耄 ク K 7 7 +) 1 カ ナー・頭も 12 3/ 1 ソ ス ナ w æ F キラ 才 ッ 1 E カ ハア E Æ 1 3 F \_ 鳴シ フ 力 丰 3 ナベ Æ リナ X Ł 3 タ ナミ 1) ŀ = \_ 3 w クト 3/ 鴨 3 ニハ ~ モ葦 ナ メ Æ ス ナ チ無ソト IJ フ 3 7 IJ 1) ヘヹ 1% 3/ 7 必也 テ ッ 3/ サ 7 1% 鴨 鴨 + " 2, Æ 牛 -ナ

オ 7 フ Æ + ٢ = カ ソ 1 ス 也 丰 = ナ 力 w 7 イ 21 3/ 水 1 ラ  $\Rightarrow$ 8 T \_

ヲ 7 ユ ٢ 云 メ シ フ 子 サ = #11 3 h カ 工 ス ٥, 1 ツ w 3 七 7 1) 牛 + 丰 1 ナ シ ラ 力 水 =/ 4 1 2 Ŀ Æ 1 1 3 フド ス × 7 1 1) 1 Æ  $\Rightarrow$ 3 3 V w メ ハ 1) ハ ハ 3/ ス 力 17 ラ 丰

天 歌 ク 12 2 德 1 15 7 ス T Æ 歌 华川 カ ~ 者 才 合 ヌ F 右 13 E 7 枢 歌 フ -7 2 4 -7  $\Rightarrow$ N 1 イ 久 ヲ 1% 3 フ ナ 7 也 w 7 1] 1 ŀ 1 ŀ 力 = 3 æ 萬 iv 3 5 葉 1) セ 1 \_ ユ 1 3 ノト w t X -2 F 1% 3 18 + ---メ タ Z 1) 3 7 7 サ X 而 1 w 7 3

\_\_

イソ

サ

4 3/

ス

ヒコ

テフ

3

=

テ

2

21

7

w

3/

イ

V

E

Æ

1

オ

ナ

3/

=

17

F  $\Rightarrow$ 葉 \_ ク ヌ セ F 18 と • 3 歌 オ カ ク w カ F P 1 3 -カ ١ر 21 Æ L :: 7 キ 云 -7 サ ス カブ to 7 j. ^ ス 3 ラ ス カ 7 ス カブ ^ ン t せ iv ラ カ ガ ラ ラ チ -42 子 チ モ W 1 子 サ 1. 1 + 1 -}3 \_ 1 ス 1 7 1) 7 w 也 ナ 7 5 -3 と 10 文 11 シ カコ 3 12 12 1 1 ナ 助 カ THE ŀ 73 V 10 1% 毛物 1 人 10 萬 デ 12 カ 18 1 此 葉 1 ソ  $\Rightarrow$ 1 To 7 オーウ 訊 E 3 集 才 ٥, 3/ 12 才 E ホ =3 7 丰 ツ  $\Rightarrow$ 7-=/ ナ Ł 35 + 7 ス E ス 1 7 IJ テ 73 灰 70 カ 20 2 17 丰 1% 31 ラ 7 テ ス ナ E ~ 111 71 7 7 37 萬 F 4

1 1) ٤ コ゜ カ 又 F 1% ~ ス 云 カ 3/ \_: ラ 17 茁 Ł 東 7 \_2 ナ ス Ŀ 1 工 5 1 我 水 7 3 0 111  $\Rightarrow$ E ٧, ナ 人 7 F \_\_ 片 ン  $\exists$ ケ 3/ = 絲 E 1) 7 せ ダ ス 2 ---jν 7 1 ナ ツ ---ナ 1) 7 -72 ケ =/ 11 獨 V H ŀ 未源 12 ŀ F 1 イ Æ 7 77 ン 7 5 カ ガ

1 ٢ モ 才 ナ 3 7 ヒ 7 Æ H x 也 E ス F 1 1. 1) 4 1 7 1 3 × 70 テ 12 1/1 サ ス -E

ナ ッ 2 =/ 1 3 ヲ 1 タ " ラ = ナ ス 7 1 æ Ł ŀ ッ オ Æ ٤

IJ

IJ

1)

我 iĽ 夏 ホ 4 = 3 ナ 17 1. 中 中 Æ u 思 テ 丰 ボ ス ŀ 又 7 b <u>ر</u> ナ <u>--</u> = ス 下 ナ 形 モ 工 蛇 タ ١. 云 بتد 4 ケ 云 也 ŀ ヌ IJ イ ナ ナ # IJ ^ 3 ラ 投 ッ 夏 IJ ^ 俗 燭 ナ 車 4 ス 18 = ŀ ŋ 3/ ŀ ۸, シ テ ヲ IJ 玉 カ ٧, 是 ナ ホ 1 = 虫 シ 前 タ 事 7 = ヌ 火 歌 カ w ナ 1 N ラ 同 ィ ヲ テ ヲ 7 燭 身 子 1 心 ٤ Z 歐 ケ 七 1," = IJ ヲ 此 ス テ 2 3 イ 心 ヲ 歌 テ ダ 牛 身 ッ カ ス æ ラ 其 ラ ラ ヲ

イ 7 ツ p 1 テ シ カ æ 1) = ケ Ł 1] 3/ カ ラ ス ノ 7 ラ 子 1 æ 7 牛 1 ユ フ

キ 斷 秋 是 フ ŀ タ 此 ユ ) 奇 フ 天 #1 北 ホ ~" 文 = ツ ١, ŀ 集 風 = 子 白 ン 1 = ハ 居易 詩 ۲ ス = ŀ サ ŀ カ ヲ æ ナ 2 作 大業 = W ク y ٤ 11 タ サ 四 イ w ラ 時心惣苦 U 同心ナリ メナト in ボ ナ ソ IJ 牛 ナ 力 奇 ŋ = 異 7 膓 1 U 7

> テ ۲

7

シ

V

3/

E

4

2

ホ 叉 水 IJ ŀ ヲ ス ١, バ 7 日 丰 ラ 本 1 ١ 紀 種 = 1. = 云 ホ Æ ŀ 船 ナ IJ 3 帆 × ソ 1) = V 萬 -6 ヲ 葉 火 H 1 稻 æ ン 1 穗 フ 1 ソ w = ナ ン

> 歟 ŀ D' ŋ 1 2 t タ フ カ × ナ 7 1 1 ハ w 3 = = 叉云 叉 サ カ ٤ Æ ٤ ホ ホ フ ハ = 力 ヲ ナ シ シ 丰 ス レナ 1 ·12 = 2 w クレ セ ワ 工 1 イ ワ ケ チ ) = ス ١, ウ テ サ V 7 牛 ナ 1 ワ P ラ モ ラ 叉 カ サ ホ ス æ 丰 æ 丰 賣り(頭書)カリバトハハ早田ナリ 又「秋ノ 此 4 = ハ = = 1 ダ = 彐 ナ 集 タ他と 7 7 × = æ ŀ ケ 歌 ケ IJ t ワ 7 3 ホ 力 文 テ ナ ルッタ フ × 云 = ホ ク サ坂リ ハ ٤ w 7 1 = ナ w キ テ ヒ カ カ イ フ 1 ホ E t ス イ ス テ × 子 ホ 7 子 = .4 = ルチ云 叉云 7 丰 カリ 1. æ ン 1 ダ = ウ ナ w イ シ イ E U ヒ 1 ワ テ > 3 ハ 穗 ヲ ゥ カ X V ヌ 3 ス 子 1. 叉 IJ 7 H ホ 七 力 IV 7 チ サ タ キ 同 + 7 = 1 = ノ イ ラ 事 サ ァ 七 ホ カ =

牛 ケ 7 3 ۲ X 1 = Æ 又 IJ 7 w X 春 Ł æ = æ 1 ラ æ 7 w X = V 7 1 V ラ ٤ æ 4 = 1 1 ヲ ズ ヤ E 7 ッ 11 1 1 æ イ イ タ 事 ٤ ~ ガ カ 3 歟 ŀ IJ 1" ハ w ~ と ズ メ = 1 私 ヲ ŀ 或 X 云 7 3 æ 人 = -6 メ 云 w V w IJ ŀ ١, 7 イ V 1 五 = カ 音 フ ス ~" ズ

 $\dot{\overline{T}}$ 

7

ユ

丰

タ

7

1

カ

テ

=

ク

タ

ケ

ツ

•

7

カ

Æ

オ

E

昭 古 今 集 註 卷 +

顯

٢ ن w 1) 3) ŀ フ ラ ス ŀ 7 テ ラ \_ 3/ ユ -~ × 丰 ぴ 萬 ウ 丰 ŀ = ケ カ ヌ ユ カ 葉 7 ス 工 7 カ 7 丰 丰 ス 工 7 Z 3/ A カ カ æ 1. 25 = ii. ス 沫 汉 1 y ツ 工 2 U ナ 栗 雪 ケ IJ シ 牛 = X カ 1 丰 テ 歌 牛 7. }. ン ナ カ 1 ナ テ 7 17 イ 云 フ 1) ン ハ  $\supset$ K ウ 颇大 ナ 赤 カ 7 12  $\Rightarrow$ 工 ツ [\_\_ Ħ -i)-3/ -ヌ 11 消 是 ク ÷ ヲ ナ 汉 ユ 18 フ 1) カ 1 心 1 7 丰 w 7 ウ 本 雪 カ 3 IJ ナ 1 7 ク モ 7 フ ガ 1) 1 11 丰 -ノト 歌 ٤ テ ス 丰 イ 25 7 ス ク æ 工 歟 7 Ł t ラ ヹ 3 カ グ ラ ユ ス テ テ フ ク =3 ~~ 牛 + ラ ŀ ク X ナ 子 フ 7 V 叉 シ 12 1 11 IV イ 3 カ 1 ガ 24 U 云

ク -ス 務 t 生 ヺ゙ ٢ 遺素 越 1 也 1、陸 子 3/ 1 到 集韵 與、變、 1 4 ス 機 菅 丰 .71 日 侵 1 1 似茅 良 也 根 子 省 漢 也 3 書 而滑 学 ス 1 心豐 坡坡 15 111 相 丰 為詩 記 汉 ヲ フ 如 兴天双 不 1116 傳 12 傳 ス 工 凌 毛根 雖 有 ガ 丰 節 髭 陵 有 1 F 雲氣 m 如 ケ 才 五 施 ホ ス 寸 麻 ク 1 之謂 亦 管、始 1 無 イ カ 有 通 イ 孫 白 1) 411 21

長

K

フ. カ

泞

子誤

3/

ゲ

也一

2

グ

丰

-

タ卵子

12

啟

モシ

+

1

3

19

ナ

1)

去

叉

云シバ

ラ

1 7

ŀ

ケ

1)

颇

7

17

Ti.

同

4

Z

伙

7

愈

效

テセ

7

7

丰

7 1

ヤ

-2

12

サ

1

=

1

3

キコ

テ

カカョ

オ

2,

當 霜 風 ガ 1) ク 侵 木 陵 E p = X 雪 木 一雲智ヲ 霜 H 凌 根 ウ シ ijΙ 1 7 花竹 ナ 生) 自 11 淬 ラ カ シ 1) ヺ イ T 清 侵 几 7 1) 凌 1 疑 フ カ 也 零 凌 凌 本 輔 ス 义 卡 力 = ス 1 凌卜 如 1 ナ 卿 カ 犯 1 ス カ 侵 3  $\exists$ 霞 詩 凌 也 グ 1 1 1) IV 10 E U 一云是放 月 雲 4 雪 條 X IJ 3 + 7 ゾ ١٠ 3 侵 少 X 又 凌 ナ 12 1 1% 1) 也 7 床 凌 凌 遊 風 計 ラ オ 1) > n ケ 3 V ナ 使 Ŧî. ナ ナ 7 E 1 3 -7-1 1: 紫 荷 1. 有 氷 侵 ク ナ 1º ス ウ 1) 3 17. 12 陵真 子兵 復 Like 凌 ラ 云 ii 12 1 Æ H 和 Z ) 3 ナ ナ H 卡 宗 111 1-丰 111 1. 6 , 从不 女一說 化 釋 2 花 1) ク 1. 風 ナ -1-1 ÷ = 面以 ラ 1) 竹 7 通 ツ 11 云 70 丰 0 办 ク 得 字 7 版 件 火 木 U 12 カ 匝 是上 凌 7 ---9 1: 3 4 菊 水 韵 陵 ラ 17 3 1) 於二 1) 12 U 华 113 ŽE. テ 11: 7 石 風 名 III 7 V 带 カ 7 4 到了 グ Zi

= ダ キ フ ۲ クレ ユ 私考云萬葉云 丰 ケ ナ ヲ楷シ オク 7 -p 7 ナ フ ス IJ カ

也ナ カトリ ン F. ス Æ セ = セ ヌ 也 , テ ナ ij t ワ 7 私考 カ + V 云宋 丰 4 シ 韵云凌者 清 輔 キ 云 = シ 7 歷 ナ 也 ガ × 然 テ 者 侵

過トハ不い可い云 凌雲臺ナド 一凌諸侯 ナベテフリ イフ -云 モ ッ 7. 雲ヲ × ゲ 1 110 歷卜 ハシ 侵 ナッ、 イフ ノギ 叉史 心 フ *ν* = 記 ٠, ユ 云 力 キ ナ ŀ 炎帝 ィ ٤ ナ フ 欲 4 モ

۲

3

w

+

タ

ヲ

カ

シ

テ

キ

V

頭腊スガ 1 ノチシ 3/ , + ノギ ŀ 3 X ٠, 無 y 根ヲ 謂サレ 11" 雪モ 11 萬葉集 不」可」凌軟 =

# 顯 昭古今集註卷第十二

題不 知

小

野

小

町

イ

ŀ シ テ せ メテ ソ + w コ と シ キ ŀ キ 4 タ -5.57 > 3 w 衣 7 カ

夜戀 リト 衣 サヲ 歌 イ Æ 7 ヲ カ Æ 3 袖許 **-**イ カ ユ カ メ イ ス パカリト + フ IJ w と ス 題 IJ シ Λ Ի ラ ヲ カ = = 此 テ ダ ャ カ カ Æ シ 萬葉 ッ + = ィ 隆 1 p 小 ナ 子 源 ユ 野 難 ッ ス ラ ス ŀ 歌 メ 小 ズ ジ F カ ナ 7 町 絲 : y V 云 = ) ゥ + シ 袖 ガ iv べ ソ ユ ŀ = テ 歌 衣 ス w 111 3 ヲ 7 w コ 7 3 = カ ヲ 力 ナ Ł ユ 2 ハ 夜 w IJ IJ ユ ワ ユ Ħ ١,٧ 事 <u>\_</u> **シ**/ メ 或 7 × カ ナ ^ 1 Ł ナ ラ 抑 テ 說 衣 テ 1 IJ = y ズ 云戀 1 = 力 國 シ ユ イ せ 事 才 1. ダ 信 メ フ 2, 工 7 = Æ ゥ ケ 卿 詞 ŀ シ ス 715 フ ~ 云 ゥ ス iv. ク 歌 = ル ッ V ラ 同 ン 合 ナ 事 サ フョ N. 左 ナ テ ŀ ケ カ

校 ŀ æ 俊 侍 総 25 仲 110 ~ 歌 ٠, ソ 工 實 ŋ イ 3 × = 7 ナ = ン 3 カ 是皆 デ ラ 2, イ 10 侍 7 7 E 佀 7 當 ナ ゥ カ ヲ w 3/ IJ 胩 ケ ナ ~: п 之英 宁 タ ス 2 1% カ 案 1 ~ = ラ 才 件 1 3 w 1 2 也 歌 ラ 文 袖 タ 1 然 合 12 2 チ イ 7 m 作: ŀ フ 老 ナル ~ 尙 秘 ナ チ  $\Box$ 暗 HI 17 ŀ 10 \_ 衣 隆 伯 蓝 218 1 Mi ~ } 源 葉 {rhs ゥ 7 陳 又 歟 俊 15 +}-21 狀 7 後 賴 デ ス ダ カ Z

イ 詞 ガ 云 4: 道 未 7 チ 衙 シ 達 ガ 尤 = æ 許 口 テ ッ イエン ---イ 愼 谱 y", ~ ケ 1) E デき w ケ ラ w = ŀ 人 1 18 7 ワ ウ ザ ダ シ = ケ w 3 3 日 シ寅 テ 7 2 七級

敎 1. IJ IJ ヲ 3/ Æ w 3 ン ク ン テ ~ ラ 1 IJ 卿 ヲ カ ١ر Ł 7 北 1 7 1 1 ン 云 1 11 N 東 3 7 ~3 \_ ツ シ 貓 消 ナ 物 7 ス 7 > æ 也 カ ラ " 12 ナ 宇 ツ 又 ŋ 7 2 ズ 1  $\Rightarrow$ イ 岩 奈 ツ 15 カ ッッ 1 15 æ 狭 良 出 = イ 110 1) F. æ 國 7 京 ŀ 渡 デ Ł イ ŀ 3 海 ----ナ ラ イ 1) 1 シ ~3 ٥, æ 2, 陌 御 智 ŋ 7 ナ イ 1 是 茂 ス PULL S ~ カ カ 3 長 7 7 IJ 12 2, 會 2 1 37 谷 カ オ ナリ ッ 10 ~ キ 뱎 ル 7 物 イ テ イ 室 道 4 1 ツ 3 ヅ w 西 4: ŀ " 1 ^ æ = = 文 = 7 Ш 1 IJ デ チ ケ ラ ナ ナ

之間

阴泉

抑

Fill

所

早

記

文等

13

身

逃還

寂

山

暗南

事的

因大

法

文

流

布

天臺

Z

15

御

消

師

何

而通 路 寺 --1) 1) ŀ テ 100 不 æ 7 1 イ 1 3 カコ iil 勝力 女 審 カ ラ チ 云 フ フ 橋 X 四 3 フ ツ 學 依 部 能力ケ 御 是 1] カ 111 #1, ナ ŀ 12 卷 11 因 1) 丰 後 岩 負 ク IJ 111 1 7 चिं ナ チ 明 本 能"又 ナ 撰 狭 13 カ 智 坳 1 E = 條 唯 イ ナ 7 1 茂 皿 1) 1) 1 V イ 部 t. 詞 延 ザ J° 5 テ 1 シ 照 イ ナ 1 1 フ 1 厅 1 1 7 1% 7 1] æ iv 12 云 7 善 被 4 力 ザ 御 1 1 ヲ E 12 -70 カ 12 ン 祁 1 デ fali フ ٥, 丰 3 3/ 1 1] 11 -> 3 10 西己 被 厅 テ ケ 被 Ill " 西 ラ 1 ヺ゙ 7 1)  $\Box$ ъ V ン 流 AL. テ 1 ヲ カ カコ 12 1 イ テ ヲ 12 ツ 召還 直 書 伊 耐 ナ 1) 1. 高 云 15 イ 7 " 术 如 ナ 1," 1) テ サ Sin 1 汉 TI: E E 1 1 何 之後 18 之 叉 寫 113 カ IJ デ ツ カ 道 谷 梨 テ .7° 15 オ -J-伊 7 ヲ ラ ナ -行 宁 欲 烈班 賀 1] 1) þ° 移 ŀ t 1 1 1 =5-老 カ 7 テ 义 (J) H 邸 -ッ 12 Si 1 7 外 7 是 大 33) æ 1 修 1 1 Æ 随 條首 御 \*和1 · H 77 物 ++ 77 ()I 介 1 IlI iv 木 佛 椭 hithi -1)-" 小儿 绝 ナ 3 f Ffi. 寺 路 寺 1 密閉 · y ナ ヲ 原 17 敗 1.

錄 云真 生 静 任 河內 師 國 僧 人也 綱 參二龍竹生 補 任之信 鳴一得二辨說 越 後 國 人也 古

由 載 寬平 傳 御 此 時 集作 后 宫 歌 老 合 也 歌 和 歌 敏 物 名 行 朝 雜

ウ ۲ ワ ツ 7 ٤ テラウ ナ ラ ナ チ ヌ w ナ 力 = ユ キ カ 3 ゥ ユ X ダ チ

=

敎長 萬 ユ 葉 ク 그. 卿 ŀ + = カ 云 直 ウ w 3 道 ヲ チ フ ŀ ヌ 人 カ イ n 3 ガ フ ナ IJ ナ カ ウ カ ユ ŀ ŀ ツ 3 **ر**ر 夢 云 \_ 7 歟 = 7 = ゥ ハ ユ Ł ユ ヌ シ チ 丰 7 キ ナ ス A ŋ ガ 私 ス 10 チ キ モ 云 ŀ ナ ŀ = カ 工

ŀ

御

ユ フ サ v ヤ ホ ス ク ス w ユ 3 1) ケ P ス = Æ ユ w チ ŀ Z Æ 也 E 力 1) 3 子 ハ

メ

=

丰

丰

3

ŀ

ャ ٤ ッ ナ

ワ ソ 來 カ = ユ JE. フ ٤ ŀ 111 サ ユハト盤 カ V 7) 7 ŀ 蒜 11 去 ケ ク ィ ユ フ 來 フ 瓺 同 カ 昭 サ 事 + 老 ŀ IJ 讀 也 子 二萬葉二云 ナ iv ŋ = オ 15 心 萬 葉 ク = Æ 異 3/ ハ 7 = 清 ŋ ŀ æ 然者 書 輔 春 7 7 テ 云 去 勝 ユ 工 ケ ١١٠ 世ル カ ŀ = ()頭 ŀ サ カ 讀 ŋ ケ テ リホ

> 力 ヌ \_ ハ Ł 1 Æ 七 ス = w ナ カ Ł ク ダ 7 Æ 1 3 力 ク v テ 4 ŀ シ

IJ テ w 3 モ 後 歐 w ガ ハ \_ 1: : ナ ク 3 證 E モ カ 1) iv 水 歌 ク 1 3 ナ v 俊 オ 7 ラ テ 賴 水 3/ 术 デ ナ 朝 ツ 身 臣 1 カ ŀ ヲ 歌 ナ ナ ハ 3 申 ŋ カ 3/ X = 俊 ク シ 121 3 ì 惠 n カ = 我 ŀ 1 ガ æ 申 工 身 カ IJ :3 × 侍 不二出侍二 ヺ 3/ ŀ iv シ カ ナ イ 證 ク ダ フ 歌 諮 w ~ Æ ‡ 歌 p 1 ク 水 今 ナ ラ 7 3 3/ ク

藤原 興 風

ン 丰 7 3 v = フ ナ iv ŋ ナ ヌ 3 w ス > 1 = = 3 チ ヌ V ハ = ヲ ツ 7 3/ ŀ

IJ フ = ホ = U 國 佐 カ ヲ ツ 丰 .史 水 木 ツ H 7 テ 咫 フ 記 1 ヲ ク 難 泂 衝 ダ シ 3 = = 波 尻 テ ŀ イ 石 u 江. ナ 3 ナ 1 ` ٠, サ イ ヲ カ IJ 111 = = 始立 識 ケ ス ツ V ヲ 示 ŋ ク w 1-ッド 3/ ン 叉 ŀ シ カ w 工 3 水 ケ 1 ヲ 3/ 7 標 ŋ 尾 1] モ ナ 3 1 一之由 又 IJ 7 ŀ サ シ 叉 澪 江. ツ 3 カ ラ 東 ク IJ 注 1 1 ス 歌 3/ 1 載 12 1 ボ -E デ ス 机 中 iv カ フ 1 7 1] ŀ ケ = カ ナ IJ 7 丰 Æ 3 買 カ 萬 = 1 ŀ 薬 1) =

丰

7

カ

丰

子

ŀ

清

輔

云菊

也

サ 3 フ 讀 111 ジ 萬 ヲ 北 俗 子 w 葉 又 1 1 1 3 æ 七 順 7 ٠, 3 x 同 フK 3 和 = ヲ 名 X 1] 7 物 尾 ٠, 1] 37 1 = 7 ٥, w シ E = 萬 水 3/ ラ カ 斗 脉 ズ ケ 莱 1-デ 船 3/ 1) 3  $\Rightarrow$ テ 1 Ł ス カ 和 3 勝 ナ 丰 ヲ 歌 命 = テ 3 " -٥, 七 w 3 オ シ F カ 3 ŀ 3 7 1-ツ 21 ナ ヲ 讀 ク ツ サ カ E" ク テ 12 t 丰 侍 3/ 3 丰 ヲ ケ

カ シ 1) 又 w 7 3 1 2, チ F 3 3 キ ナ æ ъ バ w 1  $\Rightarrow$ u 3 2, ス 7 ノ 7 1

臣 ナチ 1% Æ Æ ŀ カ 玉多力 机 7 æ 7 7 = 云 H 45 京 第二へ ラ ス 詞 セイ 。汉 7 + モ テ 7 ク 極 7 D 愈 7 モ或 命 7 汉 題 1 ダ 御 }-工 7 息 1 根 カ 1) -7 メシ 7 所 ス 萬 リパー 3 ア如シ 葉 テ 1 7 3/ 7 1) = 此入 次 本 先 1 3 相 チ 樣云 7 此 ⊀ 工 = チ 1 Æ 謁 ナコ 1 ラ 云 イ 才 ブ 12 示 1 家 歌 歌 云 ホ w ブ ン ドバ ク Ŧ: ク II: 7 ŀ JI's 毛二 歌 畑 イテ 釋 フ Æ 3 歌 ダ 111 1 Ŧ 此 11 ヲ ŀ w 工 工 4 ス テ 7 7 王: 工 7 7 イ 1 w 1) 手 終 ラ カ = 3 ス 3/ 3 グ ス Ł フ 牛 1] デ ŀ 哥 歌 物 1] 1 ハ 1 1 小書 ラ 您 此 ナ h ス 工 1 w レ説 萬 か 7 3 集 賴 w カ ト玉イタ 華 朝 7.11 7

义

Zi

ウ

1

7

也

7

77

5

•

ス

12 18 工

1 1 ス

チ

1.

イ

٤

W

11

1

别

)

[1]3

半

 $\supset$ + # 工

> ス 3/

1 7

嗣

趣

1 イ

丰 フ

= =

工

X 18

1] 7

ナ 110

71

æ フ

Ŀ

١

ズ

工

ラ

ŀ

1

3

ヤ

ウ

1

ス

3

3

1)

1

X

ツ

チ

グ

~~

1 1

7 チ

1% 7

I Æ 7

1 カ

K.E 7 ツ 1 \_ 1-

フ

イ

E

7

1) ス 次 1)

 $\exists$ 

-汉

7. 12 1 1 -

T.

工 3/ 才 ン 7

ノト

7

-71

テ

才

ナ 7

ゥ 2 7 カ

工 1) 7 2, T

5 3 フ

ナ

5 ヲ

1

æ

1% 12 才

7

5

2 +

" 3 ツ 7 ٢ 哥太

17

7

7 "

0 Ł

7

7 丰 12

Ξ3

Ĩ

5

7 3 ヲ 1) ヌ シ =

丰

Æ

ク

1%

カ 1 ヹ ヲ 工 -ナ 7 テ 1] 3/ ŀ ハ 七 1% 7 7 ナ 4 カ 2, 3 カ 2 今 ナ ٠, 1 ----1 久 1) 条 1% 2, イ 7 7 シ + 1 F 7 ス 1% 1 グ 3 歌 イ 7 = ۷, ~~ ٤ 3 1% 力 1 1] ٧, 3/ 1 ツ ナ IJ 7 2 ٤ = カ 2 3  $\Rightarrow$ ヲ 1 = ケ 3 1 テ 1 1 1 七 フ 15 カ チ サ 以 イ 2, メ V 7 イ フ 11 フ 1 Æ -40 ン ٥, 7 新 歌 1-7 1 1 ス 力 イ 1] 7 1-ィ Ł 3 w 1 又 ノト ナ ツ フ ĸ 25 7 3 -7 哥太 ~ " 1% 15 -3 ス 1% 3/ 1 3/ イ 1 V 7 1% -J-1% 411 1 ツ 7 チ 1% ŀ 7" 工 -70 5 7 1 E 7 フ 7 七 ----1 + 11 1 1% 7 25  $\Rightarrow$ 

1)

テ

後

\_

æ

7

サ

ラ

メ

ヤ

Æ

4

カ

ス

イ

F

Æ

テ

又

テ ダ チ 3 ス 又 イ ケ ク テ ク ケ Ł ス 3/ ガ 3/ ٤ 工 1/2 ٤ Æ ス 叉 テ サ ィ オ נל オ w w ス Æ 1 ア 3 緒 ナ ダ ナ ŀ 3 P ヹ 7 کار 水, æ ジ 1 ラ 1) ダ 敦 ヲ ッ シ ク 1 ソ 工 = 降 ナ ヲ Æ V æ ヌ ٤ ٤ 7 ィ 2 ガ + = 此 IJ ヲ 1 べ 4 v Æ 歌 。日 3/ 4 ŀ 别 7 ヌ ヲ 3 サ 7 島 叉 ウ 7 イ 類 1. ス イ ボ ス チ せ 1 ラ テ 意 3 ッ ダ = イ ダ フ 2 æ 7 4 7 歌 或 ナ 3 w カ ダ フ 工 3 雜 ナ 此 10 ヲ ヤ ダ ナ 7 7 メ ホシ = 7 = ハ ツマ > ヲ > 集 物 w イ 1 V 7 3/ ŀ 2 4 カゴナ ナ 1% ナ ヲ ヲ 1 } 1 ス 3/ 7 110 プ 10 ガ 3 1 3 æ オ Æ 2 カ 沙口 ツ シ タ + 3 ٤ 3 メ 7 ŀ 7 才 + ナ 71. オ V ゥ 7 イ カ + ダ w IJ 3/ 水 イ イ 2 キ 7 7 ク w 1 ス ク 工 = ٤ ユ ٤  $\exists$ 3 ヲ チ 3 世 ŀ 毛 10 イ ス 王 ス チ 丰 j. 少下 = 1] ŀ ス イ イ 工 カ ۱۷ 3 ッ \* w ダ ッ ジ ヲ 7 シ Ł ダ サ ラ 10 ス カ 18 ッ 1) 7

JL. ナ ブ 1) 7 云 ラ ス ブ 3 3 ダ テ ヲ イ 3 ズ ハ ズ ツ 2 ŀ 3/ 1 2 フ ŀ テ iĽ 1 ウ ナ フ w 1] 3/ Æ シ 1 ŀ ブ

> 古 3 カ ダ 3/ 3 IJ ヲ ヌ 1 ツ鏝シ ス ナ 緒 歌 3/ ナ 7 7 æ 7 3 ホ カ = ٤ = 是 L 110 1 カ w フコ 1. 子 3/ ン 丰 1 11 ٤ ソ 7 是 7 7 1 ヲ モ 1, カ ス 緒 ウ カ 短 イ ハ 3/ 3% ŀ 毛  $\exists$ 1 力 ス リ ツ 或 汉 ス 丰 1 1 + Æ 7 ク ナ 7 7 ス ナ 7 IJ 1. ヲ イ チ 7 w 1 サ カ 3 歌 今 ス 7 1 モ w メ メ ヲ 毛 ٤  $\exists$ カ 2 ヌ Æ 中 テ 又 ソ P 1) w ダ ナ メ 1. 1 7 ٤ モ 心 物 ラ ŀ ŀ 1 }w 云 歌 ŀ タ = 7 イ 詞 也 ダ 貫 ヲ ハ 3 3/ ヤ ノ ナ ۲ ハ ス 7 1 叉云 シ メ ヲ ケ 緒 ク カ フ チ ツ 1 也 ŀ 丰 7 15 集 ナ 云 IJ IJ 丰 1 カ = V IJ 云 カ ダ ナ = ナ ラ 也 ナ ヲ サ ダ ワ IJ ッ ラ 7 云 ٧, ŀ 12 w 今 カ 惟 カ ス 1 3 IJ カ ズ ŀ ハ ズ Æ 7 ラ 香 丰 テ シ 案 7 カ V ٤ イ 1 フ ヌ =  $\rightrightarrows$ ス 親  $\Box$ 1 IJ 丰 テ チ 1 Æ = } フ  $\rightrightarrows$ ダ Æ ハ 年 ヲ 7 1 玉 7 4 3 ۲ ヤ ヲ ッ ~ U • t 歌 ゥ ウ 1 1 ダ Æ ٤ ス 1 ガ モ 7 w 緒 ヲ 云 ス タ 3 カ テ 緒 = 7 1] ウ П V = 12 テ ナ ス ダ 7 ッ タ ヌ ~ 3 I. 18 イ 力 7 ラ 力 ス 7 Æ カ +

頸

昭

古

4

ナ

 $\exists$ 

1)

4

2

凡

古

命

1

讀

12

歌

ス

ク

ナ

シ

午 11 U = フ モ iv 工 ナ ナ 7 グ シ ナ ク ٥, 71 ラ = U 毛 2 ラ 子 1 ユ 7 丰 1% 1]

草 fa テ in 殺 秋 ح ا = E イ ガ 葉 君 長 キ #11 T V セ 7 主 炊 卿 Ш ナ +" = = ヌ Æ \_\_ 云 7 TI ナ 1) 1 フ ガ カ 3/ Ŀ 工 云 ナ E 1 兩 P テ 1 12 \_ 111 ~ 力 1.2 一可 藻 -7 紅 iv  $\exists$ 1 -(2 Ł  $\exists$ T ナ ナガ " 3 1 7 ۱ر ソ -72 Æ 案 イ 11 p ナ 12 N 1 =1 => ス TI 台 ナル 工 フ 1% 7 111 > 7 1 3 V 夏 ラ フ 1) -3 ---ガ 7 13 18 15 候 66 ケ ر ر 5 ヌ 10 æ Æ 2, 7 佃 綠 ユ 1 败 ス 子 V =/ \_ V 是 学 召 1 = ズ 1 ナ 二 人 力 7 紅 ス 1 ク 1 3 イ  $\exists$ 18 3 云 7 字 此 衣 7 カ Æ Τi 1 × 15 イ -7 萠 義 ナ 7 1 1 w 2, 10 ス 17 1 ---子 13 雷 ŀ ク 1 T 2, 1 テ p 丰 3/ イ ---TI 子 ン 水 義 前 7 4 カ フ 3 ٥, V 7 歐 ラ 1 1% \_ フ ユ 1 ---7 = 義 w 7 ヺ゙ 1) 3 ١٠ ヌ 赤 ナ 其 又 木 丰 1 p セ

### 題 不 知

ヌ 3 3 1 ナ 7 Æ ナ = 1) ナ 3 カ 1) V テ 7 7 7 + : グ カ フ ユ æ = ラ

1

ナ

1

-E ラ イ 7

:3

X

12 E 7

71 1 E

交

717 フ

ŀ 1-ク

半

ス 3

ナ

ク ウ

-5

1

ゥ

ŀ

イ

=E

=3

ŀ 3

-E

1

1

ク

-6

3 1

ン 丰

E

13 フ

丰 ク

ナ

1

in

7

7

ナ

12

7

 $\Box$ 

Æ

3 E ン

敏

長

卿

云

水

1

 $\Box$ 

六

n

7

源

用

3

1

E

ナ

ナデ

テ 5 7

E

7 12 =

1)

ス E ク ツ 1 =

ナ 5 义

-3

=6

1%

天

7

7

フ

12

身。事 オ 云 12 12 四也 = 1 1 Æ æ 派 フ ١٠ 云  $\equiv 3$ =  $\Box$ 一云々 此 派 ツ 7 = 17 字 ナ せ 7 歌 1] 7 yū] ナコ 1 y ١٠ 浦 T 九 然者 111 ナ -73 水 派 ナッケ 3 ナ ナ 1] 此 -7 ス カ 7 1. サ : 水 ダ 1 3 iv ッ Æ ナ } 才 V ナ + 力 PIZ ナ 18 7 ٠ ١ æ 7 カ ケ \_ 歟 水 77 カ ١, IJ ~ 1) 沫 メ 1 ヺ ١٠ 牛 1 水 7 [/n] ナコ 1 1 行 グ 然 1 難 ラ 13 35 水 者 工 度 × 17 ナ 又 -11: ヺ゙ w 沙木 W 111 V =3 1 愈大 1 inf -7 力水 ナコ 1) 华 分 7 71 1 T. 15 三四同 葉 1) iv フュ 义

3 ク 1 -E ٤ ナ 7 E テ 丰 丰 才 77 Œ 5 ナ 1% フ 7 半 1V = 7 7 77  $\gamma$ フ タ U か 12 1 7 1 77 1) ク ٥, =6 Æ 1 7 과 7 ラ ナ ナ 丰 -3-7 15 -1 7 フ E Z ク カ 111 70 10 Æ 私 仰 斗 Z 大 1

Ŀ

牛 カ 10 = カ 丰 ナ ス 7 1-= 工 = サ ^ ١ر 力 ナク ٤ ŀ

7

リア 1) F 1) カ \_ 松疎韻落ト云事ヲ思テ讀 鼓トテ テ 云心也、 7 3 筝 丰 X ナ 時時 ヲ讀 jν 風 ス カ けの機目ニュー 琴有:風入松之曲 オ ナ ŀ 111 ラ ノリヌ :1: 2, カ 教長卿 和 ク琴ヲ詠也近來 鼓ナ 3: 7 1) 琴ヲ チリ打時 ナ ナ司 ラ 云 11 ス リノ ス 第 Æ 7 カ ŀ 也 ·" 7 ゥ 云 云 題昭云松 チ 中 ~ 第二粒 也 々古歌 ナ シ 7 し打鳴 ソ 1-萬葉云 ) 索 聲入 ` = 鼓 12 = 北 11 7 二夜 ŀ 1 } I5 秋 カ u 風拂 キ モ<sup>守</sup> ヲ カ ス 子 ŀ ケ 3

詞云 7 ヤ カ IJ 3 ツ ۲ バ ` カ 世 IJ ウ = ン モ ) ス ŀ ス ゥ 丰 F, 7 テ ケ 3 w 人 3 ラ > ッ Æ ŀ カ シ 7 4 ス

ス

ŀ

3

1)

殺長 行二消道 順 卿 ガ 云 日 和 t 秋冬嚴殺之吃天氣消滅、 君 \_ 也 案易 名 3 子通 一、道息時行,一盈道,也 = Ł 刹 達物 掛 Ξ 工 家 丰 Ħ 日 111 カ 理 せ 君 ウ w 子尚 一尚消 1 ソ 3 = 、春夏始生之眨天 三消 X 息 故云三天行 消 温度、 息 息 一品 ŀ 扂 1) - 也 消 天 行 V

> 簡 ゥ ザ \息陰死爲、消、又消息音信也、 ٤ 15 以一易禮等義,思、之、音信謂一之消息,者、互 1 ン せ w フ 問 2 ウ ハ 1 7 二人起居死生 知、之謂 ろ ヲ カ ŀ 出處起 タ = ハ 15 4 イ ŀ V ズ ゥ フ 3  $\Rightarrow$ 二於此 假名真名 ン 1 ~ フ ジ ~3 \_ = ŀ ラ + 丰 也 ろ ナ 3 ナ IJ ") 1 ٤ 义 Ŀ 文 也 禮 假名文ヲ 申 Æ 力 = 文請 フ 記 ハ 韵書如:此訓 一音信 良宗世 = ス 月合注 ナ ヲ 文 ラ ナ 110 Æ ス デ 俗 サ せ ١, w 消 陽 ウ フ = ヲ 投一書 ~ = イ 息 生 ン 18 ナ 為 毛 t ヲ =

歌 私云 ٤ F Æ 力 イ P 1 17 Ŀ 世 ر ر 1 丰 ス 俗 ス 11 = 7 2 敎 7 ン テ ŀ Æ 長 叉 ŧ ン 1 イ 人 消 卿 1 ン フ フェ 息 心 ٤ 敷 義 ŀ フ = オ Æ 4日 カ 1 3 3 1 ボ 同 ケ カ 丰 ツ 1) 118 キ ιĽ F. カ t 歐 ナ 7 ナ ホ iv ラ ツ IJ + フ 子 萬 X ヲ \_ 3 薬 ١,٠ ヲ ス ケ 1-消 7 ス w シ 相 7 息 15 t イ 聞 詞 ス Ł 1 往 往 2 = P 才 來 來 テ ,v IJ フ 叉 イ ケ

17 7 ル ·裏 ٤ 丰 戀歌 云萬 葉第 也 サ 人 ス 1 n 歟 æ 贈 ŀ = 答 兩 ^ オ 卷 ス 12 Æ = フ 相 ユ 丰 ŀ 聞 往 丰 1 來 ス Ł 中 w 歌 心 iv

已上 伊 宁 ゥ 風 モ V デ V 17 t iv 教 云 案 ٦. 云 ツ ٦٠ ン テ 1. カ 潰 郎 \_ 3 消 ザ IJ X せ = カ チ ク ス 他 云 消 ク ウ 叉 詞 77 愁 息 チ 丰 1) カハ  $\exists$ 彩 IJ 1 ۱ر 毛 1 ラ = 云 モ 議 息 女 テ 汉 卷 ヲ ン 4 3/ ナ ]-Ł ン 上續 牛 すべな セ カ 7 サ iv  $\exists$ \_ ケ 7 250 フ V ウ ツ 丰 1) シ ク = 1] = 15 w  $\exists$ 1 =  $\Rightarrow$ サ テ 消 カ ン 丰 ` ケ 工 ク ŀ テ カゴ 1 叉云 叉 又是只 略 テ 日 息 丰 ク ラ ス せ キ 7 V 消 牛 云 本 鳥 ッ + ŋ ウ 出 ツ to 11 7 ハ ۱ر Ŀ 息、 = 3/ 紀 ウ セ イ ナ ケ カ 2, ン カ 詞 月 説 工 イ ラ 相 又 云 テ カ 1 ン ゥ シ = シ 1% 1 ナ 次 Ŀ 7 フ 云 ラ 來 3/ 7 1 ン 云 æ 1] IJ 1 力 ŀ 歌 又 ~ X ク セ ン 7 由 \_\_ モ 7 ر ر 然者 ~3 丰  $\exists$ 後 消 無 1) IJ ク 17 ウ カ to ッ Ŀ ス テ 文 1] 3 X 樣息 撰 p 4 ケ IJ ツ w カ ン ~ 1 往 1] 义 不 ケ ヲ サ X ウ 12 7 12 1 7 チ 丰 カ 順 來字 間面 ~" 110 汉 1.0 ツ カ ~ シ カ ケ 10 和 ŋ 云 一書 ヲ 7 平 ラ ケ w 1] カ  $\exists$ 先 裏 7 加 17 IJ ザ モ 八 ケ 7 12 工 ノト ハ 遺 口書 サ ٢ 何 7 3 J, 1] 女 3/ シ云 和 ラ世或 ケ F 4 4 七 118 71 ヲ ヲ 7

汉

題 E チ ン 1 不 サ 知 15 + 1 ナ カ 7 7 ナ カ ナ 友 3 71 [[1] ٤ ŀ

-1}

才 "

モ 7

۲

宗 卿 也 Ш 詞 歌 其 伙 ナ 彼 H F 7 干 兩 110 12 サ カ to 16 歌 フ illi 1 3 カ 毛 机 イ 6 别 處 ヲ 1/1 to 子 1 级 告 ナ 長 3 -4 3 ----里序 ヲ 111 tix 仲 テ 此 ナ th 1. 也 カ 机 同 X サ フェ ナ 此 义 1) T h 1 IF. 刺  $\exists$ IJ Ш カ t V to 兩 力 1 ラ フ 1 H = ケ 歌 和 ヲ [11] Ш ~ -總 フ 歌 證 15 1 = 六 iv 10 Æ ]-俊 4 护 介 木 サ チ 1) 3/ 入 ---th 上 遠 起一 3 1 1 道 1 成 人 シ 二地 1 =3 Ili iI. 70 X 1% 丰 テ æ せ 卿 1 カ 12 E ili 威 1. 旬 IJ IJ 11 テ 愈 -1)-サ 5 机 iv ヺ゙ 入 1 TIT 7. シカ mi 1. 道 V 具 t Ili 東 :3 ^ 3 7° 1) 义 ヲ 前 IV F iv } Æ 1 " 3 V 教長 1] 末 故 也 長 11: [11] 111 カ 11: 才 ナ 1 此 定 1 1 5 5 11 th 才 5 7 前 7 3/ 卿 集 牛 伙 ナ 源 79 7 13 th 1. 12 73 示 第 云 E 711 -J. 21 詠 1) 1 im 1 Ŀ 3/ 7 1 17 サ -11-1 -7 111 後 + -t." ŀ 納 æ \_ -,2 ホ 7 --7) テ 批 1] テ 11 11 [11] 1 1% 1) Æ 古 Ш 113 1% 公 歌 丰 filli 長 215 3/ チ Æ R 1111 -10 カ

ン

カ 丰 w

to

力

ŀ 3 イ · 讀樣· テ フ ~ 也是ハ教長卿モ大和國ノ三路ノ中ツ ~3 丰 IJ ヲ 俊 + 如 惠 此 ハ 所名等只ろ(頭書)押紙去只ろ サ ラ 2 カ ラ = 1 テ 3 付 チ

▽云仍長路トイフベシケレバ中路トハ不▽可 チ 3 111 、ナラ シ ŀ テ Æ r[= シ , 路 ス П 1 レ = 3 <u>-</u> 2 ノ路ナキ故敷 ~" 3 シ メ ŀ ıν イへ 兼盛ガ ップ 路モナシアノ路モナ 歌 セ コソ長路 3

ラミタカ 貫

タモ

トノミ

=

ク

v

ナヰノ

フリテ

ッ

,

ナクナ

ソ 此 1) イ ~ 誦 サ ŋ = ハ ケ ナ 3 Z° = ハトアレド證 本共 = 河 ŀ 7

強サイニダフ 又哀傷 1 Æ シ **教長** ラ 7 Æ = モ 卿 ス ŀ カ 悲二 云 ク v 7 モ「チノナミ ナ ٤\* ŀ イ モ テ ス 3 4 ~ クナ 紅涙 涕血 オ 工 ,v シ ハ 故也然者寶篋經 淚 シ アナ ケ ラナガ ジン紅 ٧٠ 7 ・タヲ ヵ ナ シ スト説 ケ 3 = ス チテンタキ ウッロ iv ダ 常事也卞 私云 ク ケ v = 次下 フト ŋ ナ 切 毛 丰 和 ツトト 同 ナ 3 = 人 象 R w ナ 事 歌 生 ,w ŋ 3 ヲ X ŀ

> 佛 脱,身上衣、用覆,其上、汝然垂、淚涕血交流、十方諸 今日 朽 所行 塔、放、大光明,出、聲 極善境界、于時世尊禮」彼朽塔」右遶三匝、 讃言、善哉 k k 釋 迦 牟 尼

皆同觀視悉皆流、淚云々

フ

力

ヤ

ブ

ŀ = イ ٤ Ł シ ナ ハ ナ ハ ス ス 1 力 ナ ر ر ダ • シ 3 7 ナ 力 1 ッ 子 ナ 丰 毛

ソイヒナ (頭書)誰 敎長 工 ス ン ラ ጉ ナ ズ 卿 ラ = Æ サメツレーサメツレ 通 ヌ 云 ソ ヌ ゥ 無 ダ 力 ヲ 常 ナ ガ ナ \_ ナキ人バカリコソ 毛 世 證 3 ス ハ ン 本 v ス ナ 7 ノ人 ナ Æ V 2 • 丰 Ի 18 ツ 3% 7 モ Æ シ 1 V シヌトモ ノト ナ • コ゜ 名 ヌ 3 ŀ ハタ・メト チ + w X 丰 丰 = w ベリ其 無常ノ世 3 ジ = ハ ト ガ ン ナ ナ シ 3 ۴ = ナ ナレ jν 2, イ ソ ナ ワ ス Ł ナ 1)

3 ツ 子

ス 7 也 7 7 メ ッ シ ラ 7 ナ ハ テ 2 ŀ シ フ w ィ ツ ハ IJ = = IJ ヌ コ ` T

此歌 ŀ シ ダ 業 2 华 カ 並 = w 伊 サ 勢集 ラ ム」又三十六人撰 毛 ユ 12 業平 ヲ 歌 心伊 ヲ = 勢ガ返云「 = 業平歌也 IJ ヌ カ ナ ナ ッ

々、又考一寶篋印陀羅尼經一云、豐財園

中有

荊

抱、璞哭、荆山之下、三日三夜、

淚盡

顧輔卿云イツハリト云ケリ 窓集二 ハ 躬恒歌也此 此 兩 書共公任 卿 撰 也 相 遠 如 何

本云 文治 重 元 年 差 + 月 11-六 H 注: 進

处 久二 一年三月 賜 献 + H 奉授 禪 定 大

顯

昭

顯 E 112 昭

テ

1E

原

X

215

朝

Fi

弘安五 年: 三月 十三 H 技 712 侍 從 雅 有

> 顯 昭 Hi 今 集註卷第

ラギャ ツ 1 :1 カ Ŀ Ŀ ٠, テ 1 3/ " ケ チ イ iv 7° 1% メ チ 1 =1 ン 1) 715 3/ 7 ŋ Ŀ° 15 ---12 人 ---31 毛打

テ オ 叉 名 1 ス ナ ナ 力 1-ナ + 消 ウ 1) = 1) -イ 1. 73 毛 12 シ ŀ 風 1] -C カ ~ フ 3 70 " イ 伊 丰 -)" ŀ 75 = ク =7 ス 敎 勢 77 1) ŀ 5 -j-• キ 7 物 =7 ---=/ Æ 卿 iv 1% 訊 ナ iv Æ 1 Æ 赤 P ŋ 3 7 1] テ " 1 w 力 沂 5 フ 2, =7 7 12 フ => -)1 オ ---12 3 ツ ナ ラ 3 7 -6 =1 L 丰 77 侍 竹 17 テ 7. ١٠ ナ 歌 111 73 I. 71 事七 1 ナ " チ ラサル シ ナ 假 71. 2 ラ テ =1 h ナ 73 キ 名 フ ズ 1. 70 X フゴ 12 才 15 = -1 w ク 1. 2, 1 :1: 1 ナ iv ١٠ 7 7 12 5 7 1 1. E 1% 政 7) -7 -E 1) ケ ツ 1. 7 -E 1 云 12 7 1) 近. ŀ " : 6

ソ ~ テ ナ ガ × ク ラ ス ŀ ッ 10 ケ 7 1)

不 知 讀人不

知

題

イ = X ッ ラ ニユ + テ ر ر 丰 ヌ ,ν E 1 ユ = 3 7 ク ホ シ サ

1 サ ザ ナ ナ ,v V ŀ ッ サ ソ ハ w 1-云 事 111 此 歌 伊 勢物

語

業平 國 3 1) 夜記條 K 〈后 \* テ 事 ゥ . = ク テ 京 1V ヲ 歌 ハ 1 ナ 3 V テ 工 ス 7 13 w 7 ٤ ダ 人

業平 朝

ン 7 キ ٤ チ ŋ 7 + = サ IJ ケ • ワ w ケ 7 サ 1 ン テ Ė ŋ Æ 7 テ = 3

小 野 小 町

7

テ

3

ノ ア<sub>R</sub> 3 w シ ス ナ ユ キ ク ワ カ 3 ヲ ウ ラ ۴ シ ラ 子 ャ 力 ナ テ 7

昔 此 ガ オ 二首 い鼠 古 ナ ŀ (ソデトアリ無:)疑字:落敷頭書)清輔云サ、ワケアサ ŋ = ŀ ケ 7 n ŋ Æ 御 ガ ケ = 許 伊 IJ 勢 7 = イ 物 ۱۷ サ Ł ジ 7 1. = ワ ŋ Æ ア ケ ケ 3 IJ 後 シ w ザ ŀ 歌 7 IJ サ イ 5 返 歌 ン IJ n デ 伊 女 也 勢 詞 ŀ 物 力 サ 云

ケリ

=

ス

リ麻

ノ衣

ノ袖ト讀

歌

モ

7

V

J.\*

朝 ン

丧

ヌ =

7

サ

袖

1

朝

デ

3

IJ

Æ I.

歸リシ

夜

٤

袖

ヌ

Z

サ

w

=

讀 ウ ラ シ 1 ŀ F = ワ イ 工 ガ フ グ 3 ŋ = 返歌 ヲト • p ゾ ノワ = ツ ン 1" カ ク ス = ~ IJ ヲ サ ウ キ ラ ラ ズ ŀ ッ 15 3 10 w ケ メ 13 w ナ

ユ V カ ウ ク、 v ナ デ iv = ナル 1. ŀ ŀ 7 iv モ イ 7 中 = ۲ Ì 3 クユ 足 ガ レ jν X ズ ヲ ナ ユ 11 1,0 + 力 也 モ w 云 1-也

云

力

7

シ 也

ガ ズ 身 キ サ ヲ 書云我 我 未レ逢 バ 身ヲ 業平 身 ウ ガ ラ 前 7 ヲ ウ ١, = オ ラ ٤ ヌ シ 1 1 3 ラ シ I ハ 小 ズ ヲ ヲ HT 3/ ウ ウ テ ラ ラ ガ 身 ナ 3 2 = ス ~3 7 讀 力 V キ ク カ 業 jν ŀ 7 平 ラ 思

1 フ ナ iv

チ ク > w オ ク シ カ = IJ 7 ケ ŋ ŀ 1 フ ナ iv ナ ŀ IJ 力 ハ ナ 忠 キ 峯 ナ 1-IJ

集 ナ 凡 ٦ ŋ 世間流布人丸集多不審者也 ガ 陸與國名取郡 = アリ 叉此

歌

在一人

丸

讀人不 知

ŋ 3 = ス 7 ス = 7 K æ ナ + ナ ۱۷ タ チ ヌ ^ シ ۲ ŀ = ク 力 ラ

1) ズ 7 1 = ŋ ズ 1. 云 詞 也 ٢ ŀ = ク カ ラ ヌ 3

顯 昭 古 4 集 註 卷 +

ツ ス Ł 世 ጉ ア 子 × ŀ 1. 110 俗 p ノヽ ۲ \_ ッ ナ ク = 1 1 シ 詞 チ ケ ツ イ IJ カ フ 1 ---V 云 カ 1 3 = Æ 机 サ ŀ 七 1 ク テ フ 10 ケ Æ ~ ヲ 1 ナ デ = ナ ガ 1) ク ナ 女 此 \* ス 3/ 丰 事 ナ 1) 歌 1  $\Rightarrow$ #1 1 ナ 113 1 E 此 F. イ \_ 1 歌 イ カ フ Æ ス ナ 7 æ フ 2 ス 女 也 ラ ラ 70 7 歌 ナ 7 ズ 丰 3/ 人 7 18 ヲ ナ  $\Rightarrow$ 1 毛 1 ス Λ 18 7

デ 7 7 V ケ 7 ٢ フ w 3 v カ 2, 3 ジ 1) 210 1) 10 カ カ テ 丰 力用力 3/ カ 1.0 7 3 3 1) ッ 3 ٢ Ŧi. Æ と 丰 ラ ケ 1) ケ 條 ケ テ テ 1) ス w 3/ ワ 3 V カ ヲ 毛 3 1% : IJ 久皮工 18 Fo テ 3 11 F., 1 \_ カカラ ナ A p 7 チ 1) ケ -1}-デ w ヲ \_ ケ ナ カ ŀ 3/ V 3 IV 1. コ 1) \* 1)  $\rightrightarrows$ ケ ヲ 工 1 U 7 --v ク ナ 丰 " 1) テ 11

業平

ウ ٤ 條 伊 チ þ 勢 Æ **=**/ 物 后 子 V = 語 ナ ヌ 7 \_\_\_ , 此 カ 2 哥 L" テ 7 3 怒 カ チ 7 1) 1 ケ テ せ 7 w オ ヲ 7 Æ IJ 3 1 =7 丰 ŀ 3 \_\_ バ ٤ -----7 3 1) 1 = ク 1 五 W =

せ

ウ

次

チ

-7

ボ

ラ

セ

ケ

iv

1

下追

可書

沙洲、沙沙山

今 紫 后 20 \_\_ 人 カ ナ 18 3 ス IJ ケ カ 毛 チ 术 后 1 1) \_ オ 1 ッ 5 2 \_ IV ジ 1 \_ V 毛 = ス 子 IJ カ 丰 月 1.0 イ シ 7 ホ 7 カ 1 3/ 7 ---当 此 ナ 1 IJ 丰 w ナ Ŧī. ワ テ イ 工 ナ ۲ 2, \_\_ 云 伊 E° ケ サ 7 3 條 1) ク カコ フ オ 2, ⇉ \_\_ 毛 77 勃 テ 1) \* 伊 サ 1 西 1 2 -3/ せ 1 Æ 示 1% 勢 后 物 1 埶 ケ 3 IJ 7 3 3 カ 極 1 1 1 V 1) 物 宫 111 グ テ 物 テ テ 1 云 18 w U 3 ケ 計 Ŧi. テ 月 3 1) 7  $\mathcal{F}_{i}$ w フュ デ カ オ 1 祖 3 イ 3 w 業 ナ 1) 1% ケ 3 オ 條 7. × 1 -Va ク 术 ヲ 條 四 4 E" 7 ラ 力 ツ IV 1 15 次 V ~ 毛 ď w 1. 后 此 7 ラ ス カ 1/1 シ ヌ iv 3 Ŀ ŀ L 業不 卡 將 ナ 歌 IJ ブ 1 4 ツ 35 ナ 1% 1 1 ~ 3 ~ サ 12 7 3/ ジ 14 イ ŀ 7 -}1 7 シ w 丰 w 3 \_\_ 丰 朝 此 }-ケ ク 1) 7 :)1 11 -V 7 A 3 12 1 臣 ŀ テ Z, 指 ク 卡 Ŀ 1) } 集 才 iv ス ケ ラ =1 E ---E 7 10 ウナ 第 PHI ィ 1V IV テ 1 " 70 3 :13 :大 2. \_ 1 12 力口 宫 ツ 31 力 \_\_ þ 才 ツ 7 10 \_7 水 ナ J. カ 1% イ ク 5 テ 7  $\pm i$ . 1 ---ス 1 70 1 13 ナ 7 才  $\mathcal{H}_{i}$ イ 111 ナ ナ 1 2, -E 7 カ w. IS 12 サ IJ 5 Ti. 3 條  $\mp i$ . 4 ナ ŀ ラ 1 丰 ホ 13 12 條 2, ゥ 111 條 1 7 ŀ 1 73 25 テ ス 12 才 又

顧昭古今集註卷十二

ケ 7 Ż 7 = ク U ŀ æ 丰 3 Ŧi. ~3 ス 丰 ダ ケ w ダ ク ャ 條 w チ = Æ ŀ ヲ 7 3 V w ŀ ィ ŀ キ ガ ヲ w w 7 Ł 2 7 カ 18 ス ス 七 后 オ 7 ケ カ w = t オ = テ Ի ナ IJ ウ H W IJ テ シ ジ p ŀ 春 ٤ ゥ ŀ カ 叉 37 ユ オ 丰 カ 7 フ ŀ ケ ヌ ス ヌ 丰 ウ テ IJ 7 N ス ŀ w ŀ 2 候 7 P Æ 18 フ 御 サ ツ 條 テ 本 力 サ オ ケ جر 3 = Ł 3 ツ Ł = ヌ 力 中 7 1 ラ キ ユ ワ 7 ケ ヲ ソ U シ V w デ = デ ヲ ス IJ テ 7. 7 = 18 才 7 ケ イ ヲ テ w 神 ナ ケ ホ 7 IJ ケ ャ ヲ ŀ オ 力 チ 7 ŀ ハ 丰 ン 1. ナ ク v 3 ケ IJ カ ハ 7 ナ ユ 18 + Æ 7 7 = ラ テ ŀ 工 カ IJ ダ 丰 シ Æ Ł ク 2 3 3 ハ w W テ 宮 五 ナ ナ イ ク ヲ ゥ ケ 中 ダ ケ 2 ŀ P ィ Æ ダ = 卡  $\pm i$ テ ヺ゙ 條 オ ナ w 1 フ = ラ カ IJ W w = 1 7 叉 ラ ジ 條 テ ケ 毛 グ 7 ケ ゾ ケ 丰 ヤ イ = = 伊 Ŧi. 西 后 ŋ ラ 1 ゥ 力 ŀ ャ シ ŀ カ Ł 3 = V = Ł 勢 條 伊 カ ナ 7 ツ ヲ = ジ ケ ナ バ キ 3 IJ 物 條 御 ナ 女 シ デ ケ 7 グ 勢 V ク = = ヲ 女 語 后 物 斗 サ t ٢ ナ オ ケ w ス イ ン 18 テ 女 ウ 丰 タ 18 7 IJ ŀ ダ F ŀ IJ 才 þ = = = 1] オ 7 上 ヲ ス 力 ス サ 大 給 ウ ウ ヲ ウ ナ テ テ w IJ カ イ N メ ٤ ホ =

納 デ ケ 1 ケ 3 1. ヲ 7 ズ 中 ケ 7 才 ッ ŋ IJ 3/ ジ 國 オ ス ゥ V 言 ツ 2 丰 ŋ ゥ ク 1 ナ IJ 3/ 中 1 7 タ 經 ホ ヺ 3 1 神 ス ナ オ 1 ケ ゥ ゾ ケ 7 2 條 Ŀ 叉 大 7 w ゥ ク 1. w イ 1 = テ **=**/ 大 テ 人 納 ウ シ 中 ケ ナ ヲ ソ ŀ ノ ŀ ナ ŀ 后 鏡 ゥ w ワ キ オ ワ ケ 1 言 1 ケ ユ オ ケ 丰 サ 2 カ ホ 在 术 云 カ y 7 ホ iv ١, 中 ウ IV IJ テ イ 7 ツ ン 交 ヲ ッ = **ر**ر 2 Æ 將 條 テ 4 丰 ユ 3 70 カ V 7 力 ヌ セ ŀ カ テ ウ ナ ス 7 半 ラ ス ダ ŀ V = ノト = Ł IJ 後 = シ ケ 100 ウ 1 3 18 工 オ 1 73 • ナシ「シ 大 ヌ テ ケ 女 丰 丰 ク 1 = ツ = 將 テ 君 テ ヲ カ シ 3 后 ケ w Ľ イ オ 御 テ ヲ テ 內 ウ ケ 蓬 テ p 1 = 太 = ズ 7 1 ラ ナ ケ シ 基 平 ŀ 郎 テ カ w バ ツ オ ŀ 基 モ 玉 ス テ 7 1 ナ 女 IJ ٢ カ 10 ホ 7 ŀ 經 デ チ カ = イ ヌ 1 7 Æ F 大 カ メ シ テ > = ナ ナ ケ ク + シ IJ ダ シ 7 IJ IJ 國 3/ 3 ソ シ IV ŀ 給 7 1 ッ Æ = ナ IJ ŀ ケ カ ゾ 7 t ŀ 經 タ

IJ

ケ

カ

シ

3/

ス

1)

7

毛

我

= }

IJ

ŀ

ス

7

Ł

コッ

才モ

=

トリム

ナ

ルモ

~

シモリ

スレカ

R

1

3 3 =

ニミオ

神

世

コタル

トルオ

10

Æ

ク ウ 7 ٤ イ ケ iv 1] 息 ッ 15 F. 15 7 \_ カ ゥ 牛 ₹° =/ フ ケ 5 所 ツ 1 V  $\exists$ カ ス ~ 3) 2, 7 シ 1] = V カ パ iv }. ゥ Ŀ T イ 1. ッ゛ イ 女ヲ 7 ナ 丰 女 1 ヲ 3 11 ス 在 テ 17 カ 1] 丰 ス オ デ 1) ラ 1 原 ケ 力 ハ イ ラ 1] 7 V  $\exists$ カ ボ \_\_ ス オ 伊 テ 1 1 V ナ y 7 ナ ~ ウ ŀ 1% V 3 テ 工 E -4 李 オ ケ IJ iv ŋ 3 Ŀ ス æ 18 ~ ٠, フ 物 ク IJ 牛 サ 3 1 シ ケ カ 1 ~"  $\exists$ ナ ~" 御 = w = -ッ 7 Æ = V w 17 イ 新 1. 1 12 w ッ 7 æ 18 ハ ナ 1 ŀ 1] 才 女 ホ Ľ ケ U 御 = シ 7 Z E 力 v 3 ゲ メ ケ ラ 77 -1 IV ユ 2. ナ Æ 給 => オ イ テ 1 イ テ E" 牛 IJ 7 イ 12 フュ + カ 5 サ ハ æ 1 フ イ + 少 V r テ サ 1 シ ラ 1 ヌ 2. ナ ラ V アラ ٤ 人 w テ 1 干 2, 2, 71 ---3 =1 V Ŀ Ŀ 7: V V 13 7 = 1 Æ カ カ ス ヹ ナ ダ 71 1 1 70 又 ス 3 ナ Ŀ° 11 力 1 3 术 ヅ ٢ イ 1) 1." \_\_ iv ホ 1 1 御 -Ta 1 2 ク テ iv ヲ 1) カ Ł イ 1 15 7 1 1." F コ 7 " <u>ا</u>. サ ナ テ + ケ ヲ ~ 1) ŋ 7) IJ 17 才 ٤ 1 ズ 子 r せ ケ ケ 殿 カ Æ 1 1% 力 15 テ 水, = 3 \_\_ to 1 ン 3 18 2 E \_ V 染 ク チ > 1 1) 工 ソ 牛 7 オ 才 テ ŀ 3 ラ ケ カ w ユ バ 1% IJ 大 = \_\_ 1 ホ ナ 7 デ サ = w 女 17 か 7 御 テ 37 ナ

ス

カカ

レナ

1.

イ

Ľ

テ

ナ

2,

イ

丰

ケ

12

ミモ

F 7

グナ

チ

7

オ

3/

70

2

ヲ

心カケ

ニホル

イ

V

御ョ

-3

J.

クト

テケ

ヲ

女テ

ハ

カトホ

iv

7

ッキ

ク

セイ

ナナイ

\_2

 $\Box$ 

۲

せ

2

ŀ

ス

ラョ

=>

3

ソオ

丰

加エサ

77

15

ズニヘカ

アイ

リトグナ

シ

シリ

カケ

ノ、ニ

= =

もと

3

ク

示。

ケリラ

V

ルギケウセケ

70

アシギ

73

ナ

シム師

キイヨ

=

トケ

ノルコ

ミモと

-71

ズキジト

-,0

テ

ラバ

テ陰

ナ

キピ

テ

テ

ケッ

V

2.

陽

テ

는 그

1

-1

?;

ラリテッホコミウオ

子ナク

ヲクラシミ

7

ナ

力

义

日力

ヲル

ハモ

ウニ

ラ

:

ナ

7

テ殿

ニテカコウフ御

コケ

メ

テバコダラ

1

:):

リパシ

タ御テト

マ息

ヒ所ノナタク

35

10

クサ

5

コマガ

7

7

ス

1

7

カ モ

カドノニシ

女シサデテ

ヲ メ

カトナクキト

デ

セパル

17

オッタナカナ

トカマ

示

レス

テ

テッタ

カキ

1.

丰

7 2

コキカケタシ

ヲケナリウテ

ナ

24 V -5 18 シ 77 V ツ ツ 73 F" 丰 イ \_\_ 7 iv t ホ IJ コ 17 7 -+)-E. ダ 11 1) ヌ iv 7 -メ -7 シ : メ ٢ 1 Æ V 3/ 5 亻 ^ + -1 × ŀ ッ゛ 71; 5 才 ŀ ケ -}pill 7 17 :1: 2010 2011-103 -31 文

九十

二一條ノ后トゾ

ŀ

=

シ

ノフナ

IJ

チ

æ

ダ

長良

基

經

鹵

經

一二條后 高子

一五條后 化明女御 房 順 子

水尾 サ 子 イ 五條 ヲ サ せ 3 IJ 7 ナ 17 御時 ワ ノ后 ス 1] ŀ ナ V ŋ ケ グ モ N サヲシ 叉云 シ大 , i 7 タ iv 御息 ノブグサトヤ 2 ~ t カ 2 所 シ リテ「ワ ゴ オ 1-1 1 ナキ人 染殿 = 後凉 イ ス V フ 1 殿 后 ク ŀ サ テ 御 ナ オ イ ツ iv 4 ボ

ッ

ラ シ

=

ユ

牛 +

テ ッ

丰

ヌ

jν

æ

ノナ

v

ŀ

3

~

ク

ホ

シ

サ

ッ

2

2 牛

=

力 7

ナシ ラ v

ケレ

7

IV

=

モアラヌ

ラ

テレト ラ

オモ

ヲリ

オ

}

=

ヲム

ナシ

7 ミヲ

子

カ

良

子

アリ

、人ノクニ

,

アリキ

テウタフ「イタ

Æ

ナ

ガラ

ン

= ケ U 7

ゾ

ア

ナ

IV

ŀ

=

ノ女

キ

١,

7 ラ シ

ゥ オ

ス

۲ シ ŀ

IJ

力

15 = 3

=

ヲ

ナ ヲ =

ク 力 牛

=

ヲ v

イ

ŀ

æ

ウ

フ 1

+ ク

テ

ハ 3

イ

ŀ 2

> テ フ

=

オ

人

=

1) 工

ゴ

ŀ

ツ

~ ŋ

Æ

デ

ナ

2

7

ŋ

ケ

iv

サ

IJ

ŀ ケ

Æ

F シ

> タ ٤ = 7

條后 殿后 后也 基經 モ業平 以妊死 フベ 今案ニ業平 マフト 7 五條后 シ叉イ 國 一順子 上 ャ シ 經 ケ 7 二車後一云々コノ次 第モ五條后  $\overline{\mathcal{H}}$ 三五 ラ ソト = 7 以二族氏 條后 被,養育給 ŀ ナラバ イ ŀ ヌ I I 春 ス イヒカハ = ブ リ帝王系圖云貞觀 ノ女御 セ t モ ダ オ IJ 2 勸學院衆-為 リ江 文 力 ホ ナシ 條后 歟兩 シ イ スハ二條 2, 1 次第云大原野行啓 七 1. ウト、ハ 后 但 = = モ共ニ ノ女御 詠 ノモ 一條后 車 ノ后 ズ jν トニ 三年 副 奉レ 長良 歌 也御セウト 元 1 二條后高 ŀ 云 = 詞 12 モ ÷E 條后 人々房 歟 僧 2, = Æ 起五 古  $\mathcal{H}$ ッ オ 幷 귦 ヲ 子 染 Ľ"

頭 者 七 ク ŀ 叉 ケ X ケ ヌ = 3 3 ---イ 詞 叉 昭  $\mp i$ テ  $\overrightarrow{H}$ 后 ウ w カ カ V Ŀ Æ ٤ Ł 3 1) 申 條 密 條 1 ケ w 18 = 70 ケ 2 3 7 1 7 ス オ ラ ケ 云 后 通 IJ 7 7-后 1) フォ 12 汉 西 ノヽ ヌ 書歟 定 伊 1% 此 ホ w ŀ 7) 人 ナ チ 3 2, \_\_ 1 3 1) 1 給 勢 1 2 7 ŀ 條 同 ŀ 3 1) ---カ ۴ イ  $\mathcal{F}_{i}$ 汉 ス 云 條 カ 大 宿 1 物 义 せ 3 ス 條 7 ١٠ 3 ^ w イ ナ ス 鏡 之時 Ħ. 后 ウ 丰 1 チ E 語 ヌ 12 7 ٢ 1 --オ 條 12 是 歌 ラ 也 ŀ = 條 1 ラ ---ホ = IV 1% ŀ 力 ス 7 委 贈 im ゾ 1. ワ 1) 70 后 5 3 ٥, 7 7 Æ 假 某 1 只 答 3 7 ガ = = 崩 才 ボ イ Fi. \_ v 1) ケ 名 彼 ケ 人 w 7 御 ク ラ 7] 等 條 人 創 3 工 7 又 w 官 1 ラ w Ł 國 次 ~" = 70 ケ 3 后 7 7 人 ノヽ 五 給 间 1 經 イ IJ カ ズ Fi. 12 ٤ 111 => ヺ゙ -V 條 內 然 條 此 7 伊 ラ ケ 7 デ 條 1) E = 7 ホ 者 教 1 后 外 iv J° IJ 3 F --又 1 12 3 7 Ŧî. \_ 3 物 書 ラ 耳 條 后 歌 毛 F カ F 後 1 1 1 3 キ Ł 條 ٥, 間 話 チ 此 丰 HE. 后 7 キ テ 7 7 1 ズ 后 條 惠 歌 3 ラ ٨ 1 t 五 = イ 或 1  $\Box$ 才 E 1 7 后 條 歌 デ 給 イ ŀ 本 ク 机 7 カ ヲ 12 7 ン フコ 工 共 詞 フ テ ケ ケ 7 1 5 1] F \_ 后 7 ---1 毛 事 調 歌 故 -,40 カ w 本 ラ ナ 17 ŋ ズ カ ジ

式

12

延喜 寬 同 年 チ 元 ヌ ŀ 慶 條 4 + -1-協 1 F 才 --1 车 后 サ 元 示, 年 年 年 年 -貞 7 ゥ ユ 考 舰 iv 崩 儿 JE: 九 1% 六御 月 月 八 H 月 ヲ æ 年 廢 為 Ti 誕 7 指 ソ 九年 系 之五年 條后 = /1= ラ = 許 V 20 E + 云 崩血陽成 月 E = --年 卅御 為 良 1 土 六年條年 Æ ズ 13 hi 女 **御**六二御 年,十 イ 义 御 年十八年 विषे ナ カ 计御 1. 10 后 六年 ŀ サ テ 丰 = -1 工 ソ -10 ゥ 但 7 1 於 1%

歌 案 古 歌 原 同 古 不 台伊 今 今讀 知 w ŀ 朝 45 1 臣 歌 所 注 才 11 = 勢 fi. 首 オ 3 = 示 7 人 也 條后 物 不 īm 1) 如 =/ 子 ~ Æ 話 フ 7 知 ヲ 3 詠 伊 同 力 歌 在 w 73 也 乎 宿 外 丰 12 也 ١٠ 之時 延 = X 3/ 7 イ E Ł 芸 牛 ツ 次 1 サ --何 7 テ X ッ 御 フ -V ス 無 3 值 17 4 20 ラ IV 集 F 茶 -1-12 \_ 7 7 3 ン ガ 1 テ 3/ 工 h 通 ---1% 3 7 歌 1 牛 人 70 ン 平 5 是 ハ 1 ---7 歌 テ 1 不 抑 \* 歌 7 テ 被 3/ ٧, 京 古 祁 ---215 丰 ファ 此 滑 # 担 占 7 (II 又 个 沙儿 テ 輔 HIL 12 1 --pl? 侍 ゥ 女 哥欠 ナ 朝 1 カ 约 臣 旅 歌 デ

リ叉伊 袂 子 IJ ŀ ŋ イ ٤ ŋ = **以東五條** 書 = 侍 ガ 此 + テ ケ フ ケ ~ ソ カ 歌 條 歌 付 > 而 7: 日 シ w ケ w 議 粉 事 天 刻 7 32 毛 w カ 1 IJ フ 7 1 如 サ 月 皇 此 者 浩 7 書 此 物 カ 何 度也 ŀ 3 -10 ٤ 此亭敷 三階蔽 + Ŧi. 談 ラ 語 1) 7 7 丰 南 オ H 7 イ 條后 是 讀 应 1V ケ ガ 1 カ æ 叉 云 V -ナ 詞 1 H Λ ナ ヲ ス グ 70 サ 7 ٢ • 家階 宮 テ 嵯 ŀ 也 此 1) ス w 1 也 抑 2 ŋ 3 7 7 芹河 貫 峨 行 集 彼 所 カ ケ IV 3 工 御 ۲ 18 = 平 隱者 之 チ 物 ılı X ヲ X ス = w 1 E 在所 階 行 女ヲ タ w 1) 中 ゔ゙ ツ 1 7 3 ソ 語 ŀ 元者 筆 歌 ナ 然 狩 納 幸 隱 ャ Ł ユ H カ イ 1 æ 詞 + 始於此 18 メ 丰 シ w バ = ٢ 1 ٢ 御 是 不 デ ~ 絕 為 光孝天皇御 ヂ 詞 カ 丰 3 12 高い差 ン開 條后 ダ ク ) 行 シ = 毛 = 丰 ャ = L 嵯 3 丰 17 ク 物 丿 • ブ ₹/ 時一 Ի 雌御 " 話 ラ ŀ 1 7 ス V p 1 餇 也 車車 オ 也 デ 定 ゥ IJ せ = 3 V 3  $\hat{H}$ フ 云 芹 狩 時 古 IJ 時 ン IJ ジ ~3 x ケ 御 3 先達 歌 仁 丰 カ æ 衣 17 河 カ リ 7 今 辛 テ w 輿 私 首 ラ ナ ガ 7 ŀ 3 7 =

> 其 上追可"沙汰" 嵯 朋 テ テ ŀ 7 ケ 其 故 3 ٤ w 瞰 後宮 事 フ 求 15 ヲ 出 昭 其 ヲ = w 明 官 也 11 相 タ = 光孝 求 公 叶 幸 7 崩 明 出 歟 ^ 已上三代芹河 行 天 私 IJ ダ オ H 皇 幸 ケ ラ サ 3 云 芹 御 ナ 相 w 4 カ 叶 時 JII 所 所 7 1. 行 ]-= = オ 御 伽 IJ 注 極 幸 > コ 行 件 樂寺 七 シ F ŀ 度 幸 云 ヲ ケ ツゅ iv 事 7 屯 = タ w X ハ 芹 此 度 IJ ヌ ツ 3/ 7 Ti. 落 ŀ 111 テ テ K ~3 3 條 ラ 丰 求 3/ = 7 テ 后 願 in V サ 給 工 有 タ カ X ヲ 世 1 り 1) 歟 仁 隨 IJ ヌ ヌ

叉云

此

如

此

集

子

敷ト

尾

御

時業

也

F\*

注

セリ

歌

女也

在

原

ナ

w

オ

直上

3

水ア

w

ノヽ

平

ナ敷

ŀ

題不知

7

٤

テ

7

V

=

7

3

٤

ソ

7

フ

サ

力

ノ

ユ

フ

ツ

ケ

ì

IJ

ナ

カ

ス

FE

T

ラ

ナ

2

讀人不知

ılı 歌 ラ 그. w オ ヲ ナ \_ ナ フ 7 1 ナ IJ 屯 U 7 ガ ツ 7 ス 此 ス ク シ E ケ 1 テ V ス V 1. p 集 ガ 7 ツ 3 N 1) ナ × ス } ٥, t H 部 ラ 力 ŋ ガ 丰 = 丰 テ 毅 = p ヲ ス ガ シ ソ イ 長 ۱ر 7 ユ 1 テ 卿 = カ フ ナ フ 1) カ ፧ 3/ 云 オ 7 ٦ 7 ソ = デ = IJ ユ ッ ナ ユ 辛 ユ フ 5 フ フ 1." ユ 1 ツ ス ツ フ ツ IJ イ テ ケ 12 15 ケ 7 ナ ツ フ テ F 1. ケ = 毛 イ ク IJ ス 1 IJ 1 フ 1 ス ツ 1 IJ ŀ ツ ナ 力縣 イ グ イ イ IJ w ケ フ カ ス 才

中 ナ 關 ツ カ 3 ナ ク フ 丰 ソ ŋ ツ 7 說 ナ \* ŀ 1 ナ ケ カ 7 2 昭 ŀ ケ フ = 3 カ = \_ ツ ŀ ク 愈 キ ツ 35 サ 3 4 ツ フ 10 1 云 イ 首 白 白 17 ~3 ナ 1 フ 1 ケ 四 1] ユ 1) カ = ^ 3 義 テ 境 俊 1 力 1 テ " 力 = " フ 17 x 7 ラ 1) 告 サ ナ 四 祭 T 賴 7 ユ ツ 力 u 1 1. 1) ラ フ 7 ズ 1 1) 朝 3 7 1 \_\_ 7 1 1 12 ケ = F 此 又 + 尾 3/ = W テ ナ 臣 1 17 -3 カ A = 綺 ~ 7 集 此 帝 カ ナ カ = 70 デ 1 毛 シ 話 \_ 1] 云 1) 1) = 公 1 1 1 11 ラ ン 集 ツ æ ^ 1 ŀ. 抄 + ユ 家 1 丰 ケ チ 1% =/ 1) ユ 輔 = ソ ズ ٧, ---第十 フ 3 Æ ス 丰 IJ 1) 朝 义 17 DE 7 1% ŀ 1 V ツ テ ハ 7 ツ カ W w 御 義 7 臣 IJ 人 -E 10 IJ 四 ~ ケ 叢 省 ケ ユ -被 フ ----ス Z 12 此 7 云 ラ \_、雜 1. 也 4 7 セ iv 10 ラ , = E ユ 1 ٧٠ IJ 後 テ IJ 2 ク 祭 也 フ 3/ ス 1) 7 = ` 1 ŀ ~ 義 1 カ 17 F ヲ 7 7 1] ر ر ユ シ 也 = ナ ヲ iv 義 歌 ナ = N. 3 7 3 サ -70 1 1 フ 7 力 ツ 7 サ 四 X " 1) 7 ユ フ 1 サ 3 + カ 子 1 w ン 3 如 せ 省 フ + 1 ツ IJ テ ij +" 1) ク 7 1 = 7 1 品 工 ヲ 此 H ユ 7 = 尾 35 w 力 \_\_ ガ Ill 2 彩 尼 フ 3/ 1 テ ツ 等 ユ フ w =E

> 1. ウ 3 111 力 ガ ケ ラ 大 ス 1) V ユ æ 心 ケ 11 牛 和 3/ フ 7 せ 1% 物力 7 ナ フ デ 欠 1) 1 七日 +}-ナ 7 1. 1] 語 ツ " 1] 力整沙 ケ ケ 1% カ 丰 イ ナ 1 1% ケ グ V " 12 ١٧ 7 ラ 丰 テ 才 7 ılı iv V \_\_ 子 ,8 テ 1% 3/ 1 ~~ 1 1. 1 才 7 力 1 3 1 \_1 1% ŀ 1% 1) カ 1 3 Ш 1 ク 1% =7 -2 3 1 w iv 18 글 -70 V -0 ナ カ 3 せ -1 ·E -7 テ w 此 1) 1% 1 1 2, 12 狀 1 -}-で頭 人 集 テ オ ラ 1. ナ 5 1) 71 ١٠ =1 111 テ 1 1111 =/ 3 ス V 1 ヹ゙ヺ ク iv ١,٠ ク ナ ナコ ٥, 1 1 サ -10 リカ 3 ラ 5 7 京 カ

小町

ナ 7 7 ク 牛 フ 人 ケ IV  $\Rightarrow$ 18 ナ b 7 ナ フ ヌ 7 17 1 1 Ŀ ۴ 1 35 1  $\exists$ 1 1-1 7 3 X ナ w = X 15 T フ 1) 1 毛 ŀ 7 P 18 か 1 ) 3 サ 工 7 250 テ ヲ ナ E 3/ 1) 1 -1 詞 人 7 ŀ 7 イ 1) ラ ヲ ケ 1 ズ フ せ æ 2 カ 7 1) ナ 汉 7 同 + 7 11 ١° ナ 12 Ł B: 子 18 フ 世 也 テ 1 1 = -}-俗 1 7 新 イ イ 7 3 7 1 ٢ 完 フ 1 ゾ カ テ w ナ 1 御 サ ナ 1) 7 1 E 3 子 木 1] 1 = E 1. ナ テ ヲ 1% 1 ン ク 18 イ æ 1 : 1 フ 7 70 w E

俳 ヅ ス 1 1 イ フ X 110 歌 諧 也 Æ フ カ 3 ツ iv オ 1 カ 半 歌 ٤ ٥, t 城 俳 次 Æ 水 = ナ ス ァ 書 佪 = 力 ク Ł ケ IJ 歟 ソ ハ = 1 7 此 テ -3 ナ 7 侗 歌 ク 歌 俳 iv ケ 字 テ w iv 諧 其 躬 中 = 加 in ヌ ¿Ľ» ケ 何 恒 t = = 也 2 此 オ IJ 歌 イ カ 件 ハ 3/ Æ = V ナ イ 躬 卿 心 ジ ツ iv 3 1 w ラ 云躬 メ IJ ハ ッ = シ 歌 只 1) 7 1 力 7 同 フ 7 1 Æ ソ -恒 A 事 ナ 3 7 丰 2 カ コ カ ク ヅ V ッ か 1 歟 ラ ラ ナ IJ 7 1, = \_ ナ 1 宁 1 ケ カ ハ = , 案 7 カ ナ 1 3/ Æ ヌ U 1. テ w 7 3

藤 原 國 經 朝 臣 3

ナ

V

ヌ 7 オ ケ Æ 又 ٤ ŀ ン テ フ イ ラ 7 2 رر 1 = U ツ ク 力 ラ = ナ 1. イ Ł. シ ラ

111 シ F ろ ラ カ ィ 工 ウ Æ ヌ Ŀ. ٥, イ オ 1 + と æ 1 3/ 1 ス 3/ Ŀ フ • ラ ŀ 7 w п ヌ ナ ŀ ナ U ツ IJ ノ ナ 1. 子 イ 才 ŋ 云 7 7 不頭 心 ナ 可書 ナ キ ŀ 力 說旣 7] ホ 丰 ~ 1.0 ナ ラ 心力 1. 2 ヘラ 1 7 3 = イ メト w フ =/ 1 Æ 7 テ フ イ 1 イ Ł ~

7 ケ 又 1 寬 テ 御 カ 時 后 iv 3 宮 チ 歌 = 合 ハ = 丰 歌 ス V テ 7 敏 X 行 Æ 朝 ナ 臣 3 ス

> 顋 致 フ 昭 長 1] 云 卿 ソ 世 云 示 俗 チ = 丰 1 ツ 詞 久 = V 7 テ X ŀ ヲ 1 フ バ 力 丰 ウ ス チ V 7 テ カ セ フ テ w }ŀ イ 云

æ

叉 丰 丰 11 力 1 ŀ = イ t  $\Rightarrow$ 子 w 紅 ナ テ ク 3 3 æ フ キ 7 ハ オ カ カ 枝 葉 力 メ 文 t 丰" ス ク 3 ク ヅ 1 キ iv シ ŋ サ 1 シ ソ = 18 = = 云 下 テ ク ツ ヲ ウ 毛 フ 1 7 ボ = U ナ ラ ナ 。同 丰 w ソ 卡 = p ツ = 7 = サ ŀ P ヲ 牛 車 タ デ 1 ナ 同 2, Æ オ キ ١,٠ ナ 叉 w 丰 丰 = = = Ŧi. ハ 机 Æ チ 音 3 1 タ 丰 ソ イ 7 = 又 悤 Æ 7 フ ラ テ ワ ナ ダ ) 丰 フ ナ w 10 7 Æ = ナ ス = = ス ヲ イ 3 æ シ 3/ ゼ V • 3 ダ <u>۱</u> タ ソ ラ ヲ 7 テ V カ **シ**/ V オ 18 タ 丰 デ 秋 ŋ テ ナ ツ 丰 1 J. = カ 3 æ = ノ 7 テ ク ソ 3) イ æ ユ メ 7 H 3 シ ン 力借 ウ テ ン 7 1) ツ ホ 7 サ ٤ メ ラ ホ イ テ ボ ワ フ メ w 5 ス 18 iv 7 1) di チ チ ケ IJ テ ナ ス 1 V 2 3 ナ 詞 x ナ H ク 2, 7 ヌ ソ ヌ カ V 1, ナ w ボ ラ ゼ キ 也 w バ 1 1 ۲ 春 云 ŀ チ シ タ イ 1, 叉 ン 7 3 П = テ 此 Ħ ツ " iv ズ 歌 子 也 3 X Ŀ ヤ N. IJ ヲ 集 X 也 ŀ カ

ナ Ł. IJ Ŀ 7 ラ カ IJ 朝 5 臣 w 1 イ + 七 齊宮 1 ク ナ ŋ ケ カ 1) in 人 = ツ イ カ

顧 昭 古 今 集 註 卷 +

t  $\supset$ 1 ~ b ク 3 3/ 3 ワ IJ Æ ン V ヲ ナ カ ク to コ テ 7 七 ユ 丰 ス オ ٢ ケ IJ Æ テ ケ 2 也 7 ケ ダ オ w 1 w Æ 7 7 六 工 3 Ł 3/ 3 グ ガ ス A ユ = = X シ 女 人 ラ カ 7 ウ ズ Æ w ッ

カキ

于三

テ

カ

サ

×

テ

カ

カ 丰 3 7 ラ ۲ カ サ ス ス  $\Rightarrow$ 文 -3 n P 3 \_\_ ~ ŀ ۲ ナ -IJ 丰 Ł ユ ラ ヌ 1 ウ 朝 ツ 臣 ŀ

E ク 敌 IJ ツ  $\Rightarrow$ 5 イ 長 IJ カ カ カ = V ス 2 カ テ 卿 IJ Ŀ IJ b ナ w = 1 ケ 也 ザ ナ 1) 1 1 b 2 云 1] + ス P " A IJ ッ 兩 7 ス 丰 7 カ 7 7 カ 集 後 卆 Æ ~ 3/ 摆 Æ オ Ł サ オ ٢ w \_ 戀 3 カ 1 ダ ホ ]-ハ 7 定 チ 歌 歌 3 メ \_ ハ 2 イ サ サ カ ス 3 ラ ツ 7 文 7 ダ 7 ナ ナ ヺ゙ ナ E テ V カ 7 3/ ~ w ナ 17 ナ ス ズ ٢ ワ カ 7 丰 V 1) 1 ツ = 2  $\exists$ ヺ゚ = 7 ユ w 17 3 カ ナ ホ V Ł 7 23 ツ 2 テ 平 カ カ 3/ IJ 子 = \_ カ ナ ケ 1,0 ١ 4 = カ =3 II. V リ ٤ 八 ク ŀ w 1 ヲ V = 詞 ツ ス 月 歌 規 3 7 1 18 U 3 71 ス テ = モ P 摸 3  $\exists$ 25 カ IJ ŀ 7 カ イ 3 ---P ٤ 7 ラ IJ ケ ツ 3 × 牛 7 = =  $\exists$ 1) 七 5 殿 子 ジ 12 = ~

モト

テ

ナ

テトリ

-E

オレ

Æ

ズ

サ

æ

1.

イ

15

7

ズ

"

カラ

E

サ

子

1. 1.

7

IV E TE

ナメダ

イ

フ

枢

才

=3

ワック

テ

7

٥ د ر

2

F

イ

フ

女

ハ特

1

ŀ

ッ \_ IJ 35 イ 3 1 カ 卿 大" ス 1 w 7 工 IJ テ ---V ス = ツ 3/ ナ ツ ケ w  $\supset$ = フ = ナ サ 1 7 カ オ 1.0 ナノ ケ 1 1 カ  $\Rightarrow$ ン、母 ナ 1] 1 70 ズ 1 7 Ł P æ 7 = ガ 3 3 1 1 \_ = 狩 3/ 1 110 1 -77 =/ 11 U 條 先 1% 子 ナ 7 ナ 7 セ 牛 \_\_ ツ 70 ス イ 達 1) 使 7 テ 1) 丰 カ 1, ٤ 2, = 1 ツ カ 72 ヲ ツ ケ ケ F 1 IJ = 10 ス ~ 15 -70 ラ P 子 チ 12 IJ ゾ カ 昭 7 1-3 キ =>/ オ D  $\supset$ 名前 ケ 子 ") 也 ン ~ 2 云 オ 1% 7 U 也 イ 1% ツ カ 1 ウ 3 w ٢ IJ サ ユ V  $\equiv$ 毛 L IJ ウ 1] 3 フ 1 ン T ス カ 1 E V + ケ ٢ ノ條伊 P シ カ テ テ 1 1% --n 21 ミノ勢 ヲ ユ ケ IJ IJ V 3  $\Rightarrow$ ~ ケ IJ 1 1 3 1) 1) IJ チ 3 ク イ 15 1 + 1 15 w 業 1% IJ 母女 齊 70 ツ 1 カ = カコ オ 3/ = Æ -1-7 也 ff1 1 1 ク 1 チ 41 ->-=1 1 73 -E 17 IJ シ  $\supset$ ナ 7 纳 ナ Ŀ ナガ ----1 3/ 1 レ性リ " ナ テ 5 " グ = Ŀ 物 1) 1% -7 7) 汉 点 IJ 1 放 IJ デ 1% F. E -5-1 15 Fi 7 1.3 ナ =1 ナコ カ 皿 ŀ IJ シ 女 1 ン IV 1 -E 云 7 B 7 カ 1) 2 人 1) 2. 輔 才 ナ -1 4

显行 昭 古 今 集 註 卷 +

ナ金頭 "ス" 7 カ = テ p ラ V ŀ ク 1. 3 7 1 テ フ = カ 1) テ P IJ シ 國 IJ ス ヲ ワ ク 1) 也 Æ 7 Ł ٢ = 3 テ 1 3 1) テ テ 1 ガ オ ケ 7 ~ E 時子 守 テ 子 子 ŀ IJ ٤ カ チ カ ス = 1 1、子 1 = V ハト 云上 イ ダ 1) 才 ŀ ヲ ヲ ズ タ ٤ = 18 月 子 毛 1 四 ッ ラ ナ ラ ŀ ィ チ 70 7 " = ŀ V P 18 點下 調ル デ 丰 Λ 110 1) ッ ŀ 才 才 = w E ア云 女 3 21 ヨ終ノ 3/ ウ + ルハ 1) T デ ヨ曲イ 7 サ ٤ べ -ヌ 3 术 ナ 夜宫 ナ子 ッ ٤ 丰 IJ 丰 1] ケ ٤ ヌ ጉ ケ ケ = V 11 ク ワゴナ r ウ 110 1 メ = 1) カ 3/ ケ 初 ヲ テ ハ ヲ テ サ ナ シ ウ ラサル 3 7 = ダ シ ッ オ  $\exists$ カ ^ V 2 " ウ \* IJ 3 テ ጉ サ酒ミ 3 7 ダ E ŀ 10 15 V \_ 1 毛 テ 7 人 ŀ X 1) ケ カ 1 1) X ナ 3 7 メ = ツ 7 **=** P ラ +)-カ , テ 1 ノ飲ケ 7 ケ 3 P シ ラ ケ 7 ガ 1 丰 1, 子 サ或 タ ク 1. 110 子 イ 1) デ ヌ 丰 15 カ Æ ク 3 テ = サ w ŋ 7 シ 久. ŀ 3/ = 3/ 11 r オ 7 = 1 ٤ = 3 1 グ シ ヲ P ズ ケ ケ 7 Դ 1 = > • = イ w 3 3 3 女 ス t ブ  $\Rightarrow$ テ ケ 3 + ッ 2 w 7 = = V U w チ ት ጉ п カ ィ 7 11 8 V イ ス 18 1 女 シ ŀ 1) Æ カ オ ン カ 毛 ダ = E 18 ダ 力 子 ヌ 3 1) ラ 3 丰 1 ŀ ŀ ~3 Æ 1 ケ カ ナ 丰 3 シ オ IJ P ハ ラ テ 7 ナ ナ テ 1% テ チ 3 ツ フ = ⇉ 毛 1 =

> テ ダ ズ V 夜 3 ス 15 1 サ V 7 才 カ 11 カ ゥ ŀ 丰 17 = テ カ + 毛 ス チ 7 7 7 卫 ٤ サ ケ 2 ŀ ٧, ラ ナ ナ ナ 1 = 2. モ シ 7 ウ 1-チ ン タ ス ス 1 ノ vy 71 w ナ サ 1 丰 ホ 3 テ 1. ダ 力 ヌ イ 7 ッ V = キ 少 ナ 又 ダ 工 3 力 ガ サ タ 1% 七 = ラ 3/ 1) 3 1. IJ 7 = 7 ት ッ IJ イ

叉 7 ラ 或 皇 w ~ ス カ カ = 2 フ イ 或 チ ケ ~ 110 ケ サ = 1 = = ~ 癌 IJ ケ IJ 工 ヌ カ 1 御 ^ カ ツ ~ 伊 宮 狩 リ 7 ) 1 V = 4 = 勢 伊 カ ケ ケ 7 3/ ス エ 也 ス 勢 使 3) ろ カ 3 タ X 丰 3 V = 齍 御 1) デ 惟 3/ ナ 18 w ŀ = ケ ハ 叉 テ 國 1 品 1, ナ ッ 宮 1 3 高 1) = カ 1. カ ナ ツ 工 野 カ サ = 工 條 汉 2 カ タ IJ 3 ナ カ Ł IJ カ =  $\Rightarrow$ 丰 ナ IJ IJ 7 1 1 ~3 ケ と =  $\Rightarrow$ 2 叉 癌 L 町 カ ラ リ 1 1 3 w = 齊 ŀ ラ 7 宫 150 A ツ 7 ケ ズ 1 1) テ ク 1,\* イ 宫 ヲ 3 ズ 7 ナ 力 3/ E 齋宮 V 水 ク 3 10 17 ス ウ 7 73 ٤  $\rightrightarrows$ ろ ハ Դ 尾 テ ク 牛 18 3 = ケ 7 • ヲ タ 7 ン 1 1 ナ 1 ッ w H • V ウ ゲ ハ 丰 = w t y 御 11 グ 今 チ IJ ŋ 晴 V IJ ケ ツ ン 7 = ŀ 案 ጉ 1 カ ラ r 文 -Va = 1 カ w = グ 宿 7 國 德 ŋ 7 ケ ン Ł = カ = --詞 ヤ 1) ŀ 力 ナ ŀ 丰 7

3/

タ

12

ユ

ナ

IJ

サ

V

11

叉

イ

ツ

丰

3

r

ウォ

3

カ

5

八人名 狩 才 1 オ ウ 牛 イ 20 ŀ = 力 17 ŀ 2. 3 Æ 1) カ イ 工 ٥, --w サ 國 ツ = ケ 3/ フ 1) ス = ヌ 1 ナス 業 カ リキ 歌 3 カ IJ Z 工 オ 可 = E w ス ŀ 3/ 平 10 ナ 110 Ľ ワ 7 3 應 春 17 V  $\Rightarrow$ 1 カ シ ス シ 部 ナ 狩 チ 110 イ = チ 11 ク ク カ ナ オ ノコ to 17 1 X カ ~ 3 3/ 應 ク ラ ホ = 7 IJ イ ツ 70 J° 丰 齋宮 答 ナ カ 3 ク \_ ŀ 1) ~ ŀ テ ケ ク ゾ テ ヤ カ ٥, ---毛 Æ ス 學 *3*/ ナ 先 1) ٢ 1 -\_\_ テっ  $\exists$ 丰 11 達 ゥ 應 ŀ ク ガ 3 毛 今 3 勘 1 チ チ サ F. フ コ 毛 V カ 不 3 ŀ 1 申 iv 毛 3/ ント リ我 シ 御 墾 申 審 イ 汉 7 P 7 鷲 文 侍 フ " チ ٢ =3 w ク モ w 伊 ナ 21 ケ プリ h ホ 勢 12 神 Ŀ to w 10 3/ -E 物 又齋 サ フ ヺ 才 ~ 7 +} 1 V テ リレ シ =/ ィ 12 イ 2, ホ \_\_ 神 叉 121 カ ナ ~x 云 毛 70

叉 今 ラゴニ F. ク 案 ハサオ 云 t 3 > ٢ サ ~ ホ 2 ン IJ カ ヲ 3 カ \_ 事 テ IJ F. +) ス オ 1 3/ 4 ツ 7 to ツ 1 テ カ ウ 丰 汉 カ  $\exists$ ワ ケ ٤ 1) 力 v = ヲ 力 = IJ \_\_ w ケ P 1 210 to ヲ 1) カ 10 ツ 3/ 叉 7 7 IJ カ ~ w ラ 别 テ  $\exists$ G 3 X 3 3 7 カ 齋 ~" カ ツ 1) w ~V = ケ 丰 カ 1 カ 1 1) ツ 又大 ス Ł 3 1) = 1) カ ŀ P to 丰 7 7 글 イ 7 ケ 子 ナ 2 1.0 ツ 7 w

 $\equiv$ 

E

サ

グ

X

2

ŀ

3

12

ン

イ

Z

グ

F

113

1)

共

歌 モ息ト IJ 語 ウ 終 半 語 師 ツ 7 ヲ V 3/ ユ -子 ハ 所才 ケサア 後 ケ 4 1 ワ カ 1 ス 1 Ľ ŀ 返 名 春 本 1 ~3 ラ ~3 IJ ŀ 2, 丰 3 ス ---E = カ リ女 テ 1 7 V 御チ 1] ヌ 3 = ~ カ ナ 七 ゾ 1 H E ク 息バ 11 E 1. サ 人 丰 歌 野 テ b 15 ŀ Æ ユ 所御 1 亦 卿 サ 同 侍 ~3 コ 17 イ æ ツ オ ヲ 1 V 岩 P ケ ク 事 1 テ サ 17 \_\_\_ オ V Æ 3/ w 略名 紫 传 書 古 叉 137. 伊 ヲ カ シガ E 示 Ł 也 サ 3 = V = テル 今 又 此 义 小儿 18 31 r 7 ナ 工 ^ カ b V + 御口 業 摺 來 物 3 + -1)-IJ 1." せ ズ ツ ク 3 \*\*\*\*\* 小 ノヽ ١, 1 ヹア サ 215 浴 工 カ 次 又 11 如 部 カ I 初 77 衣 FIL. 侍 デ 二 1) 伊 水 lil × 仰 何 1 V 1 ---15 1 1 ハ伊ア勢 势 又 IV カ 世 ガ 纳 伊 サ カ 1 14 侍 ナー V V ---1 111 教 始 條 伊 514 侍 ッ 1% 物 ナ カ 7 V 3/ シズ御御 人 1 办 此 歌 此 7 4分 ナ 后 ズ 15  $\supset$ =1 又 TIP 1 カデ 話 ŀ F. フ 1 r 物 君 7 1: 12 X 俊 集歐節 間 僻 111 3/ E 1. 此 3 3 ス E to  $\exists$ -3 31 云 虹 齋 w 1% BIL ナバ 1% チ 111 1 其: P  $\exists$ ン 11 1 t II 111 127 4 315 ナ VIG. 朝 N 1 33 17 7 イ 3/ . |-١, 1 伊伊 伊 我 丰 サ 15 1 フ ッ 3 大 ヹ ラ 4 密 34 小 3 1% ク ゾ 18 Z 113 =3 1% ン 70 X 1 此 テ 始 木 物 人御丘テ 31: 1 物 1 11L 7 カ ナガ -5 iv

ナ IJ r ~ ŀ }. ガ ۱ر Ŀ ラ イ 3 國 7 7 イ = ス 3 デ E ン テ X iĎ v 7 フ 7 ッゾ 1 T 事 無 イ 7 ウ = w = 力 ~ ク ス ラ ナ 1 カ w 1 Æ F = æ 心 ナ 7 IJ ラ ~ ٤ ヌ V 3/ 7 Æ ラ ラ ジ サ w **シ**/ = メ サ ヌ 110 僻 歌 叉 丰 グ ナ ŀ ズ 1 デ デ カ 1 專 Æ 我 IJ ラ = ス カ = ヌ ナ ワ Æ = 世 テ j. カ 1 ケ 2 = ハ ケ カ 工 # 中 候 7 力 ~ V V IJ カ 1 7 7 ユ 今夜 イ 世 = ス ヌ ナ T 1 3 1 人 A V ズ ^ 主 E Æ コ メ q. ŀ 7 w 工 工 7 3 = 工 ~ ス P 先 A ダ テ Æ サ 3/ 7 ッ = = 此 イ ラ フ ソ ゥ 7 7 ズ ~ 3 7 和 ハ メ ~ IJ t Ł = = フ ク 歌 ヌ テ テ テ 歌 ヌ ジ ŀ ~ w E 3 叉 伊 ケ サ ナ ク 1 3/ サ Ł = Ł 外 ŀ 云 = ダ ダ J" カ æ 勢 V 11 道 = w テ X ラ 水 物 H 工 = ナ テ ス ス 3 3 Ł 7 ソ カ 語

伊 210 Ŀ 勢 1) 7 ナ 給 ラ 裏 坂 ダ 齊宮 東 7 シ 1 ク ク K 諺 1 次 ダ 7 ٤ 1) 京 其 w 12 ٠, 故 1 ス カ イ w ۲ Ш フ 7 相 ガ 道 國 12 F 1 海 9 松 云 京 #1 ボ 15 事 1 1 1] 1 3 テ 1 1 ボ 1] 7 Ш T w IJ IJ 1 审 僻 Ł ナ 叉 京 云 ス 事 カ フ w 義 海 カ ヲ ィ

> 勢 古 物 = 7 歌 語 僻 ラ 坳 = ホ 語 テ 消 ŀ 1 ズ 云 IJ ウ 海 云 道 1 w 業平 イ ハ ヲ 也 = 僻 イ 1 フ シ Ŧ 路 ナ カ ガ ア ~ ŀ ラ 歌 云 ラ 1) 7 7 子 w ヲ ズ 17 他 正 辈 N = 而 伊 道 1 人 伊 1 勢 勢路 方 ハ t = Æ ٤ ウ 1 7 ス ŀ 云 チ ガ = = ラ イ 力 = イ ヌ 准 ٤ 意 Ш Ł 也 3 ナ ナ = 道 テ ス シ 伊 行 伊 叉 フ 勢 故 E

故 其 伊 勢 半 キ ヲ 相 勢 伊 ゥ 太 伊 物 1% ガ 勢 書 躰 勢 ッ w 本 物 17 シ ŀ 齋宮 ルレテ テ 云 語 ハカ伊 世 朱 名 間 雀 證 名 勢 ノ事 院 本 クト 物 有 = 流 ヲ 語 云 卜名 殊 布 イ ヌ 義 義 フ IJ = ス 一之中 w = = ク イ 殊 ハ X w = 3 業 ŀ 劣 シ = ジ = 李 云 是 ナ シ オ 丰 N 義 カ ガ w = ハ セ 紙 義 ŀ \_. V ハ 尤 IJ グ 屋 ナ ナ 1 叉 宜 義 w 紙 1) レ 7 其 和 ナ

伊

IJ

1 ス 兩 昭 ナ 7 說 云 1 フ 詞 才 11 ~3 ッ キ カ  $\Rightarrow$ ナ Æ 丰 3 Ł ラ ろ Ł 中 ŀ ズ シ ウ +}ŀ 女 11/8 V ダ æ ナ カ 3 筆 ワ 丰 = ⅎ 17 7 = 1 1 7 3 と カ  $\rightrightarrows$ テ = ラ 3 工 7 ユ ズ Ł ズ ス サ メ メ ウ 1 1 グ ヤ メ ッ t

> ウ = 3

w 2 ィ

1

3

ヲ ナ 顕

カ カ

フ 7

サ

ダ

X

 $\exists$ 

ŀ

3

7

2

E

4

=

1

オ

术

ユ

叉

7

=

T

哥 古 サ ヲ ガ 1 IJ 7 ~ = 770 カ 3 3 17 ザ 今 デ -7 カ 1) ŀ ラ t F メ P フ = 7 3 チ 詞 丰 ヌ イ シ Æ イ 3 3 ヲ 1h チ サ 7 ^ Ł ス ~ 1 E フ ~3 ガ 1 \_ .j チ カ ヲ 书 iv w + w 2 フ ス IJ 1 3 = 3 ~~? カ 許 丰 = 3 = 113 カ ッ 3 丰 13 キ  $\rightrightarrows$ ٤ = 3 ナ 叉 伊 ク \_ E P ン X ~ 3 h = 2 Ł ヲ シ 7 李九 サ 豁 ŋ 1 詞 2 1 キ ŀ Ի E テ ユ ガ ス キ 物 1) グ 本 ナ ガ オ ッ 3 = ŀ t ٤ ヲ w テ 語 Ł ユ メ V 3/ キ 力 カ カ イ = æ ソヂ ラ 示 7 = 丰 ク + Ł フ + 70 ス ハ E ッ 110 カ 7 -牛 U ~7 ŀ ク ~ ウ 7 ハ 7 Λ 次。 ハ U 100 ŀ オ = ナ ŧ 侍 ~" ~ ワ フ 7 丰 メ オ \_ 13 シ æ カ ン 示 7 \_ キ w 丰 チ ~ 7 ワ 3 示 æ V 7 ヌ 工 ŀ イ カ イ 7 オ ナ テ ク 事 17 ŀ イ V 3 u = ナ ~ v 六 ラ フ ŋ w ケ ク カ ۱ر シ 2 18 也 ラ ジ ~ 25 ゥ シ w 3 丰 111 ユ Æ Ŀ カ V 牛 ヌ ラ ŀ サ 而 2, 7 3 チ ŀ = p 叉 1 ダ 1 ズ テ ラ 3 次 1  $\exists$ = 7 Æ ン 力 +" 0 Λ 兩 7 サ 子 Դ 3 IJ Æ = ユ ル サ ъ 7 丰 3 D ナ 1 說 1) サ 木 チ サ ン æ 1. ٤ カ 才 3 13 ラ 卡 1 才 × 木 ŀ 我 5 Æ 术 ٢ グ E ダ  $\Rightarrow$ F 1) 1. : 3 カ ホ ユ ŀ X 7 3 × 丰 ガ + æ カ

> 字 サ ति V 15 ユ 7 3 ナ ۲ 1) 7 3 ٢ ŀ 力 ケ w \_\_ 7 3 ۲ 1. イ フ 文

ナ ŀ 1) 題 力 1 不 t 知 7 7 2 Æ V 牛 7 ラ ۱ر V 讀 ١٠ イ 71 不 \_ 知 七 20 F

7

٤

3

ソ

X

ケ

2

+ Æ シ ナ カ シ ナ ソ 7 1% ラ 1) ŀ V サ V 歌 Æ ギ ---7 2, ナ 牛 1) 1 11 ゥ 1 丰 ソ 2 E ١٠ = ガ ァ 7 ナ 2 " V 3  $\Rightarrow$ Æ サ +" 1 æ メ 7 ~~ フ 3 1] ス 丰 }. ナ 1) 冼 p V iv チ テ FIL 1% 谷 ユ 7 1 ブ ラ 萬 1 國 ク 7 ラ ナ iv オ ク F. 木 2 ヌ ラ 事 2, ナない w ク 名 111 E 1 集 ----7 = 3/ ウ 又 V ラ オ V 云 1 IV 7 郡 " ウ 70 サ \_ ファ ス 1 IJ ナ テ ラ 7 1) 毛 -E Æ ン \_\_ r 10 4 7 V カ ~ V 才 2, 埋 イ テ 水 E 3/ ナ テ IJ w  $\Rightarrow$ 初 フ 3 ナ 3 木 111 F æ 3 ŀ 1. X 1 テ ナ 3 24 ----何 消 Z IJ ---3 w E -)1 -E 7 ユ 丰 水 5 ヲ 3 ナ 歌 33 フK ケ 111 X ---テ 丰 ナ 1 ケ 1) F 注 1) ·E 2, 7 71 w 1 1)

小野春風

1 ナ 3 ス ス 工 ス 7 フ 7: + 6 示 毛 1 " イ テ シ グ =1 4 ٢ 术 ナ ナ 7 1) 3/ グ シ 2 3/ 示 1% 1 ユ 3 フ 1% L

2 ŀ

#

7

ケ

テ

3

2

1.

1

Ł

テ

Æ

7

カ

3

サ

ヲ

Æ 丰 Æ シ ナ ナ ŀ ヌ 1 3/ ス 7 IJ ハ 1 = 17 7 Æ 7 3 1 半 小 カ ス ヺ ヲ 絡 ラ 1 = 云 E" -70 1-**シ** 丰" \* ナ 1 ウ イ IJ ŀ マ iv 2, b -E E 3/ テ テ ス 17 ダ ホ 1 ~3 = 牛 111 Ŀ 1 E iv 1 カ Æ ス 7 1 -> デ 7 7 1 カ 1 女 ウ 3 w  $\supset$ ウ æ ナ ナ = 毛 3/ ^ 1 カ 1 ナ = 1. 紅 1 7 タ ナ IJ Ł Æ ノ 1) V Ł 丰 3 ハ テ 敎 2, ボ する メ 力 長 7 æ ŀ 7 1) 7 ラ 卿 ウ 3 1 w ŀ 乙 シ 云 テ E

而 ナ w Æ ŀ 此 ナ æ 集 17 宁 5,1 -1 部 案 丰 X 歌 ク 云 如 17 シ 此 テ 義 ダ æ ノヲ 者 7 シ ie" タ 2, 1 ユ ŀ 路 フ ソ ハ E ヲ 力 E æ タ ٧, フ F 此 帮 歌 7 ヲ カ 歟

敦

E"

右

ワ

力

チ

1.

7

IJ

ナ

+

オ

Æ

Ł

1

~

=

~

ŀ

3

メ

ŀ

ŋ

二

Դ MII

1)

7 7

10 ハ

テ 左

2

ス =

-3 と

18 丰

ン

V

ガ

+ テ

ウ X

= グ

ナ ラ

2 セ

ユ

キ 7

1 カ

ス ヲ X づ E' n ŋ 7 フ ヲ V 1 1) テ ケ 3 ~3 ス = 17 7 オ V V 7 1 歟 ナ ヲ 15 ハ ٠, = テ 俗 1 3 才 2, 擺 ヲ ~ 7 3/ フ 1. ナ シ -1)-詞 ス ŀ 3 77 7 13 ŋ Æ メ 云 ヲ IJ 专上 P. 1) 元 カ 長ガイ ۳, = ŀ 1. ` ナ 3/ × 18 束 テ 3 1) 7 カ -淵 外 清 工 1 = IJ 者 1 市价 Ŀ V カ テ 朝 丰 ス ス シ ۱ر ゥ ス テ イ w 3 臣 3/ E 7 ~ シ 哥 汉 = ボ ゥ -1) ŀ タ デ 力 ケ = 312 ヲ

> 常 ŀ フ ナ ヲ 丰 7: ホ ボ 心 w • 1 ナ 1] 128 テ w .111. ŀ w 1) ኑ ~ サ 1 ŀ IJ シ カ 才 カ タ V 3 V ボ IJ w 1. ŋ 2, 今 Ł 1 = 工 案 此 而 ŀ ボ ス ケ 歌 シ ŋ オ 1 2 7 w 毅 ナ र्यव ス ボ ŋ 長 ŋ 工 シ ヌ ボ 人 チ 卿 ス 1 ヲ = • *シ* 云 ŀ 1 ス ブ゛ 3/ ハ w 3/ 力 ヲ タ 或 シ ŀ タ Ł ケ 說 ٤/ と 1 E ユ 1) ハ Ł 7 ŀ フ タ Æ = テ ク ユ ŀ T ۱ر Ł V 1 フ ケ ス ヌ ŀ ボ 1 束 ヲ Ł ズ 又 ハ ŀ 男 シ 帶 E ヲ ヌ イ 2 イ 2 ヲ フ 女 ダ ノ ナ 3/ ス フ ス 4 Ŀ ダ ボ IJ 7 ボ ボ ス

3 w Æ = 2, ユ 小 メ チ 团1. = サ

Ł ŀ E ŀ 力 X 3/

ナ ۲, -7 -7 Ŀ ŀ ケ ハ w 7 ナ • 力 = ラ ŀ 1 Ł = フ テ 詞 3 #11 x 3 w w ۸, 工 7 ハ デ Ł w

ツ 子

1 U 1 = イ = テ ヲ ク t ر ر ッ 3/ Æ 1  $\exists$ ヲ サ 2 3 3/ = ハ ツ ク ŀ

サ Æ

F. 3/ F 3 1 11 ナ ツ IJ ク 18 3/ b ン E 3 1 ッ -ク ŀ ヲ 3/ Æ オ 3 3 Æ = フ T 示 w = ナ ŀ 1 1 = 1, デ E イ 3 3/ E テ 1 3 to ッ サ 丈 ク ユ テ ナ w

3 ŀ ブ  $\Rightarrow$ フ ナ U ヌ ナ リ IJ シ 3 ッ ク 7 1 1 テ 3 ヲ サ

貞

7 ク ス Æ ラ ラ 3 シ IJ ッ 7 ス シ w ヒ ]-Æ ナ 丰 = ヒ ヲ ナ 3 ダ 70 丰 7

テ ス イ t ツ 72 フ シ 1 ス ラ 歌 チ w 7 牛 ハ IJ オ 2, ラ 7 ヌ 此 Z ナ IJ 本 ヘノマクラ 集 Դ ラ ٧, テ讀 デ 塵 Æ 第十 せ ヨメ 名 テ \_2 1 子シ グ ٧, 也 IJ ノミ To ス ツ 卷 ツ 枕 的刀 Æ \_\_ = ラ 伊コ ---1 = ヲ チリ 2, ハ ン ワ = 埶 歌シ }-テ チ カ ナ IJ T = 3 ラ ラ モ セ w 7 ヒ 1 グ・ニ ッ ヲ ヌ コシ ナ シ 人 IJ イ Æ w 1 シ カ w w ラ 1 ン = = × w ラ 7 Դ ラ ク 1)

3 3 F, } シ ラ ズ

丰 王 ス 3 チ = 3 チ IJ \_ ワ カ ケ IJ ナ ハ ハ ナ = ハ 70 w カ ス 3 グ 1 = w Ŧ P 7 ス

丰

3

 $\Rightarrow$ 

フ

w

=

 $\exists$ 

ŋ

テ

花

1

ゥ

=

7

ナ

ナ

モ

ጉ ヲ

花 ヌ ナ コ" イ IJ フ T ナ カ w 名 フ E B ス ッ ナ 1 チ 3 花 フ ヺ゙ J° × " D 、エナ ラ ッ シ 1 丰 1 3 フ

事

カ

3

IJ

サ

テ

ン

1

花

=

E

カ

ケ

7

ス

ッ

ニフ 2 ノガル 1 テ 3 カ モ ヤロリ ス テ 3 ナ ヲ 2, Æ Æ 花 Ł ٤ T 丰 1 ク -1-1 1% ゥ 70 チ = 1% 1% ナ 1) 松 w æ 1 チ 語 IJ 卿 扎 ノ、 1 1 7 1 J. 11 ヲ

IJ

## 戀四

題 不 知

> 讀 人不 知

ŀ 3 チ 7 = オ ۲ ク t ワ ダ 7 ラ サ カ 了 ヌ 7 7 ナ カ ッ = カ ッ 3 w ٤

國 臣云 ヲ 3 シ = カ ア ク ~ シ サ ヲ ヲ チ サ 或 力 ادر ッ カ y = ر 1 昔 Ľ 人 7 入二金葉集 オ フ 3 7 オ ッ 7 ク 云 菖 サ ク ヌ カ ヲ ٤ 1 3 デ 云 テ 郁 蒲 70 ケ 7 7 力 ハ ŀ 陸 芳 = カ 2 毛 w ۱ر t ナ ッ 云 悤 ダ 7 ナ 門 コ 7 此 ユ r 3 也 力 メ v Æ æ 院 歌 ク × ŋ ブ ŋ ガ ヲ 同 ア 彼歌 ナ ヲ \* 五 力学所 ケ ゴ サ 根合ニ孝善 カ ۲ N ŀ 月 ŀ ٤ 、歟 カ 合 丰 カ ŀ ラ ク 如 五 テ 7 ノト 子ノイカテアサ ス ゾ = 日 = カ ナ ヌ 此 承 N = æ = ガ ~ キ ハ ヲ チ ッ シ Æ v ガ 無具 僻 彼國 ゾ 人 1 3 3 事 フ 1 7 伊 ŀ = Я ク 家 勢 1 1 = ルーア 安積 ナ 國 俊 Æ = 又俊 申 7 カ jν 12 = 彼 朝 P ツ P 7 Æ

> 打云 叉花 ナ Æ 任事也或人云ミチノ ヲ云 ヲ 花 イ ガ ガ 定業駒也 也昔 ッ ッ 7 3 アヤ 7 イ 1 シ フ綺語抄云 ろ ノ花 メ フ 奥義 ) ナ ヲ 國 カ 7 抄 ア風 .17 フ 云 ١٠ ナ 5 1 = 俗 ガ v イ 毛 11 ツ ヲ 五. テ IJ 3 11 月 力 F カ ナ頭  $\overline{\mathcal{H}}$ ツ ッ 日 3 = 3 = ŀ イ ハ

師 15 ナ ツ ダ IJ ヲ 1 \* 丰 ツ 3 7 綱 IJ w ŀ 3 ダ = Æ ツ フ + 七 æ Æ 4 朝 チ テ ク ) ブ ブ 子 ソ サ ) ~ w V 語 菖蒲 牛 ヲ = 丰 臣 ۲ シ ナ ~ 180 ス カ個 F 顋 IJ テ × F ッ 7 w ~ ヶ テ IJ ŋ 輔 ス 1 ゾ シ ラ イ 陸 3 t 7 w 卿 フ 候 t ケ シ ŀ 1) 1 ス = 奥 ッ ス 仰 ラ 争 w ٢ 3 イ な チ Æ 1 信夫郡 肥後 ザ ツ ガ w ラ ヲ ケ カ 3/ デ ク 1 サ IJ = フ 3 デ テ ラ = · 1) 守 7 ケ ۴ ボ V X = ヲ 下 語 遊房 テ リラ 為 也 其 = ケケ 15 ケ シ V 4 = 向 實方 仲 橘 フ = 後 ナ ル野カ 7 V 11 七 キ 1 ガ Ξ ۲ Ł 寫 カ サ 110 IJ ŀ 爲仲 中 ヂ 中等 仲 3 ク 力 シ テ ۱ر 其 ク 將 テ 1 例 将 ガ 3 1 オ フ 申侍 人 朝 任 2 = = ٤ ヌ ラ = 1 カ 云 其 Æ 臣 時 ナ = # カ せ = 7 カ 彼 シ 歌枕 ヲ 後 ガ 3 ろ IJ 1 ス シ • ケ = 國 宮 任 カ ラ IJ テ y カ チ w w Æ 内 IJ フ 在 Ξ. ツ ツ シ ヲ 7 = テ カ 卿 事 7 カ = 御 Æ 1 廳 フ カ п 卜花

朝

臣

Æ

ヲ

11

カ

ツ

=

1

ィ

フ

ナ

サ

书

ス

w

=

Æ

7

遠 如 カ iv Ti. 月 Ŧi. H 菖 7 フ ク ナ IJ 1 イ 1) 說 相

性

イ

7

=

20

}-

イ

6

=>/

١٠

カ

1)

=

ナ

カ

ツ

キ

7

1)

7

ケ

1

月

=

ヲ 集 此 " 7 ツ 歌 キ 7] 1% 丰 チ ラ Æ 1 -7 1 ツ 1) ナ 5 1 ユ ill. 方 " " -6 U 7 1 ッ iv w 葉 ٥, グ ナ 7 キ T カ 集 V > デ ヺ゙ ナ カ 云 \_ 7 7 " ヌ E ツ ナ IJ 1 キ 力 ~ ク + 毛 カ 7 ヲ 1 v 枢 ッ ٠, ケ ~ w 7 キ ッ 1 ナ V 1 ッ ŀ ナ カ 7 キ 3 ガ = 月 1) キ E 1 × 1 2, 7 ツ 1) \_ ケ 7 オ 7 t y 1 ケ リ ۱ 7: 7 ッ 7 3 カ 叉 ケ 丰 × 1% ケ 云 萬 w 丰

枢 3 3/ 1 人 \_\_ ツ ケ t ラ ٧, = テ 3 フ = A 3 ъ ラ ス IJ ズ ~

w 7

月

18

3

3/

ダ A 好 ス 1 3 シ 云 丰 カ #1 ナ 1." 3 E × 3/ \_ 7 ラ 1) イ F 1 デ ス 1 = 7 汉 月 テ = 3 ソ フ 1 チ 1 7 3 1) 1 丰 夜 カ Æ 1 夜 1% 3 ク 3 ナ テ 1) 3/ × V ŀ IJ 3 又 キ 1 雨 コ來風 ナ 月 リ ŀ 校 云毛 萬 ナ t 1 ラ フ 7 葉 シ 13 カ = " 人 # 7 ス カ テ 月 ÷ 1) \_ ッ 校

> 似意 3 11 歌 1% チ 七 2 Æ = 云 IJ ズ ŀ ス ソ オ イ ٧. Z カ ク 子 1 > フ -7 E -1 70 FE 1 1% Æ 日 7 リ 1% 3/ 1V Æ しかり 2. 1] = ラ メ 我 ` ラバ花 +)-3/ U 76 キ ヲ = -7 モゲ 次 2 =3 × チャ アリ子カシト ラ 1) 待 × サ ŀ w 7 ツ ナ 丰 3 5 IJ iv 35 t 立以 ナ フコ ナリ ラ 1 シ 1) 5 萬 1 ŀ 來 京 7 1 7作 -F-Ł

h = ユ 2 體、 荷子 ラ ٤ 良宗 サ ١, キ 沐浴 案香古外 糸 16 香體 テ 丰 切 3 相 iv 廣 船弁如」星 111 オ **弁如** 韶 F Ŧî. E  $\rightrightarrows$ 星 采 1 1 7 ユ -E 1 以知 以 7 E 1 東炎、 1) 10 東ン髪、 1) 6 DE. iv 74 11: E

t ナ 7 萬 力 = 薬 著、弁謂二之齡 T ン 1 Ł 集云「 テ ナ 3 テ 1 1 ウ 3 V 7 チ ^ 毛 カ 、今文詩會 111 \_ 子 テ シ テ 3/ E ゥ カ 才 チ p キ = 7 ١. カ ス ィ ツ 1 ラ 毛 1 3 ナン 丰 同 3 -J-心 17 ----鄉 1% サ 5

云 略 3 w 3 ラ 2, サ 7 3/ ナ カ 1% 3/ w 1) 15 7 カ 此 ナ ナ 3 P " IJ 20 ٧٠ 46 n + 3 11 ) テ ラ 13 秋 ŀ 3/ =/ 部 イ 新 カ ナガ フ 要 1 ナ --勝 1 1 我 3 3 泉 イ リテ 110 フ 10 3 中 = 故 人 ŀ 7 1 E 210 7 子 フ ナ -1-文 ŀ 7 4% -1-1. 13 才 テ 7 云 FE

14 7 伯 4 3 ŀ IJ 3/ 7. × 3 2 1 叉 7 V オ צו X 丰 P ナ 7 ラ 3 7 1) 7 Æ 17 1 デ 3 絲 1 Ł -18 1 曲 ナ 3/ = 部 1 111 -2 7 人 デ ナ デ 家 1 = ۲ = ス 以 シ ラ 3 イ 1% 毛 + 力 子 丰 iv 7  $\Rightarrow$ V 中 = 7 ラ 1. 人 ス 心 1) , + 7 ナ 花 フ = w ナ ス 7 -> デ 歌 w ナ 1] 1 iv ガ 7 シ ク デ ナ ŀ F ス ツ 7 -1" カ ٧٠ シ 7 1 1 ハ 弘 ス 人 7 18 1% カ 40 花 長 子 ヲ ヲ 牛 7 10 ~ ラ 11 ヲ ン 1 子 1 サ 丰 7 ^ =3 ナ ナ ŀ 13 フ サ 7 3/ テ テ 1) カ 3 iV 12 ŀ ケ シ 侍 ナ 3 = 13/ ン 1  $\Rightarrow$ = 1) 1) w 12

是ナ

17

1 3 t 3 丰 7 1 \_3 • ン モ 1 7 テ 7 ラ 1 =3 21 丰 ツ 7 ヲ 王 3 風 7 7 ッ  $\Rightarrow$ 

> ハ 3

1

3

1)

EJ. b to 老 3 ŀ 1 ギ 才 1 E ^ ガ +" 7); 7 1) 7 ラ 7 ラ 17 3 -50 櫻 ナ 际 ウ カ = 1" F 图 ス ノト 丰 + 1 Æ = ソ 1 丰 7 V ŀ 3 1) Æ = メ -); デル 1 ユ 17 1 林 或 2 7 æ = = 枝 3 ŀ 人 3 毛 7 云 せ チ w 1 ガ ラ =E テ Ł æ ŀ +}-7 1 オ 1 キ サ 7 ホ D ラ ク 7 丰 7 ガ ナ ラ ナ 7 ラ 3 1) ŀ w 12 # 1) ナ 7 ŀ 3 ٧, フ \* 3 17 云 7

花 ili 院 云常 オ ホ せ 荻 屯 ケ 1 11 1 7 丰 7 -6 7 7 = 18 P 3 ス ~:

ラ

•

U

部 ラ 春 ウ w カ 入 工 テ サ = タ ダ ラ テ 7 1) サ = シ ク シ メ 毛 +" テ 7 プ ガ 3 1 ラ V ハ ナ ク 3 E 又 テ +} " " V 15 ク + w **ノ**ヽ ŋ サ カブ ナ ウ IJ 1 V テ セ 水 テ æ バ ソ 弓 恭 ツ 1 = ク ギ = t ١, 榛 丰 本 1 æ h 3 ŀ ッ 木 書 ij シ ク 次 w テ 1 木 t

ワ 3 裏書 V シ ナ 1 1 テ 2 =3 ٤ -6 云 • 3 1 他 X 才 丰 木 P ホ ŀ 7 カ ゾ H 花 な IJ 1 テ 1 山 ۱ر へ発院 櫻 • 7 ウ 被 フ 工 Æ チ テ ŀ 仰 ナ 1 7 3 ケ ズ 7 1 ラ w 工 11 ナ ク 3 カ 7 = 1) H オ ヲ ケ 3 V E

河 ナ ッ ナ : V ٤ ŀ 1 3 = w 也 3 ナ ż ナ 3 1 ٢ 7 X ッ 3 = -6 = ラ ナ ヲ オ + = 7 3 オ オ 4 -6 E 1) カ ハ = ホ ナ ハ 力 4 3 ナ 1 = 10 1 カ 1. 1 イ ۱ر 1 = ワ ナ フ ٤ 教 1 2, = 心 シ 長 V チ 吉 F 卿 ゥ ナ IJ 云 云 野 = 萬 也 3 = M藤 一个 = 薬 1 1 一案云 ナ オ 邊 E 云 3 Æ 3 ŀ ワ ナ 1 ハ 10 云 1" 3 =6 カ 3 也 7 ク 河 ユ 大

サ ク 12 ラ =6 フ 1 3 カ ŀ 7 U カ 3/ ナ 12 力 3 Æ オ æ フ ナ カ

ヲ

Ti

ヲ w ス 7 サ ソ カ } 7 離り ケ 3 云 1 ナ 又 也 ŀ 21 真 12  $\Rightarrow$ ۱۷ ラ 雷 ŀ 葉 カ 公 天 p 動 ケ ナ ナ 1 1) 7) カ 1 IJ サ ケ カ フ ク IJ 丰 3 サ テ 1 ŀ 1 ク 10 ス w 1 T 100 7 Æ カ 排 3/ p 僻 カ \_ ٧, 也 1 1 フ 萬 1 3 3 ウ 葉 X ノト ナ 1) I)° ナ カ 77

チ 頭書 リ本二 \_ V サ オ ィ 110 Ŀ ケ カ オ イ チ 果 書 ズ 丰 テ ッ Ŧ ŀ フォ チ オ フ 云 神 7 3 示 1  $\rightrightarrows$ メ 丰 オ ŀ V ハ 1. w ナ Ľ, 1 人 ナ Æ w ス 3 木 ŋ 7 10 12 目 ヲ Ŀ 3/ 3/ = ク ヲ Æ Æ E Æ ク Ł カ 3 フ ナ 工 R 10 + ナ 丰 ズ フ 只 ケ カ = メ 7 1) 1 イ 1 11 カ = テ IJ 工 7 テ V w 7 ナ セ 次 ツ 12

> E ナ

> 1% ツ

P Ł

2

1 1

オ

E

フ 丰

+

丰

テ

E

1

イ

ŀ

7

ク

1)

71

~

3/

 $\Box$ 

ŀ

3/

ケ

7

ŀ

7 ŀ = ツ サ = 1 ユ 3 3/ Ł ケ 丰 2 7 ツ 7 ラ ス Z ツ Ł 77 カ オ E フ Ł

敘 歌 1. = V ッ ヲ 鄉 7 カ 長 쫆 P 卿 1 = ハ フ 木 ウ ズ -云 + T ナ 3 1 = ッ ナ ナ ラ w = ツ ~ ツ 1) 1 Ł 10 題 ス 10 1 þ 3/ ラ 1 ラ 昭 シ 3 ウ ナ 210 云 カ 彼 别 チ 1) 7 ッ ン 黑 ラ 才 卿 テ 2 12 フジ 葛 注 ナ Æ オ + フ 1. オ b ス 元 ウ ٤ ~ 71 w フ ヲ ス ク 丰 本 イ -Ł ツ = ~ フ V 1 = 10 中 7 3/ \_ ナ ラ ツ \_ ス 77 毛 12 オ 工 ズ ツ ラ ~3 工 叉 ラ E ノ 7 ツ シ フ E 此 ナ 子  $\rightrightarrows$ 

7

7

フ 7 ŀ 1 才 2 Ł ナ 7 1  $\Rightarrow$ = ŀ 1 汉 8 又 シ 7 1 心 7 7 P Z. カ Ŀ 歟 ŀ 2 = 7 ŀ " E 1 ŀ 7 w ツ ラ イ 丰 オ 3  $\Box$ \_\_ ナ E = æ 20 70 7 ツ ユ フ ツ IJ p 此 ナ ~3 w テ 7 1 心 L 3/ ッ =E ス イ ナ ŀ Ľ J. 丰 Ŀ 1) 7 ッ 71 7 相 w 7 캬 I 1 返 ゾ 1% 1 ス 歌 人 ズ 1) 7 -1 t J' 7 il. ŀ 7 ŀ = -6 17 ラ 3/ 1 15 Z 3/ 71 ゲ ク ケ 1% .)1 1 V 5 テ -7 1 7 ~

フ頭 IJ テ 3 w 111 り書 to ŀ Ł ウ 15 比 春 レタ 1 \_\_ 15 ラ夏パモ IF-= = 13 1 1. ナガ 夏髓 1 オ 1 21 1. 15 糸 ク 7 3 テ \_\_ 1) 1 7 ナ 1 云 ナ ッ 1 E => 7 IJ Ŀ ク テ V 15 注 7 7 110 夏 70 1% 3 1)  $l_j^1$ E -E [1] ズ 70 1 糸 ス 才 思 æ 3 1 合 ŀ 云 心 ŀ 7 手 ナ ク 献

注 メ 云 1% 7 -> 歌 E ケ 7 w ŀ w ナ Ŀ 2 1 -Va 7 ウ ヌ ス 3 カ F. ノ 7 フ 1 1 ツ 子

面叉云 7 7 X X 210 1 天押 天水溶紙 11 名原源智 カ カ F. 1,0 0 真天 1 1 フ 仲 天 本仲實 ~ 和實朝 皇 3/ 他朝 天汉 日臣 理 可云古 放 天命間 國 = 11 也別錄 開 ラ申前 後云 IIII 52 今 天 Z サ平 智 E 此 天 产 E 7 天 息也 天 =E

近江 智天 宮 ヲ カ ッ ッ × 御 聖 丰 丰 3 ク ŀ ١, 皇 或 皇 給 7 號 カ IJ • 武 釆女何 天 ヲ 給 サ ŀ 3 1 ス 年四 F 皇 车 オ 力 110 7 ナ w ス w サ 四月都二難波 メ 故 べ ŀ æ 3 ŀ w w ガ 聖 東 云 代 也 7 Ŀ カ • ~ 3 事 1. 武 ナ 3 シ 大 7 = 11 乎 寺 ゥ カ 私考 ŀ ナ ラ 天 ン ナ 皇 也 IJ 1 > 1 ス 賀天 ラ Ź 来 女御 云源 直 シ 力 ~ 7 カ ) 入 平 注 丰 力 ケ R ダ ズ 3 月 ハアリ 天皇 為 IJ オ 力 IJ = = カ 又或 是 Ħ. テ 或 但 ホ 1, v 天 年 カ 3/ ŀ ハ = Æ ハ 號 艮 遷 智 然 ク カ ナ 7 3 ラノ 7 X 云 而 ギ ス ~ 定 幸 7 ラ v カ X 1 v ッ 皇 大 近 ラ 11 굸 = ヹ X 子 ズ 3 近 同 年平 號城 是 天 ヌ カ 何 R 3 力 1 = 甲沙江 叉 1. F ۴ 1 ヲ カ 7 3 \_,, 智力津泉 天 字 天 10 3 カ æ

サ ŀ P. ナト 7 ツ シ Ŀ ゲ 力 卿 サ 丰 ŀ ラ ク 云 ガ サ X シ = ナ テ p ŀ 1 11 ヲ ٤ E " ナ ナ ŀ -3 1,8 ナ ッ • ダ カ ケ 1 リ 下 7 V • テ 﨟 シ 15 ろ 4 工 ナ ケ ŀ ラ ŋ ク 7 ナ ŀ 2 公鼠 2 ŀ ズ æ シ 無其 カ X テ v 野 共謂公 IJ 力 ユ コ類レ ク t ヌ 丰 ٢ 言營 ウ ヲ 3 V

> X w シ 云 ザ ホ サ 丰 ŀ 1 ŀ シ カ 藤 ラ 7 IJ サ ŋ ホ ノ フ E. 1 ヌ = 丰 原 ナ 也 テ 月 キ シ + フ メ ŀ = F Ł ホ 敏 ŋ フ 7 Ľ° 1 w 方 1 t 18 ナ ナ 人片 ŀ ケ 3 行 1 = -= 7 1 N F 辭 ナ 朝 力 ŀ ヌ U V P ッ ٤ ŧ ラ ザ 臣 丰 w 11 言 ハ = カ ŀ 3 女 Ի ラ ヲ 1 7 2 ハ ナ ر ŀ 業平 X テ 里 ナ シ ب メ = IJ =/ 横 或 IJ 云 ワ ゲ 1 2, ザ ŀ ヤ ケ シ 辞 ミ 見 Λ æ 朝 カ ラ シ 力 ٤ 7 >> ハ w Æ ワ類 臣 云 ŀ キ ŀ せ 同 ŀ ŀ 4 = ッ ナ テ t 3 イ ホ 1 = 心 イ 1 ŀ ラ ウ イ 力 ナ 1 フ 3 ツ ケ フ ナ シ ノ Ł ŀ 1 丰 iv IJ ツ ガ X ケ = ٢ 同 = w ハ ナ 萬 J° 云 サ ٧, カ ۲ 3 セ 4 事 夏 コ音 ~ y 詞 Æ U 3 ズ ŀ F 葉 7 ナ ケ ナ 野 チョタ w 7 7 歌 ス シ IJ ŀ " ダ ユ 顯 w ナ ŀ w ۸ 3 = ゥ 女ヲ 7 ダ 1 = 昭 ŋ 3 ヌ デ æ 叉 7 ٢ 1 7 ٤ P 云 7 IJ 7 オ 云 カ サ

詞

35 7 ٤

F

テ

)

カ

IJ

ワ短語 w 1 イ 心 敘 7 ナ ラ 此 卿 ゥ IJ ٤ 詞 /丰 デ V ゥ 7 ~ 七 ッ " ŀ 1) カ 3 ヌ w フ ズ ~7 三節 7 1 ハ ン サ w ナ V イ 7 IJ ゥ フ ~ 您 IJ デ ユ Ŀ 計 ク カ 7 ヌ ラ ~ 1 2 ス ケ ~3 1 ズ 牛 フ ŀ  $\exists$ 也 イ 7 伊 7 ナ 勢 ウ X ナ 2 ミ見物 IJ

臣 カ カ 1 3 ٥, ヲ ラ 次 3/ Ÿ Ľ 1 2, 7 か ズ 100 ッ 1 1) iv U 3 デ 1 キ サ t テ ŀ び シ ユ 2, 1) メ ク E = = ŀ ケ 1 U ズ キ ヲ 丰 7 " サ イ ŀ  $\Box$ ŋ 工 カ ŀ イ ヹ 力 メ + IV 35 = ズ ス 111 か 1) ケ 又 丰 1 1 デ 1) ク 徬 ズ イ オ 云 ヺ ŀ フ æ ŀ ۸ د 推 ナ ۲ 4 7 1 ۱ر テ ナ 1)  $\rightrightarrows$ 1 V 3 バ Z 1 業 1% カ = ئ 15 テ 215 1] 1 ŀ ツ 朝

カ ス 1% 7 1 = 1% か 題 ラ 不 ナ E = 纽 丰 3/ -ホ ケ + 1) 7 ケ フ 17 カ 七 ヲ イ 譜 汉 3 1 オ 不 知 毛 ۱۷ ヌ

ラ 7 ス -7 ツ = 1 7 御 カコ Æ 1 時 ウ ス ٧. 7 3 ١٠ = ラ 7 ケ 攝 ウ IJ ス n ラ 5 油 7F 1) 原 n テ -1 æ 行 ツ = 25 牛 1 7 ク IJ 示 朝 此 1% = 1 集 V 7) 17 " 7. 7 チ 7 = 7 5 ŀ 1 フ イ 18 ~3 フ ŀ -=  $\rightrightarrows$ ŀ w Æ ス フ ٤ ダ 3 A ŀ T 2.

THI 7 ヲ 成 ~ 提 ガ 人 211 汉 カ 云 17 ス ス ナ 17 加 播 + サ 七 カ 牛 ナ 6 10 7 17 1) to オ 牛 ホ ŀ F° 7 イ 7 A p 4 ツ 1. ++ 1) V 也 110 ガ ツ

フ ヨ

ヤル

又 ナ

ツリ

工

ク

イ

サト

レコ

X

1%

ルズ

ナ

イ

イ

17

ŀ

U

ウサ

人アテ

"

IV 1º

イ

17

フィニ

カ

7

テ

ワキ

オコ

7

云

1.

3

1) EU

現

人トバニ

カフモトロ

干

テ

ウ

ツ

ビ現ヤコソ

-6

11 7

3

萬

菓トウケ

1. 1.

力モロ

キイ

テ

ウリ

イ 5 イ ŀ Ł 1 = ŀ ŀ 言語  $\Rightarrow$ H シ 1 侍 ソ E + ッ キ 7 サ ウ

テ 1 イ ナ サ h サ ۱۷ 1 7.7 现 ゥ ヲ 3 デ 1. フ 7 イ 18 ゥ 牛 110 3 3/ ツ ٧, -ゾ Ł  $\Rightarrow$ X ッ テ 2 ナ  $\Rightarrow$ 3 1 ボ U 叉 IJ 丰 n 77 2. ヒ ŀ 1) ŀ サ to テ ツ ŀ 1 Ŀ  $\Rightarrow$ ソ E V t ス ヲ + シ 3 1 110 ヲ ケ ク 詞 フ ス = 3/ ŀ キ ク ナ IJ +} æ 力 イ 21 ク オ 3 才 ٦٠ ウ フ 3 サ ウ ゾ -50 æ 七 ٧. 3/ ツ ツ " フ 1% テ 3/ ユ -3 3 to 3 7) 丰 iv カ iv 2 E ク 人 ツ ナ サ ナ 1 æ ~ = = 1 12 ヲ ナ 17 ŀ ` <u>\_\_</u> シ ŀ 1  $\Box$ ٢ ツ ウ 7 U 庄, ソ イ 7 丰 又 ナ 7 薬 2, 紙 か ツ 7 ス ウ ク 1) ナ 次 " V 3/ 云 7 サ ツ 111-1 13 II° 17 ン -7 3/ 1 7 ツ x 俗 ٧, 心 37 丰 ナ 牛 ツ 1 LI 1.7 " ク 77 ŀ

テ ŀ 3 1) テ ゥ 7 = ッソ テ ソ ッ オ 半 誠 3/ 遺 ŀ Æ 心 ŀ ハ ハ ゥ 2, ハ ナ ヲ 型 ッ ク カ ナ • 排 1) ŀ ウ ワ ŀ 1 カ ッ フ 굸 シ 也 同 ナ 10 ウ 事 X ナ 机 ッ ۴ 3/ サ ソ 7 イ 心 V フ グ ŀ 18 故 詞 = イ 7 也 ワ 1 3

7

カ

3

数 ワ テ カブ キ テ 3 カャタ ッ = 18 長 ス ス 7 卿 ワ 3 v ヲ ス 3 見 ŀ カ カ 七 云 ダ v = ろ X ヌ 7 1% = サ + ガ イ フ ŀ 1 ナ ス 7 丰 = Ł ハ 3 ッ ワ = 4 7 ソ ヲ IJ ダ 1 10 ス 7 ケ V 1 工 チ ヲ ス テ ナ ガ = ダ ス V ソ 2 7 ٧. = ヌ **シ**/ サ オ ^ U ŀ カ ァ ŀ ナ テ Æ ィ w ス IJ イ = Ł フ 3 ナ フ 1 ソ ナ 今 ワ デ 1 IJ = 1) 案 サ ŀ Æ モ ス Ł オ = バ V 7 Z ヲ ₹/ Æ 7 ヌ ラ 7 カ ジ フ ス = U ス サ ~ ガ

ワ ナ ッ 丰 7 ナ 1 ス V X X ッ ノト 紅 ナ ッ 初 メ 1 1 3 花 U = テ フ 此 カ 也 ク 佪 才 æ Æ 1 Æ 35

111 原 左 大 臣

X

3

\*

ナ

IJ

-6 3 フ チ 7 1 ク ナ 1 ラ シ ナ 1 ク フ Æ チ ス 1) ダ V ユ 卫 := 3 ダ 4 ŀ オ

卷塗

下須

中可以上 イ

JI

原 t

左

大

融

嵯

皇

第奥

四

年

4 考 丰

寬

平

年

八 臣

月

# 者

Ŧi.

H 峨 IV

蓝 天

年

7

チ

7

3

E

ヲ

ナ

2

シ

ケ

ビ在書

義中

3

玉 奥義 カ

7

3 チ 1 ク 信 夫ブ 郡 = ス V w Æ ヂ ズ リ ٧٠ ゥ w ハ 3

> 17 牛 ダ コハ 17 テ w 4. ク P 1 t 3 オ カ 卜知 ゥ ナ 7 ケ ス ス 1 w シ ッ ラ IJ フ iv J. ŀ ラ IJ ナ ヲ ラ 3/ ナ ケ 1 w ソ = ズ 3/ 기국 ケ ウ ナ ~ 3 ク ナ 3 カ 2 w ٤ w カ カ 2 フ オ ス オ w = イ ラ IJ 13° テ ヲ 丰 ナ IJ ス 1 1 カ 7 ケ Æ カ 毛 Æ £ V 7 V = 京 力 ヂ ナ IJ 3 チ 3/ カ = IJ w 3 V ラ ィ ŀ 1 テ 伊 牛 3/ +" ケ 春 F. 3/ ガ ij ス T カ 丰 ナ ィ 1 デ 1) ヌ V ケ 日 勢 モ ヤ 牛 1) ラ ケ ワ フ ブ 7 IJ 物 ゥ ス 11 3 シ ス シ = ス IJ ウ カ 里 ズ オ X 1 = V ス V ラ = ŀ 3 ソ ダ 4 IJ 丰 IJ IJ ユ ソ 0 æ 云 3 v • ケ 1 ラ 1 遍 ~ ヲ チ シ 4 X 3 力學 ホ t ス IJ サ サ 昭 w  $\rightrightarrows$ w 3 -73 7 カ = = 7 エ オ ŀ 頭 牛 ŀ 1) ズ ナ 3 7 1 1 3 3/ 3 1 æ U 7 7º ナ +" テ フ シ オ IJ = ダ ٤ Ł 弟姉妹 1 ス ウ iv 3 シ V ダ 2 = • 1 ヌ ケ 追り 里 テ ン オ ヲ ス ケ = ス 1 7 IJ 2, ナ ヨの頭 ウ ブ ヲ イ ナ ヲ ŋ = 1 ٤ × カ ツサロ IJ ナ IJ ズ 丰 1 = 3 2 カ オ ٤ 昔 ŀ X カ IJ ŋ 2 ダ イ 丰 丰 1 カ 3 チ Æ テ ウ IV ワ テ ス テ = トル

額 昭 古 今 集 註 卷 + 四

業平 注載: 乎 作 大臣 南 者 天 何 歌前 長 以二彼 年 後 增二業平 年 生元慶四 大臣 不審 作 也 幾二年 歌之心 但 年 如如 无. 月 也而 此注 詠二此歌一之由 伊 者後人追 日卒 勢物語 年 Ŧī. 為二 +

ナ 七 爾置 裏書云 Æ 彼河 ミタ チス 1) 」業平歌「 人 IJ 此 何 此 リタ 由 1 原 ヲ 左 限 注 リシ 大 春 V 河 大臣 臣 H 故 加 原 河 ラ ス 1 1 左 歌 歌 iv 原 111 V 7 大 ヲ 可以 左 ス ワ ス = 臣 本下 大 カ ン t 融 伊 非 臣 紫 ン 歌 本哉 勢 P × 1 1 業 テ 物 ス = 111 本 只 ミ人シ 3 1) シ チ 伊 1 1 X ワ -3 勢 此 D ク w V 愈 坳 同 樣 ナ 1 Æ 語 ズ 時 平 3 ラ シ = 1 シ ガ ナ 1 A 歌 後 フ ク フ 12

イ E フ U = 3 F リ 3 = ナ カ 12 = to 3 1 カ 7 キ カ to = ナ ٤ ク 7 サ チ

3

ラ

1 オ

17 2 オ カ 7 E 7 フ 11 IJ ク カ = ス テ ス セ 丰 ナ 7 ŀ ナ テ > F. 3 ۸ در 7 ケ ク イ 7 シ to カ ウ 子 半 -\_\_ ئد -7 丰 3 Æ 3 1% 1 カ -ヌ ガ オ 17 ۱ ~ Æ 才 w フ 1 ナ 3 10 = 3 X カ 3/ 12 7 2 12 ナ 1 1 1] ラ T

7:

P  $\exists$ ٤ ワ ス IJ ナ 2

敎長 w ケ 子 = ŋ ナ 70 = ナの頭地 リ今 卿 イ フ 7 云 カナチ 案 汉 オ 灰七 ナ F サキ ナト ナ 示 ラ 7 1-イ フ ハ船 IJ t ナ ナ ヲ V ス ガイキテ 丰 ゥ グ ブ テ チ ナ 子 子 70 云無 17 ŀ F F. 敷棚 當 111 3 1 イ 葉 フ フ ス E ŀ V -E 1 ズ =3 1 -١٧ ナ 棚 7 1) 10 シチ 1) ATTE. ŀ 丰 \_\_ ハラヒ 1) 1 船ブサ ス 3 1 丰 テ D カ フ 1%

IJ ひ 7 250 ッ カ メ 1 昔 テ カ ヲ = ス 七 1 1% " テ 因是 3 ケ 否力 111 w テ フ 7 3 7 1. 17 Æ 15 ヲ

3

ス 1 ヲ 7 ヌ 1 = = シ T = ナ F ハ策シ 1 ۱۷ 1 V ノト ファ 3/ 朝 テ 2, ワ カ 女とり日 111 フ w

**今**案 敘長 ダ フ T E ナ 卿 3 7 ヲ 1 云 又 1 コ水 1 ナ 子 1 シ 1 1) ---= カ 子 カ 1 フ冬 ^ ---^ サ カ 3 ユ 2 テ b 12 2 チ ワ w 3 = 20 ガ to 7 U ウ = 3 \_\_\_ フ \_\_ 7 P 7 1) フ ラ テ 11 テ ズ 1 ٥, 1 才 E  $\exists$ 7 -E 丰 1

F.

題 不 知 又

~"

+

1) 1%

グ ~ 7  $\exists$ 1 111 チ ~ " 7 = 毛 7 F ナ t. F 1 7 1

Æ ワ カ ŀ 才 モ 2

ツ使葉ハッド 喜 サ ノ歌チ注セリ ŀ ۲ レナド ٢, 云 ŀ 毛 ~ ス ボ 3 7 私云萬 メ = ボ リ叉 ŀ = ر ر 葉 道 タマ ッ 集ニハ「タマ ヲ カ ィ ボ ٤ フ = ŀ ナ ) Æ リ イ 3 モ ノミチ X ボ IJ ス = ト打任が ) 7 キ ボ = テコ

3 ミ人 シ ラ ズ

力形

ス

カ

ラ

毛

マ待 テ シ 3/ テ ラ ŀ ス ラ ス イ w テ ス ス 7 ナ 詞 7 ナ 10 子 7 也 テ 15 ス 3/ 7 Æ シ マ符 h ~ ユ 1 ス 云 テ 力 机 w ス ŀ ナ 橀 ナ ス 习 2 ナ ナ 3/ ŋ 2 110 10 と シ ŀ ナ テ 萬葉 **ի** ŋ ハ ユ 家 一个符 ク 棚 テ 1 = = 1 カ 7 ヤ 1. 1 7 3/ ウ ア 7 = 15 ワ シ 3/ ス ヲ ガ

11 詞 ٢ 3 テ 云 チ ソ モ オ Æ +" t 7 テ ヲ カ カ 1 7 Ł Æ ス w 4 IJ ŀ ŀ ケ w テ テ 7 w 1 3 モ 3 ヲ ズ ナ 4 2 オ ス メ ヌ 7 7 = テ 3 イ 1 ブ ŀ 1) 1 3/ = 3 か Ŀ F. ケ テ w 其 7

=

毛

17

ナ

218

シ

ワ

1%

ス

ナ

۲°

3

×

1)

敎長 E 굸 ナ ŀ 1) ワ ダ オ ク p ? ワ私 毛 家 ダ ク テ シ = Æ ツ 毛 子 ナ \_\_ 1. カ メ ク ٥ر Æ ナ 7 28 ナ 2 ヌ 7 丰 ス 普 ダ ズ ŋ ŀ

> 力 力 = ケ 7 7 w 今 2 2 = ダ 3 云 ・ガ Æ ٤ Ł カ ラ 21 ツ ~ +" ラ ク ヌ ナ ジ 12 叉 ラ ٤ テ ハ ズ ゥ ヅ 1 カ ハ Æ シ Æ 3/ ヲ カ ス ラ Æ Æ テ 2 ヲ + オ Æ ŀ 4 7 1

夕田 子 1 イ 7 = 伊 力 ラ = 3 ナ 題 イ 7 = 物 ン 不 丰 7 シ 語 -7 子 知 ズ = 毛 ナ 7 7 7 書 ダ ヲ V 形 17 ハ 見 1 7 w 詠 本 オ ヲ ス 7 3 ナ Æ Æ ズ テ 夕散 7 w V ハ ŋ ガ 2, ワ Ł = 普 ダ ス ŀ V + ナ 誦 ン w Æ 3 本 1 7 ィ ~ 7 3 心 IJ ハ キ Ł ナ ワ v Ł ッ ŀ ナ IJ ス ス 1 v シ ラ ヲ ア V 110 w 此 歌 ワ ダ 7 ズ ゥ ス ナ F 心 タ キ

本云文治元 年 -À 卅 日 注 進 之

重賜差聲 顯

昭

久 二年 八 月 7 日 奉 "授禪定大王」了

建

安五年二月十 六日 挍了 侍從雅

題

昭

弘

額 昭 古 今 集 註 卷 + 74

## 顯昭古今集註卷第十五

戀五

ザ ク Ti. L w ٨. ~ ٤ 力 E カ ツ 條 デ נל IJ 1 ク 丰 = 1 7 = V ホ \* 110 A サ 1 ----ラ 3/ 1 ケ ウ 7 1 ナ 1 才 デ w カ ラ 1 12 7 デ 宮 ス 毛 -7 7 3 1. 3/ ス 1) -7 モ 1 ス = T 1, 1) 1 = 3 1 カ 1-18 イ 7 3 \* 丰 1] 3 U カ E 1 テ ケ ワ = 1 ~ IJ ス フ 月 w 丰 \_ ス 2 1 IJ 七 3 ヌ ` ナ = 平 IJ カ = ケ ケ 2 ス テ 朝 ス ゾ V 市 w 3 臣 ヲ ナ 3 ブ 1,0 カ ヲ

ツ ツ \* E p 7 ラ 3 ヌ 2 3/ w テ p 2 カ 2 1 ハ w ナ ラ ヌ 7 カ 3 Ł

ガ A ク 3 Æ テ テ 7 = " w 3 1 ŀ カ カ 又 3 = 17 未 7 X U 12 F テ ナ E 2 ヌ 1) カ = \_\_\_ U 1 ゾ 3/ 之ガ 3 7 7 7 Ł 歌 テ モ シ w ナ 7 と Ł ١,٠ テ ŀ 1 7 月 ラ P 7 毛 = ウ 2 3 7 7 3/ カ ラ = 1% Ŀ. 7 ヌ æ

卿 パギガ 人 1 リ 1. 4 ツ 2 1 w V ズ 12 ス + 秀 歌 カ ウ 12 ヺ゙ 15 A ナ 3 1 7 18 3 カ カ ナ = 歌 許 古 1) 3/ 1 ズ ヲ 2 J. グ E Æ w 3/ \_\_\_ サラハート ナ 給 2 カ ナ 1. ---モ テ 1-ラ 4 ク 7 又 = =3 讀 叉 末 オ テ ラ カ -シ ズ Fi. バ ŀ カ -7 ボ 和 w カ 給 2 ン 代 1-3/ IJ 1. 7 ラ 3 歌 ヲ ヲ 示 テ ウ 70 カ 才 V 1 Æ 3 云歌 不 1 710 iv 2 丰 會 11 ナ メ 在 1 t V E ----Ł 31 IJ ,v 111 サ E ٧. ヲ ラ 儿 原 F テ イ 3/ Ţ-花 3 ケ .3% ヲ 1 1 許 ツ Æ 人 ヌ ١, 1 10 -7 ン Ŀ 我 ナ 别 V 18 ヲ 歟 ッ 1 フ 2  $\exists$ 代 1 ス 7 ン ---7 事 此 V デ 5 ~3 カ 1) 7 7 -イ = 給 ゾ 俊 ナ ラ  $\overline{H}$ 1 3 程 \_ + シ + 170 17 ۲ T ッ ١, 0 侍 俊 ウ ナ ラ 1% 1) 2 賴 郎 フ 111-ナ 1 ---工 77 7 又 ッ 歌 賴 11 1) ツ 7 7 5 =/ ン ン ナバ E -\2 iv -3 111 5 1) イ 將 3 -73 朝 Mi 1% V 1 13 -7--7 3 7 7 =7 = 物 X カ ヲ 臣 7 113 7 1 3 æ 18 3 輔 1 \_\_ 10 13 Mi ->-H デ 才 7 1 云業 卿 = T b 7: 7 2. 41 1 工 不 ナデ サ ファ 3 æ 1 1 テ 野江 工 ナガ Ľ 7 20 E 1-Ŀ ` A 15 : 卿 215 5 ŋ 7 7 HIT. 7° Ŀ + 1. 才 1 云 U 侍 期 音業 テ 5 此 71 12 低 2 1 3 1 = iv Ξ3 ス = 1 HI ケ =3 w 5 用等 不 1-213 -7 +>

侍 俊 思 ガ ギ 3/ ラ ツ ユ ダ ヌ 云 事 事 ナ ŋ 3 フ カ カ 調 デ ギ ケ w オ 7 俊 題 サ ク ŀ ŀ 1] = 7 ŀ 1 シ w N Æ ボ 凼 ッ 佳 侍 賴 不 3 テ F テ ラ シ テ ) ゴ コ ヅ = 7 ス 女 語 ナ 细 1 フ 1 7 工 ズ ソ n 3 t カ = 歌 歌 IJ 侍 題 ラ ナ テ シ 歌 申 Æ 感 7 V Æ ナ 7 季 ナ イ ジ 3 ウ 子 3/ と 3 w 1 Ŧi. ケ ツ 1 **今**案 條 ラ 惠 ス ク フ ダ 卿 ス 2 11 ス ク 由 w 后 サ ガ サ 又 IJ ~ #11 3 オ ヤ ガ オ ケ モ 詞 夜 俊 此 Z ウ = = 77 ナ ŋ 3 Æ t ダ Ξį. V 1 Æ 俊 道 西 賴 ウ 11 1 = 1 IJ ケ 賴 } 2 Æ シ 1 ハ ハ 賴 + = 俊 7 デ ツ シ æ カ 1 = U 讀 又 歌 思 賴 ラ キ Z ヲ ク フ ナ ラ 工 7 ガ 复 = 歌 注 修 加 ラ IJ 1. 子 ス デ テ ŀ 1 口 ヌ ハ 7 其 侍 和 ŀ 申 IJ 賴 1) シ オ 藤 2, フ 工 Æ 110 3 ハ 業平 自 無 歌 ガ 原 云 也 惠 7 テ 3 丰 Æ ボ 1 = 侍 仲 也 詞 歟 ゥ ク 1 ス = 7 ツ ハ 云 ナ 歌 思 事 我 チ メ 平 ホ = 此 X H シ ス ケ Z 右 希 朝 條 ケ ١, ダ 前 テ 7 3 2, w ヲ テ ホ T 常 委 風 歌 IJ ナ 有 イ 丰 シ 1 Ŧ サ 臣 I 3 = w = 信 注 ラ 歌 我 ク 詩 ヅ シ ク ス シ to E ソ H コ = رر 基 侍 7 w ナ ク 3 ヲ ッ 申 于 ケ チ 派 w

3

3

ŀ 集 物 テ フ ۴ テ ヲ = ナ w E w 工 2 詞 3 セ 3 F 1 話 2 ホ シ 4 ス ス ン 7 ズ ヌ 5 = 7 15 ス ` 云 7 集 E" 1 ス 又 ŋ ナ IJ イ ヲ 丰 2 レ 1] 抑 デ IJ 7 ッソ 7 7 2 V Ł テ 力 = 歟 ケ ケ 此 ダ 1 1 ケ = レ 11 • = 3 歌 瞎 IJ 1 IJ w 2 = 才 ケ = = X 4 ナ イ 1 n = 1 1 p 2, 1 1) ソ N 歌 粃 前 3 IJ ヤ 1 シ ١, コ 大 大 ゥ 人 栽 杷 難 タ ナ フ 2, 1 臣 1) 臣 ラ ケ ジ = V 2 E = = 見 大 ゥ ゥ 7 ワ 7 オ Æ V ナ 臣 ケ 丰 110 ~ ナ 1 F 力 Ŀ モ 伊勢集 力 サ ナ カ ラ ソ ス ٧٠ 3 = Ł 7 ウ 伊 サ 3 子 イ ケ シ 2. ` = ラ 勢 ズ IJ 1 IJ 2 丰 メ 3 力 ソ 1 ケ チ w = ケ 7 1. ホ ス ホ 而 オ ŋ キ IJ 物 云 11 ク カ = 又 æ ナ 11/2 女 イ シ イ ナ 在: ` フ 3 V イ テ テ ゲ 111, IJ ス 3 カ ヅ ス ユ E 类平 IJ 返 ワ ٦ 叉 ナ 伊 1 3 1 t ` w ` 4 ボナ か ス ゥ イ キ ス 12 ٤

1

カ

丰

ス

ガ

ス

w

ツ

ラ

イ

V

グ

w

ナ

w

~3

本

相

國

時 シ

215

忠仁公良房 昭宣公基經

た 大 臣 杷大臣

集 註 卷 + 五

顯

昭

古

今

良 ク」伊勢 ヌ V 3 ŋ 1 此 ワ 案後撰 ン 本 集 ツ 歌 力 戀部 ナ 111 此 7 3 第 歌 詳 V IJ 作 = = 老 後 シ 仲 3 捏 ŀ ŀ Ŀ 4 -= 1 釋 公 1 E ナ 3 せ ~~ ウ 17 メ 1) \_ 伊 チ iv 25 古 教 绕 ハ + 今 ラ 撰 ナ フ 7 サ イ

7 ケ w X 1 3 カ 1. 1 7 フ 3 1 ゥ 子 ~" = ス V ٤

相

達

才

7:

3 イ

71

3

p

ŀ

コ

1

70

7

+

w

イ

サ

ラ

カ

ر ر

1

サ

ŀ

1%

コダ

1 又 此 ワルヌ ィ ヌ 不 部 イ w カ 歌 無 十名 サ イ 1 知 1 サ ラ ラ ++ 3 1 + 兩 ガダラ テ ラ ナガ カ ~ 返歌 證 入 1 र्गा ١. ス 本 力符 ŀ 1% オ 普 前 サ r w ゥ 所 訊 \_ 通 -子 カ E 也 本 洋 然 -7 \_ \_ h 近 者 此 70 w ï 返 集 T. 彌 1] カ 1 イ 我 後 此 又 拾 郡 間 工 ガ ・テー 本 哥欠 ラ 111 遺 \_\_ 名 ~ -p 不 t 序 #11 ŀ 削 1) -7 可 1 ŀ = 朱 \_\_ 卷 カ 7 ナ æ = \_ 血次 沂 1 1 7 5 p 17 il. 但 オ 1) t V

1%

ズ

1

3

عر

ス

IJ

彼 古 河 題 不 ホ IJ 知 ŀ 力 IJ 7 h 丰 次 1 リ サ ケ ラ 12 小 YIIJ ノ ik ~ 水 別 レナ [[1][ 31: 1.0 敷 THE REAL PROPERTY. 17

3 ク 最け ナ 3/ ラ ツ 丰 1 3 E グ 時にリ 11 ナ カ 半 7 12 ナ 7 牛 1 ソ タ 2 7 ク V ŀ ヌ ン iv 萬 ケ 1 ヲ フ F ŀ ヌ ナ 40 ス 2 イ ١٠ ラ イ w 7 ा 7 V 7 ナ ŀ 汉 w 1 7 サ 7 1) 17 w 1 + ナ 一切 叉 iv サ サ 12 E 17 ナ サ 風 ナ 丰 ナ 游 伊 丰 + 17 1 \_ \_ 势 サ ワ ナ  $\supset$ " ユ ソ 物 丰 17 フ ゕ゚ テ V ン 等托 ク 3 3 ス ナ ŀ 1% ナ 歌 IV IV 半 IJ せ イ Æ V 不 7 子 3/ 7 1t \_\_ 5 ナデ ナ 1 3/ 7 朝 風 ナ 71: 厭 ク r V 110 ナコ 4 ŀ コ 11 71 -70 12 V テ 圃 圃 テ 3 -7 -:1: 1 ナ 7

イ D 1 7 7 1% 7 3 111 V 人 ١, 7 => ラ ス 5 ズ

V

ナ 1 17 ナ 12 ŀ ヺ゙ イ ス 3 7 1) 1 ナ 竹 答書 カブ 1% 1 ŀ 11: Æ カ ŀ 73 丰 4 テ IJ イ 力 -1)-フ グ ナ V 111 17 15 北 =3 語人人 X 1) 小 " 也家 龍 元积

3 ×

1)

Ili イ

111 11

河

カ

ケ 1

IJ

3 ナ

サ w

t

3

サ t

ラ

同

歟 1

Ш

1

サ

ガ

ケ

L ナ

カ カ

ス

ナ =

ラ X

ス

3

汉

ナ

ラ

フ

葉

顯 昭 古 今 集 註 卷 + H

男 3 外 7 3 7 ズ 注: ス ス ナ 籠次 典 行山 ス 1 ナ せ > ラ 七 U w 1 基傳 歌 5 目 相带 テ 1) ŀ ヲ = E X 成 塞謂之 ヲ 3 ヌ ŀ ٤ 佰 我 ナ サ 好 ナ 心 A ŀ ヲ オ 城 佰 ラ ラ ス = 3 水 1 笔 々 長 ナ テ ワ 1 ~3 ス 力 7 ブ 色 ۴ テ 3 1) 汉 1) E ス w 塞 ナ 法 女 ラ 3 w Æ 11 Æ ヌ 12 7 1 1, 文 Ħ ワ 證 ナ T V ナ 1 ヲ ナ 歌 7 ラ 3 = = 本 7 × -7 2 ケ ブ 7 ٥, V 女 と IJ ダ ワ 12 11 L 3 任 ŀ X = 2 7 目 B ス 77 ナ テ ラ = 1 " 3 7 ナ ナ 1 7 並 ガ フ 力 ラ ラ 1 Æ X V ١٠ ٢ 普 ヌ ブ 5 フ シ 1% 12 \_\_ ブ 3 w ナ テ 丰 ケ 1 3 ガ 亚 ケ 1 1 フ 1] 7 3 本 H 3 2 T 宁 V 丰 1 1 3 -7 V ŀ フ 1 = 13 3 ナ ジ 7 7 7 13 ハ X 1] 1) 7 カ IJ D

> P 2

> > カ

ヲ

+" 7 1.

テ ラ

ヲ 牛

17 ナ ナ ラ

ナ

1." 7

ス

w

= フ イ ケ ナ

=

ソ

t

丰

ハ

才

ヌ

Ł w ŋ 7

ナ

ガ IJ ŀ 力

ラ T

7

ヌ ホ ろ IJ

フ 10

ŀ ヌ

7 ナ ヲ 又 ナ

IJ 3

7

1 ŀ ヲ + ラ

チ

7

u

E

ŀ Æ 7

テ

フ サ シ 1

チ

2,

ŀ

テ

サ

7

7 7 1

= ク サ

1

ナ

テ 7

丰

Æ ツ

Æ 9

ツ

ウ

ス 7

7 ~

ホ

ナ

1) =

ヌ組ウ

\_

IJ

ヲ

1

ク

ナ

w

3

敎 ワ 7 Z シ ン U ٠٠ カ 3 ナ 1 丰 1 7 カ = Æ カ IJ ス 7 ヌ Ł ŀ ス

" E ス 同 7 西 1 = 3 渡 長 1 p V 6 E V 卿 ŀ ク 3 ナ × ナ 南 7 丰 ナナ 7 ガ サ 3/ 7 ナ 7 V 云 1] X 丰 N 11 V 15 ጉ 17 P ナ 7 セ 子 1 1 ヌ 3  $\dot{\Xi}$ サ 3/ IJ " メ 1 ッ Æ w Z D ラ 1 ナ 1 1) V = 15 7 IJ 4 相 7 E 云 3 3 案 111 3 シ V ŀ メ 摸 1. 7 15 IJ ヅ ホ ∃ 7 Ink ١, 歌 7 7 力 ∄ 1. 1. ラ 7 1 フ > = = . 3/ ズ ワ ガ イ = = Æ Æ ク サ ス 1 ソ  $\exists$ 1 7 = 申 1 1.5 ŋ V ^ E 3 ッ 1 3 F ダ 1) ŀ ワ テ 北 ~ 3 ホ 3 汉 カ ケ 1, Æ l. ヲ iv 7 7 注 3 11 丰 浣 カ 申 1. 加 ッ = ゝ ス 也 : Æ Æ

7

t 1

丰

3

サ

又

7

ヲ 力 1

w +

21 -

= ス 丰

1

ヲ

ŀ

3

フ

E

)

7

IJ

筬

1

カ

中 サ

ウ

3

IJ

7

7

7

3/

水

ヤ

コ

U

E

7

サ

ヲ

7

ラ

3

~7

1

ホ

=

口倭頭井訓書

アリ梭ラバウン機等に遠い

佐也

誤良 シ ス

矣、如"以以甲俊宗案箴音成、平

学水首韻

類亦 3

也織 汉

〇具 7 ヲ

以

共緯

平 7

甲 所 Æ

中

=

ベ梭

۲

ヌ

7

ダ

テ

1 鎧梭

フ

ヲ

110

ソ

1

ホ

ラ

ン

=

ヌ

丰

ŀ

3

7

E

3

=

サ

ケ +

ŋ

和 ワ 名 オ ス ナ グ ジ サ 叉 7 忘 ハ 萬 葉 1 カ 丰 1 萱? テ 才 草"。 ナ 1 3 カ \* ク デ 3 X 3 1) 3 說 タ 1) 順

百十五

案 リート フ ナ サト ス 貊 3 ガ ツ ŀ ソ 1 中 = 7 サ フ ワ トハモ不 後 ナ 丰 サ イ 1) 分 メ カ 牛 = 7 ス 411 b }-ス 是 1) IJ 人 凉 ナ フ アスマン子管 v  $\Rightarrow$ = P w 廁 イ V 3 人忘」憂 1 ケ 1 1 殿 1 ナ 3 3 工 ر ر 3 義 ブ = ク 1 チ 御 ħ 3 フ ス 17 v サ æ ŀ テ 1) サ グサトモ通テ云ナリ生タルチバシノブグ 17 + テ æ ノ \_\_. 17 18 ツ イ w イ オ 但 ザ = w 1 同 1% 丰 3 ボ 丰 ナ 世 3 ス ガ 名ヲ フ 誉 3/ 3 草 1) = 1 子 7 云 æ ナ 工 +}-通テ云 נל w 1 草 1 17 ヲ ~ 3 垣 ズ 1 3 K セ Ŀ 丰 ノヘ ブ ナ 誉 本 IJ 如此 21 7 7 w 2 IJ 衣 叉 1 ス ナ 上大和物 ワ ワ ノブ 7 7 1 3 P 2 ŀ 1. 集 ワ ŀ 7 忍草 ス 說 イ ワ ナ ス 力 2 w = 注 玄 ^ = 7. グ 1. \_ カ ス 2, V 1] 伊 ケ IJ 70 V ミュ オ ス 4.0 7 7 グ ケ 勃 サ IJ 7 3/ V 1 17 語 ケ ク フ 3 草 サ 物 ի 鳥 グ æ ラ タ ス 1) V グサト jν 忠草 サ ラ 語 非 E ク フ・ サ イ 7 5 ヲ 18 ヌ 7 ナ 丰 11 シ 此 150 X シ 7 フ 1 w 云 1. \_ 一一云デシテシテ 此 ダ IJ シ ŀ 證 1 サ 1) イ 1. j. 1. 1 12 2, æ 7 歌 7 而 = 7 ヲ カ ブ 71 IJ 力 7 ナ ケ フ Æ = p シ 7 15 ケ イ ガ シ 1 ケ プ 7 2, = 2, 本 オ -7 プワグス 11 草 如 サ 才 1) 3 IJ サ オ 1) ブ フ ス ゴ ? 7 ^ 1 ナ 何 1 4 テ 1. 書 水" T テ ŀ 1 工 ---ブ イ サレ リ信 イ

賴 叉 ワ 7 ٢ Ħ 1 人ヲ t シ 云 歌 V テ 牛 宁 7 ٧, 11 IJ 1% 1 3 + 後抬遺 カテ 1 7 IJ -2, オ Ŀ ク Ŀ フ Æ w \_\_ サ 1. 3 ク 3 IV 1) ワ ナ ケ サ Æ ケ カ ŋ w ン -7-= 7 ケ ワ 才 w ナ 1 サ 1) ス Ŀ t 力 ケ V 1. X ク w カ 7 想 牛 フ サ 丰 = w 1 力 テ ナー V 3/ + = 3 1 1 72 金葉 7 1 V æ ツ ---7 カシリニ ブ = オ ナ -7 俊 凯 -E V

摩 此 1) アの頭 ヺ゙ 歌 而 サ ŋ = 衣 ワ 水 11 能也 之說 相孔 7 カ ìth Ŀ 1) ----姬 æ 3 1 ナ E 1 丰 不 监 蜘 ク ウ 1) 同 -6 力性通 蛎 ス Œ 1 11 本 7 All: 冷 1 \_\_ V Æ 义 サ m E 训 フ  $\exists$ 第 有 ナバ = w 7 ŋ V 几 1 7 カ テ = 何 7 事 Ŀ 20 オ 7 Æ 丰 カ ナ 1 ツ 衣 于 -カ 人 ジ イ テ \_ シ ク 1 敦 フョ æ シ 1) + 是 7 1 IV キ 1% 卿 1) 7 3 院 iv 33 Ti ŀ =6 ŀ + 御 ٤ y 义 ナ イ 1) 木

丰 イ 知 7 -3/ カ 詠 陸 110 良 ク 義 佃 1 Z 老 イ æ 11 西 w 京 ス 雜 雅 3 記 2 災云 210 12 乾點 シ ŀ 、大吴 面 ナガ 3 之網 噪 X 7: 行 師 1) ۴ 人 物 Æ 觸 五 7 蛛 " Thi 蚧川 III 1 伤 邬 ワ 結 冰 E h 11:

サ 3 ガ × ŋ 7 = 7 3/ ス ガ 13 オ 3/ 7 ۴ 1 フ ハ 衣 = 7 カス = フ ジ カ 7 ŀ 1-3 思キ 云フ心 ŋ 丰 テ ŀ IJ 人 テ ナ K ヲ ワ 1) IJ ~ E\* ッ ス 3/ iv ス カ ヲ W IJ サ 3/

1) ナ 力 ワビニ 3/ £ 3/ **今案** 二是 E = IJ ラ ヲ 衣 ٠, テ ŀ ゾト ク ア 7 3 = サ 4 義 シ テ ₹/ シ カ 12 フ 2 毛 カ 1 ŋ n + Æ ŀ 3 テ 7 カ 云歌 ワ ŋ イフ テ ジ 1 3/ メ ハト ヤ = ŀ 人 リ今案ニ F, 7 3 ٠ 工 1 ヲ ワ Æ ズ如 ~" ヲ ŀ シ 3 カ カ ワ ピシ 7 + 丰 イフ ス Æ 7 + Ŀ" アポヤマ V = タ Æ iv 七 = ノイハレヌナ 丰 一八文字ヲス 此說 ノヲ スル 說 > N 1 ヌ シ = 衣 3 7 Æ = ナ テ ŀ ツ ŀ 力 X イフ 能 シ = 3 キ サ w シ w ヲ 3 テ 18 X Æ ス イ = カ 3 テ 説ヲ iv ŀ イ ヤ ナ Ŀ ٢ IJ ク ス イ 歟 キ ホ 相 Æ ナ 或 w サ メ 1 モ H = ^ 7 ル三文字 ナ イ ブ ク ŀ ツ ク 人 Æ ラ ~ ŋ サ æ ケ 衣 云 11 7 7 w ワ 1 丰 敎 ダ シ ナ = イ カ 長 ナ ス 1 カ + IJ

ウ

シ

ス

=

カ

3 to Ł 7 中 = 7 ラ サ 丰 コ • u Æ オ モ ٠, ヌ ヲ カ ケ 次 "

> 中務 ク 萬葉 力 7 = + 井 ナ , サ 條 = = 7 是 東 ŀ 7 7 7 > ŀ Æ = 洞 3 サ 牛 w 1 イ = ハ志賀ノヤ 院 フ 2, フ w カ ŀ ٤ 7 女房 ヤマ = ŀ ベキ叉東山 1 7 Ш 2 Щ ヲ サ 山 = , ワ 1 ナ 力 11 = 3 井 丰 イ 1. アリ山 力 ャ × マゴ ŀ ノア オ デ 1 7 ŋ フ霊山 13 イ ス æ カ 此 工 カテ フ ケ n 2 集ニハ「ム ノミ ナ ŀ 井 サ 井 柿 Æ ク ŀ ~ ナ オ コ チニ 大 イ ۲ 3 ŋ U = ハ 納 ŀ フ 7 ス = ユ テ ス サ ŀ = n イ ッ フ 力 4 义 3 ワ ヤ キ \_1 ミチ テ 11 11 = メ カ = u " ッ ŋ 丰 ナ 15 E ス ili ッ ク 1)

1 ス + V 力 = ッ 工 ラ サ N イ ラ 7 2 ハ ス 工 1 + フ ク カ セ 1 才 1 = -6 Ł

w N カ ダ ダ ヌ 111 ナ 3 7 7 1 V 藻 シ ス 力 = ŋ = ダ ッ ス 此 カ ^ ラ 7 U 集ニモ「タマカツラハフキ ナレコ ニハヘルタマ ナ 椿ナドイフ ヌ ノヽ 玉葛ナリタ 1) トノ 又萬葉歌 ノ心ニテ ガ ウレ ~~ カッラタユ 7 ニータ タユ ŀ 1 シケ ۱ **シ**/ ŀ 72 水 モナシ 萬葉歌 ャ カ 2, 1 ノア jν ッ w ラ ŀ = | |-玄 + カ 7 ッ þ ケ 3 タ 1" ナ p 13 2 ナ 3 ケ ヌ 7 ŀ IJ ス 3 ク IJ

カ ス 70 ケ ナ w = ナ 7 V ク IJ Æ Z 7 サ ス ~3 フ 王 テ ケ -7 V カ V カ 1 1 ッ 10 ケ モ カ ラ 3/ ヌ ナ ケ 1 w }-= " \* 3 3/ ソ ヌ 7 ナ Æ IJ ウ ク 7 1 ス 1 カ Æ ナ ク ٧٠ -1) ツ w 7 徐 10 カ フ 撰 ケ ップ 1 ス ラ キ w ヺ ナ E オ 太 1 1) メ ナ

ツ II. ワ キ 談 云 ٤ 3 411 云 恶 嵯 21 クサ 峨 Æ 7 パか 子 ヌ 皇 4 蒙っ善 2 ŀ 時 罪, 7 シカ 無 7 ス 1. w カ 讀 丰 1 云 云落 ク R Æ 天皇聞」之給 1) 世 7 間 X 名 E 12 フ 篁 也 ラ 所 ナ

2

為

也

1

被

仰

テ

ŀ

ス

w

之處

篁申

云更

不

口

書情等シテナ 173 月 高線 降雨幕漏寝、如い此語り下すせつラナムのというするといいますなりかり小野筆語をラナムのといいますないとなった。 松 也 之野 尤 ,春点 學 一个案 楽号が如 然 此 此 文可 自 上之暮三年 明得之 伏三仰三 今 讀 以 チ 12 伏 \_ット 後可 ッ利 伏\*被 伏 考 向 之萬 柳二仰 レ絶 向 核 不是 ŀ #葉 不 來於 穢/第 申 照元十 待。書 F 云

> 汉 仲 ~ -45 朝 1) ナ 臣 ケ 1] ル -7 毛 ケ ٢ ŀ v 3/ 1) 110 テ チ ~ カ 7 ٥, ~ 12 73 ŀ IJ 7 テ 3 -7 1 w 3 11 1 ヲ テ 77 71 ツ V 75 77

7 7 ラ 3 7 7 7 イ 才 モ カ = -() チ 11 2 1 シ フ ŀ E 1% ツ 又 12' Ŀ ŀ

3

3

ケ

12

伊

弘

æ

ナ 請 此 1 1. 111 フ 集 ラ 歌 3 才 2 ホ 1 조 事 丰 3 7 此 ン 7 カ 訊 3 せ イ 3 7 ス ホ 1 丰 1) ヲ p ス 111 テ = 7 7 w V 7 1 1) 1% カ p " 1 7 --7 æ F =/ ヲ = iv 木 Ŀ 3 1 7 7 テ - h- "

210 Ł w w ヲ 4 ウ 朝 1 ラ 丰 臣 テ 丰 2 3 w ウ = 7° + 7 1) w 1) 70 " 2 1] 子 カ テ カブ =/ 2. 1] 25 ス 3 7 3 1 -7 => ス 15 ٤ 181 1%

ユ プコ w 3 力

7

7

ク

æ

ン

-

æ ク

2

1.

ナ

1

工

7

73

+

ス

71

-

ヌ

3

テ

7

1)

15

۱ر

3

æ

1 3 3

ラ

秘

1.

3

×

1)

相

何

叉

萬

葉長 ン讀

之又云青

梓\*根

末分根

中。毛

伏、伏

歌

伏

起

7 3 R 違

3 丰

3 3

P

か

不 7

審

机 又

起 向

カ

ザ 爾

1) 云

=

1

٤

ナ

5

7

21

子

2

凝 ユ

呂

此 如

74

字

不

1 ユ カ 丰 70 カ 17 3 ン ラ 1] = 1 3 3 テ フ w 7 F 1 7 2 カ 中居 w P

7

本 歌 -グ E E ン = 1 3 3 12 天 1 4 ŀ 云 11

ゴ御伊 ŀ IJ カ リ ワ w モ b ソキ ケ ŀ 110 ケ タ選勢 風 t ガ 3 カ ミサヘョ 女 物 IJ 3 E ŋ チ = ク ・ミン ノカ オ イ ヌ ケ 11 ホ t 7 w IJ ボ メ ケ ナ 才 ミシ 7 1.0 3 +2 ケ 工 E ŀ 4 ナ ענ バ御湾 ズ 15 テ = ŋ N > = カ ~ 7 3 t v = 工 シ 3 7 ミナ ラ カ オ ヲ ユ ハ カ ٤ **卜卜**云云 オ シ オ ソ 7 リケ 1 2 w ソ V チ オ 1 æ = ク ナワ フフ = 1 ŋ = Æ V 丰 E ) = 3 Æ トハ 7 ケ 3 = ル」雨氣ノ雲ヲ アー(頭書)心 ズ 3 7 ナ シ カ ŋ ウ V ŀ ١٠ ス IJ t 7 教長 アラ 3 ラ オ ス 3 カ 3 ク ケ " IJ ナ ン オ Z Æ X w 力 7 | 卿云本歌 E ズ ス = ŀ 37 ダ ワ w ヲ 返歌 ッヘトヨ メル・心モ 身モト云 ノ :::: ŋ # ŀ = w ナ シ ケ 3 7 E = = ŋ ケ E 7 w 3/ Ŀ 1 п = w F ナ 人 テ **シ**/ ワ 7 w 也チ リタ 雲 7 t = 3 Æ ガ 7 ヲ 叉 ナ メ 丰

> = ٤ 4 1 オ Æ Ł 3/

敎 ~ カ カ ク 云 衣 フ Æ 7 毛 = ヌ 身 才 7 7 ホ カ w # メ 長 3 水 カ ٤ 神 サ 卿 ラ æ --ホ シ ユ 工 ケ ハ ŀ Æ + テ ナ ゥ ホ シ 3/ w 1 云 7 ŀ ダ ラ ナ ナ シ 丰 オ t 赤 カ と イ 1 シ ŀ 3 1. 1 イ Æ Æ 3/ V ~ し是等 ク ス 3 Æ = Ł" p = 2 Æ + メ カ Æ ヌ 1 w カ -;-7 ナメ ナ ナ 7 1 ナ 1V 1 3 ケ ユ • ス ラデ只心バ ヲ w オ ŋ テ = 丰 フ ٤ = カ п シ 心 ヤ又與ニーナ カ Æ ノ ダ 3 1 = ケテ 力 = 1 = カ V ス æ 私考::今集歌! 2 7 シ 」又云「タ 力 ケ セ 丰 = Æ = P 子 ノヤ ケ = = ナ ٤ ウ = ヌ スベ = ラ ソ カ ŀ シ カ シ v = ノミ リニ 思 テ 」萬葉云「 7 • ケ Ł 3 **シ** シ 丰 モ ッ ワ ス = カ 1 ソ 然者 ナ 二六年 カ 丰 シ 力 ٤ = • ス カ 7 1 ケ ケ v = = 7 工 Æ ヌ ャ t 2, カ ス 1 ワ w ヲ ŋ 1. 1 1 カ ケ ナ ッ ッ 丰 カ す」 7 歌 ヤ ケ 叉 IJ ケ カ オ Æ

是 æ 心 = 力 ケ テ 1 云 心 ナ

IJ

友

則

=

U

7 丰 カ セ 3 7 7 ケ テ 3 E フ カ ナ 7 = ٢ ŀ

題 昭 古 今 集 註 卷 + 五

カ ラ

=

U

Æ

ナ 知 ス

1

3

 $\supset$ 

ン

7

ツ

· 2

メ

カ

ケ

デ 丰 IJ =

3

P

題

不

r

7

7

7

w

U

7 ガ

3

X IJ

= ゼ

工

景がより

才

ホ ス

3

初

句

古

今

=

ダ

叉

力

t

ŀ

才

ナ

4

ラ = ナ N ラ

敎 カ ١,٠ IV 長 5 カ w ク 卿 2 丰 1 云 = 風 = 7 3 メ ガ T 我 ヲ iv = ナ 身 7 7 丰 1) U 人 風 私 身 1 } يا 1 云 7 Æ 1 =3 ン 6 " ケ フ = テ U 12 -73 ナ フ -٠, ク カ p 12 テ = 3 ソ E 3 ラ to テ = 7 7 ナ ナ

ケ チ ~3 w ŀ 1) ブ ケ チ ラ w 7 人 Ł = ナ ~3 ŀ IJ IJ ٧, ケ デ ケ w = 13 7 = チ 3 17 3 7 7 テ 7 E ツ 13 3 力 1) 1) テ テ 11 3/

兵 衞

3 テ 7 " t = 工 7 フ 3/ ኑ Æ テ 1 1 3 3 IJ カ IJ 牛 ヌ ツ ラ キ ٤ ŀ 3

力泉黄致 E カ 小泉ョニ ナ 10 } U 不卿 Ł ツ 3 2 17 ツ相 1) 17 5 云 丰 ) ~ 子 w H 111 ۴ デ " = 7 1 = ツ 7 カ ラ ~ p 7 T 17 " 丰 ナ 习代 1) 3 7 メ卷 人 p w ン 1 ラ ~ \_ 黄 2 3/ 2 黄 =3 Æ 泉 ス メ サ 私 1 ソ テ 丰 7 w 云 .... 3 我 ス ダ 1 7 カ チ 1 デ = 7 1 7 叉 3 2 7 カ 1 1) 御 ツ =3 ~ ユ 左氏() 本 1" Ի " 1) 丰 傳書 丰 1 ス p \_\_ 不良 ノ サ ラ 丰 1) 7 シ到家 丰 フ 2 ŀ ス

題 不 知 愈

> テ 丰 Ł 1 1% カ 1 iv イ ラ 子 7 E

7

テ

フ

1

カ

ケ

+

7

\_\_

ナ

7

3

3

ŀ

17 ク 7 2 18 ١١ 丰 H ン カ \_ ~ ケ ŀ 1 V " 2 ク テ 1% ス 1 + æ iv Æ イ 稻 1 ÷ 1º ソ ---7 1 1% 7 人 X 13 1) 7 3 11: 111-1 カコ イ 子 俗 カ ン 1] Æ H -7 1 ス タ -73 K 丰 1) 7 H 4 7 =9 -ナ " 7 1) 7 h ソ 7 4 7 -1}-^ 17 ラ 13/ Z 1/ 1] -7 2 11: =3 1. 73 37 テ 1 ケ ス ---7 1 35

頭書 フ 1 E イ 1 1 1) 1 w 7 7 ナ 2 ナ Hil 書 + 1; 12 ~ 7 力 = ズ 1) 云 12 之之 H ス -F-カ ラ 力 H 7 V 1 ラ カ ガ 2 フ 不 7 1% 1 w 1V ナ = = -6 小 ナ 人 1) イ E 4= , ソ iv V 熟点 ナ ズ カ ウ 薬 次 カ 丰 V シ テ IJ = 1 1% 1 11: イ 工 -1 フ + 1/2 ナ シ 12 IV 7 シ 1 我 1 カ 7 利 イ N ソ 7 1-

7 カ 3 カ ラ 7 U Æ

オ

E

E

3

ラ

1

Æ 7

1 ٢

ク

12 ス

E E

E

カ 丰

ナ

3

か

Æ

致 サ \_ 班出 æ シ ナ 7 ス ク 7 テ ガ 才 3 1% E" 2) Ł ŀ 丰 Æ 7 1 1 カ 1 3 ク ク 7 フ 12 ŀ E -3 ŀ 1 E フ => 1) 7 1% E 12 13 2 7 -松

1 7 ジ カ タ テハ人ヲウラム Æ 1 æ 7 = 工 ٤ リ又云「メッラシキ人ヲミ 丰 7 キ アル ヲ シ ٤ ス タリ叉云 Æ ツラ = ケム ŀ 2 クヒ ŀ w ユ Æ = ナ = \_ ク ) Æ 4 ク 輔朝臣云此集第 ハウ , リサ ノナレ ヲ ŀ Æ ヲ X 1 = Ł Y ヒラ 丰 テトクル ノト ン ルナリ ٤ æ Ł イハ ······› 萬葉ニモコ = ラル V 事 トハソレト Ł Æ ル ŀ 11 Æ ヤユフテ ケ ハ叉サ シ 2 とト 人キ シ オ ワタ ク 、人ノ テ ŀ ス ラ トゾ æ w カ 7 ٤ ナ *'Z*" ŀ フ 1 = ズ w テ サラ テ æ ŀ シ シ Æ 牛 1 x パ 3 = 歌 ラ 7 シラナム」此 1 せ ダ ダ タ シ = ŀ メ フ æ ス = ガ 4 ムトヤ = iv オ Ł ヌ ユ 17. シ ク jν t: 工 ۲ = w æ ŀ 11 Æ ダ + = ク æ ÷ シ Æ 77 ~ フ t シ フ イ ケ 灭 ŀ N V ۱۸ 此 キ P ŀ ŀ ۲ ナ シ ク ŀ ř ŀ 此 サ ハ æ 7 Æ ク V Æ ಕರ್ಷ + カ シ メ 歌 1 我 ŀ Æ 集 ラ ク ク シ 11 セ ダ w カ ŧ 先相り ij 2 ヌ メ w シ iv = ハアラ 7 モ」义云 シ フ ラ セ ス フ ŀ ヌ ŀ Æ ユ E = Ŀ ダ ナ ヌ 亡 フ  $\exists$ ŀ シ = , Ł キ U æ テ テ ٤ Æ ワ 工. Æ

> 了又本 テ紐帶 但萬葉 マユ 2 テ ŀ ヲ 7:2 子 = ٠, オ フ ムームラサキ イ カキ 別事 Æ w ŀ フ 3 Ł ワ ク 歟 テ ソ ナ 1V V Ł. オ 7 ٤ ŀ 7 Ľ ホ ` ノオヒノム ツ + モ ハ ŀ Æ 題 ŀ ニイヘル如何此 ŀ = 7 7 V 昭云教長 牛 IV ŀ ラ 7 ヲ : スフモ ツラ シ 工 先 ダ 卿 14 4 相 ۲ ŀ IJ 條前 Æ t \_\_\_ 義 7 叉萬 7 ŀ イ Æ " 力 = 1. 委考 ケ ッ シ 3 ス ŋ -JJ

=

ヲ

3

メ

įν

ナリ私考云

俊

賴

朝

臣

此

歌

=

ッ

キ

テ

シ

タ

牛

テ見 頭書 7 ルセラレ ヲ教長卿 一長書云 タ シ タ V シ バ ダ Ŀ. イ ٤ Æ 1 æ シ ŀ V ズ イ ダ ) 1-フ オ 申 歌 Ľ ነ 也 ヲ シ 八別物 ヌ 1 オ E = テ

毛小

ナ

P

イ

Æ

=

=

۲

ッ

ス

IJ

ナ

リ東帯 同 シ 1 3 シ = 7 1 事 ク 七 ŀ 歌 フ 4 也 テ æ オ 7 = 7 N サ E 丰 3 シ ヲ サ X ۲ ゾ V = ŀ ゥ ダ 11 Æ w 戀心 IJ ラ 7 ヲ キ -ナ 3 ١,, E' オ 7 Æ 萬葉 X ヤ ガ テ 1 Ľ 工 ラ 俊 1 3 オ イ Ŀ, ズ 賴 ワ × Æ æ Æ 又清輔所、考 ノ人 ガ w Ł 1" ヲ イ ` ス ダ Æ ٤ = 7 12 ヲ ツ = 工 ヺ゙ オ シ ウ テ ン ス = F, タ ラ 叉 1 IJ ヲ ۲ = ٦ĭ 萬 2 ヲ サ ン ÷E Æ jν シ 7 ŀ = 3 1) 歌 = w ス 10 E 力 ヲ テ イ 1 E コ ラ衣 ク 11 ィ 3 Æ ŀ ウ

ク 3 111 MI ナ Ł Ŧ 7 E ٢ 11 b モ 和農藥 2 ス 力 1 2,  $\overline{H}$ 1 年 カ デ ٤ 1 ス TE ケ テ 3 Ŀ 月 IJ 1. b 工 毛 任 目 1 カ 71 1% 鍅 丰 IJ ズ 因 ズ 不 1 ŀ 人 -= ノ、 3 1 守 因 7 X ٧, 1 云 市路 17 3 V Ł カ 叉 111 27 12 1 ケ 或 此 人 7 IJ \_ 1) 3 本 1) 萬 人 来 ラ 權 葉 1 to 名 歌 ズ 守: 世 7 Æ 7 云 ク 女 致 12 173

ソ 1 ヺ 1% 丰 = オ カ ク Æ フ = = 1 テ 7 71 P 1 7 11 丰 ŀ ナ 3 E

或 メ カ Ł 18 w 7 A 1 ヲ 云 Æ ---13) 1 ++ Ŀ 丰 丰 ]. イ 2, カ ケ ク ŀ w 7 丰 = ナ \_ 7 1 イ 1] ŀ = 殼 世 イ 1 =1 云 長 1 フ > 卿 11 ->-也 U ナ ウ 私 云 1) ゥ \_ A 云 ケ \* +} ク ク 2 丰 丰 \_ カ 7 1 2 -4 イ 1 \_ ヌ フ イ 1 云 ŀ 7 7 111 3 丰 =1

= フ 1  $\Rightarrow$ -6 ŀ 3/ IJ イ ケ 1 モ ス T ヌ 12 1 丰 = = ン Ł 1.  $\supset$ E 3/

3 私 P 云 Æ 亩 LI 1 云 同 扣 验 5 V 卿 1. 詞 1% 1 ガ 1% ク IJ 1% 工 ヌ w ŀ イ

イワ

汉

7

7

ス

ナ

3

1%

チ

カ

7

7

1

ス

20

1

フ

ウッ

ラ

ツ

ルカ

カミ

ナ

= ス ナ 7 ナ 1 11 サ 11 illi ス ナ 2. 1 V 1. 木 7 18 ン 7 = =/ 我 IJ 末 V ヲ ワ 3 8 1. 松 ガ × フ 丰 Ill = 12 3 テ 7 カ ン サ 3 ス 70 2, 丰  $\supset$ ナ 後撰定文 ル = ス 3 人 7 -2 1 1 70 17 7 IJ u 趴 チ -, 刺 K ケ 7 n'Y Æ 我 ツ 13 木 ナ 17 70 -7 7 チ 3 1 12  $\exists$ 11 7 1) ス ス

ラ テ 7  $\Box$ 汉 ソ 70 ヲ 7 7 X ラ ス 丰 力 3/ カ 3 テ -E 人 1  $\exists$ 7.7 ヺ

丰" 7 U ヲ \_ ラ = 1% 7 ス ク +)-ス ヲ 7 カ 11 ス X ク 18 1% ナ 7 2, Ľ" 1 ラ 1) 3 独 ス 7 長 7 ス ナ 卿 1 丰 テ 1) 云 フェ 7 ン ラ シ V プブ 7 テ フォ -70 ツ サ 2 -ス w A w ナ ナ IJ IJ 1 35 ツ

]-7 1) 歌 私 カ 云 ス か 71 カ 3 ナ = / ソ 5. =/ 7 ズ テ IJ シ 1 . Y ケ 1 Æ 7 始 iv ٠,٠ サ 終 2, = イ V 1 Ł ウ 17 1. ホ æ メ ナナ 1 3/ 又 イ 1 Ł 7 ヲ Æ ク ス 7 iv IJ ナ ŋ 古 =2

穀 或 1% 長 卿 IJ 云 祝 7 云 4 7 歌 サ ノ 1 ナ イ 3/ -7 F. +) 丰 也 7 =1 -= 1 ナリ 1 Æ 1. フコ 3 7 ヌ 110 ズ æ 7 7 1) 1 ス ン 7 IJ 5 ツ ガ 7 2 ス + サ 1. ウ ス J' 1 E 1 E X Ł 71 7 1) サ ズ ス 2/ 1

ŀ チ 书 w 心 也 ア ŋ ソ ウ 3 ハ 海 1 名 也 私云 此 集

サコ イノチノアリ ٤ ストカ ワタツミノ ハマノマ ヲ ア = 」萬葉云 = 7 サ N ラ ユ カ メ 八 ス 百ヵカ ャ = 日カユ オキ ヒテ セ 4 サコ ツ ク チトリナク 」貫之歌云「 シ ヲ 7 , カ æ 7 ソ *y* ナ グ サ カ ッ ⇉ w 、キ ŀ 毛 シ ワ ~ נל 7 11 カ カ

ナコデハ砂(頭書)マナ 風 77 ナド テ IJ 3 ヲ シノ地チ云也 メ ウミハ 所ノ 名也 リ又アラ カ ウラノ 7 イ ナシ ン ウラハ所名也、(頭書)マワカ、 ヲ トキ æ アリン 7 ナ リソン 'n ノウラ、 ワ ŀ カ 3 7 = ナ = IJ ア フ ラ チ IJ ン ク

1 7 イ 丰 カ п セ カ 1 フ ŋ ケ + ŀ 1) フ + ヌ w 2, サ シ ノハ ナ ^ ラ ク サ

教長 風 サ iv æ テ ャ ŀ ハア ウ ナ クニソヘタリ又ムサシ 云 ナ テクサバトハヨメルナリ 7 + 2 サ 人 カ ノユ 1 ゼ 1 = カリナドノ フクノ ` U æ 7 ~3 ) ŋ 7 = ŀ ク ケ 7 サ w サ U シ 1 18 ヲ タルハ 也 イ オ 私 п Æ ノ 云 ٤ カ 7 IJ ŀ 丰

アフ Æ ヌ > = = ン カ ナ シ ケ v ワ カ = 11 7 4 チ ナ

シ

ナ

1

イ

フ

ナ

ク 7

ナ +

ŋ カ

又 七

1

オ 昭

顖

占

今

集

註

卷

+

五

=

諸ノ ン ŀ = 7 ナ 丰 ソ 木 ヲ 2 風 恃 ス オ = 葉 = 12 1 7 ナ 3 = ٤ 秋 リ ス = ヌ w 私 7 風 w 歟或 カレ 田 云 = チ 秋 ハ テ ŋ 人 3 風 一云田 我身 テ 1 --2 7 イ ナ フ ラ 2, 3/ 實 H ナ ヌ キ心 シ ナ = 1 實 2 IJ ハ ナ r 3 ŀ ン IJ 七 ソ V = ガ ズ ŋ K グ ス ヤ ウ ŋ

定 文 力

1"

ヲ 7 丰 ウ ラ カ 七 X ノフ シ + 丰 カ ウラ カ ^ ス ク スノ ハ ノウラ ミテ E

1

ゥ

ラ

ヲ 1. 丰  $\exists$ 風 フ 11 w " ナ 丰 3 7 'n ク カ 2 ナ 草 此 = ^ y ス」ナド 歌 萬 ニ」ナドョ ヲ ハ 1 葉ニ 本 中 = ヨメリマ テク モ「ミック = 葛 メリ ズノ 1 ٠, ハノ • コクスハラナ キノ = カ ヲ = ^ カ w 風 1 ゥ ラ Ŀ ク ク ス 3

3 3 人 シ ラ ズ

70 7 w 丰 7 テ ナ Ի ダ ス E\* イ IJ ŀ = ^ ŀ ン ~ 7 3 ŋ フ 7 ソ 書 ズ ケ = ナ 也 ソ w ソ + 人 v 7 ヲ 也 シ 7 ワ ア ダ ク V 7. = Ŀ フ 1 3 10 1 w テ ワ 七 7 w 丰 ナ ヲ 1. フ ŀ N

7

ウ ス 丰 ナ カ ラ V ケ 3 ス w 7 ワ 1. 毛 ナ 1) ナ 2 ナ カ V テ 1 1%

ナ ガッ ナ ガ ラ ガ 丰 ラ テ -F ケ ス ヌ ヌ IV 1 7 IJ 3 イ 7 1 7 111 フ 浮 3 ヺ " => T.P 1 1. ` - 50 イ 1.7 IJ フ ウ 13 3 丰 1 " = = = ソ ゥ Æ

ゥ

ij ナ 丰

1-

イ

7

ナ

IJ

サ

11

13

1-

シ

2,

1

イ

7

ナ

1)

## 顯

1

Æ

1)

詞 ダ リニ Z 大きな場合 オ 7 IJ オリ ケ ホ 牛 IV 才 3

イ

~

ゥ

チ

+0

111

ヲ

シ

ラ

フコ

7

0 ホ

X

平 4 退 Fif 敦 丰 7 ウ ٤ 六 長 太 イ ŀ 7: 3/ サ チ 1-テ 70 年 ウ 丰 +" 忠 ズ 政 卿 -7 力 ス イ TE. 111 シ ウ ク チ 1) ~" 大 云 w IJ 公 月 IJ テ チ ~" 卡 1 ŀ ŀ 15 サ 卡 3/ + = Æ カ シ 1 3 ナ 丰 1 1 =3 而 願 カ 111 U フ ケ イ V IJ 1 次 H サ ァ 1 = 12 w フ カ 才 111 下 注: 忠仁 7 普 ヺ゙ IJ 1 1) レ 7: 麙 勝 + 7 -1-" サ ٤ = ٢ 7 ヌ 寺 カ イ ij E 力 ナ シ 時 æ ŀ iv 才 ノシ人正さり 告 IJ 三人 ナ ナ 忠 人 良 3 ク 7: 私云法 丰 ---7 ~3 1 = 用诗 = イ IJ 慮さく ナ 1) 人 公ヲ 昭 ケ 示 ١٠ ~ Hi ノウフ 1) 丰 ヌ 73 ウ 12 V 拼 3 サ -J-1 フォ = ~ IR ッ ナ 公 7 1 考 寺 シ 丰 基 1 た + 丰 カ IJ 3 7 ラ 111 深 1 1 絲 1 ィ カ -}1 111 政 = 草 18 昭 前间 14 73 IJ 才 li 才 1 ナ 大 ]-是 官 也 丰 = 赤 7 六 Hi イ 公 X æ オ 1% Ili 丰 É 7 + -E サ 3 :1: 1) 才 )11

持統元明兩帝弟天智天皇第五王子 オ 二品太政大臣母尼子媛 何 サ メ ラ ケ 太政大臣 w 四代百六十年之間不以被、任、之 後 始任、次次持統天皇四年九 = 3 ハ天智 : 任、之其後自二文武天皇 ケ w ŀ 天皇十年 カ ケ ッ 正 是 月 月高市皇 大友皇子 昭宣公也

政大臣 字,則案」之太政大臣 久絕之後忠仁公補」之其後 題 字,也教長卿云前上 相繼又昭宣公補、之兩人相對以,,忠仁公,書,前 仁公、不、上, 辭表 昭云前 |裏書云近來前太政大臣ト書ハ餅表人也 ŀ イ \'\ 昭宣公同為::亡者 一仍賜二諡號一也不了可 云フハ 為,,亡者,也故 然 而無二前 万有:前 心也云 而 忠 k

二月基 時貞觀 ŋ 文德天皇御時 集詞 シ ッ y = 宣公,者書,堀川、强不、書、後 太政大臣一辨,前後之時、以,忠仁公,號、前歟、 ラ 云 ŀ カ 任、之、字多天皇御 四年 力 仁康 ヘルサノハラへ ケ ?齊衡四 八月二日薨、 1) ノミ 相 遠歟 = 年二月良房任 力 八人康 v ダ 白川 時寬平三年 陽成院御時 親王者 7 jν プン、清 テ人 歟、 ヲ 明 三元慶四 ヲ 抑 薨了 ヤシ 天皇 サ 此 和 × 素性 天 皇 年 ス テ 歌 御

> 貞觀元年 喜元年 二月十八日 入滅、三年薨、遍照者寬平二年 之間 相叶、 號二山 本 次下深草ノ山ノ歌通宗本ニ 」之忠仁公者貞觀十四年八月二日薨、此親王者同 河原之號自是始數 五月五日薨、可、付,被集,歟、將可、依,古今,歟 Ė ハ深草帝御葬之夜詠,此歌,云 不審多歟、 乙號自是始敏、山科三四宮御坐スル故也 付レ之(科宮」品彈正尹左中將號山山科宮、法名法性 山科四(頭書)良宗案人康親王ハ仁明皇子也四山科四 與二古 僧 Ŧî. Œ 一月入道 今, 叉相違、 勝 延詠 昭宣公薨時、 也、目 入滅、不」可,相違,敏、但 同十 四 凡諸 入滅了、 一錄同 五月 シ之、 勝延詠之條無: 家集者、 僧正遍照詠 々、深草山之詞雖二 相違歟、僧都者  $\mathcal{H}$ 而昭宣公者寬 日 多後 薨年 付」之案 也 這遍照集 四 者 寛 宗 院 延 職 平 號 御 叉 + 此 年 宫

撰, 歟然者可、付二古今說 顾置裏書云素性 直事素性集 々古今ト家集ト モ傅 = ガ血 -E V 仁康 事躬 1. 相 涙歌古今ニ 違可 親 シ = 敝 Ŧ 1. 取テ >付三何說 ヲオ ケ ナ サメ ハ忠仁公葬時詠 ハ定集ハ多後 ク 見侍 タテ リ非1自 7 ッ

歟

藤原敏行朝臣ノミマカリニケルトキニョ

六

テ 7 X æ = 3 = 工 テ ハ T 子 カ 1) テ 1 ケ 才 Æ n 3 工 ケ ツ 1) 力 オ ر د ر 3/ 示 カ ケ ス w ١, ヤク 1-" Æ 7 1 1) 3 3

ソ子

蔣 ケ ウ テ ツ E 處 219 3 夢 1 ナ ユ म्ब ナ 1) 1 一放 二 イ ユ ヌ X フ 佛 ŀ =6 說 ウ 崇 云ナ 為上生 ツ ナ 1) 1) 死 唯 E 不 ウ 長 部 寢 夜 ツ 論 セ 3 一之心也 文云、 :: テ 3 未 7 =3 1 1 流 カ フ

経 チ ŀ = ソ チ 17 ナ æ 13 カ ケ ツ オ æ 12 w 7 Ŀ ろ ŀ ٧٠ ~3 ر ر 7 IJ テ Ł 3 8 ヌ ŀ N ナ 汉 峯 1 1% ~

哽 殺 ケ ナ 御 藤 長 p 1] H 1 ヲ ゥ 是 1 服 ゾ 服 卿 ŀ ~/ ナ ナバ テ テ 3 フ ŀ 云 + ŀ 織 12 1 フト w チ ク IJ ナガ ップ 丰 12 絡 布 衣 V H 束 ッ 汉 111 イ シ 1 1 ゾ 淵 沂 ラ X カ 11 服力 10 シ 7 ス to 2 iv 糸 テ =/ X ラ ヺ 12 2 共 テ 服 RE ザ ソ 1 7 イ 後 デ 3 ナ 义 1. w フ ス 1 西 沂 义 ク ٧,  $\supset$ ナ 1) ナ ナ 申 ŀ 10 ヌ 私 1] 3 ナガ × ナ 7 3 nL 七 ン 12 ナ 1) ス 云 ガ 17 帝 7 才 ٦, = 丰 ヲ カ 1. オ イ = V 1 3 ツ 3 11 77 ヲ T ナ U ケ 12 iv V 12 丰 是 1) 玉 H 1E 1% ス IV

\_

'n

ナ

1)

級

1

セ

3

义

12

1-

イ

フ

カ

ラ

ズ

藤

衣

椎とへ 衣 X w ナ 事 1) 鈍ラヤ 1 叉 + ソ カ = 1 ウイ 5 IJ 3 ŀ " 丰 ス w カ 3/ 3 グ ٢ Æ 力 7 服 iv ン Æ E Æ 12 ŀ X = 1 ŀ 3 ٠, 丰 \_\_ E 3/ 3 雲 サ 战 チ -E 1 ナ ナ ナ ケ 丰 ソ ラ 麻 1 シ V w テ 1.  $\bot$ 7-工 テ 70 1 ŀ E ナ ^ 麻 計 1) E 1. ナ 有 リ又 此 3 E 後拾遺 1) 7 X 您 Ξ3 -E メリソ リマース スミ 服 -E - 1 ン : 1 10 X ١٠ 111 3 7. 71 ソ iv

記り H ŀ 3 池 1 示 1 IJ 1 花 ヲ 3 テ 33 文 iv

黨

朝

[zi

カ 3 ケ ツ 1 オ オ E Æ ホ = 3/ 工 ツ w 力 ク ナ ١, ナ 1 1 17 サ + 71 = E + : 71 101

ウ H ツ 3 3 B IV 本 ラ 7 3 ナ ップ ヌ ッジ 1) 紀 1 t 7 L 催 テ イ ナ オ 7 馬 ラ -1 17 1) ÷E 四シ 樂 丰 1 =/ X オ 7 ッ 3/ 1 モ思久 3 'n IJ : 2, ヅ -7 2 ナ ツ 3 萬 ク ١ ر 3 ラ ツ ŀ 12 ウ 東 ツ 丰 2 3 t " ナ 哥依 ク イシ 12 ノテ 云 -4 工 IJ ナ 1 詞 7 フ ラ ヺ IJ 17 チ 当 -E-1-斗 ナ 次 -E 通 イ 7 7 木 フ 3 才四十 1----ナ 5 Æ 1 ン 73 3 iv 1% 1 7 ケ ッ 3 1 p iv ナ 7 " 3/ 1iv

フ カ 7 サ 1 3 力 1. オ 示 4 = # H 3 X

ス 3 ダ = > カ ケ カ ク シ テ 文 屋 12' 康 Ł 秀 ク

シク

サ

カ

w

ケ

フフ

ニカ

ヤキ

ハ

7

ラ

ヌ

歷國 鳥羽院母儀 轉輪院同廢務、東寺、贈皇太后英 陵\*教 E テ IJ 7 111 1 74 當 其 \*長 ٥, セ オ 云々を長 月 被一般之 時 H 王近 w + 月 一證號也、廢帝父也 H 帝母后 H 3/ 10 光 世 九 同 EV ヲ 3 フ 7 7 H V 國 æ カ ス 力 IJ 皇后 天 己 廿 日 ク 111 ١, 7 私 皇 贈 Ξ 正 ~3 ŀ サ 安子、 日 月 云 皇后茂子、法 ラ イ チ = 諸帝皇后 光 四 九 一月十七 ズ フ 力 3 • 音 月 H ク ヤ 母 一年被 カ 西寺 天皇 出 國 奏警 ガ 7 1.5 己島上東大后 月三 Ĵ 后 テ ウ 日 母后 東 日 遲 其 ハ 廢置 ナ ス 皇桓西武 勝 冷 寺 H 西延 後 ナ 1, ナ 泉 寺喜 等 自天 寺天 歌 1. 1) 朋 ÷ 合計製工 同 圓 白 國 = イ 力 天 = 月 融 世 太 國 忌 ク 阜 ]1[ フ ク + 七 忌 院 サ 兩 同 隨 = F V 也 H H 時福 帝 母 廿 深 フ 1 3 オ 皇仁東明 母 朱 中 忌 廢売 儀 五 草 カ 10 天崇 皇道 ハ + 后 H 雀 ナ 寺天 Æ

> イ 廿 P 3 メ æ 日 カ ヲ 7 w 3 カ æ w = 崩 ム曲 ラ ジ 昇 給 カ 3 3 霞 3 ス 3/ 7 力 1 ル V IJ 110 コ = ス サ超 7 = • IJ ス ケ p w æ = = ホ イ 3 3 せ 17 汉 テ 7 1 霞 w Æ 4 歟 ウ ツ メ X ラ ナ 1 工 E" ケ 工 1 7 ナ 4 丰 谷 ٤ 1

カ

ケ

ン

=

Ł

シ

+

カ IJ IJ 歌 敎 1 工 3/ 3/ 其 叉 11 ケ ŀ ヤ 長 > 2 ホ = 普 卿 V Æ カ 2 ウ E 2 = 3 3 ス 通 ŀ サ 3 = Ł シ ル = 云 花 V \_ 本 2/5 ŀ == ズ 1) 豁 = ٦ 私 11 サ = 71 1 本 = ハ オ ス イ 2 力 E = 工 K 舒 ŀ カ ~3 ボ = ズ 2 ~~ Ŀ ハ ハ 1 ダ 1) 本 ラ " 1 力 3/ 3/ 2 カ 7 シ カ P = 如 ŀ 子 力 ŀ 1. ナ 何 = ウ オ 1. = 3 = シ 丁濃 院 ナ = メ 工 = ゥ 1 サ ジ ス 御 T æ ノヽ w 工 • = ナ フ ス P 1) 本 ケ サ n = ガ t ウ ŀ 11 = 2 ズ 1. ヤ 1 示 ハ Ł 1 = = = 兩 テ 件 サ ~ 力 ン  $\Rightarrow$ 1 22 1. 籂 F ナ 1 = 丰 1 V 太 ~ 本 æ カ 1% フ ヲ 丰 IJ æ = ナ 案 ŀ = w フ V ヲ Æ ヲ 2 カ J.\* カ キ ` w 2 カ = = " ケ

カ ~~ カ 1] ラ テ ٤ 後 ダ 1] カ 家 オ 示 7 イ カ 7 ウ IJ テ チ 7 7 1) 3 1 ケ 3 w

顯昭古今集註卷十六

草

ヲ

3

x

IJ

カ

ス

=

1%

=

1

ハ

嘉

祥

年

月

IJ \_ ケ シ 12 北 7 ナデ 11 テ 1. Ξ7 イ ヌ コ u 7 +}--\> 7 ヲ ラ 9 工. " 丰 2

キ Æ 3 3 工 7 サ 7 テ ス w ケ ול フ ナ ŋ 汉 ~ = 3/ 7 示 カ ~ ) ウ ラ サ Ŀ ٠/ 7

陸 云 命」住之由 西 カ ۸ در 與鹽竈形、汲 々私云本號:東六條院、今八堂也隆國 方四町也 7 育 六條 1 ŀ 3 池 イへ ŋ 輔 = 二湛潮水 所注 毎月 ルハ今ノ 北 萬里小路 也 ニ鹽州斛ヲステ海底 大 三 云 臣 河 12 之後為二寬平 原 3 院 IJ ナ リ六條 東 11 卿注者作 法皇御所 ノ魚蟲 原 坊 門 3 17 3 ヲ 1)

日付二攝之尼前浦,相繼運也之云 田付二攝之尼前浦,相繼運也之云

於惡 來息以,此院、總為,侍臣,不,學,惡眼、况於,實躰、 」同二於昔年、舉動何 >境、年來尋 多院為:河 一申云、我在世之問 趣、一日之中三度受、苦、 心一乎、然重罪之身暴戾在、性、隨、無、意一於 左 大臣源 :風煙之幽趣、為:禪定之閑 原 大臣 朝臣之舊宅也、林泉卜、隣喧 有、煩...舊主、而大臣已靈忽託 一沒後諷 殺 生爲事、 二師文、紀在 因一昔日之受執 依:其業報 樓、時代已不 昌 作 一時之 云、 河

> 苦、修 毒睡、自 孫竹 害 企七ヶ其 七ケ寺一各 如何善、報奏云 於 餘 有 雖修 修 也 温 略 X 行 ..萬善、非..我之所得. 也云々、仍所 誦、遙聽。 扳苦之慈 一於向し人、冥 刺 心意也 答云 、罪根玉深妙 今為 吏搜求不 帅 Ili 修 **村是三無明之** YA. 得 ,拔、但於 合 八 馬 朋先 5 =

上皇法皇命二七寺,轉 始終如三下 年享年七十二 良 十八 宗案贈 記、配 源 一些 氏、 Æ. 一位左 醐天皇延 長四 後其靈託二宮人 為二楊梅 經薦之云 大臣源 大納 融 言定卿 4 號一河 七月初四日 |陳||苦趣| 拔濟 弟 原院、嵯 、寬小七

不了可 御 子、何漫出,此言 車疊一假為。御 御河原院 江 有一阵龍一人開、戶出來、法皇命、問給 .賜.,御休所、法皇答曰汝在生之時為.,臣下、我 腰、御休所欲 談 々」差二 云資 レ及」達、牛 一种卿 御車一个文乘 觀 三覽山 座、與一御休所一被、行一房內之術 E 二年死、 童颇近 、寬平法皇與三京極 ,哉、早可,退歸,者、靈物忽抱 川形勢、入、夜月明、分 三御休 侍後 御前駈等皆候:中門外、御 息、颜色無、色不、能 二御牛、召 御 休 對云融候、 所 下被レ H 同 分 1. い社 11 順 1 2

立 、介...扶抱乘,之還 御 召 海 打物跡、 藏 大 法 守護 Řþ 介 神 令:追入 加 持 之

押覆,也云 後蘇生云々、 12 叉件戶面 有二

國置法皇人 4 7 N ŀ 召 ケ V 1. ŧ 前 駈 遠 シ テ 不聞

週 示 牛童近候于聞」之召」人云 细

讀

人

不

ナ 3 丰 ク Ŀ ŀ ŀ ッ > ャ ケ ŀ = 2 力 3 示 ŀ ` 丰 ス 力 ケ テ 子 归 =

ナ テ IJ ガ = モーシテ 人ノウ ク テ カ 子 卿 ~3 V 3 ` = 云 セ ŋ ひ 18 > ス テ 3 ホ シ 15 P カ ワ ナ ゥ ŀ ナ デ 1) ~ タ ク 4 ス • = ラ 私云 13 V 1 = + 工 告 ナ ヲ シ ズ ス ラ ナ 2 サ ホ ٨ ヲ 3 丰 ŀ 7 ŀ ŀ 1 11 ツ t ` ŀ 3 3 ラ 1 + メ 1 3 ホ 2, ^ 7 フ ス -1) 7 ホ ヲ カ ŀ , , ŀ イ ギ 3 18 カ 鳥 ` シ ス ヶ フ 丰 IJ デ > テ サ ŀ ス 伊 7 ナ ラ 1 ハ 勢 ク フ t 18 = = 歌 力 = Ł = • 7 t 3 ŀ п

三日

눛 帳 1) -7 部 カ ケ 卿 ŋ w 力 タ ) ヲ ٢ 3 ケ 1 ラ w 7 = 閑 110 1 1 院 ヲ ク キ = = æ 1 五 ナ フ カ 3 ク 1 テ 3 ヲ 3 女 工 7 = 1 = ٤ ッ 3 ス ス 3 3 ケ = ワ 7 ケ 3 13 1) w

> 15 121 ヲ ŀ 1) テ : V 13 2 カ シ テ = テ =

カ ス 默 ヲ 7 ナ 2 2. 7 -73 77 辛 ス ツ Z ケ ス ヌ IJ Æ 1 ケ 12 ラ

ヲ 天景位上長九年 月 古今目 7 正 |女王、天安元年十二月任||尚侍、貞觀元年 十月 廿||云嘉祥三年任||權典侍||云々、或云尚侍從三位廣 四 Ŧi. H 位 一品長田 ン To 叙 1 = Ė  $\Xi$ ...從四位 云(頭背)押紙云 九年正 六祖從 一月八 3 親王後也 3 日叙 上、齊衡元年正月八日叙,從三位上月九日 叙,從四位下、嘉祥三年四十 五位廣川王、父從五位 一從五位上、承和三年 《仲實作也 、天武天皇末孫 叙:從四位下、嘉祥三年四 ナ 閑 院 1 曾祖 t 女 7 五. 三月 1 一世從 宮譚廣 カ ス :

清 ŀ 僻 三敦慶 カ 뉇 = 朝臣云 一亮有餘 या Æ 打 目 女 錄 時 御 Æ 14 = 老後 云 敦慶 で親 等 廣 無品 寬 并王 王 7 婚姻 华 親 ヲ ٤ 皇女均了 延喜 イ カ ヲ 也 閑 頗 フ ナ 事 院 有 ハ 子內 딦 也 ヌ 疑 式 叉 ウ  $\overline{\mathcal{H}}$ 月 可 部 # 親 =1 ~ ン尋敷  $\mathcal{F}_{i}$ 卿 3 \_ 式 H 肚 ナ 11 = 薨 女 部 IJ 7 1 但 御 ŀ 1 卿 ŀ カ 或 藤 1 丰 イ 力 人云 原 ス ケ 3 フ 温 IJ IJ w = 今 此 極 仲 7

章 所 延 悲 ズ Ł 御 3 ク 3/ w 2. 3 F 此 76 1] カ E" ヲ 相 廣 シ 親 57 ŀ 2, = ス 7 ŀ -ツ ス 經 = 7 テ F ラ 中 ク 7 叶 井 ツ 3 シ シ オ  $\overline{fi}$ ス \_ 7 ス = ズ フ × 務 F 伊 IJ テ 1) = ケ 车 Ŧ ٧, 血 15 3 3 拾 幼 テ 7 3 ヲ 卿 務 7 w シ 伯 関 圳福 ワ = 遺 敦 月 関 中 ij 11 院 = = E 7 ~ オ 111 1% 女  $\exists$ ŀ 務 テ = īm ŀ 應 1) im 出 院 IJ ---3 U 1 1 3 愈 ر ر 親 家 カ ŀ 7 テ シ 此 敦 F 白 給 =6 \_ Ŧi. = 15 = 延喜 藏 ク ナ ŀ × Ŧ 集 オ \_\_\_ 3 ユ ١٠ イ 1 ŀ 15 慶 1 所 テ ジ A カ ヅ ۱ر 力 ナ 3 フ = フ 3 E w 北 親 ナ 藤 × ケ ケ 3/ ケ = 17 1) テ +} ~3 = 1 力 = E テ 年 原 テ カ 寬 12 ス ケ w 7 次 丰 哥 1) 1 Ŀ 國 事 定 テ 7 ツ ノト 閑 温 人 = 12 12 7 ツ 工 7 四 配 部 月 1 放 -) ツ オ ソ カ ウ 院 子 7 カ ^ +} -11-サ 御 1 111 ŀ オ 卿 2 æ ツ 1% E" 伊 ナ ŀ . > \ 太 大 歌 1] ケ シ 子 7 双 ボ 力 勢 八 2, Æ 后 萬 叉敦 同 3 臣 ゥ ッ 111 3 1) ケ 1V = H 也 7 其 宮 葉 法 ij \_ = 温 ۲2) 非 人 汉 カ ヌ w æ サ = 權 法 伊 女 集 1 カ ナ 1 IJ 皇 オ 云 雕 汉 70 經 V 勢 阜 家 大 任益 7 1 3 12 親 = E フコ カ E =3 28 1. 夫國 女 所 ス 御 務 崩 ナ 牛 1 3 IJ ١, = オ = ン 3 ナ 舟 カ ガ 7 後 11 ヲ 7

> 也 欽 天 天 廣 女 頭書 E 皇 皇 御 六 担 明 昭 ズ 井 E 天 女 江 又 1 日 1 眉 鬼 13 也 後宮朝 + 部 公 書 カ = īfii ケ 閑 関 餘 井 45 別川 云 IJ 院 少 共為,後宮 院 7 御 御 叉 714 (im 1 テ 111 女 院 子 1 1-原 イ イ ナー 子 女 3 = カ æ 也 内 æ フ = \_ ケ ン 1 Ti. 親 而 的 ~" 1 ス 7 w 15 敬達納為二皇后 王大 又敏達天皇推 7 丰 V ٤ ? 11 也 3 1 放 テ 昭 Ŀ 18 你 外 宅内 \_7 = ナ 老 THE 圃 ス 21 1. YE. 1 後 710 程 公 1 也 イ 父 親王 グ 又 党 7 徽 婚 付 -Va sandi Sandija V 13 4 fi フ 子-加 1 11. 1% テ 北京 1 云 共 天皇 [列 1/2 7 閑 rit. 次 10 1] 12 第 御 iv 人 他 和 215 階 145 1 フコ -11/3 111 武 共 城 ナ 11: Tis 11: -[] 1 1 自

۱۷

ス F

王 皇納之為如、授 依 抑 ツ 於 叉允恭天 古今所 ヲ 伊 敷 べ桓 ス 與一云 異一十 カ 武 ~ 皇 :書載 | 親王名字書樣不同 h 12 E 12 女也嵯 有三内 子 書 叉高 木 w 二三品一云 梨輕 如 爾 711 毗 盖 何古今作 內 為 皇子 親 親 妃 E 則 12 12 如i 相 者高 妹 輕 īlii 相 好 也 大 如 敦 Ti 云 津 娘 何 如 長 女 12 也 何 卵 11 11/1 途 B illi 云 云 大同い之 移 鄉 高 MY: 12 通 大 1% 邊 ,此段 親 娘 カ 天 但

ŀ

カ

ケ

17

同

人

林 院 1 = = 仁壽元年明 出第 家七

中 部 務 卿 7 3 = 二皇子 3 ラ考バ不 m式部卿.在丁、敦慶親. 敦審、 親但王或 一延長八年薨 數人

貞 辰\* 3 --年清 -三年為 延長 親年 七年 王賜

貞

3 3

**=** 

源仁

氏和 務

- 寛平

1

生

貞 保 : 7 部清 卿和 **源、南宮** 式 延長二 年六 月薨

喬 3 小文 小野ノ宮子 卿明 是子、式像宮子、式 貞 觀 + 四 年 出 家

本

康

3

=

部仁

延長元年

+

一月薨

歌 タ 1] カ ウ ス ガ 3 ズ 七 ŀ シ A E = 7 \_ 1 ス 18 彩 敎 チ 長 霞 り 聊 1 力 レ イ 云 フ 力 ソ 3/ ズ F 7 心 力 テ ナ ス 12 3 7) ~ 1 ス シ  $\Xi$ V 漕 70 ズ

サ Æ 1) 朝 カ Ŀ V 臣 3/ 12 オ ズ Æ 云 ŀ = カ 3 ŀ ズ ス X ~ 6 ヲ 12 ŀ ッ E カ ク 思 ス ス = フ = ŀ 義 ラ 1. ズ , 也 4 1% ヲ Ŀ = 1" シ 、志ル ナ 7 E 11 7 F ザ カ X イ 3/ ス フ 1 J 17 1) ホ 2, = F " 11 F オ ナ 7 カ

ッ

ク

テ

フ

7

ラ

メ

7

ラ

ス

7

力

ŀ

7

ナ

IJ

15

1)

1

テ

 $\exists$ 半

ス ス 1

オ 15

Æ

ザ

1] ナ

15 丰

17

1

D p

5

F ŀ フ

X 1)

12

ナ

ラ 15

> ス 丰

> ガ =

٤

 $\Rightarrow$ 

サ

3

3

ヌ =

顯

昭

古

今

集

註

卷

-

3.

IJ 17 聞義也 ŀ 或 人云 ŀ カ 私考萬葉云 ズ 力 カ V ス ス 1. -1. オ V 云 E 事 カ 也 E ヌ 人 云 12

未

7

イ ヲ ŀ  $\Rightarrow$ シ 1 ク シ = Æ 7 7 7 力 ٧, IJ 7 ケ ス ラ w 7 ヌ = ヲ

カ t 7 6 ヲ シ テ イ 1  $\exists$ ク ナ

IJ

2

ナ

3 3 ヲ 7 ラ 3 7 力 1) ケ

ケ 12 ŀ 丰 3 3 3/ w ラ

ズ

き

2 = キ J. 7 3 タ ン カ = ナ 丰 シ カ テ 丰 7 カ w • グ ダ 7 3 7 IJ Æ ハ 7 ナ 午 ガ ス 1 7 7 = 3

ナ  $\Rightarrow$ 1) 了 7 7 ガ 1% = 丰 77 1 73 デ 3 7 2 ナ カ IJ iv >

1

Ł

中观 カ ٤ ク > 7 Ł シ 1) ハ ~ 1) ケ 12 人 ŀ

ラ カ ノヽ = 4 7 1 ラ " \vec{v}^n Ł 7 7 カ 3 リ テ ケ 12 1 7 7 3 チ ŀ ナ ナ カ IJ = テ = 3

3 3 デ 京 = Æ テ 7 力 IJ テ =

3

70

バ

シ

1

~

٧.

カ

+

IJ

ソ x =1 7 1 工 イ 丰 Ł テ カ Ł Ł チ ŀ F = " ソ ゲ オ Æ ケ と w ゥ コ

3 ユ チ 丰 カ 3 Ł デ 七 1-ス 1] 工 丰 カ 3 3 チ ナ 1)

ソ

v

ヲ

甲

斐

本云 文治元年 重 陽 -差聲 月 四 日 注 進之

建 人二年 八 八月十 日 奉 授 禪 定 大 王了

弘安五年二月十九日

按了

顯 昭

侍 從雅 有

> 顯 昭  $i^{\dagger}i$ 今集 註卷第十

雜 J:

顯

昭

題 不

力 ワ 1 -}1 ゥ 3/ ^ ツ 路 知 2 カ ソ ヲ ク ナ iv 7 ~va 1 フョ ١٠ 1. ワ THE REAL PROPERTY. 7 人不 N 知 フ -5-

1

ロ詞 ]. 17 シカ 3 2. 33 7 思 カ : 力 シ + シ Ł 3 ~ クノチ カ ナ チ 13 イ = モノノト テ ク IJ 5 チル IV 河 才 77 プルトスカイ 1.1 テ 萬 ]. 1-١٠ カ ク --シ > ワ -7 3 熊 スミ 京 クフ 1% イスキ 1% +} フェ 歌 ラ 或 ナチ " 7 12 iv -70 7: = \$ ドインフ 云 ワヒス今 [17] 船 ]. イ 才 子 ٠, ワ 村 ハワア 别 ]-ノカ 1) æ 73 ŀ  $\supset$ 叉 物 ]. 1" + 1 ٠, コッタトリ か 清 : 3 -1: 111 X オ イ 7 -,0 夕 didi 7 7 1 レ ノカ 伦 朝 トハイタカレ -}] 1 ۲ n チ = + [ii 歌 ツ オ 15 " 1 7 iv カ =6 1) 4 2 1 ハ IJ フ 73 = クテ 牛 ノヤ 東 棩 云 シ ツ 15 æ 1) = 3 th 111 12 5 1 此心 1% 勢物 : 3 围 Æ ----= ケ =1 テヤ 111 +)-チ ス 111 11 イ ŀ シ 7 Ŀ ナ 12 - 12 d' ori 舟沿 Z

4 ガ 自 ŀ 集 袖 70 業平 IJ 以..便 个案 歌 宜 也 -然 書交者也 ス = 150 此 ワ 歌 Ŀ" æ ス 不い可い 業 ) 歌 45 = 為 歟 如 證 但 二後 件 飲 撰 物 並業 語 不

丰 オ E Æ 7 ŀ -ソ チ 7 7 ŀ 1) 15 丰 七 w w 3 カ ラ シ キ 汉 • م. آ 7 ヲ シ

7 ゥ 詞 ス 考 テ 7 カ オ V テ ラ 春 13 オ æ 丰 ヲ 1 = -Æ フ il. イ ヲ シ 毛 フ ١,٠ =/ 云 ナ 丰 ١,٠ ٧, 3 チ ク 行 = ス チ ٠, 7 ス メ 錦 3 ` 1 才 IJ チ 雖 ヲ ッ Æ 7 Ħ ゥ 7 微 ク メ フ ` 1. キ ŀ ヲ IJ 7 丰 猶 3 ン シ オ シ 難學 F キ ナ 力 æ 7 ラ = ŀ 7 IJ イ 人 = 萬 ij 製 清 F U 薬 丰 18 1. 車前 Æ シ = 71 ,w 朝 1% ィ ŀ 1 2 ナ 臣云 思 æ イ H ŋ 共 ŀ 1) フ X 圓 此 ナ 1 == ŀ IJ ス 113 3 居 ij カ ケ 歟 也 此 丰

カ 又 教長 物 # サ キ w ň IJ シ 7 = 也 卿 ナ ŀ オ } ソ 私 有 キ イ ホ 7 云 5 굸 カ E æ 萬 " 3 w ソ 1 葉 デ ヲ ヲ カ ユ ス ス -ツ = 15 X モ ケ ッ ン • 領 デ \_\_ ク ~ ŀ 1 1 ン = 7 ヲ カ ク ッ ハ 寬 タカ w 丰 ŀ • テ ナ = ハ 才 2 ナ IJ 工 フ タ ス ナ Ŀ ŀ 21 ナ ŀ ケ IJ = U ク 丰 ŀ ク ン V オ -j 3/ 3 18 ゥ ゥ X タ æ 示 7 IJ 卡 7 V V カ ナ 七 シ シ

> 敎 サ 1年世日 3 ٤ テ ヲ AUE. ナ ガ 長 イ税窮 ス IJ 7 = 卿 ソ 扣 F メ • 云 1110 力 ٤ 3 = 力 3 ナ テ 涯 ヲ フ + ナ w ٤ æ 也 IV 1) IJ Æ ر ر 7 メ ハ ナ 私 ~3 ŋ デ ナ 3 # ス ラ ヌ 云 4 ハ ٠٠ ナ X ~3 丰 カ イ X ١, 此 3/ = +" ッ デ 3 集 カ IJ ŀ ダ ナ ÷ メ = 1 + 牛 1) 丰 7 ワ w Æ 1 カ 3/ ~ ハ 力 イ \* # ズ æ カ フ ラ 1) 7 ŀ • ナ ヹ゚ キ 力 力 7 キ ŋ キ ズ • ナ オ 1 3 カ IV æ IJĬ キ + キ

ラ 三番 t サ 春 カ 部 1. 此 キ キ 1 カ 3 歌 = キ ٤ E 賀 サ后ナ 7 1 部 æ キ 1) w 1 力 ŀ 也 = イ ŀ 工 Æ 花 3 ラ ヲ 1] 1 \_ 献 2 ヌ サ IJ ク ٠, テ サ シ イ カ +  $\exists$ ナ = 1 iv 給 才 事 サ ホ IJ イ = 3 ケ カ 7 ナ w ウ カ = チ

ラム

7

レ

1

ソ

3

w

敎 ヺ゙ ラ Ŀ 2 æ w 長 ラ ラ ŀ 7 7 1 卿 サ Æ 7 ユ = 丰 云 1 V V ハ ヅ 1 1 ŀ ユ ŀ オ Ł 3 紫 オ オ 1 IJ = 毛 テ ·E Æ 7 ŀ t: ٠, 武 ス 7 ŀ 1 2 3 藏 サ 1) 1 1 X  $\exists$ 鲆 X N 事頭 イ 工 シ ガハイカットキ 顕書)裏書云紫 フ IJ = 才 ナ = 孤 ` w IJ 昭 3 木 ٤ 4 或 カ ナ 굸 U T 物 ١, ッ w 2, 丰 1 ラ ク 云 E = ユ本只グ ク サ 4 サ ラ サ ナ 丰 1 此 Æ 歌カフ サ IJ 1 3 ~ æ + 3 ナ IJ ソ Ł 41 ナ ラエ ŀ ガ ケ

顯昭古今集註卷十七

モナリサ 5 テ = 力 ツ Ł ア嵯 トが事キ ナ フ 2 Æ カ 1  $\Rightarrow$ 川戦 ・チ チヒ + ッ ナ ゙゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚ ŋ 2 Æ ソ 7 1 2 = 1 池 サ ラ ケ 3/ 1 ハ リッ ŀ 7 1 點 デか 菊 ハノ オ IJ 3/ 3/ T フ 7 デカ紫ユ 此 ŀ 皆 1 ソ ヲ \* 1 Æ アヒ 歌 ウ ナ Æ 1  $\exists$ ar. 3 ヌ ヒニ リヤ 7 7 ク 下他 1 ガ w 3 = メガ iv E æ モノ ヲ ラ 本 子 2, サ Æ 2 ベチ 下草 -1 æ プ 1 -17 扎 ) = 110 Æ 故屯 此 3 チ 叶 テ -C 力 4 シ 7 ^ = 下兴 IJ 1. ハナ テ ]. 21 フ 歌 集 カ 2 ク イカ 6 ク ~3 ini IJ サ ケ 第 3 I オ ナ 1 w サ ŋ 7 心 3/ 3 ズ ナト Æ ナ 力 w +} ケ ヲ 1 Æ ラ譜 æ  $\overline{H}$ 6 ハナ 文 ラ オ ナ ナ =/ iv 20 æ 哥於 3 シル 字 ラ ク 7 ٢ æ 1) ナ 1 タベ ŀ キ 7 +)-サ カ 1-1. 1. ^ ノト æ ルシ =3 云 IV ナサ 略 丰 2, 3/ E ハ 3 ヲ ルテ ウ 秋 ラ IJ ダ 3/ \_ = ŀ IJ ベ此 -1)-IN 1% カ 3 才 オ ッ 7 イ シ歌 IJ キ澤大 U せ to 示 ボ アョ

1) イ ケ П IV = キ 1 7 X -E IV 1 27 ナ w ク 4 サ 丰

ソムワラ

カサ

v

サ

手

1

丰

ヌ

7

ク

w

ŀ

丰

=3

=

テ

7

1)

ケ

w

敎 + カ 妻 ヌ 卿 ッ 1 オ カ 云 ŀ 詞 ウ 3/ = X b 5 7 12 义等 7 111 歌 3 \_ 13 3/ in 1% P ラ 1) ヲ +} ケ E ラ \* w A ŀ 1 3 カ 許 ケ 77 IV = ^ ウ. 丰 ٠, 業 ŀ 4 牛

71 ケ 7/ ŀ 1) 业 ク iv 7 旨 M 7 ルドバ 位 7 1) ザ 1) 伊 メ ナ 1 1 ス = Ŀ ----2. iv ン 云 1. 65 テ セ Æ 3 1 1 ŀ 办 " Æ 1) 1 \_1 ナ メ 3 イ 1 THE. ナ ナ 物 テ 7 1 2 IJ " -7 IJ ルボ ノヽ 女 5 メ w 丰 12 カ ラ ッ 語 1 3/ iv 7 3 シ 木 1) =7 J' ۱۰ ٥, 紫 3 ス 7 カ メ メ 1% メ オ E t 辛 ٥, 111 Z 15 ナ・ +)-1) 丰 テ 力 ----12 1 1) メ 几 3 1-U 2, 7 Æ 11 监经 ナ 7 IJ -1 ナ 71 ラ ケ 位 デ = 3/ 137 :3 1 ブ テ 5 3 IV 丰 4 *-ز* サク 1% iv 111 w iv 7 7 デ 7 ウ 1% V 1) 才  $\exists$ メ ウェ イ D 5 70 か テ 胆 -73 ヅ 1-1 }. 1 5 12 10 15 イ 2, 1 Æ ^ ク サ 4 ナ 牛 12 + -/2 \_1 ナ ナ K 12 2 ナ w イ 1. 个 7 丰 テ シ キ =/ 7 12 ~ 1 ス 汉 2, 12 13 ノト 义 サ ケ 7 + 7 7. -17 女 iv 1 1 -1 又 = -2. ウ ナ ウェ 7 ]-.77 ラ 丰 7: 12 Z 才 ノト ٥, 1 -1 U 5 Tit. 7 1% 1. -7 IJ 5 -) 1 ナ ク U 13 2, サ -1} 200 71 ガ 15 7 - v 11 -7 2 17 -E 12 + 流 17 + + 12 1) 22 テ 1% Z ッ 21 -E 1) -+} テ 1/2 1) : 7.3 1 -10 Zn 汉 =/ :3 レ -E 1 神 =7 フコ 1-× ラ 2 ./. 10 1 1. 10 1 4-12 ッ -1)-11 1] 7 1) 1) 33 + 1) 2 :/: -E \_1\_ 1 惊 - 1 朝 1] + 丰 5 13 5 才 12 义

ナ 1 ۴ キ ノ 昭 1 丰 Ի ŋ ヌ 云 輿 清 ナ ヌ ィ jν 云 是 ヲ フ = 輔 K 歌 朝 11 t ハ æ 臣 w 力 2 4 2 ラ ŀ = 3 ナ ガ サ 義 + シ 7 = シ キ V = U ハ ヲ 1 11 ~ ッ 六位 カ in ク = 3 7 × ケ 2 ~ ラ w 1 12 シ U U 袍 伊 ナ ナ サ ナ 1 ナ 势 イ ŋ 丰 ル w ŋ 7 ~ 物 H ~ 四 ゥ w Ł 3/ 位 サ オ 1 詞伊 語已 参り物語 詞 ノ上詞伊 1 ゥ £ ポ ゥ + 1. 1 ゥ ユ カ

ツ

シ デ 3 ケ イ ケ w ィ y T 7 w = ソ Ľ カ 前 イ 3 ノト ٤ カ 1 ) ッ ナ = イ カ カ フ 2 ゥ F 7 プ ッ ス = IJ ŀ H ガ テ ス 3 = 3 t 7  $\Rightarrow$ ヅ 3 æ 布 テ 1) IJ 力 留 ツ ケ 今 力 べ 毛 道 7) セ 物

語

詞

=

K

ガ

1)

也

Ł ナ ٤ 71 Æ サ IJ # P ケ フ 1) シ ワ 4 子 イ ン 1 カ 11 フ IJ \_\_ シ サ ŀ

敘 ワ フ サ ス ケ iv 卿 ク 丰 テ 子 = サ 18 굸 並 ス ŀ ツ ŀ ŀ = 12 力 7 荜 E 木 タ ク カ ナ IJ 子 サ ナ 1 7 15 1 1. 7 子 1 ŀ 丰 云 オ カ 7 111 日 ٢ 3 ヌ В ホ 3/ ゲ 1) 7 2 光 X iv  $\exists$ V ŀ П 17 3 w 3 力 ŀ イ  $\exists$ P F = サ 15 ヲ = T フ シ ス ナ 1) ナ テ IJ

> 住 上 清 所名 皆以如、此私云人九堂事多以有..不 赤 輔 ŀ 3 者此 社 Ã 朝 1 æ 唯 姓 同 爲、姓歟大和 社 拜 祖 云 jν 事 也 殿許也神 春道社 今4八道る石 歟 在 前 一大和 上 委 布 浪 7 人等皆 リ列材ガ姓也石 有11柿本卜云所人丸堂 國 留 注 松 Щ 耐 1 邊 ろ 氏 詞 以 郡 A フ = 三布留 布 ッ歟 1 也 留 ソ )或浪 Щ 為 審 Ē 御 社 カ 椙 ハ 3 松南 姓 浪 中 卜松 - 但 凡 モカケリ 松 ナ 內 山邊 カ 2 但

٤ ゥ 二條 ケ シ ノ后 w ケ ٤ w ŀ 1 3 × 丰 7 ダ東宮ノミャス w = \* 水 1 ラ ) = ŀ. V ゥ = デ 業 п ス 1 平 7

屯 オ オ 亦 æ ۸, ラ 2 シ ヤ w ヲ ラ シ × 示 p 7 35 ケ フ = ソ ハ カ = 3 1 = 1

マ中伊 氏 縠 ゥ 神 ゥ w 卿 1. 力業 ラ 云 ツ ケ ゾ 1) 12 神 云 7 條 15 = Æ 1 n 才 IJ 后 シ P 12 兵 ウ ボ ダ 衞 條 藤 ヂ 3 7 72 氏 ッ カ X ク 丰 カ 3 ス = タ サ サ ラ 11 テ = 7 先 = 丰 2 オ V フ サ 1 ŀ 祖 7 1 ツ IJ ス ブ 3 ヲ シ イ ラ 3 思 ヌ 3 7 デ と ~ t iv テ ス ケ ナ 丰 ガ Ł ス 大 御 w ケ 15 1) 汉 原 7 オ IV 1)  $\Rightarrow$ 丰 昭 ス 野 w 17 ナ ツ 1 굸

從 車 1 -17 朝 本  $\pm$ 15 1) ク ク 也 = 7): Æ 4. 后 臣 大 ŀ サ 7 -}] =7 > ١ -> 崇 和 Mi 注 位 SE 41-圖 3 ラ カ 3 才 ナ 3 17 ^ • ۱۷ 業 物 ラ -旅 九 -F 九 ス 云 ヤ = Æ 3 7 -70 ŋ 云 ナ 10 1 25 原 H 普 3 ヹ b 月 ŀ Æ ٢ 1 =7 1 貞 觀 F 1) サ 前旬 25 朝 -11-1) 1 ." ヲ to 1) 3 4 云 ъ ヲ 宫 普 太 1% ソ 10 3 = チ 1 ソ 2 才 テ ~ 思 テ 后 密 高 红 ク -77 H -V 7: 7 -オ =6 Æ =3 出 入世年 テ 先 ヲ テ To 通 w Ш E 水" 3/ Ł ケ 3 崩 テ 道 大 -111 B " -}j 4 テ 中 年 才 3 副 サ 7 フ ノヽ E 7 原 炭 納 入 H 1) 17 ナ 六 云 7 オ 2, 2, ヌ ス 道 平产 + 12 -11-カ ケ 力 iv to ホ 毛 3 = IV 亡 シ ソ テ 長 六 叉 計 ナ テ ラ  $\exists i$ 3 ス ク 1 ŀ 12 ~ 21 ~ 良 云 ナ 大 年. 許 H 人 神 ラ ゥ 1) ズ ٤ -7 ~? 云 ŀ ツ 皇歷思 r i 後 111 原 野 先 カ JF ŀ = V 才 ---イ =>/ 12 ŋ 太事 13 禄 11 テ 궲 1) シ 女 Æ 2 5 光五條宮上條宮上 后 1 也 太 給 前 カ 7 1 7 ١٠ 7 ~ Ŀ 1 7 5 w 不。曹 貞 皇 御 世 本 思 1) 1) 1) 條宮 向 7 ケ 3 1) 太后 意 テ ラ +)-3/ テ 1. 2 大 ゾ ヒ 知シ コ オ 抑 八八成 トラ 7 力 ナ -丰 3 1 ン ズ V ポ 考 太后 原 女 **云ズ**フカ -叉 普 藤 12 年 カ チ ^ 18 1. 7 ス チ 1 帝 成 御 條 原 " 1% カ ラ 1) ラ 才 \_ 詞シ

> 四 珥 夫 人 八 H H 部 年 為 號二 jL 女 H 御 -11-1 1 御女 后 H 泸御 -1-542 一天 残り 年 -t-th 卅 八慶六 政五 之年 帝 之年 元 年 Ŧi. Ŧi. --兀 13  $\mp i$ . IF. 年 追一復 月 4E 丁 為 凹 景 11: 本 H 位 4 太 為 后 月 -11-太

疑 盖塞注 五 原 蔣祭 前 云寬 り條 原 後 野 家 平 ス 后 等 給 ガ 相 野 心體 問報 是若 鹽之 災書 構 ナ II ١ 弘、 清 矣 報山其所」斯賽通作 禄 乘車 昔 人 五 -11-北 V 和 iI. 献 Ŧi. Ti. 111 後 有 Ш 兩 芸 11 條 次第 天皇女御 條 和和 古 サ 為 E \*後 大 カ 后 后 原野 今 ク 歌 2 今日等已曾,在五中將出 生 云上 計 月 1, 為 於 カ 之山 八 行 件 此 髮 敷 品品 7 賽一宿 東門院 记僧神 主或 啓 塞冬 條后 歌 到 H 配 3/ 成 注 中宮 起 17 少的野 云 出 參二治 前 稿 12 大 條后 7 Ŧi. 刚 在 四一夏宗案...周禮...一夏宗案...周禮... 和 之時 哥 10 --條后 原 IIII 國 Hi 之事 后 歌 ス ン 如 w 里产 X 11 大 也 カ 1 用 云 の東 將 行 順 原 絡 12 m 3 為 -J-啓 H FF 思 E 皇系 THE ヌ 3 條 大上原東 此 例事大原 社 **今**案 嫁 Щ ナ 和 カ 少條 后 野門引院 條 4: 良 1) , 高 用 影 后 此 2. ---目 -7 TT. H Z 乘 后 大 后 大悲高 Hil 12

禊ナ 廿七 ニ大原 小鹽山 フ カ 力 ル(頭書)少將井八所 ス ŋ ŋ 111 年 ^ F\* 一法名素直 シ ヲ 日 + ッ 儿慶三年 验 不便云 中 = 炒 ス 3 ---國 一之條 1) ギ 月 F 祚 シ 将 ソ 栗 テ イ ケ -11-ソ = 年 非 入道四年十二月 H 如 1 フ P シ 1V 九  $\exists i$ . 又後拾遺云三條院 1 Ш 何 詞 也 テ 歲 137 H ス ア =1 名將井 真觀 沂 ヲ J. = 置 U 7 伊勢大 二太子 雪 來 付 ラ シ 二御骨 7 Λ テ + ヲ ヲ 1 十八 フ 如 7 シ Æ 輔 於水尾 御 間 此讀 IJ ヲ 3 Ш 7 年 四 存 年 ユ 1 t 3 ハ ノ H 丰 ~3 = モ 7 」此旨 3 |崩||圓 歟 ナ IJ Ш 歲 1 ì 御 月讓  $\Rightarrow$ ユ 叉不 或 天 ŋ ケ ス 3 -1. -付此大原 + 安二 キ大 ケ 2 ツ ,v エ 覺 位 號 ヲ - 見答 1 73 = 2, 御 モ 寺 -: 圓 P 大原 甞 车 = 3 今 3 七日 シ 清 會 覺 八 工 シ īfi 案 7 ケ 御 A ス

> ダ 7

> > 7

ツ

力 Ħ.

セ

ク

æ 7

1 ۲

カ ٤

3

٤

チ

フ

丰

ŀ メ

チ w

H

ヲ

1

メ

1

ス

カ

節

メ

ヲ

3

テ

3

良峰

貞

後 摼 伊 大原 云 古 勢 云 左 关 歌 裏書云 ۱ر 隱居 輔 大 付 歌 ラ 大原野 人住 ノ家ニ 如 混濫 此此 所也無:小鹽山 兩 シテ解事 テ 所混 也 1. 小 濫者可 鹽山 æ カ 3 X ウ 7 二分 大原,也小 1) ル ブ ナ 別 有 IJ こ之所 シ 1) 社 ハ 詠 鹽山 べき 調 IJ 松 ケ 此 此 ŀ

Fz.

原 ヲ 3 野 2 1 ヲ讀 t 此 7 左 111 1 大 コ 臣 7 ツ 小野宮 ラ 殿 -p 也藤氏 = ス 力 • 氏 V チ 神 ナ 3 V 11 力 大 ケ

第四 此 凝 リ是 ラトノーサビスモカラグマックモーニマーテラト無い見コト舉い補ヲ五變謂二之五節歌二云乎度綿耐 五 ラ シ ホ Æ 7 女!! イ 節 ナ 7 ر ر 7 舞者清二 ナ 五 八和 ツ 7 高唐神女 シ 幕彈 N ~3 何 7 ŀ = ヲ 1 歌 ヲ ŀ 7 清 7 論 ヲ = 琴有と " X 輔 一原天 ツ 談 ナ 1) 1 1 2 朝 一髮對應 IJ ŀ =6 ŀ メ 臣 1 N 與俄 サ 云 皇之所と イ 3 奥 云 也 F, X フ , 美 也 專 山曲 IJ ス 爾之間前 æ 抄 也 代  $\mathcal{H}$ 1 モ 製 = 此 節 初 , = ン 而 相 證 ハ第 歌 ヲ 1 = 舞獨 21 1 岫 傳 11 敗 力 大宵 新 之下 第 7 ラ 日 麻岐 甞 ナ 1 タ 句 3 皇 7 ŋ 四 會 3 = 7 雲氣 五 底 御 1 7 1 1 ハ ノ、 阵 旬 平 天 1 メ ジ イ イ 女 フ フ 力 コ 7 如 y 野 オ 也 綿 ガ = 3

寬平 御 His = ウ ) サ ラ ٢ = ~3 1) ケ w

w

ツ

3

テ

シ侍トハ元服ナリ(頭書)コドモカブリ

貫

之

才

ホ

1

ラ

t

7

虅 デ = V E ヲ テ 丰 A 15 1 7 カ 1.0 1 1 = ラ æ æ 1 ٦, 人 IJ 7 ナコ u æ 7 ラ 丰 ウ 丰 ナ テ æ と 丰 サ カ +)-テ イ  $\exists$ 1 \_ ナ カ エ 1 ۱۰ ヲ 2 ズ 3 = ク 7 ナ 7 ダ to 1) 1) 1) オ テ 1 17 ケ 7 御 ~ ŋ w ケ ツ 力 ケ 1-1) ダ 12 イ E ケ = ٤ ツ チ オ V ケ カ 3 18 水

ケ オ -2 キ ス = V イ 1 テ = \_ カ ケ X 1] P 1 ッ ラ = ユ w 丰 敏 1 行 ン 1 朝 ナ 臣 3 7

ス

ラ祭教 云 1 ケ 酒 イ 也 メレ 催 1) デ 長 イ 7 ラ 1 \_ 而 內 30 馬 モフ レ ~ 70 卿 7 メレト 萬 樂 -藏 1 2, 3 云 オ A ス ラ Æ 1. = 葉 示 眉 ~3 八 1, メ ス 1 1 = 7 ; 人 \_ 戶 æ ン 7 15 リ又説 丰 ワ ス 1 ナ オ = 自 P ラ テ ホ 才 1) 才 女 イ 丰 与リ 3 ٢ ~ T = 示 1% 后宫 丰 ケ ツ シ Z 3 歌 ハコ -7 チ 1 17 IJ 牛 -7 ハ = ユ 1 オ ゥ 后宮 = ŀ ケ 1 ŀ カ w 才 ホ -6 イ シ 1 33 1 サ 示 3 7 ---7 ウ 殿 丰 ブ ~" IJ ٠ د ケ ٠, 7 チ 癜 造 御 サ w ワ ヲ -v £ 酒 也 カ ナ ^ ゥ 1 イ ナ 3 世 1] IJ 7 カ 1% フ 급 ツ サ催 題 丰 女 7 カ デ メ H -7 昭 搬 ユ ŀ ヲ 12 IJ イ ス 八八馬 酒 考 ラ 1 A 1) サ \_\_ V

丰

7

工

=

ツ

ヺ゚

ナ

3

又

人 中

死 ヲ

= =

ケ

1) 3

ン w

1

ツ

フジ

ナ

丰

١ د

酒

7

1

× 人

1)

抗 拉

酒 11 ケ IJ サ 2, = ~ Æ 1 Æ ヲ カ ヲ 7 テ ナ 1] ツ 3 P 3 ٠٠ カ Z 1 テ + 13 ラ IJ IJ 木 ---V メ フ 丰 18 カ 3 ŀ テ 7 テ 7 酒 ス 1 1] 丰 ン -1) カ 3 ٠, 3 1 2. 1. 2 カ 1/3. 1. 7 或 ナ 中 テ 自 御 ? 2 1 U ウ テ = ダ 書 史 = ユ -1-10 ウ 也 卡 7四 1 3 ." ٤ E 丰 7 1) E 1 7 1. 丰 3 ۱۰ 3 ク ユ 3 カ ヲキ ŀ 或 1) 21 フ ١, ツ = 1-カ = 丰 バ ク = 人云 白 ケ 1. 10 1 3 丰 酒 丰 E カ ツ  $\rightrightarrows$ 人 \_\_\_\_ w ケ 10 3 丰 5 テ 也 メ ワ 1 1 = -71 ル メ 黒キ 7 7 7 = サ ダ IJ 又 3 V ナ 1--リ、 w ガ ケ Ŀ 1. 3 U 3 R ŋ 叉ミ -6 云 = 7 是 ヲ ブ 1 IJ 3 丰 IJ ٤ ツ = ソ、又 不 テ 7 丰 11 御 ツ 歌 シ フ ァ シ ヲ .... 义 ケ ワサ ٤ ナ 111 サ U ラ テ 丰 酒 × ケ U -7 リ 11 木 86 ŋ 2, ケ 1. 7 2, 丰 ツ E 7 13 17 カ 5 ン 赤がき 7 = ク ヺ 1. ナ [1] イ ~ ウ 1 チ ۲ ソ ヲ ナ 3 ۱۷ 丰 フ 丹-サ U =E 1. 7 E æ ケ 木 牛 18 イ IJ 7 ---ケ イ X = ) E フョ E テ 丰 フ テ ヤ Mi サゴ御 7/5 3 ヲ ٤ 17 シ サ ケ X ダ 說 111 フ ŀ 1 -V ン \_\_ 丰 = => IJ ケ 酒 17 IJ フョ 3 イ 1% 2. IJ nill! b b + + サ F

ヲフ 人トイ = 食ヲ v セ シ 博 ブ リ酒 物 F ダ 志 IJ イ ۲ 死 ŀ ナラ キリ三寸フ ィ 空腹 フ ハシ , = ナ テ リ = セグ 王爾 = シ 丰 カ r 張 ŀ N イフ事 衡 = ٧, 馬 ィ 酒 均 フ ハ 霧二 ŀ h ナ ス イ Ξ フ 寸 IJ

死無」善者飲」酒病者食死者空腹又帝王 爾置良宗案::太平 衛馬均者昔俱胃ン霧行 御覽第 十五,引,博 一人無い恙 物 世紀 人病 志一曰 H 凡 Ŧ

ド今案ニ

ャ

١ر

ケ

或人云ミキ カ ナ イ フ イ 1 リコノ三 ゥ フ セ フ ッナ ガ 重霧三日 = ゥ 義 ス チ ヲ ブ ナ ナ 1 ŋ ユ ۴ 人 ツニ 或 テ iv = 7 7 必大 ガ ゥ 人 ガ リト 7 1) Æ , 云 w V ヌ ス = 丰 u 爾 此 イ ス = ŀ ŋ イ ジ ユ べ 々未 風 ŀ フ iv ) 7 ソ ~3 俗 證 7 Æ サ 7 世 丰 テ ク レ降霧不」可言行 7 = 1 中 = ヲ略 サ 1. 俗 iv カ Ŀ IJ 7 コ 云 3 カ IV ク 1 ナ 酒 = = シテ ナ ナ ヌ ナ ッ カ 力 ~3 7 7 丰 IJ ウ ラ 1) シ 1 = 7 7  $\equiv$ ダ サ テ三人 サ ミキ 7 ギ X ス ズ 木 ケ ゲ メ ŀ v 2 w = ]. サ ) F ユ V Æ ) 一寸三霧 丰 ) X カ ガ ソ 此 ナ ィ X ŋ 3 丰 ル v È æ ヲ 丰 IJ フ 丰 ١, ハ ナ 扣 ナ ナ 7 ŋ ŀ -٢

> 「タマ 小簣

タレ

ス

ホ

シ イ

٢

ř

IJ

丰

ラ

=

w

サ t :

2,

ソヘ

イ

4

オ 7 3

ŧ

۲ メ

ヲ」萬葉ニ

垂

ジノ垂簾 クハ

ヲ

ト」ヨ テ 7 7

メ V

リ垂簾ヲ 7

11

スダレ

7

3 玉

ツ叉 シ

又云「タ

タレ

)

111

1

7

3 シ

ŋ

フ

ク Ŧ

カ

セ

ン

7

ラ

キ

ダ

ダ

v

7

ス

 $\Rightarrow$ 

٢

ŀ

オ

7

フ シ

イ

IJ フ

叉

模

國

=

ナキ ŀ

ユ

ッ 相

ク

3 7

カ ~

æ

ン

ヲ

18 ス

コ

H

7

リ

ソ

2

3

IJ

ラ

イ

٤

ン ユ

メ 12

ダ ギ

12

=

ヤ

オ 1 ユ

ホ 1 iv

7 フ ギ w X

ラ 1 ŀ

ギ

Ŧ 1) オ フ ヲ 1 ŀ フ 1 私云此 玉 サ ツ 力 1 7 ヌ 7 7 12 ダ 1) IJ キ ケ F IJ ル フ 歌或 X ス ツ ŀ IJ ス 叉 Æ コ ラ 7 ス V 7 サ 王 ノヤウニミユルガアルニョリテ玉垂下円書)茶碗り短ノ上ニ塗タル物ノ垂下干 本 ヌ ス ヹ 王 力 Z フ + ズ ス ス • ナ = ス ハ 1 N ズ ダ ス 3 ナ ウ 丰 ケ ヲ IJ ス ヲ カ ŀ Æ Z 3 11 1 IJ イ 7 イ イ F = バ 後 \_ ス 3 7 フ P 7 ス 水 ゥ 撰 X )V ス サ IJ IJ Z 7 テ或 ス ヲ ダ IV 瓶 V 云 ス シ ス ヲ サ レ 15 7 ヲ 丰 1 ヅ ガ バ Æ 18 ハ 7 7 簣 ナ = ズ 1 ク 1 ス ダ カ v フ ) V = ŀ 3 ス 同 イ 3 1 ŀ ツ IJ = ヲ ŋ ス IL イ E フ ス ワ イ ٤ ナ ソ 叉 ŀ キ フ ダ イ イ 力 テ ŋ 13 テ

昭 古 今 集 註 卷 七

1 E 4 ツ æ ク 1] フ ナ 15 ŀ F' 子 イ フ イ 3 所 フ = 子 --].  $\exists$ 1) п イ テ ナ フ :6 1) ツ 1] 丰 7 デ 18 3 才 子 ホ ヲ 7 ラ ツ ク 丰 11 1 ÷-イ

= 7 テ カ  $\exists$ 損 ッ ` 不 丰 п 7 ナ 纽 ク 3 テ サ メ カ 子 ッツ サ ラ 3/ ナ =7 p 3 A ヲ ۱ر 3 ラ ス テ ズ to ~~

ヨ対ナ 大 Æ X 7 ナ Ŧ 3 = 111 18 3 カ X 2 ス 和 七 = 12 7 才赞言 テ 物 Ŀ 10 イ 七 2 = ヲ 7 F キ ŀ t 5 3 Æ 1 ~~ 5 テ ŀ 1. オ カ IJ ) IJ 云 N = ゴギリ 丰 2 イ  $\exists$ 才 水 七 ス ク 15 3 ダ 1 H U カ 18 -> ク 17 ワ 丰 3/ セ V iv せ = テ 7 辛 メ ガ オ 15 ナフ 1 -サ更 5 フ 1] 1 7 2 ツ 耳 ク 丰 D ラ テ テ カ +)-子 Ξ3 ---カ バ オ 少班 テ 才 丰 フ 1 1] イ シ -)j 1: 7 1% タ 1 + 7 70 ナ th -\> V ` 7 00 Ŀ メ 7 ク テ Ł 1 ` ^ テ ス デ = \_ 1 7 3 \_1 ン 1 イ +}-テ テ + テ 1 ٤ フ 3/ E ---シ版 テ 1 ス ナ 丰 IJ 7" + = か 1 テ X ラ 1 ツ 7 ヌ 3 V = ~ ٤ 7 1) ケ ズ 3 オ ŀ 12 11 П 2, ヲ自ニ 1. テ }-ナ 1) 7 7 } R ヲ 1 ノマロ 才 オ = ツ = 3 = D = オなノ 1 オ カ 子 7 Æ =3

> ラ V

3/

云

12 1)

3

=

テ

ナ

2.

-v

ス ナ

1 ク

キ

テ

2 73

73 -j-

カ

15

3

ス

ケ

w

7

カ

 $\exists$ 

6

17

サ

メ

ッ

-1)-

3

テ ナ

---

5

1) ŀ

ソ

V

3

IJ

·5-

ナ

2,

ヲ

15

ス

テ

70

イ

12

サ

メ

1

干

1.

7

1

\_1

ナガ

2, 6

7 15 丰 1 3

2

俊

奶

F

Z 11:

信 ナ

Titte

LIX 1

級

15 3

ス

-ye

12 朝 カ

ナ

1)

メ Hi

+

5

也か

下毛

五十

フハ ィ

心老

也女

13

ウ

1

キ

7

ス イ

22

七

3 V

テ ^

ス

1

E

1 ラ

17

Ш 7

4 カ

1% 3

V

丰 示

丰 テ 7 7

テ

3 15 ナ 年.

Æ

ス

カ

5

月

F か 5 ナコ 1

111 1) 12

٤ -A- L 叉

A ナド

7 냨

カ

丰

秘

才

2.

ナ

1 ザ

E

ザ :

汉

書品

此

11 ケ

18 15

2 H ケ th iv ブ

1 14

せ B

テ ク

カコ 7

~

1)

-

フゴ 年 テ ---1

IJ 來 Ill ナ

--

71

1.0

7

カ

1) ッ ----7

t

3 1

ナ

E w + ナ

w

7j

٠,

ъ

18 人

オ

٤

テ 7 凯

2. -V

3/

ガ 3 7 1 才 " テ ツ 1." ラ X 1) ŀ イ 1) iv イ =3 1) ケ 1 ク 1 2, ツ ٤ -7 13 1% }-H コ V • 15 5 ^ ク ŀ カ 1  $\exists$ ハ T 才 12 イ + E イ イ E Æ ŀ ]-1 + チ 七 7 1) 70 15 1 35 デ ラ デ ~ -,> カ カ  $\exists$ ゥ ナ 1 カ 1 3 + コ X デ +" フ Æ 1) ŀ ŀ Z 7 ナ ク 丰 ナナ ヺ 1) æ ナ 子 テ ナ 7 1-20 5 7 才 t -ラ ッ 1-7 ۱۷ 1 ボ V ズ ナ ラ ^ \_\_ 1% 7. 1 -73 J. バ ٢ 73 " 5 Ŀ ヹ \_\_\_ カ 3 5 ケ ナー テ チ + 牛 5 1) ツ テ テ 丰 -10 V V 1 'n 3/ 7 ク デ 1 7 -73 才 Z -7 18 -)3 才 1% -10 Ľ ク ·E -10 ソ 3 7 12 ソ 3 ٢ 1 术 -,2 7 7 111 7 1 ٢ ツ ŀ · F-- 1 I + 5 1 15 73 iv

3 テ ソ ナ カ ガ メ ス 3 チ ル 歌 カ ^ 也 1) + テ ス 牛 -)j • = ケ オ ン ボ 11 ッ 此 カ 歌 ナ ヲ カ ゾ 1) ゥ 15 チ シ 7-15

カッド タ ウ ィ ヺ゙ 3/ = フ ナ 力 w ズ = フ × 3 们 ナ テ 1) X Ш ^ ス 1) " ナ t w 1 マニコ テ ılı w ソ 丰 E 3 1 1 3 3 = X ŀ 7 サ ŋ テ カ Æ 7 2, 2, w ケ イ 1] サ ŀ ナ ナ ャ 丰 利 ラ フ 1 ガ 17 ソ w ハ ヲ 案 シ 蹞 冠 其 2 V 11: 後 ナ ili = 1) 1. 昭 3 事 1) Æ 1 相 1 云 1 -7 俊 徬 サ ٤ ゾ 湋  $\exists$ 1 賴 ılı ŋ 1. 里數 大 月 申 ٧, サ戸 1 仪 和 3 ケ ヲ ラ 此 チ 坳 テ w = 15 ラ ショシ 冠 歌 7 話 ヲ = ハ ナ Ш ヲ 1 ヲ 18 ナ 110 ヤ山 ヲ ス ス ٠, п = ガ テ テ ナ ス 7 河バ 7 3/ サ テ ٤ ラ 111 ŀ ガ 1 Ш ナ ラ 家 + t E V

1 ス 2, = 1-サ Æ イ > V ス w = ヤ ガ テ ヲ 110 ス

7 タ ヲ Æ 7 = ラ 坳 17 11 7 ユ " カ 2. カゴ +} ヌ 枢 ヲ 1% ~ = 7 w 3 ソ 3/ = 11 15 ナ カ 7 ナ ŀ ス ラ テ ナ w グ 7 ラ +} 1) = ズ 7 テ ヌ ŀ 1 メ 7 = ナ E カ 後 1. ŀ 月 子 3 V = 1 ッ 10 11 ヲ ス ナ ŀ A æ 2 ヺ ガ ス = ~ フ X ハ 3 ŀ 文 w ~ 7 2 ナ カ 1) iv イ = ラ ウ 1) カ 1 カ ズ ス w 10 ヲ フ 1 w テ 辛 = ٢

> 1. -16 7 ラ シ 1 オ ÷E ^

71

"

3

2-

ŀ

3

ŀ

7

Æ

7

w

力

ナ

ッ

キ

h

5

.1

ダ

ラ

又

\_

1.

ナ ユ ホ iv カ \_r° 1 カ ŀ ` 7 ナ 17 :3 V 7 110 メ iv IJ ツ A 7 (頭 ゥ 1 to チ イ ラ我 ッ Æ ÷ **リト** = 1 ノミ ŀ ケ ラ Æ キナ ヤラ ナ V ウズ 7 ズ ナロ テ ウ バイ ラ ŀ E ク ス 7 )· X オ -7 ~ 1. ボ 二月

ナ 3 = • D ナ IV べ

オ

カ 7 ナウ

ラ

ŀ

3

X

12

F 7

心

ナ ハ

IJ ナ

ゥ ヲ

1

ク ŀ

才 7

Æ

フ

Æ

ゥ Æ

ŀ フ

2

Æ

3

3

人

3/

ラ

ズ

ナナ

7

ス

ウ

V

ス

才

·E

手

n

~:

ŋ 11

部

郭

茲

ウ

ス

71:

キ

ナ

カ

ナ

7 7 > 題 カ 不 ク 细 Æ > 3 7 = テ

ス ツ 丰 ソ ナ カ N ٠, ヤ ケ V ハ Ł カ 1] 1 メ

敘

長

卿

云

ク

Æ

3

ヲ

1

ハ

ナ

カ

1

1

フ

ナ

1

加

11

ヲ

也 1 フ ブ Æ 7 ボ カ 丰 イ 7 iv ク ヌ フ ナ ナ ŀ + カ F ナ ガ V 1) 11 イ V フ テ ŀ = 汉 ゾ p 船 ナ 云 キ t 丰 扣 1: = ク -1)-私 1  $\exists$ 雲 3/ IJ  $\Box$ 云 テ 1 3 D ヲ ハ ボ ナ H ヤ 1) IJ Æ 21 澱 丰 サ 1 = 7 ク V 1. 10 Tuk 丰 カ 15 7 = 3 4 ラ 3 ヲ 1] ズ 1. 7 ヲ サ yu[ カ 云 カ

顯 昭 古 今 集 註 卷 + -4

デ 月

丰

タ Æ

1)

ケ U

18

3

メ

w 河

ラ

7 7

+ ウ

7

P

ケ

Z Æ

18

11

Æ

t

ク

ス

7 2

1 1.

3 ハ

X 云

in 111

ナ 2

1) Æ

オ

3/

3/

}

テ

凡

內

3

ッ

子

ガ

1%

1

テ

ク

7

=

テ

ハ

ヤ

1

事 ラ 14 Ł 難 矣 洲 ヲ > 涓文選相 Ŧ ヌ 一識字 波 良宗案說 Ŀ 7 3 II. ۷١ 1) \_\_ イ 協 2 活 和 7 ~ 近以二 如賦船漢鼎沸師 文濈 標 義 ジ ン ハ 不 X オ グ 1 力 テ オ 合 側立 æ 急流深淺 ナ 和 キ 111 フ 歌意數 一切和 ラ ヲ \_ シ ŀ ナ 1 ッ 7 也 ク 云 = 古曰言 叉韻 又 歌 訓湒字之法其義 ツ シ 1 後 ク ヺ ナ 會漢字 シ ス 1 w 撰 水之流 b ツ 3 = 戀部 b ヲ 3 U 注 X イ \_\_ ツ 如 12 ク 云 酒 相 H => 7 w 涌

叉 7 工 或 17 ク 人 7 t 1 フ 1 イ 云 E モ ナ 工 7 IJ 3 ク 1) ٥, -7 -7 7 ŀ イ to 7 ス 3 力 ケ カ 7 ۱ر 工 10 V 70 12 1 18 = ナゴ 丰 月 ク 4 チ V チ = Æ Æ = 11 カゴ ユ 1 月 フ -フ ク ク 毛 1 カ 毛 1 丰 + 丰 1 ラゴ ヲ 10 II; ١٠ カ 12 3 7 t 丰 5 112 7 ` キ ズ 此 to -ナ 哥次 ウ 3/ ガ ッ グ -7 ス 卡 1 1) iv

字

٥,

45

整

机

韶

書

=

水

1

名

1

18

71

IJ

注

3/

テ

細

釋

ナ

ソ IJ ŀ 1 3 = ŀ E テ t 齋 3 院 ケ ヲ V 210 フェ 3 ^ ラ × V 2, ŀ 3/ ケ iv ヲ

7 7 敬信 四三 香朝か 臣 25

オ Æ 教 夫 ٤ ポ 長 7 力 ン ŋ 卿 1] ラ ナ ケ ヲ Z F. H ナ テ 1 邑 ク IJ ٤ ユ 文 テ ク 改 德 ツ x 天 # 皇 2, 3/ 1 ナ 丰 1] => 3 齋 ケ ケ 院 iv ナ IIJ] ۱۰ 1) --ク 内 11: -C 215 カ ク E ガ ヺ 70 ŀ J° N:

ナ H ナ Ŧī. 和 1 ١٠ V ヲ H 自 3 丰 0 ズ \_ 部 77 t 7 女 テ V ŀ 111 18 7 ウ 7 in þ 111 Fil 1) 木 Ŀ ス イ 清 カ t 丰 御 = = フ 原 1) ウ ナ  $\exists i$ 1:1 7 " ナ 1 IJ 丰 . 111 = ッ 7 歌 IJ 1 子-私 Ł 院 : 右 3/ 人 1 云 丰 ナ 御 チ 大 H = 臣 ソ 木 7 113 工 ١٠ 7 ラ 夏 ズ 2 17 \_\_ ŀ ili 1 1 J. ٥, 73 Ti 1 独 ア四ケ E 1 女 111 ス X 卡 11 V 7 長 w 1) ۴ 卿 ラ 1 14 5 -E ٤ ケ = 云 ナ 7 テ 14 卡 ЭĒ YH. 7 年 ク ->-2 -1-= u ク JL ---~ ·E J. 111 H 75 IJ 5 7

丰 工 題 ナ 不 ク 知 7 云 也

イ

2

=

7

ラ

カ

ウ

1 2

事

ヲ 1

3

ク

Æ

E

÷E

フ

7

7

力 ٠,

ラ

フ ٥,١

iv

丰

17

7 -

13

 $\exists$ 

6

17

ウ

イ

ン

カ

1

7

12

カ

ラ

7

1

0

E

ŀ

カ

3

1

E

ŀ

=

6

U

前

人

不

知

ア明 Z ٢ ٦

キ ラ テ

4 3

キ

=

111

ヲ

7

中

7

チ 17 ナ

7 ケ 1] オ 3

力

御

ŀ

牛

齋

院

=

~ 丰

FK 7) 3 ナ

3

7 ス ラ v ナ 7

敎 卿 云 フ 12 力 ラ 7 ŀ 17 ナ IJ 7 12 71 ラ ŀ フ 4

ィ

フ

+

P

E

1

丿

7

p

F

ィ

ハ

2

V

ゥ

=

æ

ŀ

3

ナ

力

=

フ

IJ

ユ

ク

Æ

)

٧,

ツ

1

ク

=

7

カ

ラ

1

シ

ナモ

1

後 ŀ. ~ # フ 7 ~3 フ 丰 t 111 v ナ 也 此 ガ V 1 ゥ ナ ~ 3 w 3 }-布 3 1) ŀ 集 ズ モキタ ラ 野 踵 ŀ w 们 カ 7 ŀ メ ۶, 1 1 = 2 歌 オ ~ ŀ ヲ 萬 ラ **示** 1 1) 昭 ŀ ナ 3 イ п 1 1 スポモ 乾 ボ 丰 葉 ス フ ソ ラ = ŀ 云 テ 7 テ I ナ 工 木 ス テ タ = ) 此 ナ カ = H 毛 2 ٢ 1 サ 1) ヲ 3/ メ 2 フ w ヤ 1 集 1 ナ 1 ン イタト カ 古 サ 小 ~3 17 w = IJ = 7 テ 1 丰 ŀ カ 罪 ラ 或 V A 7 2 7 毛 モ Æ カ H Æ ウ 1 ラ 21 ズ 1 1 イ w ŀ 3 = ズ 人 ŀ 3 ŀ V Æ 毛 オ せ w カ オブ メ ッ = t ソ カ Æ 云 ガ F ツ ŀ ŀ ナ ウ 7 シ フ ŀ 1. + シ w 3 ጉ シ ヲ 同 カ 3 ラ カ ナジ ッツ 7 ツ U ٧, ガ w ケ ر ر 王 五. ラ 或 别 ゥ ヤ 十 3 ヲ 丰 3 ヲ シ カ 7) 毛 ŀ ŀ ヲ 事 香 ウ 11 人 ~3 フ ラ • = ŀ 15 1 Ŧ 37 7 Æ ス 1 ナ ツ 也 シ ナ n 毛 Æ ヲ フ 1 1-古儿 フガイ 美 フ 1.. E" 萬 IJ ŀ ŀ 1 ナ V F 古 報デ w 懿 ヲ ナ ガ w IJ <u> ۱</u> 1 サ 葉 カ 21 ナ = 葉 12 ガ 丰 1 カ カ シ フ フ カ Æ 1-シ = 7 3 ナ 3 7 ラ 3 w w 1 3 カ U 小 ウ 7] 丰 テ 2 b P 7 1 チ F ス キ + 7 丰 ィ

野

力

カ

云

ヱ

歌

テ

=

ヌ

Æ ~ ガ 7 シ = ŋ ソ 3 7 1 モ 3 ワ 3 ナ w V IJ モ = 2 P カ 3/ ハ オ ŀ =

P

~

サ

カ

ユ

ク

F

7

教 歌 3 丰 カ = ダ F 2 .7 E ダ = ŀ = 長 2 ナ 丰 カ 1 1 ガ オ 1 1 IJ 汉 歌 ~3 7 シ 女 デ 1 フ ヲ V 卿 8 = ^ Ł 詞 カ シ ク ヲ テ 丰 ` 1 3% = = ホ 15 云 ラ 11 テ 7 子 オ ィ ヲ ナ カ T Æ F ナ ズ ヲ ナ 3 此 テ 7 シ ユ w Æ ۱ر Æ IJ IJ + カ ブ ナ 集 サ 丰 カ オ カ F Ł 2 1 ~ V ケ シ 1 P サ カ ス 1 イ 序 此 1. カ x ヲ ナ ヅ ウ IJ ス iv シ 7 歌 女 ナ -= ケ 7 = テ 1 7] シ w ~~ 丰 ŋ デ 男 顯 女 シ ゾ オ 2 10 ٤ 此 女 昭 哥 丿 サ 丰 ŀ ŀ ŀ ダ 力 1 ン ナ 歌 歌 1 V = カ  $\exists$ 7 ラ 1 云 3/ 丰 詠 Æ #17. 丰 サ イ 15 ユ p 17 2 ۱ر ナ ナ Ł 此 ٢ 7 ス ヲ サ カ オ IJ V ~ シ モ テ 歌 ŀ ~~ 3 1," ヹ iv ク 1 力 ユ ŀ イ X ナ ハ 1. オ = 子 4 1 • メ ク = ~ 丰 我 3 Æ 丰 1 ŀ w カ ガ 1 = 3 ノヽ ヌ シ = 13 シ メ E 7 カ 7 = 15 = ŀ テ テ ラ シ サ ク ス P ヲ 2 Ł Æ 1 w Ł ッ ウ オ 2, カ オ 73 テ オ = ~ サ ヲ サ ス E Æ 1 ユ

トワレトナリケリ

始 以 自 餘 ラ ゥ Ł ヲ I 三弘、 造 前 ク テ チ フ - 此 1) 7 ٤ ヌ 治 12 カ + ヌ 1. V ٠, 12 治 橋  $\exists$ 歌 自 シ 12 瞰 2 æ 年 11 田三 云 ガ + æ カ -E 大化二 一至一延 歌 又 橋 光 1) フ 12 EI -3 ケ 御 云 ŀ ル \_ 御 IJ ナ 德 ١٠, 2. |-ナ 1 イ 太 持 ヌ ス V 12 天皇御 一年一至 サ 1) 弘、 ŀ ラ ヲ 御 丰 國 シ 2 iv 3 V ハ 時 イ 7 18 帅 イ フ 7 ン 事 延喜 ツ 此 ッ = すぇ 經三八十 1) 鉅 111 7 大化二年 1. フ 六 7 10 ヌ 集 御 君 1 シ 月 77 1) iv 15 IJ II.F 德 遣 ヌ 7 Æ 12 -j. ŀ モ 餘 ガ 御 iv 三 iv 年 使 X 丰 ス チ Hái シ オ シ 二百百 道 爱 7 X m -) 王 ハ 古 -}-ヤ 昭 独 修 1 フ シ IJ 長 フ 伞 師 理 构 1) 71 ŀ 和1 -撰 始 柄 1% iv 尙 + 七 福

7

13 ノヾ 义 2 115 坊 1) +)--E -25 才 1 7 -7 サ 9 ィ :1: 7 X ヌ 7 -7 -17 ズ V + 1 ŀ 7 1-7 3 イ 3: X 1) 7 1) ٥, 3/ A 7 }. 1% -16 -}1 ク 力管口 +}--77 5 7 才 + ズ ズ -3 ŀ ヌ 1 ナ ィ 17 1) フ ン 又 -1)-

オ

ラ

1)

1

シ

1%

ク

1

ス

レ

-

-E

ス

+)-

スホ

カア

iv

人キ

モノ

ナモ

施礼 才 ス 3 7 7 7: テ ナ 12 サ ク 7 th ナ ŀ 中 iv 111, 1 サ 5 垅 1] イ ウ -才 國 Hij ケ -ip 7 ١, # フ 11/2 ナ 1% ŀ 昭 サ IV w イ ---牛 15-17 7 1 ク カ -iv ス 1 Z; 1 助 朝 1) -7 ナ V オ ٠ در -15 ŀ ホ -3 7 + = ŀ 3 3 7 iv -7 云 花 ッ サ ラ ソ 1 ツ 1) +" ヲ シ 7 カ 1) V \_\_ ラ ン 70 1% 1 V 11: ヺ゙ フ iv ク -E シ 1 V U 1 ス  $\supset$ ス 1." 丰 1) 3/ 3/ 3 iv 1 3/ ク 1% ス 7: 17 -E 1 1 3 3 ŀ 1 能 -+}-7 TÎ 注 -+}-ナ -)1 ク ス 7 ラ ナ 5 1. 1V イ -15 2 2 ラ 1) 7 7 \*1: 抽 1 : 6 2 -1)-サ 1] 7 :E ズ フレ 7 5 ラ 2 18 化 ŀ 5 オ イ

ナ シ 1] 姐 发 ナ U 俊 昭 1) n 3 =2 2 7 ス 3 ~ 1 7 Li :3 7 =3 17 -)j 13 無 7 捏 17 训 才 名 丰 俊 江 7 ケ 70 7: テ テ 15 ク 卿 1/2 77 ŀ 丰 iv iv 3 フェ E -E Æ 1 ラ 13 = -E 顾 1 清 1 7 游 游 3  $\exists$ 12 :1: 7 ink 輔 X = 1 " ナ 1) 3/ イ ズ 力i 18 -E 7 廁 7 サ 3 iv 哥尔 3/ 1) ---7 11 1) 5 ナ F. :E 151 サ 7 -E 12 所 7 ü --70 名 5 ク 13 ŀ - 7 ナ =/ w 1 13/ ナ :1: 7. 人 11 12 E 7 7. 1)

顯 昭 古 今 集 註 卷 + 七 七 ガ

本

ŀ

ナ

2

オ

モ

^

w

サ

テ

Æ

~3

w 尙

力

シ 會

書頭

ŀ 17

ケ

ŋ ク ダ

詞

ス ナ ŀ

ガ

IJ

カ

ヲ カ ٤ :1 イ カ

=

1 ジ IJ 1

俊

賴

カ

Æ 7 = オ

3 ツ

-

2

ガ

ラ ヲ w 7

ر

Æ

٤

ケ ŀ

カ フ Ł

7

7

IJ ナ iv 賴

ク

IJ キ

Æ

1 歌 ツ

" 相

カ =

ラ 1 テ ヲ

ス

シ カ t 7

iv

セ

N

ッ

牛

テ

沂

代

人

=

V

7 シ 才

和

歌 n

協

オ テ ŀ

3

ヌ V

w

F イ

ヲ ス

ゲ A

3

メ

U

ゥ

ス カ

ハ 3

此 7

ハ

w

人

1 3

1

大

黑

主

t 7

7

イ

サ

ス L\_

チ

ŋ メ

テレ

J 友

カ

10 æ ŀ

3

t 3/

イ

ŋ =

m

俊 歌

朝 7

已

Ŀ

1

省 ク

歌

ッ カ

ラ ナ

子 1) 7

1-E

毛

7

IJ

ダ 丰

ッ

ラ

=

宁 證 ヲ ス ŀ IV ウ E 1 詞 注: チ = ) ١, = 17 7 3 ~3 ラ -1 ッ w 1 IJ ナ シ 1 1V 歌 1] 1 3 ハコ 考 70 イ Æ 書 又 ク テ 7 w シ *シ* ŋ ナ 7 w ケ 111 オ カ **シ** w 亦 子 申 1 ニユ 1 サ ~ タ タム 2 3/ 毛 3/ 7 IJ テ 又 萬 オ シ 3 V ヌ 牛 12 ツ 葉 物ヲ ラ ナ ッ ス 云 キ 1 E 3 3 オ 7 抑 ヌ ホ オ

ラ フ

ク

=

ŀ

IJ

セ

歌ヲサス

也

此下

=

四

首

歌

-

ヲ

シ

テ

,v

t

ナ

=

ハ

ノミ

ツ

二上十

イフ

歌

オ

イ 1

ŀ

タ

カ

ン

フ

L

ŀ

ラ

物歌

=

シ

ラ

ŀ

7

ス

2

ŀ

7

リフ

サ

カ

ナ

7

ŀ

シ

Æ

-

カナ

4

IJ

ŀ

2

首古ノ今 ノ今歌ニ 寬 ナハ 平 書三 テ人 御 老叟 時 及 丰 ルヨ モメ + ノルドト IV イ 七云 ) 1) 3 集更 t 三七 歌合 メ人ルト 下不 云見 ウ 無優 謂賴 敷七

棟 梁

> ラ イ = ユ ケ 丰 iv 1 力 ヤ ナ ^ = カ サ ナ w 力 w 中 7 力 ^ 13/ Æ

ヲレイ 敎 記 ŀ 1 ダ オ ~ 前 X P Æ = ナ テ 7 1 F IJ = = 長 v Æ 7 7 w サ Ш 卿 1 皈 w フ ŀ ケ 7 ŀ 3 ツ IJ IJ 7 ナ ŀ カ = ハ 3 iv 1 = 1 云 名 サ A シ 1) 1 シ 才 カ シ フ ٤ ユ タ ナ ラ 13 ラ + 工 ク 3 Æ 7 ナ 7 ナ ラ 7 IJ ユ シ メ カ ホ Щ Ł )V V カ ラ 7 ١, ŋ 2 ッ ) 3 P 丰 ラ = ナリ ハ Ш レカ 或 デ 山 = iv = • ユ サ 人云 侍 デ 前 ヲ 3 + 中 굸 カ ŀ ガ 越 7 チ K 途 ケ ナ シコ Æ ス = 7 中 私 カ ŋ IJ 3 = ŧ I ⋾ = **=** 1 = 牛 1 サ シ 颐 云 有 メ 力 1 力 シ 7 7 フ 丰 n 3 ナ ŋ 昭 サ イ チ IJ th ラ 後 ラ t ヲ ナ iv = 云 ル フ ~ 萬 ハ Ш 1 フ 丰 カ 撰 77 ガ 7 w カ Ш 葉 Æ 7 タ ハ 3 カ ゴ 1 굸 17 播 w ナ イ w 1 ŋ 1 1 カ ŀ ハ ケ ケ ラ 磨 ッ 1, ス フ = 3 ハ w P シ イ n カ チ イ イ = = ハ 1 ラ 7 カ カ = フ 風 ナ 3 7 ツ ラ グ P ク Ł 2 越 ŀ 3/ 7 17 シ þ ワ タ w ッ

ツ

イ

ク

3

~

ヌ

ラ

20

前 1 7 3 1 1) = U オ 1 1 7 = 7 ۴ ナ T せ 1 18 3 ス Æ フ 3 1 國 御 1) ナ = = 又 才 7 ŀ カ 12 丰 サ 卞 \_\_ p ウ 3 1 才 1 イ 牛 ゥ 六 3 カ -ナ ^ カ ゾ 不 10 1º 1 V 3 と 21 + ス 11 3 ~ 7 サ ナ ラ V ブ w と ラ -6 ラ ラ ٠, テ E P 1 2, せ オ 抽 IJ -1 3/ 佃 テ ~" ス ホ 元 3 才 w w 儀 ~ 7 7 ラ 1) 2 同 11 V 起 \_

オ 7 イ ヌ 1 7 1 -3/ ナ Æ 1 h カ カ 7 カ 3 7 せ X 丰 ケ 2 7 1 ス ケ フ

ケッ

IV E

ナ

۴°

7

1]

ケ

w

ツ

イ

デ

\_

ツ

カ

ウ

-2

17

敏

行

朝ッ

內 良 +" 院 七 F 11 示 朋 3 イ ケ カ 2 御 + フ 2 7 7 本 4 が ナ 汉 1 12 ン = 禦 而 1) w F Ł" ٧٠ ٧. 侮 毛 = ची 丰 ナ オ 詩 戒 相 1. r = イ 7 70 サ 7 7 ズ 注 云 悔 兄 メ V w 18 Z 弟閲 愈 ギ 110 ウ w ケ 買 ケ せ 1 V フ 恨 メ 2 3 3/ = 也 半 1 × 半 1 禦 墙 ケ 12 7 ٠ د ر  $\exists$ 禁 外 青 2 7 3/ 1] 也 來 1 禦 穀 IJ 7 務 長 ケ ハ イ 其 侮 ウ 卿 2 也 務 1 昭 チ 云 兄弟雖 雖 3 カ フォ K ケ ケ 7 10 7 有 1) x オ

ワ

V

3

テ

Æ

サ

3

ク

ナ

1)

ヌ

ス

3

3

3

丰

3

ノ 不

ヒ細

3

7

讀

Ā

シと

此讀な 底 此 10 本 --ケ ヲ 7 伊 作人知 3/ シ 1 Ŀ 7 ~ ス (ii) L IJ 1) 丰 ]. 215 テ 埶 ъ = 1 3/ 7 不 3 ア頭 出 男 省 カ 物 1 70 1 住 トの頭 t 1 V 人 ラ書 3 ナ知 命 キ 2 太 늗 川書 テ 三五 -7 ン 半 3 デ 21 不 カト 3/ バ業 1/1 13 カ 1 才 7 7 3 テ 3 Œ 丰 Z ケア 現或 總平 天 りり知知 12 シ Æ シ 7 テ チ本 3/ カ 2, テ 10 Æ 頭が 丰 假二 阜 男 奈 丰 -シ歌 イ シ + -E カ 1 1 3 名八 從彼 テハ 4 良 住 ラ 命 1 18 ス IJ 3/ 3/ 7 テ 二神 政特別 歌 マ神 表 城 7 汉 吉 御 1 ヶ現 7 = 京都二如 =/) 7 ナ ٢ 肺 L. II イ 3 筒 天 35 下感 p 1) + --ファ 11 カ 次 ŀ X 夕 息 男 行  $\exists$ 3 不 フォ 15 木 F. ---3 17 灰 命 制 1. 学 7 住 ナ 3 IV 云 ツ 又 7 E 3/ ル衣 力 是 付 X " ヒテ 13 目 1-3/ 2 4 ツ フォ 云 也 數次  $\rightrightarrows$ ス + デ 1 卽 本 次 iv 人 キ カ オ ŀ ŀ イ 12 也我言 -ナモ ツ 住 紀 1) ケ ナ 行 4 3 ツ コ \_ テ -1 力 1 ドカ 15 吉 又 1) 7 云 3/ 3/ 3 ラ ŀ ¥. 1 D ٤ カケ テ伊 テ IL 或 ケリ 肺 大 此 テ 7 サ --7 カ Æ 7 3 2 七勢 ル或 7 有 業 木 1 3/ 丰 サ 1% ナ イ 3 丰 3/ ケ 1% ノ物 E 歌語 神 4 カ 15 I 7 ---1 7 1% 6 キ 1 プレ 1 古本 = ナ テ ラジ ケ ウ 17 ス 1 12 3/ フ 3 3 =/ ٢ 神 今二 題 歌 2 タクシ TE. 3 3 1) 过 70 1% 1) -77 ケ -E 7 =不 洪 い同不 並 原 1) マリニ 77 本 ツ 7 iv "

之小 是也 I 戶而 云叉問云如 オ ホ 3 今在"攝津 カ 3 ŀ ..此文.者 3 國 × IJ 墨 江 此 古 事 三大神者當之在 一如ン何 記 云 一哉答日 I 此 - 筑紫橋 前 神 荒 郁

猶

在:筑紫.但

和魂

猶

在

墨江

案:神功皇后

軍 攝 皇后計二新羅一之日我為 門亂之時 墨江一云々 工此神 本 日吉 在 一筑 為二大將 記 前 徒 云住 小 日々法樂增二 大將 戶 軍 吉 卽 軍日 明神 我 神功皇后初 為 ノ託宣ニ云神 副將軍 吉大神 光 遷 為 是則 之故 三副 二居 机 將 功 延

叉神 號 歌 曆寺建立以後依…三千 テ x 姬 þ 松 + デ 扣 111 ガ 3 岸 主國 オ 可 3 ヲ Ŀ 地 ٤ 才 7 71, 基 神 浦 メ ク シ 3 ٤ 語:顯 帝 メ ケ = **U** X 7 3 之號 後 王 1) ッ 7 w 津 現 7 ŀ ッ ユ ヌ 季 嶋 ŀ 云 3 ラ 卿 人 神 明 37 ィ = 々今案ニ - 之住吉 响 神 ナ 垂 1 ŀ ^ ኑ カ ラ w 1 3 跡 申 ィ ケ ハ X ۱ر 給 ŋ ヲ Æ 四社之中 フ 七 17 神世 是姬 ~3 或 IJ オ サ 1 叉 物 # ナ ナ ボ 也昔 七 住 = 云 ツ 半 2 代 吉 申 mil 力 7 7 社 自 傳 古 ナ カ ヲ ツ 1今序 稱 7 シ 3/ 云 ŀ 11 衣 天 物 ラ オ K 通 抑 ヲ 舳

> テ 7 17 ッ 子 サ ヲ 工 3 7 # イ ケ ソ 2 ~ 1 3 7 ツ 汉 力 3 = カ 3 D 7 3 カ

> > 子

テ 7 7 ッ " カ ŀ ッ = 1 サ ) ク 3 歌 ス 3 ユ 3 X テ 3 子 ハ イ 7 17 Æ 7 w ク ダ ソ 人 ガ ~ = ŀ ŀ 3 ツ 1 ナ カ 10 ク ケ ス ク 子 カ V w + 1. ヲ 不 1. = ŀ 半 1 E 射 物 1 ケ = 1 ナ ŀ 云 人 也 九 ズ 3 ラ 3 ガ 7. 批 7

ワ ス w ッ 7 ゥ チ 3 7 シ 力 ~ サ ヤ 3 = サ 七 N 3/ U タ ~ 1 ナ 3 E テ 工

教長卿 古今 ヂ 力 力 X ŀ ナ ナ # # " 3 3 シ 渡 ılı 序 ラ テ X 7 4 7 津 IJ ウ 굸 P Æ 祇 = ダ 3 ナ 海 題 チ 3 X ヲ 7 3 海 昭 3 17 X Æ ハ h 7 7 萬 1) 董 サ 1 力 t 굸 >> 海 ス 葉 キ 女 7 1) 七 7 ヂ 岩 ツ テ ŀ ス ツ タ w 1 ヲ 7 3 カ ッ ٠, ŀ w 國 7 # 花 ス 1 3 7 æ 1 ナ ダ 力 ツ H テ ŀ ナ チ 1] 1 ケ ウ 木 7 3 P ŋ 3 紀 1 ウ ス 海 ン 3/ 喜 テ ŀ ッ 痂 シ = = = ŀ 撰 3 1 工 3 E ハ 7 式 æ 3 3 カ U X X 牛 w チ 半 3 4 X IJ 丰 ヲ IJ テ ハ ス t 海 大 叉 × ウ サ カ 1) 3 海 萬 ザ ナ 7 底 ŀ X 牛 葉 1) 17 3/ 1 =

百四十七

人

7

世

1

ナ

ŋ

ァ

ス

サ

ヲ

)

3

=

ŀ

3

17

1

カ

ケ

1)

者

底

男

一神

ヲ ノ

Æ

可以云

三現

A

神

Դ

敷

汉

ラ

3

也

ク

ナ

3

シ

E

3

7

ク

)

ホ

3/

+

同 清 17 1) シ ナ カ 3 シ 7 フ = 1 ١٠ ス サ IL N 3 18 ク 1 ŋ 才 サ 輔 7 = 7 3 ij 2 ŀ 昭 ナ ナ 3 シ フ -7 朝 ツ テ 叉 1) = w 18 云 = D 18 110 7 7 臣 シ 數 ラ 新 萬 7 ナ ラ ラ ン ツ 3/ 1) , 云 7 ゲ 1 1% 擢 3/ 葉 1. 1] ク ŀ ク 12 " ナ カ 3 7 イ 3 1 = ۱ر 萬 11 3 1 = = 歌 0 毛 11 = 肝学 テ æ 7 葉 7 汉 U 云 文 中等 テ 游 ラ 3 ナ ナ 2 " 1 ホ X 字 7 1 丰 ス 1 也 六 3/ 3 ナ カ V ラ 7 海 7 1 10 11 7 イ 18 水 누 1 1] 汉 2 " フ 3 T 庇 iv 7 1 1% 7 サ バ 在 \_ 3 ナ ナ ス in 3/ 2 1 3 ハ 7 丰 V ツ 又 テ シ カ 3 姬 7 17 2 丰 7 ツ 110 10 Ŀ = シ ゲ 半 ス ラ 3/ 3/ ケ 3/ æ E F 7 3 ラ テ ス 3 1 ズ 11 110 テ 15 7 チ 1 1 X 1 1 3 E 1 E 力 1% 汉 X ナ サ ヲ ツ 3 カ カ ヌ E 7 7 × ナ IJ ナ シ ナ 1 ス 7 フ 1 7 7 ス 天 IJ IJ ツ ク 17 カ 力 = = 3/ V 3 是 -1% 7 1 F 3/ 7 ラ ŀ × イ ツ ス 15 ウ ナ 1) フ 15 7 イ =/ イ æ 110 æ =

一可 下 着 夫 iv 申 3 1) ス 3 13 北京 云 改 侍 fili チ ケ -7 æ 12 新 忠卿 シ 御 或 ン 3/ ク 7 iv 12 シ H 衣 始 1 111 殊 震 凡 E 4 力 イ 7 V 3 ラ 右 什 テ 狩 云 ナ X 降 ٠. 麻火 以 H 1 ٧, ス w 15 老 府 目 兩 度 見 衣 12 ズ カ フ フュ ナ 力 5 在 三神 出一云 ル 彼 1 1) II. 白 雨 歌 1% ダ 1 1% iv 胡 度日 1) 卿 J: ]1 7 ヲ 衣 ケ Iffi 7 男 元島 件 高 院 上 ^ = ヲ iv = ナ シ w 711 FZ 着 シ 容 名 何 帽 人 シ 御 = 赤 1 15 或 识以 高 7 耳 丰 顫 .Ħ. 云 3 三雨 油 衣 U 7 少香 人 本 遊 水 H 美 3/ 野 111 13 12 花 1 1 3 提 歌 衣一 公卿 宫 广 父 110 1111 所 1. イ ^ 也 東 ツ 3 テ 11/1 ヲ + 1 A 1 -E 10 7 肥 Z 事 衣凌 瀨 歌 テ 侍 H 时 7 切 12 範 力 ケ 坳 云 サ 7 被 化 ME. Ti 路 Fil ケ ス 73 7 3/ フョ シ 被 贵 t 训 末 此 人 衣 侍 サ 5 1) 1 7 テ 7 奴 B ラ 是 1% シ 才 70 1% 3) 111 3/ iv 110 於 裕 記 是 カ -7 テ 业 111 111 折 1 テ H æ " 末 云 11 \_ 花 息 11 ナ 7 义 抓 才 1 E 代 H MŞ 13 × 1. 何 仲 7 3 111 12 1 不 彼 打 1-+ 17 用 H 行 10 大 計: 1

次 = ツ ナ カ 云 \* ダ 17 7 3 ス ホ 1 w 3 チ 8 7 3/ ラ 7 ŀ 3 7 イ 7 20 = ŀ D テ æ 7 グ 3 7 衣 1 ヲ 3/ 5 ٠٧ ナ 7 ۲

テ

ナ

裏書 云 近 所 1 瀨 rik X 條 末 -御 m 也 遠

#### 所 + 瀬 祓者 田 一蓑嶋 年 等 也

ラ ユ キ

ヌ 7 × Æ = 3 ソ IJ ア ス 1] 3 ケ 1 w > シ 7 ヲ ケ フ ユ ケ 1 ナ名ツ カ ク v

E 同 ヲ U ナ 心 ッ = V 鯫 Æ ズ ハ ク ソ ヌ ナ W ユ ヲ ス ŀ 7 イ w カ 3 1 欰 ク フ 义 ナ カ w ケ ŀ ナ = ヌ w シ ŋ ŀ A ŋ • ソ ハ 難 7 テ V ス ŋ 波 ヲ = ス イ 7 也 ナ 1 天 ハ ) = 7 Ŧ カ イ v ハ 寺 フ ダ ズ ŀ 名 1 1 傍 ユ フ = 也 ク ŀ ハ ヲ 其 力 =

キ ケ ツ ラ w = ャ ユ # 7 ガ 1 3 イ ŋ ヅ = 3 1 工 7 ク ゥ = デ • 丰 ハ テ ~ ŋ 藤原 Ħ = ケ 忠 テ w 遣 房 1

+ 3 ヲ オ Æ Ł 才 + ツ ノ ハ 7 = ナ 7 ダ ッ 1 ダ ッ 子 ク v

ソ 7 1) ŀ ス = 丰 ク

ヲ 才 7 丰 チ ッ 7 ナ カ ダ 3 IJ ス カ ケ w シ 1 ٠, 7 1 ハ 7 > ツ 1 ナ ラ = ユ コ ソ キ 3

ツ

丰

丰 丰 : p 3 ヲ ヲ オ オ 丰 毛 ۲ -6 ツ ヲ ٤ シ ヲ ラ ク + ナ 1 ッ 3 ソ > 1 歌 ス 7 7 w 释 ナ iv ~3 IJ シ 丰 タ 敎 返 長 12 哥 7 卿 人 u ナ = ラ = 7

> 歟此 忠 延 月 Æ ツ 1 ウ 卅 イ ク 7 房 カ ッ 集 サ 11 フ = ダ ヘ「メ 日 ノ 延 名 ゥ 任 ナ • カ シ 年二月亭子院春 喜 タ廿首 ノゴ イ 3 ッ 大和 r = 五 ラ v シ = トク 年 タ シ ソ 守二云 以 3 丰 w 7 丰 侍 後 サ = ケ = Æ テ 共 歌 ラ フ ヲ 7 12 ŀ IJ × 1 ダ H 其 Ħ 7 之條 テ サ = 間 チ 和 ャ カ ヌ 泉 御幸アリケ 行 リ忠房ハ延喜廿二 ワ V 7 ス 共 カ ッ ダ = 和泉國一歟 泉 T 1 jν ŋ # ナ 州 w ヤ ケ 證 年 V カ ヲ 力 = 歌 ŀ N 7 也 ŀ = 拾遺 ŀ 大 ŀ ラ 枕 7 文 オ 和 110 丰 iv ヲ 守 圆 车 ッ 相 ッ 力 = 7 可 ッ 違 3 正 ッ

计 此 贈

ŋ 詞 ŀ 云法 イ フ 王 阳 = 1 ]1] ヲ = オ ダ イ シ = テ 7 3 シ 7 ダ IJ セ ス ケ 7 1V ウ ٤ ケ ツ龍 w W ス洲 = 多立 テ

**教長** 河 子 = Æ 丰 行 シ = テ 卿 111 幸 ユ 7 T ラ 丰 カ ス 云 ナ テ 西 ラ 10 ~" IJ 3/ 1 ナ Æ 河 IJ 初齋宮 1 テ 2 ス 逍 1" 大 ~ ılı -井 オ 遙 ) iv 人 7 ホ シ 河 =6 ス 中 1 也 = ケ 3 鵬 1 チ 力 w Æ チ 給 雕 白 • 7 ハ 加 ]] ŀ ]1] 7 ヲ フ ン ラ 大 院 ン 東 1V 3 并 東 河 + 御 F, n JII uk ナ 在 = ŀ 位 也 1 カ ١ イ 清 V 時 = フ 3 ラ 7 ヲ イ 井 セ ス ÝΠ 此 西 オ ツ YIII

顯 昭 古 今 集 註 卷 + -12

物 ケ イハ -1] 17 1 七 D ツ カ ヲクラ フ十八日 調 ス サ + 年 + フ カ カ 相 7 ゥ 井 井: テ ٤ ٤ セ 7 1) 云 キナ Ŧ. 不 北 如 オ 亭 系 IV ラ 汉 ケ ナレ フ 可 行 月 審 ホ ナ V t ツバキナ テ 云 圖 若 = 1 12 ツ 子 1 p 2 ン 7 1) 云 云 大 ウ 九 掭 ウ ユ ~ = -)) 々又 3 一延長 井 給 同 ツ カ テナ ٤ H 作 12 3 17 11 兩 子 カ日 テ 华 ラ 手 111 歟 鮍 1 ダ 7 = カ パクイ 貫 序 ŀ 四 相 行 作 1% 1) Th ナ w ~ 4 1. t 云 之假 E 如 詠 者 幸 ナ ナ ナ 年 曲 2, -ス 7 違 논 > ヘルナリハラカニ = ルナ 1) 7 -411 之條不審 和 延 ケ 2 1. 7 E 御 チ 十日ナリ九日キ 名序 月十 如 3/ 丰 1) × 111 V 1 條 F シ 給 デ ヂ 5 10  $\Rightarrow$ 御 Æ = 儿 ス ヲ 年 太 15 3 7 工 w = 日 但件 0 政 w ŀ 1) 17 カ ブ 大 カ 九 V 記 計 卆 大 17 ナ ラ 日ヲ昨 11 月 此 ケ 3 Ł 7 7 Ш 才 者 記 近 w ラ ナ 臣 ラ 1 + 歌 フ E 1-ラ 行 ŀ 見 無 ラ ツ 與 陣 P 抬 7 + ズ イ H 度 10 遺 ン 秦幸 1 ス 法 =和 記 名 テ " 丰 7 w 下云 111 大 1) イテ 也 1) イ サ オ 皇行 序 法 = = カ イ 7 歌 ŀ 大 J'i 入 デ 非 題 姃 兩 ŀ 3/ IJ =6 皇 7 大和日本 事 ナ テ テ y 又 1 =

> 大臣 扈從 惠 大井之行幸 一之由 小倉 云寬 山 45 議 之紅 法 1 3 皇 大 ME 葉 御 共 和 有り 後奏 物 語 HI 非 之解遊 之故 其 YIII' Ili 必奏 之時 亂 時 仍分 延 作 Ŀ 10 明 太 ŽE: 36 III 政

**大時**コ 叉此 伊 1 3 サ 水 衡 松 12 T 2 等 集 オ 12 + t 久族牛 27 愈 3 ス 7 1 恺 F 17 E° ク カ 7 不 IJ 7 ゥ ッ カ \_ カ雁ツ 5 ٤ E 型語 ŋ IV 法 秋 作 iv -者 息 ili 111 工 ス + 回 ク 7 = " ケ p4 考 實 グ 111 子 ブ 之賴 之 是 テ 73 ゾ ŀ \_ æ IJ fil オ 2, イ 北 度 メ フ = ١٠ ナ サスナ #11 入 ツ 3/ = 敗 子 w ツ 1: V 1 V ヤルル 1% 3 不 忠 審 ŋ =E 儿 7 1% ~ 光 省 1 1: 21 1) カッチ Hi 3 15 イ 是 IJ ٤ w 秋 到 5 t 工

Æ キ カ 丰 7 7 1 3 汉 ス 1) 1) 3 3 ク X 17 テ 丰 3 衣 + 1) ラ 丰 1 3 1 七 = 25 V 云 t 配 E 3/ 0 8 也萬 7 7 1 ク 帖 7 ワ + V 3 ケ 7 果 F° ラ E 衣 1 11 7 = 1 1) ラ 1 V 7 ツ 丰 3 吉 Ill リ 工 3 × 1% w 7 フ 野 1% 7 15 X 3/ 1 ナ グ 力; テ 衣 F. + 1 + 闸 7 湿 3 1 7 1 th 3 丰 1% 7 12: 1] 3 カ ケ (h) 同 ソ ル 7 =

公數

小小

條太政大臣

一之故

机

心

丰

p

5

愈 ウ w ナ ŀ ナ w ッ ヲ Æ ク ク ナ サ IJ + ダ 歌 ッ メ ユ 心 ラ 7 V ケ セ ~ 衣 シ キ カ 1 Æ ナ 11 セ 3 衣 ヌ 7 = = シ ヲ 我 IJ ラ テ 1 衣 丰 ŀ テ テ t ٤

シ

3

X

w

ナ

1)

朱雀 Ł w ッ ケ ŀ キ キ 院 25 サ ナ 3 ヌ ヌ ブ ヌ 1 w ラ カ 1±" フ 1 キ 人 ۲ 1 12 オ タ 丰 = ٥, ウ **シ**/ ゴ ラ タ 7 3 3/ 4 藤 7 テ t' 原 せ T 4 長 タ 1) ŀ テ

7 ヌ ケ 3/ ナ フ ク テ カ サ サ ラ セ シ N ヌ 7 ヲ タ ナ ハ タ = ワ 力 = п ŀ

ኑ シ ヌ テ シ ハ = ス 毛 朱 ナ カ ナ 雀 ١,٥ ク テ 院 ス 御 = サ ŀ 所 7 t ラ ゥ ナ カ セ ŋ サ ス N = ハ 7 ヌ 寬 V シ 1 本 = ኑ ŀ 法 3 3 Š 皇也 IJ X ユ テ iv w 朱 ク 也 ダ 雀 ラ 毅 キ 院 中 ヲ 長 我 1 卿 物 ガ オ 云 1) コ

物 ス ラ 布 セ IJ 給 ŀ オ 7 イ ヌ 融 IJ フ v 朱雀 院 ゥ シ バ 3 7 7 ^ 院 ナ モ = 朱雀 タ ヌ 後 ŋ 1 = ケ 院 E 院 朱 w ナ キ ŀ ŋ 雀 1-) 7 院 第九 ゥ # ス ŀ キ ス ŀ 顯 カ 卷 ナ 7 昭 ゥ ケ = シ IJ モ 11 云 同 朱 ダ ケ カ 1) 事 雀 丰 ス ヲ ŀ 也 院 或 110

> 詞 タ オ カ オ = 云 キ テ ኑ IJ ŀ 示 と カ ツ 伊 = 工 水 1 ガ 1 七 埶 毛 = 飲 ダ P ガ 人 7 ŀ 丰 7 3 南 1) イ ナ 1 X フ ۲ 心 w w 谷 1 オ Ł 工 3 1 オ 工 = ŀ 7 ヤ 工 1 西 ŋ Æ 7 ۱۷ 坂 ソ ス ス カ n 本 + 山 シ カ 也 7 敦 ナ キ 河 サ 3 忠 カザテ イ オ 中 ナ 1 V Դ 納 ガ ナ牛メ テ ナ フェ ラ ガ カ 111 ヲ 庄 ス

X メ 1 汉 コ ŀ 4 п Z ラ サ 7 ゴ ブ オ ラ 1 ラ 御 æ 4 フ シ ジ 1 人 5 # U 女 K 3/ N 房 = = = オ V ダ サ 丰 ホ ヲ セ ダ オ ブ ラ ラ 1 チ  $\equiv$ タ ٤ 條 テ IJ ケ = ゥ ケ テ V 屏 ダ 7 110 w チ 3 ŀ 風 3

Æ Ł 七 ク コ • 11 1 ゥ チ 1 タ 牛 ナ V P オ ツ 1 =

オ

1

才

1

#

長 ŀ

云

オ =

Æ 工

フ ヌ

=

ŀ

7

イ

Ł

1

1

ス

サ

デ

=

X

ス

w

P

詞 敎 ク 1 ウ ŀ ナ 3 卿 X w オ 1) ス 流 Æ キ 懷 ٢ = 4 t = せ 3 7 E" to ラ テ テ 2 1 オ 3 X ٤ ツ 1 w 1 ダ 也 サ 私 3 ヌ 云 Z 心 サ 15 ナ テ オ IJ ヲ 1 æ ナ ٤ セ

云 風 Z. ヲ 3 3 T رر セ テ カ 丰 ケ w

屏 風 R ヲ カ 丰 ス in ヲ 3 テ ソ 1 = 1 ヲ

13

イ

額 昭 古 今 集 註 卷 + to

テ ŀ 3 3 イヘル テ ウ ダ ナ ŋ 力 キ ッ ク v 11 3 : 7 ۱ر セ テ 7) \* 4

> 顯 昭古今集註卷第十八

### 雜下

題不知

ン 3 ケ ナ フ カハ 七 ナ ナ ----)V カ ツ 子 ナ 1V 7 ス カ カ 讀人不知 ノフノ フ -J-

此 -6 上口口 カ カケル リヤ 工 名序三 ズ ス トカキ真 ハ此歌ノ心ヨノベ 丰 イ 二 ヨ セラ世 名序 7 ス ---カ 淵 経路 瀬之撃 ノッチ × iv ナッ ナク in] -)] 浪 ウ

イ 7 3 Æ 7 ラ シ ワ ナ カ 111 ヲ ナ ソ Æ カ ク 7 -Va カ V

·E

オ

Æ

٤

111

1%

ス

7

=

1

ヲ

イ

iv

IJ

ŋ

淵 な閉 5

潮

人 我 引 ク 刈レ ヲ 3 1. シ 芸 n モ 藻 7 ラ 1. 7 イ シ り -)3 Æ iv 71 111 3 創 才 1 1% E 彩色 12 Ŀ -E : 111 -E 7 w The 20

カ ヌ IJ 3 7 ナ ク カ 12 111 137 子 7 +} キ ŋ v ス 11 オ -E E 牛

1%

iv

ナ

デ 詞 此 文 歌 屋 在 秀ガ参河 集 7 橡 7 \_\_ w ナ 3 " 7 テ カ T 1 J° 7) -12 17 1) が頭 = \_ ٠, ナ藤 工 リ六 1

ダ 目 ソ 夕 カ サ = ケ V Æ 3 ク ク Ի 除 ŋ 料 w ヲ 215 ッ ٤ 官除 秋 目: 卿 カ テ 3 ナ 15 7 田 ジ ツ • X 右 久 ゥ ナ ١, ガ カ サ バキ 7 云 ヤ キナカコ サ 大 jν 7 IJ 七 ガ ダ ŀ X ナ 4 臣 秋 サ タ イ メ シ フ  $\exists$ 國 ~3 カ ハ 家 月 ナ 除 メ 縣 IJ シ Ŀ 3/ }-チ 也 K PIL 月 ŀ 7 目 2 シ ナ ケ P イ = が心 タナ w ヲ 1 IJ ク ۴ ィ フ ツ N V ッ ラ イ 中 ŋ = フ } カ 1 ŋ • N 18 カ 4. イ縣 ナ 京 イ フ 5 ナ キ ソ = 1 +} 官 7 ト シ ッ ~ IJ ソ カ w コ ヲ 沙 IJ イ 除 ギ カ 工 ケ 力 也が ナ w 介、 春 テ 汰 タ サ 私 iv ケ = B イ > V 1) 秋 IJ ヌ シ フ 7 F 12 ŀ 云 1) 椽、 受 後 タ 7 シ イ w コ ジ 3 領 目 除 IJ メ 1 フ 7 V 1 X ŋ 春 春 3 B = = æ II. 7 3 テ ナ デ F カガ ジ ŋ 3 = ッ U 3 11 111 H 11 除 申 詞 タ シ メ 春 IJ ク メ カ カ 11 畠 テ ナ サ E 文 = 1 ズ w U 除 春 正 ナ IJ ナ ヲ ソ t エハ

題 不 知 ~

\*

p

シ

ŋ

=

ケ 4 テ Æ イ ŀ 3 1 ナ カ ر ر ナ 布 韶 3 今 1 道 サ ハ +

> 風 ン 1 ク X w

敎 同 1. ナ IJ 云 フ セ フ 力 心 風 長 4 ナ シ w テ コ = ŋ 歟 卿 ŀ 7 3 3 7 E ッ X シ ナ 云 イ = w ŀ ŋ 風 ダ 子 w キ ŀ ケ Ł 7 サ 1 ナ IJ ゾ ŀ イ チ 4 w 本 カ サ ۴ = ラ シ 1) ŋ ザ フ ク = ヌ 私 私 ク 1 シ ヹ メ ガ カ w 云萬葉 ッ 風 丰 ŀ 欰 云 = w = 風 IJ ン ハ 丿 3 ナ ŀ \_ ゾ **3**/ フ 1 3 Ł 3 <u>ہ</u> シ テ ŀ ナ メ IJ ク 云心 ク テ メ ダ カ ハ カ w メ ゼ E w w 1 カ ハ 也 サ ク 7 シ w フ 7 ŀ 風 サ 7 キ ラ T メ IJ 丰 IJ ナ F, = = 2 清 ۴ 1 シ 3 ク ブ 3 3 輔 ク 丰 ナ ハ 4 イ キ = 朝 F ス ン ヌ イ = = ŀ ナ 臣 in イ

素 性

イ Æ 7 ッ ク ŀ フ = カ ラ 3 ナ ヲ イ ٦ ハ 2 = U = ソ 7 = Æ t ~

穀 イ ヲ Æ 義 長 ワ " イ ズ 叉 卿 づ ク ッ 兩 = = ク 云 野 義 カ ŀ • ゥ = カ ŀ 13 U 丰 Æ =6 =  $\exists$ Ш テ 7 Ħ ヲ ヲ =1 1, 11 末 1 イ Æ 句 " w ガ ŀ 7 ク ۴ = テ = F 4 フ カ ŀ  $\exists$ E コ П } X ス 3 8 イ イ IJ 2, × U カ 顋 フ ~3 ナ 12 1 昭 丰 ナ = V 1 IJ 1 云 野 1 丰 殺 清 13 Ш ろ = 輔 カ 長 ッジ ユ + 贈 テ 云

顯

ス フ ラ ~ × 10 シ ŀ 3 1 æ ヲ 云 3 18 相 メ 1 w 1 ナ デ w Ш シ 三心 ラ ヲ ナ 7 ۴ ŀ ハ イ 3/ フ テ ٥,  $\Box$ ン ~ 10 7

= 70 t 2 7 7 r ナ ス = 家 æ カ ナ 3 讀 1 ゥ 人 不 丰 ŀ 红 丰

カミ

クョ

レシ

カ

1

w 3 > 吉 ユ + ナ 野 7 カ 深 ケ 1 ナ ウ Ш ケ ナ ク = 11 世 7 ヲ 丰 遁 又 オ テ ク カ t ク 7 V > 丰 = 2, 1 1 云 也 = フ

敎 ス オ ŀ + 1. フ æ ク ク v ゥ w 卿 ナ  $\Rightarrow$ + キ w ~ ク 1) 工 工 ユ w iv 云 丰 丰 ナ 3 フ 牛 カブ 2 ス ウ ŋ w to J" 5 トイ ッ 丰 フ ユ X 10 ŀ ク ナ 歌 シ イ V ۱ر フ ゥ カ 2 w \_ フ 2 ٤ ŀ キ ユ 12 = = ナ 丰 丰 丰 = フレ ŀ 7 叉 ŋ ŀ 和 + ナルガ 和云 イ 汉 オ イ 1 in カ カ 3/ ク ~ 工 7 1" 7 ン 1 3 = w キ 12 サ ナ 3 1 7 11 5 ゥ = ŋ ク X ŀ 1 ŀ + サ w 丰 ッ 18 ク 15 1) 7 110 フ 2,  $\exists$ ッ オ 7 ケ ズ ッ ケ ク 丰 テ 10 Z w 71 ク ケ p 又 ナ

ヨメル

敎 1 長 フ ナ 卿 1) 云 イ 1 丰 ナ 丰 1 イ フ ۱ر イ ŀ 3 ナ 丰 ナ ŋ 初 7

丰 3 \_ ナ =6 1) 70 ラ Z ス ラ ク サ ナ 1] ---E 7 ラ 又 1% ケ 73 ソ

7)

清 ナ ナ 7 1 ŀ 號 w IJ IJ 輔 =6 成 ナ コ ソ セ 云 此 卡 ラ 1 = V ナ ス 歌 E = V 1) IJ " ス 當 竹 iv 1 羊 證 ナ テ ノヽ 3 木 如 岐 2. X オ ナ 院 此 1 jν æ IJ æ フ 御 フ ナ ヌ to \_ 本 ク 汉 木 iv 1 ĮŲ. ]-ケ 1 1 ij フ Æ 3 ٧, 3/ ナ III ナ -其 y ケ 1.0 乏自 ソ ヺ゙ V イ U ナ 18 7 -)j° 1) : 笙 ナ 7 ウ ŀ 水

時 ŋ 桓 先有一節、便凌、雲去也 ŀ 温伐公蜀 清輔卿釋 反降 良宗 ノ片端ナ 謂非、木非、草乃取, 竹之字 備 ナ 之意」也 1) ١, 云テ 侃木屑竹頭悉貯」之造 又案韓退子 詩云未、出 無心、是詩亦美二竹之節 物 æ 7 ラ × 訓 H ヺ 以 wk E 為 -1-答

孫 ハ頗不二心得る 姬 式 敷ル ナ 此 歌 = 77 卿 力 シ 11 云 17 --ナ シ 9 IJ 又 -6 ~3 イ ナ ラ ス IJ ナ ス ŋ 12 ~ 4 ŀ ラ ナ ŋ

詞

云

æ

オ

Æ

4

1)

ケ

12

1

丰

イ

1

+

ナ

キ

ヲ

3

テ

ゥ 1) 下云 僻 カ ヌ ナ ラ 事 2 ナハ リ华 机 ŀ 力 1] 竹 テ シ サ オ イ = 字 半 1 V " 節 テ 110 ヲ 力 不 木 17 7 3/ = = = V Æ 3 E 3 2/2 1 7 ツ ス サ ラ 力 3 ゾ ガ 4 ズ ズ ナ ク ŀ 3 w 4 IJ サ 3 X ~ ソ = 1) ኑ キ V Æ ナ ヲ 二頭北北 Æ ラ 1. ホカハ 7 = ズ w 1 ` ኑ Ħ イ﨟

子

子

3

注云 和 女母 ア 年 同 N 教長注也 從 四 四 五 年 昭 位 納、之為、妃六月 下坂 世神事也 七日薨云 帝 親 ク  $\pm$ E Ŧ タ 系 金子 ガ 力 圖 12 桓 ッ 從三位 高 云 武 7 邊 授 高 + 3 親 津 女嵯 ı 苅 王 內 1 品 親 ゥ カ H 峨 麿 未 ŀ E ダ 為 一女也嗟 注 ナ 桓 セ 五 妃 1) 一般レ 天 ኑ 之 皇第 女!! 땞 婦\* 承 妹

詞

云

丰

ナ

IJ

ケ

IV

1

=

カ

=

ŀ

キ

ナ

7

ナ

IJ

テ

ナ

ク

ヲ

1 ŀ

テ

詞 云 沂 رر ゼ ゥ 將 ヲ 監 云 ŀ 地 ケ ŀ テ 7 ハ ጉ ~ ŋ ٧, 職 ケ ヲ w 1 ŀ ク + ヲ 云 也 解 官

也

ソ Ł

テ

~~

ツ

1)

ヶ

伊

勢

詞 ッ ク 東宮 云 ハ 子 = 帶 1 1 刀 = 也 云ナリハル、 Æ タ 1 チ = ŀ 1 サミ ス 7 チ イミ 3 w ハ w 1 3

t

7

=

3

P

丰

ッ ク 18 子 筑波 Ш 扣 在 =常 陸 國 此 集 歌 ッ ク ۱ر

力

ケ

ヲ

=

Ł

ッ

ラ 峯 IJ = 3 總 3 ズ メ ヲ ツ = 110 7 1 七 ١٠ w 3 ダ ッ テ w = 11 E 峯 ク 子 w 1 ッ 力 名 ナ 3 + ヲ 1 18 t テ 子 也 3/ Æ 非 ゲ 1 = 7 往 1 1 别 キ カ カ 1 フ = ケ 所 ゲ 1 1 ^ 1 名 ኑ 7 7 w = 事 jν イ 3 レ 東宮 也 メ ŀ 1 ŋ IJ -ツ 是解 或 ク 1 向 3 人 = 11 7 メ 云 事 ゥ タ 子 IJ 也 ッ 七 3 古 ク 2 ソ 110 式 子

ŀ

=

力

V

ŀ 丰 宮 = カ ŀ 7 ッ ラ セ = w 人 ス 1 ŀ 7 1 IJ フ ケ IJ ナ ŋ w ケ 幸 御 w カ ŀ 人 机 丰 IJ = 七 コ 條 Ի = ダ 中

ス サ 1 力 ス 2 ) ラ ナ ナ カ w = オ Ł ス w サ 7 ナ V ハ ٤ カ IJ ヲ =

ス フ V Ł テ 1) w ヲ サ 叉 E モ ス カ X 1 タ ٤ 1) サ 3 ŀ テ ス カ ハ 月 光 テ ス ヲ 1 7 7 ダ ハ ッ イ ソ フ w ラ 4 ŀ 月 ヲ 1 1 3 中 云 X Æ 3 也 IJ = 叉 私 桂 后 F 云 ハ 后 7 オ 1 18 Ł 義 月 月 ダ ヲ 云 R ハ 18

顧 昭 古 今 集 註 卷 +

題 不 知

讀 人 不 知

1 1 7 サ V = 7 6 ク = ワ E ヲ カ 3 ~ ナ L ス カ ۱۷ ラ to フ 3/ 3 サ F

此 敎 V ソ イ フ 義 長 11 ٢ V テ +}-卿 力 オ = ク p 7 次。 云 术 " " 方 3/ ~ フ テ 3 10 カ 3/ V ナ 伏 ク 1 11 w w 3/ 見 " フ 7 大 1" サ 1 1 w 和 " ク + 1 = IV ゥ ン 或 10 6 承 ク ス = ١, 3 峇 嘗 ヲ w 1 7 丰 原 フ 2 w テ 伏 臥 3 Ի 見 テ = + 7 ~ 1 ÷E ۲ ス 7 ナ イ 1 ガ U フ ナ IJ = ٧, 所 IJ 誉 ラ ス 私 原 F V イ

F ; 云 = 栖 詞 2 云 フ 1 3/ 3 X 3 IJ 1 サ ŀ 7 ン 1 7 7 ク V 2 E ヲ モ オ 3/ 1 3 我 ハ 荒 Æ フ

案 隆 綠 4日 = 此 フ 法 歌 12 師 彼 丰 ガ 仙 申 Æ **談** 侍 1 F = 3/ 굸 フ ۱ر 事 3/ = 不 3 V 審 1 ۱ر 伏 ヲ 机 見 キ ナ 仙 1 人 力 ガ 詠 4 111 12 云 此 12 仙 利

此 ナ 長 フ 井 シ #1 果 惠 徬 書 1 11 世 JL) 굸 ヲ 從 半 ク 伏 都 緣 ナ 見 メ ガ 勒 伏 7 = 紛 見 フ 7 女 ラ ナ 往 3/ 義 1111 3 ヌ 1 1 3 イ 1 人 仙 序 フ F 3/ 古 7 ---由 1 カ 物 イ セ 降 語 7 1V 絲 メ 本 7 佛 申 丰 何 致 書 歟 1) 1 1 8 1

> 為 -Va X 後 丰 世 甚 1 1 115 將 华 益 之山 3 思 1 11 古 僧 丰 初 47 Tr. ナ 2 1) 1% 物 711 17 4

ワ 4 カ F イ ホ イ ۱۷ フ 3 ナ -> 17 \_\_ 1 次 " 3 3 カ ソ ス 2, 喜撰 :1 7 ウ 11: -f-師 70 7

b

教長 遺 启字 身 有 = 無人念數 自 御 3 ス w 1 们是 学 ili 與號二講 方 jul. Æ 7 [11] 際ウナ 卿 1 カ ス 憚 氣 in 一之山 有自自 名 總義 Ш 候乎殿 ク ケ Z 又 一人又 治 行 3 = 如 t 113 宇 1) \_\_ テ字治ハ當 尼 家朝 從 是 7 作 14 3 沈 川院 京 蜡 為 孫 者 せ \_ 2 Ili グ 13 7, 臣 一被 姬 骨 三美 テ 以 以 = 御 串 胜 カ 此 = 3 E 1 南 111 我 談 云 メ 17 E コソ 7 ス ヤ 言撰 方 īffi 南 者 往 Ш 云 依 1) 井 U 2  $\exists$ 一と放 基 所 一奏聞 私云 + 12 3 ス =3 云ノ々巽 徐 泉信  $\Pi$ 詠之吾 或 1) 1) 1) V =3 ik 有 BAL PU. 人云喜 也 庭 -1-不 ウブ 173 14 ~ 為 Hil-次 7 说 5;1 施 115 9 御 4);  $\Rightarrow$ 之 3 1 7 御 人 撰住 玩 -10 7 汉 如 书 延 颇 敗 16 部 任 ウ 杨 -7 何 2 13 化 基 Z 発え 所 IJ 111 3 3 殿 12 X 1) 113 [1] 机 1) 3 F F ユ 11 法 此 学 12 國 1. -}3 快 外 大 # 张 光 -1}-我 2 IN: ユ -73

治 火カ」誤信 々」凡此式 ノ僧セ キ ۴ 力 稱 + 三誤信 ス ワ 7 ٤ カ - 桑門 汉 t ŋ 1 如 U ハ 叉 何 : 院 ヤ 御 コ 木 1 序 ス ツ Æ 1 字 云

女 良 w ノ 琴 ^ 7 ۲ + カ ŋ ケ ケ w ヲ w 丰 ኑ 7 テ = 7 3 3 V テ タ イ 1V イ ダ ~ IJ

ワ V ٤ ıν = 1 ŀ ケ 1 ) 子 ス ソ 2 ス w + サ ٢ • 3 w ナ ^ = ナ ケ 牛 ク ハヘ或本

致 7 12 長 3 長 卿 k X セ = 此 卿 1) ラ 云 第 ワ п = 本 ナ ナ ŀ Ł" サ ケ 第四 シ ダ 同 ~3 ゲ 丰 子 × シ 談 歟 ク ナ æ ガ 私云 冶 ナ w ハ ダ ゲ 人 シ シ(頭書)グ 夜鶴  $\Rightarrow$ 丰 w ノナ Դ 7 クワヘルト云フ本モ明書)グハレルハ加ハ ス 書 ク 4 y ゲ 1 又作 丰  $\exists$ ス 口 1) 1 1 3 鳴 良峯宗 IV 午 工 ŀ = w ナ思 ィ ユ

æ ٤ ウ ኑ + フ ナ ኑ\* w ツ ス 1) サ 1) セ ケ 1 = ケ 1] ヲ w ゥ ŀ 1 デ ŀ 7 ケ ٤ = テ 3 ル 3 コ 3 チ 3/ w カ = 奈良 1 Æ ナ 條源至 京 ラ 1 3 朝 t  $\exists$ 

1

ヲ

ゥ

1)

テ

3

3

w

伊

勢

卿 云 ٤ 1 フ w ス ŀ イ フ ハ 我 ヲ ワ ス 12 1 3 メ 12

顯

昭

古

今

集

註

卷

+

古鄉 ナ 不 ŋ 經應之義 ŀ 力 イ ~ \ w サ ウ 也 1 X 丰 7 名 ッ イ ラ ۴ = 3/ = ٤ ソ テ 丰 1 ٤ = 1 3 シ ヲ X 力 饗應 IJ 1. 或 æ 人 奈 ス 云 良 n ナ フ 都 ij w ス æ

7 ワ フ ٤ サ 題不知 ツ フォ 7 ン フ ラ w シ 力 セ ハ サ 4 ケ V 1 讀 ユ ク 尔 ヱ 知 3/ ラ 子

Á

叶 敎 丰 1 1 11 サ フ 3 ス 秘 長 歟 IJ 2 ソ 3 IJ 2 = 卿 丰 シ ゴ IHI = ラ = Ŀ" チ ウ ٤ シ Æ 云 3 ラ 1 シ 7 カ U セ 3/ ケ ソ ナ ラ フ 10 ŀ 1) 2 w 丰 ッ 1) サ ガ = ズ 私 丰 タ 7 2 ス ጉ 丰 力 ŀ ィ 云 タ w フ コ 3/ ŀ 此 サ テ 力 V イ ユ ス 3 1 力 會 iv 10 7 フ 10 7 1 フ æ 坂 江 7 F ハ ス 其 人 セ 談 サ フ キ ク A 丰 ユ 云 サ 力 =  $\Rightarrow$ ス 博 1 丰 カ ユ 1 7 ጉ 雅 7 ケ = 題 7 ユ フ テ」此體 ラ 三位 名 風 ラ ク w 不と ヲ **シ**/ シ 1 卫 ナ 俎 月 丰 3/ 1 Æ V 歌 蟬 仪 風 シ 11 心 ケ 丸 琵 ラ 風 Ľ ヲ 琶 ٤ 7 子

ク 7 ス カ = • ソ ハ 7 フ 1) チ ケ = iv æ 7 ラ ヌ ワ カ t ŀ セ ت 力 ŋ ユ

以後 為 直 法之故 以 錢寄 瀬 テ讀 111 朋 H 否 ]1]

百五十七

淵 詞潮 IL 111

寬云戀 ~5 45 = 1] 1 ケ 御 Æ サ w 時 ケ ŀ 汉 丰 Æ ウ = U 東宮 ~ =7 ケ =/ w サ 华目 プ 官 3 ラ = 侍 X Ł サ ケ -テ w V ヲ テ

藤 原 忠 屏

1)

谱 ン オ 丰 肝 ~ テ 中 使 テ 長 1 ŀ ヲ 官 3 丰 次 ~ 官 丰 2 テ ŀ 丰川 テ イ 官 竹 æ ŀ 子 1 ナ ズ 3 =/ ナ 7 テ ゲ ナ ツ ク ガ カ 丰 3 27 3 7 ス 校 F ナ 1 IJ 3 長 歌 3 1) \_

ヲ ナ

オ

E

フ ケ

=2 1

カ

+ 力

3

1%

3 U

ナ

丰

ウ

~

=

۱۷

ッ

3/

毛

1

オ

丰

中

テ

モ

1

カ カ 7 Ł 1 フ 1) ケ = 1 工 才 ラ 丰 ツ 2 3/ ラ ナ 3 ス ツ 汉 t ~ 3 ٠, \_ 中 牛

題

不

知

讀

不

3

穀 ゥ 1) ナ Æ ) ナ ラ 長 1) = ナ 卿 ケ V = 13 = ス 1) ם 云 浪 " ŀ = 昭 ス ス 1 ィ 3 1) ili 沙 ツ Ł 1 云 白 テ テ 7 F 1 7 波 業 IJ Ł イ ス 次 21 F ッ サ 1 1 盜 云或 1) A 2 ス 7 A 君 ヲ 1 H 卿 テ 1 ガ イ 1 ŀ 示 云 Ш フ 3 カ 1 メ =3 カ 名 ŀ ラ w 3 E ナ 2 iv 7 = I. 7 ŀ 次 V 7 3 10 力 ナ X 17 ン T ラ 此 ゲ 17 1 U 工 ズ 木 丰 歌 7 シ ヌ 體 ナ 牛 t ツ w

1 Z

7

Æ

进

1% 不

12

也

训

1 3

-

此

訊

古

7

被

ŀ

見

1.

=E

必

4

カ

1 21

ナ

F°

餘

111

纳

471

7

ر ر

=

1

3

-

ケ r テ F IJ E ヌ 1 ボ 力 ナ ス 3 ラ E X 12 1 ~3 歌 3 1) 7 ٧, æ 14 ^ ン 7. 風 iv 1 E" カ \_? ŀ 盐 ス 1 7 7 = 1% ス カ 才 " 丰 ッ E 17 ス 汉 ٥, ili ズ V Ill --70 25 テ 70 3 汉 X イ 1) E° 12 1) 5 ナ 2.

頭書 100 如前席 良宗 悉 云 卷自 酒 席 波 言之以以 酒 介 名 怪 扣 二人意 肥 於 東 M 漢 您 以 漏 自 波

助 云

又 人 叉 丰 to 工 = ス -古 ナ ナゴ ス X 申 \_ 7 ノ或 將 シ 宁 テ 1) 1) ウ U サ 1% 丰 1 ス ス 人 Æ 3 ナ テ 御 w =7 作 此 ŀ w カ ١, 1 \_7 カ 1 老 3 7 歌 イ 丰 ナ イ ウ フ オ 3/ 17 カ 1) 名 7: ヲ ラ フ チ カ 10 ハ 業 ナ カ ナコ ٢ iv ŀ ナ 1 V 3/ 丰 3/ 丰 半 10 ス 平 ١. 我 11 13 ケ 3 イ 11 ナ 業 此 1 1) iv 7 7 15 V E 41 iv 11: 7 A カ 伊 " 1 18 ナデ X 1 丰 小八 1% Fir 1 =E カ ナ 7 215 = 大 ^ 7 7: 12 F 70 和 テ 3 V モ 供 次 不 牛 7 1% ハ 7 13 常 物 オ 12 11 1) 1) -6 是 111 TIL 715 " 1 物 F 大 和 キ 牛 ---工 -70 E 知 テ 國 世 カ ズ =3 ウ

讀 業平 心 人 ガ ケ ٤ 業平 歌 歟 不 ŀ 不 歌 之詠 ヲ IJ オ 3 ik ヲ E 知 }ŀ ナ ワ t ユ ツ - 歟其 ŀ アル ・不、見 ガ ラ = ス シ 7 テ ŀ ラ ム」此歌 w ゥ IJ 故 業平 Æ ナ 1 m ナキ 3 伊勢物 1 = 此 ガ ダ 與二 フ オ ハ伊勢物 詠 ヲ古今ニ取入タル ツ æ 丰 タ トスタリ除 此歌 ・ツ シ 3 語 t ヲ = 7 ラナミノ 語 ス 3 業平 グ 子細 ノ歌也然而非 jν 人 ナッ「風 ガ ヲ ャ 1 歌 歌 注 歌 キ ニ業平 モ = ス ヲ 讀 フ カ w

1% ヲ カ ŋ = رر ソ 丰 テ ユ ナ フ ーツケ ク ŀ IJ カ カ ラ コ H Æ ダ ッ ダ 1 ヤ ~

兩 IJ 111 验 ケ 度 顯 ヲ 叉此 或 ナ ス 卿 7 昭 ク デ Ñ w 云 シ 云 歌 æ ニ鶏コハノ ダ = u 四角四 ク v 3 Ի = ナ 二 力 ダ 3 ŀ IJ ウ 1) ガ 1) 大和 ノッ ヲ<sup>尼</sup>ケ 方ノ祭故 ŀ 丰 ラ = カ ガ 物語 1 ŀ シ ŀ 工 v シ IJ フ IJ テ ) ヲ ヲ 有二 汉 п カ w ク ク = ッ ユ 二 此名 事 テ ŀ 15 ウ フ ハ ナ 前 ッ 3 1 ス ッ ク カ ガ = w ケ ケ ŀ 委 10 + 1. テ カ = 力 洋 ŀ ガ ŋ ス 5 IJ 丰 ユ 申 ス ŀ ツ 其 フ ス w 1 次 = ヲ 1] ナ æ ス ユ フ

# 前ニ委注申

ワ ヌ 7 ス Ի ラ ヲ V ン 1 2 キ シ 7 ŀ ソ 7 チ 1 IJ ユ ク Æ 3/ ラ

殺長 ゲ 力 IJ テ 1 P + ス ガ 3 卵云 ダ ラ ケ ヌ 7 バ シ カ チ Ŀ w w 考猿丸: 1. 人 テ 歟 ク ケ シ 私 7 オ 3 IJ メ キ Æ 云 æ フサ ヲ 題不と知 リ或人云 ) 集詞云アヒ ア ミテ カ ŀ 7 ・イ • 3 = 七 フ文字 カタミニ ٤ ヤ ケ ィ シ ケ 7 jν カ jν ラ V = ナ ナ 云 ザ IJ ソ IJ 手 ケ R IJ ŋ ^ ケ N 跡 ケ = テ 女 jν 7 V ャ 2 ヲ IJ ツ 1 コ カ 丰 鳥 子 Ł ŀ ケ ヲ ŀ 部 = )V ナ ヲ +

頭書古 大夫ヲ ŋ ŀ 古 不 今ニ 一十二 載 審 ダ ス ハ 讀 IJ w 猿 人 = 不 九 ٢ ナ 下云作者 知 リ公任 下云歌 ラ州六 ハナシ 多在 仍猿 人ガ撰 猿 九大 九 夫 猿 九

也 丰 3/ ラ = スラレ ヌ 工 アト ズ ヲト ŀ 丰 云蒼頡黃帝時人觀 ٠ ٧ シ ノヘト ルレコ ン 詞 E 7 鳥 チ ŀ 1 跡 カ ŋ 作 文字 ナ ユ ٤ フ テ Æ E

貞 ŀ 觀 御 七 給 時 萬 ケ 葉 V 集 1/2 3 3 イ テ ッ ダ 11 テ 力 IJ 7 ッ ツ IJ ク ケ v w w ŀ

## 文是 ニオフラマックスエ

フ ナ iv ッ 丰  $\exists$ シ F ク ン = V フ IJ ヲ ケ 12 ナ ラ 1 1 ナ ラ 11 カ

カ

:

御 萬宗 萬 院 カ 時 薬 御 ١. 集 F 丹寺 木 1 載 代 イ = 御 1 ス Ł 清 H.F ノ、 四: ナラ 頭 輔 城 昭 朝 ナ 大 臣 1 ラ 1 皇 4 ٠, 1 御 7 城 平 11 時 ナ名 近 御 -p 介 時 御 = = 撰給 時 オ > ŀ フ 1 ŀ フ 也 フ 3 iv イ サ 名 Ł p 7 V 有 敎 1 ŀ バ 所 7 長 7 ナ 卿 IJ ン 存 同 ラ 委 桓 事 1% 1 勘 武 也 1) 3

ウ \_ カ ス キ メ ッ シ ケ ケ テ w ス ŀ テ 丰 7 \_ ツ ス テ IJ ケ 7 ッ w w F 伊 テ オ 勢 ク

=

1)

ラ 3 7 iv 3 3 ッ シ 7 オ Æ カ ŀ ナ = 1 11 丰 ク E 7 3/ 丰 7 3 ヲ ٧, p ナ カ

サ ヲ 敎 p ŀ 年 \* 3 w 老 所 卿 × • 12 テ 111, 云 ナ ィ ソ 2, æ -1) 力 7 私 シ 3/ ハ 身 云 カ 丰 1 3 t ク ŀ 7 7 ウ = 3 ハ 內 せ ٧, = Æ 裏 ラ + 7 1) ナ 丰 カ ハ 7 P ガ ク グ イ ラ ナ 1 V フ ١. ŀ 1)  $\Rightarrow$ ١, テ カ ٧, V ١٠, مد 加 7 = 7 普 歌 ク 1 3 涨; ŀ ナ ハ 侍 1. 云 110 1 事 p 1

111

t

٠,

書

ナ

IJ

٨,

ヤ

3

=>

人

ナ

1.0

3

2

ナ

IJ

普

時

子

力

7

心

ナ

#### 本云 文治 元 年 --H 九 H 注 雏 之

建 久 重 賜差 年 八 座 13 -11-H 尽

弘、

安五

年

]]

11-

H

\_\_ 拉了

侍

從

雅

有

授 禪定 天 王 713

題

昭 昭

M

#### 短歌

## 題不知

Z

讀人不知

歟 ナリ テウ 蝶二 フノ 本 、私云庄 カナ ナリテ ミナ ッ U チフ =  $\nu$ キ æ 周夢 カナ ハナニ ノミナレバナ カ ニテ ナ ٤ ラ ホ 爲二 ス ガ = ズ t ダク ۲ ŀ 胡蝶 7 ヲ ブ ス ヤ ホヤマズトアリ教長卿云 P カ ルトユメニミタルガ エブノミトテ可二得意 ナキ 事ハ、ベ ストカッハ 奥義抄不、注之院御 ヨシニ イヘリ レド此歌 慙愧ス ャ ガ゛ カ

スミソ X 工 フ ナ

撰 B ŋ n ルウタ奉リケル時ノ目録 ス ナ ヌ ミゾメノクラマ IJ 喜撰式云 ク ラ ユ カ フ = ~3 ナ Ш ヲ w ŀ ガ バ ッ ス ス ミヅ 1" ミゾメト ケタリ 長歌 メノ イフ イ п 後

貫 之

繼塵

ブ序ノ

~ æ E" 3 = リサレ Щ ۲, = ナ 1 ŋ 7 \_ 7 Ľ P = 7 ツ 丰 オ 5 ŀ ٢ ` ツ 1" 15 15 13 ス 7

> IJ Z

空谷傳、聲トイフハ是ナ

スレ イ ゥ セ ラノ ノウミノウラノシ 3/ ホ ガ ٤ U ホ ٤ カ 7 Ł ッ 4 ` w п ヲ ۲ = 7 1 ッ 歌 メ ŀ 71

ŋ

ナ ホ 2, 7 12 ラ = ソ 7 ス ]-1) ヲ テ オ ホ P 3 = 117 Ł サ

キ

7

"

3 N ٤ w ワ カ ス ッ 力 フ F テ

古今五 ラ ブ ア 1 グ ٤ サ シ 7 シ テ 年 ヲ ^ ス

ŋ

ŀ

キ

=

力

1%

タ フ 1] w ゥ ス = ク テ ダ テ 7

ッ

v

w

ナ

ガ

ウ

イ ッ 7 Æ æ V オ n ホ 1 ク 7 タ w w ラ チ ŋ = ツケト デ忠 ヤ チリノ 峯 3

教長卿 テ 1 t チ ナリ私云普 ŋ チ y 云 ッ = æ 通 = N ١٠ = 3 チ ŀ X ŋ w = カ 3 ッ ク ケ 7 2 テ ダ + X t 3 丰 = 7 チ 3 ŋ IJ 兩 ッ

イ ニッ フ 事 ナ ŀ v バ ŀ ッ 7 ゲ ŋ 1 フ n ヤトハイ 干 ŀ ۱ر ヲ v 7 7 ナ " F " Æ

顯 昭 占 今集 註 卷 + 九

Ł

=

7

オ

ŀ

1

p

3 w 3 1V = ナ 1 1] 7 ŀ 1 JV ラ 2 ŀ 古 歌 ヲ メ サ w ъ = ŀ ヲ

サ 示  $\exists$ 7 力 1) 1] 17 ク 工 キ ŀ ス 7 1 = カ . 7 V 1. ハ Æ 7 カ w 丰 æ t サ 3 テ 1 于 ク w 7 111 3/ ル ٤ ナ -F-カ ナコ フェ カ カ # 1% IJ 15 -チ Æ テ V 1] 7 カ 7 + 丰 1 7 サ 2, ~V ラ 丰 æ 3/ イ 1) 1 テ 3/ 風 ク 777 7 E 3 ナ æ キ オ カ IJ カモ 丰

九 テ ツ 12 カ 字 右 面 IV -12 カ 4 w 治 机 7 .4 7 1 X 衞 7 ۲ 7 右 1] ヲ PH 3 云 \_ æ カ 衞 坛 7 . 7 ヌ 心 7 府 1) 1) 門 4 + ホ 1) 111 1= ŀ ŀ シ ヲ ŀ 又 -V 2 帝 西 近 1 110 15 7 丰 17 讀 中 ザ 衞 = 1 ~ イ ツ 7 テ 1 111 1 ŀ 2, ッ V 1/1 H 又 Ш 忠 平 ~ ク ŀ 1) = 優 野 1 1 外 右 2 ス 衞 云 ŀ ナ チ 3 ス 3 1 गा IJ 111 カ Ł #11 カ X E ナ 丰 111 左 1) ナ 1. ダ = ス テ ٦° 心 ナカ 右 ]-1) ٧, . -7 #11 丰 广 3 1 衞 云 サ ~~ ` フ 阳 7 カ æ V 沂 ツ \_7 IJ AL) 番 -17-+}-1 ナ 1) 18 )V 也 1-オ ナ ラ 秋 ナ 子 長 义 ŀ ナ :: 1) ズ 111 IJ 許 77 7 徬 シ vý カ チ

カコ

ナ

3/ 七 穀 ク IJ 4 1 3 × ٤ ス ッ 1 ク 卿 V 1 1 ひ 1 云 12 1 ŀ 113 カ 2 1 18 3 カ ツ ス 7 3 ケ V サ 1. . 1] t 1) \_\_ 7  $\mathcal{F}_{i}$ 1 ン -フ イ 六 to 3 1-せ 洲 ケ 1 =3 カ w ナ V X ス 1 1) H 12 サ 41 2. ナ 汉 7 17 70 110 也 私 =3 116 ケ V illi 年 4: 木 7 . 1-

旋 vili 歌

37 ---F-3/ 7 T 題 7 汉 -+}-不 ス ケ ヺ 知 チ w カコ 1 1% ナ -Ŀ 1 ŀ ナ æ ) 2 -\a Æ ウ ス 前 ワ v 不 ン 知 ン :1

シ 初 此 侍 1 \_\_ w 歌 春 1% +)-学 1) 省 1 サ • V 第 赤 スナハ カ V ----1 31 10 來 10 力 旋 旬 本 5 ノン或 1 ŀ VII 云 ヲ 去 1 1) 歌 達  $\mathcal{H}_{i}$ テ ^ F 丰 7 1 赤 w 学 三路 ツ \_3 詞 ニテ ン サ サ 證本等 本 末 カ V 1 7 第 我 來 ナ 丰 1 11 讀 四 テ 7 j. V 侍 旬 汝 12 カ V 1 如 ヺ 3 7 ŀ V 7 此 iL 3 1 カ ナ 73 点 결부 フ V ス 來 菜 1 V ン iffi ٠, 杀 1) ナ --7 1 Tex 又 ナ 7 w ン E ---扳 1) 1 23 卯卯 Ŀ 伙 1." 1

歌

---

力

12

7 12

۲ =

3

ラ

ツ ヌ

w

ŀ

w

7

1]

~"

3

"

2

" 7 u

ナ ナ テ

1) カ Æ

5

IJ

3 Æ

Z

ソ

70 ヲ

IV 3/

7

ス 七

ク

30

間 ナ 字 イ カン普 ニッ 叉返 リト テ 日 無 7 來 ŀ 注 + = 1 第四句 可以讀 テ 1. 通 to ラン 致長 = ٠ 不ど Ŀ ٠, 敷清 サ ス ~ 卿 ヲ 也 八證 シ w Ŀ 3 輔朝 春去 サ ク 詞 ヌ シ ŀ 本等 ~ = 臣奥義 來 ト書 注 ッ æ セリ證本 71 Ł 7 18 ŀ ル事 ٤ æ 抄 サ ナ ナ カ ケ モ侍 ク シ E 謞 w ス = 7 ウ 事 -~ ŀ 歟 汉 ٤ カ ズ \_7 サ ッ 3 3 カ ン 3/ 2 IJ 1)

7

ナ

Ξ.

=

ソ

7

17

ケ

誹諧歌

イ

ク

ハウ

1

ス

ヲ

ッ

ク

V

٧,

カ

示

ŀ

`

丰

ス

ノ

サ

シ 藤 テ 原 敏 タ 行 ヲ

7 ŀ 3/ 2, デ サナー ジメテ ホ イ 3 セ ノタ ソ但 ŀ デ IJ > アラ 私云 ヲ 中 サ ス 7 1 伊 常 ン ヲ 卵 ゥ 勢歌ニ「シ = 事 ハ ⋾ 示 也 ~ 5 = テ 無名抄與義抄等 7 カラ 1% ク ` Z N 7: ズ 18 テ ホ ス ノヤ オ カ 八古義 7.5 ŀ 1 ハワ = 7 ılı ワラ 3 コ ラ 7 = IJ 工 ク ۱ Ŀ テ 來 ハシ 丰 = テ 丰 テ = 郭公 事 ŀ ツラ ク 7 ŋ **シ**/

讀 人不知

7

IJ

ヌ

t

ŀ

=

•

U

3

カ

テ

ラ

7

Ŀ

題不

ナ ŀ テヲラ Z ŀ ス V ハ ヲ = ナ シ ゥ ダ , 7 w サ

歟

顯

昭

古

今

集

註

卷

+

九

云此義 トハ 效長 サデハイ ナレナドモ フニ女ト = = ハウタ、アル名ニテアルベ 女上 サノミ讀也 卿 п 不一被 云 ナ 3 ヲミナ イフ名 イフ名ニテアリケル IJ ヨメ 3 計心 ŋ リ又此歌遍昭 ヘシ テ カナ ハサ ウタ、ア ゥ 一歟ヲミナ ٤ ス = テ ン 7 ス オ キ jν E w = = 集二 1 + 1 サ , フ 工 シヲ 事 п ~3 3 イ ナ ケ ダ 力 X ス ッへ ウ ナ 12 L ŀ 1" 牛 也 1. ŀ オ 花 サ ス 力 æ 3 ラ 7 ŀ ツ 1. デ 才 IJ 7 工 2 私 Ŀ IJ カ 歌 E

7 フ 丰 \* ŋ カ 寬平 セ = 御時 ス ホ ナ = 后 ク u 宮 ٤ 7 ヌ 歌合 シ <del>シ</del> チ ハ カ 7 ツ、 在 原 ŋ 棟 サ 梁 セ テ

丰 工 サセ ŋ ッ 1" アラ ニ、カクョ ( ク 知 jν ヌ イ ス ナ フ ツバ リ、キ ŀ 7 ムトイヘリ又古物 ・イへ リサ ツん リソンレ せい スノッド カ、ハ = ッ 丰 Ł ラ = リサセト + U ッ IJ ر 15 ムト リサ ナク ナク 七 ス ŀ 7

3 子 ٧٠ ス 讀人不 フ 知 V

=

ク

111

E

エ

ケ

ス

キマテソコヒシキ

徵 1 長卿 フ 云也 = 1. 云サ 私云 110 7 テ = 略 Æ 7 3/ 17 1% IJ ナ w ス ナ Zı ガ゛ iv 70 ٥, - 3 子 1 7" 7 デ 1) = 叉 H シ 3 p V ŀ 218

シ 次 ナ ソ メ 1 70 \_\_ 7 ~ 2. 1 ク チ ナ 3/ 工 テ **シ**/ カ ナ オ Œ 也 1 ィ 17

リヒ

ع

-3

17

70

15

7

1)

开 ガ V ガ w 長 U ナ MI 3 ジ 心 18 テ 叉 シ =/ ズ ナ  $\Box$ \* IJ 云 カ 111 10 Æ 才 2 ク ヲ 水 チ Œ 1 オ ナ Ŀ 工 1 ٤ ナ テ シ テ 1 3/ Æ Æ =3 思 オ 7 Ŀ + ス 1 ヲ t 力 1% 1D T え V ヺ 丰 1) ~ 紅 ジ 3 ク 2. ブ ク 7 汉 -5-]-} ヲ チ -73 ·)" + テ 1 1 ナ ク 3 シ = 水 心 17 シ イ = ナ ャ ナ ン 70 ハ 5 IV = 2 ~ 7 シ 1) 1. 1 カ 1 ٢ シ ŀ ナ ナ 丰 ケ ili 3 サ = 12 1) 1 ラ 7 牛 18 私 15 :3 TJ

紀伊乳母

ヌ フ シ 2, ナ 子 ケ 1 フ ナ ラ ソ ヌ 才 Æ ٢ ÷E I -6 工 カ 3 タ 15 ス

注 本 セ ラ ラ V ス ヌ 7 1) フ Æ 3% Ŀ ŀ 子 カ ケ ケ iv フ 7 致 1) 卿 17 工 7 ス ラ æ 1 ヌ + IB

> ョ 7 3 7 丰 V 7-F ナ 70 12 5 AŽ) 于 7 ۴  $\exists$ × ٤ 12 1 ナ 3 1) ッ 1) (in)

1 r 2 " + ナ 丰  $\exists$ 才 -E " Ŀ 才 7 小 テ 917 2, 1 亦 MI 3

義 せ 2. Ŀ " グ 子 " 1) 丰 尻 7 7 iv 2, 1 + シ 丰 1 7 シ iv :3 3 1 ウ 7 1) 数 ŋ Ŀ U イ 才 7 \_ 長 工 ^ 清 5 11 ボ" シ 113 ン 1 ク p 帕 V 华 ズ 1 テ ケ V 7 = 3 3/ 1 ン 1) 1] E 1) Ľ, 1 -+ 111E タ ٥ در , [st. 1) 独 前 12 1. = 3 イ 2. =1 卿 -j-IJ 才 77 前 -1)-往 -E

平定数文章

1 ホ w n ソ 3 ナ ケ 丰 7 -1)-٠, 1 ツ -7  $\rightrightarrows$ Ł \_ 1. ٤ 1% ツ 丰

致 ナ 1) 云 基 ク 1) 1 7 -1)-サ 3 卿 テ 4 シ 云 ッ サ 此 iv 歌 E" 汉 テ 集 3 -2 ツ p 15 丰 哥徐 カブ 丰 ]-3 テ シ 7 E ゲ ツ 73 サ 7 + Ł 10 :1: h ケ u 11 力 芦 7 1% 3 若 37 +) 12 2. + ナ -7 黄 2 " 111 テ ツ 7 7 -77 37 3 æ カ ク ケ ク :3 1) 1% " " æ サ 私 iv

ナ テ 7 ジ w ナ ク u = w 才 ~ Ł ٦ Æ ツ 10 子 ŋ 7 · ヲカ ガ ッ w = ŀ 叉 ナ オ \* ŀ V • 3) 15 ゾ 示 7 ケ H ゥ イ トナ セ 1. ク 人 1 ナ 1 オ 3 \*

紀 人片

7

+

•

=

ツ

7

ナ

+

3

力

1

シ

ヲ

テ

ナ

ソワ

力

=

云 ヲ ゾ カ カ ナ 1. カ Ŀ ۲ ナ 3 3 ヲ ワ イ ŀ カ ガ ソ IJ カ ナ Ł = イ 3 70 Ł フ ス Ŀ ガ フ ŀ ナ ŀ カ シ ŀ N ナ 才 6 ク ŀ " æ 3 カ イ ナ ŀ フ IJ ラ ィ ゾ ~ 7 N 詞 7 ギ ガ 力 = ナ テ iv ٤ 3/ ŋ ~ 廊 カ 7 キ ラ ٢ 應 イ = 2 力 詞 テ ク ŀ 侍 詞 カ 1 2 ナ ٤ ナ 担 ŋ ズ 7 ∃ 私 ナ N ホ

讀人 不 知

> ヲ サ

ワ

カ

Ł

ŀ

ŋ

ヌ

ナ

ク

ŀ

イ

フ

=

ŀ

ソ

ス

N

ナ

1)

1 = ス ŀ 7 ナ ラ ス ス + オ ナ Æ ス 1. t 3 Ł ハ テ ヌ ナ ソ ョノ ナ カ

ワ オ 7. ヲ 7 六 ヌ タ サ 3 ス オ キ Æ テ フ 力 ケ ŀ ダ 1 w コ 7 ŀ w = 1 キ ヲ 18 3 3 ナ セ 7 ダ IJ 3 U

> サ オ 1 亦 Ł ヌ ク サ テ ハ 7 力 ~~ ケ ダ タ ナ w ۲, = ŀ モ 3 = メ 1 IJ 18 to 3 ワ せ v ス

> > ŋ

オ

ホ

X

ゥ ク Ł ナ ス 1 w ラ ソ 1 t ŀ IJ フ jν ス ŀ

Ŀ

カ

IJ 敎 iv ン 3 コ w カ X 11 サ ~3 3 7 w 7 jν 卿 心 ŋ ッ • ŀ ッ 云 子 ナ ナ リ又 ワ IJ ナ w ナ 7 私 キ ス ス 「フル F. 云 ŀ 我 フ Æ イ 人フ 心 3 N ヲ サ ナ X ス 2, N iv リ前義 y ŀ ワ 7 ス ٠ ٤ ス ぅ ッ 1 サ V フ w  $\rightrightarrows$ 1 ナ ŀ 1 N • ゾ ヲ 1 サ \* ス æ 1 イ N 3 = to ŀ 7 , シ 1-١,٠ Ŀ 11 カ 心 オ ij テーナ ヲ Æ w ŋ フ フ ン ヲ

イ L ŀ テ ツ 10 ケ ダ ナ ŋ

ス

力

ŀ

3

x

N

ナ

ŋ

鶯ノ

=

ゾ

1

ヤ

1.

IJ

۴

フ

ス

力 シ ラ = ナ ツ Ł ŀ ~ 子 サ 1 サ t ク シ æ

3

サ 也 IJ ン グ サ ŀ イ 7 フ ブ 詞 サラ ŀ ゾ オ ボ 2 ŀ w ナ w 教長卿

注

左 臣

フ H 7 V 3/ ナ > ラ ナ 3 7 1 to 7 = = E w 1 Æ オ 4 F オ

Æ Æ

顧 昭 古 今 集 Ħ 卷 +

臺山 天丛 仙 云昔漢土 趣 派 せ 敎長 12 カ F ŀ ij 生 來 n = Æ チ + 3 æ 國 江 カ ナ テ人ノ > = 3 1 3 1 p 3 卿 ~ im 異俄缺 ŀ ナ 作 中 ワ ク 完 ~" IJ w か p w 云 來是間金峯山則是彼山也云 10 納 整 ŀ 有11 金峯山 ŀ レ シ ナ 歌 此 Z シ = 世 ナ ŋ ノ 言 ١,\* ッ ズ又貞崇禪師述金峯山 w Ш ラ æ 歌 7 1 飛 然者 7 1" ノミ 五. = 1) 3 U 2, U 返也 ハ伊 一个案 IJ 來云 ク 16 V ŀ カ ザ ılı = ~" ケ 13 ス æ 1 才 1% 3/ 3/ = 勢ガロミ 製二 チ 110 1V 12 カラズ但 11 1) カ ~ ソ = 金剛藏王尊住、之而 義 如 1 ([] オ = 17 ケ 3 æ デ 111 御 乘 申 李 1. 此異說惟 シ 3 1 シ ユ w ワ ワ ) 塔 テ 部 丰 = = 7 7 ŀ ŀ ) 吉 又考:日藏 形 = 1 御 王 保护 テ 10 3 æ Щ 4 侍 野 願 來 事 11 Ł 丰 Ř ワ 人會源 イ 神 -74 曲 文 記 ij ン th 111 汉 V 3 3 々靈山 カ 道 1. 被 私 ŀ = = 3/ w = 歐 = 云 其 五雲ニ 金峯山 > ナ ツ 云 オ 傳 作ッツへ 7 彼 古 , 歌 吉 E 10 1. ク ハ 載云 日 ナ チ 歌 ili 老 ケ ılı ラ YF. V -V ラ 3 天 ス 刊卷 相 2 ٧, = ウ Ш 3 4 移 意 傳 12 テ  $\mathcal{H}$ フ 12 ŀ ス 3

3

ン

ナ

カ

5

ワ

カ

3

=

3

1

ク

12

1

1

١,

ス

7

1

ツ

2

1

4

ケ

V

リ テ E = ソ = ス ナ 7 ン w ス 力 E P : +" IJ X ナ ŀ ゾ 17 -ラ 3 X 7 w F ナ フ 1 IJ 1 ŀ 18

1%

3

17.

33 7

10 テ

pli

ナハトリ 云テ又何トモイハヌ難小心得」 題 不 知

all i

A

不

知

11

+}

+

7

IJ

1

17

邹

ヲ

=3

-1-1

1% 17 10

IJ

3 w ン 丰 敦 7 ヲ Į. × サ 1 ヌ 3/ 1 卿 1. ヲ w ツ フ \_ 丰 ٤ 云 10 シ ン ヌ =  $\Rightarrow$ ケ 1 ナ > -V 汉 テ 1) ÷ 1) -6 ス w ソ 1. 1 ズ ナ w = 2, = 1. 1) 7 w = 歌 共 = サ = 15 1 1. 1 1% 木 牛 チ チ 7 集 :3 ヌ 3 =3 フ 1 V v 1 Æ =3 150 ウ ŀ X ン 1) 3/ ツ w ウ 私 木 フ ツ 7 フ ン ソ -1)-

1

1

~"

フェ

ラ

此

7

1]

## 大歌所御歌

リコレ 前點,,定五節舞姬,並定,,大歌召人等, 廿 大歌所ト 事同注公大歌小歌發、聲舞畢大歌發歌笛舞 又云寬治六年十一月廿三日大歌人等不」具、笛 後御歌可以返之由示的侍一云々大歌稱 奏一大歌及雅樂一云々 一國栖笛一个、奏時吹レ之云々 舞一云人名屬:教治第一部 ガ具足ナリ私云國史云喚二大歌及 內敵坊 ヲイフ 年中行司云 神 又春正月宴,,侍臣於前 = Æ 節 + 會 五節舞妓 日大 月三日以 姓名認 Æ 舞 、歌所 姬 仍 舞

メ

y

私

云庭薪

=

ツ

=

F

3

3

侍

ŀ

カ

·P

オホナホビノ歌

私云 H 歌 アリ 大直 1 書 H セ 神 1) ト云リ又神直日神 神事ニ モ歌之節會 アリ = モ唱」之祝 神樂 Æ 大直 ナリ

テ ア ダ ダ ). ラ シ シ + 丰 7 7 ッ ツ シ X 1 カ シ 7 メ ッ ラ = 力 X ク 3 3/ p ッ = ソ 3 チ 7 テ ŀ 70 ヲ カ ケ

> リテ 末如、此注教長卿云神今食新嘗會ナド ツ 皷」琴歌云「アタラシキ 續 賜 : 宴天下有位 宴…群臣 祭二 カ 日 ツム是ヲ 7 モ庭新 酒 ツラ 一計奏 天平十四 イハ ヌ トデ左右 人並諸 3 二五節田舞 イ <sub>2</sub> 11 年 = ツ に衙門ノ F 司史生-Ė 正月十 3 せ シ -畢更合:少童女,踏歌叉 テ テ , 衛士ガ ハシ ダ 於、是六位以下人等 ) 日 催 メニ シ 天皇御:大安殿 薪 馬 丰 樂 カ 7 ヲ 新 Æ ァ Æ ッ 年歌 シ テ 叉諸 X 7 = ŀ 社 11

フルギャマトマヒノ歌

ク シ オ Æ E ŀ ホ 7 工 フ w カ カ ッ ナ ラ 丰 P ~ = フ 8 w ユ 7 ナ ク F キ ナ

教長卿 次第 琴笛 F 3 ŀ ㅋ 舞 = + テ F ラ 1 篳 = = 倭舞 נת 黛 云 7 フ 7 正月 ナ ナク ナ = " 1. 1 12 v ス 云 ヺ ŀ 1 w ٧٠ w ナ 諸 結 卯 ナ 7 " 社祭 ナ 日 1] 次 7 ŋ 肺 ッ P ナド 求 ラ 杖 事 ス 7 ヲ ズ Š ダ 3 テ人 カ テ 1 セ 求 テ 3 7 ヲ 2 ヤ ッ Ł ナ ガ w 30 洄 IJ テ = ılı 詞 V 3 ヺ ŀ ヲ 名 Æ 2 テ P シ テ 和 Æ

アフミブリ

w 7 7 フ 3 3 ヌ 1) 7 サ 3 グ チ ク V ŀ ゥ 子 1 8 = ダ ッ ン ナ 力. ナ

題 サ フ 1) 鶴 ナ 又 汉 1) 此 -5-7 ナ 歌 洪 ク フ 7 11 18 3 7 プ 1 フ 17 F ^ 7 7 111 1 15 ケ 1] 3 7 イ 兩 ヌ 1] = フ づ 本 1V 1) ソ ク 1 715 ŀ 3 iv  $\exists$ 1. × 3 1 1 牛 8 w チ フ ナ 7 = 28 E ゥ 歌 1) 17 L 普 子 丰 1 通 野 フ 1 ŀ 3/ イ 云 1 フ 所 7 ナ

ミヅグキブリ

3 ッ 7 牛 E 1 1 フ 7 1) カ 1 28 t 丰 カ ス = 子 Æ 1 7 V 1 子 テ 7 サ

妹 教 1 1 サ ٤ ŀ 卿 テ 吾 #11 1] シ 如 1 æ ハ  $\Rightarrow$ 叉 寢 何 1 V : 古 子 テ フ = 17 歌 5 1 ŋ グ 1 朝 1 1% 丰 æ 朋 ١ 7 w ŀ 1 所 我 サ 1 ケ フ 名 7 5 シ シ 3 丰 ス 11 1 2 ナ 1) 7 ツ ~3 V 3 10 丰 ŀ 18 ヲ ナ 7 1 ケ 3 カ 17 1 1) X 7 2, 1) 3 = 3 to K 1 私 カ カ E ナ 1) イ ŀ 云 ス カ 有 或 1 10 1. 10 人 1 云 3 フ

> 考 1 シ 3 Æ 萬 ラ シ シ ツ 15 ッ 葉 7 3 -1 第 t Ili 丰 ١٠ 7 卷 カ ッ 1 カ 歌 ク サ ılı 7 IJ iv 1 云 ユ 普 7 ス 四四 ٤ ナ w 通 1 極 ~3 シ 6 山 3/ 3 7 ウ ヲ 11 1 チ ナ フ ッ = ŀ 于 to 工 上上 = 7 3 ŀ 11 7 V 7 1 IJ 名 ۱ر 1) 萬 义 フォ ナ 菜 -1) 17 御 本 縫 私

カミアソビノ歌

神樂ヲイフ

ŀ

1)

毛

1

ウ

カ 111 3/ ケ カ 17. 丰 7 1 11 4 = 2, ケ U 1) 1 t 7 1 サ カ キ 1 7 カ 3 3 20 n

ŀ ナナ 神 7 73 1) 1 工 楠 1% 20 iv T 末 i 1 歌 祝 3 也 フ 歌 1 社 ナ ナ 1) 市 リ 樂譜 ン V = \_ シ 1 神机 150 IJ 1 : ケ V 1] ŀ

7 7 -}-牛 ·V E 7 ツ カ 1 ラ 7 ナ 4 シ 3 7 + 1 to ~Va ٤ 1 E 1 æ : w 力

独 是 云 ツ 7 ŀ 長 -E iv 神 主 卿 1) 4 7 殿 テ 云 ウ 額 YY 御 -40 P 1 崩 丰 樂 1) 沙 E 7 ヤ 让 ク E 好 1 + カ 火 1 12 1) 7 此 ナ = = \_ 水 æ 39 Ł 7 12 丰 1-ス 樣 ılı w キ 7 談 ナ 1 人 1) 所 3 ٠, 而上 大 7 テ カ 力 -2 " 7 諸 -5 E 社 iv 工 1% th ナ 7 7 IJ 木

クシ

12

汉

ナヤ

3

ヲチャ

フィマ

ネ

"

7

ウッ

テ

70

3

v

ハ

カ

+}

ユ

Ŀ

1

3

~

=

キ

カ

シ

ブ

17

但 枕、ソ 取物 此歌 )V リ私云真辟葛ニテ 季御神樂ニゾ ンナ 帝 今世 ラ フ 額 云ナ + シ 共 四 神 辨 ヲ Æ しト云歌ヲウタフトイ 不り用庭 首 サセ 神今 熊 ユ = カ 神 語 ヲウタへ フ ١, サイ カ マ、弓立、宮人、 又神樂譜 樂歌 ツラセ オ 供 ゥ 7 新 カナラズ ウタヒ 御 + ラシ パリ、 火 ナ シ 冠 坳 7 = 3 ŋ カ 會 7 7 ŋ ٤ ノヤ 」異本ニ 取物 シ ハヤウタ、星、其駒 ス 祭 ユ カ F 榊 -1 ラ ナ 本末「ミ ナ 3 キ 7 コレ 葛本歌云 タユフ其 + ŋ 御幣、酌、 J-" 世 = 1 近 首コレ = オ 3 7 ハ ャ 祀 帝 ハ秘歌ト ナ w ッ 7 ハベル ャ 7 = 3 シ ŀ 3 ź ٤ アヤ 7 韓 ガ 1 テ 1 神樂譜 ヅ゙ 7 ジ ŀ 神 ゥ = = カ ス カ ユ 1 是ガ次 ナ 7 テ八幡 チ ŀ ラ ナ ク フ ナ 高一可…考見. 人モ Щ 1. 71 ŋ ナ 供 7 7 ŋ ヲ ス y ラ 一十書 ゥ ッ 市中 神 7 V w シ ラ ダ 近 ナ タ テ シ = 物 ナ 態 1) w 薦 代 1) 1) 冠 フ サ ŀ

ナリ縁ニョセテョメル也

ワ 3 カ 7 サ 1 + 1 ٤ イ = ス ケ 丰 ŋ 1 シ 3 ッ サ ŀ ホ 3 Ł ŀ 3/ ク 7

子

是ハ取物ノ中ノ酌

末

歌

也

但

3

ク

サ

丰

=

ケ

IJ

ŀ

ヒルメノ歌

3 > ソ = ク ダ 7 = Ł = 1 ク 7 カ ハ = = 7 ŀ × テ シ ハ 3/ 3 ッ カ

サ

葉云「 晝目 教長 顯 ラ ٤ 和御字悠記 7 昭云 ソ テ 水 w ル歌ナリ戀ノ歌 IV 侍 卿 メ ス = カ サヒ ゞ , ٤ ٤ ャ 云 w N N ヒル L V ワ ٤ 無此歌 , 叉古 メハ × 風 N v ァ ŀ 俗 メノ ŀ X 3 神 1 1 ) ン ٤ 天照大 拔穗 フ 也 ー「イ ゥ 3 神 = = > 詞 H 乃國 ミムし面 ヲシ 3 ダ ク 歌 神 カ メ ハ大嘗會ニ = ~ 神 リ私云清 アリ米 也 ッ ٧. 歌 カ 丰 也 H カ 也 **シ** 此サ、 叉大甞 本紀云 テ 岩以 ŋ ト、ムメし云々 米飯 Ŀ = 3 米 IV 輔 = + 古歌 アマ 歌 會 ワ 朝 7 ٤ ク ŀ サ ŀ 臣 N ハ ラ 7 7 云 \* 1 用 稻 × 神 = テ 之 オ 叉 工 春 2, テ 樂 ゥ 歌 H 歌 ホ

3 3 3

IJ

1

1)

陸

與國

7

夕歌

チ

野リ

1

w

7

ユ

取ヒク

物

ゥ

チ

7

弓

ナ

4日

イ或

本

ハ

t

ウ

\*

リミコチ

シノ

=

オ

7

7

チ

7

ユミ

ワ

カ

٤

カ

٠,

ス

工

サ

3

カ 3 モ 1 ウ 1%

オ 力 ŀ 子 1 フ +}-ク 丰 t ケ ٢ + ナ 力 p 7 才 Ł = 七 w ホ ン 7 = 力 >

7

基 敎長 帳 院 テ = 3 力 御 111 7 :17 J 大宵 事 X 萬 1. 1. ィ ソ 御 備 æ ス 節 テ テ 1 卿 1% 果 1/1 ゥ 會 " 本 テ 會 iv 會 供 x IJ 云 111 タ 云 大官 [[رًا 以 前巾 7 1 カ = 7 7 12 7. ۱ر オ 7 大 7 承 承 オ ケ グ 物 7 H 7: H 事 テ ウ 7 節 供 ナ 會 和 和 U :15 + 會 物 悠 オ 節 會 ラ ン 1) ノ御 > 工 Z 7 = 備中 會 ナ ナ ヲ 例 ŀ 7 3 ~ = ッ ŀ 主基 ウ 宁 7 Ŀ 3 ŀ w 2 示: 伽 3 ~" 追 午 定 年 新 サ 缸 ヲ ~ 3 フ 2, 後三ケ國 力 > + 行 年 テ 大 + ~3 甞 サ 1 當 米 國 1 新 會 111 1) 17 供 シ ケ ス 然者 事 サ + iv 力 前 會 シ 3 アリ又催 ~ P الم ナ 3 會 物 テ 1) 1 ス 同 一稱 + 暬 V 1) 7 7 ン ブグ = 7 此 私 ラ 云 ナ 1 次 即 1% 月 辰 位 テ 歌 馬 オ テ ナ オ Z 備 古 東 テ H1 400 1] 亦 E 7 ·V 4 如 節 悠 次 \_ 清. 护. 歌 JU ij 7 ッ 2 コンン 記 辰 何 金 抬 會 17 チ 日 12 七 私 丰 御  $\mathbf{H}$ ヲ w 吹

> 3/ 3 T " 3 ·V テ

長 = 1) 卿 V 派记 云 7 4 ヺ゚ " ナ ヲ カ ۱ر 次 ク テ 才 3 ジ X 示 ŀ iv 2. 1 フ 3 3 ナ 3/ 15 Ľ ク 1.0 × 12 E 総 ガ フ iv 1% ク 心 独

集云っき 軟是催馬 共 此 東るイ 歌って 歌 17 = 割 111 1% 汐 注: タカ -\2 数 樂美作 1) ッ = サ 一備 7 5 尤 Ŀ カ サ 前 ラ 以 ヺ 卵 1 國六郡 ヤク カ 歌 w ·y 不 1 也真觀 常 111 V 才 × " 此 カ #11 六 ·V ノサ ---ナ 始 歌 次 サ 2, 上上句 稱 F 73 ラ 歌 其 1 美作 1 ili 關 風 桃 歌 詞 可と書ヲ誤 サ 俗 ŀ श्री। 7 備 谷 1. 之由 71 何 议 71 JII 7 ケ 風 收 V 7 歌 1% 俗 受領 义 シ 世 7 (JI 73 (11 ソ 1% l.º 15 九 補信 कि 711 ŀ

銅

力 本 カ 'n

w

丰

名

愈 = 2

3

u 3/

ヅ

3

テ 7

---

1

1

祝

in

1]

100

カ

ク

>

1

II'X

人

Zi

ラブ

ナ

汉

テ

1

7

= チ 1 ク シ 1%

7 ~ フ テ ク ~ ス = + ナ リ 3/ 1% チ 7 1% リ 7 ケ X 1 -E 丰 3 ョ ۱۷ t

5

7 フ 7 V 7 フ 2 V रंगा 也 =1 V 7 1 = 7 フ 3 -10 テ

:

+

カ

t

ク

×

1

サ

ラ

t

7

サ

5

7

カ

ナ

ノ

1% テ

7 シ サ フ 7 7 ٠, 1) ス 東國 ~3 ス チ ナ テ 丰 ゥ 7 = ス ケ 1 7 ヌ 3 ク 3 ŀ ラ ŋ Æ 叉 ヲ キミヲ 教 3 メルル 長卿 t ナ 云 ラ リ帝 ジ 7 " 7 ツ ウ ガ 7

國ヲイ ミナック 1 = ヹ p 2 セ ッ ガ 法 ス ヲ 華 ケ 丰 經 V = 18 シ 佛 方 X ノ サ 眉 ハ セ 間 ジ 4 X タ 光 ナ X ナ iv ナ リ ガ チ ユ 行 -ヲ 東 モ

昭云夕 ジ 東方一ト 10 メ ナ 都 7 カ 東方 ル人ノ ケ įν ラ ٠, 東國 十方オ 7 ケ 7 タ 歌 ŋ ナ 許 ジ 1 ヲ カ 1 3 フ iv ミ叉諸國 ガ ~3 7 ケ ŀ 3 1. 頫

歌 7 テ ン オ 大略 オ ホ カ ホ 73 7 P w ウ 卷 中 防 釋 = 人 テ 1 7 ガ ラ " 歌 ~ V 7 11 1 w 3 序 ~ ラメ萬葉集 ク 11 15 放 1 カ 光 カ IJ 瑞 ヲ 1. プ中 1 7 1 諸 15 丰 アラ 方 = = 東 7 工

ラ 心 シ Ξ テ テコ ラ サ ソ ズ 方 丰 始 × ヲ ス 7 w ク オ ŀ ポ ハ ツ 釋 力 シ ナ テ + 車 ハ ~3 ナ iv V 能 ヲ

ミチ ノッナ テ クハイ カ ナ " ラハ Æ アレ ŀ シ 1 71 7 7 ゥ ラ = 7 フ

子

能

長卿 ツ ナ デ チ カ ノラ ナ シ モ ٤ • 1 カ 3 X ク w ア 1 V 1. ッ ラ モ シ 7-示 3 ガ フ 7 何 ゥ

路

~

17

3

チ

3

IJ

東

サ

V

力

汉

+}-

ガ

IJ

テ

ガ ナ 等 1 毛 + チ ナ カ ナ ワ 1 キ 1 iv 7 ザ ·}] 7 ŀ -3 1 12 7 = 丰 イ ナ ナ 工 力 = 1 1 IJ フェ フ ク 2 ナ ヲ E 7 ノ、 = ~ 1 = ッ = 丰 E w サ ナ 3 チ 工 二 زر Ł デ モ 1 3/ V クフ 1 ラ w ク 丰 カ カ 18 ナ ッ ナ w = = ヌ 71 于 ラ IJ 工 ` • 3/ ウ ナ 7 ゥ ر ر テ N 1 = 11 シ 7 ナ ラ y ŀ 3 = 丰 ŀ IJ = w ス モ Ł ウ ノシ ナケ ク人 清 ヴ IJ コ = カ j. フ E 5 輔 E ラ v ナ = 子 7 w 云 テ ラ ナ Ł = v K 3 þ キ = 犭 又 t ŀ ナリ +" " 力 3 コ 云 ナジ せ 也 3 ユ 力 テ 7 カ

ワ カ 7 七 " ソ ⇉ アミ = ٤ ヤニ 3 7 = ャ ŋ ラ シ 六 力 7 1 7 カ キ 7 シ

iv

心

ナ

ガ 3/ + ホ ガ シ 7 ハ ツ ラハ 7 ŋ 1 3 ŀ チ 1 ク Æ 3/ p + 7 所 IJ ナ ソ 1) 7 " 才 7 キ 7

サ 7 ツ フ ヲ ラ 島 = 7 ٤ 松 + 1 カ = 17 +)-3 ŀ 世 7 ス ゥ 1) セ 3 P キ = 1 シ タ ッ ユ

敎長 テ 東 ゥ 城 = 里 ナ 野 原 11 Ш \* テ 1 F 木 = シ ゲ 力 ガ 3 西 テ 北 1 南

百七十一

古今集註卷廿

頤

昭

毛 1V 草花 ٥, サ 1. ~ 17 1) ヲ ٦ ケ カ シ 野 V サ 7 ~ 1.0 V = イ セ 1) テ 1 ŀ カ V +" ۱۷ イ > ヲ以 3 フ V 10 ナ I. 18 十二 ズ IJ ッ 7 ユ E 3 V 3/ \_ 3 ゲ 1% 1) ケ 丰 10 ク 7 3 ~V 7 x テ × 松 = 秋

ヌモ

-)1

3

カ

1

六

ク

ス

w

イ

ナ

フ

子

1

ィ

ナ

=

ア

ラ

y

シスノミ

教 申 Ł -1 = 長 7 ٧, 17 1 ヌ 卿 iv フ カ ١ " + ク 3 云 キ 7 17 1 P ~V . 17 カゴ テ カ 水 カ 3 ٠, 17 11 ŀ 7 ナ 1 イ ゾ ク 11 -3 彼 7 ダ 11 國 1 ブ IJ w ナ 事 ク ス 人 7 3 7 ツ ハ カ 1-ヹ 子 7 ス テ ガ ゥ 1 3 オ ハ ス 7 ŀ ホ 7 イ 1 110 7 3/ 70 ス シ 此 ス ウ IJ ダ ^ THY ŀ ŀ = = 名 イ ゾ イ ケ 3

カ 力 7 ኑ\* 1) t = 7 シ V ヅ 5 u シ ~ 京 ウ X ナナ 1% 1 人 = ヌ 7 2 7 ラ カ 1% ッ 12 to ハ 1 丰 IJ ス ク = ナ シ × <u>بر</u> サ イ 2 ノト 1% 2, X 7 3

サ

ガ

3

か

カ

ッ

ク

子メ

1 ク

11

子 ヲ

1 1

E

ミナ

チ

1

才

チ

ツ

æ

1)

3

IV

E

3

5

又

1

3

1)

Æ

ナ = オ E ナ 長 キ U 卿 7 丰 ラ = 云 ヲ 1 V イ = iv ナ 1 ナ ソ ス ナ 1 才 IJ 17 ソ チ ナ サ = ソ ラ ガ 1 ナ 3 3 7 1. U = 1 1 7 ン E フ : IJ ナ 加 ナ イ ツ 澡 ツ ソ 2 ŀ 11 N × モ 習 サ 7 ~3 3/ ス ŋ 1) ナ ヌ × -1)-17 ラ カ ス

> ラ 7 1 = 7 ス 汉 才 ナ 17 7: V ヲ 3 イ 3 丰 ٧, ン サ ~" ٦ = 1) 丰 リ 1 1% 丰 フ ス カ 所 V ŀ テ ナ 7 = デ 3 ツ 物 = " 1 1 = イ 7 ij フ 7 ^ イ ナ E iv iv 3) 文 テ 清 1 ٠ ر 龍 7 輔 ~3 11 > IJ Z ナダクケ x 3 ١,

サ

1 =

ハテノコノモカノモニカ

4

21

7

h

丰

3

カ

111

カ

7.

ナ ナ 3 ツ = tli ス V フゴ ク オ 18 w ラ 15 ス 力 1 tli カ -16 = ユ テ ナ 40 4 70 キ カ カ iv 丰 ٤ 1 ナ 里产 ス ナ ゲ 1% 3 1) チ 1% 70 1] 才 iv テ カ 1 ス 111 水 ナ ·E 2 イ テ ナ 1% ヌ \_ 1 1 .3 1." イ 牛 3 1. 1 71 1 フ IJ 15 T. ナ 7.3 7 ズ 7 10 ナ 1) 1 Ili 丰 ٢ 1.0 E 3/ 1% 3 73 2 扣 ٠, カ 1 义 坂 7 3 E ッ゛ Hi 7 ヹ 71 " =2 ク 11 7.

ナ = = 次 U ナ 1 テ æ 1] カ 才 ~ ナ 1% ホ 1) p 3 ナ ケ E テ 7 カ 7 ナ -7-3 丰 Æ オ 1 ホ 大 义 悲 ブ 3 7 1 速 7 近 子 キ ナ

コキ

カ ٢ ゥ ス

w カ サ 손 t カ 子 ナ ヲ カ サ 中 ヤ = æ 3 シ カ ケ ナ ク 3 u ホ IJ = セ

山 ス ィ 敏 カ カ カ 3 Æ ク w キ ドキ 1-サ 長 ŋ ィ ナ カ フ カ æ フ ٠, 云 v + ヤ Ŧi. 卿 テ w ٤ ナ ス > = = サノ 故 或 詞 喜 信 ŀ ズ ŋ = F = 11 云 ŀ テ ハ to ŀ ハ 也 カ ナ カ ジ = コ 長 中 叉フ ク ナ + 3 カ カ ガ ヲ E ソ u V 3 7 山 ili 3 云 ケ V 3 ヲ = 中 v ク ダ コ ナ w X テ ナ 3/ テ ス 也 = w カ ŀ 工 = 11 7 ドイヒ ク IJ 甲 力 ク ッ ダ ユ ク ٤ サ ィ ヌ v ハ アッツ 非 題 四 カ フ ナ ク 丰 丰 カ ハ v ノ 山 テ 昭 丰 郡 1) 力 子 威 1 テ 中 相 ナ 五 或 7 ク 申 云 1 ヲ ワ カ ヲ カ、ル Ш チ゜ 7 鲆 ılı 侍 賴 7 퍕 ケ 7 タ V = ハ 甲 郡 ŀ > ナ シ 政 ŀ ラ • 17 丰 v 3 ダ 1. イ サ 斐 ラ ッ イ V V = w X ク テ 也 Æ カ フベ 名 關 P 國 Ш 叉 ナ テ F. ٤ п カ 1) 1. ス + 東 > テ w 1 ク ナ ŋ サ ウ 3 = ナ 3 シ 中 ナ 民 IJ ハ 風 ク 3 V IJ ŀ 7 ス ハ = 丰 下 末 1 俗 カ > ナ = 3 2 15 ホ カ = ハ 長 F., 長 p 1 ナ ナ 向 Ti. ユ 17 ケ ソ Ш 詞 音 詞 n ナ Ш 110 カ シ = カ 7 U コ 3 1 ナ 1) ク X カ ナ ス 1 ナ = カ P

> オ Ł w カ ボ 1 子 ッ 丰 ヲ カ ナ 子 ユ シ  $\exists$ w 叉 ヲ 3/ 此 ヤ カ 歌 7 惠 th コ シ 依 ジ有と テ フ ク カ 便二一 ۲ 風 ガ ヲ 子 ۲ 卷,委注 ヲ ŀ 3 2 Æ 申 ŀ カ T 7 æ w

ヤ

カ =

1

ッ

テ

P

ラ

人 敘 3 = 工 IJ ッ テ 清 テ ケ フ 長 中 ハ ク 輔 ゥ 卿 = t カ æ チ ガ 風 云 ガ ラ = 云 ナ ユ ノ ŀ 子 ٤ 2 カ ク 3 ク 7 云 コ 1 ス 也 ナ ~3 シ サ • t ŋ キ = = 人 ヤ ソ w 心 ۲ ^ = ٤ ۱ر カ 7 W ナ カ コ Æ J. = = 1) ズ 1 ガ シ 7 7 フ ヲ ラ 歌 ク ŀ ッ æ ~ ケ 7 カ t 2 テ ナ 7 1 W æ せ 風 ラ ŀ ヲ ユ 7 ハ ク 3 2 w 3 ッ = ŀ 子 ヌ ダ ハ カ ス 3 力 コ w 3 ٤ 10 X 1 ス IJ = 工 チ 12 風 ブ テ = ヤ ナ ٤ ス ヲ = 7 = ス 17 ナ グ F

ラ オ フ ス Æ 1 ゥ 子 テ ラ カ = タ カ ラ ス ハ 工 サ 2 シ オ 7 ٤ ナ w ナ シ 1 ナ IJ Æ

ナ

イ

セ

ゥ

敎 11 カ 7 ス t 長 ス ŋ ラ ゥ 7 卿 歌 齋 2 = 云 宮 ŀ 丰 オ 御 流流 フ 3 ヌ ウ メ 庄 = 献 ゥ n チ  $\exists$ 敷又ナリ ~梨之處也サレ セ サ ラ テ シ = 讀 オ カ 也 ホ ス Æ 顯 ٤ 工 ナ 昭 テ サ ラ 子 云 3/ ŀ\* 麻 テ ズ オ 伊 ヲ 生 ホ Æ 浦 勢 1 ナ ٤ 嶋 ス 1 = 志 w 1 = ハ ナ 1 摩 1 4 國 毛 シ

類 昭 古 今 隼 註 卷 #

ナ w ナ 3 ]-3 X w ナ IJ カ 1% 工 サ 3/ オ :1: ٤ -V

ŀ ラ フ ャ 力 毛 E ~ ~ w ツ ŋ カ 1 ラ ウ 17. 藤 順

チ Æ 7 7 73 w フォ ラ 屯 ツ IJ Ł × = ~ ツ 3 U 3 フ ŀ

私 ラ 云 卿  $\exists$ ツ 丰 ツラ子 = 東遊 V ノ次第 7 ッ 歌 ヲ ~ ツ 7 カ ラ ソ 子 E" ス 歌 N ナ U 東 歌 w ~" ŀ カ

獻,賜,件本,加,披閱 1,賜,|件本,加,,披閱,糺,,邪正,仍多引,,载彼抄,而大略釋,,與義外歌,,先,是宰相入道法名觀蓮被,,注,治元年十一月十七日古令一部依,,梁園敎命,,勘注

重 賜全部差聲

題

昭

有

弘安五年二月廿六日一技了

春齋林恕 侍從 雅 校

百七十四

其中

歌

亦不と惜等體

賴 傳集

扩 文 句 頭 歌 鳥 + 五

諧 歌 + 九

連歌 避

+

病

十二行基

隱題 字數多少 +  $\dot{\Xi}$ 

伊勢一宮歌七人云和泉國阿里斗保志明神託宣因被之会輪明神伊勢御託宣和泉式部參小貴船云 詞 響 歌 -|-İÈ 行 基 并沒羅門僧

傳入

大師親王

神

K 御

歌 明住

神吉

帝

御製

十名

凼

八歲 女歌 + 九 + 七

舞姬歌

十八

歌

十六

乞食歌二十

嬰兒歌 九 歌 二十

胁

中

·讀歌二十二賀朝法

師

額 12

和

布歌

四

二十六

依耻有 與妻別 時

草葉 歌 一十五

為三手 二十七 歌 二十九 八選軍句

歌 可得意隨時 隨事

俊

賴

口

傳

集

叉月歌様々體又待、鳥不、待等

體

加

もらし

Ō

類

三十二

德

太

子

木

四

折句 歌

六

返歌 三十四 似、古而歌勝三十三 にせもの三十 其内返歌不劣返

へトしモ

兩名

三十

五

ほとりの三十七

お

三十六

三十八

參河 月鼠 八 79 十二 橋 四十 应

> 7U **宇**

ひた P H ž な ち むし 0 帶 ほ ろ 2 五 24 n 0) ĮΨ +

0 む Æ 0 かっ h 五

さくさめ五十八 駒 2 つまづ く 五十六

鷄長夜六十二 ながとり六十

计计八

Ш

山 鷄鏡 いろ

風名

立為野马等

四十

鬼腰草 三十九 郭公為三鸎子一證四十 とよはた雲 四十三

石 たまきは ちくまのまつり 代 0 松 3 Py 五十一 + + 24 十九

まる 12 かっ < 五 干 五十 九 七 夜衣返着

 $\exists i$ 

十五 るし

3

h

0

L

五十三

六十

手不り出六十三

	7	え	100	濱	菅	神	い	月	2	浦	し	木	か	つ	lfri.	tz	<	2	石	
たてるひめの九十九	そが菊九十七	えだもしみ九十六	ゆふつけどり九十四	濱千鳥 九十二	管根 九十	神風八十八	いさくめ八十六	月よめは八十四	さやの中山八十二	浦島子箱八十	しのふもちずり七十八	木の丸殿七十六	からすてふおほをそどり	つばめすくふ七十四	血淚七十二	たがたまづさ七十	れはどり六十八	みのしろ衣六十六	石橋夜契六十四	
いぐしたて百	くかだちカナハ	第四句	かやり火九十五	百千鳥 九十三	いなおほせどり九十一	はなかつみ八十九	なつかり八十七	山形築干八十五	ねらひする八十三	姨捨山月八十一	芹摘昔人 七十九	幕木 七十七	しり七十五		玉はくきュナミ	うき木にのれる七十一	かをさして六十九	きみがみけし六十七	荒和祓六十五	
いたづらに百世九	蓮葉の 百世七	したひも百卅五	けさはしも百卅三	わがせ子育卅一	月きよみ百世九	てらん人の百廿七	千びきの石首廿五	裁縫四衣百廿三	おのくえは百廿一	つ わ に も み ぢ ぬ	稲葉の風に百十七	人もすさめぬ櫻花百十五	神祭百十三	山はみかさも百十一	昨日こそ百九	朱のそぼ升百七	あけながらやは百五	おいらくの百三	葉守神百一	
みとのまぐはる百四十	もがみ川百世八	あやめもしらぬ百世六	あやなし、百世四	武巌野は百世二	かいするも百三十	たのきのさいもで世八	あひおもはず百世六	くものふるまひ百世四	ぬれてほする廿二	もとこし駒に百二十	枕のしたに百十八	山もりは百十六	雪の中に百十四	人なしく百十二	みらくすくなく百十	わたりはてねば百八	河社百六	ひなのわかれる四	おきなさび百二	

昭

か

るも

かき

百四十五

にいまくら かきごしに 百四十 百四十六 四

空船を 可」忌事 百四十七 兩三百四十

> 自雲下居 百四十八

觀 教僧都寬 滿 若論 九 百五十一

> 長能道濟 心うき
> 爲義子信教物語
> 大 論 百五 百五

干

式部 赤染優 重流病 次草 此道物語 劣談 前 可賢 百 五十五 兩 物語 百五十四 兩 元次京

百五十三

百五十六 雖少非少器而 可 :好習こ

極

殿

連歌 東三 一條殿 百五十七 御船

遊良暹連歌

靈石詠

歌

俊 賴 口傳集

その もひ れぬをよみがほに なしよくよめ えずいかにしてかは末の こくろもたくみなりし そらをか 人の進さる事たとへば水にすむ魚の 大和尊の なるべ もとりなすべきよくしるものなくよくしらざるもの の中をこひ事に てあそび郭公を待若葉をおしみ雪をお よそおこり古今和歌 ても女に いまに絶 るし九品をあらはしていとけなき事をしること かみの 君を祝我身を憂別をおしみ旅をあ 我秋 ける鳥 る事 ても高 こし 抑 歌に なし 津島 るものなくよくよまざるものなしよま た のぞみておもひをの 0 B あまたのすかたをわ おもひしらざるをしり るふしもなくつゆ お の國 つばさをもたざらむか い の記に見えたり世もあが ほ やしきも 大和 戲 時に春夏秋冬に 世 n の人のめ 國 遊 此 に生 な 道 n ば 習 なむ人 もらせる事もみ š ひれをうしなひ つらしきさまに 神 ~ け るに はれ の代 かっ もしろしとお つけて花をも ち八 カゞ は ごとし \$2 ば尤情 ほにい みい つけても おとこに より今日 ~り人の 病を 8 かっ おは 12 せ 着

俊 賴 口 傳 集 Ŀ

< おくれ 御事なれ まのまさごよりお n くうたひまなばざれ らばにたの とを俊頼ひとり此 づねざれ へだてく むもれて人にしられ つぞめ るし申べ なが つらさをうらむ際では男山 た病 ども我きみもすさめたまひ世 るかごとしやまが الح الح あ 春 12 if L あ 0 てすぎぬ 3 D みをかくめ ては三笠の くれ は 3 Ш からずされ n しらざれば風の 1 べこ べきことあま ば たの は ほく めには ことか あら 4 身の むか をいとなみ ることのは ばさとる事すく つゆときえうせぬ ざるふしどもをたつね 4 B は 雨 すか みた うれ ひ霧 はまち 12 b 0) つのいやしき詞な 12 1= あ 歌 きるへ 前の 1-たの 3 3 へをう にむせびて秋 Ĺ に座せ てい より かっ 0) かっ T かっ をあつめ す あは ちりとなり きことの ず 0 h ~ もしげし かず たへきか Ó tz 12 たづ な 南 の人も る御 たっ 136 L なうに 3 n ^ 王 らに年 のうて B みたまへ むも 36 つく見 to る藤 きんか 0 谷 かっ 0 5 あ \$2 ぎり ども 野邊 ざら みえ をや つく はよ 'n か 0) 12 すみ 月 な 75 12 るこ 0 木 j 78 訊 かっ 30 10 0 12 10 h 13

> のたち とはほかにては にすみたまは 是は素盞鳴 つといふは初の八つもじはそのところに たをとくの たまふ歌也これない何をとくの づちてなづ 級照や片 たりけ ち 館と申 へたまへ るとぞかきつ むとてみやづくりしたまふときに 岡 0 ili よむべ 神 に飯に飢て 0) mit る歌の 1, 0) からずとぞふるさ人 つきむすめをとりてもろ 出 雲國 13 たへた じめなんめ -3, に下りたまひ せ へ字をとくのへ るされ る旅 人 哀 りやく いか かっ 32 親 け よみ たっつ 3 1

まつれ 是は文 り太 てあ を河 0) 步 10 13 DE - 1-珠 場や富 と申 め 救世 22 3 返 返 filli 3 す 也 12 4 利 てよませ まひ なり 否 川 开 0 なれ る 0 0 小 しま it luk うゑ人に 河 ば n 申 給 內 0) とりにうる 絶は け 2 はか 國 13 3 ょ 1-1-御 0) 13 かっ こって دمجد は るなりうゑ 心 カコ 我 前巾 た 3 h のうち る人 て理 佛 カラ 大 ٤ 71 0) 德 御 3 0 は 歌 人 太子 御 L 3 は 12 所 な b 文 3 は をみ 毕 かっ 12 心

T

は

0

3 なり五文字の 抗 歌 3 何 七文字 3 は 例 0 0 旬 歌 只 1 心 今 旬 かっ < は せ 12 T h め

八雲立出雲やへ垣妻籠にやへ垣作

る以

八八重垣

18

歌

5

ふるところ又よみ人の心なり

しらぬ翁にあふ心ちすれ ますかくみ底なる影にむかひゐてみる時にこそ

これは中に七文字をすへたるなり

これは中に五文字をくはへたるなり うちわたすおちかた人に物申すわれそのそこに 君かきまさんみまくさにせん の間に草かるおのこしかなかりそありつくも

これはたてに七文字をそへたる也さまべくにおほか しろくさけるはなに の花そも

れどもさのみやはとてしるしまうさず 混本歌といへるは ある例の卅一字の中に今一句

よまねなり

これはするの七文字よまねなり 朝身はゆふかけまたすちりやすき花の名そかし

これは中の七字の十文字ありて終七字のなき也これ 一のすがたなり 岩上に根差松か枝とのみ社類むる心の有物を

Æ. 折句の歌といふは五文字ある物の名を五句の上 る也 おのくこまち人のもとへ琴をかり

> にやるとてよめ る歌

ことのはもときはなるをはたのまなんまつをみ よかしへてはちるやと

返し

人にしらすなよ君

ことのはくとこなつかしきはなをるとなへての

句ごとのはじめの文字をみて心うべし、

こしといへることをよめる を何の上み下にをきてよめるなりあはせたきものす 沓冠折句の歌といへることあり十文字あること きなはかへさし あふ坂もはては往來のせきもゐす尋ねて問ひこ

ことをよめる 思ひに心もえず返しを奉り給ひけるにひろかた にぞ思召したりけるおみなへしはなすくきといへる 息所と申ける人のたきもの奉り給ひけるに心ある人 これは仁 和の 御門の方々へ奉りたりけるに皆思ひ の御

これは文字のはなすくきをさかさまによむへきなり あやなしるしけしとは おのくはきみしあきにすくなりそますへしたに

俊 賴 П 傳 集 Ŀ

しく おく -<u>L</u> これは伊勢が七條のきさきにをくれたてまつりてよ は なりは お なみたのいろの としへて住 おきつなみ ずいひついけてはてに七文字を例の歌のやうに何を いはまほしきことをあるかぎり何はいくらもさだ め きみなき庭 こくろして みすとい つかりの かちり れにて は抄論后 短歌といふものあり五文字七文字をついけて我 はなのさくにさく むらくさにくさのなはもしそなはらはなそしも いなり詞 て ふていにおなじ歌によまるへ L をかざりてよそへよみたればおかしき が歌也さかさまによむにもすみのまの 2 なきわ く れ もの とまるものとは わかれ よらん方なく これのみまさる むれたちて あきのもみち いせのあまの な 为 なは るは 72 り草 つく のはなをよめ Ę 3 よそにこそみ は 12 わ みやのうちに そらをまねかは かなしきに ふねなかした のむか な人の なり なすく れらか中 るなら たなく 3  $\dot{o}$ め る カジ 8

ひさか ゆくしけれ まきのた はたいちの とくまりまして さためたまひ かけまくも につけてこのころの われもともく たった 0 とも みこによせたてまつるうた T あすかやま かしこけれ 南 あまつみかとを ふたやまこえて かみさふと めのした 人 はこれをまねぶ とも さか いはか かしこ かりこまや まかみか はまく なるべ へんときに くれ くも は 人 九

これはよくしれる人なした これはことばくさらずしてさしことにくされるなり てよめれば短歌 又萬葉集のなかに十文字ある何を二句そへた 似 楽にひらけたるさくらの花はやまたかみ風しや しらくものたつたの山 そわかやとの りききくよしまいはせんふるきえにとくはゆ まれてしやかちくににてなかすもしやかは うくひすのかひこのなかのほとくきすひとり てはなかすうのはなのさけるのへより人 のうちの旋 花 たちは 0 10 なにすくはれ 歌とぞ 旋頭歌 たきのうへの の様に 11 H 3 りと 何 おくらの 3 をすへ か 歌 から

がかへりくるまて、されははるなみたれそくさまくらたひゆくきみ

り例の卅 さりついけてよみてながせるにつけて長歌といふな 申さずた 長歌といひ短歌といへるなり世のすゑの人さだかに あまたのものをい のなきわたりつくといひはつれば歌ひとつがなか すきにかくりてそらをまねかせてすゑにはは かされてなみだのいろのくれなゐはといひて又花す ことにつけていひ はつべき なりこれは ことばにひ みやのうちにしとおもひよりなはすゑまてそうみの どもことはをかへつくいはるくにしたがひつくわた どなをみづのことにかくりたることはいひながすな へみゆる山 の物をいひはつるなりたとへば「あさかやまかけさ これはくさまくらといへる五文字のそへるなりこれ りてなりたとへば「おきつなみあれ には中にいふべき心はするまでいひながせ いうけたまはりしは長歌といふは 字の歌 の井」と本にいひつれば、あさくは人をな 入申け ひくせるに は花とも月とも題に るた いし よりて短歌といへる ñ の歌に したが 0 みまさる なが もあ ひてそ つから <

そのこくろかなはざるなりめ」ともいひてすゑに我名のこといひたる歌なんどめ」ともいひてすゑに我名のこといひたる歌なんどめ」ともいひてすゑに我名のこといひたる歌なんどたのものをよめる歌あり「あつさゆみをしてはるさ

るがごとしてといふなりよくものいふ人のざれたはぶることうたといふなりよくものいふ人のざれたはざれし又體腦にみえたることなし古今たづねたればざれれ、誹諧歌といへるものありこれはよくしれる人な

これやうなる歌はさもと聞えさもなきうたのうるは 誹 すなはち後撰集にえらべることなしとか まし、ことなり公任あひとあひた 納言にとはせたまひけるにこれはたづねさせまし せられけるそれに通俊中納言の後拾遺をえらべ は無術ことなりといひてやみにきとぞ帥犬納言 いぶんたづね侍しにさだかに申人 しきことはなを人にしられぬことにや宇治殿四條大 諧 秋野になまめき立る女郎花 梅花見に社きつれ鶯のひとくくと厭しもをる の歌えらべりもし 推量事にやこれによりてこと あな事 なかりきしかれば りし先達ども 々し花も ければ にす

事を推量 かっ るには か べしきことやなからんとこそ中

時は「夏の夜をみしかきものにおもふかな」といふべ にまかすべ 0 き也さてそかなふべき ん」とすゑにいはせむはわろしこの歌を連歌に といひそめし」といひて「人はものをやおもはさりけ するはわろしとすたとへば「夏の夜をみしかきもの ひはべるなり心のこりて末つくる人に 連歌 といふは例の歌のなからをい しその な かっ らがうち 1 15 2, べき事 ふなり にいひは 本末心 0 せん てさ 心

これは連歌 さほかはの水をせきあけて植 ななん し田 を

め

h

t

まやといひけるところを題する

和

兴久

是は萬葉集の中の連歌也よも b 心残りて末に 自 露の b わ 43 おくに數多の聲す也花の色々有と知 5 つけ ひはひとりなるべし あら は せる如何 わろか なる事なるにや らじとは思 なん へど

是は拾遺の連歌也是二つは相適へり古今には連歌 人心出三今は賴ましに夢に見ゆやとれそ過にける な

これ

後撰

集の

連歌

411

みにく 0 是は常に人の云へるにも似ずつね人いふさまには 是は面白し是らを見て學べ 仇也な鳥の氷に下居るは下より などものこほりといふ七もんじをか 歌の をかくしてよしなき片の歌によみなせり ならばもじをたづねてよむべきなり又なしは よめ 吾宿 葬も葉も皆縁 おもてにすゑながらその 隠題といふは ければまことにかけるもじをたづねてその るなりそのすゑにもさやうなることあ の花踏散すとりうたん野は無れ 成 ものへ名をよむにその 深产 は洗 もんじをかくせ しりうたん ふね 80 0 へ名などい みや 解 を題 る 21 もの 共並にしも住 3 白 歌 を < にする 見ゆ 纽 るも n 3 か

S をよむべけれ まにきこゆ とよめり ものをこはれ 鹿を指 君計覺ゆる人は なべ n T ての詞 馬 ども拾遺に能宣が仲文に むまやといひたるはことたがひたるさ と云人も有ければ鴨を鴛とそ思成べし てなしとい につかは なし原の馬 ひけ 10 p \$2 5 さな 出こん類 11 いてこ 0) 0 3 なき説 むこと とい

とよみたる返事

無と云へは惜む鴨とそ思覽しかを馬とそ云へかりけると讃り是を見るには今といふことばをむまともいふてしとぞみゆるこれはひがごとにはあらじさればかいよは戀のうたといふなりと萬葉集にさうぶんかといかはかだすべきにあらずたいよの方とはないがでとはあらじさればかかずあまたありそれらをさりてよまばおぼろげの人よみいだすべきにあらずたいよのすゑの人のたもちよみいだすべきにあらずたいよのすゑの人のたもちよみいだすべきにあらずたいよのすゑの人のたもちよみいだすべきにあらずたいよのすゑの人のたもちよみいだすべきにあらずたいよのすゑの人のたもちとるへき事のかぎりをしるし申べしふるき歌にもそれらの病どもさりてよめりともみえず今にもさるべしともみゆるは同じ心のもじのやまひといふは詞はかはりたれどもさのおなじきなり

b

ねたるなり 是は山と峯と也山のいたいきを峯といへば病にもち三 山櫻咲ぬる時は常よりも峯の白雲立かはり鳧

へばかはりたれどもおなじ心の病なりこれは又みぎはとなぎさとなりみぎはをなぎさというないなかりない。

三千歳になるてふ桃の今年より花咲春に逢にける哉

るをいふなりり次に文字の病といふは心かはりたれども同もじり次に文字の病といふは心かはりたれども同もじこれも年と世とを病と亭子院の歌合にさだめられ

はのべにといへる文字はおなじけれども心かはるなの五文字のみやまはまことのおくやまといひみやここれはみやまとみやことなりみやまといへるはじめ深山には松の雪たに消なくに都はのへに若菜摘見るをいふなり

はれどもなをおなじ文字なりりありあけの月とよめるは空にいづる月をいへばからありあけの月とよめるは空にいづる月をいへばかこれは月と月となりなが月とよめるは月なみの月な一个こんと云し計に長月の有明の月を待てつる哉

はさるところみえずなさるところみえずなるところみえずなったの論義といふものにたがひに論じたなったいふは都波難をいふこのはなんどをいへるははつといふは都波難をいふこのはなんどをいへるはなのはなをいふ也とはんべれどもなを文字のやまひはさるところみえず

これは叉文字の病なりあさか山といへるはやまはと、淺香山影さへみゆる山の井の淺くは人を思ふ物かは

ころのなくりにごりてい 歌もあまたみの も文字のやまひなりさりが はたいよむべきにやとぞみゆ しともおぼえずまたふるき歌の中にさりどころなき の父母として有る歌 いふは心あさしといふことなれば心かは n ばかならずよむべからむついきに いの病の ふべきなりあさくは人をと あるは たくぞみゆるこの二は歌 3 あながちにさる るとい へど

とていとしもなからんうたのやまひさへあらんはちたるところあれどくせとみえぬがごとしこれらありたるところあれどくせとみえぬがごとしこれらありたるところおくれたるがなかにひとくころおくれ是唆ぎらん物とはなしに櫻花像に耳またき見ゆ覧ののはには霰降らし外由なるまさきの葛色付に鳧

にいへり天徳歌合に山ぶきを題する和歌これらはのがるゝところなき病なり此らみな三代集此けふゝり ぬとあす さへふらば といへるふ りなり 棒弓推て春雨けふ降ぬ明日さへ降は若菜摘てん

からもなくや

とよめり是八重山吹の匂ひにはあらずさらばひとへ一重乍やへ山吹を開けなん程へて匂ふ花と頼ん

に櫻花のうたにたりこれにつけてよむまじきかとおもへば同し歌合におなじこれは歌に失とすることなりとさだめられ気がきをこそはいはめときこゆもとすゑのはて文字

あしともさだめられず左のうたの中にもの風にしらすなといへるなもじと [ これをはとよめら 櫻ばなと云へる五字のはてのな文字とにてとよめら 櫻ばなと云へる五字のはてのな文字とにて

歌あはせに
ななをかやうのこといも歌によめるなんめり又同してなをかやうのこといも歌によめるなんめり又同しななをかやうのこといも歌によめるなんめり又同しな腰のみちぬらしのはてのしと末の行方もなしと云

るき歌になきにあらずとおなじいかいあるべきとさだめられたりこれ又ふと讀り是はもとの初のの文字とすゑのはじのの文字を讀り是はもとの初のの文字とすゑのはじのの文字を記しい。

学とおなじきなりと讀り戀しさは同し心に非す共全宵の月をは見さらめや

聲をほに揚てくる舟は天の戸渡る雁にそ有ける 字が七文字あるうた

12 病といへりこれはさるべ 次の七文字のは とよめ と讀りこれ よまねには 秋 るか 風 秋風 の字となり又はしめの五字のは あ らず ての字とおなしきをば體腦 にとよめるあの字とあまのとわた きなりされども又ふるき歌 てのしと に岸樹の 20

ılı 風に解 「露も時 夜の b ιĺι 別り 風 る 一雨も痛く守山は下葉殘らす紅葉しに鳧 と云 氷の も知 際每 らす鳴虫は るに に打出 0 字 な 我か如物や悲か る波や春のはつはな る覽

故 としとあ うたに となりこれともに 鄉 は 故郷は吉野山の近けれは一日もみ雪降の日はなし よるべ と云へるはのじとちかければといへるは る本 きなり病をさること大りやくかくのご あ あ くもきこえずかほどのとがは のじ

ずついきぬ 三 次 歌 ればとが 卅 一字あ もきこえず るを州 三四字 もあしくきこえ

始 0 なと有 3 卅四字 命いきもやすると試 朗 0 あり次の 月の 月影 歌は卅三字ある也始 に紅葉吹 ん玉の 緒計逢 おろす山 んと言 一颪の風 五文 h

> 是らのたぐひ多かれども略 はよしなき文字をそへたるうた 歌にもちゐて人に いてあか駒早~行ませ待乳山待覽君を早 しられたりこれは文字のそろ していはず此 5 云 痯 なよき は 見 D

h

此 てないふれそもと云へるな文字なり 花の色は飽す見る共鶯の塒 0 下 1 手

觸

そも

此ことなしふともといへるふのじなりこれもみなよ きうたにもちるら 村鳥の立にし吾名今更に事なしふ共験 ñ 72 h あ 5 め

Ш やらせたまひてよませたまへる ほさいきの天皇のたかみくらに ものなし神佛御歌はさきにしるし申せり 四 カジ 凡歌神佛も御門后 つにいたるまでその心あるものは より始たてまつりてあやし 御 のぼりては 製 みなよまざる 帝 3 0) か 御 歌 お 0)

是都 ばかりなしめでたくきこゆ むにはいやしきことなれどかくよみお みてよませたまふ御製なりかまどなむどは歌に 高き屋 選りのは 12 じめ 昇りて見れ の高 御 座に は烟立民の竈は 御門の御歌 のぼりて民 は か 32 のす 賑 Ö こにけ 12 よき かっ

俊 轁 П 傳 集 Ŀ.

よみ ずべしさが 75 寸 . の后 暫時 2011 0 御歌に 南 れ背 6 小 とへ 延喜 渡御 天 曆 3 座 0 かっ 御 らけ せ 5 出て排 るに を 御 6 h h

かはらばよむまじともあまたきこゆ らまた カコ 同 なの じおの は 立 B 0 ~ 集を御覽ずべし なれ 間 ば お かくれざらんことばの け h 露は

行基井の御歌

波羅門僧正御返し靈山の釋迦の御前に契てし真如朽せす相見つる哉

にとい ては けて人してみせさせたまひければ にそのときに 行基ぼさつに供養せさせたまひければこのみてら 是は聖武 よろこび あ くやうに b るか ておしきのはなをさきにたて、指たまひけれ かっ ぶか 人に供養せさせたまへと申させ給け ひうるに共に契しかひ有て文珠の御貌相見つる哉 あ 天皇と申け おは りおもひてたちわまたせたまひけるほ は おきざまへゆきてみえずなりぬとばか しめしてとくとすくめさせたまひけ なりておしきに香花をそなへて海 むとてばらもん僧正と申す人まい る女帝の東大寺をつくらせ おしき波に n ひか ば い 給 3 h n j 3 かっ 7 0

> ときの となりか よみてたてまつらせ給 け ておはしけるとぞ傳 るところ也真如といへることは 歌 なり ひうゑも 震 Ш か は なじ心 釋 へたる叉片岡 17 迦 3 如 哥公 也此二人は同 來 0) 法 花 親王の弘法大 まこととい 光光: E じく文 か 4 12 師に るこ まひ

御返事大師 一般 近天 かれはせつかも首 陀ち 變らさり見

12 急り首陀 L とよまれたるなり返事は 本 中の歌に めし るなり傳教 か たればか < 計絕間 もとい ならくのそことによまれ 大 師 < をしれる君なればたいぎやた迄も ふはあやしのたぐ 8 御 歌 7 たく かっ か 1 は る世 しますなりとよまれ ひも のことはりをしろ たるは おない 地獄を し様なり 子: いる 也

是は比叡の山を末迄ことなくあ とだにしらでましますべけれ ればよろづつたへたまふなり たまへ [51] るなりこの人々こそ歌などはさる 耨多羅 ども 我立 るべきよしをよませ わ 相に か 國の 复 ものやある 加有せ給 ふそく

住吉明神御製

夜や寒き衣や薄き片削の行會の間より霜や置覧

是は御 き歌の論義といへるものに爭へることあり鵲といひ 1 ひ る和歌 るにやかたそぎをかさくぎとかける本 てあれ いでた 社 ばそのふたつの社 る木の名なり住吉の なりかたそぎといふ 0 年積りて荒にけ 0) n 御社 ば御門 朽にけるよしをよみ給 は神社の は 二の社 0) 棟に 御夢 もありふる たか のさしあ に見 いくさ せ給

三輪明神御

ては心もえず

ぞいひつ 是三輪の明神住吉の明神へたてまつらせ給 戀しくは訪ひ來ませ千早振三輪山 72 12 3 本杉立てる森 へる歌と

是は住 とてよめ カジ 枇杷 住吉のきしもせさ 覽物故 吉 0 大臣にわすられて親大和守がもとへまか 0 うた 崩 神 0 御 歌と申 傳 に妬しや人に待と言れ へたるは僻言にや伊勢 3 h

是は三輪 ぞしるしにして三輪の 我 かか 輪 宿 し大 の松 の山 0 明 は標 和 神 如何待見 國 0 に男女 もなかり鳧杉村ならは尋來なまし 御 歌 を思 ん年ふ共尋る人も有 Ш あひすみて年來になりに をたつぬとよむ皆放 ひてよ 8 る しとぞ思 南 V 3

三輪の 伊 まひ けにのこり あ たりけるをはりにつけてかりきぬ こひしからむことをうれ b ればちいさきくちなはわだかまりてみゆおどろ むひらきたまへとい ればしかなりさらばわれそのみくしげのなかに くしといふともねが としをかぞふればいくそばくぞたとひそのた ことなしとうらみければ ひちぎりてなくくしわかれさりぬ女うとましながら てわれをみておどろきたまへりまことにことは とにことはりなりたいしわがたいをみてはさだめ れどひるといまりてたが おぢをそれ 女のうらみて年來のなか 勢の け わ 'n n てふたをおほい 朋 ればその もまたきたることははぢなきに 神 神 たりければみわ むが 0 は こらにいれりその おをしるべにてたづねゆきてみ b か ひて 親によませたまへ てのきぬそのおとこまたきた はくは にとい なれ ~ か ひに おとこうらむるところまこ おもひておのまきあつ 0 へりぬいつしか ひけれ たいみえたまへと 山もとくいふなりとぞ どもいまだその體 3 ることな お のしりにさし ばこのなか のいこり あらずやと かり if のみわ B it きた 3 うよ ひ b てみ お ひ n

御

0

祭主

輔

3

御

歌

歌 み式部は 神 13 3 h 礼 け it 御 るとぞ申 るによろづ 輔 市 親 正にわすられ it IT カコ 12 祭主になりては T さんかく っ 3 ナこ たえぬ のみえいれば塵 へた H に候け 0 てきぶ 3) るなないら 身なればか ものく C る人に ねにまうでてよめ زئن 0 ふをい で御 恐も ひとは伊 12 つきて託宣 なをらひ くに あらしとをしれ ふなり 勢國 お () 2 1-L 3 T .づ まし 12

朋 nit 物 思 御 返 13 事 澤 0 盤も 我 身 より 憧にける魂かとそ見る

けれ 鳥居 貫之が 是は ららで 0 2 11)] 137 担 みえ illi 馬 ili 神 計 b にの にた \$2 3 お 0 f 1 より ば あ け H 御 りて か ij 12 12 HI きり どは き思 ば馬 h をよ 學 て落 なが 和 有 神 俄に 泉國 か 3 7 水 らやとをらせたまひ かっる < 耳 る瀧 た [1]] O) b 1-1= 5 nill I 光. girli 御はしますなる カン 聞 0 には えけ 瀬 'n b 0 ij 御 V T 0 王散 は 0 死 3 T 3 とぞ 物 か it しますとた 1-計 とかが h 加 2 物な思 3 0 n つると人 か 御 南 部 め 13 せさ 削 ば 5 (1) どは 3 245 H U 神 15 12 O) 3

け

1

3

0

御

13

しますともしらずすぎ

らは 侍 託宣なりといへ かっ をるすべ 0 丽蒙 は りにけ あ 宜 12 てすぎば馬さだめてたつことをえてん か b ども汝 10 らくしらざ には 1, かっ り貫之た から 和 10 はす 歌 0 1 道をき 力 13 \*L E 22 2 ちまっちに から きと確宜をよびてとへ 36 は るし を馬 8 つつかは 水をあ たる者也以 0 みて 1 b 1 き也 道 から 御 を ばって 神 か 0)

b かっ h 3 7 てとば Z 七曲に にかきてやしろのはしらに を かり てたてり IHI あるほどにむまたちまちに れる玉の緒を貫て ねぎゆるし おし 蟻通しとは たまふとてさめ 0 けて おきて身 知す から かう 2 弘 有 にけ 17.3 3: 1

物之 豫國 わ 73 1/1 因 3 ことにきよまりてい 0 びて h i 注: 12 明 つなが 前 は でり 師 能 カコ をぐし 歌 团 す 3 ff1 水 T 11: 南 0 よみてまい 豫守に だに て伊 師 3/6 ほ 60 か か 豫 1= pill! B 1 (i) やけ がに下て 12 なか 3 て侍 ろく h Ni 6 歌 H 6 せて雨 て一回 12 U 2 はか H 6 侍 るに のみてぐらに Ì) T 30 n 3 け 0 うち 歌この させた ば 5 11 ね 3 ねつなう 0 水 15 け 1 2 12 b まふな 2 0) Ł うゑて 水 む かき 红 3 4 te 12 11 0 0 つけ b お 18 T 1 0) て能 8 3 12 111. T 3 7x 0)

ふしをがみけるほどにには きなる雨ふりてたえがたきまでやます かにくもりふた カジ りてお

Ł 歌のついきにさることもありけりともきこしめせの ぞさねつな申けるこれらよしなきことなれど神の御 すゑなれども神はなをうたをばすてさせたまは そのくち三日ばかりやまずふりてのちには四五日ば れうにかきて侍なりまして人のかたちしたらんもの かりに一度ふりて國中おもふさまになりにけり世の るきものにかけりとむかしのことにやこのころはさ おもはせたけきものくふの心をもなぐさめりとふ いかでかしからざらん目にみえぬ鬼神をもあはれ 天河苗代水にせきくたせ天下ります神ならは神 

みて一つくよめる歌 あさましげにおもひたるおきなどもの七人わな

逆に年も行なん取もあへす過る齢や共に歸ると 數れと溜らい物は年と言て今年は痛く老そしにける 取留る物にし有ねは年月を哀あなうと過しつる哉 老樂の來んと知せは門鎖て無と答て逢さらましを 押照や難波しつ江に焼鹽の辛も年は老にける哉

> 事をうれへてよめる歌なりこのころの人はあまた これは老人ど ものあつ まりてい たづらにお つまりたりともおのづからひとりふたりやかくもよ 鏡山 止め敢す宜も年とは言れ鳧然もつれ無過る齢を いさ立寄て見て行ん年經の る身は老やしい覧 ひぬ

- まん七人ながらはおもひもよらず 七 昔人のむすめの八になりけるがよめる歌 神無月時雨降るとも暮る日 も君待程は悲 とそ思
- これもごせちのまひくめなればおさなくこそあ 元 めこのごろの人はこざかしとやにくまむ ごせちの舞姫の 悔くそ天津乙女と成にける雲路尋る人も無世 歌

りけ

はぬことにてありけるにうぐひすのなきければよめ 子にとらせざらければほしとはおもひけれ をつくりたりけるをまくはくわが子にとらせてこの やのもとへまかりけるほどにつちしてちいさきなべ これは小兒のち、は、にあつけておきたりけるが 九 る歌なりちなどほしかりけるちごなれどもむかし いまだちのむ程の子供も昔は歌讀けるにや **鶯はなとさは啼そ乳や欲き小鍋や欲き母や戀** 

歌を讀けるとみせむためなり

時々物をとらせければよめるおもてにをる人はおもてにゐたる人はすさめ、にしおもてにをる人はくとなる。

其後いよ~~哀がりて物をとらせけるとかや行ひを勤て物の欲けれは西をそ賴くるヽ方とて

## 三 蟬丸歌

世中は迎も角でも飽かめて宮も藁やも果し無れにとは逢坂の關にいてゆき、の人にものをこひて世をからる、ものにてゆへづきたりけるものにやあやしがらる、ものにてゆへづきたりけるものにやあやしがらる、ものにてゆへづきたりけるものにやあやしからひたるかとわらひければよめる歌なり

もとのおとこにみつけられてよめる 賀朝法師人のめのもとへしのびてかよひけるに

4のでとこ即返事 見なく共人に知られて世中に知られな山を見る由も哉

## 本のおとこ御返事

盗人にかくりて事顯れにければかくれてゐなか世中に知られぬ山に見なく共谷の心や 言はて思ん

まかりける時に忘るなと申ければよめる

哥尔

おなじことにて遠江國へまかるにはつせがはをわた忘なと言に泣るゝ泪川浮名を灑く瀨とも成なん

さだまりたるとぞみゆる。長谷川渡瀬さへや濁覽よに住難き我身と思へはるとてよめる。

け るに 国 がりておいたりけ ちらさいりけ 三河守なりける人のちいさきめをたてまつり 12 帥大納 ばあまうへ おきものくづしに置て珍しき物なりとてとり 言の母高 るが程 る人のきびしくたづねさせたまひ なくすくなくみへけ 倉の尼公ときこえし人の 12 ちとこ あ b

返事おいたる女房

老果で雪の山をも戴けとしもと見にそ身は冷にける又同じ事にてせなかうたれんとしける時よめるのに近く沖つ白波懸らすは立寄名をも取す有まし

此歌の故にぞゆるされにけるとぞ

五元

帥

内大臣どのと申

ける人のもとにてにはか

草葉に門出はしたり 時鳥までの山路 も斯や露けきけるにほとくぎすのなきすぎけるをきくてよめるにければしとみの許にかきのせておほぢにおきたり

三、うせける日になりて業平中將よめる
こ、良選法師雪の降ける日しなんとしければ讀る
立葉に門出はしたり 時鳥まての山路 も期や露けき

ならんやはならんでもさこそは有けめそらごとよもこまじ物をと思へどもさこそは有けめそらごとならんやは

大かた歌よまんには題をよく心得侍べきなり題 でよむべきもじかならずよむべからざる文字まはして心 むべきもじかならずよむべからざる文字まはして心 をよむべきもじさくへてよむべき文字あるをよくよ をよむべきなり心をまはしてよむべき文字をまへを おらはによみたるもわろしたいあらはによむべきも じをめぐらしてはくだけてわろくきこゆるとぞある だわが心得てさとるべきなり題をもよそのことども なからむおりの歌はおもへばやすかりぬべきことだ なからむおりの歌はおもへばやすかりぬべきことだも なからむおりの歌はおもへばやすかりねべきことだも なからむおりの歌はおもへばやすかりねべきことだも なからむおりの歌はおもへばやすかりねべきことが

さきぬ 0 せ梅 ほ としよりはじめて咲そむることをうたがひ春のむな なりなば山がつのそのふにたてるもの とひあをやぎの の雪かとおぼめき心なき風をうらみ人ならぬ 若菜をかた も心のひくかたなれば干世をすぐさんことをおもひ ほころばせ峯の けてすける心をあはれみ三千とせになるてふ桃 ともくりかへし木のもとにたちよらんことをいひ せ殘の雪の消 \$ 100 のやまべ のにほ るに れば人の みに 12 つけてもさ ひにつけて鶯をさそひ子日 かすみ のこるをば身のはかなき事をなげき花 梢をへだつれば心をやりてあ いとにおもひよりぬ 心もしづかならず白 つみためてもこくろざしのほ のころもきせつれ わらびをうたがひやよひに n ば春 しす ば思ひみだる 0 松に みか 風 へる春 N つけて くがら 12 0 Š. È

ず五月になりねに夜をあかすに

ればあやめ草にかくつけてよむべきふし

くりぬ人の心をう

ぐはつきもせ

3

1=

おぼし身のほどをしらぬ

にひ

かっ

せながきねをた

にむすばずしらぬ山ぢに日をくらしおもはぬふせや

ことをなげきいつしかとほとくぎすをまちゆ

めをだ

しくすぎぬ

るにつけてもいたづらにとし月をおく

ればは ろづに かか 3. Ł すに j とふるにつけてもあはれをもよほ 1 共こゑば 0 0 0 なきとしかとうたが ばの わ あ B à りの ŀ. ñ à しきなごりのこひしさをい 12 なり かなる影をと た なをすべきに あ ばやとおぼへ雲まの 人うらやましく せるは せをまち 北 0 かっ づら か 5 'n il H かりをばとくむべきことをか などするなりか ぜの か なきまでみ をお 礼 心 しさも心うくほどなく は しをもとめて雲の衣をひきかさね つけ V 松 しみ ともわ しき しをあさ おほ つゆ しきも身 かっ げの てわたしもりをたづ もあらず秋のはじめ 身の ひけり火の かぎりありて今は雲 W 多 Æ الم くまじきも かか Ill 岩井の水を 0 (a) < かっ E 13 2 か りさまをもうれ てこゑみな月のほと 0 しみ は へは には つの ぬましで (N) より あら ひつくさ してた 3 É 扫 0) 南 たち からし るに こうち か せやの 荻 あ むすびあ こは Vi 0) 12 おもひ んにも ども ねかさ 1 いづるも か 0) D なばたづ 葉そよとこ つけてもよ らひみ ち うち 浦 もな 社 13 ふべ 1 ることを より け L 秋 O E カコ 3 しま Ď 2017 は たま T 月 しき お ^ 8 3 3 は n 夏 月 3 一大 カコ 0 A

とをうれ もく たく 明む よも てい ふし ゑに ]1[ 6 1 0 あ まをさ から なずくき風 E きまどはせられ たるこくちぞする水の め つの Ĺ しまにすだ 水 1= 2 づ なり 女郎 人に から n は ほにもは 3 6 0 のまさらい 2 にたぐひぬ ら世 D Ili いやし むろ るをまち h 1 花名 しこ n から 3 32 82 へきなどよむべ をか 0 12 1= 31 0) 0) にめ ばた 12 ならひなれ きをもま した おくり Ш を なをさ 0 冬の ٢٠٠٠ تات ことをよろこび草 鵬 道 秋 いとに 1 32 1-30 でら 0 < b カジ 0) ちり 3 もとのやどに 13 うき 岸 祀 刻 n か 3 2. たつ 3. ることをう せあし カ Ŏ \$2 か 12 心 12 は D 0 300 人 13 樞 たの きなり総の は 3 なれ 1--3, 12 12 け T 12 5 1 おの ば 13 W 101-ろづ 3 36 お となに ふりと \_ ばつま きか 川に to 13 U 1 から かっ 3 きいり 3 たく 12 -3 くることたえ W か 11 3 か きの 3 も、 水 52 せ な だまらら 3 てには ~ 歌をも かかか やの 木こり 人に かどう らつも 0 菊 6 12 3) 0 17 刑 12 0) 25 1) 0 ば人し 13 たは 10 一支 b 3 3) 3 (i) なみだ びをとき E -3, つ箱 7 1) 0 7) 1 82 13 17 VD 身 るこ 13 1-\$1 35 は大 から ili かう 12

8 せぬことにてこそ女は男をまつといひ男は女を侍と ひうつせがいのむなしきことを我身によそへあみの ともづなよは さのまくらにむすぶにつけてもいふべきことは盡も をかよひに ひとめをつくみあまのとまやにたびねをしてもかぢ をぬらしあさゆふみるめをかづきよりたる貝をひろ とをなげきつるのうけなることを我身にたとへ がるくともくも井にかくるとも人の心のうきたるこ 物ぞかしこのうらめしさにつけてもさをのさすがに みのふねなどにかくりぬればついきくしは くれがたきとも、落すいかたの過やらずとも、又う づから歌めきぬるものなり又そま山とも、そま川と のたくなはくりかへし人をうらみみちくるしほ づはたにつけても折ふしにいひながしつればお も、心長くとも、 も、くるにつけてもとも、 とにはなにごとかあらむおもひよりなば思ひたゆと ことをもいはんとおもはむにはおもひよりぬべきこ とりかへりぬればこのくれとも、夕暮とも、ひの しとまをむしろにしきてあみのうけをく みとも又たえてあふまじともおもひこ かき聞るとも、思ひみだるとも、し くり返しとも、心細しと おほかる 、あま に袖 0

らくのこぼれてちれるにあらはしねることをいふ たる事をおもひあまりて人にきかせあらはすをい はよむべからずほにいづといふこくろにこめしの もひいでん草木につけてよむべきなりうはのそらに ばうちまかせて春夏よむべきなり秋冬はそのときお 世をもうらみおもふらんとてもゆなむとくさきに はれぬることをうれへきかはたけといひてはなが もいひつればひと夜のことをおもひいで、ねにもひよりなばうきふししげしともいひふゑたけ につけていひつればすぐらかにきこえくれ竹の いふにやこれをぐせぬはつまなしといふつまな それをよまむおりはかるかやに たとへあさねが ふことのあるをおもひわづらひてうれふるを きなりおもひみだるといふは心 るによそへ山にはさしいづる月をなが へ夏は郭公の音にあらはし秋は花すくきのほにい なりこれをいはむとて春は草木のもえいづるに けてもいふは てもすゑの世ひさしかるべきことをついくべきなり いはむとてはあれたるやどくいひ津の國のこやなど くさきもめのめぐみはえいづるをい いかにせましとおも め冬は袖 とお たと あら

おぼろ h のありその集などの歌こそはそれらを具した のふしとすべ ばよしともきこえずめでたきふし B として珍きふしをもとめことばをかざりよむべ はかきつくし候べき大方歌のよしといふ から これらをぐしたる歌とおぼゆる歌すこしをしるし申 心ことばなければ又わろしけだ り心あれ共ことばかざらざれ らざら めれそれ おほかたかやうのこといもは盡もせぬとも おぼえずことばかざりたれ げにては くよむべしとにはあらずたとへば をりにはこれをみてかく心得てさるべ を御覧じて御心をえさせたまふべ しこれらを具したら なっか もぢずりなどに U かくべ どもさせるふしなけれ ば歌おもてめでた からず金玉集と くら か くお あれ ん歌は末の世には Ž. B どもいふなる ~ は心をさき きな しろ えおもひ きならり 3 1 きを h きな 歌 3 L か カコ な 3 B な

ばさる より 波 Tuy 風 吹 者の立山を恐しく獨やこゆらんと は沖 國 つ白波立田 盗 る山 A をい 也その Ш 2 也 よはにや君 山 立 を盗 田 ili ٤ のたつ かっ 覺束なさに 獨 3 越ゆら 13 Ш 大 なれ 和 國 h

= め 岩浦 る歌 吉野川岩波高 賴 戀せしと御手洗川にせし禊神は受すも成上け 袖ひ ひとへにいふなる歌 絶せぬ常磐の山に住鹿はおのれ鳴てや秋 櫻散木下風 なと め筒こめ夜數多に成めれは待しと思そ待に増れる と言計にや三吉野の山も霞て今朝は見ゆ ち 也 沙滿 明 伊 て結びし水の氷れるな 勢物 石 は 0 くれは湯をなみ蘆邊を差てたつ鳴渡 語に詳 浦 く行水の早くそ人を思ひそめてし 寒からて空に 0 朝霧に島隠れ Щ 春立 12 しられ h 行舟を 今日 ぬ事を降け 風や しそ思ふ を知覧 3 

3

け 7: かっ 他所 春立 思ひ出 < 7 から 旦の 耳見てや已なん葛城 3 る常磐の 原の雪見れはまた古年の心 き歌 山の岩 踯躅 然や高間・ 言は以 社 もり 12 地心す 戀敷 物な \$2

Ill

0)

楽の

自

心をさきとしてことはをよめるうた よきふ 思ひ は富士袖 かっ のきし ね 妹許 ふなるこくろことば は清見か開なれや烟し波は絶 もせさらん物故 行 は冬の 伦 0 に妬くや ]1] 具た 風 寒 人に待 3 3 T 鳥 日そなき tz

吹風 に誂付る物ならは此一本はよきよと言まし

よき歌にこはきことばあるうた 風は花の あたりを除て吹け心自や移ふと見ん

野 春霞立るや何處三吉野の吉野の山に雪は降つく へ近く家居しせれは鶯の鳴成聲は朝な~一聞

風情あまりすぎたるやうなるうた

大空に覆ふ計の袖もかな散かふ花を風に委せて 雨の降は に秋の山へを寫てははたはり廣き錦とや見ん 涙か櫻花ちるを惜まぬ人しなけれは

末なだらかならぬうた 五文字こはきうた 副 に今日暮さらんやはと思へ 共耐ぬは人の心也見

黑髪に白髪交り生る迄 夢路には足も休ます通へ共現に一目見し事は非す 櫻花散かひ混へ老らくの來んと言成道 か へる戀には未逢はさる 迷 ふかに

きくにつみふかく聞ゆ る歌

げにと聞ゆ 朋 此世にて君を海松の難らは來んよの蜑と成 日 知ぬ命也共契置 るうた ん此世にてのみ非しと思へは て被かん

ん後は何せん

生る身の為こそ人は見まく欲けれ

有經 有果の命待まの程計憂き事繁くおもはすもか んと思も掛ね世中は中々身をそ恨さりけ

心苦しくいとおしげあ る歌

心ざしを見せんとよめるうた 夕闇は道辿々し月待て歸れ我春子其間にも見ん 笹の隈檜隈川に駒止て 暫時水かへ影をたに見ん

山城の木幡里に馬はあれと君を思へは徒よりそ行 おはたこの板田の橋の崩れなは桁より行ん戀な吾脊子

お 30 かしきふしあるうた びたいしきふしあるうた 待てと言に立も止らて强て行駒の足折れ前の なとて我うたて有戀初劔まとるに床のたしろくく迄

柳橋

ひ たふるく聞ゆ 轉寐に戀しき人を夢にみて起て探るに無そ悲しき 枕より跡より戀の攻くれは床中にこそ起居られけれ るうた

Ш 梓弓思すにしていりぬるを引止めてそ伏へかりける 賤の苔の衣 は唯 一重重ねはつらし率二人ねん

惡からで人にわ かか れけりときこゆるうた

忘なん か て社思ぬ 思心 の付からに有しよりけに物を悲 中は別なれそをたに後の忘形見に

思ひ 女はさぞと見る事をあらが はない 心 賴めこし言の葉今は返しこん我身舊れ 有て問には非す世中に有や無やの聞き欲さに ち 12 るやうにてさすがに ふにこそあれ ねぢけ tz いとお は置所なし るうた しく

はじめの

歌は世

0)

は

b

かなきことをいはんとて花をは

櫻花

散

は散なん散す迚古里人のきても見なくに

物 心得たるときこゆるうた 人知す絶なましかは佗つくも無名とたにも言まし物な 無名そと人には言て有ぬへし心の問は如何答ん

りか

たかりぬべけれ

ども をほ

Si

もの

あ

12

ば世

8

なども又は

なの

花散

へくも

風

ふか

D

まに

お

思ひ かけ 蜑の苅藻に住虫の我柄とねを社鳴め世をは恨みし 方 の吾身 ねふしあ <u>一</u>の 憂 かか B に並 ての世をも恨つる哉

大方歌 をめづることいくばくぞや 春 震 0 ili Š 々ていに に立てましか しはともか し雁 は渚 金は今そ鳴なる秋霧のうへに くもい 酒舟 ひがらなり花を惜み月 木 も今は絶し なまし

かやうにのみよむと思に又ちれとよみたる僻事とも 聞えず 身に替てあやなく花を惜哉 待と言に散らてし留る物ならは何を櫻に思増さまし いけらは後 0) 春 も社 あ

ひふしたるうた 名残なく散そ愛たき櫻花有て世中果のうけれは るうた \$2 うれ かっ 花をあくといはんことあ ごとし 花をあくとよめ て花をすてられ なるくなり次の歌はこぬ人のうらめしさをいはんと もひよりて かやうに山 むれうにいへばげにときこえたり月 でたき世 くもよみけ 飽 足引の 照月を正木の 山櫻飽迄色をみつる哉 かなくにまたきも月の隱るしか山 には風 Ill おしむに の端にげてなんどあるまじき事をさへお 端出て山 るうた たるなめ もふかずとい

のはに入迄月をなか

رن (ن

0

る哉

端入て逃れすし有南

これ ならましかばあやまたずといはましも はこれたかのみこの清見にあそびけるが月とく 大方は月をも愛し是そ此積 んとて月をい るはされども 綱に縒掛て他かて別る君 とひたるにや月の おひのつもりぬ n は人の もの 0 老となる物 78 10 ることを 留 3 もの めむ

のあながちにふかければよき歌にもちゐたるなりこさらば月のためにいとおしくかのみなもはらたちぬさらば月のためにいとおしくかのみなもはらたちぬもにいりなんとしければ業平の中將よめるうた也是

にうとましといふもめてたくこそきこゆれこれはあまねくてらすといふことのまことなるゆへの心はいかばかりぞしらむと聞ゆ

月はあかくよむをめでたきことにすればこの歌こそ月はあかくよむをめでたきことにすればこの歌こそうなったとのかがといへどもつらんとまなくともそらをゆかむかりのかげにうちつらんとまなくともそらをゆかむかりのかげにうちつらんとまなくともそらをゆかむかりのかげにうちなったといふべきなりといへどもならかけといんばいますこしとみゆる秋の夜月かげといふべきなり

かくもよめるは花ちるめでたしといふ心ばへかうぐ照もせす墨も果ぬ春夜の朧月よにしく物そなき

ひすの歌に

かやうによむとこそおもふに新玉の年立返るあしたよりまたるゝ物は鶯の聲

郭公の歌にもゆきやらで山ぢくらしつとよめるとおがなるの歌にもゆきやらで山ぢくらしつとよめるとおからによむとこそおもふに

申さず 夏山に鳴時鳥心あらは物思ふわれに聲なきかせそ かやうによむ心ばへなめり是は郭公のあくにはあらかやうによむ心ばへなめり是は郭公のあくにはあら

三 歌にはにせ物といふ事あり山ざくらをば白雲による山のふることなればいまめかしきさまによみをばか、みのおもてにたとへ様のはなをばいもが衣をばか、みのおもてにたとへ縁をばつらぬくたまとおぼによせ卵花をばまがきのしまとうたがひもみぢをばによせ卵花をばまがきのしまとうたがひもみぢをばによせ卵花をばまがきのしまとうたがひもみぢをばによせ卵花のよるへたるかのこひにかけ祝の心をば松竹のするのよにくらべ傷かめのよはひとあらそひなどするのよにくらべ傷かめのよはひとあらそびなどする。歌にはにせ物といふ事あり山ざくらをば白雲に

らいひくだせるにやなすべきとおもひながなすべきやうもなければいかいすべきとおもひなが

れ又ふるき歌になきにあらずむまじきとぞふるき人々も申けるとうけたまはるこた、みわたせは、心ちこそすれ、わびしかりけれ、かなた、みわたせは、心ちこそすれ、わびしかりけれ、かな

れはふしとよめるあしくもきこえず の祖には霰降らし外山なる正木の葛色付にけり 霜の縦露の緯こそ愚なれ山の錦のおれはかつ散

いえん ばはげに ざるにや うらに 天原 岩注 霞色の千種にみえつるは棚引山 が振放み かぬやうにきこの あ て心うるによくついけつればとがもきこえ < くにくくこそおぼゆれべらなりといふこと しく 垂水の上の早蕨 むか いれは春 ついければ花櫻とい 歌 日なる三笠の ことばなればよきにすべ るはさらでもありねべき 0 )崩出 る春 ふもてる月 山に出 の花 に成 し月 の影 にけるかも かも か Ł

ことばなめりい

もなどいふ詞などてかあしからんと

1 このみよむべきとぞきこゆ らをこきまぜてともよくついけつればみわ たせばといへる五文字もまつのはしろきとも柳 きがみくうつしにてきこの 30 つればはじめの事とついきにくきとりなしつればげ きこえいもがりゆけば冬の 8 あやしとも へどもかくき、そめた म् からず る心 よの るにやとぞ人々申し ればにやあ ちすれ とい へる h どもいひなし つか 歌 たせばと 32 でた みわ 様に コンノン

いゑの櫻をみてよめる貰之の歌よくよみなしつればあしからずとうけたまはるの歌よびにふるき歌によみにせつればわろきぞ今

同題を花山院御製 我宿の物也なから櫻花散をはえ社留のさりけれ

鶯の 我宿 鶯の谷より出 忍ふれと色に出に鳧吾戀は物や思 忍ふれと 紅葉せぬ常磐の山に吹風の音にや秋を聞 細 石 の上も隱れぬ澤水の後ましくのみ見ゆ 聲無りせは雪消ぬ山里い の櫻なれ 顯れ る聲なくは赤く に鳧我戀は物や思 共散時はえこそ心に委 る事を カコ て存をしらまし -3, 3, Ł 誰 2 せさり か知 3 3 0 人と問 まし 問迄 け る院

村鹿の爪めたにひちぬ山川の淺ましき迄問a君哉 神鹿の爪めたにひちぬ山川の淺ましき迄問a君哉 中鹿の爪めたにひちぬ山川の淺ましき迄問a君哉 神鹿の爪めたにひちぬ山川の淺ましき迄問a君哉 神鹿の爪めたにひちぬ山川の淺ましき迄問a君哉

の人申ける返事おとらぬ歌 ちたらばかくしていひいだすまじきなりとぞむかし 返事は本の歌によみましたらばいひいだしおと

返事総しさは同し心に非す共今宵の月を君見さらめや

返事 人しれぬ涙に袖は朽果ぬ逢夜もあらは何に包ん亮にもみるへき月を我は 唯涙におほる折そ多かる

返事 君やこし我や行けん覺束な夢か現かねてか覺てか君は唯袖計なやくだす覺逢には身をも替ぶと社聞け

げにさぞおぼしけんむかし返事をこざかしき人はよ 定めよといふにはあらず我は又もえおぼゆまじけれ き事也返事ともおぼへぬ返事ある歌 れこよひといへる人は和歌の外道なりきくいるまじ こそことの心もうたの心もえもいはぬことにてはあ ひすて、いぬるなりかくよ人さだめよといへること ばすべきやうもなしとていかにもえあらぬよしをい さだめよとよめるはまことに世の中の人あつまりて うにて又もとあはで心むげにねんなきこくちすよ人 りこよひ又あふべくばこそおのづからさだめ夢のや とあはずしてあくる日 はれたれと申めれどもそれが でかよひとしるべきこよひさだめんといへるこそい ひとくはひがことなりさばかりのしのびごとをいか て候なりまづこの歌は伊勢物語のごとくならば又も 掻くらす心の闇 に迷ひにき夢現とはよ人定 ははは かの國 もろくのひがごとに へまかりぬ めよ

返事みすも非す見もせめ人の戀さに綾なくけふや詠め暮さん

此歌すへき心はみずもあらすみもせぬ人のといへれしりしらす何か綾なく分て言ん思ひのみ社しるへ也けれ

俊賴口傳集上

春 三五 はゆふだちとい 3 きたるものはみれども人のたがへずして同返事をい おこのことなり返歌に鸚鵡 んじてあしとも又さもいは ふはまことのひがごとなりかやうにかきたるを御ら べきこの返事 もはじともまことにさもおもは るなりえおもひよらざるをりはさもいひつべ らんとよみたらんうたの返事とぞきこゆるされど かはいづれのところぞたれとのたまへたづねてま るはゆふぐれ ふるめ さみだれ あしからんには古今にいらんやはかくおも みえつるそらごと、又みえなばよもさもお る春 を五月のあめとかきたれば四 のこくろはおもへばたれとか申すす の雨 ひてには にふるべきなんめりまたおほくは 1 別にいふことなしたいし かにふるあめをゆ がへしと申ことありとか れたりとも いうれしともぞよむ おぼしめさん ふだ 月六月の 秋の かと L

にはか かこゆべ にくもりてひとむらさめふりてほどもなくは 宿 0) 心をお のさ綿 らずはつしぐれか B もふにまだきといへるは又秋の歌と 未 た乾け ねにまたき降める初 なといへるは十月空の 時 雨哉

(

れを人の申

3 まのうらなどのねるくほ にはかにかさもとりあへぬほどにてそでをか きにやひぢかさあ ふるあめをいへば冬もしは春のはじめなどに りてい むまじきかとぞおぼゆる又この歌の古今にするか しきなればよめりけりとぞみゆ 時は秋なれどそらのけしきの くなりそのおりのけしきにてありけるにやさ 妹か門 一雨といふはいたくふ かなる事にかみぞれとい 行 過 か 12 めとはにはかに に肘笠の どをい る雨なりぬれ 雨 しぐれのする るさればなを ふはゆきとまじりて ふうら も降なん ふる とおりてはか Hi 雨宿 をい づく也 3. 秋はよ i) よむべ b せん 12

をひろひしきたるを申とかやもなくてわづかにねどころばかりはいたのまねかたはにふのこやといへるはあやしの家のいたじきなどはにふのこやといへるはあやしの家のいたじきなど

實物 云 などの なり又あ をひろひしきたる なりひか 風の名あまた 風とい げ風 けり たとは異風なりひるは その とい ひてなかとみはら ふもの ほ ありげなり かっ にこちとい ありそれ 大方の名 ふか へに も東 3, ず夜 か か ぜあ はは 3 0) か 3. 風 せなり h 風 則 1) 風

とい 心あ らす風なりこれらに歌みなあれどもさせる事なけれ ふいきといふか ふ風 は らしといへるかぜあり冬のはじめにこのはをち ひといへ あ り山 があ 3 3 和 風 り催馬樂にみえたりみ山おろし あり催馬 よりふもとざまへおろす 樂にみえたりしの 風 なり を

る田 쿤 12 木 さだめて家によび ざるなりたとへばとしひさしく そのほどにきたる人はいかにもあひことをだにもせ b の人々をよびあつめて門などさしかためてさわりの さきかめに くはせ饗應してとし木といふ物をきらするなりそ にものよき人のさばかりなきをいくたりともかずを ばしるし申さず にゑすともといへるは春つくらんとするときよろづ でこぬまへにとく、ひ物にしてくひの ゆいつけて家のそのにたて、その年の秋つくりた にはほなかなる木の枝もなきをきりてさきにちい 傷鳥のかつしかわせた贄す共其悲しきた外に立めやは のかるほどになりぬるときに春きりたりしにる 門の みつを入てほどろといふものをしてさき わさ田苅揚て贄す共君か あつめてたぶるにしたがひて物を る中に ありつる 使を返すはつらし くしるなり おや 0

> こめになすなめりわせとはとくいできたるいねをい ほどりのとよめる五文字ははじめてとい とこくろざしあるさまをよめるなりはじ をといへることはいねにてあるをおものにせんとて りにひなるといへるにおなじことにやか きいれであるに君が使ときかばかへさでよびいれん などのめづらしくのぼりてこれ あ け よとい つし め へることな Ó ふとも か 0

ふ也

まれ 兲 昔天智天皇と申ける御門の野べにいでたか 地にむきて空をみる事なしいかにして松のほづえに 南にむきてしか侍りと申け てつちをまほりていたるがたかの間の松のほづえに たかうせたりたしかにもとめよとおほせありけ むかしは野守とて野を守るものありけるをめし させたまひけるに御たかくざながれしてうせに の翁民は帝王におもてをむかふることなし庭上にた いたるたかのありどをしるぞととはせ給ければ野守 かしこまり民は君におもてをむくる事なくうつぶし 箸鷹の る水を鏡としてかしらの雪をさとり面の皺をも 野守の 鏡えてし哉思 il ばおどろかせ給て抑汝 ひ思はするそなから見ん いりをせ it 御 b

す は 3 ほ T 0 n つか カコ 徐 芒 づれがまことなら りと かず 10 君 3 0 b 3 カジ 3 it 也 鏡 ふとぞ け 3 なり 0 ばこれ ばる その うづみ みじ b 12 0 0 さら 30 かっ 0 3 1 t 13 30 かっ 10 0) みは H 1= 10 里产 鏡 ^ たこ 中に わ 3 を守 りとぞ国房の な \$2 人 3 礼 0 この もちと たまり 1 は 心 御 ょ 0 野 13 げ 0 1 3 守 12 カコ す じとおも 3 0 0 0 けは 心 水 かっ こぞり を野 をてら か 10 申 を 3 守 7 Ł 0

なが 鬼 元 年 きた H お となし昔うせ 月 9 る 忠平草吾下に びに して我身 後子 腰草 つもりて公に 兄弟 わ į あ CK b む 1 うち T か 1= 12 か へるは昔人 紐 南 なし 孙 0 あ 1-る人をば つか るうれ いに 付た T ( 10 i むこと年 1 お なし空草草 植 13 T 12 -と鬼の 子 私を つか つかに 12 むやう へをも を二 12 0 0) かっ 7 鬼の やう なげ 人 腰 お 3 もとに b 37 n b 草ことに 5 腰 te 3 U Lo 5 きをも め 3 10 け 3 たり 草 0 10 1 きて 綻 1 1 n わ ば 親う T 12 歸 す L 5 なみ は え 3 3 It 有 V こひし せに 3 12 1 = 1 鳧 お 力多 h 73 3 潮 3 12

とは

L

を

h

をう

て又その

L

3

かとえ

13

り心

12

かっ は

とも

おもひ

わ 兄

する 0) 祖 3 1

1

草をうへて其殿を得

たり

をこ

b

H

n

ば 3

きみは

1-

考あ

4 ば

<

12

とも

ること

なし

n

L

は

お るこ

な

じく Ł

総悲しみ 月をお

てみえ

は

ね

をまは

お

なり

<

おそる

くことな

かっ

君

をまほ

to

Ł 3

お

3.

1 願

0

H は

\$2

をそれ

ながら

ろに

して

哀ぶ所

すく

なからず

我鬼の

HUN.

を得

とも

3

0

を

à)

は

12

-

う

à

又

j h

5

3

わすらかすなれとて萱草をその

0 草は

か

0) 2

は 人

とり

きことからむ人は家にうへてつねに見るべ

なぐさむべ

きやうも

E

15

-3,

お

として 3

お 後

こた

ることなしこれをきけばしをんは

D

其

H か

0

1/4 C) 3:

1-

ā)

3

~

きことをは夢に

みる U 21

こと日

5

12

みる

3

7

ば夢

をも

7 b

め H

37

とい

てこゑや でさ たれ

こひ n 3 ゆること n るとさる み を は は Š う 彌 申 な わ ~ かっ 1 0 1) h は この 古 7 0 其 3 H U 1 わ 1 後 す 1= 3 0 b 北 30 くことなくて in この かっ こゑあり C どもさ E 1= ざむなれとてしをんをうへて とてしをんとい 1 T お は H Ł 0 てこれ をもくらし b ね 1 B ιĽ カジ ち うく きて をへてまわり はその 1= ふ草こそ心 お 0 12 俊 3 みなり 15 でも 7 0) てこの 0 てぐ か 20 か かっ B 1) かっ ~ 見け 0 3 43 15 25 か け 10

る但したしかにみえたる所はなしふるき人の物がたに萬葉集には萱草をばしのぶ草とはかけるとぞ申けくことあらん人はうゆべからさる草なりこれがゆへ

りなれ

ばひがごとにもやあ

らん

みた 四 けるとぞあさもよひとはつとめて物をい 15 又白きとりになりてとび くばか ゆきなんとすたいしかたみをばどくめむとすわれ あ 70 なりい 人に又なりにけりさてこの歌はその てのごひなどして身をはなつことなし むとてその弓をか めさめ ひけるほ つきて行をたづねゆきてみれ かし 朝もよ てりあさましとおもひてさりとては 朝もよひ紀閣守は手束弓許す時なく待夜かる君 手東弓手に取持て朝狩に君 ñ りに つさやむさやとはかりする名なりとぞお 男ありけ おどろきてみるほどに女なくてまくらにゆ あは どにゆめにこの女われはは ひ紀川 n h 搖 たはらにたてくあけくれ手にとり にすべきなりといひけるほ 女をおもひて かくし こめてあ り行水のいつさやむさや~ いでくは ば紀伊國 は立來 るかに南 おりによ の棚倉 月 るかなる所 ふ時 にいたり 日 b か 3 0) 方に雲 みた どにゆ 野に をいふ 3 10 くり 程 は 7 せ h カコ

かしうげにともきこえねどもふるき物にかきた

れば

なればなもならむとぞ侍りし 時作と申右舞 ければまか きてくひけるをみて時作にかくることこそあれ に母のうぐひすの けるやうくい てはしにしるし申たりおぼ ひすにてそのわたりにありきけるとぞ てまかりてけると申しかば文書はそらごとせぬ おほきになりてすよりほかのたけの枝に へ申し候は弟子なりける舞人旁に鶯の子をうみ 時鳥を鶯のこといへるは萬葉集によめり短歌 りてみるほどにほとくぎすと二こゑなき 人 でた の故師 むしをくくめけ ち 大納 にけ 3 言 つかなきことにてあるを 一残の子どもはなをうぐ 程 一殿のもとにまかできみ 1 n の子事 お 3 ほくち 0 てさすが ば をあ

これは世のはかなきことを經文に たまは 野 草根 かに來て其人をくはむととするにげては 露命草の るた 似に露命 ٤ ふるき井のやうなる大なる穴にはしり 根 ば人ありては の懸れ にこそ懸 るを月の n 猶月の鼠の惶急しきに 3 鼠 かなる野をゆくに のな あることくぞうけ わくなる哉 しる程 虎

やうに ぎゆく なり 送り入たりつる虎は此世にて b 1 まんとす是はすでに此 事そこにあ こにまちかくるわ つしてかは をあきてのぼらばくらはんとす眼しろくはのなか かみをみ とくはのしろくながきこと剱のごとしおちいりつる わ りて É あ たる草の にといふも 月 72 るわには りてをちい かきあ ちか かっ 0 をいふなり白きねずみは 世 なく 行 5 ればわれをくらはんとておひつるとら又口 は ねをしろきねずみとくろきねずみとふた 3 のはかなき事をばおもひしりぬ ありさまなどの 我が ありとい りつく草の カジ ぐくひきる途に切れ わにのごとしその 0 かっ 3 あ らばくらは h り目 1 É つくり んとすれ くくらはれ 10 ふたとへなりこれをみて心あ る草 の世のなかのたとへなりそこ 13 12 つもりたる地獄栖 おはきにしてかなまりのご ば ねずみの草の根 をきるねずみは んとおもひておそろ にとりつきたり草の つくりあ 上に立るとらまちては 日黑きねずみは か なんとすおちいらぬ いだたの なばをち入てそ つめ 日月 ~ くひきる to かなり上 みてひ 3 月な 0) 思業 しき ねひ す か 3

72 にはあらぬにや重之が死た だめもなくさばきかはり行 đ) 0 5 0) を見てよめ てよむなりともいへりそれ るものくてをくみたるやうにみゆ むしのてはやつ なる人をこひによそへたる よめるなりその雲のそらに らずして空も心よくてる けたるかた にたるなり とよはたぐもとい る雲の見ゆ 3 たえまより入日の指入り などの かくらんとよめるなり次の歌は いらむとする時 から 夕幕は雲の涯に物そ 風 0 お るがは には りに 3 ふきけ は 12 あればそのくもの たつるは あらずまとのに といふは れば生 ふ雲のは 1= たのあ 西 しの風 12 也 たこ つね Ш 思ふ天つ空なる人懸る身は され なら ぎは るやうに るくものくけざまに もことの なりこれを又くもとい あるものなれ がやうにな れば三日ばかりは たてといふ 1-:JE みし 1 はこよ しきにたて父たく にふか いる のは ればそれ 共とよは đ) ては 13 3 かっ たに似 カコ は h 2 佛 12 くさまん も同事 たら ばう 0 のきに 0 てさ U た芸の ば 月 御 かごと は 10 13 あ たる 削 はぐに なり目 見ゆ ると -1-3. 空

笹蟹の鄭の旗手の動く哉風こそ物の命也けれ

綿

0

海

の豐旗雲に入日差今宵の月は澄

明く

問 これを見れば蟲のてをもくもでといはんとがなし 戀せんとなれる三河の八橋の蜘手に物を思比哉

のやつ だめたることなく所々にわたしたるなりそれがあま あ をたづぬれば河などにわたしたる橋などにはあらず ふものはさだめなしかのやつはしにくもでうつべく それははしにのみうつ物にはあらずたなくどの らをたよりにして木すぢかへてうちたるをい 橋のしたに いひよきに るなりもの たところに これをもかれをもよそへてくもでといふもくものて へてよめるにや もなくおきちらしたるさまのくもでににたればよそ ふるき歌にはさやうにこそはよめれ又はたをさだめ 1000 しおぎ生たるうきの道のあしければたいい 諸共にの たてて あればなむと申なむめりされどこのやつはし よはくてよろぼいたふれもするとてはし つけてやつとはいふにやくもでといふは へかずはかならずやつとしもなけれども わたしたればやつは かぬ三河の八橋を戀しとのみや思渡ん ふれ しといふにひかされてよめるにや ねべきにもうづめればくもでとい しといひならは ふなり たをさ あし した

> 黑 錦木は千束に成ね今こそは人に知られぬ閨の内見め あらて組門田に立る錦木は取すは取す我や苦しき

どりてたつればいふ也とぞしりたりとおぼしき人申 しきゃといへることはたまぼこの棹のやうに斑 なをとりいれねばおもひたえてのきぬ又この木をに りあはじと思ふをとこのたつる木をばいかに ば其後は木をばたてずやがていひよりてしたし その女の家の門にたつるなり女あはんとおもふ男の ときに消息をばやらでたき木をこりて日毎に一そく ていへるにやあしてくむといへるは山 せどまことにはさもなきにやに いれねば千束をかぎりにして三年たつるなりそれ 錦木といへる事は陸奥國の男、女をよば、むと思ふ たてつる木をば程なくとりいるくなりとりいれ めぐりにかきをしてみ つくみにした しきゃといふに つのいやし もとり つれ 色

のくみをもてそのかきをしめたるをいふなり きやどの 錦木は立なからこそ朽にけれけふの細布 胸合はしとや

此けふの細布といふはこれもみちの國 てをりけ 陸奥のけふの細布 るの のなりおほからぬものにて織ける布な 程 狭み胸あひ難き縁もする哉 にとりの

俊 賴 口 傳 集 上

て彼

背ば h n は か りを隱 たば なくて小袖などのやうにて下に h B してむねまではか せばくひろもみじか 160 け きる也され れば上に よしをよむな きる は

恨巾 松 これ 門 もつまじき氣 としける 0 枝をむすびたまひてよみ給 山 は ılı 代 時 里产 の濱 EW 15 天 八皇と申 色を御覧じ 有 松 きまどひ か枝 間 2) 王子 it を引結 3 て石 こてゆ 御門 10 位 ひ真幸 をゆ の位 代 づ 3 りたまは る歌 すり < をさらせ 3 あらは 所 111 にい ざりけ ~ 3311 叉歸 12 まは 12 12 え 見 b ば 7 12 h h

是もそ らんさきに むけとい あ らばとよむ 家に在 へる 程 返こむ によみ給へるとぞ承し は笥に盛飯を草枕 か 111 なじ とかり 心なり松をむすび かっ ひてむすぶ也さてまさしく 旅 派にし有 むすび松 T は 是が 椎 葉 とけざ 心は 1-心 12

人あ めり有 たむく 松をもむすび は 白 間 波 3 12 なり 0 から 濱  $\pm$ h 子如 72 時 松 1 か枝 も 17 b 此 け L たが 大寶 草と 0 まどひありき給よしを聞 手向 ひて花をも 元年に文武天皇と申 草幾世迄にか年のへの覧 るはこれらを中 へみぢをも折 -け すなん よの る御

> 門紀 王子 (III のむすび 國 1= 御 学なり 給 ~ る松を見てよめ て虚 御 とも に人 丸がまい 3 1)

同度義廣がよめる「一般かられを父見けんから」、後見んと君か結し石代の小松かられを父見けんから

な 3 此 1, り冷 はひの所にては 人の有つ 比の人の石 石 泉院 代の る也 岸 の御時、 代 0 とい 3 小 永承四 松 よむまじきよしをい を結びたる人は歸 る所の ば 年の 1 3 しに植 あ 歌合によめ h とは 13 て又見 - \ 3 しらでうせ 3 3 水 也さ は 17 7 2 カジ 12 か・

春 H Ш 岩 右 根 0 松 は 君 かっ 為下 年 (1) みかは萬 資 11/1 代さ

是を大二條殿 座 1 T じと 日とよまれ まひていまだ判 T かっ ちに やみに 石 てさたす 化 させたまひてけれ 1) 0 たら V 尾 り藤氏 6 3 3 1: 右 ん歌 者 0 の長者 专 0) Ut 風 0 なく 歌 は に年 370 3 1, は [幕] 1: にて 白 T ばさることく Ò) 石 か 3 代の 8 にまれ E 殿 32 3 と松 1 1 113 0 1 松 給 وم 11: け とよまれ 17 Mis 沙汰にも 0) 10 れば目 絲 h にさぶらはせ h JE: 7 U 後 沙 るさきに 變 12 法 カコ らさり見 12 はぶ n 1 ど其 3 水

ごとのおこりをおもへば歌合など各よまずいむべし間の王子のよからぬことによりてまどひありきける代の松はげにうせたる人のつかの木にはなくとも有申されけるその人の子の顯實の宰相とぞ申されし石

とぞうけたまは

りし

しく たひけるとぞいひ傳 のもとに なりける人のあやしきわらはになりてつりなど其柳 て流 らかで枝の るとい なみよりた なむしろといへるは 稻莚川 るへが なりてまどい ふなり又川 ねてこの なまた るを 添柳 水にながれてなみよりなんわれ 5 水 原に なむしろをしきならべ 行けは靡 歌をも口ずさびにひとりごとにう ありくに似 なむしろに へたる いね おひたる柳の枝 のほ き起 たりと昔の御門のする 似たり其柳 のい ふし其根は失せす といのびて田 の水 tz 0 んるに似 かくあや にひたり 本ははた 12 12

の神の祭の日戴きてたてまつるなり男あまたしたるの男したる數にしたがひて土してつくりたる鍋を其是は近江國にちくまの明神祭と申て神の御誓にて女兕、近江なる筑摩の祭早せ鍋の數見んなんつれなき人の

吾 女はみぐるしがりてすくなくたてまつりつれ りそれをきくて男かこちかけてしたしくなるなり りて禰宜がえさせたるを女みてさもとお かきた めて神のおまへに さう人あまた 是は常陸の國に にちいさきなべを數に てこそことなおりけれされば大なる鍋をつくりて内 あ あしくよろづに 3 東路の道の奥なる常陸帯かく計にも逢んとそ思 お る帶の びなればやがて御前に懸帶のやうにか おのづからうらがへるなりそれよりと あるときにその名どもを布帯にかき集 鹿嶋の明神と申す神の祭の わろければかずの おくなりそれが中にすべき男の したがひてい まくに るとか 72 もふ男の 日女の てま ばもの づくな つり 名

Ħ. 此 せまりて今はい これはたまきはるといふことなり人のとし たまきは 增 直に逢て見ての千年を玉極る命に替る我戀かなれ 玉きはる内 か 鏡み くし筒あらくたよみと玉極 るには始のにはか つと言め の大野に駒並 くばくもあらじとい や玉 きは る岩 はれりたまとい て朝踏す覽里の る短 垣 命長 淵 ふこと也 0 隠れ くなりねる お š 72 3 かっ

とへばうらなひなんどするやうなることなり

俊

をは 玉とい つ b \u 3 かっ Ò 6 4, n は n T ふことば 5 人 がきふちをほ fz は 8 0) むとて玉 a) 0) をは B 3 b 0 E をよ 2 to め ほ T きはるとは ^ T お む ん心なりこれ め た ぼ よむなり h つか h Ł め お 5 3 b なきことに ٤ 50 ^ 3, る お を n お ばこ あし b E な は b どさも ゎ 次 5 12 何 307 8 ひな 0 1-獣 本 B

返し 垂 てたづ み吉 野 0 田。 面 0) 雁 ż 頓にかずん 君 かっ 方にそ寄と鳴 なる

L

n

る

ほりみよしのくさとな る人にと ょ これ ひけり 吾 伊 方 おも 勢 1 物 父 寄 ひけ は 語 Ł 鳴なる三吉 こと人とおもひけるを母 0 歌 るなり 也昔をとう h すむところなむ 野 0 武 田 面 藏 0 0 雁 國 をいつ دي な に侍 むあ るまのこ b か T 女 忘 な Z h

返し 雲のにも聲 聞 難き物ならに 田 面 0) 雁 に近 < 鳴なん

à 72 ひと 0 傳 b かっ 0 も人 b 無 かっ らまし 12 12 47 申すぞとたづ しきみとて かは 3 は 珍 よの 敷 かっ A やうの 面 ね お 0) ぼつ L 雁 かっ ż ば かっ 知 近 b な 5 カジ 藏 かう れさらまし ほ る 0 國 事 1= 3 な

> の邊 Ł ば本 くな ぞ申 は 0 L 母は み事 Ł h に T か をよ t お かけ かず b け お かっ りするひと はか にて こな け 1= 歌 りはなくべきことに るなむとよめ b るとなくな るをき このあ 8) すみ しとお るされ 8 \$2 るは をし たが 3 3 1 中に け なじ心 てそ 12 女 とこそきこゆれ て人にと思ひ父は 條 3 T る 0 どその ひにす この 女に 攝 3 むすめの 人に 12 かっ 0 なり をい るは 政 H 10 0 女の か 0 3 5 心 とら とり もしか J. 次 ょ 御 歌 をたの 0 かっ 家の ひけ 集な よみ する 72 か b 1= 0) もあらず返 10 鹿が b 歌 から カ 3 b わ とて 削 なは け るさやうに b は 寸 ねとこそは T 色 なり L こと人に をお 35 其 大 ń 0 りとは 艺 1 たかが 集の 滅 をあ す 30 かっ か むとよ とづれ 31 4 11 h T < 0 勢物 E よ rh 史生 12 12 む 0 3 5 きこえず ろ 11 12 3) かっ 12 b 3 ことら to かっ 大炊 ぎり 歌 る B ょ わ え FE 3. よ な 7.5 た 7 せでと 2 カラ 12 H h 0) b 御 かっ b 12 n 1, かっ か 浙 \$5 あ かっ け n 12 12 ね か 5

は あ 萬 は 葉 13 か 集 ざるに 坂 越 せてまち かっ T なを 秋の ょ 田 カラ かっ 的 M b b に居る鶴 なく から 12 12 よしをい か とこそみ b 0 芝 歌 敷 VD 13 71 b 3 13 te 12 3 ども H な雲 2 2 哉

脱沓の方なる事の重なれば井守の験今は有らしな 忘なよ田長に付し虫の色の褪なは人に如何答ん 」のとも我塗替ん唐の井守も守る限こそあれ

のづからか なんめりぬぐくつのかたなるとよめるはめのみそか なしたい男のあたりによる時こそおのづからおつる ひなにつけつればあらいのごひすれどもおつること る我朝にはむしはあれどもするやうをしらずされば 手あしつきたる虫なりこれはもろこしのことなむめ 井もりといへるむしはふるき井などにとかげに似て つるなむめり男とをき處などへまかるとては女のか つくることなしこのあたりによる時におのづから 吾妹子か額の髪や開く覽怪 あ たなりてぬぎおかるくなり りによるときは **\**きたるくつを**ぬげばお** しく袖 に墨の附

> なり をりにはかさなればこそいふらめ文そらごとはなき のかたならんかならずしもやはとはおもへどもさる ぬひたひのかみのひらけむことはことわりなりくつ てつくろふこそよけれ常にか くりたるなみ だにぬ

れたり 五五 らずみゆるなり萬葉集には袖ばかりをかへすとよま 戀する人はよるの衣を返てきればその人の夢にかな 甚切て戀敷時はむは玉の夜の衣を返してそ著る

人にこひらるく人の乗たる馬はつまづくといへるこ 丢 とのあるなり 妹か門出 入河 の瀬を早み駒そ躓く今戀らしも

こひしき人をみむとする時はまゆのかゆきなりそれ 五七 ぞかける もうたにはめづらしき人に見えするときはなひると ひることは人にいはるゝおりにひるなりとぞいへど にとりて左のまゆはいますこしとくかなふなりはな 眉ね搔嚔紐解待覽やいつしか見んも思吾妹 稀に來ん人を見んとで左手の弓取 方の眉ね搔する

兲 今來んと言し計を命にて待にけぬへしさくさめのとし

俊 賴 П 傳 集 Ŀ

につくろふこそよけれ又あぶらわたなどいふものに みひらくといふものあるなり人のかみはぬれぬをり

のかみのこと人をこふる時は女のひ

たひのか

## 返

3 なり これ じと 12 た 10 る後撰 めとは たり めとい 数なら 3 it は人の 17 3 集に 女の しう 3 ること へることしれ むこの ñ とめ 身のみ物うく思にへき待るい あ は 色 この 13 はせ は 刀 0 ひさしくみえざりけ T 異名 自 て国 かっ 0) る人 とじ 1 72 房中 T 1= なりとぞ申し なし とい あ つか 6 納 ふ文字 け 言 行 は 3 成 のまう L 73 け 迄に h 歌 \$2 納 を刀自 3 言 ばし 歌 8 0 成にける説 りとぞき はてのと 1 0) な は かっ うとめ b 1 さく かっ 3 12 <

狩

L 3

\$2

3 は 12 3 此 孔儿 0) 2 ごの 歌 n かしこまりに で年 B 交付! 絹 は 月を をう やうに 朝 よそへてよめ やうに 綱 は 卿 17 う T 72 0) かっ て三年 7 歌 b ち かる H かけ か 也 哀 3 3 b 3 カジ きるも E 5 思覽 あり  $\equiv$ なりかそ ひ ておきた な ざなみ 年までぞ な å) b け から 形 三年 < れば て三 らず は 0) 人に似 b 3 1= いろとは 年 わ 南 け 南 成 ことはひるごとい まで カジ \$2 b n 3 130 3 たれ 足 H な 立 父 1-3 たこ あしと 田 朝 すし た h どもふ ざり を 綱 b か 公家 1 7 D O) 0 け < 1 3 1

> は は

02

なりいざなみの

みことし

は

神

御名なり

谷

き庭の れば とすら てたし ばい なが 人 10 U) L な野とは攝 0 しりのなけ ふぞと 5 たまひけ 息、 息長鳥ゐな野 なの ひそ 長 3 かぎりとら かなることもみえず どりとは h るに 鳥 もい 申 8 猪 狩 À 12 3 津 名山とるみ行 衣 B \$2 1-3 國に有ところ也 ふ也とぞ中 2 で行 は こと 自 10 0 i) n りそれ たり しり 施 つけじとてと なり 0) ることを は It 0 かっ 有 ぎり 水 は 0 \$2 む。 III; 0 ちに 12 ば な カン 0) tli 3 10 人 L かな 夕紫 10 かず 南 波 3 n どり 雄 3 to 3. 0 h 5 は ば たづ 0 也 T L 3 略 立. ٤ 6 何 3 猪 狩 ヲ; Ł n 2 \$2 0 宿 n 3 0) い 12 は 隱 は から 10 な 其 0 ることに は 3 むと tli ٦,٠ か 野 是 AIT. 道) か カコ i, りけ は b h b か Ł Ĥ 7 1 h か 11 T T

うれ 國よ -H かう ひ給 3 U) 歌 Ш b 此 鳥 をわするとい ili 0 だされ またく 鳥 鏡 ili 0 智 の事 尾 鳥 72 ろ な T 0 12 な 12 かっ まつ L 初 せ くことな b Ut 尾 72 か に鏡懸 礼 3 b h 1-て流 みえ 御 女御 わ [11] n 女 これ 学 13 唱ふるにこそ鳴るか 3 10 御 たえてよりきく る事なしむ からかで を見たまひて悦 0) à) また きにたて かっ か 4 L ij h け E 0) 12

俊 П 傳 集 郭公鳴ぬ

る夏の山

ちには沓代出さぬ人や拂ん

の御

嵵

の后

宮の

歌 合

0 歌也

一時鳥とい

ふ鳥

n な は てよめるとぞ たまふことかぎりなしといへりこれがこくろをとり 御きさきにたちてかたわらの女御たちねたみそねみ けしきにてなくことをえたりをしひろげて鏡の面 かり ばかげをみ かぬなめりとて明なる鏡をこのつらにたてたりけ 共さらになかすることをえずこの中 なくこゑまことにしげしなか はする女御のともをはなれてひとり てわがともとおもへるにやよろこべる せたまへる女 に あれば お もん

ほどより にかとお か ども夜になれ 歌は る ものなれば 足引の山鳥の尾のしたり尾の長々し夜を獨 は いもせのなかなれば人のいゑには尾をだに かりてよそふるがゆへにかれが尾もとりの もひてたづぬれば山 山 なが 鳥の n H よの ば山山 をくしもなどなが \$2 ば ながさもたへがたくおもふらん を よめるなりか へだて、ひとつところには 鳥といふことは妻男 きた くよるになれば め しに よめ 鴨寐 あ 3 h à

> 六四 72 る

とならばむかし

Ŏ

歌合にあらんやはとぞいひつたえ

ともせず垣根をつたひて時々つぶやく也此事そらご

りくなりもず丸そのころもよにはあれどあきつか

おもひて契し四五月にきてほと、ぎすくしとよび

するやうにまきのすゑにゐてこゑだか

には

なか

えさせざらめとらせしくつてをだにかへ

にもみえざりければはかるなりと心得 ならずたてまつらんと約束してうせ きくつの料をとらせざりければ今四五 すとはいふべきなりむか

は實事には百

舌鳥といへるとりなりもずをほとくぎ

しくつぬいにてありけると

にけり其後

てくつをこそ

せとらん

あ

一月ば

かりに

此歌 らばよろづにわづらいのみあれ はする一言主と申す神 わづらひもなく人はかよ 修行者の山 は此葛木の山の峯より吉 おとることなし凡夫のえせぬ事を神 岩橋 は葛木山 0 夜 の欲より彼山の峯に 0 と吉野 契も絶 山 1 との問 Da 野山 祈 ひなんとてそのところに へし明る佗 申 0) 专 0) ば役行 拳きでい 神の はしをわたし は 3 )神通 か の誓とはせり き島 者といひけ なる程をめ は佛 はをもて橋 城 たら 通 力に 神

1 3 也 3 六五 ば ば 役行 T 此 にひまは ま は をよ 見 か 0 は に 見え み 給 な 歌 つら h たが b わ < ゎ な月 と申 月 3 12 12 12 ~ < Ŧi. 我 まひ これ をは のご 3 0 月 h 此 12 のまとは T り天照 は 0 遺 蜖 1 Ū. み 祈 ねが 4 とく なす党 と申 3 抄 B つ其 をみ る H ひ を承 3 法 36 は 0 3 1-は 人 施 なくまとは Ł 御 B な n 前 T あ 歌 す わ 2 < わ おそれを b 30 此 は 大に 神 振 0 b つきらり 也 は たさずね は 0 本 てふくろなどに物をい たすこと猶 すみや Ħ, 3 神 大 護 よの 0) 5 0 南 3 を も押並 怒てし すべ 7 な 2 日 ば 法 む S かっ な 忽に と申 なり T 3 1 な は ~ n かっ 12 なす みまを葦原 5 h 人 T 石 カジ 1 か 3 きな C T 此 ょ 0 は 5 ほ かっ かっ す 15 h H H ^ a) まだ なご 今日 て渡 4 は 72 ٤ 12 つら 6 72 くは わ ょ れば空に なく ば よ 0 め دي T は 12 る 0 し給 すべ か 彭 かっ 1= 3 お 2 護 C 稻 をもち わ E 名越の献なそ思 るべ え給 Ĕ 0) るよりそ 12 は は 法 7 承 12 りは 13 す tr 彼 L 南 3 わ 퍔 給 0 とて心 3 しき神 かっ b 3 たるやう 2 で わ 2 12 但 0) 12 か 12 Te 3 な 酺 35 0 日 な 12 め わ b 6 或 木 18 12 h 12 18 T から h T h to 0 1 ば ば 12 他 鄉 形 0 15 12

> な とやをよろ か 君 は 1, 彼 は 0) 43-< 1/1 h T to 11: あまをひ づ 5 0) 577-10 0) 3 j) 湔 His < 0 13 3 1 11: 5 约 3 t, 10 は 物 を 1= この をは つど 3 0 0) ば 63 b ज़िल् 5 3 ~ ~ Ł てとひ U 13 なす 0 長 40 かっ 也 2 あ とさ 12 む h カン 3 す は 3 1: ix す わ THI < ~ 8 0) た きみ た T 2 ち 12 ā)

か

うち 会 は 旅 H け 也 1 是は俊行 T 雪 0 3 ね b お b 道 ٤ ほ 0 は 3 111 降 0 は 72 代 2 D 1 うちぎを 111 かず は は る b ょ 衣 0 3 から ij. ずとも 0 色 7 け む 八代衣 W 月 棄 は 2 12 13 0 H P 12 春 ば ^ 0) 0 次 まは 緣 L 3 朔 打 か 0 お 0 め 5 は ろ は ほ 11 も深 著 かない 3 歌 ٤ 雪 也 b C うちぎを 0 とて 12 也 は か 1 め お 3. 魔装 なれ ぼゆ るに 5 春 3 1 2 C カラ の宮 來 0 め ばとてことさ 3 j たまは 代 8 衣 是 0 とよ づ 1 歌を 3 0 5 1 縫 8 はす 衣 b 20 THE か から t 12 نخ 3 L. b か よめ 11 3 4. 12 \$2 とて 1 水 水 h 老 D 1= 500 きに 3 け よ る 歌 D 3 T

n B せ かっ な かっ 為製化 心 111, 衣 捺 N. そ案行 雁 0 音 B 增 h け 3

空 筑波 根の新桑繭 0 衣 11 か 12 と君 か。 御 衣 L 綾 に考えは

若木 生たる所をいへるなり新桑まゆといへるは桑の木の 此 おもひかけ をりたるきぬ 等二つは萬葉集の歌也つ なるはをは 足玉 しといへるなり次の歌おなじ心なり も手玉 君が身に 12 る人の身にちかくふれたるきぬ といへるなりきみがみけしといへるは じめてこきくはせる為このまゆ も搖に織機の ふれたるきぬならばあやにくに くば 君 か御衣 ねとい に縫て著 へるは桑 なら 木の L h 疝 鴨 7

る也 此 にて人の心ざしおこせて侍けるくれはとりのあやを らため とはそのあやのなをいはむとてふたむら山とはいへ ふたむらつくみておこすとてよめ たりけるを女きくて悦ながら人をこせて侍けれ 歌は公家の 唐 たることありてめしかへされ 衣 立 を惜 使にてあづまの みし心こそ二村 かたへまかりけるに 山 る歌也 の關となりけ て都へまうでき こくれは ば道 とり n あ

とぞいへる

返し

吳織綾に戀敷有しかは二村山も越えすなりにき

無と言へは惜むかもとや思覧しかや馬共言へかりけるかを差て馬と言けん人もあれば鴨を鴛共思成へし

りと奏しける御門あやしみてこれは鹿なりまたく ずしておぼつかなさにたれかわがくたによるべ 門のおろかにおはするけしきを見て國をうばは はしけり其御門の父の王にも似ずおろかになんお b 此 か は 12 思心あるなりけりさは いふに人みな馬なりといふそのときに人々はみ みんとて鹿を帝王の御前に 歌 たによるなりとおもひて王の位をうばひ奉り あらず馬なりあまたの人にとは あらずとのたまひてうたがふに大臣中さくし ける時 此歌のこくろは秦の世に二世王ときこゆる御門 は拾遺のかくし 大臣に て趙高 題 お 臣下といふ人ありその大臣御 のところに もひなが ゐて參てか は しめたまふべ ら人の心をもしら 0 1 4 る馬な かっ な我 しと かに んと け は

占 は 此歌は漢武帝 ひさしくなりぬといひければかくしてそら言をい ずて年來 あ 秋風に初雁金を聞ゆなる誰か玉章を掛て來つ覽 りやと問け あ 武といへる人をつかはしたりけるが りけ と申け れば るを衞律 あるをか る御門の とい 御 ひける人又ゆきて蘇武 くしてその人はうせて 時 胡塞 といへると かっ へら

と心 T 1-U 12 け は け あ てた か あ b 得 0) 12 b ば Ł てまつ かっ しろ b 思 かっ 武 0 3 b 歌 0 は 3 T 8 12 は L 1z りその あ 4 なざる は 7 n め 12 3 44-は 文 12 な 也 かっ りとは を b < 1) け n 御 此 るとぞこれによそへ な か 門 秋 御 鴈 しと思ひてまこと りごとをなしてい 3 0 んじ あ L て蘇武 に 文 を 今 0

これ 河 歌 ば h 5 る 12 T お 2 は ば T 智 h j 也 12 0 0 本文 どに it あ n 水 L 天 11 河 · F め む あまの 0 かっ 浮 ま か 0 12 あ わ 12 水 づ b ٤ す け L 水 かっ / Ŏ 1= 漢武 11 T Ŀ ね おも b \$2 6 1-てま -3 3 j 乘 T 12 12 例 1 ら人 せ給 存 づ 12 12 帝 U b なら 礼 てまか 多 ね行 け めなり 3 7 0 1 h 12 時 3 n 我なれや有しにも非す るところ お け これ ģ は け E 張 1-7 it n T 為 け 1) b 20 りこし ば b 3 0 かっ あ 3 は Ł 5 い 物を なり 叉 n み か で L b 65 l 3 B は 1= ちよろ 7 か ^ 1 この まし しら 5 る人 もに 里 御 な L たてまつ ñ 1-F 3 け ずみ 人 所 12 12 を お しくな い たぐひなく Ja 世 ば浮 所に 12 ぞと 3 3 め で は ź b 72 人 は な 成 0 W 木 it け b b 12 0 7 に見 天 T it な あ は 3 n 5 3

ば

72

ひこぼ

Z

人々なりさてわ

n

は

5

かっ

な

3

上

ÍП.

淚

落てそ瀧

2

白

河

は

君

カコ

代迄の

名

社

有

け

n

3 け なり は n け 水 水 河 西 T 5 n n ぞ あ < もとのやう ざり りそ より ば七 P 0 1= ず ばたづねえて侍 Ŀ ٤ まつり ほどもなくてう **、**たをおりてこ りさてそ 上ならんとい 此 を 15 は かっ 72 L 1 返參 たづ け < 0 歌 は タひこ ひ 5 とり 2 を御 3 ば 御 け け 12 b お É ほ < は 0 ね W ぼ る 12 12 12 をり 門御 河 しら どに かっ 片 b ぼ ば りとぞ 3 B T 373 は V Ŀ. け 0 ひ 張 12 時 3 天 かっ 5 4 5 n to b は T 12 源 3 b D この 給 it 星 文 け ばそ 申 今は で V. じて なん な 天 12 3 F 此 0 0 0 あ ٢ 1= 3 け、 श्रा づ 13 3 0 5 らず 4 B 8 け 3 5 りまことや あ b 12 0 河 0 かっ h To 0 よし ほ え と答 10 ね 9 は 所 T お 0) 0 ^ 3 1001 1 4: b ぼ 給 ども参て 御 2 オレ 0 3 とりにま 12 人 ~ お 6 ひた とや をき さまの な 3 かっ ぼ を h 12 \$2 نج 8 37 もと 0 18 は h 10 のうち L 3 h 張 力 1 30 め きとて め かっ 15 と奏 12 七月 為 から ぼし H 7 à) か U \$2 け てこそまこ かっ H かっ b 1 T b は け あ 七 现 12 ~ 30 12 12 h 8 2 10 43 h は近 It 日 h 3 33 な た 給 11: 12 3 後 は 13 17 inf 713 まし b 3) h 2 (1) 8 天 12 3 11 3 60 3)

か

御門 12 72 m. て泣 て照 まに玉をつくり はりてあたらしき御門いでさせ給けるになをこりず ぎりなしなみだつきて血のなみだをなしけり又世か 不用玉也と を又さきのやうに玉作をめしてとはせ給ければ是又 せ給ければこれは光もなくて不忠用の物なりと申 か び あらんとてみが T 新 ば ぞとて左の手をきりたまひにけりさて又世かは てまつりけるを御門こと玉つくりをめしてみせさ け の 承曆 る帝 ける 御門 卞和と 0 らさ なみだとい 御 が三代 王 12 0) 前 なにし 申け 歌合にも戀の歌に作めりしがいかなる事 0 所 in にて荒凉してはよむまじきこと、ぞ承し せ給 お な かりけ る ろ n くせ給ければえも てたてまつりけれ ^ かに か る事 ば又右手を切にけりなき悲ことが 王 る帝王 ふたび賞をかうふりてぞよろこ 作 くる用なき物をばたてまつりけ おはしますため りさて二代まで紅涙 は あ b おこりあることなりもろこ に又玉をたてまつりける け b 玉をつくりて ば いは 御門 しに ね光をはなち めしてやう 申す事 をなが 御 門に 也 L h it

さは くは れてをして入らせ給にけり b 女御にたてまつりたまはんとせられけるに すどころと申 そへざらんたいしこの玉は n 12 と名付てそれ 子午年生れたる女のこがひするに はきにつくりてる中 どに内より藏 よせて女房などの よくいとなみてすでにそのよになり なりとぞいひつたへたるされど次の歌にむろの木と 玉 なつめが て御車 をほめんと思は 玉といふことば は がれ 1 **\きなどをもいふに** 玉赤蠶 きとは け もとしか け ょ n n せ かまきの榁 ける は時 人御迎にまいりて夜いたくふけぬ ば ばいだし してはきそめさせて祝 著と申 72 乘程 1= 平 きは 10 んにはなどかたまといへ をそへてよめ の大臣 空をあふぎておは この すき 人正月初子の日 か 0 たてにきつるなりと になりて俄に寛平 に子の 木と棗 大臣 やあらんよろづのものごと h 72 おといすべきやうも のむすめなり トきの歌は昔京極 め お ばは とよめ 3 H か本と搔 もの U 小 て出 か かっ 0) 松を引ぐ 1 け る 詞 6 よきを きなりと ·法皇 延喜 ここか は は ましけ n L か 日 3 車 ることば 72 まし 一來よく ほ 御 な 天皇の の か 2 h い庭は る歌 幸 弘 ては h 12 か め かっ め

師 け -{}-見 12 普 3 n 中 ぼ h な か n なく 5 給け を b 法 け 3 3 は た ば 門 12 H かっ 0 Ū. t T n から L b n け 師 0 引入 うから 入 は ば ろ 窓 3 所 所 井 け け とあ ばこ n 0 1 È Ō あ ئ ば 12 0 ろ 眉 うち 370-176 とぞ 女房 h 3 道 h かっ 0 n かっ 12 1= H さらく は ば 43-0 かっ 3 色 0) b づ お しは 老 12 した ほ あ 3 12 お 達 えずあひかり づ よりことの外 づ ね しはか どに に詣 き かっ け 孙 法 0 わ あ 10 3 て水 事: U. より な 3 L 3 さまし 法 7 Ġſij b 43 りつ 1= 3 給 1 か L 申 給 ここを参 2 あさまし 師 1 りに 自 志賀 7 سا ميد U 海 3 U らるくその 12 きり 5 B 3 け たり 36 を見 まは る 昨 b 0 0 きことに 12 か n É 1) 1: 1 け E か ぼ 寺とてことの 1to H h け ば b 志 あ 老 12 13 12 T 3 けるにこの b お n ^ お 智 みえ は か な な 給 50 ば 3 3 かっ E ٤ 12 D とろ みやすどころ なか 寺 カジ せさせた 3 10 け かっ T Ł L 10 10 見 出 ばし H 邊 杖 b D 革 n 1-お よろ ば る 0 1 L ほ h ~ め わ 庵 寺 外 12 (" 0 V 43 T 寸 カコ 御 車 せ 御 T 3: まひ 給 見 次 なと ち カジ 3 0 1= 人 1: W. h 6 11 6 3 返 現 h 0 老 南 か 0 かっ 5 0 申 えし 110 3 法 h 3 n 1 H か 12 物 < 0 0 h V 3 から à 2 U h け

ずな させ と言 ま -2 3 n 後 せ 5 ことな 0 U b 給 もり 人 は雪 1 ば 心 3 て志 E T 1, か 申 T h 年 h ともお 給 なく もし カコ いとな 12 1 2 な お てすこし かっ H 1-賀寺 T 來 か b わ などよりもまさりてゆみ け りとの ることぞ ほ 1 8 ? たす も他 せら かっ け け てと n 0 ることな 8 すに 行 待 12 ばえずまことに ば 弘 1-持 -たまひてみすをすこしま 參 it T 0 侍 此 ñ お 0 5 0 かっ b 6 もや 功 念佛 な 9 七八 T 3 わ 1 とる T 3 0 怕 h くやうに すに b て待るなりと申 15 くらし カラ 0 + は 侍 7 あ 12 B ひなく今一 3 IIII せさせましま 年 12 L b L づらに 4 1-4 かっ 0) h られ 給 5 12 てその b 思 は てあ U H して は は 1 1 1 力; か ~ け カジ そろ なり ٤ かっ す 3 h 12 < It まな 南 度見 此 ず 佛 7 は n T 御 な 3 1 1 世 3 It な 外 後 ば 御 10 すとて 1-0) T L 参に とき TH ば な げ るうた 丁-L n h 3 削 云 きあ 警 む を な 3 ば 到 む 見 け 1-かっ さし まれ ばし ず眉 3 な 3 提 82 お 0) か 7 め 18 とや 5 3 ば 0 け 2. 3 は のことを カン 伙 12 0 T h 6 12 こと お かっ かっ みえ まは との ての 1: 3 ^ L す な h 3) 南 h ろ え T から 南 0

たらばかならず導引たまへと申てなきければ御返事ばかならずみちびきたてまつらん又淨土に生させ給すこの縁をもてもしおもふごとに彌陁の淨土に生なち九十年におよび候ぬるにまだかばかりの悅は待ら

とぞおほせられけるこれをきくて悦ながらかへりにとべにものかだりにいへばひが事とおもふべきに此とへにものかだりにいへばひが事とおもふべきに此とへにものかだりにいへばひが事とおもふべきに此たづねべしその歌にゆらぐ玉のをとよめるゆらぐとたづぬべしその歌にゆらぐ玉のをとよめるゆらぐとなっまがらくといふ詞也玉のをとは命をいふなりさればこの御手をとりたるによりてしばし命なむのびぬはしばらくといふ詞也玉のをとは命をいふなりさればこの御手をとりたるによりてしばし命なむのびぬなしあしめしたらむあしかるまじきなればしるし申なり

にけり叉こと人にむことらむとしけるを聞てむすめ昔おとこありけり娘に男をあはせたりけるに男うせ店「父母は逢んと見えん燕すら二人の人に契らぬ物をある。

玉

鳥てふ大 おそ鳥の 心もて疎 しと人を何

恨

にとつがぬといへることは本文あることなり あはせむの心なくてやみにけりむかしの女の心は今 ばかりつきてまうできたりけりそれをみて祖ども男 りて春おとこもぐせでくびにつけたるしるしのいと にあかきいとをつけてはなつくばくらめかへりきた くらめをとりて男つばくらめをころしめつばくらめ ひければげにさもとおもひて家に子をうみたるつば ぐしてきたらんをりそれをみておぼしたつべ しをつけてはなちたまへさらむに又のつばくらめを のをつばくらをとりてころしてめつばくらめにしる さらばこの家にすつくりて子をうみたるつばくらめ といひてなをあはせんとしければ娘祖 にしてか世にあらむとてさることをばおもひよるぞ こそ死のらめさることおぼしよるなといひければ母 かばありつる男こそあらましかさるほどのなけれ 母にいひけるは男にぐしてあるきべすゆくならまし やうの女の心にはにざりけりつばくらめふたりの男 きてわがしなんことちかきにありさらんをりはいか きくて大におどろきて父にかたりけれ に申けるやう しとい

すをく け 此 B りそ にうちころされ りそれ たりけるにや 歌 め 1-れをみ は とこと は 伊 1-カジ 勢 て子をうみ ずお 0 て家主の 心をよめ あ おとこがらすをまうけて 國 h ルジけ 1 とり **\**ひさしくみえざり けりり n 郡 E るなり 郡司道心 7 ばかいこか あ けるときこゆ めがらす子をあ な 12 b かっ V 1 0) らすの おこして法 3 け Ś へらでく 3 0 Ú 心ば おは 程 1 いま 家に 3 13 (-へはつ カジ 師 男 おそどりと 1 にな から め かっ め から カコ かっ 6 6 13 T きるち す人 ばく りに 1-しう こを す け 0

世 此 実 所 H 1 h 13 1 國 歌 るこ 72 りそのやをばことさらによろづ は おは まひけるに 朝 3 ついませた あさくらとい 倉や もの は か 歌 かっ を本 ゖ L 木 5 天智天 丸 す 3 體と よりて木の 殿 0) n なりさてつ まふことあ 12 名 3 皇 きに名 るところに 吾 机 て木 0) 居 太子にて 12 b 丸どのとはい は 0) 0 1 孙 T 九 b 名 しの 給 ٢٠ 78 都 乘 0 から かしつ 0 2 ^ M け お ફે は びてすみた 名 は O) 3 ^ 行行 を丸 10 せ ひけ け 0 所 h 申 入 で るとき筑 は 18 3 < 誰 0 かっ たへ まひ して る人 いる なり つく 子そ

> ば 房齋 ども 1: W 0 け 礼 かく ~し こっとかい ż るされ は御 院に 3 0) れる つけ 申 てまか かっ H 7 it さし 8 / T L ることな tz あ 0 りい T 3 p び V) 5 H L てよ な る でさり から づとて む b b るま it てや 5 T 1, ~ H 12 ば \$2 ると中 b かっ h 2 12 な かっ た 12 12 3 か ij は け とも 人 It C, でと 43 il 2 3 130 6 な 12 0 問 歌 3 b \$2 らさ よ 3: it V む 3 け Co to b U 女 12

子 13 0) t け 5 とよめ 3.5 孫 初 みなが るを女房 h る事は 1= び 神 一つ開 3 とて 垣 5 To は かっ 齋院 あ < 木 つたえ 9 うけ給り わ 0 は 九 b れこそきくしことなれ け to あ 殿 ば は 12 るとぞ守 くしらざり 1. 3 かっ n あ てこの 11 かず 6 ~ることをく 5 12 房 延 +} 共 名 カコ 0 則 給 てこ 72 1-非 ることく かっ 多 h は 12 0 43 とて 守房は延 しく 1) 木 ね てこの は It お 0 5 12 は 九 人 せら 7. け 此 是 則 12 から 12

この -1-よそ W は 5 3 う カジ 0 ち tz 原 T 2 4} 0 50 カコ B 心 to 伏 ば庭 Ł 12 居 よりて 10 13 は かっ 生 ~ みれ < 3 1-3 帚 は 所 かっ 37 ばうせてときは木にてな 13 木 1 きに似 (j) 13 0 2 有 3 1: ż 11 そこに 0) た 見えて る 13 木 逢 1, 0 恭 す 0) 82 るい 成 4 i) 3 2 战 3 18 0

とよめ

3

なり

大腐院

と申

け

3

齋院

0

御

時人

延則

女房

める木もみえずとぞ申すむかしこそさやうにありけあるといひつたへたるをこのころみたる人にとへば

汽 故大納言清和院の のぶずりをすられ とをついけてよめる也遍照寺の御簾のへりにそのし みすりけるとぞ言つたへた ちの國にしのぶ これ河原の しをよの人々申け 陸奥の 大臣 忍ふ捩摺 の郡にみだれたるしのぶずりをこの の歌也しのぶもぢずりといへるはみ 山庄のみすのへりにせられてあ h てありしを四五 る所の名とそのすりの名 寸 ばかりきり取 h T

語に 龙 たてるをりに俄 これは獻芹と申本文さふらへどかなひ候はずた つらんと あげられたりしみすの 芹摘 れずもの 人の申 おもひけれどもすべきやうもなかりけ ける は 昔の人も吾ことや心に物や叶はさりけん 九 もひい もひになりていかで今一度見たてま に芹とみゆ にかぜのみすをふきあげたりけるに 重の内 あたりにおきけり年をふ でくせりをつみ に朝ぎよめ るもの をめ するも てか けるをみ Ō がぜに 、庭は ふき い物 12 共 ば T 3

まり にみそかごとを好みて陣のとにいでさせ給 この后はさがの后とぞ申けるさもとや思召けん しめしてあはれがらせたまひてわれこそせりをくひ まいらせ僧にくはせなどしけりそれが娘のその宮 をつみて功徳をつくれといきのしたにいひおきてう なりてうせぬるなりそれをいとおしとおもは はあらずしか 泛 としける程 T をあはせてさかさまにたて、侍りけ るもちた かや菓子とおぼしくて長櫃にいれてぞいでたまひけ 女官になりてはべ せにけり其後いひをきしがごとくせりをつみて佛に させるしるしもなかりけれ てその女官をつねにめしてあはれがらせたまひける てさるもの せさにこのやまひはさるべきにてえたるやまひに くといまりにけると物語にしけるとか たまひてたえが てまつりた E 1 見え めに /" りげるが もしらせであきらめてしな たりしやうに ありしことによりてもの りける夫どもや心えた たくおぼえてそれ この物 ば途に病になりてうせ お ほゆれ 語 n をしけ ばか よりそこ とのたまひ りけ ほ ひけ るをきこ に もひに ちた が心 ると

二百十九

事繁し暫時は立れ宵間に

おけ覽露は出てく

7 此 0 わ 歌 W ち 72 は は 6 后 0 やうの 御 け 歌 3 みそか -お りにとぞ は L 人に 12 B おぼ あ 12 3 とき 6 申 n 此 ٤ け る 物 にやとぞ 語を ば 1 承 は h 外

カジ 12 M 8 1= かっ à うじた h 3 る里 りたま きて又か 島 へすか け な n to かり のこか は 水 きてす 72 ば我 T. 3 É 返し たらひてとらせつ其箱をとりて船 け づ 0 へとてかへしけるに へあな あり ひけ 0 浦 b 3 め りこむといひけ b T をつ え 島 ぬ返つきてけるまく し所へ返しやりたまへあからさまに か \$2 かっ n あ 0) かしこあけさ せたまふな は ば釣 b 浦 子 でくとらすとてこの h ば it た の箱 島 とおも あれどもふるき宮このこひしか まことにたのしく る 船にのりてみもしらぬ りけるがをむなに 0 にこの 子 な ひてなにの ٤ n れば o ちいさきは b 女い 無点  $\wedge$ 1= しか る 果等 ざた 5 人 明 は 0 3 0 T Ī おもふこと ま な 悔 こを この おぼさ あ とか b か h L 1= 我 せ 10 かっ 10 T Vt か 0 すむ ぞと h 12 か 3 カコ b ば あ 3 覽 T す 3 2 か ひ 也 b

> すて山 ば此 その 13 所 此 < 0 < 12 ばとし 3 くま きに 歌 おも よは か お 0 お 吾心 沃 歌 ぼ ili か は 13 0 とは よも く明 信 りの う にす お 3 聖 ひをこめ かっ ども か プひ な 濃 慰 な 10 こしに すがら てむ まり なか か b 國 め 力> て い 普 さら ^ b かっ かっ 8 3 12 7 b け づか 人 ね 2 T か 20 b 3 0 b B 也この 月 B 1 2 ^ しく 更 け な \$L にこの め な 0 12 な をみてな h 3 3 ば 0 科 3 3 5 12 こほ E を子 なり おおい みそか なりけ や姨 との お お けり 排 ぼ か 1) B 0 1 捨 えず から 6 心 あ け 12 た け 13 12 L 1 め お Ill を 3 V. H 10 ば T お 1-ょ 12 な 北 ば八月 か 0 を 3 3: 後 3 苍 ば 月 か とり 5 す It す 智 3 n b か -1-見る 0 3 な は b ili to T て開 也 ili Ŧi. から 9 Ill ılı を 13 1:]: ٤ 0) 0) []] 30 1) T 0 12 12 H 35 3,

な は Z 心 せる なく b 10 2 かっ か 3, とは b Ł ひ せる せ É る カコ 5 とは בת 3 事 ね S 3 g を 0 ほ 詞 0) 3 かっ 0 L かっ 1/3 9 11 國 Š 1 か ılı ね 高 0) 8 風 く長 111 B 此 2 俗 3. 悲 哥欠 12 3 國 ٤ 0 か げ ili け 0) け T 13 風 16 1 らなく 3 3 te 俗 部 せ ば 也この ね こをり よ 3 3

T

か

V

7

3

n 3

ばけぶ

b

5

で

〜空に

0

ぼ

h b

D 其 72

後 3

程

な

b

h

け

ば

か

山 ねらひするしつ も我はする哉」ねらひするといへるはしくを は遠江國とするが お のこに の國との しな 中に へたるやさしきこ ある山なり

ことはさすといふ詞也こしにやをさしたればやさし かくよりたるときゐころすなりしなへたるとい て我めぐりにたて、あれば人ともみえね とることなりましばといへるは木の葉をおりあ ばしくのち うめ る

公四 かすがに 月よめばとい 月讀 とい は未 た冬也しか へるは るは さすがにといへる詞也年の内 月なみをかぞふればといふ也し かすかに霞棚引春は立きぬ 1

きとはそへてよめる

也

にこそ心えぬ人心えたる人はみゆ

n

会 山かたつきてといへるは山のふもとくいへる詞 春のたちくるとよめ 雪を措て梅をな戀そ足引 いさくめにときまつまにそ日はへぬる心はせを 人にこえつく」 る也 いさくめにといへるはた 0 Ú 方附 て家居せる君 いし 也

ばしといへる詞 なつかりの のたつそらそなき」 玉 411 江 0 あしをふみしたきむれ 玉江 0 あしとは越前 る

> しかくりのにはかにいでこむも心えずこれらがさた みな人のひがごとくこそきこゆれかりが 鳥のむれゐるなり玉江 なり ゑにむれる 江にはあらずなつかりとはかりがねの夏まであるを いふぞともいひてそれをよむぞともいへる人もあ D るあしをば夏か るとりといはむにもあやしくきこえまた b とは玉の江といふなり水 おきてつみをきた ねならばす るう あ 3

仌 まれてこそはあらめとぞ申さると承りし n といへることなりさらばいせにかぎるべき事か きたれば文字にはかられてふくかぜによめ 神風といへるはふく風には かることふるくよみついくるにおそろしさにえよま の神にもよまむにとがあるべからずとい たきこゆもろく一のひがごと也これは神の御 なりこのころの人もおぢなくよまむものあらばよ 神風や伊勢の濱荻折伏 あらず萬葉集に神風とか て旅ねやす覽荒き濱邊に ひしか る人 ば は他

の國 ると 八四 かっ ども所にしたがひてかはるか伊勢の つみとはこもをい 陸奥の淺香の沼 ふなりかやうのもの の花勝見 且見る人の戀しきやなそ あし も所の名な

12

あ

る所なりあしは秋かるものなるをとくか

る

程

3 à) 5 ž 当 か へる 5 か 浦 で るが 0 かっ なんめ なか ぬまに 2 ごとく り 五. りけるとぞうけたまはりし ふきとてこもをぞ あやめをよめ 孙 月 Ŧī. ち 日に 0 < も人 1= るはひがごとか んはこも ふく の家に なる をか もあや に此 かっ 0) つみ ころ 0) 國 をば には とは は

籠なり
さて侍なりこのはながつみとは、ないどつみいる、きて侍なりこのはながつみとは、ないどつみいる、きて侍なりこのはながつみとは、ないどつみいる、

これは

かひなどした

るとりのつは

さの

な非

きを

な

放鳥翼のな

きをとふ

かっ

5

に行

T

雲

を

思

い

1

h

11.5-

これ 九 b は なが は 菅根 散 山 2 き也 すげ 0 ~ き花 O) 12 ねをい してふ秋 見 る程 は沓 ふ也これがねはものくほどよ 夜は月 根 の長き春 見ぬ人の言にそ有ける H B 短 かっ h 鳬

九 Ł 申 5 あ とりな な るとり 我門 おほ なるそれ りすいめと申人 せどり に稲負 庭な 1= とは つきて心 せ鳥の鳴なへに今日 まは よく じめ もか あ る歌 ふ鳥は T 礼 なく 12 3 どもすいめは 人 なべ 吹風 なしに とつぎをし など申 1= 13 雁で來にける 12 へ鳥と ~ 0 きに ねに きっと

逢事を稍負鳥の数すは人を戀しと惑はさらまし

をつけて山

にはなつまつり

0

あ

3

机

すが 此歌 L で るとは鹿を すか 0 幾 智 12 許 カコ る鳴秋 0) 0 をさとはは H 鳥 18 0) なに 1 0 作ればか時鳥しての田 秋 73 原朝 Ö とくぎすを申 お h 彭 立て旅行 心 あ は す 人を な 3 長を 47 つと 朝 かり 待

これ 申す てよめ ははまちどりのうた也まざれ侍れば 也 忘 なん時 3 111 思へとそ濱千鳥行ゑも知 いらぬ跡 かきし 30 3 罚 13

100 S. 儿四四 うぐひすと心えば 次歌 土 はじめのうたにさへづるは りすなほにうぐひすを百千鳥とか のえ 百千鳥囀る春は物毎に改まれとも つけどり 誰 我門の複 カン 秋木綿 0 みも 質 とはには もり つけ りは あ 食百 Li 1 むとい とり 0) かっ T. HE h 島 な 0 衣 へるは るはとよめ 12 名 立。 する 12 なりには Ш II もろ 0) け 來れと君は來 tH 3 1= わ 1 るうぐ to 付 折 そふ 延二 てこれ 0) いかも也 2 5 鳴く 为行

Ŀ

足引の山田守子か置蚊火の下焦れのみ我戀 夏來れば宿 に燻る蚊遣火のいつ迄我身下燃に 4 h

かやら どふ也よもすがらたけるとみにもえぬ物をあつめて はかと申 には 火をたけば火の 下に火をつけたればきら、かにもえず又きえもやら ときこゆるに の外にたくべからず火のあたりへやるにかなふべき にたへずし されば人のあたりへよせじとて門のあたりにのけ ふ也二にはくらきをわびて火のある所へつどふなり はかといへるむしは煙をたへぬものにてあれば此 ねば下こがるなどはそへてよめるなめりおくか へよるはくらけ こゆる又 ことはりなりされどもなを外へやるぎぞまさりてき ざるなり此 あつさに 虫の 說 あたりによせじとて門に火をふすべていと -二ッのすぢにつきて是を案ずるにけぶり 心ふたし お かやり火とは夏に たへでのけてたくなりとい かやり火は夏することなれば門のうち 門のうちに人のあ ほかれば宿をくとほのけて火をた 'n あたりにつどひて人のあたりに ば火のけにつけてそこのみに なにしていまだこときれず なればか たりにぞたくべき門 12 へることも る なか び は 7 કુ む

なじことにやすくもびさやうのことなめ

は これはむかしかすがのに火の飛ければおそりをな 野にとよむべきなめりほかの野によみたらばひが ことまことになくば飛火の野守といはん て野守をするてまもらせけるとぞ申この野守に とにてぞあるべ お つむほどになりにたりやと問ひたる歌なめりこの 春日野飛火の野守出て見ょ今幾日有て若菜摘 ž ことは春 岩 T H

类 にいはく は木草の枝によめるにまうとかけばえだもたはみ L うすこともよめるにやあらんとみたまふるに萬葉集 みくといへる事はしげしといへることば也おほ 見まく欲我待戀し秋萩は枝もしみ、に花咲に見

九七 にひろごりたるきくをまいらせむ人を賞せんと宣旨 とよめるなをしげしとい をくださせ給たりければよの中の人こぞりてわれ の一本菊をこのみて宴せさせ給ひけりたか かの いろのてこらさ」そがきくといへるは承和御門 家人は道もしみへに通 みゆる池へにたてるそか菊のしか る詞 へ共我か待君か使こね 也 みさ枝の くお ほき

もえだといへるは ٤ 3 E わ さて 菊をいふなりといふ人もあるにやさてはみさえだ いはむこと心 いふなりこれは美濃國 えだといへるなりしづえなどいふやうにし もといとなみつくりてまいらせけるとぞ人申し 本菊 の名をそうわのきくといふなりし おのれといへるなりみさえだとはし の詞とぞ承るそがとは黄な たえだ か みさ

なり御 2 あ < 7 手をさし とはむとてほとぎといへるもの しどけなきこといもりありければといまりにけると やまち かだちとい 甘橿の岡の探湯清けれは濁はむこと心いかいときこの あかみだにせでぞありける初の 神 にい いれ たる人は手のた させてそこをさぐらせけるなりそ のり申てぞしけ へるは むかし いれけ D 3 す るに 人し に世のすゑに にゆをたぎらかし れる民も姓原しき 72 五文字は所の名 あやまたぬ らけ 3 なり 3 n 人 0 T は T

九九 くこゑなむそらにきこゆるとい 照姬 悲しみのこゑ空に 唐 衣 下照 あ 8 姬 わ かみこの の下戀を天に聞ゆる鶴 きこゆるなり又つるの め なりその へることの おとこうせ ならぬ音 さは a) る也 1 12 包 な 3

- げとは大豆をつらぬきてうずのやうにしてかざりに 幣を五本ばかりはさみて田 これ するとぞきこの て酒などもそのれうとてきよくつくり るなりその酒の 00 は田 務串立みわ 含に田 を作時 3 名をみわとは申すなりうずのたまか 据祭る 7 神主の珍の 3 のくろといへ 4 な 1) Ш 玉影見れは乏しも 0) piti まうけ る所 さいつ 1= T たて
- かほにはおりにおこする・・

返し

まもる神の にたてまつりた しはをかりにつかは L かしは木の たくりなさる おは 薬守の する りけ 相 なこれ るうた也葉守の神 したりければよみて批 神 のましますをしらてそ は 年 來家に とは a) 木の 杷 りけ

T これは芹河の行幸に行平 D n の袂につるの つけたりけるとぞおきなさびとは翁なれ カコ たをぬ 1 1 13 納言 ものにしてこの 御 問が ひに 歌を T かっ h 3

12

つもなく

おきなさひ人なとか

めそか

り衣

け

ふは

かり

巣を

大るお

かり

櫻花ちりかいくもれ老らくの こむといふなる みちまとふかに

のといふことをもじを<br />
たさんとていふなり おもひきやひなのわかれに おとろへ てあまの

なはたくいさりせんとは

くあまのすむところによりてものもとめくはんとは 也ひなといへ おもはざりきとよめるなり は小野篁が隱岐國へながされけるときよめ るはあなかといへ るなりあまのなはた る歌

三0年 たまくしけ二とせあはぬ君か やはあはんとおもひし 身をあけなから

辨のつかはしける歌也あけながらとは五位のうへの なを從四位をせでとおもふらんとお しにてありければ四位をして口情三四位をして今年 たりけるに其後賞をかうふるべしとおもひけれども そのこときこえで二年になりて大方に四位すべきと にまかりむかいて思ひのごとくうちえてたてまつり をいふなり は小野好古がすみともが宣旨をかうふりて西國 あけてといはむとて玉匣とはいへる しはか りて公忠

なり

n 河社しのにおりはへほす衣いかに ほせは

かな

あそ

行水の上にいはへる川やしろ 河波たかく かひさら

ふなる

か

是河 心えらるさらば次のうたぞことたがひぬ よりほしたる衣のおそくひるよしをなげきたるとぞ といへる詞にふるき歌にもつねにつかへばたいとく なめりしのにおりはへといへるは詞しげくひまなし ちはやくおはするによそへてとくよりほすといへる 社とは河の上にいはひたれば河の水もはやく神も 集にも夏神樂とかけりた よしをなげきたり神樂にはいかにもかなはず貫之が もきこえずおもひもかけぬ衣をほしてひさしくひ 樂のよしをいはず實にやしろなめりとみゆることは といへり次歌にてはさも心得べし初の歌はすゑに神 樂をする也さ なむめり人の申すは水の上に神社を夏はつくりて神 一社の詞 は れば河社とは川の上にある社 いかにもしれる人なしたいおしはか いをして歌の心をうるに河 る といふ b

二百二十五

旅にして物こひしきに山 あけのそほふねおきにこく見ゆ 本 0

あまのはしぶねといふ舟あり

ひさかたのあまのさくめははし舟の めとしたかべはあきにけるかな

あかしを舟といへる舟 あり

おきゆ くやあかしを舟につけやらん

わかき人みてときのあけんかも

いゑてふねといへることあり

せきふねの堀江こきいつるいゑてふね かちとるまなくわひやわたらん

たなくしをぶねといへるふねあ 入江こくたなくし小舟こきか

あ から小舟といへるふねあり

おなし人をもこふるころかな

津島あしから小舟あるきおほ 2

もろこしぶねといへるふ あやしくも袖に湊のさはくかな めこそかるらめ心はもへと もろこし舟もよせつはかりに ね か

> 松浦ぶねとい まつら舟みたれほそ江のみをはやみ ふ舟 あ h

おほぶね

これらさせることなけれど舟の歌あまたかきつくる いたくなこひそともに ある 4. カ

なり なりたかせ舟つり舟はつねのことなればしゃめつる おほふねにまかちしくぬきこくほとを かちとるまなくおもほゆるかな

よめ るひ はしとも紅葉のはしともいひわたしもりはや舟わた り給べきにもあら 七夕と申は星宿 h 方に心得ら ればいかにし たてる程に め どてか今更に たしもりの せともいひきみわたりなばかぢかくしてよなんども n 延喜天皇のぞかせ給はざらんやは若古今のかきあ 恒 ばか るこひくらしてたまく は天河のふかきあさせしら波たどりて河の る也さることやはあ 貫之が 河淺瀬白波辿りつく渡りはてれは明そしにける 7 72 れの事也又解事よみたらんことを古今に 人をわたすはしるしらずやはあるべき七 明ねれば今はいか てもか たがはん又川 んやは設 あ わ におはしますあまの河ふかしとて返 りてわ たらん ずいかにいはんやその河には鵲 ま てわ るべ たらんとあら 人 ことはさまたげ 々こそあやまちにて入れ もさまでやふか きたい人すら一年をよ 72 かならずあふべき夜な いせむとてあはでかへ りなむものをまし ħ には渡 あるまじわ ~らん 岸に 守な 方 0 7

月の山 に山 にまたあはぬさまにもあるなりたとへば月の けれども歌のならひにてさもよみ又 どもほどのすくなさに b 12 は さるものひとへになしきかぬことをもきくたるやう こそあむめれことたかくものい によせ落葉に もうちみがさ よりい も中々にあは あへる程の 起居まちつることは のことはふるき歌の わたりはてつればとある本もありおぼつか やまりかとおもひてあまたの本をみればみなわた 日なりたまく、待つけてあふことはたい一夜なり其 わたりはてつればとあるは たづね申し てねば よりい のはよりい で、山山 とあり あながちにすくなけれ づるやうによむ也これ かば 錦をよせなどするも人のよみな みゆる 0 ぬやうにおぼゆるなりさればあひた は お で、山山 12 なをわたりはて ろ はい か をこそみゆ ひとつのすがた也戀かなし 一年也日をかぞふれば三 しき人のか あはぬ心ちこそすれ のは るとよむ には あしきなん ふ人 n とは ねば きけ ば實に 0) か いりけるとされど 0 みやは花 あひたれども人 ごとし 5 B とあ るにやあ めい はで あ ありか 3 なさに人 とよむ ひ を自雲 Ш S つか せるに やう はま 0 n ž 5 は n

あ てうれしく はずとい 3 ふなりとこそ 8 12 へ候し 2 から かっ か 申 4 うに まし よめ しこそよめる心ちし るは 南 ひながち

やうに心えつれ ことの て、秋風 八九月にこそ 此歌又おばつかなし四五月ばかりにうへたらん田 とぞきこの みよらめきのふ早苗にてうへたらん田の一夜をへだ 12 か 昨日 かぞふればとしつもりけるとい 1 あら 昨 になみよら 一社早 じ月 るこ Ü け いできとしの 音探し ば何 れは ふとはい 日のほどなくすぐるをいはんとてこ 45 んことはまことにあやしきこと か何 夜へだて、秋風になみよるべ もやすくなり ふなり昨 時 は 0 りい 間 に稻葉戦て秋風で吹 なば H D け ふがごとしか ふとおぼゆ もそよとはな 3 は

此歌又ひがことく なり時こそ月の 1 5 12 二0 汐滿は入める磯 でくるものをみるなんまれなりとよめ たとへ ほ みちひることは 0) みちひ てしは 3 みて ことは でい も中 あへてたゆることなし此歌の心 るに 草なれや見らく少く経らくの多き 日 海 つべしいその草をこひしき人 の底にかくれ、しほひれ にかった したがひ びか てか ならずの るかう は n ども <u>-</u> ک 游 0

> ころに なる れい一日ありて又ひぬれば十日 は もなからましかば古今にい 30 おもひのあ かやうにみえずみゆ たれどもい ちてかくし 人のたまさか は同じことなれ つことのたまさかなるやうによまれ ほ 海の ばゆるとよめ のみちよるにしたが あやまりとうちぎくには 300 しほはみちてはひごろ へあ たるやうに ながちなればみることは たさにつねに にもか ども りめ た るがごとしまことは くれ 7 ることは す) たくこそきこゆれ おぼゆなりたとへば け あたるごとくおぼゆ くれ てみえぬ ひてあらは らがらら 同 め お か 程に ばゆ もは も りてたまく h がつねに かっ なをたまさ か か 12 12 12 12 つか かく 12 す 5 たまさ どいその るなりこれ 3 此 ども もあ 歌 まは るくこと るって ā) かっ 12 は 6 草の か てみ O) 大 12 82

そ日 て笠をさすものならばこそかたちもみざら きこの かざくんかくることをばなにしおは 此歌心得が 二 名のみして山は三笠は無り見 0 光に るされど朝日 もさ たしなからんかさをば朝 くせめな 1 H をみ 0) 光の C まことにて かっ 朝 き心 П 11 夕日の指を云 いなどいひてこ 1 は H んかさを よばずぞ B かり

をもさ、むあながちにひがごとならじといふものなればそのかさこそみえずともなをかさばなにをかざ、むともいはむた、日のひかりはさす

おぼめ、 也すい 歌也いろのくろければすみぞめといふなり質にすみ 是は俊信がながされける時ながさるくときは重服の ひとめ るにやあらんおこするみとすいりのすみとはさしも そむればこの歌よみけんころまではすみしてそめ しはすみしてそめけるをこのごろの人のかね 黑ければすみぞめといふには すみしてはそめむいかなる事にかとおもへども服絹 にてもすいりのすみしてこそくめくいかでかおこす してそむるにはあらず此歌の心はおこすくみして服 衣にてまかるなれば母のそめてつかはすとてよめる 一三 人なし、胸の乳房を畑にて焼墨染の衣きよ君 たらん の衣をそむるやうによめる也たとひすみしてそむる かれたることなれどかやうのことはつねの事 とがなしやかずともくさはもえんとよめ りの墨をよむべからんときおこすくみをよみ らずやされどもかくよむめるは むなどよめ るはこひはいをのなくり人 あらずまことに もむむ あ ふにて るは 2 0 り か

やくすみぞめとよみたらんとがあるべからずのすみもやかずやはある硯の墨をは松の木してやきのすみもやかずやはある硯の墨をは松の木してやきのはないばかよはしてよめる常のこと也又すいり

らぐるものなればさよめ うつはもの きねがといはざらんといへる人もあり又米しらぐる をとめする時こそいつくしくもみゆれまことには みえずいかなる事にかと人にたづねしかば其人いと しのしづのめがすることなり神樂などするときのか むなぎの米をもしらぐべきにやさやうのことはあや らぐといふ事は米をしろくなすことばなりさらば もきねがといへりきねといへるはかむなぎの名也し 此歌の心ははじめに神まつるといひてすゑにしろく づのめといひつべきもの むなぎをばやをとめといひて裳からぎぬなどきてい おぼめきてたしかにも申さずかむなぎといふものや つくしくめでたきものなりさやうのことすべしとも 一三 神祭る卯月に咲る卯花を白くもきねか精 ~ 具に杵とい るにやあら 2 なればなどてか、しろくも もの りそれ んと申人の が米をば つる哉 あ h

Ł 22 ひすやはぬうら 今日のやをとめがしらぐるに ぼゑみきた、卵花は卵月にさけるものなればしろく るもの ば神まつるとい なればうぐひすのかさにぬうてふなどよむなりさ いはんとてしろくもきねが びとつなけれ ばそれをよまば又それが具のものあるべしひ あればうぐひすにぬはすればまことにうぐ ん寿うぐひすもあ ふにひかされてかむなぎにしらげ は といへ あらずはながさとい り梅の花もさくも るなりまことに

b 此歌に雪の中 て雪とは ものなれ はあるべきうたが の年の内 ž 歌 雪の内に春は來に見鶯の氷れる涙今や解らん に似たればそれにたがへんとてめづらし とは どむねとは冬あ ふことにひかされ ふ也 春は に春といふことおぼつかなし鶯の よませ給 は ふるとし はしと人の申しは雪のうちに 年 いけ りと 內 るに に春 るものなれ にとい てよむなり鶯の涙や野べ いはいこぞとやいは や鶯の涙はなけれ の立ける年よめ ふなり雪 ば冬とい 一は春 る は 3 んと 赤は 派や < 歌 むと ふる 雪 な

0 これこそ心 (6) 淚 ばこれこそ心をうるになどてか花も人みぬとてうら ん」などいふは風をよぎよといひ郭公をまてとい をよきてふけ」などいひ「やよやまて山 人みずとてわびんもあひなくこそはきこゆれされ 此歌の心はわれを人みずとて花のわびたるさまによ ぞあるべきにおくにあるうたが てをそろしき也 いひつべけれども これはさしもお にも解べきぞ歌にはそらごとをよむ常のことなれ れど鶯のなくはさへづるなりなくには みざらん んにまさにおくべきことかはされど歌のならひな 5 をそむらんといふも涙やはあるべきされ をいはするはつねのことなり り人なりとてもさやはあるべきまして心なき北 ありともいづくにとまりてか へる文字に 山高み人も賞翫の櫻花痛くな佗そ我見囃さん なきものに心をつけ つきて涙とよまんにとが 一又此歌は古今に入らば春のは ぼえぬそら事どもなれば 歌からのめで もの 「吹風 たけれ はこほ ひある 5 は北 は りて ば古今に なし 郭公こと あらずた あやし どもなくと 水 じめ の東風 あ 12

させむにとが

よろ の花をおしみたれば 見る人もなき山里の 花 は風をうらみてのみこそあ おもひがけぬことなりまことに 花の色は中々風 あらず外の花みなちり は るにこれ 惜むへらなり は風

風

にお

しみといめたるには

にし るなり風のふけばところもさだめぬ てたる いふなり是ひとつの歌のすがた 5 風 此 0 ふかざりけるは Ш 里の花のさかりなるは風 風 0 なり か しみ ものなるに け のふかざり るなめ これ りと Ú

は 名也尾上とい 我となりけり」ともよむはかの播 磨の國の高砂 所也「松もや我を友とみるらん」といひ「尾上の 本たてるなりそれをよみそめてよめる也此 なし此歌の心をもて よめるなり又山 は播磨の國にある所なり花山 ところにて花を折てよめる歌也高 大かたの るは はことばのごとくなれば素性法師 山守に言はく言なん高 Ш のをとい Ш へるは の名を高砂といっ 城の花山にて高砂 たづぬ ふこくろのあればその尾のうへ 里の名也其所の濱づらに n 砂 ばはりまの とは此 0 るも 尾 の尾上とよめ 砂の尾上とい 1 山 Ŏ 0 が花山 あれ 城の國に 櫻折てかさしん 高 素 ば尾上と 砂 松 とい 性が歌 は る歌 松と ふ所 那 12 0 南 3 2 T 0

> にといふなりあれもこれ きこゆる るところにても山をよむにははいかりあるまじく もとがなし 然にてはい か な

二七 時し有れは稻葉の風に寄波るこまさへ人に恨へしやは

は

御返し

えて我は后にもあらねばなどか物ね 12 人 lt 是は村上の天皇の御時齋宮の女御 ればおぢて申させ給にけりとぞ人申ける るなり后の とおぼしくて秋の都の外なる身なればとよませ給 しきやあ なばの風になみよることはよませ給 なりさていなご丸とい ご丸とい きとおとづれ申させ給 長岡といふ所に住給 みせぬ のさとるべきに ん立かへ **爭てかは稻葉もそよと言さらん秋の都の外に住** ふ蟲 りけ ものと文に申たれ よませ給 り申させ給 は出 んとかく申させ給ひて の稲 あらず后 ひけるとき内 へるけしきなりとぞ思食た へば此 ふ御歌 のいでくる時 へりけ ば ŗ 此歌 る時 蟲の名とお なご丸といふ蟲 也此歌の心 よりい ときこえけ 4 に此 御物 たみもせざらん ありける也 か へるをみこくろ 10 きか つか ぼ 蟲 扫 御 たみ 返 しくて יו は 事 でくる ざらん りけ 身は 0 5 物 あ な け ね h

h 3 をよまんには事たることにはあられとぞ申しく きたる涙をばあまの 歌はことたかくの 事の外の事たる事なれどもおもへばかみにつらぬ りて海となりてあまもつりし 総化て音をのみ鳴けは敷妙の枕の下に蜑そ釣する みよめ つりとい ばこれも常になけば涙の ふ事のあ つべしとよめ りければそれ る心な

是は年の寒くて松柏の玄ぼむにおくる b らさに道もみえねども駒にまかせてゆくといへる事 是は管仲といへる人の事よめる也よる道をゆくにく れば此木まことの木といふ事の なりて萬の なんども萬の木の青きときはなにともみえぬ 5 はか へる事のあるなりかしこき人もたいこともなき るをよめるなり老馬の智と申事はこれより申と 夕去は道も見えれと故郷を元 雪降で年の暮める時に社常 しこきおろ 木のはの かなることもみえず松の木柏の木 もみぢね るときに松 あるをよめる也 1 來し駒に委せてそ行 紅葉の松も見え見 へ事を知ると も柏 出もみゆ に多に

のあ ぞうけ給は

是は個人の洞に圍碁をうちたりけ 柄は朽なは又も著替 ん浮世中 るにきこりの來て に結らすもかな

> し人もなかりけるとかや をみけるに おのといふものをもたりけるをつか おもひてかへりて家をみければあともなく 其の おの くえの くくちにけ へてこの \$2 む 3) かしみ دم 歩うつ

是も個人の事也露のまといふはしばしのことなり其 三三 濕て乾す山路の菊の露間に爭か我は千代なへの號 下蔵をへたりとい h

たちぬはぬきぬきぬ人もなき物を何山 ねのさらすらん ひめ

ば玉の戶びらもみなさして人の といへる ずなりにけり或人のいはく東海に蓬萊とい ことの 是は個人のきぬはぬいめのなしといへることある り其嶋の上に大なる宮 こやの山といふは是も仙人の居所也ふかうの里とい ふはえもいはねことの心にか たりけ そこねのくにまでもとめけれ 志ふかうの里にかきたらはこやの山から行て見てまし ある也さらましかば仙人のすみ b 所在それになむおはするとい 111 北南 H 漸入 殿ありそこになむ王妃 T 海の ほしき おともせざりけ III ども途に 所の目にみゆる ひけ たづ ればはて みてまし 3 り此 ね得 嶼 1

申け あり るも É 申に すと 使の よとの 0 3 12 3 h 月 申侍ら まは罷 をた 願 な る て御門に かた玄宗 ぞまぼろ 'n けんご 契 ら此 めさじた E 問せ給まぼろし其 < < 申べきことあるによりてか ば楊 b 也二 は夜 で 日 4 くきけ たり 7 け か h か おとめ 1 長生殿 の給 貴妃しばらくおぼしめぐらし 72 h 何をか 皇帝 るにまぼろし 0 うと ざし h 夜 n をたてまつら 程 は が昔のきみとし てまつ まち給 子 ば青緒きたる男の 侍 5 あ tz < 事は七 しる の内 经月 なん まに 0) へていい をつみをり け な れ背の T h 4 あいだ Ł 王 は 5 1" いたるまでなに事か は 市 申 妃 夕彦星の きのことと にもられ 其時まぼろし < は して七夕 さく て尋あ 0 く唐の御門玄宗皇帝 ことこれ 4 'n 玉 に我 かな てたまは の事どもく 給く天寰十 妃 0 び 將 くはる 玉 て人し 300 びん 契哀なり あ 君 ひま 3 お 12 簪世 ひ ぼ きことし にておぼ 5 所 らせ候べきと 2 せけ まは L 5 カコ づらゆ てをた よりきた て 5 は 8 n 四 に葬てきた の給 我 Ī L るこれを お お せた 年 n しく申 和 ばえ 1-なん も 御 は む U. よりこ 72 契 じけて 南 御 は 3 しま ま かっ 0) 22 0 5 門 < < 2 B お 0 1 T 御 げ で 3

> 風うち この る所 して程なくうせ給 し是を申せとぞかたらひ給ひけ とならん天も長 鳥 なん れば御門大きにかなしみ給 とならむ 很 あら - \ 御門 吹 め きて h んと思 地 おは くししてつくることなか なに 15 しまして御らん く地も久しくして あ ふもし天 0 C 6 にけ ばね なごり カジ 1= りその かっ あらばつばさをなら はくば枝 てつねに は、 る返 楊貴妃 あ じけれ 5 お うれ て此 は をか ば淺茅が カジ 5 3 へに 由 は ころされ h とぞ を奏 L たへ 72 原に 3 3: 0 ず 12 給 け 3

でら ばに飛 ぢはし ちさびしくて草の などおぼえつ、涙をさへてたち 归 h 0 0 光 風 j 別に 諸共に重 まが よるのきりん かすかにして朝夕なきふしたまへ は 女房ども月のくまなき夜は昔の のうへに 花の し道 < Z 開 をごらんじても の邊に尋 ね ちらり く朝 さたとふるか し袖 花 秋の 庭 つもり昔楊貴 は朽果て何 0 すまくらにすだき夕の 來て お 雨に葉の落 もに 歸さは駒に か たなく 哭み ~: かへ n にそ 妃 0 だ 1. 3 らせ給 あ 野 れ色々 むけ まち 影をお タみやこのう は ~ b 委 に露結 22 3 せてそ行 かっ à 0 床 盤 Ł 0) あ < の上 仕 3 S 5 h 給 2 ž 覧

春

ま

0)

是は かたちのよくて光の衣をとをりてめでたきありきこ あれ ほ な N 0 0 ほ め めすゑたるをきこしめしてたび をやよををごりてひきこめては おぼしてよのまつりごともせさせたまはざりければ しまいらずばつみせんとおほせられ \$2 もとに行てすみやかにまいれといふせんじの してつか りけれどまい めして御門 我看子かくへき肯也能蟹の螂の皋動衆て著しも りたまはずとてか ひをくひてありけるをおやみてこのことふび かり庭にふしてみそかにふところに たいこ の國に おくそすこしふところに持たりける ひにつかはすとてかならずぐしてまい どさきべくのやうに め とくもにおなじくせん りて古き枕古き衾むなしく しけ らせざりければかしこまりける ありける人のひすめのことのほかに れば奉りたりけるをかぎり てし かに へりまい なんとてものもく もしなむことは同 りたらばかならずく なかくるところ よもまい ( めしにつかは け もた りた 12 カコ ば たはらに いつかひ りけ まは はで十 か じこと つか 0 人 なく 女 n to h 3

> まいりてさきに立てまいるよし中せというこそあれとてつかひにぐしてまいり ね 12 蟲のかみよりさがり なりせんじの とをり姫 なと申けるほどにみかどおはしました て行幸などもやあら のよし申にたてまいりてまちけ ぶりなんはや此使につきてまいりねとい べちの神にてをはしますとぞうけたまは は もとよりまいらじとおもはずをやの と申す歌 つかひこくにてしなば却りて よみはこれ 一行祖 んずら 0) 上にか んあやしきことの にな るほどにくもと 1 h 南 b ナこ h 三大 1) とり ひけ け h 7) ると け t, 6 け 住 3 12 a) 3 3 包 か

<u>=</u> <u>Ti.</u> 是はむかしの寺にはかくるをつくりてすへ びにかけて神 はそのひとつを十人してひく石七ッぱか 千引の石と云は千人してひく なりその もまさりたるこひのおもさなりとよめ びにかけては 我戀は千引の石の七計首にか 相思は四人を思は、大寺の假鬼の後下額 かたにむかひてをろかなる人のほ もえをきあがりたまはじとお かみの もろぶしと云はその 石し云也七 17 るなり T 石七ツ 3 te ijill とけの りと云 b 突か如 () たく 71 1

れなむおもは四人を思ふに似たる也とよめるはするぞとおもひてぬかをつきてたてまつる事也そ

けるにやあらん
一生、一寺々の女餓鬼申さくないらへの男餓鬼賜で其子拂ん三七、寺々の女餓鬼申さくないうへの男餓鬼賜で其子拂ん

あるなり 山里のたのきのさぬも汲へきに小稲乾とて今日も暮らてあそぶべきにいねをほすほどにけふもくれぬとよてあそぶべきにいねをほすほどにけふもくれぬとよったのきと云は田のあぜのかたはしにあるたまり水也たのきのさぬも汲へきに小稲乾とて今日も暮らあるなり

ひとりぬることをなげきたる歌也のあればかひだにもいもせはあるにまさしき人にてかひのふたをしゐあるはめかひをかひといへるものかひのふたをしゐあるはめかひをかひといへるもの一三九 月きよみ

我春子か衣春雨降毎に野への線そ色増りけるこれある人が女によする歌なり 飛春子に見せると思し櫻花それ共見えす雪の降れば

これも貫之が歌たてまつれとおほせありけるときよめる歌也おとこきぬをはらむやはこれのみかは萬葉とにはかよひてよめる歌あまたみゆるごとしちこはと申にくけれそれもおとこをつまとよめる歌あまた

よめるとかけり
に此野にはぬす人こもりてやかむとしけるとき女のに此野にはぬす人こもりてやかむとしけるとき女の此歌も伊勢物語におとこ女をぬすみてむさしのを行上。 武藏野は今日はな焼そ若草の妻も籠れり我も籠れり

どかまさらんと人申をんなをもつまとは云也雪の朝によめる歌なりこれらをみればおとこをもな是は式部がやすくけにすてられてなげき侍りける時一三一今朝はしも思ん人は問てまし妻無閨の上はいかにと

是ら女の歌なればさだめもなし 我門に千鳥よは鳴をきよ~~我獨妻人に知らるな

と云歌の心にてはあやにくにこひしかりしかばとよ歌の心にてはみゆるをふたむら山もこえずなりにきあやなしと云ことばへやくなしと云ことば也とぞ此一言 春夜の闇はあやなし梅花色社見えれ香やは隱る、

は人をうらむ人の 下紐とくと云ことにはまたさだめ りとみゆこれらをみればとも したひもはとくるときこえた も難面も唐衣思ひし数も解る紐哉 かくも中べきにや た L 此 歌の心 h 12 -

此歌 え 戀しとは更にも言し下 紐の解えな人はそれと知 の心は人にこひらる、人の下ひもとくるときこ らなん

是は さだめなきことやあらむ めづらしき人をみむとてとくるとぞきこえたる 珍しき人を見んとて玄かもせの我下紐の解彼る故

ばさうぶをばあやめ はひとつの あやめといふは ばいかにもことがくおぼえずとよめるなりさうぶを たる あ やめもしらぬと云ことばつねも人のいひならは いふ若しよまずばくちなは ことばなりよしあしもしらずといふことばなれ 時鳥鳴や五月の菖蒲草文理も知らぬ戀もする哉 くちなはのなくりその さうぶのなには 自用 は 13 をよめ 14 わら i) رجد < る歌にてぞあ ちなはに似 U 60 とよみて あやめと たれれ 1, くさ 3

> 是は良選法 こときこの つくま江の底の深さを他所年引るや高 師 それをおもへばさもときこい の歌 11 此 明人 よみ たり 17 3 さら りに にで加 人

12

だしけるとぞうけたまは

ばしこ はすをはちすといふもたいい りねべし はちといふ蟲のすに、たればはちすとい れははちすとい 蓮葉の濁に太まぬ はずとも 心もて何 ふに たいはすとよみて かり あらずはすの 13 3/4 3. 沙 なり F と版 3 2 25 te <

三 とも中にや 此川はいづもの ればいなぶ るさればのぼりざまにはかしらふりてのば 四五日ばか 最上川昇れば りに 12 とは のぼる 國にあ 中すとかやいねをつみ 下る稲 る川也ことの をくださ 舟 0) はた 否 1= 外に早き川に は 10 H 非 す たる舟 h にぞく 制 から 11.5 たけ 龙

三元 徒に度々玄四と云 めれは逢には何を替 んとす號

ちにはあふともなに、かはせんときこゆれどあは a) ふに身 死々と聞々たにも逢見 をか 3. と云心 は 心 ねは命を何 得 ねこと也うせなん U) たに カコ 死之さ

りとぞなかごろの人々申ける

あやめ めべる

みつ とつ

きなをさうぶをよ

むは

あ 9.

しくべ あふとい

きなな

ことば、ためにと申すことばなりいひとらんとていふなめりかへしの歌にだにといふことのたぐひなくうれしかりぬべければそれをよく

120 見るからに鏡の影の難面哉斯らさりせは斯らさらましみとのまくまひとはまことにしたしくなると云事也のとのまくまひとはまことにしたしくなると云事也

なり 人のいとしも ほせられければ此宮の内にいたづらにおほくはべ どのちくには 此歌はくりいゑんとあるぞめとる王昭君をよめる歌 づから御覽じて其人をばさだめ さる心ざしあらじと申ければさもとおぼしめしてみ の都に参たりけるにいかに~~かすべきと人 ることもなくてさぶらふなるえびすのやうなるもの にすゑなめ のか ほさにおぼ 唐に御門の人のむすめをめしつ、御覽じて宮の 歎來し道の露にも増り鳧馴にし 里を戀る 涙は に云け たち繪 て四四 なからんを一人たふべ れば此人々えびすの に書うつしてまい しめしわづらひて繪師をめしてこの あまりおほくつもりにけれ Ŧ. 百人とゐなめていた させ給べけれども人 12 きなりそれ 國ならんことを とおほせられけ づらに ば御覧 なに 的 3 ま お すい n

まし 物哀なることかぎりなしこれをきくて歌に こひしさにおぼしわづらひてかの王昭君のゐたり なくたびてつか だめられぬその期になりてめして御覧じけるにまこ しげに書てもてまいりたりければ是をたぶべきに たかりけるを賴にて繪師に物をも心ざくでうちま 涙は道芝の露にもまさるとよめるは王 かくらざりせばか づれに鳴秋は木の葉庭につもり軒のし るところを御 いにけり王昭君なきかなしぶことかぎりなし りにければあらためさだめらる、こともなくてなく n たまはん御門おぼしめしわづらひてなげかせ給ひけ とにたまひ せてかくせけれ らせければいとしもなきかたちをもよく書なしても 歎て我 て参りけ どえびすその人をなむたまは 8/ るに王 のまざらましとよめ かりて得もいはざりけりこれをえびすに とこが 覽じければ はしければ馬にのせては ばもとの 昭 くらましやはとよめるは 君 と云 ねをとらせそれならぬ物 人の かたちには 春は柳 かっ るべきときしてま るなり たちの 風になびき鶯つ かしでい 一昭君が すぐれ のぶ際なく る よめ をこふ わろ かっ とあ 御 お てめ をもと 3 け T

たる きに 3 なるもの ħ か 心 3 72 のうち 15 á Z 市は b よか を 6 1 h 0 國 は 人 12 0 かっ まは 御門 b h 上申 我國 20 也 12 1b はよき女の えびすのや it るとも な j 申

一門 楊貴妃の事也日に書付

是の を送 b 3 詩 72 をせさせんとてか は唐に吳松孝と云 72 0 12 お h 띨 より 內 其 30 書て其河 ぼえざり Ł る川の のぶのりがい 作て書 より 後 此 もり 人しれす思へは浮ける言葉も終に こひ せう 0 人 外 5 流 0 n n 3 0 it W 女の手にて 12 ( 0 れば 女が 遊び 41 b to き度に此 水 かっ 13 け T L をばをの この詩 きに け H b にな 3 とをし 1 か させたまひけ たづ b かず 3 る人 0 あり 柿 流 か け かず 物 残も 0) 5 りさ 柿 は 思 (1) 0) 出 和 九 薬 け 7) け 0 L 12 を作 葉の をや \$2 1= b 重 ける歌 12 の詩 n T ば ば 0 年 な H 0 3 紅 內 を送 比 九 b b 8 をとり b 15 逢せの をみ 其 をふ てすべ 薬 より T 重 かっ 也 かっ てをなじ柿 なる 5 3 0 L H L 12 女 內 12 な b 3 15 0 づら 御 から 人作 けて カコ T 1-で 1h かゞ 此 賴 ら敷 數 トみ 入 H か かっ n 歌 の松孝 5 2 3 あ 0 b 3 O) -け 薬 É it 1 哉 年 36 宫 け 6 心

やうお に逢は ば女 晋宫 力; 思 けれ をむ から 3 ちざらり なりて みこひし 3 0 か ã) をは得 多 詩 は U が 3 あ 8 22 どをやめずることなれば心に 3 叉 ٠٠ 人 b b b ることあ 0) 0 < こにとりつ松孝 外に のすが けり をろ 君に 手に は我 もひ 12 自 h きしと H あ < は 又その の思ひ 12 7 ゎ 此 0 12 į, L L 1= T かっ すれ たに 身 から 0 b て遊 かくすことな な 72 女ものおもふさまに 6 5 かっ の詩 b it 詩 ٤ L あ かっ しり U 6 0) びき水 たづ 1b 12 < T てふる程に 0 あ n li 明幕こひ ば女 て今日 31 和 なり かっ みえし かっ もことべ n わ h ^ 2 P り女これ H らに月日を送 から Ł 18 b 柿 to 此 作 T 0 T 後こ 今に b 事を J. か 10 其を見て後 かっ b U) 7 か 女の T 1 12 15 薬に計 12 T D なし 松孝こ との をの 洪 きく b をきく 忠 木 5 步 前) てあ 詩 0) 6 もあ んと 3 かっ かっ 3 C 2 11 莱 な ることをなげ 1-は 1 外 1 1= É 1= 21 72 3 け つる人 は らず 涙さきに立 T その 10 0) 0 其 U な ことぞや 3 12 T E 0 30 a) 35 お かっ て云 1= ورية b H 詩 10 F. は かっ ぼ th ろ B 10 我 心 3 2) 3 12 7) 艺 0) 11 < から دم A げ から で Ì D か 约 n 3 和 7

俊 賴 口 傳 集 F

是は猪のし

1

あなを堀て草をとり

お

ほひて伏ぬ

n

世 72 る木 0) 河 契の ける は 人 おろかなら るこれ 葉をみ とり 0) 12 あそび をきけばい h n け ばひとつの D 3 より かと き岩 もせの おもひよること お 0 詩 もひ は ありもしあ ざまに なか てをきた な らひはさきの カジ なれ h りし我詩 12 つる也 とまり ば あ

3

n Z 0 3 歌心歌の 此 しよ あるやうあらんとお てうしよなどの 申 もじの 弟子十六丁を行 歌 は四 れらならねども人の心をみるとよめるなり しともさだ 枯草搔臥猪の床のいを安みさ社寝さらめかしらすも哉 垣 越に馬を牛 心は孔 はし ばしか かしらさし ひまより 條 をみ 中納 だ なりとこたへたまひけりつぎく 子の ₹° 給 いに十六丁をゆきてぞ心えけるさ むとて 馬 て心 ひければでしどもあやしと思ひ 0) とは言 きに の頭 弟子どもをぐし 小式 B いでた 得た の給 ひけるに顔回 をさしい 部 内侍の 7 あら るをはうしと云文字にな りけりひ ねとも人の心 け るなりとおもひてと ねこと でい から といひける第 て道をおは 6 よみの あり 0 かっ か 0) ける は むまとい 程を知哉 をみ Ū け 0 T \$2 3

> 云は ば Ç をね 四 か 五 の上に 日 1 ば ば さこそねざらめとよめ かっ おほ b E いたる草を云也されば戀する人は おきあが 5 ぞ 3. せ 3 なり る なり かっ 3 ક ٤

る夜 是は伊勢物語の歌 \$2 \$2 よるひるまちけれども 北 哭 いばう とい ば か な 新玉の年の 八年 を待佗て唯今宵こそ新枕 ふは もひ の田舎に せに ける わづらひ おとことい ありけ なめりとてあたらしく男をし 也に てよめ るおとこのきて門をたくきけ おともせで八年に ふ也男の おと云 る歌 は H なり あ 舍 たら ゆきにけ Ł と云事 なり たり すれ 3 H H

は般若 位さらせ給 b 海 舟と申事の 此歌は後三條院 むなし Ç 門 と説 りた をわ なく き舟 の舟 n 72 也其般若 てやすらかに海 吉の 3 غ 神 7 あ لح 神 をそ 申ことの る也其心は舟に荷をおほくつみた も哀 0 b Ł ふは 0 n の住吉まうでに 哀と思覽空敷 舟 ば とお \$2 萬に 12 0 御門の位さらせ給をば 乘 あ ぼ を渡る也 あ る也其 おそれ 7 1 3 苦海 也 めすらんとおぼ 1 こそれが をわた 心 \$ を 舟をさして來た よませ給た は般若 なき おろ n 舟 やうに ば は萬 をさ うれ むな 神 3 をむ 御 佛 きに ぼ 歌 おそ なり 7 る n

3 n 給 御 是は忠岑に春の歌奉れと宣旨 後の郭公 0 とよめ かっ b かうまつりけ せ給ひけ よませ給ひ 鬥 堀川院 中か L 門を雲の け ふと申雲 でか宣旨によりて奏する歌におりゐるとはよまむ る歌也 かっ 白雲の下居山と見えつるは高根の花や散粉 せ給 は るべき事にあらざる也と申け りさやうのことあやまたるべ りに Z るに右 一躬恒是を聞て府生お なり 御 お 1 ば住 とは中 3 17 h 時に殿上 る題 3 後此題いとあやし夢の後とい 大臣長忠をめして題をめしけるに夢 也 るとぞ申 かっ 此 11 るといひてするに で 世 をたてまつりけるを各見侍 に位さらせ給 0) かっ で変 0) 御 おのこどもをめ った 嗣 門の の世 も哀とおばしめすらんと ~ ありけ Ö とい たる世 はきに 3 2 をば き物 るにあはせて世 ちりまが るにつ へば夢の 0 あやまてりい 1 おり して歌よま するなれ か 南 かうまつ 300 後 ^ わさ 1 6 3 るは ずこ とは T 題 4 0 h せ

をばまい

らせ

け

h

\$L

L

るべ 5

き事也

しなど世 程

あ

h

けに は

P カコ

<

くの

8

めし なく

あ T 人

くれをはしましにき其歌よませ給ひし日は

程も 真宮 ほどなく 申し 周防 しに よみ たり かりし b とよみた けるとぞきこえしそれ む b よしなきことなれどもこれらを御覧じて御心づきた はひさし いまくしか 云事をよみたりしをよにいまく れぞまさるに 四九 Ĺ 0 つまりて歌よみけ 一会に けれ けれ 內侍 き又郁芳門院御時に根合 かど かばよみ なくとり のすけにて越前守仲實朝 同 かっ 心御時 りし とい ば月 堀川 ちい 12 は雲がく 3 13 な りて 漸隱 もの たは かっ び 3 h をよき歌と世に ついきてうせさせたまひしこそ 中宮の < 0) かっ 歌 け 砂后 たこ よみ ると カコ まし h ることに るとの ることありてえまいらせざりきそ < ويو 8) 1-るに則 0) も程 御方にて化 1-御 32 は 5 45 店 は 1 わ みよみ よかことに ふ題を 元 は なく 時に題をこひにつか ~ かっ カジ て歌ども とい 臣が h 10 1 L 1 3 きまし た 0 とうけた しを人の 南 おこ かっ 合とい 力; 3 < ふことの ひたりけ よ侍ども宮づ は 43 かっ て歌 をやきてすて 元 まし させ 13 あ うの まは もの t 烟 h 6 it 1 人 7: 3 12 JX 82 おはし 3 b やうに 3 b 3 かさ 13 谷 55

まは んれうなり人にみ せ給ふまじき也

也大納 のちい 心うきことか の三月つぐもり春三十日やはあるとおほせられ してかぎりになりたると聞てとぶらひに人をつかは をもき、はてずしていでにけりさて又の年やまひを かりやはあるとばか 是は四條大納言の家にて三月晦 吾 心うき年にも有哉 たりければよろこび D カコ る春をおし 言うちきくまへに にも物くはれ候はざりしよりか なとうけ む心をよみけ り申さ 廿日餘 て承ぬ たまはりしが おもひもあへず春三 れけるを聞 り九 72 いし此やまひは去年 日 FI るに長能 の夜人々をあ と云に 病 1 て長能その講 くまか なりてその がよめ 春の暮れる 十日ば りな る歌 つめ

れば中 12 えたがふ尾花なんどのもとに松の音などはきこえぬ たにいふやう中有の旅の空には嵐に せ給へといひければ目をほそめに見あげていきの りまど ひありく心 ぼそさ此 世の人の こひしさた 曠野にとりけだものなどだにおともなきにた けるに地獄などはひたぶるにさることにてまづしぬ をおもへ んかたもなくたへがたく候はむずるをおしはから やとためら やまさりに 有といひていまださだまらぬ間は とて枕に僧をすへて後世 い つくいきの下にい の みまさりけ \$2 ば今は ひけれ のこといひきかせ たぐふ紅葉風 後 は 0 ば僧に るか 世 10 0 なる くさ ひと こと

ばかぎりなる には藏 ださま 大納 ると 子 お \$2 此 B 心ばへもありけりとしろしめさんれうに け 0 とらせたりけ 人の心えて問 8 て心もえで見居た ひてつきそひてまぼりければふたつの手をさくげ 申也おやあかでなをめ 事ものぐるはしとてにげてまかりにけりさる人 ればそれらをみてこそなぐさまめと あまりにあらいかに何のれうにたづぬ る歌 けれ h ばうなづきけり筆を染て紙ぐして Ú るに のはたらか 物 かっ 1 h とお む か 無益 ひけ ぎりは ぼするやと るぞと なれ \$2 とお ば僧 問

俊 賴 口 傳 集 さまになりてけりおやまちつけて萬にあつか

ひけ

りける道より病をうけて行つきけれ

か

人にてえくだ

n

でか

うぶりた まはりての

ちに

に信法と申ものあり親の越中守にて下ける時

もなんずまじきれうにしるし申

也

一為義

と申儒

者の

もふばかりの人の歌などをばおぼつかなき事あ

言事の外にう

りては

6

也とぞ申けるさて又の日う

せにけり

れへけりとぞ承りしさればか

ば

か

b

人兄弟 京 論 え 10 せ h じと申 0) Ł 是は公忠 は b 1) 8 T Ŧi. しを it 17 小 のほ はすぎが 3 ての 7 C 見て泣けれ n T のふ。 it 家ども Ł 湖と思 ちに b. か けれ るよ るを各 かっ 二人ぐご まは むべ 1 てふ もじ 親 觀 の辨の子に觀 12 ば 1: 12 2 祐 3 雨 13 ばを 辨き さら けれ な海 もじ 君 ふり b 祖 さり ば涙に は して竹生島 げに いきてけ 人の 0 えか とこそ か 2 h 0 3 ょ て大水の になりて 1 43-かきそ 數 判 な 2 ねれ あ T も大な て歌をよく は陸 致僧 为 T で息 1 h 3 3 は 3 僧 け T 7 か 有 12 15 て朽うせにけ へて形 奥の と云所 る難 など 5 絕 め 3 b š ことなん 都 わ 都 れば ぼえ侍 一定を判せさせ まが でた かっ 15 と觀 け づ 1= 殖此: 籬 n カコ 3 h あ 奉 か 見 け ばまが、 きの らずと b h 10 b 献 0 12 さもよまざら おぼえての にせんとおきて常 出 度はいかんとそ思ふ 島 ば親 は 3 け か け 0 あ 嶋 3 n 君 と見てや過まし りとかや n 3 け ば大 C h はず 也 とい 根 3 みてす 5 こそさなん てとみ L 此 h 7 かっ は 嶋 上申 歌 津 ひけ か U. T か 其 すき 3 h 3 あ かっ 0 年 0 6 ja Ja 叉 13 12 邊 カジ かっ 3 T 3

> 歌の るこ ૃ 10 心 tu 2 もさだすべ はまがきの かけ ることなけ き心にて 嶋にはぢをみする也とぞなん 礼 25 かっ it 3 かい 111 やうの じけ

文字 た らん 刹 きれ 猶此 也 h うに < 0 是は長能道濟 にまうで を題にする歌 Ŧi. しかい 0) 30 i 人 5 ずい う きるわ 1 此 R 霰降交野 T カジ / 30 事きく 褪 んと ほ 歌 b カコ 3 お わ 12 i も猶符 ども は h せ かに 5 0 12 雨 なん 1 H 12 3 此 6 5/ ٤ 3 ナス をし 3 3 3 歌 也とも かっ h 0 にすみや 5 どまことに 5 は 12 U H 南 2 とてとも 行 3 らだ ふ判 h け 12 to h きりに案じ 歌よみどもの とあらそひ h 0 ば とも n 12 0 3 によき歌に 箸鷹 、狩 たかが せさ ばさら かっ 歌 は しやと中 h かに は は 1 0 衣 ぞえせでとい 3 5 11 U. (" お 2 1-和北 うけ 3 た 給 1 もしろ L 7 E 376 よめ to から à) T H 7 ~ 0 5 3 四 0) 11 3 比 人 n 0) 雪を 单 2 作 るな 宿 るや H 0) 30 13 12 ·T 0 / 1 カジ ور は H U. 大 かった は かっ まことに H 納 まる 3 j 5 6 12 It h 打 tu 12 今に 17 たこ 排 カコ 切 1 3 0 ほ 3 12 かっ とも かっ てま か U. THE きあ []] 3 あ 10 3 大 h か か かい 12 か 11

是やいらんと申されければ道なりたちてまいかなで りなんと よまれたるは鷹狩のほいもありまことに れとをりて やしき事なりあられ 3 ñ 0 2 おぼゆ歌がらいうにておかし撰集などにも 3 おしきことにはあらじなをか よりてやどかりてといまらん などはさてまでかり衣 りゆ おもしろか などのぬ には か h ٤ あ

かく れどをりにしたがひことによるべきなり は歌一首を十日廿日にこそよみけれた とくよめるにはかしこきことなしされば貫之なんど 歌をよまんにはいそぐまじきなりいまだむかしより をすみやかに 歌の八病 いはでとくひかなしみねたがるをい の中 よみい に後悔のやまひといふことあ だして後によきことばふしを いしかく ふなり り歌 なを は あ

ていでに

け

の内侍、 一升後 小式部内侍歌よみにとられてよみけるほどに四 部内侍といへる人の歌也事の Ш 賴 國に下りたりけるほどに京に歌合 は和泉式部が娘也其 生 野の道の遠れはまたふみも見す天の橋 へるは 四條大納言公任 和泉式 部が保昌 の子なり其人 おこりは あ 日の女に小式 け 立 條 3

> 此歌をよみかけくれば中納言こは は やはあるとてつひるて此歌 がらすきいでくわづかになをし とねたがらせんとて申た し、人はまいりたりやいか のたはぶ てにげにけりこれをおもへば心とくよめるも おもひけれどもえおもひえざりければひきはづ れて小式部内侍 りけれ 0 に心 ありける の返事せんとてしばし ば内侍 Ŏ もとなくおばすらん か た袖 かにか に丹後 みすに をひか るる へつ より めで かっ

やまうけたりけんにすぐるやうやあるといひかけへればもとよりければ女房達ゐこぼれてさるめでたきものをもちて道信中將の山吹の花をもちて上の御局と云所をすぎ

伊勢大輔が侍ひけるを ればひとまの といひて差入た くちなしにちしほやちしほそめてけ はみ 程 多 りければ若 はぬ花 わざりい あれ のいろ でけ これと宮のおほせられ き人々えとらざりけ か るに 思ひよりて n ば

しかばはぢがましかりけることかなとぞおほせられとぞつけたりけるこれをきこしめして大輔なからま

すみ 3 け 72 から る V 40 T かっ あ 聖 ょ 1-しうよまる 2 よまんとするも 7: は すべ 心 き也 なり 歌 かっ 心をそく ょ なは 30 人 ずた 13 よ 中 14 2 12 3 いだ S 0) 250 す人 IL 1-< は か

まご せん ろ ば 3 後 L をきこし せ 0 女房 けれ ٤ 3 給ひけ 泉 古 T お お あ 院 0 よき ほせ など 達 家 < め 5 0 御 12 け 3 南 0 られ 12 か 3 1-せる 時 風 72 T 1= は 歌 楓 社 め りと 72 +-け な 0 (" 月 嬉 4 カラ は申 š n げ 紅 5 L 5 L は け とく 12 は 0 T かっ 葉をら It かっ 南 0 さることに ほどなく申 h n くす h は 1= 斯 ょ 殿 3 L せ 1= 月 む 3 言 ~ 7 給 1, ~ re 0 此 かっ L 7 T Ł 0 ばなをせうく 葉散 らず 中に 3 とも tz T T お 早 b 伊 난 B 勢大 っつここと It は 給 來 お L ば 3 į お 7) 2 10 歌 0 輔 思 T カコ おそ をそ 也是 n から あ h ^ 0 وره は 70 2 け

草紙 h 因 洞 うちす 院と を車 3 な 能 3 どを をひきむすび 0 因 かっ 法 伊 勢 b E から 手を お は B 家 0 歌 せ ひ あ E をもう てう け T て物 3 n Ū あ は から b てぞとりてひろ かな 12 け 讃 S Ī b 3 岐 かっ け てこそ口ずさ 前 h 子 け 司 3 兼 カラ 0 3 房 H お と申 け 2 0 小 條 つきて 1 松 人 る C E 10 け 西 12 能 n あ 0 10

> えず でか すべ まり まへ とも ぞとい とい の歌 えけ とぞ申 をこの せきを 3 こと てうちぎぬ 歌 ほ かいだ て申 此 どに Ó かっ よみ S をばい よみ 1 12 き 能 け 2 かっ T ば 大 3 h け it 因 國 H 0 こまる は 13 能 なる てこそ 0 E な ÿ1: みち などきよ か 伊 3 n 0 3 3 因 30 b 師 人 は で 勢 ことぞとた 11 n かっ 松 ぼさ 1 白 ば 人 から 0 0 1 かっ III カラ 0 1= 3 < 此 7 秋 あ 河 II 尻 T 12 1= む かっ C とち 1 ち 马车 道をこのま ばさやうに わ 風 すべ 0 は ち 1= つまり よりまどひ 2 朔 11, 5 h ^ J カコ 0) 0 < つね U 3. L す b 3 2 b b うまで < it < T 3 7= 1= な ^ あ 松 け 7= É 2 h 3 け から け b W 3 n E B をり h してぞ 8 3 は 711 3 B 12 12 あ 1 かっ T は は 7 右 てこ は 候 ば 0 カコ h す は P 1 歌 此 13 帰 Ł 1 水 近 H C, 世 歌 25 す E かっ ず 3 X よ は 松 12 から 0 は 12 3 よみ 大 2 は か h 0) 木 H 2 す 夫 す t 200 な ٠٠ ع p 水 12 12 h 兼 0 す る ば すい tz も 國 2 は 3 かっ 原 5 な ~ は 2 高 此 6 47 かっ あ 行 < 礼 卿 0 は h 3 3 h 名 道 か Ł h h 0 る から 心 み

申

事 n カジ か まされ め 歌 1) 0 四 よきあ るぞと詩 條 大 納 3 申 0 多 され 7 1/3 5 納言 ければひとつ ことは 式部 引 口 染 0 ほ にい かっ 2 0 大 だ人まね

に申な

め

世の人はよき歌とは申すめれと申されければそれは 人のよしあしといへるはそらおそろしきこと也さり 中にはえもいは四歌にて候へども「人ならはまてと 徳の歌合にも 何はこれ法花經の文にはあらずやさればいかに そ入ぬへきはるかにてらせ山のはの月」といふ上の とて讀ばかりにては物もいはでやはあるべきとてた づきなどもてづくにてわろき歌 いはましを」といへるうたは此 ひよるべきにあらずいみじきことなりとぞ申け ひよりけんともおぼえずくるのはるかにてらせとい 人のえしらぬことないふ「くらきよりくらきみちに 歌には「はるかにてらせ山のはの月」と申す歌をこそ をといひてひまこそなけれといへるは凢夫の るは本にひかされ れば中納言はあやしげにおもひて式 あらず式部は ねさめさりせは」といへる郭公の歌の もるのなりいとやんごとなきものな られたりこれらを思へば今やうの てやすくよまれにけんにやとも 「ひまこそなけれあ と申べき歌なるを同 心の歌にとりて しの八 る天 Ł おも おも う 0 京 丢 それはか ればさるもの るものは 72 10 あ みえず

也世のするの人はそれよりはしれりとおもふな 常々になかむらんはまことによき歌なん して宇治殿にいそぎ申させ給ひたりければこくの くしたるぞとおもふべきなりそれぞすゑには らぬ事なんめりそれは人よりわろく上代 みえずよの人もさまではおもひたらずさればなをし せにてつねになかめ侍るなりとぞ申させ給ひたりけ んじけれど人のけしきもなかりけ るこゑをきこしめしていかなる人のあるぞとて りなりける時に日隱の間 へどわづかに拾遺抄ばかりには入た る聲にて「こほれてにほふ花さくらかな」となが 極殿に上東門院おはしましけるとき南 なふべか \ 靈などのめでたき歌とおもひそめ らざる事也よのするにはよくしれ の程にけだかくか ň ばおぢおぼ りことも め 面 よりも みさ りとお の花 か なふ びた め L め 2

むげにしらぬ人になりぬればのがれがたきをりにさを歌よみとはいふなりたとひこのもしからずともよった たいあやしく ともこ のむべきなりこのむ もの

の船 なく でさ 泉 つげ H 0 御 をみ はまうけ to あ で 院 3 3 7) かっ やり にの せ給 まり n 申 形 人 あ 12 あ 0 0) b け な 12 せ b 御 北 つまり せ つまり \$2 りて U 給 n 時 T 何 日 12 せ 藏 たり す 船 ば 2 3 四 8 b あそび T T b T 12 せ 級 時 B 人 2 10 お あっ 船 T は 8 b は 屋 御 な け b ろ 形 仰 3 御 2 3 V 宮 は 0 なり どた 船 É は T かっ トえみ 2 な J 1 てす 2 1 船 3 h 0) しきなり 下 72 1= は かっ L とて T づ な かっ L T な h 2 1-御 7 n 1-よりて ど聞 b 1 時 夢 T ね b T かっ 3 どまうけ 0 \$2 島 Da 人 3 13 b A あ お 3 12 船 10 な け 0 12 から 上達 3 なま 后 かっ は こが ま 指 てあそ て宮づ か す ことあ 3 < \$2 かまきなどしてきら Z カジ 0) n け は ~ かっ な 0 らさまに 船をぞう 5 侍 37 b 3 T 部 め ま づ よ n b しく 入 候 ば b とてその 12 h ば あ 紅葉を かさをめ 殿 づらし からよきことも 0 6 こうぎ 3 若 1 ^ 22 あ E つまり で しき と仰 東 13 この 人 h つまり なまうけ n とす く里 三條 b 5 清 お 叉 0 7 T T げ ほ 宮 よ 5 L 御 = D 3 7 1 震が後 T 殿 12 12 御 な < づ \$2 御 かっ 明 t 船 め 3 かっ 多 船 池 隅 多 n 15 0) h 35

まで 管 てま 13 由 多 あ H3 T カジ は 5 3 0 H 0 うのこ ること 普賢 めて けれ 3 \$2 1 あ 1 のまへ 粒 僧 あ h 3 ほ 3 ~ T 良 おは かっ 氣 つまりて庭に 0) 党に ~ ば 2 良 暹 らせよと中 5 は 3 ~ることあ 具ども 色などい か な かっ あ 3 暹 法 くとり 0 宇 6 法 をきつ なく きと 22 カジ 師 せでさ 治の こぎよ 船 b 師 F h 御 るとてまう 111 HI Ł け かっ 後 2 1= 候 かっ 前 歌 7 b 僧 か 3 3 ٤ 8 it Ł 30 さてやうや より 12 h せて 5 ょ \$2 きて 0 なみ IE あ は 12 な h 1 よ かっ Ł 0 船 ば は 3 僧 HI 1 W C, V かっ T け R 人 連 3 12 B 都 げ 2 n 6 あ 0 かっ 43 あ < やさ 歌 給 3 よ 僧 12 ば 逃 連 b 人 12 b b 0) 12 75 などせ は THE 君 < 1-歌 h b 3 け 12 0 It 40 h たらど 6 11 B H 3 6 6 17 3 T 部 F 2 T 孙 T \$2 3 T 13 12 3 91 7 T 3 Da あ 背 0 200 18 0) ~ は 25 あ は 岩 ば 殿 72: 僧 御 其 1 g 1 11 370 ľ. 主 修 41 8 b n 1-かず づ h 僧 む T 3 2 連 n It 原 12: あ 涩 1) お わ H 歌 せ ほ 3 ~ 12 1 H 引 70 Ł かっ 7 n け な かっ 月至 \$2 13 3 15 3 h かっ 候 h b 12 7 仮 か 10 II: 3 か THI 3 は

藏人はかりうちに

まいり

て侍らひけれ

かありつるなばうちきこし

て御

前

にめしてさてい

か

なることか

りけるもいたづらになりてやみにけ から 12 かりける人もみなちりにけり人々船より ひさだしなげ かたならすことだにもなくてやみにけりかやうにい のもの をうれ いまくでつけぬに日はみなくれぬいかいせんとする ばこがで島にかくれて返々もわろきことなりこれを ば船をこぐともなくてやうくつき嶋をめぐりて一 と申候なりと申かけてかへりぬ人々これを言くて船 めぐりの程 ひにみ てあそばんなどしたくしたりけるもことがくた むなしくすぎにけりおそろしくしとたが まかせて 葉 へて何事もおぼえずなりぬことが~しく管絃 なにげて各うせにけ k 申 つけ つけていはんとしけるにえつけざりけ つけん くほどに普賢堂の前にいくそばくおほ お なりにけりなをえつけざりけれ ろして船にいれたりつる んの心はなくてつけでやみぬ かれてみゆる御船 とするにことやくひさしか り宮づかさまうけし か りかぎりあれば な おりて御前 もいさん ひにあら ば船を りけれ ること か n 平

となれどかやうのをりのれうにこのむべき也 ちにつけたるものどもくありけ ちわらひてやみぬるもの也其 まひければいよくくうちうれへたまひけり此 をさやうのことは經信など候はぬげ也若者どものあ すほどにてしばしはきくたまはざりけるが程 にけり藏人まか そのこときくに人 次第にかたり申ければ御門おほきにおどろか ぬればやが つくましさには のまんものは ぶなきはかくるはちが ねにきこしめして日ごろみぐるしきこと侍りけ ふるより外の事なかりけり宇治殿は宇治に にてこそは どくはせ給 連歌 てこもりぬるなりさればなをよしなきこ へべるなれとてなにかたるとていらせ給 ひければこのこといもをありつるまく あやしけれどもお n り立にけり其後人 ぬなどには 々のは ましきこと候 ちには えいひいださでほ 日 もをのづか もなくい めどもこのまね あらざりけ な行 なりと申 あ S らが おは り我 つくう で させ せ給 へてつ 3 な

は候へむかしあ 連歌こそ世のすゑに りけるをか ż 色 か 3 L お 12 かっ もおとら ざり け 3 n b 0 に

なれるこのみやうみわたるら お < に船こくをとのきこゆ るは h 貫 躬

是は 聞 < てし 山に杣人の木ひくをとの船こぐ音に似 3 つね け るとぞ つらゆきとぐしてものへまか b たりければ け 3 12

是は としゆきの なしてゑはしてすぎけるをきくてつけた ひのをさに壬生忠峯とな 72 忠峯が つか なにこしの ひの 少將陣に 小 左 近 30 絕 0 50 は誰 つか Da 弘 所 à. のるをきく かさぶらふと尋ければ 7 にかくらは 0 のをさに 72 みね てれ T あ ると りけ 敏行 h から 忠 1-单 0 ろ つか しとき 少將 った 1 25 峯

是は て待 位職人に 延喜の h あ ほともなくぬ てはべ やなきも るをみ 御門の りけ て女 カコ 0 一房の 3 くれ きか はよにそあ かず させ給 申 あ へてけ やの 12 h け b きぬどもをぬぎす 12 h け りけ かっ るとぞ 3 3 る 衣 時 公忠辨 公忠辨五 女 房

つまどのたてあけ とまりも たれそこの 鳴門の 3 ければなりけるうちに あ まの 浦 0 をとするは b 船 讀 質方の 實 不 知 方 中

將の うちわたりに こし をとしけ 都 あやしくもひさより 出 Ŏ てけ わ ればし 2 12 てあしのひ りに雪やふ 50 n かっ < かほ 1= かっ 3 战 け 3 1to 5 0 にて女房の は け U h W る説 け るとぞ 2 かち しけ 13 Uf かの君 るとぞ 方

しばしといまりて侍け 尾張の國に下り侍りけ けるとぞ とうか 0 < 彭 5 る程 たりにし るとき道に にこり かな n て心ちそこなひて かになりけれ

**わやうせ** 10 法 師

わた をきくてしけ りける北 みちのくによりこし あつまどの聲こそきたにきこゆ 0 るとぞ 方にこゑなまり にやあ たる人 る覽 なれ け 0 物 は 0 h H 法 師

霞 は 梅 桃 なり 津 園 8 は 2 の桃 霧もけ もえ りによは の梅 山 は 0 秋 ね 花こそさきに ふりとそみる は きをた ちりやし 0 家や か 3 0 ね 归 お くら て行 かっ まと山 け 人は 12 mi( 賴 經

てしけるとぞ

是は たれとは なくてかきつけたりけるがそのゆやに Ō すいたのゆといふ所の ゆやのはしらに ては

かまど山 di 城 0) あ Ш 5 はにみ とにか よふ泉 ゆる所也 Jil

B 1 0 淚 なるら

たきた

泉川 てせる也又三國 上申 め す の内 河 の山 のわ にきね 城 72 より大和ざまにながれ 0 りとい 音社聞ゆなれ ふ所の Ш 城 加 1 茂成 あ たるをみ 3 助 也

是は加茂 荻 0 . 0 かなる神のつくにかあるらん 御社 なひ はに秋 か 1= ぬ草は のけしきのみゆ て米白げるをき くりする時 なけれ る哉 雨哉 して しけ 行 道雅 永 永胤法師 小住法師 るとぞ 重

のしけるをみてしけるとぞ ふためぐり S る にか ともに山 して百寺の金口うちありきける ひなき身とはし らすや 兼 しぐれ

もろ

め

Ë

是は 字治 春 の田 殿 のみなくちに にて田中に にすきい 水 b Pa あやしの翁のたてりけるをみ をいれはや へき翁哉 宇 僧正深覺 殿

> 日 か 0 ねさすとも いるは紅にこそ似たりけ おもひけ 3 か n な 觀遙法

為

成 師

あ 平 きやうせ

此 わ 殿 か 3 は 0 ひをけに火こそなか か め に水は あれ りけれれ 永

とも

源智

à

是は大宮の b Ú る火の 民部卿 なか b Ú の御もとにて讀經所 n ば しけ るとぞ に火をけの

菊の花すまひ草にそにたりける 賴

すまわはとる物なれば申けるにや たかへてや人のうへ

とり

け

h

賴

成

ょ

覺束 は くその ななたれ もりやしらはし かなしけん二見塚 るら h 公 相 す

け

羊 むまけにもくふうしの草かな をさる 0 頭 1= なり ń れは 圓後 永 阿 同 暹 住 吏 摸

雨よりは風ふくなとや思 0 花かさまた るみの むし ል 3 藥 慶 丈 丸

梅

是は 子に薬丈丸といひけるが てしけるを人々え りなる見のみのむし 慶暹 律 師 が房 E いはざりけ 人まか 0 梅の枝につきたりけるを つけたりけるとぞさてその h 12 7 ば促 あそびけるに十 L あり け る 歲 孙

か

百四十九

わら は を ば 法 師 12 な して よろ きもの な h L V る

をく 物 0 南 音 は 3 n をもや よ な 3 h 春 L は 0 秋 あ しらと 0 け 幕 は は よ 0 b 5 E 2 な 修 重 かみ 行 基 0

2 Ш 渡 井 せ 0 かっ は 12 うちに 6 木 h 0 さくらさ もとをは n 人の きに 72 立 8 T け 1 け h 赤 h 染右

衞

所 百 寺うつと 7 櫻の 暌 T か 東 へりけ Ш 0) 邊 1: るをみて人のし あ b 3 け 3 1 12 Ш b 0 井 け ると E 1 2

瓦 屋 0 い 72 ふきにて もみゆ 3 哉

尋け

12

ば

あ

12

こそは

高

名

0)

伊

駒

H

よと

寫

政

カラ

6

0

け

重章 うづまさへまい 3 將 0 わ 0 で 帥 12 張 ちく しけ 君 0 なくしそるし n は 月 3 かっ 0 b してやつくりそめ け 72 5 るに る道 かっ Ł B 5 3 かっ 12 ふところに て

瓦屋 0 おとろか しま哉 多 H T T み h 酒 T 國 少武 奎助 などた け 為 3 助 忠 相 俊 H

昨

日

きてけふこそ歸

n

足工

羽"

より

もり

2

3

ねみつのわう

是 は 越前 3 にて かっ 0 父の は 5 とも O く心ちこそすれ 1= 1 à) す は 0 御 社

7

門 h 是は うづも 1-カゞ E 又 0 300 j n 0 お 為政 U \ \ . 0 日 0 雪 歸 12 1. 15 まか たる なり 云 河 つな 0 3 內 n 醉 め Ill b T け 守にて侍 は てさうじをし it 酒 か E 0 \$2 かっ n ば け U みえけ などの は け かっ h 2 b な 1 よろこびさ n 弘 50 Ut 3 6 10 は け j あ 3 とす C 時 a) It 3 3 12 n.F 70 生 生 7 は なが は L 3 駒 12 60 さって たかが h T ılı づこの 13 やる 響應 b 敏 め T 17 T ili 源 郎 3 でと 等 朝 4 17 TI 女

之

3

<

わ

h

t

侍 んとし 7 8 わ 1. n はきく ぞあ n しあ やみに 5 きのみえてそら Ł で 3 け 3 とて きけ 17 け U. T 3 ij h 1= カコ 為 78 12 3 < 5 130 南 かっ 政 1 3 かっ It Ĺ B 1-L みつけ もえ 12 12 は 1 72 0 は ば T 3: 0 b て程 5 5 3 it Ti きしか 0 之高 は 3: C U 3 たく ざり 4 3 を 1-نی < 0 12 文こそ U みぐ 'n 0 U U. て人 12 H 0 3 は け け 3 12 より わ 15 H 72 **誌**k しきことに びてさは b 18 C 72 も h け 72 T げ つけ る h

D けるま、にまひおどりてければ為政えたえずしてき 申 でたりけるに為政したなきしてあざみけり重之きく ぬぎてかづけてけりまことにさむげなりけるにた ていはざりけるを重之しきりにせめけ 4 か 12 つけ 72 るぞとく ひけ n ば しばく ればいひい H £

のは Z るころにて加茂川のいたく水のまさりたりければ男 72 り車 かまをぬぎてさくげてわたしけるをみてしける 加 か りは に乗て宇治殿へまいりけるに 茂 ]1] を鶴 かまをは 脛 1 おしとおもひて ても渡 る か な あめのふり 信 賴 綱 綱 け

たる

ちまちにきてゑみまけてしあるきけるとぞ申つたへ

是は十月 なる馬 の下にさしたるをみ に柴木をお 柴かきの木とこれをいふかも へこそは 朔 日ごろに紅 栗毛 ほせて 0 馬に あかくなれる柿を枝ながら 葉みにまか てしけるとぞ 負 せけ りけるにくり毛 n 清 為 な 家 か

> ひのこあゆといふ物をくこせたりけるをみてまへな 鵜舟 何 1 にはとりいれ あ 10 るをあゆ とい し物を覺束な S らん 讀人 まさふさ 不 知

りけ る人の いひけるとか B

これをそし 千早振神をは足にはくものか もの 社 とはい 2 神主 式 忠

これは賴 ぞと問 ける程にまへのけた川より舟の をくはれてかみをまきたりけるをみてしけるとぞ 是は式部が加茂にまいりたりけるにわらうづに け 朝またき唐櫓の音の聞ゆるは たて刈舟のすくるなりけ れば 光が但馬 72 てかりてまかる舟なりとこたへけれ 0 か みに て侍 くだるをいかなる舟 h りける 時にしとみし 賴 摸

ばしけるとぞ おそろしけなる おに柳か 73

宇治殿の御舟にのりて伏見といふ所へおはしましけ に鬼柳 水上に ふ木の あし原くさき心ちして もとにてし けるとぞ 則 綱 仲

深草に幼きちこのたてるか のかはらけの馬にくはすな な

一百五十一

馋 賴 口 傳 集 F

犬たての中に生たるえのこ草

實

清

3

くとみをきて後にひか

せん

b ると 3 0 御 12 24.74 たりけるを見 は 前 宇 申 72 73 治 をとをる ちて 殿 け 3 Ł 36 內 カコ Ł かっ b かっ か ^ なり 7 B ^ b お 申 it b は it T け 3 L 其兒の るが 3 1 3 を宗 深 大 草 け 路 前 綗 0) 3 すぎ 中に 3 12 カコ は Ł 御 け 6 は 1-げ 3 をしてすこ るとき申 か 出 さなきも 0 馬 た b 10 V け 0)

け 22 田 ばなはし 1 < 田 代 ٤ 7 0 は 水に 水に 3 む物 所 13 0 は は かっ 影もみえつ あ < け ろに 3 とみえ 又馬 そ有 n 1= け 0 n もく E 3 どく 5 ろに を申 永成 永 經 ぞあ 馬 法 法 0 師 h あ

人の 瘠 てめ め み 2 は 0 0 深くみえけ カコ 3 きるとし ところ 0 堀 かっ E あな 和 72 計 れば戯れ 1 つら b 2 古 也 n け T け n せ n は 5 高倉 n 女 it のう 3 1

房

かっ

扫

73

かっ

90

ゑに

દુ

营

かっ

L

をとらでぞ

み

え

候

は 所 あり は n つ ね 3 2 カコ たひやあると問 なり 3 ひ より が 5 泉 よき ひ 作 0 つ 國 日 72 3 2 B 1 72 1 7 け 7 3 るに は 0 るとこ 12 ね 君 此 12 3 は なり ろ 程 みえ あ 0 はみえずなんと b 3 け け るに 3 かっ 0 ひ ね とい ひら 0 2 比

> とも のあ と申 申 じや これ たは 3 T 72 を人 ずよろこびなが あ < 7 すな 0 1 9 b 5 は 3: ほ どへ it は it を 賴 あ 12 12 あ でみ < る 10 かこのざに 家がもとにて人 ふきよしとてま しきをとに 3 1 てくをあ わ カジ 1= 50 は ずとり出 0 3 まことに L カコ 12 なに 72 ぶきとい 1 1 らつ b L 72 候 V L てか 7 b 1 は け て侍り 0 T T 3 あ ょ えが言 か 12 1 ちく 12 2 かっ 12 たなし ~ L りけ b な 72 あゆ < あ 9 < ふじ ける そび てま 0 b V 111 お 候 るとか 72 は 3, 72 n ぼ T 1-ば L b 12 え 0 it きそ あ て作 け るに ŧ 永 3 L to け 10 B を た h 0 12 n 0 せ 13 をさ むと川 から ば 南 永 よ な すゑに b 5 W 1, は から け 3 とよ 13 る よ 0 te かっ 3 3 h とぞ げ なに せ 3 法 13 あ 13 fafi h あ

我 お 2 せこと なん 春 狩衣 H わ 野 は わ 候 カコ 0 E せこ は カコ おとこなり 形色 せ かっ P くの 火 こと にこそとふ 0 おとこ 申 野守出見ょ今幾日 か 111 をとこ 72 は ち 女をわ カコ 學 は 東 b 40 カラ か け 13 で せことい n 有て若菜摘 かっ は E 1 1 納 ひ 6 11 んと 殿

がたく < べけれ春日野に野もりすゑて見せんには見つけが 火をともしてそれをとぶ火とはよむなりとぞ人申 此飛火と申 ちおされてまもらせけるとぞ申ける是もたのみがた にこそよまめ る後に人申候はさらばとぶ火の山もりとこそはいふ おこる時に都にしらせ申さんがれうに高山のみねに やあらん春日山吉野山龍田山などへだくりて見え ありなんものをまたそのぎならばよろづの 事は 春 日野にのみ火のとびありきければ あまたの人申ことは異國のいくさの 野

號..後秘鈔: 佐..知足院入道殿下命,奉,為,,賀陽院,後賴朝臣所作,《々題家朝臣本壽水二年八月二日於..紫金臺寺,見合了

智範之

自飛認御僧相傳之

**俊賴口傳集下** 

## 續 歌 林 材

名 來 < 緒 0 根 < を尋てうも 12 永 ては 多 引 付 n 功 3 亨 0 あ 37 出 3 n 材 來 3 0 驚峰 ば 3 3 な j 歷 比 は きに け かっ 0 娑羅 13 3 有 b 3 n 3 Š 條 でに遠 h 3 ね h 6 禪 有け T -林 やら j ことを を 崲 あら 0) かっ 0 歌 枝 3 n 1-< n \$2 ---林 をさ 思 喬 38 千 す 願 n カジ 良 注 3 V 重 宁 F は 材 木 しそ 所 は ^ 0 か 5 0) 集 2 より そえ 0 3 浪 2 なた ٠٠٤ 材 ~ ることい かっ E T h 1 分 E あ 3 續 B とす な 猶と な T け は 歌 12 は T から 終 3 b 林 かっ 12 蜀 0 わ C Ш 亦そこば 良 6 Ш 0 0 8 カジ 材 杣 沙 鄧 亦 カジ 國 T 3 集 を 集 E 林 < お 1= h h 0 A2 n は 由

> 續 林 良 材 集 錄 E

そと T をり 3 姬 姬 0 0 H 事

> ま E

てこ

カデ

11:

よ

2

3

0 長

11

流

撰

3

Ш 0 b

麦

18

か

6

3 31

王 名 0 をと め カジ

天

0

40 0

は ょ

舟 7

0

事

舟さく

カジ

12 0

31 0

さ付

けか

3:5

马す

女が天の岩の

T

-

坂

0

3

野

は

03 水 あ かっ は 72 手 L E カジ を n カジ 3 < か L 1 應 は ٤ 船 0 45 0) 15 0 事 3, 事 し付 1 は玉

> 早 <

鳥

ず

h

廿

かっ

L 船

0 0) から 0 升 0)

[Yi] 21 11 瑶

0

<

かっ

1:

ち

0 計

鷹 0 名 3 5 2 事

夢 カコ 3 3 寸 0 ば 1 事 0 文

焼

津

邊

0

事

Ш 72 子 木 九 0 0 12 どの 0 そう 駒 8 0 枝 事 づ 事 扩

0 事 す 事 3 事 から こと 馬 2 鹿 かっ 0 天 かっ ね op 10 智 < 0 0 1 1 0 街 产 夢 0) 天 0 2 2 给 1-皇 から 合 0 = 菰 1. 17 213 0) 0) 癸 0) 0 0 315 3 2 仙 3 5 31: U) 天 0 21; 0)

> 3 % 21:

女 0 1 沙 12 金 3 事 人 0 H. 0 4

総に 0

摘 H

えび は み ひ うさ tz 1 蒲 1 すの 5 3 b か 0 木 3 蛇 0 0 身より 0 0 ま に 事 島 な 0) h n 10 出 事 < 0 3 す 事 事 事 Ń. 0 事 もず 北 は 2 ぼ 0 との 藤 0 0 j 浪 早 0) 祭 0 3: 事 為 0 く付の 2 0 事 のふ 事 山だら

## 同 錄 下

10

きの

矢の

事

きく 王 か め E 0 40 0 下 j Ŀ せ 0 水 ょ 0 0 0 山 事 事 0 事 藥付 生 B 天 Z 羽 かっ 1 0 ō 衣 花 5 0 暌 は 里 3 は ほ 多 事 3 撫 P 0 3 0 事 事 Ш 0

事

3 橋 鳥

なり ばし

0

笛

0

事

0

ちり

を立 智 0

3 12 0

え 3 桃 事 吠 0 0) 事 3 事 か付 事 へ嫁 00 事上 0 山 2 萬 3 0 え 歲 0 をよぶ 名 < 0 乘 3 0) 事

仙人鶴 松柏

け

72

B

0

雲

河

す 5

む

い

2

3 1=

か 0

よ

3 水

玉 ٤

0

か 塚 か £ < b 5 0) Ŀ 風 す 0) 枝 0 カコ か かっ をなら け ひ 0) 72 事 ž 3 つ付か風 太 2 事 刀 事 ひの 0 事

> 天 火

河 ね

海

1-

か

J か

2

事 衣

月

0

つ

折

麻

0

中 か

よ 3

もき ź

0 事 事

72

0

お

きな

0

事

す

3

0

は

0

事

鼠

羽 鳥 多 0 そら 5 3: ね 3 0 鳥 事 0 事 は付枝

相 2 お は B 思 め 0) 2 2 木 か 72 Z 0 h 0 0 め 事 B 72 n 事 思

7

成

<

事

ほ ぎす 不如 錦 去 事 を待

٤

1

となく

0

子

を

重

3

事

雲夕

雨

5

E

題す

3

事

ことの 朝の

ね

聞

3 事

事

猿 V 身 こゑの をや

事

腐付

螢 夢 子 霜 ょ 目 V きすぐ 多 る 1 0 1-わ Ū 賢 為 0 か 12 3 人 12 妇 る を得 隣 鳥 L 0 0 るこま 雪 を 3 な 0 30 3 3 事 j 0 つす 事 集 事 事 0 3 事 事 事 氷付盛付の氷の草 にし す 七 U 蠶の事の 代 T 0 1 つ きの き洗 時 S C か 0 0 繪 夢 步 あ Z 3. き人 事 は 0 0 事 事 0 3 0) 事 事

鳩 月 0 0 つえ 2 P 0 0 事 兎付 月木の事

百 五十五

歌 林 良 材 集

續

鹿 駒

を馬

Ł ま 3

Z す

消 光

か

3 事

雪 融 虎 蚊 かっ 4= 0 1-め 0 3 0) 身 0 0 70 5 角 < Ш 投 3 15 毛 3 0 まの 法 3 木 國 すく 事 0 有 0 事 末 事事 Š. 0 事 蟲 0) 衣 A 加 雪 事 0) 1= 3 0 0) 5 Est 0) か 3 は は 6 H Ш P 0 0 3 0 鼠 鳥 王 事 0 0 0 0 事事事 事

は

Ł

け

0 兄

0

事

韓爾南

史

本 續

H 木

本

紀 粹

本 款 规

異

記

扶舊

桑事

聖古

德事

太記

-1.

仰

略 紀

記

朝

文

刨 H

集

H

紀

土記

引

書

槃 選 神 族 物 陽 E 陽 海非雅史 Ali 記 廬 經經 論 雜 本 國 經子 記 志 說 孤 法 經 壓起 杜漢 成 拾論神淮列毛 漢 邓 111 詩武 都遺衡異南子詩書 度 記 經 經 經 内 記 子 論 傳 桃神說 相抱莊尚 भग 自列 14 金 後 光 含 花 異苑鶴朴子書 域 氏 加 漢 記明 經 文傳 源 記 經 子 書 集 記 經 荆 劉 博呂荀禮 度 法 游列 Yn] AHE. 14. 仙女 101 州 尚 物 氏子記 帝 志养 極 KI. 窟 傳 記 別 錄 通 秋

記

蜀 搜 華 山

樓

挌

文

14

下てるひめの事

彦といふ を聞 原の ざるの間 と思ふ心 むすめ下てる すでに 右 で天 は 日 りて天 しけ 本紀 彦に みことの < 衣裳 わ め あらぶ 下 るに かみ 告てね わ あや か 有 0 照 天 か ひ it て先 姬 あ n 此 天の 12 る神 孫 けるを天のさく女と ひこが門 しとおぼ 姫をめとりてをのれ天の下をしらん 3 0 ば なきあ 神 けき人なりけれ かっ 妻戀そ天に じとせん を天より下したてまつりて豊あ 心心 おほ 八 れら 有さま見 かこ弓天の 年になるまでか まめならずしてうつし國 をし くし まへにたて して天 しき鳥 Ł 聞 せ づ てよる お 給 10 羽々矢を給 め ぼ 0 より名なしきじ 3 かっ 3 ば てとお い る か ひ 72 つ 1 め 50 3 湯 かっ る 0 つならぬ音 ^ 神 B が桂 0 りごと申 な ぼ け きじ 木 りど は 0 る ~ 見 高ま天気を 高力 0 0 h 上に 木 飛 を下 王 此 T 0 0 國 < B

にぬれ 彦が でにか ば天 妻下 にあ ば折 害に 時給 かっ Ŀ b る さき天わ h h けれ 2 40 りますに 7 たり ぶし天 亦きた 天上 72 か わ あふべ は てる姫なきかなしぶこゑの天に聞えた くれ か彦が 津 ば て來たるはけだし國 りた かひ 0 ね て立どころにうせぬこへに みこと其矢を見ての にいまする高みむすび てころし 神 夜なき 其神 る天 谷にて たりとしりてつかひをくだ わ なき心有 を空に しとのたまひてか Ę 父母 こに給 かっ か ひこ書ね のかこゆみ天 る神 Ò たちうるは 悲しぶ もて上 0) うつ其 神こ か T ひし矢なりし 大きじ 其喪をとぶらは いやきけるを妹下てる姫 射 時下 れを聞 をして有ける高 りてもやを作 たりとなら つ神とた てる しくしてふた 0 72 Ŏ 0 の尊の まは て天 矢を投く 高 は 姬 かっ む い矢を以 0 わ 天わ ば 3 く此 1 なさきをと に此 コン むとて天 せうとに b 天 かっ か だし給 7 T ひ 30 わ ひ 矢 かっ らけ なさ 0 親 天 こは てし 矢 は 0 かっ 0 族 ひ 5 す カジ n

あまなるや、をとたなばたの、うながせる、玉のみす

射ころすべ

しと申

けれ

ば天わ

かひこ天

くだ

b

よみ

は

まる カコ ひこ あ まは や、み 谷 ふた わ たらす、 味 すきた

子天」といへるに思よせてよめ さて上 これひなぶ しては ñ 0 歌 音もとよめ りの F F 7 歌とい てる 3 姬 るは ひ 1-8 は ~ 詩 り古今集 カゞ じまり に鶴 妻戀ぞ天に 3 Z 鳴三子 411 序 かっ け 1 九阜 かこめ 久 3 か 72 聲 \$2 3 73 0) 12 h あ

飛 L ゆつかつら末葉もりくる月影の下照姫 T to 3 名 無の雉を射さり せは 天 0 羽 々矢は投さら 門をさす 輔 强

王 ょ b Ŭ. 83 0 事

h 日本紀竟甚 け 浪 1= 王 ょ h 姬 のこ ことは渚や 2 3 のいきまり な

海 0 てみと 3 咖 老本 日 りをうし 紛 本 姬すでに 12 せ 紀 に彦火々 カジ す T なひひ ほ 2 カコ は ど龍 B 0) らみ給 7 0 りば 出デ 海 0 姬 1 宮 は 見 12 ~ ひし 算こ b 舌に かっ かっ たにさまよひ を得 72 B 0 カコ か 6 Ū ば は E カコ T 2 み火酢 天 つき か L T 採 け 海 h n T 1 0 2 夫婦 芹 給 1 ふを 子 海 b 3 弯 to 鹽 ほ 神 給 0 海 どに 16 0 津 0 U 底 は h h T 12

> おりは より にし は 2 圣 給 大 だ 2 03 子をそだ THE 3 0 3 T 72 なび給 当 は 待 3 かっ つか 1= 鰐となり 也 约 てるやうの ふこと也 ひそめ ふことをは 御子 て其 カコ 合せざる 多 す 給 Ŀ ては 3 神 のうた は なは 用 2 ģ け b 御 うみ 近 つる L のうまれ U ~~ 7 ひてやが 天 王 7 40 T 5 5 子 きなりとちぎりて飲む T は は より をば ぢうらみて 盟王 1= かや 奉 御 は 0 海 2 h 豐玉 は 其 了-御 6 n ひ ~ 末 ふきけるむ 老 3 給 名 たに T 姬 もこよ 3 8 うまれさ じばそだ をは 風 御 より n ふときその 姬 してうぶや ~~ 0) ろを し姿が 出 浪 ども お 3 30 自島為草 來りて御子をうみ ば 1 1 2 13 ゐてうぶ て給 給 かしもや今夜は千代 せ -9 よ 0 5 わ 給 め 王 2 カジ 姬 3 た 83 か ie W 許 3 12 23 は N 6 よ は め h min Sel. 不合尊 居 3 也 b 御 写 3 かっ h b 1 8 もうと玉 な 共 小 -J-7: 3 を立 ō 王 姬 H 0 給 を妻 をう 5 姬 3: を b ょ 後 30 1= 以 とは 約 居 h 此 とうと かっ かっ 3 12 給 13 より To 5 3. な 3 71 10 T T -J. 抡 0 寻話付 め b 作 游 Z 給 h 375 鹈 見 b お 7 姬 T 0) た

そとをりひ め 0 1 47

やありけむ をみなへしめてたき花の姿かなそとをり姫もかく

におはしけるが皇后の御心をおそれて七たびめす 月み 原の宮に作りて衣通 賊津の使主をあつくめぐみ給ひすなはち大殿を藤 と具してまいり給ふ天皇おほきによろこび給て鳥 坂田にいたり乙姫の庭にふして七日死を以て申け の第九のむすめ允恭天皇の后忍坂大中姫のいもう右そとをり姫は應神天皇の皇子に稚淳毛二派皇子 ふせごとにしたがはずといへども且君の忠臣をう の使主をつかはしてかさねてめずに烏賊津 かはしてめすに乙姫は母にしたがひて近江國坂田 らんと るかるがゆへに時の人衣通郎姫と名づくかれを奉 姿絶妙たぐひなし其うるはしき色衣をとをりて照 と也允恭七年の冬皇后奏して妾がおとうと乙姫容 なはむことも亦妾が罪なりとて則烏賊津 ど藤原宮に幸してひそかに衣通 申給ふみかどよろこび給ひて御つかひをつ 姫のたまはくわれ皇后のねたみを思てお 姫をお らしめ給 ふ八年の 一姫の有かた の使主 春二 使主

> さくらかたにしきの紐をときさけてあまたはねすと ~ 一夜のみ といふ歌はよみ給へるなり其時みかどの御歌に云 てみかどを戀まつりて「わかせこかくへきよひ也」 ちをみそなはし給へばそのゆふべ衣通姫ひとりわ

72

をつくりてうつりすませらるみかど茅渟に幸まし 其後そとをり姫のねがひによりて河内國茅渟に宮 天皇の紀に見えたり **衣通姫のよみ給へる也くはしく日本紀第十三** ます「ときとこしへに君もあへやも」といふうたは

まくのてごなか事

とく、ゆきかくれ、人のいふとき、いくときも、いけら むしの、火にいるかこと、みなといりに、 のみてるおもはに、はなのこと、えみてたれは、なつ 中につくめる、いはひ子も、いもにしかめや、もち月 らす、くつをたに、はかてゆけとも、にしきあやの、 たさをし、もにはおりきて、かみたにも、かきはけつ まくのてこなか、あさきぬに、 ること、 萬葉第九 一とりかなく、あつまのくにく、いにしへに、ありけ いまくてに、たえすいひくる、かつしかの、 あをふすまきて、ひ ふねこくこ

をき代に、ありけることを、きのふしも、みけんかこ とも、おもはゆるかも の、さはくみなとの、おきつきに、いもかふしせる、と なにすとか、みをたなしりて、なみのをと

反歌

かつしかのまへの入江に打なひき玉もかりけんてここなしそおもふ かっ つしかのまくの井みれは立ならし水をくみけんて

なしそ思ふ 赤

かり或時はまへの井に出て水くみはこびなどしけ をもえはかずし 女ありけり賤しき家の女にてあやしき衣をきくつ 右下總國葛飾郡眞間といふ所にむかしひとりの美 の湊に身を投て をくれじときそふがごとくなりければ女おもひあ そふこと飛蝶の火に入ごとくみなと入する舟の我 猶ならびなかりしかばみる人きく人相きほひあら れどかたちのうつくしきことは高貴良家の女に つかひて一生いくばくもあらぬことを思とりて はかなく成にけりされば其所に墓 て或時はまいの江におりて玉もを

> かつしかのまくの てこなをまことかも我によすとふ

かつしかのまくのてこなか有しかはまくのまくのてこなを 浪 もとくろに おすひに

玉名のをとめ

一みなかとり、安房につきたる、あつさゆみ、末 よきに、よりてそ妹は、たはれて有ける、 なりの君は、かねてより、さか妻かれて、こはなくに、 ゆかすて、よはなくに、門にいたりぬ、さしなみの、と る少女の、其かほの、うつくしけさに、花のこと、えみ き名は、むなわけの、ひろきわきも、こしほその、すか かきさへまたし、ひとのみな、かくまとへるは、かほ てたてれは、玉ほこの、道ゆく人は、をのかゆく道は かず 4 のた

金門にし人の來たては夜中にも身はたなしらす出て 反歌

相け

b

右 也安房につぎたるはかみつふさの國安房 娘子となづく此女は色ごのみにて有 なくおほ 上總のくに くの人のい ~ むかしひとりの美女有けり玉 ふにしたがひける心 \$2 れば の國につ 誰とも 名の め

つくりて後人にはしめしけるな

續歌林良材集上

依弱柳東作…腰支」などれりうすものをつがね の細 莊子に細腰者化と云々蜂は己れ子を不生して桑蟲 によりて宋玉が登徒子好色賦 をとりて祝して子とする心なり女は細腰をほむる め也すがる乙女とは蜂をすが のたぐひを以てかざるゆへに玉名とついけん きも 柳東作ニ腰支」などもいへ ばい のなれば美人のこしの細きにたとふ ふ梓弓末 たるに の玉名とは弓の末弭 72 にも腰如、東、素と作 h るとい とふ ひて 亦遊仙窟 かっ をば 0) る也 蟲 に依

にあれこそ、うつせみも、つまを、あらそふらしき、そひき、神世より、かくるにあらし、いにしへも、しからやまは、うねひおくしと、みくなしと、相あらる。

國原 アイロとみいなし山と相し時たちて見にこしいなみ

は

相

n

とつは耳梨山なり十市の郡にひとりの女ありける山ひとつとうねびの山、ひとつは天のかぐやま、ひまとのくに、三山の妻をあらそひてたゝかふ有三古出雲國の風土記安善大神の所にいはくむかしや

やまとの國に上るにはりまの國に至るときかぐ うと聞ていひなだめんとて國をたちては 所の船をうつぶせてやどりとしてはりまの國 きくて安善大神は 山、み、なし山、のふたつた、かひまけてかの つの山なりどよめりこへに安善大神三 たがひに相あらそひてたくかふことやまず夜 カジ ねびの山の神にとられつよりてあらそひやみ もとに三山の靈男と化してか 國 にか へらずして其 よふ か 乘 山 る カジ のた る 10 ねと 女う なみ にと n る

りはなしに 一東路のてこのよひさかこえ彙で山にかねんもやと 一東路のてこのよび坂の事

あつまちのてこのよひ坂越ていなはあれは戀んな後

さえぎりて不い通件の神あらざる間をうか 來るにか をくきてか 右するが かっ よふ か るが の國 Ш j w ふ神 の風 あらぶ に來ることかたし女神 有其神つね 、土記に云庵原郡不來見の濱 る神の道さまたぐる神 岩木 0) 山 より は 男 10 洞 7 有 70 7

得 な b ることな Ŀ 0 多 付 岩 んな T 木 省 手 け 0 は をてこ この n Ш カコ 11" 0 呼 男 0) 此 男神 Ł 坂 前 方 Ł 3 0 0 3, す 名 00 j 田 よ 72 12 子 云 J. b Ł てる 0 7 12 てこは 0 うらも よ け ~ 3 b 3: 8 手 東 よ 子 b 待 カジ 俗 2 T 0 0 浦 待 0

岩 未 歌 b Ш 5 1 12 12 굸 n 8 1 萬 3 越きませ 0 葉 濱 集 は 男 庵 入 加 6 畸 n 0 0 來 侍 n b n 1 2 05 13 b 0 嶹 宿 47 1= ^ は 3 3 我 1 3 ほ 原 3/4 K 12 12 0 临 h

2 け 3 0 0 3 船 0 橋 1 0 は 到家 しと b は な

L

親

は

3

<

22

F

わ

は < 3 有 반 0 世 右 カコ ゖ ず 2 7 お 3 P 1: る 3 カコ 0 0 T L 3 カコ 抄 8 夫 かっ ~ 此 物 婦 0 V は 聞 とな 1 1 1-な かっ 0 云 ょ け b 住 カコ 道 T T 2 T 3 0 は 合 道 よ 有 男 國 古 せ かっ 女 1 け 0 一戀路 ぞ 3 Z 5 3 有 3 15 < 0 n U と名 心 其 b か 1 多 船 とな 後 共 72 付 ば 1-かっ お 6 b 父 傳 < とこ 今も ٤ 品 Ł よ ^ T め T 5 0 15 橋 其 b Ch 親 47 カコ 0 女 3 は

と云り

12 よ

10

先達 3

0

說

に云

和

は父母

W

3

7

け

ō 出 0) 12 Da te H 3 L かっ 中 らず 也 を Ū T を よ 12 中 あ 72 と思 つて 5 12 F h 12 T 1-3 親 3 作 T な 1 ず 也 0 b よ 3 5 合 か め な す カコ 3 L C T 3 111, 心 18 橋 6 洪 15 18 1/1 お 13 以 をとり な 7 1/1 72 女の 12 3 彼 は Ł 3 け 方 72 1-力多 < 72 よ 32 3 7 h 我 は 8 作 橋 3 カコ h

東機 路 0 3 0 1 船 は L カコ け 7 0 2 思 わ U Ł 12 3 10 0 朝 3 人 0

こ量な かっ n 0 わ T 12 よさ 3 7 0) 1 船 は L は 3 カコ 73 3 思

け 天 3 0 岩 天 0 船 3 0 は III. 船 付 天のさい 72 0 ねてそ 女か 秋 11 0 13 1= は 宫

め な È 0 皇 右 Vt b 3 け 四 3 8  $\mathcal{F}_{i}$ H 3 T 木 0 b 天 是 紀 しと皇子た 有 五. 津 より 年 歲 竟 かっ H 1-宴 0 0 所 東 市中 ぎをひ ょ 2 T ち答 時 武 3 カコ H 72 或 0) 向 天 ろ 1-12 皇 國 南 0 め b 天 去 宫 をよ 12 0 h は 崎 まは 我 岩 < 2 カコ 水 n 北 船 我 5 < 國 腳 天 1-3. 3 5 0 0 所 T 12 行 b は 0 刨 115 T T 元色 7/1/ 9 3 老 丽 73 73 147 T 武 h < 22 給

續歌林良材集上

け

3

右

天

0 8

さく

め

カジ

岩

2

12

は

亦

别

0

事

也

津

國

風

土記

人か の考案にい ねく 也是 豐あ 內 持 3 3 0 の白庭の 0) 有と かゞ 國 72 は 0 てともに つやまとの國とはの給 0 長歌に 神に饒幸 年皇軍を の天 ひ申 j 國 7 虚空をめぐります時是郷 L 天 和 あもりまし 都 げ 原 山山に と云 磐船 0 U. 0 のさく 既速日質と申せいないよりに 磐船 は 生 Ш 中 たりそれよりうつりてやまとの へにまか いましきかれ天 C 72 J. あ 0 津 R 女か 亦 か 明 1 め 3 國 \$ きつ島 駕し給 を伐 萬 神 は 也 しはらの宮と名 12 3 葉 6 5 天 入て宮づ ٤ て東をうち は船 1 S L やまとの國 0 13 7 岩 角 し神 先 らひ 平 ひそ お 10 ひて天下り 層が 0 は 5 天 2 記さい けし の岩船 江 する を見 · 天祖 孫瓊 くり め ねに乘て飛 て宮づく うたに 給 しなり萬葉 てし高 な件, は などよめ 7 づ こぎつ を天雲に 0 0 < 天 1 みことの 囚 かっ T 給 津は くだ 駕し 其所 云 河 拿 b ふ則 賊 0 饒 內 のこ T 皆 給 り今 國 石 十九 りて 國 國 か B あ 速 てあま 22 伏 見 船 鳥 广河 h 0 L るも ふ故 まと せ 日 上 É 河 j 見 か 0

> る神 かぎ 故を以て高 云 鳥 船 天 波 9 高 ともよ 探り津 女 は 津と號すと云 〈磐船 め 天 雅 1-彦 乘 天 U 下 人有萬葉 T h 爱に至 L 時 天 本に る天 雅 彦 磐 天のさく 1= 船 屬 0 T 泊 下 n る

- 大空にからすさけふてふ弓よりも金のとひのる。 一大空にからすさけふてふ弓よりも金のとひのゐ

レ龍垂 弓の はず時 右神 あ 0 拔墮,黃帝之弓 十余人龍乃上去餘小臣不、得、上乃悉持 L のごとし長髓 すさけぶ弓とは黄帝 たは て鵄 有 云黃帝 弭 T 武 ▶髯下迎」黃帝-黃帝上騎群臣後宮 ず終 天皇 天皇東 1 E の邑と云今鳥見 忽 ٤ 上をこば 采1首山 12 14 皇 まる 彦が軍皆迷 征 百姓 軍 0 而テみ 其 時 0 銅 雨また 72 鵄 P 0 仰望黄帝 とい めに 弓を申 7 まとの 鑄: 鼎 則心か ò 吃工 金色の Z ほ かっ U てきは は訛 て皇軍 國 な ろ 10 於荆 旣 ぼ P 1= 上 めた 長髓 3 3 鵄 なり 111 天 來 か 下 n 7 乃抱言 従上 二龍髯 1 b 彥 n 5 鼎 其 な E か て天皇 旣 Z 所 U רין K 一龍髯 を號 えも 成 か こと カコ あ h 12 0 有

二百六十三

妻戀な か質 5 山 せ か 0 た は D < 應 かっ 0 0) もとにうらときて 事: かっ 12 E n < 房 應 は

男って鹿が天 ぞ聞 用ゆ 氏 0 0 天兒屋 0 は え うか きとよ とそ申 3 照大 をとら 日 1 72 0 かをとりてうらなは 神 根 前前 0 ,0) 縋の こへて肩 木 寸 命 天 8 る をい は 布"月 万玉命にかり 0 3 岩戶 1 甲やきてうらなふには 鹿の 2 かっ の骨を拔 カジ 0 を閉てか よき也 木 カコ tz は 仰せて天の h のほ 3 しむと云 とり天のかぐやまの天 ことをうら くれ 萬 カコ 葉の 木 ねやくことにやと 也 ませしとき 歌に 3 々今もうら部 かぐやまの真 なふ 63 1 うらべ かっ ふ説 0 あ 木 より 思 かっ 70 n 飨

平國擬人が事

ふこの < す人 比 カコ わ カコ な摘 3 h L は 0 野 0) は 君 を思

ぎ物 くず 時 П 奉り を 囫 なら 摷 ては 人 は 應 口 h 神 T を撃てわらふを例 7 わ 天 5 曹 ド皇 酒斗十 7 を力力 it る より 冬十 て天 宁 皇 月 とせ に奉 吉 3 野 h 極 宮 T 洪 人 哥 は 18 出 うた ず人 みつ

> つぎも 見え 谷 毛 もら は 調と名 ふか Ū U 亦 Ę 12 h 0 37 蚶设 / が原なれ 蟆を煮 付 な h to 起淳朴 h 及年はま て是 其 國 魚でれのに 먑 をくら 1 野 類 整り 0) T 也 ]1] C 征 と云 E T T 1= よき味 弘 ili おりて な日 つぎ 0 菓 水 物 7 をとり 米 紀第 表 也 と云 險 3 北 T 3 T

あしがら小船の事

离旅鄉十四 B 心 は 1 B 0 鳥 T あ かっ 3 小 船 あ 3 3 か は 3 めこそ かっ 3

6

Ł i 摸 12 右 つく 國 T 萬 なりより 薬第 あ 風 るに L + から 記 6 7 あ 12 四 山 あ L 云 東 足輕 に船 の輕 しが 歌 0) 木 き事 5 Ш 1 切 0 は 1-とよめ ılı 他 此 3 と付 Ш 0) カラ 材 2 0 杉 るも萬葉の 1= 0 12 b て作 0) 威 木 0) 5 云 \$2 70 3 12 とり 72 うた 船 な 3: 1-T h 船 な 3 相

b

早鳥

船

0

事

れ早とり

0

は 家に りま 駒 0 Ţ. 100 0) 風 御 非 1: 有 記 云 井 1 難 1-波 高 楠 木 /1: 有 宫 11: 天 11 是 ĥ 御 丈 宇 1)1 阴 石

うた n 1= b 明 也 時 石 b T 人早鳥と名づく 0 宿 奉 よい 3 其 發し 一船足 7 0 半時 歌にいはくと云 はやき事 を以 鳥 住 0 吉の 飛 々卽 カジ 岸 ごとし 上 1 0 5

れそのかこと名づくる事水手をかこと名づくる事

共 其 卽 向 かっ 0 右 5 そなはすに 女髮長 淡路 たり なる 國 めし 水手をかことい ども とせり 見てあやしぶ の鹿兒 の島 T 7 | 姫をたてまつる也と天皇よろこび給 2 御 み カコ だ大海 數十 る所 船 君牛と申もの也年老てつかへをや 問 3 の水門に入ぬ天皇のたまは 15 かどを忘るへを不り得 1= 幸 て云いかなる人ぞこた i 皆人 を鹿子の水門とい の大鹿海 てか かうまつらしむ是を以 1= ふことは つかひをつかはして見せしむ使 うか なりた らし給 びてさはにまうくる左右 にうきて來りて則は 14 日本紀應神 角 時 天皇西 つけ か ふ水手を鹿子と るが る鹿 へて申さく くかれ 0) 天皇十三年 ゆへ 0 か 72 皮 時 は をき りま をみ U 0) 日 7

甘かしの岡のくかだちの事いふも此ときにおこれりとぞ

日本紀覚复歌 E さり it 甘 かっ Ō 岡 0 0 岡 3 0 かっ < たち清けれは神のあらはす道

湯なし故に 必害あらんこくにおるて各木綿手縄をつけて湯を人を引ておもむかしむちかひて日得、實則全偽者 なり或 たまは る神 はの 云 皆傷りこのゆ こへを以 右日 わ ね さぐるに實を あらはれわかれてより此かたあ 一々探湯、 かし てすく 本 なり 3 は 紀 # < 或は斧 味る は赤 群郷百寮諸國 造等 皆各言或は帝王芸允恭天皇四年秋九月みことのり有 槽 む あやしう 一氏蕃息てさらに萬姓 者 0) なし 得 明 を火の かう へにいつはれ 神 ねを 12 13 る者 是より後 て天より 湯 やまとの 色に焼て掌にをくとい は自ら にわ る者おどろきおぢて 下 かする也 氏姓ことべ 國 n 全く質を 高 また萬歳 りとし 市の 或 か 郡 は泥を湯に 不以得者 を經 く定ると 3 1 お 72 b 0 : T 裔会の

代まて 11 岩 は カジ か L しはと常磐なる我はかよはんよろつ は 0 事付石の名を玉がしほとい 小草

をい 尺厚さ壹尺五寸天皇前でのたまは大野にやどり給ふに其野に石有長 右 ふ則柏 葉のごとく擧れとのたまひてよつて是を蹴 ことを得 年に天皇賊をうち 3 n h 2 ふとい 1 0 草を 王 名を 踏石とい の葉のごとくに 柏と讀るも則 h カコ とならばまさに ふと るは L ふと云 はと付 誤 S へる n は 石のこと也上の 3 K して虚 てのたまはく朕 h 12 も異説 顯昭 也亦石に生る る事 とてつくし 此 法 石を蹴 空 H 正上 也俊賴朝臣 師 本 でさ六尺ひつ が岩 ・紀景行天皇十二 b h 山路 土 ひとつ葉と に生た n 1= 放 蛛蜘 カコ て柏峡 3 より 其 3 L もうつ る柏 石 せ給 は を討 31 z

み玉

一かけまくは、あやにかしこし、たらし
関係第五 たまふと、いとらして、いはひ給ひし、ま玉なす、ふた と、からくにを、むけたひらけて、みこくろを、し つの石を、世の人に、しめし給ひて、よろつ代に、い 姬 神 0 つめ みこ

> こふ つく かみさひいます、 の原に、みてつから、をか かっ 12 19 わ 12 くしみたま、 のそこ、奥 0 し給ひて、か 2 今のをつくに、たうと かっ II. 0 、うな むなか かみ

天地 きじっつ か のともに久しくいひつきて此 くし 弘 Ill E 7) 3

け

生 ひ 前 雞 きは長 著させ給 給 右 ざいき 國怡土郡深江村子負原子のごとく其うるはし くし n かか 13 373 びつき拜 13 3 分圍 王 尺八寸圓 給 ふ石 異 h 7 成 ورو は なり其 石の名 ねや カ> 尺八寸六分重さ十 一一過 5 うに らぎて 給 と云 尺八寸 石 3. なり是は しき とい H.F 3, 72 に有 々委は上 かっ 應神 事論 つあ 重さ十六斤 は へらせ給 往 7 神 天 ずべか 給 來 3 自 功 の億 0 八斤 島 大きなる 胎 U T 3. 内 后 6 良 馬 + Ŧi. 御 (i) から す 韓 149 よ 兩 党 25 11/2 此 は長 ナご すり b かっ は をうち 石 1 1 皇子 12 序 b 筑 وي かり

ちりは 御 か 0) りは 名をく 10 いちとい くしましろなるくちの 3 事

2

修 賴

しはか

7

11

名付て俱知と は 72 天 右 雉。此 亦これをとばしてもろ い てまつ 年 2 近日百舌鳥野に行っけ小鈴を以て世 まだ 1 3 さは け小鈴を以て其尾に付腕の上くばくもあらでなづけえぬ則 まは 秋 鷹 百濟 九 時 ば は 濟王 月依 にたつすなは < りて申 の人其鷹を養之處曰『鷹甘邑」なりと云 を以て其尾 0 鳥 のきじを得 をく 綱 國 何 0) 0) 申す則 さく 屯倉阿 に有な 孫 12 0 行幸 鳥 酒 (" ぞ 臣毎に網を張て鳥をとらふ洞弭子といふ者あやしき鳥 ž ひ 0) らづけ得 公と 酒 酒公こ を得 たり此 ち鷹をは しては 一公に ( 2 ず故 5 也 じめ たぬ則違が ては 月はじめ 72 の鳥を ふ人をめ 日 12 本 な てみ ょ 申 紀 ちてとらし あやし に居て天皇に といて其 といて其 といて其 < ż かすむ て鷹甘 か 德 して見 < みて 此 りする 天 鳥 皇 百 部を定 むる 齊 12 せ 奉 四 に贈 をた カジ 3 R 献 足 0 類 7 3 3 俗 3 彭 3 0 ع

夜 應 こすね覺にきけは哀 夢 合 0 專 なり夢 野 の鹿も 而 かっ < B

0

津 やどる 0) 或 風 ニっつ 記 云 0 重 鹿 カコ 有 L 7 人 片はらに 有て兎 2 我 に行 せ b 発力て 明單野 H

> b 心の され せり ほ わ < 獵 12 至 Z ·鳴鹿 3 人 カジ b 內 て郎 T 時 背 仁德天皇三 7 į, 1= より兎我 15 牡 3 たりて牡鹿 身に 是を は す する < 1 牝 魔をぬ 35 あ 汝 0) 庬 野をは 十八 まに 枯 き生 P 0 1 i を射てころしつ時の人諺にい 出 12 か 华 彭 3 10 6 72 72 秋七 るべ 是何 5 か b 夢野とも名付 h まだ ん時 忽 日 T 本紀に しとやどれ 月 0 5 胸 武 しる 霜 明ばのに は 0 士の 2 < も此 夜 b わ 12 の事 な T 12 n めに 3 今 不と及 る人きい のこと か 枢 カジ 射こ 身 0 庭 30 夢

あ U やひつ邊に し子ら 燒 津 邊 は わか 0 事 行 Ũ かっ はするかなるあ

~

0

त्त

路

1

給 給 右 て申 T 7 則 する は 日 2 と尊そのことをうけ う かっ さく 本 せ給 賊火を付てみことを焼 カジ 紀 景天行 H 此 0 野に くに 2 て向 所 大じ 皇廿 0 / 村雲の 火 5 八 か 72 b けてまぬ 小 年 がひ 給 日 剱をぬ U 本武 か 3 ころ 給給 甚 其 カジ きて草をなぎふ 多 所 尊東 7 L 野 Ī n 0 給 奉 1 賊 夷 0 らん ぞみ ス をうた みこと U n T とす て獵 尊 か を h b 0 尊

のうたは 衆をやきてほ くほとく Sij には其所を相模國 部 ろ 野によみ ぼし 以 つ其所 か 12 合せたればするが 12 を號 としるせりされど萬葉 りと則ことべ して焼 津 の國 と云 と云 洪 な ŋ 服

名告けんとつ彦眞弓あらきにも賴むや君かわかる。そつ彦ま弓の事

わ

か戀はからす羽にかく玉札

0

うつさぬ程はしる人

にけ もいつてのいそしの篠の時雨してそつ彦ま号紅 草羅の城を扱しり皇后五年に新羅に 臣はそつびこま ゆみも みちしに けりなど よめり 古き抄どもに 右かつらきのそつびこは人の名なり日本紀 は し人なり其人のもてる弓なるべきを よく につかはされ もか んが へざるにや俊頼 て蹈鞴津にやどり 俊 賴 13 神功 葉 0) 朝

からす羽にもしもみわかぬ玉つさは君か御世にそた僧きえぬへし―世の中に君なかりせはからすはにかけることのは『紀23』からす羽にかける文の事

右日本紀敏達天皇元年に高麗より奉れる表を鳥のてまつりけるからす羽にもしもみわかぬ玉つさは君か御世にそた

かっ こに船史の 373 てねりぎぬを以 ば にかけ 朝 廷あ り文字羽 やし 耐 Ŧ. 弘 T 辰 爾と 給 羽をおして黑に其字をうつせし のまくに ふと云 5 、ふ人実 黒くしてし 一羽を飯 る の紙 15

鳥羽にかく玉札のこゝちしてかりなきわたる夕やみもなし

一かけまくも、あやにかしこし、すめらきの、神の空がくのこのみの事の空

は、時 もこきれ、かくはしみ、をきてからしみ、あゆるみは、 に、匂ひちれ 至にぬきつく、手にまきて、みれともあかす、秋つけ 折て、をとめらに、つとにもやりみ、しろたへの、袖に 枝もいつ、ほと、きす、鳴五月には、はつ花を、枝に手 のこし給へれ、國もせに生たちさかえ、春されは、孫 てこし時、ときしくの、かくのこのみを、かしこくも、 御世に、田道まもり、常世にいたり、やほこもち、まわ てりに、い 雨 0 やみかほしく、みゆ 南 とも、たちはなの、なれるその 2. り、あし曳の、山の きふる、冬にいたれは、 三四 n は、 みは、ひた くれ ilili 0) 大

反歌

てまつらん一おほきみの御名をは問と亦も見て夢殿まてもいた。夢をのヽ事

かっ

磐若臺 そ得 其時衡· 亦かの經 年正月廿五日法隆寺に幸して讀せ給ふ由 共平氏が傳にのせ侍り上のうたは後 りけるを此殿 子の先身は て、は君國の事を語り人の先身をもかたり給ふ太 に月に三たび沐浴して三昧定に入給 右夢殿は聖徳太子 に納めをきてし法花經を夢殿よりもうつくに 山にして持給へる法花經 とりてかへらせ給ふとは慈鎮 唐土南岳 より夢中に行 いか の惠恩禪師 るがの宮にお てとりて 皮山 にて は お お ふ殿の名也 の磐若臺に 一條院治安二 和尚 は は しませし しけれ の歌 るせり ける事

ち高度度二云丘丘天皇と豊下象即病急寺太后たへに相ぬかも一靑はたのこはたの上をかよふとはめには見れ。墨絮 天智天皇登仙の事

せ給はず大津宮に世をしろしめすこと十年のしは御歌と云々しかれ共此みかどは御病によりてはう右萬葉第二云近江天皇聖體不豫御病急時太后奉献

續歌林良材集上

そまつ

とこよいり

かくの菓をうつし植て山ほとくきす便に

仲

實

道間守是三宅連之始祖也と云

K

を憚 登 0 は 給 を 8 3 世 ょ 0 3 天 す h 見 仙 72 ょ 給 2 Ш 所 9 ٤ 7 0 n 2 3 1 E Ш ども カジ 天 72 御 也 は 心 は 名 御 b T 城 1-3 陵 3 3 付 日 3 天 は 目 7 上 13 是 上 本 也 n 12 天 72 30 Š Ш は ば 紀 皇 3 b B L 5. せ 0 h 科 給 n 載 る 史 1 TZ 生 よ +> ぼ 見 給 は 3 待 せ 0 10 3 な つて かっ n 世 ٤ 3 大 ども うき L h L に カジ 給 せ ~ かして な わ 1 3 津 相 給 6 后 3 ひ b 3 3 は 宮 見 カジ ~ 山 L 72 0 2 ば 國 设 太 心 1 3 L 御 \$2 日 か 10 か 本 帝 ことな 73 に 后 75 L 猶 73 5 b ば T 1= 13 と中 霊 C n T 0 12 御 0 此 南 御 御 此 異 ば 崩 世 1= 沓 例 御 は は 馬 記 あ ば 歌 御 木 3 2 0 カコ 0 1= n は カコ かっ ટ B 0 とよき 空 幡 70 72 カコ お 8 よし 2.-١٠. JE. ば 5 申 1 1= 0 3 0 0 2 かっ Ш Ш 73 0 かっ 書 1 h 馬 せ ょ 1 カジ 1 1 0 10 給 E 15 n 15 3 2 かっ 2 6

to 朝歌 かっ 子 3 P 0 九 Z 0 12 我 か n は 名 乘 を 0 1 行 は

木

0

九

0

事

このう 72 は 天 智 御 天 皇 位 1-0 朝 2 倉 カコ 난 0 給 宮 はざるさ t 御 給 母 2

皇 ば 記 紀 此 よま りて n 月 1= 月 3,5 つく しと 有 1-羅 齊 世 1= 宮 Ď 加 1 1 て救 明 3 5 1-5 0 よらず 3 多 天 0 3 勢 軍 かっ は 30 御 せ 3 お 天 め 人 憚 とす 皇 3 升 給 1 は 主 0 を 护 皇 2 0 兵 朝 < 以 72 R 5 < 2 付て しまし 出 智 乞 0 せ 山 b 聖 朝 b 給 Š 3 を 1 御 난 1 は T もう 給 倉 を 國 3 3 給 72 少 時 3 征 け 百 給 まだ 朝 木 此 T 濟 15 3 0 3 夏 111 0 te 12 1-Z 31 9 < 宮 時 諸 ば を 大 0 放 但 3 Ŧī. T 筑 皇 儀 カジ 有 3 九 1-月 H 國 め 齊 5 唐 は E 3 崩 朝 本 阴 は 7 祀 共 前 72 7 72 1: 0 太 0 名 皆 0 兵 將 난 木 b C 倉 佐 紀 國 子 7 Ł h רון 3 給 是 は 給 70 を 士がに 國 H Z 0 2 か 0) 0 年 軍 1 岩 座って b 九 名 はかま 3 社 朝 1) 濟 蘇 h 1 S 8 1-난 な ٠٠٢ 郡\*天 10 、任 ょ 倉 3 す 0 1-7 0 1-天 L 定 きが 座では に温 h B 殿 木 1-皇 0 L 3 け 0 かっ 1-橋 齊 ٤ 聖 を 3 カコ カコ ば b 1 ip 1= 1 0 共 ~ [1]] にかり は < 住 御 3 伐 3 百 0 3 0) 1,1 44 5 3 ~ 13 ば は 廣 5-1-か 72 3 酒 2 -[1] 1 h Ľ, 73-72 E 0 15 T. 全 12 18 力言 h わ 6 Ł 15 力; 3. は 13 1, 風 H 秋 0 木 0 0 天 新 胩 づ H: 证 17 國 水 --T

一つけの むろ 野に大山 主か 納 めたる氷室そ今も絶せさり

ける をみ給 さく土を堀事丈餘草を以其上におほひて敦く茅荻・也皇子のたまはく其藏ることいかいするこたへ申 えず即熱月に當て酒にひたし ш 氷を以て天皇に奉り給ふに天皇悦び給て是より後 をしき氷をとりてそのうへにをけば夏月をへてき 右 日本 主をめして問給ふにこたへて申さく氷室と申 かりし給 氷を藏 کر 紀に仁徳天皇六十二年額田大中彦皇子 かたち窓のごとしよつて鬪雞の稻置。ふ時皇子山の上より望みて堅中に物 めし むと云 k て用申すと皇子則其 物 大

奥山にしつか枝折はたかためそ我身をくきて捨る 子のため に枝折する事

子のため ぬことをうる 右むかしするが て行是は我子のか 親 をい の國に住けるもの父の年老 と思ひてふじの て行にその へらん時に道をまよはさじが おや道すがら枝折 山 12 1 て死な S きて

> りけれ L 地さけて此子ならくに落入らんとしければ父かな b 後ふじの びてかのものくたぶさをとらへて此うたを讀た なり ば子のいのちたすかりけりとい さて山 Ш をは枝折山と名付たりと云 に入て父を捨 h とする 時 へりそれ たち

はふり子 うと濱 うと濱 に天の羽衣むかし 天人 の下れ る事 來てふりけん袖やけふ

能

因

えてつた ひを東遊ともい の上にあそぶを見てか 右むかしするが けるよりするが 2 の國うと濱に天人あまくだり 0) 所の野叟其まいをまな まひはくじまれり其ま て松

龍 の駒 の事

ねへし 十丈あまり八つえを越る龍の駒君すさめすは老果

右 年春一川原民直宮各登之樓盼望乃見一良駒」紀伊國 文焉と云々上の歌は此心也物じて**駿馬を**ば龍馬 \ 輩越\ 群服御隨心馳驟合度超渡, 大內丘之壑, 十 者負、贊草馬之子也就而買取養及、壯鴻驚龍 日本紀欽明天皇七年秋七 月倭國今來郡

駒 .[1] 龍易が形 方乃則 駕所故此 交二合牝 云 屈 圆 馬一途生一龍駒一慌戾難」取 國 **飽舊** 茲曰 多出」善馬」と云々龍馬 東境 城 北 天 酮 削 有 大 を 龍 龍

馬やのすいの事

東路のの 2 2 坂 は 0 せ 0 關や きの 0 關 すい 守 05 蟲は馬 7 / 2 P Í 1 馬 Z P ると思ひ つ 72 匡 S 房 0 け 鈴 3 聞

哉 すい なり 右 つくごとに振 是は 使に給 より鈴 お ほやけの使 は n は を給 る人 3 ならしてやどる 18 は は 其 道 b F の行てやどる所 てそれ 1= 0 13 口 どよろ 0 也七 かっ 38 t L 10 3 づ 3 10 鈴 0 をば驛路 あ 2 给 1= 仲 とつ -南 b 馬墨 實 有其 て七 是云 屋 1=

山田のそうづの事

なら

72

問人もなし一山田もるそうつの身こそかなしけれ秋はてぬれば

E 3 \$2 3 彼 は 右 ば民 は 也 所 0 2 稻 V は 0 土 る時 支資 n かっ より 僧 用 h 民 徳をか 都 国家 は 15 僧 3 田 E 身をよせ給 都 付 な びなどし 1: 0 人 12 かっ < 備 b 3 カジ 1 1 暖 な 12 けるまくに 國 0 T 0 h 害 過し き法 < て後 111 b E た 3 T fali 1, 應 カコ は 736 U) 2. Te < 3 Ill 所 13 お H 0 を守 ょ 秋 < ili 弘 3 寺 給 b か 過 1 か V)

n あち は L ひきの きこと ili H 0) 僧 都をのれさ ~ 我をほ しとい 3 j

夕霧に立る僧都や見えさらん山田のそひにをしかな

金の御獄の金の事

h 山 右 我 なり是 よし 出 ŧ 戀 0) てしくべ T. かっ 爾勒 0 ね 金 H 孙 此条 き為 世 12 ili は け 0 とい 時 滅 0 E かっ 會 權 12 h 說 現 な のこ 法 0 版正 カジ 彌 13 ねを 勒 此 11/3 0) 納 世 から 5) īE. 1 ね 給 包 相 231

たった だ摘しむかしの人 がある人

もわ

かことや心に

もの

かっ

なは

せ僧に、 功徳に、 うせぬるなり我をいとほしともおもは は なか 吹上たりける るもの のへのうちに どもかなひらすたいものがたりに人の申しはこく 右 7 聞しめ 0 そのくちいひ置 カジ うせなん 0 もさせ めしけるを見て人しれず物思ひになりていかで今 女官 b 風にふき上られしあたりに置けり年月をふれど あらずしか たび見たてまつらんと思ひけれどすべきやうも ぶせさにこの病はさるべきにてつきたる病に りければめし、芹を思ひいで、芹を摘てみす に成 もつくれといきの るしるしもなかりければつ いには してあはれがらせ給ひて我こそ芹をばくひ O) としけるほどに女にもあきらめでしなん 臣無名抄 には てはべりけるに此物が とのも せなどぞしけるそれ ありしことによりて物おもひに成 トきた 後 見えたりしやうに覺ゆれ しごとくに芹を摘 云 0) 物 てる折 りづか これは文書に献芹と申 め ĺ たに云 けるに 1 さなどにや朝 くはかに風 芹とみ おに カゞ たりをしけるを て佛にもまいら てうせ果にけ むすめの其宮 病 い芹を摘 如 0 W ぎよめ になりて る物を 水文 御熊 られ h 1 T 人の い事

嵯峨 の説につくべ 0 て其女官を常にめ くことにい の后とぞ申け ふ説 もあれどたしかならず後頼 ると云々亦 てあはれ にせさせ給 <u>ر</u> た丸といふも 其后 朝臣

なき 女の弓となる事

かにせん

3

かきか原に摘芹の

ねに

0) み

讀人 なけとし

不

知 3

はなし 一はなれける手束の弓の白鳥を紀の川ゆすり戀 俊 2 日

紀伊 出 立をきて明くれ手にとりのごひなどして身をは く思へどさりとて カゞ なる所に行なんとす但かたみをばといむるなり かくこめて愛しけるほどに夢に此女の我は 右 おどろきてみるに女はなくて枕に弓たてり送まし か 7 お 國に は はりに なじ抄に云 3 いたりて人にまたなりてよみけ かに南 あは 月 日 のかたにつきてゆく尋行 れにすべきなりとい むか ふるほどに此弓白き鳥となりて は しをとこ有けり女を思ひてふ い か 10 ÷ h とて其弓を片 ひて夢さ T みれ は 原

朝もよひきの川ゆすり行水の出さやむさやい

るさや

12

にて鍋を造りて献

るなり

共

數多

かっ

3

女

U)

は

所ぢ

むさや

と云 根 ふるきう のよし忠が J. かっ 0 1 弓 うたに 紀の は 紀 關 0 守 關 カジ 守 手 かず づか 弓 1 弓 7 とぞよめ 有 け 3 3 5 亦 曾曾 h

まくらなるおふちのま弓みる時そいもか手風はいとよくらなるおふちのま弓みる時そいもか手頂はいと

此 うた かっ 0 うくち 女 0 亨 なはに 1 な 75 b 3 12 事 る事 1 やとぞ覺ゆ

佗しかりけり

やうふ草

E

0

思ふゆへに

Ш

0

井の

あや

めに

成

T

0

かっ

1

せんう坂

0

もりにみは

すれ

と君

かしもとの

より うぶ 0 右 0 やん 男にて人に 顯 昭 しやうぶをあやめ 法師 冠をき ごとなき人 が宮葉抄云 かっ 72 なはずし h V で思 3 かけ とは むか カジ < て年 5 て有 5 しさうもくとい 亰 2 なはに成にけりそ 机 をふるほどに け るに か や 2 の暖 彭 p n 0

つくまのなべの事

なへのかすみんーいつしかもつくまのまつり早せなんつれなき人の

は あ 御 ち み かっ 0 國 ひとし 1= つくまと てか の所 40 2 0) 所 女 0 12 おとこし か は する 72 神 る 0 數祭

> を申時 h り入てふた る鍋をつくりて中に の女おとこの てすこし奉 かっ 12 其鍋 6 傳 をし 的 12 侍 ば 22 かずあまり て奉 よろ 3 てことべ らけ づ ちいさきなべ 南 1= 3 L くその數 1-か Till ほ とだ かっ 0 を敷の りし 11 御 すむ 盟 36 かっ \$2 にての ば 72 かっ 大 りと 3 此

2 33 3

う坂のつえの事

かすなら とき其 は 右 を申さするさて 一越中國 しりをうつなりされば其祭をば尻打のまつり すなり 所 12 う坂 0 身を 女に 0 其年 ねぎがずはゑをも DJ] 神 0 のまつりの うち 1 相 た H かり る 麻 て洪 宜 お とこの 0 數 とを申 俊 か -5.

一人こくろはとのうつらに

あら

ね共し

わ

7

44

to

まし

は

0 かれ 右 也そのうづらはつよく はとのうづ てそ行 らとは 33 形色 0 て鷹のえとらぬ 重 に生 72 るうづ 仲 3 Œ 1) 有

其こくろをよ る 也

に墨のつくか わきもこか 72 のか 75 ひた ひのかみやしくらんあやしく袖 みしいく事

といへり其こくろをよめるなり て戀らる、人は何ともせぬに 右人を戀る女は ひたひ のか みのしいくとい 袖に墨のつくこと有 りる

垣 の事

0 一ねにはもすの早にゑたて、けり死出の田長にし

の草のくぎに生た て有 さして時鳥 抄云もずの草ぐきとはいにしへの人の云つた 申見えたることもなしおしはかりに申にや或萬葉 右俊賴朝臣抄云もずの草ぐきはかすみをいふとぞ るにはもずといふ鳥はほとくぎすのくつ手をとり けるがえ出 0 もずの早にゑといふことをしてよろづ め さいりけるほどにほとくぎすの る蟲もしは にとてをのれは かへるなどをとりて かくるくをもず へけ

> あはまし物を みしらくの わ カコ ひのもとの島ならはけふもみ影に

ば死たる人類れて父子相 懸ると云々俊 島にひくらくのさきと云所あり其所には夜となれ る歟考:|萬葉 第十六|日自||肥前國松浦縣美彌良久 のもとの島ならは」と詠るは日本にはあらずと存 也と云々 はず如此の事慥考二本文一可、詠也不、然ば僻事出 らこといひたれど俊頼みくらくとよみたるはたが 崎一發」船と云々此國と云ことは一定也能 よめると有今考,能因坤元儀,云肥前 云尼うへうせ給ふて後みへらくの島 昭が袖 中抄云此歌は俊賴朝臣 の歌 國 のことを思 ちか なり其 類「わか日 因 の は 詞

<u>-</u> کہ なみ たらくの南のきしに堂たて、今そさかへん 北の藤浪の事付ふだらく山の事

北の

藤

右是は て率川 て讀せ給ふ 時 春 閑 明 院左 神 日 と云 明神 0 大臣冬嗣 其人夫にまじは の其壇をつく人夫の中にまじはり 々或は亦春日明神の御つか の興 福寺に南 りて詠給 圓 心ふ共申 堂建立 ひとし せ

續 林 夏 材 集 の草ぐきといふとぞ申すめると云

の事

繞『日 な 南 C は 家 T か らふ どの 其心 悄 なみ 布 な るきことに 吅 和 0 1/1 だら なり 浴 ば か 御うし ٤ それ to 冬嗣 迦 に立 是よ 藤 侍 nШ 1 3 原 は 「頂有」池其水澄鏡派出。大河」「頂有」池其水澄鏡派出。大河」、「土土」 られ 3 h 北 る 氏 よ な E せ 膝 家 は 氏 b T 1= 南 て南 たればふだらく おは、 南 T は北家のみさ 家、北家、京家、武家とて 圓 お 0 堂は すれ は きしと しけれ 腿 ば 神 福 は ば北 0 寺 かっ 0 よさ 御告は ~ ılı 0 て今に 内 は 0 西域 步 天 1= 藤 周 Ms 給 四 ٤ 浪 5 流 記 0 b 5 0 2 å

か h す 往 來遊舍 か Ш 北 山 0 藤 徑危險能達」之者寡矣云々 浪 南海一池侧有二石 咲しよりさかゆ へしとは かっ ね T

山二十回

天宮:

觀

自

在

薩

3 2 ぼ P け 0 3 5 L せ 3: は 2 布 0 は 事 0

1

相

見

7

B

猶

南

か

n

今

朝哉

有 右 72 日 \$2 0) 弭 本 昭 から 石 12 0 果と T 云 3: 3 石 石 とは 3: 0) 2 III ^ h ٤ 5 10 は 3 413 日 ع H 陸 木 村 與 17 將 央 0 h 軍 0 お < 石 ょ 東 夷 12 0 か を か つ to きつ 征 ぼ て長 せ 0 け 石 3 6 時 3: 1= 2 四 \$2

> と云 は Ħ. 丈 お ばかりなる ほ 12 < 3 て千島 5 0 < とも に文えり付 は東 5 ふは 0 は 陸 12 T 道 Ł h 多 JĮ. か 所をつ 8 5 は どえ h H 7 ٤ 0) 0 1 1 13 5.

٤ 2 石 n 央に 0 5 h n 2 濱 Ó Ŕ < 7 かっ も侍 < +> 0) 與 かっ 路 W るにこそと云 かっ 0 與に有ときくえそ しくそ お B 12 ほ W 3 世 つ ほ 1 の石 ż 清 思 西 ふみそ V

は

な

神前

行

あ は 2 5 n 君 Ó え くのえひすの びすの身より か な 身 出 より 3 III. 出 0 す 进 MO. 0 しと氏 な 22 P

ょ 子 3 右 1 題 め 0 父の 3 なら IÍI 昭 な 云 Ł 與 ず rín つに と子 0 え 5 びす 0 あ rín. b 3. らは さてこと氏 なりこと人の とを合する 我子 人 に我 なれ 0 子 子 op な --3 な 72 12 あ n 3 すとは MIL h とす おや

とくきの 矢の 315

は もる 後ましや千島 右 盟 昭 な 云とくきの矢とは のえそか 作 るなるとくきの矢こそ際 おくのえびすは鳥 0) 13 12

か

めかか

にいく薬のみ有けれはと、むる方もなきわ

戒

めの上の山の事付いく薬玉の枝

なすの嶋はおほかればちしまのえぞとは云也と云ばかりて射るといへり附子矢といふはこれよりえのくきに附子といふ毒をぬりてよろひのあき間を

## 續歌林良材集下

續歌林良材集上終

續歌林良材

集下

共亦 楊貴妃が死して後此蓬萊宮に生れたりしを方士が 孫 0 をそへて海に入て仙人をもとめしむ年をへてつる 是をもとめん 名づく仙人是に居り請ふ齋戒して童男女とくもに 亦史記に秦始皇帝二十六年に齊人徐 徐 て相 學」首而戴力之选為二二番,六萬歲一交馬と云々 かず むることを得ずとい は富士の山にといまる共い 福 はわが 國 て申さく海中に三神山有蓬萊、方丈、瀛洲と 72 りとい 1-有て秦氏 國 とこくにお 極一失。群 に來りて熊野に ふことは長 は 聖之居。乃命,禺疆,使下巨 かっ の徐 るて徐市に童男女數千人 へり徐市 恨歌に 見えた 福が末也 ひつた といまりて不い歸 は徐 市といふる へたり しとぞ申 福 共いふか h 伊 す 其 亦 鳌

木にも生す きくら 羽もならへて何しかも波路 へたてく君を

歌

また拾遺歌に

奥つ嶋雲井の な を行 か ~ b ふみ か よは さむまほろ

これら楊貴妃が心をよめ り亦竹 取 3 のが 72 3 E かっ

> とに こが \° うたに 0 一えだ折て給は てつ 海 p おほ ね 心 にほうらい かっ めが をくきとし は くの L くらもちの たくみ ける らんといひけれ といふ山有それ カジ H をあ 其こと題 王: 御 を質とし 子 つめ れしか T あ ば かっ てたた 1 つらへ みこ 白が 0 でばか E T のは て是よ 0) 3 ねを根とし 枝 (" かっ CZ 有 りご b 姬 1)

にそ有け より 3 i つ は りご とに は 王 のえだ 作 るとい 3.

まことかと聞

てみつれ

はことの

は

をか

رخ

n

3

1

0

枝

と云 ならは 12

わたつみのうきたる山をおふよりはうこきなき 雁 111 3

いた くけや龜

尋行 舟 路 に年 かうの 0 里は 老る迄あ こやの はぬくすり ili 0 31; に似 たる総 か な

ちか をし け Ž かうの里 に置 たらはは こや の山 をみまく

右 に云惠子謂,,莊子, 曰吾 ふかうのさとはこやの 而不之中一繩墨 | 其小枝卷曲而不>中|| 規矩| 立|| 有:大樹:人謂:之樗:其 ıĹı は莊 子に 見えた b

往見,四子藐姑射之山汾水之陽,窅然喪,其天下,焉 若,處子,不入食,五穀,吸入風飲、露乘,雲氣,御,飛 莊子曰子 有·大 樹·患··其 無·,用何 不·樹··之於無何之途·近者不、顧今子之言大而無、用衆所·· 同去· 也 位を舜にゆづり給ふといふ心にており居の帝の御 と云々堯帝はこやの山の神人を見て天下をすてく り同云貌姑射之山有:神人:居焉肌若:氷雪:綽約 下し云々ふかうの里は神人のあそぶ所と聞えた 有之鄉廣莫之野,彷徨乎無,為其側,逍遙乎寢,臥其 |而遊||四海之外||堯治||天下之民||平||海內之政|

は 君か代は白玉椿八千代共何か定めんかきりなけれ 玉つばき八千代といふ事

在一寰海之外一有一神聖之人一と云々

在所をばくこやの山とは申なり山海經にも姑射山

千歳一為シ秋と云々 右莊子に云上古有,,大椿者,以,,八千歳,爲、春以,,八

一君か代は天のは衣まれにきてなつともつきぬ岩ほ ならなん 天の羽衣いは ほを無る事

> なくに 天衣なつる岩ほのはてしをも久しきものとわか思は紫 右樓炭 を以てなでてつくさん其間を一劫といふと云々 は方四十里の石を三年に一度天人下りて三銖の衣 諸天來下取,経穀衣,撫、石盡刧猶未、盡云々或說に 經日 以事論、劫有二一大石方 四十

みる なるらん まれにくる乙女の袖やなてしこの花さきかくる岩ほ 山高み岩ねのさくらちる時はあまのは衣なつるとそ

きくの下水の事

くらん >井卽飲; 此水,上壽百二十 三十中壽百餘七十者猶 右菊の下水は荆州記に云南陽酈縣北八里有|菊水 山川のきくの下水いかなれはなかれて人の老をせ 其源旁悉 芳菊水極 甘 馨又中 有三二十家一不一復穿

はしけらん しつくもてよはひのふてふ花なれは千世の秋にそ陰

以為い天と云々

きくの花あらひて落る谷川のなかれをの むは齢 のふ

也

0) 花 贬る 谷の 事

にける 一も、の花しけきみ谷に分入て思はぬさとに年そへ

種作男女衣悉着如:,外人,黃髮垂、髻怡然自樂見,漁 惋餘人各復延至,其家,皆出,酒食 邑人, 來,此 絕境,不,復出,遂與,外人,間隔 、雞作、食村中咸來問訊自云先世避,秦亂,奉,妻子 有:良田美池桑竹之屬,阡陌交通雞犬相聞其中往來 狹總通 人復行數十步豁 山,山有,小口,髣髴若、有、光便拾、船從,口人初極 統紛漁人甚異,之復前行欲,窮,其林,林盡水源得二一 忽逢,桃花林灰,岸數百步中無,雜樹 右もへの 世乃不以知以有以漢無以論以魏晋」此人為 即遣二人隨往 大驚問」所,從來,具答之便邀還」家為設」酒殺 [云晋大元中武陵人捕\魚緣、溪行忘] 路之遠近] 一便據三向路 花 しげきみ谷は桃源の 韓」向所は該途迷不は復得は道と云 ,處々誌、之及、郡詣二太守一說大 然開朗土地平 曠屋 心也陶 - 停數 一芳華鮮美落英 淵明が 目 具言聞拾 去既 問今是 合嚴 桃花 外

> みちとせになるてふもくのことしより花咲 春 E Ti

相

傳と ふる共生すべからず帝すなはちやむと云々漢武内 12 12 くこれ のさねを録す王母とふていはくさねを錄 12 こふ王母侍女に命じても 人七月七 右みちとせの めぞ帝の へてみづか る盤の上に桃七顆を出す王母四つを以て帝に 5 ふ書に見えた 三千歳に一 H いはくうゑんと欲する 武帝の承花 も、は漢武帝の時に西 ら三つをくふ桃 たび質をなす中夏地 殿にい 1 をもとむ須臾に 12 の味 る帝仙 が十美なり 0 2 Ŧ 浙 E うち 時とい 卧 1 くしてう る何 から L ż ふ仙 13 T 0)

わかその みちとせにひらくるもく しるしに 8 1 の初花咲にけり三ち世へぬへき春 の花 さかりあまたの春は君

け 3 ん春

みちよ

をしれとても

への花君か薗にそ

、先吹に

0 3

ふるさとは見しこともあらすをのくえの朽し所そ

ちとせの桃

の事

よひつくごうちける人のもとに京にかへりてつか 右古今集ことば書に云つくしに侍ける時ま かりか

らに不見相しれる人ひとりもなしこくにひとり有 えりかへりてわがさとに入るにもとのやどころさ はしむ其味よのつねのも、にあらずこれをくらひ 見る童子盤 碁をうつ所にいたりぬ王質かたはらにつきて碁を 朽てとる所なしかしらの毛のびてくびを七卷まつ て碁をみるほどやう~一日暮なんとす王質家にか 石室山といふ山に入て薪をとる時ふたりの童子の へらんとて尻にしける斧をとるに其柄ことがく しけるとき是は晋の世に王質といふ人信安郡 くわが の下よりも、をとり出して王質にくら 七世の祖父薪とりて山 に入て後ふた 0

をのくえの朽むもしらす君か代のつきんかきりはう ちこくろみよ

それなり他家よりかへり七世の孫に相といふはこ たび不出ときく翁は其人ならんか姓名をかたるに

をのくえは朽なは亦もすげかへんうき世中にかへら

林

K 材 集

斧のえのくちし所の山人のはかなき世には何 かっ

b

け

古今長歌 のへ、雲にほえけん、心ちして、上下署 一これを思へは、いにしへも、くすりけかせる、けた けだもの雲に吠る事

右是は淮南王劉安といふ人方術の士八人をやしな 長か子なり八人共に仙を得て上りし山は八公山 雲中に吠と云々劉安は漢高祖の孫なり淮南の をなめて皆仙を得て空に上りて鷄は天上に鳴犬は しが其仙薬つきたる日の殖庭に残りけるを鷄犬是 ひてかれらと共に仙法を學び得て天に上りてさり 属王

名付たり

堀川百首 名のりける哉 一ふるさとを忘れすきなくまな鶴はむかしの名をも 鶴の名乗の 事

>弓欲>射>之鶴乃飛 去空中而言写 門外有;華表柱 右つるの名乗は丁令威が事也搜神記に云遼東大城 合威去、家千歲今來歸城郭如、故人民非何不、學、仙 2 忽有二一白鶴 集時有二一少年 舉 日 有人鳥有人鳥丁

な途 :舊里:丁令威 より華表柱をは鳥 冲 上一个人 0 詞 可い聽と云々 以太省、之以 と名付といへ 置 り朗 手件 Ŀ 詠 一是云

え n あし なり たつに 人鶴 け 0 b 0 てか 3 事

ょ

~

る山

なれ

は

跡

たに

人

は見

松柏のさか

0)

4

付つかの上のか

h

のりてテース其外の仙学 73 不、能、汚百六年雌雄相 晝夜十二時鳴六十年大毛落茸毛生色 為三仙人之 默醒 と云 如〉漆故曰:玄鶴 也禀:金氣,以 龍門寺の仙 一仙を得て後鶴 客鶴 羽 室 生 風に雲晴 に乗といふ 二十六百 にてよめるうた也 二年頂 に乗 々列仙 視乃孕三百六十歲則 赤 て月もさや て終氏山 歲飲而 B 七 傳に王子晋は周 Ō 年 おほ 飛三薄 相鶴 不少食胎 1= 上り けく 白如 雪漢 經旦 住 7 少雪泥 色純 [鶴者陽 叉 Ш 去と云 0 化產 厲王 1 而 Ph 水 かっ 年

右 堀 川 次郎 百首 に仙 人の 題なり

山

一萬歲

をよ

泛

よろつ代とみか か るら さの 山そよはふなる天の下こそた

以

T Ti

耳

め

à,

は

+

T

2

72

b

0

1)

10

右 封二大室 | 奉祠命日 | 崇高邑 | と云 聞、若、有、言、萬歲、云漢儀 漢書 上上不い言問い 武帝 4: 三統 IC 下下不少言於 登 1 1 注云稱二萬歲一可二十萬 3.8 大室一從官 12 Ti 1

萬架十九長 かっ 書 きまては、松かえの、 しらたまの、みかほ 始略 しみ さかへいまさね、 30 5 わ 72 いむ たうときあ か ひ、 孙

て云 等:其久,也と云 松大谷倒生之柏凡此諸木皆與、天齊一其長一與、地 右 0) 3 論 詞 から 大伴家持 話 なり是は葛供が作 もとに E も侍るにやまた六百番歌合定家朝臣 婦 カジ 越中守たりし時家の姉 にか 12 は 亦年寒うしても松柏は不い凋 b T 12 る他朴 よみて つか 子に云天陵 の母京 は L け 3 18 iok 有 歌

なん 戀し 此 心心 は は T 史記 苔むす塚 1= 國 をに 普 に柏 0 献 げて狄 公の ふりても 子 i は 重 4 1 -3b 総 0 契りの をうめ 卧 11 INTE 3 她 から 狄 から 朽 1 g 人 狄 女を Te は 7 お お

一ふちもせもさやけく清しはかた川千年をまちてす める川かも 崙山より出て九曲にして渤海に入其間九千里有と 生、里社鳴而聖人出、群龍見聖人用と云々黄河は崑 聖之君以為二大瑞」と云々文選にも夫黄河清而聖人 年が拾遺記に云丹丘千年一燒、黄河千年一清、皆至 也干年を待てすめる川かもとは黄河の心なり王子 右續日本紀に寶龜元年三月の御遊にうたひける歌 廣路,下有,陳死人,と云々それより後々の詩にも のしるしにもくろこしにはうふるなり文選古詩 に柏おほひならんしかりといふ共妾はなんぢをま しと云妻わらひて廿五年のころほひはわが塚の上 かたりて云我を待事 る事十二年をへて重耳齊にゆかんとする時其妻に をいはひて河水のすむよしよめるは皆黄河によせ 云其水常に、ごりたれば黄河と名付たりよつて世 おほく見えたり [驅,|車上東門,|遙望,|郭北墓| 白楊何蕭 々松柏夾| んといひける心をよめるなり松と柏とは塚の上 河水すむといふ事 廿五年にして不以來は緣

> 君すめはにこれる水もなかりけり汀のたつも心して たる也

す

大ゐ河けふのみゆきのしるしにや千世に一たひすみ為。

わたるらん

うれしやな黄なる川せやすみねらん君か光の臨むし るしに 賴

ふく風枝をならさぬといふ事

一ふく風も木々の枝をはならさねと山は久しき聲そ

聞ゆる

右王充が論衡といふ書に云太平之世五日一風十日 雨風不い鳴い條雨不い破い塊と云々此心なり

よる光る玉の事

בנל 一よる光る玉といふとも酒のみて心をやるにあにし めやも

随價の玉なり史記に云隨公祝元暢因之\齊道上見" 右帥大伴卿の酒を讃て作れるうたなり夜光の玉は 蛇將。死遂以、水洒摩傳,之神樂,而去忽一夜中庭

皎然有、光意謂有、賊遂案、釼視、之迺見,一蛇卿、珠 在、地而往,故知,前蛇之感報,也以,珠光能照,夜故

一夜光

塚にかけた んる太刀 0) 31

\$2 なきか 果 P 3 け 1= 懸 たる太刀 も有物をさやつか のまに 俊 賴 忠

剱 ン使…上國一未、献還 季子日不、然始吾心已許、之豈以、死倍。吾心 徐君|徐君好||季札 ればよめ にけれ 後守もりふさ卵 一 繁三之徐君 ば ると有此心は史記に云季 に云經 いかになど尋られ 家樹一而去從者曰徐君 劔 信 一切 至、徐徐君已死於、是乃解, 其實 卿 のよきありみせん 12 |弗|| 敢言|季 札心知」之為 具してつく て忘 札之初使、北過二 れたる由 已死尚誰 i に侍 と申 を中 てほど け 與乎 3 比

馬 に道まかする事 云

te

てそ行 夕され は道も見えねと右郷はもと來し駒にまか せ

仍放 光馬一而隨」之途得」道と云々朗詠に雪中放 、馬朝寺、跡 の管仲 春往冬迎迷惑失」道 と作れる詩此心也 がこと也韓 非子に云管仲從 管仲曰老馬之智可以用也 桓

> 詩つる雪 3 0) あし たの はなれ 駒 君 はか りこそあ

かっ らすの かっ しら白くな 3 215

山 からすか しら も白 < 成にけりわ かっ へへるへき時

P 右論 3 角を生ず素皇 則 とをこふ秦皇の日島の うたは O n るさん丹天に仰て 衡 b に云燕の へ音なし おどろきて丹をつ 太子丹、秦に質として 数 か JII しら白 0 < は 時に とりにて か 島 < 0 馬 はすと云 に角 VII かっ か Ĥ を生 < 5 6 12 115

Ŀ も又

h

をさして馬とい 鹿を馬 Ł ã 事 鳥を見てよめ

3

歌

111

一造か もふなりけ 是は史記 >應者高因陰中..諸言>應者,以>法群臣皆畏、高 )鹿為」馬問三左右默 設、驗持、應献二二世一 右ことば書 て侍けるに侍らずとい 日秦二世三年八月己亥趙高欲、為、亂 に能 首 ٤, にくるまの 人有けれ 或默言」馬 日、馬· ひて侍 也二世美日丞相 ばか かも 以 りければ [ar] をこひに もをも Mi とい おしとお つ 乃先 か b

b つか ひの 事付風の使の事

か かっ ひに いつしか もならのみやこ

年有て匈奴漢と和親す時に漢帝蘇武をもとむ 匈 使 右漢書に武帝 奴にいたりてい に帛書をかく つは 奴蘇武をとらへてかへさず其後昭帝位に付 といふこと有お 云 12 か 軍子おどろきて漢の りて武 b のつか 旣 Ö 蘇武 ふ天子上林の中に射 に死したりと云其後漢の使ま 時 蘇武 ほくよめり ひのことは是に か 書なり武 を使として 使に謝して武をか 一猶澤中に在 匈 おこれう又風の 奴に て雁を得 つか へす たり 72 匈 て敷 はす

梅草 か ~を風の便にたくへてそ鶯さそふしるへにはや

雲渡る ね路の は るけきほとの空ことはいかなる風の吹て

春はまつ 風 東路よりそ若草のことのはつてよむさしの

風 0) 使のこへ ろ也 河圖 帝通記とい ふ書に 風天

> 地 之使 也雷天地之皷也云々

一天の戸を明 の卒 の事

夜をこめて鳥の空ねはのこゑかな とい ~かる共世にあ ひなしてそら鳴しつるとり 坂の

Š

關

は W

3

年復卒使,,孟甞君入,秦昭王即以,孟甞君,為,秦相 右鳥 君 | 謀欲、殺、之孟甞君使 ||人抵|| 昭王幸姫 | 求、解幸 先、齊而後、秦々其危矣於、是秦昭王 乃止因 人或說,秦昭王,曰孟甞君賢而又齊族也今相、秦必 の虚音は孟甞君がこと也史記日

、之已去使,人馳、傳逐、之孟甞君至、關 >客孟甞君恐:追至一客之居:下坐一者有 以出、關夜牛至:」國谷關 >献狐白裘|至以献|秦王幸姬|幸姬為言|昭王 臣能得,孤白裘, 乃夜為,狗以入, 秦官藏中, 君患」之偏問、客莫、能對、下坐有、能爲、狗盜、者。日 千金,天下無、双入、秦献,之昭王,更無,他裘,孟甞 姬曰妾願得: 君狐白 | 孟甞君得>出即馳去更:|封傳 1 |秦昭王後悔\出||孟甞 此時孟甞君有::一 々法鷄鳴而 能為 | 變 | 名姓 | 一狐白裘直 取二所 三鷄鳴

續

歌

林

良

材

集

F

宇 mi 鶏蓝 君 出 一乃還云 傳 12 出 18 如 食 頃 秦 追果至以關 已後 三孟

猿の三こゑの事 付勝をたつとい ふ事

そり 右 à 山の 記 宇 12 本文 多法 云古歌曰巴東三峽巫 さけぶといふことをよめ n かひに より猿をは巴猿共付たり山のかひも巫峽 1 し川に 3 かっ お りなくこゑを夜ふかく聞 は 一峽長 しましけ る歌 猿 以鳴三聲 3 也此こくろは H さる山 淚沾、裳 是 則 T 0 ٤ 荆 カコ 袖

心あらは三 たひ たひなくこゑを物おもふ人にきか

の心

なり

三たひてふこゑをしきけはよそ人にもの思ひまさる饗養 ねをそ鳴 なる

思ふこと大江の < 行百余里不、去途跳上 亦猿 に断腸といふこと有是は世説 一峽中, 部伍 山に世中をいかにせましと二こゑな 1 3 有"得一猴子一者」其 ~船至便即絕破視,其傷 日 引 晋桓温 緣 ル岸哀號 一人ン蜀

皆寸々斷公開、之怒命點,其人,云々

と成 一生ての世し h 羽をならぶ くての後の 3 鳥 0 くちのよも初をならふ 事付枝かはす木の事

る島

13

秋になすことのはたにもかはらすは我もかはせる枝 となりな は村上天皇宣燿殿女御に給はれ 鳥、焉不」比不以飛其名謂、之鵝々」と云 比目魚, 焉不、比不、行其名謂, 之鰈, 南方有, 比翼 不」比不」能」飛爾雅作二鶴々」と云々爾雅日 乃飛名曰二蠻々一見則天下大水注云比翼鳥也色青 海經云崇吾之山有、鳥焉其狀如、島而一翼一 枝」と作れる心なりはねをならぶる鳥比翼なり 右長恨歌に 云在、天願作! 比翼鳥 | 在、地願 る御 歌也女御 /\\r. 東方有二 作 0 目相 = 辿 うた 赤 得 理

礼 連理 の枝 の心 なり

思

رکر

樹

0 事

なの聲 傳に ン王因」之論 右 搜神 々河大水深日出當公心旣而王得 きるく 記 契り 日宋時大夫韓馮 為 E "城且」 接密遣 かっ なし 相 娶妻而 思ふ木末のをしの夜な夜 三馬書 一經以 美康 "其背"以示"左 王奪之馮 解 口头 定 时

村,相思之名起,於是,也今睢陽有,韓瑪城,其歌謠樹,相思之名起,於是,也今睢陽有,韓瑪城,其歌,也明相思之名起,於是,此為,其兩,至為,雖其,是於不,相思,如,其是,要为隱腐,其太,王與、之登、臺妻遂因投,於此,安有,為,其死,與以, 屍骨,賜、焉合葬王怒不,聽使,以一人理、之塚相望,也王曰爾夫婦相愛不、此若能使,以一人理、之塚相望,也王曰爾夫婦相愛不、此若能使,以一人理、之塚相望,也王曰爾夫婦相愛不、此若能使,以一人理、之塚相望,也王曰爾夫婦相愛不、此若聽使,以一人理、之塚相望,也王曰爾夫婦相愛不、此若聽使,以一人理、之塚相望,也王曰爾夫婦相愛不、此若能使,以一人理、之塚相望,也日出當、心有,既不,也一一人也,以一人。

てぬへき 人を待ほとに石にわか身そ成は一頼めつ、きかたき人を待ほとに石にわか身そ成は

至く今存焉云々

望、夫而死化為、石因名、焉為、夫石、云々てよめるうた也此心は、神異記曰、武昌山有、石狀如少將のむかへに來んといひて遅かりければ待かね少將のむかへに來んといひて遅かりければ待かね

おやのかふこの事

妹にあはすて一たらちねのおやのかふこの眉こもりいふせも有

かっ

怒奮紫如、此非、一火怪、之密以問,女女具以告、父必 取而乘、之馬望、所、自來、悲鳴不、息父曰此馬無、事 既承,此言,馬乃絕、韁而去徑至,父所,見、馬驚喜因 唯有二一男一女壯馬一疋,女親養、之窮、居幽處,思 有なり搜神記曰大古之時有,大人,遠征家無,余人, となりてふかき窓にこめらるくと同じ有さまなれ をはぐ、み立るやうにいとおしめば母のか 右蠶をやしなふはもろこし 如、是故也父曰勿、言恐辱、家門,且莫、出入,於、是 之情,故厚加,劉養,馬不、肯、食每見,,女出入, 輒喜 如、此我家得、無、有、故乎亟乘以歸為,,畜生有,,非常 念其父,乃嚴、馬曰爾能爲、我迎,得父,還吾將、嫁、汝 ば人のかしづく女子に蠶をばなずらふ はいふ也蠶の成長してまゆにこもると女兒のひと にすること也其ちいさきよりやしなふ事母の 伏、弩射而殺、之縣 戲以、足蹙、之曰汝是畜生而欲,取、人為。婦耶 "皮於庭」父行女與"隣女"於"皮 こにも わ カゞ 國 る也猶由緒 12 も女の業 ふこと 女兒

招:此 統婦人先蠶者也故今世或 謂蠶為,, 女兒, 者是 古之 蠶神.日:苑 斯百姓競種、之今世所、養是也漢禮皇后親採、桑祀、 取而養」之其按數倍因名二其樹一日、桑桑者喪也由」 為一蠶一續而於樹上一其壓綸理厚大異,於常蠶一隣婦 居 隣女忙怕不」敢救」之走告,其父,父還求索已 别 **盜婦人寓氏 公主 公主者女之尊稱也苑** 三製日 如 何自 |得上於二大樹枝間|女及馬皮」盡 呂 言 未以及 人、竟馬 皮概然而 起 化

おもひに身をやく事

遺言

也

そ有ける 一君を思ひなまく~し身をやく時は烟おほかる物に

爽著心 どはよめ 右思ひに身をやくとよめるは思ひを火によ 伽|隨、道而行遙見||王女在||高樓上| 牕中見、面想像 人如」是恒 說國 ゆる思ひ、思ひにもゆる、おもひにこが 玉有。女名曰: 狗牟 待,則令,失心高 不二暫捨 りされども猶由緒有智度論云 以二煩惱憂怖! 彌 |歷日月||不〉能 一若敬待情給則介...夫心怖 頭一有二捕」魚師 與人子何 一飲食一 可:近親好 女人相 -名:述 印問 る せた 者若 1 -女 沙波 n

> 車百五 申天祠中,住,天像後,母歸語、子汝願已得告,之如 故 燒 \命||此小人毀||唇王女| 即 ||此 ▶上沐浴新>衣在,,天像後, 住王女至>時白 垂,愍念,賜,其生命,王女言汝去至,月十五日,於,其 ゝ之欲ゝ求..何願.母白..王女. 願却.. 左右. 當以、情告 忘」若不」如」意不…能活 是小人王女尊貴不」可以得也兒言我願 之而去後此人得,覺見,有..瓔珞 入,天祠,天神思惟此不,應、爾 我有二不吉 我唯有二一子一敬,慕王女,情結成,病命不,云遠, 女來,情願不、途憂恨恨惱膽火內發自燒而死天裥 既入見,,其睡重,推、之不、寤即以,,瓔珞直十萬金,遺 送,,肥魚鳥肉,以遣,,王女,而不,取,價王女怪而 以情答 乘一出至 」須ヒ至||天祠||以求。|吉福。|王言大善即 少母我見:王 天祠 一既到物二諸從者一齊」門而止獨 女心心 世 母為一子放 不 人一个一睡不一覺王女 能忘时 王為,施主,不可 - 叉問 宗 अंध 不 肾 二其父王 共 順

とちきら かっ 2 ろは ñ ば B 8 あはれ 0 30 たりの とみらんつはめすらふ 変も たね 3

たりは

人

續歌林良材集下

故人恩意重、不、忍..更双飛、云々來猶帶,.前縷,女爲、詩曰昔年無、偶去、今春又獨歸、條雅女感,. 其偏栖, 乃以、縷繫、脚爲、誌後歲此燕復欲、嫁、之乃截、耳爲、誓不、許戶有,燕巢,常双飛後忽欲,如 之 以南史曰衞敬瑜妻年十六而夫亡父母姑舅

りける 一ほとヽきすなく聲きけは別にし古郷さへそ戀しか幸 郭公不如歸去となく事附死出の田長

帝魂也又成都記曰杜宇亦曰,,杜王,自、天而降稱,望 明帝,杜宇途自亡去化為,子規,蜀人所, 其鳴, 曰我 帝,立為,相自以,德不,如,鼈合,禪,位鼈分,號,開 帝-荆人鼈令死其屍隨,江水,上至,成都,復生見,望 蠶叢|次名||伯灌||次名||魚凫||后王曰||杜字| 號||望 是故郷を思てか て此鳥となるが故に其なくこゑ不如歸去となく也 右ほと、ぎすは蜀王の旅にして死したる魂の化し 云挌物論云杜鵑一名杜宇一 人女,生,帝善,后封,,其支庶於蜀,始稱,王者自名, 王本記曰蜀之先肇,於人皇之際, 黃帝子昌意娶, 蜀 至一个蜀人將 へらんには ▶農者必先祀! 杜王! と云 名子規三四月間夜鳴達 しかじといふ心なり蜀

日 說 前にふたつの鳥と有ひとつをば拔目鳥と名付ひと L つをば無常鳥と名づくこれほとくぎすなりとい るとは申なりと云り亦地藏十王經 りてなく也死してよみがへるによりて死出 かへりて毛羽もくとのごとく生ぬれば夏は亦出 成比はひよろづの虫も出來るほどにをのれも 肉もかれて有に春にいたりてやうくしあたい こもりて死してゐる也さて毛羽もことんくの くらふべき物なければをのれも木のうつぼなどに 鳥は秋の末冬に成比ほひよりよろづの蟲もうせて りくるといふ義歟範兼卿の抄に云人の云ける 田長は農をもよほす名也是かの蜀王の死して其玉 鳥死出の山よりくる鳥なれ るべし農をすいめては週時不熟となく共いへり此 のめる王の玉しゐなる故に猶農の事をすくむ のなくを待て農事を興すはそのかみ望帝稼穡をこ 惟田家俟二其鳴」與二農事,其音不如歸去と云々此鳥 あれど彼經うたがひなきにしもあらず古今集の あの鳥と化して更にかへりくる故に死出の山よ 一其聲哀而吻有、血漬…草木,初聞則有,離別之苦, ば死出の田長と名 に閻魔王宮の より來 かに は時 こるな 37 け 來

られ 不,敢贖、仍為,[修其子、禮者、奉,]至尊,と作れりう其間、我見常再拜、重,是古帝魂、生,]子百鳥巢、百鳥 邊、有一句餘、喬木上參、天、杜鵑喜春至、哀々叫 の生る、よしは萬葉の歌を以て歌林良材集 Im うたにつ にや ひすの を吐心にもきこえたり亦鶯のすよりほ 侍 り杜子美が詩に云我告遊」錦城 から紅 単にもかぎらずいづれの単にも子をう 0) ふり出てそ鳴しと讀る 一緒二篇 カコ 0) 吻 1 注せ より 錦 フド

たらはなん 伊勢 死出の山越てきつらんほとくきす戀しき人のうへか

哉のふるすより立ほと、きすあるよりもこき撃の色きすかな 經信

うく

ひすの

ねくらの竹をしめ置て親の跡

ふむほとく

鳥の子をかさぬる事

ふものかは「鳥のこを十つくとをはかさぬとも思はぬ人をおものかは

敢有..諫者.斯荀息聞、之上書求、見靈公張、弩持、矢右說苑云晋靈公造..九層臺、費用..千金.謂..左右,曰

共 見」之日 狮 と云云十二の基子の上に九つのかひ子をかさぬる 望一靈公曰寡人之過也乃至一於此 シ續公日 女不、織國用空虛隣國謀議將、與二社稷亡滅一君欲一何 此,者。公曰願見、之苟息曰九層臺三年不、成男不、耕 以二基子一置加 あれば十づくとをもかさ 上一公曰 臣不,散陳,也臣能累,十二傳 危哉危哉 為,,寡人,作,之荷息正 |九鷄子其上|左右懼慴息靈公氣息不 荷息 E 此始不以危也復有人危 n ~ | 即壞||九府臺|也 画面 悲加九 色 定 志意 彩

雲となり雨となりても身にそは雲となり雨となりても身にそは

\空しき空を

かた

みとや見む 為 嘗遊言語 也玉對日 於雲夢之臺,望,高唐之觀, 其上獨有, 雲氣, 崪 右文選朱玉が高唐賦序云昔者楚襄王與二朱玉 為..高唐之客.聞君遊..高唐..願薦.. 止忽兮改〉容須臾之間變化無〉窮王問〉王曰 雨 曰妾在: 一朝々暮々陽臺之下且朝視、之如、言故爲立 所謂朝雲也王曰 息而畫寢夢見二一婦人, 曰妾巫山之女也 巫山之陽高 何謂。朝雲, 玉曰昔者先生 丘之 岨一旦 枕席,王因幸之 一為一朝宝,菜 此何氣

一思ふことはし柱にそかきつけてむかしの人は位ま 橋ばしらに題する事

しける 大丈夫不、乘,, 駟馬車,不,,復過,,此橋, と後武帝 に昇仙橋有相如蜀より長安に行時橋柱に題して云 右前漢の司馬 されて官中即將に至と云々此心をよめる也 相如は蜀郡成都の人なり蜀城北七里

一ことのねを聞しる人の有なへに今それち果しをく ことのねを聞しる事同緒を断事

もすくへき 高山一子期日善哉義々乎若,泰山一志在,流水一子期 破、琴絕、粒終、身不、復鼓、琴以、為無。足、為鼓、者。 日善哉洋々兮若三江河 又呂氏春秋日鐘子期死伯牙 右列子曰伯牙善皷、琴鐘子期善聽伯牙皷、琴志在一 云々後撰集に夏の夜ふかやぶがこと引をきくて

みしか夜の深行まくに高砂の嶺の松風ふくかとそき

兼輔朝臣

山の心なり且又百詠風詩に松聲入…夜琴」と作

歌

良材集

足曳の山 右流水の心をよめるなり 下水は行通ひ琴のねにさへなかるへらなり

れる心をもそへたり

となりの笛の事

一見しやとの庭は淺茅に成にけりとなりの笛の聲は かりして

賢の内なり と名づく文撰に見えたり嵇康向秀二人共に竹林七 嵇康も誅せらる、時日影をかへりみて猶琴を彈じ 右晋の代に嵇康といふ人其兄嵇喜が謀叛によりて 人のふえふくこゑをきくに寥亮と物さびしきに付 てむかしの遊宴のよしみを思て賦をつくる思舊賦 て死す其友向秀といふ人嵇康は舊庭を過る時に

一ふき立るふえのしらへのこゑきけはのとけきちり もあらしとそ思ふ うつばりのちりを立る事

仲

塵」受、學者莫…能及」焉云々これよりうたひものを 右劉向別錄日魯人虞公能 少究..青之技.自謂盡,之遂辭歸秦青弗,止餞..於郊衢 ば梁塵といふな り亦列子 云薛譚學, 謳於秦青, 未 :雅歌|發>聲清哀動:梁上

け ちりもちり空行雲もたいよひぬとぞいふなるとか 撫」節悲歌聲振二林木 なれどかひうたなどいふかくうたふに舟やかたの 終り身不一敢言い歸と云々土佐日記に 一響過一行雲一薩譚乃謝」求」反 あ る人にし國

よるのに しきの 事

一みる人もなくて散ぬる きなりけ おく山 の紅葉はよるのにし

紅葉を分つゝゆけはにしきゝて家にかへると人やみ L 臣頓首謝と云 帝 の大守となれるなり て新 漢書に朱買臣を會稽の大守としてつかはす時武 の日富貴不」歸」故郷 を賣て食せしかども後武帝にめされて會稽 々朱買臣もとの吳人なり家まづしく 如一衣 >綉夜行一今子如何買

にしき洗 る事 るらん

一紅葉のなかる るらむ へ秋は川ことににしき洗ふと人やみ

右華陽 ふ本文を以てか 國 志 日 蜀 くよ 時 濯 める也物じて紅葉の |錦於流江之中| 則 鮮 つなが 明 也 る~ とい

> を川 のにしきとみる歌は皆此 心なり

行駒の 1

一ひま過る駒よりもときかけら ふの世を玉きは る  $\overline{Ii}$ 

十の春に相にける哉 右 莊 子盗 路篇に云 人上 滞百 歲中壽八十下壽六

レ時之具二而託二於無、窮之間, 忽然無、異、 騏驥之恥 、過11四五日1而已天與、地無、第人死者有、時操11有 除"病瘦死喪憂患」其中開、口而 笑者 月之中不

過い隙也と云々 ひつじの歩みの事

にけ 一けふも亦午の貝こそ吹つなれひつしの 摩耶經偈云譬如 h 一旃陀羅 一颗羊就 二居所 步兵近 歩みちか付

死地,人命復過」是 目わたる鳥の 事

右

へ り 線竹 大 右 玉さかにくるとはすれと目をわたる鳥の 火 n 目わたる鳥 3 流 北 かっ 神 雨灑 な 維 \_ 白 朝 も亦無常のたとへ也交選張 潮 H 馬也 輕露西 四 陸 叢菊 龍盤暄氣凝天高 一浮陽映 一琴林 早くも 協 か かっ

葉第五山上憶良が妻にをくれてよめる挽歌の序云鳥過ム目川上之歎ム逝前脩以自勗と作れる本文也萬萬物肅弱 條不。重結。芳 甤豈再馥人生瀛海內忽如。

にそ有ける一もゝとせの花にやとりて過しにきおもへは蝶の夢響。 胡蝶の夢の事

と云々俊賴歌は人の來りて早くかへる心によめり

一鼠競走而度、目之烏旦飛四蛇爭侵過、隙之駒夕走

つくとやせんできると見し夢はこはまろほしかうにそ有ける

てもくとせの花にやどれりとはよめるなるべしてもくとせの花にやどれりとはよめるなるべしの 本記のでは、 本のでは、 、 本のでは、 、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 本のでは、

霜に鐘なるといふ事

と云々 陸則鐘鳴故言ゝ知也物有"自然感應,而不ゝ可ゝ為也 本山海經曰豐山有"九鐘,焉是知ゝ霜鳴郭璞注云霜 一高砂の尾上のかねの音す也曉かけて霜やをくらん

そすれ ですれるでは、そのなます思出て行けん人のことなる。 すいきのなますを思事

覊,「官數千里」以要,「名館」,平遂命、駕而歸と云々起,乃思, 吳中菜蓴羨鱸魚膾, 曰人生貴、適、志何能右晋書云張翰吳人為, 大司馬齊王商官屬, 因, 秋風をすれ 俊 頼

一たらちねのさのみ隣をかへけるも子を思ふ故とき 響い 子のために隣をうつす事

七のかしこき人の事

一いにしへの七のかしこき人とも、ほりする物は酒 にそあ 6 Ú る

ころむかしのかしこき人皆酒を愛すれば酒はよき きは竹林の七賢なりみなさけをこの 右 なりといふ心なり七賢は阮藉、阮咸、嵇康、王戎 帥 大作卿の酒 をほめて作れる歌なり七のかしこ め りうた のこ

歎をやせし

山濤、劉伶、向秀なり

いにしへの七のかしこき人も皆竹をかさして年そへ にける 質

仲

夢に見し人をうつくに見てしより世もすなほには 夢にかしこき人を得る事

はや成にけ \令王庸作\書以誥曰以"台正,,子四方, 台恐德弗類 君。萬邦百官承、式王曰惟作、命不、言臣下罔、攸、禀 臣咸諫,,于王,日嗚呼知,之日,明哲,實作,則天子惟 なり尚書云王宅」憂亮陰、三祀既免、喪其惟弗、言群 按放那、言恭默思、道夢常養, 子良粥, 其代、子言乃 般武丁と申み | 俾"以、形旁求...于天下 | 說築...傅巖之野 | 惟 かどの傅説といふ臣を得給ふこと 同

> 若歳大旱用、汝作、霖雨、と云 肖爱立作 レ相王置 諸其左右 12 - 命之日 朝夕納 施以

一から國にしつみし人もわかことく三代まてあ 三代時にあはざる人の事

は

n

代不遇上感、之用為,會稽都督 臣好、武景帝好、美臣貌醜陛下好、少臣已老是以三 何時為、即對日臣姓顏名駟文帝時為、即文帝好、文 右漢武帝古事 自上 |至||郎暑|見||一老郎張眉 しと云な 皓 |||||

一あらたまの、としのはたちに、たらさりし、ときは 有けれは、こくもかしこも、 まかひ、このもかのもに、ふりつもる、雪をたもとに、 に、なりしより、ものおもふことの、葉をしけみ、け ちし、朝きりに、心もそらに、まとひそめ、みなしこ草 あつめつ、、ふみくて出し、道はなを、身のうきにのみ たる、ほたるを袖に、ひろひつく、冬は花かと、見え いへき露 の山の、山さむみ、風もさはらぬ、藤ころも、二たひた 盤を集め雪を集る事 の、よるはをきて、夏はみきはに、もえわ あし根はふ、下にのみこ

孫康京兆人家貧無」油常映」雪讀」書少清介交游不盛火。以照」書夜以繼」日後官至。「尚書。と云々又晋平人幼恭勤博覽貧不。「常得」油夏月以。「練嚢」盛。數十右螢雪を集るは學文の功をいふ也晋車胤字武初南

舞三難後官至…御史大夫」と云々

なる光草の螢をあつめても見ぬ世のことを尋つるか

**右草のほたるは禮記月冷に 季夏之月腐草為「 螢と** 

火ねづみのかは衣事附氷風氷蚕

かきりなき思ひにやけぬかは衣たもとかはきてけ

ふ社はき

鼠の 右竹取ものがたりにかぐやひめ火ねづみのかは衣 方有:,火山,長四十里廣四五里生;,不燼之木,晝夜火 ふ人もろこしに人をつかはしてか たまへとい かぐや姫が かは衣 ふに は火浣布といふなり東方朔神靈經云南 もとに よりて左大臣安倍 つかはすとてそへてやる歌也火 のか のみ وَعُ 太買得 5

> 火浣布にはあらざりければ火に入てやきければめ と云々火浣布とはかの衣のけがれたる時火を以あ 燒」之即 清潔括地 志曰 らふが故の名なりか 中, 其國中山皆火煙火中有,,白鼠皮, 績為,, 火浣布 逐二天之一即死績。 其毛一織以作、布用、之若汚以、火 らめらとやけぬとい 一尺余細如、絲恒居一火 ぐや姫にをくれ 一火山 h 中一時 國在" 扶風南東大湖海 K 出少外 るはまことの 而色 白以

名こりなくもゆとしりせはかは衣思の外に置て見ま

これかぐや姫が返しによめるうた也亦永の鼠といふ物有是も神異經曰北方有、氷萬里厚百丈鼷鼠在、水下土中、毛長八尺可,為、褥却,風寒,と云々亦永三といふ物有拾遺 記曰 東海員嶠山有,, 氷蠶, 長七寸泉,入,水不、濡投、火不、燎と云々。

りける | でる月のなかる、見れは天川出るみなとは海() | 天の川海に通ふ事附浮木の事

1=

右貫之が土佐國の任はて、上る時海の上にて月を

檀歌林良材集下

燃得: 烈風

不猛

暴雨不以滅火中有以鼠重百斤毛長

秋 0 年 答日 浪 處 月 车 7 よめ 5 日 .見.城郭居室,望.室中,多見,織婦,見.,一 R 君可"往」蜀問二嚴君平一乃如"其言」君 有 有 たくな立そおもほえす浮木にのりて行 次飲。之驚問、之此人何由 - 客星 るう 住一年、桂而、桂一年 12 犯二斗 也 一ノ浮木ナリ在 張 並 牛一即汝到二天 が博 去忽々不、覺、書 物 來不」失り 志 云 至此器乃問 天 河也 河 期博 與海 夜 しと云 塱 平 奄 通 人 此 丈夫 侯 R 日 0 某 何 游

とそみ わ 叉古歌 12 0 原 1= 浪 云 5 は るか にこく船をうき木に のれ 仲 る人

72

め

恒

カコ

な

りに 天河うき木にの け n る我なれ や見しにもあらす 世 は な

どか 4 こもりけりさて其 俊賴 へをめ さて け 朝 る 3 72 臣 もとより をなげ b 抄 云 給 け きて む け る 御 B カジ か n は ば け 此 L 63 うた かっ 此 1= つと 4 づ をばい 御 j は め な n ね (" Ď 3 0 め け 生 3 ね 御 お ごめ 75 有 ぼ 時 め 1 办言 V から カコ 0 h 奉 め みさ 有 11 御 6 L 後 忘 V け み h かっ 3 n 宋 カコ

> 石な かり 悉天 18 とは んうき木に b 12 0 0 Z 寨 う ての より 怪 浮 織 りとぞ て漢帝 カジ 0 カコ 5 石 木 少 5 河 7 < ひ をえ りて 乘 10 は げ 0 らく漢帝 T あ 1= 3 43 5 0 くも なり かっ 行 72 7 まみゆ は 12 たりて T n h T ^ け < るとよ 河 ると ると云 ての 大和 天 東 37 を 0 0 河 方 ることをすべ は つか 織 3 かっ 5 朔 난 むる 女の め 1: なもとをき 6 0 ず るは ると 7 < 此 T k bo とし L Ш Ĺ 72 石 かっ こと得 兩 ると カコ 邊 本 8 T 1 3 やくし 說 n 3 T 1= 說 此 しと 机 ば ing T は 御 40 1 L ~ 有 是 浮 源 布 漢 ぎ かっ め 3 は 七 北 1, でら Ł 木 5 あ 0 をきは か U B 34 亦 0 4 む は のうし 12 -[ ĘĮ. 帝 0 المد 3 1i は ひ ひ 20 張 < 3 かっ

也

n

ろ

## T カコ な

かっ

72

0 0

月

0 0

か 3

つらも

折

は

か

h

家

0

風

をも

h

カコ

43

月

かっ

To

折

惠

也 右 當 2 かっ 也 は 家 つらを高 學 土 j 0 か 及第 かっ くのぼう 折 5 2 1-L は b T 名 T L あ を珍 折 給 5 得 ず 3 72 3 時 72 E 4 る心 肚 18 0 な ば よ h 2 扩 月 遊 から 柱 給 仙 70 た -3, 沿 j 3 Ur 月 12

レ伐レ樹 樹創 と云 歌に月よみおとこ、 のことは衆名苑に云月中有、河々上有、桂高五 する詩に 月 讀 隨 R 酉陽 合其人姓吳名剛文 尊 云これをかつら 月桂高 は男神にてましませば申 月 雜 中 爼日 ·桂 者· 注云代 攀第 月桂 月人おとことよめ 稱 也此事を比して云歟及第を賀 一枝とつくれり月 男とは 高 ...是西王母夫君 百丈下有11一人1常研>之 西河人學ン仙有ン いふとい なり 一常含:水 るは 中 h ġ 過 亦萬葉 日 かつら 謫 本 百 玉 丈

右 分天銀清淨無¸垢光甚明曜 室所、成月天宮殿純以,,天銀天青瑠璃 丘.月天子宮殿經縱廣 小亦云 秱 旬 淨表〉裏映徹光明遠照亦為。五 月宮のことは佛説より出たり起世 廣  $\pm i$ 欲 山 月殿 月天子身與一諸 德 和 合受と樂隨 亦有:大益: 青瑠璃成、輦高十六 正等四十九 餘之一分天青瑠 璃 天女,住!此 意而 風 由旬 攝 行月天子身壽五 而 一經云佛 而相間 錯二 持 流行 告: 亦甚 と云 比

聞一機 如來修 り西域 郭縱廣 分、路營求狐沿,,水濱,衛,,一鮮鯉,猨於,,林樹,採,,異 百歲 狐 馳術」草曳、木既已薀崇猛焰將熾兎曰仁者我 心心唯鬼空還獨無相 乏何以饋食日幸少留\此我躬馳訪於\是同\心虚\己 致、死是時老夫復二帝釋身一除、燼收、骸傷歎良人謂! 所、求難、遂敢以、微躬、充,此一後, 僻畢入、火尋 老夫謂曰以、吾觀、之爾曹未、 華果! 俱來至止 夫曰聞二三子情厚意密忘,其老弊,故此遠尋今正飢 驚懼,耶曰沙,豐草,遊,茂林, 異 レ靈應化 狐兎猨|異類 いへる由緒なきにあらず亦月の兎是も佛書に出 取ものがたりにか 子孫 議 謂 狐猨 記 五十一由 為二一 云波羅尼斯國列 相 何至」此吾威,其心,不、泯,其迹,寄,之月 承皆於と 相悅時天帝釋欲、驗、修二菩薩 行,時燒,身之處刼初時於二此林野,有 老夫,謂,三獸,曰二三子善安穩乎無 同進,光夫,唯兎空還遊,躍左右 旬 |日多聚||樵蘇||方有\所\作狐猨競 ぐや姫 月 彼 饋 天 子 治と云 二十池西有二三獸卒都婆 城 は 月のみやこの人なりと 郭 此 和猴狐同〉志 縱廣 々阿含經 言之之誠 類同歡既安且樂老 五. 十由 云日 可と知也兎 旬 行者。降 各能役 身卑 云 天 12 子 城

下

輪傳 0 レ是建二卒都 白兎搗、薬と云々内傳外傳の説異有といへ共 月 兎 は 三後世 有事 Als, - 放彼咸 上と云 々亦晉傳玄 擬天問云月 言月中之 兎 自 斯而 俊 有 1 | 1 後 卿 何 人於 1-[1 有

亦論衡云中秋月夜如無「雲翳」則其年兎多矣云」月みても賴をかけて待わたる道橋とむる兎住け >月有>孕と云々惣じて日の性は鳥なり月 性は兎 一兎向 b

麻 0 中の よもぎの 事

0 しかいとて直き心も世にたくすましる蓬の淺まし レ之皆黑といふ本文 右荀子に云蓬生い麻中、不り なり 扶自直白沙在: 泥中, 與 隆

鳩のつえの事

有ける 君かへん千年の坂を待人の鳩のつえをはつくにそ はとの杖は杖のかしらに鳩のかたちを作るなり

> たにもなし 心をはきたの翁にならへともまたくちかへるこま 欲」老人不」時 きたの 湖 が事 と云

12

ン可し極深不」可し測 進不,能為。禍乎家富,良馬,其子好、騎隆而 、故亡而入、胡人皆弔」之其父曰 以一跛之故一父子相保故福之為」禍禍之為 大人。塞丁肚者引、粒 髀,人皆弔,之其父曰此何不,遽為,福乎居一年胡 居數月其馬將"胡駿馬」而歸人告質」之其 父曰 右きたの翁 の翁といふ也淮南子云塞上之人 は塞上の翁が心也塞は 也と云々 而戰近。塞之人死者十九此 此何遽不と 信 北方なれば ílij い福化不 為福 者 馬 折其 此 きた

めに見えぬ鳥も世にふる身のほとは蚊のまつ毛に 蚊のまつ毛にすくふ蟲の事

もすを作 右蚊のまつ毛にすむ蟭螟といふむし也集 ふに付て鳥とは詠じたる飲もしは誤 るならり 3 作 るとい

於蚊睫 列子云江浦之間生! 麼蟲 其名曰: 焦螟 群 市明相 觸 也也 | 栖宿去來蚊不、覺也離朱子羽方 形色 īlīi

賜,,玉杖長尺,端以,,鳩鳥,爲、飾鳩者不、噎之鳥也

者一授」之以,,玉杖,餔,,之糜粥,八十九十禮

義志曰仲秋之月縣道皆

安万

比.民

年始

有加

懷歐林良材集

F

然見、之若,,當山之阿,徐以、氣聽碎然聞、之若,,雷霆隨、耳俛、首而聽、之弗、聞,,其聲,唯黃帝與,,容成子,續,大,皆楊、眉而望、之弗、見,,其形, 熊俞師曠方、夜

家は出ぬなにかなにはの片つふりつの國ありと身かたつぶりの角に國有事

之聲し云

を頼むらん

右片つぶりの角の上にふたつの國有といふにつけたよの。 日有、所謂蝸者、君知、之乎曰然有、國、於蝸之左與爭、地而戰伏、尸數萬逐、北旬有五日而後反と云與爭、地而戰伏、尸數萬逐、北旬有五日而後反と云與爭、地而戰伏、尸數萬逐、北旬有五日而後反と云白居易が詩蝸牛角上爭、何事、石火光中高、此事の

雪のみ山の鳥の事

一朝なく一雪のみ山に鴫鳥のこゑに驚く人のなき哉

、穴此鳥裸無;,毛翼,苦勝;,徐鳥,故名;,寒苦鳥, 此鳥右寒苦鳥の心なり經云 雪山有、鳥雪中堀、穴夜 入

うき木にあふ龜の事

のなりけり 一こうつくすみたらし河の鑑なれは法のうき木に相

57 とふ 3 3 à 經 0) 龜の 3 浮 ッ 木 0 說 かっ 13 有 3 南 は 歟 T Ł 0 定 く代しほ 家

日 を ある世に 鳩 ^ 0 か か h 3 Ł Ġ 5 2 T 事 E カコ ^ る哉 鳩 にかは b 賴

。 鸽等 吾奉 為數喜而 日 吾今活ン汝鷹 慈潤滂沛 恐少奪」位往 右 苦惱若,兹曰吾不,志,天帝釋及飛行皇帝 之合…與」館 唯願 度無 無量王以一慈忍 日鴿來逃、命終始無、違荀欲、得、肉即當二相 足下一恐怖 極經 。鴿吾當,欣受,王乃大喜自割,髀肉 得、鸽不、用、除肉、王曰 福 去 德魏 而武」之帝釋即現命二 日 一佛戒 一寺、後 等一鴿之愈重割…身 鷹 昔薩婆達王普施二衆生一念二其所以索 曰若王慈慧憫 々懼等 告日哀哉大王吾命窮矣王曰莫、恐 一濟三衆危厄 耶應復二本身一稽首 . 叉命..近臣. 日 至云鸽此來鸽是 ::吾位 即 以一何等物一个一沙汝 :衆生 者割 肉盡 有一衆惱 邊王 化為 殺」我秤 我 放 食 /鷹邊王作 日薩婆達 願 大王何 を超 一對公鸽 王見、還 肥肉 與 如 秤 置

> 喜而 」舊志常布施天藥傳」之瘡痍頓愈稽首繞」 = 于 去と云 欲が奪こ 盲 冥 吾 位 是以相 願 求 佛 救 武  $\pm$ 應 日 彼 使 彩 我斗 帝 T 王三 折 115 111 形 [ili 1113 如

虎に身をあたふる事

虎所-噉上子 摩訶 以 拾 是念,我從、昔來多案,是身一都無,利益 衣 滅無上法身,慮,兄遮難, 求者命必不」濟誰能為」此不」情,身命,第三王子 言此虎饑困 虎食二新 七子,周匝圍 名曰:摩訶波那羅:次子名曰 如...水上沫 右金光明經云曩 をは |乾竹|刺>頸出>血於||高山上| 薩埵一出 治拾故 第 作二是誓一言我 竹 肉 王子問 多,諸蟲戶,不淨 血一第三子言君等誰能 徐命無、幾不、容,除處 臥二餓虎前一虎無二 遊林 繞饑餓欲、絕弟一王子怪二其 世 1 言此 野見有:一虎 有 懸 今為一利 王摩 置 虎 -所、食何 同還中路隆 虎に身投 河羅 河 可以惡我今捨離以 能 陀 训 則 物 衆 為其求 提婆 一適産 生,,三太子,長子 第 ...此虎食,第二子 し人をしそ思 連 求人刀 生成於落 一王子報 |復概||是身| 虎前 小子 七日 餓 り身復 不 食 训 求 設餘 心道 言此 3

續歌林良材集下

に身投るとよめるは人の妻をかすむるは己が身の見如、此と云々又古歌に人の妻 にかよふことを虎留"餘骨,二兄見"地大動,疑"弟捨、身共復,虎前,果大地六種震動是虎即祗, 王子身血, 噉, 食 其肉,唯

人つまはもりかやしろかから國のとらふす野へかねる。あやうきこくろによめる也

位こくろみん

いこしへのとらのでくかこ身を受まさりとまかりまも投てん。

問んとそ思ふ

月日のねずみの事

の命を 一頼むより月のねすみのさはく哉草はにかくるつゆ 繁

邊有,四毒蛇,欲、螫,其人,而此井下有,三大毒龍,象所。逐狂懼走突無、所,依怙,見,一丘井,即尋,樹、王志心聽昔日有、人行在, 曠路,逢,大惡象,為,皆,至志必聽昔日有、人行在,曠路,逢,大惡象,為,

患甚多と云々

惠甚多と云々

唐書書、所、攀之樹其根動搖樹上有,

東明者喻,,於生死,彼男子者喻,,於凡夫,象喻,於 無際野者喻,,於生死,彼男子者喻,,於凡夫,象喻,於 無常, 并喻,於人身,樹喻,於人命, 白黑鼠者喻,於畫常,并喻,於人身,樹喻,於人命, 白黑鼠者喻,於書前,令,於生死,彼男子者喻,於凡夫,象喻,於 無常, 持喻,於人身,樹喻,於人命, 白黑鼠者喻,於書前,令,就以此,於人身,樹喻,於人命, 白黑鼠者喻,於書前,令,以其之之。

鼠や後の世にみたの利生をかふらすは穴あさましの月の

かながない根をはむ鼠そと思へは月のうらめしき

なき霜かれの草葉にさはく日の鼠きのふはけふに成そ程

いかてかく思そめけんほと、きす雪のみ山雪のみ山の法の末の事

の法の

右雪山半偈の心を以て郭公のこゑ聞ては猶聞たき末かは 俊 賴

血我語 復還二帝釋之身,接、我置 我踊躍若石若樹處々寫已即上一高木一自投而下羅刹 滅已寂滅為樂,語汝已聞具,足偈義 身,得,金剛身,諸佛菩薩能證,此事,羅刹即說,生滅 」信、汝爲二八字一故棄…所」 羅刹答曰汝但念、法不、念,我饑,實不、能、說我即問 >語非,我本心之所,知也我復語、之汝所、說者義猶 作」是語,適所、聞偈啓」悟我心,羅刹說耶 者聞:此 去佛 在 日所以食何物答所以食者唯人暖肉及所以飲者唯人熱 未、備若能為、我說,,此偈,竟我當,,終、身為,汝弟子 他答、我言我不、食來已經,多日, 餞渴所、 迫心亂 禪精修二苦 をよめ 所、說半偈一諸行無常是生滅法說已便往是苦行 門一修二菩薩 但爲全學,是偈一當 年偈一心生, 歡喜,四 り涅槃經 行一釋提桓因變作,羅刹,形甚可,畏唱,過 - 成三就菩提-と云 行 |逼求||經典|不>聞||名字 「過去佛 地 以 愛身! 以一是因緣 「顧無」人唯見」。羅刹一而 日未以出我於一個時 身施 我即答言拾二不 一當一施 一羅刹答 超 或非、說耶 一十二 我身一時 言誰當 劫 46

つへめとも袖にたまらぬ白玉は人をみぬめのなみ衣のうらの玉の事

たなりけり

右古今 寶珠一紫二汝衣裏」と云々 欲,令,汝得,安樂,五欲自恣,於,某年月日,以,無價 作:如是言 甚艱難若少有所、得便以爲、足於、後親友會遇見、之 レ行以二無價實 譬如"有」人至!親友家一醉」酒而以 ことをうたに讀てをの ざし 不一覺知一起已遊行到一於佗國一為一衣食 h せい ける 集ことば書 法師 E 一拙哉 h 珠,紫,其衣裏,與之而 の説法は衣裏の 丈夫何 1, に云 法 小小町 ßli 為一衣食 E 0) 13 0 玉のことな 1= うし ( ) つか Ö 乃至 是時 3 去其 はしけ T でらに 一放勤 如と是 親 i 人醉 b 友官事當 il: 力求索 ると有 b 人 臥 116 0 都 3 1)

東三條院

をたのまんいにしへの玉のかさしを打かへし今はころものうら

赤染衙門

りけれ 衣なる玉ともかけてしらさりき酔さめてこそ嬉しか

僧都源

玉かけし衣のうらをかへしてそ思なりける心をはし

F

世中をうし のく 0 車 るまの事 0 なかり 附思ひの家 せは 思ひの家をい 心を出 か て出

右法花 )取後必憂悔如」 此 樂着一而告」之言汝等所」可以玩 父知,諸子先心各有,所,好種 時必爲、所、焚我今設 可二以遊戲 一汝等於二此 此 舍已為: 種々羊車鹿車 ··方便·命g諸子等得。克·此害 火宅 大火所以 - 宜-速出 好一希有難」得汝若 々珍玩奇異之物情必 焼今我諸子若 中車今在:門 死しと云 R 不り出

つるの林の事

たき木つき雪ふりしける鳥へ野はつるの林 のこと

第四禪 其娑羅林 右 と云々か 垂一覆實牀一盖一覆如來一 つるの林 | 枝葉花菓皮幹悉皆爆烈墮落獑々枯悴摧 爾時世尊婆羅林下寢: 臥寶牀 一般然無」聲於 の婆羅林はことごとくかれて白くなり 東西二双合 は釋迦如來入 為二一樹一南 」是時頃便般涅槃入, 涅槃,已 其樹 滅のところを申 即時惨然變白猶如二白 北二双合為二一樹! |於|| 其中夜| 入|| なり涅槃 朽

ふと Ш るが のみなう なる つり 1 72 てけ n ば鶴林と申 ふに あふことは なり伊勢物が 春の わ か たりに を 問

流枯 入滅 記 此 四 河 樹 E うたもかの婆羅林 西岸不」遠至…婆羅林 特高 上拘尸 凋 し給ふ其時は十方震動 郡 て日 如 來寂滅 揭 國 月も光なしと 城 西北 之所也と云 北三四里渡。阿恃多低底河際の變じたる心をよめる也西 1其樹類、槲而皮白葉甚光潤 v Û 々釋算は て大海の水湧沸 り周穆王五十 特多低底河藍日 七十九 にて 11

月十五日に ほとけの兄の 相當ると云々 事

一門 なり Ú つゆを久 L き物と思 ふる世に ほとけ 0 兄にい か

7

右如來、 尊儀 十九 こくろをい 之兄とかけり陽成院御とし八十歳にてかくれさせ ふが放 日 - 娑婆世界十善之主計: 其寶算 の御 は 七十九 なり 願文大江朝總 る也是 1 て入滅 は陽 の作ら し給 成 院 0 ñ ば八十歳 3 け かど崩 る 迦如來 詞 御 1 な 0 n 年 其 四 る

## 梨本集序

讀 歌 は ふ事 5 カコ 程 な 3 し萬葉集をみ なれば人のいふといふ程 るに今の 歌 の難 の詞を歌 12 俗 語 1

れさす、きみかこゝろし、わすれかれつも、いひはめと、うまくもあらず、あかいひはめと、うまくもあらず、ありけとも、やすくもあらず、あか

多 なり 此 L たらきみやづかひすれども思ふ心のやすむ事なきと ひもしらぬ也ありけどもやすくもあらずとは るとき思ひあまりて此歌をよみ高聲に吟じた ひまなくて男 てもこくろのやすまらぬとい ずれ 一歌は佐為王と申たるにめしつかは カコ を今あづまとい ふ也 くさしこ かっ めしをくへどもなりうまくもあらずは かとい n 女 るゆへ の心 に逢事 Z は 1 て思ふ めしをくへどもうまか Z ふかくねざしこ 吾と云事也 ならず朝夕戀 同 とい ľ ふ事也君とい 事なりねさすとは ふ歌也又 日 本武 しく思 めて思 る 尊 0 く女の宮仕 ふは ひた 我 らずありき ふ男 妻 たちは 0) 心 3 お あ る に寝 心を つと 根 宣 ちは 也 飯

聞 君が りひ F 72 1-なる詞多し古今集の頃より萬葉集に 1 なひの字を火に け くりよせた は 0 ながき道を繰た、みよせてやきうし か 此 な つかはぬ、本名、たけそかの 文字つか 多し就 わ 3 1. てもいづくの戀ぞつかみかくれるこくたくまてと n 附 雨 れを悲しみ 歌 り然共人の心まちし か ども かゆく道の長手をくりた 事 0) は中 るしき きまさぬなどやうの詞 字なり行手横手などい 8 れ清 なり 雨 あ 中長歌には平 思ひ ひにて相 n 臣宅守とい といふは氷をふらす雨 濁輕 本 詞を讀 1 かしとねが 來 ī むなりむ て讀し歌也越前 重 0 もちゐていふ事なりかやうの詞 身をやきこひに 通 天地となりては善惡勝 さりし 物に 反 2 文字 ひた 人越前 懐なる詞今どうけ とい しれやきほろほさん雨の火 1= 善惡邪 Ø をね . ふ同 なり好 たぐひ又こは 30 ひてむ る歌也長 是より 不と用 國 國 こが は遠 にて E F じ事也くりた 流 は う 60 む事を是 火の 手とい なけ 北 よみ 3 2 なひひ 國 11: 詞 かしきなら は なる 闽 / 0) 劣 崇 وي 12 時その 雨にて たき程 は 0 る W あ 悪 U か萬 1, ふ事文字 しか る道 詞 2 み人の 3 0) 出 < 立, b は 莱 ねは 2 果 理 來 11 2 な i) 火

梨 本 集

れ遠 何のさ ふ詞 ほ あ 3 め < よむまじき詞 か て人 ん 好 ひ 3 歌 つた からざる例をひきあるまじき延慮を D į ( め 惡 事 7 詞に は我 は 0 E ig 關 0) 撰集をも被二仰付一た 邪 詞 を取立 沙 お 12 る お b b 2. 定家卿 こな 道 葛 かっ 制 をとし 5 もなくひろん~と通り正木のか 賤 お ٤ ゕ゙゙ゞ とい 3 能 歌 は むきが らずと 延慮すべき詞俊成 ית 0) 男賤 は 先 なり 師 0 しより < S 3 零 3 りするやうなる事に Ł は ょ ふ事を書出 0 達 n なけ 廢すべ 13 不 人 h 1 の女まで 0 國 て通 の心 きやうに ふ詞とい 無幾 我意地まし より解 ゎ 僻 'n を U 7 言を道 ばか様 き端 る事 おお 誠 B b をなぐさ と宣 も此 1: l 0 道 ひて詞 なる 6 < カコ 0 五 砂 善 お る中だ 0 かねば と思 をせ 好み に利 道 13 に人の ひし てん 惡 1 格 72 一~出 12 め 15 は 詞 よむ 0 5 ū 口 式 脇 7 まく 1= 何 お お をた 道 ども 多く ぼ おもむき 1= 詞 n ちと 'n to 來 ひて廣 E 1 づら 0 す くし べ 主 0 3 てそ な . Z 72 3 關 か あ 頃 歌 7 カコ 心 お かっ てます b なが 指 事 をす 6 る詞 より きお よろ な 1" Ł ぼ わ h 0 T 3 道 ず 古 は ょ 私 0 高

1 此 白 天 妙の雪ふりやまの梅かえに今そ驚はるとなくなり 德 # 歌 合の を思 歌合は以前より有て勝夏の事もありし 办 立 て不 を書 る すも 初なるり 判

判 に云鶯の春となくそらことなりとて負に 定 む 用實
て
を

用虚を不

陽院

歌

合

0

歌

4 條家 事 2 判 判 利 1= ころをつ と讀もろこし人は雲無 い な歌の 0 末 よく 物 にはい に云花に心や侍らんとて負に定む質を用い虚 春風は吹ともちるな櫻花々のこっろを我になし 口 やうに おもふと月日の行もしらさりつ雁こそ鳴て秋をつけつ を b その家 より 0 代 72 其 徐情 け物 つる 後 12 へれども鶯の春となくと云も歌の餘情 U ひろく なり R 12 ひ 思 より 智 は š は な 5 樣 れ侍 12 爲 š b n 色 てん 世 りて かな ば n K ( 卿 3 0 都 K 惣じ 鳥に 0) とて他 0 不,用二 制 る人も入よきやうに るし 心にしてといへり雲にさ 門弟 僻 0 ての 言 出 からずとい 為 水た さことく 0 をそし 兼 條家をば冷泉家 事六條 出來た るは 卿 b 0) りまた 我 門 家 ふ事 は カコ 弟 ん 0 < なり 說 ぢまし は に定り 為 ٤ 30 相 有 如 ば二 其 卿 より 間 72 S な 此 師 0 鋪 る 1= 7 b

道 見 て出 ず正 法度 得し 3 智 仕 0 22 Ł 12 匠 ども是非 仕 少 あ る ば to 3 間 b 5 0) をその 3 置 今集第十二戀の 鋪 など制 月 也 2 カジ かっ 0 てよむ 0 物 め式 又 とあ E T 如 13 五文 b しらず Ħi. 1 ÍF. は 酒 留 かっ 5 文 12 字 3 弟 あ 目 寸 月 五 to h U ~ 学 1 しと宣 るご よむ 6 を 節 h 事 0 0) は 子 0 W をた 剩 萬歲 事 覺 72 供 7 į 100 我 h かっ め たこ 50 とく 作 同 ~: 10 0 ~: 歌 え書 と聞 法 < 伊 U 部 ずその も祝 法 U かっ 12 かっ 0) 10 ほ 勢の 守 此 此 小 1: 3 度 6 1-0) 0 五 心 0 ずと ななり て今は うざる五 して 上 筒 え るなどく 文字 野 < b 法度なけ 3) 得 言 道 掟 大 小 12 1-留 珍 た L 町が を重 2 2 かっ 客 3 < 法度に ٤ 1-置 Ł b T ぐら 讀 讀 te にその 文字 0) 0 1= な 15 か 叉 15 夢三首 物語 むず 僻 歌 3 32 2 13 詞 3 3 n た h 候 酒 ば 立なた 事に 故 と置 0) 0 0 師 Ħ. 3 道 太 酒 72 たらど 2 E Z は 13 制 文 わ 0 皷 ٤ 学 所 首日 かっ は は 家 け ie કુ 13 4 12 h ~ 0 をば 歌 3 うち 筒 過 0 b B 3 ほ 115 かっ 先 僻 0) かっ は 1 人 ば きは を 其 3 言 法 韶 6 2 6 0) å. 12 0 15 人 中 耳 18 度 遊 見 其 其 \ \ ' は -16-3 0 ず 九 b L 38 法 思 30 Ł 5 興 物 家 36 Ŧi. わ 心 12 細 30 0) 0)

> 此 歌 さ櫻 とせか 370 0) 心 われ 也是 も散なん一 総しき時 釋方 8 T 3 はうは 0 盛りありなは人に浮目みえなん は 詞 古 Æ 宁 北 だい 集 0) 赤 tig. 长 1 0) 21 0 を はか 具 切

> > 1-

用 末 花 勘 此 け T 此 h 8 0) 可 書給 愚 を 18 心 ~ 7 给 歌 12 15 わす 万有 み 聞え E とはやもなき との 130 にて先 3 0 勘 3 1) 0) れ草種とらました逢事 かんい ふ事 2 用 歌 E 2 0 に最 13 は カジ 詞 制 盛 から 最 かっ たし 僻 古 72 か 最 切 此 人 1 h 0 今集 0 U) 产 言 h やと不審に に戀しき心 小 0 北 字 める 雁か白露の色とる木 然は密 と云 ٤ 詞 130 字 HI た 源 78 作 1-Te 0 70 0 3 昭 ١٦ 13 は 事 W b ひて 歌 IF. 12 5 0 勘に ごとを書 は 13 最 あ 如 13 0 11 密勘 旅也 思 かっ 1 3 mil なりとい 1 とかくか 乏朝 定家 此 ひ はず -5 b 13 と治 かっ 道) 4 4 1-道 る引 B 卿 を守 ξij 付 b は 板 E たきもの T 行 は 五) せらし たるに 0) U を守り 21 は ٤ 10 7 北 自 らず古今 何 3 紅葉あへなくに 2 古 # 笙 3 3 は 作 0) 出 Ł 2 11/2 宁 12 b 12 75 家 -[ 知 (1) 2 集 たこ 簡 此 包 か 7 3 i) 机 ij 6 3 侍 集 傳 砂岩 1 £. E 池 E は 條 訓 12 \$2 10 te 裕 战 th 不

家 の詞を除 0 め 題注 たて 末 書 させ 密 本 付 なり 勘を板 なり て傳寫させし 30 h か て定家卿を人 と廿一代集の歌などをも書か n 行さする時 し事をも正 1 もさづ 事 i 1 か け 義 b B 又は 傳寫 12 5 ょ 14 板行 をもさせ 5 より以 末 用さ 世 L へて二條 後 せ 學 前 か か ば に右 h 0 右 證 2

物語第 付 院 それよりして源氏物語 3 る けに 御 後宇多院 0 ト字を入 にて 段の詞にその人世人にはまさ にやそれも延慮過たるは古今集を讀 ゝ字をし 0 御 禁中などにてよむ事ならば此 て世 いみ名を世仁 てよの人 0 人には に多く と讀することなり しと申 まるさ ある世人 \$2 奉 りけ b 0 n 72 詞 りと讀 りけ 3 vo 延 1 慮 後 3  $\hat{\wedge}$ 時 りとあ な脇 伊 8 宇 する に あ 多 勢

を 3 人さだめよとよ の歌をばい 母な ふは安徳天皇の 女をよばひけり ひとのい んあ てな かっ いよむべきぞ是へものゝ字を入 はその むべ 3 父は 御 í きにやとい いみ名なれども是を延慮してこ 心づ 伊 こと人に 勢物 け 72 語 あ b -段目 it は ば はせん カコ るとあり言 12 とい その は 5 ひ 7 國 世 け あ あ h

かきくらす心のやみにまとひにき夢現とは世人定

との その L 初 < 第 卿 言 カコ 世 衆 る事にて 5 りし 3 は 3 12 歌 0 なれば書釋 B ふ人 世に 領は 二條家 事 人 るなるべし 甲冑を帯 0 の皇子 道 1 12 E 懸る僻 も閉 や何 0) ひろまりし 太平 きか あ は ことは特 0 0 を聞 記 ずか せん 口 御 嫡 0) し弓矢に 書物に、 母 々官 0 言を云と人 てとが 様の は 亂逆 とい ばきくまでにてさのみ は為世 更相 為世 は 大納 の世 事 はみえはせねども 身をなげうちいそがは ひけるとの 續 ئة 卿 3 卿の にて武家は不」及り申 のそしりを受るなれ 3 0 言 な 0) 事なきゆ 家 息 利 女 T 口 な b なれ 後 まし ざなるべしや をたてく \字を入てよ 醍 ば 一世 ば 醐 12 にとへ解 其威 小 天 か やう 云出 Ŀ h に流 甚 きも 言 第 き時 0 爲 ょ 世 僻 Ł 有

## 本集第

初 五文字にをくべからずとい

ほ ほの一と明石の浦の朝霧に島かくれ行舟をしておもふ と云 柿 本人麿の名歌也然ば此五文字私の歌には延慮

盡 うみ山 周 道 是 垂といふは先人のよき事 72 2 せよと たなる 月に ふ詞は 詞をかりその心をまねてこそ道には至るべ 公孔子の詞にてこそ儒法もおこなへ歌 も末の代 る事なれ が の眺 ふは L 花 月やあらぬ、櫻散などくいひたるとはちが ば我等體 望 0 釋迦の 利 此 に色句 も雲に あ は るべき事ともおもはれずほの 口に云出 仰られ 0 の歌 ひの言語に もかす んしといふ詞 1= L を末の代の人のまなぶこそ たる事なるべし法を將來に みに も五文字にほ 事を今の出家の學でい もなか も特更にはるの曙、 一つにかねそな ぐしくい 0 の道も先達 し延慮 ぐと 7

> V) É ざるみな なかり 延 虚とい 詞の にや五文字にほ 制 歌 2 あ 事 あ るゆ あ 12 なり へなり 15 我も 0 T よまれ むかしはかやう ぐしとおきた 省 0 ず人 b'a L ż る歌 W U) 13 延 در 虚

ほの ほの ほの ほの ほの ほの ほの ほの ほの ほの 月やあらぬ ほのく ほのく と有 と霞 と春こそ空にきにけらし天の香 と明る雲間の と明る外山の横雲に鳴て別るい時 と霞る山 とかすめる山の嶺欖同し雄子の聲を恨 と花は外山にあらばれて春は霞の明はなれ と明石の浦を見渡せは霧の絶間 とかよふ小船を立籠て霞によする淀 明行山 我住方は霧籠て蘆屋の里に秋 の袖の 明の の櫻花且降増る雲かとそ見る の篠目に月を残して歸る雁かり 月の月影に紅葉吹なろす山 紅にくいるは白 其ましに霞棚引春 きわ 計 これもこ ш 鳥哉 强 風の 115 の川 棚 白 是 41 風 妙 光院内大臣 信太森歌合 衣笠內大臣 後京桥 馬科院 源信 [11] 山院 家 鎮 W

月やあらわ昔や誰もなかむらん花橋も本の身にして 月やあらればるや昔の春なられ我身ひとつは本の身にして 在原業平の名歌の五文字なれば私の歌に延慮と

ひたらば少は歌のやうにもなるべきものをとおもへ

後村上天皇

なし愚素世に歌をよく讀といふひと今の世には

お

ほ

月やあらい花やあらいと歎きても忍ふ昔そ身に積りいる

櫻散木の下風はさむからて空にしられぬ雪そふりける 紀貫之の名歌の五文字なれば右同 前

櫻散春の山邊はうかりけり世を遁れにとこしかひもなく惠慶法師 櫻散水の面には堰留る花のまからみかくへかりける 櫻ちる隣にいとふはる風は花なき宿そ嬉しかりける 櫻ちる花の所は春なから雪そふりつし消かてにする

承均法師

能因法師 坂上定成

中納言無輔

書付る家隆卿の歌に

べし 淺知の見る所如、此し 諸歌人の家集に いか程かある 櫻ちる山下水をせき掛けて花に流る、小田の苗代 櫻散宿に匂へるあやめなは花あやめやと云へかるらん 櫻ちるはるの暮行物おもひも忘られぬへき山ふきの花 櫻ちるはるの末にはなりにけりあましもしらぬ歎せしまに 櫻ちる昨日の春の隣のみ隔てぬ色か雪にまかせて 櫻ちる外山の花の浮雲はともにあたなる春風そ吹 儀子內親王 後柏原院 西行 俊成 榮雅

わが 戀 は

八雲の御詞 らずとあり是 V に我戀はといひてそのすゑにその心とを お ほせがたきとの事也制とある御詞は わが戀はと云出し下の句にてそれ程

> 事必定なれども差出てよむべからずとい 程によむべからずとのおしへにて制とい ば制とい の五文字その詞 しへはみな歌よみ習人へのおしへなるべし然どもそ よむまじき詞などいふおしへはあるまじけ くと云かなへ云とる事はかたかるべ くはあるまじきにや器量 ふは名人秀逸のわざなるべしその名人 ふになりたる也就、夫ても不審さにこくに の中にても猶さらよみか なき歌よみは何 し讀かなゆ 、ふ事に ふ名は な 秀逸の れば此 へが 何 なれ なき たき ると

程 字計にて戀の詞みえず下の句よるさへやすくい 此歌鷹に木居といふをとりよせたるにや上の句五 の籠りたる事ともおほえざれば我戀はといひてそれ をやすくね みえつくとい さねするといふは戀 お の事の もはれず世に名高き定家卿より家隆卿の歌は猶 わか戀はまたすゑならの箸隱の夜さへやすくいやはれさする いひか られ ひ旅寐の床の月、松の嵐、波の音みない なゆる事かた 知とい の心なり然とも花 ふ事にて此歌さのみ しと制すべきことへも の散のみ ふかき心 やは 文

ゑに 耳 4 0 歌 13 あ 12 は は 2 7 3 北 2 人 た か 丸 3 0) 南 心 耳. 13 0 社 想 か かっ な 御 3 E 多 3 抄 43 事 10 も 2. な 人 南 37 は 0) 6 哥灸 歌 まし ざる 30 な な ほ h 才し غ O 120 しと 40 ^ 我 な 等 à U 1: b T 3 慈 其 ~ 3 鑓 す 0

作に 歌 3 思案此 12 12 カジ 0 0 すにて h 此 あ あ 方 心 は Ħ. あ b 12 30 さをも はれ 文字 ざし一つにてその艱難をもおもはず 7 < 12 か は 挽 す. せず 歌 心をもや も 12 7 なり 属 て米に 是を を籠 0) Ш 2 6 111 とは 心し 末 心 人 < 0) 4 18 3 12 0) 0 0 Hi 亦 詞 118 贬 づ 四 L 11 3 1[1] 11 وريع Ł 季 T 10 2 かっ 3 Ш Ш カジ 苗 水を心 1= 俵 を ~ 0 0 60 12 か 40 代の水にの きに 夢 植 農業を 服 をさし せ たときも ひまた 1-ひとら 入て をさへ は 田 とや 1-せ 赤 を苅も妻子を T め 336 ž, から 12 かっ おもひやら みこそ心引らめ 見ざる 我 Ď け か 忠 n T 3 0 藏 は T < 辛勞し と云程 D 我戀 1= ひく \$2 お 3 トニと は 枢 1; 8 誠 てさ b は は は 12 納 稲をこきう 0 2 はごく 3/3 Ł 思 Ł 43 共 8 7> < -7. į 身 切 む H 5 ば 3 は 73 おこ 地 を ^ ^ 0 南 ナニ 3 < VEI ば 所 3 あ お

戀

なり

など、此

方

より

樣

12

無量

の心

ie

つけ

h

13

此

を流 字に 事も 言い 御 む は 8 鎭 を以 ま 南 1-かっ 不 ιĽ Ŧī. きや よく 挑 字 2 22 文 は 抄 きをさ 3 お 和 0 るまじ なるき 3 535 \$2 5 ょ 尚 1 な す程 な 所 0) T \$2 洪 T 我 7 U. 3 云 1= 3 た 程 713 りと 南 0 12 戀 かっ カジ 歌 詞 Ł 心 かっ 不 3 1 0 0 h 0 をふ 2,5 なゆ L 1 は 心 な 72 は 난 المدار ا 60 T 1 15 限 しと 5 法 5 Ł ひ な 3 人 扳 制 お C 0) 11 3 を 5 Ty ょ < 0 ると云は 樣 0 Ħ. 0 群 40 1); to 3 事 3 3, T 文字 12 J 5 13 C 专 L ~ 0 8 1, 3 やう すべ Ŧi. 7 た 3 13 2 カジ よまん 73 ~ 風 0 Fi. は此 3 3 難 3 文字 3 問 1: 旬 かっ とく あ b 歌な 事る きや その 73 6 h は 3 0) 1-41-歌 3 3 t 續 13 专 1= h 南 力; 12 山 T す) PATE TO SERVICE は は te は なり 版 70 HI 不 6 7: 1-Ō ET LILI [ii] で ~ は 情 3 T ば は 誠 批 3 n C ~ U) 12 歌を讀 12 贬 こして 訓 10 2 j. E 0 1-0 1-0 V 40 0) 13 3311 多 は Fi. 心 たこ 2 心 12 h 0) 6 すい 3. 2 l) 哥欠 得 みえ 13 3 3 0 ^ 0) 1-3 とい 13 兼 ~ は は 3 1 カジ 111 T. 315 / 13 たこ しや たかく T 版 们 個 0 僻 -13 To 115 すい 情 假 -[ 13 44 4. す 4 果 3 す 末に 3 は 2 名 h li. (11) かい は 3 お 1 な 3 2 松 3 州 专 1: あ T 82

梨本集第

かなひなばくるしかるまじきにや是も歌しらず詞

7 がたくまた末の句にもかけあはせがたき程に初心に 何とも心得がたしと てはよむべからずといふ事と聞えたり六百番歌合に 0 夏衣ひとへなれとも中々にあつさそまさるからせなりめる 句にか 中々に から ほせてもみえずとあり右難の兩首の歌なければ ã) 承久の歌合定家卿の判云中々の五文字末 は ずと文永の歌合為家卿の判 かく如い此難あ れば 云中 U 2 せ

云

判云中々といひあつさぞなどいへりやいかヾ愚案に

あはぬ

を被心仰事也

中々といふ事大ていかへつてといふ心につうぜり

やうに詞 世のうけひくまじき事なれば中々あやうくおぼしは てた ず俗語にいつその事といふ詞に通る時は物にうちふ 此歌かへつてといふ事にたれも聞よき歌なるゆへこ 10 ふてたる心又尤といふ心にも通ず源氏桐壺卷にひき 中々に里ちかくこそ成にけれあまりに山のおくをもとめて かっ んる詞 證歌 りてと書たるは尤の事合點といふ心に通せり は しう に書付る然ども中々の詞それにはきわまら も用又なまなかとい おぼせど御うしろ見すべき人もなく又 通じてもその一品の心に通じ ふ詞 に通ずるもうち

心をもとくと知ざる故なるべし

いかにせん まへに同じ 一おぼつかな 八雲おぼつかな まへに同じ 一いかなれば 八雲

もとをらぬは見ぐるしと有是も此五文字に下の心の八雲御抄にいかなれば、おぼつか なヽどいへるいと一おもへとも「まへに同じ

一つくんへと 建久六百番歌合季經卿歌 一つくんへと 建久六百番歌合季經卿歌 といいて でしまる 豊えず云々 陳云長き事 をいひ思ひつゃく べしとも 豊えず云々 陳云長き事 をいひ思ひつゃけざらん判云此番左右方人難陳にまた聞えてたれば夏日と書たるは夏夜の書あやまりたるべし歌 番歌合證本あしく文字の誤書落し無…際限っそれを以難いて云夏の日は秋の夜などのやうにつくんへと物難いて云夏の日は秋の夜などのやうにつくんへと物離れば夏日と書たるは夏夜の書あやまりたるべし歌者歌合登本あしく文字の誤書落し無…際限っそれを以離している。

しらずある人の云見渡せばといふはたぃ物をみるば是をも初五文字にをくべからずといへりそのわけを一ながむれば「一見わたせば

5 は 1 るもしらず と見櫻と見渡したる也定家卿の花も紅葉もなかりけ T りとよまれたるも花と紅葉と二つ也只一つを見る事 かりのことには んには過はあるまじきにやたいしふかき口傳の は渡すとい 見渡す心なるべし只物をみる計の事とおもひて讀 きりにたつ物にはあらずそれ放こなたよりあなた 海川野山まで一面霞て雲霧煙などのやうに一きり 十首が九首は見渡せばといひては霞一つを讀り霞 はあらざるなりといへり是又僻言なり右歌をみる ふ詞 あらず柳櫻をこきまぜてといふも柳 0 無。甲斐」か樣にさへ心得て讀 あ 12

一袖にふけ

まをく事いかいとあり是のみならず 地歌定家卿の名歌なれば私の歌に袖にふけとをくべ 此歌定家卿の名歌なれば私の歌に神にふけらずといふ是につきておもふに心得なき人の讀ぬ 事と思ふもことはりなるは細川玄旨の歌に 事と思ふもことはりなるは細川玄旨の歌に まをく事いかいとあり是のみならず

大空は花の匂ひにあまきりて櫻に埋む春の山の端

此歌は定家の

此歌に似たりとあり又支旨の歌に大空は梅の句いに貫つしくもりもはてぬ春の夜の月

夏衣さらす井せきの白浪の川邊はまたき秋や立らん

此歌定家卿の

大井川かはらぬ井せきをのれさへ夏きにけりと表ほすらん

3

淺茅生の小野の秋萩秋くれは茂き草木にあまる色か

是も定家卿の

出して末の世の歌の關になりたるなり出して末の世の歌の關になりたるなりの小野の後芽になく露も草葉にあまる秋の夕暮ればこそよからの事を思ひよせ給ふゆへないはほのがし、さくらちるの事を思ひよせ給ふゆへなからぬ事なるべし袖にふけの初五文字を制せらるへからぬ事なるべし袖にふけの初五文字を制せらるへはほのがしてればこそよからの事を思います。

一名もしるし

名もしるし色をもかへの松の尾の神の贅に木の世の爲ればない。 おもしるし雲も一村かいりけりたか夕暮の秋の山本定家卿の 歌右 同斷 とい ふ家 隆卿の 歌にも

太上天皇

### うしつらし

うしつらし淺香の沼の草の名よかりにも深きえには結はて

定家卿の 歌 斷

世 へ名歌 なしたる事とぞおもはれ侍るといふ人もあ をつけかやうなるも歌 事 **閣兼良公などは定家卿をすぐれたる名人とも思はぬ** き名人堪能讀給ふ歌は聞えぬ事をも無理にことは おぼし に比してたつとみいふ二條家の あれどもそれをば一つもいはず定家を人丸業平貫之 からずと云か様なる五文字は家隆 是みな定家卿の名 つをい 也 一後鳥羽院順 此外い 代々相續ゆへ定家卿の事を上古中古に 一跡に定家卿壹人生殘り人に用ら めし もある五文字ゆへこれにのせず是を又手本に 2 12 k か程 こね とい たるやうす也新古今時代の名人達皆死 Z 一徳院も歌のよみやうよか 人を松帆 È 歌 歌の五文字なれ ふ事 お ほ の一體とみな秀逸の の浦 なけれ し人丸業平貫之さ 駒 どもその 私事なるべ 卿 ば とめて袖うちはら の歌 私の れ為家為氏為 初 B E 歌 りそれ 歌にいひ し一條禪 もこれな 4 五文字は へ一省 ぬやうに かっ をくべ 程 づ Ø b 果

> ゆへ新古今一 におもはれ侍るたとへば宮内卿 な新古今一集の歌 72 りあまり數 みなより出 る 册其外詞 お l ほ て此五文字延慮して讀べ 集ばかりしる人の仕出 の註 け n の事ばかりを書 の證歌 ばこくにもらし侍 D L が名歌 ある詞 て他 ī からずとい 72 0 などい 3 る事 事を用ざる 制の 詞 のやう ふもみ 立立

すくこきと云初五文字の歌定家卿家隆卿の らずと宣ひしかた の人の珍敷讀 で名高〜名人といはる〜人の宮内卿が 其外の歌を見ざるゆへなるべ たるをみてうすくこきの詞のぬしは宮 れ先といふ事をしらず然ども宮内卿が りその外の人の歌 新古今集に入りそれをみて云出たるものなるべ 此名歌珍敷五文字なれば讀事延慮せよといへ たるべ うすくこき野への緑の若草に跡まてみゆる雪のむら消 る五文字を真似 し定家卿 出 12 \ \ '` る詞 0) て讀るべき事とは にもあ 歌 の真似られたらば大きなる恥 は二字三字たりともよ り同 し定家家隆 ľ 時 代 0 お to 珍敷初 內卿 歌新古今に入 人 は と今の世 R 歌に なれ n ٤ ず近 いて讀出 思ふは h しう 此歌 ह か 世 何 あ

うすくこき四方の紅葉をふみ分てかたも定の木からしのかせ

梨 本 集 第 して新古今集に入たる歌の中

めづらしき五文字をば

辱

72

葉を宿にこきませて己とまらの山面 0 かせ

ぞ是一 言どもとお ませべきゆへ此流 新規に制を立法 ほまか 集に龍田川 をさへは 紅葉を錦と御覽 さのをのみことの 延慮せよと云に何とて卅 愚案人九業平貫之より初 新古今時代 うよすべ うすくこき紅葉流る飛鳥川かはる潤淵に色に見えけ なり の不審また龍 き事 B いかり延慮せば龍田川の五文字は もは 3 0 LID 0) なれ 五文字の歌數多あ 人の事にばかり 付 れはん をたつるならば是を制 共左 は 御歌 12 左様の ては後成 じめし 田 の人の末の 川の 樣 ~ 八雲立の 詮議 の解言 て定家 3 定家 字の 御歌なれば臣 五文字は奈良御 かっ は 為家を 哥 代に作 はは 五文字をば制 1 Ŀ 0) りもし上代は物毎 歌の のは かっ 代なき證 りて h り出 あ じまり 五文字をさ せざるやたい しとなら 跡先の か 0 人際 め 據 門 L 猾更ゑん た ナこ せざる 特にこ 0 見合 ば今 る解 うと 古 0) 御 歌 お 製 宁

### 梨本集第二

何にてもあ

礼 () 15

ひて秀句にあ

1)

0

終

りに

ふまじきとい

ふ詞

はる 侍らんと有又 きにこそ秀句にて勝侍 判に云梓弓、はる、ひく、 Ö 此類聞よ ろしからずといふも六百 か 梓弓春の目くらし引つれて入さの原にまとゐなそす 5 づらしげもなき秀 何にて ね ればこの は間間 かっ 3 らずとい あ J 歌 かっ 12 らずと云 5 讀 ひて 12 何をからようにい ~ 秀句に け らば歌の道みぐる り是も此詞 ゐる、まとゐ秀何きはまり 香 は尤也 5 歌合 13 松風る吹きと かっ 1-物じ 5 部 えし 古來より り 学といふも同じ の 対 どいふも同じ て今 家 \_\_\_ 2 哥 首 しく 12 十九 3 秀 るやと思 13 や能 2 何 つ をよ らし 來 成 1

ふ伊勢物 條禪閣兼良公の つまてかうきふし茂きしけ経 判 に秀何にまとは の苦しやかいる亂 \$2 た tr b 为 る 難 世に じ給

To. 玉の緒 かっ しの なあは緒によりて結へ 歌にはかやうに秀何おほくよみたるは秀 れは絶ての後もあばんとそ思ふ

旬

0) 8 づ 5 かっ h 故 な h かっ 0) ひ カゞ ごと i, 2 カジ 伊 勢物 語

の事 程 外を見くばらざる たと 此 歌ともせざるやうに書付 り定家卿 ٤ て是非を云僻言 唐衣きつし 也 の注に秀句 しと書 ふ五 Š 數限 0) い馴にし 歌 12 文字を折句 なし h 扨 にまとはれ つまし なる 時代 は右 やうに あれはは ~ 0 0 1= しと る事 よみ 風 お 玉 もは たれ 0 0) るくきめる旅をしそ思 大方と わ 緒 12 申はみなかやうの かっち 3 0) る歌 ども此歌は 歌 かっ 様に申 の歌 なれ ^ は なく 散 ば是は 12 首を 私 證 0 かきつ 歌 0) 據 事 好惡 見 5 1 各 別 な かっ 7 7

此歌あれ 梓弓入日 ば讀 かて引とめんさてもなしてや春のかへると ベ かっ らずと制する事にはあらず

遠山 夕暮の 浮雲の秋より 0) ılı 松 冬に かいるまて時雨すさめる遠山の松 太政 大臣

也 此 からず 兩首 然は此 鳩のなく杉のこすゑの薄霧に秋の日よはき夕暮 Ł 風 兩 雅 集 ż. 集 詞 0) 0 歌 歌なりこれを以て考えるに は大方玉 0) 風 體俊成定家為家時代 華風 雅 兩 集に 0 お 山 ほ < この ٤ カコ あ 讀 院 13 る詞 h 條

松、

夕幕の山 となか

4.

一敷此二 此

つを目

錄 き中

1-

書出

12

るは

玉葉風雅をそし

b

風體此

集

0

詞

70

63

2

け

諸人延慮 疑書とい

T

その

通

b

É

10

h

字 あ

どめ

ふべ

し實作ならざる證據

63

か

程

B

n

ども

好まぬ事

5

ども

歌新 用ゆ

歌 3

30

ほ な

遠

て必に 新敷 本、 浮身、彼人、遠山 ゆへ持明 やよみ じきと思ひて同 爲衆の風に て嫌ひ制する詞 て玉葉風 るまじきと思ひ定家卵 色消で、 0) 歌の心 頃 られ も詞 み Š したる事 漸 、色暮 院方の帝王攝籙大臣女御內 雅 る カコ 疑 なり を秋 0 1 72 ~ 書と云 歌 B 6 T 3 て、色さめてなどの なく め 1-何 風 と聞えて じ元祖の定家をもち たらばわが家す の松、夕暮の山 0 n づら 1, 省 體 72 風に讀 百人 ひ雑 とい 讀 b 歌道ひろく讀 今世 0 しくも T 解言多し僻案集、 名をかり色 か 歌を意にい 3 首雨 り右三代宗 上に 詞 ご面自 5 0) 、ほの 中 たり れた 置 7 詞、うす霧、朝あけ i 吟なども 12 もなしとあ 所 U FZ 用ゆる人 3 Z るず 捨 親王迄此風をよ 0 るを二條家 な か かっ 匠 は の事を は 為 3 0 鵜本、 風體 る事 此 ~: るまでに h 兼 後 作 がめ L 卿 る事 72 は 3 さる 3 は 0) は ょ

3

春

2

h 72 8) 歐

聞 き事也 ずと書 T 0 判の詞 歌の 花ざ よから 花 撰 雅 かっ ずと などに 詞 盛 b 1-かっ かっ 7 な 多 to 終 今の る事 難ずる放あ b 今さ 歌に 0 13 か あ 七字とも などとめ お るまじ かっ のり然れ દુ b は かっ たった L 鴨と Ł 1 書 ばかもと留 かっ 3 5 h あ らずとい 此 J. 等 げ 1 た 72 何 1-3 て心 3 0 事 る事 3 惡 カジ 事 Ŀ 敷 風 雅 好 代 所

此歌をい ぬ宿の梢もなかりけり都の はん ため終句七字ともに書あげたるなるべ 春は今盛か

有

此てしも末に讀 よむまじきとい てしと云詞を嫌 てしが 時のまた消でたな引白雲のしはしも人に逢みてしかな な カジ なと留 べか 2 ひて書上 ż らずと 僻言なる は上古 たるもの ŗ ふ詞 より今に同 し定家の なるべ のうちに書 し前 じ事 歌 也 0 是 12 鴨 h E 者

嵐 おもふかな唉散花を眺めてもさとり開けん花のうてなか 谷 カコ やうのたぐひにて留 る事

字には定家卿

も置

給

2 敷とい

お

B

ふか

讀問

2

き詞共思はず初

五 文

> にて 智 みな器財の物の名なれば讀留まじきや 淵 何 有 1= P らずとい の小枕、みしま菅笠、海土の釣舟、たてる小 はそのわけの カコ 0 物の z 0 5 1 10 事に 合點 あら ふか ばたとへば雲消 は無や但物とい か と書て 名 いとい き秋 は 8 1 ず 惣じ り是又僻 是なき書やう也 近 あらずとい てはつ 一來の ふ事 ある事な などくい 1 物 る事 歌に 也こ 2 n 言 0 谷、風あらき嶺、色かへぬ松、 名 は おほく ir ふやうに韻字一つにてとむる るべきをか様に書出 た 時は器財の事にて天象地 ふつとすべ るべ もよ 1-10 T 入 统 設字一 L 相 霜 むべからずと制する事 は つる事 韻字どめを好ますと の鐘 事 からずと 雨 雲霧是皆 、まどの 留り 書 燈、柘 457 12 後 3. 3 3 ~ 0) カコ 植 鳥 名 哥大

に讀 卿も 留 少ならば りの事未練の つくどめ からずと宣 用 捨 h す 三光院實澄公の説とて人の云 作者當 な ~ 三ふ千五 しと らひ 宣 南 肚子 百 る事 0 請とも 番 と云 歌 也 相 いひおほ 傳 b (合 近 なく 來 せが 7 形 は 鳥 12 12 み 井 0 雅 L b 竟 少

此 古郷のにはのさくらに風吹けば軒の去のふに雪か 判に古郷おぼつ かっ なく 侍うへにつくの詞たらずや

5

連

右

M

事 ほ

光院 る事 ならざる衆 ならず 微 かっ 年 歌 御 頃 1 0 御 我 je h 矢ことに 世 殿 と云詞 聞 物 1 供 h 等 我等 うな 代の なれ 拾九 讀 Ū 心 語 家 き今その は え侍 L 後 70 0 7 お 始權 衆 ば 歲 < 聞 生 働 3 柏 ほ 0 類 n 15 3 せ ども我 し人 覺 12 多 0 武 も在 原院 せが 親 な 2 ક 五 州 時 士は 7 72 え h 0 阳 < 現 何 b すぐ 御字永一 然の 樣 l 緣 御 代 家 懸 京 逝 72 詞 か 誠 る人 દુ り心 去 きと 等 を 不以及 なり 樣 水 普 あ は 0 12 12 一州御普 此 もそ 12 代 お 氏 0 B b 近 ^ 10 0 お 我等 姓名 祖父を見覺 T 侍 祖 ક 0 カジ 時 IF. 判 ろ なくまな < 5 七年年 たく 朝 へば ふ事 かっ 1 もそ 父 L 申 分 0 0 かっ E Ŋ 0 乘 代 町 は 歌 詞 な ども今時 づ 7 云 /まじ 戊 ا 岩 もの 天 0 な かっ 72 0) は る 生 L 聞 盛 かっ تح 侍 な 百 て諸國 下 は より 耳 び 頃 までとい L E 3 大 n あ 習 え は は 1 姓 1 せ 5 かっ 貧 らざ すく 2 諸 祖 物 は 給 は 0 也 は h T T 8 ٤ 人 度 語 事 筆 職 ひ 其 父 とまなけ h ^ 3 72 浪 る 0 中 H 知 į T 2 Z 3 師 0 R 0 人 T 久 帝 匠 B 老 ٤ かっ 御 82 3 出 k 天 べ 事 詞 3 12 ĺ か 都 うに 人 事 正 L 3 ٦ 衰 h 合 家 也 12 3 知 ક ž 六 な ક Š 迄 歌 12 戰 お 0 n b か 杏 P せ 延 褒美 家 勝 12 脇 親 安 戰 城 中 L V 1 0 72 お 右 n てうる陣 〈樂の 盧 より 守名代 御 あ ほ 付 0 み 善 n 出 0 15 T n 退治 る事 F. せら ば す 0 御 づ T 惡 册 ば 0 思 祖 披 か 省 此 代 3 0 連 1 3

ば

衰 寅戊

る

御詞 なされ どめ ñ 事 尾 とし 評 も傳 見 ひをな 父と親 12 字 歌 6 0 を 御 ż な 也 老 / 1 0 師 留 3 T 本 御書 入 歌 あ 供 7 7 ક なら な 机 をし 受け 宇都 どの 事 此 光 歌 御 を L はすそれ とを伏見 仕 組 お 關  $\bar{\mathcal{O}}$ よ કુ 未 院 は 添 添 0) べ 0 / ざれ 定て 此詞 大 宮迄 五 浪 より歌に 末 削 3 ケ 練 殿 かっ ^ 仰番 給 樣 原 3 句 0 老 ひ 0 0 K より 3 ば 72 世 作 未 ひしことなればそれを以 は 願 あ 御 御 御 を 15 古來 作 練 歌 者 申 城 合 衆 出 1= は 0 7 庫 京 なり 戰 12 心 御 15 五i. な らずむ か とら Ò り習ひ 0 0 作 よろ 京 さざし 世 指置 御 抬 h より 歌 j 0 慶 T 者 b 都 靜 勝 人 時 0) n れ大 5 程 あ 福 利 to 我 長 12 下 かっ 色 は દુ 制 ^ 等 子 l るまで 1 で 0 b 0 h K は 用 か なり 阪 な は 捨 來 3 し人は 治 所 父 0 せ 72 0 かっ 3 事 す 緣 6 兩 忠 年 る 72 6 h 2 武 度 著 事 カジ 0 2 ~ 72 歌 あ を 御 陣 歲 杉 T 祖 + 父 0 2 出 知 \$2 る 師 ٤ ili 中 公 B 俄 ば કુ 專 來 父

事

もあらじやく

b

72

1

D

理

を

う

V

絶事な 事と ばや 筒 せ 道 よく と云事 よひ 12 T 云筒 5 h 0 るやな ば姉 大事 0 0 iČ 4 秘 第 は 川 0 爾 22 筒 < 得 1 手 小 かっ 3 3 11 15 すや三にすて 0 n 5 ·爾葉 57 古 3 秘 ふ詞 筒 かっ 1 すい 0 13 A カジ 調 今 やうの あら 2 龍 訣 此 12 6 は 3 0 3 傳 4 千三 な 筒 筒 7-は四 木 12 代 事 人 --南 寺 秘 つに 受の 相 82 0) b Te 四に 1 もこそとやうと一尋受て筒 名を付 をし ケ條 事 殿 Ł 程 -11 ひはや 傳 は 事 2 と同 B 10 30 寸 たづ なき 秘 h 0) 5 3 と書 0 决 四 3, 2 3 Ł 3 ^ ふを執 3 秘訣 子 -傳 U 1-3 拾 事 11: 和 事 12 あ お を近 受秘 亂 筒 事 6 け るまでに T 相 0 111 专 337 候哉 Ł ā) ひし 北 筒 b 111 れば是に 傳 7 2 1 にな 人に 1-7 に云う 訣 五. 12 30 來 15 0) 15 すで と神 0 手 てて 2 1-筒 3 ż 5 0 130 たづ ひ 相 T 50 爾 七 心 3 2 から筒 我等 たれれ ては たが 薬 出 稍 0 0 3 何 Ħ. 1-籠 斷 邪 ね 此 0 0) わ カコ 5 12 寸 ば 絕 大 p 2 書 け 人 慢 3 0 あ ^ 3 た 3 \$ -を聞 事 33 その 事 与 る筒 筒 1 2 13 12 せ 知 口 ば答 4 Ł をさ 'n す 傳 10 相 8 南 かっ 事 T 歌 猶 傳 12 12 Ł な

> 點もない ことは 度の ず少 通 4 秘訣 院 停 づ らばその人 を发に書し か なら か h 2 ~: 殿 \$ 6 0 て弟 4 カコ と公家衆 0) 大 ななら 必定 かきい 引 3 說 H 筒 b ずと 御 tz 0) 子をとり B 法 3 ば 大 付 0 1 7 た ち 4 度と心 もす 渡 -3: 旨 用 -0) h 秘 -- A 世 た 被 御 h 拾 3 3 すべ E 訣 人 2 大 ~; れども今程 仰 法度とあ 世 0) て心 0 得 SIG 30 け 12 相 E しと n 1 御 傳 為 h もひ又人に あ T を 是にて 得 2 T h 法 どもそ は 受た もたっ 世を 7: 恶 3 宣 度 敷 1 5 b か様 0 Ł 合點 渡 雅 3 1 3 尤 3 に叶 3 ~: 3 413 ~ 50 所 かる 道 0) L 人 7 11 T 卿 か ^ 諸 をしらでも 6 THE THE 义 3 人 13 211 | | | | | 3 6 ~ J \$2 ざら きに 傳 答 孙 0 世 13 道 候 益 彩 12 授 理 さ 30 ば 私火 111 3 1) その 75 4 H 决 御 70 光 14 法 3 to H

延慮すべきといふ詞

言 新 願 9 恪 敷 な あ 111 枢 h 12 3 3 78 Ł あ) 詞 3 12 12 は 6 급부 萬葉 月 1, 世 3. رمجد づ と北 < 5 集 15 1-0 1-新 te 12 3 あ るぞ新 3 11: 111 [ii] とて C 1 敷 THE REAL PROPERTY. 延 te は 111-虚 と 3 是一 を拾 W 3. 12 は賞 大 當 T 3 新 きなな 111-は 敷 70 新 批 世 0) 3 捨 枢 詞 18 僻 T

~

Ut

ば

何

大

II.

歟

ā)

3

~.

きとに

かっ

<

筒

詞

には

口

也大直日の歌にも

實乘卿 くし て與風 よへ と讀てこそ祝したり當世といふ當の字も新の字に あたらしき年の りか様の僻言云て延慮せよとはさらく 聞 江 思心出 12 る人のその通りに用來も心得にくし是に付 戶下向 12 初にかくしこそ干とせな銀てたのしきなつめ の道に るゆへこれに書、近年清水谷大納言 7 心得 かっ

差出 む駒 と讀 と作りごとかとおも 戶 の清水谷 ばよし 見侍にみな右の通りにて相違なし歌知ざる我等なれ 逢人に今は中々所せく引なつむ駒やうつの山 睛でけさ霞も霧を半天に雲は麓に廻る富士の根 0 端 の歌 をうつの山 給ふとて是を書寫し!~江戸中ひろ とり のは は 殿の道中の御歌とて此目口の多き江戸へ御 住居 なみ Ō 判 なしするもの、自分 して大名衆族本衆 越とは心得にくき事なり歌道御 は猶さらの (0) へばさつた山 御詠 事知らざれどもひきなづ は 御名 0 へかけあるきて御 よごしなり是は江 歌 清 越 水 谷殿 がり 0 72 師範 にるを 御歌

> 此詞 合に ば行 僻言 りに 思ひ 水谷 文字は書やうにて見あやまり書寫しあやまりあ 心にもなるやと思ひて考えれば行と云文字と引と云 とりなるべ の歌 むりに作り出 る歌書に書違誤の 書たるを假名に引なづむ駒と書たるものなるべ き文字なれば行なづむ駒や字津の山越を引らむ 一殿の はが 不 も難の事なく 心ゆるは なづむ駒必定 あはせて右の たるべ 三庶 御歌 つてん 幾 所 し口とりが引なづみたりとて駒をうつは し但ひきなづ なるべ し讀まじきといふその人の心はいか あやうき事 存侍るとあるよりし なき事な 書付 勝さだまりたるに千五百番歌合 おほきをその なりといへりまして今板 しそれに付てはまへ の出 むと 也此 り曳なづむといは 72 る あたら夜 4 ひても駒 本をた んさくな て詞 の詞 いして聞 の行 のうつ 1-なき事 10 行に出 駒 なづ に其 3 72 ż 山 通 口

あたら夜の有明の月に人はこて宿の櫻に春風そ吹新十遺集に

る事にや定家卿

0)

歌に

も

如い此なればくるしからじ

梨本集第一

めぐるといふ

句は云出すべき事とおもは

ざれ雲

ば清

歌をみれば今江戸の歌讀

0

口から

此

四

句

一雲は麓

きと云是も六百番歌合に 一みじかよ 當世を短か世といふやうなれば讀まだ

短れでも鳥より後そ明やらの老のは壁に物思ふ身は

腰 U 公なくや五月のみじ と顯昭 出 短か夜の更行ましに高砂の嶺の松風吹かとそきく の五文字は るを難ず顯 のよめ るを右 3 もあ 昭 陳に b か 0 なん 夜の 云 方よりみじか 後撰集夏部藤 歌を以て陳 初 五文字に 枢 原 み すい を難ず顋 右 兼 C 0) 輔 カコ 方 夜 0 猶 歌 3 昭 云 郭

寂 行に 此 お かっ 集 集 本 きそこなひ 歌を證 とし をと 證 蓮 の後撰集には夏の を収替 歌 も起しそれ も夏の の方人 E 歌に出 出さ か ぜ n 書付 夜とあ 12 なれ とあ n 事をおぎの 7 れたらん 恥 3 12 ば 1 知 ば猾以難ずべ b T \$2 る る 唇 叉扳 右 は歌 枢 事 のうわ 本 夜と書かへたりそれを寫し は自 無い疑を顯昭 必定なり より夏の 0) は 書 方閉口す然るに今二 人に不一似合一きたな もり の歌 h に集た 72 きに 枢 和 な のうへ め後撰 漢 とあ 3 3 閉 B 朗 ~: 歌を非 集の L 詠 口 證歌まで 3 ~ せし 中 集 な 題 歌 1= Ö) Š 林 しは後撰 :集明 條 Ė わ ば 0 て板 家 五. 3 3 0) 顯 S 文 ひ 3 ひ 昭 題 0

> おり うき世 當世を波 ある Ł 総 後撰集冬部よみ人 0 2 歌 やう 派 懷 0 談 歌 1= カコ 我 身に らずとい 懸て 浮 世 ٤ 讀

は善 とい おり せばは L か 新 院 此 為 べきや世 の帝と申とても 世お 殿替 Ł tz らずと云是 夜やくらき 白雲のおりゐる山とみえつるは降つむ雪の消 0 歌に付て云帝の院にならせ給ふをおり 道 註 3 る ゐると云をも延慮せよとい 書 b 72 10 抄 12 御治 な 3 人 あ とある 角 h かるべ 註 H 0 るに 0 詞 世 抄 に付て何ものやら 延慮を以て今案る ]1] をみ を延慮して日 諒 惣じ 僻 0 0 しとい おりわの 所 H 時 3 T 1= をいひ をくらき 渡し守は て御 は ふ事 此 詞 初 陆 をし 心と御 1= 出 心 1-专 世 云 何 來 0 رم て鳥 E か h 3 出 0 2 へ、道にまよはする 讓位 4E 12 船 0 13 此 1 0 虚 伊 3: 12 田寺 0 へば是 (i) きね 勢物 0) 3 なき時な 大 は h お 12 3 10 院 h 2 Pil 70 寺 30 3 わ H か 0 专 h 3 帝 17 3 殿 お 1 1 如 抄 持 b あ 知 to ば 明 3 0 3

一落くる

わざなるべ

深山より落くる水の色みえて秋は限りと思ひしりわる

うの事は宣 世の中に絶て櫻のなかりせは春の心はのとけからまし 心 古今抄に月にかぎらず不い可い詠とあ 得しらの事也思案榮雅 ふまじきと思ふ事いか程 の古今抄をみ もありそれは b るに 13 か

かっ な

40 3

そ鰤た には 此 そあるらめ是も延慮といふ事よりおこりたる事なる 事ときくと兩説 をば少しもあらためなくそのとをりに宣ふ事にてこ のなかりせばとい ふ事にてなきを雨 絕てのて文字を濁りて不斷の心に云説と清て絕果 ふ事ならば 可い有事とはおもはれず世の中にふだん櫻の つべし櫻の あるならばなど、いふやうの績にてこ ありと宣ひし事祭雅の御講釋とい ふ事我等ごときの 説と宣ふはその注につきてあ なかりせばとあ 3 か ものさへ聞まよ らは 絕果 る事 て櫻 Ł

て道を行事なるに偽 0 とあり是も もんと云はこの頃 門さし 8 いつは b 天子の御心 偽りなどい 門さ 遠所 御歌 しては閉門なりよむまじと云、 詞 合の御判に戀の歌などにはた 世に對しての ある世 ふはくる 也然 などくはこのまざる事 ればちかき人の云出し L か 御詞なるべ らず人は誠 L を以

本

集

第

原と云詞 たより難ず判には草の原艶 72 るにその 首の内の詞を呼出して勝負をいふ判の詞の例也然 草のは る事なるべ 0) 5 艶なると云にはあらず歌の艶なると云を し例 番の歌合 0 たゑ 左の なりとて勝 h b 方の よ也 歌 に定む是草の によむ右 0) かっ

ば住 見の人の仕出したる事にやたとへば鶯は櫻をねぐ を證 利口をいひたるを心を付 と心得べし物じて此制といひ讀べからずと何や角 六百番 ば源氏狹衣の此歌を俊成卿も丁簡なされたる しき詞なれば讀べからずと云俊成 かやうに源氏狹衣に讀て墓の事に用たればい 1 尋ねへき草の原 浮身世にやかて消なは尋ても草の原をは間はしとそ思ふ いかなれば花に木つたふ鶯のさくらなわきてれくらとは さだめ 吉 1 0) 玉津島の御詫宣のやうに信仰する事 たて、あまたの歌に心をくばらざるは 2 判をもどくやうなる もの也心得てよむべ さへ霜かくれい誰に問はまし道芝の露 てみるに を云は能 し證歌 定家 3 な の宣 源氏 K 首二 の僻 岩 か ひ 小智 首の と思 言 やうに ま ( 菜 1

此歌證歌なりといふ又しのずくきといふは穂に出

Da

なけ 3 此 本に出し古今には落歌とて末に此 てしのすくきとい 歌證 8 わきも子に逢坂山のしのすいき穂には出すも戀渡るかな \$2 と思ふ也驚の花の 歌也と有我等ごときの 源氏の歌を證とするゆ 3. 忍、 3: ふ證歌古今集第 すくきとい ねぐらの 者 3 歌 ~ は ~ いか程 十 すぐに 歌 きをぶ 扨はそうこそあ を書 戀部 とい 源氏 0 字 0 2 \* 0 歌を 數 歌板 略 3 3

事 地歌の花のねぐらをば見ざりしにや又しのすくきの此歌の花のねぐらをば見ざりしにや又しのすくきのからしゃ花のねくらに木傳びて谷のふる葉なとへる驚

以て解言

をた

いす初音の

卷に

り尤穂 L と云解言 玉の z いたつまうら若かりししめし野にしの、小薄穂に出 すいきといひて穂に出るとよめ 小 いふやうに 柳 出 也定家卿 92 と讀 玉の 岡のしのすいき穂に出て誰をまれく成 間の 松江 たる歌 歌 とい 12 12 ば忌 3 50 は命 南 かん 詞 なる程 0 12 事也その あ る歌 h に讀 1, E かっ べからず 52 にけ 0 程 ij をや B あ

堀川右大臣

歌などは當時に相應せず短冊

色紙

扇

子等に

B

普

4

紅葉しにきや

此里のむかひの村の垣れより夕日なそむる玉のなやなき

やあ 3 言い 詞 E いるてゆ らんと思は あら しその時にのぞみてその所 など、計讀べ 音と計よ りと云たとへばこれ b を昔は僉議 ふ事にい なれ 值 闘越る人にとは 0 明ぞし へりみる雲井の妻は籠るともやかは うつずし ひの ちき S かっ なる たむるは我が利 事に は記 3 か む 鼻のさきのう む 木 D なきうき身な 7 るは り思案延慮とい なりて歌 13 ば後は蟲鳥の 3 まじと云 (t) おほまか し物 L Ш い事古 3 5 Ŋ, 落和 僻 الأر b やみちのくのあたちのまゆ いも祭の ナこ おもふ 合句尺をあっ なるべ 時 12 の道の にて心付 ~ 0) 口 どの ごめ るべ なる 雨し 消 6 なく Ł ると 3 此 し家 20) L きし 日ら 2 嗣 Ł 5 O 副 非 では 絶すべ 3 ٤ かやうに 上古 10 ざりし やしか Ł 1, 說 席 Si 3 3 T 颜 h とい より よか 此 卿 15 す) よ / 1 1 も 3. つきさぞ自 き事 此 2 を今こく L む 3 七 ん武蔵の のぞんで有 るまじ か紅葉しにき 0) C) 延 ふ本 芸田 多 18 木 からい 1 1 かっ な とる 計 虚 は きに 5 3 1 L PIL 12 から たる 公司 13 iji, 1) ず 詞 1. 22 慢 から 來 は とい やは としい ラス 木 17'i 付 た 10 h L な ٤ 人 13 胖 2 3

親長歌 延慮す ~ 沙彌 やうに讀 ~ からず又文明五年 按察 使

その 枕詞 合ず難を得 一條禪 野に 長閑にそまつ霞ける武藏のや限りもしらめ御代の初春 時世 なるやうに 御代 その所その席 0 12 0 判 は b 宁 て題野外霞 つ春をいはふもと云りそ むさし 此 御 とい 代 野は限りもしらぬとい 1 の心はつぎに ふ事 は 頂 僻 上に出 言 あ 合た なれ 0 b 時 然 世 りむさ ふ詞 n 1= 出 0

あ

3

き詞 72 によ 新古今時 の歌の詞 茂 し是も三代集後拾遺 て新古今集の歌にてい 腫 3 ども あ 0) カジ る詞 申今 也 D \a 此 老衰氣 を 害出 とも 制 の人 きと制 va. 詞 根 あ 0 詞 くなって は 出 に付 歌 て天下 とい 3 する詞 詞 るべき事どもを覺え書に 12 の歌には びれ とい T 7 E 2 事 新古今に入たる歌を以 ふ事心制 好 僻 は 5 言と み不と可と讀 7 目見えかね くばくと 10 7 か 5 お h 制 はず千載集 B なく の詞 0 詞 Š いふ敷かぎり 命 制 とて とい غ (ش) する 3 义 明 は (t) 四十餘首 ふより外 よりは づ 40 目 3 らし 一て定 大方 ī Ł 置 な 詞

> には 事な ときの無智短 72 りが E よりとなりて調 0 な 72 n かる 才の ば よ ~ 人の L き事 何 師 方 ક に なる書な つもあるまじけ らぬ たよりて此 茂妥が 3 しら 道を明らめん ども我ご á 事 を書

格に な 問云俊成定家為家 給ひし事を自作 せ ょ なる詞をよむまじきと制 きにてきらは 0 あ るべけれ らん詞に にくしとい 答に云三代宗 る事 愚問賢注 や又ぬ 3 る詞又長 るを云 程 なして め もあ しあ てこそあら にや順徳院 づらしげ ? 度聞 るべ は は きらら 二條關 る詞と云は三代集になき詞 n 拾つべき事にやい n 72 よ した は たらんは一首 ゆへ思問 匠後成定家為 の當座 るも h か なくな 事は んずれ 白普 詞 らざるなど申 御 ある 0) の判に 光院 製 るべ し給 善惡は作者 と云頓阿 い 又能 べけ 0 かやうに からいろ 2 のうちに しとてとい 良基公の て此 後學末生 \$2 かっ をきたら の答 ととと は 57 **い治定す** 詞 0 南 \$1 \$2 骨法 作 し事 るべ たら わ 此 を賢注 お 0 歌に 0 は 3 也 め h 珍敷詠 詢 きょう < 頓 ん詞 人この くは優美 き頓 は ては しと宣 to お 回 0) きた 72 よく わ 出 る 永

甲 襲かれば山の姿も埋れて雪のなかばに かし る自雲

本 集 第 S

のみ

なけれ

ば

此一窓ばか

りにて最早取あ

0

むる

涼しさに秋風ちかく成にけり又立かへる衣手 櫻花咲める時はかつらきの山のすかたにかっ h 秀歌 の云山 と皆人 0 3 10 かず ~ 72 b 建 と書 保 0 其 tij 家 末 3 0 白 1-隆 基 0 家 歌 0 1= 歌 1-

問賢 是を近 と調 耳なれ 付 き也 御抄第六 方 やますことく 12 此 たこ 歌に 3 は h て也 É ひきの る事を に露の 注 い Ł 12 け 2 定定家 今の 此 b 大納言 ~ かっ 0 E き程 卷 訓 0) Ł わ 江の声の を家隆 歌 0 336 35 歌 3 難 かっ 也 0 思 事 すこ h L カコ 爲家卿 0) C か ない 案此 と宣 ij 無 き人 歌 1= から よひくに秋風ち とり め F は 讀 かっ 37 から たり 夘 1-なし 0 0 露 n にて 雅 n 建 あ U 新 3 3 歌 L 經 曆 0) 12 たり 72 દુ B 7 南 勅 3 カコ n 3 0 0) を同 きよ なく ر. درا 詩 詞 撰 なきに h 1 L 3 Ĺ V 3 歌 雅 3 V2 嗣 h かく行ほたるか 0 頓 合 は 經經 後 0 詢 すみとる事 中 有 T F 河 ナご 代 12 3 年 0) カジ 聖 品品 家をうら 5 の答なり とや なく ば本 有 1 思 七 嵐と讀 U 出 13 13 道 かっ 家 得 1 カジ 1 カジ 音 12 助 5 0) 1 歌 h -雅 古 b づ る 親 Ł to 13 是迄 雪の詞也 3 は 經 る n 7) Ŧ. 0 は か 詞 出 2 八 か た 0 0 似 松 思 南 3 3 歌 h 0)

> しら 永代迄 る事 を解 を以 [in] < 3 カコ にその め あ 8 3 1 3 0) 其 3 no] 0 松やます やう しら n 詞 É 制 水 言 通 P は 8 後人 12 す n 12 普 j 3 云 一字三字 b よむ い 4 な L H 光 12 12 此 院 す る事 1 3 あ まじき詞 12 Ł 0 まじ 12 T 4 ると申 3 n h ると 5 北 F を申 事 を きよ L あ 3 1 6 思召 3 かっ B 5 T い 心 詞 是 5 事 h 得 ひ出 もとり読 との答は 3 俠 n は 0 也 は と前 る 1 12 0 0 V2 思 右 やと 1 Z 1 3 a) 惡 L 1 問 部 書 を 30 T 0) W 3 きより 12 語さ 賢注 付置 據 3 な 御 Ill 詞 有 3 4 を慥 10 詞 は 冰 Ł 0) 家 は 然れ 1-\$2 候 すが 4 宁 5 出 T 見ぐ E 0 本歌 定 3 後 12 Ł 給 Da 82 12 は H 3 L 3 10 L 3 3 0) ナこ 8) を家隆 113 R 答 41 迄 是 とり 33 也 あ か 非公 illi 30 秋 3 t 13 3 0) 3 風 [311] 部 思 h 10 j 35 30 た か 1 0 E 7) 82 定 かっ 3

此 身かは 何をとり 我 たにい T 2 俊 とふいとへた 成 句を取 卿 0) して たる手本也萬葉集笠 かたに同 し心

と思は

答

頓

[41]

0

云

古

宁

集

0)

歌

あ 1-

かてこそ思は中

11

しなれなめそ

なたに後

の忘

12

形

ち

かっ

3

世

0

人

0

讀

H

T

諸人

8

づ

ら敷と

b

は

p

歌

みちのくのまのしかや原遠けれと面影にしてみゆと云物を

此

何を取

ま < 好 染たる小袖 じき事 なれ 1= 築これ 紋なりそれが うにい よりこそもとづきて心をた をとり てと讀 13 み出 本事 ねて付て著し 後のと讀る古今の よしさらは散まてはみし山櫻花のさかりを面影にして ある詞を讀 ばぬ は 也 3 也 にて前 して付給ふび そん 12 ばその人の歌を真似た 12 L 詞 に常あ あ 0) 1" 見立 沂 る詞 主 0 うら山しさにこそ付つらめ たるといは をとるべ じやうそれ たら てい 世 主 は笠女郎 る紋 0 とてその あ ふぞとほ る は 人 ひ 歌 ばめづらしき事はさしをきて ると云詞 人是 の珍 の作者 の外 おきた しと良基公 10 今程 カジ い何と答べきや皆古 なるに後成 に珍敷 好 敷 人壹人に定る事は くみ詞をまうけてよ むるをきく は み出 今までなき紋なるをよ 風 4 る事を手本とし は此詞 0) ひ出 流 るやうにて見苦 事を考み なる へ頓 して紋所に付 物ずきなる紋所 0) 12 為家は何 主也 てその 人 [In] る事を同 の と批 n 0) 面 地 ばそをだ 紋所を 難は てそれ 人の とて なり あ 影 色よく 敷と じや 色 12 るま 事 3 18 82 愚

心にか 紋所 える 九 右 n は 五. と讀 松やまず事 る詞讀まじき事と云出し 也有家家隆雅經同 とり出して俊成卿 1 の物ずきの能 まじき詞 ふともよろ 御年九 しそのごとく三代 ば讀まじきと思 2 1= ゆへ山 人 せたた は新 も書付 なるべ 0 のうち るは その 中よ くりてもとよまれ なり 0 るを後の 古今の 前 姿の なれ 頃 り右 也順 L しきとは Ę 12 0) と覺 紋所 3 所 扨 の 人の 德院 0 歌にて少前後 とをり 御歌を ば年こそ御をとり 時 歌讀 器量に 紋所 人 ひ此 0 のそをだに同じかたみとお 世 じ時代にて三人ともに新古今撰者 誰 沂 此 12 は 集の中よりそをだに カコ もし 歌 人 制の 新古今撰ぜられ とへのごとし又珍敷なり をえら 給 世 詞 5 は たる F 7 b દ か たる事 V المالا は をきそ 詞 詞 年 近 いと定家の T 5 雅 ふまじけれ 物なるべ 0) 世 0) n 物すきに 3 月 ふわきま 歌も É を八 經 の人 しあ 82 ナご 候 1 0 れを寫し 、雲の は も讀 て付 あ 3 あり是を以 1 し有家 誰 詞 宣 て又 同 6 ば 引の なく 御 Ĥ 2 元人 12 T k と云は C なる 珍敷 らん こて人 5 は 抄 時 た もは やまず ふ詞 づ \$2 3 代 ば讀 也そ は 末 詞 T --年に 12 か か K B 考 る 0) あ る h 3 0)

梨本集第二

也定家卿 給 à. il 12 0) 1 には あらず天下はれ ての 評 判

にあ 禄十 け 事ぞや帝 ほく 8 ろく さりとてはく つく るゆ 者をまよはせうたがはせずして正道 なるにまか きや是に付ては物が 山やまずの ざしをよする時 日本經證 あしほ山 3) 圓 世に行 なり は る事もしらず J: れば尤事也 寅年迄四 略 せみ 道 都 T 3 1 やます心はつくははのそかひにたにもみらくなき頃 0) 治り 詞 讀 せて武家町人 il 御 か 12 12 今御 す ば延喜天暦の御代たるべし心のし おきての h 同 べき事なく 帝都 百九十餘歲の末迄讀まじきとい 後鳥羽院御宇元曆元甲 じ事 日にまし月にそひて僻言 は今此時とおもふにさ 心得がたき事なり今此御 なれば僻 あ 師 3 範 も後土御門後柏原院の御宇の たりあれどもなが 也定家卿をも歌ぬすみとい 詞 なきは御あら とい 一百姓出 の事 なるやうなるは 言を削拾て道にこくろ ふ歌 近 家之歌 人の 世 とい 公家 ためなされ に引入歌の道 やうの 年より今年元 2 の道にこくろ 1 多人 衆 12 何とし 代のやうに スない しき事 3 延 か わ 、心を ざす n 慮 V づか 2 3 3 72 わ 3 か 70 ひ 時 事 か

# 梨本集第三之上

律は小股か垣にも色はへて光ことなる夕 色はへて、六百番の歌 合に en

の花

11

家

3

源俊賴 られ き歌に B とは思は と云俊成の判の詞に垣ねの色は ても心の行 1= 1 色はへての 歌をば右之方よりの らざると聞えたりさればとて讀まじさと制 雨首なが 20 心の行てかさなるをなどよむ事はめ 霜ふれば若紫の色はへて嫩は老せの花にそ有け うふも聞る事なりそれがよろしきとて かっ し事まつたく制せさせ給ふにはあら ひて の物い あしくついけ、 れず愚案八雲の ら判に色は 8 調 てかさなるをと誰も誰も讀事 ひか 不二無幾一とあ もの はせ秋の 難 へての詞 ひかはせと蔵、雲復雪霜 āij に垣 もあ 御抄に讃べか 校の ね 12 は 0) 不二無幾 く聞え耳 此 へては 色はへ 月 詞俊成 と蔵、 - とあ 6 てとは 10 ずと なれ 叉 ならば ずたとへば 卵 か 草木 すべ は 10 b 梅 冰 11: 3 有 てよう 首) 少. 鳥 き調 7) > カジ か 家 15 07

き事ともおもはれず有家も顯昭も六條家歌の棟梁な るゆへ六百番の判に六條家の歌を云けさんとて僻言 わけもなくこの詞讀まじきとさし出 しとて三代宗匠の制せられし詞 心にて優美 ばしたる事 聞 なる詞 な り頓阿の良基公への答も此八雲と同 らずさるゆへに常に讀べからずとあそ をむ たと讀な ば詞 おほかるべしと也比 L B たる事 あ しく 聞 あ 3 え

いきうし

多し 五色は一 \被\仰を末の人の制する僻言たるべしたとへば五味 詞 あるべ きは心黑きは腎酸きは肝甘きは脾と五味五色ともに 卿の赤き色をきらはれた **徳院の思召たる** れにより甘味をきらひて辛きものをすき赤き色をき いとしもなしとあそばしたればにくふ いはまほしき ひて後代のいまし 天地 きい き事なりた ありて奸惡 ろを好 共にはじまりて人間の身にもそな なるべし然ども讀まじき事とも不 で事 せまほしき は とへば俊成 あるまじき事 E め る程 あれ せ んとい に誰人も用ゆべ ば詞にもすききらひ 八雲御抄にかやうの 甘物をきらはれ なれ ふも同 ども人々 り成詞 U か 歌 らず へ 赤 と順 0 0 生 は 風

> 體詞 n 3 りて歌の正 n 侍るも、 たる人に尋うたがひはらさん為也 ~に付て心中の不審を書付此道よく知 のつい このみちをよくも太らざるゆ 上儀正道 きもみなその は脇になりたる事のやうにおもは 身のすききらひ の善悪 よく心 と存 せら な

みし Ł らずとあり **玄ろめ其外あまた名殘** 此歌は源の實といふ人の歌也左近衞少將 をいきうしとつ なれば好みこのまぬ なづむ行まよふすぎ行が もうしとい のごとくいはる うしと讀ぬやうに心づく物なるべし此詞 ども此詞 湯あみせんとて下りけるに藤原兼茂大 人やりの道ならなくに大方はいきうしといひていさかへりなん に好み讀 時に讀る歌 ふ詞 は餘 制となけ べからずとあれば何とぞ詞を の詞 もあまねく色々につか 也榮雅古今 10 /事さら / け TZ 0 n とは違ひ行苦しき時 ば讀 わけはあるまじきにやそれ 3 お たきなどいへば行うし カジ しみ山 わ てもくるしか 抄にいきうし好み讀 心得 るきとは 崎迄送 くし行とい 心得に ふ詞 り別を 江 12 かっ らずと などを につかう詞 玉淵 7 か ふ詞 な が娘 か べか

きと 05 2 0 ~ 事 旧 カコ 定家 卿 0 歌 Ē 1-は 7 きうし 03 ふを あ

中に 12 春の < 心からいきうしとい B タ幕 秀歌 春 0 夕幕 是は きて ひてか り定家卿 何 2 W 12 へ讀まじきと制 へるとも諌めの闘 ば と讀 0 歌 3 は 能 ないてそわつら 因 寸 法 るぞや 師 0 心得 歌

あま たつらに花 はすは た讀 櫻な雲と眺めつる都に霞む春の夕暮 しらてや 72 る歌 P 散るらん高 過ん山 あ n ば讀まじとは 櫻 水のもとたとる春 圓 0 尾上の宮の春 3 か 0 0 夕暮 勺 ル六百番 入道前太政 歌 大臣 有 行 合 光

考 陰 此 5 -2 氣 陽 2 判 さ命思ひは夜牛につくし果めゆふ とは を賞 氣 制 0 は 13 と云 秋 0 3 0 る節 騽 あ 9 C op 12 T 秋 V (3) 曙 る 云 夕 曙 ぼ 0 夕暮 事 幕 夕暮 W は 0 珍 13 は る 敷 は め 日 づら 夜 常 時 0) 候 節 秋 陽 得 0 氣 は ども 陰 0) へもまたし秋の E-X 瞎 氣 7 0 5 は S 勝 毎 0 ずと有 h 讀 發 こと也 日 C 2 a) 3 百 め 3 礼 は 3 也 明 事 を 常 節 秋 春 此 12 扣 わ W は は 珍 0 3 敷 月 人 此 年 年 E 0

夏

4

暮

冬の

C

31

小原

夕

非

H

J)

4

11/5

0)

霜 院 仓 氣 霞 を能 曙 節 ば 8 3 愚案定家卿 L 1-打羽 夏 5 樹 黨 た 外山 さりともと待こし物をあら玉の より 0 露はらか風を凉しきむ 夏 ٤ は 日まて霞 0 閣 0 風 林 16 0) うち 13 دي より ふき髪に行空の か な 夕暮 E 111-Sec. 新 3 0 心 2 1 むら b 夕 得 夕 間 di. なども n 15 光に し物 ~ 花 冬の T 佛 ~ は 秋 0) 0 制 雲なひき吹風 心 b 0 + 祭 0) L 第 生 0) 0 を津の かるふ赤星の 41 夕暮 2 閉 色 唇 煙 歌 j 莊 色を見 3 雨 村からす n 75 嚴 Ш 0 0) は な 盛 0 ふちさく き調 は曉 をし 冬 3 0 衰 ]1] 反 3 D t h 73 詞 草 Ŋ 情 美能 は 0 む あ あら 13 船 波 木 か 11) 外 ٤ にない 理 は へに h b 0 もは 年 0 外 1 を 江 風 3 ば 1 10 0 3 7 0) かり 12 たりの夏の おはれ なし an] きょうら 観ず 新 30 3 弘 世 0) B 12 横 0 12 たる きる 陰 猾も 2 1 間 1 え ひ出 うそぶ 0 すぐ t まに 盛衰 34 ざる 3 0 然 12 夏の 冬の 0 は夏の 冬の れ 3. 0) 7 心 3 折 冬の ま) (i) 4 夕くれ 3 明 17 きり 压 118 70 0 iii 6 3 3 月 ~ 17 Ŋ 夏 とまる かっ 節 作 1-な 0 32 1-あ 好 ~ 6 0) 品 時 秘 光 0 0) \$2 景 19 L O) 節 b 聖 す 階冬の Lo U) illi はに 後京極 II'g かっ 間 照 b 家隆 Wi. 此 あ

堪能 ゆへ古歌の といひたるまでにてはせまき胸 ばとて左樣の詞はいかいといはるくあした夕べ 朝ひこ夕ひこなどよまんかといへば萬葉 夜繁雅の古今抄に今は詠ずべからずとあり是非 40 なりと云この斷をそむきてよみたらは法を玄らの へば朝あ の明ばの袖 はるべ の器量なくてはさし出たる詞 なども讃まじといへりさらばいか けの詞は僻案集 しさら 詞をひろひてそれにて五 の夕暮などやうにもいふべきやと尋 ばあさあけ に讀べからずと 夕附 よりは能 をとも は延慮するならひ 七の句をつくり b 集に讀 事 は 制せり いいは んと も出 朝夕 たれれ 夕附 ござる なく お n ん夢 Ł も

à

はよむ なるべ 一春されば べか らずと有是は秋さればとよむなといふ事 榮雅 の古今抄に春されば夕さればの外 心をう

しな

h

らざれば心のすくみもなくうむ氣出きて此道に

卿の制せられし詞とあれば

一首の歌のぬしにさへな

趣く

たて、みすれ

ば是は俊成

卿

のきらはれ

i

詞是は

定家

葉づたひ 花 より 月 此 詞 恐 讀 案是は物にく べからずとい らべ 本事 7 心 得 3. 5 \$2 睛 のよ す

> 心 きら を 月よりもといへばことはりたしかに聞ゆるとい りなるべしたとへば色のうつくし物を花にくらべ の べか か様に書出 時花より月よりといひては詞少たらず花 かなる物を月にくらべて月花に らず したるものなるべ しこれも もまさる 偏には より Š 事 2

事なり軍書の数などにもかやうなるおし そのわけ ども彼姉小路殿秘傳大事の手爾葉の書といふごとく 有、是がくらべより也、寄依自從の文字の事 有、ならでと云より有、にてと云より有、たとへのより り此よりといふ詞も手爾葉のより有、 ふ心 聞うる事のなりかぬるゆへばかりといふ詞を程 曉をはかり合せたる心なれども初心なる人 るなりそれゆへばかりの詞も量の字を用 といふ歌のわかれよりは別と聴とをくらべ と心得て人數をのぼせて備 ば川 有明のつれなくみえし別より曉はかりうき物はなし に聞をゆるすとい 12 性を以 ちて後に名を付 てその ふ事榮雅の古今抄に ıЦ 0) 嶮 7 をたてんに肝 難 いふ事にて役にた 12 て何 方 からと云より 要 7 あは あ もみえた にとくと 平 などい 0) わ h とい たと n せ な ٤ 12 3 n

のや お É 嶮 難 30 2 知 事 T 後 担 III 0 性 を定 め 细 3 4 な 12 何

名を や歌を讀 付て人 たりに 小 なら お L W 3 1 は 72 より 1= È なるべ 3

まだと云ては 月 より 同前たるべ 月まだ 聞 (" 3 是も花 きとの事 はまだとい なる ~ 2 しまへ ~ L 月 0 なだ花 花 よ

#### 一ほがらく

今はつ L なしつか 也 しめのほからくしと明 かい 古今抄に は 詞 ひやうにてよく 92 . [-詞 今は 13 3 萬葉古 19 讀 へ榮雅 行はなのか衣々なるそかなしき Ł かっ 今の らずとい (J) 0) しくも 比までを云 今は讀 な b べか ると 12 詞 に善 らずと宣 3 は 詞 と 恶 なり は

須郡 Ħ. 我 詞をつ ちふ、べ 0 九 は ית 詞 庄 生 H に生 を開 東 國 暖 り是みな萬葉の歌に Ill い、まうさ、さ、しきに、せなら、 馴 32 įuj 0 幼 府 たこ 西 少 るに、 黑 1 0) RK 0 11.5 御 t なでうことなき、 城 3 b -f-0) 所 丸に 細 よみたる詞 1= **久**敷 a) て寛永 b てド 住 居 野· ほ 己 已年 やう 國 T T 0 伊 7 ili 那

> 々と書 やう 勢物 勘に萬葉に見えずと書給 詞 人 3 にて 专 な け 0 i) 話 ては 今つ 詞 3 tu 源 とき IC 南 かぎ 3 かっ 物 その 今江 3 は THE くと讀と云人 n か h to 時 戶 3 は讃 1= 世 ã) T 12 3 をか つか 詞 ~3 か 0 な げ 5 か は te T あ ず ふ詞 D ば 萬を ٤ 礼 調 い ريخ ك 0 7: 13 3, 知 4 12 3 定家 なる 11 DI E. 聞 集 pi [ i, 1

> > かの

やうの 111 は手 さと讀、よしの、與へと讀、ふるさとへ 12 北 3 づこへこえん 心にかなふやうい i 北へ どもねが ~ よむまじきにや詞の h といる などいふへの字は 2 爾 行鴈そなくなるつれてこし 楽の 事 たらば手爾葉あはずと難せ 15 文字 ふべき事に 行、いづくもこえん、吉 ふべき心趣向 への字を嫌 などいひ又よしの な 3 0 か 事は 2 から 3. 3. / るく 近 やうも 0) 数はたらてそ歸 その詞 ずと な 手 5 145 3 b づ 東 1 a) 15 5 5 るべ 30 お 其 野 かっ ならでもその ~ かっ 3 ť, 嫌 < b < わ 0 など 然れ 奥 スス け ろへら 113 3. や入 し名人 北 02 in 5 ば 道) 5 h O 都 注 < fiil 3. 1-60 21 15

あしのわけにもさのみならざる詞に讀べからずと制いひかなゆる事はなりがたかるべし然れば歌のよしの歌讀はいひつけたる手爾葉を不用して別の事にての歌讀はいひつけたる手爾葉を不用して別の事にては北へ行ともいはずいづこへともいはずその事をよ

iiでからずと云なるべし風をいたみ、とまをあらみ、ども今はこのまぬやうにいへりそのみ文字迄あればしみ、おぼつかなみのけふのながめや、など、讀たれしみ、おぼつかなみのけふのながめや、など、讀たれしみ、おぼつかなみのけるの字をつかひたると聞えたりとかるべと上古はみの字をつかひたると聞えたりとかるなどいふは邪道の關なるべし

#### 一とよみ

などは各別の事験

本事なりと有めくない。と讃り榮雅古今抄に歌合などにて讃は笑なく鹿に」と讃り榮雅古今抄に歌合などにて讃は笑なく鹿に」と讃り榮雅古今抄に歌合などにて讃は笑なく鹿にうらひれおれば足引の山下とよめ鹿の鳴らん

夜もすから行ちかひてやすみぬらん心はそらに月は心に一ちがふ 永萬二年中宮亮重家の歌合顯昭の歌

有、愚案永萬歌合重家歌それをもしらずやかやうに申すにやあやしく侍ると侍るもし此比の歌のをかしき事となれるにやあらん俊成の判に云此度の歌におほくちがふと云詞のみえ

できょいまにちかはて時鳥雪し裾野に待へかりけり 後悪法師で、そは出ちかふなれ時鳥雪し裾野に待へかりけり 後悪法師などいふにやそれもすくなしかはるといふ詞にて大などいふにやそれもすくなしかはるといふ詞にて大などいふにやそれもすくなしかはるといふ詞にて大などいふにやそれもすくなしかはるといふ詞にて大いざもよむ程の歌みな難せられしは後成の六條家を入るとさん為也

にやしかと心得ず一をして 是は梓弓をして春雨などいふをしての事

思ひもよらぬ思ひもかけぬといふ詞を略してわれと人との中におもひおもはぬといふ事の外には家卿のかく宣ひし歌をしらざれば何とも心得にくしかようの詞いつより讀侍る事にかとありといへり定一おもはぬ 定家卿の云おもはぬ中などにはあらで

基俊

聲のきかまほしさに時鳥思はの山に旅れなそする

0) かっ 歌にも やうに讀る 吹はよそになるみのかた思ひ思は的波に鳴手鳥かな よせて讀る歌多し又後撰集に t, 3 お 111 かけてすむ もはね 30 \$ 中、思はぬ方、と戀の歌に煙 あま人は思ばぬ波に又かくるらん ね の 調 事にや三 一代集伊 源 や月や 物語 秀能 家隆

はぬ まじきにや此 波になく千鳥、と讀るも同じ事なれば此思は ع ふ事ならば定家卿のいつより讀侍る事にやとは宣ふ けけ しもあれ花の盛につらければ思ばの山に入やしなまし ふに聞えたり然れ 山といへるは思ひもか \$2 ばと 外には思ひよらず 礼 ば思ふ人の心なるべけれ ば思はぬ けね 山に旅寢し、思はぬ 山、思ひもよらぬ山、 知とい ども思 朝忠

づきの 4 地こそすれ 5 0 歌の の詞 30 ふとは もほゆる 調 終 な りの 也 b またすこしかはり 3 は、中々興 かな O) 何に如此し此詞などはほがらくなど にぞありける、伦しかりけるなど同 ほの 八雲御抄におもほゆるかな、 3 じたる方もあるべしと有、上古 カコ な、心地こそすれは、詞 たりほが らくしとい ふは 0 心 0

一おもへば水前の詞也

我にかり物思ふ人は父もあらしと思へは水の底にも有かな一おもへば水の

是は なら 見ゆ 伊勢物語 3 を書付 伊勢物語 んかそれとても へ伊勢物語 12 0) る物 歌也野老元來歌の道不案内その 講釋 な るべ の時か様の詞今讀べからずと云た 此 此 iii 續 in ( おほくはあるまじ察するに たる歌をみず定 illi f: 上に智少 1) 3 215

ををの に月花に對してをの ふ事也鳥獣草木などに對し る物なるべし歌にては 12 をのが あらず今の公家衆も讀せらる、詞 カジ といふい 是者詞 とをし を嫌ふには カジ とい 月花 やと を第 る事は てをの 判 南 に賞統 らず住 215 3 かとい なり 懐の え 吉歌合 te hi 寸 3 る る事 を書 714 15 嫌 1) ٤, 月花 かる 付 21 10

とは 5 も文字入ゆへ詞のびらか いひ語、つまりて聞ゆ をのづから お 讀 り口傳を聞ざるゆへにその もひせで べか らずとい 心得なくては讀 音もせでお ぶ類 るか に開 なるべ 1 ひに 10 き煎 わけ 胆 1 かっ 3 ひせでとい らず口 をし W 3 らず朝 など讀るは 傳 あ へは詞 1) h け

一わりなき

**榮雅古今抄にわりなきの詞今は讀べからずとありる必なそわりなき物と思ひぬるみる物からや戀しかるへき** 

ひ出 説に 思は ぼし をつくらんや零廢 ず理非賞罰混亂 にやと迷 詞なり、 むかしより制しきたれ のやうにいふ人もあれども今の公家衆の御添 るへ事なれ なりとい ふ事ありとぞし して なるゆ れ侍る書付に其通りになさるれば僻言が正 めす事もその と御脇付ケあれば何事も御改 なく僻言とお 一人事 り歌もかくのごとくそでもなき事どもい 嫌 ば榮雅の僻言おほせられ後人の S へ是はうたがはしき事是は 必定なりある人の云善惡邪正も Z き詞なくなりなば何を以てか卅 ~: かる時は す き詞 の下地 れば 通りに御書付候その り、好み讃べからず、延慮する にあらず 賢人國を去佞人執 國の掟やぶれ國 なげきても猶歎 はづの事 南 の亡ぶる所 るまじき

レ權とかい

わ

から

事

儀正 かと

か はす 順德院御百首 1=

かしき事

字

也

歌に 有是を見て讀まじきと書出たる物なるべ 此御歌を定家卿の云かはすの詞於; 愚意 かはすの詞とがめなく歌宜とて勝なり大納言爲家 秋風や干種なからに聞れけん花咲かはすみやぎの みし秋をなに、殘さん草の原ひとつにかはす野への氣色を 可 原 存 0

後水

尾

帝 L て櫻

御

製に

も今の公家衆

も延慮

なくよませら

用ひぬ事

手枕にむすふすしきの

初尾花かはす袖さへ露けかりけり

削

12

b

なるべ

わりなきの詞榮雅より後の人の歌にも多し

に絶え に宣た 0

0

なか

h

せばの歌

0)

事を書た

3

と同

事

7)

け

心得に

るはまへ延慮の詞のうち落くるといふ詞

くし源氏物語に多き詞なり榮雅

0

か様

の所 じ

此歌の 惡の差別なくそのとをり書付寫して世に えに書付置た らずといふ事吟味して書事ならばさら b より猶今ほど讀まじき詞 集より始ていか程 と宣ひしよりい 人丸の歌也此歌に付て定家卿の「 to き事なり是を たるをみるに伊勢物語のおもへば水の底の詞 Ó かりのおほひ羽 のと あま飛やかりの翅のおほび羽のいつこもりてか霜の置らん おほひ羽、おも か かか もは h Ó おも るれば僻 る事どもを何の吟味せんさくもなく善 ぶ ほ か りそも ひ羽を書入たり人丸 ば人の歌物語 へば水の底の 歌書出して讀べ あらん上代の歌にはか様 言ともあやまりともとり あまた 〈此讀まじき詞 あ を聞 るに此歌 てその 0 ひろめ ずや侍らん 歌 あるまじ 時 首の は萬 人九 と書出 心心覺 詞 12 か か 0

梨

は左様の 讀 ばそのもとめ残 き事 歌を詠ずべきぞや 詞 大 しく て、などやうの 3 3 0 T るき歌にいひ蓋 ~ 概 何 茂きよ、 n 事 0) 歌 玉くしげあけて は し我等ごときの者 うち讀まじきとい 事をもい きてあるとあ のよしいへ なしとも 是に 面白 1 詞 0) 事は き事 々思紀 は n 波 なづ 如此 ふる 心 0) C あ よまね 1-よる 事 きを以 み此 出 b は たる b して我讀出 しをもとめ は は る程 新敷 T 0 T 新 n 書 あ 3.7 弘 弘 ふたい 34 ず人もまたの 道 此 古今時代の 付 らざら を んと の新 0 道 也 の事をばもとめ得 ふ詞是程多くては 心をもとむるとい て先とせよとあ てあることをみやぶりて 零廢せん事をなげ 制 せ をまな 袖 45 U. かる せら 8 敷珍敷心をよみ出 h L ひ おも h つら とお た ては珍敷詞 とは今世 から衣た るれ へば堪 1 3 上手たち ば るさず 所は 和 h E 瀧 ば吳 cz てみ ^ 心 0 能 0 るその ど我等でと つ日 糸 名人 然れ 挑 て讀 色な 0 12 竹のうきふ 2 何 せまく にても を以 ž < 能 か 事 すとい 3 か ば 的 3 ならで 0) 12 13 3. なれ د دی 今迄 人 心 て敷 詠 < 智 3 人 3 な か Ž, ね 絕 72 多 12 12

> 侍ら を好まぬといふ事 是もその一 敷事には悲し 剕 10 よもすが 3. 詞 かっ 事に なし んとあ 1= 未 は 線 かっ 6 首に付 あら り是もその 0 b 歌讀 きと識に け 新 E h 10 ての 熊 [[11] はあ 野 佛 省 嬉 歌 判 何 0 L 省に 抄 らじ 0) 合 0 好 カコ 詞 俊 < 3 b るし 付て なる 成 嬉 記 け 判 1 b 6 3 1 0 为 ~ 1 मुह 哥萨 事 まり 六百 不」可:庶幾 終夜 あら 也讀 は な 晋 る んと きょじ 嬉 0 歌 215 ふ詞 合 Ł 6 캢 9 0

しらず 一向に可い除詞といへりそのわけ

申ニーニ

等を 0) 卿 歌萬葉集を歌の竈として詩などに 0 榮雅古今抄に今は不」可」讀とい かっ T 詞を皆讀べからずとあり是は堀 #I 袖にこき入 左 6 あ 葉は釉にこき入てもて出なん秋は限りとみん人のため 詞 條家 衞 詞 門督 き風體 のこは は 風 非 修に \\ \. ٤ お 讀 もは 敷に 12 敷をきらは より かっ 12 1 5 T か 先師六條修 此 300 12 なはず 道を聞 te たるゆ りよまれ h 也 南 JII 後成 又基 理大 思 院 3 楽物じ H: 0 制せら 夫斯 御宇 卿 山 12 を捨 絡 i 3 季 -かっ 7 1) is 10 俊 3 此 かっ T 拾 底 宁 成 ·[ii]

島

定め かれ 叉壹 風流をよしとし るものゆ 貶する事なれば本をたいして善惡を定めば六條家 人あらじ弓馬力わざ、基將棋などは勝劣そのま すたり行 れて末の 付てさるも さん為に色 琴、笙、觱篥、笛も本式をいはい今上野の樂 にあらずさるの る樂が本なれどもそれを ば人面白から ず御前 けれ 原、狂 いす所也歌 る 人の まさるべしや然ども人の心は花にうごき色に b わく事を知ず推量を以て考るに六條家の 事 なるべ 管粒 ばこそ帝王大臣諸 なり 言、盡しの琴、三尾線をおもしろがり心をよす 代迄も俊成定家のをしへをまぶり六條家は へ六條家の詞こはと、敷を不と用して優 云 なれ し此 音律 申さるくとをり誰とても善惡の K 俊成 0 0) の善悪の人々のすき嫌ひ は二條家の六條家まさりた くいはく歌のよし 事を は其調子を十二の音律 へ、六條家 段は俊成 て二條家を用たる物なるべ 0) 末になりては六條家の歌をい い ひ出 の心 卵ともに二條 あ たるゆへ僻言 1 あし あ とも はざるより 二條家 風體ともに、 にまか に吹 家の おはし是に しや琵琶、 あ 人の奏す わ るといふ 風を用 よしとも は 13 風 1 る 座 せて 知 體 ひ こり T 頭 美 移 落 0) 褒 わ 3 3 あ は 歌 君 0 12 に L \$2 ĩ. T 0 5 事歌 寂初 0 0 3 へども是も時

72 B

72

なれどもその衰微 と云ふ事は は此二宗なり然るとて天台 すくむるに皆人是にかたむきて今諸宗の中に て學文して後淨 ると同 鬼門に させ給 後承久の亂も出來て三上皇武家の為に遠國 の威をとろへ臣に苦し 斷絕なし然に法然上人日蓮上人と云出家天台· め下をめぐみ つき香に 風體 0 U て桓武 延暦寺をひらか かる 風 3 ひ王位いよくこれ め あ 體 あるまじきにや千載集の ~ で しくな 0) L あは 我心 節 上宗 天皇 あ 知 t 0 6 をは ん時 法 來 3 傳教大師御心をあ れみすくふ心なきより < る時 華宗 13 ざる事ながら天台宗門 世の れ國家安 人 b められ初給新古今撰せられ な 0 72 0 とて二宗新宗 70 前表 心 まる 法門に此二宗のまさる 3 よりかろく禁裏衰微 10 ~" 1 誠 鎮 12 に新宗 ^ して 風 を思 1= 0 は は になりてこそ 御尊敬今 せら 立. る事 おごり なども出來 あらざらん おこると て諸人の なく も多き 移 Ш 1= 王 佰 城 廿

その歌にて聞 かく 廣 田歌 よからずと云事なるべし六百番 合 ついく聞 よからずとい の歌合 3

3

は

此 春くれ 判 B 11 はら < ふ谷 詞 風 不 0 音に そつしく 山 11 0 水

是者除情ありとい なひきゆく尾花か末に泯越てまのし野分につい ~ り千五百番歌合 く濱か 也

是をば殊勝 露の夕暮 とい り今公家衆 おほくよまる 1 詞 也

あれわたる秋の庭こそ哀なれまして消なん露の夕暮

j to 今 取たてた に出 るも 制の詞とて四十 來 く思て少 た h 除 礼 72 老衰 3 除首書 3 々書集ひ置 が難い叶 南 b 出 か様 歟 したるうち此詞 12 0 一詞の れども是さへやうや 歌ども 叉別 此 歌 卷に 0 +3-

b

和 有 11 などに 0 よきとは 40 漢朗 4: 盖 思案此 なさけ 0 嗣 恶 やそれ 詠集などに 南 넴 批 心 よき詞 \$2 之詞 الح 得にくし文永 六百番 は 艺 3 判 讀級 難心 第 なれ 歌 者 和訓をませ家 合 は讀 けの ども歌に 爲家難 得一詩に情 に情ありなどい てに よきと 年 せ 5 歌 は より 合 18 0 さまで侍 12 5 て歌 に側 心事 0 詞 す 13 南 ひて侍 には 3 は 洞 3 かっ け 26 御 ~ 5 か など 3 製 カコ b n す 3 0) 1 なさ 事 やと 孙 为 1 8 i 1 詩 詞

> やうに 劔 らんに六 きやうに 何 らる 0 思は 勝 負 ż 百番 トやうな れ侍 な か な ક 3 どの は 3 る詞 歌 れ侍 41 惡 あ 0 敷負をとらる る公家衆 [iii] るは俊成卿に似 13 立) きるり 0) 歌 215 合 1 快 250 0) 合 朋务 ざる事 Mi. THI 負 1 13 をあ 13 证 0) かっ 家

2 1 玄らずが かっ なに カジ ほ 四 かっ ほ も歌 ほと讀は 0 0 から 0 ほ ほ 1= かっ 御製は より ほ は る歌に あしきとい かこちがほ、 褒美 くるしからずと書 てよ より か 無二際限 3 る事 T うらみが L か 愈 順 L 右 德 かっ 院 3 < h ほ るし 然れ 0 ~ 外 L n 四 かっ 3 も赤 is 0 右 1 ずと 四 0) から は 外 0 ほ 0 外 す)

色かほ とひ顔 2 齻 春來れは靡く柳のとも顏に空にかまふや遊ふ糸遊 詠する雲のはたてな飛び顔に天津空 残りなく暮める空の色顔に一葉黛め 冬の 行 初 ME Ili かな 定家

わか b か か 2 昨 Ÿ: 知り か, 3 物煎 れ顔 み飯 顫 顏 懸化て 忘 思ふ事春 数けとて月やは物を思ばするかこち 終夜花橋 廻 かる 3 我 契りし月も 眆 雨の と詠めし を吹風の 共身には思は 宿 か作原吾物かほ 夕暮も馴れは人の b 釉の か。 れ顔 Ŀ 2 に時 に温る飯 なる 知り に色の ま) なる か 颜 形見 顔なる我源 1-その 75 唉 觚 3 FILE 任 赤染石門 定家 家隆 定家 15

ち

恨

か,

II

まさり顔 殘る色顔 心を付額 郭公鳴くや五月の宿顔に必句ふのきのたちはな 霞立嶺の早蕨是はかり折知り顔の宿もはかなし 白薬の散らぬは残る色質に春は風かも恨つる哉 芳野由人に心な付け顔に花より先にかしる白雲 秋風は凄く吹共葛の葉の恨顔にはみえしそと思 冬の木の霜も溜らす吹風に星の光そ増り

顔なる

定家

宿 折

餌

顔

ゆるし顔 こたえ顔 3 きかず顔 きほび顔 さそひ顔 あるし顔 6) 頧 颠 立返る春を知ともみせ顔に年を隔つる霞也けり 春かけて我か標結し梅枝にゆるし顔なる鶯の聲 里馴る黄昏時の子規聞かず顔にて又なのらせん 風寒み三保の浦へを漕船に山の木葉の競額なる 住山を月は浮世に出るそと誘い顔なる秋の空哉 吉野山もと住む人に尋れは妬くも花の主顔なる 訪れつるいつの智の有顔に今管更的と又歎く覽 定家 西行

下

に注す見合べし

太らず顔 きり ふるへ顔 むらせ顔 催 のふ顔 顏 後の世 諸共二 戀くは影をみてたに慰める我打解て忍ふ顏 皆人のより顔にして知的哉必死的る習ありとは 飽なくにまた夜を籠て歸るさの導顔なる月も恨めし 鹽竈のうらみて渡る雁金を催し顔に歸る浪かな 馴し雲ゐは忘れぬに月は我をも知す顔なる を知せ顔にも篝火の焦れて過る鵜飼船哉 なり 二條院讀岐 有家 四行

## 梨本集第三之下

にいふなみの事たるべ なみ 海川の波の事、人並、藤並の事にもあらず詞

に上古はみの字をつかへりくはしくはべみと云詞の らみ、須磨の蜑の鹽燒衣をさをあらみなどいふやう からずと云なるべ か様にいふなみの詞の事たるべし上古の詞ゆへ讀べ むつましと君はしらなみ瑞籬の久しき世より祝初てき 今よりはつきてふらなん我宿の酒をしなみふれる自 秋の田 のかりほの 庵の筈をあ

是も新古今の歌にて只此雨首を證に立て當時みる事 如此過去りたる 事に讀と書たり愚 案前に 書付通 競技 嫌ふ昔の歌は皆程過たる心によめりと云 ながめ 柴の戸に匂はん花はさもあらはあれ詠てけりな恨めしの身や慈國 物思はてかしる露もや袖になく詠てけりな秋のゆふくれ 此ながめといふ詞當時みる事 て證 に讀、 是 h を

本集 第三之下

梨

古今の右の を考るに詠

兩省 とい

を書付て置

たるを見て何

の事もし

ふ詞過去りたる事に讀たる歌とて新

によみたる詠の歌をすきと捨る僻言

なりよく!

ば人 殴に 是云 3 Z 短 來 3 0 n 事 詠 才 事に 人 T か ~: 不 元 を心 迷 け 2 8 15 0 L 0 0) 見る 2 審 B 3 カコ 日 時 如 是を以 後難 2 此 はけ 此 け 、更衣 して云それ 叉思ひやり 得ざると聞えたり「け W な しまろ TI: L 10 36 此 1 5 业 右 2 世 7 善道を ど云 過 書 きっと け とこな 去 h 付 用 カコ b は 12 たこ を を 0 b 3 しなどい 、春 lt 詢 聞 身 は 3 12 思ひ立 5 12 2 得 心に 皆 3 不 お 也 13 か 恋にけ 詠 ども 2 た 3 5 審 it ナこ にけ 文字 ふに 12 ぞや 文字 B E W りしとい 3 より た T を h へにうた h 1 部 は る證 にて過 事 萬 3 、夏來にけ 字に 此 過 書 葉 15 を 去 1 B 老 集 歌 なと云 ふ事を三字に 付 5 12 とは 法 揚 な から 13 T 去になる 72 過 な ナこ まし 師 7> 3 h 多 去 3 小 2 カコ 0 7, らし h ٤ 無 7 1 0 花 智 出 12 也

莫の と讀 h 丽 なふ つきあふ秋の露霜なふり 字 生 加 駒 りこそなどい 山 雲 な隱しそ て詞 E کہ と云又ふ それ妹か教をまか 1-な文字 つく 0 3 雪 事 1 かの今 0 p け 2 な II は \$2 は お 3 L け

詞 0 出 1= つく 君 か足纏 な文字 た 2 5 右 露 0 原 早く起 通 勿英 出 0 0 字 ٨ 112, 3 學有,來日 裳 0 裾濡な 八不

ば心 文字 学の は唐 とい 文字 h 子英 扎 體 勿 岩 1 3 0 0 0 3 など云事 惠知 下 漢字 やう を心 3 は 學 俗 0 無一如 字に の文字 殊 نان j 0 1 引 語 とそ文字 2 Įţ. 歌は É 得 1-外 カコ 112 唐 も < きゆ は T 用 在 近 12 7 カコ 1 此 1 0) ば著る 字 文歌 雷 ょ てそ 1 3 2 詞 大 世 3 65 0 T ٤ 也 和 \$2 Ł は は は 詩 聲 0) かっ ٤ 1-120 1-Ŧi. す To 小 L 何 0 63 物 0 袖を著る、茶を香 世 引 3 普 5 此 つか 英 事 Hi. 1-薬 < 2 12 知 < +05 書付 俗 學 合 H 2 大 0 な 1= をとい な文字を付 h 世 な文字 南 手 和 0 T CK 遠 字 也 311 0 난 かっ 12 俗 ば 加 俗 b 誤 T T U 爾 詞 32 1 やうに 3 0 學集 むる詞 Ł 此 7 相 غ 果 計 0 0) 不 カコ は な文字 すみ 字の な 事 誤 1= わ 思 h 通 10 4 0) 11 手 なり は T 12 \$2 成 ٤ 8 3, な [III] 大 は は ch To 1 あ やうな E h 程 12 7 かっ 12 カコ 是 日 斷 2 云 から 2 らず 手 和 なる 著 路 果 かっ 3 \$2 141 1 は 木 書 T 0 3 1 寸 12 行 4 假 行 b 信 3 简 莱 東 12 心 唐 我 か 12 朝 是 1-على الح 215 11 ٤ 得 1-文 12 H 名 人 0 行 字 13 316 دم 艾 佛 7 もって 大 1 您 から 四 73 03 な 13 3 儒 大 -j 0 かい 部 2 < 15 رک 13 32 は 和 カコ 詞 11 ZE 餘 な 12 0 かっ \$2

第二十 勿體 の歌合 付 用 72 事をばあは 羽 人のやうに D つかふもみな上古 にても國 2 てつ 會津にては T 如 詠と 事に かっ に誤 とは各 在 に有家歌 かっ な所 通 ふ事 0) ふ事 人の 關東さ、とも云下野國、なもさとい 唱 0) 四文字は音聲にて唱ふ事な U れなることによむべ もし ては 茶をの やうな 别 12 H 歌 は 本 0) を以て 人の 通 違 よりのその所その國 などいふ此外ですなどくい なが よりて手 せ n みそとい U 詞 r) ども梵語 に むることに讀、 考知 ゆへ大和 0) T 習ひ也六十 小 爾葉の違 るべ ^ 袖をきる しとい にて ば し又 詞 0 を以 も漢 3 か る事 -0) 六ケ n D など あは b 0 詞 音 ば Ē 事 世 は六百万 勿無 也 國 手 n 詠 15 萬葉 ふを 爾 ځ ふ詞 諺 -通 0 0 ~ 詞 ば 5 葉 B 3 1= ō 0 番 Z 集 30 进 京 to に 产 詞 也 370

も過 此 0 詞にも揚たるなるべし 不…庶幾」とあるをみて右の事書も又讀まじきと કુ 判 色々の は 1= 霜が ある b 花ゆへ野へに立出し詠迄こそ霜かれにけ Ź それ まじけれど野原の霜がれて又詠 te の野邊 3 枯たるといふやうに をなが 野老元來歌の道を學ばず夫故 ئة \$2 ば詠迄こそとい n 聞 W とい 詠 Z ひ 0 2 詞 B 7

> 大 亭に 基房 慈鎮 野邊 此事 V て六 は枯 侍 野邊 n 5 あ のごとく ~~ 信定と有は慈鎮 きに ると かっ 俗 て六 b 秋の色のうつろふ野邊をきてみれば哀ば枯め物にそ有け 12 に付 姓 和 1= てそれ らさんため 7 百 兼 0) n の歌合 俊成 番の 實此 や百 4 あは 尙 草はみな移ひ果たれども別 あ 任 は攝 番 同 b 5 T 一歩に n 歌 愚 位 卿 ひ は も又うたが 判 C 歌の名 案有 は 佛 也天台 合は 3 三位 か 事なるべ 政 か 法 關 とは少詞 E \$2 0 1= 御甥後京 な攝 自 T 家の \$2 かへ名也此 明 0 n 留り五 道歌 座主 Da 6 叙 人なればとてやうく 太政大臣忠通公 やうなる ٤ しや哀は 詠 か せ 政 ひ 迄 なら رن L 0) 1 關 0 あ 十歩に たし ふ心 W 道 て大僧 極 h 白 こそとい とは 判 n 良經公の 1 師 官位 枯 の詞 所 任 カコ 哀 をもとめ づ < に哀 留 Ī Da お ありとぞ人 U なるとの 10 一智威 給 0 は ځ ほ に秋 1 なれば高 3 ^ とい く籠 不 左 ふ其 御子 n とい よめ ると慈 户 まじ 大 0 15 てうた 色の な 將 کہ 違を おぢ 皇太后宮 御 3 Z りて見え 申 て基實 け 官と 兄 8 B 72 0 きにや る 侍 n 時 弟 秋 ٤ 的 移 定 カジ お 0 ひ 3 3 哀 2 0 1 0) <

らく

是は

3

ららく

か

くらく

、こふらくなどい

古の) の詞 詞も何事も一偏には定むべか を讀まじきといふ事なるべし此詞にかきらず物じ はまく、せまく、またく、きかくなどへつかへ なりみまく、 U) 事 担 当 葉には きかまく、いはまく、ゆ おほ くくく こらず の字 30 0 かっ かまく、 ~ b h 此 F 7 詞 代

此歌をとりて定家卿 **鹽みては入める磙の草なれやみらくすくなく戀らくの多き** 

と讀り又定家卿の みつ頭に隱的礒の松の葉もみらくすくなく霞む春かな 歌に

Ł

に書たることく 歌に取て讀時 だ敷聞えて宜しけ 詞好み讀べからずといふ詞をよみ入てこそ本歌 道の秘傳 或人のいふた みえずなどい むべ みつ鹽の波の下草いやましにみらくそ人のとなさかり行 わたつみやいく浦々にみつ鹽のみらくすくなき中のかよひ路 とい 前に有なみといふ詞の類也是もみらくの所 ふやうにいひては はその詞をよみ入てよろしき也是歌 とへい ふ事也右の二 れば かやうの 餘 દ 首もみらくと讀ずし 准」之しるべしと 詞 あ なりともその しか るべし上 b 歌 もた へり 古 て只 爲家 木 0 0)

是を本歌にとり

新水 吹くからに秋のひか 草木にもあらめそてたにふほれけりむへ山 秋のひかりのあらばれてむへ山風にすめる月 の松の木陰かなむへも心ある神 風い

亦あるもの

へいふ新千載、新拾遺、新後拾遺の比

か

本歌詞 樣 に本歌の詞を多くとれり新續古今よりこな 2 0 おも かげ計を讀事是に 心 もち 0) 12 傳 へは 1) h

h 卿のうときといふ事此比いか ٤ うとき るとあ 讀まじきとい h ふ詞には まほしきやうになり あ ろ ~ か らじ定家

注す うれ とめこかし梅盛なる我宿をうときも人は折にこそにれ L かっ りけ b かなしか りけ りとい ふ所 0 ドに 四行

を入ては聞 うき身 よからずとい 是も嫌 2 ~ き詞 1-あ らず浮 から 身 とか

うき人 涙のみ木の葉時雨 と降果て浮身を秋のい ふかひもなし

定家

水無瀬 きやうに聞え待ると有是をみて書たるも 今はたり 歌合 風 やはらはんうき人のかよび絶にし庭の白鷺 の歌也判云浮人近 比も人も讀で傳 のなるべし よ

音にきく松か浦嶋けふそみるむへ心あるあまはすみけりにからに秋の草木のまほるれはむへ山風を嵐といふらん

難 せの歌多し今の公家衆よみ給ふことば也

一うす霧 六百番歌合家隆 歌

右の薄霧ともによろしからずと有此判すい 此判に左のすくけぬ る詞なり にたつと云詞に心得あるべき事也今の公家衆よまる にうす霧耳にたてども歌のさまよしとて勝に定此耳 なるべし此わけ草の原の る詞の事うすきといへるは右の歌をさしていへる 煙たつ暖かいほりかうす霧のまかきに咲る夕かほの花 の屋にすいけわものはゆふかほのはな是は季經の歌にかやり火の煙いふせき賤 詞 の下にていふ建仁の歌合 けぬとい

一また 讀聞鋪詞にもあらず嫌ふ詞にもあらず是も

此三首のまにの詞ふそくとあり俊成卿のきらひと聞 打むれて菫つむまに飛火野の霞のうちにけふも暮しつ 此世には心とめしと思ふまになかめそ果の春の明ほの つもる花をふましと思ふまに道こそなけれ去かの山越 顯昭

いふは僻言 よりてよくもあしくもなる事必定也詞によしあしを えたり年、去定家の歌 に風のまに聞にくきとも覺え侍らずと有詞の續に 暮そめて草の葉なひく風のまに垣根すしもも夕顔の花 也

> ずといへり其分がはがら~の詞の所に書付る へみ、しか、かも、けらし如、此の詞上古の詞ゆへ好ま まちうくる けらし をして、てしかな、むへ、

けさきな けさきなきいまた旅なる時鳥花橋に宿はからなむ

ば今朝來鳴なるべし 朝來て鳴といふ事と聞えたれどもうたがはしき事 無…是非,古今の秘傳と云抄にけさき鳴と有然れば今 繁雅古今抄に此詞好み讀べからずと有此詞此歌より る故にか様にも心を附てみたれども抄にある事なれ よくきなさつたといふそのきなは來る也な文字詞 外には何にも見へずある事もあるべけれども少 きなどいふ詞にきの字を付る事歌の詞 詞にまたきの字を付たる詞 上代の詞關東山家の者の詞に人の問來 たすけ也よくきなさつたにても同じ事也そのきなの か L はざりき、 る挨拶の の習也心得ざ しらざり 詞 也 0

一氣しき

雨首ともに俊成の判に歌の姿よろしく侍ると有中 行通ふ人たにあらは問てまし山路の薬の秋の氣色を 冬枯れの野邊の氣色をみめ人や秋の色には心そめけん

梨 冰 集 篇

親王の歌

為家 しとあ h 云氣色 11 n 11 定家 絕 82 鼠 卿 ず 色 10 0 か な秋の 歌 からずと亡父定家卿 (9 3. 0 村 0 3 申 3 \$2

撰 得 後 3 是を以て 詞 カコ 歌 3 12 13 h 5 多 は 12 3 殘 には ひ 誤 但 73 南 10 0 今よりの氣色に春かこめてけり 褒美 此 3 3 かっ h 3 3 1 誤 資治 多 國 花 5 け 中 と心 末 3 務 き事 2 後 お 0 2 南 かっ かっ 事 詞 氣 撰 な 宗 歌 B な 0) h を云 集續 代 南 色 0 得 尊 合 也 づ と云 に讀 也 歌 5 ば 關 親 n かっ 同 游 述 25 古 爲 詞 13 12 3 Ŧ 性 0) C る事 こな 今集 12 作 家 0 カジ 8a 1 一字と 12 者 音 陳 卿 かっ せ 狀 130 5 な 12 37 0 0 h 0 0 霞みも果 ずと 宣 3 3 1-撰 を以 H 兩 3 Ш こそ 古 花 U 1= 集 旬 < Ш 1= te 批難 音 3 鳥 L 0 3 包 跃 5 T 字と 續 82 2 歌 志 誤 詞 1-0) 0) n 判 あけほの 事 7 とこと 6 1 古 73 1 T 随 あ 0 旗 は B 3 あ 5 かっ O) h 南 to 5 3 1 2 n 歌 集 櫻 ~" 0 わ 音 詞 72 歌 ね 12 は 心 8 け 空 ども 讀 0 机 h n X 13 為 0 12 南 家 字 詞 大 3 C) 褒 ば 3 カジ 72 定家 誤 3 和 2 0 \$2 < 包 0) 美 10

2 3 ox あ 6 12 31 保 獣 合 0 判 定家卿 2 3 B あ

> 下 12 3 む かっ 心 せ ~3 B L à) h h す 3 被 かっ ~ 1= 22 す 必 防 推 20 15 H 3 嵐 て侍 する Ú te 3 t, 1-3 つや ã) 八 雲御 えず 信 11 な 0 思 1. 抄 家 111 15 歌を 根 ~ 3 は 万 11 0) 順 稻 か T. 院 0) 7 御 可入 373

吹 事 細 詞 黑 5 秋 3 か 6 計 省 な Z. 愈 來 南 敷 n n 更 伙 條 7 7 < る 3 1 0) 0) 敷家 家 此 B 73 j 歌 3 à つよく は V 3  $\equiv$ 3 也 制 Ď 首 70 は 6 p 伊 つ 32 吹 ず j 負 給 3 7 偷 势 13 此 かっ p 1-吹 3 1-1-せ 新 制 な 2 5 11 思 蓝 定 名 3: あ 12 少 3 3 は 黒 所 6 定家 尤 孫 3 まし 111 かっ 3 1170 12 22 1-231 12 是 恶 泛 侍 は 3 也 合 L から 卿 师 31: は m 12 制 3 あ 詞 O) 0 E 治 憑 5 也 せ 詞 判 0) 1 欧 150 b 他 6 家 歌 H 0) 1= 嵐 PH 10 卿 合 0) 3 吹 0 能 平 な 為 111-1: 0) 局 T 1 かっ は 家 31; 0 卿 3 深 6 かっ 來 は な op わ à) ME 卿 杏 0 di الم る 3 如 0 5 41) 此 逃 き 批 11: は 101 则 60 0 惡 吹 11: U 律明 伽 6 3. H 南 te -5-嵐 0) 13-

横震 此 淺 茅生 0 業 のた には源 木 0 75 袖 難に U Ш くち く山 らる 3. やに打そよき氷れ かり 1 间 秋 へなるすし 9 嗯 箱 青羽 わす きし tr ころうさい る智 の心 白 10 120 DA. 吹 财 欣 嵐 趣 か。 か・ か。 75 75 到 後 後 鳥羽 京 隆光極 院

家隆

如斯 讀まじきといふ事をもたてず歌さへめづらしければ 撰じ入られた 集にも入ず玉葉風雅には惣じて嫌ふといふ詞 られしゆへにや讀てもなく讀てもあしきになりて たるに右の通り定家卵より初て為家卵その末迄制せ つゆをたに今はかたみの藤ころもあたにも釉を吹嵐かな 吹嵐 かなと讀る歌 る事なれば右の兩首 ありて新古今にも撰じ入 には あ る事も もなく られ

撰

伦はつるわか思ひれの夢にさへちきり去られて吹嵐かな 淺茅生やのころは末のふゆの霜をきところなく吹嵐かな 草の原月の行ゑになく露をやかてきえれと吹あらしかな る然るに先 ねども尋

書

tz

る物をみれ

ば

n

る迄もなければ其通りにしてさしをき侍

n

は常 為家を云讀せられし詞大方は優美なる詞にて後學末生後成定家讀せられし詞大方は優美なる詞にて後學末生 好み讀たらばめつらしげなしとてやめられたるにや 此三首を見付出し作者は誰ならんと思ひたれば兩首 優美なる詞ともおもは と云々是を以て考るにも此吹嵐かなといふ事さの ながら定家卿の歌也愚問賢注に頓阿の云三代宗 俗語にもい ふ事也か れず風の吹、嵐の吹といふ事 なと留る事是亦常によむ 3 匠

> 事心白 嵐 孫まで云傳へて他門の讀迄を制せらるへ事心得にく Ö か 月にふる時雨かな、雲にふる時雨かな、松にふる時 あらずたとへば花に吹嵐かな、月に吹嵐かな、霞に るべし此吹嵐は風の名にてその外はつか 要のときいひ出 續たらんには詞も耳なれめづらしくもおもはれず肝 つかひやうのあしきにてわるく聞いるにてこそあら いくらといふ數限りなかるべし是を思へば其 な、山にかくる雲か かな、浦にふる時雨かな、袖にふる時雨か いふべきとの事にやそれは此吹嵐にはきはまるまじ つか 5 \る雲かな、月にか\る雲 吹嵐哉、深山邊の里、秋更ての詞 かな、雲に吹風かな、簾にふく嵐かなすべてか様に ひ何に ひふるさんは徒事と思はれ制せられんはさも き、靑き、詠かはす、 もつか ふ詞 して餘情かぎりなから な、浦にかくる雲か なれば後學末生の何事に うときなどいふは かっ な、松にかくる雲 讀まじきと子々孫 ん詞をむたと な、か様の ない ふべ 叉花 き事 B 何 首に いひ 類 カコ

又思ほゆるかな、心地こそすれといふは中々に 興じ こくちこそすれ 八雲 御 妙ににくしとあそばり

梨 本 集第三之下

年多"不二甘 72 こなた る方 ふる油の 3 山あいの色も年つみて身もまほれぬ か 心 嫌 るべ ふ詞 しと有上古 13 あらず貞應歌合に定家卿 0 調 1 定家卿 る心地こそす 歌 の云近 n

句 0 哀、 にかくる故 あはれ 水 0 嫌ふ詞 あ 也詠 は 12 0) 13 と讀は 詞 あ 0 らず今公家衆も讀給 所 か に書 もかは からずとい に公詞 3. 13 业 秀 浪

3 カコ 0 13 あり あ なみとい まひ强 袖さへてわる夜の へば墓とい あとは けれ くする かっ ふ事 は ふに似 人の あ 床もさむしろの夢なばかなみ松かせそ吹 も讀まじきにや新干載源家長歌 3 あると思へば は 7 たり讀 ふ事なりや、是 かっ まじと有是は 0 八雲御抄 此 を 0 例 おも 0 にに 調 0) 延 は 心虚物 ば < かっ は Ł

る此 ば は 1 一首 あを 12 て侍ると難せられ り物を見てその の歌 6 0 感情 8 3 よろ しろき 言語 D 定家卿 述 更行 間に 色をさして青 しとい つくし 1 3 空に向 ふ是は 納 0) カジ 此 たし T 比 持の き自 よのり 0 白きをみ 此 歌 外 寒 訓 は きとい 月白 天 岩 0 制 青 とは 3 と言言 枢 紫 自 82 10 礼 かっ 3

> 是は 詞 と違ひ今は見苦敷なり 入は 人は 0 3 のかのこを染出 よき詞 しなど 3 かっ 12 よき歌 聞ぐ ぶりものにする事 年 ふるが一般おもくれ 此染を著し帯に 店 FILE 々に多く染出 もあるべ とてひたと設 3 るすぐ のさまたげになるべ 成 き事也近來小太夫 12 なる たこ てよう L \$ る時には當世 事ならは たれば、 て在 ~ になり せずば風 て悪しと諸 鄉 ては 詞 0 間 も人毎 しとて铜し よめ 沅 -31 な もの るを 初 かっ 3 は 1 のことぶ よきと見た む 人もてはやし すめ とは 1-1: す) 10 -; 給 ľ, はい 姥、 1, はれ ふしって 紫地 T. 3 箔 たこ 1 h 金

歪 あ あらんとすらん あまねく らまし 八雲御 かい in 也 上古の 抄ににくしと有 調 2 む かっ

Ł

曙 あさ 也とい 南 Ut 僻案集 h 朝 明と にか けども 朝

b あ と云拾遺集の 2 it 秋たちて幾日もあら 12 0) 風 を 七七七 あ 27 歌を書出し あ 文字にい Ut ひと此 0) など、五文字に ひけ 彩色 んのろ朝 此朝 3 0 私 0 朝 3:8 風 氣 U) 今い 風を と五文字に ふ不二十 西東に か

夕幕 ゆへ 古 きと云事 か 山 此 0 事 ネ F シ被! 心得 b に書付侍 訓 Ó な 句に ٤ もし 讀 る土 書 h か 愚 御 玉葉風 らず 案此 門院御製 雅 朝 とい 的 多 け 2 3 0) 遠 此 調 Ш 詞 讀 0 あ 3.6 松、 3 C 歌 る人 ふ六 T

家卿 るべ 公は をも 100 躰 は猶以 御歌 此御 カジ 1 h 雨首をあ なけとなる ら是は て目 朝明の 荻の葉を能々見れば今そぶるたり 此百首 に點 千 書出 都帝 歌 3 然 2 種 73 此 0 < 一霞の衣ほしそめて春たちなる 為世 を懸 n L 扫 Ŧ 礼候 御 を讀 ある百首を家隆 Q() 攝 ば 1 右 歌 げ b 12 人不知 て寫 為 將 3 心 繇 5 っあけ 卿 との 0) 僻 點 る 兼 111 忠 にや此次でに 臣 13 0 方の U 門弟 書付 案集 を懸脇 卿 明 か 卿 1 か 1 たむき 扨 0) 0) 0 の歌をそし 月影に郭公なる夜华のけしきな 歌 し給 して定家卿 門 とも 御 祖 32 12 書 付 をそし 父 内意にて に點を被三仰付一に て定家卿 72 な 7 為 おほきなる薄なりけり ば朝 申千 姿詞 3 玉葉 兼 事 し、あまのかく山 12 3 ば は 22 ~ 卿 その 難レ b 種 0) 風 0 大 5 大覺寺 へ越さ もある 隱遁 六條 名を 歌 形 此 雅 け 及 歌 僻 0) 歌をそし 0) 日 候 殿 入 カコ 兩 出 詞 ti かっ 0) は 言 家隆 家隆 眞實 後 大 11 12 方 h 撰 0) 集 ٤ るに 臣 僻 邪 野 0 ŋ 推 守 人 案 有 此 カジ 殊 卿 有 卿 給 鏡 12 抄 風 な め 勝 定 此

> 所 角そ 風 夜もすかられくらさため 7 0 躰 なきか i か 條 以 歌 と思 るとて て其 1 内 府 あらず此風の 道 解 Ł 支ろ は ば佛 おも 此 言 歌 を難 兩 0) へば為 省 學迄 道 め を引出 じてそしり給 3 2の郭公さもいさとなる郭公か も達 2 n 衆の 人 n 躰なり定家 とは ž 手が 給給 n 1 2 0) 15 3 は ٤ 風 は U 卿 也 扨 カジ 躰 が尤 は 3 0) 13 南 そし 人 歌 兩省常 3 玉葉 3 B 3 ~: 37 を いいかから 集の べ 0 歌 3 折 3

とは 七箇 るべ 慈鎮 か 1 りとも三體 部 L 扨 謞 13 扣 Ì 又是、 條に H 和尚 むと は 思 給ふと云然れども十七首 抄 は ず雅 はそ n は ٤ あ \$2 ガコ どもうたが は今迄愈議 の拾玉集西 n い ず憲法 ども 7 和 たどり十七首 2 ども 歌 歌 書 Z なり の格 風 0 が 中 躰 は に讀給 行法師 樣 1: は 然ども を以てなりとも讀 なき事 1 ま わ 雨 しさに不審を立申候定家卿 は よみ 0 3 1/1 歌 かやう 歌 吟とい 0 を茂安 1" Ш を讀 T 也 12 0) は詞 歌憲 春 Ł 家集に此風躰 か様に讀 に讀 3 夏 分 から 後 有 は ば六儀を以 法 申 こそふ ては 九六 Z 2 代 太 仮 子 得 とく 7 は 儀第 Z ば僻 1, 4 0) 憲 め まし お ~: 歌 37 歌 ほ で 7 お ほ 3 12 は 事 多 め 12

家卿 名にとりあは 1= たをとろへ、いまし、敷所有 0 へうれへか 一十七首 歌 0 歌 て成とも 首 カジ 大方秋 の歌 なしむ氣味をもたせ雨の せたる作りごとたるべしある人の云 かっ は 0 かっ C に讀ば賀の歌のやうな け 0) 歌 かっ なり秋 らびてあし、又四 などくこそは は刑官なりそれ 歌にて雨中 南 \$2 るべ どすが 季戀雜 吟 3 W 0

ば此歌の 12 有と聞えた 此歌風躰 るべ 道の邊の便の柳もえそめてあばれ思いのけふりくらへよ し此 風 よからずとて刺勘をかうふり給ふとい n 躰 雨中吟のうたに ば此やうによまれて憲法ともあらば尤 詞 0 いきうれ へかなしみいまく 數所 ふ然

き為 とい 中 院 て考 0 人 打点めりすいきのうれはかもりついにし吹風になひく村雨 の御自身えらませ給 文雨 2. 1 為秀二 3 の定家卿の おもひ立た 風雅集の歌 中吟の歌を以て思ふに憲法に 札に 條 南 わざ 為基 る作りごとなるべし風雅 る歌をなにしに入ら あり此歌を以て風雅集をてし ふに 三人ともに 御 風躰恶數 手傳は 定家末孫 大納 讀れ 立べ るべ て雨中 き歌に き是を以 歌道 集 なは花 吟と 治 3 派 泉

> 制す詞 らざるは風 秋の 名を 南 風 か 風雅集に け b ぼの 雅 13 るも 集撰せられ à) 風雅 0 る詞ゆへ な 3 集永滿 て後の かっ L 門院 您 やうに心付待 作 C 一て此 内 りごとにて定家卵 べからずと 3

判云 吹点はる四方の草木のうらはみえて風に点らめる歌の さ命思ひは夜牛につくしはて的夕部もまたしあきの 秋の D けばのあたらしく候得其勝 曙 BY.

7

續古今に兩首ともに有更 一秋更 二條家撰集にはいまだ見あ 長月の 高砂のなのへの月に秋ふけて松風ちかく鹿で鳴なる あり明の月に秋更てうつ音さむしあまの まへの 吹嵐 かっ つる秋 な たらず飛鳥井 0 かっ 所 なと定家の ži: 独衣 家 0) 大納 撰 12 集新 たる 隆 昶 WL.

と思は 多更てといはれたるも秋更てといはれたるも 歌は見えたれど秋 いかならん結ふつら、に冬更て外山の聲は四方の松風 れ侍 3 いか 更ては 10 みず 同 じ

0 1 詞 うち去めりあやめそかほる郭公なくや五月の は 夕幕を夏の 雨の夕暮 ふを四 111 **今板本に** 不 今の 一時 施 夏の たり是 雜 出 歌 詞 たる制 を以 は雨 わ け の詞 T 夕亭 00 7 雨の のうちに 13 夕祭 也 3 右 3. 木 詞 有 敗夏 歌 义 制 H

此歌 月のか かつらと云も木枯の風といふも常の事也雅經 に月のかつらと 違たるにや雨の夕暮と讀たる歌は數多し右の制の詞 の菖蒲ぞかほるといふが制の詞也雨 つらに木枯 一つあげて木枯の風と又書た 0 風 とついきたる二句を制といふ 0 夕暮 の歌は り月 は 0

有難=心得-事也 なるべし雨夕暮誤か 一あぢきなく 榮雅古令抄に此詞今は詠べからずと

れば耳なれぬべし つさもこそは つさぞな 八雲御抄に近世人ごとの詞也餘りに成ね 八雲御抄にいとしもなき詞と有

詞にて歌詞 百番歌合迄は思ふ人を君と讀り今は讀ざる事に云 一ゆかしき きえねたい きくはまことが 天子の御事當世公方の御事をは君と讀べし六 にあらず撰集に 嘉應又治承の歌合の判に見女の略せる くれねたい 同御抄ににくしとあり B 近代あまり耳なれ あれども不二庶幾」とい n

ほのかに露の色わきてまたき悲しき夕月夜かな

定家卿 ある詞を非

の歌

り撰集に

二歌詞

ーとはいか

も何も斷と耳に落ずうたがはしそれゆへ今は不了 榮雅古今抄に小倉といはん爲夕月夜といふ今は詠 べからずとあり此夕月夜の事に付て四説を聞待れ 夕月夜をくらの山に暗鹿の聲のうちにや秋の暮らん

ン讀と宣ひたるにや

迄も無,延慮,讀事是亦右のことはりにかなへり如此 制せられし俊成 詠ずべからずといへるにかなへりそれより後今の世 なればとがめられし事近世の新敷讀出 詞俊惠法師歟讀出したるとの事也俊惠俊成同じ時 雪の曙 經房の歌台に此詞を俊成難せられしは したる詞

お 制と云は歌合のときの事にて常は制なき事にや左も もはれず 又も猶人に見せはや御狩するかたの、原の雪のあけほ

ン可い讀と有 みゆる階 身を 玄る雨 榮雅古今抄に今

は不

みえん 嶺ごし 谷ごしの所に書付る

此みらんはみるらんと云事なるゆへみえんと云説不 春たては花とやみらん白雪のかしれる枝に鶯のなく

梨 本 集 第三之下

を優に 云みら 誰が制したる事にや明香井集に雪中除夜雅 と書給 用然ども今は おか ふまた賴政の歌に霞をや煙とみらんと讀れ んをみえ しと感ぜら h 前 1 書 かっ 礼 12 らずとい と宣 るをば俊成 ふ然を讀 / 'n 卿消 思案顯 ~ かっ L てみ 注密 經 3 歌 ずとは 6 勘

|神無月ふかくなり行く梢よりまくれて渡るみやまへの里等||神無月ふかくなり行く梢よりまぐれれがちなる深山への里き土地。| まつ 吹鼠 かなの所に 玄るす一深山邊の里 まつ 吹鼠 かなの所に 玄るす

問ふ人も初雪をこそ分けこしか道とちてけり深山への里 西行雪ふかみ入も問ひこぬ先にきて道ふみそめつ深山への里 整鎖散にて、後さへ風をいとふかな紅葉をふける深山への里 整調書消てえくのわかなも摘へきに春さへはれぬ深山への里

は有 一條家の撰集には深山邊の里の歌を不り入新讀古令 長月や月も更ぬる影みえて身をあきはつる深山への里 儀同三司 一條家の撰集には深山邊の里の歌を不り入新讀古令 一條家の撰集には深山邊の 里の歌を不り入新讀古令

びや は有 みじろぎよるけ みじろぐ 身こそつらけれ かにうち身じろぎ給 **空**蟬 はひいとしるしとあ 窓に木丁のすきまくらけ こその二字にて詞 るけは ひも袖 のり蓬生 あ 0 しく 香 n 一窓に忍 聞 W 5

> りね 合に俊成の んとあ しほけ びまさり 3 b 廣田 給 かにぞやといはれ へるに 台 やと に開 有此 ょ から 詞 たり不二庶幾一や侍ら 1, かっ 程 3 h 有 红

こうだいたのと語った。これでは、「P」誌と有是も嫌一しみつく 楽雅古今抄に今は不」可い誌と有是も嫌

一しかさ、の葉にしみつく霜のよなへてはみ山もさやに安うつなり

ひし 2 自 といふは似たやうのことにて心ちち大きにか 白露、白雲、白波などいはん光の事なるを此時代嵐 り詞をおし 詞とて、をして、てしが か様にいふしかの詞の事たるべ しろき きの詞 わけを 思ふとていとこそ人になれさらめまかならひてそみれに戀 か、好ずとい は此詞をお も白し をお 制 むは 白きといふ詞を定家卿の讀べからずと宣 調 しみ給 、行袖白し、川音も白 ふ讀まじきといふは僻言 と知 歌人の しみ給ふゆ 3. あ なり此 な、けらし、むべ、 優なる心也 る詞 へ也と おし とい し萬葉時代のふるき 3. 制とい 百 3 などく論 卷にくは 也 - (" 5 と制 とお は 3 りた (D)

書たるゆ 发には 略 候

り遠島御歌合に 一人こへろ 貞永 歌合に定家卿の今好み讀まじと云

此 定られ侍 御製に 人心移りはてめる花のいろに昔なからの山の名もうし るよし聞傳 直 0) 勅判 に人心といふ事近代よむまじきに れども世にまじろ ふべき歌に b

と聞えたりその定家卿の み讀まじきとはい なければ 人心程は雲ゐの月はかりわすれぬ袖のなみたとふらん しらで持とするとあそば は n たるを僻言と思召た 一歌に した るは定家の る御 下心

俊成卿の雪の あけほの、類たるべ

ひちて

袖ひちて結ひし水の氷れるを春立けふの風やとくらん

も榮雅の

御誤には

あ

らじ

軍家に は
发
に ふ人の所 **榮雅古今抄に此詞古今に多し後撰にすくなし拾遺** るとい なし今の世に不」可」讀と有思案榮雅古今抄の は略 ふ詞 て飛鳥井榮雅雅親御講釋の本を速水親 持し 0 た 一侍る今板本の抄は東山 下 るを玉信といふもの わりなきとい ふ詞 0 \ 懇望 下に 殿慈照院義政將 も書付 귦 事 落 相 ٤ 72 傳 < \$L 15

同

ľ

詞

也にぞあ

りとい

ふぞ文字とあ文字が父母

にな

Ù

こてか

榮雅 古今抄の事か文言前後混亂して理委くすまず然ば是 書,集之,以,僻案抄の説,書」之云々是板行に出 ば其本にて無」之所明白又玉信が 本にて親祐が所持の本かと思へば東山 榮雅自筆の奥書也とあれ 古今抄か又別本 も榮雅の 集清書住宅炎上の間被、取゚゚火神。 依、之端々覺、之分 日と有てその下に從三 年正 趣、 0 年號付 御 月七日とい 御名 講釋 をか 1= ٤ も思 つひ 0 b 事歟その へば明應 て て私の は 疑 位と書その肩 n しき所 ず ば是が東山 年 親 抄 七年 號月 酤 なるべければ僻言 から 多け より十年以 奥書の初筆に古今 日 所 殿 より n は の脇付に飛鳥 殿薨去 TE 明應七年 ば眞實慥 ての 傳 へ得 前 講 は なれ 延德 あ 12 釋 四 12 なる 井

好

袖ひちてむすふ白浪たち歸り氷るはかりの松の下陰 解にけり氷りし池の春の水また袖 物にざりけ 3 物にぞあ りけ ひちて結ふはかりに 後京極 家隆

な りてざ文字の の遺様也 子一 字になる也萬葉の順反とい

なき君か爲にと折花は時しもわかめ物にそ有ける

梨 本 集 第三之 F

72

る本なり永禄四年二月十八日の書付有玉信

與書

貫之の歌に

海にぞ有け 物代 秋ふかきみれの 照月のなかるい かっ 3 3 とい 百勠風吹けは何ひは空の物にそ 3 12 は天の川出るみなとは海にさり ふも同 じ定家卵の歌に ありけ E ij

0) うっへ 物が 物なら に置 7 か 物ゆ 7 رود L かっ L 1= 111 0 詞には此 物と 5 る事

を詞

事 す此 此 0 もら カジ 初 3 なら į 風 糸による物ならなくに別路の心ほそくもおもほゆる哉 狩する人や開 りと難ぜられ 五文字より三の句迄は近 躰 < 歌 别 如 なく 上古の詞 ļ 3 \$1 源氏 文字を をだに 0 か 物 詞 らんすきの 5 を讀にその さり 語 Ŀ ず歌 に物 心細 代詞 き筋 とは 也ま 灦 野にさほとる雉子 1 3 筆法 つよみ をし 1= な 一來の 也 らくとい 歌 ひき L よは E E と同 歌 とか 1 かっ 也下の二句 みと云事 け 撃去きるなり ども讀さ ľ 貫 2 1 詞 之が たと h し書 0 此 有 F 世 13 ば 萬葉 12 1-注 3 3

と定む思 俊成云屢鳴家鷄戀 みまはなくかけは我 、案此 書 行 や無 0 初 筆 便 如 く社 に申 0 詞 ても覺ても懸やすへ たるは爱にて察せら 不」可以底 一然ど も勝 n

仙 て歌 とも h 晴 芝 3 秀歌名歌 3 て定家を師 おこし給 捨 花 卿 3 定 2 T 候 文 あら 0 遍 いとそし 1 力 0 て六條家の 0 T 事軟 ず風 41 時 昭 0 幼少に 風 L 歌 萬葉 うつさ 加 道を 方 躰 カジ 12 72 ]1[ 孙 13 めら T Ł 2 3 成 0) 如 と賴 事に ては る是亦 學 美 歌を は た六條 れたり正 邪 して父に 驴 此 1 和 風 僧 U IE ならずとて J 0 それ すく 定 T 1 2 や此 を讀 共 李 3 本に それをそし 御 IE 褒美 0) 器 遍 か 先 家 卿 宇 13 てこそよけ たく こそ歌 用人 三位 を師 阳 12 [51] かっ 恩 段 0 Ó り是二條家 たてくそれ 歌 to 0 をよきと定家 比 10 0 3 古 後成 忘 心 1 和 訳 此 お 0 知家選性六條家 12 とし 給ふの 上申 今 りそ 風 30 は 道 すぐれ 人 12 しら 序 外 ひ給 卿 絕 て其 \$2 かっ 公實、基俊、 3 1-\$2 かっ 10 0 3 なる歌をきら と飲儀極 を寫して讀 計 條 風 、後悲俊 W 樣 Ni て後二條家 へ定家卿を師 3 \$2 思數 卵 1: ~ 師 ず是 を思 0 家 L T 訊火 詞 かっ 12 0 0 の嫡 1 御 3 18 風 を 3 俊賴 10 38 0 h と刺 善思 外 J. 2 悔 경격 方に お T L 12 候 6 條家に 3 た 好 かっ 孫 13 T は 12 0 3 をさ 13 風 なれ 12 21: 3 T 木 12 Wi i, か Mi は か 歌 12 7 7

0 0 答あ 和合して家を調へ道を守る訓 0 5 道とい も~草 風流 か 實躰 歌は琵琶、琴、鞠、楊弓の類にて月見、花見遊山 いと思ふも此 りしと云傳へたり年、憚是を以 72 のあそびものにする事とおもはれた ふは君臣合躰して國を治 L **榮雅の古今抄に手種といふより聞にく** かな る人を其席にては嫌 道の極意を知ざるゆへなり と聞 の民をすくひ夫婦 たるに誠なく 考みるに二 ふと同 じ我聞 るなる 一條家 ては 翫 歌 水

卿此詞を難せずして勝と定む又うちだにすさめ ン可い詠 小衣といふ歌をば褒美し給ふまたすさぶの詞好み不 も轉え すさぶ 元祿十一寅年五月日 せさは と古人の宣 すればまよふ事のみなり すさむといふも 上古の詞也 ひしとも被中 露寒軒入道梨本隱家撰之 同 じ詞 し事あ 也建保歌合 りか 様に詞 定家 麻 0

好みよむべ

からずとあり今の

公家衆讀給

ふ事也

しき

と云 身の 此 W む作する書おはづかし茂妥が獨り言僻言 ば歌をもよむ事なく此書の趣のごとく僻言をかなし はず無學無智にして道理に通じ歌學をもつとめざれ 齢七旬にあまれども嚴寒をふせぐ無便薄衣を著して なし常に筆を友とし れば非人ともいはれず狂人かといへども猥なる行 ふ有紫の一本若紫隱家百首庄九郎物語も茂睡が 梨本といふとぞ乞 あた 冊は梨本茂睡 くまる事なし玄か が作 て煎茶 也 食のやうに 庵 0 0 れども是をうしともおも 前 んでその 1 II) 5 梨の木一 へども此 身の樂と しらべ 本 書を見 など 有 跡

元祿十二配年七月日

從五位下源朝臣

#### 和 歌 會 TE

兼 H 廻 ヲ 7 ノヽ ス ~3 3/ 書 樣 如 左

谷 右 出 披 和 好 席 讲 歌 度 賜 來 花 度 候 w + 候 六 也 日 未 風 情 刻

月 八 H

某

入

ヲ

Ξ

也 第 書 公 テ カ 首 ク <u>-</u> ノト 遣 字 HH 小 18 ス 省 事 几 ツ w )V ス 事 \_\_\_ 也 字 7 = ナ ナ 省 惣 1, 間 ナ 3/ ٧, 題 シ 短 唯 7 = 題 1111 題 ヲ E テ 1 21 ヲ 7 丰 Æ 廻  $\exists$ = 書 テ ク 1) カ Ш フュ 文 書 次 IJ IJ ク 7

1

\_

7

バ

當 程 カ 折 H キ 也 陆 = 刻 Ի カ 各 卷 7 也 1/1 參 會 程 叉 杉 カ 3 IJ 子 原 テ Ŀ 引 懷 7 合 紙 押 7 ヲ 折 Ł ラ 記 紙 ヌ メ = テ 持 Æ 上 參 出 ヲ ス 懷 紙 4 Ħ. ハ ク 分

> 上 \_ 知 席 ヲ 用 ヺ ク 之物 ~ 1 册杉 不原 2]: 杉 灰當 原 折座 カ 知 HIL 宗

别 帖 IJ F. 除 ヲ H ラ 見合 ヲ 三用 ク = 7 7 水引 丰 ク ク ク ヲ 12 コ 意 テ ヲ 1 ク = 1 -}-E 右 内 ヲ 2 テ ク 1 ケ 7 3 Æ  $\exists$ 把 ヲ ク ク 1 7 ŀ Æ U ヲ 文臺 花 1 餘 丰 =>/ IJ 7 ク ~3 Æ ク 収 又 3/ 丰 1) 合 1-分 7 义 1 1 的 1) 也 錐 1) 丰 1: 水 杉 1 1 ヲ Æ 1 Ti TE. -似 石 1111 7 引 原 \*1 ŀ 小 砚 -處 交易 ヲ 牛 刀 E 紙 :E Ti + 1: [1] 排 短 4/1 7 IJ ŀ 砚 候 1111 ナ 折 板 所 ·E 砚 近 雏 1 115 Ti }-V 77 ッ 1/2 7 1) 11 厅 -7-小 持 外 杉 5 ク 如 ナ T. 70 文章 砚 此 12 カ 1.7 1. IJ 1. 1 ti 1; 7 ス 内 136 也 37 牛 4 合 æ IX -1: Ti 處 issi 水

島 會

カョ

又

1

九 mi

繪 本

像 貨

= 住

テ

Æ

ク

~ カ

北

1/2 浬

席

押

板

JE.

-

吉

名

號

又

左

押

板

IJ

7

牛 號 體

花

7

香

爐

7 力

置

13

脇 .7

文章

7 立

習

洪

Ŀ 洪

=

F

杉

原

帖

ヲ

沿

原 耸. 前 王

本館

○瓶

○婚

17 砚 所 文學 分別 世 11 當座 所 砚 ノ頭 Υ'n 711 A. ·Ti 11

然 時 事 テ テ 册 短 7 座 E 定 題チ IJ **3** 册 其 題 カ 時 儀 題 認 折 メナ テ 折 IJ ダ 12

臺ノバア 板 立 左 ヲ 座 數 テ 411 1) 7 下役 蘠 IF. 袖 ン + 正跡 ッ 偭 1 U ッ 面へ直スモー 內 半 講 = 座別 ~ 取 F 間 7. = 師 = 21 子チキテサテ文 7 文臺 入 宗匠 テ 折 ~" テ 文臺 别 テ上 カ 着 指 ŋ 儀ナリ 1 = ヘガロシサテ上(頭註)マヅ文臺 ナ 前 前 座 圖 座 ラ右 ハ 延テ杉原 = ス ス = 讀 直 至 テ ラ脇大 N シサテ上ナル現行が交毫ニ兩手ま 也 シ ŋ 帥 文臺 上也着 二座 7 ヨノル列 水 上 ッ 杉 ヲ ヲ ヲキ ナ 原 取 座 シ時 紙 ツ ク 力 宜 チ 短 テ カ ケテ 其 ## 此 ダ ۲ 板二文 b 時 懷 ヲ チ N 紙 ソ テ 臺下硯 正 押

前

持 短 杉 枚 収

次

册 iv

右 シ = 紙砚 限 ラ ノ置處 ズ 1 下 座 1 方 1 脇 = ヲ ク 也

放 テ 次 取 本文 我 第 テ 左 1 ス 应 加加 前 席 • 3 ク テ 置 次 短 右 第 1111 ス w ヲ 前 短 加食 次 删 第 N = 次第 ヲ = = 硯 ナ 枚 盖 ŋ = 重 ラ ッ ^ 宜 並 子 右 シ ~" テ カ テ 1 手 ラ 3 ハ 題 ズ

力 ク 此 盖 ス F 3 u タ シ ナ 3 ラ 終 丰 ナ ブ 1) 1) N ス w

ŀ

#

=

右

手

=

テ

12

取

H

ゲ

""

IJ

テ

ブ

w

参シ " ~ デ 册 原 ~ 0 シ 我左 當座 "° チ 卡 次ニ サ ŀ 硯 ナ Ŧ 1 一座中 題力子 脇 フ Ŋ ŋ 及 1 終 力 尽 ナ Ξ チ П 前 ノ硯 V 汐 =/ テ盖ニナラ テ ŀ 短册 也 10 デ 右 IJ バ チ N K 脇二 ኑ 文 ク = ン 數 如 二認 丰 砚 臺 バ ŀ 是 返 V ナ n = ノ前ニチキ 上下 ク事 ベ文臺 メアル 也 役者此硯卜 フタ 一二遍 ス 7 V ゼ 八上二 ŀ テ 15 トキ ノドヘサ 並 題 入 = 左 次ニ ヘテ 杉 テ 記ス V 7 ハ文 原 ・チ ヲ 次第 左 手 7 如シサ トラ シス 歪チ 丰 ク ゼ 右 手 テ ~ 入 テ 宗 チ 直 テ 手 半 テ 7 匠 <del>-</del> ニテ 短 枚 後 及 = ジ

懷紙 立 レニ 此 脑 シ テ 力 シ ハ其 Ŀ 時 膝 5 ケ テ 宗 ヲ 方次 行 7 ヲ 折 端 三ノ一上 置 板 ス 1 匠 テ IJ ŋ 方 作 ノ指 t 禮座 左左 Ŀ ゥ = 1 7 人向座ナ 右 右 ヲ 向 7 圖 ~ 右 テ ス ッ゜ 1 7 = ジ Ŀ ŋ 左 向 力 1 IJ IJ 方 迄 テ 1 テ Ŀ 1 ス 3 文臺 鄰 F 袖 = ツ 座 7 IJ ゲ ナ 座 ŀ 3 座 1 左 V 開 ŋ 方 3 1 テ 懷紙 リ次 下 + 人 左右 ヲ 間 見 ヲ 膝 = ッ バ手手左 第 テ ヲ ヲ 丰 少シ 力 叉 出 禮 = 右 ŋ 方 本 懷 シ 方方 ヲ 右 立 紙 ナ 手 前 ナ 如 力 ヲ 持持 3 持 シ 手 置 7 ケ = ラ テ 卷 テ 少 ヲ 也 侧雨

和

H 席 座 サ テ 秘 拜 ヲ テ 脇 摸 ス 本 y = 流キ 7 叉 座 Jr. ヲ モデ ď アた ハ ズ " ク 下 3/ ツ 也 也 如 日 ナ手 及 立 テ サ 此 = w 1) 15 文 懷 デ ~3 ン 1 11 紙 膝 指 ズ 3/ 1 丰 次 250 273 退 又 地 サ 7 ~V 1 高 右 右右 ジ 7 キ 人 = 左 位 テ ク ジ = 叉 1 懷 座 テ 111 1] V. テ 持 人 ア我 + 寄 紙 4 り左 方 テ ヲ 7 ラ V 如 F 文 15 7 12 3 ヲ 臺 右 叉 ク 身 1 12 IJ ツ 隨 耳 抵 丰 サ ラ = ヲ ヲ 分 5 同 M 111 丰 丰 宗 家 ク 拉 遣 首 **4**11 テ 右頭 曾 V. 7 初 3 也 會 文 巫 也 7 テ 21

頭注 身 1 = 是 7 ŀ 開 7 本 ٧, 瓜 ク Z 文 奈 席 ~ 15 ン 1 匠 > 摸 1 巫 座 席 ---1 方 3 1) ^ 3 身 1) テ 5 如 7 是 開 左. 右 テ = V. 1 ナ ツ ۷ ۱ 73 3/ 1 ラ ゙゙ヺ 7 グ E w テ 丰  $\Rightarrow$ 

12

R

次 高 折 取 題 テ 3/ テ = 書 宗 役 ŀ テ上 7 後ナ 終 匠 者 カ 二外 ク 出 カ又前ク宗ニ サ 下ナ 面 ラ ナル 文 3 = 事匠 持 事 テ ナ 77 砚 チ折 ガ アッ 怒 1 儿也 ラ カラ 服品 1 ス ナ歌 光 宗 ---匠 ツ 7 \_\_ 人 並 右 \_ w 7 1 7 指 砚 w ラ **F**-111 1) 讀 知 11 祭 叉 1 1 ----人 5 杉 卷 校  $\exists \mathbf{L}$ サ 短 原 ## 校 7 軸 ツ F :1: \_ 枚 Æ 别 1.5 ツ 5 書 四

> 短 ラ先二ク IV ザキ枚ナ -1111 叉 事 = N) 上》 7 ソ 所方ニモ 毛 IL ヘ叉ア 1: 1 少ハリ其 前 w シカテ人官頭 111 \_\_\_\_\_ 卷 横 3 夕餘上或 7 7 セワ サ ノ座ハ 置き短三字を頭ア主教 探 丰 7 題 テ + 9 退 置 1. ルモ取ズド軸 云 ~ + 7 具 ルショ別 シハサテム 也 サ E ハ餘コア サ テ 7 リ人トル テ E 1] 二先二時 北 ナニテノ 四 砚 ル規設事 3 下册初3 1) 1 ツ キナニレ 次 光 ハサ北ハ 第 此》人宗 7 3/ ニルナ匠 役 テ = 枚ト定义 1 老 -1)-持 テ 11 パ此チ上

70 × 25 力 Ŋ 丰 谷 子 懷 テ 取 Ξ7 117 テ 紙 退 挨 座 力 拶 滘 12 =/ キ宗 題 デ V 部 >3 直 メア 次第 懷 文臺 1) 紙 テ ナ 砚盖 Ŀ チ 座 丰 F  $\Xi$ 拜 二入 = 1) ż 7 立向 v 並 12 テ 砚 =/ デ 文 7. 探 產 in. n 座 -)-F 前 1 3 1] ~ 7 當 出 图 N IZ 4 丰

身 尺 短 1) 手 ラ 1111 7 右 7 15 ク 開 ッ カ 1 F. 丰 1) IJ w ラ V. 此 1) 元 t ゥ 1. チ 方 ゥ E ili. 木 ツ \_ 四 117 小 3/ 1 安 H: 人 3/ 次 四 儘 膝 カ +> 1 懷 A ~ ス =>/ 行 1) 1 1 1-左左 12 右 · Le 也 y ス 3/ ]]茶 形设 4 ۱ر 1) 3/ tite 5 11 30 18 ナ 立. IJ 175 文亭 テ Tr. 阿 知 3 1111 足 1) 7 Ji =3 右 交 1

尤 ス 頭注 1-丰 H 区 12 ~ 1 挨 知 Ji 拨 1111 有 取 3 ウ テ 1) V Tr 3 3/ / 1] ナ 30 p 告 1) 7 メ 安 'n 此 1 座 3 3 ケ 170 地 宗 也 右 樣 w 匠 1 7 -7 ij 如 77 議 常 2 身 9 12 1/2 各 7 ~ 7 知 7 7 1 IV y 3/ ~

匠 ŀ ŋ 終 カ ラ V 1 モ Ł 役 = 3 テ 者 7 ス 餘 出 テ w IJ 硯 机 了 短 丿 f]]] 盖 ヲ 7 器 宗 量 1 仁 前 ヲ -持 工 ラ 叄 £\* ス 宗 テ

次 來 也 + 死 テ = 是 IJ チョニ 役 下 F 者 ヲ シ 牛小 タ テ重 ŀ 座 重 座 渡 1) 硯 1 カナ 便 A ス IJ ヲ ナか 次 次 持 所 ŀ リラ 第 第 = ナ 盐 サ ヲ ŋ = テ宗 砚 7 ク テ T 殘 枚 ナ 7 厅 ツ ク 17 IJ 1 杉 大 先 • 218 原 取 IJ 硯 サ テ ヲ ヲ ヲ 讀 下 シ + 座 枚 出 テ 鄗 退 七 ŀ 1 ヲ ク 前 18 2] 硯面 役 7 テ 次 チ註 7 N

ヨノニ料キハツ 紅 取 方 ッ 後歌 紙 þ 7 丰 力 -折 折 殘 ケ IJ w チ折 書チ ク書 テ ラ手 w 右々 1] 折片 折 ニル 置 ヲ シ t シ折テ目 叉 開 ウ テ ヲ ユ 歌 次 重 7 取ナ キ 710 短 左 テ 事 ヲ テ 子 p 111 F 下 渡 右 按 ナ ウ ヲ = 座 ズ ガ ス = = 手 折 ヲ 渡 w ラ 7 ŀ 3 = テ 7-也 # 横 ŋ IJ ス テ 墨 ナ ŀ 渡 料 = 中 サ 7 紙 丰 ヲ ス 3 次 ヺ ス ヲ ッ シ 入 枚 ŀ IJ テ 1 兩 = ヲ 硯 人 ŋ テ ヲ 渡 手 引 懔 7 テ 7 7) ス = 下 題 叉 左 ウ 1 ~ 出 臤 ケ ヲ ٠/ 3/ 沙 カ 短 サ 手 前 1 = 111 JU テ + IJ

前 心 至 S. ダ 持 N 題 ナ Ħ 心不案內 刀 郭 子 ナ n 事 テ ア 座 ラ 13 1] 座 テカ立 サ テ 料 テ 紙 宗 題

○巻頭卷軸ノ

枚 ハ宗匠叉 ハ家ノ人上官ア 短 册 別 = y 7 ル N ե ハ亭 丰 主 ソ ナ V ۴ チ > y 1 ラ 胩 × ノ様 事 子 也 此

當座 怒 出 シ ヲ = = 書 15 詠 丰 3/ 3/ デ シ 草 添 テ 座 テ 定 歌 清 3 中 シ ヲ 削 書 出 + 歌 テ ヲ 匠 受 靐 來 カ 3 ス ケ テ n ナ 丰 7 V 出 所 テ 前 座 #11 18 置 來 ナ サ = = 首首ハ三 テ 1. 持 ダ ~3 カ F 參 N シ ア ョ首 店 ŋ 座 w マチ ス z = 座是 分 カ w 3 事ム IJ 料 ŀ 3 也べ 1] 1] 立 紙 ク 丰 3/ 正 テ 7 ر ر 短 "" 1-1-1 短 1111 詠 111 匠 3 ヲ テ 草 ハ 認 削 硯 枚 **シ**/ ヲ ラ 2 = ヲ 持 拔 枚 ~3

書 渡 누 短 ラ 短 Ł ハ 題 テ 役 删 ヌ ソ ~ 者 認 P 書 シ カ ウ 取 次 メ = E サ 樣 役 第 終 ク テ v = 7 文臺 1.5 w ス V 是 A F ~ シ ヲ = ヲ 座 申 3/ カ 1 Ł 勝 前 出 ラ 重  $\exists$ ダ U 手 ŋ テ ズ ゲ 7 = 子 置 宗 テ 7 カ サ = 硯 テ 匠 カ カ 左 ハ 3 退 盖 IJ = = ŋ 1 1 手 前 書 テ ク 1 モ ナ 膝 入 短 心 = ソ = 1111 IJ v 拤 = 3/ 1 ス 長点 上 怒 ヲ ナ テ ^ E 叉 持 カ ス カマ ラズ ~ iv 丰 1 テ 墨 中力 役 匠 3/ 1. ソ 者 座 半 = ŀ = = 1) 中 ナ ヲ テ

園園役者短冊ヲ入タル硯盖ヲ文臺ノ前ニ直シ置

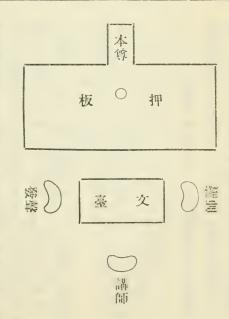
和歌會式

於

工 ラ ~ 置 ク ス ~3 テ ブ 次 \_ 惣座  $\exists$ IJ 取 1 硯 也 次 7 第 引 取 = T 座 è 宗 1 ヲ 厅 上 砚 = F 1) 重 子 -

文臺 臺 次 臺 テ 子 懷 テ 方 æ サ サ 讀 7 = ル下 紙 = ŀ 下座 讀 前 7 カ 1 本 テ 丽 7 H ス 右 木 サ 其 = 二 二德 せ 師 所 渡 ゥ F 文 £ 下紙座 置 出 1 121 ·7 方 111 輩ハ テ テ ツ = = = -せ ヨ上リニ 懷 文 此 也我 物 110 Æ 文 サ 太 シ 直 始重 紙 暗 剪 ス 3/ シ t 知 ニナの 女 ウ 硯 師 w 1 1  $\exists$ --= 方 111 懷 取 IJ 兩 向 ŀ = 儿也 懷 テ フ 紙 テ 牛 = 7 ナヨ Ŧ. 2 左 1) = 向 跡 グ 取 7 7 紙 校 ヲ 短 ١٠ ì -3: ヅ 披 # = 1 w テ 7 ッ カ 1/3 方 文 也 文 第 講 ン V ケ 1 ヲ ∄ 亭 下此 = 臺 1 我 我 15 入 =7 ŋ ~時 並 後 重 女 此 前 IJ 1 右 久 -サ硯 F 懷 時 テ = ヲ ヌ w \_ 文臺 ツ 紙 役 方 盖 フ 7 w 7 ヲ ٢ ナタ = サ ク 也 者 ヲ シ 也 7 U ~ ク 扩 + イ 懷 持 我 シ ナ Ľ 15 か ヲ ベ文 宗 故 ヲ シ臺 " 紙 テ u 您 テ テ ツ 左 文 文 匠 7 V ゲ Ti

> 出 1 テ文豪 .TE -10 1 右 × 1) \_\_ 安座 テ 安 115 ス iv 發 业 117 7 =1 ハノ酸ツ 7 强子 ナ會 丰 + = ジェハ 也多 發



Nipi Tire 讀 E 方 7 枚 = 師 角 15 膝 本 ッ 7 館. 7 1 ッ 右 腸 文 何 1 文 臺 方 7 基 T 我 ŀ 7 Ŀ 短 " 1 方 指 ŀ.  $\tilde{t}_{j}^{1}$ 7 = 1111 1. 3/ 張 7 = ナ テ 出 テ ---ŀ 7 カ ツ シ 1) ス ラ -40 1/17 テ 丰 オ 左 3 次 也 U 11 3 77 ---バ 惊 テ Ŧ. 1. 7 テ テ 紙 我 定 193 ヲ 7 -70 28 ナ 紙 丰 1 F. 3/ IJ \_\_ Ŀ 横 右 ----191 :3 テ 我 5 IJ ナナ

サ

テ

師

臺

方

右手

前

ウ行

ッ

ŋ

講テ

安

座

師

砚

1

盖

此

時

1111

ヲ

ŀ

テ

ス

グ

=

役

者

渡

ス

~

3/

役

老

出

デ

取短

去

w

~3

シリ

7

呼

ス

尤文

新

官 左

名

ヲ

呼

コ

ŀ

\_

聲

也

師

出

テシ

文講

次

役者

7

匠

前

ウ

ツ

シ

7

ク

12:0

如

讀 叉 卽 テ 歌 ナ 1 ウ ケ ツ テ テ 110 2 ス 文臺 讀 居 次 右 如 ラ 右 生 下 ガ 二本 師 110 18 ヲ 3 ナ我右 ラ 迈 我 郇 又 サ テ w ク 1 3 郇 1 讀 短 端 手 終 前 沙 = 前 カ フ 3 = 如 ス ノ 1 >> THE 我 逆 眞 丰上 也 3/ ナ 師 作 此 w V サ 7 ア左ルハ 中 如 前 テ 7 7 ヲ ズ頭 = 鋪 ヲ IJ ガ Æ シ 心下右 7 其さい N 取 重 方 テ 短 ク 也 本 3 力 F = ŀ w テ 座 皆 ## テ 本 短 = 出 間 子 ヲ オ ケ 3 = ナ 尊 引 111 出 ヲ 1-= テ テ U 3 3 ス 3 11 11 コミ終 下 誰 = 本 ク IJ ヲ ソ 力 = 3/ 3 師 1 7 3 ス 机 次 終 方 尊 ヲ 左 ク セ 酮 1 3/ 左 ア 下 \_ 文 IJ グ 右 也 第 方 テ本 ダ 作 1V 丰 ッ  $\Rightarrow$ V ~ 下算ノス方 夕 ノ返シ 向 ル事 惣 テ 手 手 次 ッ ~ 15 3 V 7 ŀ w 向 懷 3 テ ナ 兩 3 1 ソ ŀ ヲ = = ヲ ŋ + 懷 扩 ゲ 紙 重 短 手 テ 真 1 テ テ上下 如 ケ タ ン 3 ル其短終 紙 テ 療 テ 申 短 子 此 テ 1 3 ヲ ヲ ヲ 文臺 fllf 文 ナ ヨ タ 出 ヲ 3 7 ツ 紙 = = 册リ シ り折き 臺 同 ヲ ガ ヲ ナ グ ス 短 師 ヲ 3 压 右 ラ 首 也 1 本 丰 1 ŀ ナ 1 ジ 2 中 3 w 一枚ッグ 上 端 出 IJ 也 右 其 IJ ..... ヲ 共 应 3 3 ラ 校 終 枚出 1 手 7 3 サ = ヅ 七 7 = ^ ニ返アサ 膝 ゲ 我 折 本 カ ッ ッ = 18

> 役 懷 也 刀 五. 二刀 ヲ ス ス = 丰 w 7 ハカ 紙 分 事 " 持 者 = ソ 短 ッ 3 ブ ソ 懷 -113 テ ## ギ 1 æ = = 18 U 置子 表 閉 穴 紙 かテ 3/ X テ カ 7 ヲ ~ 宗刀頭  $\equiv$ 7 IJ ッ テ N ヲ ナ ŀ 4 w 閉 子下也 シノ持些 出 紙 折 ガ IJ ス JU ツ = トノギリト シキナリ文臺っ 特参ノコト物ニン関紙テトダル ラ 閉 懷 テ 折 ラ 分 丰 目 3/ 表 杉 紙 テ w 7 3 事 ウ 廣 ŋ 表 1 原 ヲ 11 ヲ = 1 マシリロ 脇 手 テ サ ヲ 通 ヲ 7 = 1 物ニ入レズ共の料ノ短粉ー 片 寸 外 " ツ = ハ 3/ 3 = ヲ リテ テ 懷 テ 3/ ヲ 10 11 w ッ ハ 持 折 折 正 紙 文 キ テニタ長 力 丰 テ 讀 次 寸 IJ IJ 也 3/ 1 1 退 4 凰 水  $\mp i$ . 7 師 如 ヲ ヲ サ ノノ枚、 ヲ = 2 ス 又 THE PERSON NAMED IN テ 重 サ ŀ 此 分 丰 ٢ 文臺ハ俊所、維勢リリル、維 也 ケ 凰 上 1 キ 統 テ 子 ブ ハ U 役 4 與 錐 也 サ ゲ 折 > ŀ ヺ カ 者 右 端 ヲ 押 表 テ ス IJ ナ 1 1. 方 小 兩 ナ 1) Ľ = ガ = 3 3 宗近小小 圖 刀 テ 切 テ ラ ŋ ク F せ 湍 ッ ヲ 閉 右 グ 小 横 ヲ テ 4 ッ

東

末 ソ 口 端 ス プ 切 サ 力。 チ

F

81 # 17 w 數 ゲ 111, 端 ヲ 3 ス 又裏 長 Ŀ ス 7 ク テ 裏 ケ ナ 表 記 = =3 3 2 牛 リニ IJ P ス 七 表 丰 ツ E\* w ッ = ッ 1 ^ ٧٠ 切 出 1 干 チ 2 穴 テ シ ス 70 ス テ ^ 12 ウ Ł\* 小 ッ F ツ 2 1 刀 丰 7 ス ガ゛ ヲ w プ ス ノヽ 穴 训 ٢ 也 ケ 又 3 ヲ 1 ŀ \_\_\_ 閉 テ 1 長 ツ 閉 ツ ル 丰 1 ケ サ テ \_ カ w 牛 \_\_ 力。 ダ 3 カ 折 テ

事

3 ヲ 懷

紙

E

閉

終 4 バ = 折 カ テ E 康 1) テ 7 書 7 車由 IJ サ ケ 7 懷 テ ス V 紙 IV 110 行 也 1 ン 裏 惠 \_ カ 書 1 端 略 ク 1 年 閉 作 美 號 1% #11 1 ホ 月 w 1 懷 H This ヲ 紙 書 = ヲ

右

如

7 用

閉

ク

11

テ

32

短 1 ۲ 也

夕

ツ

ツ

7

Ŧi.

分

ケ

次

ラ

月

次

年

ラ

パ

會 F Ŀ

カ 10

H テ

次 月

=

非 會

隐

1

會

ナ ŀ

١, カ

٧,

月 始

日 ナ

下

ダ 始

10 1 ッ

會

1

11

IJ

カ

E 時 ر ر

文

别

=

閉

E

1

紙

カ

ケ

テ フK ク IV ナ

南 引 也

7

ナ 筋 3/

2

ス

E"

ツ ヲ T

7

w

ナ

17 懷

ツ カ

=

悉

=

テ

白 懷

方 紙 = 丰

物



如

此 結 Ľ テ 付 ~ 3/

赤 筋 次 1 不 牛 カ ---脇 4 祝 寸 水 重 ク = = 水 分 引 短 ~ 言 18 テ 子 告 引 111 錐 カ \_\_ カ ヲ ツ 分 ラ 筋 145 ٧, IJ 丰 ナ = ヲ 7 赤 赤 閉 ズ Æ テ テ 1 \_\_ ガ 行 力 丰 ヲ 碰 テ 短 上 w 用 方 111 \_ ク テ V ツ æ 也 書 懷 分 道 7 18 ツ -と \_ V 紙 表 枚 ~ 13 ズ ナ ッ 2 18 517 通 サ ---シ ス グ 3 力 3 -1111 17 テ ス ヲ ブ 业 1] IJ フ 閉 持 内 7 ŀ ン 2 ッ Ŀ 終 年 自 ナ 干 7 Æ U ス \_\_ 號 30 テ テ \_ テ 黄 E" ツ TE. 111 1.Y-穴 情 テ 1% 15 H 丰 11: TE 閉 + 7 H 切 iv ン 7 带 贞 7K 7 ス B 35 7.7 The 111 ~ 7 5/ 4 :3 15 17 1. 115 白 y テ 表 水 = 1 赤 末 7 引 LI 元 1: 7 ス 黄

年号 何 月线日 150

是 上 書 7 3/ 真 終 中 テ 文臺 = 7 丰 1 E ソ 1 -1: 惊 紙 知 ヲ 111 折 7 ナ 1% 75 ラ ツ N. -Ti 子 カラ ヲ 牛 7

右 左 11 1 ア主 手 手 ル役や本 がカリ 現其外ノ 枚 = = テ 3 3. せ テ 枚 程中 物直役 3 サシ 取テ 左 3 ツ 右 去次 1 サ 膝 ル 1 = 5 ベ宗 シ匠 手 + 4 押 7 立 ソ = 板 テ カ 1 ン サ 下 ^ ŀ テ 崩 ^ ス £ Œ 重 111 I 閉 子 出 手 = サ 久 ナ 直 7 12 w 2 短 ヲ 短 ス 7 111 丰 <del>||||||</del> 12 11 テ 7 ナ ヲ

講 下 切 スヤ 同 17/1 מנ 臺 = ス ヲ 端 ゲ 始 ゲ 初 ラ テ ク ス 7 二 師 世 作 1) 向 テ メ テ テ 깘 引 岩 テ 구도 次 テ 1 Ł 1 四 3 1 E ∄ 批 ウ 兩 座 蒙 : 旬 = 1 か 叉 名 座 枚 ツ 手 y 旬 ス 事二 句 肩 乘 人 1 炒 12 2 7 ス 3 秘 事/ 正 1V 旬 カ 7 初 シ 次 ヲ 2 F 切 ズ r **シ**/ ŀ シ ١, 15 E テ 旬 下 テ 2 ラ キ 力 力 次 イ 左 衣 結 IJ 1 3 7 11 ズ Æ 3 = 右 臂 紋 器 局 句 iv カ = IJ 3 名乘 E 叉 IJ 且 テ 2 1 7 ヲ ハ ۱ر 叉下 句 膝 脇 1 7 3 ツ 3 ٤ 枚 仁 キ 間 ヲ 3 下 ク 3 = = 微 X 初 7 7 ッ ヲ 15 7 X シ U ハ 聲 テ テ ゲ テ 丰 15 t w ٢ 3 工 樣 身 IJ = 省 ラ P H ズ E ` フ 句 3 ヲ 2 シ 2 Æ 3 名 3 机 IV 丰 11 旬 1 ~3 ----正 ~ Ħ 端 旬 ウ 1 程 シ シ 1 1) シ シ ス 歌 作 文 旬 7 ス Ł 7 ゥ

> 返乃 又 中 = 别 V 1 111 7 丰 11 首 ゥ 省 交 浦 儀 カ ヤ 1 平 詞 沙 ウ ŋ 至 7 ナ セ 屯 E 師 1) Æ 事 賞 懷 ili 7 नि 机 E シ 1 7 紙 返 題 ク 7 3 X 知 1 额 IJ 迄 ~" 又 iv 同 丰 V = 1 懷 進 名 人 崇 1. シ 和 同 ヲ E t 紙 ジ 7 毛 歌 3 炒 3 1 講 叉 懷 ラ 短 1 2, 3 3 2 ゲ 4 事 紙 目 師 # 3 1 3 歌 首 遣 Ŀ テ 手 7 3 7 = マ to 次 ヅ 10 テ ヲ ウ IJ 7 H 3 首 題 宗 ソ 2 = サ 1 3 2 7 名 ナ 也 匠 テ 3 事 ~ 1 次 iv 7 返 惣 ヌ 丰 乘 **!**" ホ 目 振 111 事 名 1. シ 遣 風 ソ 舞 サ 次 返 貴 也 懷 放 4 ナ 乘 1 7 V = 實 人 第  $\exists$ ۲ タ 1. 題 紙 次 V 2 高 吹 = > 7 聲 15 10 11 讀 題 會 位 歌 7 1 12 3 迈通 返 故 4 2 ク 歌 丰 也 師 世例 人 w

讀

師

座

#

1

官

役

机

發聲 役 ナ セ 人 者 人 1) ヌ 1 數 也 ス 本式 家 12 內 也 1 人 古 サ 遣 會 V F 役 1 人 也 シ E 數 7 家 カ æ ツ 1 人 事 外 子 會 机 ナ = ナ 然 多 7 ク 18 歌 ダ ŀ ハ 發 道 IV E 樫 人 略 相 ヲ 義 傳 定 故 略 會 實 2 3/

)V

テ

懷紙認樣

折

テ

第

折

圳

作

7

力

+

リ字

春 H 月 詠寄 祝 和 世 哥

名 乘

IJ

歌

力

丰

也

省

懷紙

ク 7 3

١,

3 1 7

IJ

下 作 ス

テ

カ カ 四

折 Ħ

折

目

端 出

ヲ

竪 サ 檀 ツ フ -~ 紙 ハ 武家 四 高 せ 又 ッ F ヲ 杉 = 7" 丰 以 原 折 テ n F 担 折 事 テ 庶 リキト 人 ナ 法 3 1) 7 小 -Va 折 ヅ

下 ク 行 終 3 名 ŋ 上 = 九 乘 カ カ 字 字 丰 歌 ク 1 出 歌 歌 ハ 字 順 シ ]-名 = 湍 半 九 1 字 行 作 字 \_ 1 力 折 眞 也  $\equiv$ 字 7 中 ワ 旭 た 1]

端 手頭 作 五. 懷 並 ツ 1 フ 句 紙 \_ 終 セ 1 加加 VI 1 7 作 ク = 字 w テ 春 行 机 ツ 名 グ H = 詠 詠 カ 乘 草 ク 15 短 和 1 3 歌 歌 E 同 1. =  $\exists$ IJ 事 カ ク カ 炒 = 是 行 3/ ヌ 1 1 事 To + IV 也也

テ

-E 3

不

墨

ツ

平

1

旬

7

ク

18

字

字

チ

ガ

٢

リ カ 1 乘 牛 哥钦 第 } 7 179 ユ ソ =1 IJ ケ U > 名乘等 15 折 終 ス Н IJ t ドリ ゥ 題ヲ Ŀ 折 也 -H カ カ 記 次 ク 牛 ス 1 ~ " 1 跃 F \_ 3/ 歌 右 ハ三 同 7 旬 如 行 1-ク 歌 111 折 7° 们一 ト句折カニ日

グ

也 12 福

1

結 B w 12 أنار 0 [1]

温真

春 題 題 H 同 詠 省 和 歌 名乘

紙り

二力

同キ

ジャ

春

日

同

詠

首

和

歌

名乘

題

題

題

数定 始 間 五. 也 リナ 目 始 Ŀ ナ = 力 1 也 也 ラ ナ 折 丰 省 間 ユ 如 樣 ラ懐紙 懷紙 ズ歌 也 N 目 ケ 右 Ħ 枚 右 此 也 ケ IJ シ 方 書 サ 始 Æ 方 十五首 二行 三省 樣 テ テ 眞 枚 ノ紙 二三 枚 書 中 ヲ . 🔥 " 炒 イ 一枚ツギ 終 = ッ X 2 ッ **シ** 端 IJ 3 w X 丰" 3 テ 1 歌 省 事 作 折 モ ッ = せ 八懐紙 程 大 紙 歌 ニテ 次 惣 テ テ テ ヲ 秘 中 5 第 歌 1 1 カ = ジ カ 力 奥 中 歌 テ 事 折 紙 丰 Æ 7 ŀ 丰 テ 担 行 五 同 テ 也 ハ 1 行 第四 行 次第 同 四 首 折 クー ハー ィ ク ジ 省 Ŧi. 7 目 百首 クニ行 同 省 枚 7 力 以 枚 折 扩 IV ジ 目 目 如 ッ 目 w 卷 デ 紙 七 此 毛 1 1 也 = 行

折 紙 如 目 此 目 ŀ IJ 始 シ ŀ 第四 懷 テ 間 ニ三首 次第 小 シ 折 右 カ 目 ッ 題 丰 丰" 3 間 ナ ユ 七 = 折 テ ケ テ 1) 端 テ 歌 サ 15 V 第 テ 始 作 Æ 終 少 ヲ 力 1) 右 丰 折 折 枚 名 目 歌 ラ左五 乘 3 1 セ 第 一首次 第三 テ 首 カ ク 折

云也

# 新摆莵玖波集

朝臣 伴の 公任 りに こせ 0 n 月 な 3 ٤ ち 2 しかあ たは 度の ば 0 Ĺ 先だちもこれをもてあそばずといふことなし業平 カジ 0) 家持 なら な h 卿 は な n 事はやまとたけ け はにはじまり其もじを五七にとくのへし事は大 3 財撰 もひ たゆ 'n 歌 h 共 は 3 32 ば花 お ふところが かっ 0 b か はやまとうたの一の體としてその て人の をの る事 は るる ね U りまでは にもこれをまじへ しよりこのかたそのみちやくひろまり其 づきのさらになさけ有ことの葉をといめ 四 かっ 0) 0) 春 け 3 わ 世に 0 なにお なくし ることに 3 もみ 5 1 さか 0 3 みにか 5 0 ちの 首の ふ帝 か r[1 て花 みことのにい ねとつらねし b 3 比 秋月の うた 1= うばしきふでのあとをの なんなりにけるかく 鳥 なりその 0 よりこの のせられもろく 叫 0) かきとく を二人 葉集をはじめとして 心ざしをあらは 夜雪 ばり か よりぞおこり 何を上 0 L 12 うくば 朝 2 B てよめ 0) 3 To かっ しち み 4 12 お るや の家 りけ し風 のこ より b 12 わ な it 何 かっ

はなさ の連歌 なにが 保 式新式のむ かっ 南 きし玄うあ にてやみ侍 b もすべてか よく とになずら h すれすうちには道をもてあるぶ 12 またか Ш お 3, LO b juj ける其 Z 1 てことに n るに みそもじー 0 しげきつま木はひ るもくづ へに しの くのごとく b な をあつめて遠玖波集となづけ るなさけ ひろまりてさかりにとく あら 後 南 から 3 りそのほ ふるみことの ひろくまなびとをくもとめ 12 h 玉梅といひておなじお ねをろ あ しこき心ば おとい外にはまつ ねどたまく は かっ 0 つめえらばれたる事は もじを ili な 集 かっ 時 h なるべ 3 有 くとも 13 叉 C L いとけざりし むすぶつくば は 新玉と名付 ろふともつくすべ 12 風 13 1= 物雄 h L たいの まなばざる 10 カジ Ŀ よひ た、 あらずと を下され 3. 0 り引を かは 彻 13 IL 何 7 0 かっ 0 多 心ざしの 1 かず 3 ٤ 法 は か 5 13 しめ 0) 此 10 5 をさ b - 5 其例 12 -j. 2 なら 们 ā) 家に け j T jili H なりこと 3. 10 18 6 あ かっ は 11 30 1) 歌 3 1) 15 11 つら 6 さか らず 12 あ 10 す) は 1= 15 92 8 此 か b 0 t 0 25 h 3 やけご だ b 12 2 3 < 3 は V2 75 5 6 7)3 ち 12 3 任 今 31 か 木

しうへ h B よべ ざし は新 事この らし又 せんあとをおもへ とのへしむる事はかの莞玖波を救濟等におほ たへなる體を棄たる へるに の連歌はことばすなほにしてこくろわきが ことの り見ず後の ほ てま け のみちに んとなりか h りに かはい 玉のうづもれしひかりをみがきあらはさんの心 似たり < 此た かっ むとも ば發句の様に への句につく は 72 だれ をひ つは へざるもよりにことのをろそかなるをか T たくきくづたへ び 72 あざけり 古のた るよの か づ ろひ カジ まだ其さまをわきまへ得ずといへども くるにいき宗祇といへる世すて人 文和のかうばしき跡をおこしつぎか 連歌 らの n さひてやそぢにちかきよはひに る者ならし抑い 5 てまさきの は教濟 風體 は しゐていひすくむることの いしきすが なりてつらねうた ると云事をしらざるほどにやく がちからを合てもはらえら をわすれてあしがきのまぢか おは はひとへに一句の みをよぶ事もなければ今 く前 因 阿がころをひに かっ たをのこしてし の集にえらばれ つらながき世 たりてあ の名をうし たか 姿を がれ な E せあは てそ かざ りけ る世 びと h か B ま つ あ あ 8 な 3 多 72 h 0 0 道に 12 12 い るとい 5

たるし その神いにしへもなきにあらざれどみなことにた すさびになりぬる事はからざる身のさい こに山がつのいやしき事わざをかけまくも はの心をさとりしより風體さらに中興の 0) ほよそわた みことのりになずら みづからの心をなぐさむるた ふたちいのまりはたまきなづけて新撰党玖波集とい そこらつもれ しよりてかみ永亨のころをひよりしも明應のい されば此等のことのはをくきて外にもとめざりけら ふこれひとへに なずら たるまで世は二つぎとしは六そぢあまりの 集にはのすることなしちかくは宗 たり たへなる者出きてよく連歌のさまをしることの わ ふにあらずや時に明應四年六月 ざをたうとびらる る事はひとへ なるべ へにはなるべ くしの集 ること葉のはしぐ~をえらび しこれまことに君 ふかきまどの 30 へられ世 に道に きならぬをいまりん命をう 刺撰にとりもちいらる くもの ふけ 内のまくらごとくし のもてあそび人の よりとせんが為なりこ も 3 ならしさ 臣 おほ ż は ん御心ざし 時を得た 身をあ かし さだ わな り ば此 あ 、まに < こうか ひだ

-Ĥ-

П

きまへてこの風をあふがんものはこくろをまことに がらはうらみをわする、中だちとならざらんかも することはりにもかなひこのみちをたのしまんとも ゆふかさなれる跡をのこし森のこずゑふかき色をわ るしをは h Ð 3 かくえらびをきしかばうらのはま

新撰蒐玖波集卷第

## 春連歌上

のこくろを 霞につる / そらの / 上けさと侍る句に三元

むつき立けふしも春やきにけらし

御

製

夜年に春いつくの山をこえつらん みやこのみちにいつかきてまし 朝になりぬ雪のむらきえと云句に 家の百韵のれ

贈基照院入

臣道

素はいま山のかすみにたちそめて かすみたつ天のかく山はるいきて前 しらぬ水するの つる目かけにころもをそほ みの 3 i) 17 は 0) す  $\equiv$ 走 親

大

[[]

E

うすくこくかすめる山の朝なく よこ雲のつれてかすみや渡るらん たくなをさりにはるなおもひそ 前電 入道前右

關

自

大臣

るかなきかにかすむとをやま かけろふのもゆる春日に花咲て

南

前大納言親長

	柳のきぬの袖もなつかし	すみかまのけふりも雪もきこえなくに
勾當內侍	梅の花木のまなきまて咲きそひて	若菜つむこせのはるの、雪わけて 太政大臣
	軒は、月もかすむとそ見る	行袖しろくみゆるかはかみ
權大納言敎具	いろもかもあさちかはらに梅咲て	家の百韵のれんがに
	はなのはてこそふるさと、なれ	鶯の人くとつくるひとはこて 多々良政弘朝臣
內 大 臣	ゆきうすき深谷かくれに梅さきて	太山のかけの春のさひしさ
	山よりおくのかせそかすめる	篇やはなを、そしとうらむらん 從一位数忠
宗伊法師	あをみゆく野路のしの原雪さえて	なへてのはるもひかりなき谷
	かすみのうへのたかまとのやま	うくひすの聲より春をしりそめて 神祇伯忠富
宗砌法師	山はけふ雲井にかすむ雪きえて	梅のにほひやゆきをわくらん
	日かけほのめく雨のあさかせ	露かすむ山路の春のあさほらけ 民部聊政為
關白右大臣	雪きゆるみ谷のなかれをとそひて	わか葉にいつか木々の秋かせ
	山さとさひし春さめのくれ	みよし野や霞のおくは見まくほし 前中納言雅康
前關白近衞	なみにさへ花をそけなるよし野河	ひとへにはなのいろになるころ
	とけあへぬ水や又こほるらん	なにはにかすむきちのとをやま 權大僧都心敬
式部卿邦高親王	氷とけて打いつる波の谷の戸に な	なみかせも江の南こそのとかなれ
	うくひすさそふかせのくとけさ	しの、めのあしたの山の薄かすみ 宗砌法師
よみ人しらす	小まつ引野をなつかしみ又わけて	うらかおもてかころもともなし
	せりつむさはにそてそぬれぬる	山もとかすむはるのあはれる 權大納言實隆
前關白太政大臣後成恩寺入道	をのくわかなはもえやそむらん	きてみれは袖のらしけりみなせ川

-		
源政長朝臣	とことのさくらかりにとはくや	まれにある春たにあるを月のもと
けて	みの花もへたてのおもひなをかけ	花をやとりとこよひあかさむ 参議 基綱
多々良政弘智臣	ふる里と都をおもへはるのかりゃ	連
	かへらはさくらうらみもやせん	青柳の糸より細き月出て 前尉白太政大臣 大梁金剛院ス選
法眼事順	かへるかり山のしたおひ引すてく	4
	かすみをわくる非ての中みち	青柳の朝けのけふり江にはれて 法印行助
權大當都心敬	もしほやく煙にかすむ雁なさて	よるふねちかきはるの山もと
	うらさひしくもはるかへるころ	かけふかきくしの青柳つゆおちて前大僧正尊應
太政大臣	かすむ夜の月を名残のかりなきて	ふくもしつけき池の春かせ
	こくろにとまる春のあけほの	柳にさむきはるのあさつゆよみ人しらす
宗砌法師	夕暮のかすみの月はよるさえて	日のあたる枝さへ花のをそけにて
	はるのあらしの松にふくをと	梅かほるまくらは夢もあくかれて 背柏法師
權大納言官胤	寿の夜の月はいつくにのこるらん	おほろ月夜はさたかにもなし
	かすみあひけりあけわたるそら	梅かくのかすめる月を袖にみて 能阿法師
權大納言豐通	風の音もおほろ月夜にふけはてく	夜なくねはやなのさくかけ
	梅のにほひをかたしきの袖	梅のほかなる袖の香もなし前左大臣實
前左大臣女	月かすむかた山かけのあけほのに	四方にちるこくろは花のさかりにて
	おしとやはるをうくひすのなく	むめのにほひそひとのためなる御製
三品親王	かすむやと太山の月の春さえて	こすのまにおほろ月夜のさし入て
	雲もやとらぬみねのまつかせ	梅つほのわたりもしるくうち薫り 後小松院御製
		新

	Ì	ŀ
析		
巽	-	
范		ŀ
久		
皮	l	
粜		
色		1
		1

奥やまも花にひとや

はな咲ぬ誰につけま

をとつれをまつこ

花さけはさひしき山

たよりもとをきふ

行來しられてしけ

はな見はと契りし人

こうろのはなもはる

のとかなる世に相

さく花にとはし人を

みちしることもふ

花をそき枝に若はの

雨もつらしとまち

さきいつる花の朝露

ひける百前のれ 明應二年正月十

おもふかせふきあ

さきしより花にそむ

なす事もなきはる

あはれるふかしゆ

はうとからん	山のおく	るさとのみち	のおくもなし	き人かけ	やさかまし	あふをよろこひ	のをとつれて	みにこそあれ	もまちなれて	ふくれの春	るは心にて	のもろひと	きつみえて	そわひねる	んがに	五日北野の社に	うちかほり	めそしつけき
權大納言實香	式部卿邦高親王		前左大臣	] ] ]	<b>柳</b> 去 子 入 道	て	覺胤法親王		入道親王尊傳		後花園院御製		御业製			奉らせたま	權大納言宗綱	
しらぬみ山にたつねき	山またやまのはなにきにけり	日かすをは都のほかのたひにへて	花やしる去年も我こそたつねつれ	かすかにのこるやまみちのする	たつねよとはなもや人を思ふらん	さきぬとかけに梅にほふなり	さとちかき外山の花をけふは見て	かすむたかねをこえのこしつく	花句ふ山路のこけをかたしきて	ひとりやねなん様たてるかけ	花かほるこけのむしろに雨おちて	・かたしきかぬる夜はのころもて		こくろみかてらたつねゆかはや	なにとなくうへし花さく老の春	人はたのみてみつへかりけり	うへし時まちとをなりし花咲て 多	あふうれしさの春はきにけり
御	太	_	法		前		忍		道		宗		法		玄		少々自	
	政		眼		左		誓		空		砌		即		澄		々良政弘朝臣	
	大		專		大		法		法		法		行		法		弘朝	
製	臣		順		臣		師		師		師		助		師		臣	

文

1: 朋

よそにみし程さへくやし花のか 雲をもはなとみ 鳥の色音に霞 こくろそとまる ろこそまかへは 八雲たつ雲にをきふし きて見よとさくらに さくらにまよる出 かしにや思 らましの山 へさは雪にみらまはふなり く雲の きち 花をは雲にたつねきて 南 にる木々 373 1 1 まし で し事 すや こそくるくなか Illi あ か るき 23 なにしら 月廿 野 越 け は わ た か 0 3 は けく 2 0) 82 阴 風 0 to かっ 0 Ξi. むら やか やさる 0 Ш 0) Ш 13 0) 13 ね H 床 こえて ż する 0 3 h 内 た なし ほ 3 裏にて百 け to 3 h め 6 な  $\equiv$ 藤 智 藤 權 h 源 左後 法 前 n 大納 原 原 1 3 省 Ξ 蘊 服 来 政行 納 0 大條 入 ii 春 尙 言雅 親 法 \$2 朝 朝 宣 h 王 臣 師 臣道 臣 親 純 順 親 ılı け W か 花と月あひ 春 72 花 72 か 2 ふへをこすは おも すみさへは きの まつ夜に 2 柳 型 か ~月にめて花にくらさん 手まくら 1-かみ花 すみ も又 文明 せも 3 12 夜やの をた 12 かっ 2 御 か U 2 < け わ な V かっ かっ か 3 カコ んが に水 ょ は りわ 二年二 t か か わた つら あふころはまれに もつ は人と 的 난 た なの 古山 かす 0 は は カコ かまの よよそに する n な 3 2 るまとのやま 30 カ もはなに何 くら 0 あを 雪 11 のとをや 3) 光にうつも ならしと思ふ身 ılı 12 日こそなか 0) は 11-る月にたちそひて 0 路 は 111 やまの Ŧi. a) 3 柳 そう a) なひく 0 0 H 花 花 It 11 13 3 0) Z カン は 20 里] 12 か は け け カコ \$1 T かっ U) け T 12 T T -[ h せ b 症. 1= 從 入道 御 權 宗 贈慈 入道親王 1 大僧 太照政院 砌 削 位 右 まし 都 親 法 當 大入 け 大 心 道 製 -F Œ [5] 臣道 歌 fali 水

花

盛

h

Ź

雲

かっ あ

1:

か

3

しらさりし

花

3

2

花

のに

U たっ 1-

お

もか

It

0

花

0

かすみこ

め ほ

カコ

梅

か

鶯の木つたふえたははなもちれ はなやたつねてうくひすの 花もたくとふ人からをいろかにて さくらに、ほふたをやめの袖 袖のかはたれ 家つとにおらてすきうき花のかけ おちてやは いろ~~の花にこゝろのうつりきて うつり香をつく なけくけしきよひともことなれ はるをあるしの おもひあまるをひとなとかめそ みやこのほ みかきなすたまの御階は たちよるそても匂ふ梅か のこるやよひそ日かすくくなき 家の百韵連歌 ぬもかけは花こそかさしなれ むる **\**ふかきやとの あかぬ心は山さくら かたを霧なへた かは としもなき花にねて 春 みをきぬ あけほの としもな あさか てそ るわ なく かしや へいろ せ か きて 袖 關如 關 1= 前十 Ξ 前 前 左衞門督為廣 御 內院大人 白 白法 關 右 밂 左壽 右 白 親 大 大臣 大院 近 臣前 臣道 臣 製 王 衞 人かへる山路しつけきはなのもと 嵐 か L 猶そみんあたなる花のひとさかり 鳥そなくい さくらをとへはあらしふく 夕まくれとものまれなる花にきて 見し友もまれなる花のかけとひて うくひすの聲する ねの音を山路 つかなる野寺の花のかけにきて お こよひのか こくろとむる山のかたへは先暮 ふく山路 かへるひとよりのこる身そうき かすみにくるくかへるさのそら かねもあはれにかすむこゑノー なみたとなりぬ わか身もあすの世をはたのます もは けお て、戸ほそに月を見るくれ はろ ぬいろをこくろにそ見る つく のはなにやとかりて せのなにとふくらん なる の花にきくすてく の花にやとりけ しのふいに ありあけ あさけ花

0) おきて Ш h

宗

伊

法

師

前大納

言

雅

親

手折

三百六十九

權大僧都

心

敬

なり

平

貞

宗

朝

臣

從

三位

義

敏

權

大

納

言

前

大納言親

法

眼

專

順

前大僧正

應

前大僧正

增

運

花 Ш 30 かっ \$2 風 をまつに 0 n Da おもふ 0) とみ とて b ほ 난 か Ł 1 h D ^ 0 を花のさきこめ は つくきよるひる 6 かは し他 とは n 0 あ 山さとに しとへ 6 Ú T 玄 智 宣 蘊 法 法 師 餇

ことにみれ くはてしら ししる 12 花 お 30 は 7 循 か あ b かっ け 1 b 前後 關成 白太政大 臣道

僧

IE.

日

應

赤

お

なしこくろに

をく

ると

月

うき か はすこと葉は なから又この は よしやなく るの 花 ox 3 h 權

去年みしを花にとは 1 1) をは 3 になにとさた トや忘る なよ 8 h 能 [Ju] 法 師

たえて世 うら 2 如 に咲すは花 8 6 -5 とみ 3 ほ 200 h もうし つても か 肖 13 柏 法 師

やとりやい 0 身や むまる つく 13 ないに 12 7 吹 10 かっ j 11 か 6 櫂 大納 言實 隆

12 は

折

す花

15

2,

0

かっ

春 标

2

かっ

< 步

なる

花

1

6

02

世

12

0)

13

3

か

45

宗

祇

法

師

きて 法 橋 兼 祓

> かた 石华 たシつよは Ш るシし 0) 3 0) 13 霜 3 伦 4 1 は復 0) 艺 南 L か 0) をとたて 12 たうち T (is かすみ 1-

法

服

中 順

源

盛

卿

## 春連歌

花さかりひとひく~にうつろひて ちるころや花にせか 見るたひになをうらみこそくへ らし ふきそふたきのいはなみ 12 んよし野川 關 Ξ 白右大 親 臣 Œ.

はなもさきちるほとは つのまに人のこくろのかはるらん 十輪 院 大

ス

臣道

<

れなは

かくこえんやまみち

か へるさを思はぬ花のかけ は るのあそひそよるひるとなき E かな 御

月ゆへや花にも人のくらすら すてくやわれをなきになし うる

花とりにこくろなとめそ柴の かしみしそれ かとはかり 庵 おとろへて  $\equiv$ 밆

みやこのあとのは にし の芳 野 のみやをきてとへは なのひともと 入道前右大臣

のはなにやまかせそふく

ち る花の匂ふ かる、ほとをなにとしたは 百韵のひとりれ ため しの袖も んがに 式部卿貞常

かへるをきけはうきとり 0)

ちるまでを見るや恨の花ならん 寬正二年四月九 日百韵 連歌に

權

大納

雨そくくこすゑそ句ふやまさくら

つゆもかつちるはなのゆふか

せ

後花園

院

御

きのふはありし ひとのをとつれ

さくらちる春の またかせよはき野邊の夕つゆ 山さとくれやらて 藤原雅俊朝

ふるさとの わか はの萩に花おち T

權大僧都

心敬

臣

製

ちりくるをしる おくなをかすむ木かくれのみち へに行は花 もなし 智 蘊 法 師

ときは山嵐によその花を見て はる夢ならはしたひてもみん おもはぬつてにこくろのへけり

多

々良政

弘

朝

臣

親

王

あくる夜をまたぬ 時 しもあ \$2 かっ 12 は花 3 の雲 0) 別れにて かっ 4 吹て 前大僧

Ī.

義

運

三百七十

蘊 法

老木

新

撰

苑

玖

波

集

卷二

師

ふのはなそお

もかけに

よりる

權大僧都心敬

花 4 こくろとはちらぬ花をもふく風 5 ち 10 ちらすははなにい わする まくらかる花 る花 かっ うく 0 (C) は る物とさくらを風やさそふら よはき柳にたまるしらつゆ かっ ねてもねられ ふかきうらみそ身には ちりり これ ちる花は めうつくとも すれすなか カコ かきは h ひす せは な ね をさそひてすくる夕あ へき夢に É るは 月もいまは しよの 3 に行 事 ちらしと花 との 300 たに るの をお をや行 も花の 6 衞 まに花 ねよは 夢に < は 世 to W 夜 ري \$ は 枢 た 0 かっ 8 13 7 るもすく すり、 ならふ かこた かり 12 のたまくら ż n は 7) もそう 0) つも いに あ 散 3 け 5 n あ 0 なら 明 if をみて 1-和 4 < 97 なよ 6 h は 3 け h ٤ カコ 12 12 3 h h かい b 7 宗 宗 從 T 叄 贈慈 權 權 前 道 大僧都 大 宗 太照 소 議 砌 般 压 僧都 政院 長 位 重 大 法 法 法 大入 法 重 H 心 臣 治 師 臣道 師 師 長 興 師 敬

雲より

お

は

な

のたきなみ

太

政

大

臣

文明

十七つる

年五.

H

日百韵

連

歌

松

たてる

ili

0

かっ

たはらもの

とは よとみなき川 はなら とたえてはまたはなにやまか ちるはなを人やあすもと思 風さそふ花 のこるも見 あすも又とい は 物さひし 5 10 あ なこり きり とふは ぬをもみれは忘 かにいひ 內 < てはた すちの 裏に かっ るあとはかせものこらす お むなしきくれ 礼 柳木 お かんか かっ え J \よきもあ もひ てか E 0) かっ b 02 3. 侍 枢 せって 0) ふかきまとのまへ h 花そちりくる のきも 3 (D) Щ にさらは 0) ちは れし ふく 花 連 ひても 2 ほ つの 1-しきもなき世 歌 はうら 10 北ち かっ 風 かっ 東し をと る花 なし \_ ふきて j なら 0) ふらん たん 4 8 b Š は 1 t 3 てよ  $\equiv$ 權 1-省 宗 法 關 Fij 大僧 T 道 È 關 [][] 柏 動 IR 親 È Ti 都 E. 法 親 法 事 近 大 心 道 Œ 衞 敬 filli 師 順 Įį. 水

つ咲ていつかちりな

ん山さくら

關

白

左荐

大臣

延德四

月十九

日

かっ

のえさるの連歌

1 大

臣

敎

忠

世をすつる身

0

ちるをたに人にしられ 春ふかきとを山さくら花ちり さくらにのこるしかの山みち さきちるはなのふたむらのやま 花ちりし跡をそらめのみね はなちるあとのむらさめのやま はしめをはりもしらぬ身のうさ さひしさつらさたれにかたらん あやにくにしたふを春やかへ か葉はさらになよ竹の かへらは たれか たくひこそあれ いやその き雨に花 かけは雪なから 雨をよ 3 もかけ n かっ Ш ひもなし る聞 きなけ郭公 るら もなし むか かけ 櫻 の雲 Ź 12 T 3 らん 前 贈慈 源 能 權 法 前 御 入道親王尊傳 大僧正 太照 大僧都心敬 泰 關 橋 阿 政院 仲 白 兼 法 大入 朝 近 增 臣 蓮 臣道 載 衞 師 製 おのへ 花ははやのこらぬ あ ちる花は さくらに 花に人風もふきあへすちりは ちるとみて歸らんものか花 あらしふくひは ゆふくれふかしさくらちるやま お け 山とをく雪をはらへは日もくれて 見 やまもとかすむはるの 世をうしとおもひはつせの山こもり なけきしゆ 春 思ふともわ すれ 8 Ó と友との名残 る!へ老 永享五年四月仙 3 のかねにはな カ n とめぬ心のたよりに もろき入あ かっ は ね せ には お め かれ のすか は は らか奥の花ちりて のさむるは し人 73 6 おほさよ よしやか かけに鐘なりて ひの 洞に人 たとそなる お 月夜の おつるくれ つる は あは か かっ やま りの なこりにて ね かっ 0 々めして侍し連歌に らめや てる かけ T n なさ 世 ž 多々良政弘朝臣 前關 前 從 關 法 宗 道後 前內名大院 白 左 橋 잺 位 右

法

師

臣入

近

衞

大

臣

花

おつるころし

Ē

古郷の花にとは

兼

載

つらきよそめは

見

今朝みれは夜なか

ちりしける花の木

あとこそみえね

かこくろとやお

V

すの

古枝こそちるより花の名殘なれ 前關白太政大臣もろくちる老のなみたを花もしれ 智 蘊 法 師むかしのともと春になれつく	すよ花こそなこり去年はらぬはかりあふこといとく花ちる比やうかつの時がは春にまされ	・ 一手 は、	あらはとはかり花の散をあらはとはかりはなはちりけんないとしばなばちりけんないである	すとて花を吐よにかけからめやはなのちけからめやはなのち
存さのはふるとしもなく晴もせて 前 左 大 臣かすみにもれぬ四方のやま~ 贈従三位教弘のはする日をもえらふたきもの	瀧なみのよるの春さめふりはれて 宗 伊 法 師をそ櫻いつとて春に待たるらん 式部卿邦高親王さくかと、へははなもなきみち	のこふ人	へち刃わかさとにす へちあるしのけふの へりあるしのけふの	ちるさとは世々のまつかせきこゝの誰かいにしを残すたうくひすのゝこるひと聲

つは 草の 過 あさ 3 ゎ さくらちるふる ひともをとせぬ春 下もえの やわらくるこくろ かてにすみれ け は つくをか かはのく またうち ふは 來も ひめ ちか 8 わか葉になつく 長享二年卯月八 すみに ちりてやとはさひしきは T カコ は には 草葉 にをきて侍百韵 くころ か かけに さて冬のいくかをくく 春 限 かの うの 0 和 ٤ 春 た 0) 1= 0 の河つらみつすみて ふは 3 あそふ つむ野を叉やみん 0) か の山田 南 / かっ さめ け つゆ かせの行する は へるむられ木 いつくに · 8 / る青柳 ・あら駒 日內 3 3 る は春にあ かすむをと 0) に水せきて 0 のやと は Ó いとならん か 連 裏にてやく 3 Ø 1 歌 カコ 3 Š. 0) るの 17 < 3 か à) 3 るら け るらん to えれ 0) 權大納 宗 權行 當 を 贈慈 ñ 正 法 よみ人しらず 信 の名號を 太照 長 腿 砌 根 納言雅 法 政院 言高 法 專 法 法 親 大入 衙 王 臣道 順 清 (III) 康 餇

> よふ子とりよふとて留 かすむ 身をうらみてやひとりなくら そらにたちてやちりと見ゆら 0 \風のうへなる夕ひは 3 春 もな 5 源 肖 柏 政 法 宜 餇

またきより むまれぬさきをたれかしるら たかの 、巣山をめに掛て よみ人しらず

山さとは花のなこりにとりなきて ゆふまくれこそことろうかるれ あたなるや又ことかたにうつるら 入道 h 親王

尊傳

製

は あ るの木すゑのとりの たらさくらの ひとり ひとこゑ ちる カコ H 御

山 いはぬい ふかみ人 ろにさきし山吹うつろひて も木するのゆふかすみ 參

つは聲 に井て 0 た まみつ 式部卿 議 真常 基 親 當  $\pm$ 

か

は

ふちせにうつ お 13 もかけはかは つのまに 過 るきし 82 らて賴 る春そきの 0 ili むか 元光 ひも ふけふ 

大

臣道

やまふきの花や幾へもおりてみん なきもの へなにかくるし 法

おら

れぬ水 は

10

うつるやまふき

法

則

行

助

三百七十 Ė

眼

紹

永

藤 折 Ш わひ 吹の さける北 3 はなれかたきはましは なみにとをく 82 かっ 13 きほ 0 2 をは 木 あ (a) 12 むか また W いはてこそし 1 ふは すゑかけて 0) 春 b 藤 3 0 0 < 0 花 म्ब 12 Н 12 多 宗 宗 12 良 伊 伊 政 弘 法 法 朝 師 師 臣

のいえく 12 2

たそかれ こか とたた 1= 藤 0 の色め む袖 < 0 あ かっ けにきて な

能

印

法

師

12 ちか 夜は り 田 あ V この 0 はなも 藤浪 いつか わ す 3 2 h 宗 祇

法

師

カコ め Ł あ かっ すく \$2 わた るそら 言實隆

春 ひすつくるよこ雲の 空

は

いまかすむは

かっ

りを名残にて

權

大納

お もひに よは る夕ま暮 霞

より

は

つか

あ

まり

月

r j

-

法

橋

兼

載

け もさくらに < 春 1 は あ な š 500 身 つともか こらす か 權

中

納

言

通

世

け ふ別れ あす P は歸る春のそら 權 大 納 魀 具

> 新 撰莵玖波集卷第三

夏連歌

夏にさくこくろや をそしとなにか ふか おもひは き山山 てけ ريد < b h 權 大 納

質

隆

いくへの雪をわ け 1 T 1-け b

殴つくく卯の花かきねみ ち見えて 御

まつひとわかすなけほとくす 夕くれ は たかすむ里 をしられ P Ξ 111

親

Ŧ.

製

は るれはかくる 月の むら雲

このくれをたれまたさら ん郭 公 太 政

大

臣

なけほと、きす月のゆ むらさめやたく一とをりすきぬ 3 < 12 C) 前 h

元

大

E

まはしのは h こくろやは ã) ろ

まちて見よ月 れそすむみ は 雲まの ね 0 い 13 ほ b 0) 雨 0 < 權 \$2 律

師

贞

法

師

質

隆

やまほとくきすをとつ のひねもやく世にもる またすは わ 12 をうら n 一時 もや て行 鳥 せん 權 忍、 大納

新	-	
躁		ļ
莵	-	
玖		l
波	i	
集	-	
卷	I	ı
-:	1	1

川のむかひのさみたれのころ		_		T	なかきこくろのいろそみえぬる
法 帮 帮 新	大納言及	常信法親王	整 議 基 綱	権大僧都心敬	左近中将公車
人の見る馬場のひをりときすきて 宗 砌 法 師くるまの右にのりてかへるさと云句に	いましする中につけがたかるべき句をあまたし侍て人のつつけがたかるべき句をあまたし侍て人のつあやめふくけふは都もひきかへて「従三位義敏草のいほりそ車をならえる	いつくともしらぬに引もあやめ草 肖柏法師むつましきまてなれる袖のか 智 閑 法師	雲よりあとのあくるやまのはこへろそなたのそらにこそなれ 宗 長 法 師	なきからない	ひとりきく太山におしき時鳥 灌中吶言元長ひとをまつ日のいくかすくらん

花 たち 夏か 夏草の 郭 た あ す むら j きく tz W たちはなに む h P は 寸 るよ秋 文明 ちさくてとも 3 2. 花 3 か 1" 8 た草あをくなみそすくし た 野 旅 3 E 2 0) 0 37 扫 に花 け こと -1--5 Ш 0 3 む, 5 あ か Ò 四年 は 梢 分 かっ H か かっ よとた もす 0 か 1) 15 O) 2 をとる 橋 0 b 0) -0) ないか と総 3 が大 14 る意 露を il 0 0) 岩 か ちきるようか ち 3 11: 立) 葉 1: (C) 月 か ちとまるやま 0) 1: 江 ほひ 薬 は たの £, ふく b 内 3 3 0) b 13 رمج 5 111 すり 12 ٤ 3 かっ かう 山 む郭 やと きって W رد E 寸 蟬 U) 花 U) 'n かっ h ti. て百 なと 見 るら かっ 世 H カラ なきて t, Ut 5 うって H 1 6 公 3 的 連 3 前後 歌 關成 村 118 宗 道 藤 12 前 御 大納 白恩 原 良 左 公 111 祇 太改 雅 政 大 弘、 占 俊 法 法 11: 关入 臣 朝 朝 宣 臣道 Ali 女 製 臣 胤 餇 臣

> 1) ごみ j かっ 水 水 身を うへ 产 か 2 E WO ^ か き行 h すみ L 礼 な れし は 3 13 Ш かっ てそ竹 たすくる か < 0 をよそに見 小 立) Pj. 13 稻 111 ili 包 は W 5 さみ 0 0 風 (1) ざな をと 3 か 30 かっ 0 たれ 1) 0 加 U b 0 1 寸 月 10 っしいか 演 南 0 150 0) 3 T す 0) 腨 To は 2 名 3 0) すり 残 3 AL 12 弘 かり 附 沙 70 to 111 1 3 1, 宗 11: t II. み人 良 (11) 111 711 此 4. 法 沙 朝 -5. 順 Hi fali

蛮 さを鹿 たっとか 人ここひとを O つえ 0) 0 うめ 3 3 3 < D v) 13 1 な鳴 まときてら としも さむとは か 化 3 消 ]] すら 古 さけ 75 枢 0 弘 13 Mi 4 洲 (11) É 11/1 近 德 良

事 は かり te るは 3 つまてか か 3 しより 30 益 も 居i か かう もひ そあ 寸 15 10 7 は か (1) ね かう 號 寸 いゑを出さらん 南 3 凉 0) 夜に じき T 可大 1 江 清 御 卵 邦; XIL 製 - -

新	1
撰	-
莵	-
玖	ı
波	
集	
卷	-
$\equiv$	13

なつか

。 り の

やあ

0 0 月

住

よしは

な

0)

U

ありとみる程 たそかれときには こすよりうち 一村の梢は空に暮やらて 人の命もしるきとも なけほと、きすなとしのふらん るもうし身を秋 たるにのこるまとのともし かすむし 濱の きの る月もみし へにやすら に蟬 あ かっ かっ L 12 けみ へき つ花 b 弘 L たになれ も夏蟲我なれや くこの 0 0 け ほ W か の月 をい お なくこゑ ちかくとふ たるとふか 0) 3 12 うら かを ふた 夜 勺 ふ夏の b かっ るとふ 3 つる 1 3 0) 心 か H 2 0 水 ちのそら 0 影すみて ならめ ほ Ó 名 かっ 日 草 あ のみ か夜 け は 盤 1) É  $\dot{o}$ け B は 庵 < \$2 多 n 12 關 -法 7 從 大 源 法 能 々良政弘 7 藤 前 中 自 僧 服 服 [11] 原 納 右 位 都 言 專 專 長 法 當 大 慈 朝 雅 順 臣 子 世 順 泰 運 郇 臣 康 10 夕露の +流 かっ O すくしさをかたしく月 あ たり W とひ 河 秘 2 うすきたもとにかせしほるころ オレ きくもりゆふた みちく ふたちは 凉 ふたちのなこりの雲に月は すくしき風 まくらにちかきまつか にも枕 はほ 3. ふくるあ 奉らせたまひける百韵連歌 文明十七 4 L 0 かっ なるさと人すくむまつの影 ひかりも凉し すいみ きかせそ空に せく岩 ふは るしほそをとあらく かくれにみつひくくをと p ふもとをめくる峯 とちきりこそすれ ã の秋 年三月廿七日 か かっ たる秋ち 根 てら せ人は 6 0 0 を 月 h 一波に 10 しら Ü 草のは は ふす は袖 12 な かきころ しらめ せ 風 0 3 つさえて 12 に内裏 6 / お t のこる かち きて なる なし 0 12 T 松 T 深 宗 て大神宮 御 Ξ 贈慈 藤 宗 能 正 草右 太照 砌 밂 原 Birl 任 祇 政院 法 法 親 之 法 法 大 大入 臣 臣道 師 製 親 王 師 師。 師

21

ね

の没

日

ほ

とつふ

きえは

たれ

夏山

0

は

みち

け むしあけやなつのひかたの夕涼み 0 かうへなるふしのはつゆき せみのは をへは 山さへたかくなりやせん たみかせこくろせよ 山かすその夕涼み 多々良政弘朝臣 宗 よみ人しらず 伊 法 郇

夏ころも日もや、薄くくれるめて おりは たくへてふしにむかふ大ひえ へ水にみそきするころ 宗 伊 法 師

かた すつるや人 ている の流 るふねのみつのさひしさ 22 身を もやらぬみそき川 お もふら 法

橋

兼

載

みな月

みた

らし川に行

か

へ り

宗

長

法

師

せをみれはあさち流るへみそき川

宗

砒

法

師

新撰蒐玖波集卷第四

### 秋連歌

秋きぬと思ひそむるやいろならん 荻 雨うちそへき日くらしのこゑ ふくかせのうちそよくこゑ 前中納

言雅

脹

伊駒やまくもふくかせに秋 うかるへきをそことはり たちて 门

柏

法

ß

IJ つゆ のふるきみやこに秋たちて 法

橋

飨

被

いまたたひなるゆ ふくれそうし

まつ人はこ つしかさひしならのふるさと ぬふるさとに秋たちて 法 眼

事

順

柳ちる佐保の 行と來とやすらふまくに夜は明 inj か せけさふきて -六

祇

法

師

つかあきかのは なしをしへをあまたにそきく つ風 0

能

[in]

11:

師

心 敬 15

秋とふくをきのうはかせ山をろし 風たにもまたそれとなき秋 は きて 權 大僧都

おきのはやまにうすき三日月 多々良政弘朝臣

		STREET, STREET
斩		
異		
莵	-	
玖		l
皮		Ì
集		ŀ
爸		-
邛		

け

七夕の あまの 星まつるみぎり凉しく夜はふけて 七夕のまとをのうらみいかはか かけうすきか 玉くしけふたつの星のわかれ路に 日くらしのこゑより秋の風たちて めにみえぬ秋かせたちぬみ うきはちいなるそらそあ 又袖ぬらすあきのはつかせ のかせ夕の 手なれぬことは風や引ら もるつゆしろししけき木かくれ ほたるみた いかなる中の いろなきこくろすかたにそか 一こゑをたのむおもひのたまさかに ふは は 長享二年八月廿六日内裏にて百韵 间 h あふ夜はまれにたえもせて あふ かきりをそらにこそまで 3 月に 72 せかはらぬ 72 るくよるのすくしさ は ちきりなるら n 2 ふきそめ 12 月のはつ秋に わ 秋 72 が行 すらん ねの松 7 h かっ せに h 3 法 源 前 御 Ξ 宗 權大納言 前大僧正道與 よみ人しらず 左大臣實 の連歌に 밂 眼 砌 友 專 親 法 實隆 王 順 興 師 製 荻に風いつよりやとりそめつらん 荻ふくかせにひくらしの聲 さをし 72 下葉いろつくにはのむらは うちはらふ人はよもきふ露をきて 露さむき野へのあき萩ちりは 月とかせとのにはのをきはら ねさめは荻のかせもかこたし Ш か袖をまちてか句ふ萩の 秋といへはこくろもそよと思ふ夜に 山 ちきらぬものを名こそたちぬ つゆもまたひぬ野へのあさ霧 つくしと身をしる老の秋 はなれかたしやふるさとの秋 こるほたるやかりをまつらん ふるきみやこは見るもすさまし にやかへるさをしか 文明十四年六月わかんれんく さとにちきりかはらぬ 1 かの れするやとすさまし つまとふ野邊の萩 聲 花 秋はきて の花 く秋 てい ふけて n 贈太政大は一を云句 の中に 權大納 前 宗 源 權大納言高清 法 宗 源 法

剩

法

師

言豐通

宣

胤

秀

滿

秋

あ

印

行

助

左大臣

女

順

法

師

臣道に

橋

兼

載

薄ちる尾上の宮のあとふりて 権大僧都心敬いろのちくさにはなそうつろふ 徳尉自太政大臣むかへは月にひとそまたる\ か続うつろひ小鹿なく道 小萩うつろひ小鹿なく道	女郎花たかねしのへにしほるらん 肖柏 法師せみのねる花のとこ夏秋かけて 法眼 専順	矢田のへあさちつゆふかはいるさをなにいそくら	馬草にかるやかやはなるらん 和長朝臣野をとをみ露の光りのあくる夜に 菅原のの	しのふのつゆにわたる秋かせ 三品親王 すみまさる月は軒はにかけふけて 強 法師 法
むしの音みたれ露さむき袖 参 議 基 綱むしの音みたれ露さむき袖 かとりける月は夕にかけすみてがにがにかいまたに蟲鳴て、御 製	おもふかものをむしのなくこゑ・・前大納言親長ふるきみやこの秋の夕つゆ	はたゝ夕のおとすなみたにてさちかはらの人のおもかけたゝふるさと人のゆふへにて	むかしもかくはたれうからまして、憂事をつくる涙に袖濡て	秋はくや尾花くすはな移ひて 前中納言雅康露の末野に蟲うらむなり 法 橋 専 存のはれくらふるむしの聲々

祈	
髁	
范	
玖	
地	
集	
它	
77.	

荻に回ふかせ雲にかりかね 權大僧都心敬	能阿法師	やまもとの月に鹿なく夜はふけて
我こくろたれにかたらん秋のそら		岡のかり田はひともかけせす
ゆふへの雲にかりの一つら 多々良政弘朝臣	宗砌法師	山もとの野を夕くれにしかなきて
山のはに秋のおもひのいろそひて		松には風のこゑそしくるへ
くる雁の聲にむかへはやま見へて 参議 重治	太政大臣	鹿もなき蟲もうらむる山かけに
うす霧はる、あきの中そら	j	秋もなこりのゆふくれのそら
つまこふる庭は我のみねをなきて 入道親王道永。	贈太政大臣	蟲恨み荻の葉そよきふくる夜に
ときはのもりは秋もしられす		すいろに月のかけそさひしき
なかきよもかれなて鹿の妻戀に 式部卿邦高親王	三品親王	まつむしの聲もほのめく月かけに
なひかぬ中をなにしたふらん		秋のこてうのやとる草むら
るのれんがに	御製	きりく一す月すむ庭にねをそへて
文明十七年九月十二日に内裏にてかのえさ		くさのまかきそつゆのそこなる
なれもしかあはてこし夜の妻戀に 磐太政大臣	太政大臣	たのむらしわか床近ききりくす
つゆのふる野はさくわくるみち		まかきは秋にあれのこるころ
あはせつる夢野のを庭音になきて 宗伊法師	宮道親度	草むらのつゆさむからし蟲のこゑ
ちきりを秋そかよひたえぬる。		わひつくみれは月そさやけき
遠くきく鹿のこゑにも目はさめて 権中納言經卿	能阿法師	すくむしの涙ふりはへなく聲に
いつへき月はありあけのころ		つゆよりあまるしのへめの月
ゆくつきに鹿なくとやま雲きえて 道盛法師	權大僧都心敬	むしのなく野邊の遠山いろつきて
木すゑのつゆにわたる秋かせ		しくれのあとの露そ身にしむ

3 古里をうか 夕つゆ か あ あ 月まつそらにか すくきに 真 首 b 人 かっ 宇 さむきよるの あ 治の ほ < رد 0 13 砂 やこし つきの雲には B すり らわ n < 0 カコ な の色こ かっ かっ 露を なみ て匂 る闘 b 3 かっ 12 なひ へらし わ れて來 き雲の に露 0 2 步 ろ 12 30 12 き野邊 たを ふ萩 るは は な 12 ふく秋はきに 邊 をさそふゆ お b < みち 3 ょ 5 のこすゑ色つきて B 0 は 0) ふきみ 自 は Щ 3. もの 2 お 0 82 2 S. 0 秋 5 0 秋 15 とす うは 雲か か かっ のまくす葉 るあまつ もし もとをき山 0 かっ h 1= かっ りのこゑ は かっ か b 12 聲 雁 l) 3 b S せ 13-0 0 0 永 な け < は 13 は こゑ 3 月 風 か B きて 込みえて れる ち きて L 12 h かり 20 T h b 7 8 法 宗 宗 削 法 權 智 奈 日 大 大 自 FII 益 長 眼 晟 蘊 般 納 僧 左 IE E 行 法 法 法 法 專 法 大 義 宣 臣 助 師 師 師 運 胤 師 順 師 みね 3 やとすともみつ か あこやの すゑ野より とをき野 72 寸 3 か 夕か か きり < W わ غ را 文明十 起 かっ 弘 ta から か 和 文 て慈照院 則 0 ひや 野 [uÿ ili 3 3 は 智 は 12 うか 月の や月 松 0 B 0 0 十二年三月百 1) 柳 み 3 月さ 筆の 1= は は 四 36 風 12 か は 3 1 は 3 0 年 13 6 3 けそすく 1= は ılı 12 しい 庭 は 1 江 つけ < する薬 月そ は 道 な 13 < もとの江 むしそほ 0 題 さいく 月の 水でく 贈 1] 2 3 ることは ふもとの つる水 E す 太 は 侍 削 12 月 的 かか さい にそときく なぞすみ 政 に月 3 か 大 ER b かっ 6 け 大 僧 月 は 1 0 よ (臣百 寸 連 かっ りを見よと 晴 13 H め 行 11: 時 3 3 入 7x 歌に にて 道 tr 見 7 B T -[ 韵 則 -7 かっ 物 0 0) 式 17 權大僧 桂 18 連 長 113 丹 部 削 日 法 1/1 歌 谷 -k-卿 律 いふ何に 派 服 治 納 0 邦 部 fili 坊 初 K 法 事 ALT 忠 雅 H 親 隆事 說 脹 順 與 師 泰 Ŧ.

あ

九重になをこの秋の月をみて 誰も皆ぬるよの月をひとり見て しつかなる心を月のやとりにて 月みれは心かよはぬかたもなし あくかれきつく月を見るとも すみのほる夕の月のたかま山 みれはたくなみたそおつる秋の月 ひとり月みる秋かせのそら 夕月夜やまのはなくはなをやみん なれこしちきりいかくやはせん なくさむとおもひもあへすうき身にて 秋のあはれもたくこくろから かたのへかり路 わかあらまし さひしく見ゆ 人をうかれとなにかおもはん 夜にもなさけのほとはしられけり つくのさともころもうつ比 明 應元年九月十三夜百韵連歌 たるやとに秋風そふく 1 るふるみやのうち か つゆし なふ のきつ かっ くれ か 多々良持世朝臣 前大納 清 能 大 深 贈慈 忍 御 藏 草 太照 誓 超 阿 卵經 政院 大入 右 言親長 法 法 法 大 師 帥 茂 臣 臣道 師 製 月の夜はとよはたくもに先見へて 雲なき月はゆくとしもなし かっ 月まつ雨の小夜ふくるおと むらくも、月に憐れのそひやせん むら雲にいくたひ月の出ぬ かくてこそ月をもみねの秋のそら むらさめかくる山のはの月 ふるさとにおはすて山の月をみて 月をた けうすき月の行衞 あけかたちかくかりそなきたつ 中空にうつろひぬともまたしらて をしなへてよもつらからし夕ま暮 そらふくかせのこくろあるをと なをこそたのめまちはよはらし あまねきひかり入日にそある しくれ又ふるあきのあかつき ふきすさふあらしの跡のし ねさめのくちも夜こそなかけれ かた くうき夕暮の にの 2 かけなはなれ に雲引て あるし らん つか Z 7 にてて よみ人しらず

小

野

國

繁

宗

恩

法

師

法

橋

兼

載

權

大僧都

心

敬

Ξ

品

親

王

贈從三位教弘

御

製

權中納

權大納言實隆

從三位義敏	まとろみしほとは月にや別るらん		ほたるすくなき秋の草むら
	夢はとひくるあとのおもかけ	前大納言公夏	月はなをとを山かつらあくる夜に
常信法親王	すみわたる月は軒はにかけふけて		かくるおもひもわかれにそある
	月よりうへにたかき山てら	法眼紹永	いつくにか雲なき月はかくるらん
權大納言宗綱	月しろきあらしに秋の夜はふけて		夜はあけそめて雨もすきけり
	しもをさむしといこそねられぬ	權中納言言國	秋の田のほのかに月もうつろひて
前左大臣	みれはまた月かけ薄くのこる夜に		雲まにおつるかりのこゑく
	わかるくほとはわれもをくらん	源 尚 純	山かけに出しもしらぬ月ふけて
多々良政弘朝臣	月みれは覺えす夜半や深ぬらんを		たかねにおほふ雲はきへけり
	いつくのかねそかすかなるこゑ	藤原光傳	野邊の月草のはつかにけさみえて
法眼專順	さそはれは月の何くにあくかれん		行衛もしらぬつゆの秋かせ
	我やとからのうき秋のくれ	宗砌法師	むさし野にあまの原なる月ふけて
權大僧都心敬	ゆく人もしつまる月のしろき夜に		こゆへきするのとをきやまのは
	ふむとも見へぬみちの露新	玄清法師	ふくるよの月に雲なきあまのはら
肖柏法師	行かへるみちのさ、はら月ふけて		いかなるかたにしくれゆくらん
	木のもとすみにみねのまつ風	覺阿法師	さやかなる月よりにしの夜はの雲
前開白近衞	月のいろかせのあとより照そひて		おもふもかなしゆくするの秋
	おさまる秋とはるく雲きり	宗竺法師	さそひ行あらしや、とり夜はの月
	内裏にて百韵の連歌侍しに		空はみとりに雲ものこらす
權中言納宣親	月にそふ風のひかりやふけぬらん	紀光信	月そすむ雲をいつくにはらふらん

新撰莵玖波集卷第五

## 秋歌連下

こくろ引けふのこよひの駒むかへ 東路とをし幾日來ぬらんと云句に 砌

法

師

ふるき關屋にこゆる年々

もち月のこまくちいつるみやこ人 難波江くらしなみのうき霧

前大納言雅

親

あしまには月も船とやさはるらん 御

製

秋のなかはの月あかきやと

御

製

さやけき月をなに、たとへむ

やくさむき比はあふきもいろなくて

まきあけてちさとをかくる玉すたれ か 大やけき月をなにくたとへむ 前 内 大輪院 入

臣道

いつはありとも秋の夜の月

宗

順

法

師

なくかりやかくる時とてわたるらん

袖とひあかす秋のよの月

藤

原

Œ

盛

ゆくまくにいく里人になれなまし

杉の葉になか

は 12

か

前中納言綠光

やまはよか

の名もたかきてら へれる秋の月

號をかみにをきて侍し連歌に文明十七年八月ひがんに內裏にてみたの名

もしは火うすき月の夕くれ なみのうへ海のかきりも見えわかて しらぬ船路のなみそはるけき

三

品品

親

王

入かたもいつるも月をうみに見て 宗 勳

法

師

おもひあかしの夜なくの月 心にはたえたるみねもすみつへ こほりのしたに水ひへくなり

能

阿

法

師

難波江やあかつき月にかねなりて 法 即 行 助

三百八十七

47

ふるさとはよもきか月を枕にて 權大僧都心敬	物おもふ身の霧のしたふし	ふる里の夜さむの月にひとりねて 忍 誓法師	むかしのひとをいかくわすれん	ひとり見は月の光のあたら夜に 從一位富子	とふ人もかなつゆのゆふくれ	鏡山手にとるはかり月澄て 源 秀 滿	あふみの海のちかき見わたし	鳥羽田の月に落るあきかせ藤原政行朝臣	鴈の行みなみの空もなつかしく	常徳院贈太政大臣家にて百韵の連歌に	月やとるをのくしのはら露ふけてよみ人しらず	あけるおもひをむしやなくらん	はつせ山ひはらに月の夜はふけて 太政大臣へ	雲しつまれはたかきかはをと	前關白近衞家にて百韵の連歌に	さらしなの秋いかならん夜はの月 權大納言實隆	とは、や見はやころもうつかた	月すみのこるにし河のみつ 小野業繁	さむきよのあかつきかたにたつなきて	
庭をかれ野の松むしそなく	うき世の月よ見えしなかめし 法 眼 専 順	すつる身は水ふかきかけに庵しめて	身をしる月もありあけのそら 藤原景豊	いつのまに木すゑの秋と成ねらん	山のはを月にいくたひうらむらん 藤原正 種	おなしわかれのあかつきのそら	山もとのむら雲しろき月おちて 智 薀 法師	野わきのかせのふきやしくらん	あけぬまに大空めくる夜牛の月 藤原よしひで	はるけきみちの行衞しらはや	0	ねさめいく夜のあらましのする	太山の月におつる朝つゆ  三品親王堯胤	風の聲をさくにのみや残るらん	かりにさすいほりあらはに月入て 後花園院御製	すみわひぬるにかくれかの秋	たますたれ軒はの月にまきあけて 前大納言教秀	つゆちるかせに匂ふたちはな	文明十四年五月廿五日内裏にて百韵の連歌に	

三百八十九	新撰苑玖波集卷五
しはふかくれの秋のさはみつ 権大僧都心敬	かりすてし小田の稻くき霜さえて 覺胤法親王
名もしらぬ小草花さく河へかなといふ發句に	しきたつあとのみつはこほれり
さは水をたもとにかくる鴫なきて よみ人しらず	いなはいろつきしもまよふころ 前左大臣
あはれそふかき野邊のゆふくれ	はるかなる雲井のかりの音つれて
鴫のたつ澤へのみつのふくる夜に 御 製	野わきせし庭の月かけ夜さえて 宗祇法師
月まちいて、見はや秋の野	草葉残らぬ雪のしたおれ
小鳥とりそへかへるかりひと 前大納言雅親	野分せし今朝は何くもあらはにて 多々良政弘
露をもき萩のすゑはのうちそよき	おもひもかけぬこすのおもかけ
秋風の松に住つるこゑふけて   肖柏法師	ふきいつるをとは野分の草のはら 宗長法師
霜よりしろきたか砂の月	いは木なりともなひかさらめや
片うつら歸るをいく夜たのむらん 宗祇法師	千句のれんかに
草木の中のふるみちの月	朝かほの花のあたなる身をもちて 智 蘊 法 師
もすのるる間邊の木する秋ふけて 宗砌法師	ひと日もいそけあらましのする
さとのしるへも見えぬ夕霧	朝かほをさらにうきみの花と見て 存胤法師
あはれにも山田のひつちほに出て 玄清法師	なみたにまかふしのくめのつゆ
又うちそよく秋のはつかせ	しのへめの花の朝かほうつろひて 法 眼 専 順
をしねもるとを山もとの草の庵 宗砌法師	ひもとくほとも中のきぬく
秋さむけなるこからしそふく	朝かほの花もしはしは見るものを 關白右大臣
里遠きつくはのすそ田もりすて、藤原長泰	まつきえ行はありあけのかけ
うつすくみかは葉山しけやま	月さべや見し世の友をしのふらん 宗 砌 法 師

	こくろすかたになとかはるらん		さりくす	かすかにも残るやかへのきりく
後崇光院御製	秋のねさめに物なおもひそ	原利綱	つゆ藤	まきの葉しろきむらさめの
	月をのみ老のま、なる友にして		グ山に	きりたちて月ほのかなる夕山
御製	長き夜をかこつは老のものなれや	祇法師	<b>た</b>	まきたつみねのつゆのした庵
	なみたの月そ見るもはかなき		ん山の奥	かはるいろありともすま
前左大臣	ふはの関いく秋かせにあれぬらん	橋兼載	つはき法	露むすふみねのしらかし玉
	いたまもりくる月そともなふ		われ	月こそおなしひかりなりけ
智蘊法師	せきの木すゑの秋の山かせ	服專順	つつ衣 法	すみそめのゆふへもしらすうつ衣
	月めくり庭とりうたふ聲はして		2	こくろもあれな秋の山から
多々良政弘朝臣	暮わたるひのくまかはの秋の雲を	印行助	ん法	かせや木葉のころもうつら
	駒をとむれはかりのなくこゑ		はねて	山さとのさやけき月に人は
法橋兼載	秋の夜のなからの山にかねなりて	源法師	やまて 宗	あまころも身を浦風にうちやまて
	きりにあけゆく志賀のからさき		のうち	夜さむかなしふあしのやのうち
法眼專順	あまのとの明かたとをき秋のそら	蘊法師	5手智	よそのきぬたにさむきころも手
	神代の月もかくやさやけき		力をみて	ひとりのみおきわる床に月をみ
忍誓法師	里はあれて秋に隱れんくまもなし	權大僧都心敬		霧まよふよこの、堤日はくれて
	草木をてらす月のしたつゆ		杨	しほかせさむし行するの秋
前左大臣實	露をたにはらふ人なき草のいほ	阿法師	能	かたふく月にしきのたつ聲
	なにとか雪のうちをすくらん		学さめて	かりまくらわなの、原に夢さめ
前大納言雅親	草むらさむきやとの秋かせ	眼專順	法	夕ま暮きりふる月に鳴なきて
マナー				<b>著指英珍沙</b> 身卷王

い

憂秋や老のなみたの友ならん 秋はたくこくろの うきものとい 秋こそなかは老の行する なかむれは秋も心もはてなくて 心たくあ < なか 軒 さし野や なけや心を野邊の松むし ゆふへを人のかたみとやせ あさちかうへのつゆのさみ か 南 とはれてこそ袖 の人をもかこつあきのそら くさとまても月そさやけ かっ めくりうき世 かす見る今夜の月もあは は つとなりても秋は 木の なる めそめてや月もがなしき つくやまつか るも 露も か やか たに ひしそまこと秋の あらぬもうき秋に なみたとそ見 する なひ の秋 いろをふく風に は ふく秋 きは なほ ねの に逢ぬらん 82 n け つら か 0) 72 な n n 空 風 n n 權 宗 源 智 道 法 法 法 藤 大僧 原基 砌 眼 覺 蘊 眼 空 眼 政 一數朝臣 都 法 泰 法 法 專 法 泰 心敬 春 師 本 師 師 順 師 諶 太山 いろ くつ葉かせふく秋の つた かつちるも惜き紅葉の木の本に いろふかき秋のもみち葉袖 夕日さす木のまのもみち色そひて かた岡の木すゑをみれは秋 わきてかたえを秋 いろかはるあさちか 身をつくすまてしか 月 山ほとくきすゆ かりのなみたやともにおつらん 秋をしらするつゆのは 露 みすしらす成てうらみも お かは のか < 0 なし世にいかて心のかは 木のかけに 0) 文明十四年六月源氏物が 薬に村 れはれ行み なさけもしらてすきけり つらをお る秋のは 雨 小草のいろつきて かっ 50 め やまの夕日 ねの松は のもみち葉 1 原の かうつい 山さと 3 もこそなけ かっ 庵 な 山おろし かなき L ふけて ふれて b 6 たゆる かけ たりのことばにて るらん 7 世に 藤 權中 宗 法 宗 肖 平 智 藤原雅俊朝 入道親王道永 原 橋 砌 般 柏 蘊 納 政 言通 為 法 法 法 法 兼 臣 載 續 世 師 師 師 師 賴

Ш

-跡

前

[76]

自

近

德了

IE.

=

位

順

卿

h

前大僧

JE:

ジ

連

は 男庭なくとやまの この 露 かかか 風 音さむき小野 まさきち もみち葉の つし 月に あ 0 秋 は まさきちりくるみ 木葉もらぬ岩 永亨五 はち 枝のもみちいろようつる 3 b カコ なこり 御 おろす風 雨 1 则 せさひし いふも ひとり るみ る嵐 すくきは 日 きくし 0 かっ みた 年 月 0) V 仙 0 30 jili のたのもりに秋 ね 0 0 0) 0 まく こけ 山 洞 0 1= 屋は ちし b 0 はのとのう 南 1000 もみち葉秋もなし 歌 嵐 3 應 13 かは カコ かへるし かっ T 5 L 12 せ 0 0 木 のさころも つきのそら わのこゑ ひしき夕幕に ø 侍し 5 秋ふ 0 あ 2 しく なの つかにて U 秋 か きふけ とか 風吹 3 かっ 連 な は け 5 L 歌 ひと くれ な せ 5 3 T 5 T T T 多 (1) h 從 道 源 k 御 よみ人しらず 良持世 法 空 眼 位 元 法 專 隆 朝 順 盛 師 數 臣 製 長 72 秋の かっ めくりきぬ露も古やのむらし 秋 秋の夜をなを残れとやしくるら 秋 月 か涙 ちり 寒 ž H 3 b な 鹿の音とをく さむき時 h 12 5 かっ 会さいね ひ 0 0 n かっ 3 1 れ行あとはとをち 0 te 和 後潮 つく たみ 72 秋 ٤ 12 13 はさ 0 ものい てさ てへ木 < 3 のしく か秋をすこし のこゑのち 袖 0 0 秋 あ 0 寸 山 かっ 丽 LLI め 月 T ほ 专 か・ 1= 0 8 雲に 3 n つらきタくれ 75 12 0 あくるやまか つき月 か やしく りもるそか 12 つる となりぬら はいろ 夜 弦のやすらひに しわし しく のこるふ やとり H 0 かきひとむ やまか は むら 0 の秋 れそ なき ざし 和ふり は てま をそとふ 6 0) 0 なしき 3 ~ 月 くれれ H h

43

智

施

法

部

T

祝

部

发

弘、

B

紀

光

信

n

法

印

行

助

5

那样

盛

法

師

かっ

32

大

僧

JE.

道

腿

前 15 FII

左.

大

E

T

新	designation of the last
撰	
莵	1 : 1
玖	
波	
集	
念	
7;	

しろたへのしも夜の月に秋ふけて 権大納言實隆 山さとさむくころもうつ聲 智 蘊 法 師	なこりの秋はから秋くかせのはけ	尾上のまつもあきはふけゆく 宗長法師電しろきしゐの葉やまの秋ふけて 權大僧都心敬 嵐のみふくやときけはかりなきて 歴大僧都心敬 園のみふくやときけはかりなきて おり	おつるなみたそ月にさはれる
	けふをかきりのなか月のくれ 宗 祇 法 師	嵐ふくかれのくまつに秋くれて 前大僧正義連月の色かれ野の秋にはやなりて 式部卿貞常親王たかふるさとそつゆのあさちふ はしの音きこゆ霜のした草 お かり 孝 法 師	しくる、雲ををくる秋かせ

山はしくれの雲のしたみち	はれまくつ岡邊のさとの夕時雨	松たてるとを山もとのゆふしくれ	とまりとてこそ船のよるらめ	水くらきよ川の月やしくるらん	かくしあらはすひえの山こえ	こくろなき時雨の雲に月まちて	なかむるかたはかせもをとせす	むら雲や月はいてくもしくるらん	このはかつちり暮やすきころ	神無月とやまたしくるらん	めくりあふ春と秋とのほとなくて	秋さむきあらしのすゑに冬のきて	をくりむかふる山のしたいほ	冬連歌			新撰莵玖波集卷第六
宗	宗	法		源		源政		Ξ		御		前					
勳法	長法	橋兼		政		政卿即		品親				左大					
師	師	載		春		朝臣		王		製		臣	=				
かた岡のならのかれ葉に風さは	のやまの木	すみかあらはにおちはするころ	ふゆこもる山は秋こそ戀しけれ	ちりそ行わかすむ山の下もみち	うき身しらてやおもひそめけん	瀧つせのおちはかうへに玉こえて	をともあられもあらし木からし	雲晴るのちやこのはのしくるらん	ふくかせはかりそらにをとして	けさみれは庭は木の葉のちり添て	したかしたなるしものふゆ草	都にはいつくのゆきのしくるらん	雲かと見えてとをきやまのは	めくりてや同し寐覺にしくらん	さていくたひそぬるくわか袖	さよまくら時雨も風もゆめさめて	雲なき月のあかつきのそら
1 1	式部卿邦高親王	0	n	宗	h	T	L	ん法	T	て前大僧正增運		ん藤		權大僧都心敬		て宗	

	ı	ı
	ŧ	ľ
	í	U
Dr.	١	ı
狱		ı
177	ī	ı
	ţ	ľ
-12E	5	ı
撰		ŀ
474	t	ı
	ı	ı
-21	ì	ı
莬	í	u
~~	ı	в
	ı	н
<i>xh</i>	ı	ı
玖	ı	ľ
	ı	ı
	ı	Н
波	ı	ı
1/X	l	ı
	ı	ı
44.	ı	ı
ъ.	ı	ı
集	ı	ı
	ì	ı
AFS	۱	ı
籽	1	ı
1	1	N
	ı	ı
	1	ı
六	9	0
/	ı	ĕ

かれ野の尾花たれまねくらん 神祇伯忠富 歌に	文明十三年十一月廿五日内裏にて百韵の連かたはらの一むらすゝき枯る野に 宗 祇 法 師	多かれのしもやさなから花す\き 神 益 政	袖ふくかせのをとは聞えす	木葉にとまる山のゆふつゆ よみ人しらず	袖ぬらすなみた木葉のもろき世に 印孝法師	このはちる淺茅か原にやとふりて 智 閑 法 師	ことはりよりも秋そかなしき 権大僧都心敬	さそなみやことおもふ山さと 夢さそふ行衞をきけはこのはにて 前 關 白 近 衞 もらぬしくれも袖ぬらしけり
軒ちかき松の葉しろく霜ふりていまさくるかせのさむきあさと出	あらしさへ音やこほると更る夜に	おちはかうへはいく重ふるゆきかねやをのれと霜にさゆらん	鳥の音も八度のしものさゆる夜に	庭火をたきてうたふさかきはたまさくにまた朝霜のおちやらて	寒き江に枯たるあしのむらたちて	雪をみきはのまつのひともと	たのむもあるや花の行するかれはつる霜のした草うつもれて	造うつむをとろか下しもきえて 山のかけまてもゆるわか草
勾	賴	道具法師	法印行助	法橋兼載	權律師隆胤	藤原壽正	前大納言教秀	製製

三百九十五

-																-		-			1
	霜に見る月のひかりのさむき夜に	かりねのとこそとけてねられぬ	そらすむ月もこほるふゆの夜	ふりうつむ汀の雪に行なやみ	月にしくるくあかつきのそら	うきてふる世をは心にまかせめや	冬こそとおもひし月にさよしくれ	木葉の、ちのかけそかはれる	あさ氷かり田の月になをさえて	鳥初山しろく雪そつもれる	しるの葉にかくるあられの打散で	こからしそよく山のした庭	かけにちるあられ松原かせふきて	はまの風砂そいろもわかれぬ	いつのまに霰ふるよのふけぬらん	ゆふへの雨の竹をうつ聲	霜まよひ酸ちる夜のさえーして	草のまくらはねぬにあけくり	霜さむし夜や明かたになりぬらん	うたふかくらの庭火たくころ	THE THE THE THE THE THE THE THE
	源重		從		前十		よみ		能		智		源政		宗		前十內轄	-	削		
	經		一位富		科院大	3	よみ人しらず		阿法		蘊法		卿		伊法		内で防大ス	1	左大		
	朝臣		富子		へん 臣道	Ï	らず		師		師		朝臣		師		へと		臣		
				-		-	-Pera								creća.				2-5-6		
	木葉のうへのうす雪のには	山風も音せぬくれはなをさひし	はつ雪にしつか心のあと見えて	柴かるみちのつくく山さと	かれ野にくもるきくのはつゆき	おもかけに見るやこくろの花なら	朝もよひきのふ見さりし雪ふりて	うみのうへなるとをやまのかけ	ひはらかうへの今朝のはつゆき	はつせ山おくものふかく雲かけて	まくらとふ夜の月のさむけさ	見る夢もおとろきあへぬ秋のかせ	さゆるよの庭の月かけさしふけて	よこしまにさくまとの梅かえ	霜かれの野邊のふるさと月さえて	そとものやまの木の葉ちるころ	ふかき夜の太山の霜に月おちて 多	松すきたかきかけのさひしさ	空に月こほれはみつもしつかにて	あらしのをとそまつにふけゆく	
	よみ人しらず		源友		法橋專	らん	法眼專		權大納言實隆	,	菅原在數朝	9	能阿法		宗砌法		一个良政弘朝臣		權大僧都秀順		
48			興		存		順		-		Ti		師		師						

	١	ı
新	1	ļ
撰		I
苑	1	l
玖	1	ı
波	1	l
集		ı
卷	-	-
六	ı	

しら鳥の鳥羽田はるかに雪はれて 壽 官 法 師雲にきるかさきの寺の名もふりて 宗 砌 法 師 その跡のこるうたの御かりは	雪ふかきまきのそま山みちたえて 權大納言教具でちにしあとをおもふ冬の日 法 眼 専 順	ゆふへの雪にむかふとをやま 藤原為 續をのまのゆきのつもるやまのは 権大僧都日與わすれしな春の明ほの月の秋 権大僧都日與	かしは枯葉にたまる雪おちて後成 恩寺かしは枯葉にたまる雪おちて前陽白太政のれたよりとまつはふりけり というない 法 眼 車のれたよりとまつはふりけり 法 眼 車のれたよりとまつはふりけり 法 眼 車のれたよりとまつはふりけり はのかへさ得ものこそあれ
さひしさはあとなき山の今朝の雪 法 眼 専 順行人の袖しろたへにゆきふりて 宗 砌 法 師跡よりきゆるやまのうき雲	うちはらふ袖さへ雪のつもる夜に 贈從三位教弘まくらはいかにみつのうきとり を 注 師冬ごそ月はなをあはれなれ	をちこちの境も見えぬゆきの日に 三 品 親 王 たかすむさとそなひくむらたけ たきりし事のあとものこらす 前 左大臣 實 からてたにとはれぬやとの雪の幕 前 左大臣 實	この 日 宣 光 法 法 法

寒き夜のあらし 槇 かめ te 45 O W お ふゆこもるみやまか 3 2 0 くやまい B 庵 月 3 37 人を見 おとろく 水 おき日 との 月 にい はしつか のか ふし 13 のすまるそ 2 か るさとは めて かっ te なをさり る斧 語る みゆ りた B V は ろめ b 0 尋 野邊 1 ねやは 0 0 か かっ 竹 夢 か 0 1= 木葉ち かった ね 0 1 1 に 0 お 0 窓小鳥 SE のまとに鐘なりて かっ 木 響きに嶺さえて 冬こもるさ 12 ili h W 13 かっ 下 枢 0) n め かっ め は た きふかきころ る里の冬こもり る 5 は 人 5 た 3 かっ くれ かっ < < ほ 2 るより道たえて 1 0 も人 冬の いつ なし かなし るそら L 柴のなをさ みをそまつ け 2 2 南 の草の 0 らきる L ね 5 70 かっ 秘 わ け 0) +3-\$2 1= h S h 庵 7 厖 7 多 ورة 藤 智 肖 關 3 前 智 K 1 平 宗 大納 良政 原 白 原 蘊 柏 蘊 砌 師 右 長 富朝 言雅 引。 文 法 法 法 法 大 朝 躬 師 臣 師 臣 臣 親 恒 師 師 浣 かっ たつ鳥の 3 木すゑのを 月にたつ友 よる波のあらいそ千鳥 かっ ちとりなく入江 人に さは j りそなく 夜をふ やりみつ TE 香 け そことやとりをえこそさた 雪ふりつもるうら 南 たひ カコ 明 けさは冬の 33 は 5 M 應 か上に 5 0 眠 るさねこし を行け かっ を袖 かっ ili さざむ 水 み池 るまも 雪 かっ しの ね 年 0) 专 0 7 h 0 木 0 床やさ お お 鄉 2 をし の山 薬ち 0 か は Ш から 0 つの 彭 草か くな すりこしょり 12 氷 月 夕 0) うかな き夜 他 3. D 0 0 1 0 H ひとり るころ や更 とち かっ な T. むけ 聲 12 松 る瀧 なきた 月さえ たみ の色さえて 0 のこゑ みに ひ b 3 0) 0 國 け 82 37 3 2 け 庭 連 お Ġ ちて ちて 7 きて ひて h 3 T 歌 め T h ね 0 多 1 1 12 權 法 4 權 别 大 太 弘 12 良 大 大 贞 白 藏 IR m 政 政 僧 納 宗 右 卿 31. 部 注: 大 朝 大 經 朝 TE 心 臣 敬 順 Ei 泽 Hi 茂 臣 fili

新撰蒐玖波集卷第七

重ね

たるつくしの

わたも寒き夜に

宗

砌界

法

師

ことの葉に行末しるし千代の春 うちかすむ雲もみとりのまつたかしといふ 句を夢に見侍りしに 式部卿邦高

はなもちとせの行すゑのはる かくるよはひをなけかさらめや

前左大臣女

ことふきもめつらしけなる初春に Ξ

> ם 親

> Ŧ.

ひかりもすみぬほしうたふこゑ

衛士のたく雲井の庭火うちし

めめり

後崇光院御製

前大納言親長

たくやにはひのさよふかきかけ

さかき葉をうたふ袂に霜さえて

權大納言公藤

かせふきさゆるあしかきのうち

豐のありのおしきまひ姫

はいかきはらふ夜のうつみ火

權中納言宣親

あかす見は雪も何かは寒からん

さしくしはあかぬなこりのかたみにて

嶺に炭やくしからきのさと

法

印

行

助

花さく松もいかて見さらんといふ句に

杣木とるやまをあまたに分いりて

すみうる市のかへるさの山

權大僧都心敬

あはれにも真柴おりたく夕ま暮

たてまつる氷もあつきけふの春 いのる御法やきみかよのため

よみ人しらず

春毎のまつりことこそうれしけれ きみかまもりのたえぬをこなひ

しつはひまあるときそすくなき 御

製

こくろしてたみをもつかふ世なれかし 權大納言實隆

はてそわか身のとしのくれなる かへりこぬ年を思へは又くれて おしむに も光のかけはとくまらて 多々良政弘朝臣 前關白近衞

月日ともたのむは君の光にて

あへるもかせのたよりならすや

神のさつけし國

あふくなり

冬こもるかたえあはれに梅さきて

よみ人しらず

たくゆくみつのあはれかすく

三百九十九

E

きみ 君 きみ 君 今の 3 國 君 さまく 風 みえて 脏 かっ 0 きみと かっ もの かっ カコ D よに 代 1 世 1 か すく を よ ~ 3 0 かっ 7) 0) J. ょ 3 は 3 B 3 72 L お 通 る 5 らぬ に 聖 限 砂 0 な は 3 か 臣 也 3 10 な L 20 ともなきやまの 0 136 家を け め 3 H 6 3 を 3 Ł かっ カコ 5 かすこそ n め 1 身そつ 胩 Ł は あ < しらす とそ 0 0 0 0 2 2 300 3 1= な 1-關 1 小 あ 3 3 0 時 5 崑 あ 350 < < 12 風 かっ 7) 1= あ 05 0 濱 は 3 は は 1= 5 3 3 3 かっ 0 2 0) かっ 1 と夜こえ 2 まの 人 かっ 3 は たま 0) この る か 古 0 3 おさまり あ たまの は P 73 0 -369701 わ 3 2 5 かっ 君 3 きて 御 2000 か 1= 12 b 心 7 13 0 < 0) 0 \$2 かっ 4 6 B す見えて 2 化 世 かっ 風 -Ó T 3 代 Ш 70 7 3 3 3 1-前後ら 式 多 關成ん 宗 藤 能 法 部 法 御 /z 原 自恩 良 卿 Bul 橋 眼 祇 太政 雅 直 政 俊 弘。 兼 事 法 法 大入 親 朝 朝 載 臣道 順 製 師 Ŧ 君 なき人 す 2 あ 3 こえん 阜 け ち 5 死とを ち 12 かっ な 12 0 3 S 棄 代 か à) ق かっ 此 永 文 2 とつこく 亭 加 13 な 年 ze b 哀 るときに けするきみ 野 12 0) 13 + 37 0 D Hi. 9 0 30 0 た 人 Ili 3 0 i 3 きの 君 時 Thin 派 年 10 邊 Œ お 誰 八 浦 7) 年 0 無 it 3 1/4 3 8 3. 3 0 L は H H 20 3 i-歌 めょか 3 É 南 R か カコ をや 1 22 cz 仙 月 们 くにせ 3 た せ か tz (3 L 御 みらし する 73 秋 1-115 な 12 1 3 代 河间 0 0 るう 1-Z 數 W 70 2 h 0) THI 1h 0) 尾 0 かっ 身 72 T 袖 た 14 T te 35 生: かっ 0) か 0 もまるも やま 代の やさ < まく 百 5 な D か 2 \$1 \$1 12 \$2 行 的 12 02 h  $\langle$ n 1 かっ 3 32 3 ょ -お 衞 6 0 T か 12 T C) <u>ji</u> 1= か 後 侍 歌 內 源 紀 45 御 h 小 旬 其 彻 松 1-宗 大 盛 則 院 D 法 朝 2 御 110

製

製

臣

卿

间i

さの

みか

るか

なるい

なんあり

**がる** 

千代ませと禱りし人も夢にくて 見し人は花よりさきの夢の世に 身はひとりをくれ先立老のとも ちきりしはさきたつ空の月をみて ちるうちに人の先たつはなを見て なきひとかなしあきかせのくれ なきあとをとへは月のみ宿もりて なみたのみつに身をやしつめん はかなの春やなるくまそなき 又よといひし暮そはかなき むしなきみたれすくきちるかせ つゐにはおつるなみたなりけり かよの秋そいとくかなしき 慈照院入道贈太政大臣こうじ侍りしとしに きくあはれ我身の果い く歎くもいか、苔の下 となみたお りあ Ü ちけ Ō かに かね h 多々良政弘朝臣 ちうんほうし 宗 源 宗 權大僧都心敬 法 權大僧都 般 橋 證 持 法 法 兼 日典 載 師 師 知 v 82 なきあとくへる老のあは 先たちしひとりく 人のわさすくれは出るみねのてら なき人をくる野へのをくるま うすくこくそむるもかなし藤衣 なきあとに行末たのむふみを見て おくれしよ忘れかたみ ふり行くは何れ惜からぬ人ならん つかさてわか身の末の夕けふり 柴のとあけてなかめやるそら こえぬる山やはてとなるらん 别 れきぬはつねになき世にあらは ちきりもゆ おもひなをきそうきよなりけり わ さまくいにこそこくろありつれ きえのこるをも老はたのます お きよき名のみそなをあは n か もひに n てはいつは ちに なにのしなをわくらん は めとなるそかなしき つかしけ 12 め の數そひて も何 くりあ n なるい れなる かっ せん ひ ろ見えて もせん \$ L 玄 宗 法 權大僧都 肖 宗 T 權大僧都 清 伊 伊 眼 柏 紹 法 法 法 法 心敬 心敬 師 師 師 師 永

らまし

かは

古 2 4) n は 世 うと お L 12 カコ ほ け 30 B 塚 あ 懸わひ 3 かなやなきも あ 0 あ とか ふり は 2 ち 知らぬ哀を思ふ 12 寸 の世 ふき 3 3 からし人は たしきそなをなきをし とやさきに 中 B すち きの は 12 It は よ野 02 は 0 やすらふまつ あとに 12 3 ふの しらする夕く 南 かっ 17 わ 見 ž Z かっ 1 P たひたち殘 なしなきひとの 0 かっ 野邊の 原の け た のちもなに かっ n 12 3 3 わする をくる à) へら よの とみち かっ h 先とい 00 るこ か 草 ことそか 0 n 人 ほ 秋 23 0 0 跡 かっ 0 2 旅を も別 る人 3 1 12 あ 3 しょらする いそくなり かせ身に ħ. 弘 É かな 2 75 0 Ill 7 0 0) W あと Ö 15 35 カコ h かっ お かっ もなし もひい け 行 U は 3 から 3 H T 衞 3 5 h 7 3 多 わ 3 は 法 法 宗 捺 115 法 存 贈從三 宗 12 良政 hh III 服 長 眼 胤 祇 祇 弘朝 位 事 專 法 法 法 法 恭 法 一致弘 謎 順 臣 順 餇 師 師 師

> いまはのときのこくろみたるな 2 た 後の たまの 度と歸 111-3 をにせん おも 6 02 ひの 人 をゑに お 玉のをくよみて 专 カン it B か

智蘊法師

## 懸連歌上

あ なけくおもひよあめつちもしれ めつちと別るくよりの戀のみち のるちきりは神よことはれと侍句に 權大僧都心敬 Ξ 親

王

かなるみちそこひといふもの 千句の連歌の中に 國となり世となるよりの戀もうし

それとなくみしを思ひの初めにて もせ山いれは迷はぬ わかこくろこそうはのそらなれ 人もなし

宗

祇

法

師

い

今は只おもひそめつる日もつらし 見し おもかけはなに くわすれん

法

眼

禪

豫

もの思ひもらしそめぬる秋か われもさこそとなくやむしのね

あちきなやよしや忍はし逢見はや まくらのしるもつらきひとり 御

"せに á 從 一位敎

忠

製

なに つまてとてかつれなかるらん をかしのふ草の名もうし

後花園院御製

のふ夜のたよりもつらく更果て 行衞をとは 5 かっ ~こたへん

權

僧正

日

應

月もうししのひ通ひの夜はの空 きみかあたりはかすますもかな あやめも見えぬ秋のゆふくれ 宗 權大僧都心敬

砌

法

師

思ひわひわかなをかへて忍ふ夜に

5 身をうらむるも名にやたつらん まつといへは涙の

月

あやに

くに

智

蘊

法

師

ひ出ぬ おもひをしるは涙 T 參

基

綱

延德二年後八月廿五日内裏にて百韵の連歌 議

法

即

行

助

こくろいられをしのふわりなさ 今こんをもゆる思ひのたえまにて くる、よりこそ身もすくしけれ ふみをやつてんお もひやる中 御 權大納言實隆

戀しさは忍ふに耐すはやなりて うちつけにとやわれをへたつる 式部卿邦高

あらはすも年へておもふ末そかし 法 橋

兼

載

親王

製

四百三

撰 蒐玖波集卷八

新

夕つゆにかけしちきりのすゑかれて

いもかりと行けは涙のさきたちて 宗 伊 法 師いとふとも行て心はみまくほし 法 印 行 助こへる は人にいつかいはれん	ひわひ行けは鴈鳴月おちのとも必ずのはん夜半なのとも必ずのはん夜半ないというだった。	まるかこかへるみちやうからんこたへぬ人につくすことの葉 前大僧正道興はかなしなこなたはかりのおもひ草 内 侍	たのめぬくれになとまたるらんたの心うるまのしまとかこちわひ	露はかり見し面かけにあくかれて 源 持 知問でのみ人はうからしつらからし 智 蘊 法 師問でのみ人はうからしつらからし 智 蘊 法 師問でのみ人はうからしつらからし 智 蘊 法 師
「たくくときかはその戸ひらかん 前關白太政大臣われやゆかんもおもひたえにき 前 左 大 臣 おれやゆかんもおもひたえにき 前 左 大 臣 人はひとまつらんものをこのゆふへ	めてもとはれぬ花の夕つとりなかむる春そさひしめしは思ひいつとも雨の	まこどでよりこんどまつらん 権大僧都心敬おもひすつれは雨のゆふくれ 権大僧都心敬 深くとはみそめさりしを頼みきて 支 澄 法 師	と君か宿をやかくすらん 法 眼 専いはぬそをしへなりける	幸行くこへろの杉の身もつらし 宗 般 法 師おもひわひゆけとも人は逢ぬ夜に 宗 砌 法 師つくむに人やこひをしるらん つくむに人やこひをしるらん 宗 砌 法 師

秋

ふけぬ

雲ふくか

たのめつ、待宵すくる月を見て まつものを出はといひし夜半の月 よそへてまたは月やうらみん あり明の月出るまてまちわひて こぬ夕くれのやまのは 人まちてうちもねぬ夜の郭公 まつくれは別れのうさも數ならて まてといふ人ありかほの夕まくれ こくろしほる まことにはおもひもいれぬ うらみもましる人の戀しさ たくひもあらぬおもひねとし つれなからすはなにをうらみん 人こそはかはり行けとも待てみん おもひかけすよかくるをとつれ りくしことにおもひさためす 文明十六年三月八日家にて一 いつまて人のまたるらん **ヽこヽろこひのならひ** せに月はいてけ ~ゆふくれの の月 10 雨 、る暮に カコ 式部卿 多々良政弘朝臣 おりの連歌に 能 宗 Ξ 源 贈慈 惟 前 太政大臣 關 砌 阿 밆 宗 邦高 政 白 法 法 氏 親 近 親王 師 師 弘 春 衞 王 雲か ね 更るまて人まつ夜半の戸をさへて 賴めすはとひゆか 我かたのちきり空しくふくるよに 賴む夜やよそのうらみに深ぬらん こくろたか待夜の床にかよふらん はし近くたのめし宿に待 つれなしやふけ行 か こくろよはきはわかためのうさ は 月とかせとにゆめもむすは ぬなはのくる夜もしらぬ人待て うらみますたのいけるかひなさ らさきのまつ夜 ふみにをこたるともし火のもと 人のとふをやひとのまつらん かりねの かなしや人を夢にたに われこそなれ せにい かなき事をおもふ夕くれ 千句連歌の中に ひやるはかり待わひて 床は夢 ね ふけ行 ん夜を待ち深て まての松の風 もさた 人のいつは 袖ね みす ふけ めす 3 7 n h T たいらまさより 權 前 常 肖 太 法 太 權大僧都 藤原雅俊朝 大僧 信 左 柏 禪 眼 政 法 都 大 法 法 泰 大 親

心敬

臣

うか

ろ

日

與

臣

王

師

餇

諶

臣

恨 行 5 夢にさへまつ人うとく目は お まつそらあけて雲そ お 身をしらて待とや人に はしろ もひ みすよ神 ほよとの松に 戀ゆへあらぬこくろとそなる しをまたしとすれはかねのこゑ 衞とふ月はこたへの夢さめ こくろのそらにきゆ あ 人を見るめ すひ をし 文明 するくつらさ又そおとろ はくそとりのねをも もるおもひよいか 枢 i らしと 半は しち 十四年三月家にて百韵 の待事はなをたえ つやとまつも た なを とひしに 3 ょ きり 0 T 校 2 5 0 あ は あ 年をふる 0 のそら 5 V かっ わ は **b** てはるけ 似 おも 3 3 は n ひつら かこた 12 3 わ お かっ な たの し世に する さめ 3 なん Z もう B なし る夕ま暮 月 Ź カコ h 3 0 h け 7 8 連歌 入道前 宗 贈慈 宗 法 前 源 宗 よみ人しらず 太照 政院 左 眼 砌 砌 長 大 友 右 專 法 法 法 大入 臣 大 順 臣道 質 師 臣 與 師 師

片糸の 音 自 5 72 心をも見えてそせめてたへ あ こひしやうしやひとのつれ つれなきは あふ事をまた しの 3 10 お あ にきくあ **\**かたいとの こなたには心 ふことは うときちきりはむすふともな したは しつこくろ へせぬ人に言葉の たのことはもなをまた ふのなひくまてとや祈るらん もひわ ひとり連 ろつ あは ふしおも しせ ひつ くし なを し人 身に ふのまつ原い 歌 め な 身 たっ あ なか をも 限 7 み E 0 かっ S のこひとこそなれ をく は L め 11 12 rþi あは 12 るとも < 0 たの 5 しとや つきは もそ 20 くる れとも るたまつさ もまつも ほ つか 3 如 3 年 する 打亂 もせん きて 何 なさ をへ 12 みん T け せん h 12 12 T 10 權 權 宗 內 やひ きの 大 贈常 校 大 太 政德 僧 E j 滅 cz 仲 EII HIII 納 みつ 納 Œ 大 卿 0 j 法 親 耐 大 鄉 5 3: 質隆 0 政 鸦片 師 臣 茂 臣院 E 國き 3:

ほ

0

かっ

あ

ろ

變らしの後の世まてをかた おもふこくろそとをくつれぬるこまやかに又あふ事をかたらひて なくさまん夢ならなくに音つれて うちとくるゆ またいひ出ぬうらみこそあ たるまの月を枕のにしに見 ふけゆく 思ふとしらぬ へすく 文明十四年六月げ て御ひとり連歌に しきにさ るくまなく 2 2 の行て みえし 夢の 結ふちきりの短夜に 夜牛 我や 人まち もしたふわ 中は へ袖は つれ おとろ 1 のこく 人はうら むか おも えた 0 あ まつの か ねれ んじ物 やし ふ月 か ろくる る秋 けは 過 せ か め つさよ枕 るをに it n 0 かっ かっ è) カラ をに 17 b 路 風 T たりの 多 藤 素 御 叁 12 權 平 權大僧都 よみ人しらず 良政弘朝 律 原 純 議 章 師 Œ 法 重 眞 心敬 治 宗 存 師 棟 製 臣 叉問 夢にきてゆ か わ まつとせし空や別れになりぬら わ あ うき節をみてたにせめて別れはや **か** つれ無はやましとい へる鴈 25 かれつるきは、心もそれならて 夜 まれにあ か ふことも又 つゆもなみたも 13 12 おきゆく袖 お たへる 和 8 ん氣色も見え もあちきなく かなるときかうちもわすれん たて、戀しふるさとのそら のまに あふさ ひにこそあ しは ひたえよの わ ふ身の一 かは あ かっ かのとりの音はうし めにや人 あ 別路 とそいやは にかすむ 13 さつま山 3 0 くるをいそくならひなれ かは 又いかなら 12 のき ふかきわかれ な おもひかなし 人 は 2 へは問もうし ねをそ のこく あり 12 わか 3 を名残に D 消かへ おち か あ るらん なくる T 12 けり V ימ h 5 ñ 7 多々 宗 源 神 從 藤 宗 宗 從 法 良政弘朝  $\equiv$ 祇

原

正

能

臣

位

富

子

伯

忠 富 橋

兼

載

まれ

にの

うれ

か

たまさ

か

さきの世

長

法

師

祇

法

師

位

義

敏

動

法

師

さは

政

宣

																			-,
朝貌もうつろはぬまのきぬくへに 法	らきはなたの帯のきぬく	おきてみつからむすふあかつき	あさ川の音さへつらき衣々に 肖	くたくこゝろはたゝさゝれいし	わりなくも明行く空にしたふなよ 藤	人のいそくもことはりそかし	たかためにやすらふ月そ急くなよ智	またふかきよにのこるむつこと	よこ雲に今しはしともいひわひて 權	ひけはたもとになみたおちけり	横雲のひきもはなれぬたま~に 道	しほりかさなるあかつきの袖	いのちをも人をもしらぬ衣々に	たのめをきてもなに、かはせん	かへる夜に心ほそくもたいすみて	ひとなきいほはたくまつのかせ	月そうきいくかへるさに残らるん 權	あかつきおきになる、夜なく	亲哲女对近县老力
眼	砌		柏		原		蘊		大僧		空						大僧		
泰	法		法红		忠		法红		大僧都日與		法						大僧都心敬		
延	師		師		綱		師		興		師						敬		
					のちのくれまてひとはおもはし 法眼専順	かへるさのものとや袖をぬらすらん	ひとりつくねてのあさけの物思ひ 法橋 乗 戦	ふみにはかくんことのはもなし	身にあまる一夜も後はなくさまて 入道前右大臣	とはれん事もいつをたのまん	きぬくをうきものとしもまたしらて	人をまつにはそてそぬれける	夜ふかくも忍ひて出る別れちに 御 製	袖とふ月のかけもうらめし	わかれゆく袖にや露のしくるらん 三品親王	月もかたふく雲のをちかた	に奉らせ給ける連歌の中に	文明十六年八月十五日内裏にて石清水の社	Pi

## 中

たえねたくみす知さりし中そかし もへはいまに似たるいにし 權大僧都心敬

あふ かたみにとむることの葉もかな 事を限りとたれ もふおもひのはかりもそなき かいひつらん 源

元

數

ありへての後の夕へも知ぬ身に かりそめなりし夢のわかれち 多々良持世朝臣 宗 法 師

とけてねし一夜を今はいのちにて 又こぬはうき身の程や見えつらん おもへはとはぬ事もうらみし 藤 原 砌 景

とけぬを人のくせとたにみよ 身につらき心ならひはいかくせん 宗 長

かへるさはしくるくなみたかき暮て

またあひみんもさためなの身や 深草の右大臣

我かたに麻の葉なひくみそきして ちきりのするやなをもいのらん 從 位富子

新 撰

**克玖波集卷九** 

あふせをまてはうき名とりかは むも れ木のかすならぬ身をいか ~せん 源 重

經

朝

臣

もしほのまくら夢もむすはす

仇波やなるともなしにかくらまし かへさる、文はわれさへ見ぬものを 肖

柏

法

師

くちんなも惜からぬまて戀わひぬ なにをまことにうきなたつらん なみたの袖はいつかとはれ h 式部卿邦高親 權大納言

月にさへ心をかるくなのたちて うきもいかなるちきりなるらん くもるをたのむくれもはかなし 宗

砌

法

師

質隆

王

とに角に云逃るれとなはたちぬ たくすむかけそ月に みえけ る

法

眼

專

順

よしさらは歸るさ急けなやもれん 法

印

行

助

豐

あた人に我なひとつのたつもうし のこしをきたるふみまてもうし たかあとくなきやとのかよひち 玄

師

法

師

はかなくてふる世の後もなや立ん けふりをとふもとをきひとさと よみ人しらず 清 法

前大納言雅

親

四百九

おもひをはたれに告てか知せまし

わすれ行人もおとろけかねの聲 御 製のふへそいと、おもかけにたつ 藤原雅俊朝臣 軒のしのふのさみたれのそら	わすれしの人のまことや夜半の月 法 眼 専 順形あるおもひなれかしたえもみん 宗 祇 法 師	知へには思ひたにこそなるものを 弘 誓 法 師山のはを物おもふ暮のすさみにて 道盛 法 師	はかなしや空にしめゆふもの思ひ 藤 原 長 衛物思ひまきれやするとやと出て 法 印 行 助みめくらしけりよものやま /	うしや人しらはしるへしわか思ひ 權大納言宗綱身にそしる思ひのいろや長からん 前中納言永繼
うき人の忘れかたみはうらみにて 宗 砌 法 師かりそめのとたえを永き別れにて 法 橋 兼 散	に人のことのよのひ	かせの雲あらしの花をちきりにて 權大僧都心敬花にこそちきりし人のうつろひて 法 印 行 助補ほしあへすさくらちるころ	かならすと契し事はかはる世に 平貞宗朝臣 契しをとへはしらすといふも憂し 法 眼 専 順	わすらる、人に命のはてもせて 智 関 法 師わすらる、身そこひしさはそふ 權中納言經卿

悔しきはいとふを知 うらみても今さら誰にいひよらん 恨みしよ人やはひとに添ひはてん 伊勢の海やおふの恨を身につみて うらみはひとのこくろにそある 我恨み身をかこつにもなを見えて ふたみちの恨みもたえて戀しきに つれなさを半はおもひ恨み くる人なしのやとそふり もふともいひしや昔わかうらみ うかりしとてや身をはすつら かはらすは又もとふへき我中に たえなはたえねちきりいつまて れすは永き恨となりやせん かこと人の のちのかきりしのひわ とても又つる てはよその としにあへるうれしさ お ぬなみたとをし もはぬそうき かへさにもと 5 0 かっ 恨に h 10 3 0 わ 世: V 7 前關白太政大臣 藤 法 三 叄 法 權大僧都心敬 法 權大僧都心敬 民 部 囙 原 딞 議 眼 橋 卿 為 行 親 重 專 兼 政 治 載 續 助 爲 王 順 詐の 5 なみたのみ袖に哀れをしるもうし さのみなと涙の袖にしくるら この世ならてもとは 世はうらむへきことはりもなし 世やはうき誰れ恨めしき人ならん 身をしるも人には恨あ なみたのひまもむすふことのは ひとをかこてはわれもうらめし 契らし 2 夢にさへうとくはなとかなりぬらん こひちにい かっ 木葉つくして冬はきにけ かさねてもきぬ つはりの おもひたえつくふかき夜のそら むくひまてた、こ、にある心ちして 心よりいはぬうきなやもれつらん あるよにたれをうらむらん はらむほとをおもふたにうし やなみた ある世をしるも涙にて か よわれそは の雨 てたか 一つらくあくる夜に か 0 くれ るものを h ふこくろそ 0 かなき 中 か 12 從 宗 能 藤 宗 宗 法 入道親王道永 源 よみ人しらず 印 勳 回 原 砌 祇 位 盛 護 行 法 法 法 法 當 子 師 師 師 助 師 卿 道

間は

お

こしらの

つくむにた

せ

め

拾ひ とけ おもか 乾 わ お 面影のくるれ こすのまよひにきゆ 手に さしもとふへきひとそさきた B かなみたすいり お \$ P のこりとまれ たき袖をは誰 か L カコ ひ月夜 ひのみちこそまよひとは のまもこくろは行てそふもの おきて涙の玉 0 かっ 朋 さは おも むわか H けは人の變るにともなは もたまら くなる夜にひとをまつころ たき心や袖 へはさゆ 應 を知 ると聞 年 よしといひて待や へとやつゆ れは は 八 むか 2 3 る身そうらみ 月 中 0 中 行けはさよ はみせまほし にかこたまし 士 にこは 5 るおも さ 水と そら ふまきの つはりも 0 か のふるそら 夜 は るら なしき おもふなよ 百 か 韵 月 なれ せ 戸に な 更 連 け h T 歌 3 式部 30 多 1 藤 宗 前 藤 法 12 御 良政 卿邦 左 原 原 伊 橋 大 弘、 高 修覧 護 法 兼 臣 朝 親 質 道 茂 師 載 臣 王 製 思寐 ね よなく まとろむをゆ あけ ねる 月 古 3 のまことは身

な

月

1=

む O け

カコ

ふもなみた めそまくら

おちけ

夜の

現

に問

は夢 は

7

宗

砌

法

師

3

おは

えす

は

わ

かっ

身

13

12 型

n 8

なさ

けとや

なら

宗

伊

法

師

黒髪をかきやるの 見し人はつゆ 槇のとをた 夢にたにさたか ひとりね なみ まくらには なにか 身をこそひとは Ł の夢 やら す か たのほ 弘 12 は b は ょ 15 12 n かなきは かた 12 Ç 後 カコ くくと思 名殘 かの り松 なく 8 カコ きり ちよしるとこそいへ は なら なり 1= 2 0 戀の とひくる人やみ たまくら なく夢さめ かっ 3 わ よる は夢 は のさむるよ ょ D n カコ せそふ ふ夢さ みそ to カコ を契りに 3 12 カコ を +> 賴 W T はな < 8 0 0 12 か 0) 1 沙 型 T つれ 7 あ h 2 T T 7 彩 權 法 12 太 Ξ 從 御 大僧 良政 品 IR 政 位 剂 引。 叫. 大 親 数 朝 心 敬 順 15 臣 E 製 忠

ひとりふすまのゆめそみしかき 人にそふ心はかなく夢さめて をし鳥の袖行 文明十一年五月内裏にて百韵連 かけにおとろきて しめ 建歌に 前關白左大臣 寺 くは ん法

夢に行き夢にくるともたのまめや ねよとつけぬ る かね はうらめ 前大納言雅 親

唐のゆめよりうとき戀路にて まれにとあは いとふか人のたつるまきのと n 中のはるけ ž 前關白太政大臣

つれなさを夢にいりても恨みはや 法 印 玄

律

さよ衣ゆめをせめてのちきりにて そふとはすれとうときおもかけ おもひかへせはうきものこらす 權大僧都實圓

みもはてぬ夢はうつくの歎きにて さため ぬ中はあふもはかなし 權中納言宣親

いつかさて心しらるく人ならん なさけのあらはとひもこよかし 右衞門督季經

數ならぬ身は戀しさもいはれめや 人つけ侍りし時 なといまさらにつらしとはいふと侍る句を人 御 製

> 報ひあらは我も人にやつらからん さきの世のちきりそしる またしとおもふくれはいくたひ いまのうへにそさきの世をしる たの め 72 太 政

> > 大

臣

たくこひしなんかきりをそまつ 身の程を戀しきうちにか つれなさをおもひよはるも哀に へり見 て T 藤原政 叄 議

行

朝臣

顯

時

ゆふへの雲に身をやたくへん

戀しなは人もあはれとしるはかり よしこひしなん人もいつまて うらみても世は あたなりとなくさめ 多々良政弘 前 ょ 關 白 近 朝臣 衞

ひとはこくろのなとなかるらん

戀しなは報ふへきさへうき身にて いまはとて心はそくもひきわか n 宗 太照 砌 政院

法

師

さすかおもひもたえぬたまのを 君おもふ心ひとつをしらせはや 贈慈

大入

臣道

たれもこひには身をそをしまぬ にて百韵の連歌 文明十二 一年六月慈照院入道贈太政大臣 前 大納言季 の家

春

かくそときゝて人のとへかし

	あはんあはしをさためぬはうし	ならはしにのみなれるつれなさ
よみ人しらず	なかむなよ空には思ふ人もなし	いのちょこひのはてなたのみそ 源っね行
	ゆふへの雲になみたおちけり	つれなきをたれならへとかいひつらん
宗伊法師	元の身の誰につらさをみせつらん	いまは身の命をかこつおもひにて 法眼快勝
	いまかくこふるほとそくるしき	世にあるとてもたれかとひこん
權中納言宣親	おもふにはおなし心もなきものを	物おもふいのちはきえぬ暮もなし 宗 祇 法師
	ひとのいとふに身をもいとひね	いくたひかくはむまれかはらん
前內大臣	うきもた、戀しき方にわすられて	うき命あらはとしはし賴む世に 髪胤法親王
	ひとのなこりはおもひさまさす	つれなきも又かきりをやみん
ゑしゆん法し	忘れぬといふをも頼めとひやこん	いのちやけふとものおもふくれ 前中納言縁光
	ひとのまことそかはりもて行く	うらみてもあはれかけすはかひあらし
藤原修茂	懸しさやおよは四世をも忘るらん	たまのをは涙もろきにつれなくて 太政大臣
ts.	うちおとろけは身はほともなし	おもひやたえすいろにみゆらん
正根法師	後のよにせめてわする、戀もかな	たましわは思ふあたりに迷ふらん 御 製
	きえねちきりよふたみちはうし	そのおもかけよへたてすもあれ
法橋銀載	このよたにかれぬるものを草の原	玉しわはそなたに添としられはや 参議 基綱
	とはんとおもふこくろはかなき	こくろをかるくみこそつらけれ
前關白太政大臣	後の世の報ひの残るちきりにて	たのましよ世は定めなく人はうし 宗砌法師
	いのちそかきりあばぬうき中	なひくこくろもうつろひやせん
よみ人しらず	恨わひきえねいのちもむかしにて	こひしさもかきりになりぬわか命 藝 阿 法 師

身

うつ蟬 をか

夢

行も

昔せしおもひをさ夜の寐覺にて 身のうさを心 今はたくおもひよはるを思ひやれ おもひかへさんちきりをそまつ 長らへは思ひけりとやしられまし はた、見るお とはんなさけ なみたは こひになくさむ老 よをみれはむかしのまへの人もなし おもひをいは よしやつらきもすさむ世 われ心を置 かれもまつも袖の のふ山 もまかせはいかて へて後も逢はやいかにせん かへるもし の世は ふみみ かりはことはりやしる より にとふもこたへせて おくは かたみともなし もかけを涙にて のたのまれ かぬひまもかな **\** ねみちをうらみわひ のひ Z はか つゆ ものお かねつ あらめ もの なさ í け さ 0 もせす もひ か 中 は 權大納二 法 藤 法 宗 按 前 宗 深草のう大臣 法 關白 察使俊 即 EII 長 伊 原 眼 言實隆 定 元 妙 法 法 專 近 盛 景 親 椿 師 衞 師 順 花にうらみ木葉に人を待わひ 叉人に身をうかれしもい まつ暮も別る、空もこくろにて かこたしなよしさはしけれ忘 いひよるかたの 心なと身よりも人をおもふらん 及ひなき中になしてもやみやせん うきにつけてもわすれやはせん 夜ね ものおも 12 わすれぬをふかきちきりとし おもかけ おもひの おもひをやとすこくろとそなる よそにたつなをわすれてそまつ くやしやこくろあちきなの身や ~一すちのおもひなりけ し人にあさくもわかとけて は つゆ へとはひともちきらし 人の をなに おほきあたひと 一残さぬ かか なさ かならん けまし けにて 革 る もの 多々 肖 源 宗 印 參 源 權大僧都 藤 良持 包 泰 議 祇 孝 柏 原 仲 尙 世 法 法 基 法 正 朝 朝 心敬 臣 師 臣 綱 師 純 盛 師

人に

うきは

心

わか中にまた人しれぬ秋のきて	ゆふへの露それくなみたなる	扇のみむなしき閨のかたみにて	はけしくなれはかせも身にしむ	人はこて登はかりのかけはうし	うつみ火きえてふくる夜の床	二みちのかへさは花にことよせて	ひとやこくろをあさくおもはん	人を見し夢さへはなにさめやらて	まれなる中は新まくらかも	かせまつはなにひとないらひそ	草木にもあらぬことはのうつろひ	いまこんのゆふへを花に風もなし	人はうくともいかくうらみん	おらてこそみすへき花に人はこす	いかくはせんとおくるたまつさ	<b>戀連歌下</b>			一新撰莵玖波集卷第十
法		宗		法		源		智		宗	ひて	肖		法					
服		砌		橋		材親		蘊		祇		柏		眼					
專順		法師		<b>兼</b>		朝臣		法師		法阿		法師		専順					
MIT		13111		蚁		be		hih		789		bih		WES					
たのめつるゆふへは秋の昔にて	人もとひこすつゆふかきやと	たれをからしのたの森の秋の	かへらぬものをくすのした。	物おもふ宿は木すゑもいろ見えて	あまるなみたやつゆとふるらん	一年を待暮しきてうき秋に	わかちきりにもかよふたなはた	秋はなを人のつらさも數そひて	身にしむつゆそおもひとはなる	身こそあれ秋やは人につらからん	月にもめてよ夜なくのそら	君とわれほとはちさとの秋のそら	なかむるをたに月もつたへよ	おふるくす葉も秋にあふいろ	わかれちのなくさめにしもうつろ	七夕のあふ夜の空をよそに見て	ひとりなくさむはつあきのくれ	たのむよもしらぬ殺身に秋のきて	袖ぬれつくやおもひくらさん
T	F	n	みち	2	h	M: 44	72	-1-	0	10		2			7		10	L	
て源	F	れ藤	みち	藤	h	前陽的	12	式部响	۵			法		權大	5	從	10	宗	
	٤	れ藤原	みち	藤原	h	前關白太政	12	式部卿邦高	٥	よみ人		法		權大僧都	ろひて	位		宗動	
源	٤	れ藤	みち	藤	h	前關白太政大臣	72	式部卿邦高親王	2			法		權大僧都心敬	5		40	宗	

新	-	
巽		
范		
玖	ì	
皮		
集		
爸	-	
+	-	

思ひなき人はしつまりふくる夜に 曉の霜さむき夜にひとりねて 袖とふ月につゆなしくれそ まくらにも心をかる ひとしつめんとまつやね 人ゆへのうきにもなさし夕まくれ 戀しさは身のならはしの夕にて からすなく霜夜の月にひとりね まくらのしるもつらきひとりね よそにきくゆふへの鐘に袖ぬれて ほしか うときおりにや身をもしられ ちきりをかねとひとそまたる ふかきおもひはよそにしられし とはすともなをなかきよの空も わかまつやとはこくろさはかし きけはちとりもともをこそよ かしや人のとはぬおりく もふこくろそ空にうか ならすとたの たき袖をはたれ め しく いひとり 82 n にかこ 6 る も ねに 秋 T 深 たまし かな 7 宗 法 前 權大僧 宮 藤 源 御 參 左近中將公連 道 議 伊 削 左 原 實 都心敬 心 大 親 為 法 基 元 綱 續 隆章 師 敎 製 臣 月待といひしをそれになしはて 12 みせはやなくみたの下 なみたふり雨音つれ 住あらすむくらの宿のひとりねに 身をむはたまの うちすさむ衣かたしき待わひて たれとくもにか夜をもあかさん あくるいたまをたのむひとりね か 秋 人のつらさそ秋 くすむかとにあくるし ひとりねつらし草のとのうち おもかけはふるきまくらに立そひて しらはくるしき海やな ねやにふきくるやまの秋風 ものおもふ比はそらさへあは とふ人あれやおも 長祿 ろ たふけ 0 ねさめにわ かみ 三年家にて百韵連歌に る月を ક かっ よは は わ 3 かおもふ事 かれ て長 は 0 まされ ひこたへん 0 かり からん あ E よるの 3 とりね 夜に 0 おも 3 1 物 8 れにて贈慈

床

宗

砌

法

師

宗

祇

法

師

太照

政院 大入

臣道

知

蘊

法

師

Ø

か

前關白太政大臣 後成 恩寺 入道 おもひ

四百十七

1

前大僧正

| 算應

は

40

權大僧都

日 與 權大納言

前中納

言

康

本のなたなにゆへ月に復らん 二品親王堯胤 素みえん袖なたつねそよはの月 宗 側 法とひ / \ とまつそふけぬる	,																				
秋やひとりのわれをとふらん 宗 砂 法みえん袖なたつねそよはの月 宗 砂 法とのちきりをとりやなくらん かたきわかおもひねは月もうし 他 阿 上はらふはみねとつゆそこほる とちきりつる人はとひこてあくるん 宗 長 おおもかけのこるきぬく つそら しになる月を枕にひとりねて 壽 官 法われたる中はそふかけもなし かとめしあらはとはれんもうし とりねは月を別れのあくる夜に 様大納言高 さまなく類のし月のふくる夜に 様大納言高 さまなく類のし月のふくる夜に 様大納言高 さまなく 類のし月のふくる夜に 様大納言高 さまなく 類のし月のふくる夜に 様大納言高 さまなく 類のし月のふくる夜に 様大納言高 は月を別れのあくる夜に 様光流電 おきて行あかつき露のきぬく に	かなるときかい	こそ忍ひし雨のそらたのめ多々	うたかひもことはりの	のふとも月をかことに尋ねはや 藤原在敷朝	とのこくろにいつをた	つ迄か月にもかれすとひつらん 御	なこりはまくらにそあ	せ給ける百韵の連歌	四年二月かのえさるの	めて月わか手枕にかはさはの	ひとはすはいかにたへる	たまくらの月参議基	ふ事はまれなる中のひとりね	ひ月たか手枕にはれぬらん 多々良政弘朝	れはひとりの秋のかなし	なみたかくらぬ月もなし 前左大臣	ひくしまつそふけぬ	かなみたなにゆへ月に霞らん 二品・部	にはくるもわかぬわひくと	月ならてしらしなくみた空にみよ法橋乗戦	<b>亲挥英</b> 罗沙
院言法法法法上憲法	行あかつき露のきぬく	とりねは月を別れのあくる夜に後	もなとや残るおもか	まもなく頼めし月のふくる夜に 權	めしあらはとはれん	しになる月を枕にひとりねて	れたる中はそふかけもな	するなと月にや人のとひつらん	もかけのこるきぬく	をこそしらの月はうらめし	きりつる人はとひこてあくる	のおもふ袖は月もやいとふらん	らふはみねとつゆそこほる	かたきわかおもひねは月もうし	よそのちきりをとりやなくらん	ぬ人を月にうらみてねたるよに	はれもしらす秋かせそふ	みえん袖なたつねそよはの月	やひとりのわれをとふら	雨にわひ月にうらみぬ夜半もなし宗	アマーン
院言法法法法上憲法		<b>崇光</b>		大納																般	
The Isa		院御		言						法		法		上		徳		法		法	
製清師師師師人輔師		製		清		餇		師		師		師		人		輔		師		師	

四百十九

雲をなとなみたの雨

か

おとせぬあ

雲ときえ雨とふりにし

むなしき空を雲になか

ちゐに

B

なかむらんと思ふ月をかたみにて こぬ人のおもかけさそふ月出 こくろにむかふゆふくれのそら いたつらにとはれぬ床の月さえて いまは身のいのちをかくる物思ひ ふるさとなりし人もわすれ たれまつさとそころもうつこゑ あふともつらし霜のあ かなき夢のなこりかな つかへりこんふるさとのあ ひとり眺めよとての月はうし 身ふりゆくゆふくれのそら かすそふゆふくれのつゆ めのうちかすむそら わすれやはするわか心 み人のか けのそら にかこつらん めて おも かっ たみにて かけに つき . 1 T 二品・親て 玄 關 權大僧都心敬 三 贈慈 神 御 左衞門督為廣 後花園院御 太照 祇 白 宣 品 右 伯 政院 王堯胤 法 親 大 忠 大入 臣道 富 師 臣 製 王 製 かっ 獨ねになるより風も身にしみて わか袖にしくれてかへるみねの雲 かけこしは夕のくもをちきりにて 契りよりきのふの雲はあとありて うらみわ きえかへる思ひも風も身にしみて おもひのなれるやまよけふりよ 行雲もなみたに こひしなん後もおもひの夕けふり 見 せたにもおもふ方よりふきもこて 又もなき名や身よりた ゆふへのやまをまつ人もみよ なく音あらはにきくひともなし つゆにそたとるきぬ あふには秋の夜半もほとなし かくれなき我戀ちこそかなしけれ あとなし事になれるあらまし 長享二 はてぬ夢で行衞 もふもむなし ひぬ 年十月內裏にて百韵 れは松風おとつれて かくる夕まくれ かねことのする は へのみち なき \まし の連歌に 入道親 藤 法 藤原よしひで 智 權大僧都心敬 宗 前大僧正 法 即 蘊 砌 原 忍 眼 法 行 法 法 元 專 增運 雪 傳 師 順 親 助 師 師

身は

月やなこりの

お

8

か

なみた

わすれしの月の

臣前

心

敬

師

Bli

杏 露 かっ わ こひ 人をうら あふくまに うき身には Z 多 せ かっ かっ 3 ほ 月 たに は 雨 ほ 12 袖 せ ち 0 ひしきも人つれ か ろ 河 に草葉 身 を人 n 专 D あ なをうきおと 0 かっ 也 16 み身を はら もれ U は 袖 30 こそが お 73 もやま L < は E 流 逢 4 1 8 0 礼 まか は へ露 0 3 0) きるなみを袖にみて to 瀨 ろ T ひのすゑとをら 木のなにか かっ . 35. はや L 0 专 n かっ わ B ことにな 物 出 な せ は 6 2 2 3 n 0) 2 まし さや なきもひと つれやまたるら 入 よな つも 雨 3 3 たまくら n お 0 \$2 12 かっ 70 B 2 3 n あきのそら け み L 勾 な 5 Š 3 みそき は かっ やま 幕 まは おきて 12 5 b は す L 0 け る 111 12 かっ T め h L Ш 3 なれれ 後花 h 宗 道 藤 源 權 源 源 參  $\equiv$ 中 泰 政 動 空 議 原 밆 園院 納 仲 卿 宣 武 法 法 基 親 朝 朝 宣 御 員 臣 親 製 臣 酮 師 胤 綱 王 身 尾 **う**ら あ わ 层 八こくろうら なこそとてこの 花 は うら か 石 我 ふひ草むつましきなは忘 な かっ 12 かっ まつ にや には きかり は跡 2 恨海 は け みをや海 臣 見のうみ はやうらみても又 文明十四 弘 たか な 12 L 家 13 かっ 草 は 多 にて侍 n あ 袖 なさけそ もなみ なきやとの 0 0 5 うゆ T B 12 わ ものをなとよふことり とにか かっ 露そをきけ 3 年 O 0 n とい 泛 三月 n お 30 12 谎 別 h 3 かっ B 1 しと あ 3 は 5 沙 すへし人もうし 2 るい きょく かす夜 まもう つか かっ illi ひ -11-かっ 松 2 3 ろ つけ 歌 なみ 8 H かっ 60 しとは てつくさん こえて 0) 13 は 1-むしの す カコ くらて やらむ は 慈照院 3 12 な 6 な か めや なる かっ 出 6 は 6 44 扫 1 7 h らん 定 肖 部 後花 宗 御 前 權 智 開妙 卿 贈太 11/1 大 自胜 柏 伊 園 jį 納 僧 左大 院 常 祁 法 法

雅

展

製

御

製

fili

親

	みやてら	かに忘れかい 肖柏法師	į	をや絞るらん 多 々 良	•	るにもしれ 大藤卿經茂	や袖に見えてまし	みの濱つくら 法眼専順	もかけくり	てもうき中に 宗砌法師	とやかさねん	ふに秋ふけて 兵部卿教國	のさやけさ		十五夜に内裏にて侍しれん	ともなき 御製	りのおもひにて	はくちねた、参議基綱	はねともみゆ	に残るらん 大中臣時就
	この夜もふけぬともし火のかけ	かきたえしあとに昔の文をみて	わすれぬ人にあふはおもかけ	かきなれし跡とはみえぬ文もうし	おほつかなしやなとかはるらん	かへすをきみかふみになさはや	いひそめし身をうらみてもなくな	玉つさに筆のかきりはかきやりて	つかひもおもふほとはしらせし	玉つさをてにとるほとは賴みにて	すてつるのちは身こそやすけれ	心をもと、めしふみに卷こめて	袖のにほひもよそにもらすな	我にはと思はぬふみをおとろきて	たいすをたのむいつはりもかな	これやもし人のたかへし文ならん	まてとゆふへそこくろさはかす	雨かせのゆふへに忍ふ文を見て	おもひもあへすいまのをとつれ	うき中や蟲のしるしもかはるらん
		參		宗		宗	なみた	法		宗		他		宗		僧		權大		宗
		議		長		伊		眼		砌		阿		伊		E		大僧都		伊
		基		法		法		專		法		上		法		公		心敬		法
-		綱		師		師		順		師		人		師		助		钗		師

かれぬるか人もこね

おもひのはてをほた

もしつ \の薄きへた

とふ人もはやよもき

しつかにむかふ月

かに

おもはぬふしをひ

しるしなきわか戀草

ほたるはおもひい

とふ釜夜の間はか

おもひ草なと露し

わかこひ草そくつる

文明十八年八月

もに住まぬ我から身

あまのそてしのう

ちきりしあれはう

おもふへき妹せをい

出いる人のしけきる

	あつまより春を都にともなひて 智 蘊 法 師しらたまかなにそは心くたくらん 道 空 法 師	可いる、夜のをくるまうちかほり 入道前右大臣しのひちとをく月そふけぬる ここ 品 親 王	はなのころこそよるもねられね うらみをもうちそへかなしあさ衣 前大納言雅親 をしかなく夜の月さむきかけ ス部卿貞常親王	ねやへやいらん秋そさむけき かさねしは夢なりけりなさよ衣 深草右大臣 かさねしは夢なりけりなさよ衣 深草右大臣 製しはなをそらめかと見るふみに 御 製
の、月にたひたちて よみ人しらむしあさきりのそら なみち と 法	寺しもあれうき氷虱こたひたちで、青・超・法・師・野山を行は袖そつゆけき 世もかこたれぬたひのかなしさ	道	あすしらぬ身にしも遠く旅たちて 御 製すゑとをくたひたつ月に花を見て 前 關 白 近 衞 なこりおほくも夜こそあけぬれ	新撰莵玖波集卷第十一

秋さむみ雲ゐるみねをけさこえて 行人をくくるこくろも山こえて 都よりさほのやまとちたとりきて たかさともみえぬ高ねをこえ詫て やまちは雲のかへるをそ見 みねたかみのほれはかくる雲きえて ひと坂もくるしき山のつくらおり たひたちしふる里人を待わひて しくるくつゆをつたふいはかね 空ゆくくものまよふ身はうし わかくたちかしみちのゆくする ころもはすへきやとをとは 文明十七年四月廿五日内裏にて侍りし連 前關白近衞前右大臣などさふらひてうへか 日暮しみねこえて おもふなりと云句ををの へぬ日もなし 前大納言親長 の り ひ で 宗 宗 御 源 法 泰 伊 砌 眼 仲朝臣 專 法 法 師 師 製 順 行衞なき山ちの雲に日はくれて 山人のともなひすつる旅のくれ ゆふ霜はらひまくらかるやま からす鳴みやまの里に行くれて まつの火きえてくらきやまみち わけいるま、にふかき太山木 やとくひすてしあとのやまのは 木のしたわくるあふさかのやま こえゆかん雪いか計りあらち山 ふみまよふ山路とふへき宿もなし 日にそへてみすしらすなるたひの道 みやき野の露をみやこにともなひて やとかるころそものあはれなる たひにしあればたれをたのまん かへるもならひよしやかこたし 中々にしるへのあるやまよふらん たちうかれつ、人そこひしき ねさめには又もやきかんかねの聲 たえんの雲をちきりのすゑに見て おもひやるたにうきたひのそら よみ人しらず 源 源 惟 宗 宗 即 其 源 日 長 孝 宗 阎 晟 雄 實 盛 友 氏 法 法 法 法 法 弘 師 師 師 興 師 師 隆章 卿

かりころも春の

うへなるみち

つけ侍しに

來ても物うく櫻ちる山

くるしやたひにた

玖 波 集 卷十

四百二十三

夢はあとなきさよの中やま 道 空 法 師 電しろくおきわたしたる岩かねに 式部卿真常親王	しをとへはとこのやまかいまわひぬ袖うすきよのた	はこよなるられるないまでは、これないは、日のなかきでまり、これでは、日のなかきでまり、これでは、日のなかきでまり、これでは、日のなかきでは、日のなかきでは、日のないは、日のはは、日のないは、日のはは、日のないは、日のはは、日のはは、日のはは、日のはは、日のはは、日のはは、日のはは、日の	たいなしくどくるでくやまの状 にいねのやまの秋のはつかせ 法 橋 乗 載たいねのやまの秋のはつかせ 法 橋 乗 載	秋のみつみなきる山にたひねして よみ人しらず するにそさとをけふ三日の原 するにそさとをけふ三日の原
夕たちにあひやとりせよたひの友 覺胤 法親王かりのやとにもうきはわかれち 關白 太政 大臣かりのやとにもうきはわかれち 關白 太政 大臣がりのやとにもうきはわかれち 関白 太政 大臣	のこなたに待つのみつそにこれ	も消くへな	のくるもしらないせますさましかくるもしらないせますさましないかなるくまにかりほさしてんいかなるくまにかりほさしてん 切 切り けいなるくまにかりほさしてん	うつの山邊にむかふふしのね 智 薀 法 師かりねくやしきさよのやまかせ 法 眼 専 順

	小なを	された	心をな	草ます	なる	しのい	旅ねぶ	夜こ	やとこ	みすつ
新	小夜枕たれ朝	さとの名もしらぬ野中の草まくらたれにちきりをむすふともなし	をもとくめ	草まくら夢のなするもつへか	たひ人のしつまる月にかねなりてふねつなきをくみつのさむけさ	しの原や身を秋かせのかりふしいもこひしらの露のさむしろ	旅ねするこやのあし	夜にも身は老ぬへきたひねしてこくろつくしよゆくするもうし	やと出は又やしくれんそらの雲こへろつくしのたひの行すゑ	みすしらぬ人にやとかる雨の中つゆのなさけもあれなおなし世
撰莵玖	12 1	しらぬ	めぬかき	のなかかね	きをく	を称かしらの	やのあ	は老ね	やしく	人にやも
波集	道のへ	野中の	のかりの宿にね	はころさ	月にか	せのかる	しふき	へきた	くれんその	とかるなな
卷十一	ちて出つるらん	野中の草まくら	にねて	ふるさとのみち	月にかねなりてみつのさむけさ	幸のかりふしに	あしふき疎らにて 神のうはつゆ	ひねり	行する	雨の中
	大		多々	って法	って藤	からに	て源	さても		世宗
	II	宗砌	良政司	眼	原	治	尚	宣	權大僧都心敬	砌
	重廣	法師	良政弘朝臣	專順	長滋	氏泰	純	法師	心敬	法師
	ひ	露工	†2	草 (	草、	W The	Ю	<u> </u>	あ	里
	ひろき野の露をかたしく草まくら	か \ る草の	たひねかなしき冬のやまさと池に鳴ひとりのをしを身に	草まくら露はなみたやおとすらんたひのそらとふ鴈もなつかし	草まくら春の一よもうきものをすみれさきなは野へもいとは	夢よりのちのふくる夜のそら	くとくと涙は一つ旅のそらふるさとひとにあへるうれしさ	▲に恨みかしこに歎く ふるさと人に行衞きか	あさけもる賤	里ひとはぬるともしらぬたひの袖かたへしくるくやまのへのくも
	き野の露をかたしく草またにとへやおきてむかは	草のまくらに夜ころへて月はいつもめつらし	なしき	くら露はなみたやおとす	春の一	れ夕ま	と汲は	みかし	かれ	ぬしるとる
	かおきて	まくらに夜ころ	冬のやし	みたや	の一よもうきものを	とひす	一つ旅	しこに歎くたひの空に行衞きかせし	椎の葉	るともしらね るともしらね
	くむかは	夜ころ	を身に	なつか	きものと	る草枕のこ	のそられ	くたひ	の葉たくをも	ねのたへの
四百	366	ハて	しりて	らしん	をはし	多多多	しさ	の 空	を見てもあり	たひの袖
四百二十五	御	前關		右衞	從一	シ々良ひ	宗長	宗	宗砌	法眼
		白近	權大僧都心	衞門督季經	位数	々良政弘朝臣	法	法	法	專
	製	衞	敬	經	忠	臣	師	師	師	順

12 月をやと草を枕 月にこそやとは たひにや見まし又 5 たひ 秋 月のまくらは野やまともなし ふるさとを見るや夢路 そことなく ひ人の < つくにも宿りは < はらひも あ 露の身やい お 2 かせのたより しねの夢 B 3 るくわたりに船 けやすき春 かるい る里は野にふくかせのやとり のいく夜そいね ふの山っ かけとをし よと野 あ あ みつのおとのさむ はやすくさ つくに そみちは かっ n 0) とは 0 つき月に も悲し Ħ 秋 かりねして 袖 12 月にとらまほし 11 夜の に駒 のうは よは めと 礼 0 おくもやすか かてのそら もこた さか かすむら 月 め も露けくて たひまくら とめ 分 宿いてく 3 か け つゆ る野 しき 聲 りまくら け T ょ 3 多 3 にて k 贈慈 邦 = h 法 按 宗 從 嘗 良持世 太照 察 諫 品 橋 砌 原 使俊 政院 位 上 親 兼 爲 法 大入 雅 朝 景量 臣 臣道 人 王 載 師 行 學 しら川やせきちの月をにしに見て ふる里 月に行秋のたひ人やとも なみたにやお 月 うき身をもみやこにをくれ 秋すきか か かっ ほそきくさの かっ みやこのやまはなとかすむら をき ねにたちよる夜 こにわ るさ りみてやはは かへさをおもふたひへと たの れまつ月やのこるら か E ほ 12 まくらに 3, n あ 月 U

0

か

るさ

h

ち

ō

h

法

權

大僧都

心 敬 か

つきのそら なし やま寺 旅

多

12

良政

弘朝

Hi

秋

0)

月

宗

砌

法

師

るの ょ るの

ふるさと

まくら

法

III

斯

順

水

くれ

T

智

蘊

法

師

## 羇旅連歌下

みやこにや心の駒も急くらん たとうこ か露わけきつるたひのそら 前隔白太政大臣 はふいくか露わけきつるたひのそら 前隔白太政大臣 か けさしのほるあふさかの月

草木をらてもこふるふるさと かすむかきりをか へり見るやま

Ξ

品

親

王

行鴈はわかふるさとのともならて 戀しきこくろひとよことはれ 御

ふる里はかはるをたひにともなひて りまくらなこりを月にしきすてく

ひと夜のやともおなしふるさと おもふ事をもいはぬあはれさ Ξ 品 親

王

かきりともしらて出にし古さとに わすれやすると侍そわひぬ 3 源

尙

純

72

ひゆく人のとをきおもか

け

多々良政弘朝臣

たひは秋ふる里いかにあれぬらん みやこ人いてし日かすを數 なしや戀し夢にたにみす へきて 能 宗 阿 砌 法 法 師 師

> ふるさとに涙つたへよ秋のかせ たひ ねのまくら月そか 72

2

法

眼

專

順

ふる里の夢やつかのま 太刀さけはきてやすむたひ人 一ねふり

都より夢やかへすとさむる夜に うへしもくやしやとのまつ風 夜る行みちにはてをこそしれ

宗

祇

法

師

むさし野にかりねの夢は山こえて 殘る夜の月は いつくにかすむらん 玄

宣

法

師

ゆめはみやこのかりふしのやま やま里はまつふくあらしたきのおと 太 政 大

臣

製

いつかみやこをゆめにてもみん すみ田かはらのことやとはまし 式部卿邦高親王

こひわふと行てをかたれみやこ鳥 わかくたをとふ人になさはや 宗 祇 法 師

名のみしてかひなき物そ宮ことり ふる里におもへはいかてのこるらん 法 橋

兼

載

やすみしほとをいそくたひくと つねにゆくみちのこなたのか けの宿 權大僧都心敬

四百二十七

撰 **莵玖波集卷十二** 

新

手にとるはかりみゆるおもかけ 旅ころもかすみにたちし年くれて 源 友 奥	雪とちる山さくらとのたひまくら 權大僧都心敬 花たにもなくさめかたき旅のみち 平 章 棟	きとかり	うきだひも富士や心をとくむらん 後鼻光院御製 こころとまるは野山なりけり こころとまるは野山なりけり こころとまるは野山なりけり	式ね
月まつなみにとまるふなひと 條招法 師	とまりふねいそうつ波を枕にて 前左大臣郷でとく船にたむけのぬさとりて 前大僧正義運	おもふ船路のたるかなりである別れたる袖と	見るものはしやつのしのくのけ のこすこへろそ身にもまかせぬ のこすこへろそ身にもまかせぬ 勝々がはすひとのやと / 〜	夕月夜袖よりいつるやまこえて よみ人しらず きょむこまのあしひきのやま にえて 宗 祇 法 師 こえしとの法もくるしき道にして 宗 祇 法 師

やま風にふねさす波の高しまや 法 眼 泰 諶	を中の目のするようさなら 法 眼 紹 永行舟にみぬ山むかふなみのうへ 法 眼 紹 永	叉こえん山路の雪に船とめて 宗 砌 法 師 谷 行々たひのつらさをそしる	やみん海に山うくふねのうへ 入道前右大かけもおほろのあけほの、月	行ふねはおもはぬ方をとまりにて 太 吹 大 臣 とき日にかはるかせのしらなみ	暗きよのうきねかなしき泊ふね 多々良政弘朝臣やとをや月のいてくとはまし	ことうらに移るもしらす舟にねて 藤原光 傳なにはの事もた、夢の中	まつはらに入ぬる礙のとまりふね 智 蘊 法 師ふもとにきてはそのやまもなし	とまりふね河風ふきて暗きよに 法橋 衆 載しらぬふちせそ袖になかる\	わすれめや月にあかしのとまり船 権中納言定國
わたし船むかひにつなを曳すて、 忍 誓 法 師	おきつふね古里のこすやまもなし 源のよりのりおきつふね古里のこすやまもなし 源のよりのり	ふねにかせ見るおきのうき雲 権大僧都心敬 さとらすはのりのさはりとなりやせん	大うみのとをきなきさになみよせて	家にて百韵のれんがに 製	かせや日ことにのとけからまし 古今集の言葉をとりて百韵の連歌侍りしに	たひ人の舟ひきすつるとをひかた 源 政 卿朝 臣のりのみちにはさかひありけり	ふねよする野嶋のさきの秋のかせ 宗 長 法 師つゆにも袖はなをしほれけり	遠き江のあしのほのかに船みえて 源 繁 世月のこる夜にいつるたひ人	舟み

																		_,
いそくこくろをつるくふるさとかはしもはてぬことのはのする	山見えぬもろこし州のわたのはら 宗砌法	をくるもとをきあとのとしなみ	もろこしふねはやまのはもなし 藤原文	月見ても心ほそしやたひの空	わたりせん川おとたかしよるの雨 法眼専	はやくの事をおもふあかつき	ふねよふゆふへかはかせそふく 宗 砌 法	ことのはのかよふはかりをたのむ身に	ゆくひとことにわたすかはふね 参議 重	あしきをもすてしの法はたのもしや	夕きりにふねさしかへるわたし守能阿法	ひとりそぬる、秋のころもて	渡守ゆき、たえたるふねさして 宗祇法	こくろすみなはのりもえつへし	あさゆふにをくるや風のわたし舟 宗伊法	たき木こるをのかよふやまかけ	渡りするあさゆふ舟のつなてなは法眼専	
	師		躬		順		爾		治		爾		師		師		順	
							あつまより春を都にともなひて	西にむかふそねかふみちなる	かへるにもおなし宿とふ旅のみち	又ねになれは床もなつかし	かへりても心とまらぬふる里に	またおもひたつたひのかなしさ	ちきりてもかへらぬ旅の古里に	ひとりなかむるはる秋のそら	やつさてもかへらまほしき旅の袖	つゆしくれふるやまみちのする	おきつふね空にからろを順なきて	
							智蘊法師		權大僧都心敬		法橋爺敬		權中納言隆胤	2	宗 雄 法 師		ちうん法し	

春しらぬ身になと年のこえぬらん こほりもなみ もうちいつるころ

前後

左上

臣道

きけはけさこほり流るへをとは川 せきのこなた に年やこえぬ 3 前

左

大

臣

若みつに雪をくむまて身は老て 契れるはるのおもかけもうし

權大僧都心敬

ことは wbのあらましはうし

身をいは 文明廿八年三月廿五 ふはつ春ことに老のきて 日内裏にて百韵のれん 宗 砌 法 師

山 さくら のはのかすみのはる日色みえて のわか葉なひくあさか せ 前大納言親長

にほひすくなくさけ るはつはな

かふるさと、とりそさ へつ 3

誰うへしこすゑの野へに霞むらん

權大僧都心敬

新 撰 莵

玖 波 集

卷十

能 呵 法

かすみけり雨は夜のまの朝日かけ 師

> きのふまて雪をゑ島のあさかすみ めつらしと見るいまのひとふて

風そうきあたらさくらの花のか

け

宗

砌

法

師

宗

祇

法

師

ふねをいたせはかすむいそやま

かすみ木ふかき谷川のみつ ちりぬともやかては出し山

IF.

任

法

師

石はしるみつは霞にをとたてく はなちるやまそ春ふかくなる

源

盛

卿

かた山の霜夜のあしたうちかすみ つるのはやしもかれてめにみす 法

眼

專

順

きてみよと花こそかとをひらきけれ 元

やまはかすみのおくのふるてら 宗

法

師

たか心かくまてそめし春の 花

かすむはやしのふてのうすいみ したふとてちるはなはのこらす

5

うん法

散はてぬ世をうく さかりなる花はよそ目もまかは ひすの音に鳴て めや 關

白

右

大

臣

こぬひとさそへはるのうくひす ちる花は とは  $\equiv$ 

王

うつるやいく木はるのうくひす ねこくろのたよりにて 權六納言實隆 ᇤ 親

はなまではゆかぬやとりに今夜ねて	たくあを柳やかつら木の春 印孝法師	しら雪も花も芳野のすかたにて	玉しまや川かせゆるくむめさきて 宗般法師	はなのかくみやみつにほふらん	梅かくに鳥のねふりもさめぬまに 惟宗氏弘	ひとむら柳かせすくるこゑ	こまつにうすき春のあはゆき 多々良政弘朝臣	ふきおろすひら山かせに花ちりて	雪うすきひはたのしのふけさ萠て 權大僧都心敬	ふるきやしろに梅匂ふころ	駒にかふみつのみまきの雪とけて藤原長泰	野はわか草にすきもやられす	前關白近衛家にて百韵の連歌に	も、敷のあられはしりは明そめて 宗伊法師	そのかすくへのしるきうたひと	行めくり夜も竹かはの聲すみて 肖柏法師	ところくのうすゆきのみち	月になくたにの鶯けさいて、 能阿法師	梅か香きよき雪のしたみつ
よそめそおもふなかをへたつる	くち木よりさしそふ若え花さきて 太政大臣	老のむかしはみなあともなし	花さかり木のもとことのやすらひに	いくつのはなかしたひきつらん	わすられぬ山ちの花のかり衣 御製	こくろにしめつありしうつり香	ちる迄はなとか見さりし山さくら 関白右大臣	こくろつよくもかへるかりかね	いへにて百韵の連歌に	身の行衞おもへはいと、花を見て 入道前右大臣	1	したふ身を花よりのちと頼まめや 前際自在	i	家にて侍しわかんれん句の中に	花はまた殴ぬかすみに雨おちて 多々良政弘朝臣	たくさひしきは山さしのはる	かすむゆふへのひろさはの月 權大僧都心敬	やとりさへうつりかはれる春はうし	呉木たつみねにかすむ月かけ 法橋専存

	うへし人にほひし花も夢なれや 忍 撰 法 師	やよひのわかれなみたいくたひ	むかしおもふこくろの花に春暮て 源 秀 滿	木すゑも人のかたみとそなる	花たにも世の數ならぬやとしめて 贈從三位教弘	とはれんものか山かけのはる	はな老にけり志賀のふるさと 能阿法師	とをさかるみやこの春もうらめしや	花も只世のうきよりやしほるらん 宗 忍 法 師	なにはかなくもしたふこくろそ	風にちるならひは花にいかくせん 荒木田守晨	おもはの雨のゆふくれそうき	ふなひとはかせ待いその山さくら 藤原長衛	のりのためにははなもおします	花に行山はむかひの渡し船 法眼紹永	いてつるあとをうかれてそまつ	はなよりあくるしのくめのそら源友興	鳥もはやさへつるほとになりにけり	山さくらたつねてみれは雲もなし 覺 阿 法 師
もはてぬき、のあさつゆ	一人すまの山にはたれをよふことり 藤原基春朝臣	おほつかなしやわれもとはしな	いまは、や身をわか草も老の世そ ちかん法し	ちれは花さへ見るかけもなし	春草たかしかへるふるさと 宗伊法師	花のころおほえす日をやをくるらん	とをき野のわかはの芝生かせ吹て 藤原能秀	夕くれさひしひはりなくこゑ	はなこそあらめ見し人もなし 藤原元親	夢さめてやとにのこれる松のかせ	さくも花ちるをたれにて急くらん よみ人しらず	うたかはしきはこくろなりけり	おもかけの花にたちそふ山颪 玄清法師	われとこくろをしつめてやみん	わかおしむ花とや風もさそふらん 藤原武貞	なをそひぬるはうらみなりけり	はなみにとゆけは山かせそふく 藤原利綱	あらましにさきたつ友はうらやまし	いつまてそわか行するのはなの春智 蘊法師

身を秋になすひとのふるまひ	郭公おいそのもりにきくすてく 宗長法師	うきあつま路を行そらもなき	かきつはたさく八つはしのさと 宗砌法師	むらさきの庭になかるくみかは水	みもなれの姿をかさる神まつり 法橋乗載	むかしおほえて袖そしほるく	けふなれやまつりの庭のかさり馬 壽官法師	ひきつくけたるをくるまのかす	やまのみなうつり變れる夏はきて 法印 公意	春のわかれそはなよりもうき	すみそめにそめはやけふの衣かへ 法眼専順	まことのいろといつかたのまん	きてかへる春のふる里たつねはや 平章 棟	柳さくらのにしきをるころ	鳥そなくかへる山路のはるのくれ 宗 證 法 師	われみすとても花やしたはん	はるものふかき御芳野のおく 式部卿邦高親王	むかひなる山はさくらのさきそめて	月になを春の夜のこるやま見えて 三品 親王	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
夕くれはうきをならひと身をわひて	めにたてぬかきねの梶の葉は落て 智 蘊 法 師	たなはたのあふのちのあきかせ	ほしあひを思はぬ月のみしかよに 法 橋 堯 珍	うちぬるほとの秋になさはや	わかまたぬ秋のはつ風けさふきて 贈從三位教弘	ほしのあふせはさそなうれしき	世のうきを何そと間は秋のきて 多々良政弘朝臣	むすふか袖のつゆのしらたま	うつ蟬のはやまかくれに秋たちて 前中納言公夏	しのひく~のかせのをとつれ	涼しくもむら雨はれてふくる夜に よみ人しらず	雲にほたるのなにこかるらん	しほかれのもにすむむしのとふ登神 益政		夕たちは月まつみねに過やらて 離太 吹大 豆		うたふとも見しは此世そうかひ船 關白右大臣	しらすやさてものりのことはり	を山田にさ苗とりうへおりたちて 法 眼 専 順	四百三十四

	-
新	
撰	
莵	
玖	
波	-
集	-
卷	l
+	
Ξ	l
	I

ふき暮ぬなりひらの山風	連句に	内裏にて三代集の作者をこめ侍りし	ひむろ山秋はこほりを月にみて 其 阿 法 師	きえてものこる雪のおもかけ	月まちなれつむら雲のさと 能阿法師	丹波路やこのやまかけをすみところ	むらさめの空をや月もまちつらん藤原正存	すくるほとなきつゆのゆふくれ	おもはすの月を二日のそらに見て	みつのさかひにいまそまよへる	した葉ちる柳や雁をさそふらん 權大僧都心敬	またこねくれの秋のはつかせ	下葉ちる木すゑの月に蟲なきて 宗祇法師	ふるきみやこはたく秋のかせ	月しろきまかきのはなに蟲鳴て 多 久 時	こくろのまくにつゆそみたるく	花にさけもりのかけなる秋の草 能阿法師	けに老まてはしらぬつゆの身	荻にきかぬもなを秋のかせ 源 政 宣
さとなきやまをいくへこゆらん	露霜に月のなこりやつらからん 宗長法師	荻ふくかせに軒なあらしそ	ふかき夜の月はにしなる影すみて 法眼専順	雲井のいつくかりのなく聲	夜なく一のそらにかけ行月をみて 能 阿 法 師	こくろほそきは老かみの秋	柴の戸にみねこす月やうつるらん 法印行助	夕つゆしろき山のしたみち	やまのはみれは月かたふきぬ 宗砌法師	鴈はまたわかれもやらすなく聲に	むら雲のかけ見る月に夜はあけて よみ人しらず	や、野分たつにはの秋かせ	笹のはの更にねられぬ月の夜に 多々良政世朝臣	をとのさむきはかせかあらぬか	松かせに野寺の月をひとりみて 玄 慮 法 師	さとのとをきにこくろこそすめ	あかつきをしるやたかの、秋の月 法師 行助	谷のこくろそわれにしつけき	すみのほるをひえのかねに月出て 参議 基綱

見る心 のつらさともなき のそらなるちきり せの むいい ろなき秋 とてた 3 つそ 3 n ちする < かっ 所 を月 を月 ろ W るも 心 野 か 0) なるうすきり か 3 をゆ さの ふく 世 Ō あ n Ш 3 1= 3 は 山 もとへか かせそふ のすい 0 しらて見る か のゆ す葉うら うへ よも B کہ 山 n なとな 0 ろこし か 秋 < かっ ~ 0 のこゑ 月 て残 めし 秋 E は H 秋 2 0 0) Ŏ かっ 0 P < 3 かっ 0 b そうき 0 < 5 庵 やき そら なや 月に 交 3 \$2 物 るらん 月 か ほ 3 30 n もひ 多人 T h 宗 智 宗 紀 宗 源 藤 前 他 良 關 蘊 伊 原 砌 呵 伊 政 自 光 盛 弘、 法 能 法 法 法 上 近 朝 師 師 信 卿 衞 人 師 秀 師 臣 露 霜 身 D 72 わ 8 あ 雲ゐ うき事 3 \$2 月 n P かっ 10 孙 13 は あ こほ のうきふしみやまな よを さめ 4 3 かっ ち かっ 1 むきする はし玄くれ てなく 0 かすむ木葉うつろ くさむけ 散 る か る袖 む 草や里もふりの 12 0 火に する < 12 3 秋 つくなみた身に 行 夕浪 < うれ は 跡 12 0 のやまな あ より かっ な あきのや 0 は 2 雨 は るあ あ カコ の雲そは ちとり かっ のこ 3 ね 2 Ш b 3 5 とり きの 3 18 E É 0) 2 0 1-8 3 10 3. < 12 O 3 雪 111 か は 0 < 3 5 £, 3 45 秋 12 かっ 11 à かっ 2 n 0) つ 3 すみ W < h 72 祖 < かっ 1 1 610 6 12 立 夜に 3 の庵 とに ろきえて 我 7 3 13 h 袖 12 30 h n 0 きて うへ G2 ょ 法 宗 宗 權 源 智 權 事 11: 政 大 111 長 III 祇 蘊 间 僧 僧 卿 都 部 事 事 法 法 法 法 朝 心 H 順 師 師 敬 臣 间 興 順 111

うき秋

かっ b

松

2 め

n

誰

まつに

b

2

Ŋ

霜

to

かっ

ふるさとの

世

1 h

10

秋 な

ir

をす

風

0 老 io

0

あ

は

らきひ

何

は

は

67

墨

は は

8 0 3

か 2

12

0

たひ うは 一る夜

かっ

n

新撰莵玖波集卷第十四

雜連歌一

千句の連歌の中に

雪のあしたの木々のむらたち

たけの葉にきけは

あられ

のうちちりて

法 橋

兼

載

權大僧都秀順

山きはそをのれ

(のいゑ見えて

雪ちりまよふやまかせのすゑ

法

眼

禪

豫

さゆるよの月は

お

のへにかけすみて

お B

かっ

けちかき雪のとをやま

權大納

ねぬ夜さえたるゆきのしたいほ

まゆのことたなひく山は雲間にて 浮しつみなみまにいそくとまり船 きえすやなみのうへのあはしま 宗

伊

法

師

やまも行かと雲そまよへる

入道前右大臣

妻とふ鹿のこゑそふり行

たかさこや松におのへの風おちて みゆるかひなき袖はしられし

權大僧都心敬

あすか風みやこの人やたつぬらん 老てみゆきにあふやうれしき 宗

般

法

師

いにしへのをしほの山の小松はら 宗 砌 法

師

くものはたてにのこるやまのは 夕たちはつゆを殘してあともなし なにとなくなみたにむかふ秋の暮 源

友

興

あをはの山のよそのしら雲 あらはすもかくすも法のほかならて よみ人しらず

四百三十七

殘 13 都 色 うへかうへ 都よりとをき恨 大ひえい < やまの名のをの る日 江 Ł ほそくそみの つ行て かふはか 行すゑの山 45 雪をも山 おもか Ł あらしそは 12 より つかたの空に 文明十三年九月十三夜内裏にて おもかけつるくふし をくそのこるやまの 同 は 1-西なる 遊 くつた けをわ ż 日 いはふみなれ 年十 ことにまさる りにとをきふしの なるやまは とつくりてそ見 をは 53 る柴は 3 カコ す Ш 12 み 郷は もか 月廿 はふしなれ 0 あとにい n きふしの かっ あ 12 n 37 ふしの 3 まくに重きて かすか 6 のうき雲 h よふな 五 か よし 世 は 0 L  $\mathbb{H}$ ほ たけ ら雪 0 3 0 扫 つなさ 3 ひえ 野 Ė 12 ね カコ ili. to T 7 山 め 歌 1 h 多 1= 百 贈慈 るし 前 能 權 御 T 愁 法 12 大納 韵 良 太照 議 左 阿 眼 W 連 政 政院 ん法 言宣 弘、 基 事 大 法 大入 朝 臣道 綱 順 臣 師 胤 製 臣 L 雲まよりとをしま細く夜は 빏 B 岩かねの Ш 15 初 かっ 水ならて聲 かっ Š. 冬かれ あ やまにわひしきさるのひとこゑ 0) 大 かっ もかけさひしうらのとをしま そことなき霧のまかきをへたてきて らさきやさく波白く夜は 12 る日のは いそうつなみそやまにこた ひとはむかしのことのは つらきや岩のか 日 なのあら 1 すく 井そのこるさとのさひしさ せん波 さきふねそおきに のし たの空に夜は ひともとのまつくらきか の野へにさひしく色見えて かさなるおくにみつ落て は かへる るかに たのみつの一すち なか しは月にこゑすみて ち らのは 1 あまのつり けは 匂ふわたの さきは のこりけ し明 みえ しは あけ 111 3 1: わ なし 12 は 3. T ふる しら たり h T 3 島 ね V 3 Ξ 沙: 宗 肖 念 怒 御 權 よみ人しらず 法 大僧 是 藏 就 印 柏 1113 都 玄 注 親 事 非 Ti 法 心敬 作 師 治 製 E 順 當 師

さみたれ はれたるみ たか ひとり は船の す は つを す柳 礼 か h かよは は が わ カコ 0 たくみつのう たるしらさ 中 せ ぬ里もなし 0 2 きわけ 7 大 權大納言實隆 僧 都 慈 運

は からすとふ江の秋のゆふ るかなる沖をも ふねこくろせよか せになる空 波に なみ 藤 原 IF. 能 臣

なか

め

やるをちの山松かせさひし

か くてすまるく世こそあたなれ i その みて 藤原政行 朝

よそに ひとり連歌 文明十四六月げ みは欝せかる h へき蘆の じのことばに やに て侍し御 關 白 右大 臣

みくかしかましあまのさへつり b 舟の かすまさり行須磨 のうら 御

きしらぬみ ĺ もふれ よ法 0 整

ゆふへのかねにか すくるそお しき鴈のひとこゑ へるつり ふね 權 大納言實隆

ふなひとも棹をわする、秋のうみ 夜のまのかせやのとかなるらん 權大僧都心敬

> いさり火の數あらはれ 見しもき も末そは て漕 か な 船 前關白太政大學

明る江のいさりひ遠くかね 霞つ、ふねこそ見えねなみの上 なりて 法

即

專

海

臣道

兼

載

こくろありてはいつあかしか N ふかきおきのいさり火 72 法 橋

ゆふく

夜 大海のとをきしはひにあさりして まつをたよりにかへるうらふね せはきたもとをくたすあまの子 なくの釣の火ともす波 のうへ 權大僧 智 蘊 品都心敬

法

師

はしたてやあまの見るめをわれかり 7

なにはつの昔を民やしのふらん つよりたまのみきりとはすむ 多

よし あ しのやはすみもはなれ よ 々良政弘朝

いまは 慈照院入道贈太政大臣家にて百韵連歌 トや何か なにはの みやこ人 玄 證章

法

師

臣

製

くち残るまつの浦しまなみこえて 袖 見るさへうしや一 さへぬ るくみちしはの露 筆のあと

宗

祇

法

師

いにしへの宮のうち野の原をみて 四百三十九 宗 蘊 法 師

IF.

45-

fali

軒 大 L 里とをき煙のうち こまつさへおふる軒 さとは かっ 2 /井川 ねの 茂 聞 る里の はなるしの わ 夕されは よそに見 かっ あ りこ しより見るはまさりてつらき < け のふとい 3 カコ すみさひ 文明十六三月家にて りこよかし出したひくと か 5 むか か のこれるやましなのみや 葉さひ n は雲や は つらはなをそこふ をは よもきか るやまや 身をうら る L H よりをちのさとふ し字 より ふを里の 0 のいろさへ身に ふもなをさり ふかか 12 2 5 かっ 治の 3 袖 はすみゑにて 30 1 は 革 とに は 12 か 島 くになるらん わ つる の草 0 かっ 0 名にきく 2 ~ かっ 3 3 Œ 3 J. 0 みや 3 か 0 カコ n 6 カコ け 10 ılı < ほ b 3 秋 け n ٤ T 風 h 7 Ź 跡 1 宗 贈慈 宗 前妙 Ξ 權 能 源 法 大納 關 太照 祇 砌 阿 橋 白花 政院 尙 言 兼 法 親 法 法 大入 大臣寺 兼 臣道 載 師 王 胤 師 純 師 ふる雨 秋を 古 ili 12 それとなき木す系霧 3 古さとをとひなくさめよ松 ふるさとひとをまつにとは 多 n 40 17 世 ほ かけはそのまくくれてふる雨 わ 15 かっ D あらんかきりや我ひとのみち しら 中の n 3 か れ ふりもや かっ なはのかせのをとそし ねなりてこそなをさひ 文明十八年十一月廿五 なく のみ す 0) て身ひとつくらき古里に な て身にしむつゆ みにをきて侍 身に 生の かっ 3 南 む花より i しのまろやは戸を閉 3 つきぬやまの あ あは る里さひ たふむかしとやし 12 はと つまてか隠 れすみこし跡 をちの 2 3. し雨 3 百 < のころ 真 怡 削 北 た旅 つけ 辿 H 0 0 のとに 12 にい B け < B 歌に 風 歷 なら 7 3 h n ろは 權大僧 按 藤 源 1 宗 宗 前妙 法 陽 の文字を 祭 砌 臣 橋 原 意 祇 置 左 左 使 都 4 和问 法 法 法 法 大臣寺 俊 L

敬

師

師

景華

わかさひしさよたれにゆつらん	あらましは頼まさりつる柴戸に 多々良政弘朝臣	いまそこくろのまことをもしる	見しとみし友はかれ行山かけに 参議 基綱	夢をつくさぬ老のつれなさ	山かけに入もむすはぬみつおちて 法印行助	かり田のあとのいほのさひしさ	なをうきかけはやまなしのはな 肖柏法師	世中をとをくとはかりのかれきて	よのうきよりの山のさひしさ 宗砌法師	しつかなる谷にもまつはかせ吹て	すみもみはやのはる秋のやま 權中納言宣親	かねことや一かたならすかはるらん	春はた、芳野のおくもうき世にて 参議 基綱	ことしも花のうつろへるかけ	すみはてん事をし思へ山のおく 参議 時 顋	あともさため四身はあはれなり	かくれ家を心のうちにもとめはや 大僧都慈運	おもへはやまもうきよなりけり	山里にかよふくち木の一つはし 権大儒都心敬
とむるをひとのなといそくらん	こけのむしろにおつるまつかせ 前大僧正道與	看とくるいはねの枕うちしめり	なれてもいさやまつかせのいほ 玄宣法	あらましの身を置はやの山の奥	松ふかきおのへの雲にかとさして 小野葉	はなちるやまにのこるいりあひ	しはのとけふる冬かれのやま源宣	朝嵐ふきしつまりていつる日に	みねのあらしのむかふしはのと 法限専	暮そむる雲のたえ間に月見えて	とふひとの心ありける柴のとに 宗順法	世はうきものといひもはなたし	あくるやと光りみえたる柴のとに 權大納言豐通	をのれこゑしてうくひすそなく	やまをとなりにむすふしはのと 太政大	嬉しきはそむくに近き浮世にて	住そめてことし秋しるみねのいほ 前大僧正尊應	こけになしても袖そつゆけき	長らへてすむへくもなき柴のとに 法橋 兼

山 Ш なは深くたつねは山の 人とはぬうき世 5 友もうしことな語りそやまのおく おくにひとすむ 人もこぬ山 ひとり 心さしふかきかきりのほとみえて 霜こそうつめまへのたなは ふかくすましいまは さとはとはんといひし人もこす n 奥ふかき道 さのみこくろよ世を きくさへはけしあらしふくをと お ふるさとひとく B 0 のこゑする夜るのやまさと ふこくろの さへすめはすまる は世をはすてやか のかたそに のをし 0 お さか わ ほ なとなかるらん は n 0 もな ないとひそ 0 いほふりて おくもなし らのやま の夕あらし たよりに 山さとに 1 りに Ш n L らん 里 10 7 權大納 權大僧都心敬 宗 荒 按 法 源 法 權大僧都 木田 察 砌 橋 眼 使 友 言宣 專 專 法 守 俊 心 武 量 師 存 胤 興 順 敬

新撰莵玖波集卷第十五

4 つのまに植し木末のふ おとろかれぬる庭のやまか b n らん 4 よみ人しらず

こくろよはくも老そなりゆ 家の百韵の 32 h 1

うつろへは風もさそは おとろくひともまれ のよの てちる 花 1 1 1= 開 自 右 大

あたなるをた、咲花の上に見て あはれに みゆ るふる さとの あ 多 一々良政 弘朝

うへしよをしのふ 待事 į あ 50 の軒は花さきて 0 世 としり 15 か 5 藤

原

元

親

E

臣

ち木には よそめ は 空に なをた あ る世 0 む は とそきく かっ なる

4

景

盛

<

か かっ け高 なれもやもめの しくれも雪も木をめくるそら きつもりり 10 のは え山 からすなく ときな 風 一つまつ おちて なり

法

III

事.

順

宗

彻

法

fifi

W むすひをく契りも草のうらか 明 カコ 應元 を上にをきて侍し連歌 り嵐 ふく + 月廿 野 Ŧī. 0 日 ひとつ松 に内裏 n 1-て阿河 法 彌陀 眼 の名 紹 永 むかへ すゑなひく田 な 雨にやならんふくかせの n るまとになをきくれ n Àl は 心の似 中の竹にはとなきて n も友なれ たけ B 多 權大僧 々良政弘朝 都 心

あはれとたれかいはしろの松 ならのひろ葉に 村さめのふりくるかたはすくしく か せあたるをと 權大納言 7 御 12 か しず 製

へるうき身をし 文明十五年四 月内裏にて百韵連 れは へつかし 一歌に

花にきてもみちはなとか忘るらん 世にちらすもりの朽はの色なく するもとをらぬあらましの山 T 關 贈慈 太照 白 政院 右 大 大入

花うかひもみち流るへた ときのうつるやみつにしるらん つた かは 法 橋 兼

もみちのあらしはなのやまかせ 一とせに一たひせめてとへかし なれぬとりの音さひし山 0 な 與 源

尙

純

は

かすみをいろのまつの

しほ

**真木たつ庭のゆふくれのいろ** 名もしらかしにましるときは木 またしら ぬ太山の おくをしめ をきて 智 よみ人しらず 蘊 法 師

けたものもきみか此とき出つへし

あせたるいけに雨 おつるみゆ 名も木たかしやきりにすむとり

宗

伊

法

師

汀なるさきのみのけにか 井 ての わ 12 りの Ō きの せおちて あ けほ 0 宗

砌

法

師

ひとりぬるさきさか山や寒か やまかけめく るか きの かっ は 宗

らし

伊

法

師

臣道

鵲のこのはしもとの木にお 身をわするいやこひのことはり るそ

智

蘊

法

師

臣

つみそともしらす白尾の鷹すへて ると秋とをたひの 行かへる心もくるしものお かりか ね もひ

前

左

大

臣

載

めちとをき濱の眞砂にたつなきて つのさか V はさらにめのまへ

このうちをおもひの家と鳥なきて

御

製

四百四十三

權大納言敬

具

えにあらはるくふてのいきほひ 法眼紹永けたものく姿に似たるすみをみよ 多々良政弘朝臣	似たれともにぬ事多くある物をかちたるかたのいさむみたれことよみ人しらずあらそへるこくろの馬の乗ものに	人やごにいきしにをわするらん 宗 砌 は花たちはなのうちかほるかけ	亂れ碁に我いきしにのあるをみて 權大僧都心敬いしのうへにも世をそいとへる 玄 清 法 師	なとひたすらにわすれはつらん ます鏡せめてはおなしかけならて 法 橋 堯 珍	虎のふす山より世やはつらからん 宗祇 法師しらぬこくろはからくにのひと 宗伊 法師	けふりそのほるおくのすみかま なる草にうし引かへる野は暮て 宗長法師
ともし火をかくけ壺せは鐘ならて 宗 長 法 師まとろむ夢そやかておとろく	はかなの夢のあかつきのかね 法 橋 兼 載さことに床のちりとる玉はヽき よみ人しらず	くろのうちをいつかはらはん 宗れおもにのうしのをくるま 宗	おもひにや心のよとのなかるらんねさめにとをきをくるまのをと 宗祇法師	ならにて千句の連歌の中にをくるまをふけぬる門にひき入て 能 阿 法 師床ちかくりきとのゐするひと	のむ酒の後は我れかの心にて 多々良政弘朝臣 おもへはくちのとかもあらしな 左衞門督為廣	おもるらん罪のはてしよいかくせん なしこきこくろふたりとはみす

わすれ草しけきを庭のをしへに

たのむもはかなふみのことの

入りぬべき道をもしらてよむ

おもひなくさむほとのはか

いるの風慕ふかつらをおりわ

そのかみ山にたむけをやせ

むかしなからのやまとことの

つくむ名も世にかくれなく成

あふけはたかし、きしまのみち

ときにしたかふうたのことの

ゑにとめてふりにし人をし

すくりにむかふあさことのまと

春秋とつくす心はくてもな

はらひえぬ心のちりのかいる

ともし火によるのけしきは静

まとうつ雨そ袖にこたふる

かねひとこゑのをちの杉むら

ふるきみやゐは神さひにけ

あ

ふりつもる雪の山もとくるくらしのくちのかねのしつける

たて 権大僧都心敬	法 宗 砌 法 師	版にけり が 大 臣 か 大 臣 で 大 臣 で 大 臣 で 大 臣 で ス 道	(a) 身に 不 三 品 親 王 治	を 玄 通 上 人 産大僧都心敬
誰れか見しなにこそたつの都なれぞこともしらぬ海の中みち	けふめつらしくうたふこのとのけるめつらしくうたふこのとの	世のうき事そ身にあたりぬるせんとろかにてすむは住かの雲のうへをみかにてすむは住かの雲のうへ	ふきたえて世には聞えぬ家のかせまなはてすきしみちのくやしさまなはてすきしみちのくやしさ	古への同しまなひもとをき代にふるき文に蓬あやめの枯やらてなかしのあとは草かくれつく
法 眼 專 店 法 師	宗 砌 法 師	<b>從</b> 御 一 <b>位</b> 雅 行 製	太 政 大 臣	道 空 法 師

四百四十五

子にあらそふはもの、ふのみち藤原種人	いゑをおもへはいさむものへふを大僧都心敬身をすつる心はやすくなきものを	たか為の名なれは身より惜むらん 宗 祇 法 師はかなきものはものしふのみち	もの、ふはそのなにかふる命にて 前大僧正培運すつるは身をやすてぬなるらん	かはらに見るもおにはおそろし 法 眼 専 順軒はともおもはぬはかりあればてく	むねあけにとき日を取は博士にて 宗 砌 法 師のみやにあまたしる事そある	これそこのうちのまさしき辻社 法限専順とは、やさらはみちのつまむき	たれいくくすりそれもたつねし 宗般法師	石をゆかなるやまひとのあと 智 薀 法 師ほらはたくこけの緑にうつもれて	山にすむ人はかすみをいのちにて 宗 祇 法 師たく火もみえぬかたやのとけき	学者を対象を
詫て見る月やあらぬとかすむ夜に	老さりし秋はたか世になりぬらんなかかへは月になみたおちけり	<b>学環のくるとあくとに身は老て</b> しつかこ\3やたえすかなしき	はるのわかれにまた秋のくれ	折にふれ時にかはるもこくろにて	おしみかなしみうつるはる秋としはたく驚けとてやそひぬ覧	いたつらに春秋くらすかたる中かたるもきくもおもひてそなき	はなつ矢のいたるところは心にておもふねかひのはやきみたらし	いきほひを身はひきとらの梓弓でねなる月にひかりそへはや	もの、ふは矢先になをや揚つへしい	
前左大臣質	法	前 左 大 臣 大 臣	三品親王	權大納言宣胤	能阿法師	智蘊法師		宗 砌 法 師	<b>宗</b> 元 法 師	

新撰莵玖波集卷第十六

老ねるをめてこし月にうらめはや

宗

元

法

師

みはいたつらに秋をくくり

# 雜連歌四

前大納言親長

文明十六年閏十一月廿五日に内裏にて百韵

の歌に

つかへぬる代々の道には迷ふなよ まなは、文そ光なるへき と云句に 權大納言宣胤

おひの後つかへん道もやすからて 世にあふまてと身をかくすひと 法 眼

專

順

物事にまことをしるや稀ならん

權大僧都日與

物ことに只ありなしをこくろにて

權大僧都心敬

かせも目に見ぬやまのあまひこ

まなふこくろはたれもをとらし

ひとはたくむなしきいろを心にて

智

蘊

法 師 さとれるみちはとふもこたへす

なかめやる心のはてを尋ねはや くまなくすめるなかそらの月

夢にしも思へはこそは見えつらめ

世のためひとをえらふいにしへ もれぬる袖のいろそくるしき 惠 俊 法

師

かす~にひとのこえ行くらる山 宗 伊 法 師

はひつくもあれは畏こき世に逢て みたひみさりしたまはからくに

智

蘊

法

師

ひとによる恵なりともいか つかふるきみにうらみのこすな いつれもあきをとめぬ世の中 くせん

藤

原

正

盛

誰きけとはかなやなをも惜むらん 四百四十七 權大僧都心敬

四百四十九

師

師

師

親

製

臣

師

残りきてやそちにかくる年はうし 治 身をわふる人は年より老は むそちをあたに ときわ うき身いとは おひのこぬまそひとのよの かくる身もまた秋 つもるとは思ひもわかす老のきて そち n D 12 ね つえをやみ もはや る世 か 1 るとしも はるうきよそなをあ ほりは かひつきせ かっ いかは はたか いたつらにすくるは 日をた D お かすみ かく身に か さへうさは t, るのい 12 す 50 ひの鶯なきすさひ おもは へに送ん身は 0 2 おひは よりをも頼 ねこくろをろ ち は はて をし るみやの 老の涙 ろをのこさむ そつも ぬ夢の中な からとは きに の世 ねをそも あ は b まねに てい に住 つへ r[a 1= \$2 け 聲 12 る秋 つらし せん T る h なる か \$2 7 3 B 多 從 權大納言公隆 能 宗 兵 々良政弘朝臣 前 前 太 御 中納 大 部 [10] 砌 政 僧 位 卿 正道興 言 大 法 法 明 敎 雅 茂 師 師 國 臣 康 製 5 なに おひの 老はなみ お とをやまとりのお 72 老ねるは皆たらちねの 老てこそ哀れをもし うき時はこくろもなをやよはるら ひのまくらのいにしへの夢 うたくねよりの ひとのうへにもうきことはうし ひと つみ火を春さへ たきつなみ いつまての らちねの諫 ひ出 たつるやなかき思ひとなりぬ 事も老はこくろのまくならて のふむかしやかたりのこさん 文明十七年六月内裏にて百韵 あは礼はよそにしらめや もねさめ 60 たをかた 1) のち しら カコ おちそふ つれなき人にか は 身 のとしそかさ 頼む身は しきのそて ひのいにし る あか のうさの が **\$** RL 身の つきの たくひにて 60 3 雨 をよ ٤ b 1 おひて お 0 なる よは ひて かっ るきして 夢 な か は は らん かり の連 前 內 大 臣 玄 宗 權中納 智 よみ人しらず 智 御 前 一歌に 淸 蘊 祇 蘊 左 言 法 大 法 法 法 宣

うき秋なにをおもひ残さん	おいか身に残るともこそ哀れなれ	むかしのちきりいつか	老の身にことしもなかは	なみたかすそふなかり	玉てはこふたくひ老はか	はるにあけよと年もな	春日野のおとろくはかり	神ようきたる身をはあ	一たひはたれもおいその森	いまさらなにをなけくなみたそ	おひのすゑ野のつゆのゆ	いのちにもいまやむか	ちらぬ花おひせぬ人もな	うき世の中よさもあらは	身にそしむ老にたのまぬ	ことしもなかはすくるふ	わすれ草おひの心をたね	むかし点のふのつゆそみた	老のなみたそひらにそひぬ	新撰苑玖波集卷十
さん		わすれん	暮しきて	月のする	かへらめやい	おします	身は老て	はれめ	のつゆ	なみたそ	ふかせ	はん物おもひ	もなきものを	にはあれ	飛鳥風	ふるてら	なれや	みたるく	る	を十六
	前大僧正義運		從一位敎忠		道空法師		入道前右大臣		從三位義敏		源 友 興	0	權大僧都心敬		宗 砌 法 師		智蘊法師		平 長 恒	
なそ世の中のかはりゆくらん	歌の中に	内裏にてこきん集のことばをとりて侍	ゆふへのくもにみをやたくへん	すみそめの色にたもとをやつしき	有へはと思ふに身をやたのむらん	まへにいてぬそ新まいりなる	あすをさへ思はぬはかりみは老て	なかめやすてんゆふくれのそら	老ぬれはなきにしかしのよの中に	よき事またんみともおもはす	世を見るに我はかりなる老もなし	ひとゆへ袖はぬれまさりけり	さためなきことはり思ふ老のみに	しくれてすくる夜こそなかけれ	いつちさりいつち行らん老のとも	わかれてわれはひとりもそなく	うき身只あるそらもなくふり果て	雲ひとむらは又そしくるく	夕露のきえぬはかりに身はふりて	pr 7
		とりて侍し連	參議 基 綱	きて	權大納言實隆		よみ人しらず		能阿法師		藤原能秀		神祇伯忠富		壽官法師		智蘊法師		藤原俊通朝臣	1

は

らひえぬ心の

5 0 ろ

りの みち

か

さめつる夜そをそく

衰

ふるみ

何

か

T

かっ は

むつ まは

をは

ほとなくひとそわすれば

人ことのうれへと秋やなりぬらん こくろをつけよ文字のことは なみたすくむる世とそなり よをすつるのちさへ花のかけに しになるこそうき身 はや川に ん蔭も すれ くる 安きみに なし なれん 月 花 か け T なしき みに なし な なれ n Ø す n 7 T 0 か る 3 'n きて 多 V 權大納 宗 前十 玄 藤 藤 宗 忍 權 K 良政 大納 內輪院大 澄 長 擔 祇 原 原 言實隆 弘 長 修 法 法 法 法 朝臣 茂 滋 師 臣道 師 清 師 師 な か 身 あ あ うき身にもなをなかきこそ命なれ かくてたに惜むは何そうきいのち すゑの松まつことなみに長ら うきいのちこそかきりしられ けろ かき 0 あれ 又たちこさん年はたのます ちきりはかなきみこそつらけれ あ 3 ものをおもふもつらきつゆの身 みの老をさらにおとろく人もな るもうし さか 0 艺 12 ふの 0 たるに を身の お か 0) ほ し思 つゆに身をそなくさむ b 5 は 72 0) あた は Ó やくとてさの せてわれをみんとや くあさゆふを命に 出 T 0) ほ n 消な なる花の色をみ 秋のお ともうら ははてもなし h 身の 8 2 カコ 行 H 殘 ね 7 7 衞 3 らん 於 Ξ 法 小 法 大 太 前 御 藏 祇 服 橋 政 딞 野 左 卿 法 事 國 兼 大 大 親 經 師 順 繁 載 茂

露な

からうき身はをか

る

事

0 なか

b

しほとは

もひとくにはつみそか

なにかはた

0 た

む身は 1

つゆに

\$2

やとかせ夕く

れの

世

の中は

あさ

か

ほ

0

吳竹のは

身こそはくち木は

るは

わ

はか

せめて身に人の憂をみすも

臣

臣

王

製

~よひて身を浮橋の 見る夢よりもうつく

波 集 卷 + 六

### 新 撰 莵 玖 波集卷第

ひとの j 久 うる 老 お かた は 3 源 世 世をきの 3, 政 つる身をも心になくさみ 元千句 3 は 0 連 あ 12 かっ 歌 13 まつやし ト夢のうきは ふの 0) 連歌 人 雲 0 石に返り 5 行 L する 侍 0 2 弘 12 柱 T T た左 智 め衞 蘊 法 ひ門

ろ 督

3

覺やら 3 T 法 法 眼 眼 事 泰 諶 順

うき世の夢

は

あ かっ

か ね

なし 身際

つもきく

Ł

此

カコ

ちとせも夢

とお

ある

よの

111

師

よの

お

うきに

は

あ

~

と身をし

3

は

13

部

H

肌

Oli

h 0 T 音 藤 權 道 大僧 公 原 都 Œ 法 心敬 種 師

3

つやはに

ここる

ひ 3

t な

0) まし

S.

ね

もかよはぬ

なみ その

0

ã)

5 1 h

2

かっ

h

0

やとりをい

とふはか

龍

道

U:

傷折

我ひとりすめ

3

も遠き世

ろ

をも

á) りとい

は

うらしまのこの

世

0 たち つき 12

الله

0)

ろあさくそ

かっ

b

つ

みつをやひとのこく

ろとも

せ

馴 行 か入 かっ わ けは 3 沙 tz a) めに な字治て h 3 p 波 かっ 似 0) たきは 5 た はきの 3 哀 るひとそし 111 カコ 12 Te 1-るはや よをし 1) 5 かよに 13 0 55 け カコ 12 T 33 T 乢 震

祇

法

fili

60

うきてす E 中は人に 12 は 2 む身 0 12 1 B ょ は 43-身 3 19 3, 1-しら 5 か S 1-7 かっ 0 なみ は 哀 2 12 0 h きて なき j 12 忍 FII もみ な 擔 7 1/5 法 法 Ł

この 岩木やは 定めなの つねなら 人は世に 又 なきを かっ なとも 世に b しく は長 世や 幾 おも 人をも 0 82 B 16 世 19 13 30 っさて何 E B かっかっ 5 浮 なか 世 L -3, 3. 身 3 30 7 をもうら 13:10 っとは 1) そらの 誰 を た つむ j) かう か 0 な 僧 恨 7; 3 弘 b < かい 2 3 b 6 3 な 3 け h 12 膨 110 權 宗 權 大 大 原 航 (14) 僧 僧

福

心

你

法

fili

源

TIS

隆

住 果 ん世こそつらきもつらからん 0 12 おもに をは こる よと車 宗 長 法 師

山 したか かけ ジニノ ひて ろ めくるあ あさく身をす はれ 法 眼 專 順

お 3 うき世 10 かてすみけ 法 印 行

助

れかは かっ いる身をわするら ñ

出 迷ひてやこの世を てみよ後は つせにますはよきの神 うき世とし あ b 祈 かき つへ 3 5 L ĥ きのの 宗 砌 b 法 むね 師

よもきむくらに あ 3 کے るみち

こきわ ろ見もなきよの中は かっ \$2 10 < 船の跡 住 n きえて めや 權 大納言隆

わ たるもかなし たをし 12 13 ことに あ めたし世 出 7 E 0 中 かっ 72 れす 後花園院御製

は なとつらき心に なり ń 5

とにもか

くにもうきは

よの

御

製

きりき n 文明十八年三 あ ひぬ るすゑの 月晝百韵 よの 連

思 唯さ かっ せて 安きみの ならひ 歌に

るにそよをは なくさむ Ξ 品品 親 王

かっ

きり

玉の すてし身にさへ秋そくるし < をの創 b かっ へしなをし n たるよに 0 なか Z 5 7

太照

大入

臣道

贈慈

月はなとうき世をしらて澄 すつる身にうたてやくち h D 5 ħ 衣 後 一层光

院

御

製

おもひかへせはよしやか むまれきてわかすめ るこ りの 0 < た左

め衞

ひ門

お 督

わ かことは とにか くに りにまよふ世 人を恨 ئة る 0 中 5 Ú Ĭ. 道 空

何事もよしあ

し原の

かり

の世に

多人

良政

弘

朝

臣

法

師

すめはうくみれ つくをさても我 は大かた廣き世に かやとり it 宗

祇

法

師

實

身も 戀しさのつらさはさても報 5 つの 世 カコ 5 L 0) ひと かし 宗

砌

法

師

さきの世をみ かなしやさてもなにむまれ ń は 淚 の主 ţ か けん

權

上大僧都

心

敬

さきのよもひとつ心 うきもむく ひとお B のうち Ŭ あ 1-せよ

秀

ちのよを思はて人やをくるら をは 前 大納 道 親 縠

永

あやうきものとい

0)

より

篼 玖 波 集 卷十

撰

四百五十三

いはのはさまに身をかくさはや 御 製	あらましは曉ことにかはりきて 前左大臣	行末のあらましのみになくさみて 式部卵政為	あらましの山とし高く身はなりて 前内大臣 おはれくしとおもふくるしさ	こへろのうちのやまはかひなしが大納言教秀佗つへも有世をしらぬ身はうきに	うき世にも山にもつかぬすみの袖 法 橋 乗 載なかのころものうらめしの身や	しるへせよのちの世まての秋の月 日 晟 法 師なをやまよはんひとり行みち	世の身をも誰とかおもふ	忘るなよたかのちの世もある物を 宗 砌 法 師おもふとはみぬひとのよそほひ	後の世をたくこと草にうち佗て 多々良政弘朝臣 あらましにのみ又もすきけり
やすらは、なをこそ浮世出てみよかとさせりとやたちかへるらん	月に雲はなにあらしの風をみて	柴人はいとはんかりのよをしらて	ひとひもいとへ老のよの中いく程の身そとはいかく思ふ覽	いとへたゝ芳野の奥のなき世かはうきにたへたるわれそつれなき	すみ果るこの世ならはそ厭はまし夢のうちにはなにをうらみん	たゝかりそめの身をはなけかし	いつくの山と定め	うかへる雲はひとのみらかもかくれ家をおもひ定めぬ年~~にすてよといとへみは老にけり	むひ人は身をかくすたに安からて 軒くちてもるなかあめのころ
		ても	e se				定		
かよ宗祇	法印	え 法印	古白	はき余長	法即	從	式部卿邦		
涂	独	ても法	方	宗	法		式部卿邦高親王	前關白左大臣寺	入道親王道永

新撰莵玖波集卷十七	いまはとて名残おはくも乗る身に	うき世はたれもおもかけのひと	涙さへなこり忘れぬ世をいてく	ちかきへのふはたくおなしそら	すてはうき世を又やしのはん	かりそめに見るを美む柴のいほ	我ころくなかくし世を薬やらて	とをやま鳥のをろかなる身よ	この身をみつのあはれすてはや	住果るためしもしらぬよの中に	うき世をは背きもはてぬみを佗て	きえぬはかりのつねのともし火
	宗		法		N		前後		御	ţ	增着	î
	長		印		多々良政弘朝臣	-	左條大人				太玉	
	法		泰		弘	-	保 大っ	Ê			政院	
					朝				dad		大人	
	師		溫		卍		臣道		製		臣道	

あらましも人にしのひし世を出て こくろにもあらす佗ねるよをいてく うき世はなる、けふのやまこえ さましてのつらさ積りて乗るみに たれゆへにさてをしむいのちそ なをとはれしのおくの山かけ いつはりの後はまことの道なれや おもへはやまのかけてすみうき あやにくな 内裏にて侍し和漢れん句の中に れや人そこひしき 法 慶 權中納言通世 眼 祐 專 法 順 師

捨はやの身にたらちねの有もうし

法

橋

兼

載

身をは日ことにすつるあらまし

智

蘊

法

師

おもひしつむをさていかにせん

うき身をも思ひなすてそまて暫し

宗

砌

法

師

いかなる世にかあはん行する

朝夕に定めなきこそうき世なれ

身をすつる心をたにも尋ねはや

法

眼

專

順

このやまの

おくにすむらん

楽し世にかはらぬ月は見るもうし 棄れともなをあすまてのよを佗て いつくにもくちは朽ねと身を棄て やまわけころもほさんともせす つゆうちはらふすみそめの袖 權中納一 前 宗 砌 左 言宣胤 大 法 臣 師

すつる身に秋をつくるは涙にて まつかけをたよりにすめる山の みやこの月そお もかけに が 前大僧正 道

與

ナこ 0 すてしより此世の外に身をなして

後崇光院御製

ひともとひこぬ

かくれかの月

昔はといふさへ稀になりはてく 肖柏法師	あまり忍ふも人やあやめん	文明十四年九月十三日内裏にて百韵連歌に	むかしは夢をなにしのふらん 太政大臣	みのよはひはてを思へはなみたにて・	古しへを忍へはちかき月日にて 式部卿邦高親王	いとけなかりしこくろいつまて	みのむかし思残さぬねさめして 朝台太政大臣	あはれもつきぬあかつきのかねりますとう	棄はて、おもへは身こそ哀れなれ 源 質 澄	すむへきひとはまれのやまさと.	恨みある人をも世をもすてはて\ 權大僧都心敬	なみたわするくすみそめのそて	すつる身はゆふへのいろを衣にて 印 孝 法 師	おく山すみそあはれなりける	すつる身に何のこくろの残るらし 紀 光 信	山にすめともなをそかなしき	惜みつる身をなきものと薬はて、 宗 砌 法 師	あれはいのちとおもふ行する	あらしそとをき夢のよの中權大納言實香
- ちる花は人の行來にしたかひて	消陌雪如、埃	めにかけし北はかすみの山こえて	幾程驢旣扁	花はこれはるの手向のぬきなれや	吟詩欲、滿、囊	し和漢連何の中に	後花園院位におはしましける時	聯何連歌		しのはしよそれもうからぬ昔かは	おもひいてある世ともおもはす	浮事もむかしとなれは戀しきに	わかこくろさへかはりきにけり	おもかけの人は昔になりもせて	やとすもかなし草の戸のうち	我むかし人のいにしへかたる夜に	いつれかまさるなみたならまし	我むかし去らぬは友もともならて	かたらふひとにかたりこそよれ
御		權人		别约	7		时内裏に			清		^		法		源		Kin	
		權大納言質		白 左祖	ż		表にて侍			超法		是法		橋薨		政		松法	
		416		大			存			125		125		ンじ				120	

泉聲窓又雨		きする川瀬すくしくふく風に 前心事亂如い麻	えのくつるはかりも長きひに 前むみねのつま木のみちたえて 後	山深暮笛疎 山深暮笛疎 たない たない たない かれの草の戸さむく秋ふけて た	ま里秋さむみ 前	ふむ月のしものふるみち 鶴孤閑在 <sub>2</sub> 院	すそてなきふるさとの月 三 微糖松影晴	院寂好。圍碁。	はなにふれてや袖も匂ふらん 關風露濕…衣裳.	
		左 大 臣	前左大臣實	め衞 ひ門 <b>ろ</b> 督	關白近衞	中納言緣光	品 親 王	原嗣廣	自右大臣	
_										
うつくにも勝れる夢は見るものを	筆遺傅野耕	夢與ゝ鹿爲ゝ隣せきの戸を明ほのいそく花さきて	雞唱向:  殘更	梅報石鈴驛 逐、年情易、傷	星の影すくなき室やあけぬらん. 林深聽: 夜鳥	よこ雲やあくる光にわかるらん金鳥射』花巓」	雲うつむみねのつき本のみちたえて哀猿斷,,幾膓,	前關白近衞家にて侍し和漢連句によもすから雨のふる里いかならん 法	<b>監接孤客床</b>	
前大納言雅記	前十	前左	從一	深古		御		•	宗	
納言	內輪 院 大入	左大臣	從三位義	草 左 大				橋	祇	
雅	八入	臣	義	大				兼	法	

みそ

斧の生

うら

さる

かけ

なか

ちる

親

臣道

實

繁

臣

製

載

師

春 與旅程移

花 に年はいくよもい は L カコ り枕 Ξ 品 親

王

行 みつにかけ見し花のさそは 苔分...石碑摩! n T 權中 納 言 宣 親

草埋顏巷遙

殘る名のそれさへ絶はいかならん

御

製

身のうさを忘る、人は世にわ **文明十三年四** 月內裏にて侍し和漢連句 ひて 後 花 園 0 院 #1 製

か 身うき世をいつちかへらん 肖 柏 法 師

わ

常學臥陶

帽

新撰蒐玖波集卷第十八

神 祇

神 0 社に たかき松杉とい رک 句に

影そふるみしめは ふちをみきりのまつもかうは 祈しるしにて 多々良政弘朝臣

春日 Ill 13 るい 宮わは神さひて

北 里产 0 やしろに奉りたまひけ 10 É

的

連

歌

15

この r 神 つの夢とかみやこいてけ 0 かっ b 北 野に宮る して h

御

製

あまつ なみものとけきこのあきつしま 神 5 かひの うみの廣 き世 1:

膝

原

北

數

朝

15

よを廣くいのるを神 たれ うきみのくそみなにか は 3 0) H はうけつへ お もはん

友

引、

けふそたつかすか祭のそのつかひ さすさくらを見せん 1= る ての r 弘 to 法 就 III 部

岩しみつかけもくもらぬ月いてく うれ 宗 祇 12: 4 ßfi Mi

か

四百五十九	A TOTAL CONTRACTOR OF THE PROPERTY OF THE PROP	新撰苑玖波集卷十八
	山伏はなちのみやまを住かにてみとせまつまの中のくるしさ	しらかなる神の宮ひとくつはきて「宗」砌「法」師「ふむあとみゆるしものふるみち
	らす祈る二まの	ろのかすむやまもと
	こくろゆるすなみつのほそとのよをいては法の道にやさきたくん	かにまらこしつの聚まく奄しめてめに見えぬ神のしるしの杉のかと 道 真 法 師
	山にはかりの庵たにもなし	たつねこよとはなにをしへけん
	釋教連歌	
		<b>雪うちなひくたけの一むら</b>
	誠には神やかたちもなかるらん	自妙のかくみのみやのゆふたすき 宗 砌 法 師
	かけうつるこそかくみなりけれ	まつらの山そうみをかけたる
	有なしもしらぬはかみの形にて 多	はこさきの松風さそなやはたやま 法橋 乗載
	たくすくなるをこくろともみよ	ちきりこめをく神そひとしき
	神はなを塵のこの世にあらはれて	から崎や松にも神のあとたれて 覺衡法親王
	おろかなるをもいはぬましはり	みゆきいく世ぞし賀のうらなみ
	わか國のひとをや神はまもるらん	山路よりみれはまつりをしかの濱 宗 砌 法 師
	さてそたむくるやまとことのは	御ゆきにけふはあへるうれしさ
	くたる世の天つかくらのまひの袖	おとこ山神のまつりにけふこえて 宗伊法師
	いかてむかしをしのひかへさん	袖行すりは匂ふくちかへ
	袖かへすおとめの姿ほのかにて	神わさもこよひの秋の月をみて 權大納言教具
	ならすあふきにかみそみたる	ねかひみちつくあふく氏ひと

h 3

3

1,0

良政

1]].

朝

E

1

獨

つと云何

间

左

大

Hi

となふ 絕 ほ 佛 誰 72 1: 1 わ さくはなにそむなよ法の しを もの < かっ かっ うすくやなら たるをつかす ふるき とけこくろ世 うく よりさきに 0) たこ は 1 ほ 0 H 里子 聲 かっ 0) 12 n ろそしるへよの 3 山 かか 0 3 3 to Ш U) つらき人をも思ひ棄は は月 野てら もく 3 戶 は ひとつそわ 假のみやこのその 鹿のその E か 願 わ 0 かっ をし たきこそみの そこくろをも か 25 そにことなか るしやまさきのてら 1 0 h 身さ は法 にすむはまれ につくすらし 37 な h 15 世 袖の は 2 月 ^ 12 まよひ i) < 0 0) 3 0) 1 3 から か すめ かっ n 0 0 40 心さし 0 枢 12 U  $\dot{o}$ h 1) b 华 b 13 3 3 رتج 司 12 問 佛 6 0) 3 なる にて Ł 秘 香 0 3 b からきつ なり 난 ち 師 秋 前後 宗 宗 他 よみ人しらず 法 贈 關成 法 法 自太政大臣及思寺入道 從 即 橋 砌 目 砌 [in] 一位教 行 Ŀ 心 飨 法 法 師 人 穀 載 弘 師 助 なに 人に 生 うけ 0 0 3 法 j りの水近つく袖のうる カコ 12 野 6 つの 0 叉 ずっ をか よる たき 7.00 72 111 0 師 かっ て又この 3 削 13 たへきてさつく つくになる おなし心を かっ 1 水 ちなかこちそむさし ると見えてそつちはうきた きよきをそくく のこくろを は深きをしへや残すら むす してそまことをも 身を ひの 孙 V 2 13 13 なると にう 5 か ち b 身や露 き方をは 0 ふ夢の 18 あ かっ 世 は 3 ti U -12 6 なない 11 つらになし果て か 0 井その をや 7) る法 放 13 17 たき人の とか i 1) : 0) U か ころ は < 4i ほ 3 たくき るら 3 H) 0 b た もて 0)

身に

削

大

納

, i

秀教

11:

橋

4

13-

似

僧

II:

公

助

3 3 [1]]3

11:

税

亳胤

B

115

般

11:

師

0

水

省

柏

法

Gili

-

祇

法

師

は

5

F 宗

rj

2

旬

身をあるものとおもふはかなさ	事のむつましからん六のみち 宗 砌 法 師	れのむつの	はり行旅のすかたはあはれ事もこゝろ (~の法のかと		はてなきたひにみそまよひ行うらにみてこくろの月を忘るなよ 智 薀 法 師	むなしきゆめの春秋のあと 宗 砂 法 師 一	こきといふ何に	いていかの可いでいかいはてよこの世のちのよ	いつまてか旅の室にはをくらました。 寮 文 躬	ひとのこくろのくこるつれなさ 法 眼 紹 永	わか身をも思はぬものよ戀の道
なぞれつねいるおくのやまてら	しこもるやまてら	夏いれないきしみつとないみて 法眼専順おほひえや法のともし火影ふりて 法眼専順	そまてふやまのおくかすかなり そんてん れん	わかれてすゑもたえぬやまみつ  が大僧正尊應	すみそめの袖に心もかはるなよ 旅 電 載	やすくをくれるすみそめの袖 宗 祗 法 師	た山のてら	れにつたえん	罪は只なすこととしたあるものを大職卿經茂おとろけたれもあたのよの中・・	おこなひに絶ぬむときの鐘なりて 法 眼 専順あかしのなみのよるひるのこゑ	こくろにや引れてゆかんむつの道 宗長法師

とを山 きみ かっ かっ ねをかきりに 野の のゆふへの雲に寺見えて むみ 秋の ね 山そさひ 15 月こそいり は 春 花 ż か 宗 智 砌 蘊 法 法 師 ßб

? 总 D 0 葉 3 もゆく袖そむる岩の かきりに鐘なるふもと寺 ねに よみ人しらず

れは月すむみねのふるてら ちきりてもひとはとはめや谷 0 庭 法

眼

專

順

花

ふ花も

大僧都心

3

なし

源 權

勝

元朝

ねか

7:

源

ね哉

多人

良政

弘朝 政

臣 [i]

は

の雪

祇

3

大僧

都心敬 岩大臣

あさか

すみ

省

柏

fili

まつよこたは

るふるてらのみち

宣

光

法

间角

7x

新 撰莵玖波集卷第十九

# 發句上

立春

かすむ日はけさたつ春の光 名所にてひとり連歌し侍りし カコ な 1 前 左

大

臣

花 のはるたてるところやよし 野 ili 法 1113 事

順

雪よりもうつむやかすむ山 世は春とかすめは ちるをみよ庭は きにあ のはにか るふるは雪さへか もさそ待こし 初春の發句に け霞に すむやなこりに くる は つゆけき花 Gr 34 る たたか すむ高 0)

ili W は

は 家の いると梅 月なみ か

うくひすや竹のうてな

に代 る深

12

0

友

きはまつかす

みに消

th

かな 10

入道前 權

肚

の連歌に いならぬ 風もなし

削

關

自

近 衞 小

夜

カコ

せ

B

か

すめ

る

月

0

光

かっ

な

3

0

h

20 12 師

は

なさ

かっ

思

さきこめ

て花 b

製 花 をまつこくろを

臣 待 72 家 るとてさか 1 K きた はそおそき春 りて 百韵 0 連 0 花 歌

法

眼

專

順

き人にけ ふとけは なの V 8 叄 議

基

綱

珍

花を

花さきてこくろは か すみより 花哭 い 殘 T 3 1 Щ は 3 b B な なし

御

製

花そ梅

匂

もるくきくも

なし

多

一々良政

弘朝

梅さきて なをに

か

せ匂 E

š 8 らし 梅

みや

2 梅

かっ 0

な

さそ 梅

Ž 香

る

0 n

ほ 陰

一條前

左

大

北

0 せ

祉

1= け

歌

ほ 野 か

へ袖

L 奉

0

1 連

は

な

平太普

真政廣宗上院

臣臣贈

か

を風

に 句

12

木

かっ S

な

御

梅

0

發

まつ人

72 ひは 松

ちえやかすむやとの

むめ

カコ

香

0

し霞

をい

つる

あら

かっ

な 梅

材

親朝

色

め

に柳

をみ

12

は

か

せ

B

な

三 源 法

王 臣 載 臣

H さくらさくとを山 今朝そみん 0 太神宮に詣 よのまの T 十 もり 雨 句連 やみやこ人 0 花 歌 0 つか つゆ うまつり Ξ よみ人しら 品 親  $\pm$ 

御 文正二年二 影花 こ 月六 ほ 日 る 源 あ 勝 72 元 朝 か 7 臣 Š 權 水の 大僧 社 都 心 敬

わ 奉 りける 千 句 0 連 か

きてまつさくやみなみ 花 の發句 0 中 Ó 山 櫻 贈慈

太照 政院 大入 臣道

1 T は さくら 8 3 は 墨 雨 3 か あ あ さく 12 か b な h 宗 前 大僧 元 IE. 尊 師 應

師

雨

は

わ

カコ

草 n かっ

花

0

な 0 露る 木陰 かっ な 法 即 助

は似 枝な 12 かかる 3 雲 かっ E h かっ な な 前大納 法

親

順

四百六十三

髪こほ か うく せやは ひ 文明 あ n つ すの聲 十九年 ま まゆ るけ 打け 下け に Š 正 は もうこく 3 S 月 い 人 # ろそふ るやな の Ħ. 柳 むまのは 日 き哉 柳 か 百 な かな 剖 0 連 前後 な 宗關成御 首 歌 長白恩 け 大大寺ス 侍 師臣道製

風 行 時 < 0 7 n h か

春 月 5 春 0 空は 月 to かす 五 12 ふや 0 7 な か b 3 かっ か な な 肖 宗 柏 砌 法 法

玖 波 集 魁 + 九

連 歌 < 侍 1-72 h L 侍 1 時 劣 12 良 政 弘 臣 百 韵 0)

雲 0 12 T 3 B 63 花 か b 派 法 師

花 7: 3 3 かっ H b o 13 E 鳫 を かっ ね 12 2 ね 0 雲 Ш ち かっ かっ 73 な 源 伊 政 法 師春 部

和 漢 運 何 0 發 旬 は

73

3

かっ

h

人

は

旅

な

3

2

かっ

な

能

[iii]

法

花

花

木

5

n

み

9

0

50

3

な

Billi

雲は 九 重 0 1 とや 73 大 僧 257 IF. 道 與 3 1 1 Ш 0) は 2 0 は 南 4 な 3 13/3 0 け < かっ 73 百 韵 御 前 大 0 納 歌 言 雅 製 親

ち 侍 h か 3 12 B 木 0) かっ Vi 0 花 0 宿 贈慈 太照 政院 大入

Ш 9 花 雨 13 0) 70 發 旬 P 1= E かっ す かっ 寸 3 かっ 7: 藤 原 房 定 朝 臣

は は 鳥 な な 5 1-1 月 2 3 ^ 1 お 0 h 13 < 0 0 0 雲 < 月 J かっ 90 0 水 H 間 3 < カコ 0) な 法 專 順 師

月

こ 的 8 1-內 裏 さをこうを 1= 花 7 は 句 O 蓝 0 L 26 連 歌 0 赤 信 13 2 花 3 1-な 前後 關成

自思

太政

大人

臣道

か

四 お 5 方 T は 暌 花 霞 حي. Th 0 5 9 T 0 0) か かっ 57 50 かっ かっ な 御 白

行 は な は 5 た 12 1 を b 3 T 700 老 ^ 3 花 か 3 ŧ, か 18 僧 右 初 11: 大 ·L

> 欲 111 则

木 艺 鳥 きって 木 b 文 3 明 3 0 Ł なら 73 3 カコ 年 な 22 43-78 \_ = 3 2 L は F は かっ は 筆 1-た 1 B は 73 17 13 ري M 0) 櫻 < 111 9 绿 路 カコ 6 かっ か 0) か な jili. 前後 歌 開成能贈慈に 自思阿太照 太寺 政院 大人法人 臣道師臣道 Billi

花

老

Ш

さる 文 明 7 花 + は 0 六 验 年 50 何 月 + H 常 P 德 夕 院 a) 贈 6 太 政 大 E

1110

臣道

櫻 78 B かり 侍 6 b n 發 は な 句 Ł は 30 8 2 6 h

花 20 ち 3 2 け 0 3 大 花 ち は à 見 原 3 ち 野 南 1 かっ 3 す 0 花 こと 1 花 は 6 かっ 孙 鳥 は う h 3 6 な b 36 Ċ 7 孙 6 かっ h ã) h 風 2 16 82 3 否 花 カコ 時 1 か 去 百 哉 部 ; di 權 11: 11: 歌 大 僧 侍 都 狼 11 批 敬 Mi

花 花 山さくら散を Ш 山 花おちてをさく ちるはなの雪さ 花 待とをきお はなちらす風 ちり殘るはなはかつさく木すゑ哉 ちるやうきしら いたつらに春をのこさぬ花 日をつ むらさきや名に 吹は八 にみ にふ 吹のやへかきつくるみきり とが 春行くかくへるか 幕春 春 めは かは n 裏にて侍し の發句の中に ゆふ 、重さくはなのなこり の尾に の心を 8 春も行てのすみれ あ くれ をはをちらせ春 は青葉をやとり ひ 1 つゆ ての 30 ū し事よおそさくら へさむき深 2 は花 ふには 和漢連句 は か Ú 連 0 き青 き山 の心 歌 をそさく か ひ 0 つほ かな ちか 山 रु Ó もかな 葉 かな 哉 中に 0 かな かな か か 3 な 菫 な 風 73

多

前 權

大僧 大

正道

興 敬 臣

衣

かっ

0

發

句

3

親

製

製

僧

都

心

か

くし は

0

くとし

も暮ゆく三月

ילל

な な 2 な

御

一々良政

弘朝

<

くるも花に覺えぬやよ

ひかか

大 源 宗 智

納

言

高

清

とを山をあすや 花ちりて鳥なく

か

12

2 0

0 わ な花 h

春 かっ

す

友

興 師 師 元

權大僧

都

心敬

雲とりの

か は

る

は か

は は

る あや

12 かっ

> 伊 蘊

法

3

2

春

やとまら

花

8

かっ

な

源

政

定 部 權大僧 御 前 太 卿邦 關 政 白 高 都 近 心敬 親 Ŧ 製 衞 E 臣 花 ほ 花 鳥やすむきりの は か 花のえも とくきす花もまち 殘 をしたひもみちを急く若葉かな なそめをか へてたになを花そめ るわ 夏の 千句連歌に 一發句 か葉 か くなるも 4 ~ Ø ろこき木するかな 葉しける木すゑ哉 新 樹 衣や 0 ける か夏木 なっ か白 深 ili 0 か か 3 72 な ち ね 法 前大納 智 よみ人しらず 御 後 花園 眼 言雅 院 專 法 御

新 撰 莵 玖 波 集 卷十 九

宗

勳

法

師

け けらぬ

るまて

秋

ñ

き哉

權 輔

大僧

都

心

敬

前

大僧

正義運

L

は花にておりし木間

か

な

益

政

師

法

即

行

助

うのは

か

月

かっ

5

つ

n

0

こには けさ みや

0 の月

小

松

院 王首傳

御

うのは

なの陰 な

に夜ふ の葉くち

か

入道親不 後

四百六十五

5 Š 0 5 祭 德 花 木 如 原 院 あ 贈 6 太 は わ す 政 < 大 雪 月 臣 0) 0) かっ 1 7> 72 < かっ 葉 n h 侍 かっ かっ た な L 年 彌 藤 前 1ºE 1/1 原 納 0 雅 监 1/5

な か 3 悲 2 H 0 3 P 111-多 j 0 0 0) T 花 何 0 1= 鳰 郭 b 公 かつ な 從 ---位 當

連

歌

出 7 ٤ 郭 公 ~ 野 0 發 守 句 は きく 0 r B 12 ほ Ł 1 きす 源 政 元

1

雲う また ほ ٤ 聲 題 0 T 15 きす なけ L 2 2 ılı 6 h 82 す 月 庭 恨 やま 0 1-木 8 T P 15 す ili 2 えや な かっ 3 ち ょ < L 3 ほ ほ ほ 雲ま Ł ٤ Ł / 1 1 きす きす きす きす か 13 入 源 權 權 御 道 大 大 納 僧 削 尙 右 F 都 質 大 N. 臣 降 純 製 敬

ζ ち 五 な 月 L 六 0 H は な 侍 は h 心 0 連 あ 歌 3 111 1= かっ な 法 印 行 助

か

は

手

Te

3

な

3

12

宫

70

BIL

左

大

臣

政

大 战

臣

0

家

今朝 月 細 かっ 3 か 侍 國 6 あ É P 百 1 8 侍 け P 韵 b 軒 0 連 時 か 0 歌 65 す な 枢 Ś ば 0 山 3 W 近 きわ 宗 法 眼 砌 12 h 專 法 順師

7

3

苗 Fi. よ b 月 雨 多 Te かっ 3 ılı 0 47 は 哉 前後 關成 日恩 太寺 政 大人

臣道

3 12 H n 集 は 水 0 作 13 老 き会 を 12 0 to な 63 12 北 T かっ T 侍 な 自 左 德疗 怡 PH 0 Tix 連 為 廣

3

歌 1-

子

Ŧi. H 夏 雨 は 0 連 < 歌 8 0 1 な 2 よ 3 風 b な 御 製

12 內 は な 业 E は T 梅 和 t 漢 b 移 連 何 3 0 1= 發 は 何 2 1-か な 前 店 大 Ei

Tis

夏草 F Ŧi. 小 水 [] 松 は 北 お 12 36 W 里产 0 0 は 社 3 な 7 6 な 不 n 8 0 こうさ Ł 6 5 香 け 近 n 8 L 3 L け 0 す 內 る は 2 ゑ葉 ち 東 5 3 Ŧ. h は す 旬 ほ か か かい 哉 な な な 0 連 歌 智 從 前 權 大納 0 左 1/1 位 大 富 Tir TIS Bli -1-

百 染 韵 金 0 連 制 歌 院 入 道 削 别 白 太

よ T 智 3 3 凉 < 7 0 め 3 验 H 12 は 旬 は 5 氷 0 6 2 D 0 清 タす 水 かっ 1 な み 立 法 澄 III 业 11: 順 (lifi

# 發句下

やすらはて凉むしけ木の山路かな 秋をひけ袖もなつそのあさすくみ

ふけてみぬひかりもすくし夕月夜

宗 法 橋 砌 祇

法 兼 載師

師

ふけやなをちの増りつる秋の風

多々良政弘朝臣

秋のはしめの發句に

か おしむへき秋をおもはぬ ちるもまたあきかせならぬ柳かな つゆなからちるは風なき一葉かな せたちてつゆをくあきの扇かな 會所の奉行うけたまはりし比あきつか まつりし連歌に 一葉かな 源 前關白近 法 太 政長朝 削 政 کھ 衞 助 臣

ちりをつき風をつたふる一葉かな 七夕のれんかに 宗 砌

法

師

石かはやふむ跡とをきあふせかな あまの川あふせは龜のうき木かな יו のりきや七日に星のあまころも 宗太 權大僧正心敬 伊 政 法

大

師 臣

あふ夜半やことし二つの天津ほし 閏七月發句に

祇

法

師

秋の發句に 宗

ひくらしのこゑに月侍あしたかな 法 眼 專 順

四百六十七

秋 0 < 野 37 6 明 は 1 萩 たく IJ 年 かっ 3 H 月 -11-南 12 0 五. h n 深 日 L 荻 0 30 Ш 御 かっ 0 かっ 連 歌 に贈慈法 政院 大入衆 法 臣道載 師

藤 は かっ 御

製

あ

37

は

3

花

1-

P

す

n

3

八

革

花

發 0

旬

72 赤 か な カコ は は B せ 2 0 な かり 236 木 ね か わ 35 n ž 43 6 12 12 T は ち 专 0 D T 我 露 色 Z 小 か 3 うな ž 草 0 1-3 あ かっ 花 お 5 は 5 どう V 3 6 は < \$2 3 0 旬 ^ 2 か J 0 花 花 萩 秋 72 は 下 野 0 3 野 0 薬 かっ は カコ 所 かっ かっ かっ な な な な な 난 1 7 侍 崇 宗 智 能 源 祇 蘊 勳 an 連 尙 歌 法 法 師 師 師 師 純

柳 かっ 90 2 か 35 こゑに か h h か 0 秋 カコ 0 發 す 7 h 3 は 光 もの 松 かっ かっ 何 か 36 B 3 扫 난 ね 12 かっ < 3 花 3 h B 1= な 3 W 葉 枢 W < < 华 か 3 枢 延 は 荻 رک 0 は 1-0 嵐 かっ 0 かっ カコ カコ 73 73 月 3 な 肖 宗 前 權 源 道 大 大 政 納 前 僧 長 右 80 1:3 朝 雅 大 113 親 臣敬 師 師 臣

1

1

3 E

まつ 月 月 霧 は 0 0 名 名 八 御 0 文 12 5 月 位 ほ 明 T T 0 0 3 月 -U to 1 ょ 御 月 年 12 カコ Ŧi. きに 殿 to 松 かっ 3 座 0 八 月 b 1= 13 前 0) ます 似 3 3 + ま 1 け 13 納 12 3 2 / 3 たこ 3 3 3 時 12 W 3 H 111 秋 雲 定 0) 2, 1 家 德 鏡 3 月 B 4 6 な 院 + 0 カコ な かっ カコ 京 15 本 な な Ŧi. 伦 納前後 所 の贈慈の陽成權 1= 太 御 徐 連太照于自恩大 1 花 政 歌政院に政 0 院 連 315 大 大入 大人心 御 製 臣道 臣道敬 臣 製

あ け は 歌 35 1= 12 5 0 か は 0 秋 0 月 宗 加 11: fills

なや 雲 四 な 月 方 3 秘 かっ 37 は 2 12 h 2 2 3 ち 此 南 かっ Ŧi. 發 月 3 h 世 枢 3 な 何 秋 4 月 小 1= 12 0 は は かっ かっ は 省 0 验 儿 今 句 h < は 3 歲 B る 省 75 T かっ な H 月 か 1 0 h h 3 0 7) 0 0 深 H 秋 ょ Ł 月 秋 る U 枢 Ш 0 3 0 は 2 わ かっ かっ かっ な 5 な 3 な な 多 ょ つ 宗 1 法 13 良政 3 伊 橋 砌 III 人 かん 法 fill) il. Fi 師 加恒

月にこ あつまに ひ月に わするくみやこか あまた年を 1 < h な 比 權大僧 0 連 歌 都 12 心 敬

朝 しらか は は ひさきかせふく濱 は のせきにて ~ カコ な

カコ せ 1= か らは花 のみやこ カコ

な

秋

秋 0 發 句

眞 うら葉 木 0 葉は ふく秋 10 元 か せ白き を 秋 木 O) 木 す 末 3 か カコ な な 宗 能 般 阿 法 法 師 師

庭にく うつろ けさ雲井 ふは菊さくころ むみつ や菊さくたは 0 かっ りの 0) 聲 草 木 8 0) か 0 カコ な な W ょ 智 法 み人しらず 服 蘊 法 專 順 皕

お h 残す菊 は こてふの やとり か な 御

製

な

か め

2

なく

九

月十

H

0)

連

歌

お なじく 十三夜に

こよひなの 72 かき 名をあ お し明 らそふ月 かたは のこよひ哉 月 もなし 後 小 松

院

御

やまとをし庭よりそ 文 の明十 Ŧi. 年 九 月 め 內 裏月 よ木 R 次 0 0 雨 和 漢 聯 前 句 關 白 近 衞

秋 の發句に

0 ろ をみや 深 111 3 カコ な Ξ 品 親  $\pm$ 

秋

夕霧 Щ ちらぬより朽葉いろなる 梅 おなしえをわきても手折も やこれ Z のは か < n 色には見えぬは ひと葉の後 間 は あく 3 木 する / か 2 b 3 5 か T かっ な 哉

朝大入

0

は

0

b

办

5

御

製

瀧 秋 時 薄くこきもみちやい くら お か りひめ なみにくれなる から せのこすゑやこける唐 ぬ錦きや月の の手にもまさきの錦 おちて秋 0 9 む 12 らら 8 3 L み 辟 かっ な 3 法 藤贈慈 法 法 原太照 服 服 目 政政院

順

雨をもかさしてぬ 鹿の聲 月やくま鳥の尾のはつしく のこせの 8 月か い ろな つらの 3 る \$ しく 初しく み n か to な 哉 n n 多々 智 良 砌 宣 政 弘 部 師

つくし に下り侍 時

秋 ふけ 九 月 Ø に雪る 松 0) は b か 72 12 3 の 年 お 3 つ かっ せ 宗 祇

法

師

きか 雪深きみ 3 暮秋 りき秋 0 ちとて 心を のみ カコ やこの る 秋 雪 ક か 0 やま 75 多 能 K 良政 阿 弘朝 法

臣

師

四百六十九

H 秋 2 0 應仁 5 行 h 2 0) T ち 比 秋 1= は ょ そく 0 j ó 3 12 n 8 n n 侍 B 12 3 2 3 12 5 3 哉 あ 5 づ まに 宗 前 大 砌 10 僧 りて 正義 法 運 師

は なを 其 比 信 定 濃 8 あ T 3 世 0 < n かっ な 權 大 僧 都 心 敬

かっ

3

3

b

け

きく 雨 世 木 1 葉 は 2 ٤ 2 3 は b もさらに 月を忘 3 2 らす 3 時 3 雨 しく 0) < 宿 n n b け かっ カコ な な 3 權 法 大僧 眼 祇 都心 敬 順

か 13 は Z 专山 音 神 無 は なみ 月 L < 0 連 3 0 歌 雪 1 雪 V 1= 0) 0 2 < B n E かっ かっ な な 忍 法 順 部

D

神 秋 は 無 月 なをすく , u 0 8 きに は る 0 る る お ち 枯 葉 野 かっ かっ な な 多 智 12 良 蘊 B 弘、 法 朝 師 臣

ちり 冬の < 發句 は 占 との 葉 0 B 3 5 哉 即 水 法 師

白

 $\sqrt{n}$ 

0

せ

きに

7

秋

3

な

を

あ

かか

は

手

0

10

2

~

かっ

な

Ш あ

木 風みえて木のもとめくる落葉 0 かっ 葉ちるまか しと庭に、 きは は 見 6 0 n 千 8 種 3 かっ か 5 な 哉 式 部 源 御 卿 邦高 政 親 宣 製

> 72 神 0 3 W 無 0 月 ほ B ٤ b まさとなら 川 は 3 ほ 6 むきか n Va B 松 は 0) 嵐 6 E かっ かっ 13 な 道 法 III Á 市

> > 順

かんかい 氷よ 20 b 3 すふ な せ まゆ 1= 11 T カコ なら 侍 4 白 h カン・」 連 12 ほ 歌 3 b 12 0 かっ 15 な F **f**}1 祇 師 Billi 師

あ h 朋 T 應 W < 元 年 3 つは 1 すく 13 -11-な Ħî. 37 日 氷 0 御 かっ な 連 歌 に前後 左三

大人

臣道

月 B 冬の け 3 發 \$ te 何 7 当 处 3 5 す ほ 御 製

雪まて、 5 やゆきふら きとめ つく はま J 浦 0 南 雪 6 D 音 H 0 n ほ 積 3 0 3 3 E 1 み 3 あ 0) きは やこ 6 to 12 笹 かっ か カコ は な 13 6 權 前 太贈慈 大僧都 政太照 定 大 政院 臣 心 Tis 敬 臣臣道

朝 B 3 戶 あ 神 5 け 無 4 月 T D 7 わ 秋 なに す 3 る 5 10 b 3 10 0) 夕 か 0 な 松 宗 權 大 砌 僧 都 H 師 肌

孙 P やは H 0 比 包 雪 みち 2 0 h 庭 12 1 3 h ね 時 0 雪 連 歌 震 長 独 師 うすくみに繪

かける雪

10 へ雪の

2

ふりそふとみするやゆ

Ĺ

峰

肖

師 臣 臣 師

きもなをうつまぬ山

1=

姿か

な かな

多

一々良政

弘朝

藤原房定朝

あまつそてふりくる雪

0

雲路

か 哉 大うち かり は つ雪、 のこゑ秋にもこえつ雪のみ 0 はうすく Щ としつもれけさの n なわの 落葉哉 ゆき 扫 前後 御關知 加息 院 入 道

雪をみはかせさむからし庭のまつ もしらぬ花 こそ雪の木すゑなれ Ξ 品 親

王

朝きよめ雪にまかするみきは つよりもこの 裏にて百韻 野 0 はゆきの 和漢聯 句 朝 72 か 12 な 哉 太普 權 大納 政廣 大院 豐通

臣贈

3

北

野

13

7

月 は 名こそ秋 か なとちらは雪の匂へ けは雪よりうへのこほりか 冬の發句 2 か りは 300 る風 0 月 8 夜 か かっ な な 從 法 源 三位 勝 元 兼 義 朝 敏 臣

3 72

ねの雪うつみあらはす雲間 か軒そとをやまもとの雪 月

雪の

ろわかれ

行く

あし

72

か

な

師

0

まつ

宗 智

砌

法 法

> 早 梅 多

春またてひらく 冬さくやひとへこへろ よしやはる一花さける宿 は梅 0 Ó こよ 梅 0 み 到 0 か め は 73 な 多 k 法 良政 眼 政寺白 大入近 公山朝 專

順

L 年 梅そさく今い 世 ら雪 はは のうちに咲はこのはな 歳暮の發句 るを松きるとし < かあらは四方 の尾 木 上 かな か 0 な 春 太 前前觀前 政

臣臣道衞

めなを春きてのちのとしの暮 0 ひ か りに < n D 年 B か な 前 法 大僧正 即 行 大 增 運 助 臣

お

御 息

後崇光 三品品 親 後 後 御 新 花 撰 小 親 王 園 松 莵 院 院 Æ 玖波 御 御 御 製 集 作 者 部 四 百 + 旬 九 類 五 句 次第 不 同 大染 慈照院 後 前 知 成 道 左 思寺 足 金 臣 削 大 剛 院 右 院 道 入 道 贈 關 道 太 前 自 削 政 た 陽 大 自 政 太 大 太 政 臣 政 大 11. Hi Ŧî. 11-條 近 [74] 衞 殿 東 剃 殿 放 111 如 條 殿 12: 殿 御 殿 條 院 息 殿

覺衡 道 道 部 法 親 梨 法 親 親 Æ. 王 邦 道 王 高 王 尊 堯 傳永 親 胤 八五五五七五十五 九 妙 青 仁 梶 法 蓮 和井 見 院宮 寺 院 宫 宮

式

法 故 修 Z 寺宮 殿

常

信

法

式

卿

常 E

臣 貞 親

廿廿廿六六 沂 西 近 條衞 園 衛 殿殿 寺 前 殿開 白 御

息、

前

18

欧

大 白

臣

白

右

大臣

前 關

大

觀 妙花 深草 權 蒼 後 後 常 如 副 法壽院 輪 稱 德 H 王 大 名 寺 納 納 右 條 院 寺 院 大 人 贈 關 言 已下 臣 太 道 前 道 道 入 道 自 叡 贈 前 左 政 道 削 湯 左 内 前 大 大 太 自 大 内 臣臣 政 臣 大 大 内 左 臣臣 大 大 大 臣 殿 1: 四 付. 二六九 Ŧi. 位. 11 權 東 企 後 压中 大 傳 \_ 西 院 炊 12: 剛 成 御 修 H 條 ili 恩寺 院 御 殿 殿 西 輸 殿 寺 [III] 御 殿 御 殿

息

息

前從從 前 右 前 權 從 權 民 前 部 大 大納 部 中 藏 大 大 大 大 大 大 大 中 大 位 納 納 納 納 納 納 位 納 卵 卿 納 納 卿 教國 言、雅 敬忠 言實香 言 言 言 言實隆 言豐 督 政 言 經 言 季春 公隆 敎 公藤 茂 永 高 隆 雅 行 奈 光 具 通 州 六 四六三一五一二二十 四 Ξ 久 武 高 海 四 伊 庭 故 西 隆 ま 道 JE. 泉 者 修野 住 親 辻 勢 田 To. 四 法 園 我 盛 倉 かっ 西 持 寺井 國 L 蒼 わ 條 殿 小 輸 0 山町 殿 は 爲 路 司 王 朔 殿 木 息 木 院 院 御

息

藤

原

房定朝

源 源 多

政 勝 12 11 中

長

臣 臣 世 政 宣

元 朝 朝

御 息 息

良持

朝 顯 親

臣

大

夫

權

納 納

權

言

源 源源源源源 源 源 源 源 盛 持 尚 宣 則 元 政 政 政 數知純 卿 宣春 隆 賴 元

部

門

前 按 左 中 察 衞 納 [17] 使 言 俊 督 雅 景 為 康 廣

+ 四 冷 形 p 泉 鳥 0 爲 小路 富 井 息

五二五九七五三二 四 六 一九 奉公 右京 横 京 同 細 細 小 關 同 上 畠 號龍 故 勸 中 極 能 111 田 東 明 杉 Ш 大 東 川 修 Ш 豐前 內修 瀨 內 內 湯 亮 相 左 安寺 桃 內 新 智 Ŧī. 衞 井 小 波 摸 郎 源 H 中 11 安厉 伯 治 宇 門 左 守 務 理 督 將 衞

輔

守

部 炒

輔

百七十三

藤原雅俊朝臣	藤原基春朝臣	源政卿朝臣	源重經朝臣	贈從三位敎弘	從三位重長	參義時顯	正三位顯卿	從二位明茂	從三位義敏	左近中將公連	參議基富	參議重治	神祇伯忠富	参議基綱	權中納言通世	權中納言元長	權中納言經卿	權中納言言國	源經行
五飛鳥井	二 持明院	五 伊勢國司	二庭田	七 大內左京大夫	丹波盛長	二西のとうねん	町	二故半井	武	二洞院	三 園宰相	七田向	上ハ	十六 あねが小路	三 中院十輪院息	二 甘露寺親長息	二 勸修寺	三山科	二、奥州南部
藤原正盛	藤原正能	藤原長泰	平正賴	平景盛	不助良	源友與	藤原政行朝臣	平貞宗朝臣	多々政弘朝臣	藤原俊通朝臣	中原師富朝臣	地下四位已下	藤原岡	菅原為學	源泰仲朝臣	源材親朝臣	菅原和長朝臣	藤原基數朝臣	菅原在數朝臣
四同ひやうでのすけ	二典厩內池田帶刀	三 近衞殿侍進藤	二 典厩內尾林	一細川內芥川小四郎	一關東江戶伊勢守	十一 赤松內韋田	五 二階堂	五 伊勢守	七十五 大內左京大夫	富小路	二大外記		一藤井	一 五.让條	三 故五辻	二伊勢國司	一坊城	二特明院	二唐橋

	appear on the second																		
丹治氏泰	小野葉繁	大中臣時就	大江重廣	惟宗氏弘	說部友弘	紀則宗	紀光信	藤原利綱	藤原爲續	藤原景豐	ふ	藤原文躬	藤原憲輔	藤原元親		藤原武員	藤原能秀	藤原正存	藤原正種
=	=		=	Ξ		三	五	三	£.	=		三	=	四		=	<b>£</b> .	=	=
關東奉公安保	植瀨信濃		上杉內毛利越中	畠山內神保育登	日吉樹下	赤松內浦上美作	細川內細見河內守	土岐內齋藤彈正正忠	肥後國相良右衞門尉	細川內伊連		伊勢國司朴木刑部丞	上杉內市川和泉守	細川內伊丹兵庫	尉	大內々門司藤右衞門	畠山內 佐彌九郎	大內々內藤內藏助	細川內池田若狹守
從一位富子	女房	早忠說	小野國繁	神益政	宮道親元	宮道親度	藤原臨茂	藤原種久	藤原光傳	藤原壽正	藤原綱正	藤原長滋	藤原之親	<b>平章</b> 棟	平長恒	源秀滿	柏久時	荒木田守晨	荒木田守氏
十四			Ξ	Ξ		<u></u> :	<b>H</b> i.	_	=		=			Ξ	=	=			
日句 上樣	7	山名內太田恒能登守	新田內槇瀨信濃守	細川內物部	同親右衞門尉	蜷川周防守	大明	同堀江中務	武衞內堀江七郎	池田綱正父	細川内池田民部	畠山內遊佐加賀守	細川內伊丹	伊勢國司平兵衞	杉原安藝	細川內鹽川豐前	右舞人對馬	同	內宮禰宜

四百七十五

法印定盛	法印心敬	法印玄律	法印尊海	邦諫上人	玄道上人	他阿上人	大僧正慈運	法印公意	前大僧正增蓮	前大僧正義連	前大僧正尊應	權僧正祐裔	權僧正日應	僧正公助	前大僧正滿意	前大僧正道興	僧	勾當內侍	前左大臣女
		=				四四	三		六	八	=		Ξ	Ξ		八		Ξ	四
竹田	豐原大染院		<b>真光院</b>		靈山山	遊行	竹內新門主		實相院	實相院	同青蓮院	青蓮院出	妙蓮寺	定法寺	同	聖護院		長橋	西園寺
法眼禪豫	法橋專存	法眼專順	法橋堯珍	法橋乘載	法眼忮勝	法眼泰祺	法眼泰本	法服泰延	法眼紹永	法印妙椿	權大僧月與	權大僧都心敬	法印行助	法印宗範	法印泰温	權律師澄胤	權律師真宗	權大僧都秀順	權大僧實圓
三 北野松梅院	五 専順子	百八 六角堂法師	四青蓮院與利	五十二		五.同	一青蓮院坊官	 [ii]	十美濃國	二、持光院	十一本能寺	百廿三 十住心院	廿四 独持防	一山從	一 放青蓮院宮	三古市	二一音院	三天王寺	_

宗祇 壽官法 宗證 玄清 超法 純 孝 昭 阿 Bill 順 柏 海 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 師 師 師 師 師 師 師 部 師 師 師 師 師 師 師 五十 十五 卅五 七 十六 二一七 九 卅 歪. 豐原 E 聖道 東下 細川 不 同 時 九 小 長尾下總守 日 Ŀ 慈雲院 奉公明 杉淡 野東 杉 宗 行充院僧 槻長興宿

西 種

方

同 田

宿

內長尾

之阿宮

色

內

內

井 野

寺牧

玉

院

禰

路

智

我

夢

庵

宗祇同

宿

洞

院

臨 其 覺 清

卽

道 素

內字 野 阳

佐

美能

登

守

岐

內

M

Ξ

門田

藤

左

衞

門

東 大內 上杉 祇 武

條

若

狹守 相良

12

正

禪

法

惠俊 宗忍 宗光 宗竺 宗仲 宗切 宗 宗 古 宗 智 宗 宗 能 正 存 般 献 動 任 衡 間 源 伊 砌 旬 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 師 師師 師師 師 師 師 師師 師

師 间 皕 師 師 四六 十 百 十  $\equiv$ 四 干六 + + 十 四故山武 公方 伊杉 勢守 原 名 田

伊

賀守

內

四百七十七

同

明內

п	7共
H	莵
	玖
ŀ	波
	集
	作
	者
	部
	類
ш	

實橋正宗滋九藤愛 慶 禪源 日宗宗道一藝 卜中長孝友久歲 原益盛 晟 悦 意 元 雄 真 覺 阿 法法法法教法 童正丸法法 法 法法法法法 師師師師師 師 師師師師師師師師師 時 二二二五一七 四四 青三山 越越奥慶 丹 山泉石 森 伊 小 細 上時 能 載後中州楊 本州井波 彥 蓮 勢 空 川杉宗阿 左院見が越前 同住住住庵 祇 堺 彌 住 國 原美 內 内 内 子 園住 人 宿人人  $\equiv$ 金 司 稻 太 進 門 郎 內 當 H 藤 尉 下乘 守 備 H 野水 向申 三御製 親 兼肖 宗心王 載柏 祇 敬 二六 宗長 專宗 順砌

後公 カタ 丁固 テ リケレ タ ŀ /ケレバ聞人云は一云人夢ニ胸ノー カヘ w お S ~" ケ 12 シ る松 リソレヨ 下云 0 ケ 上二 風 w 松 のさ リ松ヨ十八公ト ŀ 十八公 松生 ナン ひし 如火然 タル ŀ ŀ カ 十八 ク = ナリ w 年 サ 一十八年 メテ 有 テ 公 人

老タル松生 其 古 20 ね タル ナ ŋ ŀ よる 取 成 0 枕 テ胸ト云字夢 の夢さめ 7 サメテ ナド 心敬 付

閔子 衣 見テアヤ ルニ冬ノ天 ŋ ヲ 後 ヌ サ ノ母 扎 テ 時父他 メ 子 三二人 テ事 テ シ上 jν 屯 衣 二實 ヲ 足 子 ノ綿 ŀ ノ事 ホ 1 アリ 弟子 リ キ カ ナ テ サ r = テ 彼母 リ當腹 リテ ミルニ Z 也 ゲ 母 ゾアリ = 騫 騫 = 蘆 テ ヲ オ 車 = ケル父怒テ妻ヲ 7 フ ク 子 穗 ゥ ク v N ラ綿 引 ヲ Ł テ ミケッ父是 呼 繼 3 出 w サ 母 ヲ シ シ シ ヲ 父 テ テ 2, Æ

> ガ ラン ナ 7 E ヲ 天下ニ E ŀ 不少去 ス騫云母家 ハ三子 及 妻 æ ŋ 叉 サ = アル = 2. ク カ ŀ 2, ラ 心 キ ラ 2 Ł N ガ 子 IJ ヘス サ 此 2 詞 閔 シ 子騫 母

蘆 のほ まことに似たる は かさねし 衣の r 0 わ 4 12 0 なら は h T

專順

三衣 1 中ニイ ツ ハ リ 7 IJ ケ ŋ

誠

七步 詩

魏 大法ニ行 文帝弟 ノ曹 ン ŀ 植 云 = ケレ 七 步 バ則作 ラ間 詩 ヲ ッ ク V 若 不〉作

煮、豆燃,,豆 蛮 豆在,一釜中, 泣

根 生 相 煎 何太急

如此作心八豆八曹植 )V イ 本是同 御ナサケナ ヘリ 豆モ其 キ Æ 本是同 3 詩 樣 我身ヨイヘリ其 ナル 也 奇特ナル才智 ヲ 相 煎ル = ŀ 也 兄 惣七 何太 急ナ 帝

才 下云奇 特 ナル 才ヲ 云 机

おなし をこそつ ね 5 < な n もろ る枝の こしの あらそ V

祇

連枝 根 生 下云故也 1 生 12 間 句ノ心ハ只木 オ ナ ジ 子卜 ヲ ・マデ ケ ŋ 也 連 前 w 工 = ダ 3 ŀ w 時 此詩弟

同

集 良 材

心 机

君

漢, 貌 儀 胡 國 3 3/ w 丰 J. 人 18 八 ラ ス ヲミ 宫 今却 世 ŀ 代 地 事 1 7 給 番 FI = 玊 7 義定 憑 贿 ŀ ク 云 坎 ラ Ł" メ 1 匈 ク ナ 赴間 似。畫圖之中一下 胳 テ 欲 也 末 丰 カニ テ 1 > 工 ス 奴 其容 ナ ク 黄 1-1 1 H シ ٣, ŀ イ ス テ 夷 云 本 君 北 IJ 旅 テ 金 ス Դ 貌 死 惡 唐 云 也 ŋ ダ 召 1 7 地 カ 女 能襲 ŋ P 出 ク 賄 7 ケ 申 H 毛 シ ヲ 3 ŀ 也 繪 ヲ IJ 本 IJ 孔 夷 ツ ヲ ヲ ダ シ 3 帝 遣 美 東 云 V テ =E ク ナ ナ 子 ガ゛ 也 = \_ 詩 自 御覽 ウ = = せ 力 ス A ヲ 2 Æ = ر ر 東 樂天 ッ 九 1. 四 デ ナ テ ~3 7 Z 夷 ズ 0 ツ w ŋ 方 繪 3/ P 威 力 15 ジ 3/ 70 3/ ッ ~" 南 是 馬 カブ 第 テ נל ケ テ 力 シ コ゛ = 卫 ス 勢 ١, 詩 此 御 都 西 Ŀ カ ス w iv ヲ 1 1 ŀ ٤" -7 覧 云 昭 サ 也 朗 = \_\_ 18 シ \_ ス 云 12. 戎 = Y: 莊 撰 宫 ナ テ 詠 君 昭 せ゛ 12 去 3 > Æ ラ 國 琵 人 君 出 ~" 程 1% 1) 1 ダ iv 7 I. 1 1 狄 詩ヲ 也 我 琶 17 ツ 毛 ノヽ w サ シ ガ 7 7 延壽 ヲ 綸 我 美 漢 九 テ カ 7 ŀ IJ ン 見 貌 テ 四 彈 J° 1. = 7 ヌ H 夷 皆 ハ = 偽 谷 1 代 者 本 ヲ 方 ジ 1 ツ カ ス 1 =, 工 ケ ク 寒 テ 1 書 大 7-ヲ オ ك

> w P イ フ

しらすえ 2 か け U 古 る女やすか くに 入 た ひ か は 3 i,

心 敬

強 0 影 0 5

弘 る たひに

ラ 題 Ŧ HZ. P ズ キ 君 > 7 ウ 15 カ 1-云 斯 ラ 7 題 2. w ヲ 7 æ iv = かっ テ 心 サ シ Œ テ 也 7 此 昭 シ 7 貌 3/ 君 b 丰 賄 ヲ 13 Ħ = 1% 成 は 7 かっ 7 3/ テ 1% 3 ۱۷ 3 ラ ラ メ X 斯 7 18 1) ŀ ファ ヲ 统 云 ومد -E 7 心 ラ 70 111 也 テ 7 ズ 3/ カ 貌 同 70

3

足 引 Ш かっ < \$2 な る もなきねをのみそなく ほ きす

=

テ

昭 君 方 7 ŋ サ 7 也

本 夫 A

漢 物 ダ カ 7 1 V 代 Ł グ ノ人 ケ カ せ テ w V 也 御 ケ 覽 君 ナ 3 11 1 TE ケ 影 爱 ナ 1." J° 1 Æ 不公言 × 1 ク ナ 3 ラ R ズ 死 ケ ŀ w 後 テ }-1/2 魄 71 ナ ナ 香 义 F 11 云

山 順

72

3 5

お かっ

な

思

ひ

0

け け

2

b

1

72

72

3

お

B

かっ

かっ

な

**唐ノナラヒニ** 唐 フ五 1 Դ 平 結 P w ス 我妻 1 カ 伊 × 参 ŀ = 物 セント思フ女ヲバ ス 文 語 集云 = 中 與以君結以髮五 3 、ノ 本ノ女ノ オ サ

載 7

イ ŀ

ب r

ワ

נל

キヲミテ くらへこしふ 3 メ ル h 歌 ノ返 b 3 カコ

君 ならすして 分髮 誰 72 か 過 あ くへき

思ふすちなれ をか あく は 5 るくろ ñ 末のちきり か 2

宗伊

南風

唐 リテ云 V = 我ガ妻ヲ帝 南 ケ 1) 風 1 王 フ カ = ŀ 2 ラレ ጉ 牛 我 テ行 ガ ス ŀ 丰 7 シ = Ł 帶 汝 ヲ 三通 カ ス 3 ŀ =

カコ たみの 夏のくるみ 帯の らみし なみ カコ の風や匂ふらん 夜のそら

心敬

傅說

陰也陰 三年不り言云 帝父ニオ 八默也 モ ダ クレ給 k ス Æ 諒陰 ノイ 也 物 テ三年 1 h ハ ヌ 事 諒 ヌ 事 也 闇 物ヲモ云給 中陰 也武 也 君 帝 ŀ 云 三年 カ N'A ク ٠, ズ尚 物 ŧ V 中 ス Æ ) 書 ۱۱ ~ 諒陰 ス アタ フ 中

> 其後 リ繪 賢 カ 繒 111 ケ ヲ ヂ 行 テ 人 iv = デ ŀ ウッ 傅野 ヲ引 居 ハン ի 物 過 ナ ヲ タ セ シ サシ リ其傳 スベ > 合 卜云處 給 ス ス シ メテ天下 ヲ N 故 7 ヲ = 說 不ン知 ٢ 也三 カヌ武帝 和 ケル 巖ノ中ニ版築 露不」違則召 セ 年不と言 Ի 11 ŀ ヲ尋ルニ 傅說 イ ノ夢 也天其心ヲ察 ヘリ我渡 1 Ξ ヲ鹽梅 ラ政 此 見給 トラ 心 傅 板ヲ 野 父 トセン ヲ ٢ 海 シテ 7 = ケ = 河 四方 シ 1) 11/2 オ 傅 テ ŀ サ 傅 ケ ク 說 船 尋 × 說 = カ 給 ヲ 7 テ ŀ テ 船 後 云 政 IJ

班婕 婦

似明月上以下白キ 班 、消雪ト作レリ又班婕婦團雪ノ扇ト 其色霜雪ノ 如シ 詩云新裂二齊紈素 ケリ月 シ 姫 カ リケケ トモ = 清凉不變 N HE 此月 女上 モ ヲ見テ Ի 一皎潔如二霜雪一 云 絹 ノ徳 イ 君 ニテ ^ 7 扇ヲ造 1 ツ朗 寵 w ハレ ユヘ ス 詠扇 テ 13 ル 身 = ツ 裁 ゥ テ 月ヲ凉シ 1 ・モ作 為二合歡 チ 恨ノ ホ 2, 7 V ラ ホ ナ ŋ æ 丰 ヲ 扇 2 團菜盛 jν 物 サ ラ 夏 噩 1 ク 7 12 ス

12 キ カ ス チ 也

叉輕羅小 夏を手には 1 擊 らふは雪のあふき哉 流盛, 卜云詩 7 リウ ス E 1 = テ 宗 祇 ١٠ V

w

連 集 良 材

扇 111

關 白 3 家 袖 ż す 物 ほ 2 あ Z 3

テ 1 句 111 F w 袖 Æ 羅 也 扇 E ウ ス 宗 E

楊 貴 妃 事 萉

7

17 =

家

テ

>

發

旬

ŀ

聞

工

ス

17

拾

遺

=

晟

٥ د ر

V

w

羅

1

云

2

1 祇

也

上

唐 1 玄宗 F. 陽 寵 人 也 2 ハ シ ク ハ 長 恨 歌 = 7 IJ

集 是 ヲ 思 見 イ 力 Æ 見 ス 女 宗 ラ 人 7 1 人 シ 1 V 段 1 ナ X テ 寵 心 ---テ F. ヲ 委 六 ۴ ヲ 陽 工 云 ク + ッ ス 宮 ク 詞 見 w ŀ ~ 12 デ テ 人 7 事 次 ŋ 物 都 扣 六 1) 思 伙 不 1 窄ボニ 巽 w 可= 古 衣 テ = = 勝 宮 裳 過 宫 + 六 細。シ 窓 ヲ き給 雨 造 1 年 ナ テ ろヒ 窓 ン 3 楊 外 r° 人 曹 雨 人。机 云 \_\_ 妃 文 旬 不 心

朝 雲 慕 雨

女云 至 雨 朝 襄 フ 1 戀 ナ = Ŧ " 云 行 テ w 姪 ケ 17 去 雲 女 亂 咖 ヌ ŀ \_ ナ 誠 テ 女 ナ w ナ 君 1) 夢 共 暮 IJ = 机 晝 ŀ 後 3 = 知 寢 Æ ノ 行 テ 7 ケ 7 3 廟 雨 1) 3/ ス サ 給 ヲ 1 久 ナ = メ E 雲 テ テ iv ケ ス 朝 7 2 ナ 是 カ = 12 ヲ E° 慕 14 w 7 丰 12 7 H ダ 陽 時 ッ 臺、彼 师中 12

> 巫 イ 3/ 1 女 雲 17 廟 是 死 ŀ 人 ナ 也 }. 1) ~ 同 雨 工 > 3 1 般 事 ナ 夢 ナ iv ŀ V 210 云 1 巷 云 =7 1 5 -31 7 Æ -1}-= 7 シ 1 死 丰 夢 1% ナ w 人 iv ヲ ~

n は 猶 0 名 施 3 な かっ 8 け h

京

極

雨 0 勾 3 雲 0 あ 12 B

あ L 10 12 かっ は 0 雲 夢 3 0 る 30 山 3 0) かっ 旅 17 まく 包 B

宗

祇

と

1 旅 ダ 子 ス 3/ 心 ス ナ w 1) 朝 夢 サ メ ス IV 時 分 裹 E 1 ユ X 7 IIII 影 思

屈 原

楚懷 見 察 我 何 能 醒 哉 畔 才 聞 テ ナ 12 其 則 ス 屈 颜 糟っ世 問 IJ 原 新 w ス Ŧ 色 12 冰 餔 7 日 굸 = 引押 7 者 111 子 憔 好 ツ 南沿シ ntix 鬼 以 必 悴 デ カ 不学世 冠 皆 閭 君 テ 形 彈 容 ナ 大 物 涸 \_\_ テ 诗皆 13 我 夫 認 \_ 枯 汉 濁ラレ 槁 閭 ٤ \_ 7. "何" 12 ス ŀ 7 Ł 屈 大 深 汉 1) IJ ŀ ラ 原 夫 必 思 泥 漁 w 1) ス ス ス ズ 兹 7 ラ高 漏-父 デ X 1) 振 P 7製 Jt. SE 1) 漁 ---同 何 波。聖 彩 > 災 ナ 劢 " 放 介 t 不 人 人 船 ナデ 1 ク 流 物 告 -7 サ 大 放 湘 不 醉 -1)-夫  $\supset$ 平元 一遊 流 樂 我 0 3/ 屈 テ 能 人 >屈 E E W 等原 Will 身 赴 告 原 ŀ 至 ヨガ 10 = 云 醉 1) テ 7零 IIII N

ウケ 敎 五月 ŀ シ遂 ノゴ キ夢 水 塵 魚 ズ 五 ス 埃 日汨羅江ニ身ヲナゲヌ妻悲テ供物ヲ水ニ生後共不ご言是ハ離騷ト云文ノ世俗云ツ メラ ŀ 茅ノ葉ニ包ミテ五色ノ糸ニテ卷テ入ヨ ヲ蒙 腹 屈 ク 葬 シ 原 > ケ ラ 云供物ウケン 以テ吾纓ヲ濯ベ 漁父莞爾笑雕ヲ叩テ去即歌テ日 w 110 7 無」妨ウケト 1 æ ŀ スレバ シ滄浪 ク > jν ゾ ト云々今ノ 龍ノ 心水濁以 以 ス 12 吾足 メ 上云 = 奪 人人  $\pm i$ ヲ 滄 世 或 っ浪 A

=

0 むるやと思ふも夢のうちにして さまよふあとのあはれさ 中 はすみなからこそやすからね 宗祇

五.

H

茅卷其

放

ト云リ可」尋

K テ

サメ 我 ヒト 14 ヌ 世 テ は 殊 ŀ IJ ス 云 みなさけのえひの × 111 F jν Æ 夢 トイ ŀ ^ F\* ツ グ Æ w 其跡 世 72 は ミナ E 2 ) n ŀ = ラ ツ 10 ズ ク 我 宗 w ヒト 祇 本文 IJ

伯 夷叔 齊

此 ッ 國 ブ ヲ 去 W カ ŋ 周 ŀ ヲ弟 申 ス 國 テ ノ叔齊 ノ王子 文王 = 也 = 伯 ッ ユ ヅ 夷 カ w ~ 弟 兄 ケ リ文王死後武 ŀ 兄 シ テ父 = ユ ")" 7 跡 w

> 猶王 居 王 曾詩二首陽 テ テ周 不、可、失一作 ケレバ 則 旣 テ 義 1: 戰 位 打 ノ草ナ 1 人 ヲ 栗ヲ ナリ 衆人 出 企 ツ ili w w + ŀ 事 ŋ 7 イ = 兵 ŀ 馬 テ扶命ン去諫 カ 亦 ス ハ ヲ 云 リラテ 亡 ジト IJ ヲ 1 起 ケ 前 ナ シ V 7 テ平 v テ蕨ヲ折テ食 二人ヲ害 ŋ テ -3 = 進 ŀ 殷人 バウ ŀ -イ 地 ヲバ不以用 賢 出 サ 紂 工 ŀ セン ナ テ テ メ 人 ヲ 轡 北 w ソ ケ 討 , ラ人 ŀ ヲ v ŀ ン 兩 ス 7 ٤ Æ ١,٥ ŀ 太公望 人首 兩 • 在 力 ス モ ラデ 人 死 父 不》用 テ 陽 ケリ胡 ) 喪 蕨 Ш 日 え サ

申 皈 云 ŀ 呂望子牙皆同名 國 周 ツ ŋ 處 テ占 略 セ ケリン 已下 ラ代 カ 給 ラ ヲ 賜 太 N ٤ テ兵術 リ車 公型 V スル者 ヲ 9 成 說 = 3 w 子 シ ケ リ非能ノ ヲ教 ノニ今日 æ 也周 孫 IJ 右ヲ賞翫 シ テ 太公皇 ツ 世相 イ 7 羆 文 = 國 ŋ 兆ト云此事也ハタシテ渭 繼 惡 E ガ ヲ シ ノ狩ノ獲物 功ナ 伐 テ齊 Ŧ ス ヲ 虎賢人ヲ 時狩 サ 具 ナ ~" jν 17 丰 テ シ 國 ~" 謀 文王 出 シ テ車 シ太公望 般 ヲ 主 **ر**ر 得 ノベ 一、
五
王 ィ ダ 1 ٤ 給 1) 紂 右 力 ケ 父子 フ ヲ ケリ六韜 = w = ウ ) ~" ŀ = = チ取 ノ世 シ 1 滔 Æ せ テ ŀ

ていたが

獻 是 付 ナ ヲ 卡 玉 卡 シ IJ 1-1 ヲ 處 ラ ゲ ŀ 丰 和1 111 看 和1 之如 ラ 乘 申 1 3 10 日 7 力 ガ ガ 荆 ク者ヲ 事 抱カス 左 1) ズ ヲ 此 嘆ケ 重寶 此 先 照 王贵仍 テ 和 1 1 1 トズ 足 琢 ア 玉 此 石 7 ス æ 召テ トズ 聞 サマ ヲ 1 1 如 IV 7 玉 ナ 所 知 云 テ 此 我 IJ 丰 シ 7 其 2 身 令、見是石也玉ニア 抱 下云文右 = w iv テ 氏 知 一楚ノ厲 > 丰 ルノ 卡 テ 玉 モ 璞 人ナク 不實 ヲ思テ歎ケリ又次ノ王 畫 和 ス 1 ヲ 7 王 召 ナ ス 校 ナ 7 1 王二獻 シ 7 哭 ゲ 車 = 7 1 シテ侫人 テ王 沈 泣 是 シ 足 丰 = ラ テ 7 ナ ヲ ヲ ス バ不」憂 IJ 人 我 川 次 兩 琢 V ズ王是 ヲ 其 = 足 1) 王 110 ラ 王武 小 僞, 卞 7 ヲ 玉 ラ王 7 7 丰 和 ズ 求 世 5 サ 抱 \_\_ 左 ŀ Ŧ ヌ 美 文 虚 E ナ 云 入 ス 右 キ 出 テ 哭 賢 怒 E 名 時 1 E セ w 1 1 3/ 車 才 ヲ 足 又 to ナ 卽 テ w

よ 光 10 3 7 2 1  $\pm$ かっ 3 のみちに ŀ 云 王 を ユ V つく まよ 如 此 2 たつ 小 車 ねまし 1) 行 助

わ 72 2 3 B 3 あ b n は かっ 玉 B כנל き世 あひ 7

當

范蠡

レ退ト 湖 道ナ 功名 グ 贱 1 1 ス Ŧ ラ ツ 越 デ 本 ラ 會 夷 7 是 ラ E -吳越二 リ大名 意 子 風 福貴 ウ シ 稽 2, ヲ ン 41 云テ勾践ニ 验 皮 烟 7 Z ケ Ш 战 ŀ 7 可以任 ヲ 達 テ ガ = 云 " 1 H 樂 万下 吳 Ŧ セ ر ر 越 ٧, 山 3 智 大湖 云 シ E X カ 施 テ E ズ 臣 其 w X IJ サ 111 7 1 M \_ イ 今 後 也 時 智 也 ٠, ユ 云 A II° V 1-天下 范蠡 ١." : Y: 後 節 ŀ 臣 þ Ŧ ホ w 八 7 也 ٢ A = = スォモ = 成 夫 ク居 7 然下 姓 第 テ 越 一西 行i. 越 差 八越 ナ 3 = ク 名 程 施 -J-時 \_\_ \_ = 啊 Ŀ ノ名 iv 吳 1 ナ X 竹 范 國 7 饭 7 E テ張い 大 改 功 人 IJ テ 3 ク 1-カ IJ 成 臣 児 所 會 云 合 テ 3/ 3 1 越 升 5 名 開 者 机 7 稽 7 [法] 1 U 戰 討 7 此 泛 遂 シ 晃 朱 1 ^ 此 = ズ大功ハ 耻 起 テ 取 有 涯 ウ 公 湖 身 顺 政 水 ヲカ チ 退 范 ヲ 1 ケ = ---ョレ 删 7 7 1 1% ッ E 天 政 ウ 此 速 テ 取 1.] 괴류 7 チ カ III 设 吳  $\exists i$ .

云々

世 す 舟 0 かっ 3 中 な は n 南 3 3 45 身 時 72 す 分 るか は 春 小 册 な 0 3 水 3 も心 うみ かっ 出 3 は 12 5 T

宗祇

h

同

魂鳥  $\pm$ 名 如 1. 歸 心 明

其 國 成 ヲ テ 春 杜 = 申 都 也蜀 ヲ 思り 7 歸 鳥 テ 1 旅 號 = ス 其 シ 故 テ

をす かっ る < 道 12 は 10 人に < あ まの やよらさら h 2 ね

同

テ 世 凾 ヲ ス ッ N -皆范蠡 ガ古古 也

册

世

虚 鳴 深 腋 孟 日 ツ コ 木 3/ 嘗 音 シ 10 7 テ テ 毛 ク 子 君  $\equiv$ 逢 回对 = ケ 3 示 ス ハ 坂 テ 齊 谷 2 1.0 IV 是 ッ 1 = E バ 公子 關 關 .H. II. 1 オ 1.. 7 **シ** ヲ ]-IJ 戶 3 タ ク 戶 w ٠, 都 開 鳴 未 テ 衣 IJ グ ۲ 秦 也 • 1 テ 7 ٤ 天 東 子 ラ ソ 2 1 = F 白 昭 ヲ カ 力 = 1 7 シ ズ = 狐 Æ U ケ  $\equiv$ 國 重 IJ 1 = ヤ 寶 裘 Ŧ. ŀ  $\nu$ 7 ッ ス 出 云 ク 15 ヲ カ 7 ŀ 眞 客 迯 テ 12 Æ ~ ス 和 齊 テ ケ 去 1 1 = 歌 鷄 中 IJ IJ ヌ 迯 狐 家 凾 ヲ Æ 谷 ナ 鷄 去 昭 干 夜 + 貴

也 ャ ラ か 夜 12 2 ヌ 易 3 か 關 青山 ノ戸 12 そら 1 12 L 7 和 0 2 = 0 テ普 鳥 4 1 8 哉 ノ 凾 谷 鷄 ノ 虚 宗

祇

ヲ 願っ

云

心

也

鳥

頭

白

ŀ

蜀 死

> 不如 叉子 古 シ 杜 テ 鄉 他 規 宇 歸 7 鄉 ガ 叉 K 魄 蜀 K = ٢ テ k テ 3 頭 死 蜀 不 ŀ IJ 出 魄 如 ス せ 歸 ŀ • シ ŀ × イ 12 = Æ テ ŀ 云 K 皆 IJ ヲ K ハ 悲 郭公 ]-P 此鳥 ク古郷 鳴間 ンデ ノ古事也 オ 萬 ノガ古郷ニ不、皈 不 = 1 如 カ 行人旅客ラモ 文選 歸 鳥 ŀ 1 敎 æ 鳥 云 ユ

春 ヲ 時 鳥 サ 花 お ほ 春 ^ は つか を あを葉 ホ ŀ b なし つく , 4 やゆくするの 1= ス なを残るころ 不 かへすら 如飯 ŀ 嗚 弘 テ 5 カ ^ せ w 宗祇 カ ŀ 也

同

w

ナ

1]

叉宗祇 是 ハ 歸 か ハ 3 シ = カ ナ 3 15 ノ發句 ス な は ジ j ŀ 3 鳴 か テ IJ = 郭 に ホ と鳥 は 公 ŀ 3 • カ か もなく山 \* L ス jν 13 = ナ 云 ٤ 多ナ カ / ケ きす ク ス = N 心 >

3/ 也

カ

ジ

カ

w

鳥 燕 事 1 頭 ヲ 子 白 思 丹 7 ŀ Ł 云 成 詞 馬 = 人 秦 モ 云 角 生 國 ケ ス ŋ = ラ 始 囚 皇 人 250 汝 燕 1 ヲ 丹 成 本 テ 向 國 頻 テ = 1 本 カ 1% 國 ス 歸 ~

集 良 材

連

シ ク ラ

18 ŀ 丹 ケ ス ヲ V ハ 皈 110 ブ 則 サ V 鳥 V = 頭 ケ 1 白 1V 成 馬 ケ = V 角 15 搬 生 丹 ケ 聞 IJ ラシ悲ラ 綸言不、返習ナ 天 = ウ ツ ス

Ш 鳥 かっ 5 彭 白 < 7: h 1-け

云々南 熊 公卿 野 音 帝 無 1 中 111 1 吉 = 野 邊 3 我 = × = かっ VO w 7 白 シ る 牛 鳥 3 時 ケ 7 ø 1) w 時 ケ 3 鳥 ā w 1 ヲ 3 カ ? h ダ テ ラ 3 X Ł ケ w ŀ

還幸 と鳴や よし かっ 5 0 8 1 白 Ш 鳥 お B L ろの

都 還 幸 ナ シ ス 丰 in サ Æ 7 ŋ ヌ ~ 3/

セテ 萊へ 秦ノ F イ E 始皇 不 イ 云 デ p 熊 々徐 死 ŋ 野 IJ 1 死 死 侍」之ニ ケ リ文 藥 サル セ 1116 福 北ス ガ ヲ 1 鳥 塚 集 尋 事 ホ = ۴ 1 \_ ヲ = 一戦不い飯舟よ 舟 テ 悲 = 始皇 テ 7 ヲ 徐 ス 3 テ カ 7 福 海 大州二 テ 徐 1 = 中老 云者 ン 福 7 IJ = ヲ テ 童男 ナ ヲッ 叉 = 7 死 テ チ 7 > 十云 女 徐 F\* 力 力 ス 數 云 子 カ 福 ٤ テ ヲ 荃 = 死 萊 蓬 テ 海 蓬 萊 奏 ケ 1

> 幼 秦 我 叉 斯 3/ Æ 王 臣 用 兵 3/ 3 w ナ 李 此 時 ケ テ v 威 少 F かっ ŀ 7 38 置 斯 ナ 狀 w ١, 李 ク 讒 シ IJ サ 長 始 テ 皇 3 テ 3/ 5 Æ 1 =/ 7 w 15 ヲ 子 リ拾遺 扶蘇 無 皆 7: 威 秦 ヲ 11 死 ケ ホ w ツ 隱 勃 用 7 威 17 力 テ 由 1. 72 1 馬 然 國 李 勢 7 -1 如 テ H 1 水 ハ 是ヲニ 間 サ ス扶 扶 位 斯 Ł ----3 7 ケ 此 蘇 II 恐 政 ~ 李 7 趙 ン 7 1 1. 蘇 高 ひ テ ダ IJ 斯 ヲ ヲ THE STATE 1 215 思テ け 應 世 ケリ胡亥 不と争 カ メ ツ 15 \_\_ 12 3 æ ŀ 1 應 ウ 山 h X E 7 カ ŀ 云 = 指 是 イ ツ 世 w ヲ 李 サ 7 7.7 1 シ 狀 サ 斯 フ ~" Λ B テ +}-٢ カ 1 テ 1 雁 李 南 IJ 馬 シ 叛 ラ 丰 7 1 12 斯 テ 臣 111 テ 趙 自 HI 計 \_ 1 迹 > n \_\_ 人 馬 馬 7 テ 高 1 殺 御 下 云 ١٠ i 趙高 番 李 遺 70 1 ケ ---1. イ 七 シ 力 斯 IJ テ Z => × ス V -72 7 扶 w 處 1 ナ \_ 始 15 15 1 Ш 御 旅 ナ 川 IJ ツ ン リ æ 3 趙 \_\_\_\_ 子 1. カ w 死 V 心 大 23 テ 李 111-1 7.

返 か

を

思

2

112

け

h

なしとい カ E F 1 は 應 1 をし P 7 物 む カ か 歌 B とや 近 2 應 かっ 思 ヲ h 3. 指 け 5 テ h 馬

F

云

世

指

鹿

云い馬

II

4 グ ŀ v = 僞 = ャ 110 = タル 思 鴨 置 ラ ヲ 世 ゥ 汉 Æ ) ラ ス 庬 鴛 ス ガ 110 ヲ ŀ 今カ × 指 取 ٧, シ テ 成 w , 馬 也返事 ヲ Æ 無 ゥ ヲ 下云為 ラ ナ 念 う心 4 シ 7 ŀ 事 ス w ナ 11 1V 心 云 シ 鹿 世 テ ヲ ٠ ١ 毛 1) 實 鹿 ス ろ 馬 X = せ 10 ハ 3 馬 7 オ ŀ シ ス w

三つ四つはなつむまそやせたる

云者 馬卜云 三四放駒ゾ 日位 ラ遺 をさし ス シ = w 居 テ 故 ャ ているや矢さきのか シ 打 打 セ テ 殺 n サ 'n 天下亂漢ノ代ト テ ス トア サ 二世胡亥ヲ テ子嬰立テ為レ王ワ ラバ 力 -E t すく ・成ヌ 趙高 ・ウニ 一付ガ ガ智 1= ダシ ッ 心敬 1 閻 カ 本 燊 四 說 ŀ

#### 四皓

白卜 テ商 出 セラ ŀ 遠公、綺里季、夏黃公、角里先生此四人 ヌ 高 サレ IJ シ 山 祖 祖 w カ 張 U 見 1 3 一云山 給 ス 良 カ ŋ 申 ŀ 7 テ ガ 「三隱居 誰 HI 云 ケ ナ 太 ク 書 v 373 110 N ヲ 7 四皓 ラ 遣 七 翼成難 ノ御 ŋ ケ シ サ 此 書 ŀ ŋ ŀ w 云 問給 東宮 四 四 ヲ 也 人 人 毛 ŀ 太子 ツテ 漢 年 フ則 云 皆 母 ノ高 k 遠 商 張 八 ノ 臣、八君 公公 御 良 祖 Ш 秦ノ 綺 有餘 1 Æ 時 ŀ 四 是 脜 シヲ談 皓 看 亂 1 = 東 373 等 眉 ラ ユ ヲ 避 翼 召 合 皓 7 ヲ

> 皓 宮學士ト云官也東宮ニ ŀ ヲ 3 ラ師 ヲ 云 110 太子賓客下云太子 不、耻 是也 トシ 出テ ウョ テ 政 ッ ク アオ カフ ١ サメ給漢 ハ ıν 物ヲ教 子 ノマラウド、 ŀ 也源 7 氏 へ参ス ノ恵帝 n 物 = 語 云心 是也 jν V ナ ナ 官 1. 111 也 IJ = カ 日 其 毛 本 ク 唐 シ テ 四 U 四 東 皓 カ

### 七賢

後山濤王戎 嵇康、阮籍、王戎、山濤、阮 晋ノ世ヲ去テ竹林ニ琴詩 モ 五賢トモ云 ノニ人ハ出 也 テ ツ 咸、向秀、劉伶等 酒 カ ノ三ヲ友 ヘリ残 シ五 ŀ 七 ラ七人 シ人 Λ ヺ五 机 君 也 名

拱

## 蘇武

羊 陵 漢 李陵ヲ副 ソ ス ŋ ヹ ヲ ガ 7 胡 世 二大 胡 鴈 力 ラ責隨 國 Ξ. 將軍 翅 胡 ノ囚 也 將 二書 國 ケ ダ テ ŋ 人 ŀ 1 w 、
温月窟 札 蘇武飯洛 シ ŀ Z 間 成 テ Ł\* ヲ ッ 胡 ス ヌ 水飲の ス 地 ヲ平 スト テ ッ 方 天上雪ヶ男 云 後 軈 カ ン テ K ハ ヌ = 蘇 降 ス メ 中 武 准 イ 怒 = 蘇 ガ ク ス シ 子 + サ 武 ŀ ヌ 九 强シ ヲ大 李 蘇 大 白 年 武 テ李 ッ ク 間 サ

### 四知

楊震ト云人ハ後漢ノ世ノ名儒關西ノ孔子トイハレシ

懹 地 也 知 = 荆 汝 3/ 受シ之コ テ 细 州 與シン 我 1 知 刺 1 旣 史 無 名 汉 ---知 四 言 w 王 後 知 人 一公是 代 蜜 7 17 ŀ = 傳 云 何 7 知者 舊 ^ ル英 四 知 辭 + 音 知 來テ 1 シ 云 畏 F 12 イ 楊 夜 } 1 震 金 + 云 天 1) t 斤 知ルヲ

かっ 0 3 をなに を かっ すら É は h ち B せ T

をろ な る あ 8 ち 宗 祇

葉 也 ス 鐘 友 チ 子 期、 梧 7 テ 長 桐 知 伯 音 1 7 牙 和 琴 1. 琴 云 7 人 彈 此 琴 セ = 女 古 ズ 1 ŀ 1 事 知 化 音 也 手 耳 也 1 3 子 テ 友 = 歌 琴 期 7 1 ナ 死。 詠。音 後 丰 7 ヲ 伯 聞 牙 ウ 知 琴 V 放 フ 1 彩ラ 也 IV 萬 心 ヲ

1, か 6 h 日 Л 0 0 7 ٤ 3 3 0 ^ かっ わ は 音 かっ 枕 4 3 h h

山

鳥

是 毛 V 12 工 38 1 聞 古 事 3 = 人 テ 0) 3 あ メ w 3 た 歌 北 古 今

72 出 T 多 B 0 72

志 伯 をく 牙 流 111 水 n 曲 = る 7 7 p A 1) 彈 13 又 元 ズ 子 w 期 唐 3 水 -1-30 51 1 圳 曲 云 かっ ヲ 我 h 弾マヤ 3 3 ルス 時 h 伯 12 11 牙 云 高 洋 山 12 1 祇 如 グ

w 3/

> 事 流 水 0 1 如 12 => 5 1. 云 12 は 高 かっ Ш 流 6 水 10 琴 1 illi 也

72 かっ 3 ılı 13 かっ 3 1 水 は

宗

松 文 集 工

不少得初 Ŧi. 冷 第 粒 夜鶴 四 岩 强 季 子 松 松 1-1 土 風 12 1 1 用 鹤 - 秋 mr. ?風 ノ子 ŀ 能角 1 也微 彪 7 第 憶 ナ Hi. 疎 ॥ 郎 w ~ 流 學 水 伴宮 掩 也商 ナ 抑 第 流 r° 水 许 水 四,

111

粒 -50 秋 1 工 取 1 0 月 四 夜 E 成 絃 は 2 テ 子 子 ŀ け 10 7 70 ノト 琵 < か オ 琶 f 四 Æ 担 フ 2 0 付 2 多 ツ w w 3 0 心 易 F 付 3 恨 ノ  $\mathcal{F}_{1}$ 6 ラ 粒 V h 彈 ス 1) 第

同

第

四

せ 寒苦鳥 7 作 日 3 了我夜明造。 苦鳥下云寒 安穩 栖 2, t 12 校 3/ 1 寒ヲ 7 ナ ---ケ せ 忠 無 13 常 7 t ラ テ 栖 栖, 身 1-今 ヲ 此 7 又 鳴 鳥 H ツ w 不 枢 1-2 シ 鳴 云 何 ラ 如 2 知 ŀ 々是皆 故 1 工 此 云 ~ 死 1 apille apirole 12 栖 鳴 明 ---心 P 7 1 此 H イ 文 云 名 " 不 今 机 7 12 7 ŋ 知 H 叉 1) 1) テ 悲 或 死 苦 無 -----經 1115 ナ ワ 云 放 兆 造 []] ヲ 18

日

1

事

也

朗

詠

=

隙駟

難」追

1

作。

也几

同

駒ナ

ガ

ラ

駟

み山 W. 鳥

こゑに お とろ く人のなき哉

住 是 Ħ 息 カ Ł 7 ヌ デ jν 3 æ , 3/ 1 = 常 歌 ヱ ヲ 机 ヲ ŀ 惣 3 ナ = ジ テ ユ ダ 、雪山 w 7 Ш フ也無常ヲッグ 也 八涅槃經牛偈 投 N 身 = オ 3 ١,\* ŋ

۲\* 食物 摩 歩ト云 引テ行屠處 地、人命亦如」是、旃陀羅トハ狩人也天竺ニハ 1 ラト云五卷 1. 云 ス 訶摩耶經云僻如,,旃陀羅、駈、羊至,,屠處、步々近,,死 一也世 ノ無常ナ IV ノタメ 所ヲ屠 ŀ Æ 無常 ホ 八旃陀羅及畜猪羊 ,v ١. 處 ホ 飼置テ所用 ~3 フル 也 ナ ŀ נל 云 所 ルベ 其 所 命 赤染 批 シ 假 æ 衞 死 ۲ 冷 時是 = 是ヲ 門 地 丰 羊 歌 1 ユ ヲ ŀ 殺サ 云 7 チ = 屠 間 一々此 カ U キ 所 ン ス シ 事ヲ羊 ガ テ 旃 へ行 ŀ 包 爲 FE Ł セン 百 丁 屠 羅 ッ ク間 シ歩 步千 ナン 所 羊 ヲ ダ

け ふも 叉午の貝こそ吹 羊の あゆみ近付にけ 0

b

隙 駒

物 無常也 透 間 醬 ŋ 110 3 日 月 ガ 阜 如 過 ク ホ w 1 白 ナ 馬 丰 黑馬 心 也 隙 ヲ追續テ行 駒 具 月

キ 馬 也

魚千里

١\* 隨 ナ ~ ノ夢ニ五 ニテ付ラル、事 キ事ヲ魚千里 ヲ一炊ト云 師 悪シ 事也米ヲバ 學、道魚千里、蓋 期間 -年ヲ ノ古 7 3 ŀ アリ魚 事 ワ 15 云 カ 3 ŀ jν 世 リー F モ云也 Æ う句 石 成 功 炊 カ 間 ナ ナ ノ夢 一炊ノ 黍一炊卜 邯鄲 キ 譬也 ドヲ順テ思ノ ŀ ·云事 夢ヲ 夢 黍 云詩 也 初 が睡り心 只米 二 炊 ノ上 飯 炊 ナ 間 句 カ

ゆけは又千里の道 しまをせは みうをそやすらふ Ė か たからて

月

日

鼠

宗祇

是 ス シ w ス 然 取 處 Æ ヌ 2 w 付ナ 迯ル 無常 僅 二黑 カ = 井 ナ 白 二道 IJ ガ Įν. ラ井 譬也 Ŀ 草 ク ラ 枯タル フ 一鼠來テ 經 木 アル 1 此 云王 底ヲ見ヤレ ア・ 草 ŋ 此取 井 取 沙パ 根 7 ツ " 絕 付 丰 ŋ 7 バ大虵 テ底 此井 タル アリ醉象ヲ以テ 口 ハテナ 草 落 ッ事 ラ根 中 在 E テ 落 心ナラ 真 ク n ヲ ツ 今也 廿 ラ カ カ 是 事 ズ此 蜜 カ w ン 落 追 ガ ۴ 革

連 集 良 材

1

備

ŀ

云

٧٠

1

國

Ŧ

劉

天

To

ヲ

150

1

F

思

否 也 ク iv ゴ゜ ナ ŀ 忘 身 如 身 光 無 in 云 æ P 證 陰 1. 事 命 罪 常 シ = 也 イ 7 ダ セ ナ 1 = 上八 大 他 丰 1 7 啪 IJ 露 根 ナ 12 R w Æ 担 譬 事 无 枯 ŀ J. シ 11 1 惡 獄 云 常 ŀ w 井 11 7 譬 2% 王 道 彼 = 1 ノト ~ フ 草 使 恶 也 也 1 丰 イ X 落 道 w 根 ٧, = 書 滴 我 着 白 ۲, ツ 3 111 7 處 IJ 枢 草 身 丰 E 1 3/ Ŧi. 鼠 テ テ Æ 1 カ = ノト 愛 無 追 欲 命 作 1 獄 彼 ١٠ 谷欲 蜜 立 經 卒 樂 處 此 也 論 滴 根 --w 只 貪 म्म 罪 也 愁 1 æ 說 着 如 責 不 切 業 ヲ カ 衆 皆 7 鼠 也 3/ ヲ = 知 崇 眼 西车 日 テ 7 只今 日 置 象 月 罪 日 耳 ラ 1. 島 根 月 也 1 Ħ 1 7

後 0 111 12 彌 尼 a) な 0 あ 利 3 生 まし を かっ 2 0 月 6 す 0 鼠 は 後

京

極

歌

伆 賴 卿 1 歌 =

我

72 0 多 草 思 0 ね は を 13 月 0 艺 うら 鼠そと

土御 冬 枯 門 院 0 草 御 は 孔 歌 1-明 昨 日

3 は は け < 2 日 0 成 鼠 2 程 な

> 志 テ 聞 ŀ 蜀 毛 大 敵 庫 ヲ 蜀 世 云 在 テ 王 \_\_\_\_ 劉 流 ス 7 == Λ テ 顧 度彼 張 輔 7 星 , 1 E 不 IJ 自 輔 佐 -72 1-F 天 ズ剰 馬 云 佐 孔 1 東北 也 下 臣 宣 1 朋 閑 第 扨 シ ガ ヲ 蜀  $\pm$ 孔 孔 テ 居 求 流 草 ŀ 明 明 共 花 ) 3/ \_ 云 西 1 暨 病付 テ 育 -人上 南 萬 文 到 才 H 陽 111 テ 武 文 軍 孔 前 シ h 合戰 死 近 云 7 朋 7 備 カ 1 Æ 10 率 秘 其 排 爺 處 ス 孔 策。志 備 ン 3/ ٠/ 1 百餘 テ 廻 テ ili 1 1% Ŧî. シ初 w 1 1 45 ブゴ ン、 7 H Mi 共 4. 1% ナ 1) X -7 原 諸 前 E° IV 4 111 雖 伙 11 ---1. ヲ IJ 葛 天 ルズ Liv 翻 送 Y V 71 備 ŀ° 刚 -1-3

晋羊 時 人云 碑 ケ IJ 而 シ 處 ケ <u>--</u> 又 是 1) IJ 1 也 7 碑 石 師 德 並 主 民 祜 Ħ 祜 ヲ 碗 ヲ ケ 1 死 云 ナ IJ 死 淚 イ H ヲ R 兆 行 デ 碗 テ 書 IJ シ ナ プ 人 後 政 賢 H 給 ツ 1) 見 共 ヲ 名 本 ケ 3 Ł 7 テ 士 糺 1 此 7 ガ 立 ガ セ मे 3 w テ 碑 y 者 J' w 2 A 央 死 德 泪 尺 ッ 也 ナ 1 7 ス 等 碗 衰 IJ ク 7 7 子 ŀ 12 陽 11 = ŀ 才 Y 1 云 岘 別 굸 人 ŀ 祜 ŀ 工 12 云 州 #1 カブ Ш 1 シ 遺 處 ズ 111 死 5 1 ツ v 変 云 20 1 山 守 テ w 15 ヲ 隋 慕 時 砚 石i THE 7 テ 波 1 秘 Ill ン 7 一處 E リ 答 =1 物 故 其: ŀ 云

ン = ヲ 壺碑 ト云銘字ヲカナブミト讀ガゴ Ի シ 刀ノ

銘ナド也

零陵山 成 「ト云處ニ石アリ雨フレバ其石燕成飛晴又石ニ 石燕

見れはつはめの一つれのこゑ

石をうつ雫もふか 川逝ノ字サルトヨ くふる雨 4

宗伊

孔子川邊ニ居テ日逝者ハカクノゴ ŀ 丰 ヤト 云々逝去

ノ人ノ事也

けにかへらぬやいにし をみれはなか 3 \水に似て への夢

行助

日

宴卜云是也內 ノ世二此事アリト云日本ニモヒノ日ノ祓ト云是也始 三月上ノ巳日川ノ上ニ盃 ハ上ノ巳日ヲ用今ハ三月三日也光源氏須磨ニテヒノ ノ祓ヲセシ事ア 典舎衞國恒河邊ニシテ始〉之其 IJ ラ浮テ詩ヲ作テ遊ブ曲 後 周 水 魏

麒麟

也 ニ出現ス生草ヲ不、踐 頭上ニー角アリ角

> ノ端ニ肉アリ物不、害學者 3 リモ 稀サリ 八牛毛

3

リモ滋成者

麟角

けたもの

名もこたかしや桐にすむ鳥 も君か此時出つへし

此前句キリン也 付句 バ鳳凰

也

宗伊

か飲、非 五色鳥也非,,梧桐,不、栖、非,,竹實,不、食、非,,醴泉 :明時:不公出云 心敬

宇宮 守宮 おとすは桐の一 葉かな

如ナ 其血消 時是 宮女ヲ戀タ 此キモリヲカフニ丹砂 ŀ 云心也我身譬作レリュ女ヲ戀タル詩トミへ ヲ 故 滅 コ 也 ス D 詩曰臂上守宮何日消、鹿忽花落 コノ故守宮ト云宮中ノマホ シテ宮女ノヒ タリ鹿葱ハ宜男草ト云草也男 ヲ以テス躰コトバークアカ デニ ヌ ル若宮女姪 リメナンドノ 淚 犯 アレ 如、雨、 キ 110

出入るかすのしるきみやもり

守宮ノ ノ宮モリハ只宮人 うき中や虫のしるし シ シ ŀ ガ ノ事 2 v もか 歌 アリ はるらん 扨 ニ守宮ヲ取 虫 1 シ w 成 シ 宗伊 ŀ

カ

ソ

ナ

1) 云

リ前

四百九十

似 我力 12 12

我 迈 件 ۴ 7 カ 咒 唱 云 ス 衆 シ = 12 願 生 虫 200 V 13 12 願 唱 ]. ŀ 11 3 1 蜂 蜂 テ Œ イ 他 児願 覺 佛 テ F. 7 1 7 1-13 亦 虫 咒 ナ 覺 卽 類 子 ス i 毕 V ス ヲ 7 411. r ガ 成 Æ 11 含 毛 ۲ 18 = 蜂 只 眞 成 詩 也 3  $\mathcal{V}$ 諸 此 Ի 也 デ 둜 \_ 教 故 我 佛 ナ 咒 螟 給 II. 我 F 蛤 1 n 名 似 ガ 衆 有 ١, 17 生 皆 我 中 ヲ 如 12 -f-衆 1 如 JF. 12 = シ 蜾 生 我 覺 入 ٢ 12 唱 テ 1 1 1 = = 佛 咒 屓 テ = イ 佛 1) 名 フ シ 3 V 之 咒 担 テ ヲ 也 成 數 朝 ŀ 7

杖

P

イ

禮 云 朝 Ŧī. 次 + 第 校 12 於 12 豕 = 杖 六 + ッ ク 杖 事 於 廣 ナ 七 w ナ + 杖 IJ 於 國 +

鵑 花

染 云 ŀ m 花 iv ケ 鳥 カ 1 ン 3 サ 1-淚 ク な 丰 テ ヲ ワ 杜 流 け ヌ ハ 名 鳵 サ ス 躑 ラ 花 鳥 蹈 250 也 お ŀ 此 杜 2 Æ 事 云 鳴 は 鵑 担 13 担 時 毛 杜 岩 0 ナ 分 鵑 岩 紅 ケ ツ 1 0 1 7 \_ 郭 굸 ジ 땆 公 N. 1 ユ 也 杜 ヲ 鵑 = 鹃 宗祇 b カ 泣, 名 1 m 血 = 7 1 --

> 遊。 晋 云二 テ 惠 皈 遠 ケ 1 法 詩 IV 師 ヲ 人 廬 送 舊 山 w 友 居誓虎溪不り ŀ 成 テ ケ V 野シ 酒 過 7 テ 云 X 影 爱 ク 過 陶 淵 溪 テ [1] 陸 區 Ili 修 人 ---靜 行 柏 1

手 大笑 0) さの 之三 酒 笑 猶 殘 1 56 云 は HJ, や 三 0)

遠 30 あ) Ł à) 3 -0) 12 L 0 Ŀ 友

宗

派

ナ 前 **>**/ 1 旬 庭 旬 ,, 琴詩 訓 也 付 所 酒 ノ三 カ 友 1  $\equiv$ 酒 笑 1 ヲ 11 此 7 酒 1) テ ---葵  $\Box$ 詩 フ w 1 心 ナ 也 キ ヲ 73

對 无 事为 而 以言 孔 5 [-] 獨 子 1) E 未 間 也 和 1 鯉 語 日 ---退 担 Thi 不少學と = 得 親 M! 過 詩 1 1 庭 庭 開 Mist. 他 オ E 无 シ ヺ H 學 以立 义 ^ ス 聞 ン詩 獨 7 ブ 作以 江 1/G iv 乎 訓 义 鯉 \_\_ 也 對 八聞三君 孔 趁 F 創 E 子 イ m 退 未 過 m -3-也 数 1) 15 T. E 新 不 [-] 論 7 而沒 其 科 部 子 陳 市豐 11 几 退 鯉 JY.

胡 蝶 ŋ

莊 莊 F þ せ 云 云 は 書 花 = 遊 切 蝶 U 夢 1 成 T 7 受水グ 過 百 L 1% T w 年 計 3 花 1 \_ ス 云 1 圳 プ 111 V 自 ケ 首 iv 歌 1 云

此 世 は蝶 0 夢にそ有 け 3

72 かっ 玉 に 政 か 2 え あ は な は夢 n こて よこと ふと成 は n 5 Ñ 宗 祇

云家 也 £\* 虎 ヲ背 7 ヲ 孔 家 シ 3 ス 15 此 答 ŋ 政 テ 門 ク = 泣 子 抱 1 JI ŀ ٧٠ 云 带 云 ラ ゲ 云 ヲ 我 泣 7 1 文 シ 孔 政 云 夫 引 丰 æ 中 我 子 孔 具. ŀ 7 7 ス 虎 虎 孔 云 是 IJ 子 w ヺ シ 有 事 ヲ 浩 日 テ 子 3 Æ = 道 聞 ク 食 孔 ŋ 政 サ 3 ラ ラ テ子 子 ヲ w ŀ V 過 生 何 サ ツ 110 ۱ر ヌ 1 涯 ラ 路 ナ 子 故 給 カ V 也 テ ラ 1. ン カ 1. = フ 1 爱 詞 皈 云 丰 家 IJ 7 人 = 者 或 ケ ŋ 政 1 = 7 = ヲ テ泣。 給 也 Ш 7 ハ 7 7 w Æ 想: X E 皈 中 7 ッ ヌ 食 誠 サ シ ラ ッ = X v りご テ 1 老 = ス V = 丰 又 背 是 間 E 女 ナ IV F., w 物 政 女答 iv ヲ シ ケ セ 1 子 事 丰 ゥ フ ケ 也

F 5 此 事 82 Æ 7 3 ŋ ŀ は 云 か 3 R 國 0

其

前 ッ 取 ラ 带 テ カ 付 政 ラ 0 ヲ 臥 誠 ⇉ Ш 力 ŀ ょ 難 h 7 ۱ر ŋ ウ 8 ラ 世 = 知 唐 本 サ B 文 ŋ 0 ノ心 3 人 1 哉 か æ 虎 ヲ 3 1. 付 断えずり Æ 1. w Ш 本 # 3 テ 1) 說 普 付 本 部 ŀ 政 祇 云是 ナ ャ ١,٠

> = テ 知 ~ シ

は け きょう 1 ろとら は 物

ラ 是 聞 ズ Æ ŀ 同 3 作 š 古 者 事 さるも Æ ナ 申 V J.\* ナナ から らき V Æ 是 ケ 世 本 ŀ 0 文 35 云 K 0 かっ b は 7 こと • = テ 我 宗 Æ 7 祇

=

7

晋 人 テ 切 云 = 家 如 行 者 E E ン ヌ 質 ナ ŀ ナ 7 = 暫斧 ŋ 皈 思 小云 w 3/ 物 テ 不 テ テ Ш 斧 者 思 ノ柄 3 ヺ 王 議 新 = V ヲ 入テ不い歸 質 Æ ヲ ヲ == 11 切背 思 ス オ = ツ 與 テ Æ ゲ 力 = Ш 力 テ ゲ ヌ = V ŀ 是 110 ス ŀ 毛 = カ ナ 工 Ħ V ケ ヲ ク 食 w ダ 15 朽 荒 仙 我 ŋ = タ ケ 人 ケ 七 果 IJ N 基表 世 ŋ 扨 = ヌ V 七 仙 圍 シ ヌ 日 世 쁩 ク Λ ヰテ 7 ナ グ Ŧ w ヤ 孫 質 ッ w シ ヌ 薪 ŀ 處

テ ゾ 7 IJ 3 w 古 今 =

故

鄉

は

しことも

あらすをの

へえ

0

2 朽 所
る
戀
し か h V 3

テ 基 ゥ チ ケ N 人置 テ

上テ

ツ

ク

ナ

w

オ

7 シ

Z

築

紫

處 t 1] 3/ 歌 也 基 ウ チ 9 N 處 云心 ヲ

1 人 此

朽 許 歌

シ

七

<u>H</u>

潜

平萬

間山

生事无心 到--文约 得公 DU 百 虚不 九十三 名換 滿此 亚江

事 テ シ ŋ 子 云是 陵 云 せ ケ ヲ ズ ク 光 處 語 シ 不 IJ 7 成 字 7 光 後 テ夜 半 司 子 ス ٤ 可 宜 天 1 ッ 光 ナ 陵 一驚股故 七 君 子 IJ 議 官 Æ 裘 缸 陵 奏云 床 里 シ 太 丰 天 ス 1 子 同 ン テ 夫 ヲ テ 1 IJ 陵 殘 客 學 人處為也上 賤 Ŀ ヲ 一辭便去富春 同 共 = 1. 嚴 生 後 云 子 3/ オ 1 丰 1 舊 凌 グ 帝 テ 形 ホ 光 後 1 漢 灘 座 臥 也 武 星,友 せ シャントル テ シ 7 子 然 天 光 1 是 犯 陵我 子 3 武 ン Æ 和山耕不 1. 云心 嚴 皇 ケ ヲ Ł 毛 1 ス 耕不 IJ 足 帝 介 成 帝 陵 子 1 ヒヲ 舊 灘 瀨 給 ヲ 1 申 1 テ 以光 好 舊 星 ŀ ケ 1 出 ヤ 子 瀬 ヲ 友 = Æ 3 武 云 也 世 思 ウ 陵 同 ハ 18 ヌ 光武 子 -1 腹 行 學 也 テ カ 便 上 陵 里灘 閑 方 \_ イ ハ **唉**== テ 1)

君 とそ ~ 0 0 同 ね 0 學 ほ E 3 は n 出 0 11 世 h

波新 二克 在玖

テ 不」可以 = ナシ 天下 7 せ 孔 ヲ 失 ケ 是 ホ 者 失 ヲ × 聞 ヲ ケ 7 > 天 給 ラ 古 IJ F 楚 E 2 事 テ 人失」弓楚人得」之下 下云々此詞 1 也 是程 名言 楚 Ŧ 1 ノ名言ヲ楚人 弓失給臣下 ス 八其 w ナ ラ 比 13 7 - 隷、之王 名言 云詞 楚 ŀ イ ŀ 云字 カ 1 ク 日

> ヲ ŀ ) 云、 ケテ 人 失。弓 Ň 、得」之 ナ w ~" シ 1 孔 --1 1% -,2 4 5

の寒馬 云惡 皆賀」之翁云善何ゾ 可悲ト 一物得 皆訪 此 ッ 1 キ 道 何必シ 何 失古 戰死 理 ヌ ン之翁云惡 7 F 云也 意 jν 111 ٠, モ悪ナ 事 宋 得 ス ٠, 二人 テ 也 此 淮 人 人 此 何云 子 南 間 何 ラン 何 子 萬 世 獨以上折 必善 必 芸 事 13 \_ 惡 又失事 だら 數 寒上 善 H ١٠ ナ ナラン ナ 月 不 萬 ラ キ 来 7 = ン リテ 翁アリ失い馬皆 故不 馬 3 7 其子 年二十 训;好, 翁馬 ヺ 3 w ナ 付 此 1 出 ラ iv Mi 句 椎 將 聪 ナ ----Ł 枕 大 得 业 7 17 殿 軒 ラ サ 附折 訪 1 3 亂 ズ 之翁 來 只 12 雨

人

眠

年

人ことにうれ 心 E ね かっ 2 は Ł うし は な S 3 道 44 あ b C

775

祇

間

グ 1 ١° 陵 w 藪 1 ~ īfī シ ŀ ラ 多 ili キ ---1 隱隱 中 テ 'n

凌

被 ス

4

-111

贝

īlī

此

111

ヲ

ナ

~

ス

5

ス

册 ク

ス

ス 7

7 フェ

朝

テ

都

Æ ヲ w

交

w テ

ナ

IJ

心

7

ス

テ

人

小

ナ Ill

如

此

心 2 か < も身をか くすや

此等ハ大隱ノ人也小隱 は なさけはうき世の人に成は ナラバ花 7 見ニ 來ン人

同

æ

可言

其衆ニ成テ人心ニ隨誠世ヲ捨タル 心深世ステ人ナド付ラル 事 也 句

い隱我住山ノ花ニ都

人ナド

,

打亂

テ酒

宴

ナ

1, 7

也是ゾ

= 7

ŀ v

朝市

賦云為 思人 トイヘリ朝 アサイチニハア 者也 皆此 內 朝 市 P 举 市一云 ウ 內裡也官位重職 ワ ラ ラ ズ 々注云等、名者於、朝等、利者 シ w 方 朝市トハ名利 者 ス 唐 也 去程 モ 日 = 本モ ノ名思人ハ朝ニワ 朝 ノ二也左思 皆 市 市 ノニハ名利 ナリ商賣 ガ がと 蜀 市 都 也 ヲ

曲、 キ友ニ交レバ E 麻麻 中二 惡人 アル 時 モタ ハタ メ ラン ヌ ザル テ ニ自ラ直 3 クナ w シト ト云タト イ フ 3

世 0 中 0 麻 心 は跡なくなるもうし のうちの蓬のみし て

w 此 人 心 机 世 1 中 ハ直人ハー人モ ナシ心ノ蓬ト云 ハマ カ

> ימ りとてなをき心 は りもなかり 交る蓬の しほとは あさましの身や 8 世 B 12

遜、敵

心のあさのすゑのよもきふ

宗祇

道 正 堺 田 虞芮 ノ 直 中二等、物者 タヾ 畔一方ハソナ 民 ノモ 逐、畔云 シキ ノ二人アル ヲ耻テソ k アリ論、田 周文王時 ダ ノ畔 ヲ = = 小云 7 日 ŀ 訴訟 訴 ŋ ミケレバサ 都 訟 一方 アル 二行者 = ハ モユ 者 叉 都二行途: カデ ミテ ソ ナ ナクテ田 飯 此 ス 世 中 リリカーノ政 ŀ

世 Œ エキ事是 = テ知 ~ **シ**/ のあらそひ

は かなやいまのくに へは 小 曲 0 畔をもゆつる世 行 助

云字ッ 三年 論 ハ何事ヲ カ ヌ 年无、改二父道一 ヤ ゥ æ 改 也 入 メカヱザル 1 跡 ラ三 可い謂い孝云 年 ヲ 7 老 ラ ŀ 々父 ダ ス ザ 也 ニオ 前 ク V 法 テ

也格式法度也 三とせそぬ 3 1 法のさころも

人のあとあらためさるをなこりにて 語云不 義而富且貴於、我如:浮雲.云 々不義

心

連 集 良 材

雲 道 ナ イ 半 1 ナ 7 身 ラ 10 I, 付 ナ デ 1 ŀ 12 云 机 F 15 佗 也 云 我 11 ス 汉 身 w 1 毛 ----道 ツ 3 ラ ナ -E ナ TI 丰 ラ 心 ク テ 机 ズ ウ 此 晋 カ 旬 ~3 ナ 12 付 iv 雲 t ٧, 浮 1 3 111 ~ æ 道 iv

天 子物 天何 ナ 子 道 ダ ス 處 物 13 5 7 7 E ナ イ 6 1 哉 子 かっ 給 四 1) ズ ハ 0 時 1 子 110 ジ 身 3 无 云 1. 門 ŀ 行 は 雲 弟 思 馬 12 æ わ U 世 匹 子 ŀ 百 子貢 時 物 78 #11, 云 87 小 子 4 3 な 7 日 焉 Ł Ţ ラ 子 12 つらか 天 0 何 1-ハ 如 云 みそ 7 何 V 言哉 弟 Ti, 力 物 子 1 云 生 ~" ガ 7 云 ズ ン k 子 iv 1 孔 何 4 云 述 子 心 焉"祇 岩 扎 物 -1-F 日 7 孔 E

云遠 3 春 IJ 丰 で草木 處 一始三足 と葉 ナ ŋ 毛 出 テ は P 立. 雨 なく 高 5 雲 足 0 ルカ Ш T Æ す 1 起 7 2 2 天 w 3 ŋ 津 7 始 2 デ 尔 云 ź ス 3 カ 12 H 1 此 h 心 山 1) E 7 前 麓 以 句 テ

同

ノ

チ

IJ

٢

古

令,

序-

Ŧ

I

始

出 立 里 もうき は b あ のみ U Ž 5 は ılı お ほ 12 え かっ 2 古

足

ト云句ニテ

/付也

7 二 公 12 3 サ 2. 道 70 也 ズ H お 1. 人 [11] 2 云 ヲ 116 12 心 才 7 n 白 ン 付 毙 V とは iv ス H 句 人 b 自 也 Mi 2 坂 =2 1-山 v 不 113 3 = テ 也 11 能 iv 人 云 ~" 1 VII 半 12 計 ナ 1-17 7 æ 心

18 2 ヲ 収 义 イ iv 共 111 2 云 =7 釣 大 かっ D 網 illi 2 ス ス は 1 12 7 不 27 1% T 1 テ 宿 1 鳥  $i_{J}^{1}$ 丰 1) す 7 7 < テ 斗 イ 射 7 w w 宿 3 1) ハ 也 无 个 物 カ 云 な 7 キ 12 情 1 ŋ 1% 22 由 1 ŀ E" 也 ナ 12 ٢ 洪 > 訓 釣 心 宗 1 7 ヲ 7 TE 加氏 ス イ 付 5 iv -,-鱼 7 3/ n

旬 也 廣 37 南 2 1-は 5 10 B 0 かっ n -

句 高 区 扎 ウ F カ 薊 =/ -1-射 iv 2 モ 1 淵 矢を 歌 獪 疊 1 1 認 弟 唱 道 3 ナ 道 テ ナ ナ ル -1-然 3 1 ラ 2 1ª 12 也 歎 12 仰 213 LEI LEI E 12 云 ズ 仰 古 舶 テ 111 外 ろ 1 20 萬 今 歷 道 1 鳥 [11] 至 果 博 7 1 彌高 Fr. + 1 ナ ナー -7 -- / 古 ナ 15 iv 由 纸 住 E. 7 11 也 2 江 ヲ 2 心 1 7 高 彌 43 ス 高 ナ 仰 ŀ 11 限 仰 111 砂 砂 15 ŀ ス 常 V 15 云 1 松 J. 松 F. ---F. ス 12 グ Æ -6 æ Z Æ ウコ RO Si 是 仰 7/11 -73 相 不 [ii] +} 111 7: Ell グ 安 4 此 18 20 -> 7 イ 付 狩 也

同

云 ŀ 云 K = ŀ ر ر ŀ 云 = 松 ヲ 付 w カ ン = 相 應 セ ŋ

ことの け は は 1 なけ Ś か さこの 12 やすき道 なら 7 同

者 生 此 レ ナ かしこ 前 也 學而 ガ ラ 論 きは 知者 步 生 也 次 而 むまれな 也 知 困.乘 之者上 而 ス 學者 カコ Ċ, ŀ 0 叉 Æ 道 其 云 ナ 次也云 丰 K L 心 7 て 也 丰 K 生 1 駒 而 ナ ン 之 1.

〇崑 あ 王 をもて鳥をうち野の 崙 ゆみあしときまきのあらこま ılı 无、石以、玉打 レ鳥彭鑫 あられ哉 濱 无 レ薪 以 宗 ,行 助 炊 飯

<

22

な

2

0

ち

b

ひ

ち

12

か

L

秋

0

Ш

宗

祇

云題 〇未明 モ 日 夜ノ寅時 詩也 先見海底 海 3 註 中 リ k 云 泰山 3 泰山 日、 ハ ŋ t 良久遠雞方報是、龍 白 い高山 日 東岸名;日觀 出 ク 然後 成 也其 テ明 鳥 頂 w 鳴 寫 氣 = 云 テ 16 R 3 ッ 鳴 7 泉 子 ン 18 寺 = w 鷄 3 絕 1 H 頂 = w 影 未 U = ŀ

山 かっ きり H くらき雪 なき千 里 あ 0 浪 V ほ O) 日 は 出

行

助

丰 1

物 ス

也 `

4

١Ľ

テ

ŋ

高

山

=

テ

3

v

11

夜

中

 $\exists$ 

IJ

日

3

ユ

~

是 空 力 モ ŀ 同 思 心 也 海 夜 中 = 7 日 ダ 1 1 ホ 1 = 1-IJ ケ ij ŀ ŀ 包 付 ۲ ラ ろ ヅ w ナ ヲ 朝 ~

此 63 發 0 あ る 句 72 H 高 0) は 空に ILI 起 3 たかに 枢 は 塵 あ ほ け 句 2 わ け = 72 h 0) 原

テ 18 カ 紅 ハ 古今 沙 ノ塵 云 ラ序 也 ツ 塵 Æ リテ ヲ 1 思 11 秋山 力 ^ ŋ N ナ ハ ŀ 云 成 w ~ 力 デ ŀ 云 チ テ ŋ k 七 紅 ラ Ł 塵 ヂ w ŀ 秋 1 云 Ш 七 事 ラ 色 7 ヲ 見 ダ V

山 丰 タ 麓 ŀ 麓 ŀ 成 1 應 如 此 テ チ ッ Ш ŋ イ E 櫻 ~ ŋ 1 E iv テ ス 句 Ш = 花 机 シ 1 Ш 成 3 ダ 櫻 工 7 1 ソ 云 ノ メ 一花 事 w テ ヲ ガ 暌 地 ılı ゴ 出 櫻 盤 F タ ŀ シ 1 唉 此 w シ ナ チ رر テ ŋ Ш 此 ス 積 べ 發 F キ 成 テ 句

由 Ŧ 里 は 句 鶯 なや ナ 啼 jν 絲 2 ~" x と =の 映 シ 不 紅 可 5 說 云詩 1) 妙 0 山 旬 1 心 5. 机 春

T

里

ヲ

3

ワ

ダ

七

絲 毛 7 ŋ モ 7 ŋ 1 云 心

花 句ひみ 朝 b 回 H かすむ千 K 衣 H 江 頭 宗祇 皈

連 集 良 材

酒

テ

宗 杜 佗 也 身 債 w オ 祇 江 故 ٤ ナ 美 V ヲ Æ Ūij = ウ ガ 人 有 + FI.F チ 行 江 1 カ 行 拂 = 分 處 南 ク 口 處 云 7 ダ テ = 事 7 7 \_\_  $\exists$ 1 111 朝 w 1/15 V Æ シ 生 詩 七 詩 w 7 3 ヲ 丰 IJ 1] 人 也 哀 信 歸 心 人 7 1 デ 多中 生 負 朝 } テ 云 七 物 衣 ノヽ 1 稲 ~ 旬 處 ~ ナ 7 古 內 ナ ij 酒 此 V 机 亦 第 iv ナ 惠 第 サ 稲 君 ~" IJ 四 カ 四 w 3/ ŀ 1 示: 1 云 旬 1 1. テ ツ 旬 名 名 \_\_ ^ ---郁 カ 间 w 酒 フ 言 机 醉 ナ

云 春 } カ 11 テ 食 、松 ヲ 7 カ ŀ 間 歌 朝 かっ IJ " F 1) 寂 0 霞 たに ス ヲ 命 出 4 = 12 テ 云 w 命 无 = ス 0 きけ 也 テ 也 1 = 12 烟 釣 命 云 ナ テ 无 0 火 机 = 7 は 1. \_\_ カコ 烟 應 ラ 命 ゴ 云 1 火 何 3 ŀ F = 12 テ 云 } あ æ 朝 云句 は ナ 3 ン -3 ハ 來 V ŀ ン ソ 牢 n 1.8 ヲ = V 0 か 烟 テ 云 = 霞、 7 テ 命 二 æ 賴 -111-1 ス 列 カ 15 ヲ テ 仙 渡 傳 カ ۱۷ 又 37 1) } 云 \_ 祇 IV 215 们 力 云 ス 命 w 7 人

Ш

は 2

赤 ģ

カコ

す

5

0

ち

T

同

け

T

12

かっ

け

H

云 0

題

テ

節 30

去

愁蝶

知

曉

庭還

折

花鳥も時なる

かなや櫻

宗

彻

殘枝 付 ラ 総二十 ナ かっ 1) H 人 心 别 未 必 秋 香 伦衰 此 詩

3

٤

3

是 1 同 ゴ te ŀ 心 12 俊 业 かっ 蝶 又 け 節 去 2 は 7 -Æ 心 不 H 0 知 菊 ŀ 0) 前 カコ 詩 it 7° 12 ユ F 派 力 ク

折

0

す

菊

はこて

2

0

宿

b

哉

御

製

分 路 櫻、鳥ョ 7 云 カ テ 鳥 Jek + 1. 供 ナ 雨 ノ給 名 發何 夜落 } -t-" 心 ン之三県 1= 月 ラ 云 lt ザ サ ラテル ラ 3 ۲ ン 也 1 北 時 35 V 花 花 花 Ni 力 ナ m 是 真 也 V 鳥 鳥 } 0 水 ル 作 成 否なら 7 18 聞 ナ 哉 城 云 子-タ 食 發 111 ユ iv 流 t 路 F. 論 12 何 ŀ 水 111 吸テ + 1 証 -10 月 ヲ D Æ ---云 水 ウ ---ス ス 雉 子 心 弟 根 ス \_\_ IV 8 =3 テ 1 テ E 1 な 1 ---ス 月 サ 赐 ラ 12 7 雉 心 7 ili 1 7 w ヲ ラ 花 梁 Æ 1. V 花 心 此 ズ ヲ 71 也 215 陆 111 II. = 5 先1 1) 71 L 此 ヲ 事 ナリ ナ ---談 知 3 -E 山 w II.F 压 力 何 テ 云 11 Mi ナ 鳴 不 ili ナ ヺ ナバ 12 IJ 隨 31; 孔 --iv

w = でモ正 = 1 初 和漢 花 月 鳥柳 ラ北鳥 同 漢 1 = 糸 也 梅 花 = ス 3 柳鳥 ヲ IJ カ E ケ 柳 ハ 鶯 3 = ŀ 鶯 也 云 鶯 ヲ 也 11 が柳ヲ宿 用 ス カ 來 柳 也 サ ŀ 柳 w ス

名カ

ギ心 ノ字 殺看殺笑殺 下云 輕 詩 とか 机 ヲ 船 = ゥ 短 多 チ 棹 け ナン 唱、歌去、水遠 シ カ ょ 愁殺 初 テ 花 ŀ° ン Ш 鳥 ŀ 遠 0 うすか テ ウ 水 ヲ 長 illi 長 ` 工 1 柳 愁 ク 1 七 ラ イヘリ皆 ハ 二殺人、、水 ナ v グ ハ ŋ ダ シ 愁 遠 ナ 丰 殺 山 心 心 長 敬  $\Box$ 也 ダ シ テ 飛 殺

云 此 ク 發句 ゥ ጉ Դ 春 遠く ブ ツ 風 サ サ ク 剪 水長 ŀ 春 = シ 二說 樹 云也 丰 風 小云 木 雨 春風 ラ剪 0 7 五 IJ 月 = 11 7 ル 花 丰 カコ 7 ナ ノ散 ŋ な = ŋ テ ٢ 套 ŀ رر ガ }. 3/ 1 = 梢 ク ケ ブ ラ サ 七 1 剪 也 = w 灭 侧 調 カ 木 ŀ 宗 ダ ダ 云 リト w 祇 1 枝 Ň コ 云 也 P

明 思 也 柳 をきれ 屯 先生 起 は花 元 有 7 ŋ >山、偶然作>客落:|人間 こそとふさ春 シガ賓客成人間ニ出也秋ニコ白鷴1此詩ノ心也五柳先生 0) 風 八秋 來見と月 專 順 [篇] 皈

月 ヲ ッ 察 ヲミテ山 シ テ サ ゾ = Ш 皈 = ス キ心 皈 リ ダ アル ク 也 思ラン 我 心ヲ以テ龍中ノ鳥心 ŀ テ 籠 ヲ 開 テ ナ

ŀ 云詩 北

このうち わ かふるさとのそらそこひし ili を心の鳥なきて

行

助

如高遠ナ 云 0 カ v ヲ 此 ŀ イ 題 歌 カ n カ = 法華 jν テ ナ 法 w Ħ 華 高 法 メ 也 原 w 師 Դ 歌 品 屯 穿鑿 也 æ = 修 漸見二濕土泥 法 習 華 ス ヲ高 セ V ~\" 11 道 水 遠 入べ 決定 7 思 w テ シ 知い近い水 屯 ヤ Դ 2 法 ナ = 師 ŀ 1) 其 ナ ŀ

法 の水 はるとみえてや土もうくら ちかつく袖のうるほひ h

宗祇

千載

等皆 かかい 法 師 野 딞 0 ノ心 堀 嬉 兼 机 0 3 水 0) 0 近 南 付 る 物 け to

此

2 ちなりこちそむさし 野 0 原

佛 姨 よるほ 母 摩 h 波 か 閣 ね 业 0 井 P 力; 法 1 ケ 水 1 授記 ヲ

ヲ

ケ

12

7

佛

テ

ヲ

ッ

Ł

ケ

w

1 N

云

が

ラザ

事

肖

柏

後 授記 サ 四百九十九 給

云

醉 給,人 テ 7 3 1 状を IV ۲ テ デ 衣 j 索力價 人 5 7 行 子 後 1 7 切 Æ グ 衣 エカ 汉 玉 3 1= 衆 食シギ 不 1) 1) 1. V = 生 醉 1. ラ 北 る 法 1 知 テ 間 法 ナ 又 0) 酒 7 ١, 衣 並 1) 玉 \_\_ 力 而 掛 玉 人 食 す 1 ヲ IJ 臥 事 7 E カ 其 ナ 1-カ 30 ナ 1 ケ 11 Ш イ 丰 テ N ケ テ 子 四 は 0) X 事 1116 卷 シ ス 月 置 ン 11 人 明 は 3/ ス w \_\_ 1% 衣でれ 此 酒 ٧, メ w 釋 惠, 玉 醉 1 T ヲ 衣 泇 臥 他 -E W 真 珠、 11 裏 不 國 法 法 如 INE 云 菲 细 或' 並 王 デ 111 衣 否 祇 人 寶 說 醉 裏 サ サ 酒 臥。二 メ 珠 7

テ

~

w

手 1= とら 玉 n 衣 0) 玉 給 は う 6 ~ Ò 8

酒物 此 臥る地 歌 手 か 女房 きに ŀ w 1 出 ~ 家 丰 衣 ス / ろ 1 IV 王 陆 Z 1 12 1 歌 ŀ 3 ラ 也 n 崇 デ 盃 派 何 7 盃 15 手 ハ祭 手 = 派 取二 醉取ル

0 玉 0 かっ 3 をう to 返

は

衣

0

j

72

0

まん

心

ナ

毛 卷 宅 Ξ 担 車 思 火宅 水 也 耳 水 也 ヲ 警長 思 7. F 者  $\exists$ 7 メ IJ w テ 歌 火宅 ヲ ヲ カ 知

> 付 火 共 雅 ヅ 法 宅 晋 ラ ~" IJ 7-V ラ \_ 家 w シュ菲 His 3 = hi オ 底ッナリエナリ 半 11: FIT チ 6 = せ 界 應 カ イ テ 宅 朴 = 開 ナ 4: 有 汉 ス \_ 根 リニ 行 ラ カ テ 只 ク H II T シ シ 不 チ H 門 7 2, 7 又 出 聞 此 ]-2 カ 剩 7 父 テ 法 子 ヌ 45 1] 火 ノ 誰 He 乘 共 次 IJ 付 16 長 ヲ 111 第 カコ オ 者 宁 云 テ 小 15 火宅 是 乘 界 w PH 此 才 111 歌 時 玩 家 ŀ 7 注: 好 1: -10 17 出 亚 ナ 物 7 世 大 ク フ IJ 自 IJ w w テ ヲ III 大 行 41: ツ テ 時 ~v 悲 ラ É XX II 3 12 者 215 テ 1: 訓 7 ----7 11 也 以 -1-7

あ 72 n か 3 T お 8 2) 0 家 18 出 ħ

世 中 かっ 70 つ 4: 5 0 月 IL II 0 40 な かっ 3 b を 43

宗祇

花 間 ナ 1 ラ ウ デ 3/ þ ノト 1 ハ 思 云 ウ 2 歌 丰 0) 家 ]-也 云 18 N. 63 也 かっ 此 ゥ 出 + 111 ヲ イ デ 2 事

T

法 世

道 う あ 3 3 0 法 to カコ 3 多 庇 0 わ < n 3 は 72 0 3 n h

句 力 只 7 我 力 ヲ 汉 子 ガ 7 ~ H 1 \_\_\_\_ 也 4: 乘 敦 强 力 浅 ナ 松 w 故 ナ 111, 付 同 1 112 云 法 心

菲 前

Ti

思歡喜セ ル氣 ヤ 誘引セ 色ヲ 卷、化城喩品,心 化 シ 見 ント 城 事 デ中 41 也法 云五 間 · 百由 菲 一城化 ヲ開 屯 化作寶所出句ノ嶮難、 アル 近 人ヲ一 顯 遠 ŀ 也 ブ山 人導 云 ŀ = 云 = テ v 師 ~ 弱 也 7 = なり草野 力 ŀ ŋ 7 寶 1 處トタ 處

=

テ付 海 釋 云 質 72 イ 一満元最初 法華 句 ッ n 最 ク しな か L 初 = シ 3 ハ もとをき山 ŀ 3 3 心 云字 7 說 1 かっ ラ 7 法 h ズ ヲ置 w 君 0 也 花嚴 ナ 嚴 3 ノ恩惠也 やこの ŋ 学 テ さきの寺 花 事 花 ヲ 嚴 嚴 也 1 花 其 ヲ ッ メ ナ 嚴 最 ブ 12 ク 初 Ł N シ 3 1 初三七 ノ事 也 : = 說 ŀ ジ 也 3 3 IJ 付 宗砌 メ 日 2 佛 故 ŀ 句 ハ 遠 一云テ 法花 也 四 ク サ

婆 佛御 桑 法 0 K 花 え は 滅 な 槃妙心 1 迦葉 굸 ノキ は L 花 みこそよもにみち 質相 質 ヲ ٥ ر め 者 = はとをくひ 枝 丰 誻 无 指 相 1 7 大衆 微 シ 揚 妙法 テ 給 破 ヲ聚テ らけき フ 額 八 門 Ø 微 萬 7 n 笑其 ŋ 禪 大 摩 法 時 衆 訶 ヲ 説宗派 迦葉 佛 ソ 1 心 メニ 我 = Ī ラ

也

集

良

材

迦 囑 葉 ス ŀ 不 聞聞 宣. 一去程 ŀ 云是也是ヲ拈 ニ迦葉第 二祖 花 1 微 ス 笑 w ŀ ナ 云 ŋ 也 世 拈 尊 不 ハ 手 說 = 1

說

サ

シ 7 グ N 心 机

もとのさとりを心 E は

給フ放 西 3 そむ IJ = 云 來 カ は W 付心 法 なを 1 禪 Z. 如何是祖 法 3 手に折 11 達磨 師 顶 來 西 天 1 云 3 ケ ŋ ツ 心敬 v 11 タ 庭

これ やこの 12 より來る 3 法 の 道 ゥ 柏

フ 樹

N

此 ŀ

心 答

ナ ケ

IJ ル心

是

r

コ

1

ŀ

ハ 庭前

1 2

柏

樹

ラ云

心

三付

子

屯

今禪院

ノ庭

=

П

ノ木ヲ左右

=

前、リ

カ

花 )涅槃經 + ŀ 庭 同 = のうへ 味醍 法木 H 醐 味 ノ經 夜 時 色 = 未 カコ ナッ五 説給シ經 |機根熟|モ カコ 一時教 17 也 1 サ ノ ŀ w 7 ŋ 丰 ホ Æ 1,3 ケ 法 = w 宗祇 華 = 經 御 ŀ 法 時 滅

日 幕雲、 杜 ときをは 子美ガ 世 中 是名句 は 春 る 御法 日 日 憶:李伯: 夜もやすからて に身をもおとろ ト云詩 三渭 か せ 北 春 天樹、 = 心敬

江

東

也下云々 日暮 ノ雲ト -y\* 7 間

テ

答

東 サ 1-£\* 付 日 0 iv サ < 111 1. 船 12 云 か 10 所 tz 2, 付 iv 生 物 il 0 411 サ 月 7 E" 1 出 シ ゲ 時 = 分 誠 ツ 5 サ ナ Ŀ シ ス ナ カ 1) w ~3

2 3 111 好 T. 風 雨 7) 又來過 かっ H ス 11 1 云 1 ヲ

宗

n きゆ とも あなき 雨 風

わ かっ -ろし ると 3 n

同

松 錦

賣 10 ガ 毛 賢 イ 云 如 臣 紅 薬 也 ガ ナ 臣 ソ 云 字 IJ 源 13 V 1) を分 叉 信 公務 氏 1 3 染 貴 = IJ 子 ス 0 物 後 會 = 物 = シ 稽 ラ 1 = W 紅 會 丰 せ テ 1 古 1 V テ 葉 ン 稽 は 夜 也 ヲ ナ 鄉 1 大 錦 好 行 Ŀ キ = 守 事 皈 ナデ 1 書 J° IJ ラ 1 見 夜 ザ 讀し ŀ ウ 長 ケ w ッ > 安 錦 錦 ハ w 1 守 = 1 7 t 錦 出デ ラ 護 3 ヲ 云 フ E ナ ツ 豐 同 錦 テ 1. 冠 夜ノ行。如 テ 帝 ナ 心 11 ŀ

家 1 儲 3 と人 やみ 3 5 Ñ

1

3 もなく 紅 求 7 13 よ D る 3 0 お 錦 < 111 Ш け 0 h

見

琇 1 云者獸 形 = 族 7 焼 テ 木 人 ヲ シ テ 酒 瓶 7 抱

サ

せ 客 7 來 1% テ 18 IN 木 人 1-ヲ 5 シ テ 1] 酒 ア 潤 炭 火 1 =/ X

It ナこ E す かっ 12 似 12 るすみ を見

t

3 0 j つし 2 0) 雏 工 0 書 15 23 1% IV 墨取 ツリ

枢 刻さカ 经间 淮 處 Ŧ. 1) 前 棹 キ 此 Zi 朗 何 1) 111 7 ケ 子 怕 風 け 句 1 道 炭 猷 烟 ナ 歐 月 云 ケ Ti w Ŧ 12 處 寺、友 ŀ 1. 仙 ふり 乘 V 時 Ili E 付 弱テ 大 1 也 雞 獸 カ 陰 術 心 3 18 0 \_ 生 テ ク 屋 1. II. 大 ヲ 2 7 1 等 井上付 大 歌 雲 井 上 付 黑 ]. 雪 云 來 7 ナ 好 かっ 0 3 IJ 興 E 12 開 處 1. デ 7-け ほ フ 7 4. 型 云 Ш ラ E ツ ろ 3 ŀ 猶 仙 雲 牛 2 1) 7 111 \_\_ 子 12 -テ ナ 酒 TU 樂 井 ズ ŀ IJ カ 术 1 ね 問 皈 13 3/ サ 1) 7 Ш ケ IJ 7 云 0 皓 テ 酌 陰 服 遠 烷 w  $\exists$ IJ 5 ----獸 然 1 サ 1 11: ケ 3/ iv 3 かっ Ħ 比 Ŧ テ 1 世 术 17 75 云 雲井 -5-17: 拟 IJ 们 胶 成 12 iv X 誠 (TE 之以 汝 遠 饭 月 共 --腿 道 111 成 安 AUX. ヺ -1)--獸 從 1 來 5 " 73 乘 云 111 215 11: 7 フゴ Ŧ. 丰 ケ -IIII 龙 E, 付 小 111 1% w 伊 船 1 HU iv w 答。至此 チ E 付 寸; 也

歌

山かけや友を尋し跡 ふりて

後京極

只いにしへの雪の 夜の月

けや 花の雪ちる 木のまの月に誰を尋ん 明 0

山

山 かけの雪の さそはれし月にやぬると歸りこて 友とやきかんちとりなくなり 歸るさ船さして

宗祇

此等ニテ其古事ヲ木 船みえすなる雪の Щ トシテ付出 一かけ ス

句也

同

月雪に友をた つね D 都 73

都 y ノ 感也雪月花 = ダ グチ ヌ友ノ多心也地盤古 心敬 事ナ

橘 中仙

橘 IJ ンノ仙 ノ木ヲワリテミレ 花 12 ちはなのうちかほ 人へ商山 1 110 四 H ニ仙人基ウチテアリケ るかけ テ アリ ケ w ŀ ろ ŋ w ナ

古今 叉星

宗砌

明 門二五株柳 柳 ヲ ゥ 工 ケ w 間 五柳先生下云叉東籬

陶

淵

連

集夏

材

仙

人や基に生死をわするらん

日无」酒菊 下,悠然見;南山, ト云詩 ノ下ニトセントシテ 有ケル に此人

菊ヲウ

工

テ

酒ヲ

ノミテ

此花

ヲ

愛

シ

ケ

IJ

菊

東

ノ作

ナリ或時九月

九 離

ニ王弘ト云

ツ朗詠

=

王

弘 酒ヲ送ケリ其酒 ガ使八立。晩花前云 モ テ 丰 ス タル使白本男生タリ朗詠

花みつく人待ときは白妙の

袖 かとのみそおやまたれ

是 Æ IJ 伊勢物工 是等ノ本文ヲ以ョ 八此古 事ヲフ 語 = ヲ ~ ク ŋ ヱテ メ ケ 菊 リ惣菊ヲ浪雪月ナド jν 人。 ヲ白 ラ袖 「妙ノ袖 カ ŀ カ モ 3 ŀ n る ユ 3 二似 Ի メ w 3 × 歌 セ

メリ古今ニ

3 秋風の吹上にたてる白菊は 花 か あら

ぬか波のよする

かっ

千載 雪ならは籬 にの みはつもらしと

思ひとくにそ白菊の花

ニタトフルハ和漢トモニ同漢ニハ金ニ

モ

タ

ŀ

フ

久かたの雲の上にてみし菊は

天津星とそあやまたれ ¥2 3

五百三

~"

カ

ラ

ズ

只

N 朗 力 1 八浴 詠 云 = 111 秋 川 皆 雪浴 ŀ 云 菊 JI 也 廻 = 秋 疑 曉 1 廻 星 ブコ 河 漢轉 ŀ 굸 曉 如 天 ŀ 云, 河 ハ 轉 菊 盃

長 厉

長 中 仙 テ タ テ 天 ) 房 中 ヲ 地 術 术 ケ 此 天 好 地 好 1) 1) ツ ヺ デ 此 坤 仙 又 ボ ハ 才 當 外 竹 ヲ シ 公外 校 出 1 1 = 乾 7 テ ケ 逢 ツ 家 抻 葛 ク 1) テ 陂 ナ 其 仙 -V 飯時 ラ 霊 w ヺ 1 學プ ズ 云 Æ FI 是 仙 處 ŀ 仙 别 云 世 翁 也 公然 = 111 乾 界 ス 虚 ツ 竹 仙 加 = 忽此 枚ヲ 境 テ 中 ٥ در 界 非 費長 天 杖龍 地 長房 ル故 111 房 問 1 此 世 12 -号 = ナ ツ 壶 IJ 3/ 7 ボ

事 前 ブ ル ヲ ナ 句 w ナ 7 IJ 付 3 ガ 人 卒 サ 1 J° 0 世 ヲ 7 ŀ ŀ 棹 ナ 夢 は ス 3/ = 梭サ 光 ガ かっ 3 NI 1 陰 取 をなく 1 カ w と 0 卒 成 \_ V 1 衣 0 12 テ 1 長 Ħ + # は るまの 心 形 1. 也 房 P 0 5 光 梭 織 イ 112 ガ 陰 梭 竹 程 П 1 ٢ テ 1 云 杖 な H 111 卒 詩 人 手 n 1 = 耳 間 P ヺ 12 7 ナ 速 ダ 1) ۷ ١ 亡 1 坔 ナ ナ 1) N ホ 梭 1. 心 w チ 12 ---テ サ ٥, ヲ ナ 早 ナ 丰 ス ヲ 13

フ

N ナ

IJ

サ

ヲ

ナ

ガ

iv

灵

1

連

歌

シ

ス

ラ

バ

无

F 方 ナ

> 句 サ ナ 7 ナ iv グ iv 3/ 衣 -7 7 1 云 ル サ ナ 7 ラ ナ ٧, + ッ。 w iv 詗 7 ŀ 也 ッ ٧, 7

氷 先品

員

ŀ

Æ

氷 ナ 嶠 又 糸 ょ V 12 1 h ズ 1 長 東 云 7 衣 ク 坡 處 氷 36 旬 オ -W 氷 w \_ 1) 1: 云 ヲ ナ 1 6 氷 先出 = ス テ 少地 111 7 浦 水 カ 不 1) 一識寒 霜 1 0 \_\_ 氷 入 15 地址 1 ヲ 水 カ E  $\exists$ 不 r V 疑 不 \_ 烷 7 知暑 水 宗 北 六 祇 = 入 18 Zi 糸 12 1

Ŧi. 馬 渡

瀧

胩 東 云 龍 其內 Ti. 1 II. 謠 文 ٠, 文帝 帝  $\exists i$ 卽 1 兄 馬 位 渡 弟 E 江 也 ŀ 江 Fi. 扇 南 1) 1 -~位 1 1 化礼龍 繪 没落セ 原 --ナ ツ 1 1. 云 丰 1 -シ 经 處 イ /告 日 213 ۲ .∃3 \_ 11 1) 3/ 1) カ ナ ir. 兄 \_ . 7 馬 弟 1) 闸 11 位 1 Hi. [11] 人 テ ハ 文帝 ヲ 沒 ッ Hi 丰 111 給 馬 70 化. 1 3/

グ 丰

山 物 楚郎 Hi テ 始 順 九人成云 バブ温か は ヨ云 一升船 扫 0 = 4 也 嶺 岷 12 不 w より 江 ホ 回 = 撰 ١° P お 哥人 云 1 以涉 つる Jus ナ 弘 11: V Ili 1:00) 1. 始 谷詩云帳 # -E 岷 楚 H 1) 流 114 始 テ テ 1 鵤 泊 水 人 波

付。并 此 歌 ŀ 3 ナ ナ ラ川 jν 濫觴 毛 我 戀 3 ク Æ カ ナ ジ メ ル ٧, 歌 ソ ŀ ŀ 云 110 々連 カ IJ 歌 = テ 此 フ 心 カ

龍門

ŀ w 龍門ノ瀧本 = > 天神 ノ心 Æ カギラズ惣ジテ川魚ハ大小 ) 也 アル ッ ク 和 ŋ 州 ナ IJ رر 龍 其 ) 門 IJ ボ ス 7 IJ ン 唐龍 ヱ = 7 ツ 門 v w トモニノボ 魚 11 准テ地是龍門趁 龍 ١, ŀ ŧ 悉此 成 ŀ ル事ヲ イ 瀧 ヲノ ŋ 水∍尋 此 ボ 登ルヌ 瀧 ラ

行てみんのほるは遠きたつのかとかすみかくれにうをそやすらふ

ダ = ŀ ツノ門 リ成也 ŀ 和 州龍 門ノコ ŀ 也前二付 N = カノ 賢哉 、龍門

が三線

年九十五、三ノ樂也云々
ク女畢シ我為、男二樂也人生レテ有、不、見,, 襁褓, 吾祭啓期云天生,,萬物,其中人為、貴我為、人一樂也男尊

鳩杖

老人杖頭ニ鳩ノ頭ヲ刻テ用其心鳩ハ物不」噎鳥ナリ

連

集

良

材

用 老人 ユ ソレ 採 桑老 = ŀ 7 云事 ヤ カ IJ アリ樂ノ名 テ物 = 2 カ セ ジ ۲ ナ

ツ杖

桑ヲ

雨鳩

呼時に

逐卜云桃源

レ之答云我 上 谷ノ 晋太元年武陵卜云處 ナシトイへ 二人家アリ田 ニ行カ、 コヲ尋 流ヲ行 ユクニーノ山 リ又百歩 「リ桃源是也秦ヨリ晋マデ五百 ニ道ヲ失テ 地 7 世 亂ヲノガ IJ ノノ内 鷄 7 ノ人魚 桃林 リ山 大ア = ŀ 三少江 木 リ男女 1 ŀ シナシ v 丰 ラン テ シ 落英繽 7 ヲ ヌ = アリ舟 サ メ ` 7 ダ シ = = 1 餘 歲 舟ヲ アリ アき捨 來ョ 紛 ハ サ タ 也 ŋ 渔 IJ × サ テ 步 通 シ 問 行 處 水

, 萍

吠、花聲流

江

桃之浦ニ云ルコ

ノ心ナリ

フ ŀ 百詠萍詩 詞 佗 フ w D 縣 也 は 3 古 云 = 身を浮 今大伴黑 主三河 頻隨二旅客遊ご蘋 さそふ水 工 草の 出 タ あ 12 らは を絶 ジ 水流 掾 + 1 = 成 なん 云 東 t テ 西 下時 とそ思 IJ ス w ケ ヲ旅 小 V 町 18 ヺ Λ サ ヌ ソ

五百五

E

jį 14

サ ン ヲ 旅 10 ダ モ 旅 -Jr. フ 12 > 物 ŀ 云 也 心 我 ア人 担 ウ 丰 ク サ = ス F ^

昇仙橋

書付 橋 城 院百首橋題 1 云 な心 w 、柱 亦 行 1. 我 題曰 京仙 ケ 學文ヲトゲ 身 歌 w ガ 大 = = 不 丈夫 木 7 リ・馬引 ۴ 成復此 テ高 駟 ナ ク 馬 相为 思ノ如成 官 如 1 と橋 Ħ 都 ノ身ト成 ヲ渡ラジ = ヲ 不」乘復不」過 出サデ ケ テ 學文處 ル ŀ ŀ 駆 誓 馬 イ ラ 1 行, 高 橋 此 1) 正 柱 房 址 車 時 गिर् \_\_ 此

2 事 橋 0 は しらに 書 つけ 7

六 百 0 番歌合 人は位まし 寄い橋戀

昭

ij

h

我は 3 は 君 身 に逢すは渡 をうち橋 に書付 らしと 7 みん

定家 2 に出 難題 け 百首橋 h 1 0 疑 は

は

てそ

包

2

Ш

吹

0

花

此 疑 3 冬 歌 2 思,昔 僧 事 ヲモ F 相如 遍 昭 ハ 思事 デ 子 ゾ 7 ブ 匂 ヲ 良率 6 þ = 3 アニ宗真 出 × テ w 橋 也 疑 柱 = テ好 冬 = 書 ヲ 色弁 付 イ ケ IJ ナ ヌ 此 カ 1

> 色 IJ V 1 ケ ヲ 御 IJ 是 衣 ケ サ ヲ ヲ 引 帝 ゥ 3 力  $\exists$ 奉 ヅ 7 丰 7 P テ = テ 御 > 御 -返事 ノ中 \_ 7 后 IJ 1 11: -,= 5 子 7-ヲ 給 シ テ ヲ

III 2 きの 北色衣 n L p

物 御 以 テ 1-7 1 w 故 デ任 御 讀 送 來 勅 勘 ナ t \_\_ ---iv 出 此 時 7 ジ サ ナ 7 ŋ テ シ ケ 歌 7 御 ブ 御 門 7 7 卡 7 イ 書 御 IJ ヲ 18 3 家 子 貌 提 ガ 7 E 息 ヲ ヺ 1% \_\_ ١, こた 出 7 Æ 7 御 又 不 思 茶 氣 ス ŀ 3 給宗 し飯 性 色 ケ 4 3 1 末 111 IV 3 -1-IJ ナ 70 カ ľį 八 N. な IJ 7 ラ 1) ニテ 也 仁 3 ケ 17 ٠ د 彼近 明 ع إ गि 12 w 近世 天 1) 1 ŀ 皇 155 世 云 云 3 jį ン 才 テ 然 趣 御 サ ン 僧 7 3 V 7 和 後 ウ 1) 7 Œ

語

池 水 0) 0 0 かっ 1 3 草

行

助

菱花鏡ラ菱

花

r

云

茅茨

堯位 文 P 不則衣裳 ナ 6 1. ツキ ツ フ w ケ 事 給 5 文文 Ł テ ク Դ 12 11: 材 民 1 ナ 木 1 リ家 費 1 ナ サ 7 ٦٠ 7 ン イ Tr 18 ケ 1% 莞 ッ 1 ラ ٥, チ テ 午 ズ -)1 M ·fo 炎 置 木 ナ 不 君 111 前 孩 F. 1 丰 材 傳 -E IJ

繞

H 1 Æ 朋 星 一稀ヶ鳥 鳥 カ ラ 鵲 ス 南-木 也 木 飛 = 1 7 w 時 匝 = 何 三返木 . 枝\_ 依 ヲ ١ X 短 歌 ゕ゚ IJ 行 テ 鳥 艦 ŀ

鵲 Ш かっ 0 け は め < ĕ 3 加 ع 0 賀 茂 木 1 0 おり かっ は み 7 2

當

w

也

ラ ŋ 抹 雨 タ ,梅 面 晴 ク 兩 白 ッ ラ 相 7 運 。柳 シ V 宜 湖 云 ナ ŀ 110 15 付 西施 詩 雨 ン ١. w 西 湖 ナ ガ フ 1 名 リ タ w 1 只 雨 地 10 1 也 地 ガ゙ 丰 詩 岩 景 ホ ハ 把卖 7 西 也 7 施 西 三西 ホ 3 X 湖 w ガ 湖, 假 2 ゴ ヲ 比一西施 ŀ 粧 1 西 施 テ ク 3/ フ カ ス ŀ ス 云 ク w 云 美 ツ 淡 = 也 ナ 似 粧 ガ ス =

舟 L T 梅 ٤

0

ス

12

1=

ほ

2

73

h

西 日 Z 日 蓝 = は 四 ッ 湖 3 ウ ッッ 3 0 地 ウ ナ 水 景 海 3 > ١,\* ŀ 云 云 18 • 夕 ス サ 淳 雨 w 3 出 面 = 舟 白 ダ 丰 iv 句 = ハ 句 ナ 半 ス カ 躰 ラ 無骨 梅 宗 ŀ 伊 雨 ナ ŀ ŋ

H

ヲ

テ

ヲ

IJ

棟

樗

1

俗

也

梅廿

花四

矣雨

歲

記 10

云

凡

年

中

花

ŀ 時

w

IE 11 B 鷄 日 F ス H ヲ 狗 月 ヲ 猪 四 日 を 五. 耳

連

集

良

材

能 日 風 7 デ 吹 ヲ ヌ 六高 ヲ 脚 年 H 兆 1 ス ŀ 七 ス 鷄 日 ヲ 狗 人 猪 1 羊 4 日 1 馬 ス 人 日 1 云

ヲ

牛

日

馬

七

H

人

日

ŀ

ス

八

日

ヲ

榖

日

ŀ

云

テ

此

日

氣

也 天

人 . の 日 302 b け 72 È 0 多 は 8 哉

宗砌

葵

ガ 葵 テ 如 本 · 我 日 Æ カ ヲ 君 ク オ = ス ソ 頭 } w 也 ヲ ` 倾 花 百 テ 詠 也 朝 1 葉 詩 夕 ヲ 仕 = 日 葵 1 × 2 1 日 ク ŀ 云 カ w 詩 方 ゲ = 7 = ŋ カ カ 俊 ダ タ 成人 ブ ブ 歌 ク ケ

葵草 カコ け 12 な ひ < 心 あ n は

天 照 神 3 哀 かっ < ħ

葵 ヲ ヲ 7 如 IJ 神 7 うょ ザ ク テ 奏りモ 日 足 葵 ケ シ = 介質能 傾 12 テ ヲ 詞 用 刖 ク V 衞 3 如 也 i :其足 ク ス 11 給フ 葵 我 w ラ æ 故 云 始番 神 ۱۷ = 棟花 ン オ な心 无 ŀ 花信 ŀ 終風 ŀ 굸 難 V ハ ŀ 也 其 二心 鮑 ŋ 左 比 莊 葵 傳 鮑莊 ヲ ハ 足 傾 云 以 = 罪 鮑 7 用 葉 莊 ヲ w ιĽ 共 ナ ヲ 智 天 ナ E ス 事 照 1 不

風 78 風 四 番 2 12 吹 也 7 梅 包 吹 2 あ ン Š X テ to 棟 哉 = 7

宗 祇

良 材

, 隣笛

文選思舊賦隣人吹い笛其聲寥亮タリト か し見し庭は淺茅に成にけ 隣の笛の聲はかりして 云

生ノ宿ニ三ノミチ 者貧家ニテ三徑アリ淵明ガ家ニモ 蔣 也其三八門 翊三徑三道 貧家 ^ 行 アリ 道 也 井 イ Դ カ 云 行 ナル貧家 道 12 東司 三徑アリ源氏 = 行 モ三 道 也 徑 蔣翊 ハア = 1 w 蓬 云 Æ

蘇城

外寒山寺、夜华鐘聲到二客船

楓橋夜泊

月落烏啼霜滿、天、江楓漁火對」愁眠、枯

〇三月晦日

三月正當三十日、風光別、我苦哈身、與

」君今夜不」須、睡、末」到,晓鐘, 猶是春

連 材終

ふ御心さがな 失に 此 めの 煩ひてむ だならず べてに てうせ まさり め るをや 之り てさまべ n 頃の左大臣 り北 l となる物 御 は か 身 n n ば ば あらざりけるを御覽じは 成 しが 方 かっ つましく 0 ば 哀 にける なくぞお き御身なれ は n ざえなども せん 0 げ は ば御 ٤ そこに n むすめ心ざまなどゆゑ有て見 家に ï 聞 事 0 め i 3 ょ を此 門もいみ ij たなめ だ も音信 は 行隱 B 0 お 3 通 b しけ 女君 どい は關 給 H ぼ べ ž 0 か な 所 四 72 3 32 T n る宰相 じく ばす n 白 か 忍びて渡りなどし給 にけれ き人に といたう物ゑ 0 こく いと心づきなき事 などもなく へ忍ぶべくもあ 宮に て心 殿 0 べ 西 お 何 0 ど殿 苦 な 御 T なたずや有 0) もき物に き方なく 0) 事 京 ورو 弟にこそお 西 君とて兵衞 L 8 をも 0 0 親 お き事さ 兄 御心 京 達 h は 0 思 5 じを と云 す 殿 か おどろ to 3 ざざし なし め n 打 n 1= it 7) 御 所 ひけ し給 は 續 12 お ق \$ 督 ば 聞 は 覽 深 思 ぼ 1 专

な

12

न्ट्रे

H は 絕 中に 守 かっ 3 か < B T も心み給 あぢきなきわ きなさ くの な 世 世 カゞ んなど思ひ飢 h にも出 カゞ 語 ずら の憂よりは は又しる人 女 b 0) む心や n み あ 憂 明 T h 物 は は 此 一時 立 て有け し給い かしとてか などし す L せ 宰 0 は D いざな<sup>\*</sup> 音 E 隱 か 72 る 相 我 裏の と思 をの 3 は b, な 0) 家 3 もなく昔なが n 身 君 B いは n め もやと韓 から n 弘 どくまるもは ~ n あ ひ立 は 折 か の常 ば何 しも < とな \ るかな つをなきになし ばまさり そを頼 なきて過 る憂 崽 ける ひ創 陸 か 3 扫 0 身に る世 中 物思 1 らの より ぼ へい て道 て憂目 る k か b 3 か 4 ひ 栖 程 界にて トに ざなひけ < 0 12 お T どる 12 果 も跡 殿 あ 1 なじ雲井なら n は 姉 ても宮こに跡 8 0 な ば 3 きまづ 絕 ~ 莧 づ な b 中 3 か b かっ < るべ まむ をさ įΞ と嬉 か n か n 3 1= 72 ば 3 結 B یح 成 とを ひら たづ しく ~ び カコ げ 都 常 \$ め 0 陸

Ň.

à

40

岩 清 水 物 語 Ŀ

> 3 お

まも

いときら

今より

お 二位

よす

Vi

世 將

0

かっ

12

Ò ١Ľ

てニ

人

な

彭 お か

物 ぼ <

し給

け

る

兄 限 け

君

は

7

御

3

覺

Ū

てと

幸ね

ñ ģ

12

どすべ

7

行方 れず哀

8

ĥ

ず

成

ならねばく

だりに

お

اع

は

人し

な

3

物

12

けれ

ば

歎

八~事 5 け

りなし女宮の腹

は

君

かり せら なき 殊に 12 は とり Ł け 1 h 1 智 東 奉 Ł す 7 3 8 7 成 1 印 腹 12 高 1 で te 唐 姬 32 御 2 b T 土 君 H カコ < 13 12 12 け ば カコ 0 お な な よう え 32 殊 b T \$2 0 殿 to 出 Ш ど付け は \$2 ちう 3 大 ば か 母 け 63 來 給 Š 口 3 かっ 7 1= ば T 8 賢こき は 32 御 給 \$2 3 1= 君 其 物 17 物 H 子 43-つく かっ 15 63 10 お T 奉 づから 次 Ė Ł 思 L 13 0 b 0 Ł あ D 御 3 3 給 3 人 右 給 御 机 4 2 b L 12 カコ b 給 開 2 5 兄 5 初 ( ば たこ 衙 2 空 合 人 0 tz j えん 14 太 136 ~ は 能 ち 古 此 rj ~ 0 いとさう 君 ち カニ まだ É b 給 松 は 物 郎 6 ろ L 知 世 13 け ます な 3 は H から 12 78 其 君 L 事 7= ~ 自 0) 1 しき < と成 人とも b 次 大 3 0 光 3 殿 上 から かっ 3 1. 2 P 萬 亚 は 將 大 دم さかか ~~ カジ げ < 妮 カコ 物 うな i 渡 にて 君 と衰 思 姬 給 1 物 南 君 1: 位 に。思ひ 男二 君 13 2 見 U カコ T 6 13 12 右 當 行 3 御 ~: け 33 とけ L お n b 男 人 女 马 13 大 代 及 3 耳 T げ づ か 末 D CK 20 15 13 臣 知 女 1 1-10 聞 な 心 1 寸 后 え ち 3 給 は 考 30 12 E 3 殿 人 づ お 3 ري 生 君 73 B 36 は 32 3 給 程 かか け 御 0 1= か 33

3

名残に

دېد

又さまん

心

3,

かっ

げ

70

3

II.

きの

弘

ō

^

力 げ 10 26 然 け 12 王 此 38 かっ 12 あ 8a お 3 け 0 3 1 き契 130 3 یلح 0 80 12 Ł 7 を尋 77 b 3 ~ W 力言 ぼ 3 萬近 35 13 け け T かっ ~: 37 L 0 るべ こそは E \\ \. き民 筋 共 12 御 73 け 12 かっ 申 ち き流 3. 0 3 分 1-3 C 末 け to 我 きまでう 1-さまに 3 な 計 2 見 0 3 It 腹 は か か 0 12 元 12 < < 2 カラ との 1= ぼ 3 3 \$2 h 南 本 物 かっ け 1: 36 C 3 T U Ł るまひ えず 8 17 やどる ひ 13 h b 73 78 け 有 あ 根 給 13 i) T かっ 0 て・限な ざし 红 3/4 75 シがけ < やい 5 む 行 大 成 か 2 ち をし 11 な 有 た國 程 成 3 方 0 3 ~: 1= 0 13 1= it 13 8 < 专 C 1-1 亂 1j 1,7 < IT 帝 かなく 此 3 かっ T とて きるざ 我 0 12 T 1) ょ ^ 刑 -5--5-门 12 1: は 1 1 姬 1 0 かっ 0 5 1) 1-男 15 3 矢 かっ 御 3 乳 3 < 君 1 1 2 FX 13 有 あ 萬忘 3 3 49 E 3 筋 か 3 弘 成 0 49 福 0 과 水 3 き方 T お 0 け 3 专 水 Ξi. か 6 を思 3 ぼ 10 3. 0) 弘 1 人 U) 73 < 邨 b わ h ざむ つば 身を U 果 T え 1 0 な 12 お \$2 [11] ナニ カド かっ 13 2 135 は な 7. 水 T U づ 力; b 13 かっ 3 是 歎 < 11. かっ 4 成 カコ ま 6 か け かっ かっ () は 33 は 1) 7 定 (1) か 12 b 親 け b 流 It 口 20 6 3

たり 濫 ぎ給ひは も 72 く侍 か 世 0) は左大臣殿 らず東宮は 御さま也とり る帝 ぎりなく ふ侍 U. 左大臣殿 御事 7 b めぐらし 10 して道 ぼ らひ より 從 ふ七月七日 あたら 0) 殿 忝 と聞 た 者君 T 12 てうけ て朧氣 0 おは 12 て御 0 奉 W 若ぎみ十一に成給 しき御さまなるをた て少將 にそ 太 まだをさなく D E b 朝 おとし 0 御 げ 郎 t 夕の [11] ع せむはほい の人見えにくげなるけ 中に T 星合御覽せらるく き聞え給薬 君 かっ とぞ聞ゆ じく元服して是もかぎり 5 10 H 3 きとり にてきしろ おとら あげまさり め い 萬 Ł あ 將ならでは じき世 で か b か が なみに tz なか る中 < 給 おは n n < Ø 御 月 光に 0 て元服 ~ 0 < ば が給 72 事 ば る L い今は中宮すきまな Ó 5 のうつくし は 2 此御事 誰 べ 姬君 Ë る事 ませば口 うそく 生出 お 0 か 5 つい 5 ぼ 物し し給 6 とよき H ~ か んは さ御 なく 3 ň あら は しきぞし給 でに 3 ٧٤ 給 て殿 30 をぞし S 事 今の をし と盛 とぞ急が \$2 F め h 事 今二つば なき人 ぼ Z を Ŀ ば手 に と誰 ٤ Ŀ K 7 よそ 世 20 B 1 倪 け い 2 た 御 78 2 ぼ 南 調 カコ 給 0) 12 U 3 は 7

づくし 給笛 し給 ごん 仕 八 かっ 7 どりに をめでぬ人なくぞあ もやとゆ W ともなく 將ひちりき藏人の少將 見え給事ども始りて二位の中將 二人引具して参り かっ つくしく あそび か 月 りにうつくしうお ^ め なるよの の音の など中宮 ふうへ ょ 1-右 りまだ 定 0 か は 成 0 有 面白 おと t て若 8 て我門 も殊に きに春 奉 32 爺 は L 物よりことに雲の上までも けしき也左 ば殿 えし た b 0) 0 くぞ聞ゆ き物の音ども更行ま 10 君 る山 給 御 0 達 謳ひ給へるすぐ 字 給 ă 怒 0 もてはやさせ給 殘 0 5 はすれ b 姬 口 少將 ひ らけ 相 物 b 3 h i 10 也 所 君 あ 3 0 さうの笛 K 1 大殿 事果て皆まか 此 しく あ 秋 3 將 おとらずかぎりなくつくし 0 御方 君だ 5 御 3 ば御心ざし淺からず 0 さうの琴兵部 參 くきけ 侍從 は 3 の侍從 b あざや いそぎ しの ちふ 一殿の 心 R n び 給 はる 0 7 しきに ع もとなげ て折 1 左 程 かぎり 女房 面自 少將橫 72 0 か 0 で給 H らりの 耳と 君聲 浴 B 1= など思ひやる お ħ て御手 奉 打 7 ٤ ८५ < 0 卿 h ひよ 御耳 さか 2 は ば 笛 宮 のか なく量下 2 b 御 いむる 10 か てとり 多 h 5 0 દુ 誰 z 源 b to る心 驚 かっ わ てる 2 < とう 12 わ T カコ

哀に うつ 給衞 み隔 おとな 0 12 せ けなく は Ł ひた 將 中 5 となく 3 る中に生 奉り カコ なき事を歎 は 0 30 納 嬉 < 15 な 門 おぼ b 親 2 なく悦 3 御 0 T ئل 成 たは げに 明し Ł す 出 L 姬 Š あ 督 n T 心 お 支 給 君 1 1/3 3 Ā ぼ 0 カジ 老 きけ ばか 暮 b は 將 納 3 カ: 中 T h 0 び な 1 なが 12 T に成 との 物 おと 言 事 かっ 12 1= お L まし 給 ٦٠٠ 歎 3 奉 3 思ひ < かっ Ł h 0 かっ 0) 72 b なび 何 心 け給 b らめざましとぞ思 け ~: あ かっ / てさら 2 3 12 2 10 やし 此 聞 3 Lb 司 御 な 給 しとも覺えず今さりとも 事 30 年 L 0 いならぬ 3 腹 W 1 Ī 난 給 秋 2 召 ぼ 月 1D T 3 つけ 給ま 左 有 男子をまうけ れどさりとて又都 カコ £ 82 0) んなど頼過すに お 0 にはあらで 所に ばえ 渡 積 33 人 君 0) T 離 5 殿 事 ても有 1 R は 3 1 1 おとい \$2 3 も脱 (= 過し どい 給 L 10 F 3 1 0 御 將 大 12 折 0 もうまれ 72 かっ の二位 將 け ž かっ 給 カジ 身 Ł び 3: ひ 1 な 1 T. た く 3 ~ な 内 せ 3 72 ょ 0) ども有 S C h h 3 が E ひ 有さ 大 3 Ł b 72 な 殿 け 所 出 方 春 0 臣 A ば 12 な づ め か こまを も及 なく 中 < は 成 つひ け ち 0) 72 75 け 0) H n 將 成 け 子 ぼ 72 h b 炒 0 à) C

ど見 思ふ は ょ は S かっ て是  $\langle$ L 12 カジ 1 3 5 しまの て心ばえなども なご Ĺ 給 為 るまし V < 悅 物 ひもつげむと思 してぞそだて る人を持たら め つとさ 10 けりり 程に成 拾 びた まじきをまし ば なく B à カコ ていとをし へなど語らひてい わ なる二 あ カジ b 君 n 鹿嶋 ては Ĺ 72 ٦ 7 T くそい などの と付 るをか 0 37 かっ お 迄見せ給は 5 b 物 7 E は な ぼ 2 は な ける 2 かっ きわ 3 け は 7 j h ろ 2 n あ 云 にい づ 呼 所 H かっ も思 T にだ b n h ひ 3 なき程をば隱 ざな T か b 0 ば 事 ~ H 5 1= n ざり Z 3 此 ば け 0 1 子 B な 1 L きならね とをし ふやう かっ 一个 女房 よし む跡 憚 げ 子 此 \$2 みやとる者 カコ n で かっ 10 け ば ば ば りて よ 子 呼 0) かっ 只我 に嬉 只我 きさまし 11 も能 もとよりあ と涙 かっ 3 出 もなく つぐべ あ h 程 思 ば け は b 今まで L 3 12 なら 過 子の たさ 子 U 任. 思 1/3 ぎやうづきて こそと しく覺えて 12 き者 しつれ ば 垫 の習 カコ k V ひ F 別 やうに か け 72 つき お 心 h か お てな は 恨 op L ぼ ず j り常陸 ば ひとし なくて えざり الح الم げに H て我 ちご 7 L か 時 3 T 見えて な 1) かっ ō 衰に to つを 見 12 T 人 12 T かっ 0 j る 通 思 かっ 12 1)

とて ば 思ひ カジ B て珍 より にし よく か 思 0 0 づまを歩み給ふに源少將も行あひてかれも 五 ふ御女東宮に奉らんとおぼ きょうなるちごの様な き事 7 御 3 ٤ š べたうのたうとき人に Ĺ 對面 て佛神 事仄 亂 Ħ. 心 みてぞ 男に かっ あ ひより き空の 日 なきに に思ひて今少も よひて n 五月 渡 しそめてければ見るめの なさで御弟子に奉ら 72 弘 め んをとまもられ ば り給 12 か 3 お て鎌倉 あら 1 陸 光な 雨 も近づ さばもろともに しもあら ばえけ 給 ふ人 言どもい つねよ カジ るに内 と云所に若 3 ばげに け奉らんとせめての 2 R b あ かっ n ~ ねど此折節 おとなび給 ひか も晴 給 よりまかで給とて渡殿 n ζ ておはし ばゆくし くも見え ならべ ど聞入給 しまうけてこなた て兵部卿宮 ど宮仕 はし とて h 宮とて まなきに とい 打ぐし て見 給 めでた は けるを語らひ < D にもけ おは 物 ほ てい はず い渡 ひ あやしきまでに け に 4 稀 かっ h 秋 かし Û もうとの君 しきばみ給 きにい \$2 しますそこ いたはしさ らさま殊 Z は 給 12 Н の中 奉り ばい かっ いづる 影待 b か < રું づ と心 と嬉 道 てし ななた き給 お 見 0 將 ぼ す 1 3 東 え

> じて 3 にか 侍てなどあ 許 褂 姬 程なるに文とり みごもりは苦 h たにこめ お のみもてさわがる そとの給へばし などの目馴ぬさまなるを 思ひつく岩垣 此 3 なる御たけに一尺ば 君 ごりもこよなげなり披 1 文有 返 御顔移ひて裏撫子 いと見所有て あらんく 給て御ぐし り事 心 かしうらうたげにそびや る中 は 1= だり まろ聞えんとて宮ぞ書給 しうとあ 似 沼に袖濡 出 な は色なる かっ 12 る文は 4 も書 12 る なるをかくる心 n 根 しからんきはの 0 72 ば か b は の文とて打置 姬君 て曳る菖蒲 綾 け る哉 短 りやあまり 方によりてこまや かっ 白き薄様に 1 n な かなる のえならぬ き菖蒲 カジ あまりまめ は 0) 御方 6 b づく かっ 御 3 n のねのみ泣るく たら まに 前 有け 給 なるさまし給 しるべな好 ちひさく け に青 へる 宮 に置 より 2 お 12 3 るをと御心 だちた 朽葉 取て御覽 0 は る書ざま カコ 求 と見ゆ n 72 あ します め ると 3 n カコ 0) 72 あ 和

殿 ほ ぬまことにけふ 中 T 12 やは 將 あ B どみ 御 せ n め っづか のとの宰相 は お どろか ひくなるあやめ 5 0 なら すもとあ 0 君が文の中に ねばすさまじ 草 b 少將 なへ 7 か 0 B 0 h 袖 け か 3 h B

岩清水物語上

72

ば言ずくなにてはなれ

給

n

其

公喜

には少將

F. 思 中 て心 Z せ B 3 かっ 8 1= n ろ は 0 Z. h 思 カジ かっ 小 3 め カコ 聞 今 ば す Ł 3 かっ L め い 0 2 此 毎 T 今 73 心 A か め ょ かっ ٤ え 御 とまる あ づ 赤 < 3 b お カジ 12 h 袖 は か n か カコ 頂質 秋 h 多 は なし ば 猶 折 3 h h h 八 Vt 麗 0 0 0 b 事 給 L 聞 君 御 秋 12 カコ K 2 景 女 き物 朧 過 我 3 心 0 め あ きを 殿 御 0 あ は 達 n 色なる せら きて 6 氣 111 L કુ よ H n 0 身 1" 3 なれば ば御 なら 將 4. 此 にし 7 0 世 12 3 女御 か る きるろ 0 は 人 カコ 方にす 南 0 き御うし あ ぎり 門 h 3 L 3 12 奉らせ給け 1 て うそく あ 50 かっ と聞 誰 わ 何 け 3 B 3 づ h 0 人 n 8 75 どさ P 御 4 な あ カコ 折 か 0 72 12 < 1 えし < らども うろみ 3 は きょり 女成 御 きざ 片 h 3 い Ł かっ カコ to T 賴 ひ かっ 5 2 0 お わ お 御 L げ ば は は 包 なども 3 な とも た h 力 B ぼ 今 つけ かず 腹 づ す カジ h る心 3 U 13 3 は か 12 É 多 まし 御 0 など をも 給 3 n It n 物 h 何 1 3 聞え 事 なく 母 女二 づら ば بح 所 け げ づ 12 ^ ば き筋 15 盛 見 3 な 方 かっ かっ 見 < 75 0 5 宮を 3 得 な 0 集 は ち 2 花 W 3 T カコ も 御 0 お 花 程 Š す 3 な 戀 B 3 45 也 3 8 18

大 え 御 也 T B 3 Ŀ 10 人 お け 0 け かっ 110 あ 1L 害 -女 畤 30 御 ま 0 き事 ナこ 0 お 15 かっ 0 か M) は ぼ 御 b づ 5 ち 殿 君 8 7 F b 3 地 か なはう 何 す 3 げ 達 Ž 心 13 寸 カラ 0 あ 8 112 給 \$ カジ 御 21 b あ 給 あ 0 72 12 5 馴 は め b うるが Ł 3 B 年 ば 給 3 7 せ らやまし 3 12 カコ 1 かっ づ 35 は ば 若く 3 け 放 < 悅 を E 1) 3 取 か ば す 鄉 0 お 母 年 づ 3 るさまこと 娟 づ h 6 CK 耻 前 12 ~ 7 Hi. 大 3 月 15 3 17 12 1 カコ 12 かっ 御 1-1 聞えば 納 7 1 Щ どの大 3. b 3 包 折 Te 1) カコ 2 御 12 11 やうに 御 1 | 1 < 物 わ 8 0 心 1" 給 まり 女 安 打 3 は 方 ち 1 宫 ^ 有 可太 かっ T は 3 亂 から 1) B 13 給 は てう お こと T 3 ~ 内に ち 111 12 37 東 2. L ぼ L П お h あ あ お 1 47 包 は 幸 136 ぼ 1-か 里 7 0 か 也 b 6 学 3 給 す 0 义 ば 3 13 3 12 か 12 南 12 h 心 愁 兄 1= 10 30 女 人 te 3 0 i, ~ 14 h かっ なき 住 御 は 御 3 弟 1) [ii] 御 T 30 お 18 82 す は E 見 13 490 4 11 ほ 1 1 御 御 \$2 X.I. 秋 む トラン 男に 水 給 2 か あ 木 殿 3. 兄 h 1, 6 (6 7 3. は 0 給 4 やう T 1: 君 1= は 12 T U か 御 は な 0 1 n 0 也 かう

侍ら 御為 なき なか O よりとほりてやをら見給 **人しく御碁こそ打せ給** の妻戶のか と申給ひ 嬉しき事にも侍る哉 き事も打語らひて過す習ひなるをさる事なくてたが ておはせ女はらか しも見奉らぬはくるしうとて涙をかけてさらぬ 御方へ参り給へればいづくより物し給へる ぞし て御かた h 0 怒り 中將 御心 聊 御い らん -なる穴の なし見ゆべき所やあ も口をしきを同 たる中納 の君 てやがてそなたざまに立より給ひてわた殿 程はめがれなくと聞え給ふつひでにおぼえ もうとの出來たるむつまじく 思ひかは り給 かひに女房童下人などめやすき程なるをえ くれに は ある嬉しくて見給 か へば 言 ならんとゆかしき心そひけり母宮 くることあれば心つくろひせられ 0 しばし立聞給侍らへば若き聲 らとい 御女ならんに もおとるま じう見 君 一殿の君達のうらやましく侍るに じ事とおぼせなどの はね とりて参る といふ若人の聲 ふ物あるこそ憂ふしも ると求 へば中障子は立て爰もとは などいへば大宮の め給 へば几帳も押やられ おとすやが へば引手の にて参り 給へばい T 御 心見 方よ 1 別の 妻戶 嬉 7 ٤ ば

覺えぬ にと くはづかし か に見え給 かっ が人や見付んと空恐しくて立のき給ひて今おはする カコ て碁も打さしさまよひたる几帳引直 やうにて打こわづくり給へば驚きたるけしきどもに はこのもしともいひつべけれど袖に包まんとまでは ながら見えて黑きには 打たるを著給へり引あはせしどけなくむねのほどさ らず花やかに打笑ひなどして紅葉のこきひとへ どひてけんぞし物いひなどすれば君もつくましげな しもけしうはあらず見ゆけ近きかぎりの人々さし らうたき所をあら せばやと 見ゆ 髪のかくれ ひたひ少はれ ていとよく見ゆ たじけなくやと聞ゆれば何かは 10 出たればあざやかなるなほしに織物の指貫 から おほきやか 著なし めら も心安げなりつく ふには n げなるに基打 てあた たる心地すきよげ也と見えながら今少 奉らぬ吉野川 廿ばかりにやあらんと見えてほこり お なる人 りも所せきまで匂ひ多 ぼろげなら 0 白 つる べと見る てけざやかに白 なれば淺き瀨にのみ成侍 く心地よげなるさまし ん人は わた さしむか しなどして褥さ たま るとばかり 君 みすの < < へるもさ 物 見ゆる程 る程 J たをや 紅の にく 前 り殊

ら人 さり みじ さす き方に べきわざなるを かっ h て浅せ 給 3 3 3 くらうな は E Si かっ 年立 方に 0) 3 給 幕にけれどい 7 げなら くうらめしきもの給 白浪 見 B ひげせられ侍るをひとしからんのみぞか もなどざ す 3 か をむらにうとくしくもてなさせ給 はでまめやかには替らねいもせとの 品 心 h 出 13 12 か は御 ども 安きよ ば又もとて立給 ずお ち 思 h 此 B かな 有 心 42 ふやうなる たどなるやうにの は 12 心 か B 未 0 Æ 1 今だ 詫 0 3 る君 名高 へ見 どかにも といえんなる黄昏 づか ひ隠し 72 司 非 ~: 3 1: F 1= をけ らにや侍らん 0 集るに心とまる めしに兄の < 水は 聞え給 世 わ お Q¥ もなどか へば爰に思ひ聞ゆ 給ふに あら 13 92 かうどに ぼ るさせ給 しうは 我 かっ か 0 御 た たきわ ねば心をとりせ 3 御いらへなど 給 宮 方 中納言 なく ねて 12 あらず聞 へばさまで におはして打 1= 7 今よりこそは ば は ばか 近や 聞え は心ときめ ち ざ成 短 でやとて 思ひ續け きル 左大將 え h け 孙 かっ カコ る様はま 3. かっ T 0 b な 賴 1= は 帳 つく は 聞え すに 引 1 5 か 見 5 7 艺 居 引 休 奉 成 12 37 ば は 3 有 15 13 隔 かっ

安

<

変か

しこ 給

のぞきあ

h

き給

へばし

h

酸 有

0)

14

しとおぼして遺水の流の

系有て吳竹植

渡して

卯花咲

見

むと

0

7

馬

より

おりて入給

へど人

方遠

<

T

第 5 僧 6 給 12 ٦, < 1-て行先も見えず絶 3 1= ~: 大臣は人 1-O T く常盤 おは 正と ばさ 彌 き草の原 L 大 D J. なら が歸り給ふ道 おも白 Da のまくに 臣 L わ 生の づまり 13 する 聞ゆ 將 T お 12 h き梢ば L らの 初 は は E 木など 内 B 學文 御 3 3 成 12 年 4 2 ず 方三位 位 者 人 すい 積 0 供 なきまくに に木幡 に尋 數多 3 普の ぼり なり か など習は り盛 と右 かっ け り見やら 者 12 とたうとく 見ゆ 0 事 給 3 1 n 1-なるに 過 給 1= 問 と云 1/1 志 渡 れば るまでに 3 1, わ ~ たり 給 將 h 1 1 h かっ 3 は 6 る中に 一所を け 殿 放 3 つい とて二二 U 世世 などし 0 ^ 0 は慥 兵衛 なく 1 て守 母 な 人 1 はあら 過給 宫 なく 1= 八 75 1 1 0 成 かっ 治 將 にし 御 Ti 0 b T 時 督 所 T 行 さら 櫻 ふに H 御 4 めとまり 12 を 12 0 0 お ほ 位。 ざり 住 領 b 崩 3 せうと 3 御 人 0 むろ 1 3 党 侍 C 12 13 tu H 5 13 n 0) 際復 It 3 ぜら 1 1 2 積 さまん 3 3 君 FIX C 將 Ł T りに 注 1 所 书 木 は 12 と問 申 4 < N. 渡 1 3 開 所 V V h V (1)

出 面白く うつく かっ びぞめ 嬉しくて猶能隱れて見給へば人多からで五十ばかり 獨立て聞給へば有つる童の聲にて花こそ今朝は盛に やと思ひつるに 散ざりけるは とてゑみた るけしき つ三つやたらざらんと見えたるが櫻のほそなが あらはに にやあらんと見ゆる尼のよしづきてきよげなる少し ばおとなしき壁のよしづきたるにげにこなたは人見 の中びたるさまならずいとめやすしたて<br />
蔀の許に只 ある方へさし出てさばかり吹つる夜の風に残りなく おとりて淺ましきまで守られ給ふにまづ御智は るまじきを風より先に御覧せよとてみすをあぐれ いやく 「させ給て御覽ぜよ見る人も侍らじとそくのかせば りて世 の小褂著てやうだいかしらつきより始てめも しき事限りなしさきみだれたる花の匂ひもけ たはしをよぶべきこそなか ばかりあなめでたの人やと見えてらうたく もやとてゐざり 出たる 人を見れば 廿に二 此すをあげて 御覧せよかし くる人もある事 にこそ有けれ りけれ何ばか とい Š こんら にる ふた なれ h ば

さき童の

き垣根

)をかしげ なる山吹の 袙に二藍の 衫著で花など山里めきたり格子二枚計揚たるにちひ

は とも心をとりすべき心地せず人しげきけしきもなき はおといしの比うせさせ給 よりたるに

実にはいかなる人の

住給ふぞと

問 どおぼす程に 犬の走出て 高やかにほえ 出たるに またしてこなたざまへ出れば見や付られむとおぼ かっ り更にさばかりのきはともおぼえずめも及ばずけ ひ續け、れば寔にゐ中人といひつるはたがはざりけ るが男は國にとまりて姫君 ば娘やおはするとの給へばしか侍り御子二人おはす 故常陸のかうの殿のごけ御前のおはするにかうの殿 給ふ打招き給へば覺えなく思へるけしきながら 佛堂の方ざまにあゆみよりてすのこにしりかけて詠 ながらさばれ見けんとしられていひよる便りに の人ならんとつく~と守り給ふに若き女房の いふ物にて庭を清むるありあれともの宮つこやと見 おはする に年七十計 なる翁の頭 てみす打おろしつあかず覺えて出べき心地もせず持 み深きを聊やりて くよしありつるさまはいかなるあまの子成と聞 やすくて御め 0 とごの治部の大夫に硯召て懐紙 は てのち发に住給ふと 是に の雪白きが なむと残 りなく 箒木と もな ば 驚

8/ とら 聞 3 入 12 T O ち 朝 12 す は T 淺 かっ ٠٠ع 12 ほ を見 弘 ば 0 誰 かっ 10 かっ ع 人 1= は 0 b 0 書 何 花 L 給 給 參 L -0) T 1-6 ٤, 有 12 色 よし 南 3 난 0 見 あ H 也 給 12 3 n 3 10 0 12 翁 は 6 B 御 ひて文 Ł 10 1-心 返 h 太 力 是 空 覺 1|1 h 12 姬 な え 収 た との 君 ~ る 7: きょと 出 かっ 0 春 6 37 た 給 御 0 \$2 3 程 方 旅 h ば ば 8 1 かっ 人 B 持 L あ 63 Ł 7 あ < T 63 7

にく 3 有 心 地 47 末 7 h 2 け は 朝 1-宮の る哉 て珍 などこと しく ま かっ ば白 12 立 b 今より 御 8 きつことも あら 歎 7 方 い 覺 かっ らざら 俤 りことそぎ 整り ず かっ 12 な < 0) た け 終 < きまし 4. h 1: 2 何 心 かっ 思 覺えて ^ かっ 0 n 1= 12 見 12 < 0 かっ ば 離 亂 12 え 事 媚 ば Ł 君 とて ど手 れず 世  $\equiv$ かっ わ 12 ど語 3 給 は かっ 1 な 覺 は る 出 日 ~ か h 500 る 4 10 給 h 0 63 霞 雷 隔 TP 思 隔 給 殿 かっ n 10 陸 見 U 道 B. 3 3. 1= 0 大 久し から 付 0 す づ 3 お 3 外 37 は 女 臣 15 7 から 花 老心 5 7 3 む かっ 0 は 心 あ ž 木 Ł

> 將 す しう 僧 1 12 誦 とく は 思 0) T かっ かっ 俤 て物 しこ 0 召 E 御 はず 暮 U 4 1 經 は 亂 3 か ろ 心 御 3 1 1: 12 身 きるり は 事 7. L 給とて 筲 を 加 75 Ł 地 祈 まし J. す 持 とき 4 げに 過 給 B 離 あ 0 h 花 < 3 3 30 30 25 n 何 2 #2 狮文や ば 參 H 到 す) る < 4 T 人 程 1 b 御覽 詠 給 起 松 た 0 しきに 12 1= 総 0 3 1) 3 唐 と立ち 引: め か 臥 あ をの C ど意 营 h 5 0) ひ 煩 た さまご 5 わ 臽 (" 聞 6 0 2 3 0 7 h 猶 紙 2 え給 1 1 12 U 給 1 御 It 尼 わ 3 13 ぎて L 小 T 4 見え 1-2 旗 立, 君 0 か え 給 3 物恠 かっかい 3, B な 誰 13 な 3 1 な F 御 B 些 つる 家 3 2 かい 0 聊 しこ 6 6 將 1: 俄 開 -f-か T 人 35 7 ち H 12 次 E ぼ 見 1 h n は 0 は 3 て見え 12 4 なると 人 ^ 0 水 などさま け 物 隙 6 8 ري 3 b 10 H 忌 野す 3 1= 12 [1] 帝 1 わ か 給 ーナー げ 6 3 文 C 台 30 ば 心 給 成 7 T か 11: É 大 82 御 10

\$2

き薬

P

うに

à)

36

はすれ こくろ空にとあ ならねばとい て文とて取 花 W ゑに ば只 戀し 个愷 出 らふ 12 3 b 12 n より 人 阴 ば 0 ばむげ カコ 面 侍 12 < 影 3 0 10 を誘 に行 Ł すとも 給 は 40 衞 誰 3 S 今隱 12 と聞 隨 5 t 身 h でうきた tr O か しこ は 3 0 不 2 人 ~ 2 3 W 3 21: 問 武 3

P

カコ

語

h

申

給 3

T

我

御

方

12

は 0

T

打休

ても有

つる

12

1

お

寸

な

n

ば

法

文 お

次第

0

さまなどこま

さし

はなたざりけりひたちには

へ給

は 5

など思ふ

કુ

か

なしく

て此音信給

ふ人を

3

世

に打

捨

奉りなばい

か

なるさまにてさす

童にてしば

L

著宮のベ

たうの許

に置て學文などせさ かしまといひし子は 奉り

てん

たら御身をか

へる身

一つをたのみてける

きやうに

聞

なして懇な

る心ざしならばゆ

るしもし

はさむ程にさるべ らと聞にさりとも

むげなる人にはあらじかくいひか

いぶ

せけれ

どけしきことなる人

カジ

ぼされたり木幡に

は

かく音信給ふ人を誰と知らぬ

は

しろふを頼

もしく

お

手なれば口をしけれどかくいひ

春

風

は北花

0

12

りをよきてふ

け

誘

2

はか

りの

匂

U

ねにし

か

せい あ

とふなくど書たり君は心

もとなく

2

に御返り事

なれ

ばい

と嬉

しく

て見給

ふに

例

0)

ど一日 B せ給 にこそ見え給 れ給はず誰とだにしらでうはの空なる心地すれ かきざまなどなべ へとてひろげなが は つかに見聞えける人ともめも及ばずきよら ひなが L かなどいひあ ら取 入て見れば ら置 てのきはと見えねば御覧せ たれ ひたればあ ば御顔 手は い みじく 0) 色移 へなん文ば U め て で 3 見 72

かりのかよひに何ばかりかと例 の尼 君 かれ 3 Ġ こそとてもか せけ 事なく ديا 12 ひ預 るが も是に 我 賴 け 3 身 -か 此 病 736 V

は L n 成べし此尼君 見奉らずをさなか てこよなく つきて鎌倉と云所に住け 給ける鹿嶋をば今は伊豫守と云 けるを此君に教聞ゆれば限りなくぞ引とり給 てける國の ひ立て忌の程過けるまくにのぼり て都 契ことなる御さまをあたらしく心ぐるしき事に思 さながら國にも住は 程は なち奉らで御うしろみすべきよしをいひ置けれ づれなるま の中に をの づか は T けどほくのみもてなされけれ てに は父の兵衞 は くても過し給しが もいひ置て隱れ トに明暮 ら見奉 はし お りし しづみなが 0 お つべきを此 づからさるべき便 12 母のためなど心に入 もく成ければ男に めに 手ふ らし るゆ る後はすべて出 督びはの上手成けるを傳 もめでたき御さまを思 かども八 n め (A) 給 12 姬君 むげに ければ尼に成 ひつく おとなび給 おろ して て木幡 ば のいはけなき程 ぞ年 かに かちより いはけ りもやなど思 な には住い ば影をだ る事 て思 彈 月 傳 Z 思 T なか を送 ひ隔 まし 國 T ふなと へるつ 12 師 け 12 0 事 h 3 2

大方も心ばへ世に知ず有がたきまで情ふ 五百十九 か < は かっ

111 P す 男 0 T L わ 3 8 け 寫 お 72 0 n 2 カジ 3 げ 3 2 3 は ほ L 奉 וול 0 中 とうと 1= # < をば 何 所 B 將 划 3 3 1 1-整 カゴ 12 0 か 3 13 行 便 なく b 1: 君 げ 3 人 2 な 人 聞 1) 0 20 親に 御 0 御 ^ 人 13 泰 3 出 < をことし 僧 7 あ 成 物 祈 3 b 成 カジ 3 お It 男 1= 過 は 琴 都 12 わ T け づ to 8 1 1= 3 信 3 かっ P 隨 何 をぞ げ カコ 3 過 始 D 7 左 事 古 h 給 5 うど 少 tt 事 T h 心 つきて常陸 U 納 たる は 給 T 哀 ~ 南 は 0 D 3 わ W 3 か 1 辨 1 1 2 國 W ~ 言 東 都 1= 3 3 n T る 物性 法 130 とて夜 やう + す Ó 宫 3 人 取 0 13 L T 3 何 JL H 1= 殿 見苦 呼 有 心 3 0 わ 0 カコ 姬 かっ < 30 7 1= 數 70 Te 0 15 御 取 伦 1-君 3 わ 7 始 成 0 あ 10 ひ Ł 有 72 ちて見 方 て付 13 沙 0) 入 南 かいし 給 2 るを 奉 思 3 伦 1= 汰 御 13 0 3 1 か。 精 紛 77 御 5 よう 10 72 h 大 木 事 0 12 どす 元給 母 輔 -12 む 3 あ 2 3 12 h to 13 非 かっ 御 130 1 官 カコ お は 13 カジ から h 0 3 ば 4 乳 0 12 1 0 h えつ t 命 かう 尼 は横 せけ 0) 御 3 寸 3 南 3: 君 力 < 1 3 15 6 ور ف H カジ 0) ~ 0 か 3

> ざり 聞 るし をあ りて L んば C 3 うとく読 可大 < ~~ 僧 75 給 かい T 3 年 カコ げ 0 都 さらはとく b 身に てす 3 3 75 近 ぞやとらう C 御 給 2 なく ž < 物 些 10 - \ をとり h b あ な 0 かっ < 5 It 聞 T 1 なてうじ 名 1= 1-2. 人 物 n 乘 72 給 3: 南 8 きして はのは 給 け この るやう 淚 給 130 1-給 溢 ~ ひそ 3 ち 130 世 60 12 h きて 僧 0) 南 18 ひさき重の 30 都 72 9 6 た 打 150 10 0 60 うとき 10 3 1) ひ出 給 15 数 殿 きるよ 1= 130 te 物 す) 60 31 营 3 1 弘 b 3 H かっ 3,0 T 比 C 5 凌 < 御 盟 b 削 < 验 ナこ 2 12

情 せた 0 Te た 3 見 18 かっ 12 7: 子 あ 10 るし きるり ど親 聞 を思 < n 3 カジ な E は 給 心 は 12 3. 03 2 る 成 大 E 63 0 道 15 B 人 3 1 5 かっ 聞 2 惑 は 人 め たひ こと 1= 6 御 うん は ~ in 3 誰 3 12 12 i, 世 10 奉 伊 3 今は 6 ~ かっ h かっ か 势 は は < 1 1 人 12 本 6 15 南 è か 0) < 3 念 is 130 かっ 82 1-成 h b T 我 70 也 13 13 0 年 身 た 12 から 月 は h 75 12 を送 3, 12 11 身 な 衣 世 Ti 3 D とに 1-10 御 2 b 18 為 かっ h かっ 成 ā) 3 3

ては宮 す珍ら にほけ しき年 音信 まん とおぼ ٠٠٤ 有ら 0 いと耻 しく せ給 賤 心 ふ日數過 ちたし は御ゆなど参りて怠 りとて る事 おち 撫子 給 82 U D やみ と御 入道式 かっ 0) のさま哀にもふしぎにも の世 は 0) カコ して今暫 か カコ どなって かな てさ 成 大 御 悦び聞えけり中將は n L によほ の名の ならん ばよろしく Ď < 心亂 心 殿 3 1" れば残りゆかしくまが 有 部卿宮もうせ給などして人の き数のみまさりゆく しとお 地まし 俤のみつきせず戀し もそこは 同じ り出 うきやうなど所 け とおぼし べきひとべく ば \$2 は て猶こまかに りとだにしらせ奉ら か ぼし こては し人の るさまに見え給へばたれ りも さまに 僧都をも猶とい 成給 かっ しら さわぐ左の大臣 となくなやみ 12 n るに春 て僧都 0 ためも罪 くと怠 n 8 2 かっ あ の所 R おぼ 奉ら 5 あ の験 につ 12 はせまは 前 またうせ 0) かりけり四月に成 ばか ふべ 始 b め L h 0 ~ かろう成べ 齊宮 絶ずほ け とは 給 奉 より 85 V んとばか 給 7 でたしとさ T h b くも もうへ 心も関 なく せさ ば 給 世 ば 7 か から L 3 も嬉 < け 隠れ ぼ 0) 誰 0 御 な し經 て後 祈 0) 3 高 噪 め 世 か h え n 3 おぼ 給 な ٠٠ 30 b 御 か 3 35 カジ 御 -42

てし 事 U ば は らやましく物性の告知せし事の とも 見聞え給 カジ をば指置 あ 3 ならめ同 をすぐす身の契心うく此 ならはし とりだに などてか さる木幡 なく ら露の n 物 カコ ませば をこたりて嬉しとおぼすに又か 7 ひとりか ほ E 12 b 朋 あ や思はれ かっ 尼 れがちにて年月を送り給 0 夢の じ世 つか 左 隔 打 むく く人の 0) 君 ためるを空よりく 暮し給萬ねびとくのほ て思ひ至ら くしも 里 大將の上 なく 續 け 0 思 ながら影をだに一目見奉ら n 中に 12 V 3 ひにて人に似 か は 聞 息ひ 御 ひは んと 思 るをだに愁 心 は ż たちと生れながら親といふ人 1 え給事頼も 8 か 見ずしらぬ か (" 0 n おぼせばさらぬ 0 はし 事もあ にさる事 渡り 隙 1 事なく 世に みてまことなら 73 給 給 13 へ深 しさ 2 りた 八礼 有様ならん 志を蓋 るを朝 おはせぬこそ力なき しげなるに る中宮出 み御 身 有 る 35 り限りなき御盛を見 へどさばか ば隊 < る物 と成 事に今も昔 ととい 殿の すめ 心に き御 夕後 しら 3 なく は 1= も大臣 御 h 2 け カコ 世 1 1 3 やうに 0 と思ひ にても せ奉 渡り 世 b 事よ \ b NI. 12 むなべ 8 地 もい 思 0 かっ か 7 一巻み をひ ぎり な 續 7 は もろ 5 10 お T ひ 2 1 世 ō な は け 7 h か

宮 カ> 出 奉 < の有 都 つり T み ち 12 to 3" 0 なと B 日 T きさは to め か 10 30 3 過 V ころきる 御 など思 跡 h Ł を は U ましと 1-經 際 3 忠 心 絕 思 ば 御 10 Z. U りて þ は T 3 腹 見 3 T は あ 也 か 3 多くてえ渡 12 h なやましきに 悔 1 1 h U め 奉 すとも 1,12 知 こそ思 0 奉ら ぐら 世 將 B 煩 ろ B h せ 10 5 け U 給 心 事 0 5 べ 姬 本 かめ 10 しげ < 12 ひ聞 n T 數 思 君 L せ 君 T 6 B どす 5 佛 は 2 かっ 心 は 事 3 は h T 月 か とも なは ずの き心 り給 え給 1= 5 な 日 神 か Z 10 しくとに ^ お お 8 3 奉 n る L つけても か 0 1= 'n ~: は は 過 成 b b T 聞 地 は 4 事 何 D 2 1 h b かっ で一般は する ざな 覺 る なし 3 給 1 物 h め 1. L 是のみを念じ 有 0 え 1-かっ Ł L 1 な な -[ T h かっ え お 交う ょ 0 ひ を  $\langle$ 思 か か む ろ ぼ 3 ٤ n お すま 命 1 1 す ٠٠ かっ ば カジ 大 ば ひて 今とて りてこそ此 5 15 ば 3 方 歎 1= は L かっ 6 あら 3 カコ かっ ま 3 長 かっ は 0 7 C 10 B 3 有 カコ < 0 かっ づ b h 聞え さの さし E 空 成 6 n しき 3 Ė は h D 12 しさま 3 63 どわ 7 かっ 命 な n 15 1 L 便 知 御 か か ぞう 3 出 ٤ さま ほ け < 御 御 は 後 6 ぼ 0 산 1 Ł かっ 8 0 b かっ 身 身 b は L 车 1" 6

はずや まだ 歎 えさ しり 12 宮 何 < にて 給 かっ L h £ 0 ~ Z 37 -T は L かっ 事 年 は 0 ~ かっ 2 きに 給て け のみ 12 內 Ø2 な 5 御 せ給へば 年なども 3 頃 3 世 御 すい 3. 有 位 ち 覺 は 事 3 0 n かっ 東宮 過し 3 37 13 あら 東 をも à. 3 心 世 1-め カコ 5 にて きい つか 有 な 深 0 か \$2 わ 21 たく 侍て ど有 き御 カラ 習 ね 0 かっ 37 13 5 T もとより 0 わかく限 ば此 4 3 事 2 事などもうし しきにつけてか ひも か T と思ひの よし奏し ひしく H 俄に 4 給 是 1. B 思 ~ あ h 給 き次 誰 別 5 は 次をこそおぼし 3 心 1 をば帝 まし 世 8 h ば 侍 とても ~ かっ 1-お ど思ひ立 有 きし さて 0 第 おば までは は 隨 萬 ぼ と定りてい 給 外なる 覺え よう L たった は 18 1. きな へば うりみ だ 同 L 3 本 成 D かっ か は 1 C たくせ給 なほ 始 5 3 な 33 世 T 2|| らず 1: 給 本 3 21: ~: 松 7 0 力; 0 集 Ti. E 82 1-31 1 あ 6 3 9 36 23 5 8 0 t 信. 3 义 旅 給 3 あ T [1] 大 5 1 ^ か 1 1 [5] かっ 215 侍 給 次 12 念 な / 8 3 h 將 44 3 第 右 ば は せ 3 13 萬 12 世 1 給 21 1 お 頯 ج دے カコ 3) 18 大 は h # L を 渡 ば 御 1= 世 12 た 臣 15 な 1 誰 から i II.F: b 使 東 力; 10 6 水 5

を出

ば宰相

L

めてい

ろく成給

門のかみ

けどほか

苦しうし給をいかならんとおぼし歎て寺々に ひみちてけ おはして消息 かしこに思ひ立給 七月に成て少し凉しき夕風待えては大殿 我もと参りつどひて前右大臣 は引替花やか もさしつどひ内東宮よりも日 と打續き隙 い其時こそとて 音なく成 ぬるを誰々も いみじくとの申給へば御心地の苦しさも増り給 打續き参り給御對 とて しはひ殊 12 てあ う所 例の年よりも暑さ堪がたき年にてい n たう ばみ に成まさり給 都 方引つくろひて入奉るさし入給 聞え給へばうはの空なる心地し もぞ御光 なかりつる事ども過て廿日 々にいよく なる に耻 な嬉 心げさうしてえん ふ薄色のなほし しらはせ奉 しく 0 カジ かしげに打こわ作りておはす 程 な 一面何 n 覺す中將 上達部殿 は る聞 72 顯 始 の君達な 々に御使 3 かと隙なき殿 \$1 めそへさせ給 け に所せきまで け えそめ 殿 3 なる程 上人御祝 今の あ かく 0 ど宰相中將 育に忍 御 0 社 ても年頃 御心 の夕凉 關 ば 嬉しと 悦 ちをし 男君 なが 願た CK 0 ひ我 白 か より 1る ٤ ١٠ 地 中 何 72 CK 殿 5 3 衞 達 匂 T < かっ 也 12 T お カコ 成に せ給 立 お む まりまで御物 心 はずすさまじげなる御もてなしなれば我恥 ž° 給 L かっ 82 なかのふせやに生出したる見だてなさをいか ぼしの給べきまでのきはにも覺え侍らずあやし りよしづきたる男君の にまほにも見えさせ給はずまして誰とだに で申さん事ばか たなき心ちすればかく登りくるもそいろは よら く心 か げにうきた のしるべにい 給 る事をば人 ばえで入てしか 人には へるを

変もと
に たたる心 まへさせ給 ふか ふ人も苦し せ給 耻 な御 いかで かっ しげなるやとか 地するをむげにうとく 人傳には るならん道も る心地し 0 身 ざな 御返り迄は侍らん りをも聞給へかしとの給へば かっ てなほざり づからのと見ゆ へみをせさせ給 3 るざり出させ給へあまり ぐ~と尼君に聞ゆればかくまで は 40 んを物越にて申さんことわ 御けはひぞ又かぎりなく 一侍てなど聞 かっ tu てなむこよひ 1" く聞え返すべき言の葉 は 聞えやるべ の御すさびに るけく 3 7 ゆるけはひ 此 かっ 程 筆 侍るをなど聞 つ見奉

0

馴

ž

ゆる

け

た あ Ġ

1

お

知 K

b

奉ら

達も

しくも も見

7

な

ž

は せ

n

だに人傳

なら

る人

ナご

とあ 12

は

ぼされけり

御病

V

0

折

御

祈みずほ

きか

く聞 おは

傳

h え く集

もか

くま 1=

きわ

お

らう 事 2 どより 3 聞 聞 7 あ 上 Ł Ł 0 をら との 見 げ 仰 聞 か カコ < え 給 カジ 0 1 えて t 6 何 け 方 あ 10 n 0 72 泪 何 h は す 給 かっ な げ 0 12 續 0 h 今少 沈 見 造 給 Ł すめ h 南 也 カコ お 事 S. こと まし 聲 p は T 宰 3 U 初 30 3 は 出 T かっ ば 17 12 相 南 お 8 佪 j ٤٠, 7 3 しく は 3 づ T は 3 は わ は 11 する 見えず は より おって は 7 尼 b < 帳 物 人 ~ 73 せ H カコ 聞 を け 10 給 1-5 省 3 0 1-12 0 h う 聞 え 出 6 37 3 0 かっ 12 ~ 35 中 7: づ心 5 帳 字 3 L 添 聞 43 かっ は 1-4 h 10 12 1.00 とて 12 72 え 給 1 臥 1-屏 入 相 カコ 0 よ変 膟 3 なきよ 3 給 違 < は 御 1/1 3. すい 力多 月 侍 ますぞ 風 給 か 聞 出 7 h 1= 0 姬 入 心 お 3. 0 5 さるは 給 君 12 は 0 1-1 12 入 内 12 h 5 ક ずな す 思 帳 は は 3 12 2 かっ 何 7 ^ 300 消 8 1 7. 13 傳 北 0) 世 5 0) かっ () いいい ば辨 どは 人 きに は よら 3 13 給 5 h 給 入 13 3 かっ J) 123 3 た 3 ~ 1h tz 0 け ~ 泣 事 3 130 方 續 君 L な 3 13 0 3 13 お Va. うと < 4 1= 聞 將 は 3 な T け は 程 5 3 5 給 思 尼 た 1. 書 給 43 南 0 な

らで さは 思ひ 佗て 笑ひ あなう 1= こと 納言 あら とに 13 帳 きけ T 出 率 3 3 05 15 0 心うと よび 給 とけ 1 1 を 殿 は は て出 12 相 20 給 3 2 3 惊 1= 12 て今少近 をさ 7 事 13 60 () h 0 來 す -B T 何 1 -申 å かっ まし カジ Da (" وعد 130 御 が 12 とこま ~ T 3 0 ほ かっ かっ カコ カコ 3 きよ かう 과 13 誰 It 給 1-5 < 'n かっ かっ か 10 5 から 120 まで よ 12 ず < か たこ 1 10 3. 0 D まで T 此 尼 な は 給 からよる さべ 坳 3 3 か か < b らに 21: 物 け 1 10 t: Ti な 1= 0 35 1 U) 3 ば どは 給 は < 粉 3 刚 見 かい 3 U は 2 か b 3 なと より 便 3 守 置 3 な U 1 U 參 6 3. to 侍 E H 間 < な 17 1. h T ぞ 57 38 T n h 12 2 3 け きと す 我 3 0 は  $\tilde{l}_{j}^{2}$ < ti W 3 1) 13 3 とか 18 系給 かう 人 W 12 かう まし 12 力 3 す) 3 b 10 100 130 1; وي 73 尼 7: 佛 13 は す 5 0 03 3 か 17 15 カジ 1-T カン 3 21 0 ろ わ 3. 2 B 1 0 御 12 0 は 护 儿 物 0 0 3 告 稻 あ 3 御 1 御 0 15 L L 2 御 か 10 州等 思 24 は 30 1 رجد せうと E 供 3 12 木 3 包 12 6 げ 11 0 殿 73 1= 30 10 卻 2 82 20 ~ 10 は 渡 3 i) 6 有 75 63) 人 1 1 21: 人 3 9 不 3 8 g 打

頼む物

とて

か

1 前

賤 L

0 3

行 べ

末

短き身

朝夕見

奉

歎侍

に今は哀を ふ御身 Ш

3

カコ

H

聞

き影にて過さ

せ給

は

7 いか る 知 りくは

は

伙

3

佛

0

12

やと

せ奉らん

と思ひ

いくにか 御

へる御

中に

聞

しう りと見ゆ

ひ續

け

T

年此

5

カコ

なる

72

臥給

ir

ば

と嬉しく

5 12

てゆ あら

し給

か め

h お

とては

L

0

方に身じろぎなが

3

なん

٤

たれ

ば

12 て人傳

1"

かっ

72

也是

ぼすに

まめ

嬉し

近何事 知すべ

も覺えず帳のそばにいざり

に聞え

き事侍

1=

身

からこそは聞えめさばかりは

げしき

け

n

ど此

君

0

御

10

か づか

h

はずいまださうぞくなともとか ひなばおぼしかけじと く入ふしたるを出さ などには事あさく しきやうに聞ゆれば て昔の事どもを 誰としらざり なら おぼ ば解 よりに 、と聞 えさ なし 出てこまか しげな らずこまか つをた 御手 事 h せ給 聞 殿 やと よら もぞ 嬉 5 哀に をと る御 ひて 0 え 始 で 何 h 0 1= 事 0 3 T 3 B < n B 添 7 D 3 ょ どひ 人 給 T カジ 引 かっ h せ 初 ず Z 申 n 殿の君達を見るに付ても き心地すれば一 きをあ る方なく h るべ 物性 か 打語らひなどすらんとのみ思ひわ 50 3 T 聞人も泪落 し侍らんとて泣給 替て寔に氣どほ は いもうとなどくい 奉りし日 思ふに と嬉しく 物に しとて引うごかし給 あや 1= わ せ きをた 身 < らぬすぢに聞 0 給 知 まづ涙は先 しく おぼされた 方なく 御むねもさわぎて じろき給は へとこまべ より今に片時心には せし事も 心安くも成侍 いさば 賴聞 n けりり きは哀にも思ひ聞ゆべ カジ < まし 月も なし か りつれどえおぼし ね ふがげにさぞおぼすら な えさすべきあ ひてははかなき事 今思ひ合 だちてとば とい ばさしよりてさ り思ひしみぬ き御 聞 奉 Ø 出ぬ光さ S さば るか どあやし ź. とうらやま るは ひ續 せうたの しせら h な殿 まづ 御 なるく世なく歎かし かっ あ if しス h 身 V れ給ふ覺えなく 12 るまじき中 かっ る心 72 物 1-お る をも き事 みじ も此 は りつ 72 愁 ぼ b ક 貌 るに を名 カコ B な 3 < 思 つまじき事 つるに る心 御覽 h 3 n i E 由 < は にこそ大 と良 猶 殘 ば 曾 を傳 かっ なく のま U 嬉 あ なる 給 È 12 かっ は

事なれ で來る より淺

ばさだか

聞給 ぎ出

と思

ば急

L

奉ら

h 0

かっ

n

F

ましうか

1 つに

る御中と聞

けつ

n

3

口

b

なる心地

して

うちあ

3

5

は

せ

などすべ

き事に

. E

あ

な 3 < カジ かっ に だ L け ぞ哀 0 4. 3 カジ ^ お 南 H 込と仄 そろ 2 明 たく きは 今は 12 る 近 御 2 あ 3 T 比 聞 かっ るに 御手 きな 30 3 心 ã) 71 0 かっ 佗 3 事 L W It 開 け は 6 心 心 を哀 を引 1= 物 るさ ことわ 給 せたらまし どて今 かっ 侍 O などは \$2 Tp きを 0 お ٠٠ کے h n 82 とだ 給 ぼ 4 約 0 3 かっ 巷 かっ 3 かっ b op 有 3 It 12 ^ ^ 1 b T 道 ば是ば 3 13 名 ば 3 覺 南 ば 1 まじきよと思ふ L n 南 カジ らで 6 るべ 事 変 0) 殘 当 W 3 かっ L ~ げ らう 聞 3 ば 12 給 1-きとて 8 12 12 D 聞 3 な 3 は け 物 秋 1 有 0 かっ 8 7: tz 明 سلح 0 今は 12 なし 3 0 始 かっ 口 け h 5 短 L < をし 近さも ど今よりこそあ ひ出 ひや 1-給 をだに 空 果 RE 御 奉 お 8 ぼ な な は うとく 12 手 H n b に心 うと 猶 6 る嬉 5 72 3 寸 ق 0 世 すべ 0 0 をとら きに も さるべ なし 20 1-J 02 秋 3 10 12 かっ かと き心 な L 事 1 よ 5 は h は で 0 お B さ今は と人 とう L 聞 7 から 力 大 3 は 給 な 嬉 ぼすまじ け 6 え 13 殿 は とも き契に づきり 地 給 T 5 k ば E h 取 12 0 猶 2, 心 御 h It 2 It 歸 君 忍 1 あ T 15 か め 初 かっ 地 貌 0) 12 ち は 2 達 ぼ す 3 ^ 南 U < 3 T 12 3 الخ

整ら にって 出 げ は 置 せ 人もこ もて うと よとの 3 あ 3 な U 12 返 h 逢事 B 13 3 < 打 T T of 1= より ござり U 出 方な 36 叁 3 は け てさまべ 臥 57 E 6 思 ナニ 6 げ 給 n 12 給 は 給 5 カコ 1) ば 3 け た は げ 來 猶 S カコ け 給 h づ T 2 0 ^ ば打う んをい から 殿 < 3 3 思 3 \$2 \_\_ 3 10 頼な 12 2 から 小小 我 12 170 思 t 見え 道 け ひ 殿 15 夢 b 思 き道 ひ入給 き心 ず は 御 は 非 御 1= 37 0 物 などす 0 文 心 空に なづ と問 0 本 方 15 3 出 力 心 方 給 3 窗 は 地 地 は お 地 えし 0 は むべ 12 思 お L する h 給 T 聞 夏 ^ 33 給 12 T 1 L 後 給 0 は 0 1 -は 3 3 13 は は かっ 成 ぞう 3 -دو 华 7 3 も 成 絕 1 カン 道 消 6 3 T 2 0 け 5 な 72 < 尼 狛  $i_j^1$ 衰 添 かっ U T te す 1= 天 D 臥 つ よ 13 h 手 n to 力; 1: 心 13 ば な h ~ 10 か> 給 II; ば 7 G < 小 かっ づ 0 3 3 3 E から U) 物 ひ < かっ 行 3 450 か 72 12 0 们 我 さるべ h 聞 聞 6 75 0 12 始 1) b あ HI 386 1) 0 op 約 0 此 か T 3 37 は 出 御 3 かっ あ 思 1-4 ろ な かう 御 から 30 73 111 3 心 は i, الح 弘 0 5 格 庭 六 地 15 40 夺 御 ぼ 思 -5-な は 供 心 60 选 う す かっ あ 身 7) 6 E T 43

とよき折

ひて

Ш

里

な

3

まか

b

わ

んの學文

し給

る程

て御前 所

物 ろ

るぞとて脳息 晝つ方殿

にお 方

ひけ

h か 御

0

御

言の君 例に替

は b

胷

手置 御けし

12

12

3

例

なら

n

3

72

め

るは

ば

りの 朝歸 る心

事ならん りに名殘 < つか

て日

高

くな 覺え

n 給

ど起もあがり給はず御

まどはれ

つるにさるべ

聞

臥

給

しく

などそへの

然るべ 忘れ

き御事になどい

ひてさもよく

T

な

らまし

かば

きと便 は

b

さに

まことに引替

12

h

し御事

をい

殿

0

しり給

し御さま形ち

かなかくら

á

御

あ

しならべて奉ら

んに

何

方も

おとらぬ

てぞあらましなど定めあひたるを君

かし奉れど何とやらむづかしき心 ど心さわぎのなごりは猶なや きをうつくしと誰も見奉 き事と聞なし給て後は り心うくうとましとのみ 地して日高く成まで詠 ん事の嬉しさのみ はひならまし と若き女房 ものどかなれ 程の御あは にめでたく あらざらまし は寐たるやうに かに 物 て今 参り給 てうづ御 うげ か おば 朝な 哀 b お 1-る 地 か 萬も にな 見給 すら Ź n 0 中 33 思 L か S ば む ば お め E W 3 カジ ぼ 臥 納 ひ 云所 過し 发に 仄 2 0 聞 何 3 かっ 0 の 平 び りて過しける程 ね 年積り ば故常 侍てと 置 り歸 かに世 ī 姉にて侍けるがいざなひて常陸 出 事 あ 聞て侍れ かなる事をこそ聞 に住 にか は ては 43 る のぞきて侍 つれども尋 T かやうに 對 り侍るとて近く参り給 其 有け 侍け 陸守が との給 か 面 事 に有と n 入 h 缺 ば な るに 12 御 などして侍つると申給 面 るこそ男の 身 るま か 3 < て口情 を思 めに 成にけ て有 へば其 5 n l 聞嬉しき事に る L に守うせて後尼に成て登りて木 としく か べき便りもなくて歎きなが か 1 たしきいうそくに 事 ば て侍 に ゖ 出 ひの外 き心地する女御后 物性 3 して し侍 申 と聞 め驚 3 高き家とも る物は 12 身 給 を頓て親ざまには の告知 年 の光 に御室 求 りつと なし T 月覺束 ばともあ 一覺え侍し ひていと思ひの め もある哉 E 出 Ī かのうみ置 てあ 給 せ奉りし事 申 成物 か 戶 に下り ^ ば驚給 給 に罷 なく T n 3 3 な 人 B か へば打 12 ばとか てあ のみ覺えて は 出 0) 'n カコ (,) 一奉り し道 身 2 <" 國 か 2 且 T 入 < さて 定 ら多く 多 V ٤ は の給 きは 幡 3 てう かっ 2 る < n 5 奉 珍 7

給 カジ ば とて 有 57 かっ 嬉 3 人 ħ 聞 つま 3 で 3 內 5 h n ばし きょうり しと 8 艺 h W 引 0 どしてさ < わ 3 n 11 え れど見えさせ給 \$ 東 12 爲 づ かっ 3. おさめ カコ かっ 0 お 5 D 侍 は 1 3 對 ぼ かっ 5 れば今とてもめざま は 嬉 6 3 3 T 給 カコ さうべ 思 せ b わ h しとお む ^ 給はず 爰に 36 < 4 カジ 給 お 12 給 な げ T ふやうに むなどすで で 亂 1 3 T は h 0) 2 12  $\wedge$ 120 376 1-ぼし さう 給 1 郭 な 女 5 L ż h かつはそれ 今し ふ事 は 郎 見 驚 かず T 納 扫 かっ づ しとてとり 1. た せ 花 3 言 文 與 おは、 き散ぼひ 出 1 は 1 13 2 1) もなけ け 0 L L は は 12 ば 3 宫 雲 ひと か < 宮 傳 3 かいら 0 か E 3 3 ば 373 ぞき 0 は しとや W 0 b 木 0 12 人 3 13 1 h U 御 1-むすめ がこのすぢのこと 0 17 0 ゑにこそえ詩 ばうら カジ とて さるで L 65 3 などさまよ 給 方 2 n お ろうな 心ざまのさ 3 物ども 筋 12 は 373 事 お 1-ば若、 3 ずさ 1 Te ぼ الح 參 見 給 03 12 袴 3 思ひ 8 かっ h 3 は < 5 T 3 ^ しく な 12 とり 給 C T رج かっ h 事 0 0) 37 10 色あ ば 給 2 6 ば Ü 御 2 < かっ E カコ L 3 ね な 思 cz 12 達 哀 0 0 す かっ < 6 T 5 づ

カコ 出 らざ な げ は え は 0 0 かず 'n 我 0 3: T 1h 兄弟 は 朽 3 5 力: 1 な 人ならば 3 10 n 0 n 0 向 Ł も苦しなどのみ思ひ過 なく る程 とい 心 片 3 B 0) 嬉 和 25 7 T 給てさ 給け うあら 隔 'n i, 成 0) 0 h しくて B 10 かっ なら 7 1 1 方 人 12 御 松水 < き とも なくうと 10 今まで 1266 をすさ 3 2 思 は 257 B 3 CR 8 うけし かっ 1= 址 ひ 御 1 31 此 心 h 北 かっ 700 け カコ 3 カコ 11 見えて髪 カジ 心 13 給 づ きばみ みにても かっ ば 3 17 1-かっ < 思 L 6 社 は かっ う思 とは 373 12 侍 6 きなら < か 12 82 13 0 b op T 3 かず 7 1: -3" 6 1 ~ 82 5 うとく し給 5 及 13 心 心 78 ば かっと 物 111 るこ こよなく L ひ聞えじ 成 給 げ 3 (i) h かっ かっ 1-給 0 智 だに 6 さから さうし 1 カジ は b 1 6 0 -13-は是も 給 11 木 12 す 3 かっ الرا 3 12 ナカっしい は ران نيد など心 1-け 1. せつ は Te 脆 か دمح 3 0) h は 派 i, 有 12 7 引 是 かう 常 となら もまづ ã) 思 C L よ 0 4 (= L 8) るさま思 は 給 到茅 1) 5 31 11 心 13 12 h المراد 思 は 有 0 13 7: -3-3 18 III: ひく 人 か 111-から < 沙 []] 3 10 か 思 < 御 h 7 かっ 5 1) 常 見 是 枘 3 給 ك U V 3 3) げ

ならぬ紙どもえり出てうす紫のしきしに の日かしこへ文つかは 思ひ給らんかし其 72 るさまにての 日もとかくまぎらはしうて暮 さんとて御ぐしあげさせてえ 3 過 しん給 2 を猶 口 を ね又 ĪŁ

よかなるに御手はいと上手めきて 御方にも文や侍るべきと申給へば白きしきしのすく うらめ 若草に根 し」人の結ばん も見るましき物ゆるに など心とい めて書給 いかに 結 ^ b 2 0 殿 神 Š 0

涙 也 溢まけ 花 定 雕 なるを長き世 世ならばか しうのみ覺ゆるをか ながらわたり聞えつ 物にていまだくいめんの心もとなくなど細かに せ給へり待より見給ふ心ちはいみじう哀也大方よそ か 12 種まきて 植し 覺束なしとのみ思ひなやみつる年 れ給ふけしきげにらうたく媚かしう御ぐし りと 過に 3 < は 夢 の別のみぞげにく でたきを見奉るに の心 方の事もとりそへ今更哀に悲しくて 0 垣ねのあれしより涙 露けき床 づからめぐり 地 く有しとしられ奉りて文などを るだに其あたりとなくはな して珍らしう嬉し あふ世も有ぬべ も親 いふかひなき習ひ 月の 0) 御心地 きにも同 隔 き物 夏の の打 つか さる に見 書か

n

たる御覽ずれば昔の御手にて

后 れたりあけて見給へば御うぶぎぬと見えて袂に物書 ば御目驚きて御覽ず蒔繪の箱のちひさきを添て奉ら おぼしけるにいとをかしげにゆゑふかくせんだい ればいと口をし殿は待見給 かづけ給ふ御返心もとなく待おはしけるにかひなけ たくもせめ聞えず白き綾の褂織物の の御返りは聞えにつくおぼしたればことわりにてい まとなてし子」花田の紙にほのかに書給 返し聞えさせ給 つけ奉 におは 荒にける り給 せしとうくわでんの御手に 垣 ては は もしらて お とて御硯取 ろ かっ 1= 年ふ お ぼ ふに手などひなびてやと れは され まかなひて書 L じと ほ 能か ほそなが添 n か 2 かせ奉 よ り今一 ち あ なる h 12 御 T

給 言にあづけ聞え給いつしかゆかしき御心ちはすく てしばし ばしやられ も命絶にけむあらば逢瀨をと思ひ消にける心の き」筆さし 種蒔し人も尋 ど世 御許に置 0 て御 煩らは め ねね たらん見る心地 給たれば爱にはつくましとて中納 しさにする おし拭ひ 姬 小 松おひ行末を誰か ついもとのごとく して哀に悲しなどし ともえ見奉り給 見 中 3

岩 清 水 物 語 上 3

E

どめ 給 な p 1= < け 思 Ł ず か め 部 せ 歎き ひ T 82 12 露 忘 わ h 卿 63 \$2 П 侍 0 h 12 仄 あ 御 宮 n か ば をし な 哀 な T な h かっ T かっ うど何 多 御 は 3 敷なら 10 日 給 給 しづき Ē ٤ ナジ E 見 局 12 ٠.٠ h 1 1-思 は お L 柏 3 ぼ 大 給 2 か 77 か 82 せ 御 < 壶 W H 身 心 殿 弘 L 思 あ ゎ め 0 俤 なく 也 \$2 3 1 12 給 h カラ 3 0) と急ぎ ひ 御 き給 ど御 御 隨 權 亂 せ L 思 l 3 むの Ch 給 御 かっ け 3 12 あ F n す 急ぎ 12 3 3 參 出 給 \$2 は 物 かっ 納 給 8 5 ば なら b か は T 3 言 10 ふ程 東京 10 聞え < 御 0 -ば 近 1 は 有さまか L 覽 程 ば 13 落 1 小 7 か 12 1-に参 規 ぜさ は宮 がい 八 3 h 聞 宰 かっ か 式 < 1-10 淚 W 月 0) 相 5 もう 1 殊 は L 人 th 命 Z 成 17. カジ 1= す 侍 ば T 12 給 ž づ 3 60 3 T 見 रे 3 かっ T か か 5 2 成 給 叄 もこ ~ 3 3 懵 n め け ~" 82 せ 12 ij 9 Ł 0 j 兵

ば聞

10

は

お

ばえざりけ

母

そろ

あり

つ

<

お

はの

す

n

الح

h

たや

7

煩がりさ

5

はに宮ら

しう

1 2

御

惱な

みい

後

常

な

み

5

0)

みとも

す

5 3

め

É

秋

0

言

E

ひ

り給

をお

雲ろ

なず

T

御心ざしあ

かっ

ñ

とき

給井

人

と見

10

かっ

V

12

お

は

す

n

渡ば

御覺

え

かっ

13

ずと げに を思 は 苦 0 3 L h ばこまか 孙 ば づ < わ ね る お h お 給 2 Z 積 どろ ż しう 給 隔 げ B L カコ 3 ば 3 なら 歎く なら け お 7 かっ b かっ 2 3 打 12 7 T ころかつ 75 しく ~ Ĺ 3 あ ぼ T なるべきと 3 御 る 12 嬉し を中 1 け き人々 か 0 物 るまじ 1 占 ざり 祈 給 W 大 b カコ 12 萬 4 などは 方 き御 T 2 しうし き事 納言 將 をさ 0 h 納 あ Iz きなく 1 7 数多うせ給 殿 聞 東 言 盐 2 文 1-0) え給 ば耻 は h におぼされ などさ 0 人 かっ 0 あらでい 恐 3 此 などのさ 給へば見奉る人 3 人し 雷 君 御 0 お 0) L 13 過 御 聞 を御 1 給 起 もなく 此 B 御 0) in --おばし \$2 ば 君 君 かかか え給 3 地 U 3. ども又大 1. かっ 達 3 0) T か つとなく 0 水 南 などし つき 12 III. かぞは i) つる から h 0 細 を 0 む 物 此 大 h 熊 比 b U か から 6) か 程 くら かっ は 3 1 な 將 12 3 < 1-給 よ 12 C 殿 6 12 ٤ -5 御 は る 殿 物 同 ٤ 又 b は ず 12 < 思 は U かっ 3 御 111-75 i 御 L 10 h 12 成 3 樣 < < かっ IL 1 3 ば 御 地 0 大 215 in お わ T n げ は 3 地 南 3 O) 力 は お お な 程 1 1 h は Ś 此 ば 上 B お H わ T 6 は 3 الح か は 3 納 數 寸 7 3 カラ から 3 te 12 お

悲しくて慰め聞ゆ兄君は元服して少將と聞ゆ中は 事なくおはすれば淺からずのみ思ひ聞えさせ給へる す殿 すべきぞまろぐしておはせよとて泣給へば誰 とおぼしたるを今暫しも見聞ゆまじきこそ哀なれ ならんあたりにてもさる事あらばとのみ常はの給は **今までかくる人の物し給はぬがざう~~しき事** 君にて今 よりけし て泣給へば つくしげにてかくる御心地の程もあたり離れず悲し なちてこなたにて養ひ奉り給五六ばかりにていとう あたらしと皆おぼし歎きたり大將殿の二郎若君 などはた 御年の程もいまだ盛にきよらにおは じの方こそさがなしともいはれ給へれ大方はあか く方なく 思ひかは し歎く殿もむげにいはけなきひくな遊びの比よりわ じさまにて月比 いとい此 も其 い御はらからのや うにおはすればをしく 御惱みに 御貌を打守りて捨てくはいづちへおは に成ぬいかなるべき御 にか し給へる 御中なれ ばたい物えん 萬事さめ て文ばか りぞ絶ず有同 き殊にかしづき聞え くりてゆか しく しませば大將殿 事に おぼさる 給 かと 中納 B n 取 哀

は

n

ゑまれ給ぶ心の中ぞ耻

か

しか

りける文

は絶ずつか

は

宵曉 比は ゆすりみ も聞え給中納言は我にもあらぬ すほれまどひて歎き臥給へば大將殿も所々の御返 使ども立 こめばい 程のかなしさ思ひやるべし内東宮大殿を始奉りて 臥給てこ とわりに 給ぬ思ひまうけたる事なれどさしあたりたる悲しさ まどへどかひなくて神無月朔日につひには 取こめられてえ起ぬる事もなしと申給 すれどめづらしげなき事はおぼしもかけずか く慰め聞え給扨しもあらぬわざなれば煙となし奉る ひなき御事はさる物にて又是をもて煩ひ聞えてと は誰もうつし心おはせんや殿はた なくおぼし歎て山 てよかはの僧都を呼聞え給へどみたりかくびやうに つよりの御なにかあると聞度に泪の催し也みむろど てたのみなく成給へばさきん~もしるし有しかばと さまに煩 のれいしせんほうおはりのゑかうのさまなどい 筋に御命のぶべきよしの事か ちたりし ひ給ふ程 とさわがし殿うつし心もおは も過たる 御げしきを今はいふが に引かへあらぬ 々寺々に 願立あしを空に に月日によそへてよわ けしきにてお /<sub>'</sub>同 さまに行ひ しが じさまに弁び へばいとい頼 ましきまで り増 かなく \$ はす日 おぼし h 同 b

か

姬

習ひ成 入れ 中納言 見るか もあ と思 心ぼそん 有 つ京 國 さなくて鹿島 か しき影 給 h か 0 1 し續けら हे け 都 K / しく 僧 七 おお p 1= \$2 te. 2 3 0 1= H F 我 ぼ ば 登り 0) め ひ 御 1= H 、明し なくなる物なれば心に ょ 0) いり 12 b ぼり は しな 数ま 身は h 歎きさ 12 72 御 ぐら 君は か n n 12 己 猶 け D 1" T 0 幕し き事 御け へられ 3 3 隨 彼伊 て大番 增 さら よ 事 1-といひし今はおとなびて伊豫守 る折 5 してさるべ をば九 は りけるとぞうせに 韶 / 八る者 御 つとなくずい あ 豫 給 1 L 母 h -1-でだにそこは n き御 給 給 黒き御ぞに しみに きなるば と云事 0 カジ あ 住 重 住 ば T 數 身な るにか 大 木 0) 细 ~ ٤ き兵の R ず國 を勤 方 幡 かっ 3 Ł L 對 T 1 か 心 かっ 0) に屋敷などあまた 12 め 10 持 やつれ さは る事 0) めにすぐ 1 / は 5 h < 南 0 世 对对 かと T 打 b ぞ心や 姬 6 中 12 L 8 あ 何 0 常陸守 4 拾ら うし 告 御 事 1= h T るまじ あ と云 なく B 經 多 も外 より 給 T 7 ち お 長 きな ぼさ すげ E 些 取 1 n ~ 事 今 3 き筋 物 T カジ 0) 給 E 0) 月 3 なく とい 5 3 h 郡 0) 子 L 2 0 成 8 T 給 ち દ 有 絕 H 心 1 3 て京 13 末 は 1-5 お H 1. 賴 行 歎 ٤ 2 ぞ ぼ V 8 よ を 30 3 U 0 82 づ Ġ

見 10 兼 なか て奉 しく L n 隨 わ 何 Ŀ < 0 さっている づきて心の奥床しき様は人に 0) な か お 100 T 事 ば b は U T 程 け は 尼 あ カラ 1 て思 すれ らから らな 見ゆ い より たら Ŀ tr 引 1 1 5 3 めでの 0) 思ひけりさまかたちをは 13 12 多 かっ あ 0 3 かっ か 是はやうか りし 1: もしづまり心にくく かっ 國 弘 かっ あら 12 どして萬にはぐく もとらせ中によろしきをば S か中に んにもまさりてか ~ ぞや かば くしられ給殿 E E 0 地を ば ちなどは な E, 所 かっ 物 しも IL 曼の とて りの 見 誰を頼もし R 1 0 除 3 つくろは てなむ住 3 け なく る事 誰 はりあ 色 勤によりかくしも生 1 かるべ 生 た ば 12 なの 出 出 かっ なく か 0) 10 < 12 入 君達は きか Ė 4 きおく りの人に ならずそ いぎやうこば It みけ れどか なまめ なしき すぐ 人 じめ などし 3 かっ こと也け Øa L 12 げ かっ H n げ さい て心 ち 1-3 tij 0 te ば 12 É 物 < えび B は 12 姬 渦 3 12 10 H かさる げに دمد 战 お ろ 給 ^ b h 思 告 3 あ ど人 うの \$2 す なら 1= 赤 くまで 思 V は とる 1-3 ^ U) T 0 发 る 情 御 11 / 秋 0 \$2 ま かっ J. お は ま 4 から it ば 1 方 3 H 8 7 細 12 か らに しと尼 る人 te 3 1) は 定 0) 賴 け か ٤ h 多 成 年

きに立て行をさなき者のいふにしたがひてあふなけ

ふか 思 えんといふがをかしくてさば道びき給へ人にしらせ れどえ見ず見もすべき所あらば道びき給へかしとい とり居た ばいつくにおはするにかといへば十ばかりなる童ひ をしき事に女は思ひながら見るめのなつかしきに萬 もせずすさまじげなる中らひにてのみ過 るにか心ざし思ふやうならで世の常は打語らふわざ よりいひ さきの世 で見せた へばまろこそ物能見る所はしりたれいざ給へ見せ聞 てかくらん人を見つけばやといへば是をだにさの給 いみじき繪のさま也美しき女の髪長きを書たる所見 て寒にもまかせ給といひて まきよせ たるを見れば かなる晝つ方伊豫守尼上の方へ行たるに見え給はね ひたるけしきにて足おとせでおはせよといひてさ V 慰して ふに耳に とまりて 見まほし くは思ひ聞ゆ 契てかしづくむす めにあは せれどいかな 床 らばひくたも多く奉らんとい の御前はこよなくまさり給 るが姫君の御方へ参り給ぬ此繪御覽すると 憂をも罪 しき人のさま也國 なきさまに忍び過 の守なる人のをさなく 12 しけりのどや る物を見奉り ふを嬉 しけるを口 しと

り今五つばか むげにいはけなく物の心しらざりし程は時々も見奉 のきなどすれば見付られやせんと恐しくて立のきぬ か くれたる筋なく何事にかあらん詞を聞 けり尼上に詞よませて見給靡きか し中納言の御もとより参らせられたるうつぼの繪 れどの りしもわづかに夢のやうに思ひ出らるれど御かたち るともく一あく世あるまじきを繪ども見果て人々立 御口つきあ げなるまみ打かへりてけだかさもあつめいは など影うつるばかりにてらうたく匂ひやかに かいやくばかりなる人のねびとくのほらて髪の よりてのぞけばまことに能見ゆやうだいかしらつき のあるを数 たぎたる内 の調度立てあそびの具ども置たる所に屏風をたてふ などいかなりしと覺ゆるまではなかりつるをおとな より始 れて思ひわきたる方なくやがて智はふたが かしき心はすくめてやをらあゆみよれ てすべていひつくすべきやうもなく見る目 いぎやうは へいれて中の障子に虫くひとほしたる穴 へ置て我は有つる繪 りのかみにおはすればもてあそばれ あたりまでこぼ るご果て持 いりた れ散 て打ゑみたる る額 T て参り h Pa 目も驚 ん方 髪 耻か は 置 成 B

15

0

是をの ばい さら すれ B 言 かっ B T B 7 T n 3 CK る事 むね 久し 一殿より ど見えさせ給 1 給 かっ あ お すまず成 なと 0) n 3 へゑみ 事 なが な づか 2 奉 à) 渡 3 のみさわぐをし かりつると何 やし を見 空穂 h か 3 b 來 心方行 5 てす 物 給 ら心 12 給 3 L り出 る あ B うも 0 てよしなき物思 には け 3 る かっ 赤 繪参ら はざりつ して 1= T 4 ば影 事 1= 末 空 は 12 かっ ふみまよひ給 2) 心 h 事 は 給 0 か なして尼 思ひ續 12 なればまぎらは 3 せ給 方な おばえ 御 をだ どは Ł づめて抑い なく より へばあ 12 身に は珍 礼 ると つしか けられ 打始 < 聞 ~ 63 1-< ^ ば我心 も萬頼、 あい ひ付 て隔 る 5 な 5 ^ rj E 見聞えざり 0 ど聞 五 對 め カコ n を しく覺えて殿 0 かにし ば御 りし 詞 て詠 習ひ ぎやうづきて 有けりと思 さまに 方 ねべ 面 るをだえの橋 有のまく しに 人の よむ へ参 も心もとなげ もしきか にうとか き身 ほ め て又同 せうとの 今りて侍 心は られ ど見 5 てか 此 役 ひ隠 1 1= もとに 語 奉 は け 3 < 心 B D 何 0) かっ C E とは 1 物 かっ b n L ず 1 中 b n 成 事 所 b 耳 な 聞 給 T は b 納 ٦ h 0 D

げに 御 ٦ かっ 給 13 U お らんに寔の は ごへば我しも 1 h となしくい かっ も定まらせ < 給し めて は 愁淺 かり ぼれ te は T 30 心 心ぎょく しと猶 \こそおばされ する所 親 奉 んはいと嬉しけ 0 御 は 13 見付 つる 子の から 落る 6 3 63 あ は を宮の 過させ け 近く 3 h るまじ 親なら ねど女 年月 3 は 12 へば尼・ 1= 御 は なくよりそひ のみこそ忍 なりか 契と うせ 3 T 也 は す てば は 吹 給 き中 0 るみ む h かっ っねど放 へばうが かっ は Ŀ 程 め 事 成 12 L 3 む と聞 B な 出 れど 1-カコ 3 は さだか はらじとお B は な 狙よそ人と 4 げ 風 12 ñ 5 < 3 U かっ ^ 給 から なら 宮隠 ちだ 奉ら もな 給 淚 から 片 < なすともさりとてひ 3: らけふまでしられ 一一 10 おばえてまぎら 1-3 11 せく L は T ta 時さらずなら は 知 1 6 る 0 也 12 0 h B 12 かっ げに しはからる 思 31 カコ カコ to 給 13 るべ おぼ て過 n 又たぐ U 12 E < 本 T でもと 木 後男 きとて b T 3 温 かっ T 6 12 て数まへ L 4 1 3 h 物 4 づ 0 なく なば きな 給 は め ひ間 2 は D 4 君 3 B 達 彩 しく せら かっ ~ n お n 12 T かっ 3 43 何 < は 3 6 35 え 礼 h 11 方 44 理 6 住 44 か 1 h 8 T T 木 成

かっ

らん大

ぜうぜんごんの道に入て人をも利

益せん

なしく り給は 覺え りあ に しがちにて親たちの後の世をとぶ く別けむと身を心 もしげなるもおほ る物 なれば戀しき物なるにしるべせし童さへうらめ 慰む方のあらんなど思ひ續くるに人しれず物の とて露の哀をかくるべきにもあらぬを何につけて む方なき歎 ひあはせられて侍從に思ひよそへ給ふにやと心の中 うつばの繪を参ら 御有さま見る人た か あんぜらる て詠 しき所なく年の程よりもしづまりて萬思ひ入た る命の中に今はの夕をのどかに待べきならずい 思ふ事なくて過にし昔やさらでだにきのふと んにも慰て過給 B め より年 みおほ あらば只今にかぎる命にてもやと世 はそひ 臥 5 たる ゆれ か 0) 1)3 ぼそく思ひしりて世のつねはさう て数ならぬ身一つを碎くともさり せ給へるも事としもこそあれ 10 に尋常のわかうどのやうにあだ 數積りたる人だに親達そひ n 成 めるになどしも一人ならず程 は べし我こそ雲のよそにだ ば來ん世にだにいか まじきにうしろ 何さまにもあれけ近く見奉 らひ我とてもかぎ たき成 で愁へな と思 て頼 に頼 3 しく は べ な かっ か かっ

£ ましむれどかなはぬわざ成けり殿には限りある日 嵐烈しく吹おろして時雨 思 りんじの祭など大宮人のいとまなき比も殿の君 きの程にといこほりぬ かふ木幡 殊に御心深 ば又今更なる御心の中ども也おなじ歎といひなが はてぬれば人々 物思ひのつきぬ 係にのみ覺え 心うく思ひついけられて夜もすがら打もまどろまず さるはか らはしたる物なるに及びなき事をしも心にはなれ にてだに其道にはまどふ人多くこそ音も今もいひな ましき風の音もそいろに物哀也さるべきくはなら 許 い ぼれしきま、見え給 ひ ひかはし給 じらひ給は もをか 1 法の くとだに知 の里へも常に かりしかば殿はつきせずおぼし 道を習 7 き繪物語など奉り給ふかぎりなか ふ所々へも御文ばかりは絶ず姫君 ねばいとつれぐ~に詠め暮し給ま 戀しく るに もかたへはまかで僧ども せ奉るまじき身の程 ひさとりけ かあらん我心ながらい へば誰も心ぐるしう見奉り 對面 此 思ひ 程 か 出聞の あらぬ も心もとなきをか 過してと聞え給 b かと聞わかずあら るをこはいか 木 の葉を誘 4 へ出發の 入てほれ へば五 みじく Z 達は る歎 いいに b あ な

御

東 L 4. 2 L 給 今さ 5 h < 5 ~ な 12 かっ 南 T 比 入給 2 L まめ うけ け うと h 3 かっ 3 h ょ 0) 1 本 か 物 L 伊 8 ば な きて 屋 ひ げ かっ 成 3: < T カコ 人 祭 御消 見 3 12 りて見ゆ 殊 わ 0 h を < H め 5 M お カジ 2 12 る 臛 奉 7 1= V2 n n 1= D ろ L お 1 0 とし 奉 さる 0) 身 り給 より 色に け 0 息 供 と見え 7 かっ ぼ < な ī 3 B b 1 か A 3 b 戀 見奉 やつ 文 覺え まづ 12 ٠٠ T 1= 30 隨 2 ^ 3 L は T ~ 宮 な 給 n < 3 h h しと 3 は T 寸 B 人 h 倒 n 人 ば L て渡 0 T で か る 5 2 72 3 あ に帰げ よそ と思 5 御 C 給 并 ま 御 物影 也也 は け 3 L 方 げ ね 事 经 n は 隨 h ぼ 3 L CK L 72 か h 開え 73 5 きい b (a) 御 6 る 身 殿 13 參 L な 給 などく かっ ふもうらや 12 しき 5 かず Ū 0 3 Ť P あ ず 0 U 3 か は 学 12 D は 3 あ B h け 南 Ш 殿 つく か h h ひしらず ぶら よ E は < 物思 V T L 1-腿 F 相 T か Ŀ ま な 憚 な 12 < きし h 御 0) 3 0 が 0 T 人 U まし 見え 3 7 向 ば II な ぼ 君 外 てこそ 目 3 8 ひ 2 聞 け ٠٠ 物 所 b W j 態 忍、 0) 0) U 72 T L ٤ 1: え 事 な 2 < 13 聞 給 かっ h す 3 御 12 32 わ CK な 思ひ < え給 光 3 な 姬 b 7 奉 n 71 かっ カジ D 供 12 T 2 ٠٠ 3 程 此 30 は < 13 F 其 2 ~ b à 3 D

引

3 3 かっ 15 8

かっ 2

し曙 出給 そん そげ なく にて 女親 せ給 しう うざうしとてとり ひよしづきてめやすく 事 5 ひ 1= 1 B 覺えず かっ カコ より はよ 3 あら 紅 にそ 72 担 0 な は あ 3 ٠٠٤ 侍 ぼ 梅 かっ じときこえさ 猶 南 づ 行 ずと ひ聞 艺 め は 0 B 衞 カジ 3 17 かっ 47 3 n 0 は後 B かっ 3 猶 織 聞 給 め 聞 む 1 かっ か T え 5 は 寸 な あ 又 物 10 T b え 1 なし 給まじ やに 1 0 け 3 3 3 h 0 3 72 12 0) h 5 は と思 事 事 細 C 木 あ 72 U 2 づ 5 む 44 聞え給 給 دمع 果 驚 3 す せ 開 < は h 3 長 かっ 8 見の 3 め なば 給 111 3 T かっ 今 崩 3 Ł h 37 2 か 3 耻 n 5 L 黄 心 なく L 折 は るとも かっ h 木 御 3 は げ L 3 \$ 3 3 < かっ 給 0 3 7 契 8 T 侍 じさ 1 もう h は 1 B さまし 治 L 3 小 F T 有 見奉 思 ほ げ 光 は な 過 かっ 5 褂 カコ 12 3 3 2 1-2 Vi 給 3 ~ U しら 12 者 12 1 かっ ど中 < < U 打 から あ T 6 かっ 人 6 8 3 T 1 U 约 0 3 < 拾 3 御 打 つ 13 かっ n j T お なく 3 なば 1 3 カン 12 CK 此 0 II. 3 6 8 n 12 12 ひ開 心 3 0 72 < は 世 H T 13 12 3 な 1= j T 43-3 3 C) 3 3: ま な 0 72 12 T 8) 30 it つく 3 は 5 3 心 2 物 か te 心 から 2 給 12 程 成 1 3 カン お

せか 5 給事 知せ給べ そはなどの給 朝夕見奉るにこそかひなき命もかくづらひ侍れとて れんと思 き御住居も心 ぎりなき今は ながらうたてうしろめだきせうと心なりかし殿の 二月ばかり ほ はんに何の隙りか 日をおくらさせ給事はかたじけなう侍れど宮も渡 せ給はず男の御中に又たぐひなくて住うくおぼさ し頼 ひは たる へと召出 筋に思ひはぐ 年月はさる物にて げなる物 など傳 くやと聞 もしき人 1 ひ給ふ **发に御** もことわり へ聞ゆれ たれ もとなきをなどの給 か て暮ぬべければ歸り給なんとす此御身 るに渡 ら聞え給聲けはひのらうたげさぞか ゆれ ば廊の きゆ との なくては御さだめもたづきなくこ 0 へみ聞ゆるあらえびすの侍るが 程 あらんやがて打そひ聞えて ばさるべ Ú か ばげに聞 3 し奉ら も過 げに今さへかいる山賤の すのこにいたう畏て用意殊 都の 5 つかうまつり侍る કુ T 透 なん き御いらへなどはつく 外なりとて絶ず見 んにもすくまれ侍らで から 置ても年頃 3 へばしづみ過させ ざり Ō 多 Ú か に成 を御 りとてこ \ る おは 奉り 中に n 山 此 3 1

> 常に参りくべきをさすがに道遠なるよだけさに思 ばかりはかなふまじきもわ て御送りに参るよそほひさま殊 心もそひて馴 し京ならん程は常に逢見 哉いみじく思ひあがり我 かき物からなつかしくての給へば思ひよそふる もいひしらず媚 ゆゑ~しさ計やあらんかばか うそくたちもかぎり おしはか あらしかるべきつば物の身なれどさばかりにこそと る心ちすれ今よりは對面 あらじとめで給て打つけにいみじうこそ思ひつきぬ かし られつるをおろ げなるさ まなどめ つかうまつらん事 かしくあいぎやうづきた あ n ば人が るべくなどの給へば我心に なからん絶まは苦しか はと心おとりした か b なる思ひやりに なか も驚き給 にいか は嬉しく覺えけり りなる有様はたぐ らに隨 るべきに独 ひて めしく てさしも 3 人の る都 お も有 後に とく Ū 3 あら 下 3

ん事

誰

も答あらざらましなど心中覺の

るも我

に耻

づき立

12

ひ

ţa

お

び

TZ

1"

T

おは

しつきてか

人をさしそへて

まを我御

方に召 3

いれ Ž

てあ 12

やしく

打つけ るにか

なるやうに あらん

は

n D

べく憚

り覺の

الخ

かっ

な

常

つれまほ

しき心地する移

り安き心ならず我

なが

ばし立べきよし聞え給ぬ御送りの

え 侍 叁 給 慰 給 ひに消 風 0 12 づ 6 ~ は Z h なし b 0 くと 出 き程 U b ば ٤ 艺 滿 / IL 知 ~ 5 3 ٤ 傳 る な 打 2 82 D 3 事 人 せぬ 7 T 畏 思 3 3 思 宵 な カジ 相 る か 0 ひ續 2 ね 心 6 h i n うまつ E 3 0 1 賴 6 ほ h ٠٤ 耻 12 近 御 地 かっ 0 心 は ば H 0 ね تح 3 かっ ~ ね < 5 かっ か 10 ど來 はけ うま は ほ T j ろ 都 さまに 嬉 2 < か 3 E 1 げ 3" 命 b 35 色 0 12 古 め L か 1 も成 程 語ら も猶 な な 成 re 程 n 专 ろ 0) カコ < 7 0 お は は 0 12 3 2 7 3 俄 か 0) 0 ば 其 3 3 ひ給 忍 2 所 用 侍 る け づ 便 3 人 ょ 數 n 八 ~: か h 1= やう < び 歸 大 かっ L b なら 嶋 なく など 7 h ~ 意などい 3 < 人 きに 臣 過 6 72 0 カジ 3 む などお を あ 0 か n つき やし 12 歎 げ か な 心 は 3 な すい た つ めやすきを寔 D 82 3 L 3 嬉 思 きの き下 12 つ は か ~ か かっ 身 まだ とな き民 3 ひ 暮 0 こき仰に かっ 3 n 3 h L 成 もえ L 行 泰 柱 果 身 ~ 折 か 為 0 2 3 きを きび う語 開 は は 外 打 0 物 73 b 3 Da 家 出 H 1 12 休 12 1= 折 何 0 め 10 話 今よ 給 此 ば n 煙 ば 1= は h B か h b T 5 3 < 生 有 君 な 渡 心 6 ば な U T か は 0 お < 聞 給 後 B h 空 ぼ h n な 3 b ひ 2 かっ 3 同

ば百 され さず立 色に 聞 うへ よす 山 は < Ch h は はまじら カジ は 3 給 3 思 C え 有 後 0 かっ とり 5 とな 7: 苦 3 op け な は あ 所 身 カジ 1 敷 12 0 心を 12 6 1 11 1. T 0 0 カジ B 1 0) 折 3 < 恨 h は ひ給 12 ば まじら ね ņ 内 6 あ あ h かっ 坳 ば 0 行 などし あら 大 T 述 E 0 か 見 1-\$2 どか 狮 ょ 4. みまさ B 納 は きよらに は T 花 0 1 思 思 op U 3 忍、 2 を ね F ほ n て今まで 經 なき 給 歎 給 7. X づ 0 3 1-哀 U をさう かっ 秋 す 事 1 思 は カラ 0 T わ < をさ お ひ it T 春 なげ 1/1 12 け か 御 0 a) 2 0 かし 對 < ぼ b n 交 1 は 成 op 成 Ł 15 3 b 3" 成 3 50 6 納 け な I まことし 82 物 5 お 0 稻 は E 行 3 T L h ひ 言 3 3 3 ぼ な を 3 心 ても 0 肝疗 きことに 3 節 1: R け ま 3 か 3 1 1-1 遇 些 會 な 台 U) 年 絕 12 殿 0 まし から 12 話 < 3 < ば h 心 かっ お 月 0 かっ け 給ま 賴 まど 3 0 6 給 1 1 7 御 j 0) 0 B 3 覺 づ 程 御 0 年 果 かっ 63 ひ む 3. しまで 給 3 10 0 か 3: は は 力 1 7 3 返 過 1 此 膝 3 妹 6 せ T かっ 12 b 0 2 3 成 0 黑 ょ 扩 6 君 75 D 7 0) 御 か 衣 ば 2 E ょ t 過 0 人 達 0 \$2 4

ひ

7

思

も随

は

82

心

成

け

h

11

13

何

だり 猶う 心の片はし 机 馴々しくならはし給へるかしこまりおきもあへずみ し みそひ 國 n りし みあぢきなく月日 らひ給 たち有さまたぐひなくのみあれば誠 つるにけ近くて見馴 のみけ近くふせてむつまじくてし給心にて御目 Ba 一へ下るべ く媚きた も思ふ哀は同 女はあまり近くもあらせ給はで若きをのこどもを などのわらひ なれどか から U 伊 けれ ばい 言の は 給 豫守をまめやか て人目驚くばかりなるをわかき心ちになつか しく は きに ば國 をも知 をして参りつかうまつるだに みじうかたじけなく覺えて三月 b る人のい 成行 72 ばかりの くまどは 0 T る あつかひたるはかくやと覺ゆるまで じ心に靡き聞えて常に参りつかうま 事 物 せ奉 にそへてはかはくまもなき沖の 12 あ は忘 つけても人しれ b ひしらず匂ひ深くて起 0 ぬまへに心づか が近近 it し給 に懇に語 à る世もやとたけう思ひなすも るを n の心なめり ぬべかめり思ひ さもあ ふもかけ 方ならず都 らひより給 如月の中 ばさりとて思 て思ひよら ね心の中は物の に淺からず契語 ひより あるをは に引 ふし は よらざり も勤果て n Ó C かつ しとま + ž 心の め ば かっ H 2 h 石 5 かっ

もすべ 賤 事はためしすくなき程 帝 0 B 12 h ず ざやかなる御 b 1= せ をとお ほされて中々たい人の中にさるべからんみうしろ見 見もなくて心ぼそけなる御有様なるを心ぐる なきさまに ねべし此帝は御心やはらかにとが有べき人をもつみ かっ 有て 治り 居さ 誰も 0 なくて頼もしげなき御行末を哀にうしろめだ のを賤のめまでも御憐廣かりければ吹風枝を ね はぐへみ聞えさせ給ふより外は哀をかけ聞 失給にしれいけいでんの御腹 おりさせ給んの Ų٦ て色にも出させ給 でに おぼし せ給 ぼ れてお 12 30 る御代 ぼしさわぎたり東宮も盛 しめぐらすに秋の 此 なだめ御惠ひろくおは は しめされ は 本 御 h をか 事 もあ 上にて何事の ますが御母 ほ 御使有外しく世をたもた けれ 0 く替らせ給 かっ で事有 め はざりけれ なれば驚くべき御事ならねど ば殿 かし出 中納 方 の参り給 けぢめもいちは まじくきらく 3 言 に 0 る思 せ給 は さる の 女二の宮御 しましてあやし ばいと 御程 もとより御心 ひ歎く人 T 幾世 るに き御 一般な なれ せ給 御物語 なら やか ばか 10 う か き物 3 72 多 鳴 < < は る かっ h

はか

なさを知ずが

ほに

て過してん

後の愁は

Z

る

所

參 は 10 心落 せに L T 1: 3 8 0 ば は P ば ひ なき心づ てうし 出給 4 常の 女子も物 御 h かっ 0 3 b ず身は おと h 居 3 け な こそとて かっ き心 じき る世 は 12 ての ど心 A 0) ま ろ て今より 10 カジ お ばさ よりす かっ 及 12 耳 1 2 12 思 せら 給 づ のやみ晴まなく侍 ひにてこそ今までひとり X は 12 きは 有 め 0) ひ かっ 面 なく 12 < n かっき 5 中 お 1 ける 御心 ばうちかしこまりてとも C ぼ 納 目 カラ か となん ñ 1: こしての \$2 とよしとおぼし 8 L < な 12 言 にこそなどかぎり T ひてなを ざめ 表 しこまり しつよく 雲井に らば 給 1 70 かくて東宮に御位譲奉らせ給 る h まう ٤ あらずや宮の 呼 3 4 思 へといとうれ 聞え給 に中 どか は it 2 4 \$ . ござり 見の 聞 0 串 を かっ 10 か 給 2 な 10 置 2 給 納 かっ どけ てう る 思 0 嬉 H 12 11 3 h T る 10 L かっ 7 (a) 3 行 h 10 0 なく悦 ずみ 中 け 程 かっ ナご か 方 をまことに どよし しと愛し ^ 0) L 同 かっ ひをもと思 に侍 納 ぼ 4 B 1 過 0 きどら / C なきをそこ 1 事 きな 3 言 仰 b 1= か -な は < 7 6 CK 仰 T は 3 12 \$2 畏 過 1 3 专 10 47 お iL か 12 せ 心 かっ 剧 物 は 3 2 申 は L ほ とし ぼ 7 0) か つ 3 侍 T a) 前自 思 rh 御 H る 誠 V 世 12 にて ば h 殿 め 0 to 口 1 身 か つ 6 0 かっ お 5 給 Ö 10 宮を 給 宫 b 3 18 め お 0) 3 は

人 12

3

誰

は

かっ E なく

h

カコ

あら よるまじ

ん院は

おりさせ給て

後

御

かっ

V

7

思

0 思

御 本

1

な

tu

ば空

かっ ぎり

U

か

L

づ

3

h

1

な

71

秋にひ なるまで色 きせず ば后 をし なる どみ 12 御 口 \$2 ぼ 13 お 坊 給 T を心 しぞか き御 8 < どまことし 御 幼 太 腹 82 け 御 C 方 しと思ひ 0) か お は 郎 3 前 IL は 心 から 8 < 12 12 0 左 女三宮 5 0 たき幸 12 3 とげ L H 事 L 右 もそふ 御 大 せ 給に てか 聞 過 な 君 給 心 臣 給 大 なや 3 1: え 紛 心 3 7 かっ 2 女 萬 臣 く定まり 給 ~ まし 发か るべ 人に 給 ょ ちさまべくに h L 御 引 殿 て嵯 何に 2 す かっ 后 T は 82 かっ 0 が 給 1 8 折 L な 女 しこに 眦 泛 T 1 今 かいと 3 此 to 非 也 37. 御 12 1-0 か ど何 齊院 2 御 給 ほ V C, 給 な 0 4. か め な 21 10 Ś 30 中 は T 3, ぎやう 0 か 12 か は け 納 と中 柏 0 8 め L to to 1-T 8 B か 成 2 te 12 L 13 L It 此 3 お かっ 45 は す 3 は 殿 U 02 h か 0 御 百 \" 3 御 寔 ぞう 0) 25 ょ 3 猶 かっ 3 11 4 敷 9 御 -31 7 御 113 رمد 御 か 4 6 給 3 御 給 非 处 大 きに h 内 腹 V) H 所 あ 110 殿 h 1-21: 12 3 \$ なれ 3 也 ょ 0) 女 大 < بخ 御 多 h せ

とな 御心 n りて絶ぬ命とも成なばむりやうごうを隔 しき今は思ひてもかひ有まじき歎きは憂身一つに積 させ給木 はわたし奉らせ給ふべく御心まうけ有 にぞおはします女二宮の御事十月に中納言の宮は ざりなど心ことにしそへさせ給ふそれまでは三條院 らせ給て御ほいとげさせ給 中は猶さわ し告も今もなくやはあるかげく か 心もしづかに明暮神 き事に心を碎きて人をも身をもい べき御てうどなど心を蓋 れぬ心 のきよらをつくしてといのへさせ給ふ哀れ て濁江 の世も ほ 0 の中のくるしさのみぞいはん方なくなげ 幡の君 82 もすみ たづらに成ね がしとて故院 5 は りだにしられ h 九 に中々まよはん事よと思 も其程に殿 とぞ過 品 ぬべき御心にてなどてけふまでもと の望み絶 事にてまぎれ過させ給し折だに 02 べき身にも有哉 して尼君の營むを聞に の御願成 る方さへ悔しき御心 は せぬ 奉らでやは過 へ渡し給ふべ んの料と見えて佛 御 たづらになすため しきひたぶるなら 事 成 桂の院を改 て御調 Ũ しとてさる か 3 2 せめて ても浮ぶ ん及 には ば今は 度何 と見え 也 此世 も人 び 0 8 都 作 な ت か ま S カコ < T 0

人ずくなにてはあしからん御とのゐつかうまつらん て我居 暮有 ざせんと思ひあ 3 木も顯れぬべき隙をうか 0 ふ心 てよき折なるをいかにして此程を過さず色に出るわ のみ隔たり行に長月の年にも成ぬ天龍寺に人多く参 思ひつきそめしも此世ひとつの事にもあらじを我心 聞奉らずして過にしを身の徒に成べ まにさしも疎かるべきにもあらねど御けは 外に此御方をば隔てみすの前をだに近づけ聞えぬま もいときはべ~しき人にて十ばかりなりしより殊 ひめぐらせど水に数かくむよりも跡なき心地す尼上 をいかさまにして露ばかりのしるしも見奉らんと お き方なし殿 ん事まではかけても思ひよらずいかで人傳ならで思 ぼさ 比にて尼上 とがになしはてじとみづから カコ を聞え知 るらんに風 たる所は筑地を隔 くる折にこそおのづからまよひもあれ へ渡り給 も白 せんとつくべくと思ひ續 りく のけしきもおどろく 地に詣でたれば爱には人ずくなに にい ひなばいとい雲のよそに有べ 3 14 てあれば人遠くて寂しくぞ じく ひありけどむなしき月 降て風さ ゆるさる き始に くる Š へあ か てか ひをだに にもす الح め と思ひ らき夕 1 日

Ŀ

b

Ł

れば どは いひ はさ きけ たれ る物 か L ス つくべく U D L 3 給 まで き者 哀 くる Z げ 積 成 は ひ 物 娘 け n ば ば b かっ 尼 とに h て此 物 つも 75 'n 折 見え 6 な 0 13 3 か 君 しと聞 納 Ł ち とすれ T 30 3 物なりとも は 0 は 人 72 辨げ より かっ せさ ર્ક 聞 ず 盜 方 思ふこそくる 言 n け < 人とい 居 < h b L ~: タまどひこそわ せさせ給 0) しきし 1= くも て見れ 1 L T 4 1 き人 Ö 渡 ばやをら立のきては TZ 礼 おは むねさ h 其 S 給 人 0 は たや との あら 思 2 0 3 なば尼上 10 ふなる物こそありく 12 せよか ば 1= な 物 2 12 きを聞 U. n わぎ るに れたる すく せら 聲 こな け L 13. こよな 心 ば ず口をしと思 けれ をく 侍 Ď にてをやみ 御 し此 は 3 72 せ給 3 h 5 0 3 前 音に E n 所に な n 5 Ū < 72 Ö さご は 今は 恋 E ٦ 春 賴 屏 < け か \$2 T / 15 to 彭 U 12 b 4 L 近 8 てか め ば 道 風をそ なく B より き程 聞 T カコ ざまに打 かっ しく ひてし 0 0 とて少納 しづまら 1 方 は むと どか え 1-なっ なれ カコ な 1 我 殿 V 1 2 る 降 3 n ばし 5 身 成 雨 3: こよ T ~ 0) おそろ 3 10 13 雨 L 給 渡 てと たて 13 13 かっ 1= 秘 Z か 世 T な な 7 な 立 C, 6 わ 猶 は 思 3 72 人

カジ ず L U 1= 水 臥 L 帳 給 72 な C 15 0 13 もとを 更行を待程 づ 物に をば らば け るは 0 1, b きいびきの音 りておどろ < 思ひまどは ぬす人にや もとはほのぐらきを見置 الد おそろしとも て御となぶら 中に Š 覺え こては 近きかぎり りし 見え 事 1 か お をさなき そは 臥 12 てをの B なき男 ふぎけち づ 物まが 10 L n 給 な 15 あら 3 た ~ 7 のさきし 雨 物 22 < 世 け は こ共い も覺えず 0) 1 n 二三人ぞ帳 ね 12 など发か は 3, をも 一一帳 け ば 12 風 0 h 心 U れば見えずさうじ 猾やまず しきに世 Ł は it 1= 0 地 12 あ < ね 30 3 尼君 3 てい さと L 漂ひてまた ひする 0 などか ばす 泛 しこに E 猶 也 T 1 1 同 1 3 てか 3 見 嬉 0 1/1 か à) ~ 0) にそ きた 人 納 78 前 方 削 U L L 有 らず近き渡 1 くてなきに 人 言 行 < it B 82 かまの 17 かっ かっ づ 御そば まり きよ 給 てや から カコ j b \$2 5 南 1 70 ス T 3 12 ょ It 出 2 現とも をら 30 3 12 2) 3-0 0 Pri 7 は 3 0 \$2 3 るも きは 物ど 思 は 12 程 ば b な てか 見 1= な 1 ん間 2 るさ 風 Li d) 水 10 カコ 1 孙 12 か 13 5 3 45 0 췽 2 发 TH. ばえ 72 3 より 成 君 りし 2 2 ま h 7

はりてながき世の思ひ出にもし侍らんとなく~~いじき身の程には恐しう~とましとだに一言をうけ給ほされてかくも參りきぬるに哀とだにおぼしさるま

くれど何事かは聞わかれ給はむさるべき程のき

を思ふ物

数ならぬ

かさはよも御覽ざられじたい我ゆゑに世にしらぬ物

身一つはなきになすとも是よりまさるけぢ

?有けりと計をしられ聞えむと思ふ心にもよ

し待らねばたい時のまの罪をばおぼしゆるさせ給へ らだに思ひしり侍れど此世に跡をといむべき心地 りかけまくもかしこき御心ちになさけなしとおぼし うつし心にもあらずむげに玉しひもうせて侍るなめ むる苦しさを思ひ佗侍てげにかくまでも参りぬるは れじほのかに見奉りし日より今に安き心なく身をせ 月は過し侍ぬればおほけなき心の程はよも御覽せら かんしくも續けやられずいかばかり思ひ忍びて年 くいひこしらへ聞えんと思ひし我 てたい泪におぼられ給へるをことわりの事にてとか やと思へど聲出すべき心地もせずすくみたるやうに なほざりの事をこそいへ近く臥たる人をもおこさば さわぐはことわりにも過て罪さり所なく身づ も涙は先だちては 8 か 辨などにけしきしらせじと御耳にあて、月比の心の はならんだにかばかりなる事の世のつねに覺ゆべき ど起あがるべき心ちもせずせん方なし に濡たる 御くしをかきや りなどし 奉れど たいなよ さまにてたけき事とはきぬを引く、みて泣臥給 中を誠に忍びがたげにいひしらせ奉れどかひなき御 のみしづみて御心もなきさま也 しき御心まどひに消も入ぬべくかなしければ只泪 ならぬにまして思ひよるまじき事のさまな に猶しづめがたく なよとして消も入ぬべき御有樣の身にしむ心ちする をやる方なくさわぐむねに引そへ奉りたればいとい おぼしまどひ給たるさまもいとかたじけなし汗と 覺ゆるも淺ましくて出なんとすれ 近 く臥たる宰相

は 道なき心ちすさうじをやをら引たて、出れど雨 らゆれどかひなしおそろしくうとましかりし 命ともかな」猶とく出さんとおぼさば おぼし出よといひ知せ聞ゆれど打身じろきだにし へを聞せ給 ね 玉しひは君かあたりにさすらひてけふをかきりの ば人も驚かぬさきにと出 へくだらん道のしるべ る心地夢に漂ふよりも 12 もし侍ら 一言の御い ر ا ا 風

そは ては ぞと を驚 地 ば 御 も現 る事 ٤ る つく お ぼ け 御 覺 なさる 20 3 わ お か 13 とは ぼし 7 か とも せ B げ せ え n 宰相 L 3 ひの 12 3 め 7 かっ うの ひて てあやしく あ n せ T お 12 聞 お 3 額 給 御 b 何 ぼ は まじ しく も人わるく 3 かっ ځ ばえずいきた そば と苦しげに あ 物 な 御 さまに L 3 n 1= カジ 3 物 36 語 出ざら 12 3 思 續 け 1 B む 歎 tll 8 12 かっ b U. D 0 カ 82 か。 < 3 侍 0 Ł t 物の B は 0 0 < 12 0 きより 3 12 人 ・ぞあ る御 3 御 給 御 んやはと思ふも 色を 1= 3 13 h b な 御 13 カコ 身 12 聞 かっ は おそろしきを近くもとの 心 おそろ L る心ちもし なる も皆 てう 1-12 W 13 けしきの ば 3 5 \$2 知 3 h 我 おそは 'n 所 物 か 聞 ば ぼ かっ せ 方 姬君 せ 火 ば 13 しとうとましか しさ 本 3 1-づ 0) 1 10 3 50 御 A あ 12 彭 3 U 5 111 打 ばな 12 ば U かっ は 23 身 增 1-せ 消 臥 カコ h 給はず 給 てく 5 出 にそ b と思 立意 W 3 な 1 は 15 T からと せ給 1: 37 け [11] 2 個月 お 82 てあさ n わ にはさる ど間 ひて 6 ひ渡 12 る 給 な る C しく えつ を 今ぞ人 なご 心 押 冬 る 物 15 1 まし き心 b 3 は 1= かっ 嬉 h 統 け 1-W げ b 給 b 思 0 L 木 12 1-ろ お 12 1 0 T

まし 物 ば 思 るう h 也 と云き 3 を E I 多 め か ゎ 7 か 尼上 づ 2 5 2 n 12 2 1 出 おち 1 わぎて萬賴 納 T 3 まり か < Ł 2 い T 72 2 à 言 10 12 る 心 打 Ł 8 思 侍 世 礼 な 12 をせさせ なやましくせさ 0) 山 0 0) tz どた は 3 聞 乳 5 里 哀に な b お 0) け (1) C よ る か ひ か W ほ げ は 制 L 0 0) え 郭 3 ž な 此 なき 人 12 T 3 は も覺え n B L 給 きまる カラ 1b な カラ 世 とり 12 御 L 13 n W 6 1-侍 夢 ٦ み 命 から る B わ 2 人 らに見習 0 to 心 C 1-か 艺 存 5 1: T 心 1 1-1-か ど苦 5 か n うど愁 T j Ž. 世給 思 よ 力 げ 命 h は 5 0) 御 伦 折 1 樣 覧 げ B 1 2 まじき 15 御 お かっ ~ 3 やと かん 211 け 1-な 行 3 亦 な L C ょ 大 3 0 5 ほ 3 12 末 を ~ 方 13 n 心 づ 3 T 3 3 1 13 1 ど思 こそ n こり かっ ~ 2 地 か 御 人 活力 信 な ā) かっ 例 T ひな をさ 3 C な 0 た 3 6 V 3 90 11) 起 収 旅 は 9 る かっ U かっ あ あ b 75 L 12 n 3 3 か なら < みに ど開 80 よ 侍 3 す きぞう こめ わ 御 1, たこ (i) は 見て ľ, 13 3 ば 心 かさ ~ 3 3 人 かっ 3 W < 82 10 か す 约 か 心 ち b む 侍 きて ٤ 心 世 11: 給 专 21 < to な 30 地 ٠٠٤ 我 12 T T は かっ T 3 70 は 1 す 汨 3 な から かい 0 h は 1,

て船 物せさせ給 けしきをなど例 にてひるのおましにか るや夕つけ るけは きつひでにもなどこまやかに語らひてなつかしげな ん年頃はかばかりの事をだにはるけがたく侍に嬉 ひの道の果より生出たる人と露も見えずぞあ おそろ 岩 て尼君 3 ふかと聞ゆ 清 水 ら語り聞ゆるになやましげなるさま しきとていみじくくるしげにせさせ ならず見えさせ給御心ちなどい 物 語 向 J. れば宰相辨など此夜よりそい ľ たはら臥てことずくなくる たりい つし か此

かっ

1= 御 御方

へ参り

給 納言はかくるにつけても人しれぬ心の中には有 をもとよりあらせられければ何事もあ ŧ, ど只今萬ゆづる方なきもさる事にて中納言の事おぼ うとく申 金泥の三 も成ねれば宮の御はてにて御法事共樣 行方もいそがれ べき御うしろ見もなかりけれ 82 月に供養せらる、僧にはみむろどの僧正いみじく さすべかりけるなど驚きいふにも御顔 侍らん殿 ておぼしいそぎけり童下仕など口をしか かくるついでに年比のほいとげまほしくおぼさる て近くて りけりといへば物などのめ見いれ聞えたりけるに 御身也女二宮の御事月の中と定められければ何 おきてさせ給し筋もか 御心まうけども へるされどたい今はことなる御心地にてもあらざ 一部經 あげ給へるに今更なる御心の中ども也 は又もかくるめをや見るべきにと思ひ給 へ渡り給はん事も近く成 かっ の御手をれうしにて殿 日の近く成もうれしかりけり十月に おろか なら たじけなくて猶そむきやら ばたい院 んやは御 12 るに か 母 0 0 々にせさせ給 500 書給 n かむ心 御 御ひとつに 方などさる 事な 祈 かぎり る正 殿 地

も侍べ、 かられ

き今よりだには絶じの哀をかけさせ給べくな ながらさのみや人のつらさをもおもひしらで くよしあるさまぞたぐひなかりけるいはけなくより

包ひ多かる物からいといたく心耻

かしげに用意ふか

らずきよらにあいぎ やうづき 見まほしき さまし

て物思ひたるさまに見ゆるもいかなるにかとあやし

ねど物をいひても心は心としてともすれば詠

め

をし

けれどかけ

ても

思ひよらざりける かたちは

世

12

T

御めに近く御覽ぜられて侍ればうとからずおぼしめ

ではるけき御もてなしなるは憂身がらとこそとは

1

されなむと

しは

かる人

も侍れどいとあまりなるま

き思ひのみやむ世なく苦しく成行をしひて思ひさま

なる な 置 思 づ n Ł な n h 日 D 忍、 を B 事 0 御 为 12 す 例 12 7 かっ よう まり 出 御 かっ は は びて三 5 聞 12 < は 0 15 0 姿 こりか 同 聞 12 h え ば 見ゆまして近き あ お 2 5 U ぼ ばやとぞ え給 お かっ h 月 御 0) 條院 女二 < に な 12 な かっ か H は さるを 院 72 きまで 3 30 は 30 7 C 0 宮に もあま 3 送 B かっ は は は お ~ 参り 3015 なら は 萬 て悦 お 并 心ことな n は h 72 参り すさ ぼ 12 す 物 給 見え 7 7 び 1 つしか とら ず宮 きし 3 權 御 御 1-13 給 CK L 0) 3 30,00 まじ て出 < 人 給 申 け 歎 < 大 儿 け T 3 心 3 納 3 な 宮 は 御 4 お げ め かっ 帳 100 用 官位 給 給 言 L ぼ 聞 る n お お 3 な 0 5 0) とら か 意 ي سي 覺え給 3 御 せ 3 1 程 1 中 御 L W T 0 しう 心 悦 給 3 な 引つく 36 0) b 成 0 0) カコ 12 人 お 0 ず 給 とも ど寔に 心 rj 2 增 ほ 1= L 12 L か づ 0 Ĺ 思 大宮 C かっ h 3 T 1-け る は かっ ^ D ち / はさら 給 1) 1: 赤 かっ ば U 77 1 牖 6 か かっ h げ 0 帝 1-神 きを 聞 10 殿 担 け U 3 0) かっ 名 は へど及ば b 72 お 1 え は は 忍 な T 心 な h 0 かっ 品 0 3 0 出 月 納 程 給 Ò まづ t かっ 御 な ع 也 あ < U ろ づ き 12 6 智 給 6 30 + 見 聞 け かっ め

> 思 け 出 た U الا 6 3 D 7 カジ 3 ~" \$2 0 は き心 くぞ 外 T しく す 1= 6 出 我 地 5 か j なが 給 な す to か 3 3 け T づ らう きよ 頓 方 人 1= 12 ざき お T 御 72 カコ 6 は と人 1-7. 文 てと思 12 本 b お か は 1: 0) 'n 給 結 道 U 3 ますに 御 L ば 3. まるよ 6 かっ h 11 1 3 常 3 0 1 心 3 11) 周 B 洛 け V) よそ 思 12 ひ 3 居 約 33 0 1

なら 3 入 申 F 孙 1-15 女のさうぞく 0 1 つ じ女 U 4 てならず 3 今朝 かっ 思ふやうなり it なこり 御 1 せた 有女ば 給 U 5 ( 0 宮の をし げ 2 0 は 0 きし ま Ź 2 猶 T は とて B 思ひ を うちぎの 御 5 L ^ お ば 25 -H-からら か は わ は < 5 ٤ te た ま長 人 L 2 打 3 5 0 n ٤ げ た とつ T 習 T 3 W か 12 2695 すそにひとしく 1= 閑 時 to 74 な ぼ カジ 時 3 かっ +; すべ 13 1 書 所 3 44 雨 雨 け ど例 まし なく 序 給 3 13 見 人 な は h 女 L 3 木 下 L 女 かっ 殿 郎 3 げ 有 給 RIS b づ 0 か 0) 事 に仄 花 0 給 かっ < 70 花 御 ~ ゎ < 11 包 精 T n か 13 2 12 など 殿 ば 御 枯 か て影見の き人 待 手 出 1 L H わ か 2 2 H 過 見 15 12 T 0 33 C 所 給 L 3 T 1 ば かっち 5 御 T 御 TF 0 物 3. 0 企 殿 使 沙 かっ か 6 な 萬 63

いとか る木幡の 出 心にてやみぬ 折は心やすく忍びても見 ども渡り給て御心ざしもさはいへどおとなしき御心 はなたず成給 大宮うせ てかしこへもそのよしの給ひければ尼上心を盡して か 人もある から きに我から花やかに ねをさらしぬべき身なめ なる物 に成ねればこば 給へば誰もよき事におぼすべし大納言殿はか し奉る今は有 おはすればあさからずおぼしてこよなく慰ひて見 ばなまくやしき心地し給けり今はいづくものど C 給ぬ 里に なくそいろに わざなりけれ ねば今は打絕とがむべき人もなければ にて あ りとおぼしたり寔や東の對 も弁 るよ男とい 45 n りた てしばしはつ、み給けれどさのみは有 かっ ば中室なるやうにた しよりけ な たの び る る折 給 もて出たるさま男の習ひは など限 姬君 とさすが むなしき月日送り ぬべしと見ゆるに 3, (= りと思ふもよしなかり るべか 物の もむかへ聞えんとおぼ 物は か有そめ給 りなし人 2 ふかくしもしまね りし人を我人に かくこそ年たけ 数か 10 け しくてく ょ に住給姫 n て都 h は 御心落 ず 殿 心 御 12 か たる 似ぬ 畫な 完し さす るべ 君は Ú か \る あて か 心 ば

> なく る折 る世 事の罪さり所な たる事よりもさるみだれのあらん れ奉らであやしき世界に て命にかふるためしなくやはあるまして親にもしら い りも中々ひた道にぬすみ隱してともうきため らに心一つをくだき侘てくらき道にさへまどは しばじにてもそひ奉りてしなん命はさらにいたみあ なくて憂名を流しいかなる罪にあたるとも我為 なる野山の中に るまじ此世ひとつの思ひ出は ついくるは同 道にまどひて後の ひ傳 のさわぎには なし奉りてなが 々もあれどさばかりあたらしき御 へられましをのこのならひは后の宮を取 じくは我も人も身をなきになしてい でく天 も居てかくし聞えなば誰 世 あらじなどた が下のことぐさにい き世の憂名をとい をさへ て生出給 むなしくやなさむ とる方有ぬ け き筋 とても へれ めさ に思ひな ばもてはなれ 身をいふ は あながちな べしひ もいふか 和 せ開 たす は にや んよ ひ か は

清水物語上

岩

御た

めを思ふいたはしさにたえの身とも成は

思

ひ

返さる

などか

人にもしられ

奉り

給は

ざりし

か

たちをかぎりなしとばかりはをさなか

りん

11.5

の中ずみ

のない

ほ

0

か

12

も見奉らざりけ

か

御

言 U 亂 給 な 3 氣 な 方 2 ば 后 6 で 1 3 L かっ T 1= しも女房 參 6 ぞ 行 る 色 給 b あ 誰 3 2 宮 n か うず は 0 若 カジ b 有 Ut 末 あ 成 3 思 n き女房 むづ 怠らずとく L 1 カジ 伊 は 御 け 幕 か 御 か 3 しっ 2 7 け 豫 Ł 专 聞 12 あ 0 3 3 月 方 憚 ょ 3 n V 必 12 守 中 C 0 かっ 大 2 H る あ 0) 元 など常 Ė 3 しと 納 殘 近 70 か 0 3 5 な か L 3 心 どは 35 多 1 ば T を 13 な 言 行 す き心 けまく かっ か どす どは も思 見 け ぞ 衞 72 打 は 事 3 い b け 亂 隙 なく E 12 0 1 か かっ か か 0 かっ 方 0 な H 1: 72 な 3 ひ 13 ま きこそ 知 B 殿 12 10 1 給 3 5 け 12 す ~ む 12 せ 0 1 0 見 < つ か 0 3 女宮 ばやの心も立そひ 心 h 3 は む 0 n ~ 詠 しこ L かっ め にこそは 心 10 ど誠 きに ば 我 我 E 猶 L 3: め L け 8 b 0 め で 暮 5 くて か 心 b 6 n お ま 給 5 よそに 2 は でとなどの 12 1-は 女なら でまどひ る 0 Z ひ L は < 1 0 没 b 中 ょ 王 < < は 琴 なり もて L 1 Da ~ より ての 笛を T 見 かる 方の し給 10 か 程 3 L 戀 げ ば U 6 B 82 け な 物 な 3 す 事 1 見 は け 多 慰 L 5 T 外 6 h Ł て猶 3 給 は 契 1= E かっ i) 0 12 聞 は 5 3 0 0 ま 7 思 哀 な な 大 な 語 後 T 事 來 え 8) 0 10 かっ は 納 3 カジ 2 い 3 6 け 8) かっ

らう ぼそさ の木 送り 集ひ ば 3 は F 来 尼 後 給 お . h 近 3 b 72 < 3 Ŀ 1= ぼ 片 82 近き賴だに 淚 82 かっ かっ な 哲 5 に b 10 tz 賴 草 T 事 時 .h B は **^**; 隔 3 12 か 8 参る車 なく i 暮 2 是 7 ぞ少の 8 げ な 所 ば お 何 h ~ あ そろ きは 世 目 1 こしかし 聞 心 御 D b 8 姬 な 13 て過 打 0 0 b 名 君 3 え け ~ h かっ なぐさ 離 72 なく 2 L 3 有 3 な は 事 0) 殘 B は おそろ 1 2 と念 Ë す ょ とまり 马 L ~ 8 嬉 心 4 かっ N 3 お 雲の 多 0 成 3 歎 給 出 b 玉 X ~ ほ L 0 む物 め 3 げ L E L 72 3 3 事 かっ 12 < 成 言 て哀 ば車 上申 心 ひ h よそに 程 1 < L 尼 3 な お 命 け 15 は 0 年 11: 报 嬉 て行 ぼ < 0) 君 型さ 3 程 此 程 御 也 頃 L H お 寸 かと まし 思ひ 御 頓 住 < 0 15 产 先 立. 物 お は 0 13 ぼ 1 JE. 身 6 1 は -[ 馴 成 総 物 は 3 30 は かっ 8 公 御 なし て人 給 T 紛 ぼ 猶 T T か \$2 1: 行 は 渡 ş op L 御 3 b す 35 75 多 H ~ 月 ば 出 3 聞 所 迎 10 < か b 6 片 5 0 1 7 H 7 0 な 111 かい 10 6 32 11.6 かっ 0 殿 売え 1/2 も は 12 0 3 i) D 尼 か 3 12 h な 年 h で 3 3 程 給 T ič かっ 比 御 h 3 10 0 0 四 な V 湯 住 定 文 か B K ナナ b H T ٤ 心 1 1 方 御 \$2 b 0 馴

3

りい とはかくるをやいはんと驚かれ給ぬ昔人にもかよひ 引入るよりけしき殊に見馴 をひろげたらんやうにてうちぎの裾に さしむか えたる事 見え給ふ まに近く居給て見奉り給 なるなをし姿にて参り給へりゆかしき心のすくむま ながら我鏡 へ渡り給 にもてなし給ふ暮 るべきけいしどもに仰られてあるじ方の事有べき様 でられよへだくらんは思ひの外成 いとい思ひはなたるまじき人も物し給へれば常に詣 しつらはれたるにおろし奉 お ぼ 言にぞいとよくかよひ給ける大納言もなよらか かたはらめ御ぐし しおきてた へ給 び給 おろか也こちたくたまり もなくていと耻 親はらからと聞ゆれどをさなくより見馴 へり火近く取よせて見奉給にめ の影に ねべく見つれど匂ひ へるをはした もよそへらるれとたとしへなしや ぬれば殿いつしか見奉らんとて對 り大部 のこぼれ 言は か へば有しよりは なくお しげなる御さまどもに りつ女房の局 ぬ心地し 伊豫 カコ おは おた n ぼしてそばみ しなどの給 對 て西の對に 3 面 かる程 あまりぬ るすそつき扇 かっ **猶光そひて** もかいやく までこまか 12 給て今は . の 御 給 ぐし わ T 御 ž 聞 方 ても きか 院 き籠り給へ あか

1

内容りも思ひ絶ざりし年比はいとさうべくしかりつ 見む人たいなるまじきさまのし給へるをかへり の給て哀におぼし出たり我もく とあらましかば御身をさらぬ後見にてあらまし ずしらずして過 臣右大將など賴 づかひあり女院 御覽じ置せ給へれば院は つらくぞ思ひなさる、やかくて此宮の御事 れぞかぎりなき人の御さまなめれど猶いふよしなく なきさまにて匂ひやかにうつくしげに へ歸り給て女宮を今更見奉り給 るを今だにいつしかとぞおほしける大納言は我御方 ひはやむまじきなめりと物気也殿は此二十余年程見 どはたとへん方なしと思ひくらべらるくに さまことにあいぎやうづきらうたきまみの さまなどはおとり給まじけれど是は猶 に移り住せ給べくおぼしまうく大殿 D 事なき御行 るを世 一品宮などは大方の しける年月の隔 もしげにてつかうまつり給 0 末なれば心苦しき事なく 御本 おもしすくなしと 意途させ給は も哀に へば何心 きはひ参り給 御うしろみ左大 て同 おはするを是 なくうらも 13 世 猶下の かほり h めやすく じく昔 か をそ も思ひ 0 御心 ては など つ へる

とに 方 なら 兄弟 ば 此 3 L 东 h 心 2 12 0 お 3 御 0 カジ ぼ 0) づ 御 h 宫 事 3 世 0 かっ H ろ 30 事 か 3 D やう 大 歎 語 T け < 老 ぼ よそに 3 事 道 < 事 中 行 0 御 お 3 地 あ 方 1 B اج Ē 殿 ぼ 取 E 5 0 と戀 2 末 め 思 御 7 聞 艺 世 多 7 b 有 B せ かり 身を をさ つぎの ઠ U などの 儿 聞 は 0) け しう な 木 T 見え 0 御 君 10 え 幡 有 12 盛 達 37 な ぼ 左 樣 ٠٤ 0 は -1-C 本 in 0) 3: 0) 給 18 御 2 < 1 | 1 は 11 な 尼 給 -給 1) は 御 見 h 0) \$2 唇ら 始 思ひ 0) -17 事 12 け L お 12 君 か わ お 當 給 Ł 後 などし 成 叉 ず は は 筋 姬 12 る -[ 15 か さす は 殿 2 ば す なら す 君 を てそ 聞 送 寸 n た 10 ~: まかり 怒 世 7 rh 給 3 1= 12 入 なども常 10 h から 1-な カジ 同 消 1/1 給 など慰 b L む 置 カジ 宮 程 ひ は 3 は 3 1-L 聞 ず 15 15 ~ から C 殿 寸 本 0 かっ 5 7 ょ 3 給 は 聞 h j 17 さまじ か な え を T 17 心 0) せ 12 5 大 5 えて B 心 木 6 ( 給 かっ 12 - 3 め かっ 12 ~ 納 參 紛 3 6 3 9 35 C 忍 歸 かっ 3 かっ L √. する 5 引 舋 < 給 6 Ż 13 b 3 ナこ 3: b げ 3. 2 h きいし b 事 給 别 ち な 0) は b 13 Ł は ~ 御 ~ え /\ 大 常 學 6 は は T 命 30 < tu H T 3 和 10

見

3

は

かっ

慰

め

也

中多

が御

T

2

のか

か

たか

は

5

3.

C

5

0

<

I.

也

ば

0)

三十

Ž.

U 1= 2020 た 3 5 0 た ろ ま かっ る 0 あ 专 に残 見え 5 住 月 0 帳 戶 道 け 3 0 6 覺えず 年 \$2 6 まで 尔 當 多 獪 0 h 2 給 H ず 12 12 0 人 6 ば 1-L Z にって 寸. 船 Na 陸 かっ h あ 方を立 詠 戀 るさ 1-有 b 離 T 111 T 御 12 3 D を見 御 む は は 1) 住. h 12 かっ かっ 手. 人 難 き事 多 影 Ų. 調 il てく < ع を とく \$2 來 な < 悔 30-36 ども 4. 見 P 3 3 似 度 め (i) 7 さす 1. とぞ 1-0 などは 3 3 カラ 宿 h \$2 0 L Ł 世: しう < 4 b みまさ おまし むなし 1 2 から T 彭 3 抗 思 2 さまむ 3 01 3 息ご ば 10 當 じう ري 見 殿 Ill 木 あ 0 10 3 寸 阆 柱 0 !-12 It 知 12 0) 联 伦 悲し 改 はか はず i, 12 1) Ji 3 | 5 柱 から ょ お 1 0) W h 嬉 1 は 0 Ut 3 T i, 3 (V) 新 1-4 6 -まじ 热 は < 1) ivk CK 12 5 2 む, 1 70 i) 思 所 1 3 0) 111-4. 2 か 歎 0 人 T な 本 彭 か 3 を 176 持 帳 0 3 見 3 かっ U 3 か 4-TE 7 7: 具 型 ~ 12 3 It 3 0 きに 此 す U 1 1 0 あ 1 3 獨 0) 御 は 功 見 分 5 か け か ivk 見 から W あ 11: 入 0)

心ざし もさして其ふしと耳にたつことはなけれど物をい らんと慰ひ所なくぞとてたい大方にかすめた とて哀とだに くのみ覺えて見えぬ山路にのみすくまれ侍にもか とはりも憂身の一つにきは こそ仰られしかといへば柴の庵のしばしなる世のこ そおぼ 心細くいといとまる心も侍らずとて泪 はさながら人影も見えず寂しさを見侍なんいみじう のほいもたがひてとる方なき心地しぬべくなむさり なき命の中に きのそこはかとなく物哀にて何か く頼もしき影には賴て聞えさせしにおはしませし方 よりつ る道のみ誘は で給は 深く侍ながら猶引方の山路にまどひなば年 さめ一日も是に見えさせ給はずとて物しげに ト尼君 しらか け 10 3 は絶 おぼしめすまじき身の いぶせさは侍らじ大納言殿も嬉しとこ の戀聞ゆる事など語りて爰にも何とな れつへ常に關白殿へ参りて辨が局 な」思ひく てもしらずやる方なきまくに行ては歸 0 02 かっ 心を盡してもつかうまつるべ 72 みと思ふにもそもむつまし 歎きく まり侍にやいづくも住 同じ雲井の 程 てもつひに < は何の頼か みた る事 る 御 ゖ 立 5 住 ٠٠ Ď 頃 ž 0 う 居 か 3

ひ 中々頼もしき方は殊に有べきを世をかく物うげに思 12 え給ふともさるべき御めのとだつ人もなくて頼もし 給へ雲井に も尼君計りの力にてはかなふまじけれどさなかが 0 く君をもことに思ひ聞えければ入しれず心一に 心地して心一つに思ひ歎かる げなき尼君ばかりにてはいか 今にまで此人のいきほひにてこそかくまでも成た 御為にさしも年比思ひはぐくみ聞えたりつる心ざし 物思ひに世中もあぢきなく覺ゆるにやあらむと思 しづまりたるまめ人といへごかぎりなき御さまをほ なはぬ事ならんと思ひめくらすに色めきたる事なく 思ふ事有べしと見ゆるに心え難く何かば る身をなきになしていかなる方にも思ひ成 よらるくもいと淺ましくさりとてさば 72 る御まじらひの程にもさだしつかうまつら かにも見聞 みじうしづめたるけしきのもり出 ひてともすれ るも いか お な ばしたつとも殿せうとたちの數ま て有まじき心などのつきておほけ ば涙はうきて誠 るべき事に かっ と我 いは 若けれど思ひやりふ に忍 さへ思ひつきぬ あらん此うけ びが るをいか か たげ りをし かり心に なばか さまに んこそ 思 な へ聞 げ C, か h

すれ ず生 思 よく 5 まの あ 有 何 n B ٤ 身 給 3 け 0 کم か T 2 思ひ と生 出て け近 程 なく る õ 心 15 聞 打 3 は え 給 をこ 思 は 有 H n かっ 72 なしてともすれ せ 大 0 あ あ 2 みだ ぎり とけ B ば 13 3 馴 程 しと 心 5 な 納 ぎやう げ 有 和 NE. 82 2 H なき御 げに 見 心心 3 まさ h 身 0 は 3 あ か T U) に知れや給 とかが 歎 心 は ほ 怠 0 心 0) 御 V 地 づ 見え きな 地 b ٠٠٤ ず 程こそうら 地 方 かっ きた おも する 1 な 10 有 くさまじとは覺え給 な 8 かっ L ば 26 と言 B < る 給 7 う思ひ 17 35 您 から てこよ 火を との をか 打 有 ひ Te 3 を 5 到 b あ 3 まじ は をさ かな 韶 しう 見 5 かっ かっ 畏 C 72 しこ られ Ñ 72 打 8 初 10 なく h かっ 1) 12 0 L 給ふれ 影切 なく 3 12 は など思 成 かっ 5 3 詠 b しう思 き人 1 事 ょ 3 物 遠 1: 12 過 て宮仕も心 例 3 E T 3 3 'n さまに દુ よりうと な 步 n 0) الح ひ 我 見 0 打 الح け ひし 包 深 B 待 3 心 かっ 2 同 は 御 打 き心 n b よ 心 1-初 L などさ 悦 まめ 目 亂 5 6 2 か せ カコ T \$ C ょ n 0 力 3 1 3 は 1-13 3 1 n 0 心 F か 47 3 3 外 侍 73 絕 3 男 は 2 礼 3 4 7 n 1= 0

世 きに 出 n 事 から は V ~ かっ 過 出 L 7 b づ T < h らず 見ま ば は É 1-2 給 物 かっ < n 3 艷 n 此 け 1 隨 な 共 かっ Ł 風 まうで j 0 ~: あ 3 世 ずか 忍び 3 か 也 家 有 3 媚 は 2 3 0 物 3 3 1 3 で 思 な T 凉 身 な 世 0) 0 ~ 0 T 5 n 15 生 み < カジ か ば 思 手 0 1= 事 か 0 め まで 覺 伦 12 火 12 かっ 12 S b 3 かっ 2 あ 30 Ł 3 0 6 1 5 100 出 ぼ 14 む は な かっ T W b 12 包 ね ち な 只 3 まで n は h な 0 0 0) から ま 3 思 0 6 あ 0) などの 香 力 天 3 0 ば 5 3 け n 0 0 3 人 W 3 ひ 3 さま は な 20 3 今 な かっ 0 ば ち 7 かっ かっ 0 ふすま引 どの かっ は 渡 は 3 な 10 かっ 取 12 L 3 げ ~ カコ 6 に N'A 3 n < 3 かっ 72 3 かっちょち ことに h \_\_\_ b 3 をや 聞 は 物 筋 給 h 垫 义 地 跡 n まは きせて E え 扩 ば 契 今 所 あ 絕 1 T ば 思 よし 10 3 侍 らでそこ 3 T 都 T 0 派 ---か +3 72 る は 待 12 (" 有 7: 18 げ 1 は 0 T 7 3 2 なると CX 3 お B 我 お 御 成 栖 3 15 遠 2 きて 3 け 我 J 111-此 H 3 は n 12 D 7 包 名 は Ł 給 to 111 から 3 心 は 111-す 77 命 かっ 戀 ほ H 0 あ 验 0 6 1 L かっ 0 かっ 3 かっ 更 川 Ł h 3 な な カコ かっ < ち S かっ 82 3 道 3 h 2 U T

身近 やう を始 めが ばさるれどあか て下行水のわ やなどことが一なくほめ思ふ く成行も前の りを見習ひた 人なけれ をつくし 見るらん人のうらやましうおぼえて参りたる折 るよりい あらんあ 思ふべけれどくだれる身と生れ < n の世の勤 そくつ たか 事 折 め はなけれどかたち有さまの見まく 々もある きさまの ばか かひ るべし此 いぜん b 7 かなるにかそいろに T めが 萬にさまことなら にて高 D 世 Z 時 ひなかりけりさすが郷の中にて賢 ならし きか 王のか くめ ば世 の事にやと我ながら思ひしらる 心地に是しも心に 世 n わかうどにてある此伊豫を見 0 大納言殿の なくのぞき居た ~ き家に生れ みじうの 一中なべ 3 光 給 だくしき御顔 りに人 しての あ るが ぜち てい 1 2 しられ 御方 を聞 なが 心に とげ お 0 んか 覺 0 君 とまなき心ちどもな 12 10 n づ から 12 12 h るは 5 るは しみ返りて忍 かくりて何と にをさなくより じ給へ ど思 から 心 いともよほ 見 給 はよそへぐ 0) いか 2 の中は猶 ち 3 大納 御覽 š は か め ň しく るぞと なる 5 B 5 言 Ē 始 C 1-あ か び難 へき帝 えし 五 3 は 明暮 思ひ めけ は やと L 知 な 御 12 枢 n 節 3 3 な づ か 3 人 に權 夜な し心 都 は 給 心 て殘 3 あ 日 づ る n n 多 に成 か 1= 殿

わ

12

前

らふを聞給 そ有難き物なりけれ猶常陸の りて哀にお らしくいまだ見給 人こと御方よりもよういも世 て見るに多か よせあ ふぎ出さる にはなき程 はえあ る人 への の音なひそよめ の程をおぼし出るにうとましく思ひけたれ給 たるも此度ば かるべし三條院にも參給 大納言色改 て事どもとく 0) 3 は か 太 なく参りつどひて人 3 にもげにと見くらべ ぼ 72 か 郎 る殿 よりて女二宮の n 0 しめさる き年にて代 ちよ 君 ~空だき物心こと也参りち かた 0 B てまじらひ給 上 は かりと御覽せらるへには く心ことなるをえりとく 內 物を見て是に侍らひ 人の きる 0 ちも彼國 ぬ事なれば女房も殊に見はやし 0 ひひて殘 事 お 中に Ú 0 果て殿 10 始 て物も聞 御 國 もかた 1= る人 L て君達手を盡 ことし出 ~ なれば心を盡 給 はめ 方 げき殿 ぞ有けるなどい るを珍らし しらずけ へも参り給 なく へもさ へどおそろ えず ちすぐれ でたき所 ij 参り 0 し給 中 b カジ ジ 御目 物 12 ふ たきま 3 也 姬 と待見る 0 して舞あ 女房 130 見 へる へさ 成 12 君 けりり るこ h か ひ は ž 童 τ とま 0 此

覺えて じろ 名を げに 顏 3: よす 3 5 面 1 などなべ 72 かっ 0 0 3 5 12 F L す は かっ 3 聞 E あ 思 お 3 5 給 U\ T は 事 給 內 B あ る かっ 0 U は 12 1 ひ 聊 しきをは 也 で 3 づ わ F す 7 3 は 3 物 かっ 12 70 嬉 な į き女の P かっ Ł T 0 くらく う 6 と思 3 け 聞 あ 1 は 3 押 7 1 h 10 は 給 12 引 h あらじとさぐら かっ 入 かっ n 1 言葉 b 聲 てさし み B 手 3 よす かっ 人 U は んとする程 て見え 1 U けしきなれ お などこ T 3 近 也 T わ な ざまな カコ 手をやが 1 凌 らは る人 10 < 3 る 打 かっ など具 3 かっ あで より 人 0 かっ b ず只きぬ ましく 15 1 1 1 め きて 13 有 しこ 色 は 有 め h ば 0 T h かっ 爱 獨 す 3 11 な 72 てとら 5 T まり 猶 我 寸 にて 3 心にてすさび カコ は 成 奥 3 3 てつよくとら غ 居 < より 1= 物 聞 B カジ 人 0 南 お 1 D 1 たこ 文字 12 12 0 弘 T B 1 3 12 B L 居 3 お 3 す ひな は をや 能 給 12 口 あ 心 髮 E 72 より 5 12 聞 ぞ せ 3 0 ば を引 3 ית n 智 おそろ みじう侘 \$2 伊 ち ぎた え侍 ば び 3 ば (k かっ 12 手 豫 72 ごとし 近 3 op te 大 3 H 殿 h かっ 前 から ^ P て 打 7 は ば < 12 づ 3 3 n \$2 納 郁 1 物 12 3 ば ば 3 < L 3 誰 b 身 3 引 6 手 T 18

みす どし どす とも 物 0) な Ł 殿 5 け ばやとい 所 心 かっ 0 0) 17 H け悦 331 3 ひさ は 1210 ち 3 n 御 2 \$2 0 たこ 乳 かま どひ < 覺え給 U 給 T [91] 3 熊 かっ 3 6 7 給 1-びたら 耻 引 御 0 27 きて見 h 集に たす 事な わ かっ Y 1= ^ カラ 尼 並 心 C, 1= 思 n 2 h 2 同 御 相 屏 1 舞 0) わらは なく け 1 ば 管 73 風 參 1 1 h < 6 T 表し C 姬 姬 ~ 0 はい 是 3 5 は Te 身の Ď 御 君 き身 72 也 か。 ぜ 0) は ٤ 兄 3 カジ T せ 姿 節 お かっ 1 つくまし お 0 から こが 程を ぼ 弟 給 手 今 かっ 孫 2 F 御 3 會 L AL せ 0) 6 する にす づ 间 3 6 to 心 12 な h 12 12 T 程 10 まし 3 7 3 かっ 我 は 思 3 0) n AL 1-果 か 75 1 け は 2. 御 見 程 を T 包 7 さ てぐし か ^ ひしり らば心 さか n 指 JL かし j 10 大 め 身 43 かっ 次 か 見 35 納 帳 どしひ 0 3 聞 b 也 づ しすゑて 2, 0) 1 心 3 祭 と見ゆ か 3 JL. え な 言 T 1 H などに 3 おご は は Ze 3 h 44 怒 T h かっ は h て引 す 个 入 給 i b 63 人 ナニ 735 思 ル 給 T るす もまばの 12 地 12 6 13 b 14 入 始 2 3 内 3 打 3. T 3 0 h 6 3) 姬 绡 12 御 0) 11 休 3 8) 11: in b 3 i, 3 大 は 82 よ CK か 沂 Hil 35 3 V) か 3 似 45 也 臣 な う 8 け 3 四 0)

るべ 方 け 12 やなる御 の b お け こよなしと見ゆ大納言 h まみの のはれん て日の光さやかに ば夜もすがら降け でにもなどの てなさせ給 めやすき物なるとの給 木丁おしやりて大臣の對面は是を始にてや物し給さ 3 かくりより始めてたとへん方なしあきらかなる世 7 をされて爱にては花 めん給はり侍しかどあまりにうとくしくのみも 程 世 き中はうとからで隔なくおもひかはしたるなむ さしつどひては したるを殿 殿も渡 あくまで匂ひやかにらうたげなる事ぞめもあ に書とも しさをつくましとおぼ 給てあざやかにゐなほりて見聞え給 たこ 筋 すいさんも物うく侍るに嬉 は さし出たるはもてはやされた 例 p ちをえり出たりと思ふ舞姫の おろ ことにさ る雪の今朝は日影待出て所々 ゕ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゙゙ゔ の打ゑみて嬉しとおぼすま づかしげなる御中らひに耻 0 か はまして見る度毎に心のみう て大納 へばいつぞやはづれざまにた か 也や大臣 たはら 10 め 言も きか して打 の深 御 も目驚きて心 1 供 山 りて打 あか 参り給 木 より しきつい な 2 姿も も猶 ばか びき る髪 村消 72 / しう h る

n

やうなれ

ば

よき程にておはするに中障子引あ

給 同 きに らましすべて思はず成ける身の有様哀にのみ まか 3 のうつくしう心ばえもらうく b どし給へばいとよき御 晝なども弁び 給ふかの東の對に住給ひし姫君今はま、母と聞ゆ ど宮の御腹にも女のはらからのおはせざりけん なれば我をこそむつまじう打語 はすべき八々はかく男にて耻かしげなる御さまども できて色にや出らんとおぼしく立給の童下仕 きあそびをし給ふ すればうちなども聞えあは づれと詠め過すにもさる人物し給はましかば嬉し おはすれば淺からず思ひかはして過し給 じ兄弟と思ひなしてあひ思ひ給 初 て對面 つれ b はせね こそ殿 出て御 ぐと詠 せさせ奉り給 ば嬉 お おはして大方もさか ぼ 方々もみな歸 L き事に 心心ば め過 つきて人めし包あへず今は 7 あはひ へもにくからず隔 給 時 おぼすべし ひしよりもこよなく慰ひ 々も渡 せて世 6 10 給ぬした。しう思 しくなつか 誰もおぼすべか らふべき人もなく りか 4. の事をも見いれ へと姬君 か n しく ょ b 12 Ū んるけ しては しきさま 叉見 へばか も聞え 打 お もみな かな め 絕 3 12

て月など面白き夜は渡りかよひてもろともに琴びは

ぼさ くうつろひ けるとぞ わ ٤ かう盛 n 彈 すさ け り二宮の て忘草 びて 1 をか 物 御 し給 しげ也た 0 種 事 しと成 を ば つきせず 殿も ぬるも哀 い今の見 思 お ふやうに な る ぼ る世 め L 1 歎 嬉 きな の習ひな はこよな Ē から 3 お

## 一岩清水物語下

らまは 何 御 1 中 h 世 n 五. 3 h 0 まうけ か ריל ど只 事に とげ かっ あ n 3 殘 か 3 0 節 02 せうとたち 過 有樣 3 春 3 < る 3 12 b h ~ て寂 させ b 御 つけても替らず花や 居 T 御 12 h h しう参り んる事な き事 きならねば 7 給 事 3 は (" 12 C 給 は 3 别 T 70 せ かっ 0) より 哀に 給 12 猶 め は 祭 き事なく 13 て柱 か お 30 ろ T で 此 心 3 n な 0) 1 外 3 戀 から 始 ā) 12 御 け 3 ٠٠٤ ٠٠ 0 御 3. to 猶 お は そく ž せ給 院 前 しくことにらうたく てうけ かっ 趣 常 人の ずか 0 事 1= 御 1= Ö あ 1 わ ぎは づ 40 とは ざし 有 隨 なく人 かっ 移 12 す 開 ぼ な 樣 しげさも院 かなる御 ば 3 かっ 0 h 6 え か h しき 也 7 ば 惜 居 け へし女二宮は杳 ぼ 女院 歎 對 か tz 世 12 か 2 3 る後 ょ < 11: 聞 面 0 3 h 比 43 は は 光 1= 弘 まうけ 政 こって 10 給 め 過 有 n は 見 4 b 3 0) お 82 6 かん ば大 給 多 Ç, 人 0) 渡 1 ぼ 3 2 か 12 T 2 3 12 よ 25 は は i, あ か 12 ば なら 納 に隔 せ給 12 压 る 12 うま 大 か h お 10 b 12 條 方 ぼ 御 3 12 a) 節 1 1

かる思ひのつきたるにもあらずよその人とのみ思 給にしが さらぬどちのきみなどかひべくしく思 し給けるをめやすく嬉しくめのとを始て御かた め聞え給わく方なくめがれなき御中らひにて明し暮 あたりけしきの身にしみければ今も心のうせはてざ て限りなしと見初めてからうじて近付よりたりし ぬ心のそこばかりにはあるまじき事に心をそめ始 もか はりが たく我心のけしからで ひ悦び人 にはら し 手 か め n

らんもかつはことわりなりかしのどやかなる夕つ方 雪の 驚か 9 1 んといみじう侘しくしひて引はなちて入給 のおはしけるもまがくしうおそろしければ奥ざま 聞そめし道のしるべうれしくとばかりおほどかなる や侍らん哀とはおぼし知ずやと聞え給へばいもせと かくしも心ひとつをくだきて忍び過す事は有 さる、事にてさは へ給へればいとうたてむくつけういまだ さまの御けはひの心耻かしげなる物からなつかしき 引入給ふにひかるくやうにてついき給に人や見付 き思ひはつまじき心地なんし侍るとて御手をとら も人の見とがむるばかりの事はあらじとおぼし 忍ぶる心もうせていと、催 あれとだにおぼしくれ ほ さるれ ば猶 よか にか へば我心 1 れば 返

にて とてうとくもてなし給はんむげに物の心しらぬやう 見る度にい もせの山にまとふ哉思ひはなる

所々消

殘

りたるを詠

出してびわをわざとならず

彈

るかたはらめ例の打

れてあゆみ出

給へるに見あはせて御顔のうつろひて

おきあが

り給ふに

こぼれ

か

いりた

る額

髪の糸をより

さびてかたぶきかくり給へ

對へ渡り給ておとなくてやをらのぞき給

へば

御

前

はこと人もなくてしめやかなるに霜枯の前栽

**致へよ」生死** なるさすがに哀 きとて御 手ど るてんの界を出て底の ななれば 顔にあ て、泣給 ふけしきのい 思ひはやめ みじげ 待る

\$ C 憂世に ふともなくまぎらはし給 もあ 6 所を尋ね見て寔の道 へるを聞 0 道 つけた しる へせ

岩 清 水 物 語 侍

しを今にえこそふみなほし侍らね

世

の人ならば

8

かく

かけず見出聞えしよりあらぬさまなる道にまどひそ

おはしたるにさしのきぬれば近く居給て思ひ

心さわぎせられ

て忍

び

かった

し御まへに侍らひつる人 なくめでたきに常よりも

かけたらんやうにふかふ筋

むと を見 な 返し思ふ ましと忍 うしく 臥 < h け す る T あ つよき道 やま n 給人 ば n 給 š 弘 T 忍ぶ 給に なや ら冬 3 ばあ おぼ て物 め Da b Ü ~ なら 何事 女宮 うて Š うな とは とおも び 0 to かっ け L がなが に包 み哀 悦 は かず 猶 F ば 御 U 13 たくて 12 か きに 0 0) 12 Ł はさす をく 3 6 給 也昔今にた 0 御さまの 12 だい ふとも とうたて覺えてさば 也 カコ か もて らえ 2 光 我 人 1= 5 B n 何 12 思 Ö) ひ 13 御 B 1 あ かさ は たりと見ゆる所なく 3 たぶる心もすく なしてさシぞくとき散 かとそくぎあ もい ては 方 h 南 6 ふまじ ζ? 100 けだ 1-心 立 1-なる黄 やしと思 Pa たび () F め 并 <u>ا</u> お 所 はして 心 ふが Š すかり L ぶまじきやと見く かく匂ひやかにら 0) か は なきにも 音 をもかさ か L しみ C しう 6 0 ひ 3 なむ た か 見 程 な U ~ 82 み出 歎 6 72 給 歸 3 1-は むとつ 1, 立のき を 12 きに h 4 内 るもう たは あらず 我こそは ば ば憂 ての 5 おは 書きて まし 參 2. 身 かっ L 御 くまし 關守 らべ うら をく め ľ, 叉打 1-する て打 るさ との 給 く見 43 8 45 in 3

を見 U に見 く野 片心 Ill ふ物 殿 W 0 は思 8 h 8 でた 媵 人 から 3 きとい T 給 0) など思ひ返さる 見せ奉 此宮 しら に成 も有 御方 はい にか 礼 えけ 12 ひかけざり なるを < ば紫の 0 果 T 10 ^ 12 12 け か 1= か 耳 / ば只 れば は音 h は おさ なる を専 12 10 82 10 紙 収 便 3 しまして後 T か とてとら 0) T 1= 口 1) 参らせ なくてやまん なくより 人ならんと尋 12 わ 1= 殊勝 て局 L をしけれ 3 聞 ざとならね 村 1 L かっ 海 T などす L を忍 給へよく 4 煩 L 此 4. 10 はしう 孙 たれ 心をや は 御 Ö 3 ばけ 3. E U よそく 1 3 か 岩 ばたれ か。 -7. 70 1 1 4 C 82 な L きに しら びん か 0 람 は 12 大 3 しきも は かっ ば るとてさ な 1-方 3 b 3 å. T から 手 せ Uť なく たず L 1= 11 か 樂を尋 か な W b 御 成 17. 0 b か 定や か なら Ý. 情 ď) 給 け 3 たこ 許 ち 10 ひし しく T 3 0 t L 0 30 33 11: h 此 1 殿 かっ 3 13 大 111 12 文 て人 10 3 ٤ 納 於 か 3 1 3 忍、 배 1 1 カ・ i, 数 T Ĺ

よ かり なし 6 現とも夢とも人の 手 闇の を見 5 てければ思ひ出てそれ 0 くとだ にえこそと の葉を思ひ 3 a) 13 わ 御 かう 方にてもと 82 総

B

かっ

6

あら 亂

殿

0)

カコ

h

罪

さり も人

所 3

な け

かっ

3 B

F 聞

0 え

n

をば

佛

B か

まし し歎

ね 契語らふ女の心 これはか B ざりけむもかつ して女の まさりけり其後はおのづからのついでには音信 しても」 あらざりけりかく見そめて隔らん絶まの苦しさをか あらず思ひかけざりし夢のまどひの後はなべての 中にこそあ りもせず捨がたき心地もすれどたいなべてのつらの りなく忍 か せつ待見る所 心さわぎせられてあさは て思ふに涙といめがたし、をさなかりし まじかりける るすさび 現とも思ひなはてそさもこそは忍ふる事を夢にな 心は といすさまじくなほざりの他事 へやらん方なくはづかしけれど打もおかれ けても思ひよらざりつる事の出 質のまぼろしとばかりほの づかしうおはする大納言 びて逢にけり人からもゆゑづきてさば 方にすくむる ñ わざする人も有けるよとさす 世とくにも歎き侘る方の慰 はいとをかしくさまか は心 にはましてよそにての歎きは數にも 契の程は哀に思ひしられて淺 にくくてかくも逢見 事なればい かっ なる つに心 か のわきておぼ も絶 かか はりて都には か 仄 にかきてとら たり むべ かゞ 來ねる るに近 まへけ め 床 かっ きに か 0 よりな らず も遁 おと かり h うっち す る し捨 など 1 世 8 わ か Z

し姫 方 隔 なく もとはかくしもあらざりし殿の中の女二宮おは 0 空に長居して國 是こそなべてには らず大納言のもり聞給は さに事よせてしげくなども音信ずたいの人にても なくしづ心のなけれ くし とかく細 なげかしさを恨深 そ年月のならひに今と成てはこよなく 5 けるをよしなき思ひに びにつけても物のみ心にかくりてむねのあくべき時 たてくぞお はていかならんと衰也年も返りぬ は のみ多か 々の世の 君打 あらまほしき御世 もはあらん殊の外に移り行心の程も我なが 3 \$2 そひ給て大宮お かなるおもは 奉 給 けしきどもおとらずはな るべし及ばぬ枝に もひしらる りし人の御手をくらぶ いとめでたき事にぞ誰もい の事をも行衞知 あらず心のとまりとも成 く思ひ過しつるばかりこそあ ば此村薄 の盛に 身をこがしてそいろ ト男は しさのたとへなさは ん事もびん はしまし なむ東 は心 の人に か ねやうにの トる心 る かけざらん身 おりよりもこよ やかに \$2 なかるべけれ も世の 1= 對の君 ば萬引替 12 より外 おぼし捨 ひける此 が大 み成 なる つい ねべか めでたし しっ 今は かっ する 都 E らう でか ñ 12 7 御 身 b 3

る心 をも 度 思 T 1-給 < h ばよきまし 聞えてさまあ 中ひたすら ・なく 亂 成 3 E Λ 2 月 世 をきて 2 をとる 0 傳 時 事 12 n なら 出 # か を \$2 8 0 馬 ~ か を یج 過 B 隔 もの n 來 n か お 筋 方 命捨 事 は はや 12 て長 母 お T ほ あづまの 0 n n h て見 宮 Ł 同 は سلح 事 5 3 は 男 思 i ず 普 閑 きまで隔 ું ફ な 8 ょ は 大 T かっ 73 かっ やと は し聞 るめ 心に 君 納 ひ せ 身 かぎ な T H Ď ひ給 1 切 む き世 る家 國 方 3 達 4 to L か 言 かえ E も物 しく 給 情 b 5 春 Ł あ T 5 か 12 0 若けれど引 ひ思 まし はさ きて 下る 0 から 此 下 0 13 12 よりもきは てさるべ 0 3 3 きずに成 生 3 H は るなどぞ世 B 々しくきよけ おしはりて 事 影 はず 事 とせ n ~ カラ B L か n h U きを ば人 に人 名 な 多 あ T 事 な きつば 3 物を とつ な re カジ 0 から 多 入め もと より 此 0 き物 6 2 n 起 程 思 ~ U. 3 け 聞 思 世 < 1-心 30 0) ね 臥 何 7 なら を 過 3 な 2 た 物 40 3 開 < < A ٤ 12 te きに から 13 恨 なく つに 思 ば L 故 5 ども 軍 0) え 30 12 8 3 は -J. 定 給 は は T ょ 7 H お (X 南 12 L 12 3 は す は 3 は h 雪 色 宁 聞 む 2 12 見 時 0 ば 11 給 馴 心 よ は 中 な b かっ せ \$ L え 3 H 0

つき 世 ばさら きと 事 は 1= 置 7 は 1-世 U 3 物となら かっ カコ 孙 h き人 指是 てと ん後 ば な 0 あ む は 物 お なれ 0 ば 聞 思 よしを申 か ずらん 故 8D 12 覺の 思ふ まで ~ 0) 10 に夢 な V U L L 0 あ きな まじ T ず深 出 事 進 ば まうけ h b 3 御 0 \$ るも 更 v な 0 は h -111-より i) D よき事 0 き心心 契を op 夢 1= 4 とま聞 御 8 12 0 あ ば大 思る 契に 6 流 か 心 10 b b 打 0 7 せ 12 3 ざし 始 -[ 世 ば 6 結 13 0) 0) は h ね から ば 水 T け 方 事 きに驚き給 13 H 13 L か こそあ え か び るとば ち なく 1/2 蚂 なく 15 は 0 L は 7 から 12 0 iľ b を 4 to 哀 程 お 結 終るまづ あ な し 12 1" 1 1 10-3 5 ぼ Z どか も 3 成 1: U こそ 3 0 T せ 思 ば 角 12 後 見 ち き 3 御 G 12 [11] L 1-か 近まけれし け 今 < 知 0) U 13 12 心 け 給 b てさ かっ 0) かっ らる 也 水 j 3 は 俄 大 6 君 L h O) h b 3. 道 只 3 納 な な 程 を 15 す う غ 陰 人 0 1 どし 契に 命 は此 計 及 11: 0 70 3 ~ B 伦 n 1 カジ 完 は 出 3 ば を誰 給 il 33 3 3 5 心 别 0) 12 4 50 18 御 3 111-13 T 7: 215 は か 11 す h さり でと 我 \$2 か 10 方 から かっ す 15 う 10 カコ は で 讓 10 泉 h C から な 111 は 思 T -3 H 5 Pri 3 は 此 D

~.

岩 清 水 4勿 語 F

**下る事経ていたづら物にまかり侍ぬるだにあるに** ゆれ まづこそ有べ 申なしたる用意事がらあくまでよしめき耻し 月日過ても何となくかやうに の悔しきをば 物近きに **发もとへとて宰相逢たりさきぐ~は參りたるよし聞** き出來て西 の給て是道 方へ参り給やとの しなき物を思ふらんと悔しくさへおぼさる姬 もやと惜くあたらしく何しにか いぎやうこぼれくる心地するを見給にもし又見 へどあからさまなるやうにのぼり侍りしを限りあ ひにことならぬ 筋に おのづから命たひらかにも侍らば此度よりこそは ど殊 おも 3 も思ひ出 の外にけ遠き方にてのみあるをけ 0 び ひすてう んかぎりは絶 對へしるべしければけぢかきみすの前に けやとあれば兵衞尉藏人なるがをさな けれ爰に歸るさをあて、人しくこそと おはさずやなど思ひといまるべくの をしゆ おの も成べきにやと哀也絶 へばいまださも侍らずと申 3 境にもなどことわり聞 Ō n 道 心を出して宮つかうべ あくがれそめ侍て今は になが くる物を見初め 沈 まん ね命 ž びげに 君 後 は てよ の御 ぬ事 るも か か せ え 0 ば あ 7 かっ 3 給 世 3 < 給 5 3 は ほ ば打身じろぎ給ふ御ぞのおとの打そよめきなどする 思ふらめと哀のみ多し御覧じ出

れず打なかれぬもとより物はかなくて思ひ出させ給 といふけしきいみじう心ぼそげなるに事いみもせら くといとまを聞えさせむとてけふは過 後の憂名もゆるす方なくやと思ひ立侍るそれだ らば年頃の心ざしもたが けふまで憂世に立めぐり侍ね 身と生れ給にけむと前の世さへうらめしうこそなど たる御身には萬につけて思ふ人すくなく大方の ん思ひ給ふるいかなる山野の塵とも成にけりと聞 まことにとりもといむばかり歎きたるもげにさこそ けて歎きはやる方なくこそ侍らめ せ給はんずればと行末長きのたもし人にはそこをこそ もしきばかりは殿のおはしまさん程は數まへ聞えさ は 一所のさわぎをきく~~うできなからむ事はば年頃の心ざしもたがふやうにて物愛心地 おのづからいかなる事も物し給は、大やけ私につ おぼされたるにおぼしたつばかりはことわりな S ふか ん折は御 くの 念佛 み思ひ給 0 つい 2 る故 でには にい るをか 必 とは などしも お ぼ く俄に思ひ してあすとな 事はむ 出させ給 72 かくる御 立合 びげに 72 な

したるみすの前なれ

哀 なら 别 3 殘 1= か は 3 かっ 57 < から を 3 ぼ か 戀 T 0) 1-40 礼 E 1 IlI かっ よし ど中 n りこ すい 别 御 3 立 づ 0 あ B ひすさ P 3) D 目 あ か む 3 n お やう 6 げ 5 5 3 ~ てぞ有 7 なこまや 0 Ba きめ き涙 は 3 び け きつ 3 n 3 あ とまらざら 3 0) き道 n U 3 君 T 礼 か 3 1 立 大 を心 物 なし ば 弘 3 多心 3 ける木幡 かっ h 方に を 1= きを内 め 3 な か。 ā) D 局 かっ 思 ち は 俄 た h さるさ h 3 3 つようもてし 5 8 /\ ひ立 は なご は 3 みじう思 淺 思 るまじ を i 1= とも んさまか 0) b 2 345 地 立 h かっ す 1 2 专心 歸 W 程 らず もさす b とさいし 12 思 忍 45 1 1 · -もよらで大方 3 0 Ł から き心 12 むと いみ 9 3 2 び よわ きは T T ~ 100 L S 12 3 ば 12 T 誰 じう 亂 カジ p 7 づ ち 賴 打 à 命 け ち 對 D かっ き心 5 1É T た b け 3 n 8 to 0 0 b 舶 弘 ~ 3 辨 かっ 3: 歎 < 7 お ٠٠ع 物 12 まし 詠 n 絕 前) け 3 に付 2 3 P t 130 ぼ 'n n 州 3 ~ < 哀 ち 1= 8 te D 3 は 見 ほ h は 13 見 3 也 1 10 入 T ~ 3 50 も かっ in 人 うち も かっ 物 3 ば かっ かっ 13 T 出 取 W 12 T Ę B たらら T 事 130 カド は 3 あ 12 h 8 2) せ 0 かっ 2 3 名 lt ば op ば 程 H 歎 3 かっ h な i) b 哀 1 4

心

も引

返す心も哀なる世

0

33

0

11

则

葬は

よし

を調 えけ さまの 12 1= は 3 力 h な H 3 きが 3 to る < 心心 なら カジ 程 (] it 3 r j 尼 ~ 心 カジ 12 き人 B ٤ 爱 n ち L ていとうつく h 12 づよく とさる は n 3 君 どさ ず歸 4 12 Ł 男 旅 思 tz 哀 は かっ الح は E 2 け 片 は 3 5 0 2 0 ili すさ 爱 す き事 BAF 思 皆 事 事 h L C お 3 0) 1.G+ ) げに 見 カジ j 方 め給 引ぐ E) 0 出 な ~ き事 兵とも 馴 見 悲し 聖 立 から 來 U かっ づ 心 L T 捨が Co ち 打 ほ va. かっ かっ 2 1-7 をさ 大 此三と E む なが 3 年 6 E え 離 12 12 ひそみて 1 男の ど行 n 身 12 て様 は 沙 す 納 忍 比 又 拜 \$2 Git 5 3 思 3 な 言 ば U 1-わ T n \*事 ナニ T 2 21; U 1 力 T 馬 12 かさ 人 l, 相 0) 4 は から をは 見 版 な なく 0 1-1 3 B 御 0 か 0 8a 坂 送る 괔 御 す ほ ぼ 哀 17 ほ Mi から カジ 02 道 0 6 3 か 9 12 カコ 20 つど 品 事 h ٠٠٤ h 6 1 は < ま 任 1 E b 12 朝 は 死 3 3 T 多 め 是や AL 能 此 Ū 付 T 7. 夕 ~ 8 25 1 L す きを 似 順 心 集 活 都 都 3 萬 だ 11 73 T 1-賴 1) h 别 から 物 泉 かっ 心 1 を よ 四 念 T 3. 3 10 つ b 12 0 H 13 あ V. h お 别 T 0 T 3 0) 3 か P T 82 え 我 覺 あ i, to かっ 矢 0 3 かっ 3 かっ 3,

物を久

しく歎くべ

き契に

てか

<

どもかな

をも嬉じとはさらに覺えず猶命はつきがたきにこそ

りたりさまでの高名

せぬ

畫

光

1=

か

くりてそな

たにつらなりたるものは悦

びする者 も是が

多かりか

る事

てけ 思ふ まに をの るあるじをば此 いたみもなくて敵をば數し かんとすらんと思ふもかなしくてあみだ佛 絶なばまうね 雲霞と見ゆる敵の中へせめ入ければすべて面を合す のくしられ軍 とる方に 中に隙なく れば人の か B 3 わぎの中に るには なく多 らにいとい戀しさのみまさりてかくながら命 、一筋に身を捨て名をだに残してんはそれ たゆみなく心 思ひ續けて歎きてなからむ命は ても たが 國 功といふ事にて多くの所をわかち給は h あ 念じて夜ひる戦 の敵を亡し打見るに に引 伊豫守が手にかくりては ひて力のつよく猛き事限りなし 5 も思ふ心の苦しさはげに稻妻の光 と深 傾 n 12 か て猶無量刧の道 T へる事なれば < らず討取 みじき名をあ 思ひ切 **小事日數經** 事が て少も身を惜まず てむねと責らる らのえ ^ くるけき道 いきてか げ世 ぞすくみゆ かなくなし ぬれど露 くと心 0) h に媚 寶 か ひ 15 78 E 0 0) あ

h

言

た 13

やか として朧なる物といひ出きたる春 は 0 ぬ物成 外まで思ひやられて泪といめが に澄 け のぼりて隱なき空を詠 りと口をしき世 のさわ てもまことに二千里 たし の夜の月なればさ ぎにもまぎれ

そろ 猶住 給ふまへにさまが~心をつくして祈られ ほくていかに~~と智つぶ き」と獨ごちけりかくて世もしづまりぬれば爱をも ぼされん さすが大方の世 めり人しれず物のまぎれにも心にかけ聞 や露ばか き成しが常より殊に像に見えて戀しう思ひ出 る物をいみじう心ぼそげに思ひて心とい 有べき由 は山々寺々げむある僧どもに仰せて事なく平ら 都にはくだりし後はおぼつかなくしづ心なき 都 うき事に覺えてのぼらん事を心もとなく侍りけ にて詠し 空の月 見れは雲井 はるかに人そ 縁し おぼさるら いかに り の の祈どもをし給ひてくだらんとて暇 夢の b んかしまことや彼村薄伊豫 成ねらんとば のことわりにもいか たは 後はこよなく りもなくた るくより外 かり御 か んひらか ぼ IĽ でおろ うとみに の事なし 中には けるし 10 る人 有 かゞ 12 F H るし ह 3 る h

ど同 聞え 物 な 辨 n 賴 我 八 立 とぞ T 1= 3 3 3 T ぞ立 は は 朝 30 心 月 To 居 ~ T き人 夕是 始て Ü 御 事 お 姬 7 身 C 7 つに なく き物 から ぼ 君 歸 n ひ づ 死 心 叉 てうどなどやう かっ 0) は ど此 な さ h 3 h 1 木 70 逢 世 30 有 3 御 h 見 ば らが T H 0) 3 ぼ で同 か は 萬 程 後 3 事 弘 h 1 南 h す 0 せさ 內 見 殿 1 大 思 215 心 C) かっ h 4 Ł 此 L E くら 納 73 をの なさ 事 W Ľ. お n せ 心 怒 < 0 は 3 7 - 2 かっ ぼ お 伊 恨 E Ó 5 š 3 奉 ぼ 豫 B 憂 聞 15 L は 0 口 た n 9 えけ るべ やう さる 御事 物ら 急ぐ事こそ 御 給 守 我 覺 2 22 ね 戀しさもや を おきてけ 1-5 害 ぐそく 13 から 身 ば h え 72 きに 軍 な n 3 12 L h 0 物 な 12 C T か き事 3 數 物計 は 72 ば 事 ば ٦ It め 12 1 ٤ 折 6 け 3 誰 ٤ 1 n 3 事 间 1= は 0 ども心まう カジ 世 ど御 なく をさ とな る方 B 1à) やうくし ひに 1= B 3 命 0 か 行 ひに 悦 み to な かっ お L 0 à 0 なく こそ 常 5 < 3 ٤ 猶 3: 心 ぼ < 母などに 7 L L たっきさきの ござり 消 á 事 Ī 思 心 رح な 3 21 かっ ひそ より 3 it 猶 を 50 念 が n 18 0 カコ 1 n こらで を只 ぎり V る 方 Ĺ ぼ かっ 聞 it 家 13 総 10 5 / W け 亂 0) 3 礼 8 な n 1= h 7 B は 6 な け 末 b カコ 3

ずとて なく かし みぎ を過 苦しさを愁 身にそは る長 水にぞ 度有 にし P h 27 L カコ 果 5 3 中面 T 7 3 6 2 n づ め やみ 幾 0 72 < す b カコ T 0) かっ \$7, 12 とば ぼり ど思 カジ 雲 L < 5 ば 世 ば n を 心 河 うく な 1-は 當 3 井 30 かっ 南 都 0 3 B 7 水 多 4 h け かっ かっ b 3 奉 ~ 0) あ 10 Ł b 3 す 1 3 住 見え Ŀ 18 0 h カコ h <.`` かっ な É 6 けず 家 打 H け 思 -雁 1 3 0) 2 ち 1= Š, 片 Tu カボ 3 な 詠 \$2 10 ね 嶋 和 と聞 祈 都 思 力; 時 結 5 ば 賴 6 iĽ め h かっ あ 0) から دخ 6 U L i, 1 0) -17-6 [1] 1 杉 2 15 0) なる 3 nill1 AL Dr 3 13 à) 馬 人 专 3 3 وره 12 31 3 は C < 37 18 道 有 1-催 は かっ 6 なら う Ł す カコ 功厅 常 世 6 0 0 ~ は カジ ~ 思 カジ め < i 陸 T 3 to る 迁 などむ L 0) とそ ぼそ 3 2 きあ ねど ひ t, 3 U) 111 B 12 洲 め 1 7 大 命 わ 7 0) け 8 0 きも つまの b ひ慰 命 心 1= 3 凉 非 15 2 n 30 賴 思 JII 20 かっ 12 ば E ほ は な 1 نځ Vi 3 念 ば 3 3 训 0 け 奥ぞ His きに C T 3 心 づま 0 根 世 月 云 1 から 所 南 6 8 0 0

か 1= 源 せ Ш あ 2 程 潮 なく は 5 0 0 ぼ とし b 5 2 3 浪 n 0 n よ は木 3 力 幡 3 0 尼 身 を始 Z

色々 0) ひ聞の ひ だ参り給 忍び そに b かぎり n 3 ば ほ め お め けてもい おぼえけ 過る 也 まうけ かっ 0 ぼえて我 も聞 八月に て尋させければ 悦 かっ 事など泣 面 に祈念せし 3 h 御心 Ó 1 な なる影をだに見奉らん る中に j. して危か 付 12 الح りかくて後は常に参りなどしてけ は 人 は内 n もせ 言を人 7 n まうけども か B 嬉 多 るしならで 叉し 刻 苦 よし は ば本意叶ふ み笑ひみ か かっ 3 りし命 事など語 h h しさの 1 事に 傳 たが 参り給 いひ 聞 か ٤ いり 春 0 < 1" え 0 13 雲る沓 け Ĺ 2 語 御 は 0) h 0) お なが あ 心地 2 程 で開 ぬ物 増り n り給 3 比より りて出るに彼 非 物 ぼ かっ は Ĭ と大 6 r ~: ば 6 語 かっ にのぼ と此 は Ū 時 しとて t あ かっ 4 T で さまよき程 ^ 跡 え 里に 吹 ば哀に 月 てい へな -i) 納 3 絕 知 下の心成 1 めて今一度雲井 世に もちろ か 1 比 t せて h 2 殿 出 り給な 2, 0 き心地して哀に 殿 あ 事 0) らん Ш て今 じう るべ 0 風 給ひしが あ 12 か お 8 がち 参り 1/3 なく 道 け 12 12 ぼ じけ 5 近きに とたった と悲 をも 二度有 10 #1 ば \$2 b 0 ば す 泪 0 -[ かっ か 12 7: h b 君 Vi 0) 辨 な か 月 0 12 10 ij 思 催 0 ま re <u>J</u>E ょ < ば で Ц 7 13 ひ U

晝まじ 思ふ故 年頃 ばり つく て年 とへ せ給 なが お ひ あら りて忍びが 0 h ひ あ < かっ んと しだにか 立 御 12 3 ぼして泣 T < 夕に 給 經 は D はかぎり 憐なる から 7 6 1" へとひたひに手を合せて なく 朝夕 筋 か 思は にぞ弓矢の 12 る事なく此事をぞ念じけ 加 は ひたみ あらんと類もしきに ゆめならで有 に引 ざら り身をくだ はこよひ なふべうは 3 佛 を同 12 過 願 願 12 いこそあ ちに 經 ん此 き心 方便 あらん命をもしばし D ひ 18 替て限り有 じく 3 むなしからでそこらの 懸 よみ は 12 ば かっ 奉 18 おそれなくとも念ぜら 0) 念佛 は人 か 3 たに近付聞 我 け b 頼み しな 今 中を哀 きて申さ き道 to h 8 H 力 も思 て長 1 聞 0 b かず 惜 10 申て前 しとお みに 6 願 0 八 かっ かっ つけて えて思ひ しる 幡 ぎら ho à 2 0) B か ひをか 10 念 W ぼ 3 るべき 事 か 御 n あらじ 計 i は命 心 有 命 Ī ħ か 3 L づきをして七 してい 便 -[ な 20 は て七 7: 標 1 H もすみまさりて Ł もとが け どか をけ 此 命 といめばやと h 雲の 偏 あ 0) かっ 給 なか かっ あら らそ 2 世 成 H 12 北 ても 籠 しる 近く とも 1: は 八 祈 12 2 しを今は رنا りし な 步 12 龤 てなら 1" ひにも 2 h ん て夜 かず 日と て見 此 立 まさ か ٤ 此 所 Ī 思 世 B 思 0

ょ ぼ つほ うとくて h くの うえ よ法 な 12 世 n 3 菲 2 打 70 願 聊 神 經 聞 かっ E W なる紙 を もちさ を讀 人 か 淚 3 落さ < 3 明 ŧ, 1 B 3 め とするの 書で御 石 n 7 カコ 7 つせ 清 聞 は 15 な 打 水 入 前 な 短 給 あ かっ くそ げ 3 かっ 0 2 5 も哀に 柱 12 6 10 12 ふらうこ女すい る聲 1= 南 h ろ寒きまで おし 2 Ł 潮 心 お はそ つけ 0 ば 3 Ĺ じう W 澄 < 夜 3 ま B 12 1 0

7 續 後は と心さわぎせら わぎて定 かっ くくる 3 むし には 5 3 カコ 結 命 かっ b 鐘 を出 び置 成 は 20 すひ置 0 0 かっ づ 音 ぎり in L n 0 る事どもは なてくの祈 3 E な てい 契 2 あ 0 でと有 と熊 思ひ すべ 3 そぎは 3 物を 契ゆへ長き思 きよ あ 0 n 夢成 とい かゞ りけ 3 5 ~ は 2 ١٠ 物 H 2 ~ 5 い Ł < など h U. かっ かっ 置 な B 聞 ひ 多 1 思 な 3 あ 程 T 3 出 < ~ 6 3 身 1: ず思ひ をや 便 35 10 あ 師 倒 有 1= 1: け け 3 n h かっ

道お

13

きおとい際れさせ給て女院

よ

りあ

始か

奉

b

君

達に

しとも覺えず空に

み

5

Ø2

る心

地し

T

し暮

す

入

ばか 折節 ば古 宮只 過 とに 仰 方 で まり L 御 な h 0 3 h き御 賴 ど立 られ B 12 煩 0 ~ 事 衣 n ならぬ き程 は伊 み人 C n りにや 3 3 事 給 思 1 7 少 例を て今 そひ け し ٤ るに 2 P 後 口を なども ~ あ 3 かっ 豫守 見 聞 に 北 ち 0 社 も物し 少の さし かぞ 1) 給 15 は 置 御げ たが 見 Ł は n 0 Ū 本 H 御 9 4 御 カコ 給 大 13 T < 給 ~ < 給 力 Ł 近 何 調 3 a) 心 3 ~ おぼす C 給ふ ず聞え合せむなどお 0) 給 4 事 度 御 1 ひ 成 かいこ 3 12 1 17 つに h は ريد 賴 何 本 御 \$2 12 0 3 D うけ 性: T 1-す 2 るべ 3 かっ te IL 3 (i) f なやみ渡 事かぎりなし 此 を同 かっ といそが 1-ば心も 7 同 较 かっ かっ もと奏し給 0) きょう 7 給て きとさま ば 12 げ 1 御参もひが は 10 1-82 ととう 御 た [4] な 到家 彴 C 御 3 國 ٤٠ 歎 儿 なく E わ < とく 自 年 あ b 3 43-なく ã) 37 3 弟 病 0) るまじ 給 給 整 3 程 物 0 木 13 萬 2 ひし 權 5. 18 御 加平 大 h h ぼ 3 n 30 3 御 0) 大 開 將 IF 3 炉 2, j かっ 15 0) 1) かっ 糾 栩 きを 程 3 11 數 尼 12 12 告 か 3 ~ か どさ ととう ろ 取 君 大 3 n 13 0 合 it 納 3 御 3 T ち な 0) 4 ぼ 月 大 \$2 12 め かっ 8)

ろすが

to 5

る行

U

明

て聴

近

成

1-

打

T

60

3

1

きまど

夢に寶殿

0

內

より

け程

だか

き休

御

聲に

T

此か

歌

を

讀

給

2

のみ との きほひ 殿 てよ だにも か はかとなく煩ひけるが暑さ待えては殊の外 給へどか なく忍び なく身にしむ 思ひはまぎる かへる事見給 て打は さらで き御賴 渡しなどしてさながら爱の な み心を出 程も哀 わ へりし心 成べしと見ゆ心の中の だに け び かっ おはしまさぬ二の宮の御心地は苦しうだしく もし人ならまし常の年よりも暑く 衆た る物 れ給 などさるべ なしとも ひな あ つつかは ばか み成 3 かっ 道し み過 る 総は して祈られ給 事なく き思ひ也木幡の ら有まじき心の ぬまへに珍らしく覺えて淺からぬ 折 かさなど猶人にはたが 行 おは り覺えてなさけなくは見えじとた るべせむと有しけしきの忘る し給を男君 々は歎き 佗たる心の きけ 300 しらる しきみな月の空なるをまし いかさまに しまさい 5 13 姬君 ふか 1 人の いさぎよきならば又 12 は などに 尼君春の ぞ 5 程は苦し佗 くる中にも人し h をいみ して と心苦しうい 御 御 出 も此 所に 祈 亚: ひてい いかさまに じう戀聞 もたひらか 頃よりそこ 色見せ 堪が B to 御 料 12 か あらず雲 しと思ひ はん たき とて 苦しう te 聞え まだ てた 1 えて n カジ 折 1 御 な 方 Ł n お まき柱

侍 કુ を忍び 井に 折 L 物せらるくと思 君も打泣給て暫しの隔だにうれしき心地すれば爱に 詣て見聞 とてゆる ず 度々聞え 年 あ か どしき御光を待見奉るにもかみなき位に定らせ かとおほどかに んまでまたね か住馴給 一総奉ら ζ 12 給 をへて 々此方 るを御 行やるまじき心ちし侍とていみじうし りは 渡らせ給 定らせ給なば後は に書付 る 7 へは 渡ら 住 め か えけ かっ し聞え給へるを嬉しとおばし渡 h たれば殿にかくなん へる所なれ 馴 B カゞ 72 72 るに此 添 n は は 命にてもやと思給な せ給 とて昔住給し方をし こと ij ん程は、 所 なくとは の給てこばる、泪を扇にてまざらは 2 12 らめなどいは なう侍 1 は わ T 慰 物 哀に 煩 ば今更び り也かぎりのたびに 今一度の ひの 0 しばしの命も延 ひて過すをい 15 御覽 الح 50 思 ひ給 1= 程 我御 に久 ĥ 對面 じめぐらさる h と聞え合せ給 をふと御覧じつけ 思ひよるまじき事 方 なか 2 方に渡り n なく h をも つらひてい るべ ימ < どらう かぎり せさ D 媚 なるべ 成 らら給 きに か は B B D せ あら る あら カジ しう見ゆ へば n き様に る D なに 常 奉 有 S n h 給 5 h あ な る

3

あ

3

7

より 2 君 遠 け な 近 口 かっ 专 てまど 伺 1 かう 風 毎 3, 12 何 0) < 5 成 V JL. 3 وتع 1 て今 30 也 事 方 あ T 程 冬 3 0 0 n づ ٠٠ل 2 音 1= 沙 は h rf1 b 姬 5 0 0 かっ 隔 はけ 3 tz な 猶 13 かっ 行 成 君 かっ 3 H 世 住 しう ど露 度有 きけ わ 12 は h 渡 72 る め 3 n B 居 p 學 中 どむ H で 遠 3 かっ 3 6 0) 8 心 かっ 假 どい き御 Ó 程 T 3 束 12 B 給 O 0) 3 お 1 障子 そろ ひまな 初 け かっ 覺 尼 ٤ か 陈 御 折 3 -3 0 る を < 達 東 後 Ŀ 日 ā) 27 J X から h まだ見ざり L 事 L も it 聲 なく 也 より なく は E てやをらさし 3 h こそ有 0 FZ T 爱 b る大 つらひ 方 1-日 B < あ ~: かっ あまたして 君 B T あ 72 13 殿 數 くも 72 有 T 17 お P なたたに 見なら ぼさ 0 のどや h 0 0 5 R け よりも なる なし心 近く ٤ を見 は け 2 な n お は 積 御 0 あ 12 を め 3 何 1 す は なゆ ひし てし B 3 前 0 御 かっ 居 御 6 け お 72 3 ぞ 5 な j 10 わ 3 10 使 は空にうき立 は ぼ 2 T い今は きて ざを は 罪 3 書置 T E ば せ 見 有 かず 3 夕凉 は 6 どうとき き H あ 伊 70 世 į 立 豫 あ かっ 난 也 T n \$2 0 3 け 伊 姬 3 ナご ば な 南 3 1= 1. 守 月 h 0 かっ 1 h 君 で 末 5 け 尼 殿 5 V は 3 かっ 豫 ٤ 給 1 思 耻 折 な け 3

なく 世 な ば Š L ば 2 7 ひ カコ t n な 3: かっ ば 1 御 あ 小 1= L h 包 御 T め 給 お 心 取 前 n ~: 5 げに ひ散 3 打 解 ~ B とよ L P 前 め め で 心 T あ 0) まじうる 行 3 多 B 72 思 となる カジ 地 あ あ す お ど身 2 程 きり きに 12 見 U < てらう 置 3 は ず は n L なし 18 广 ま T 見 物 せニ T 倒 T 12 な あ る < 8 きか は あ 2 i W 屏 3 3 お S こにや やし 12 たら まも 2 をう たかっ 雲 地 嬉 よ L かっ 0 風 4 わ げ < 立 也 ぎて U 0 1 L L ば L あ 0) É 35 ば 3 よそ b 心に 35 我 物 b 今一きは な T 3 は 12 n 思 る 70  $\langle$ ば T 72 所 見 Ł かっ \$2 0 T 6 は 3 猶うえ < は h 10 有 淚 1 3 1. 4 12 心 0 か カジ 御 3 著 は 是 3 成 ば 3 む 13 0 カラ え巻 ぐしの えて ち 御 け 0 た 3 < 給 づ 13 女 ~ きさきまで 3. わ そきよ 光そひ 給 手 15 1 3 か L 2 郎 12 5 n 14 2 さに は 10 な きそひ 過 給 花 4 人 T 3 V2 ざや たと 3 られ りや 15 4 入 ょ か h は 12 Ł 0 かっ 3 ざまを 常 T う よと辨 T 12 す 3 发 4 ぎり 5 給 をら 給 0 5 3 T H 人 T 12 3 71 は ~ 小 7: 0 12 3 は あ な 3 きに 3 b 给 あ か よ かっ 12 0) な 力 17 12 5 h 2 か < 8 16 Ut

Z

B 0 12 る 0

h

U.

ス L

心に入給べきよしなど法師 ぞおぼえける暮ぬれば我御方へおはして爱は れば手ふれさせ給る物と思へばいみじうなつか 有やとて御ま 此程は少隙有てこそ見え給 言のめのとくてつき聞えたるがようあるにやこ りけ 何事をいひても心は空に詠のみせられてしづめが たはら近くのみ臥給 もとき聞せなどして頼もし て殊にもてはやすを心 て出來てみなつきにけり是ばかりだにこそとくらす るやうにもてなしたればい ぬる命ならばながき世の思ひ出にならんと八幡大 み思ひ續けられてた ば n 出んとするにおそろしくていそぎ立のきて只今來 つとぞ心の中にゅう てせめ ば夜更る程に足音もせでた 伊豫は ては かっ B かは への方へ立歸 n 三日 らりに 命をか 1 ふに有つる御俤のみつとそひ い今もさし出て御そばにそひ 近く居てとかくあ 12 しらぬ人のめには氷のきえに ても打そひ聞えてやがて ふる物ならばとかひなき事 h きぜんちしき也姫 よりも猶淨土のしだいを りて有つるつきなが へ爱なりつるひはい かに覺束なくおぼすら せらるく くずみありきてきけ **猶立** つかひ たるに 君 あきぬ まだ 念佛 なた は ら持 少納 しう 0 72 7 h 3 Š カコ 0 ろに 御 では ば此 ても物も聞わくべ いか 校な

12

n

る事なきに男のけはひにていひしらず心ふか こそとしるく爱ならば人近くて思ふ事をもいひしら ゆられて人にまかふべくもあらぬ句ひしるきをさに べければ枕上をやをらさぐれば御ぐしのこちたく 障子の懸られざり とかく立めぐりてひき見れば尼上の方へとほ 書さやかにも見奉るも嬉しながら思ひ絶たりつるよ 事どもをつぶ~~といひ續くるにさればよと心うく には人寐たるべし取たがへたらんはおこが りくらふていとよし丁の中に奥の方に臥 て見ればかのおほくてむづかしとて火はけたれにけ りも中々心のくだけまさりぬるとはよしなかりけり すくねなんといひてしづまりぬ ぬにおしくくみてかろらかにかきいだきて帳 せ聞えむには しるべにてかくばかりも近付給 ゐて奉るに物におそはる\やうにて思ひわきた でか一言をも聞えさせん然 つくましく覺えてかたじけなけれ **ゐあか** くもあらずあきれまどひて只泣 ければ嬉しと思ひてやをらあけ L て苦しか るけ b Ó るにやあら るべく るにこよひ しき也此度なら 給 まし ば八 へりは げなる る中の うし かる ĥ 打

とか じ侍 だに 泪に は 月 聞ゆる に歎きに b カジ ひまう 0 とへにはづ 物つよく みじきに心 らう 此 0 h み 中に きが しほ < しら たげ 0 ば 0 思 る H \$5 か あまり 72 め 給 より 1 ほ b 7 n た をさこそは あ n も心 ざや カコ n て我 7 せきやる方なき泪 より け は か 聞 へずして身の 猶すべて思ひ なる なひ くころ な ば 72 何 えざら 3 ま < かっ かっ 3 3 0) 3 御苦 りを命 御 ち 12 なめ 御 T ち ક 1-續 罪 E け 命 かっ はだつきのうつくしさ手 あ 引 絕 < もけ近 h た あらず身に引そへ 5 げなる心の L は 3 かっ め h < 12 礼 L しられ げに ど何 弘 きなら 5 所 10 なき物 L n に V 1 1D なる 3 かっ な たづ 御 37 か 1: みなどもせずた õ を あら きに け 事 は ~ ~ お かっ らに け 拂 を待 侍 ぼ てやすき空なくね しきの 18 ょ で にこそ成 我 3 n 申 3 か to 程 h 心 S かくまでも近 ~ しきに 聞 どた 0 もゆる さん事を聞 つけ 成 るら 3 御 此 13 聞え なつ 入 した 世 とも てだ 覽せら 御 1 侍 T 給 侍 10 (S) 事 かっ しなく たれ なが 我の 12 智 臥 ね b 3 は ひたす とことわ あ L 7 ñ n は は 給 h U ばひ なと うい 5 12 湿 C 반 12 げ 3 皆 72 づ h ٤ h 重 か お 給 10 1= h 273 B 思 1/4 L

数にも な 善 3 き心 南 U 我 3 きて聞えて御参り 3 わ 立 L b な お 0 10 り世 置 心に L きた ざい ば は は n 3 10 思 はたら などもし 心もうせて後の行 か 7 U ち せらる 11 るにすべ 心 92 しまし 覺えつ T して諸 我 3 1= h 3 もおば 1) 3 Ž, あらず近き手 契ゆ なく さば 人と か なるをせ かず淡まし iĽ か よしも 1 ود カジ 給 V 1 ると有 えずやいか て物 はず 共に 是例 君 る 成 かっ す もこは 26 は ود n 13 な b 心もない るべ 8 10 我 3 0 B 3 有 3 1" はたにての 程の きに 末も あた よって て思ひしづ から 身 ~ くるあやまち b にやひとへ L 覺えずなきまどひ まじ 派 め 3017 き返 しそ 一つ かに は は づ 'n 1= かっ 4 3 たどら 3 かっ 5 きやう ばか المدائد 御 おば 3, 0) しつ 4 てい b 13 か 1 Ę 3 U) V 0 3 な れず我 め 契に 1115 说 かう b 3 0 3 流 ~ ~ 世になききようを遊 3 きの を出 义 4 隔 じう 13 T < を思 か 1 7 まし は からく ぞと 少 御 游 7 T 3 出 ٤ 10 1= るに 40 13 i) 0 らうた 思 カコ 0) 成 か 111 夢とも 6 0 U Ł ひまどふ カコ ā) から tt ふさきこと ば 3 3 3 な 南 0  $\vec{I}_{j}^{I}$ かっ 12 3 h きない 10 Id 6 か カコ 2 1) 釣 10 げ 11 思 5 から To

ある物 心 は け 今はい るけしきのほ さましとも にたへが らせ給ぞと思ふに 3 ひ らん御あた ひ みじうせきか と忍ばせ給へけふに じのが 心づかひを御覧せられ て侍にやうつ ね覺 しきの かなとい ん方なし心うくて現 あやまち に煩ひて局に ねべく とも聞 ふかひな れがたく め 7 する たげに泣 さぐり て過 ふべ ひ續 世 をば然るべ りさら 0 をあ ね せ給 き言の葉も覺えずなが きに か 0 聞ゆる 臥た 3 侍 たるけしきはい むすび置せ給ける御契こそ心うけ の容相 なれどそれと聞なしたる心 ね也思ひし くどく男のけはひしるきにい やしと思ひ 帳のうしろの方に忍びて人の れど ふまじけ もし ねれ れば御 かぎれる命なれば今よりは おぼしなして人にけしき知 0) ららで き契とおぼし 1 'n ど玉 聞わき 心ち おは の君はこよひしも るは此世一つの事には かたはらに辨ぞ寐た n か しひなどの もせず思 づ ば心やすくこそとて てしば しまさね 給はねば何の < かなる虎狼も哀 めてきけ お ほけなく し聞 なせと慰 しはずに ら心をしづ ば むげになく がば心 ば同 b づく かひ 風 有まじき 憂 ち 0 8 ょ C とあ さき なく りけ と思 せじ 人 は 聞 b に渡 P か 世 あ い 0) W 外 # E n 6 成 あ め 4 ち ざも の程 ひ 心 を 君 引 12 ~: ちい

心うかり にだにか てい ゆれど我心ながら随は ばさらに出べき心ちせずたいか きしられ げに命も絶 きとてげにいみじく泣入たるさまのまことに心ふ 事もたい まさこそは か W き方もなしい はいきたる人のやうに る心にてさすがに淺ましき中にも哀まじりて ぶした Ė -3 かなと思へど心にか か づくに渡らせ給 我に へば カジ なとて引か ・今ばか 72 ば世の し物とお るに 1 しなどすれ n る事 お きてもとのごとく 初 もあらず立出 ろか ば ぼ あなむく か b 聞えいみじきをいか か L は なれ さわ 也 有な さまにもまづとく出 ぼされんのみや長 りなるにもとより物の哀 なぐりぬべきけばひな い ば 2 カジ んやげにうた げにと室恐 Ø ばむなしき煙 にかとてさぐり つけこは なは か もあらず御 3 物ぞやかくさ h ずら 身 をわ なき事 帳 ぬ物なれば夢に漂ふ くなが 13 0 め F け Ł か なる事 をば聞えや ĥ 皆 てか 5 いし奉ら き世 と成な 入 ら今 より 給 わ きも絶 起 お より 奉 0 カジ àι 6 ij 人に 愁 むタ ば 12 n は V h しりすみ あな て出 んと へ成 12 かっ ā ٤ 聞 3 かっ 12 かっ 御心 な な 3 H いふ Ł h か 心 聞 h

کے

ひ

3

な

かいこ

思

7

13

T

私

0

哀

ば

か

b

成

とも

むを見 を返 h 6 のし たみ 身 らせ 5 3 5 出 か 0 して ね 0 h ば n 聲 ٠٠ にい なら 聞 は 4 FZ. 成 É か 我 3 給 T 72 給 聞 我 え b 3 方 耳 香立 校 73 3 か す づ 15 7 へ行 か ٤ 0 え あ h は 1= 事 此 あ お む 3 Ł お 12 B さるか なら をの 殿 け ぼ 御 1 13 7 首 ぼ あ S 思 n \$2 0 成 ľ 打 るまじきあやまち 13 為 0 からいかい どそ n ~: 2 め る事 2 5 12 < 臥 3 T ね ~ お は起 くも ż 3 ば 嬉 さぎよくて雲 È 初 ぼ 思 ても名残戀しう身にそひ 13 / 12 でと悔 は n ぼ きっ しく 0) L 300 i) ば 御 ひなら はそ 事 72 ري 參 5 事 3 つきは は お しと思ひとぢ 短 1) ぼ は そぐをきけ あ 3 かっ は き後 0 72 カジ えず 32 n 誰 0 72 あ は L 3 じけ h 1= 3 ば 15 C L か 0 むす をし 給 一井に 引 W すい 奉 明 T お 悲しき事 Ò くそ 有 3 1 行 は まる なくこそ思 か 9 お ず づ J も定まり め L ば ぼ t 3 け 0 n てし 3010 なみ でつ 泣 it 10 は 0) 3 2 ききず 5 して L きに 御 る群 FE きに n かっ ひ み か じう 72 5 < 10 ٤ 3 臥 け か 内 る なら は ひ給 給 ば か 3 我 L 72 12 T 心 10 嬉 叄 鳥 12 b 艺 人 は 5 73 な 心 d) T

と淺

ましくこぞの

ST

ん御

في

かを給

こそ見え

13

殿

か

3

事や

5

か

は

つろりひんす

所

华勿

見の

奉め

12

ば鬼な

に物てせ

 $I_j^1$ 

て図

-

3

0)

j.

いた

かる

3 1

せ

ふぞとて

給近

り割り

などの

見て

いは

12

聞

W

る御秋げに御

た

5

んとて近

きか

12 Ti

6

0)

きかか

h

は

13

かっ

心

地

か

とて又

人尽

12

h

15

まうの 心 御 B も渡 近 i W b せさ 6 奉 3 よりこよひ 地 心 お 地 12 げ 御 n b 立さら は 地 ば なく せ給らめ 5 Ł どこれ さきにと辨ぞそ 御 ぞなど引 10 ゼ給 ばら 1) 0 せ 額 かっ す į 0 L 髮 とな E は は 12 0 な n 12 カジ T T < 12 露 ぞ 字: 思 な か 淚 かっ 14 きへ 12 せさ ば ば 相 け かしこき事 2 < 수 12 5 か 0 L 6 t 12 1" 36 と覺束 4 は 今も渡 b 君 7 n h お T 1" 給 隙 きあ あ 旅 折 3 35 は 人 かっ にけ ざや しも か 南 命 è L 12 5 たよく 136 主儿 とこよ 耻 3 1b カコ た 作らず やう せ給 辨は 煩 なと泪 か せなどさま きてさるべ るを かっ 2 など聞 きしら な は 0 思 T < カコ 3 一覧え侍 ź は راناً を著 ひけ 人 きな n やう 1 と対象 えた 1= < n 御 風 b 国 Ē 給 で 4 ぞ答 to 尼 人 かっ て今 則 な U) 3 慰 化 11 合 17 12 1 0) お は 0) は 見 25 朝 3. 0 13 程 111 力 5 1) h 4

へなか 比よそに歎き渡りし程 なしてやみな 空悲しく げにことわりとか ずきやうなどせさせ と思ひ りき幕を待 しと 我 も脳まし h 3 思 は我 は たじけなくか ĥ +> 為人 けれ 奉 程 さわぐを聞 度心より外 h 0 の心地を思ひくらぶるに 絕 0 ば 玉 御ため心やすかるべき月 まだに戀 日暮し詠 1. È 0 ば Z -j É か L あやまちとて夢に しく侘 h 72 Ö 0 臥 h け の人に 聞え か てつく 72 賤しき きに つ方 n たと 4 る科 ま 3

ていつをまち幾

日を過てと思ふ頼もあらば月

日

多

さすが日數積れば始のやうにも

רי

か

いお

はせん

b

よろしく見え給を嬉

しと誰も思

ひとか

殿

より御心ちさはやぎ給は

/a

渡 <

b

給 Z

て歸

りなむと

12 Ł 5 始 給 b でら して山深 に あれど御覽じ入べきやうもなければ我 いふばかり書つくして見せ聞えよとおぼしきも中 いたく めさせなどさわぎ給をきく と申 れ給 て返しやるもことわりながらうら いく年經 給 侘しうやる方なきまくけ なら ~ 3 h 御 V2 12 終り る所は か < の程 なやましくと聞給 あ b しき物などの 心地 近く 辨が許 () 成 Ø ひしらずか る Ď 返り事 住 L へ日に て驚 か なる ٤ ばか 千度 たは it を お ぼ

かぞへ 覺えずそこらの軍の あら とにい はさし や苦しげに 君は淺ましとお 日 藥 ñ は かに 置て又此 は おのづか てもなぐさみ 御 か やうを受た 使 なき塵 し給 L 有て老人の心地 て此心をやむる楽尋 ら尋出にけん人も有けりかくなが 御 ぼ なき命を思ひ言 御 事を誰もくてさわぎたり殿 しまどは なん 中にても身をくだき命を惜 りとも此心 湯 をだに 行 衞 n ひ續 しにけの つともなくばとく 見いれ給 も果もなき思ひは か のやむ世 けて ば ぬらんと蓬萊不 か 詠 いば 和 1 る物 有 ば尼上の め h 臥 べ より け 12 思 しとも h まこ 3 0 きさ 5 死 事 は は 姬 h 375 とのみ申給へば近き住居も物恐しく に七月も立ぬ b 15 h ديا ï

今少もとせちにとい ぼすにけふ 3 3 給 其 1= とさし かぎり となくおぼ は 日 なやみ給 3 ず二の宮 も取 暮 B て煙 D \$2 あ しらぬ しあわ どた ばおぼし驚て御祈 0 12 へず有べしとはおぼさ 御 0 身 ばか 事 てたり御げ め い同じさまに見え給 聞 此 は是こそ限 b 月とはおぼ 10 もみ入た るもそむきがた んじやたちすぐれ b ども始め しまうけ 0 るは頼もし 72 U しを其 ば に侍 立噪ぎた くてえ渡 72 n B

岩 清 水 物 語

御 n 願 かぎり その 給 5 か お ひ 0 わ は ぼ 4 法 は V を か 33 O かっ すっ と驚 桂 す 3 3 12 お 行 苦 男 內 h は 3 3 T は せ 3 b 納 П 0 東宮 院 生 む を 數 W 僧 3 事 난 か + 桂 け 言 見 3 寸 18 12 T O 3 \$2 か 給 +3-0 h 人 ひ 給 人 7 L 0 影组開 院 30 給 tu 堪 1-かっ 伊 3 ٦ 聞 カラ 大 7. 2 叉 0 け せ ょ T 1 悦 B 納 专 豫守 0) 給 12 見 72 引 御 n な ち ^ ろ h 2 3 は ば げ 九 T 2 を 御 限 言 13 D n H U 3 事 かっ 誰 1-12 i يخ ا h 五 L 30 せ 使 0) 3 3 かっ 5 あ 10 大 給 隙 奉 參 カコ 猶 7= 12 j かっ B 8 L 御 B あ 高 同 0) 給 多 ومد 心 C r i h 納 足 h 3 h 2 かっ お 1 C 0 15 近 ぼ な 7 思 なるに は T 言 3 多 0) け 御 < å かっ にて ひや 世 空 3 世 まざ つと みずほ なく し饿 L 2 P 0 行 5 と際 七 찬 御 たは 1. 0 1-ひ 見なら T -侍 事 ري 哀 わ 3 \$2 25 3 かっ 包 0 ぎに 12 Ł ~ 12 3. 6 な T j 10 隙 で 13 7 わ ぎも 3 七 3 3 かっ Ł 25 しこち 詠 0 \$2 Ш 13 < ()  $\wedge$ -13 カジ 17 佛 げ は # 2 心 か 0) 12 御 お 10 + 1, 耳 냨 地 1) < 12 3 0 h 此 ぼ は かっ 6 使 ぎり 花 げ +} 獎 日 12 ż た 何 ع 1 かう 南 御 奉 3 12 n 7 げ of 3 1= C) 0 浅 入 師 3 3 派 6

かっさい かり 3 給 2 付 12 3 慰 50 13 ぼ h 02 お も 成 カコ 17 は 方 せら 後 か ~ 心 け 0 + 8 礼 63 h < lt より ·\$.. なく \$2 办 どう h ば かっ 13 3 0 御 姬 過 お かいつ すら 199 ぼ 思 な 命をと 13 3 せ給 やう 扩 B う 君 n 2 L 0 20 T 身 人 18 0 0) 12 5 O < か 知 心 心 何 h j L か د اڈر 養 御 1to 5 ち 力; 3 1-12 0 ば げ 1 思 ال -您 b 10 2 うら きょう 泉 侍 程 そさもさすが とて ひや h h から かっ 0 月 8 Hi. 沙多 外 道 30 御 15 T まし 13 3 け 枢 1-31 h h 1-ごの 100 1-T 歸 3 かっ 3 3 我 事今も D 七 成 は 爱物 はまし 1= 他 け 1 7 艺 10 方 かっ 1) b 1 かっ きつ O 愁 かいいか 18 3 3 かい -片 給 御 1 1 けず なら だに きあ 有 13 7: てるこ 彩 11.7 25 何 D 成 1= やと侍 問 心 3 35 \$2 75 10 12 0 0 近 02 12 3 犯 J 胪 15 10 10 2); h 10 11 立) 付 0 3 かっ 7 か 18 1) 1= Ŀ p fft 心 11 ER. T 12 か 此 ā) to 御 70 th 豫 かっ 8 专 殊 (3 れし 3 10 思い 見 度 0 7 (" 7 3 心 3 13 見ゆ 少 15 Y: 511 物 17 总 本 B わ から な E 所 0 E 3 どや 6 ٠٠٠ 給 3 沂 h 5 12 成 (= U) は 专 h h か 12 歎 內 i) 北 0 رگر 3 3 (1) かっ 給 2 山太 3 は 3 3 3 0 粒 3 扩 12 J かっ h カニ かっ 思 13 聞 10 近 ~ な 1) 1= t,

あ

72

b

を拂

V

かっ

らず今は

b

Ž

から

ひなく

ばかり聞え知せむとて近付終りたりしにうつし心も 出てゐて隱し聞えむもかたかるまじきえびす心なれ どたい一筋に此御為には絶ぬ命を出してもよからん つをくだきてなめげなるけぢかさなどはおもひよる んを見奉らばやとのみ思ふ故に數ならぬ身 いかならん岩はの中の住家を て御身のきよまり給はん事に の社にかけて誓ひ聞するを聞 思ひ過しかみなき位 りの事どもいひ出て心よ 有てこそ の事なれば力 くる心あ れさせ給 へ思ひ り給 もあ 末 南 は露 ると はん の夢 らだ に成 も尋 の事 此 b 南 2 136 世 B はもえん煙とむすぼ、れぬべ を あ か けながらいひついくるに我もおさ る鬼神成とも哀といかい思はざらむかた させても何のかひ有まじけれ 幾世を歎て過すべき身に たちはこの道にかはるとも其嬉しさ思ひ聞えん なんやいさぎよき法 もあらず今一と度人傳ならで聞えさするしるべ て是を聞 きあいぎやうづき見まほしきさまし めらひかね る か おそろしけれ あ らもれ  $\bar{n}$ らずさばかり きにもなし今一度の對 らずい に思ふともかくれての御名のすくがるべきにても いといえむに媚きたるが物ふか ため 聞 3 ふがひなくてやつれつる御身の 々心づよく有 べき心地 え たるけしきぞ寔に ばかくるしるべ なくうし 何 事に か 13 0 道にも此愁 3 もたけき心 つらしと思ひおか 罪 面 もあらず一 0 12 たへが ŧ したりとい くてといひもやら どか あらはに成べ など思ひてか あら もせずげに今は しの。むげ < へがた く思ひ て面 たげ 度み にた ながら ん事 れ給 なる 2 < いよ 入て涙 やせた ちはい づ 事 朽果 から それ 思 泪こ き事に きよ < C L ŧ のづ かる ぼれ りし みじ かな ずた h 聞 h 事

なき事

お

Ø

3

L

て露の哀をかけ給

かくる事の出 うせて玉

來ぬ

るは只一筋に前の世

ひなどのなく成にけるにや我

12

h

12

に籠り命にか

見

せ

かゞ

れがたき御契の有

かっ

b

外

0)

おこた

りを干々

給

り りしも

め

C しめよ

せ給は 事をあ

らせ聞えばやと年比

まじく有まじき事と思ひ定めながらか

をも歸

り見待ら

をもたより人の

御名

の憂ためしにいは

思ひし

しづみ

め

憂世にめぐらんと思

は

10

其後行 は

て年月を送りつるとかお

L

カコ

き前 の世 0 事にこそあらめ

立 給 かぎり 3 地 L は カジ とう かっ 0 3 1 h 1= 7 T なる 侍 3 02 カラ 並 L < とて < ~ は ると見え知 辨は きに T 3 72 成 12 じ只思ひ n べ 柳 ば 聞 て御 なく る け は 淚 カジ 3 V b 心 T 72 などか rs あら ひし 枝に Ł か 尼 方 あ < h せ 倪 こそは H なし なる きあ せ間 物 0 b 思ひ を 12 らず哀なるは ぬやうをもうけ C 殴せたらん 語 渡 1= ぼ < あ 及 此 侍 U T 折 帝 いかな b 合 P 置 び Λ 0 へ ね 元 などし 1= 3 隙をうか 聞え はら カラ む総 て何 あさ 給 ば E 12 け と聞 E 13 U 72 カコ 1: け あ る人 7 思 5 b O て爱に h 3 かっ しきの n 3 ぢきなく 花の なく 渡 は さる 字 Ł 命 ひと 3 かっ 世 < とも と生れ 10 相 b L じう物歎か 口 12 T 13 1 などや は は 給は n を は かっ 物 露 6 け は B 3 カジ などか ずさ て只 なけ め あな わ むっ 10 は 13 にし は 2 此 おら 3 30 T 1= h かっ 如 嬉しさをば カジ な るまじき人や ほ 愛敬 偏 n との カゞ は b 1 12 3 折 方 かっ 7 3 は又 なく らは ぎる ば 1 多 か n らさすが しまさん 1-35 3 よ 夜 カコ げ たら 出 身 T づ 故 隙 成 もと つく 心个 3 此 6 h かきよ L 心 12 j 常 1 h 侍 地 思 折 尼 3 3 1 700 は 1= 3 君 カジ 路 g け T あ iĽ 3 3 2 38

くら 夢だ とは より 泣 なつか ひ 侍 せて ばい は みは てこ 居 南 S いとふとも今は 思 てなよら の手 あり ~" 人 12 82 0) 2 12 跡絶 3 ふせ 嬉し 妻戶 1 づ そぎ起出 ふし るに 3 き物とも ひふすに驚き給て T 引 10 22 消もうする物 2 かっ Z U しうなまめ 火打 1000 0) 給 め しうな 包 0 つくすわざこそ有まじき事 なむと n カコ 8 石 やら 7 まどろ 為 にまね な もと ば 成 L 思 h 1= け 3 倒 かっ 1= 思 ひ侍 かか とも D h 1 1 衣 有べきに とし給を ちやをら入て帳 h み給 とば びゃ 思 3 1 2 0 12 な て世 なび 1-叉 2 ば Min. か B わぎてい から 3 見し夢 るべ 1 給 たるそばに -J-カコ 文 E 2 かっ ね などし りに ど此 も侍、 つと 1 3 かっ 2 心 i) 70 から 0) もな 古て き方 な 7: 3 ٤ Z 82 ~ ٤ らず T 111 0 12 3 1: E T < なく カジ 85 け 15 かっ かっ T 5 かっ h 身 17 妻 5 な 老 お 3, 片 内 整 7 から は 御 13 3 づ まで 見 ば 3 11.5 7 鹌 / 3 S H 5 0 Fi かっ まじ 今 道 は 2 3 3 す 寐 U) お ١, 4 42 心 6 統 世に 13 7 ~: < 3 かっ け 13 (13 1 度 و دے 3 < 例 きぞし 3 رو な 1= 3 人 か お やう 3 3 T 5 3 カジ お 3 W H ぼ 我 1 を から 111 0 ود 6 12 h 升 か 1

らずむせか

のまよひにこよなくまさりて立出べき心地もせず 煙たつ思ひをいとくたきまして歎きをそふるあふ

へりたるけしき淺ましう心ふか

げ也

夜

は

にかさし しばか 成 て覺ゆ をかぎりと思ひとぢめん事はなべてのきはならんだ もなく うき身ひとつにとまり侍りぬるをながき世 給なばいと夢の中にも憂事の有しとだにおぼし出ま 御まじらひの程たとしへなき御さまに見馴聞えさせ に淺かるまじきを ひ出なくても慰め所は有 ひたぶ なる御もてなしにぞいと玉しひもなく成 り消も ねてもあく世あるまじき心は來ん世の るに情なくとのみも聞わかぬ御さま成らば思 心づよう打解けぬ物からさすがになつかし 程なるに

に

に

な

ま

れ n カコ 夕のともに 心 ぎりあれば なら 入ばかりにはおぼさねど一言のいら たきわ E あ D いへばさら也かけまくもか ざな 御 やにくに程なく明 身 なれば も成 ねべし秋の夜の千夜を一よ n ばかりの事もはじめに過 ばうさに Ø る思ひのやる方 べきこそと 5 カコ . E 14 S 露 お る心地 しな ば ねべき中々 の御 か n b なさも しこき あまと もや す是 か て有 0 げ 72 哀 ひ

n 0) 3 しるべにもし侍らんとせきかねたるはさすが哀な カコ ばからうじ 0 山 猶 言の御い らへをだに 聞えさせ給 へ道

れ給は 入給はねつもりはいかいおはしまさむなどい にあひて更るまで物語してうたくねに しよりていかにくしとそくのかし出すに我にもあら ひなくてもさきだつは や」いふともなきを聞付たる珍らしさ嬉しさは とどしき戀の たるも御顔の置所なく人にさやか びなしまぎらはし給 かし聞ゆればい うづ御かゆなどまかなひすゑて宰相の君などそく 起てそいきありけば辨はさりげ ず出る心地たとふべき方なし宰相の君もあづまの人 せん方 ずたい人はなれた もそはず夢路 歎きこる逢坂山の麓にてむせふ煙に身をはなさは ねにまし なく此た もろふなりをさなくより見馴し にたどる心地してはか て伊豫が心の中は さ、か御ぐしもたげてはかなく びは少の御いらへの有 £ る所に詠 かくのみはか 涙也殊の外に明 ゆきて 辨さ 臥 て有 なくも さら也や身 8 4 しに増る物 なき物 てな も見あ あかしてとく しく物も見 は U て御 あひ

op は 命 n 2 ね 有 1 夜 つとな T ける 萬忘 恨む かっ 人やりなら かっ 心づよく るなんいみじく もがなと念せら ざまなり るを局 ら大納 打 n 3 专 きながやまひに 其 向 て過ごす成 心心 あ H S 九重に 思ひ ごとなきもく 君もよくとなか 3 々しつらひ渡 を頼 殿 成 なく n カジ 心 なして 聞えやらずし にけ 0) n お 20 てた 事 習 73 侍 ほ ~ n ~ 0 くは あれ しく此 ば 所 りけ てさしてお しさすが ては 3 よせて伊豫も御送 したくせ給は 14 あ やし だれ な 此 23 して 御 しく きに 12 見えね 世 迎 ^ n 1) は 引替 給て もなど打語 なが かっ 3 は 世にとまり どか ~ 0 اع 世を きあ うつ 3 た 奉 此 置 物とも覺えず見る ど此 どろ ら給 13 17 な 數 3 腹にをのこ二人ぞ は 1= らも身を思 るけ 3 しら 3 いもことわ は It ん事を見聞 111-心 で 程 D < 3 り尼上 か際 は少お まで りに参り らひ n は 0 ずつどひ終 もなきさき やと思 しきなら H ~ < Ch 物 T 3 馴 など ひ給 え <u>,</u> は 御 さは 250 出 b 1 8a 終 給 6 h 12 0 3

星

72 0

03 あ ば h

3 方

ど少 を見 げ持 ちは るを引落 る世 しどもに けさせ ~ 0 る事なく かっ 0 12 かい てた きた 光ち 12 1 かっ 耻 1 11: 12 る人 13 C ども ば 5 明ら き清 姬 3 1" 3 てさま 入に とあ て柳に カコ 仰 は ひた 君 ょ おはせざらまし きら B b カコ 난 かっ お T 6 なる夜殿 4. h 1 をつくさせ給 て道々 る事なく きょく かっ 付 此 É ò 來る なる 12 御 373 しさめやすき御 くりとそいきおはすれ への、 0) & る筆して狭に 料 10 0 上手 もの み 15 0 おぼ あ 绯 御 しはさみを かっ あまた 先 どもに ども P 夢に 5 ばと見えた 九 しく 1-H おこなひ と見 器筆 玉 召 B 物 0 お 出 かっ 末 T をか る程 を切 ろ てえ かさ 17 カコ b Fil: 12 2 成 T なり 給 6 也 きつく 3 b 7 82 聖 容 は 御 カコ 3 FIII 3 44 滅 け る」か 0 け MI 12 わ 12

夢 誰 37 人に 過 あ 12 さまを思 た 人 お は 0 8 する 面 か け ぼ ね 出 寸 9 問 るに 夜 南 华 3 ば八 游 0 h 260 花 給 腳 手 を芸 大 D ば カコ 現の Ł 30 井 め 2 9 15 5 御 か 12 使 から 411 な 思 成 0 31. 3

お

は

今はうけば

b

3

給

ふ此

きと大納

言をぞ同

じみか

بخ

1

聞

W

とも

办

御

72

ち

73

ぼさる にひ そ有 る夢の告 事に聞てあきらめぬさきにいかなるまよひの有 有べきならず大納 てましさりげなくつくりてもろともに出 らばとざまかうざまにいひなして此内参りをい ならん がむすめと思ひてこそはいひもよりたりけれ ひげに にびん か は に見えたら いくるに ひ御 いき女御 あら ば け いふが 力 なりともさる方にて科なき ~に我と幸ひ出 n あらずさ 覽 なか ひが h 他 なき事に なくた U る 此 A なか ん程 ひなくうしろめだき人の心成け 12 后達などの らましかば知ずして参らせたら ひなく有ける事成 御参りをひとへに思ひといまれとにこ か ば て見な いの人と思てさるあやまち 0 住 言 25 おぼされまし 45 親 0 のあそんの見始めけ 扫 カコ 程 る人人 n 1= のはぢ させ給 は 見 くしりて参らせたら か クなは と見えつるは いまだをさなくてさ えつる物さまぞとお 恐れ ふに 5 ~ 其限りなく 事なり か しと思 ふかき事やは な 御心ざし深 3 るは 親立 した あやし ひもさとり 誰 ば むか を 2 h 7 か V h かっ ける 72 人 ひ世 は か け ひと る事 b ぼ 有 0 L 1 < 3 ひ h 12 る ち 1= 0 お ば しら う口 のい そぎ 聞 ば 2 72 b 御 12 1 بح 5 2 る人 は お カコ 0 かっ š

かっ

を

か

きつ

きれたる人多か そ此事思ひ立てはあしかるべき夢を見つとていみ ちをしとも世の むもよしなしと大納 かにうけ給り侍らへばい ゆべきならね とまりは じき事とても 方へ参り給てまことや此御いそぎの で大納 つし たて あら 思ひ くれ をしげなる なる事とも心得 ばかりなしる中 を物 るに たら かいそぎ給 W ねべき人のさまなるをいか . も及 御心 言か と惜うあたらしく御 7 8 んに n カラ ば立立 3 なが ばずなが 0 \る事を聞給 るべしかくひとへに罪 御げしきをい つね也つとめて起給 ば 出 3 いとまなげに 5 給 のは へば 言 カジ か L 礼 并 ば te りに 0 ぬ何とい ^ ざら せ び かやうの く後まし いたく てには くと べ ては 8 7 h んは なきに T かにと心えが 口 いまり ひて淺 0 ひても佗しと思は カコ なおぼしいそぎ給ひ 心 あ をしとお お ゖ か 御事 は ち か かぎり なきさまにて生 夢 まし れどお ひ 02 もかきみだ にもてなすべ ずこそ心の てもさばか の告 をお び侍 な つるに 3 か け なき御思 かと申給 をし n ひ給 72 るべけ あ n とは 返 72 n ば < 北 ば 3 b b P 3 殿 T とも 方 出 あ 例 3 3 問 は 0

なく ひ悦 成 〈歎 ち ある n 聞 ż 哀 事 どすべて見出 1 ふよし 外 な・ b It 0 T 2 6 何に してや も多 の事 明 3 うく て人 L な かっ かっ 來 び カコ 聞 0 は 0 てさりとも此 EB. から四名をも流 をに 給 な 御 存 T カコ T 3 ね をの 見え に心 きるん 口 け 命 ફુ るにまして只の人と思ひて見初 12 為 てすべ 72 かっ け 老 さまたげ たれ T もうと ば は とは 3 で 0 もと みなきてすぐ 行 12 12 きし 鬼と ば年 やうに T 13 姬 衞 カコ 10 力; 事 問 見え 蔥 君 カジ ひ 2 思ふまじきをよく < F 出來 ~ h 5 北 3 見 た 5 7 0 0 T て生 き人 奉 12 色 御 3 n 3 26 カ・ E てさらでだに 0 ^ あ 事 猶 12 T 猶 5 3 12 方 D 13 6 V) から し給 出 1 人 1= 7 有が 憂 1-御 12 3 h 15 82 だに 數 V 3 0 3 5 カラ T 3 ときえも E せうとをう n 有 たく 3 及 な 别 心 12 ち 人 0 御 n 1 2 聞 3 身 n 地 ば L 成 ま ( h T どけ ぞ積 漏 空 ぬ宿 認び 侍 0 賴 そぎとまり給 おぼ D かっ 77 かに 3 憂 5 給 1 な 3 6 つせまほ 事 過 なき tz h 3 72 U め 世こそは かっ L な げ やと ij カジ 我 辨 G a) 10 き人 カン 12 1, 3 計 るさ げ 1 1= 4 U より h 3 5 て人 1 专 £ 芒 思 < B op 3 心 思 な 書 給 L is

せ給 Ł 見給 殊 カジ 給 歎き入てし 外 あ T 3 かっ 有 Ŀ わ てまぎらは つき常 南 南 て見 やし しき b 口 0) b か かっ E 0 1" いぎやうづきた なよら 1 外 まじらひに思ひ立なば命 1= 惜 T しこに な 3 It より 開え給 と人 n b け < દુ 1-砚 T 御 ど東 をし n T か 青 押 な け D みやせ 打 な B p 5 13 る づ ~: 0) 族 0 をほ る薄 りて て世 0 泪ぐまれ 3 給 弘 御 め めでた 5 もり ば 過 與 à) 12 ならで 17 いそぎといま カコ 打そば 色の てま ょ 3 3 給 手 L B 給 12 い h あ b な 5 物 カラ てぞ有 < 習 は ~ おそろ 3 しき 給 な U L カン 12 小 3 0 13 1 社 知 め 5 は Š 3. みて 6 3 L \$2 3 人 げに 煎 物 ち てって it るに 7 6 B 4. 侍 お J h 也 有 ぎに おは j ぼ カラ ζ. 思 め しもなく 3 h B 5 らじまさ 内 A 30 は かっ 13 V ねる など まじきとい 7 姬 つけ 0 生 住 扇 3 君 < 10 寸 2 0) h 0 出 L げ 3 を手 L 0 御 よ ても 专 3 らずらう 1 ぞ慰 清 は 給 かっ 給 御 T n T 為 それ なさ 3 2 j らに 方 聞 35 彭 る事 ござし 人 は it 3 え ナこ 3 御 を雲 3 見 ナご 12 殿 밁 4 古 力; 3 る b げ え つら 起 渡 包 431 かっ 0) 歎 告 かっ < 1) h I け

給ふそ 女御出 世 る 中將の らへん方な h 知 お か をしとお もとな かたちめでたきよし聞 物怨 離 ろかならすざえか 0 る人々 せこそ及 する夢を見侍 かっ ぐるしとお 何 內侍 ふそくにて 0) 0 しと仰せら 多か たら 外 をい る聞え 給 かっ ける程にいちはやき心にてわざとなく して び給 0 L < 0 ふまじ 数か 耻 ナこ か れど今の ぼ 御年 づれ なみ 誰 かっ はざらめ 有て我もく 事のよし忍びて奏 は てなんいみじき事とても御 した しく ば せ給 ñ 侍 かっ おはするにそれはみなく一定まり け b 3 給けるをこらし聞え しこき聞 などは 72 か るに 世 け h 3 ふ事 おかせ給て るさまにて h ていといそむかれ給 A 一に放 3 な 0) 何事も然るべ か 契恨 きは たけた 12 あ 限 俄 n にか ば思 と发か え 0) 3 入道殿の b 申 1h な おはする め 弁べん Û へる事 0 5 とお しくぞ殿は L れど御心 ひとまり ひ慰め 此 桂 給ふほ びにしをだに しこより き事に ぼ 君達などこそ 家 0) 事は より の聞え h から 院 L 年比 ふ内 とてし 5 給 命 8 0 めぐらせ n 聞 2 なくロ 2 こそな 3 な ち 御 あ お ひに 成 0 は 12 え給 ぼ 有 御 かっ 3 Ľ は 3 給給 Š 5 3 T 6 寸

心地 を聞 ばさ 給 世 1-き御 せ給 か S n 事 お ほろと泣給ふ ġ にゆづり聞えてん なん侍ると聞え給 せ奉らざら つらひ 忍びて聞えやり なん 1= らずおもくして帝につぎ聞えてはこの け 72 ば爱にはさり ぼさる夕さり渡し聞え ついで有げに事ともなくてとおぼしてそのよし へばいといとをしうさぞ思ひ給は L 出 3 事 もちるられ b 3 へと申給 てなべ Pa 12 けしきしるく と聞え給け などみがき立 てしきりに は べ かっ š h けし てく 3 n ક へば夕つ方對へ渡り給 給 給 ñ 1= げもなくて帳 4 き哀に るに も中々心やすかりなむとお せ 事 とをしく け へれ 3 7 か へばとも て十月廿 n め聞え給を年 E お りそうし 5 けれ ぼ たくや 思 ば ば年たけ給 か 心心くる ひの むと なと 限 ど人 歎け て北 りなく悦 かっ て大納 外 < せ H お 0) 削 E しげ と定 3 ぼ ど力なく 頓 E 方 しは 0 お るし 程 ぼえて n 渡 そひ 御 也 b T 忍 め U んとことわ しか 給 おば 殿 ばとて親 こそ打 3 方 殿に へは U あ な て月 1= 7 か お 3 かっ り心えさ 5 せでほ 12 て は 71 とをし ぼ 南 H とらう T かっ くと 1 物 りに は 3 渦 いる 0 御 は ろ 0

ž 世 は 泪 かず 12 20 御 奉 < つぶ きとうけ とう 聞 T 3 12 j げ 2 御 げにとく h < 0 0 わ L きて え給 打泣 けく 3 給 うく 報ひに 250 h あ 奉 3 らやましくぞお 1 11 あ b 12 折 1-72 所 n 見え給をね 泣. 安は二 6 給 りとく n 見なし聞 せ か 12 3 せき におはする 宮の 3 とをしく 給 で T in は 3) ぼすな てぞ侍らんと聞え給 て及びさまに御 しうて思の 12 12 57 0 か りつ ふささい か h 條京 中は n 3 せ きるも えさ どが るに 給 T 8 びさら 3 L は 忍 とそ てと ぼ 奉 御 極 5 りとこと 0 外に させ などか h CK 12 せ を え給こよひ ひしらず心ぐ い 給 む ぼ 置 72 0 \$2 12 1 かっ きるし ば 契 ひ 給 3 袖 事 3 12 0 15 Ø 1 は御 をひ 歎に 殊 け 治 慰め < 12 5 かっ 12 わ は 老しらひておは 泉院 衰と 3 j n め 心 h 85 は 10 3 ど御 どか ह 殊 車 Ł 13 かっ 7 0 E 西 お 人 n て心ぎよく にて気がか 及 ぞ 3 并 13 3 聞え給 は T 御すぐ へてさるべ 12 ^ ば T か 30 12 杤 おぼ < 6 1. きし 3 5 果 ば げ 13 け 聞 L Da で御 B 近 5 せ 信 L なる 3 え 人 ~ かっ しますべ ば打 宫 3 な え け 1-8 4 3 1 0 b む ぼ する 3 7 E 1: るべ 忍 カコ 1-御 n なく T 口 ~;· 111 277 1 な ば 25 渡 3 to 5 を 3 2

12

け

7

かっ

<

6

3

は

n

聞

W

3

もらうく

愁

侍

1)

すぐ なけ 六十 えん 見給 程 て御 思 1: n び給 3 すには 0 L 3: 5 T 0 てと りに どわ 心 大 U n よ 1= T h 方には、 E 泣 地 12 かっ か せの程 1 0 さこそ有まじきへはと殊の T 0 3 たとし 是も かうあ 世に 仝二 け るに かくこし 媚 ひしら 12 n L 12 よりうつぶし 3 T n から ちなどは か もか 0 b わ 心 よき人に ばか わか L 御 111 なき玉 1= て終 さるも ずなつかしう心ぶ T づきな へなきさま < 1/1 < 時 ぎやうづきめ 13 15 3 h 6 しこく思ひし さす 世 ور 多 などをえた 2 から T ひに言 12 慰め ぞ C なと < は 0 ば h て泣沈み給 カジ 光 < 72 かっ お 給 ょ かっ から 50 身 别 を は (= L 心 1 は の薬を洩 1 え給 けだ か 3 せし は 0 30 ね 3 けられ は 2 31 ぼ 3 B B す ば 人 1 外に思 かっ 人と < 見 つら 見 幣 かっ 25 かきさまを あ h B す より 11 111 7: < X 6 1 P 給女君 Ti 3 3 な も 72 12 稻 4勿 < 3 は 8 3 35 5 をこし 心うく は 稻 3 ひ 方 大 0) るやう カコ ひ B 12 وي は は 南 も 近 納 は 1 7 な から 此 12 か 3 に見 1-الرا t, b け 7 10 G 17 御 0) かっ 1" 10 稻 1 宁 け 12 11 tz 12 35 82 30 1) SF. 111 80 5

け

5

て辨が 給た 事も此世 らかなるに 御さまよりも殊 見えずあまりに きのびてなき人のやうにて打身じろく事だにとて臥 て過し侍ら からも世の常には きてい 思ひしづめ給へとてせめ やにくなるぞかやうになぐさめ言も聞かぬ心ちする に結び置 こしらへか は あ カコ ひ續 7 12 るこばたの里よりは ٤ とする程 もとへおとづれけれど何の 泣 け給 給 U 7 7 かっ くい 給 しひて憂世にとばかりにて袖をか カコ んとてそば とつ ね ける御すくせもしるべきに思ひ慰み給 物せさせ給 たは ては S ふもいというとましくてちごども の外に に驚 を見 思 べか はけな の事にてもま しに あが 御覽じなる、折もあらばと賴みに U いきぬ夢 ? りし 3 に我 づ 君 おはしましけるを見付聞 面やせていみじく物思ひ のおましに カコ をれ るぞと夢路 るべ ての 心 にその事たが の置所 也 8 て泣臥 き御 らずおぼし慰 さらばした けりと思ふにあ な いたはしさに少し引の かっ な 臥 程 n かひ有べき事 給 1= 12 1= T さま る夢 などか も淺まし n ひてか もあらぬ るに がひ聞 1 てお 12 1-で少い ほに 日 < あ なく 3 は 72 0 を え b とも 70 0 珍 7 3 經 何 30 あ 公然 Ł づ お 御返事 起出て 1-ばにこそ御身 露 と思に辨も怨 りてと 9 ばよべ姫君 3 b りも久しけ 萬 1-カコ 15 きよりもげ がたしい る御様をい 給に ばか 書 めて人も たり 取 辨が か

ひなし夢になきけるが もおのづからおぼし出 なしく てさめであれなどなごり戀 1-見え つるなら 現に る折やあるらんなどつれ h も枕露けく名残もとい n ればや人のと思 覺の 3 ક か

カコ

さし幷べ聞えたらんたとへなきもをしうかなしく きたりさきべ にかすめ書たる程の りもしらせ給 ばかり物もい きこえ参り給 其宮 たりとて事のやうを語 かに しか 許 1 ればいかにと覺束なきにやくまた かはせざりつれば には御年 め 袖 づからに へ文かきやるたしか あやしと待聞え給ふら しくて返事按げたれば此御事 ぐの所へ渡らせ給 は 濡 の局にて尋ね聞えつれどもた 0 はれずむげにしらせざりつ はでよべ渡らせ給は へと細かに まさりてやが 用意淺 程 も私に 殊の 外似 も周せ給 あたりの人に問侍 カコ るに今更心 敎 らず見ゆ ならんも恐し てまどろまれ げなくこそ物 へ侍 ひしにともに終 つる んなど細や 使まづ りし んと B 所 か俄 n 叄 例 てを ひ内 ね るよ T Š ね か 7 な T か ょ ば

叉引 給 何 る身 多 て雲の 故 à (d) h 5 見えつる御 ひの夢に例 事 3 カコ かっ よりもこよなく ては なしくい き事 b 3 にかとて かづきて か 92 げ給 て宮 II. 給 ぞ御 Ŀ h かっ 1-し聞え給ら おば なき御さまな ふを見 は 礼 はず やら 参り つぎ聞えては 30 30 20 ならず見えさせ給 よくこそ物 もあらずた あ げ 臥 立 つとそひ L 5 成 出 る 物 02 む方 12 す もといまり し御 しくて見え聞 辨や宰 かっ 給 あ 何や たども かっ h つをび いさぎよか すってい \$2 しこにはつとめてに成 1 と思ふに憂身一つ 身をもてそこなは n か 3 せさ 居て娘などの煩 n 御 14 にかしい ば成 げには 世二 隙 相 露御 物思ひたるけ かっ やと身をな んなしと佛神 1 せ などは哀にか 7 13 も数ま 給 3 覽 有 えさせ給 ち とさまで けりと哀に かっ - -じ入ね かざ 御 ~ 3 つる 1 さるべ る古 き御 年の おぼつかなさにあ すが 1 きになし 今少わ おぼ 身を n 6 はず 0 んをあ しきに 8 お きに ぼ たじ 10 ゆゑに 給 1= 12 かっ カコ L 7 な L りてこよ H か どなぐさ D て泣 て告 歎 け てく にす B しく き宮 3 30 かっ 0 11 0 なく かっ ほ かっ < かっ 給 カコ かっ 3 ż は L < 난 3 ~ T K 1 知 n

せら ら楊貴 営の て当 げの とわ てし に待 人際 心を 3 E 5 3 らせずね てのちさの き哀にてよし 12 カジ Ł 3 17 おばえ人間 へてだに物 (= 數 あら h かっ ずかへる事 か 1 | 1 なくて宮 12 Ò 1" つれ E 12 たへ 1 13 3 妃 しらず 給も衰 おそく聞 び過 0 3 き御心ざし と忽びて聞 つみなく して引た は御年 ため Ø2 1 み心ざよくては カコ などは女御后 31: 也 1 せさせ給 何 D 1" 事も夢 內 3.7 0 過ごせ 10 3 しに猶過 えさするもしづ 冬り 有て 力多 我 20 35 か 130 12 0 え 程 参り ほ 些 ^ さばか 給 6 2 3 b 元 南 L は 0 こそ打 60 かで 集 為に 給 弘 かっ 世 ال 0 う V 02 13 13 10 h 3 T 3 12 H 6 け カコ 1) かる ~ 6 荻 さい 思い 外 3 12 しこくぞ 6 b E かっ 13 カコ などなぐ か うま 12 きし は 4 8 め ぼ 13 心なくこそと は 12 n 4 10 はから 誰 42 たっく つらり l) も it T 3 12 あら 始の 0 10 わ け 心 づみ給 3 6 か 1 0 こりがか は 35 50 3 やう 3 33 かっ 12 かっ かっ L b 4 12 上達 世新 是に過 1 1 か 人を内 らん ぞや in たり 10 か え給 3 るさ 大 部 3 2 3 10 思ひ 1; 力 殿 法 13 かっ 经 から 3 世 3 かっ

を思 じる 消う 也 P 12 きはため 也 さやか さとの 見そめ給てか のみまさるぞあやにく あ め ひ思 きをた 0 は帰日た する 3 方 n 給 ひしる方も耻 つきせねどさるに おは たに 1= と申 見合 神 もや有け i 聞え給はず夜をへ 御 そへてちゃにくだけ 物 しなきまで見ゆれど片つ方には露ばか 方 詣ても今は ひ まさん 30 も類らは もとより もうけ さる もが まさぐ く世 筋 ほ せ給事 1 から て殿 と忍び n 1 むしらずや なとぞ 3 しう心うきに常は あ b は隙 んは中 みそぎなるにやまざるや戀しき もとか もなく唯 らき風 しき心地 ż あらぬ 聞え給 もに戀なき給らんうらやまし 成け つけてはいといし かき なく 起 63 てい 臥 3 k くにくるしげなる ひ 8 て物 か ため な 絶参ら すぢに 歎 あ 召 かっ へばい て知 の人 か とは たは ひ \る事を見ず聞 る御心づく あ た 和 0 1 क्रेर 引か 給さる、 ど鼠 ず籠 みか しれ 循い いかかい 3 人は しげ しげ り女御 き御心 なる御 か り居 なけれ n か 御 なしきま b す此 しも こと開 心ちの 心 は づ なる人を 3 身 ね 3 御 12 ひとつ 0 こざし にま うさ ど心 から 心 文 げ け 10 3 かっ りも あ U. で ょ 多 を T 3 3 きを 心 1 こよ L n ての 1= か 0 5 あ 取 給

にて都 は我國 **遣敷すくなく成て侍らへば心細く思ひ給** げなく て見給へば有し者ともなくやせあ L めて後は田 にぞ げに 物の 細げ といえん 申 るまじもとより ど思ひおこして参り なく て久しく わかきもの 見ゆ やに めら 3 ば打畏り か なるけ 5 にさすら の中にてとも 思 さま お てなせど詠 にけ ほ 含住 もが るは にきよらなるさまそひてあくまでな れ侍りて大方も長か ひ出ら 3 は 参らぬ へ侍れ は 人 きいは T 3 72 も物うくまかり りし にことなりけ は b n 3 10 b がち てか かに たうしづまりた 0 御 か もさの 72 か ば < 12 なら やまひ h てこそい かる かず 侍に n 方な つひ も成 V 1= かくら 3 ば珍 2 物 0 h 72 月 思 かっ 近 あ ~ 0 b 心で らし きゆ は見えず心なき ふた す心 12 栖 成てそこつなる く侍 打は かん り久し 日 らぬぞうに をみ b を隔 な E か る所 鳥部 が るけ ば 3 る る かっ 0 しげ てみ 顔が Ó かっ 1-か h b 此 なやみ てもあ するをさ b 給て急ぎ な 0 Ш 12 きて は びは < け れ にやと 見 ば 參 司 b 3 h 73 19 かっ け か

をは なら 5 やうく 多 3 給 3 ょ 給 15 大 の も さまに 0 殿 N h 渡 光 ~ る は 2 御 かっ かっ Z と聞 と哀 参り は か T 7 3 給 10 b 聞え 春 せ 例 b T P T 3 入 渡 あ ども W 也 道 3 1 Ø 3 などまもられ h 6 次 殿 5 爱 見 3 御 過 とまり b 12 22 第 居 1= カコ 赤 太 2 カジ n -初ては哀 0 古 とは 四 は成 郎 五. L 0 お な U かっ 0 8 -大 ま は 月 h L 12 五 たは 1 L 內 h か とも 折 納 大 L 1-Z 了 3 月 L 1: 1 0 0 E しき宮には さし 10 3 給 臣 御 御 かっ n 雲 ならず E 15 言 6 と思ひぬ 0 カコ 大 3 心 比 は 我 心 左 1= h な 0 かっ て有まじき程 12 なる 大 成 臣 ろ 遺 8 得が どする 12 t ひごとも思ひ 1 カジ かっ き給 將 給 達 折 n U 女ならば b おぼ るまじ過 1 たし 權 3 な 3 有 申 10 まどひ ずまひ こよ 5 さる きさまな 成 大 成 給 な け 1 かっ る 給 納 なる など 0 て六 \$2 n なく ぼ I ば ば 白 星 は か 1-T お 0 ならず b ぼ 月 左 事 あ 0 0 1 かっ か L じう 、より 思ひ るを 右 右 給 方 有 御 光 なく 3 んぜ 0 かっ 比 大 お 3 慎 見 世 0 お T 悦 80 け 南 まし もし 200 將 今は 世 Z r 心 心 6 宁 (1) T 77 X 弘 カコ 所 を 10 也 3 静 年 カジ 俄 を かっ n 6

0

幕す 過 薬だ ざま問 3 供 かっ U け 君 絕 る人 8 此 御 0 あ T 養 す 3 T 3 3 12 3 殿 は 7 3 3 3 物 是 つと 1 1 3 か 1 見ず 3 聞 II; 60 など至 くまも えずこそな ~ は参 45 えけ え 13 せ かっ 出 カコ 3 け 給 給 ٤ ا" 0 成 3 な 胷 成 な 73 で 物 世 5 な b け 0 n 見む h 2 5 3 n n 0 殌 き御 ど宮 給給 煙 賴 煩 ば 通 大 3 此 カコ D 3 お A h は 6 3 は 11 か 4 7 ぼ Š 內 U 规 思 1 3 0 20 奏 大 ず のうへ け 務 h 哀 立 7: 270 和 1 御 1 T 卿 宫 رمجد 此 な あ 也 心 也 0 心 12 b 7 15 L ~" 習 君 3 後 むまな Ł け t 3 は 3 朝 伊 0 3 姬 地 夕行 して 豫守 は にう 12 世 1 1 は 御 8 H 0 絕 17 かっ 君 2 1" さま はは ぎり -1-數 H 腈 3" 3 を L 2 10 10 末 3 3 2 せに 3 から か 12 U B 0 引 36 に能 じく 程 3 慰 L 此 ~ な 1.1 女 かっ 0 0) H 12 10 75 it 本 な 112 12.7° 折 ナこ 信 む A 3 B きに 方 ip 御 歎き \$2 定 カジ Ł 0) h b X L やこ どめ か な T 樣 便 ば 5 T T 22 1: 心 前 3 給 10 M 5 江 6 8 9 ょ 12 お ~ 5 3 15 齎 1-T ぼ 至 3 h 2 12 0 心 て開 1. ijî 儿 法 午 た 输 i, 及 大 あ 打 T 35 如它 H 1 1 かっ 11: 添 ---きょう か 殿 たこ 尼 3 佛 元

三ばか 我身の はしけ 成 られ給 さね給 御とぎにてお はずながらも らず月は積りけりかしこにはまして身に ぬる身をいかでいとひすぐす後の世をだにしづまず 72 にとく せ給にけり此御腹 かっ 日 とつね なんと てく にそへて深き御心ざしのみまされど上は世とく C な おろ てだに心を慰 なが をが る世なき御氣色をしばしこそあれさのみやは るをとこ君 て目出度おこなひ人に かっ し契も心うく前の世うらめしう返々も思 は聞え給へど心もとなくて三とせにも成 我 歎か して b ながらおぼえてとにかくに思はずにの く心の ならん せ給 西 は はする御かたち心ばへもをかしげに つをい 成 Ш するぞいまだ御かたはらにて此 と恨續け給へどうかりし夢を見か にさる事あらばいかに嬉しからむ 0 むべ に行ひておはしますにともなひき へどかぎりある事なれば思ひもよ 底 許 け 一人物し給けるはをさなくてう に哀なる れば きに つと慰めやら 0 12 文なるやうなれ おのづから落ちる事 おは 物に覺ゆるもいとう 私 1 します御弟の 和心 かっ すめ 玉し 0 書た 中か ど見せ聞 Ū み成 ひし 上の 十二 もあ きつ もそ 3 n B 月 お

した n 言をとせめ聞ゆれどき、いれ給は そおのづから散事もこそあ けむと有がたきまで打もおかれず宮は御湯殿に 墨つきもじつかひなど何事もいかでかくしもすぐ えよとおば しがりてこなたへなどいはせたれば 辨を尋てしが n げに大方のうとか ひやり一筆の 私の返事ばかりこまやかにてさるべき御身なるをこ げにおぼしたれどさすが しますよき隙と思ひて見せ聞 かみどりの唐の薄様のえならぬしみふかきに書た のはかなしき」むすぶの神をかこちてはいといと」ふ べかめるに必物し給へ萬はみづから聞えさせんとい 杏 などへも見え給はねばいかなる事に さきの世にいかに結ひし契にてとくる世もな 我心の鬼にこそあ しきかぎりをぐしたれ 返事 ~~と聞ゆれば少納言 るべき事にもあらず今までまうで もならび n に御 と思ひおこして二三日 ど中々び n なきことなれ めに ゆれ とて御顔 ねば例 ば かくり 1字相 か あゆみいる身に いし か あか のか る物 ば驚 Ú などめ と人も思ふ b 見ゆ人の めて苦 ひな か tz れず お 10 は 3 H

道びくま、に渡殿の妻戸のもとを入より追風今めか

やと き人 打 は か H 3 50 13 10 L 5 をさ は < 2 カコ づ まで は やせ給 3 つぶ は 5 n 6 13 吹 へなやまし 0 0 かっ 7 聞 せ 55 歎 2 b 心 12 12 匂 哀 て物 え侍 32 13 を も せ 3 御 かっ お ては n < ぼ 参らず侍 ず ようい 侍 か 70 思 ること 137 T くべ 12 カコ せ 系 うの 侍 る ひ給 此 らず 3 3 < られ どいふに又やうか 3 侍 んえか 見ゆ 御 は けき折 Ł き人もなく 22 Ti など常 普 2,2 つる 大 かっ h ば 1 何 字 T さまことに 2 事などは おとない 人に 殿 かい 6 事 相 と御 \$2 覺え侍 15 ながら うの 心 どみ 0 3 より より 13 2 ^ ż なら 打 3 かっ じう づとなく 言 20 故尼上 も御 かかか 、薫出 拾 ずく むけに 13 程に見 しき 朝 J さるしこ ナこ ふきいじ Ł 夕侍 15 物 n 6 5 ち 人 息 久 なに わ 心 礼 8 たる程けだ 13 南 お あり わす あと りに 地 らひつかふ しく 亂 給 0 (" 7 3 b 3 FZ. 心を は ie i あ けるさまに見 心 7 は 3 事など語 いまる 明暮 心 3 かっ 地 たこ きなどもを n なき雲 立 かっ なとあ 参らで 5 られ 8 地 聞 L n 1 3 あ 10 5 3 Ł かっ T 13 3 3 3 こまつ こよく に辨 ざや とか るま すの てむ 0 心に ひて L U り出 L かした ぎ 72 果

まし せぶ 思念 御身 より き人の は -我 3 詠 ばなど うそくとの 指 もとより見 か 3 たきにえつ をこそ つか は常に なが かり 煙 物 T h 入 出さまに まじとせ かっ たた 世に Ji. 您 12 など有 12 b L るけ らう 御 b ち しく L お U) やうに ざり 御 は カジ た E 8 1 もと辨にいとまてて宮の めて かっ tz て忍 j 3 12 3 心まどひ H 1 け近き所もなくさた過給 み け 1: 0 < 73 かっ ょ T 0 き哀と思 かっ 思ひ 其の L 3 御 あ は にほ 5 \$2 12 カコ カコ 12 3 L うお には 宮 薊 n ね 3 3 h 5 ^ は الح 3 聞 ず は やこは かっ 人 の外なる物に 12 め 色た 給 是をば との りの は ぼ 3 12 は 淚 身にそひた 君 給 13 10 達も是 を 誰 け D L かっ T 今の 稻 ては 人 7 ばことに むけ A 3 カジ 我 いうきよ世 をは は 目う 10 ふや 大 は か 8 きを哀 方は 73 まだ 373 對 心 あ 13 かざまに うな 3 3 いいいかか け 及 3 御 12 地 あ まじ して すべ と御 なが iù よく 3: 所 見 力 25 かっ \$2 12 1-12 地 るに 給 ば から 1 参り 見やら 3 الح 人の 内 は は は お £1-は 事 す 3 T かっ 82 忍、 1 2 h な 111 82 45 あ 1 3 CX 12

給

12

人

目

は

12

13

3

から

6

ひ

て

頓

さなが

5

前

に出

て文取出たれば詞はなくて

の下よりとり入

たれ

ば苦しか

るまじきなめ

りと思

來たりさきべ~は忍びて局へこそ來習ひたるに大盤

給けるが靈に入て時々いたく煩ふ事のおはしますが し離 く心の鬼に空おそろしくてとく立ぬ 心の中に思 人めも思は え給たるらん似 ど女房は見まうくうるさしとおぼしけり五 しき折も有て御げんじや何くれとさわぎけるをい わづらはしき事月 どろおどろしき御心地ならねど身をも心にえ任せず こうへの物怨じをいたくし給てこらし聞えんとしば ましきならひにてうへの御方 みだれ久しくしたるにからうじて晴ま待えたる夕凉 ともすれ さまかたちなどほめ給もかたはらいたくおぼすべし みにこばたよりとてをかしげなるひげこに橘入てすく れ給 なる道の國がみなる文具して辨の君に へりけるをいちはやく思ひくづをれてうせ さし出 ひ續けて御顔のまもらるくもいと淺まし ず我物と起臥給ふらんうらやましされ 0 かはしらずをしういたはしく朝 に二度ばかり四五 むづかしき折々多かりとりたてお おは しらぬ事おこが 日又それより久 しまして有 月の とてもて 比さ つる ٤ 夕

手習のやうにてはれ給はぬにや御硯の近きを引よせて其文のはしにに有ける橋也けり折から哀におぼし出る事多くて忍ちはな」昔の人のとぞある尼上朝夕見出したりし局ちはな」

を同 くしげにて春よりおほしける御ぐしのまゆ 年もきびはならねば畏り置聞えてさしのきなどする 侍らふに例 ぼしたれどかつは心や慰むと常に参りて御との りはつきせずめ きやうなどのやうにひたいにあて、我手をさ 出に成べきゆゑにやとかきくらさるく泪 とも世のつね也存命ける命も是を待見て浮世の思 ば辨の君がたがひたるなめりと思ひながら引あけ と書すさび給 が物からなつかしく見るぞせめての事な ればかくる事あり御手なめりと見るに珍らし てとらせつかしこには宮よりの文のさながら 故郷のむかしを忍ふ夕暮 に匂ふも かなし軒の橋 じ心ならずと恨給若 の御 へる嬉しと思ひてもとのやうに かたはら近くとの給 しまつはして明暮向 君 は三に成給 へば今はさすが ひ給まは ふが を拂 る大將殿 わ しく へお 返た とう Ž ひてち っるに 嬉 ょ 0 12 n

殊 は ず やうに 世 3 中 つに う 將 ば さう かっ 22 あ 1= 2 変化 はとぞ あら 3 務 お じと 物計 また 鳥 3 お なかり 0 13 0 ^ 成給 外 宮 /" ぼう 亂 ぼ T かっ あ かっ 0 して 3 のう 對面 ぎらり は 侍 \$2 村 あ ふ其 過 H げ け 5 1-游 3 b 22 お < なら 3 殿 も 6 à F ملح 72 ほ T をもし の心 一変に お 後 侍 3 カジ を参り < Z きさまに引まさぐ h 0 お 10 へも参らざり きかす ぼ 同 例 け h ぼ 成 12 め カコ 3 文 どよって は 折 給 3 C 3 八 1 かっ な 12 0) もとなく 様な E に近 4 たる うむ なども L るやうにて は て女 \$2 Ď 72 御 き事 出 3 物 た かっ な 12 る 君 3 Ē 付 3 J Ü b 恠 b < 12 若 Ĺ Ó 7: 過 て里 事 歎 時 此 かっ 1= る ば h b 1= ぎに 1 から 御 h 煩 は 1= 君 3 かっ 3 0) 12 1 かっ L ざれ する 出 h 後 かっ 又 1 給 近 ひ 打 程 物 h 1= AL. あ 南 物 0 珍 御 fly < 給 續 15 1-は 7 は 0 北 12 うく ^ 龙 は ぼ ち b L 大 思 2 L あ 1. 7: 5 事 7 萬 お お 籠 < 給 將 1 內 りき給 1-は は 出 7 思 0 h 0) 此 T 老 來給 情なく う す 殿 慰 對 ひませ T 君 な T づ 茶 15 0) は な かっ 居 は h お かっ M かっ 22 0 0 T あ なぐ 北 若 憂 古 3 3 T 伊 E Ł 2 h 3 / 20 しと誰 3 13 10 3 思 Ĕ 祈 藥 0 を 30 君 0 御 1 か 10 は 70 給 大 h 風 A Hi 物 117 < 0 から 12 h 12 0 け

などし 問 より給 かと どい もし 1 わ 給 殿 させ給 なく 殘 T 第七 0 0 しか ば など隙 世 離 な 出 君 L 聞 せ給 きなら b 2000 に心見 3 げ として 隙 -をだに L 方 まし らず 過 は て見 へば執 3 h III. 1: あ 1 たこ ば御 なく御 江 12 かっ 3. お 3 3 渡 L かっ 12 やう どし 程 給 L 給 0 1, 方 かっ کے AL 辨 3 3 ば かっ ぼ Y 15 뮄 艺 念 け S かっ しも かる との 言御 訪ひ か ば 3 打 で めざましきをあひより給 納 お 聞え給 相 ic 見え 100 ぼ は 332 50 かっ か かっ 0 1-なく 5 りな 3 5 御 物 i) ^ か 童 1 1 にか 大殿 給 叁約 見ゆ からど 同 T る てい 供 0) L 3 h n をさらで 5 御 12 女 3 1= C お かっ 0 1 0 女房ぞ は 參 المرا 女君 る事 Ł Lie る は 邡 50 17 0) 1 る当 渡 でに h たて 愈 思 加 25 近 13 也 10 さし 背 かり U 持 'n 少 3 12 3 前) だに 給 1-打 御 參 か 君 300 6 御 よら かっ 13 1) b 0 i 大 Hi h è 御 物 たこ \$2 T 抡 15 包 6 世 6 ば L から 3 内 殿 近 なども 開 0 12 カラ 0 8a とて より は L ば 成 給 11 を h た きなど おそろ 12 共 1 3 T b 給 は お 1-かっ 11 ^ E 3 ٤ 1-5 10 は 1 大 た 外 沙 T T きるり 物 折 す) 来 かっ h 2 あ h 10 住 渡 後 は U 5 3 4 10 大 12

ぞ見たた 我とはし給 給はではりこなどのやうに人にのみまかせて起臥も と慰 を宰相語 いみじう心ぼそげにこひなきなどし給ふを事の さいか め 奉 る伊豫守はかくほかくに住給よし聞 3 b うつし心 はず中風などい 聞 いかなるに て是にては命 にて怠らせ給ては今とく渡らせ給 お はする折 か御身をつやく 延ねべ 、ふ事の は ζ うへ まじり おぼされ を求 はたら 12 的 るにやと 聞 けり宮 に給 次第 ては か な l h は T

侍れ やら かりだに解 1= יט ざなる心 ん方なき今は此世のうちのけ近かさは思ひ絕て 身を 辨が てぬ 雛 局 催 n に行て例 る夜なければなどいひもやらずため n ふされて讀みた 御 俤 0 の忘 いひ續 る く世なく n くる言 ど慰む計の 關守なき夢 の葉ぞまねび 御 事だ ば

たに見す」 心のやみの晴やらて雲井の月のか けを

は」人しれ 影のあまね ぬ御 < 1 照す光に 3 12 は は心 沙干に見えぬ Ō 闇 も晴さらめ 石 は お 0 à

7

御宿

なにか 7 け 心 0 は 2 ð, ほ L 日 ち 思ひたばかり宮の 3 n らんをさいひしもの ざらんとてもかくてもそこにこそは 御言葉のまくならばなどか づから見たてまつればいとこくろ苦しくこそ侍 おは 辨は 籠 聞えなどすれ るが打はへて物ぐるをしく御 かあすか げに思ひくづをれ侍ぬれば雪の山なる鳥よりも にか おはする折 哀を見過さぬ本性にて君のおぼしたる樣も見知 なればなみだはうきながらさすがうち笑ひてこ くをらく あだならずうしろめだからぬが り給べしとて世 直すべしと大殿より伊豫守に仰られ する長月十日大殿 大方なべ ~るこ ~ ろづくし 住 の心 一て寂 あれ もまじり ての しく ば只今は のし侍るに ばい 御心地怠 中ひ をとは 成ね わ て女君の かにして今一 かうどに 大將殿 るに Ŏ 1" 5 おば お きて参り給 か る時なりしばしはうつし 今おばしあはする折も あはれをかはさせたまは かく んなかをなどかこち 10 ぬなど春 南 お 渡 たがひて心ざまな お ら給 たりへよる人 はしまさぬを歎 心よわき所有て物 出なんとて泪ぐ 度とも心 なぐさめ給 ぬ发は人ずく 日 3000 に詣 きとて 程參 の中 કુ て七 か は n り め

増ぞ淺まし さりとてけ

き大殿

へは常に参りければ此程

はまし

て 有

近

く有べ

きなら

疝

風

の便もやと心

0

ば

10

b

3

げに 憂 中 引 まで心に な < 成 から お まそひて見初 3 72 か h あ つくす言 名 より 5 12 ぼ n 心 3 具 で 0 、けむ心 此 折 Š 13 す てこそは n 地 で心心 さまにうし 馴 現 程 世 かっ あ は 1 なが <> ことも ろ 御 たこ 0 33 かっ 0 82 10 心 3 葉 3 よ 宿 < 玉 12 22 此 かっ め 0 はづ め 13 は 72 か 聞 わ 思 T 面 引 ええず き辨 ひま え 及 お カド 1 流 3 3 る は かと 1 方 ら長 つら 物 かっ ばぬ ぼゆ しる づく せ か た な どどひ 1-L 折 13 とまるとも L 年 な 佛 るほ かっ 知 れ や哀 げ す きは 1= B かっ Ĺ は 月 12 を念じて思 るぞ淺ましき前 ^ ば 是をは 130 なら どしい 3 積 果 1-此 Ē ひ 給 0 らうどうけ 泪 にな 3: 度は おぼ とへに FF b 13 と成置 D 15 と念 14 みじ りとも 1n ~ 0 かっ 7 35 身をし 3 L 程 1 0 10 お C こよな たば 一个は有 入て 3 わ < h 秋 かっ め 1-C 2 は < 0 成 Ł 0 か 入 あ L 3 32 n か 賴 h とめ < かっ 先 枢 げ H 有 Ď Ł 3 3 0 T づ 0 12 な 世 同 きす まじ 道 だ め す な 0 人 L 南 b 3 かっ L 10 30 0 3 馴 が it 0 U カラ 衣 Ł h げ Ų. 程 37 煙 て数 5 S 契 ~ 御 13 T かっ 37 30 h ほ H 也 數 とも さす 事に やこ は 後 < B 5 1-御 見 3 口 17 あ h 心 多 18 3 世 泰 カコ 2 7 < 72 ~ 57 かっ

なる

けし

きそひて

5

カコ

方

ぼすら

h

と御

iL

1 1

10

か

7

しより

かっ

b 1

かっ 年

3

お

は 3 3

12

は 10

づ

け 3

ずらうた

心仁 五

<

御

0

币

10

1

7

2

かっ

なしき」

い

2

け

3

給

御

け

3

怠が から まで 方な み侍 みして 聞えさ にならへる蛩 も思ひたくれ しく なく 3 同 72 るとつ 12 うそ るも かっと 嬉 め たき n 鳴 じ蓮 結ば 秋 かっ あ せし日よう L うく きせ しら は 10 け 3 10 0 0 3 夜 け ふを待侍 13 +3-含 侍 かっ かっ 10 72 は \ \ ''' B 南 h 給 3 \$2 らで年 さ名 所を得 P 侍 57 5 3 3 3 かり 身と成 7-6 心 け 易 3 とも 今にやすき心 12 しきに思 12 催 聞 18 17 け ざし T D か たる 臥 おば ]] 世 出 3 淚 3 L 1 を送 5 3 < なに 给 命 力多 は 10 5 な ひ給 は 1= 袖の 1-えず かっ Mi ~ 52 かっ 残し 13 程 や枕 る御 やと今は る色に b tli は 6 L なが かはノト 3 3 有 12 0 D 3 Ŀ から 0 阴 验 ね 枕 3 侍 道 行 寸 1 是 6 身 心 カジ るなど 0) 0 6 を持て水 1 朽 Tr 75 かっ 34 35 より らす 17 2 心 4 1 果 17 45 (j) 1 Ċ<sup>†</sup>) 11 収 か ري ا む 41 C) から 'n 哀 かしと 2 身 命 12 3 h 0) TI: ip 3 へて 12 7: 37 惜 1: は 1寸 h 例 わ

Da

岩清水物語下

御身の 大殿 路にもていてかはし聞えて人めも思はで打そひき雲の上ならん事だに身を惜まず命を捨て見え け ればおぼ まさず今はさだかに人をも見知給はで打はへ物ぐる ると尋聞え給 歎をも物 憂名を傳 ぬだにゆくしきあやま ちをしたる を末の 世までの 思 増りな とりひそめてと思へば木幡へ行ぬ有しよりげにい も入ず思ひ立道 ぬけふは 來る音すれば 聞えた しうつ は ば は夕つ方正向し給て宮の しはなど憂世の いかたくしもあらんされどさばか 憂身ひとつゆゑに 女 る御け ひに の立道はやがて是よりと思へどさすがに、御下向とて人しげくそいきあひたるも耳 ならず思 るだに 数事 聞えん事 ょ は あ へばたい ひの あ かぎりなし かるべ わた とする かず口 ひけちて中々今は心安く し聞えて人 は 思ひ出に み身にそひてなぞや是より いしく L 程 同じさまにうつし心 いか をしきに憂目見給はんずる 12 とも覺えぬ 本意たがひて此 10 おし出さるくやうに 人 御更衣 御心ちはいか 0 あらんたぐ も我身の り しきこなたざまに とも 御樣 TZ りあたらしき ひなき身 b め など 宮に 恵ひ 5 14 はせ聞 ば おは おは か あづ 聞 成 りを ても て出 n か 72 B Ш 萬 W す え 1 0

参れ る人 御 幽 宮の御心ちの頼 ましくて引かづきての 起 立渡らせ給へと殿もすい たいよせにさ むとてた 給たりつるが又ちといき出させ給て今一度見参ら か うく すやつして見む事は 12 かり入て大納 などさぃめきあひたるにかくて十月に成ぬ五 てんとおぼしまうけたり起別 じう歎き給へり女君 に出 居 迎へに御車 りいとひ聞えさせ給しか B *₹*3 ふ程に此 などひし 々は是よりべ て人に さる事こそ世 ぼし飢 てさやか い今事 も見え給 車それ め 出参りて侍 言 しよすれば n うく程 0 きれさせ給 ならぬ もしげなきを歎き給ふと思ひてさ て宮の 君ばか ちの 0 に君 はずなきあ あ は思ひの外 0 へならばやあらんそいろなる 背の 車 御 かずか み臥給 ねなる 事 りぞ御供に参り は め聞え みなさわぎ立てさらばとて るとあわ に事 おは はずきと渡らせ給 て参らせんとてうし まぎれ とさすが哀なる御氣色 な V をしげなる身をけ へるを心 しましもつきぬ 給へば御ぐしの箱 か よせ Ĺ るより なる身 みた に只今宮は たいしげにい か 7 る はれ る御 か の契りの ~ しらぬ Ø. 72 しとて る殘 \ \ \ 顏 5 をか 絕 人 H B とて み心 b 々は る 5 2 か せ 月 あ

しと を参ら 給 h 12 は 1 n あ 12 よく げ 12 T なるく ば 渡 つ渡 け 3 3 3 づ は かっ まどひ給 63 T 12 くて 1 2 字 B め 1 ね は B かっ 3 る事 દુ とて 3 殿 T 給 相 산 10 かっ 1, 3 b お 給 物 ~ 0 せ かっ 13 L 乻 ろ ば 給 B 成 君 B ほ 3 は 3 晋 B h 3 かず ij かっ を 3 b 10 け どさ わ カラ D 事 な な あ 12 a) U やう 引 側 < な は は 0 礼 限 T 12 12 ず 人 るでと か b な ば て参り な L 1 ば 12 ٤ غ K T うどさ 此 あ ^ きだく 見え給 الح は かっ دم 呼 見 御 心 は 10 40 小 事 は へばす 付 納 む 2 Ťin 13 H 1. ----世 削 ば なち 4 心 比 ~ ~ 0 T 1 T 3 1 12 かっ 0 昌 Ł し人 給 で はず 方 63 あ 5 60 まし あ \$2 0) 淺 5 b あ H 3 T ~: かっ 12 ば 人 ~ 7 か ^ 8 聞 30 B あ L T 1-整 殘 b 3 3 た 成 世 12 12 0 ぞと P 居 かっ 心 叄 b さまな し置 知 合 1500 3 8 h ね 那 4 130 < Ł T 1= 辨 6 大 寸 12 1 \ \ ' h え る辨 爱 思 見 殿 給 j 給 15 b す 物 かっ 3 1 心え とて 有 大 11: -[ 12 12 ^ ^ あ 凌 3 ば ば ば 渡 3 A 將 南 かず ひ な T B ぞう 合 3 3 殿 は カル 疑 3 から 御 官 Ŀ 人 0 な 10 6 L 7 た II は Ł ٤ II H 1 せ h 南 12

參 事 を 慰 地 聞 3 3 + け 3 n かっ わ 御 た お 7 して < 6 聞 まな み 給て えさ 3 B ざぞと心うく 事 3 ぼ Š Z 63 15 とて 1771 給 Ł 12 け 賴 0 il) づ は L かっ 後ま 13. 63 3 的 カジ む 4 得 13 7 4 しら わ は 1-な 給 h h T 車 3 ナご 難 只 宁 12 \$2 小 かっ 八
令
見
え 6 より Ł 藤 せ す 程 聞 1= < か T か こそと 5 給 歎 1-えな は 0 と空を仰ぎて泣 专 かっ は かっ ば  $\exists i$ 籠 L 成 1= 行 30 2 13 お 当 12 3 3 こさす Ш 15 給 1 有 ぼ ず b h 1: かっ 衞 30 かっ h n めで 2 たっく 御 9 H 4 6 0) 7 12 13 1-4 10 約 聞 3 1-とて 4 14 め 心 11 か 3 Juj 1/2 1: 給 聞 1-1= 將 3 13 70 B / L 3 也 0 te E 15 大 仰 الح 17 T 1-دي (1) 御 0 版 3 1 所に 嬉 給 Z 思 他 Ei B 年 B 内 02 4 4 か 10 削 を背 佳 くと 5. 口 3 0) 對 13 b 我 T 比 U か j は 3 此 は 外 え to THI 1 1 か 御 10 12 ŧ かっ 77 25 思 徐 侍 聞 程 1. か 0) 3 0 か か か お ぎり なし 4 信 は 3 13 13 は 給 3 す は 御 4 佗 12 h 12 4 きに U 10 給 الح 12 1; 31 か 12 3 t, 3 3 な 給 3 U) 有 な 47 か か 8) か b < (= な h 姬 450 か h 0) 3 h T ~ 3 E 5 版 宫 to 13 0 3 渡 t 41 1) 3 0) 御 3 3 は 心 l, 4 0)

0 外 人聞 まづ n かる n なき せ給 る 3 h 嬉しさも尋常ならずあらぬ筋にのみ心えて淺まし てわか め今は りし人 3 てとや せさせ給べ かすべ なる所 2 つるに辨が心の中誰にも過 たる身の ろがるまじかりける御命にこそは物せさせ給 h か を見る 0 辨少納 現とも夢とも 事にてこそあらめと事もなしびにこそ仰 一女君 かっ きさだ過 て侍 3 とく人々参らせ らで御心とか ぼ は我 る身 れ宮 やり入 は さんとそれ 言 程 きと奏し侍 どられた 心う きまで泣しづみ給 は事なくてよきまくに聞なし聞えぬ もし 0 72 心の怠りと思ふに身をば の憂契今まで世に面 て御 御 Ž る病 わ しと愁 まへ かっ 許 b る宮なれ 12 ひら \$2 給 身づか をぞだ ひ宮にはこよなく思 つれば年比我こそしめ ず泣 とる 出 宮事なく へさせ給 へいと人ずく か させ給 ば らいだきおろさ ぼ て悦ばしか 1-まどひ しくおぼしける内 しめ 3 てもて煩 お 成給 は へと語 て が 2 る後にこそしら 0 しまさば は 色 3 なん なに Ø り聞 しな りけり男 Ú b k せで Ď お ひ かっ 12 ぼさ t 我 W る B ir 3 にせん 思 お とさ 侍 和 ば かっ 12 7 1, że は は 3 ば カコ 12 け 侍 h か 力

事なか 待聞ん には えさせ給へ は な は少おくれ 續 とし みなきて過し給上 きまで りとは る 3 あてや きまでぞおぼ て御覧ずれ いとさしもやはあるべき古めかしき宮に思ひ たい人のやうにつとそひおはしまして慰めこしら n せ給 づかしげなる をだに け ~身のうらめ かっ づみ給 りけり十月 か 事を おぼし おぼしかけざりしにたとへ とおぼさる 1, へど聞わくけしきもなく泪にしづみ給 か 1= し給はず引か どが させ給 でか き御 ば お お ど何 は しめさるく女君はは めされて是を見ざり すぐれ ぼ 御 事 お L 0 しませどこまか しさは 十五 3 まみ ろ か の御子たちは思ひなしもけだ 出 0 何と D か るにやされ たり ぞ何に 3 か 御 1-づきた H 12 V などは など恨つくさせ給 中 とは は お 事 思はずなる有さまをい かっ ばさ 過で心 務宮つひに隱させ給 は あ お 聞置 るにや慰む方なき御 あ は るきぬをしひて引 あら れず どか なる 72 しまさ つら ん方 せ給 b る h うかりける夜ひ を挑 身のうきふし あいぎやうな 1 夜もす たじけな ん年月 世 なく L あざ なく へよ ひてこそ見 か どか カゞ 72 き御 op 音を B め 御 から へるを かっ Da E とさ 悔 0 < H 6 かっ

 $\pm i$ 

どは まし 藤 3 房 カコ 2 ど雲 ŧ T かっ すとす P de h 3 7 E お 1 ず 0 御 て此 ぼ 壶 こも b な h B 成 3 外 T 使 わ 心 3 藤 てとく 0) 御 か る 女御 御 御 10 世 \$2 身 細 地 壶 D 君 忌 歎 浅 1= 聞 思 す 13 0) 0) h 0 1 参な きな 廣ご 引 かっ とす しと 3 外 0 カジ な Z n 御 籠 W ほ 12 とも 1 事 行 3 伊 聞 h で 大 h 3 カジ 豫 思 衞 殘 栖 3 3 か h 8 て宮の たっく b 12 事 事 ż まで え ぼ Ł 1 12 守 U 殿 より 0 幸 る人 なく 7= カジ 5 3 0 仰 T B つるは は 12 柏 成給 侍 E B は h 外 B 哀 \$2 か 1 h 念佛 1= j は L to 3 T 御 成 ず 1= か Ł な 5 かっ 1 5 やう 3 3 L H T B 方 < す 心 F 成 L かっ ひ を宮 程 0 0 30 御 御 47 12 もとなく 12 \$2 0 お 12 1 D 10 3 H 3 1/2 は 給 0) ば る は 哀 は 人 な な 3 む こそ を 心 宰 は は ş 3 は 35 聞 6 12 L 0 L R 5 it 12 山 7 聞 地 相 3 8 世 嬉 は 1= 10 まさまし 3 Ŧi. げ きまさ 思 70 多 聞 1, 12 B ば 0 b 0 は 道 あ 物 + かっ 始 此 習 身 け Ł かっ 2 か カコ T 0 かっ 13 H L なし もや It L す 給 3 1 ~ 2 め 0 御 h 2 n 22 15 10 きまし L 程 事 T 22 そ る S 思 成 C 方 姬 かっ 3 を 給 お < 皆 は ば ば ~ ~ 2 0) 君 3 かっ 15 影 E Ł 1 思 かっ 嬉 女 ば < よ は ち 3 15

結 ばぬ すく 出 計 ٠٠ 心 5 T b よ 12 ば驚く み思ひ給 L せ は S 13 IL 此 よし 0 E かっ ź. 仰 給 御 3 語 は 2 よ から CK せ給し 置 で 命 枝 ごとく 4 b 5 h 猶 n わ ^ かっ 12 事 て宮 0 思 3 to B 8 なくぞ 5 +3 ٤ 1 0 るとこそ とまり きる 宮に ふれ 侍 泪 給 2 あ 3 せ h te 知 侍 É より 落 給 な 成 1 E n 1-づ H ふげ 思ひ HI 念ほ ٦ ٧ 12 かっ お は h カジ 43 L 1 h n お ばし き此 か rfa 3 3 給 か H 4 0 ぼえけ 3 C 系 5 は E 130 1-よら こしま H C 將 御 3 くと つきとこそ佛 かっ 0 b 迎 局 思 御 結 御 なく Ł 御 か 3 0 は 1 らさず 3 は は 身 3 8 び置 計 情 內 D とてと 13 かっ るとく 2 2 かっ しま 行 御 1= は な は T 知 侍 3 2 0) op 事 カラ 3 b 有 44 0 T 5 げ 1 0 15 43 給 3 から 水 韶 すな 逢 5 整る 數 0 1-0 6 かっ 3 1-は 3 な な 3 H ょ な 色 12 6 T 12 后 h を順 3 6 3 3 12 說 漸 る h 侍 ~ 3 ~ h h 13 を上 3 ば始 しと 置 慰 緣 5 2 5 せ 宫 と今まで 111 Da あ 皆 C T 4 成 3 身 0 n 3 をは 給 侍 冬 B H 侍 よ 緣 は j t は 0 ~ 1 6 3 数 h たれ 8 3 h 御 0 かっ L / 0 II. D 3 か 10 处 T かっ 43 製 3 7) 御 ろ h 7 h きよ 煩 3 給 7 b 4 IĽ かっ 13 8 及 侍 給 辨 カコ 思 T \$2 かっ \$2 御

ず歎か ぐひ はり ほ 數 h 給ひそなど慰め聞 聞 なき事もさるべきにおぼしけちていたく物な思は ども語り聞 哀成し人の かしこき御すぐせか しき事也百 ぎ参りぬけ高 哀に見送られて泪そいろにこぼれ大臣よりはとく どめさせ給へ南樓に心をいたまし 別れとはいか とせの後 りねとすいめさせ給 ゆれ 多引ぐして大 侍ぬと せさせ給 れ給 一个は かっ めしう より しやうし ふ伊豫 ばかり ゆれ 事心 敷 此 世 くいみじと思ひし宮の でかしらん入方の月をばわきて御心と 0) なとさすがに打ゑみ ば御 殿 引 にか 御 0 あ ゆれ 住 對 100 は八幡へ参りなどして二三日 だに申させ給へとて立出 ゆに伴 つくろ へ参たれ 淚 3 居 面 いりてい なと

実に

ては

めで

たく

見奉

れ へば我心もすくまる つい ど色々に身の憂事のみつきせ のこぼるへも心ぐるしうよし は踏ならすべき物とも覺 は是をかぎりにこそ侍らめ千 Ö ひて御迎へに参らんおも ば門の内所せきまでよそ けたり てかたちきよげ也侍 21 てい やうかはりてこの かの隙 めて跡なき雲に 中には ふもまことに 12 へ事に 思ひし るも名殘 一きはけ ば ええず 雜 て急 色 か t 事 參 72 が

7

は

ゆか

h

の草に

おはすれ

ば同

C

蓮にとこそ思

ひ

がら 中はかぎりに思成ぬれば き所 今の に参り通ひつる道のしげみぞ是を限りと思ふ の草木に に文書で例よりも哀を添 るには各詞をかけなどしてか 常に見 下向せられよひさしからんは の心ざし有ながらあとなき世のまぎれにほだ 日 物語などし給ふに御いらへなどさるべき程に もやら して寺より出 ふが哀に忍びがたき心地すれどさらぬさまにもてな いたづらに過すをうらやましくてこそとの給てとく てと聞ゆればいづくに詣でらるくぞ静なる行ひ學文 ましう見ゆ 思は などは隔 崩 女御の 一幕はうとく隔 物詣 れたりつる女にも忍ばれんとにやこよひ ず夕つけてぞ家に 馴つるかた もめ 御 例 を思 る事もやと思ふ給ふればい 事の の大 のみとまり ては ひ立侍る學問 思ひの外なるさまなど大方 殿見付給 とく参り侍らんとて御前を立 への物どもの 有てのみ習はしてうらめし 歸 て哀のみつきが 日ごろはさしも覺えぬ四 て書つくしてつか りつ てめづらしく たは 0) などすべ きた あぜちに け近く ぶれに 3 き事 年 8) たし L 比 もこまや くしとの給 お には ぼ はす心 うか 侍 800 さん 絕 3 申 3 世 成 n は 四 て近 n 程 方 な 3 0 かっ る T T

てと 7 絕 1-W かっ 2 b 社 12 T き事 げ 朋 3 2 つ ٠٠٠ 0 (a) 1 1= にい 10 93 7 る T 只 3 12 る 3 3 3 浆 82 h 7 かっ 臥 ほ 見 22 宁 < h Z to 人 から かっ Ut を 0 T を忍 慰 うぐど 苦 かっ ふを例 と思ふこそ な 近 あ 13 4 < ø 办; 例 から 似 8 1 ん 付 J 3 3 6 3: 1-3 5 かっ 0 à) T 82 h cz ならず b B < F 7 哥 礼 3 3 < ざせ 有 て物 ども ~ は B は 例 7 せ 3 き文 此 12 h 37 な せ は 1 1-か ならず心 なら などす 方 3 か 世 かっち 今見 見そ きをな 2 を 思 ぼそき 10 h T 筆 世 な 1-1, 0 1-今 1-15 n な 13 ٠٠ は 77 -は かっ とまる رخ 60 0 物 め 0 續 は な 30 後 世 さり L る かっ 猾 3 かっ かっ 地 ほ 人 T 13 げ なと 拾 12 13 1-は 物 かっ n かっ け 0 h 0 L 0) 1 思 を 居 < 思 伦 覺 給 P カジ かっ 0 V 1 0 3 3. ね 語 U 思 てい 憂 5 8 12 0 \$2 T 12 な え T お 萬に < 7; 5 ば J. は 1= 5 な Ū 7 h 1 ろ 'n 3 70 物 隙 只 拾 ひ < は Ł づ 何 h V 打 15 n かっ 1= E かっ Ł Ł 泪 あ Z 5 思 心 馴 13 か 10 近 间 な かっ かっ < 3 12 U 心 3 13 3 な 15 1-1= かっ 1: 聞 は 3 2 ~" な 取 0) < 慰 Z < 事 事 か す b 給 < < えざ 人 1 12 な 取 を 1= 思 は 8 成 御 8 8 n ぼ Ł は 聞 け

らで 六に から 爱 ぼ は n દ か 3 あ かっ から 8 b 0) ょ h 寸 5 そむきやるべ まぼ ろ V は つる 思 b せつことし もく 75 哀 h なる二人 から 何 住 3: 物 T to C U 藤 ば 2 3 取 3 \$ n T 6 0 3 かっ は b 花 心 虚 親 出 思 E 物 1 = 1 3: な to 2 お 14 西 男 思 と司 0 n ひすつ る 打 0) づ 0 0 1) て見る 盛 < を 7 力 女 かっ 12 12 きと身 矢など 程 成 Inf: 1-淨 御 は から 心 7 心 よせ する る引 世 なが 1-+ 75 E 2 は 1: 0 12 か 0 すみ 1-佛 御 \* 君 1= 3 73 3 15 T 怒 ナデ 17 7: 7 を な is 哀 -3 E 1-0 1, 0 す 10 i, カラ Uf T 人 かっ かっ (" 0 不 h ~ 成 82 7 12 3. す U 3 は 10 者 te T ば 0 h 13 な 若 i, か 12 15 1 20 6 な 我 か 21; 2 3 膝 な 注: 3 かっ 君 心 か カコ 品 た 5 5 犬 を 師 j h D 南 33 te. 1) = 1 衣 \$2 な 3 b 6. カコ 3 3 から 1= 3, 1= かっ 1-寸 心 1-かっ 3 15 泉 とさ 成 8 12 見 0 12 8 は 37 身 は 3 物 也 ょ 肝芋 兵 h 3 入 國 63 男 7. 0 h T かっ 2) 1= お h 我 1 iĽ 見 す ~ 12 当 < Ł 0) か お 8 3. Ł 1 後 かう 居 U 思 は 1. 抡 13 b 調 TY 3. とう T T 12 H 3 12 2 0 35 部 かっ h 3 とり は U 比 3. il D 11 出 見 111 習 h ~ Z < T ~ 地 13 む ~ は 寸 は 1, す 3 わ 0 な 0) か か か to 身 13

W づれの がりた に行 れずい 符計 つきた たりしをそれ 人にまさり もあ Un かっ おこして程なくし よとい お とごなる衙門のぜうとてか 发にふしたれ か 0 のれ < ありきに げに思 しと思 廿 あ T て忍び起せばもとよりめさました はず曉に 御馬 日 る るとね るに只今此 かなら ひとり供 ひつ 事 ひて 宵 太 は て心 にかといへば鬼黑とい あやしとは思 乗給は と曾 も調 りは ん折 成 は めのと共には 月 る事ども語らせじと思ひてこよひ つとめ かっ Ø 鞍おけとい あ にぐしてと思ふを忍びて馬に鞍置 かか たぶ 度何 た B らんと思 あ る馬にてそれゆゑ名をも 近き所へ人に知られ つぶ tz なき物 てあな ぬにと心えがたく思へどそれ おくれ なら きて空は雲もなく n くれとこそおぼ めさせて又人もぐせずいさい なが へどさい ふ程 ぬ者に ふにお じと契置 げかたちのごとく見 もめとまりてさすが なれてかたはらに臥 たへはゆけとい ら衞 にやをら起出 門のぜうは ぼろげにては うて過 ふべ てあるをみそか 12 きならね で出べ しくて出 りいそぎ起 るが臥た 近にし軍 晴 72 あ へば皆嬉 き事 げ T る つ に友 はなな 1" 給 72 3 1-る め 12 n は 3 12 1= あ 所 今 皆 せ B せ 有 0 め 10 Un

L は ħ L 方 よわくふか H どりおしきりつるにめ 0 此馬打いな鳴て鼻をふきつくあゆみもやらぬ る聲我ながら心ぼそきにともなる物も涙 か そことも見えず峯の白 呼 いとけなく侍りし る我心こそは わ は思ひつれどもめも暮て前に づよく思ひ切ぬれど故郷の空を歸 なれ tz 渡 h かるべけれど何事も一ことにたけき心は思ひ きたとへん方なきを見るに世 お つる程に高雄といふ所にゆきつれて丈六の 中々人よりもちくしやうの物は い哀ならざらん寂寞無人聲とゆるやか 後は る雁 はするが るなめりと思ふにぞ心よわく泪 ば 中 有明 0 く成べしとは年比 々戀しき人もなく凉しく覺えて是ほ 音 お かなか 0 も忍びが 月 まへにひざまづきて刀を取 より にと共 h 一雲ばか けれ には のとごの たき事多か 時 とい 御 る り心 身 しらで发までも件ひけ たふれふし泣まどふけ ~ をはなれ 衞 の常の人ならば心よ ば泣 門の じ り都 り見れ と過行 ばそく もこぼ んづうの 々起 ぜうあやしと より少程 ず に打 棚 ば遙に霞て 道 الح 海 すが 南 出 12 引 から 物に あ D をさと め たり てもと あ でど心 切切て h かゞ る げ 朋 7 12 tz

岩清水物語下

賴

聞えて朝夕見あげ奉り侍にそこらの人を京にて高

馬を 鄙も 物な 奉 ゆゑに に大に 同 い < L 0 3 もうせて侍 12 か 中 い を T C とこそ思ひ侍つ せ 引出 1 < とてとらすれ Z 有て 程 心也 ば ひ世 切 12 最 b b 嬉 軍 3 3 期 T 3 捨 打 7 しと覺え侍 るとい 死 聞 分 程 3 しやう かっ 0 つ是を見てとねり 8 集 をも 发まで 多 5 供 若 T 侍 T 1= 我 あ 淚 0 43-みやうをもす るに せさ 18 苦 あ ば聲を立て泣 歸るべ (" つぐべ 5 に心ざし深 ひもやらずやがて 0 12 は 乘 3 人 n 3 L 君 L 物なれ th かっ ż 人 3 也 0 12 計 をま す ども汝 しとて しあ 矢とる 1= 3 給 我 0 1 な はまさりて哀也 をとね 3 君 御 2 は 3 ば また 0 御 n B n < 10 高 人 14 事を 其御 かっ かっ 家 72 男 習ひにて をい 人 ばとく てこそお 名をきは かっ 15 (= た 3 1 1 3: b D 6 0 ば 緣 同 L 3 わ W # 共に 腰 見 供 ~ ナご む事 深 C を 多 1-よ 奉 0 かっ 見奉 ちく 叉 ع う 1-T 切 h かっ < 10 3 は め こそ 力取 て八 日 び 限 1= 5 1 1 思 うまつら い 0 此 h か 2 とす ませ 心 18 きょう かっ 3 Z à h b ひ 馬 5 やう 高 を 18 女に 思 2 を具 出 な ケ ず あ 0 < 3 お 3 ^ 1). 3 3 T iĽ 3 ば 國 <

3

并

て有

みやまの

鬼黑も

な

衞

0

せ

うも

< 1= Ł 人 12 6 持 ぞ Ł < かっ 8 3 8 カジ f を な 0 しちい 見 んび 引 て馬 B 多 人々 と思 程 殊 て年 T T かっ h n 子ども 文 え つ 0 髮 な Ł W ば 泪 1= T お を引 は 書 F. 聞え見るに 10 Ł 12 哀 佛 12 かっ 取 ども見えず 1 うま -11-添 どやう h 1 わ ろさん お 0 h ばい なる 覺え 叉 2 起 御前 て歸 हे Ŧi. T め 出 支 大 かう 63 1= 0 きに とま 頑て を見 成け て見 なる b L とするに op b 12 12 枕 物 辨 72 3 1 0 17 人の 共 卷 3 な い 1-聞 1|1 3 n 3 法 < 心 は 0) 0) るた 寺 1 ば 方 文 -5 1 ٤ 0 かっ 人 T 師 てそく お 12 名を書 3 < 12 初 も to FI < 3 10 15 かっ 12 7 とて 尊き聖 有 ち は 四 3 3 1-をし T かっ 12 h 七 色 5 う盛 太 方を じう 是を見 た三 ち ż な b お ばり は は 3 ほ 0 12 3 は 1= 12 うじ をし 大 な から 拜 を頼 なる 子 3 h 3 111h 1: 人 3 今 將 カジ るぞ 专 V 1-7 0 12 to 3 to 八 所 殿 b 2 60 よもまさ 3: 0 うと h 拉 部 6 かっ 3 5 かっ 0) d) 3 ٤ は す 3 大 12 な T to 我 あ 鄉 ぼ 3 8 かっ 3 お ま て三 3 0 ئے دے 能 人 h 0) S b 72 12 か かっ

ふとくばかり物もの給はずせきあ

Ø

御

H

らめと哀なり子どもへ夜べ父のいひ置給し事語りて すおびた 十三より見剔 は逢瀬あるなればそれを頼にと書ついけたるを顔に のことわりもきはまりぬる事をおぼし慰めよ今一度 を見るに心より外に年比隔有て思はれし事の悔しさ ずなどさわぎぬ のをば大殿にて局を尋てすぐに内裏へ奉りつ大將は かばとく此髪そらばやといふをきく母が心の中たと いみじうなくおとうとは我をば法師になれとの るするもとより集りつどひて泣さわぐ程に物も聞え むみたちをはせず殿の立歸ぬれば爱かしこにみちて き事ならめ生ながらの別にはげに今少慰まれざりけ の習ひなればつひにすまじき別ならぬをあい別離苦 などこまかに書てけるを惜みてもあすをもしらぬ世 ともおろか也心ぎもくたへがたけれどからうじて文 へん方なし所々への文ども今ぞ奉る辨の君がもとへ へる事も語りてふしまろぶもさこそは いし晝つ方舍人馬を引て泣々出 たりつるに限りあらん道こそちか n ふし るに女は思ひ合する事あればか ぬるもことわり也男は十五女は 來て有つる 思え らな 給 なし

> きしに言葉はなくて しきをためらひつ、文をひろげ給 へば白きか でらの、

れ辨は此程打續き夢に見えて覺束なき心地しける折 う嬉しく俤のみ覺えて戀しき事こそかぎりなか 思ひにすくめられたるにやあらんなどお かにはもてなしたりしかども下とけぬさまに見ゆる しげなるけしきの見えしをさまでもしづめてあざや の心成けんと思ひめぐらし給ふにすべて明暮物歎 どかひなかりけり猶いかなる事に世をそむくばか まぼりしに今ぞ思ひ合せられ給てしらぬならひも口 心と
いめつるけしき
にて出
もやらず
立歸 見わき給はずひとひは限と思ひければにや常よりも こそいれ」とばかりありめもくれてはか とも世のつねなりひとひのけしきのつねよりも哀成 しもしかぐ~の事とて文 取出したる心うくか るにもともあれかくもあれわか をしうなど後の世と契らざりけむとのみ はでをりしもこそあれ雲井はるかに聞なして絶ぬ 今はとて君をも世をもそむきつく御法 々有しはかくるべくて也けり我思ひよりし筋のた でうい みじかりし ぼ お りて我を打 の道に尋ね しつ ぼさるれ なし りけ 14 カコ

折

から

参り 聞え かな 哀に 文 in え あ かっ 2 7 7 H 物ことべし 0 0 0 か 置つ 情世 せし みに 中 し嬉 なき所も n 中 る世をさの かっ 事 4 せ tr こそ侍 やうに 聊 を 3 1; 其 にとい かっ 隔 0) カジ 郡 も見えず泣 10 あ つ かっ な 境を 車 6 3 ね it 3 0 3 つとも忘 げなる B n 3 ずふ (d) 物 た H 15 か الح 出てみむちやうやをは しら 7 お 戀しき人 3 夢 聞 とも 影をまた 12 かっ あ 3 3 かっ は る窓 うじ E 馴 5 泪 8 3 すし ずが 0) は 見 れが ば は お 12 T かっ 國 4 誰 か かっ 13 物 只 まさずの \$2 かっ 10 F ひやらず出 今 まれ ほ たく 思 0 聞 かっ 3 12 ょ 12 1= も侍るまじそれ りにと書 02 0 書付うはまきばか 3 10 કુ 1-朝 11 所 ã) 2 かっ め 2 とぞ書 文に 3 ~ て過し侍 貌 は る 3 35 た D 1 どか まし とら 1-ろ 0 辨 h 3 カジ き物と見 3 露よ 有 13 我 IL 4 きてうるは てまきぐし 0 カジ め T 手 すり C カラ 身 君 Ŀ 12 有 3 御 73 3 b 1-T 13 3 づ 1= n は朝 節 في て文を よるから 前 n ぞ かっ かっ 奉 て常 H しと 12 h # ば 0 見 1h 7 け 6 3 h かっ 10 1 陸 مر لم 引 3 B 12 思 3 折 方 4 h h お 見 は 3 後 2 思 IIZ 111 隱 3 御 あ 聞 b 47 0 ^

> きて ぞか そき御 わぐ なく 1 T 3 出 < を かっ むきて 82 見に 5 思 るま B かっ くまことしきせうけ 12 は 局 7 U 事 7 1 12 h 3 身 限 聞 しけ 人も てあら かっ 事 などへ あ 1 女 憂 0 73 た 御 12 か Ł ると誰 12 目 12 は カコ 1/1 3 L 3 も出 んずる 1-は るに も見ず尼 せ給まじ 1-御 打 h きす なに 1 1 心 寫 江 あ 入淺 b しら B B 給 なうけ 1 思 1= 3 字 T 御 ま と誰 君 物 02 0 h 心 3 3 相 かっ 1 いば ひ 人 n をさ 御 ~ 少 3 O) 0) 1 き御 ろ なは ~ ず 納 1/1 E 3 身 b h て頼 げて見せ奉 0 13 F かっ 0) ^ 8 思は ことに又す L 3 32.00 < 契 j 0 カ: 見 E お 3 お B 8 たこ さり きた え 1 12 ば 1) 0 3 給 け 2 人 L を L 御 12 U 1-ょ 3 18 12 0 け 5 h 3 な 始 あ かっ 人 n 判许 殊 御 < 3 3 位 12 43 j i 葉 7 4 < 立 歎 契 T 8 Ð 12

な 3 か るまじきをまし 2 かっ 君 1 つは 3 10 ゑに 事 此 تخ 辨 蒋 か カ; あ 2 h T 見 3 n 南 3 ば 花 法 h B 大 0) 0 はすく 恥 方 道 か 0 かっ T な た 世 斜 n は 1-かっ 0) て引 6 同 お ぼ D 御 かっ 23 わ 述 12 心 b 0 きて 0) 御 1 DR な 3 あ 所 3 な 4 かっ 6

82

奉

れ給は、 かりけ かなし れにけ くにあ 善光寺と云所に参りてよね なし女はやが ぞはてにけ ぼし ぼし をしとぞの 72 る のうさを歎 れど其 て女 り h りとい め ば ざりけ か 3 か ど何 故 內 ゖ ぼ むしらずといへばむなしき空を仰きて 82 るに 御 心のうちに る 怒 鄉 n しうたが てさまをかへてけり大殿も此事を驚 御 け むかし大將の御心一つにはさにやとも h 給 0) 0 日ばかりぞ爱に物し給しいづちか ふ事をしられ は我 故 御 宿 b け かひなし生身の め る誰故 為 で 世 あ ٤ 0 君 7 に一方は心やすき心 72 御 か るまじき御名 8/ いまりに 折 しこく方よき人にておは も世 おぼしついけくん事 け 30 b は 御 の事とも知給は しきにて今上 15 じと思ひければ聞ゆ んなく行ひすまして とくねりを n あ しまさで る事 しも 12 ふれは猶憂事 いしられ ぎぬ あみだの すもし給 0 た B 5 はつひにすく 10 しるべ 給 0 大將 か 3 相違 おはし はざり へ事なく ねぞは ちしつ の宮 を i 1-Ō か なき后 きす る事 歎 しま かっ る 5 初 7 で ٤ 生 2 茁 な 3 は 尋 B カジ 3 づ が 7 ひ 1-より外 は 1-心 け か まどひし心には 3 まよひの に一とせの世 の宮なれば物 か 3 しと心づよく思ひ切て づみて現とも覺えず例よりも哀にこまやか るまじき事 つきせぬ おぼし n 心 つ心 n せんとお の中も年月にそへて今かくのみ 3 へるべくて成 の色は 程 か 九品 Ш 0 2 につかさ 1 有け 御心 事な あは る 0 か 方ならず捨 てよき事 ぼし < うせやらでともすれば打歎 ぞとは心をい め 上 の創れに の品 むと前 で 0 かりけりやむ事 しり せけん たき御 位 わ 世 中物思は け b りと思ひあはせらるへ i 0 1-نل 1 も身に さだ し人 か こ 0 あ か は今は見まじきよと思 あ かせち しき事 h 72 し心のほどうらやましく かしまなるたぐひにや成 世ぞしらまは 中 下りしをだに ましめらるれ かゞ まり B あまるまで成のぼり給 きほだしつよくてそむきや 1-しさばかりぞやむ世な の事 ね ţ も物を 申 同 h カ・ なく成給に なりし 18 12 じ蓮

成ゆく

をいか 、大將

87 -36

か

る

しきやいとい

宿

緣

1-

てさる

か

h

つけても此

ど思ひそめ

٤

口 お

お

け

ね

行

聞に現の りけ

る事

今ぞ大

臣

ū

とふまし 心もせず

あなが

ちに

成

S

臥 歎

かっ

な

積り

T

願

0)

けむ

覺さ

0

望みも

むなし V

Ĩ				
1			k	
	4	-	`	
		ĺ	Ė	Ī
	Ì	)	ī	,
١	ŀ	2		3

	寛政六年八月十一日 本居 宣長 寛政六年八月十一日 本居 宣長 で、帝國圖書館本奥書) 正三位物がたり柴田常昭の本をかりてうつさせたる一かへりよみ あにせた。しつ 直 綽	からざりけむとぞほんには侍るめるとかや
	たる一かへは 植	かや
•	りよう	
		Z) in D

世 はいまの關白左大臣ときこゆ二らうは右大臣にて左 つ秋の れどおのづから心にとまりたるすぢく~を思いでつ ればなにのをかしきふしとてすぐれたるき、所なけ 大將かけたまへりいづれもおなじくおほやけの御う やうしきかたそひてなに事もけざやかにおぼしわき とい心もかたちもいますこしかどく~しくりやうり ことの葉のをかしきかたはすぐれたる名をあげ給へ 身のざえこれこそすぐれたるきはとみえ給中にも左 めてとまらむあとのあやしけれど世をまつりごちた まにこくろをやりたりし、とはずがた ことの葉しげきくれたけのよくにふることくなりぬ 御かたちもあてになまめきまさりてみえ給右のお おといことにふれてなさけおほくことふえやまと ろみし給おぼえとりん~にやむごとなし御かたち ためとせむにあきらかなるか あけがた きおい のねざ めのつれんくなるま の御子、をとこ女あまたおはしきた たはおとり給ま りをかきあつ たらう

ともかれぐ~にさびしき御さまむかしにあらずあは やとおはしませばよろづの事御心のまくなりせむ 后宮ときこゆるいまのみかどの御はくにてくにの ずかしづき聞え給によとせばかりありてまた となくてさうべーしとおぼしなげきしほどにいとう のおといはきんだちかずく~まうけたまふまで心 しげにおはすればわくるかたなくてすみたまふに右 りなく心にくきにそへて御かたちもいひしらずを みこ一品式部卿ときこえしひめ君の御なからひかぎ れげなり左のおといのきたのかたごすざく院 たものし給へしこのおといたちの御いもうと太皇 給ところぐ~おほくきむだちもはら~~にかずあま よわり給てたのましげなう見え給まくにこのきむだ りをはなつやうなるをうみきこえ給てのちうちはへ さまなる女君いますこしこの世のものともなくひ の御おきてなる世になりはて、一條の皇后宮などい おはしましてきさいの宮の御おもむけ左右のおとい いはひとくせか くれさせ給にき、みか どむげに若 つくしき女君めづらしういでき給へるをなのめなら しと世人もおもへりまたわかくおはせしよりか お よひ

<u>ا</u> きらしきさましたまへるひとにてわが 12 のまつり またの せきこえて御 カジ 5 そいへやが うきえ給 まひぬ かっ P たきに h な 3 姬 ぜちの か しとお 君 3 Ł 礼 n ろに 8 事 3 か どなに心なきさまどもの ば ほ つらき人なれ かっ この 0 大 な 御 月 けといめられ てうき世もそむきなんとおとい どをだにすぐしれまはでつひ ぼして御いのりのこる事 な **いかなく** もさ見えじなりなどをり なり 3 Z お 中いとなほうあらまは、 らでは 家 しうお 給をまたくぐひだに 君 した づ 0 お 言ときこえし人の姬 たちの はてたまひてかぎりあるをり かっ は くり らも ちたる所つきたまへ ちすのう ぼ よろづ あさましとも世の 和 して我 どこの 御 かっ つく かきあら をた カコ L 給 袖 へにさだまり 姬 身 はひが 君ゆ ド右 づきより は B どの はし給經 ときの おはせねば しけ 0 なくせさせ給 8 n 君 はら つね か たきなが io あ んほか る n B Ł 20 £ にか る きこえ給 ど右 いもみ 1-1-など 給 は 0 0 10 おろ か をとこ 北 は 0 4 3 < お < 300 すて ぼし を かぎ 3 à 0 也 事 3 礼 0 0 0 か な か お S 御 な あ L 御 カコ 12 を h

まふ れば こ三人 うへよりのちにか ましてい 十四にならせ給この姫君はみとせ 3 たぐひも 8 はずし 色あし は かっ みにもの でうへもさうが~しくおぼしめされ はむことわりの となれば h お 條 りす か きたまふをかひ りたまふ はするにそれ なうか か < ち の左 ぎ給 お か か たちけうら たてくまわり / おは はする よく一世中を我まくにお L らねばまわらせた しづ おとい 大 おとなび づきたまふをぞ、をちの關 給 になに は 臣ときこえし せずかしづき給女御 へば む きたてく 3 あ 事なかことなる あ よりおおにい か たまは かっ よひそめ給 ありてうれ 1-12 なしきもの 君 たま CK E あ はまことにいづれ なしとの か かっ 開 むにし 12 自 ねことなく へりふぢつぼにさ / 御 たちめ 0 てまつり 殿 むすめ しう ひて 給 か 0 h B 人もさぶら たが ひ て大 10 した ば お より おぼ あ おぼ などは 3 0) 9 お は かっ 12 13 告 ひてまる か 白 は 1= ち給 はす すべ きるふ なじ すは h るをとて 1= また もさる こてた う 51-殿 カジ 御 1" 2 U か 12 御この It を かっ くし りこ うへ ばと 6 L ぞをと かっ 10 かっ たまは h h ٦ 御 てさ 3 h 家 3 12 13 か

せ給 n 啓のぎしきいとめでたしいみじか L ち れば殿のうちいよく一みがきそへあらためつくろは ぐ御こくろまうけ うつくしきをさきの世までの契ゆかしき人のさまと 12 まゐりかよひ給をあは ぜのけしきも とのへさせ給へり八月十よ日なればやくすいしきか き事なりとのたまはすれば御もぎのことおぼしいそ ぼされていつとなきを内にもおほみやもひが おばさる殿 るむかへのおといたいはひわたるほどなればつ どは 12 んか るそでくち はすふた 御 しむでん かか は涙ぐましきまでおぼえ給 ふみなどもをさなくよりならはし給にさとく ならでくち たにしつらはせ給 がほならむもたとしへなき御 るか のひ をか か め君 たの女房六十人ば たなうもてなしてまわりたまひに あ ひ むか しきくれ ふぎのいろまでおどろ おろか をしく もやうくおとなに しみ れに心ぐるしきものにお ならず大宮いでさせ給 お ぼ へりに つかた大宮わたらせ なみかけて宮のわ さる りけ n ていつしかひめ君 から花をおり しおもてに姫 ば御 心 る御すくせを は物 -くばか なり給 (] たら うく 君 ぼ 給 りと 0 へけ ひ ね 行 < ゼ n 12 お

い ね たくはあらぬ がたいとなまめかしくうつくしげなるにいたくこち Ò こえつれどか どろかせたまひぬをかしげにやなどは れどかくわたり 3 かっ ずもてつけ し給こひめ君はまだいはけなきほどをかた ぞみえ給 どあてにをかしげなる事そこくそとなうきは ずめづらしきさまにぞみえ給たけにすこしあまりた てすそのはなやかなる、そぎめまで 人には似 たまは たる御氣色はしるきをおといはうれしく 君にもきせたてまつり給御 0 かたちさやかにはみえねどたぐひ まへるほどなり 君 御 御ぐしの色もつやもいますこしきむのうる W のときにて御もたてまつる物さ 十三にやなりたまふらんほそくちひさき御 する ぼしてうつぶしたまへるにこぼれ あまりつくまし 給 あ 御ぐしのすぢかくりけうらにめでたく くまではとまことにめづら か あふぎにはづれたる御ひたひつきな おはしましたるつい < ふぎる 見 たてまつらばや いたうさしか げにまぎらは かたちともに御らむじ ありが ・とぞ くし給はずは わが でにとてこひ おしはかり たく かっ お おぼさる 12 なりなら れ もなく お りた ぼ

ばこくろ けてこのとしごろの 人 L なうさ 易 しう でもな をふぢつ 0 13 、ありとみえたり、この間原本落丁、 ばすが 0) はせ給 れ御てうどなどはうまれ給へりしよりお 0) 0 こくろにて ひ 御も 御 カコ 0 り給は うちにとそへのかし給はせむにはなにか か b カコ ぼさる りに は b ぼの女御は 日 P もとなきことあらむやはおぼしだにた てなしゆゑこそひときは 12 かに 5 數 むたい うらめ なめ 心 なり 御心 3 お るこそおもは ひこぼる 1 は お T なじ事なれど人の思つる事 心もとなく もとなげに 神 りこは お もうらめ ぼえやむ あまりよういなうさしすぎた おはせむほど又ためし b もとより 無 しういつともなき御まる 御いとなみ、なに さら らかには 月 へやうなるさまたとへむか 1= 4. ごとなか ずなれ さだまり 申 30 8 しうまだきより物 ぼし ある しか ż きて せ給 あらぬ とことわ Ò h は べきことを おばしのどめ n 心个 な らむさまに したる御 n 御 3 ならざり ~ 4. をい るし 心な き御ぞども あるまじ られ ぼし 3 Ł さは りを大 な 5 5 V は め 0 あ ます 給心 ちぬ こまう げ うつ まし しき L つれ 12 10 h h 12 j カコ h 3 12 h

びや

か 12

は

します

をばき、給

はざり

け

h

ぞわ カコ

らせ

給け

3

ひとすぢ

1-

な

め

h

7

0

5

かっ

き御

ねに御

3

くといまりて

あやし

あ

すそ L ちも ひ身 意義つらくてそらの たまはざりしに はまさりきこえ給はむとぞお 人 5 らずおぼえ給ゆふまぐれ カジ b **ぬる、そてかな」つまお** ゎ よ、こよなういまからかは うつり行人のこく は R 0) で給てさうのことをか 12 ならは カコ は 袖のあたりまでおしなべ か Ō) 1= 0 うきよら # かっ くりをか L 御 よりことにけざや 1 ぎり む心 200 さむとにやこ は なくも ちする 2 カコ がちに にほ け しげに b た ふもく ろの みなが 0 かっ 2 3 し給 ip ぜ 13 30 4 のごろとなり るら ほ とやさしく 秋 カコ きならし 0) 2 b 給 るくまでわ りにけ 0 め は 1 か かっ W < は とには、 5 G ばえけるよべ はな < < h たらぬを見た かっ 7 n ろに tr 殿 1 j なりに 御 は 12 う よ O) たまり 5 カジ まひ 姬 ひきすさみ 1 てはこと たらせ < 5 近け 君 7 北 12 3 すか T かっ な もの 3 3 5 秋 8 てまつる Ź. 12 給 te 3 土 御 御 12 ば ぼ は 3 け 10 か あ かっ T は 12 13 D h cz たこ h よ Ł

人のさまをりからをかしければやをらよらせ給まくり物うらみのすいみたるかなとはおぼしめさるれど

るが はい る御いそぎにひとべくはまぎるれどひめ君の御ま せ給にぞなぐさまれたまひける、なが月もやうと ねもをかし めされてよさりはかならずなどのたまはせてかへら にをみなへしのうちぎなどつねの事なれどきなし給 かたちある人とはうけばりてぞおはするはぎがさね 心にこめてとけぬさまにうちそばみたまへるさまも まほしくうらめしけれどさすがにひたおもてなれば つごもりがたになりぬれば關白殿には につけてもまだきにだに ばいとつくましげにひきあ ゆふ 君にしやうの御ことこ姫 としづかにてこひ べに殿 あひそでの ねて」なつかしくのたまはする御け ろ とて御こといもそへのかしきこえ給 わたり給てかやうなるほどこそ物 は かもなべての人にはにず か はらしくれ め君とうちか もかはりぬべきをときこえ 君にびはをしへたてま はせ給へ たけ 72 らひ るいとめで ちかくなりぬ のよくに契を て おぼ お はひ は

> もてはやし給御 りければうとからねども三位中將は り心にくくわりなくみすのうちのにほひさへ吹 さるほどに月もおそくいで、たどくしきほど思や はしたるをまちよろこびたまひていますこしすみま のこのかたにふえをおなじしらべにふきあは まへりものくねにさそはれてやがてこの御まへのす ゑもをかしきほどに右のおといの三位中將まゐりた まひつ、御まへのぜむざいのかれ 御ほどにゆくしきまであは、 るにうちより御使あり源 ふかぜも身にしみかへる中將 んひかせさせたまひてしゃうが、しのびやかに つり給いづれもてしまさりにぞきこゆるい ふみはく n の大納言の御子の權 なる れなり大納 の心のうちことわ 0 うすやうにてさき ぐ~なるむし あるじが はけ 君 たにて せ てお 將 h わ な 12

そのかしきこえたまふつくましうおぼしたることわりはいというつくしうみたてまつりたまひて御返それさせ給にける御ふでづかひのうつくしさをいまよのかくるそてかな」わざとじやうずめかしくかきなのれぬへき秋をや人はをしむらんさもあらぬつゆ

やらぬきくにつけさせたまへり

でん 御ら †2 り 8 カコ < < 2 までとほ < をそへさらぬ てなしも心にくくとい ことなるを三位 < h しやうぞくにきくのふたへおり物のほそながにほひ ざまならずとおぼ のそてのしらつゆ」 h おぼえ お む人のめ をしまぬもをし から に御 か つらんさまお んずればきえかへりをか しふぢつ ぼしめさ 御返まち 12 りと 四 る 0 給 のえならずし お ばか ぼね 人 ぼ ほどの づ なじそらだき物のにほひ る 神 むばか は は 1 りとぞとくの お 無月 か しは 將 せば かかも 御まゐりにひときは人の せさせ給へ 7 しますに御との 御 12 事だにもの かっ へて づけ給 は ち 0 6 弘 りとえらせ給 かられて心ぐ おしつくみていださせ給 あやなゆふまくれ 0 うい より à か るくよういことわりとみえ んじおとさるまじ 御 \ カコ り女房 心 たち きに は ^ t しき御てのもじやうか させ ばなやめ C おきてなる へゆゑふかう心にく たてまつ め あるべき事にこ あぶらまわらせて 給 心 四 ^ るしく見まは 3 十人 B もく b る中 秋 かっ T りたまふき をい き御 たは な V 8) わらは ものうへ はならひ 將 るこき おどろ しうち らく みじ 女 かっ 0) L Ę L 3 0 3

ごりの こめ to 納 所 これら 7 ばし 3 なさりとてなごりなくやは されずつねはむすぼくれたまへれどあまり 給をとしごろ我よりか らなる事なればまさいまにてひる たなくあは うたげに 給 るし たなればまことしくうらめしくおぼさ へてまさらせ給へどもとより あえかになつかしう御こくろにしむか むめ Ĺ 言 0 へしうへは 女御 なれ め る げなるに右 0) なら つばに もす に成し 姬 ぬさまにもてなさせ給 かけ O) 君 ば いまの 7 御 10 ひに れに か かっ つくましとのみおぼし たべ n 12 1 1 12 め おぼえはなちては ち 式部 こそは ふち 0) 糾 給 おば、 づ らしきにそへて をか おといもこし 言のかういときこの りれ おも 卿 つぼは しめされて御 しとい 0 有 みの人なか 大君 いけ カジ た あ ことわ はれ ると 御 け か ろづ 6 は 12 ぼ りこき いづれ りつる御こくろ 3 (n) わ わ 給 cz はは C L お b ぼし 1= 艺 J め Ł CK かっ かっ 0 12 しる -) もうらみ 1 30 きゃ 12 殿 しも け 3 たこ 77 か るは、とう ぜち なき くわ 任 は は め 0) 3 h h 5 當 物 3 か 御 t П おば 80 0 とは -5 H きせ ع 12 かっ 殿 T 御 12 1= 6 3 御 12 75 かっ

御い 給 おぼし くは どおなしさまにてかひ < けてなどいますこしの事かなはざりけんとたれもな < らせ給ぎしきめでたしうつくしき御さまのめづらし きこえ給は おは うへはさりともわかみやいでおはしまさいらんやと てうれしきにつけて心をまどはし給ことわり也 かで給ぬればあないみじとみえたるにおといはまし ふぢつばたいならずなり給てことのよしそうしてま らずいどみ給 いでさせ給まじきにやとなべての世にもなげききこ つづきおなじ御こくろにみえ給へば思はずにうれ ほどにもてなさせ給 へりなか 御かたちものきよげにあざやかにお もたいしきことやとは くちをしくおぼされざらむぞきやうでんもうち しませば大宮もうへもいかでかおろかにおもひ のりども ん御いかすぎては **~~にくちをしけれどはじめたるみこに** るに心の をおやたちおぼしねが 御 へり我 かった べつの かぎりつくして女宮うまれ もくとみこうまれ へりか なけ ればかやうにてをとこ宮 御 くて内 へ宮おぼしさわぎ給へれ 心づ 、女御ぐしきこえてい わ か ふに ひどもなべてな たりいまめ はしますに ありく たまふべき させ は か つ T 1

我は こくろざしまさりゆくをおといはうれしく 0) ちなれど權中納言にはに 二人宰相中將、辨少將と聞ゆるもをかしげなる君 ほ 給 とぞねがはれ給ける御をぢにものし給ける太政大 御心ざまらうたさ有難くのみ思ひきこえさせ給 むこにとりきこえんと氣色ばみきこえ給ふひとが~ よりはじめなべてならぬおぼえのまくに我も! 給へりける ちなどの ひとつ御はらにはくら人の少將にて中の 三位中將權中納言になりおなじはらのをとこ君 うせ給ぬ にもあはれおもふやうならん事を見たてまつらば いつか え大宮もいみじくおぼしなげかせ給にいづ よりおもふすぢことにしみに Ĺ かたよろこびし給人おほ ぬつぎく たまふ とおぼしたるかぎりあまたもの たに あやしげにお n ば關 も御 いま なりけり あがりて源大納言內大臣になり給 白 祈 殿 人はやまにそうづとてお たゆみなし年月に 權 あ < 中納言はみ はしければあ るべくも 所になり給 か しかばなべての事 りいまの おは 8 し給 て左 か になれどやつし そへてこき殿 左の たち せず お 右 へどふた葉 女御女 か おと おぼえ 身のざえ はすかた といこ わ 12 \u D 7 h 12 お 臣 4

女御 3 け お 2 おぼの 思きこゆ 3 つかうまつり なくてすぎゆ かっ L は to 1 かる h れず心 50 あしが 也 0 もうき物と思しり 色をつね 色まさ ひなどの 南 のぶ なづらは るにと \ ずこきでん 事な 和 ものこ ども きに もち はけ る御 で 1= おぼ くをやうく 給事 やまね たきに中 しまずし いまとて ずり b 73 カコ めなれて我も人もた らすまでは思 かたらひ給 しくやち か たち まことの御 1 しよるをり かっ 12 りし 0 0 あ 3: b 女御 づきた 々心やすくさもや れゆゑなら ありさまよに又た もなきに な 人 3 0 やも より しよ かゞ あ みさるまじ あさくらやまならずま 心心 ねに 5 0 お h きるふ りこ الح 女三 心 はらからのやうな 御 よらざり しるどちは心 物な なきぬ 事 K 0 いまひとし あ のよは 和 かっ 13 な H なども の宮をさ きよ ど中 ぎり か 君 n 5 0 カコ い ど式 b ~: かっ ね めし 心 は 5 b < づ k 3 L カコ てより ぐる るこ に人 7: は てなし やうに ざし 部 b ひ ひ お か かっ B 2 0 h Z ぼ n かっ 卿 0 2 きゅ けま しと とも 宮 2 は n L 3 は Ò カコ 0 め L 3 10 L ば か 12 " لح 3 12 3 かっ 0 1= 8 南 b 御

なにご 3 をば n ナご 3 5 5 73 とやうの たげなるうは 0 5 などお b 5 もうとか もそひたま どこ き花 Ł はに 思 きよりい みぞくだけまさり給この ~: カっ んとまたか ばさ はをりに 女御 てい などもきこえ給こと 7 きこえた 0 もみ ぼし 8 111 n くろなく る物 まの は 3 づら らず 人 0 3 0) なく 物とも とすぐ かっ ちにつけても 3 0 たに 7= まひ b つけ 思 内 L ~: しくと 1 め は た à) 3 君 0 0 3 Te づ 女御 te T は かっ Ġ 7 1 づ お みえぬ きこえたま 1 3 か をも 御うちず かな te てぞ B か 12 L 2. か 6 なれ げに 37 とおぼさ かっ 3 もとり は 0 J かったい 3 71 30 0 15 12 산 こそは 3 ふきのし 心ざしをみえ 0 lt 姬君 ねに ては T T 6 あら 0) 13 心 給 3 御 12 わ 所 か す 1 よせ 0) 1: h 御 きた は御こくろざまもま 1-ひきならし しち るゑ物が は 心 h なじさまに たてまつり L 南 6 1. 3 かっ は は 6 25 T かっ 權 3 6 70 ひれら h かっ Š きをり から h É E 1.1 かっ か 12 糾 7 h 10 b 0 3 かり V2 1) b は E 71 御 御 37 は か 12 な 12 御 3 h 10 j かう かっ 0) 10 かっ

なか られ ばは ばとおぼされざらんこうへの御は ば心ぼそき心ちするに ちすみのくちはみたてまつることもまれに H らんと我身のうまれたりけんをりしもうせたまひに 0 りはよのつねなりけり人に似ずうとましかりける身 ながめ給ふいまは物おぼしくるほどにもなりにけ しるければたれ ひつべきさい相もよしある人に思はれ給 少將とい のうちも思なし、めやかなるにひめ君はつれ ふべのながめもてつけたる世のならひとぞ見ゆる秋 たれも心の中のしるべほしげなる氣色はいはぬにも ちそひつか ありて 契かなとむか Ł りけり て女御をこそ トうへの おといもうちの もふ Z ぞ しけれ うまつらせ給へどさすがに思へば あにぎみさいしやう中將ときこゆお 御ことき、給しかといはけなかりしを か かは かなしうつらか しもいまもさるた たちはいますこしをかしげなり ば おやとたのみきこえたりしも 御 いひもいづべきにてあやしうゆ むかひものなどきこえ給 もい <u>ا</u> か る所にさぶらひ給にとの いは りける契とおぼしく かか 80 初 L はしまさまし は たのをばにて ありもやす へりい なり ぐに へだて ことは たれ 5 御う か か n 1, b カゞ

ればやがて君たちの御かいしゃくにてそひきこえ給 h ものしたまひける人ちへの大納言のするの ればびはをかきならし給ひつくはくうへのか て人々もいでゐたれば木丁もかたへは くまなき月を見給とてみ 人をぞ御身ちかくさぶらはせたまふくけゆくま おといも はあはしき事ひきいづまじき心と見しりたまへれば ひとべくなればみる めこそ わかう心あさ るほどなれどあさましきまで心しづまりおとなし の姫君につきたてまつり給へりみな廿にもわ るむすめの君たちあねは大納言の君とて女御にそひ へり二條にすみたまひ 門督といひし人のうへにて女三人のかぎりうみ給 たみ きこえ給 نج めいでたまへる御 てあはせ給しぞ心ばせありかたちもをかしき人 し左衞 か そぢあまりのほどになりた いやく心ちするにきく人なしとおぼすほどな かずしらずさぶらふ人々はそれにてこの二 へりつぎく、中納言の君さい相の 門督なくなりてのちこうへの御もとにむ かたちいひしらず月のひかりよ しかば二條のうへとぞきこゆ なみ のすみすこしまきあ まふぞわか おしやりてな 子に 君 < けれどあ づか て左 < れ給 てま な な か

10 T きくことなる ガラ け なる月 いとなみたまふ經 もくもる心 ごろ あは 0) \$2 事 ち な な りけ b け 3 は h 契を とけ かしその の御 か ぼ なばか 御 L 1 3 りと h 3 to

3 かっ n とねさし D n もうら らふことのすぢもほ 權 たっ ね つり 12 ほどを ほ るなり、すみの ばい 中納 より はう る心 かた かっ 給をあ わ なり め てうとか 人の ず物 づれ お 言 ちせずをか いでたればなが 0 ぼしやりておはしたりけるに のうちにさぶ なみ のたまひなしたるけはひ は わりつる 吹 契とたに もこの 0) おとすれば n くる ね 1 0) らず まのつまどのもとに中納言の君 くだ Z にしの 君 カコ か な しきにこくろに かひなくうらめ 0 けは ぜもにほひことにてわ b 1. < n 1 しら 思 ば はいとよくか むる事おなじ心にやお らひ給ける みすうち きこえた けり 12 てねべき心 心えたれば、さ くもの ぬ心ちしてより おとい n おろし ば人 ても 12 ありさまも しか きえけ 12 おとい らは ģ n T 30 うち きか 人に なん は ひき 13 む ぼ よる事 たけ をせ 12 秋 D n 25 のこく か やす など ぼさ は 殿 まに みな は 12 5 0) L 月 5 ž L せ b 0

> は りし ぞ物思ひのもよほ け給まじきとさ 5 め つくべくときく ひとつにともかくもいらへきこゆべきことなら きかぬ か ざましともさし あさが へらぬにやうつしごくろもなきよしをとほ は どにれ ほよりはまことに 70 かこち はなたずさすが 12 5 しなる、はなざか るを のうらみつくし給 給もく de た にあくが < 3 L しう 0 b 12 7) > ã) 0 は 1= 17 T へど我 L < to 12 12 をだに 3 11 か

その との 3 は人しれずとばか たきぞかしとて 事 あはれともいひての かごとをだに もかたきを しちも あ へなし」とお あ もか りい りか ひけ かひも けられまうく 12 くも 5 3 あ 12 0 あらしゆ 3 る氣色も かっ かっ L なと 30 多 ぼ てここと L 30 11) かっ V 12 h 3 3 カコ b から \$2 か かっ 扫 T 10

37 げきてなげ と物どほく め りのい しなうなまめ わひにけりし の宮 つはりにとも」と思ふもひがご へまわらむとお しに かっ ひなけ よりか カコ はしこ しくぞ n ば 1 くろもなくさめ ぼし 心もや みゆ b 12 てい 3 なぐ 12 ^ 2 でたまふ 10 11 رچ かっ なじ とか む か h げ 12 <u>ځ</u> 211 ]] 條 な なるべしいで給とてたちより給へれば少将もたちな には少將ふえふきならしなどしつく、そぼれるたる 2

しむしのこゑん~みだれあひてたちいでが

たければ

けにしよひあかつき近くなりにけり夜べのとぐち

おもふ、もしほのけぶりしさすがにたいよふなるべ おろ心えたまへればさばかりことかたになびかじと なれどさもやとおぼしよるなりけり 中納 言もおろ も、見所おほくぞあはれなるさるにはあるまじき事 したまへるをなごりあかず思ふ人々はまことに涙 くもわゆくかりのねにさへいかなれはものおもふ くるなみたそ」と中もんのもとにて吹すま くかりのこゑそでに涙をさそふ心ちして Ł

の少將あひたればさそひぐしてもろともに一條の宮

かれたまふ中納言いで給みかどのほどに内のおとい

こぼる

姬

君は

なにとなくをりからは

あは

n にき

そてにか

むとするにうちより

えかへりめでたしとかへるけしきしるければ少将は けもあかてあけぬる」といふこゑもさはやかに うへにも、これさすらはかし給など返々 かたちもいまだかへでおはしますなりけり大宮に ぼそしとおぼしいりながら姬君の んだいにおくれたてまつりしのち又なくか うつくしうおはしますひとりもちたてまつり給 てこそは、きさいにもたくせたまへりしか女三宮の せたてまつり給へりしにかざりなかりし御心ざしに おはしますに中々なることやとおぼしながらまるら たびまわり給べきよしありしかば大宮のならびなく き、こえものし給しかばせんだい御けしき有てたび ゆるは、故兵部卿宮かしづき給し姫君、かたちめでた りまことにあかずおぼゆべしこの一條のみやときこ やがていでぬまだこたへぬさきにと出給 かにまたれましかは」としのびやかにのたまふをき びたりつまどのかげのかたに中納言より給 まきのとをさしてきなましなかめてもつきよりほ なかめつるつきよりほかにおもほえすやすらふ 御心ぐるしさに 申 ねれ く心 せ給 てせ なご わ か

ばかりぞのこりなくさしいりたる御まへの前ざい露 きにしむでんのかたはしづく~と人のおともせず月 ぜのおとみやこのほかのこくちして思なし物さびし へまわり給ぬついぢところん~くづれて木だかきか

ふしてつくろふ人もなきにやとしどろなるし

宮の 御 ぎり から あ ינל やすきほどに とにふれておろかならずもてなしきこえたまへばめ どもえきこえさせ給はずち 御 御 やうならねどおといの御こくろよせありが ら中 ほか 1 か きさきにた 五にやならせ給らむ世にしらずうつくしき御 き事もうちまじりたまふをめざましくおぼされ くせにてむか たらしうぞおはしましける左の きあは ひてもはかべくしくゆ けしきつくましく n おもふさまにておはしまさましかばとこれにつ あ ばうへのごせ まり るみふ ちもこひしくおぼえさせ給 けどほ n 言をば 12 つきすべき心のうちなるみそぢに ら給 まへ てはすぐさせ給へどい などのことにつけてもすが お き御もてなしに心やましくてなさけ しより心にて思きこえ給へれどこと ぼ る御 んも御心ざしことなれどお あ しも月の しもはなた てわかき御心ちは るべ よは たかなるべきこともなしか き事なれどふぢつ つい へみ ひな かどの たちにこきでん ねぞあやし tu ばわ おといぞいろ へどいらせ給 かっ 御りやうなど 老 か 10 うさ むか かっ くしく思 きや たくてこ ぼは かっ もわづ か ほ しこひ 0) かっ 姬 なる りし りに へな 宮 姬 女 12 宫 U)

うい き御か ち かっ なり ばせ給へりいつもかやうにていらせ給 ろひてまるり給へり宰相中將少將などたちそひて ぐるまなどことさらなら しとていらせ給をわかき人々うれ ばつれ かっ ひめにいださるく、ことにみ のおとい五節たてまつり給とて民部卿の はくうへの御ことをつきせずおぼしいづやむごとな がたにもさと人おほくまわりつどふを中宮姫 の中、い あまりふるめ きこゆ けてもくちをしく 0 72 づきいれ るをりだにまわり給 はあまり n るなりけ し給しにいまは 3 たべ、我おとらじとようい ぐにおはするにまことに物も御 いらせ給ぎしきめでたきに 、まめ 御うちずみにこ たてまつり かしくをかしき 御ときなるにことし 13 カコ り十三にぞなり給ひきつくろひ給 はけ からか おぼさるきさきにたち給 さい なきほどは 給中宮 10 へか ふば 1.2 ぬ物からえならずひきつく ぞはじ 0 しとせ 所あるべ かっ 御 は b 心 j あう ちにの め il つけ しと思た T 給 なき事 てまわり給 へる ても もすべけれど また 5 72 むすめ おぼ りい 3 B て中 御 op せよ 宫 宮 3 3 かっ 舞 12 \$2 か

御いろのしろさ、いひしらずそこぎ よくを かしげに うばいの かずく 給へど、ものみに心いれてをか しとおぼしたりうへ まふうへの御つぼねにおはしますふぢつぼもさぶら づきたるさま心ことになまめかしく見えさせ給に御 ていづこもこまるにらうたげなる物からあいぎやう るもしり給はず中宮はうすいろやまぶきもえぎなど らわたらせたまひて御木丁のうしろより御らむじけ どを、もの、ひまやとおぼしめしよりてうへはやを いでくいましばしかくるついでになどかたらひ給ほ ちやすむほどにふたところありつる事どものたまふ ぬにその日のひるつかたわらはなどもおりて人々う にもおはしまさね したればひかくれ給物さわがしきほどにて心のどか のわたらせ給にも御木丁などへだてくよくかねて心 おろかならむさと人はさこそおとなしきやうにみえ ひ給へばせばきほどの御よういくづかたにもいか ひてみえさせ給を中宮もあはれにみたてまつらせた かたち、ところかはりてはめづらしきひかりさへそ おり物の御こうちぎ御ひとへにはづれたる かさなりたる御うへに あかきうち、御ぞこ ばさにやとおぼしめせど御らんぜ 14 1: ありなんや權中納言などちかきあたりにて心が

ぐしのこぼれかくりたるもすいしげにてなつかしげ よりしたまでかさねたるにおなじくれなるのうちめ にれいなくおほやけみやづかへといひながら思よる せむとおぼしめさるへに宮のかくてさぶらひ給は なかるべけれど、きのまに御心うつりは かなこれをよその物と思なさんこと世に たらずかぎりなうた ゑまれさせたまひてともかくもいひたてんにこと葉 やうづきをかしげさはあひなく御らんずる人もうち もめでたきにものいひてうちわらひたまへるあいぎ のこちたうひろごりたるそぎめのゑにかきたるより 御ぐしはいたぃきより水をながした まみのかをり心はづかしげになどはかよひたまへり よりもいますこしつらつきもふくらくしといろあひ さきほどのあえかにかたなりにもあるべけれどみや もまことにかげみゆるやうになえてもひきかけ給 るうちぎすがたこのよの物ともみえずまたいとちひ べきことならずかくる人をいたづらにてみすぐす人 のみお はしますひ めしあるまじか め君もくみぢの りけ るやうにてすそ る人 ありてか のさま か

返 ずろにわびしければたちのかせ給もあかずわり 給はず御心にか ましうてその夜ものぼらせ給へれどきこえいでさせ 3: を < やうあらじつひには か せく わ づくと御らむずるまくに御涙もこばれさせ給にす めすあさましうさ くとだに たらせ給 おぼしめさるれどみやのおぼしめさむ事 b てもいとかばかり思しみ くりておぼし ひしらせ ざらんが いふか ひなうい か おばしめさるへぞを ならずさぞあらん め しあかさるくも人や ねる心の かっ カコ しとおぼ なし うく ほど きつ

うへ えしいまは まに御むねをさ ろ のうつるものとも」 さてまかでさせ しとおぼしまどひて きこえ給まことにはさせる御 わ 0 n 御 なからいとかは つぼね あ へい りけ にわ しげどのときこゆるぞく たてまつり給 五せちすぎにしまたの夜も中宮 みじうなやみ給 h たらせ給ほどにい あかつきこきでんに 姬 かりは 君 はなた かっ 心あやまりあるべきほ しらさりき人にこゝろ のニ 10 3 ばか へば 條のうへときこ かなる御こく おり給 ひてい お りをおそろ ぼ L だし さわ しまる

どならねどおぼしもわかずたいおそろしとおぼしけ

え給 しり じい となか ばしるきこといも にしころよりなやましげにて物 まなうしたまふさまたのもしげなり中宮も そうしてまかで給ぬればこのたびだにと < より身にそふたまもなきやうにおぼしめさるれどい ばせ給を左の か にぞうへも のつねなるにまたむねつぶれ給三月とそうせさせ給 こへろのつきざらむ、は 女御たいならぬ御心ちになやみたまひけ 殿のうへ内 やうにみくしげ殿 るに御心ちたがひにけれどさすが ぬことなしうちのうへはゆ は宮も なりたま まくにい たてまつるひとべるおといもうれ れぬをいかにとおぼしまどふほどにとし返 るべき事なれば かっ へれ には た いまひときは よく 4 おといはきく給より どつくましくて人に さぶらひ給 御 ありて などさとに 御い i いか のひまなく くうへ のおぼし 0 藤つぼの お かに りこち 10 ほしし 十川ばか おはす おろかにきこしめさ 3 などもむげに めす 3 TZ 心 か から 1-ぼ さわ なじ j b 3 H もみえ 御 ほ かっ お きし 3 小 心 御 1 どは h Si) 15 などは 五節 たら かで 心 族 2 てお やむ j 御 はよ 内 \$2 か御 8) 大 3 世 < t

h

ならずこく

ろ

づく

なり

世

御さまぞいふかたなき、こうばいの うすくに ほひた

のちまつまに」とてうちなみだぐみたまへる

かりそめとおもふへきかはわかれなはさためなき

しうぐひすのは

かり

せあやふきまで心ぐるしきにまぎ物のかさなりたるいろあひもてな

30

ij

へる

御

けはひなどもたえぐ~には

カコ

な

しげ

なるに

御涙ほろ~~とこぼれさせ給

ぼえ づれ ち するさま、けしきのいつはりとし もみえ ずあさから らふべしともおぼえぬにましてかやうならむをりも をいとはかなき心ちする身なればひさしく世になが でさせ給はむ事はいとわりなくおぼしめしわびた きにおそろしとのみきえまどひし人のけはひさへう えかにらうたげさはにる物なくたをくしとなつか ぼしめす中宮のうちなやみおもやせておはしますあ にもよろづこくろぼそく思なされ給ひて かりそめのわかれもたゆべくもなきなどのたまは おぼえた 14 ぬ物をとゆくすゑは あらむは まへるはいよくたちはなれがたくて おもふやうなる御事ならばとうれしく くうへの御ためしもたのむべくも るか な る御契もあ は n なる い お 3 お

T

事もかぎりあれば二月にはいでさせ給 とそぎ給はむやは そ物にきしろひ心なくしづめ給 たちのすみ給ふは三條なりけりほり河を中に らあやしきまで御心さわざもせられさせ給 < はじめさせ給こなたかなたの御すほのだ お 12 ろといへどかばかりさしあたりたらん人大事 て關白どのは西左のおといはひむかしにおはすさこ さまのありしにまさる心ちのみせさせ給 のみちきりこそすれ」うたてゆ しくさへおぼされ なくきくたまふに我 へのおびたいしき御心いたりふかきになべてゆる のあまりことにすきて心をまどはし給さま、は いさめさせ給ものからそこはかとなくなつかしき ぼしおきつることいもちかきほどはましてか ねみちく一のいのりのしまでたづねいらせ給つく ちかきあたりのいへ わかれとはなほたにかけしゆくするをはる てかぎりなういか おぼしのこすことなし左 おとらむとお ( までのこれるなし へるおといの御 へしき御ことか ぼさん め しき事 ねこのおとい ん所 やは へば我 へど御 かっ おそろ くれ にはこ 72 Ł な

ち な ひておしなべての 12 御 L はぎはしきは 1: 給 L らでらにとしふりてその人かずとしられぬ まりうるは ゎ ゎ 4 なふ山ぶしすぎやうじやのたぐひはめしつどへ のしるしもやと、ほきくにど~までたづねさせ給よ < の、か は 使 は 息 ぼ か 72 さなるまじ 御こくろもつきぬ づかたにもく もて わ < よう おは 所ぞ じたとし かっ つらき、くまのなどやうの間 ふな はる いことに は しますい やし しくこはかり か くそうたちつどひ h 1= 給 0 な まうのば 心 しさへ 御 をかしう心にくきかたざまなれば は も殿の御もてなしなさけ 心 御 づかたにもひまなくまるるうちの か 中々 4 人 づ 0 心 ~ 3 0 おほ そへてひく ひとぐ かひそひ給へり中宮には しふぢつばの女御はあまりき 我ひとりならばさしも あ かひどもをか んほどのくちをしさをお おきてにて中 しき御さまふさはし ŋ りとお かりうちには 給けるぞきやうで ばえ給 もつどひまわ 給 かっ えた しう 宮にもうとく たごとによる夜 りやま る所 つれ わ 3 à) お かき人た おこなひ からず h b ほ から ぜ 1. F た り は ち 72 かっ こと ばす ばえ おこ 7 0 3

ど心 ばて 心方 3 えたりしけはひ なよ ほく 3 こぼして見 たてまつ り宮の御ふ へばまばゆくつくましきに におはしますがうれしきに もくゆりわひぬ のどろはまぎる ずふか ても又よに ことなりけ お 4 む事 ぼ もしほ 給 びかに づくし L はえとり ぞせさせ給との、ひめ りやうく 1 へば ついまし めさる くさか り給をば にむ いれ あ みのなかにことづけあるをり しむらさきの しらずおなじ る草 らうたげに 1 な でさ 給 れ」おもふことをだに宮の も御身をは 0 にも 7)3 くてかきたえ きてもやら しきさまし へかたなう戀しくおぼし しはなにをとなげ LE 10 6 ~ くも ふな 43 3 かっ b 給 かっ なつか が ぼし あら たない 6 0 つぼ は かっ なる かの ず 3 君 ぬ思ひこそけ 家と、 な 給 43-しと どお しく め かっ ね あ は 72 0 めて るも 一世 ば心ぐるしさに h 8 3 か LE はなべ 6 L は 3 な づらし ぼ お おはします な 事の かっ か 10 ぼ 8) なきに かっ 1 1 きよしを くべ ぼ th づ なき III. 3 させ給 3 8 3. 出 < T 说 3) 40 3 かっ る 6 IL かっ をさ IF 1 3 B E 6 ほ 12 2 か 3 は 思 す) T U 1 8 3 か

まにまわらせたまへとせちにのたまはすれどかろ らひたまふむかしおぼえたる御ことのねもきこゆる はやしなどし給て權中納言もこれにのみつねにさぶ どは御あそびあ とおぼしてきくすぐし給をうちにはうらめしう所せ のそねみもよしなし には御心ちなやましきまぎらはしにも月あかき夜な わりなりおの にきえいりの計りにあえかにのみ見えさせ給へば人 へば女御は心おき給へり御神事のひまにあか いでおは 世にだにかく るべき御ありきにもあらずなつになるま 御 たる ほどもいとは もとよりの 3 しるし くいかならむ事をとおぼしたれば神 しまさん へをおといたちの御心 り夜ひるわかぬうちの御つかひもて させ いと心とまりてこれにのみさぶらひ あながちにまるらせ給はずとも るべ 御こくろぐせにてしか お 事は ろ ばかり願はれさせ給にをとこ しきまでおぼ は たるか か ん御さまは ならじとみゆるなか b みじかるべくいづか たもありけり左 もいみじきこと お しなげか B 2 るべ によ せ給 いから く契 るべ 1= 0 12 お 3 お b するにくれつか ずとなぐさめきこえたまひて物そへのかしきこえな をとこ宮うまれたまは ぢきなし我 おぼ され に身たひらかに物したまは 72

をりく

がろしか

1=

ほとけの

ほ

か

たの

き御身の

まにてぞおはしますくちをしさはい ぎやうのつかひくまなくたのもしげなり七月七日 どもをせさせたまふふぢつぼのは七月に といはうへの御心きくすぎ給てのこるくまなきこと らんはじめはつきん~しかりけりこのたびはひとき で心をつくして夜中ばかりにたいは もふよりもまちこひすぎず、そのみけしきにゆすり へればみな月より夜よなかわかずいだし なきふしたまへりそれをみたまはんに女御もなの くちをしうおぼしめす女御 もそうすることもなきをさにやとお はなごりなうしらけたるさまわれ もうちさましたるによもすがらまたのひもくる みちてなりあひたれば内よりも御つかひまゐりな おぼしなげきたればかいさましてうちの んやは御ゆなどもまねら よりはことになやみ給 のは く君はひきかづき は じめ ぼ か 和 づかしう ば 世世 お 0 あ めすにい てた たて給御す 御 といぞあ のつね お つか おとい な

ずとても、ため

100

か

いせん

な

72 も八 るに ち給 ど思ねんずるぞよしなきはくうへも我御事 きさまなる人のこえにてほのか しつくさせ給 どつねの事にすぎて神 まりのほどにかすがに しるしあら わうじいでおはしますべしとのみうらなひ申せば さきにかすがの御 はひとす かひなう人わらはれにきくなしてしがなどはか しさよりもまたこれ のもさら どし給につけてもよか つ、かしこきみ たるに つき方あ 月なれば心 おといはいとわびしう御むねつぶれてこの御事 事どもあ ちにね ば女に たならんのみこそとおぼして七 ぼさるくもかつはをこがましきに神の御 夢ともなう、うつくとも てひとつ心にねんじいりてさぶらひ給 る あわ てお あけ んじ思などおほ宮よりものたまはす ~: ちくのひとに物をとはせ給 しいまひとかたは やしろへまわり 給はん とおぼし たいしくなりたまひてそれ は をいかにと心 6 月くまなく山 0 おといきあり給てみかぐらな しませ 御こへろ n 御 か 8) 1= しため のとやうの人は É にかくりてい なく 風すいしく吹は おどろく ほいなきをいま いとけだ 月廿 もせ のくちを ば りご かで 中宮 かっ H 1-より ئة b 3 3 B な かっ

らんやは左のおといも心のうちなますいろは うなるをとこみこぞれひらかにうまれ ういかにともたどられ給はねど夜ふか する ばさるれ 給、むかへのおといの女御はいうへの うまくるまのおと物もきこえずなりあひ し、たとしへなくまづ我さきにとまわり さへといめられ給はずうちの御 といの御心ちおき所なうくれしきにもよろこびの に八月卅日 たてまつり給いかにくしとしづ心なうおば どもはじめこの ぎしながらい ちすがらもゆくしきためしおぼしいでられて たぞと見まは、 きの世の契なるうへに人の思もそふなるべ なひつかうまつり給ふはじめたる今上一宮の るしき御さまになみだこぼれ給 あきらけくてらさむこの世の つゆやきえなむ」なげ どわ いたうも たわり給 つしかまわりみたてまつり給 し給 みやしろに へど人かげもせず てよろづのこともろとも なやみ給はでいか くべ B 13 つか ちか ちのよもひ てかさ きならず 心 ひくちをし 御 させ h h ね くい うる W 心方 御 12 10 て御い きちが 3 給 て うまなど カコ ば心 心さ 御うぶ しく h へる 3 b (

語

十月 につけても中宮の御契ぞいよ~~あさからずおぼ めが てたちか にらうたげになよくしとなつかしき御さまをみ めさる のひかりも てわか宮の御うつくしさをうへの御ぜんはかくる のこゑそいろさむきまでめでたしよろづはさし でそでにあまるうれ ならねどめのまへにみるはかずならぬみちゆき人ま れぬひとのおもか 日行幸ならせ給日のありさまためしなきこと し宮づかさとのくけ へらせ給はんそらなうおぼしめさるへに n いでおはしけるにこそとみたてまつり給 けたるむしのこくちしていといあえか げさへ袖にそよめくばか へに御心さわぎてわりなうし しさなりけりついみの いしみなよろこびし おとが りにや あひ おき おき 人 世 < L づ

なし行幸かへらせ給しあかつきより宮の御心ちきえ けいでくうれしくおぼさるくにも御いのりはたゆ しに思のごとくおもた しのびやかにてぞきこしめしけるこれもうつくしげ さへいふさがな物どもありけり姫宮の ゑごゑもみ、にさしあてたるやうに こえおかせ給てや、夜ふけてぞかへらせ給さきのこ もことにおもだくしげなりわか宮の御かほつきさ どの御心ちさらなり殿 なればまことしくよわが~しげにおはしますにおと きおといはうれしきにつけて心さわぎせられさせ給 におはしますをつらくのみきこえたまふぞ心ぐるし しめすにあさましうおぼしさわぎて御 う御ずほうたちこみたればうちにもいつしかとおぼ いるやうにてとまるべくもおぼしめされぬ めしくきかれ給くちをしきまくにまが あかず戀しかるべきをとくいらせ給へとのみ返々 たるけしきどもおなじつかさくらゐのまさら のおといにはいとすさまじくあやまたぬ のうちさわぎたちて御すぎや いしき御さまにえいぐわひら きこゆ 御いかなども つか よ、 に三日 るをむ うら 3

あしよりもしげくまるれ

どはか

しくき

身に 宮 は 侍 かり 心 さまにみえさせ給 やう侍、ゆめくしたがへ給なといきもたえつしくる 心 12 りと 3 かっ しざし ゆき き、こえ給は しく は かっ 御 ひ き御心ちにのたまは ちし侍らねどこの E とだ たみならねどたとひ人の御身にはうきこといと させ給をた お 世 かっ くきこえずとも しもなんふかき心ざしあらん人はほしきことに しまさ 事 ろ けといめまほ おぼすこといでくともこの わ 0 ip かっ カコ 人の思きこえんこともうへ かはら かっ 1 Ç, n る 2 なるべ な E ひか C い我身よに ん事 は < 宫 んまではめは ずはぐ りに 3 きならず人におされてくちをし < かっ は へばさらなることをいらへきこえ な たてまつれどみすてたてまつ しく侍らんとせきか 12 30 0 御ことの葉ば á) ては しく h きこえてし するまくにまことに トみきこえ給 いとかなしうく 3 かっ かっ 1 あらましに思きこえまし C おもひきこえさせ な め 見 3 なちたてまつり T かっ たてまつりたまふべ かっ 5 ば 御さま心やすくみ 0 0 で りに 御 へかぎりなき御 御心 お もとまる しろめ 心 B ね給ほどに は 5 カコ しま 家 ざしもさ 給な思 たく 3" 給 わ 0 h 6 ~ T か 3 3 0 お b た 姬 宮 0

にか 6 宫 カコ わ \$2 姬 な 12 あ さすがに物 ぞまわ さまにてそひたてまつりてわたり給御 こなひさだめ  $\emptyset$ さてあ るべし女房も我も てすみ給しうち の御ありきのさまにて、こおほきおとい世 かっ つね 0 3 君 ぜに んこと なしきな りとてひだりのおといその君 か宮かく P 12 ~" よふたましひにつけてぞか ż ば 御 かぎりの き事 らせ 0 かっ るべきならねばその夜も おくれきこえじとまどひたまへ たれ 12 ぼ なり なら h 1-かっ か T 3 給ひめ かっ ばえ とまり 1= おは 3 0 たまふつぎの は 1 わ 御 3 ね 0 ち つゆ こくろをさむる人 はき 4 か 院 カコ 給にや我もまわらむとの 君はなき人のやうに (しまどへどさ しますに ならむとくまり給 なれ t 151 つはゆ のやうに へわたしきこえ給 دي 1 0 3: 御 どうき 5 しし 夜やが 物お よをながらへて見たてま る ひ給 人人 あへ 艺 くも あ たちなどぞよろ ばえずとて なしさまさり なし てし V なく かっ 姬 るべ あら な 君 30 n ぼさ 店 ても き人 どまことにこ 0 心 殿 0 3 しきも かっ 3 t, J は h 0 は は を 12 tz か 0 かっ 72 W 30 3 か かっ ぎり そむ きた T Ł き 1 3 3 給 御 \$2 づ 13 かっ It 家 は を 5 3 0 10 お 163

だうつくなが られたれど心はやがてそひてゆきぬるにやふけ行よ は人よりげに思しらる、をうつしざまにて世にたち まなどのか にこよひのさほうおといのなみだにくれたまへるさ かる心ちせしにあるにつけなきにつけそひきこえに をとらへてなき給し御すがたありさまのあたりもひ 人のまよひしまぎれに御丁のうちをみたまひしかば きくばかりに 3 風のおともいひしらず物がなしくなごりなうかいす はのしもにむすぼ、れたるにはの木の葉を吹ならす めぐるべくもおぼえずわか宮の御かたにとてとい なよくしとい さめきこえたまへどたいいま物おぼゆる人なしたい づくとながめておつるなみだはこほらぬにや身もう みたる殿のうちは人おともせぬ心ちして月はいりは つらむとこそおぼさめなど中納言君のめし出てなぐ 我たまもか べくなりにけ しのひかりばか なしさにさらぬほどの事だに物の ふかぎりなうらうたげなりしさまのた べらぬにやまことにいける心ちもせぬ らにかはることなかりしに姫君の御 て涙にくれたり權中納言はいまはとて りは れわたりたるそらをつく あは n 7 め

ありをかしうおはせしさまはしばしのほど思つる 心などのらうたげにうらもなき物か 見なれしまくになつかしうのみありし御さまかたち ろつゆばかりもこの事の げさせ給はず御なみだにうきてぞおはしますとしご 人のおろかにおぼされんやは涙をこぼしつくぞみた どものほどもおはしける左のおといの君たちも中納 てまつらせ給まことやうちにはきかせ給しよりやが か なる御光を見たてまつり給左のおといの御心ちもい 御かほつきのけうらにうつくし げさ、いかな どすぎ 言をはなちてはみな御ともにまるり給へり我身のう 君たちぞたちそひたすけきこえ給てかれにてのこと て夜のおといにいらせたまひしまくに御ぐしもくた たるほどのちごよりもおほきにきづなきたまのやう へならずといふばかりこそあれわか宮のなに心なき くしたまはずよろぼひ給やうなれ さるけふのかなしさ」おといはたちわ に戀しうわりなうつれん~のなぐさめがたかりつる いなのめにかなしうおほえ給はむものい心あらん ゆめかなほたれもうつくのこくちせてとき日にま あ か ねとお ば内の らさすがに ぼゆることなく b おといその ゆる

たご ず又 L t te 世 な に C 3 かぎり を 6 1-3 3 ひとた しらるれ てらさせ給 7 i W から お め せ なき世 12 H るく御なみだ ぼ 御 あ は しか あ め お カコ ż 3 は Ł 1= とも 3 L 2 かなうくやしうお 0 ばやがてそむきなんとおぼせばわ 3 か 4 は V たりけ 43-かっ ともなみだ ろにやつゆ Ü 思 あ は は < いとい 0 くほ てな P 1, なり へば ん事うたが たちて は なるわ らぬさまにてみたてまつらむつか カコ 3 h のちとかやあ 12 あ b から H ~ もいろふかく などお H 袖ぬらしがちなるにましてか かっ とけの 11 L 12 けりこのよの によろづをお 々にまる かっ るをちぎらざりけ ば 御 b をとい くらす 1. すく ぼし を又 カジ ばし かっ ひ あとのこといもやが る りの御物などだに御ら は ~: あらじのちの 世 め 8 りまかで給人のか め ついくるにせきか りしをりの 0 ~: くてや、いと心 給 なりゆ しこ ぬをりふしさへ ふかきせの きとあ のなげきに 身に ひ ぼ から か るい くに b 0 h b こそとお 御 世 は 0 10 もてなし した 3 は お ち H か宮を今 1) < ぼそげ いそ こそ 3 7 ほ カコ 0 又きこ か ずし しぐ さく なら ぼ 宫 か 0 か b 世 n 5 Se ナこ h から あ は 2

ど念佛 こり、 らされ なき御 もく H みも b 1b 6 0 らふべき心ちもせら うかなしさはいとかば ぐくみきこえよとのたまひなきし御おも ひきいでつべく、うか かしをへだてける物にてひめ みだり わ 南 は たげ もか ほ 12 きっ va. 3 いし 3 物 カコ をもう かげなく心ぼそきふるさとのには れにきこえて木の葉吹まく風 をさはなぐさむ あらしとぬらしそへ給にうちより ぎり 0 給かばかり カド しう 心のなぐさめに 給 のことなきいとあは だには は には く思わ お L 3 ばえね くとおもひつ おぼさる か は わ かりなむとおぼし CK か宮みたてまつり ぐしく申され 100 W ばましてきこゆ たるさまならんも女などの しぐ n 7) くしく人に りける かり は づ たなしとうら たまはずうちよりもやる b かっ 北 物のお 0 きつくしたまはする御 くもの きすぐ 12 きこえてこそむげ 身を回 君も にみゆ おとも 給 12 おくる 給に ~ おの -5. ばえては h 0 くするとほ 造 加 ľ 0 しとも 3 おとも でま 20 -5 12 12 御 かけ なが 1: 12 かっ 3 0 よりこ たまは 6 2 ょ め П 3 3. 家 る やう 2 ぼ 0 御ぐし 數 6 かっ には さと 1; あ か 戀 きく は 心 h 12 12 か 3. 力;

は ぼそきをたいいまの御かへりなからんこそいとうか おなじ御心なりける るべけれとあるに我身ひとつにかなしと思つるほど へなどもいかいとせちにすくめきこえたまへばあさ なだのうすやうにほのかにかきなし給 いかに木のもと」思やりきこゆるもためしなう心 我そてのなみたをそらの玄くれにてはらふあらし のそらのいろしたるしきしに もあはれなるに内のおといのう

やと我ながらつらくてみちすがらながるく御なみだ みめとおぼせばたちいで給にもなほうつし心あるに わ b まつのみとりこ」とばかりきこえ給へるをあはれなる をのごひあへ給はず御としよそぢに二こそあまりた ながにうちかへし御らむじおどろかるへかきざまな ともなうかげのやうになり給へるしもぞあてにかは まへばさかりにきよらに、ほひたまへりし人のそれ やおといいで給このたびばかりこそみやこのかた か宮の御こひしさはかなしみにもまぎれざりける はかなくすぐる月日にて御四十九日もはてぬれば かきくらす涙しくれのふるさとにまかふもか になつかしげなる御さまをめづらしとみたてま なし

世を心ぼそしとおぼしたるにまちつけてうれしげに まはずしひてのごひかくしてみたてまつり給にさら る心ちしてにほひらうたげなるさまによるかたなう る御かほやうのいよく~うつくしうねびまさり給 の世をおぼしすつるには姫君のいたうおもやせ給 じき御ひかりなりとうれしくおぼされていまはと此 う心はづかしげにおそろしきまでおはしますにゆく ごとなき御ひかりさへそひて御まなこゐなどかしこ にたい人とおぼえさせ給はずいまからけだかくやむ に御めもきりふたがりてさだかにもみたてまつり とおぼしたりわかみやをみたてまつりたまふにさら すゑたのもしく中宮の御ためなき御あとまでもいみ つり給にも姬君はひごろの戀さにせきあへずか なし

きこえ給はんにつけてもわか宮の人とならせ給はむ

をみかどさらにあるべき事ならず中宮の御

ことを思

おと

どにゆづりきこえてすけしたまふべきよし申させ給 ぼしなしつればよろづ心やすくて關白をば左の 世ながらのわかれことのかずならずいとせめて戀し 思たまへるを、ふりすてんも又いと悲しけれどこの

からむ時はむかへても見きこえてんとひとすちにお

家にうまれおはしまして思のごとく君のみゆきあ 事 げにもみやの御事をこそうしろめだしとおぼしおき h にし身のいまくでつれなくながらへてつひにか なりそのうへには世のはかなさをあながちに思しり らずつたは 見たてまつりてもすぎにきわか君つひに世をたもち としていでいりの御か り事をやまつことなかりき、ときのきさきの べきならず大臣のくらゐにておほくのとし世のまつ き、いへのかぜくちをしくするのよの名のをしかる め どめさせ給 n さまをこくろやすく見おき給 あるまじいへのさかえはきは きならずかぎりあるみちをばこくわうもをしみと ばかりは のしたいのりねが おは U あ らむなはとてもかくてもいまは 事なしこの世のかなしびこれにすぎた 御かたみもたれをかみるべき中々にか さくうらめしき御こくろなりなき御 ( かへさひのたまはすれどさらにこ たびのせむじかたく ともといまる はれさせ給へる今上一の宮 こしうたがひあるべき御さまな しづきにつけておもだくしく てこそおぼした めてき、かばかりあ かっ 御おや なじ事 1 8 わ 1 h カジ る か

宮のなき御かげにきずとなるばかりの る所々の御くら、りやうじ 給はずばおぼろげにてさばかりのことあるまじけ とまり給へらんをおぼしめしすつる事 さとにすぐし給てわかみやの御世をまちつけ給 はしくとかくみおきくこえんと思はずた まんこといとうとましかるべしたれ 0 たてまつり給へさらぬそこらのたか かぎりありて なりゆ ど女の身は心よりほか にまかよは あるまじきよをすぐし給へ世をさりぬ とにこくろぼそかりける身の 宮の御事をおぼしめさん ぶらひたまへかいる 君をかはりとは見給 わたくしわれをあ かなしびにまどひぬ 御 かたざまのも、そこらありしはさながら めくしよういし給へなどなくししきこえ給 むためきくぐるしくすぎ給 わた は るべき物どもこそ左 あぢきなき世とみつれば て心ぼそくてすぐし給は 礼 しひてお 1 とおぼさんひとん みだりが か 給みしやうなどは はれ 契とおぼしてい なじさまにて 0 は なごりにてひ ら物 もく 事だに、 0) き事 る身の あらじさまこ 10 30 好を 专 おほやけ 姚 トラ くほど のふる 出に b 3 个中 かっ

宮をもへだてありて思きこえたまふまじたい我わかもなみだのごひあへ給はずおといにはさらなりわか なちすて給らんとこゑもたてつばかりうらめしくて ぎみはなにのゆたか ひたれどいみじくいさめ給 なれしをとこ女宮のうせさせ給しにおとらずなきあ といふにうちへ返わたり給にとしごろつかうまつり いかならむいはほのなかにもおくらかし給はずばう てまつりたるだにかなしく心うきにたれ のばむ人は 御うまごと思きこえ給へと返すが~きこえ給て三日 いれたてまつりてこまかによろづをきこえ給に らひかね給つくおといをも中納言をもみすのうちに き事もいできぬべしなどかつはたえぬ御なみだをは らひ給へ、女のひとりすぐし 侍らんい とらうがは をちくおといもかしこまり申給、さとあらさずとぶ ら物は たてまつり給名だかき御おひたちなどやうの なからをわけて權中納一 へ心をなぐさむべしとおぼしてのたまひは この 姫君を思たてまつれ との なはぬ御いのちどもにてすてられた ならむ事もおぼされずむか てわがことをまことにし 言にたてまつりた におぼしゆ おく 御 を姫 なれ まふ 72 カゴ

にまわりたまへどみなかへしたまひてさるべ いかでよろしくおぼされむわか宮はしん殿のみなみ こころおき、こしらへて我身つひの は りすみ給左の みはとりはらひたり姫君はにしのつまかけてもとよ ひむがしかけておはします中宮でおはしましい もおもはざりつれどかくりける世にこそありけ まつらじとねむじかへし給へど御くるまひきいづ なりぬべしこの世はつねなき物ぞおなじ世のうちな n ばしたて給 ほどはいはんかたなく心ぼそしちへはへになりて とにとまり給べくもなきものから思入てもみえたて しと御ぐしをかきなで、こしらへきこえ給へばまこ とおほせかくおぼしたるみればさまたげになりぬべ もおはしまさぬに君さへいかいみすてたてまつり給 ればときんしはむかへたてまつらっ かなしとおぼしてかばかり思すつる世のさまたげに もしらず我御心のまくにおぼしいりたるを殿 しか んたいいかにもおろかにやは思きこゆるせめ りなむとことわりなき御身の所せか へればかたときたちは おといの君 たちみなひきつれ なれきこゆべ みちまどは わか みやのは T るべきを 御 きか さじ 1

きどのかま h W 古 ぼ 3 3 h 0 などより く心ちしてみやこの損 が 法 にす かっ it せどわ つか 花 ち 12 'n 損虫 世 に見 なき うま せ給そ 鄉 人の氣色まであは たえず 0) ぎは をは か宮 Ú 0 は わ うつり 3 灰にそへられ な ね のこ Ś. W 0 0 U b な 4 82 御 it τĺτ わ め 12 さる b n ほ 3 事 3 12 T 宫 まい かっ か 10 2 h b かっ < 0 御 1 3 こで御 رکم < やこの にすみ 7 に、 トゼ給 御文どもの n 3 なるまし 姬 のさび おこなひたまふさま山 T L とみなされ給うぢ川 は ならしまわりつか 君 T 30 げ かっ け 世 づ ろ 0 からこ 御 たは 3 12 L L しさはなほこと き水 S つも めづらかなる事 給 に人め もとへ じりな ã) つ 0 とたえてとお むで b あ も草 たる おとさ は どぞまる 御 5 うま 文 0 を B n 0 は --かっ 3: な をなめ な 0 n 3 部 3 L b

初 1= 0) みつ 7 おぼさ せ きか か ぼ ナこ るさこそい しらなみか すなみ 白 h 0 4 وم 12 御 C V 8 ~ 0 お かっ 7 5 は 世 3 5 3: 0) みづ 1b 3 1 君 あ 給 事 は ひ給 B て世 なきひとべ もこは B 我 3 ものい かっ せは 5 うまつ b 12 みじく つ 世 1 b をう H 1 事 < は あ 5 É か 左 は 30 給 0 n 11

給出損 はする し六條 すれ などか、 たら n 2 なく 5 殿 かっ さましき御心のうちなりわ せ給に 御 ほどめ 0) 5 T L Ó お h 心 な はしくてましてこの ど皇后宮きかせ給て御け きこえた は あ ば は Ĺ ちかづかまほしき御 す のうちぞい どに んとし返てとお L b んとおぼしめ みか する をい けてにしの ほどにてはえな づらしく T のやけに もわか宮もいかにうつくしう し一條の宮 女御 Ł 姬 B 12 72 にほ ま 君 つら なけ 0) もうち た ~ L B り川 おぼ ば 5 みじうた n 3 K かっ 1= め 0) しやられて 殿に ひろ ば ばしまうく j かどは L T L にしの まわ 世のまぎれ 姬 御 かっ ナこ 0) めさる 4) **-**J-へか 君 3 h < あたり \_\_ \_\_ の いち 12 殿 L しきあ のらうに 8 0 か宮は御 b יול 72 たき お h 0 3 78 1= 給 L あ な ぼ なれ j 1, 內 12 てすみたま 御 づ らまし 1= には 相 え to 姬 B n 0 3 きくこえて b 2 か す 123 1/1 20 か ひさし 、らう 1-1, たえ b 時 j 3 わ 將 3 かっ カコ 3 D か かばの H V たて 12 12 13 12 0) 3 しうなら 將 B 12 h b かっ か と入 13 3 ば ょ Ł な T 12 b Ti. みい 义 わ S 1 17 道 3 け 43 3

り給 給にしなど人に似ぬ 思ひよりすくめきこえじ身づからの心どもにまか れずおもふずぢあるとみゆるも心さかしらに我又得 るをかけてもさやうにおぼしよらぬさまにてそむき 中宮の御か まり給へるを心ぐるしくいかにおぼすにかとやが がたくわれになりて思しられ給へばいまはこの ふねくみはてんともおぼさずゆづりたまへるは みのこらずいまださかりの御世かくる光をさへ我し しをあさましくなだらかにうるはしくていまだうら なき御かたちなりみなれきこえ給まくにまことにか すこしまさりざまにさへみえさせ給ば、たとへむ物 の御かほをうつしとりたるや うにおは しますが、今 へまゐらせたてまつりたまはむともことわりの さしこえたるこくろづかひありて入道殿だにおぼし なしくおぼえさせ給むかしよりこのおといはすこし りをば身をすてくもとおぼさる め給はい御なかうるはしからでもありねべ へば昨日にはけふはまさる御うつくしさにて内 はり ひごとにわ にわ 御こくろなりや權中納言は人し か宮もかくておはしませばうち たり給てわ くに か宮見たてま 姬君 かっ < 御ゆ 事な てと あ か t 7 h b 2 は 0 3 ば

か

ば我身ひとつの事とのみおぼしたるにそへ だこの御ゆかりにこくろぼそくもありぬべかりし なみだなぐさまれたまひける姬君はは しきこえてひとつに見なれきこえ給にぞつきせね ぬほどにてものし給へば御かたらひ人にとて皆わ たちとりべ~にをかしげにていまだ甘にも ばかたみにうれしく はひとつにおはしてつねにわたりみたてまつり給 ろばへいとよくてあは の御かたざまにおぼしめしたりしもおもたいしけれ のことわりのまくになりあがりおほやけまでも中宮 うたのみきこえたまへりしなごりこのとしごろも うれしくてつねにまるり給つ、わか宮をもあそばせ りかよひすみ給へなどのたまへば心のひくかたにて とのゐにもさぶらへなどの給ひて中納言もひむがし ふかくねんごろにきこえ給きんだちを夜よなかの御 てみ たてまつり給内のおといはこむかしのうへをまたな ものおぼえてすぎ給けるにそめざりけんころもの たいに、わがときべ~ たちいり 給かたにしたま かっ りとおぼせばともか おぼさる姫君も二人 れに思きこえたまは くもの トうへの おはする 9 るにいま 御こ 御

W B か さりて あり給へとおほみやきこえさせ給へどおそろしと思 きいだしたてきこえ給てもひかるやうなる御かほつ もこくろにくね わか宮の御 まのおともことしはいまひときはいみじげなり十日 たる人のけしきむかへのおといにはしげきうまくる うのさまにてきたま れどいまく かぎりはみなまるる大納言の君などは いみもえしあへずおぼざれけりそひたてまつりてま きのうつくしさはかなしうみ めすべければいらせ給ぎしきさらなりはじめたるみ へり 0 くしときこえておぼしもよらずこ宮にさぶらひし かたべるちもまどひぬべければころものいろも もくしきのうちもいというとましくみむにつけ るく物なりけ あり D 12 きなれ もしか ば しとてあらためたるもいとかなしさま 春 のは 3 なみだのみぞいまはと思なすにもこ 姬 ほどすぎにしかどうちにてきこし ばのこる人なくまわりたまへるに 君 じめは へるいみじうおはれなりとしも ね は御あまがつなにかとそい 0 おもふ 御 かっ たてまつり 12 事なげにて心ゆ 3 78 3, ふかくそめた かっ 給に、こと くけうや t め à

> げにといというちなき給て なる御氣色をみたてまつりおくさへしば たはよとまさりける。ことわりといひながらも るはなみたなりけり」としのび -あらためてみるにつけてそふちころも わに 3 あ らず か ^ 12 姬 3 袖 君 か 0) まるひとりごとを 03 3 1= ふかき な 0 か 13 12

わりなうおぼゆこき酸にやがておほみや

おは

給に あり げかよはせ給へるにさまがくこひしきか ことにゑにかきたるちごはなか ちごにもにずかうばしうくちかをりて御 はかなげにあえかなりし御身 て御ぐしは ひもしろうひかりそひてゆきをまろがした もなくきらくかにおほきに御にほひなどさへつ 御ぜんもしのびが しためしなき御にはひをみたてまつらせ給 ていつしかとまち見たてまつり給 お ばしめさるようづにいみじき事もあかずくち は、宮よりもさしこえて人しれぬ 世にしらずうつくしうがなしと見たてまつら あを /~とつゆくさをね たくこぼれさせた よりいでたまへる人と ふ御御 h まひ おそろしきけ 1L ひとの 12 たみとさ るとか 10 n ろの さば るやうに にうへの 思 4 ねの あ かっ 3 b

事なれど内 將になりぬ内 りて中將かけ給、くら人の少將頭になりてやが 將かけ給 り給、殿の宰相中將中納 言になり辨少 將さい相にな しめさる春のぢもくに權中納言大納言になりて右大 きをかしかりし御さまの戀しさをわすれがたくおぼ きにたちたまひて中宮ときこゆいみじくてまわり給 ざま戀しさまさらせたまひけり二月にふぢつぼきさ どめたてまつらせたまはずつごもりがたにはいでさ 殿のさかしらし給てことしばかりはさとにおは かばかくらましやはとおぼしめされてかなしうさま せ給につけてもうへの御心には中宮おはしまさまし させ給へ、ときぐくうちへはいらせ給へときこえさ だてあるべくもおぼされねどこの御事にはなほ入道 き心ちのみたれもしの る御 るにつけてもなごりなうしめやかにあいぎやうづ へばそれもおぼす所こそあらめとてたれもえと の少將 もてなしもさこそあらめとこのましうみえ給 へり左には のおといはこの殿 中将になりて三位し給へり、しだい のおといのさい相右衞門督かけたまふ おといの御おとへの源大納 びが たし もかく御こくろよせあ 40 まは か たとき て中 言な 0

ひて

いろをつらねて」ときこえたまへば大將

ときしらぬみやまのいほを君そとふ春

<

ての

なり したるはしもすこし心とまれどしのぶのみだれぞな 思たえ給はぬまくに女三の宮の御ことをさもとお びたまふまじとのたまふ御こくろおごりもことわり らむかたを思ひたち給へ、たれときこゆともえいな までかくる事といさめたまいていづかたも心のよか なるかたはらさびしさもさすがなるをおといもいま なくなりたまふにつけてもあぢきなうひとりねがち とまもられたまふ大將は世のおぼえまさりやむご にいみじきひかりのみまさりたまへるをありがた とはさらめやは」あざやかにきこえなし給へるよう いもかたちけはひもつかさくらゐにそへてめづら 春の日のひか かの一 條のみやは人しれぬしたのこくろざし りをしたふやまみちに君 をたづ ねて

h け ずあ 5 けりとみえた けんと見ゆるこそまことにきなす人がらはことなり お たくし みすのうちの お なしにやえん にくきほどに ひわらひなどす也姫君 で人しげう右 かっ ほどに るをにしの しこそあはれに思たまへられし れば なか わか宮の御かたはましてはなやかにさわがしきま n なじなほしさしぬきの色きぬのかさねもたれそめ はするけは るひとぐしげうおといのすみたまひしにか ば てみ b わ 給へる大將の御さまかぎりなうなまめきたり にやみすなどは りなき心ちするに もみ うちそよめきたるきぬの 衛門督 ا ا りのきちかきわかきの お 見いだし給 ひしるくつねよりことにくほひ なる心ちしてしのぶれどちかう人 の姫 なる物 ひかぜも心さわぎせられてようい びしか 君 給 三位 から の御かたにまわり給へれば心 つねのさまにあらたまりにけ らずみえてあまり たちもろともに 一日うぢの院 中將などもさぶらひて へりをか L V は 0 か ひ心にてまる おといにまわりたま 御せうそこつた しき大將 梅 へまわりて侍 なが のさきい おとなひも思 か め N 0) ふか 御 給 りた 12 はら 7 物 か け 10 12 3 12 3 12 5 b n

給

2

納言 H まだきか りをり お しきやが 0 る 7 氣 けれどつきべーしくついけてこう えまほしげにおぼしたればちかくおは せ給しにまざれ侍 ざまさ ぬものをとかひなく侍し心のうちかなとた かどこよなき御もてなしにうちいで申 るまじきよしかつはなぐさめ ぼえ給 色はみ 1 かにの給けち きえか いふべきか せとのたまはせし 身をうらみても」 君きこゆ て涙 へり ざりつるになつかしくあ りけ わかみやの御か のたまは いの 人 るに n 南 たもなげればうちなげか わろく心まどひしてとばか もこぼれ 心 どか 12 \$2 ぐるしげさ は 3 るを心ちぞたとへ する物おもひにこくろ てなどけ も昨 ば あ な かっ n 春やむか 3 は ら給 世 日は大宮のうちより りことつい たにてはすこしまち る心ちし しきばみて身 0 はわ なら []] てさしてそのことくな L せなどの ろぼそく T U りなく 0 身に ぎやうづ んか か けてもの とのみこそとは 12 すべ 13 しますよし中 8 りやすらは たなく たまひ むば カコ ね くも侍 おぼ いならず か きを でさ かり お 7

うもすべてをかしげにたけにゆるらかにあまりたま すいしげにてそびやかにみえたるかたつきすがたや らくかにあいぎやうづきてかみのかくりはらくしと ゆましてつ。きあひな どをかし げに御かほも まみわ なばなとにほひきよげにていたうゆきなどはえきこ やくれなるのにほひたる、ともにもえぎのか たもん るくあねぎみは十八になり給大将のおなじ御としに たくわびしまゐりたまふべき所々あればたち給心ち すくよかにきこえなしたまへど心のうちはしづめ こそをしげなきをだにすてがたくする人も侍にさの しねびまさりたるか みえたまへり中君は二ばかりのおとくにやいますこ つぶく~とをかしげにこえたまへる人のいろあひは のうはぎさくらの つかしうとまれる御にほひまで身にしめてぞおぼさ いへばさらなり君たちは大將の御さまをすいろにな みくづほれさせ給よからぬことに侍などおとなしく へるかみのすそくぎめ もにそむきはてた おくれてもあの世のならひしかすかにたれかはと おり物のこうちぎ、給へりまろに る」よのつねにおぼしめしなして たにておとなくしくそびやか は なやかにてうつくしき人と

侍り姬君はことしこそ十五になり給へあるかなきか りやむごとなきひとべくのくたまふなるをだにきく ずた、人にはこの大將こそはあらまほしけれと我よ 宮、こ中宮などおはしましくにおぼしよるべきなら くるいなう、すそつきなどめもこいろもおよばずこ 物こきひとへいろく一の花いろごろもよりもめづら ろうすきこきあまたかさねてはなだのむもん 涙ふりにし御そでの色いまだあらたまらねばにびい にきびはにをかしうかたちは似る物なくめでた ながやかにくちおほひてながめいでたまへるかたは くらのうはぎこうばいのこうちきくれなるのひ とよくすき給なむとのたまひてさまべくきこえ給人 こえ給なりけりこの御つれ おいらかなる御本上はおぼしよらでた いれたまはざなるにきしろひ氣色ばまんもこちなし の君たちもとり べーにあたらしけれどうちには しくはなやかにみえて御ぐしはすぢごとにまよひ がかいりゆらくしてこれも心にくき人とお らめよしありひすゐだちたるかみの にては、君に、たまへりうすきやなぎともに べつのかたらひ人にてい ほくは いかくてみき のお くてて b

かに く思給 かしこまり給てこゑよりさきにもいそが ゆる、あてにあい行づきてをかしうお つるもましていみじときこえ給姫みやゆかしうおぼ る返たまひても大將は皇后宮の御けはひをかし もてはやされ りこそこくろまどはねどなべてならぬ御 らくるはなの し皇后宮もはしちかくて花御らんじけるほどにてひ らでまる は らいまくですぎ侍けるよろこびなどは むじぞつたへきこゆるありつる人の御氣はひば いでられてなどの給はする御こゑもほのんくきこ まわり あ るもことな もちかき御けはひなにとなくうれ n へわか یل り給 3: は御よろこびなどもほのかにきくなが せく でくこなたに へればやがてお てみるはをかしうぞたれ n いろならではきにけ へるよういもてなしなほ 5 Pa る事なきことなれとか 侍にたちよりたまへるにこそむ n をけふこそ思しられ侍 72 まは とあ ず大 はしますみすのま n 將 ば心づかひ は 3 op 春 から はし L B 3 みむに T 5 ねれ れ侍し心な くていたう あたりは おぼえ給け しられ ことん り ますべし お 條 など申 めで はひに 3 へに 0) かり B 'n か かっ み 0 かっ L か S 12 13 L ó

かりし か くた 12 をもおぼしはなたざらましあさ びがたくてつたへ みつくさせ給みちしばに すめ大納言 やうのゆかりにことづけてや、あは え給 のへた へてはゆめのやうなりしおも かなしみも き給には心さわがれたまひけりうちにはむか の思ひたより 御ふみたてまつれかしなどの給ひて心のうち ばもてなさせ給けるにか、おぼしよるすちあ ひてい たまひしもきこえ侍しかと申 ありて 侍しにこそ 后宮とおぼえ給し人の しの御ことをまことに せ給もよしなの御かたみやとおぼして御返 へが て物 まはせなどせし 御心とねたう思しすつれどかごとばか かにさば カジ たくわすれ 12 の君をか へだく りの もあらむとおぼ かり物ふかくおはするにへ きこの るまし 0 わび しきかた 5 か で とい ばし させ 1) るをむづかしく にはさすが 1= お 0 給 12 みじく ちに御ら か たまへばうちゑみた しよるかし、うく か CK げぞい Ł 0 10 りけ T 1 1 でくちに かたら みくし にうすらぐに S B りとさ さまし よくこか むじつきて るさと 條 おぼえ給 げ ナニ かっ 0) 殿 るべ か L h てなく はか 0) な で 御

にしたが

給し御けは

のごろぞたい かばかりにて やと涙に おほいれさせ おぼしとりたるをもしらせ給はでうらみさせ給さま 心かはりて御返など世のつねめかしくきこゆべきと せたまふになきかげとてもなにの心にかはいましも まつらせ給しさまなどの戀しくはづかしうおぼえさ のちはたまはせしかども物ものたまはでかへしたて びしと 思たりしを 心ぐるし げにおぼし めしてのち 御けしきのみ、まづ思ひいでられて 我あな がちにわ こ宮のくるしげに、おぼしめして 御かほうち あかめ 申給をりもあれど心のかよひはかけてもゆくしく、 させ給へばわが御かたへもわたしたてまつりたまふ のくはづかしさもわすれてと言のまも戀しくおぼえ づべしともおぼえ給はずわか宮の 御あつかひに、も とましくてあからさまにもこくのへのうちへたちい つる夢のかなしびに思だにいでられざりつるをこ 日にそへてわりなしまどひし心にうちついきうかり てれいの御ことづけとてつくましげながらみせ給し ひて御らむじくりてゑみかくらせ給、なき か宮の御事などのおほかたなる御返は時々 ひのいみじぐえんなりしと思いづるもう はずものらんされど思しらぬさまにてのみすごした 給らん心ざしにさらにおとりきこゆまじあやまりて たなくあはれにおぼえ給へば入道おといの思きこえ かにあさましき人の御かたちに心うつりたまひてま 木丁などもおしやりへだてなくみきこえ給にめづら のたまひなしてこの御かたにもつねにまるり給て御 思きこゆるにたがひてつらきなどひとへにうらなく などよりはおといもへだてある御もてなしかひなう まへばねたういらめしくおぼえまさり給ふなつごろ びかね給へるけしきもいかいさのみもみしられたま かやうにへだてなくなりまさり給まくに大將のし といふりずいろなる御心にてたいにしもおぼされ るをくかしげのかたちやとたれもめとまり給けりお え給内のおといの姫君はくづれてみえ給をりく ういくたうし給へれば御ぞのすそだにほのかにぞみ まるりたまへば御木丁ばかりへだて、おはすれどよ もつきせぬ心ちしたまふたれかはこの御さまを世の をばわびさせ給ひなどするにぞうきよも忘れなみだ あさくおはしけりわれにていかなるかなしびありと つねに思きこゆる人の あらん大将もおといもつねに

給 < とする りせ きた ナニ カジ 0 5 たちひ なりたまへばかた くき事なれば心ぐるしきことのさまか じく思たるもことわりに おとらず思きこえたまへり大将のよろづの事すさま しくい 12 の入 く秋のとな わ きやらじとなみだをこぼ へだてが かき人は 給人にて ね ね心のくせに まひてうれ 道殿 ٤ つぶ きつれ ほくてむづかしうよしな 御さまをみすて ほ 礼 もかくおとい 30 給さ する てい りの なら 3 め しく むもへだ かっ 水 h ちがらもいとわかやかにえんに 3 ておやざまにしもやおぼさいらん とたのもし たにうちへ 10 h はには おとい には は B おはすもの もてなされ 0 73 なか いかぎり 御としもことしこそ四そぢ かずし **b** 0) おぼせどわれ にてまことに あらねどやむごとなき なべくとお ねんごろにきこえ給とき したまひつくか ける げにてうれ 3 おとい か あら け な すいし たまは も れば ら心のうちには れどおもひくまな は N わ 5 中 すれ なとおぼすう たこ とは 杀 かっ 2 んとうしろ まかせてきく り給 せけ 宮 5 3 しくまち 思 0 U. だに -\ b 礼 くち より 御 \ \ .. 事 か お 君 12 18 も Z え

どやがっ かは のみ 侍し身にてたいい ぼし うに 侍らざりけ のかずお はうとましく かっ しうみたてまつるになみだぐましくさきの みきこえ給 いで、水のうへのかげすいし ろこびきこえたまひて夜にい ておぼしたるもおぼ てまつりたま て世の人にくずこの んにいまとて られて きひとのすぢにもあらんさの 人の、こうむも すあ し給 めさるら 御こくろをくみてなむ てまわらせたてまつり給は あ 10 げ ほく侍に んとくちをしく侍にもたい我まことの は 如后 かみやの わ おばえ h t れにおばえ給さまなり 君 たして なに る御こへろのつらさあ 0 などの給さまもまことし うきこと 御 在) のちまつまは むか 世 カコ すところなほしもあ (1) 侍や、はか こときこれい 御うつくしさにぞなきみ 0) は 御 1, L 1 かからいい 、見 とうく かっ 思 り侍 まの きに きここれ \ \ '` みうきめ たまひ さてすぐして よそふば T 6 ざり でたまひて 御 あ かりそめ 川見やらる 物 L んう V 6 侍 て 6 る から からぬ うちに をみ C 办; を か 12 け か たく みす 111 心 ばした h h 0 30 1 わ 月 O) 35 3 دمج h b

げに よる人侍らじとまぎらはしくあさかるまじきよしは げにのたまふにおとなげなき心とおぼしくられにけ と思侍ぞわびしきとさすがにほ し侍らばめざましく御心おきおぼすかたやいでこん あは らんじうしろみぎせ給 きがたに返たまふにも我思おきてしすぢたがへず御 ださですぐせとなむ思おき侍しとのたまふさまこと に心ぐるしけ 大將のよろづをきゝいれずこゝろづよきもことわ こながらもみしりたまひて我こくろをもうたが かへすべくきこえて返給みむ人たいにおもふまじと る我はづかしくてさらにまがくしきことまでは思 んも世の人のくちやすからでよからぬさまにいひな てよきにはぐくませ給へまたあまり御こくろにいら ころうきい えうちいでずなりぬ かな おぼしたりつるも心ぐるしきにげにもにげなき しく人にあざむかれぬべき物とみ侍しをかまへ おぼえ ば n 大將 ちの れどかけても にしもあらぬ の事もえほ めぐらひてきかむほどはたい心み 身 づからのこくろどもにまか へ女のひとりすぐすい をとをかしうわづらは おぼしよらざめ のめ くゑみて心はづか かし給はずあ とあ ば我も はし か は ろ

ほやくけぶりほかざまにとおもふこくろもたえは をうつくともなくうれしくてあさゆふまわりむつび しすぢたがへず御はらからとおぼせとてきこえしら 將をもやがてわれ b n ひてわかき物とてよからぬ心など侍らぬものなりよ 身もいたづらになりぬべきこくちしたまふ けはびにすこしこと葉ついけて物などもきこえ給 ていろにいでぬべければさりげなうもてなしてみ たまふまへにおもふことなぐさむ心ちしていとい せ給へば御木丁ばかりへだて、やう~~物きこえ給 いさめたまはずた、我むすめのさまにもてなし てみるばかりとおぼせばひとりずみもありしやうに づをの をりの御けは きこえたまふに姫君 たまはせへだてなくおといのお ひけぢかきほどの御にほひなどにぞ おはしてみすのうちへよび もうとむべ くもあらぬ ぼしおきて かっ れ給 て大 12

也 右風爾津連奈幾物語一帖 原本後醍醐天 皇宸翰

## 兵部卿物語

さり その おは なん よら 3 あ 子だちの 御 为 2 10 所 なくをさなくよりみかどの は 三の もこ あり れに 頃ひやうぶ卿の ければ けふよりあすはに にうつく < を つくりて御さとの御よしにてうちにもむめつぼ つぎのぼうが おぼ め ける 御 3 3 見 か いふば のきみ 中に やに 奉 Ł しつく一のみやとうぐうに しいまで河 ほ 3 にと てぞ כל 事につけ もとりわけてみかどきさい だに りなき御おぼえなり御か おは かっ おは カコ ねにてうち おぼ L みやときこえさせ給ふは のほとりにひろく 千世の つづき給 しこく ほひくは します事きの T しけるあ しけれどよのきこえ人のそ 3 御そばにてをしへさせ おは よは U かっ たは ~ りたまふやうにて つくお また しますことまたよ ひものぶるやうに 3 0 なることな 御か 12 よりけ なじくは か は おもしろき / せ給 12 しづきは のみやも L します御 ち とうだ 2 の き は U 御 7 き て <

は十四 どの は 見たてまつらん人 2 うまれさせ給ひてほどなくみやうせ給 ぞうら L 人 もまづこの < かっ なるむか き御むすめも ぞもてかし わ 3 かっ みに たさ 御 ぢにつけても心よせことにあは りてくるしきまでおもほしへみつく より見 らぐこくろ やたちとおなじやうに たみに 々もあまたあれどむか らにこくろざまあてなる人 御おとうとこしきぶ卵 ざうし Ŧi. Ò L せたまひ しの な 1-御 もとおぼしてうち しきしい みやに to もやな 心 づき給 1= たせ は 御ちぎりにか 0) てきさ たまふにをさなき 外 カコ 0 でや 12 らせ さらに 72 C ならず 給る人々はとうぐうをさし はい ひと け b てまつら 此 12 る 0 ひ T な しより 3 きょ つきね かっ たとい 8 1= E た 2 お 0 南 U P 弘 君 る C, 到 b < h にようご 々をば 1, 0) E 3 やの あやに と御 御 ~ h 出 カコ け ~ 57 御 聞え j V きをみや 0.沿湖 t, れをつ 37 むとさきの か 3 をは 御 みな此 7) 1 4 3 H 12 は 給 せたた ひに よの くに など 3 12 さする しきとり 1= 南 くし給 ち 6 3 かなき化 は b まひ す h あ 02 か 御 かっ ゑに とも おき かう 此 か は 3 13 か 20 10 12 かり 御 かっ かっ かっ

お

ろよせしいてふ

あそびなどのおりくしことふえのねにきくかよひ 給ひてありしやうに見すのうちにもいりたまはず御 れど御心といむべきかたなきにいといたぐひなき人 なふまじきをいかになずらへ給はん人だにあらばと ちのみにてとてもかくても此御ことは御こくろに どもよもまかせたまはじよの人のおもはんこともめ をほのめかしてもかひなきものくうへにもたぐひな いで給へばかくるこくろつきそめおもひあまる こがるれど二ばよりおなじはらからのやうにておひ のかなる御こゑなどをなぐさめにてすぐし給ふをも をおとなびさせ給ふまヽにいとけどをくもてなさせ き御心ざしといひながら此御ことばかりはさてあれ よのそしりをおもほすにはあるまじきこと、御こく **づらしげなきやうにぞあるべきなどとざまかうざま** はきさひのみやなどにてほのかに見たてまつり給 だけまさりつ、御こくろぼそくながめが かくおもほしつくむにぞあやに かたちはいといにほひくはくり給 なぶちのたきまさりつくお 御 しの びありきなどもかさな B くに いろ な か ほ S と人々そくのかしたてまつればひじりにもろく ぎらはしに年のくれにきた山のかたにしのびてうと まにか身をなしはてんと心ぼそきをりがちなり はするにさくやかなるいへどものくきをならべてあ り給ふ」にしのきやうとかや いふあた とたえなんことをぞおもほ ことに心つくすもいとわびしきを見えぬ山ぢにもあ らにはうもんなどいはせ給ひてきかせたまふに じりのぼうにて一日ながめくらさせ給ひてほ の御さまとなを心はくだはまさりて終にい ちずさみにのたまひつくすきおはするにか かにみえかくるくをほしか らあらしきいたまのすきかげよりともしびどもほ きの松など、ぼして玄のびやかに御さきおひつ、 ひはうしばらにもほうぶくなどあまた よばかりぞめにあぢきなきものなるにかうはか んじならはぬ御心にいとおもしろくひじりめし出て くもりつくみねよりふりくるゆきの夕ぐれなど御 からぬ人にばかり五六人御ともにておはしぬある つねよりことわりなどとかせてきこしめすに しはべ しいりね のほ るひ

25

0)

からか

る

うし

をなか

ふおりあれば御

12

るか

ぜにつき

りにてぞみさ トびつト

と御 ばかり御ともにてすひがきのくづれよりいりたまひ 2 きたるさまし くらにてそひふしたる人ぞいとあてにあひぎやうづ もなくい つくこなた ころとまり いとあは いとものふりたる にやぶすこし くだしきあたりにはにつかは あ りか 心とめてもひ け のほどもそのころとみえていとあはれになつかし ておく けくれ くるまとい りた 12 としめやかにかうしのすきかげよりのぞき ては おもひこが ことの て御車 なども二三人ともし カコ なればいかなるものいすむならんと 3 かたにきこへしねのにやあらんことをま る花ざかりかとあやまたれむめのすこ な 12 あるうちにひきいりてあ てほそやか 3 か げの めさせてすこしさし出てき、たまふ た御ら 1-よせさせており給ふくら人のぜう とたえぐくきこゆ ぬにやたえんしきこゆるもの などいとものさびしく かっ n くらきに 給ふひとの御さまにふとおも 12 んずるに にな たるきのえだに雪のすこし さだ しから よびた びの あやしむべき人 か には n るをか るやうだい もとに物 もの れたるやどの Ď みえねどく はれ ねね \るくだ か なり 御こ なる など たり かっ ねね げ 人

はい けれ L らひてくら人のぜうめしてありし ほせばかへり給うてもありしほかげもいとみ どうちつけにはひよらんもあまりなさけ まにてなにか とけてもねぬさまながらうちしめりもの 御そばにふしぬきみは なきわかうどしびらだつものなへばめるうちか たなきわざか h ことに ころもとまらぬ たづねきくべ のくすむにか くさりとて見 おふどかなればかくてはえやむまじきかと りするにときべくいらゆるこゑなどいとうつく ぬるにもとめし玄いうのきみにやあら 々もよは てたちぬ にばたちいでん御こくろもせでまぼり つくにぞ御そばぶしたまひおひ も御 ふけ 心 しての きゆゑありなどのたま あら あら なといひてあくびうちし 1-おとりせ たか ものゆゑとなまにくけれどい 2 あたりのひとにえんをもとめ 20 んじょうの 3 にやいとねぶたしだいうの はじとみやづか あ h たりの人 よひのま B 47 しのびや か は なな \ ふした あ いへは 和和 どお ~ へばれ な は か つく うけ なし n ばい お んきた 15 にはす もへ 3 か ほ 30 3 い とい まは もほ 72 カコ 6 な などお b 3 から るさ H 7 な 御 な 3 3 4 12 18

づね やにくにこひしきひとの御ことにさしそへられさへ にのちうしやうとかや じうおぼせばこくろみに りしほかげのわすれがたくさりとて見ではえやむま なる心 わすれが 住けるほどを みなうせてめのとのやういくしてありしがそのをと 大なでんにてありしひとのむすめなりけり らずといふことわりぞかし」このをんなは かしづくむすめとかやあるなどいへどさだ のくゐなかわたらひしてその女なんこくにすみ侍る とひきくければをとこはだいぜんのすけとか なか でぬ たくおぼせどかくる下がしものしなまでた わたらひしたりしほどひとのいへをかりて し玄らぬこひぢにまよはんもいとあまり 御らんじつけたるなりけり」さるはあ なとかへすべーおもほ 御ふみかきたまふ御名はな しか あぜちの かにはし へせどあ おやたち 5 ふき 事

あらんとてかへしぬれどのちはおぼしめしあはするよとのたまふおぼえなきことなればひとたがへにやかじかのところにゆきてじゃうとてよびいでとらせらてきくよしもかな」とかい給う てくら人めしてしたそかれにそれかあらぬかことのねのしらへかは

いまひとりわかきこゑにてさいせうどのこそ御 けりいとよきひまなればじゃうのもとに ずくなにていとものおそろしきにといふは御 人はかへりきやこよひもこもり給ふにこそといへ まふは御なかだちの御こくろい といふくへつまどあ な んあればこもりたまはめひとんくはたまはでか ちぎ、たまへばれいのじゃうがこゑにてきよみ びたびのたはすれどあまりつれ たまへばいかなる人 いとしめやかにひとげもみえずこなたのすのこにた 御くるまはおほぢにたて、それより うやつしてれいのくら人ばかり御ともにておは りてはるの夕ぐれのしめやかなるに御 びたび御文たてまつり給 じいうもめでつくぞながめをりける」そのくちは とにかと御らんじもいらずたい御てのうつくし てひめぎみにも見せたてまつりけりいか る人ぐわんありてきよみづにこもり侍 も侍となんとてうちすて、出 け かっ くれて ていでぬ へどかひなけ は てい なくのみみえさ らぬにやあら ればくら人あ n ればせん おとづ あゆみい くるまも ればとし る留 32 あ なりけるこ きつら 守 め り給ふ 72 てた させ のと な く人 づの せ D

٤ 2 どしてすべりいでぬおんなぎみはなかくしものもお れとせんかた ぎそむきふしたまふにやをらよりたまうてかづきた 5 にてはいか せうどのこくにおはしぬいかにもたばかりたまうて ばえたまはずおそろしきゆめなどみた D うとみたまはめかくるためしはよにまたあらじあま るきのをひきやりつくあしくもよくもわびみてこる くよりとうで給ふことのはにかあらんさまべ~にの なさけなき御 まるりてしか なにごくろなくおくのかたによりふしてお かきかすみのうちわけていらせたまふをわ いへばびんなきことにも侍るかなされどか べくなどのたまふにじゃうもいまぞおはしぬると れどともかく はいとうくらけ いたけきことくはねをのみなき給ふをれいのいづ いかへしたてまつらんとていりぬ なくてちいさき御きちやうひきよせな まりうちつけた しに もいらへもしたまはずきぬひきかづ もてなしにこそ身もいたづらになし ぐなん侍るいかいきこえ侍 n ての ばかげにつきていらせ給 たまふべきことあ る御さまにもとうれう るこしち 32 はする るがう h ふきみ たくし くまで ば とわ して ちう

> とほしくて そろしきものに はなどかつうらみつくいで給ふ」とのに の人々もこはづくればうきあかつきもげに 御てうづまゐりてはし しいづるにいとあはれにかうてはやむまじうお てもなつかしくやはらかなるものからは たになりぬれば人めつくましから しなるもいとわろき御こくろなりまだいとくら たまひつ 100 記 おもひしづみ どかい つかたに出てふみかき給 なきも たるさまなどお 0 かっ n 6 ほどにと御 したなくお かっ へり 給う カ;

72 けお がさしいらへんとなみだにそぼちつくしをれ せにこそおはすらめあまりしらずがほ ざまにいひこしらへてとてもかくてもの てよべの御ずる人にもたせて めくらさむしれいのくら人めして てなきふし給う てまくらもくたげたまは てもてまるりたれどきみはあるかなきか つれもなき人ゆゑいと、春 くれ ふでなどせむれどたれとだに たるやうにや侍らんこの 復は たてまつ れすも 御かへし しらぬ たびぬ 3 ならんも ひとに から n け のこくち Da ば 12 ばしのび ふやな か 4) 5

ñ

しなどもなかりしをときもこそあれよべなむお とかやさひつごろよりしかべくのたまひしに御か こちにかとおもひまざふをとてもかくれ どじぃうぞかきてたてまつるをまつかひなくうち どなき人のやうにてなぐさめかね侍ればかひなく こくろのほどもわが させ人々とりまかな なくともみせたてまつりてむなどいひなげくに おはせしほどはいかなる女御更衣 をすこしはとりなほしつくかたるにめのともいとあ めのとぐわんは きたまひてくれ へばじょうかたはらによびてなにのちうぜうどの ばくしたなくもいなび侍らでなどありしさま 御こくろにだに したまふをこくちまどひつくいかなる もふにうちなきていか てよべ くる御すくせの へば御そのしほた n ていかへるにきみあるかなきかのさ ればいそぎいでたまふ」こくには 0 こくろあはせつく へどきみはめのとのおもふらん 御こくろまどひにけ おもひかしづき給 ちか n しは たるなどめ らにもお にもとおぼしか めのとのなき せんちしは あらじとお ふは 八ば よば しか 御こ は かっ お 'n ع は 0 お な 1 には け じうおもほ しうちとけゆ しくじゅうが ひまにかうありそめけ やはいとくちをしくとてもわ せんざいる しつゝあ h

にしか

さましとお

È

てふ

カコ

V

したまふをじょうもめのともさまべくになぐさめ みやのひめぎみたくせ給ふべ それかとおもふをりくしあればなほみではえやむま らねどほかげにてもみなるいまいにはをんなもすこ につけて御かたちのひかるやうにおはするをまほな つつさまべくになさけふかくかたらひ給 たるをなぐさめにてその比はよがれ 御こくろといむとはなけれ はがぎりあらじかしれいの御くせなればあながちに つはうらみかつはたのめさまべくにのたまふことの ついれたてまつるいとなつかしうくちかたらひてか せばいとつらううらめしくてたいなきにの ればつかせたまふべきひめ るもやうくくれつくうづきするつか くにつけていといあはれになつかし はじめよりこくろ の御ぶくの事 はれ むとやお にか どか きにさだまり がこくろ みやた あり たじけなくあまり あは もは 0 御 7 おり なくかよひ給ひ かっ ちもお せつら h とい た カコ 2 ち ふことの させ にかよ なふ 3 は たにはか 和 給ふ

御こ か L 事 L わ h たまふをなぐさめにてすぐい給 めてみすのとまでも ひ みやたちにおとらずおもほしかしづきたまふひ 日 ついとほれ どもふでおよば みなればよろづ大やけ かかなばひとひもながらふべしともおぼされずほ 136 5 は のぎしきおもひやるべし御かどきさいのみやも女 0 0 めしいれつくひそは のことは御 名さ ろ はべの くろもうせてけふはいといこもり 人よりげにものみぐるまも御こくろつくしてひ すほどは あ めでたて まつるべき ことをの 5 づら よこぞりてのくしるにつけても御心は つらなにく へなき身は」などひとりごち給ふ」まつ あふひをもてあそびけるを御ら んしくてつねのとしのまつりのころな しきみ あまりこくろの きよとは ねばえかきつくさずみやはか うたに か ものなりけりそのときの おはしてはかなしごとにてもの け ながめよるは B ~しくてきよらをつくし給 お てか ぼ しまずた Ũ みだ なくさまむけ め ひけ L 3 10 け みこのみたまふ 此 ねをのみなきつ るをかくさだま いをり \$2 おは どか ことの Ĺ んじて < しますに さほ 0 2 7 うりの めぎ はせ 3 かっ から お あ 御 3 ぼ は < 5

しのびすぐせしをいまは < まる やしきさまにおもひなげかじとおもほ まくでもかうしの づ などがおもふ ね カジ こくろもゆ 12 0 カジ てよとくもにひとりなが ちにもをさく け もかうても いといねなきがちなりめのともい もなく なくにとおも れが ばい おもひついくるに ぐしきまでなり給 むこくろのほどもあさましくとりかくすもの ほどをも れまさる 御もの思ひ のび給 72 ちな とも 10 かっ い \$2 Te おは 0 ふことなれ ばを はもる U. カジ カジ ね らんこくろの 分 な ば まわりたまはず御さとにのみ 12 13 か にいまは 12 72 U n h なが げ しくなが あはれとおぼして草の 水の 過 3 御すくせならばとおもひよ 身もいとうらめ なは i, ば 7 よ しつるをいまとなりて人 1= や いはじとね 0 カコ め な かっ つくほかざまの 南 月ごろもすぎぬ」 るる かっ めがちにてめのとじ cp な あ ほどさへは いること 5 L カコ かをおぼ ろに 御こくろとは しく 0 とあさましくと んじか はは B 6 しめ しつ し給 T かっ b ほ ×2 b 3 しく かっ やは しる 30 L 包 りも くほ いう 85 な わ は よ b 御 あ あ

か

にもや侍らんしばしこくろみ侍りてさはやぎ侍んを たみつくいとくるしうし侍ればいとをりあしきやう こきおほせごとをたびくしいなび侍るもかたじけな もほしなげきつく右のおといのかしづき給ふひめぎ り給へど御めをだにかけたまはずいかにせましとお 人などにも ろなぐさむかたもありなんとおぼせば御みやづかへ えなりなどたれも<< おもひなげくにみかどきさい 給ふにこそこれもかく御ひとりずみにておはするゆ りなんともかうもおほせに れどこのころはなどやらむれいならずむねをなん なるきちしやうてん女なりともこの心やめんことは とのたまはせければいといおもほしみだれつくいか きよしおほせごとありみやへも御つかひありてかく おといにも御けしきたまはりいそぎまわらせ給ふべ きこしめしてかくる人もおはせねぼ御心もおのづか みのよのきこえありてあてにうつくしきをうへにも たくやあらましとおもほせばいとうるさくてかし るくわざなれ おろかならぬをえりいだしつくたてまつ のみ御おもひに ばこれなんいとよか したがひ侍んをあつきほ ていかに もして御こく るべきと た尋ね給

らあくが

まひとりふたりくはへさせ給ふべしとてかなたこな ざきもなかりしが上らうにようぼうになるべき人い かく~うちまいりなどいへどか どのひめぎみひやうぶ卿のみやへまるらせ給 もうちなきてこのごろさる人の のふものもなきこくちしてものあはれなるに さびしくあれたるのきのいたまもる月のほ いほりにはおはしまさでひさしうなるまくいとも き人までもひまなきさまなり」まことやかのくさ ちにもそのころはたいおといの御 むすめなどたづねいだしつくくはへ給ふみやこのう どはせ給ふにかずといのふらぬはまたさるべ ぐれたるをえりとくのへてぞひめぎみの御かたへつ がなかをえりいだしかたちありさまこくろば たらずにようばうたちわらはしもづかひまで みなりさまべくの御てうどそうぞくなどはい ほせごとによろこびたまひつくた こくろゆかぬさまなり」おといにはかたじけなきお どはまづこくろやすくてと御つか ふに御いたはしくともこのひめぎみをい かた へる御ひ ひか いそぎにい いこの りしは右 へし給 御 ゆきは か め 1= ちめ へのす あま ふはな き人の ふにも うて ر ق ا

なが たえ 此 じうなどの 身 ち h 給ふも 3 み D らめとこくろやすくおも おぼさばこそ御すぐせにうちまかせても見たてまつ はづかしくまほ をゆ ちうぜうどの 5 との なしけ をも人にしられずしてつくみ かれはてたまへばい ばか ふべ Z. は いとわ かっ しますとても をまた げ ほ 3 1 3 どは めにてこうた べはも 0 かっ びしかりなんかひなくともわれかく もまざることも 1 なげきにしづませたてまつるべ もは もえやらずめのとも もむ もい るる P ねほどの ともか たま じめ 7 Ł あさい か かっ は はずきたの rj 5 たに くも見たてまつりあ とうふか かっ ひ侍 つか はずつねにうち ひ 7 へるにやあら ふ見なる あやしきみのきえ まさかなるをまちきこえ なることくもこくろもえ Ĺ かですぐいた 72 お カゞ あ りしをこのごろはうち もは h のやうにまめや い しつ かっ たまふさまなれ かっ な たにても んや した きみの へ人に 10 んさるは かか お ちな まは あ 3 だに め は ほ め るさ b お n h な 0 す 0 h き御 んの 12 5 E は 大 は かっ かっ かに E は せ な T ば 0 9 3

事をめ とは ぼゆ より ては けふ 八 2 わ くはへつくこの にかぎりのさまになりにけりひめぎみ さゆふねんじつくおもひなげくげにやみ 見なしたてまつらまほ ひわびてはかぐくしくもえおもひたくずた ちなきたまふさまいとあは もいとみくるしければと ひとのなごりをしむやうにや人に とはおぼせどおもひた ほかに ほ を見 が身にか h 月 n か カコ n くとまち過 ぜうなれ さし 3 はせんい なくぞなり ばじゅうにい いならずなやみわたりしがその 0 かっ とも h B あら には 5 45 とか ば でくはいとくるしうはづ 倒 んと 人さ つそやも のちにか ましてさや な まわりさだまりなん た 0 るも とね たい h しく へうちすてなば な とじといは しくて おは いつまでこうこく h よ おなじさまに かくものをもい ごごろ うの ひし御 3 T n か かっ 专 な もや みに \$2 は あ もきん また ばさま みやづか か むもまた 寸 もは ね ひ 1 かっ かっ をわれ お なきし もなほ 月すぐる 0 か どひ きつ はで るまじ な月 L 100 とけに C t 10 かっ か づみ なげ b なくな 0) Ò 0 12 0 12 5 W ほ 0) 10 12 ò な お 給 < < 3 5 h お

どふをさまべくなぐさめつくのちのわざなどくかく なんふかきこうなるべしなどいふくしもいたうくる のきやうにはこの御事のやすきことをおもひたまひ われなくなりたりともかならずなげきたまはでおや さんことをおもふによみぢもいとやすかるまじきを どかくては御いのちもたえはてたまは まぐにこしらへつくこがるくことわりすぎて侍れ らもくたげずゆ水をだに御らんじいれのをじょうさ とりまかなひ君はそのまくうちふしてなかくしまく かなしさはやるかたなけれどかくひめ君のおぼしま のうちたとへむかたなしぎょうもせんかたなきなき りぬともしかべ~の人かたらひつ~いだしたてまつ これさへかううちすてばなにくかけてかとまらんい もやすからじとさへいひ侍りしをなどいへばながら まくらをもときぐしはもたげさせたまうて御こくろ たすけられてこそけふまでもながらへぬるをいまは つかせ給へなき人も御事こそおもひなげきてよみぢ へてかひなき身とはかねてもおもひしかどこの人に がりてつい いかにしてこの御ためたひらかにおは にはかなくなりぬひめきみの御こくろ んをせめて御 しま 侍るにぞはかなきいのちさへいまはいとほしう侍 がらへ侍りなばはかなきねんぶつのつとめなりとも みぢのさわりにもとおほえ侍ればをしからぬ にみたてまつれと返々お のきざみまでもたれくしにも御ためよかるべきさま ひ待りしのちのよのつとめをさへおこたりていまは うざまにおもひみだれつくつねはいとかなしとおも りなれどいまはのときまでも御うへをこそとざまか ばえねどこくろおこしてかくおぼしなげくはことは たまはずことわりにいとかなしくなか なほなきしづみつくはかなきくだものをだにみ でにわれもしぬるわざもがなとこそねんずるをとて なばこれよりまさるうきめにやあひなんをこのつい のちのほどぞかくつたなき身のおもはずに もなくしいさめたてまつりげにこのやみにまよひ もほし左づみたるいとたいべくしきわざなりとわ かなるくどくにもまさりなんとおぼえ侍るをか のやみをもとなへさせたまはいこの人のために るをましてきみゆるこそおもひみだれたまふこくろ おこたらずこの人のつみかろむわざをとなむお

もひたまひしは

なかくしよ

身もな

くものもお

ながらへ

L

b

お

もかひんしきものにてこの御ためといはいみをす などきとぶらひてはしかが、さいせうどのにもけし れとりたて、おもひうしろむる人もなければかうて そとざまかうざまにはぐくみてまつりしをいまはた こなひのみしておはしけるをめのとのありしほどこ むこくちしてなみ をものおもふやどにはこがらしめいていとい身に ぎのはすぐるかぜの やへむぐらしてとぢたれどあきはたづねいりつくを たげつくおこなひ給ふにもかなしさはつきやらぬに りてしめやかなる夕ぐれなどには御まくらすこしも たまはんことをおぼせばこれにぞ御みくすこしとま はぐくみたてまつら てくもとおもへどわれもわかき人なればかうながら あまるこくちすればいといものがなしくあけくれお いすぐい給ふべきとめのとのした かにもせん ふみもをりくしありしをこの頃はたえて ろが だのつゆはしげきくさばにもお もほしたてかしなどいへばじゃう は かたなきをかのちうぜうどのも おともほかにはまだあきな んことはうしろみきこゆる人な りは なけれどまざるくことあ L か りし人 12 35 2

わた そおのづからみるとも見んをこれは こといなびばつれなき人をまちが tz ゆくすゑをつくべつおもは くひとが一のとりなしついこいろに ぬる思ひのまぎれにはせめてなずらへならん人をこ のほどをもつひにもらさずおとなしの ものおもひそひつくむかしよりおもひしめ こくろのほどもはづかしくてさらばさもやとの おとづれたまはぬをいつまでたのみきこえたまはん まふをお かりこそか あらねどかのむぐらのやどもおもほ るわざもがなとおもほすにはほだしといふまでには にぞやなどおぼせばいといながめがちにてこし たち給ふ」みやは心いそぎちかふなるほどいとい御 ふにかの人にいひかよはせてみやづかひにぞおもひ 人にまじはらんことはくづかしく の御もの お り給ふにいとい人げもなくものさび もは おもひにこのごろはうちたえあらし ほ の御かた したちなんやとすくむ しいでくい しろとてもは とこひしけ いりてつひに かなし 12 づ ほにやとじいう か かし いとことべ 出 は四とき たきにてやみ かっ ここれ は は

5

n

のあは

しう月 へどさすが

おし

またさらぬわかうどなどとぼしびのもとにきぬども ふるましに もとにをとこのこゑにてしはぶき侍るはおに、やあ などたいそれかとおもふばかりいとよくおぼえてあ げにひうちなが くてかく人げなきあたりにはなにをとらんとておに いとよるわらはのおどろきてあれき、給へつまどの づくりたまへどつきごろのうらめしさにやき、いれ なりきぬどものいそぐにやあらんものいふ人もなく りしよりは きみはおくのかたによりふしつくいとものおもはし ひきちらしねふちいさきわらはのいとよりつくゐる つまどのすこしあきたるよりのぞきたまへばじょう もこわづくりつくうちたくき給へばいまぞきくつけ にやとしかりてなほきぬをぬふをにく、おぼせば又 もまうでん物おぢしならひてあらぬこともきこゆ がほにてじゃうもぬひものにこくろいりてをるに めやかなるにたいいまおはしたるさまにうちこわ とおそろしとてじゃうにとりつくをいとにく なほあれたるこくちしてさしいるよりも おもやせてらうたげなるさまいとあは めて かうしみなおろしこめて音もせねば るたるかほかたちかみのか<br />
り 3 n るべしかう御ら をかへすべくおもほせばいまよりいとむ わたしたてまつらんそのほどはこくろならずとたゆ きみちのほどなればおもふかひなきよなくしもあま ひなし給ふらんふかうしのぶ事ある身にこそは かたのよの人のやうにこくろあさきかたにもやおも 月ごろとだえおきしさへいとくやしう心ふかうちぎ ありきなどもならじをそのほどこひしかりなん ふはこの御 ることありともかならずうらみたまふななどのたま たあるをいざたまへこくろやすきかくれがもとめて ならずなやむことありていづちも~~とだえ とおぼせばさまべくのたまひなぐさめ月ごろはれい しらでひさしうとだえけるをうらめしうおもふにや をれふしたるさまあはれにかくるこくろのほどをば らむるさまにもみえずうちそばみつくよろづおもひ つもりをもとざまかうざまかたらひ給 やりつくみなすべり がほにてじゃうもたつのこる人々もきぬどもは ついくるになみだよりいづべきことのはもろくし 事さだまりたまは んじてはなか ねればいとなつか い御こ\ろのま\に御 ( あはれもまされば

3

ね いた きな

ぐしけづりよろづとりまかなふほどきみはい 給 カジ は おもひしことなれどたれもく一にはか をいそぎいでたち給へといそが ほどにきてけふなんひよろしとてい h きふしたるをきみのうらみのつきせぬにやとことは 2 3 0 のとだえをみながら又こりずまにこのことのは とかなしく又かうふかき御ちざりをのたまふにあと どとさだめ つくあ へば なとお 1 だにそばちつくい かっ にかなしともなか みがほにもえあらじをなどさまべくおもひついく あ なくかくれなんもいとほしくさりとてこのごろ けが カコ は はらぬちぎりばかりをかへすべくかた ぼせどかうかよはんほどはとふかくつくみ れにて御なか しか め たのほ をも夕つかたおはしまさせんとの給ふ ふしたるに ばいかでかまちつけむとおもふにい どか なりてこのほどむも どにいで給ふ」なごりもいとかな らへだにはか くいは 0 くしもあらはしてしらせてし b ありし でたつことも一日二日 んか なか したつればか **がいしうせでそむ** たなければた づれ だちのひ 32 なるやうにこ おは E お とか は ね たくる 御御 ても しま 50 をた 0 10 な な ほ

ばか づか ほど君はかくかりそめのすまひなれどとし月と どなくくれが ひぬれ どきかへさせたてまつり御ぐしか れどさらぬていにまぎらはしつくよろづじゃうぞか づは わ ごりをしけれ ひがひしくとりまかなひてゆふべ だまりたることなればいまさらおもふともか ちのひとくるまなどゐてきたりぬ いとかなしくてほろくしとなきぬ ぬるをみたてまつるじょうが心のほどの なきそでもくちぬべきをとかうまざらは きことならずとね たゆくするおもひついけてかなしけれ しくち、は、おはしまさましか ひたちなんやなどめのとだにあらばとよろ 12 しいし りな 2 へのおはしまさばとおもふが ばなほきよらにうつくしく けれどいでぬれば 32 n ばとばか 礼 たになりぬ ばふるさとのこと 0 C h いうの じかへせどあまるな りなが tr は御 御 3 めて ふみ みに むか ばか ちし あれ は いでもやらね D あ お きなでなどつくろ つきせずか やい 人に きの はす ひし るる こてか ばうるさ どかうまでさ でた ひな して みだ かっ カコ かい るを見 御ぞともな 1; 13 ち た は ほど 3 か お 心 な 2 1: 3 b

3. けれどしらせたてまつらんことにもあらねばこの御 はあすまでまつべき身かはとおぼすにもくのが けなくかき給ふしもいというつくしみ給ふところに はかならずもうでんをこよひおこたりぬ 御まへの御あそびありていとまありがたければあす どみせたてまつれ しまさむと御ふみもいまくでおこたりしをには へすくちをしけれど御心あわたいしきほどにやしど みのは しにことばはなくて ばさまべ おほくてこよひも るかへすか なし かに お

まほしくしつらひて給ひければそれにぞいり給 はいときよらなるたまのうてなにさまべくきよらを ければこくろに とおもふほどに御くるまさしよせてくれぬといそぎ じろふべきこくちもしたまはねどつぼねなどもあら こつくさの庵 り給ふあまたのなかにもありが れはて、御との つくしたるに人々おほくつどひたればはづかしくま いまはとてたれかはとはんあれはてくわれたにか つかひにやりぬすこしゆきすぎぬらん を」とか もあらずいでたまふ」おはしつきて あぶらなどいだしてぞ御まへにまい いておしつくみたまふをじ たくいとうつくしく ふく

侍らずこくにおはしたるひとぐ~はなにまい n あづけおき給 やいひてきの してあはせたまへといへばさやうの人もわれ からずこくにじょうのきみといふ人あらんよびいだ んはやくいでたまへとあらくしくぞいふにくる きあたりにくれてはなどおはしぬるぞかどさし やとくら人下やのかたにまはりつ、見ありきけれ やかにたくかせたまへどおともせずいかなることに いづくよりいらせたまふべきかたもなきましのび るくまもいと待どはなることちして夕つかた へすがへす御らんじてもいとこくろもとなければ れば御らんずるにこくろえぬことにもあるかなとか きみとてさぶらひ給ふ」みやは御あそびはてくあか のに あやしきしもべのいでくいかなるひとぞかく人もな つきがたいでたまふにこの御かへりくら人たてまつ よしづきた ればれいの人げもなくかうしはみなおろしこめ おぼしてなつかしうめしまつはしつくあせちの n ふがちかきほどゐなかびとの此屋 ふみないでたち給うてこのやは ばきた のか たもひめぎみもうれ りとか われ は おは、

ひとり侍るとかやうけたまはりぬそのほかは

こればかりこそありしをあまりものおもひのみだれ じをふ としりなばたとへうらみふかくともかくまではあら ざまおもほしい づるにひとひ たづねいり しをりも がらも らずば此ほどひまにいかなるすきものかみつ ばわがとだえをうらみつくほかにうつろひぬるかさ かっ であとはかなくなるべきさまにもみえざりしが たまふべきにしもあらねばなくくしいで給ふみちす らばかりむつまじきかたみにてあれどこくにとまり こくらとりはらひつくつねによりわけんまきのはし もなくあれたるかうしはなしつくいりてみたまへど なりぬ てよべ ることもしらずといふにむねうちさわぎつくしかじ 、とけ かくしつやなどやすからずおぼせどあとかたなく りせめてこひ の御 いか しうおもふらんけしきとは見えながらか ばいづくをたよりにもとめたまふべきやう まりこくろふかきもかへりて身のあたな くしのびぬ なる事にかと人やりならずかなしくさま かへしもいまぞおもほしあたりつくさら ばいかなることにかとこくろもとなく しき人の るながくしをまことくおもひ 御か たみともお ぼえむは けてと われ うま h

・上脱力 ・うこまいりなどいへどかくる ことはな かりけ こくちしてとのにかへりたまうても御とのごもり しことならねばいとうるさくてれい ずおぼさるくにこの御ことも御こくろと 御まいりのひにてきやうぢうひゃきのくしるこ うれしきあそびがたきとおぼしぬればなまく いとうつくしうかいしらべたまふにひめぎみ がたちやうだいも人にはまさりてことびはのみ ぜちのきみはなれゆくまくにこくろざまより どのひめぎみまいりたまふもけふ ながめあかし給うていといさしそへたる御ものおも にかうなしつることよとおぼせばいといかきくらす せ給ふをきさいのみやよりもい ひとべくのそうぞくくるまなどまでめつらしき見も のうちはさまが~おもひいづることおほ もれむよりはとこくろやすきありさまなれどこ んだちめなどのかけめにてかすかなるすまひに ひにひるまなう なげき給ふに 八月にもなりぬ」おと のなりけりみやはさまべくの御ものおもひのつき ぬやうにもて なしつくみやづかひ給ふ」八月十 ぬたがひにきよらをつくし給ふ事かぎりなし いかにく あすのほどに のな 17 うづ とに 日ぞ 3 め

御つか しいでつくかきくらすこくちすれどみかどきさいの どせめてかのくさのいほりほどにもあらばなどおぼ げにさだかにはあらねど見し人にたがふところなけ どさまんへの御 はなけれどおのづからなぐさむかたもあるにやひる どの事どもはなか~~ふでおよばねばみなもらし うかたらはせ給ふいとめでたき御あはひなりそのほ 御こくろづくしのほどをあはれにおぼしてなつか みやも御こくろづくしおといもいかにかといまより ねどこれにつけてもこひしき人の御ことはまづおぼ きてほそやかにそびやかなるかたちはけしうは にもとてもお とおぼさむをなどうれへ侍ればしぶくしいらせ給ふ にもきこしめさばあまり御心のまくなる御ふるまひ などもをりくしはわたらせ給うてごうちへんつきな おもほしなげくとかねてもきこしめさばさまべくの つ」かくてすぎ ゆくほど御こく ろのこれにうつると 御すがたをつくべくとみるにかのよなくの ひあり御めのとだちもときたがひ侍るをうち らせ給ふにまだいときびわにあいぎやうづ もふやうなるかたちには 遊 びどもあれ ば あぜちのきみは あらざんめ 月か みや あら L n か RU ば

ばたびくの御ふみもていにたる御ずるじんも御さ ふもうちへまいらせ給ふとていでさせ給ふを見侍れ かやいひしひとこくにさぶらひてことさらみやの も侍りかのたび こゑけはひやうだいみなその人なればあまり心ひと ば見つけられたてまつらんときいかいはせんあ ましけんやといといはづかしくかなしくてさも きおふとていそがはしげなるさまにてさふらひしは めのとごなり人もおろかならずおもふさまなりきの あるにやとおもふに見なる、まくには はたえぬみなりけりとおもふにはれい とがめんかとこれもくるしうとてもかくてもおも たてまつらじとすまふを人もいかなることにかとみ しければみやおはします時はかしこうすべりつく見 たてまつらんいとはづかしき事にもといまさらくる かなくきかれんとこそ思ひしをかくるさまにて かのちうじやうばかりの御なにてみやにてぞおはし つにおもふもこくろもとなくてじょうにしか たりたまへばさればよわれもいとふしぎなる事ど よにはかくるまでか く〜の御ともにさふらひしくら人と よひ たる人に似 もの のなみだぞま 12 る

ふし ひやかにうちわらひてそのかたはらに てすみをいとこうね どかきすさみたるなかにませにきくなどかきたまう てうちとけつく やもけさよりうちにおは てこれはいとわろしかしとてもたせたまへるふでに こばれ 御てならひゑなどかきすさみ給うてあせちのき る」あ お なじ 72 るひ か は みに ぶれ らせたま るつか あそび給 かくせ給ふさまべくのゑな しましぬとて人々御まへに ない へばあぜちのきみにほ としめやかにてみ ふひめぎみ は より

事どもくり 人のことふとおぼしいでつくこひしければすぎに やうのうしろ かくすべきひまさへなくみなすべりねるにひめぎみ みやはおともなくいらせ給ふに御すいりなどもとり るをひめざみもほうゑみ給ひつ、御らんずをりふし ぜちのきみは人よりげにいたうくるしくて御きち つ霜もおきあへぬものをしらきくの し見やり ろをみ か しに より すらん」といと ちひさく かき つけ侍 L 南 すべ ひてかの ふぎをまさぐりつくより おもほ りいでぬ しいでつくよりふさせたま あとはか る E なく見な V かっ はや 10 3 お し給 ぼ くもう たまふ L 2 け

< この人をさだかに見ばやと御こくろいられすれどの ち し給へばこのきくは御まへなん らひしをこのゑはたれがくきた くのうたかきたるふではたいいまおもほ にほひやかなりみやつくづくと御ら め 3 にはいとさしすぎたりとはぢらひおはする たをかきそへたまひ しとてかきけさせ給 ひなばいとおもしろく ちそばみおはするをちひさきわらは なたれぐならんなどことなしひにとは ぬがいとこ くろもとなくてさまべくなる のくさのいほりとかきすてたるにまがふべうも し御てならひのすいりのしたよりい 2 給 の大なごんのことかやほのきく づく つくかたはらそむきたまふさまい 1-かいはせんまことにゆめのやうなら ふにひめぎみは 御 おもほしまはすにげに すいり Ó あきたるひきよせさせ つとかたりきこゆ いとはづかしくてか へばわびてあぜちのきみこのう われもかきて見せなんとす かっ 0 か るぞあり くせた 人 000 とよし んずるにしらぎ でたるをとり 0 tu 御 たま さるか んかし < せ給 まへに ほ みやは 人なり ひめ うち C へどう

らさせ合ふどかなるやうにもてなしつくそのひもそなたにてく

その とはあぜちのきみはいとよけれとてめしいでければ かこくらのうちにざへあるかぎりめ みにもそくのか れいとつれぐしなるにとて御こといもめしてひめぎ けむと、ひあきらめ給ふべき人まもなきにある夕ぐ かき ならし給ふ やうだいか ばすこしるざりいでつく御まへのしらべにあはせて せたまへとひめぎみにそくのかしたまへばそうのこ づからもびはをいとおもしろうしらべ給ひつくたれ おぼしめしついくれどいかなることにかうなり給ひ いでたるつまおとけだかうじやうずめきてたそがれ しきまでにほひやかにらうたげなるにほ しをりよりはなほまさりつくひめぎみの つかしきありさまか んぜぬほどにいというつくしうにほひくはくりてな いとつくましうくるしけれどいなぶべきやうなけれ あらずその人なればあはれにもつらうもさまぐ~に くちは御心をつけて御らんずるにまがふべくも し給うてきんひかせたてまつり御み のよなく一の月かげ しらつき ひさしう御ら しいだしてひ 御ためくる に御らんぜ のかにひき か

させ給ひてとなどおもほしいでつくときのたど~~しかりしことなどおもほしいでつくかさらすこくちしたまへばせいがいはを一かへりかきくらすこくちしたまへばせいがいはを一かへりかきくらすこくちしたまへばせいがいはを一かへりどきのたど~~しかりしことなどおもほしいでつくどきのたど~~しかりしことなどおもほしいでつく

ころひくとは もひけるをかうおぼえなき事にかけとめられ ろづきいかなるみやつか はくにもをさなくよりは とてはいとつらうなさけなき身にもありける哉ちく をとかうまぎらはしてすべりいでぬつぼねにかへ くてふかうつくみぬれどあまるなみだのすくみぬ さまながらめのとのとかうとりたてつくすこしこく ふにふと見つけてさればよとい にてつきを御らんずるさまにてしりめに見おこせ給 月を見るかな」ちぎりありやと 御ひとりごとの のよをかけてたのみのたまはせしにかくづらひつく てうちふしつくなくくつくべくとおもふにもさり いまはとて草のいほりはあかせともおなし雲井に なかりしかどさるはこくろふかうのち へに なれ もおもひたちなんとお ていとか とかな なしくあらぬ づかか h

12 j 身のおきどころさへなきこくちしてかなしとも びわびてたがひのこくろのうちもあきらめきこえば とだえをおもひすてつるとおもふに お やみなんをまたか ひやは かうつくみたまひしかばありしものおもひのほど ぼ りてか くるうきめにもあひぬることよさらぬ御名が なとおもひなげきしにこくろよわくとまりてまた もひに どなくうちすてざまなりしにこそめのともか ふかきゆゑかうもなしつることよい しともなか **\るまじはりには** あとたえなば たばかられけるこくろあさくするはみえぬく おもふら けめに しめすに 南 てかうな りしそのきざみわれもはかなくなるわざも くる御ことのはをきくことよなどおもふに てこそはやう亡せに んなどおぼ てもの あまり御こくろふかく御なをもかへて く い Ď ſγ かに n おもひくはへんよりなど人にすく **\るところにてめぐりあひたてま** は 3 30 せば もひたくじをわ にやわれとしりなば んかたなし」みやはつく なりにけんとおもほすにても かひなくとも しかな よりてなまく しさのよにたぐ かに 12 いまひとた あまりこく 心个 なか くし るし はづ 1= 1 3 1

とあ きた ねも もせぬにきく人もなしおくのかたにふしたるひ ば人みなふ うも りはなれむとしたまひしかどくちぬきえんにてお の事どものたまはせうらめ づくと身の をしのびやかにかむはこれぞか にいり給ひことさらになよくか ほのかに見ゆ あきておくのかたにともしびのきえがてになりた びてかの人のつぼねにいらせ給うてたちきくたまへ ふけぬ御とのごもりぬひとがくもしづまり なたにおはしましぬこなたにもとかくするほどよ わ るんふたぎすべきをしうども御らん やとやるかたなうおもほ あてにはひよりたまふきみは けむほどまちどほなら いらぬさまにてときべくうちみじろぎつくは んのろうについきたるつきやまのかた るをわすれ給ひぬこよひしんでんにて御らんじ しぬ をうちのけ のりさまをおもひて<br />
なきふしたる るにびやうぶをつたひつ るにやおともせぬにつまどはほ 給 ひてよりふ んに御 しなられ しうもおもひすてつ きね とのごもり の人ならんか なる御衣な n じあ ひきか 礼 しつくこし しし ばこのころに はすべきこ づ 12 より ね Va. 护 ば きつく ば な 12 かっ

お

よりけ ころえねさまにもてなしつくこはいかなる事に やうなりゆ ひそめてしよりはや 年つきといふばかりにや、やう れ人なればかくるうちつけわざし給ふにやとては ろきつくみやにておばしまさんとは ろふほどじゃうもあとにふしぬるがめうちさめ きぬをひきかづきつくひきいりぬるをとかくひきし おぼしめしたがへさせたまうにこそ侍らめとてなほ おぼえなきことに侍れば御いらへもいかいきこえん りたまはずなくくうらみ給へどいかなることくも こよひもかろうじてかうまでもたどりよりしをいま ちかの さへなさけなきもてなしにもあるかなといひもえや るうれしさなれどかう見るめのちぎりばかりに はずなるさまにてめぐりあひにしこそいふにもあ もほしたちつらめどたまさかにてもふかきこと もあまりよの ればしのびやかにわらはせ給ひつくかうおも ならずうらみ しほがまおもひこがれんもびんなきわざなり たるさまにもてなすこそうたておぼゆれ くをけはひまでもしるからん もいできぬ なかをふかうつくみ ればこそかくるかた お もひなが もの しゆゑにぞ をあま かた らこ おど ては 3 V b とくるし カゞ

し」かくてすぎゆくほどふゆにもなりぬあまり 侍らずとさらにうけひかねどくら人じょうをたば しのびて御ふみあれどかくる御ふみたまはせん そのくちはかのくら人にあないしらせつくたび だにせずじいうこくにはかくる事きかせたまふべき かしよりなほおろかならぬをまたかくる人まもあり ことなしひにひとふでなどかき給ふことも りばかりはきこえさせ給へいかにあらが いだいしき御こと、人のみをとが 御おぼえは侍らの事ながらいづれ うつらきになかく きえい つきせぬ事どもをくりかへしのた ともそこにはなどせいしとめざりけむちぎりありて しき事なれみづからこそかくるか てもかくれなき御事なればとせむればたまさかには かうめぐりあひにしはまことに深きすくせなれ ろのほどを見しりたまはざりしこそあまりわか いだしてさまべーにこしとらへつくせ たかんなるをすこしはあひおもひたまへかしなど がればよふかきほどに るこくちしてみじろぎ めたてまつらんこ のみちにもいとた たにお いでさせ まへどはづ もほ めて御 せ給ふ たまふ 人も かっ

はとか さの か にことづてなどしておはしますこともあ た ほ げきたまふいとことわりなりみやも こそあ はなぐさむやとてこそこのうきにもまじらひしをか はいとくるしうくきつらきみのほどの ふねのきみなどのやうにわれ 身よりほ のけしきをみたまふ ふとおぼ の身のはやくきえなばかゝるうきめは見まじをとな とうらめ る事に h ひしづむまじきをい かうくちいで たまひて よりはい て人の < ほ るに らめいまは此御なさけも何かはせんたい おもひなげき給ふ てい せど御まへなどにてもをり かにうきもの りにてたまさ しくとてもの も御 ひさわぐひともあるをあぜち おもひよるまじきよなどは外 かなるうきなをながさむとおもへばい けしきやしるか 1-な か あ はいといかなしくとにか かにもまち かれぬすくせならばありしく どはゆ にも らじ にとしも してし とは水のそこにもえお とつらけれどか きあ りけ 0 5 カコ ا ا けた ñ ふかうつくみ給 h 〈 御らんずる 12 るくすりもが かっ おもひも 12 n のみ 2 あはれに のきみも人 てまつりて b b はら ばをんな n のうき あ あ くに つゆ 若 みや 1-りき \$2 T わ わ

それ ずほろくしとなき給ふさまいか まへとのたまふいとおそろしくて御 1-寸 けるよなどお さればこそか ぐらきやうに人 はせぬるとひめぎみ かくもあるまじきをわれ ことのさもあ ろぐるしければいよく りにしをかならず ければれいのふかしておはしつくかくとも 0 き身にこそあ はまさり きことなり此 いでたまふに女つらく つふかくか おもひもい とほしきを るくまなく もいとくる 3 ~ もか な h くしておきてこくろやすくみん なは もは らば おぼ らん 30 たびいなぶとも又さまがくにうきこと くる事ありしをことなし しさりとて あらはれて はなか 々のこのごろかずし 5 にい n かっ n 10 しけ 人にけしき見えでそのこくろ 身に んも 0 1= かっ 12 かっ to 30 32 しあ ぼし あさ ふか ば にもしてこく L 身のほどには はいかに とおもふに ひそかに ぬすみ いだし カコ てし うなが n か 0 うかく なむとね ばい にお たまは らずち おもふとも心 3 C, かっ すとも いらへもきこえ かのくたまひ をの ばか ひにもてな ぎり 5 人 とは क्र ずれ 給ひ カラ b つひには とおぼ おもひよ 罪 n Te 12 3. ろ あ

づちへもか ばじいういでくこくにいとおそろしきことありてえ ちといひあはすべきことあれば二人に一人いそぎお わすれずをりくしとぶらひたてまつるおい人ふうふ 給ひしところさが うやうおもひいでくむかしちく大なごんどのれうじ ださしむかひなくよりほかのことなしからうじてや どたのもし人とてもいまはなきをいか ひさへそひにて侍ればかうおもほすもことわりなれ き世にもすくめたてまつりしを又かくる御ものおも しくとてもかくても御ためよからんとてこそこのう きてこのほどの御ありさまをみたてまつればいたは ふかきやまにもとぢこもりのちのよをねが ありしをおもひいでくそのもとへひとをつかは おもふこくろのほどをかたり給へばじゃうもうちな きをなくくしいうにはじめよりのたまはせしさま おぼせどこくろひとつにはおもひたつべきやうもな にいひか はしますまじきことなんあるをこよひのほどにい はすべきたのもし人もなきをともかくも くしたてまつるべくおもふをそこよりほ ひやりしかばおきなぞいそぎまいりしか のにありしがそのさと人むかしを いはせんとた はいやと して までもおもひたちしをかならず人にしらせ給ふなと は もいとくるしきにやうくすかしたてまつりてか らせ給うてしなばやとなげかせ給ふが みえさせ給ふをかくる御 かへもへのうくおぼしてともすれば ことをかたりついけてとかくならはね御身にみやづ いひければ よくいひもてゆく事

たがひのことわりもいひやらずきくもえずさしつど らへつくしよやのころさがに 人なかりけり」かのおきなかひだくしくよろづこし まにとりまかなひつくじょうくちつれていでたてま ものひるよりとりした、めそこら見ぐるしからぬ どきのたどくしきほどにさしよせ りしところにてやつれたるくるまか ひてぞまづなきけりとばかりありてじゃうよろづの つくくるまもわれとひきいれつくおろしたてまつり りて女ぼうにしかん~とかたりければはしよりいで つれどなにのあやめもみわかぬほどなりしかばしる からひたまへい おきなもうちなきてきやうにしる人の かっ にもく一人にしらせぬさまに つき ぬおき なまづい n りつくたそが n ば よろづ

などもありしをいといくるしが

みたてまつ

う

もの お

もひとはしらできい

しほた

れがちに

たれ このごろ人の なげ 人をさいなみたづねそれとまことにしらぬ事なれば ひければつばねにもをりくしまうで給ひてのこれ しかばかくることにてみやなげたまひけむさらずば その御うたが こくろうつりもまことにてさわがし給ひけんとひめ そとてつきせずなく」みやには此人みえたまは んのきみときこえしはなかにした ぎみもおぼ れどあとか なることくてかのふるさとにも人をやりてたづね いかなることかとさわぎつくつぼねにのこりたる人 ちだにお おそろしきちかごとをしつくあきらめきこゆふしぎ ふべきか なくく か 8/ めして せ給ふ かとおぼす御げしきにてうちくしには くてみたてまつるはまことに夢のやうにこ はせばなどてか いへばふたりのひともうちなきて御おやだ たなければこのごろ人のいひしみやの 御けしきつ し人々もさいひけれどみやもこのことき とかくい ひもなしいとくしるしぎなるわざな たらしきも などたれいふともなけれどきこゆ ひしをい ねならずいかに なりにけ のにおもひ給ふにちうなご くる御物おもひにしづみ給 たうくるしげに しく なれむ つび給 見え れば ナこ 日は 3 5 3 け j 御

人々のなげくもなぐさめわれも又かうくせ すによろづうとましくおもかげにこひしきことはま しのびてよびとりつくかくい け カコ ろぬるく又かくもまどはしけるよとおぼすに やうたえぬすくせにてかうめぐりあひ はでおもひなげき給ふ」みやはいとくちをしく どの人のけしきにてかうはおもひたちたまひ しをみいで給うていとい をわけそ見るへき」とかたかん なにてかきつ ざうしのつまにいとちひさくもの ~. れにはすこしもほのめかしたまはでなど人に りてみたまへばその人のてに ることをつきせずなげき給 さり給へ 5 ればこのほどの きところぐったづねきかせ給へどしるべきやうな たなきなげきせん とほしくいかなるやまぢにかまよひ給 なからへはなほもうき身は ば御もの 御 おもひもかさなるこくちし け かたなしくら人に しきに あはれ ふこ たまふこともなどおぼ しら雲の T よりおといのもとより にか 0 ねに かか なし か れ より しをわ 八 は < I 3. 12 た たるをよ て御 け給 力; けんと つや 11

とりねがちのみにてひめざみへもうときをりく

兵部卿物語

にのみこくろをいれつくあけくれきやうよみねんぶ

てまつるいとあはれなりそのくちはいといおこなひ

つ申つくいとのどかにてあかしくらしたまふにみや

みななみだにくれつくものもおぼえずじょうもおな にもいはずおきなふたりこども、ありしほどのもの うじつく御ぐしおろしたてまつるほどじゃうはさら くわんぶつのひぞひそかにこくろやすきひじりしや まざまうちくどきのたまふもことわりにいとほしく んとこの頃はいといしきりにのたまはするをおきな のまくにてはいとはしたなかるべきをあまになりな かあひ又はあらざらむなもながれなむとおぼせばこ しく若しみつけられたてまつりていかにうきさまに たまふよしかぜのたよりにきこえければいとおそろ りつくいとものさびしくつれんくとながめくらし給 はくるもやうくくすぎゆくまくよものやまべもしげ やすかるまじき人とにくみあへり」かのやまざとに じさまにやつしすてつくのちのよまでとおもひた もうばもをしみたてまつりていまくでありしかどさ ふにみやこにはいづかたにつけてもくまべくたづね しらへる人などはなきあとまでも人のむね

かきはなたちばなにこゑをしまぬもいとあはれにてこにてはくもゐはるかにきくしほとくぎすものきち

ばひめぎみなにきゐつヽそなく」すこしはなご ゑになりていへなにきゐつヽそなく」すこしはなご ゑになりていへいにしへをなれもやしのふほとヽきすはなよりはじぃう

給ふあさつゆのいと、ころせきまでふりか、りけれたってきてやまにいでつくはなざらふだんかうのぐなどあさはかなるものからいとよしなかといるとにあかけてつくりおきたまひしかばやまのよとにあたらしくちひさくやつくりてにしのかだんかうのぐなどあさはかなるものからいとよしありてつくりつ、みなみはかなるものからいとよしありてつくりつ、みなみはかなるものからいとよしありてつくりつ、みなみはかなるものからいとよしありてつくりつ、みなみはかなるものからいとよしありてつくりつ、みなみはかなるものからいとよしありてつくりつ、みなみはかなるものからいとよしありてつくりつ、みなみはきてやまにいでつ、はなつみほとけにたてまつりおきてやまにいでつ、はなつみほとけにたてまつりおきてやまにいでつ、はなつみほとけにたてまつりおきてやまにいでつ、はなつみほとけにたてまつり

ず

みやは は 1: わたらせ給ふにある人くら人にあひてさまべくの を又のとしのあきもやうくくれゆきなが月廿日 につけてもたいおこなひにのみこくろをいれてちく ちしるべにてやありけむなどさまがしおもひいづる くなさけ をりノー づかたにつけてもつらき人の御こともおもひいづる うをかたらひつくうちなきたまふをりもあるべ くさのいほりいでにしかなしさなどをりく~はじ でつくめのとのなくなりしをりのなげきいまはとて ころはほしあひのそらをながめてもさはいへどすぎ まふ」みやこにもことなる ことなく月日 まりに てふたとせばかりはいとこくろやすくておは しとしのこのごろの事などいまのやうにおもひ ゝめのとおなじはちすに とのみいのり給ふ」かく いにしへの袖のしつくにひきかへてやまちの露に ほるすみそめ」かくてなつもくれぬ はつあきの もなりぬ なくつらしとおもふ人もかへりてはこのみ あればなほかうのがれぬることのみうれ \おぼしわすれがたうてなが といものさびしくなが à めが ふるほどに くら ちに します L も い T あ 10

らにいらせ給ひつく御あそびなどありしのびの がはにてせうやうせさせ給ひそれよりおぐら まなきにしのびてをぐらのもみぢ御らんぜ 侍らんとそうすればさらばこのごろもみぢにことよ こそおもへなどかたるはもしその人にやとおもへば さとくいふあ らにいらせ給 卿の宮なんもみぢ御らんぜんとてこの りきなれどいなかびとことが~しく思ひてひやうぶ よふか せてわれもまうでんとの給ひてあまりこくろのはれ みやにこう~~と人のかたり侍りしはこの人に らんにあぐひにまうで侍るついでにたづ すてぬをいか かはたれもの まざみのもとにもさこえていとおそろしきこく たしきかんだちめでん上人五六人ばかり御とも てぬるならんと人のかたりしはいかなるよすて いといわ のがたりするとてかたりけるはさが ういでさせ給ひつへさが かっ < なるなげきあ かれむことはおもへ たりにしかが一のあまなん侍るとしも ふなどさうが~しきまで かたちなどいとよしとな りてか におは どかうはえお 0) ā) んきく おくをぐら たりの L ねて見 け T Ó 人な もひ 御 てや んと てし

せ給 御あそびなどもはてヽこヽら御らんぜんとていでさ いとうつくしぎょうのあまあやしきしづのめばかり 人々との給ひつくすこしほくゑみ給 じいうたちいでくすこしおもやせ給ひたるほどなを あゆませ給ふをこのまのすきべくより見やらるくを てあやしきしをりどなどか し

えを

りどを

御と

もの

ずる

じん

に

あけさせ

たまへ

ば ゆませ給ひつくたのもし人におもひてつよくか みいりてみじろきもせでおはするにこなたざまにあ もすこし御らんぜよといへどあまぎみはきやうによ みならひてこのごろめづらしきしやうぞくすがたど うつくしくきよらにてなにことにかあらん御ともの ながらやまにのぼらんとしつれどもそのひまもなけ せんとい のかうしなどはおろしこめてゐたまふに夕つかた じか侍るはこくにいらせ給 いとは いうの ふたのなかのほそみちを御くつにてしめやかに あまいとおそろしく へばそのまくありて見つけられたてまつら したなきことなりいざかくれんとてふたり 、がれてあゆみもえずあやしきすの ためそとより見ゆべ ふにやあらんいか ていそぎは ふにほひやかに しりい きか ため いは りし

この 侍りしそのほどまではこくにおはせしが ぞと問へばひるよりわれは よりくるをとらへてお たみにしきみのかれたるえだをおひい はしりまはりてたづねければちひさきあまのはな せよかしなどの給 なる人のすむところならんあるじのあらばよびいだ どはかべしうひとかげもみえずくら人めしてい たればきくしひとならんとおぼしていとうれしけ かだなのこくろばへなどいとよしあるさまにしな のぜんざいにたくせ給ひてそこら御 しをりどもやすくひきあけつくいらせ給うてみ れどそのころのわかくんたちどもあまた御ともにし もはひかくれけんとおぼすにいとくちをしく ならんかしこの御ひゃきのきこえけるにぞいづちに はかべくしうもいは にやと問ひければしか侍るといふあるじはいづくに たがひ まわりてさぶら ひぬれ ばこまかにも えとひ き、たまはずそこらなかめさせたまふにさひせうち したにか いみ へばこのことこくろえつくそこら ゐていきもえせずく n の <del>~</del> れはこのてらにすむも くなつみにやまにまかり į にくきさては らんじあ くみ りて山 いいか る給 か いとて 12

ぼ し御あしやすめさせたまへ御さきばらひ侍んとてす ほ か K うちつ あ でよみたるとみえてきやうそくのうへにじゆりやう な の御まへよりはじめてそこらきよげにすみなしてお んとうちつけにゆかしう うぜうとてさだいじんどの、御子世のすきものに きそうのこともかたはらにありきやうはたいいまく ころもはしほなれたれどうつりがいとなつか のこにのほ んの ふぎのうつりかなつかしきにずいうちおきてあり じたけのさをなれどうつくしうつりあげて よく見ばやとお くるあたりなどこのましうおもふ人なりけれ かけて けに あた しをお b おこな b もひ とな なかばいかりまきかへしてかうぞめの n n うか ば もひてあるじこそ侍らずともすこ いでくかきけ ひのひまにはまさぐるにやちひさ みやもいかにすまひてすぐすら しうてあふぎをとりてみ給 おぼせばいらせ給ひほとけ るにや しきを あさの ばなな T S

まかふべくもあらぬその 45 のたてどもじづかひなどほうしめきてかきなしたる ろそかは 月 み むか n る」などはかなうかきすさみた しなからの 人なりむかしよりは あきなれとやとれ るふで 3 ふで 袖 0

<

カコ

せの

おとかな」などい

ひわたまふその

くち

ば

かっ

厖

によのさ

かっ

Z

のかれきていまはとおもふ草の

1 ど申給へば御なごりはつきせねどいでさせ給ふ ぐさであやしき御 まわりつくうへにもきこしめして人々 にと人々そくの かたはらなるすいりひきよせたまうてありしあふぎ ぼせどかへりくるもまたせたまはんもはやくれ もいとあはれに いとちひさく かしきやうより御 てい ありきなりと御 かに してみづからきこへ きし む かっ あまた 7 もめ 沙 とて E かっ n 12

3 にかの さみ とはえ ひしこといもなどじいうといひいでつくか のなかのきりくすやうくはひいで給うての ていでたまふなごりいとつきせず」あまざみは かをみあらはれたてまつりけることよさりとも らのかけたにもなし」とかき給うてか 雲のうへのつきもなみたにくもりつくあ せんかた をしおきて見 あふぎを見つけていとしか しらせたまは なくは つけられ づか じなどなきみわ しくて たてまつりしことよとい なしうか らひみ へ り 31 りし るる 7 カジ すみ け 72 カコ な きん

がのをといふやま里におきなのゆかりありけるにつ びすぐせどつひにはかくれあらじをまたもおはしま れどかくる文など見るべき人もなしとたび~~いな ほしくいほりしめつくいといおこなひすましておは せ峰の白ゆき」そのくちはなほいにしへよりあらま きてゆきをわけついいりたまふ しなばいとびんなきわざなりとてそのふゆのころと のくら人などをり~~たづねいりて御ふみなどもあ しけるとぞ 身をすてくやまより山にいりにけりあとふりかく

## 源家長日記

非藏 か計 まるもの くら をだに ゑゆゑしくめやすきさま也 我ひとりと萬 まつる内 わ あとも今や絶なんとうもれ果ねる身とのみなげき なかり Ø し侍 なる かっ つけ 人の 8 n らん まか 13 み ほ みるよしもなけ しに世をはやうしてはかなきしろき無きも な トみぞ るされて参しはこぞの冬比のことなりば にさへ もの 殿 禁 る心 かっ お まどは 中の Ŀ 3 と思ひついけられ のづからつたへ づることもなく家路もわすれもて行 0 侍朝ぎよめするとのもりのかうぶり かっ をなきた か かずまへおぼしめ 有樣 小 < うけがましげなる吉上などまでゆ なとおぼゆ る、心地し侍しかどもなれ 庭の t 日 のみ心に れば 數 まの へんにまどひありく小舎人 日毎の事なれどおものま 8 積りゆ かっ たる蔵人ぶみなど申物 るはぐくみし親も よろづにひげ て涙さへといまらぬ け しみよろ b 5 けば年 3 ては たまふら づ √. れば 1 Ł して絶せ め か 0 かう 10 へり h 1, あ は 2 かっ 1 かっ

まぎれ まはなりをといめて どか となひたるこそけだ ぐちになきみわらひみして正みつない 問釋近衞の ごとしげにみとがむるもおそろしぶたうはて \ ゆ すこし左らめばたれまく打あげなどするに なれば日給せんとておきあがりとのも りとい べの大ばんなどはてぬれば諸陳の いぜんの けだかしとい ならしはいぜんにさぶらふ四位 さまたかもりおほせて後さきのはんしり ま也とりのざうし などして手 あへる身のふるまひわれ あ b る がほに () 程 め 12 は 給へなどおとなめ h るにうへぶしくつくい 記かきてとか 7 もたゆき迄すみすり お 夜行申こ ゑとの しらずけ もてなしつきじろひ へばおろか ほ せお 5 かく ねな B る時 7= のそうじ かっ くとり んも しは な なりさて殿上にのぼりて にいさ E く人 かしけれ  $\langle$ 3 0) かっ 申の酔さまべうち わた には 12 ぐる 1 ない てたが などす の殿上人 1 なきしつら しへ げ あ か H b お h H あらまほしきさ 1 給 そうす **卆**の る程 明 b 2. ひに しきも づ から h ちも めすけ てまい ひつし か 7 かっ ナこ 柳 12 ふぎう あらそひ 3 12 10 Ill 部記 3 か Ĭ 13 3 か رکی 12 3 t,

とり

けだか

き公事どもの

ひま

のほの間ゆれ にたち 出御 ばあさ てぞ 天人さうすの有様かとぞみゆるいしのあふぎさし 新競人いで、こ、かしこの朝ぎよめなどの ど思ひ もれいしたるこそさほどに近づきまいらん身の程 終るさま御 す、み出てす、のそうする程右 くしてしるし のたちあかし書よりもけちえんなるに内侍貳人 るやはみゆ りく すべて おぼゆ のほどになりぬ るよりついなくどまで一年中の てなか / 汉· 列に立た 正月 に藏人まちにてさうぞくなほ らひ日たけてかぶりのひたひ る又 るほど身のけもよだちそいろにさむきま させ給 は 1= 中 しのもとに御こしをさのたとし のきの 72 まぎれ b 1 日 へばときづかさの も行幸の儀式 いへばおろ る公卿 せ給 C もとにあゆみ れば近衞ぢんわきとの 小 Ō てとみ 朝拜 へり此世のことくもみえず のすけの御こ 最豐 はらかひのためし 12 Ł 勝講、 のすけ 出 おりず 公事 0 12 內 14 3 わたりて 0 侍 み しにつ に少納 8 3 しなどし きん つおろ tz 所 ししり D あ かなり けた 0 5 へなく Ö 左右 きて 72 か な 御 カコ 御 12 神 < か j な بمغ あ n 0 T n O)

達 身 22 見えさせ給 12 カジ 5 おほけなの身の程やとぞおぼゆ けるも参りし時の夢路もこよなく思ひ のときたちなどするほどにこよなうさぶらひ ばえしかどこの 理也かずなどの のこらず行むか 小舍人にもたせて行 三百六十のふねにもあが の外には んなきまでぞ侍る御 おほせごと侍りしかその へまかりたりし つもすべりあしかるべきに露それにもよらせ給 E 3 n でくやが き御つかひは藤範清 は御まりぞ侍る庭にひろ いの か おはぬ 72 かっ < 御 て御ぜんのめしの後 みひざをならべか 所 ことなりこくかしこに草の ひなき藏人少々ぞたちまじりて侍 ふさてもく B あが 頃 ひたりしかばか まにまさつね は は 鞠 ることは世にまれな むかふよにのく 10 かっ 0 日に四五度なども あをいろをた らず 72 殿上人みな最勝寺の 日最勝寺へ御まりつか りたりしこそ思はざりつる びには参りてつゆ むしろしきて侍 参り は 侍從 ばかりぞ 候 はよ ずの るけぢめ るすべてくら人 T 一人宮 3 あが しるまりあ いしふして御 0 いほ ついけら なく お あが りた ることに としい たち より n 候 なれ ú か ば りし b あさ 0 は \ b は 御 君 職 鞠 す 7 ね

ぞふ 候に 淚 籠 給 T せ T 絕 h カジ to きこし すこしのなぐさ 禁中のこと龍 なく成給 1: 御文 此 參內 あ < きよし仰 も申させ給 3 かうの ふこよひ お 整ら T. n ょ B 八月 参ら しを申 侍 あら めし ば B Š 1 カコ 世 五 b せ 2 1-すい さぶ 地 0 白 せ 0 せ ため あ 程 又き L は 今は 比 颜 ]1] て籠 5 L 殿 弘 n りし T Ŀ 7 め 1-か 0 ば 和 日 5 御文の侍も、ちて参て ひなれ 何 あ 近 ば 御 返 有 比 比 b 枢 かっ 居 かっ 0 B も侍 り籠 かっ 3 に成 づきまい くれまど 房 參 け th わ H ょ くと がて龍 づ 3 治 12 3 カジ んずることもけ ばまかり出 n ~ こにやは 3 大 n 7 とひまなき御 22 L な おばえさせ給 成 かへらせ T ば今 法 5 は かっ に服をきて侍れば h は D わ ずる < 顏 らせしことを思 +} 親 12 0 h ^ へる心地して侍 給 など を拜し ば 御 3 はかぎりとみえさ E りよ いかりの 臟 給 よし て其 0 所 かっ U 2 御 0 たなき奉 人 のへんぞ 越中 も申 b 5 にや 瀧 ほどだに てよろ てつい さはぎに ^ 後とく せよ h となみ也 12 口 ·侍 内 め 此 0 る ^ にはか 侍を 立 こび き御 E L ફ ち 公 ょ Ŧi. L 奉 5 参る j 3 かっ で 1-お か 比 7 か 御 み 文 3 は 3 3 3 h 0 Z H to 4 난 ょ

まで侍 んずら りて なき程 月に まべく だまりて正 L < n 頭 心 ぶ かっ 3 あへずなぐさめ たとしへなく の御はぐくみ の女官などまでおぼし きよら かこめ Ġ あそ りの 中 0 5 將 5 院 な るゆ म्ब わ んと 0 V. 通 を 1 せ b のも 12 L くしりなどせしさばか 思召 カコ づり 資 給 御 n あ つく 御 12 あさ おは 本 劔 御 0 月 12 ひ 所 りし 位 給 老 في 1-4. すべ 7 (= h もふさせ給 かっ うつ 一定ゆ せく 3 ぞ思ひ は 19 h は は かっ あ 事やあるら 程い L はすの 3 づ カコ b いまり h 御うら ださ をわ 1= 所 T 0 りすませ給 h 内 など御 でかい 申さ 名残 L な あ 侍 めしよりてさまんやうく づ は きすが か 3 12 b 1: 程 より は 所 ~: 内 き人 1 4 をしみ n 3 0) 1 b きいと より 殿 きてく h 今年 給 IF. から とし 上人六位 h 侍 げ 3 宮こそ侍 とり たども 3 T 12 月 め th 年 あ 5 は て手 より 50 0 給 0 1 25 など御 南 1 别 かっ まだ たゆ T 13 わ 12 四 3. U Ħi. 0 あ をす 御 灰 3 3 fi. ~ 13 3 節 わ てきい 22 布 代に L なる 3. 内 U さた は b CX h 心ことに ところ 0 b 内 衣 1 侍 御 南 は mi 派 b T 11: 侍 南 南 b 所 11: は をや せ 所 C 0 かっ 侍 T ひ 3 1-3 FILE IF. 3: 御 3 12 0 め 3

くし ち

て御舟

つい

布

ての

車に御

ず

聲もさるか

C C

め

めら

庭もみえず

めしつぎなどまで思

3

事

n

る人

ないま 大內

3

b

の花ごらん

ちが て殿

<

聲 北

Ŀ 2

人

上下 0

面 8

15

7

おなじく

てまい

り給

つく 馬 馬 しよせ

て御とも

えばうしもこよ ぞひ御厩舍人力者かやうの らんず御らんじつか いまだおさなくて院中 た奉公す日來非 へどさらにたまるべしともおぼえずなどわ て人ゑひもしぬべ も侍し布衣始の など侍し程 女院 3 日 h 寺の御 72 しも ごろ b 0 3 V こばれ てけだ いしきこといもなり後白 72 一職に は 72 たてしまい しその 0 ぬすが 幸 なる h じめ É 0 いずまひ御車ぞひ あら 亢 非 72 かし其後雨 上下北面、武者所、くら人所 ていたづらなる心地し侍 訴事さしつぎなりし はことか りし させ給 くち院 幡 日でろにことか しきなり一人 一夜は たどもおかしがらせ給 き程参りこみ ā 0 しもべどもまいりこみ )別當 辰 らせたりしにいろく さまなること は 時に 人 へばとか の殿上はじめ院司 **赴御** 々みなめしよ b 成 御船にめしてと 清 T 幸侍 は め 0) カジ 杨以忠 河院 < きよらをつ け は づらし たり御幸 かば りた かっ か きまたう うが J. なと 0 御 か など 3 t Ż 0 3 L 0 御 13 7 車 1 72 は は 御 御 藏 あ は お ぜん なげなるけしき也彌生 らふ人々のけはひあやしの 花迄もゑみのまゆひらけて心地よげなりまいてさぶ は 思 Z あら も神 3 カジ ん侍など申せばやがて きさらぎの末より鳥羽殿にわたらせ給 も御くらゐさらせ給ても三とせの春 日 かきくもりには 侍ききよげなる濱づらにうちむれたる布 て参り給ひた て御ともに候 など馬とりにつかは 第三日 世の御る は のくるいも ひの御 0) し御車 く吹て浪 時 もめづらしと見そなはせ給 など仰 1 政 あそび わ 御 よる に女房 72 なり京よ の音松 わか 0 か 車 おぼえずきのふけふ は どもなりきやうに返らせ給てもひる かに雨そぼふればいそぎかへらせ給 ~ りこ 1= き公卿たちもやが まいらせ給 二輛すこしおくれ あぐるまで御 つか しはしり の聲みへが りまい 御車め 1-の廿日ごろに せ給 つかせ給

カジ

よろづ心あ

は

せ給

かしきかた 人など列拜

てぞお

ふつぎの

日

住

吉

御

衣すが

72

ましきに 36

海 1

0

お

8 かっ

h

か

友ほ

せ

てよもすが

ら思ひ

せ給くら人

は

遊たえね

ば夜

0

心地

1

侍

が あ

1

なり

y2

ふ四四 B

方の

梢

0 0

待

出

T

かっ

^

3

せ

2

かっ P

うに

思し

めすことな

き御

なるましに

萬

0

々につけて残ることなき御

*ā*)

2

3

づか

12 道 給

も人に

おとらず

つの

^

るぞと見えさ

せ給

j in

ろうづ

0) 程

10

梢雲 け ひ えならぬ h てにはに渡らせ給花 日ずさみ 過て道もさ らせ給 もとな 左近 5 道 御 めもすに n カコ 砚 て花 て春花 < 0 とぞみ 打 Ò . کد 0 á 句ひこばれ 出 しよせてか かっ な ~ b h ひと枝をり たこ えまが 門延 3 が à b 3 あむひ 御 h 8 わさ 車の ずこ 政門 より 霞 ŗ おちて くせ給て 0 らるやうく あをみ かに思ひ出ら 3 せ 御 ぼ よりいらせ給 て終れ 絕 侍 きるし 給 間 12 ふ昔御 は より お りしに布衣 とお め わ る 0 むすびつけても御もと け 12 L かっ £. ふせ よせて花 2 n な 幸 とみえた ふ花は る道 3 0 3 h こずばなど人々 あれ とどぞ 時 道 か 0 御 は づ しばを分い のほども心 ですがた ばま 思ひ る花 此 0 すこし盛 くま 花 もとに 2 0 0 n 10 1 F 1 木

雲の Ŀ 1-茶 < 社 2 とは なけれとも馴 にし花 0 かっ け

る跡

もく

末 かっ

0 め

世までも御

製の かず

程

b

12

n

お もひ

は

す

~

りこく

カコ

しこ

1-

カコ

としい 御

(見侍らんかしこ

れをみてよろ

つの < 25 h 0 なと 12

211 侍

K

思

n

~

しさ

\$2

ど御

製も

お

は は

t

h 3 1-T

\$2 3 和 \$2

ひしらずとか

やかやうに

1

13

は

b

h ちせず à

それ

75 ば

らぬことい

もを

かっ

3

めまは

しきぞか

ひなきや糸竹のしら

づれ

中務 飽 小 さり 輔 1 入 道 君 か匂 寂 蓮 め ひを待えてそ雲井 しぐせられ て候 0 しよみ 櫻色を てそ 添 H 侍 る

500

中

1

御

びは

すぐれさせ

給

ると

かっ

P べい

まなびとまなぶことい

づれ

3

こさせ給

は す

5

カコ

計

り雲井の花

も思

ふ覧馴

御幸の

飽

D

匂

ひを

こうする人

12

0

わ

12

8

お

3 ちく 0

る様も皆

程也され

ばみ

1

つけ

T

ほ 1 3 T

5

そ立うき なる内 大 御返 臣 通 1= たま 殘 7 72 5000 ば誰も 12 光 月 0 見 こと哉と人 歌の道はい ことまでも數 給ふなるなに なるよすが なびおきけ ごともせさせ給 びどもぞ侍 言葉も筆も及ばぬ

n

もめし

5

だされ

心に思え事中

だす

的

r I H

色 12 W なめ 3

る佛ぞ十惡五逆

3

す

T

給

3

の数よらぬ

r j

たづらわざか

弘 道 11: 道

3

々にまなばせ給

^

ばそれ

10

人

々のそれに

ひかれて身

もなり

人

侍 地 Ø 事 侍 御 1 12 御 h わ は 叉 藏井 せら か な め U b る カコ き御 御 ij おく な カコ となみ 1-ことな ょ 0 12 72 7 かっ b 0 3 あ 1-御 心 め かっ な ~ な 人 保養侍 な しと し毎 きんと 御 0 b L 12 72 0 治 は 歌 2 き日 B てあ + ほ づ なき事 日 か た かっ 10 め 合 n 小 カコ 御 そば け 人 5 聞 h ئة づ 和 1= は 聞 命 鷹 なき皆 すく n えず 0 を 5 歌 か 狩 聞 侍 侍 3 つ べ うも は中 けて とか ば 披 しとも 3 僧をさ İZ かっ 及ばせうく 會はやすきことなれ # やうに 開 坐 الح か なしさ せ 0 露 1 op 給 眼 事 5 ż /z 0) 8 は などな 諸經 ほ n か 御 E C 7: お なく 露 3 身 め め 折 ほ 12 n 3 毎 か かっ カコ せ どに侍 しき 12 T 4 ば 1= m 3 T 50 2 ざまより づ 日 不斷 後に も侍 カコ L 72 彌 0 れし せ 給 6 御 0 をき侍 事まで T 0 8 陀 は U 御 きせ諸 御 n 0 0) 13 ば ば なき 尊 3 ع b 御 12 ず 遊 及 30 あ Z 讀 か 2 ぼ か < せ め دن 15 D 72 給 やう 1 み侍 きあ つ結 ぼ な つ づ び 程 事 經 W n 72 0 7 72 3 か カコ 0

水り

30

3

ひ山

は路

野の

邊花

0)

男尋

鹿

0

あ

を

12

づ

ね

あ

るれ

也

あ

3

7>

は

を

ね

あ

3

ひ

は

清

きな

が

0

など申 やう ずさ 皆 せ給 は b か 御 春 カコ カジ め 心こと葉 0 あ E 3 つらせ給 b Z T 和 は 多り n 比 所 V あそび はず山 ば 36 0) 御 日 歌 6 の三位 2 め 御 0 あ 3 き菊を折 わ 御 かっ 0 カコ n 歌 てて 會は 幕 3 歌 事 72 ち りひまなき j n 8 T 5 بخرتم りゆ 其 i な寺 T 殿 1 か 3 0 なしさ よば それ ぎも せ給、 こゑそら 6 も 和 御 ら 3 b 0 比 な か 歌 御 4 0 夜 12 63 カコ 給 しく心 は ず 0) ずに ち 0 1 h 會 n E づ 0 て結 九 文 だい もよ ど歌 Ó) 3 御 カコ あ 0 b 0 とまなきころ j もとい わ 侍 月 うきつ < かっ 0 0 せ () に侍 なり 給 U るまでこし どこたち残る しの 3 ばとりわ もとなき心どもは L V 殿 たども 0 0 ず 1 きょ う ことは b 12 け 宮 御 n 0 もさる T 10 ろにひ なさに ば京 に九 山 3 侍 きをそこに か T دي おそし 小 ば のざすをば 0 はぎに きて 時 L 11 將 10 かっ ぞ H b ~ 極 k なく 5 きの 8 雅 御 き歌 此 のこち は 殿 など度 ゎ 0 1 程 72 もをり ~ 0 ばる 位 3 3 b 12 め Ç ょ は まだ づれ た 3 72 3 松 な 12 殿 12 て 給 3 2 3 b あ 6 3 نمكح 間 か せ 彭 3 カコ 月 0 72 8

す

長 月 0 御 返 け 2 0 盛 1= 匂 ともまた露 た 12 古 白 菊 花

歌ど 臣 かっ B 長 0 百 5 月 省 0 H 0 程 歌 け をや 1-0 るとぞの 奥に 38 露 も待 侍 3 せ to う覧 E あ 歌 きく侍 は お n けは 12 る 中 8 はる 1 3 中 12 Ł 將 Ė 自自 定 菊 首 家 0) 朝 花 0

は 此 な 君 12 かっ 記 思 代 7 S 1= 侍 霞 所 H 侍 を る 3 分 0 ~ 3 蘆 0 在 12 E 位 0 0 御 0 時 更 春 Ŧi. 父 澤 節 1-0 奏 事 1 入 道 12 あ 0 h を R よ T 孙 殿 鳴 7 Ŀ 覽

蘆 t 12 ょ つ 生 仰 事 路 南 迷 h 2> 1 年 か ば 幕 经 T 議 霞 定長 を 3 P 隔 は 0 ~ 3

後

É

河

法

皇

1=

奉

6

n

た

3

歌

侍

ば け じく 殿 もらら か < 3 る 蘆 T 12 出 侍 還昇 A 仕 0 0 43-P 3 は K せら うに 霞 い < は 30 かっ n T 分 還 出 沂 n 10 昇 仕 1 御 程 7 殿 後 歸 せ 4 め 0 (" 3 5 世 2 せ 白 也 みも侍ら るまこ 0) な 給 せ か h 3 は よ ٤ るこ U あ か t h 給 1= は 雲路 世 此 n Z 0 道 10 故 あ 0 今や 理 8 お rh 也 h は 思 ぼ 將 宁 T 普 1 0) 晴 か 攝 B 3 8 お 6 め 3 13 政 お L h

> EX W J b ぼ お 72 T 1 B よをそむ ક É ろこ 兵 7 易 C 年 御 ^ b 8 Zi. 衞 恵はけ け to は かっ 人 1= L 8 すか なく かっ は 佐 侍 領 出 かっ n きて よす 1 h 3 3 n 所 / 2 な 右 な 給 n 12 朝 かり 3 から かっ るさまにて 後 lt こそこと 京 つく 恩 為 7 T 1 世 告 くまで 權 都 h 3 12 1 U 侍 大 0 とき 0 0 南 まじ か 5 見え侍 しを父 夫 侍 外 づ 12 L は 入 0 15 此 12 かっ 寸 T 道 6 ば づ b t 3 此 13 2 3 播 身 ひ ほ うた 20 也 0 filli 人 13 侍 光 1 排作 11 道 0 入 h 12 見 て付べ よみ 15 道 L 0 は 护 數 なに 0) え侍 から if. 古 12 國 3 0 b 3 الح 0 TRE 召 11 25 あ 10 き身 仁 となみ す 3 lt 6 7 かっ B カコ ري دي 和 信 뫒 7 かっ 8 な 111 3 道 1 かり 12 h 0 は 义 佳 5 せ 111 13 あ T 0) to 儿文 父 B ti 3 15 ほ け 3 \$2 11/1 すい から 親 13 かっ Ł h 12 \$1

所 建 T 政 3 座 0 仁ことし 左 Ł < 大 す 8 b 臣 Ü. か あ かっ 6 6 內 3 板 12 和 大 敷 歌 臣 to 所 通 有 Ė T か 家 T ち は 地 朝 15 C 臣 下 12 0) お 座 37 通 かっ II. とすよりうど 13 朝 な 條 殿 T 家 殿 0 牆 人 御 は

か

とな

き口

す

うさみ

ż

お

ほ

カコ

èr

13

此

道

等也 定家 政 は ひ 前 束 か L 殿三 帶 藻沙 へる又 後に ま を 朝 かどもなどやらんさたも かっ 位入道とはれ うに 12 草 臣 隆信 3 か りそうする 10 3 しく な くと 具 ~ 朝 b 親 き人 して も盡 Ź 臣 は 雅 地 侍き皆 儀道 R 此 下 經 U L Ü め 兩 歌 君 鴨長 Ξ T 0 78 カジ 沙 人 ごとしは 參 めさ 和 代 彌 侍 な 明 歌 h 寂 0 る 數 かっ ょ 藤 所 蓮 b べ L 原 13 に讀置 日そうし きよ ま 3 77 C 沙 申 め 彌 12 人 で い L k ょ 12 h カコ 和 釋 は 侍 申 侍 0 7 歌 この š Ž n 8 書 0) 歌 0 せ ば 浦 T 朝 給 人 攝 御 浪

鴨長 嬉 朋 敷 参し B 和 夜 歌 0 浦 5 風 部 tz 12 て干 代 ~ h 72 2 0 數 12 入 n る

臣

は

じ

てまい

h

夜そうし侍

L

歌

着 藤 をあらそひ あ 源 到 D 我 b 秀 君 行限 て月 能 かっ 參 千 あ 毎 b h n ば 70 0 ક b つご 夜 治 h 雪 0 0) とや 月 કુ j -3 82 tz 花 君 か h 秋 6 かっ 0 代 折 月 津 5 で 奏 1= R す 給 まい 1 は 萬 は 通 b 世 ょ 6 懸 S B 10 ば せ 初 L h 2 な H 和 は 歌 h n す 蜑 わ 0 御 T 浦 釣 12 心 浪 船

その 大臣 思し 御 伦 歌 れら よ人 す 程 やしき しるし 上 すぎて ばひまなき和 6 8 いまさら 72 に心に めされ 11 る げ TE た きに づはみ づ 3 は 殿 n 18 め 中にさも T め 隈 和 かっ ぎくべ な 內 口 n 書とい な人 T 12 なく Ł 5 大臣 あ 30 かっ をし なと思 などする人 は あ び 例 Ü 0 12 カコ いまる き事 きをなにとなきおほやけ な 侍 づ À 歌 0 3 殿 め h b 會 めず てひ ごと カジ ね . の 書 さぶ 3 Ĺ 72 ٠٠غ 侍 2 出 侍 と思し 12 1-ことも 目 12 お h L 後 B 5 h 也 きこと ぼえ侍 Ł 22 1 和 御 ども 有 がし 13 ٤ カジ か に人 ば 歌 B 10 は めす 其 す 12 L ריל あ < Ò ~ せ のこ 0 の尋 3 け 由 で カジ しより 內 給 0 などする 50 るさずその 人 御 op 申 八 きて 5 32 0 は 0 よ お ひさしの 1 とり 氣 4 連 月 ばなにとなくて などす 2 h ほ 2 お か ども 具 弘 色 ぼ 歌 + か 題 な 人 床 たち 也 親 Ħ. < 十 ことは 和 きとめ 1-長 中に め Ł 歌 便 3 わ 省 T カコ 北 0 かっ 37 V 會 2 折 12 7 2 1-たえず 15 夜 くし ずさ すぐ な V 出 侍 な などし 1: h T 南 お કુ 3 きて 侍 3 攝 6 h は カジ やむ 政 事 出 \$2 0 候 るこ n 3 な 侍 T 事 الح že T 左 + 2 0) 7 <

43 此

n < カジ とう ほ 口 かっ L < < なが 申 をしさ T ふく 召に E 御事 な め かっ 地 め お なきを かた つか 思 め ほ やさし T たこ せ有 明 3 T U はす 1 3 8 b n < 月 V te お 0 そろしきも \ \ '` -御 め 侍 大 ば もはなやかに む 使に カジ 3 きいとをしくお お と獨詠 布 72 よ h 0 衣 ~ も先だちて参り 所 < は 0) 1 なよら やく まい まか Ō 月 てとの さし 其 カコ b かっ 5 和 親 b やさ もり 12 出 出 かっ 歌 12 ï そこ n 十 7 所 しく づ ょ 秋 72 は カコ n Ö TE 30 日 0 2017 ば 0) 日 かっ 承 3 のまだ こと 光 Ł Ł せら 此 T な 1 Š j 20 7

阳 3 な < 名 15 負 秋 の空より も思 出 あ る夜半 0 月 哉

きは 十七 返 きふ さそな 思ひ かっ H 申 なき L け とけ あ しほど 御 6 L 思佗 33 な 12 づ 人の かが h 此 覧 n かっ よ 一个 b おそろ ~ とか 背し カコ きことの をそうし h しく B 난 E 記言 カコ 侍 3 S 心まどひせ 是らに はさまであ 14 かっ 30 3 かっ ばゆ 4 敷 な 月 L 侍 るさ そ亮 12 を 3 J うく かっ め お 12 Ut カコ る 3

お

もは

れたり

しとは

h

扣

叉身に き女房 れて歌 丹後 門院 ばう 手に 後 まい E 12 6 あ きこゆべきされば女の などする CK h 3 比 ^ の世のいとなみしてこく カコ 越前 て歌 後は るときく侍この人々の よに h か 13 30 たしき n は はひ 將 は 0) 輔 ょ のこともすたれはてた せら も念佛 女の 10 10 3 b Z ぢてつい どもなにのつひでにか など申入も今は n おは さらに 女房 げに 歌 1 カコ たすら 一とせうせにき又さぬき、み 3 歌よみすくなしなどつねにな ž あ 人也と 4} よみときこの おもひ ればま L 0) のさま らるこれ たえなん 秋に b につくまし か む人も らずや思し きくてこの 歌よみ かっ 12 卷物 すて たげ b 型 多 みたよはひ すること をうけ給 なり 外 111 か Ø 12 かっ る女房せ 0) 侍 -3 は 3. は 12 10 道 ばなに ばと たづ うた これし 1 この 召 21 なれ 又さらにきこえず n をとり it 12 1-2 たけ うり 0 Te. is をと ば 3 1 n 1 きべく るに る人 ほ -E 0 てい O T 8) نځ h te 3 < 條 71 りにす T Te K げ 院 13 歌 侍 t T 12 も侍ら めさ 3 をり 3 to H 3) かっ た 内 7: 4 21: 仮 1: to الم 給 心 12 かい か

h a) 記

H

it

心 りその 少 臣 也 歌 3 3 0 Ú は お 給 重 < h 代 てくるま 0 侍 八 L 也ときい カコ てこの へにつか よしを申 はす今は -3

心を題 比の 高 をあ 道 風たえずことにす さを め B さぶらふ人 か な n 倉殿 さそなけ の娘歌奉 0 10 歌 を御覽 7 カ? にて と申 8 h 12 かっ j うし あ てすぎ給 3 るさまを Ò Ł 1: 人おはすなり其 ~ 聲など聞 か 々よみ C りなどせら お ばか 出 是 きことなら お 0 お られ ぼ 17 2 B てことに あ (" L ā) せら T きと 由 h 歌よ 1-^ b \$2 秋 め は 1-なきすさみ哉 しは 3 ñ 3 1 12 0 10 ¿, 1 ふた 師光入 たり をは ねば V めず め 御 扫 る いづれ たることは 人の 1= ょ 其をりのとぞ宮内 Ł めと 5 此 か 歌 け b お きけ 思ひ 道の 3 0 女房 ほ 歌とぞ或人の 聞え侍 をさしてしるすべう 1" めさ よりよ せ 誰 1-ことにて侍 め させ給 給 を心 5 か h ちてやまんこと 22 むすめ あらし 也 る其 n 哀を懸 5 0) などし給 叉八 まじら 3 ĥ T なち家 後三位 F 御 à h かっ 此 條 L と思 か 卿 わ き T 12 院 3 をわ 歌 忍 0 < 殿 L h B 入 此 0 h 1 0 3 も

> j 侍 1 は L 院 此 か ほ L 0 ほ 0 ば みか にこ 人はくるしか 歌 墨 ら見をよばざるも くつもれ あ ること 政どもなめればよるは くつどひ からんをとこにも女房に なたかき女房はは んじあ お んかぎりもとめ をきこし \$2 ほす は かっ の内侍 納 か L しこ 詠 る歌ども又ふるき歌も てひる りかやうに常の 殿 8 通 む 具. 0 なり と申 3 らずとて か 朝 0 てその カコ 臣 あ あ 程 か 女房 < 10 3 るべ E つめ は 72 礼 か 御歌 職事 たづ 歌 悲し 1-4. b 有家朝臣 初 もかく てたてまつるべ L うち お 奉りなどつねに侍又七 はす中納 事なれ 辨官 の家 ね出 か あ B É ぞめ は は は n これ ئة せ和 わか まい 0 3 るらん 月 定家朝 か ば ž 風 せ給 言宗 L をこく 歌會よごとに きうた 覺 2 りこ い よきあ の人 1 カコ 3 綱 10 à きよし六 3 中 n お で 卿 3 ろの て萬 よみ お かっ 人 0 0 3 む 重 姬 カコ B 0) を づ お お な 母 代 也

雅經 沙彌寂蓮

Ü ٠ b 0 の人 6 たら あげたらんがさだまるべきには 々勅を n 1-隈 そな な < うけ はらん事を思ば世中に 我 8 給 高 ともとめ が出 0 3 あらずされ あ ね あ 2 h るとしあ か 此 3 A ど先 k 海 3 0 多 3 底 B

遣しけ 72 源 げ らひ 歌 かっ をそめ げきあ カジ 0) ことを聞て定家 ずし らせ きかろ 也 5 h J をり 1 申 T 2 てう なる 給 6 ナこ ري 程 3 0 Š かっ ひには 2 3 L 和 人 6 せ 年 心 もこそあ カゞ L 歌 12 n K かっ もとなく 御 36 支 所 0 3 かっ は 0 朝 かっ づ な 17 たらく りて 0 - 3 臣 げ b 2 J 7 しき也ま n 歎 7 b 其 神 0) 3 1, 15 カコ あ か計 とし 南 か 人 少將まさつね b 佛 かっ 1 E 12 は 程 ^ ^ 1= る刺をうけ給 を h 5 3 ~ かっ 1 のこと思 0 だに ば りに け 其 て此道 秋 あ を 比 身 -73 0 とは き世 ろ È 水 0 8 て此ことを 0) 無瀬 ŧ をた U E 寂 t 許 3 け 0) 蓮 0 せ 15 此 歎と b どの なら ^ L h 事を よみ な L 君 道 1-み心 2 专 わ h お 此 Ł な な 7 わ 3 0 づ な 13

きは 3 世 0) 理 to 12 とら 32 す 猾 恨 3 き住 吉 0 神

そひ行 は つけ H かっ 别 T 住 を恨 につけ 3 ならせ 淚 0) 3 神 3 7 ても道の 专 給 ぞと Ł 65 又 かっ しことはい 如 いまらむら 12 7 何 うち 七給 せ h なれば心 å かっ 120 け 1-おろう 3 カコ 3 Š とうら かっ 年 3 きうけ な せ 世 h h め 1= 3" L かっ 住 3 す 3 吉 63 院 加

どす ごろ 殿 たうと 深 かっ 3 0) 庭 しば やども 見えず人のす カジ 1 らずにほひ のうち 殿 給 てこく お ざれ < ち 丰子 包 0) ~ てこそはす 0) 13 1-C 花 1= h ā) 7 ることらなくてすぎありき侍 梅 (C) かっ 弘 しの b カコ かっ 3 3 0 あ 御 0) 3 たり るご に軒 h 聲 院 j IlI とも まりあるばさせ給とてに は 齎 あらそひ つぎの 3: h 0 吹心もとなさに所 Ł 忘草 3. てう र्मा मा かっ 3 0 け みなさめと心にて なきまで ひとりご 端 うせ 1 で、世をそ 1 とし ~ か 72 かっ とだに 程の たるさま御 きをおころは みどりふ 柏 給 てじとみに 々にぞみえ侍 111 Ŏ 您 专 1-とし 700 か L 12 水 说 わ から むきけ 3 专 12 12 IL \$2 12 月 ばえ 3 12 侍 地 カコ を は今は た 3 かっ < ち 12 t 10 3 b わ 0) みえ侍 るす 贬 扫 ち L 佛 15 け 年 ā) げり て妙 に険 につい 7= 御 学 松 は П かっ 12 3 h 年 序 人 朔 2 1 1 0 かっ 省 Ili 茶 は きるも 香の to 3 カコ T お h かう カコ か 0) では 信 か より ぼ る程 げ じまり は j 御 b 5 iL 0) あ 1 W かっ ぼ 7 0 12 0 ¥: かっ 12 うち 侍 3 3 3. 3 香 から 水 30 3 なき h 京 b 膝 て人 -||-お 人 かっ か 12 炊 h 花 H せ

のさは

はて

カコ

お

なら

給

なき 4 トき え

萬

1=

お かっ

ば内

ね

なら

D

事

0 b

大

納 げ

0 出

ĥ

to

此京

極

W

條 殿 b

御

13

礼 B

てこ

の十

0)

カコ

なと 王

覧えてぞみえ侍 さて常よりも御 こなはせ給ふ ぎにてなきまどひ 智な 大納 院 き世 ぼの 大臣 なれ やうに内大 てや の御 月 ぞ とみ は庭 h 1 け お とも ぼ は 殿 3 わ 御 カゞ 0 なき子の 中 3 うく わた え侍 せ給 きた るち 335 1= カジ 72 ょ 0 こと 0 あそび 御 其 カコ ほ W h 40 B るい うぎは つは 臣 う ~ 0) となみ りとてそのさた共 てらる カコ h 0 てその 日 き程 it 也 一殿三 つぎの 陆 あ B 0) カコ 御 とり たれ ろ は 12 あ 軒 をうし S よく Ç, 一位中將 いそび より はず みま よ夢 位 あ 0 を h ド人の二位 ればさも なるに京 當 中 b Š 左 あ あ 0 ئے 府 外 つく らそ 將 ĺ な 72 0 時 な たには ど侍 0 2 カコ やうには ば 0 ^ 0 h るが 興あ 位 12 御 n 事 h 事 瓶 7 百 御 かっ 事 13 な かっ 殿 せらる一 \$ 0 あ お をなら h 5 0) 如 やう も侍 ひろ ほ 御 るさまな H= 其 2 5 は へき 包 たとり こそ 將 御 扨 此 B < かっ ち あ h なく 御 111 Š 2 \$2 は わ ż 比 12 薄 め T た 所 條 は 中 3 75 0 扨 3 h 5 Ł 3 h 和 W 12 御 < 0) 人 3 ます \$2 どむる人 を三條 6 T n < 日 らずつ 歌所に しき なし 撰 てつ 歌を みお び けう もれうぢ n 8 72 5 0) 社 者 ば ٤ n 12 h ばの よの ば禁 B 此 は 1 卿 0 た n 御 计 8 0 歌 歌 ちぞ h 世 御幸 しきりすてが 入 相 カコ 歎は 侍 3 雲 思 ば 人 合 合 0) T 中 侍り 0) 名 あ 客も る音 あ Ç 申 n Ö ば 63 は T ķ かっ h 73 3 < 三奏け 0 ね 北 お は 此 カジ 御 御 h 歌

たれ

ば

b

見

n

きじろい侍きまたなく もなきにやされどその うつされて月ごとに侍 門の亭にて人丸の なんずることの とて侍きこの なども侍らざりき其 さることにて つよりも此たびは ぼくと申 Ù して見侍 製の な 12 歌 かっ 1. ひな。お たうし給しを人 合 きか 72 3 合 ひ を影かひ 1= は 影供 和] つと ال < 0 よみ この せ給 せら 和 よに 12 心 h 歌 我 3 3 一每月 の會 身 中によき歌共 歌 1-などに いまり 4 入て は 次 內 侍 3 U V まけじはや 0 るをあり させ給しに 0) 大 0) ては 0 ٤ 道 お ક かっ 7 な 年 臣 今さ 歌 座 う n T 0) お K Ł 0 聞 をそ Ü 0 は Ł 3 1= 0 なげ 0 ã) てな 冬の D 御 は h せし あや 7 な n あ づ など 3 ば 4 か W v かっ 0 せ 比 侍 數 影 To E きと よ 目 3 5 かっ せ め 0 給 供 W 忍 0) 11 12 0) D

50 せう 礼 2 成 中 歌 12 申 カジ 80 あ دو n りよ 政 侍 FFI 祝 み カジ 部 T 子 成 奉 11 茂 でと申 重 しうち落葉 代 i 0 < 6 は 3 人に じめ Š てよ 歌 3 め

御ら 御 to 此 哥於 御 お で 冬の ほ 0 きうけ文 殺 け 2 歌 i Y F か h しき也 和 門 す 10 歌 來 h 1 お 3 所 よろこぶそ T 1= 7 は ふせ下さ つぎの Ш 72 なり も言葉 みえであはてさはぎて参た T だひは合手 B ちな 詠 題 3 議 せさ 南 は かず るやが 0 から Ĺ ち は 1 んなり よばぬ らた がう たに 난 木 1 給 ち 莱 などの て御 降 猶 た t 05 てよろ 殘 ょ かっ 御 め ~ W 敦 L 敦 h 0) 3 書 ^ 書 8 て此 C 御 松 にや首 を < بو لن 0 30 歌 垫 11/2 御 かっ ぼ よめ あ 3 合 ~ 35 峯 づ 敦 12 L Ò) をよみ 5 ひやら 歌 書 ば 1 か め 3 ょ 林 3 7 0 す ょ お をとり ほ 人 h かっ 17 Ď げ ず は < カジ T 12

聽 月 Ł 2 題

右

大將

0 松 みつら 風 物とて明す夜 0 月 よ桁 有家 に遠 朝 臣 方 0 Ш

我

な

かっ

ら思

カコ

物

をと計

りに

袖

時

雨る

庭

0

松

風

たえず侍とて

錦

0)

袋に

入て

取

出

T

は

~

る誠

題 30 なじ

春 H 111 谷 のう 3 \$2 木 杤 02 3 5 11 告こで 11.5 学 0)

松

風

聽 H

入

落葉

雅

3

やらて夜を情 20 月 0 休 ひ 从 1. 15 保 ili 李 朝 端こう

j つり行 松 風 雲に 嵐の Ħ 寸 也 かり 3 かまさ きい 葛 丹 城 U) 山

條院 猶此 茂は ことに 此 出 ろこ ず見え侍 りとよ 12 人 何 此 てって 4 کار となくきけ 0 12 め 度は 歌 侍 御 2 3 ね あ n 事 7 b 1 な 3 るを大 0 かか 此 3 3 だに 廣澤 力3 侍 C 宜 御 12 L 8 n は派 納 も箱 き事 7 教 な めても カジ め て此 0) 歌 1 36 70 月 3 也是後 道 ょ 0 8 そこは 0) 夜範 心 37 は 底 して 7 あ 3 づ 計 君 n n 御 1-カコ 文つ カジ 1: 松 12 などするこそこ かっ 0 お 永 1 たく It 1-る る 御 30 から よ 書 る皆の 4 わ かっ 月 H 院 をた H.F 8 は n T 侍 あ 宣 -J-光 L よ b 1 (is 秋に b 許 L < 12 台 てまう か こえ 八 1|3 人 b づ 3 ري 停 T to U か 4: -31 か T 3 か か To 3 10 なは 12 18 0) 來 松、 6 21: 成 葉 13 風 6

h なりこれもよみくちになんはべ よみてひろうせよとおぼしくておくにかきつけた また能 の道をこの 行と云わ むさぞおぼえはべらんとぞ見えはべ か A 出 來 T るとぞきこゆ は ~ 3 伊 經 朝 百 1首歌 0 子 3

カジ これ 輔になされ て宮内 書流す言の を奏し侍 少輔 T 葉 1= 侍し時よろこびに て侍 か をたに沈 ば やが けるとか て北 むなよ身こそ斯 B 面 1= 申つか à 3 は 12 て宮内 ては山 す祖父もや 權 |I|水 炒

3

御

歌

內 0 古 n る跡 も踏 初 つ道 有御 代は如何 嬉 3

將の 歌 道につけて淺 やうに思ひ 5 かっ 市 12 思い如 とて父の入道のよみてたてまつられた カコ (0 何 3 言るい嬉 Ď 御 身のへぞみをとげ合 悪どもなるべ しさの身に負袖に云盡す し定家朝 れて侍り道 臣 h 0 へき 中

ど也 そのこ 小 笹 原 かっ ろ老のやま 風まつ h it 露 3 0 比 ひせめてい 0 にやほどへてつかさめし有べし 消やらてこの 1= も侍らざりし かならんときこえしほ かばとかく ふしを思 ひ置 0 な 御 哉

> ど聞 < なる えしにむすめの申おどろかされたるに御返 かっ

家中 そのたびとげら みて給け なられにきそれがみな道をおもく思しめすゆへ也定 つのくらわゆ 小笹原變らぬ色の 將こぎみまい るされ 歌 to 侍 3 和 て其この 1 き其後あに 節も風待露にえやは たりしに御まへにめし入てよ n しもうちつぎ侍從に の中將成 家朝 つれ 臣 な

5 72 h こ女につけてかやうなるおさなき人たち か 歌よまるとぞ承りしが 此こぎみのはらからの女ぼ お n 5 の道々すたれ ほ るた まだい 12 あ ちま かっ はれ か ことをあは 12 め い此うたの事を思しめすゆへとお なび 3 C 神 たるに はけなきとこそうけ ij કુ なく か あ おく事をたえずあ ぬ御代なりなにば < ことにさる は れと思しめす いは お n と家 ばえさ わすれ けなきより 0 せ給 ものとも うもまいり 風 御 給 猶 て侍し口 心 Ú 2 は 3 つぐ事 道をつぎ げ るにそれ かりの 2 吹 カコ てなし思し をしさよをと かっ て常に候 t 事 3 ばえ侍 和 もをさく の多くまい 跡た らず もす 歌 ば 0 でに おや あ Ö は 浦 3 浪

th T

祐賴 聞 すれ 歌 < な より ざり 子 カ: 0) しごになりて社のまじら 5 をやう きにさる 3 こたら てこよな 御惠あ 息 け 3 て申 U 酮 かっ のことに づらわざもこと一にきは ばまか É 甘. しぞ先のよの事とのみ聞侍しすべて此 (" カ は上下 0 たびてんずら 人になりて後 涙 もを やう社 かっ 13 缺 7 あ 御 H らまは وع せきとめ き御 なし 五 け 來た b よぶ 息 よりき かっ 0 位 官 あ i 恵どもの しく か ~ 3 づ ょ 也 0) 3 ればことの 3 から ることも 常の からず定 思へ カジ 侍 を たお は 長 h 明 とお 世 おぼし ひほ たき氣色也 ん又惣官長よちにすむ ふとも父の るに 和歌 かず ひ位 人 B カコ 侍に鴨長 じどに侍 年 100 もへばいまだ申 もこの t ひもせずこもり は の會に や社 階 なし 御 ない 8 つひでもとめ ^ まい をやぶ 神 12 5 たる人の 天長 とも け 此 たびは たるをり よる 知 0) りや 朋 め 奉 たりとい 事 うたまい らず祐 かず 公 3 Ū. 1 を惣官站 地 ょ のぞ 其事 人 給 なが るほ カジ 3 日 1 0 3 あ 12 رع 60 T 3 Ü らせ さし せる 御 ださぬさ à) 艺 でざる うこう 和 長 2 1h 3 兼 -とき 侍し からら 60 12 0 カジ 兼 7 歌 阴 0 7 र्गा とひ 長 ょ な 15 志 祐 3 合 所 身 Ł 0 カコ カコ 2 社 h 賴 子 ~ 30 3. 73 公 12 0 カジ 22

5

と社 おぼし くい りし さる事にて長明が さらに禰宜になしたは 也されど百官などだに らず當社 慮をさきとせらるべ 1-かっ がたきほどの とも んと思ひ侍しにうつし心ならずさへお る事は お たみ どろ مد د دولا M 事をむなしく 0 めしてさらばうぢ社 きこえで程 光な なし おぼしめい にかぎらざる事 り侍よし 和 たい 御沙汰 ばか くうた なし 和 ために氏社の官社 へて十五首歌讀で参らせ 吉川 歌 73 tz たりまいて神宮な <.. 也長明が 专切 は 0) むとさ い事ともおぼえずい ことの 1 3 也 10 てじと 上上 ゑなくこゆ 長 此 これ 12 は前 1: 則 む 社官本くら めら 社 もようこ は 11 お へにめ を神 を官 兼山 ばし 别 12 る 身の 虚ことをよせ 市上 條 るにもまづ神 め にばえ侍 以山 をは 60 になさ 1, 到 づ ナこ ナー りき -13-成 13 3 وي t 10 3 216 b 1-しま 211 12 h んこ れし あ 18 12 1)

るよし 12 住 終夜ひとり深山 は 佗 仰 召 Da 出 け 50 1 12 や太 12 歌 12 侍 b Ш の傾のはにく 0 3 次 御 槇 歌 th 葉に昼と言し 合 月 の侍 3 B 1, るもす ふ題 しにことに 月 を見 (1) 3 有 Ti. 3 明 よめ 月 30

中

h T 5

うち 此 消息して侍し よと ひ S なる心哉とおぼえしかとさきの あ 琵琶をもたりしたづねよとおほせ侍しかば大原 か 歌を思ひ出てげにや深山とよめ 此世 りされ けつ心ちしてぞおぼえ侍しその、ち出家して大 おこなひすまし侍ときこえしぞあまりけちゑん てまことの 0) 当 どさほどにこは か 思ひ ば使に 道 あはせられしならんかし手習とい E つけてまいらすとてばちに書 お もむく ぐしき心なれ 世にか ~ き契ふ 3 あ は \るよすが か n ~ りける ばよろづ 1= 世 A 12 申

其 後思ひ やせ ılı 是なみる袖にも深き露しあれば拂 掃 斯しつ、峰の嵐 れを御 深く入にし人を託ちても年の ふへき苔の袖 おとろへ らんじて返事せよと仰 かけず對 て世をうらめ にし露 0 面して侍しにそれかとも見えぬ程 音のみや終に我みを離さる しあれは積れる しと思ひ侍らざらまし は られ 月 n しか 塵は今もさなから を形見とは見 塵 は猫 ば もさなから 3 h

つけた

h

うた

かゞ

0)

て歌 しうきよを ばゆらんいとをしさよ てがたき事にしていさくか んずる也とぞ申侍 り出てこれは 0 かへし書たりし琵琶のばちを經ぶくろより 思ひ捨ずくこしのほだしに いか し猶心に にも 苔の下迄お なじ所 さまたげともなるまでお いれたりしことを思 もこ (= n 朽 かず S は 侍 す 7

ばふ聲 と打まぎれて心あはたいしきに君は何 思ひ出てこよなき所のさま也わたのべの橋 そこはかとなくきよげなる濱づらに小 らの御宿につかせ給日 まことや一とせみくまのまうでの んずべきなどか に見てしが ふしめやか きかふ駒のあし る緑深く見え渡りて風 哀 りなりけ て御船に なるさまし K 3 なとお なるに 耳かしがましけ てのぼらせ給ひければ御舟よそひ何く か つは 8 おとおどろく ぼし 只 むかしのなが ぐとなが 名 わらひ申 ばか め 0 は Ġ 音すさまじ 入かた近くなりてこよひ たりいづく 5 れど御せ あへり御まへ F めさせ給 聞 らの橋とかやは しくふみ わ 御よろこびにな h 72 < の邊は 松原 3 打 ふは となきところ をさし あ 0) 0) 3 少將雅 してかる 何と し舟 は とを Ŀ さら 此 72 わ ょ W Ł カジ

源 家 長 H ÉC. かっ

うき世のやみ

ははるけず侍なましこれぞまこと

72

朝恩に

て侍

かなと申て苔の

一袂もまことにしほれ侍

け 57 ば 水 12 ]1] Ze 0) T ると 中に 底 1 也 0 0) 5 候 3 7 多 2 カジ かかい ふね くろ んを 申 te 0 b 傳 南 何 3 らす 橋ば カジ 6 俄 南 よと思 持 b すとて 12 せ 9 1-かっ 6 け うこ t これ b 0) かいか 7 3 侍 也 3 0 2 給 1-か 舟 h は 0) 0) た ほ す 1 3 て二三 13 11 叶 3 12 T t) かっ 乘 仰 b 3 12 てと る 1 出 ^ -12 E 12 力 ō 柱 H b わ 持 th から h かっ h h 先 72 0 3 け た 13 0 -也 b 4 た 12 加 3 かう 候 10 今に 15 侍 b 14 3 人 ・ずまひ け 浦 艺 あ 侍 朽 人 0) 思し つた 18 た 4 b かっ 3 11 7 25 成 3 3 見 1) 船 3 历 水 此 0 13 ^ 513 12 橋 寸 侍 L 15 ٤ す 京 柱 h カジ \$2 7 此 H ~3

庭 御 是を文臺 あ 是迄 せ ろ う よと仰 ٤ ち 2, 道 せ 0 当 あ 御 かっ 13 T 10 御 7) ゎ 3 和 御 ~ かっ 12 h 6 12 b 歌 代 河 1 1 h 0) 所 0) 0) 侍 2 1-深 橋 0 か は 37 h U お 7 で かっ 江 b 5 五 1= か 3 1-侍 殘 ケ け 君 7 H 3 3 えし か ば 字 B 為 산 12 かっ 3 治 E & T 15 は h ^ 3 3 は C 朽 12 わ 橋 13 殘 Da め 72 3 水 ち 12 柱 け 4 70 0 3 哉 h

給

は

初

秋

0)

風

松

0)

か

すご

W

3

侍 6 2 5 打 5 W 3 1-け 36 0 Te 3 3 36 あ わ るじ 35 きの 3 和 つく 13 h 1 す 0) 歌 0) 府 どの をち な 0) 3 心 そうざ しばそく か 御 ιĽ 7 0 1-たら 會 人 1 づ か 御 2 12 0) かっ よく 歌 0) 9 D 37 南 人 3 す 比 力; わ は 0 b 7 3 2 な + か 0) まし 此 17 給 [] b 111 なが き御 3 2 1) 25 70 E かっ ~: か 册 ば 6 かっ 心 カジ 今更 世 Ł 0) め b 橋 どう は ひ橋 h よう 柱 わ 82 ども 文臺 -; (i) 业 10 きよ 3 數 11: 1) 用 12

のよ ぼ 橋 ぼ 5 0) 3 ぞの らせ T 12 今夜 13 姬 0 御 は 15 (3) 37. 比 とも 時 3 カジ U 給 36 1 は は 72 今 T L もやそう なひ え T 10 な め h かっ か は 殘 ば は h  $\wedge$ 7 御 2 6 心 111 12 ılı 3 to 3 b 曾 3 4 を 5 給 ō 僧 7 4 侍 0 1 12 ]1[ す たこ 此 き今 < 1-33 IF. h す 道 は Tis. U 年 1-力 0 月 方 12 2 ぼ (= 0 行 カコ 殿 包 130 位 7 末 力; 3 長 0 0) 4 け カン 12 8 8 3 a) 枘 C 道 T 6 b 橋 7 1: は 7 3 から 0) 3 け < 賀 13 延 かっ 此 1. Te き 0) ょ 2 か 光 0 7 12 0 12 見 水 8) 3 3 2 2 J. 3 To 战 15 か

とて 霜 n 月 る め 0 18 É -11-例 n H 侍 あ h T **り**三 和 歌 日 所 とさだ 1= 1 T 8) 賀 6 多 給 和 てまづ ~ き仰 屛 を F 風 0 25 歌 3

攝

春帖

政

Ш

しし のに衣 草 をくりはえて幾日ほすら 御 Ñ の香 製

H 萌 2 迄 3 花 は 春 梢 日 な 0 野 かっ 3 ^ 0 Ō 草の 山 .櫻 Ŀ あ 一に難れ 古 は 面だ 雪とそ花の とても 有 家 雪の 朝 کم る里 村 臣 消

公鳴 郭公 聲 1= 小 夜更 T 臥 か と見 n は 前 L 大 0 納 1 め 0 忠 空

숇 0 尾 五 0 月 瀧 雨 0 白 玉 千 代 0 數岩 根 に餘 雅 る五. 月 雨 0) 經 空

秋 帖 月といへは 返 h 秋 納 驴 納 凉 凉 宿 1 來つく る影迄待物を露ふく暮 楢柴や 暫時 0 秋を袂にそ 女 女 房 野 宮 內 0 秋 卿 知 岐 風 n

秋 0 月 紅 葉 きを 五 n は鵲の渡せる橋に霜 HI 大 僧 Œ さえた 慈 圓 3

御

製

冬帖 詠 8 千鳥 0 1 心の 色を先つそめ て木 葉 女 1= 松 房 3 初 胩

來 つくなけ 我住 方 の友千鳥葦屋の 重 0 よは

0)

雁

金

後

雨

哉

氷

秋 をへて宿 りし 水 0 氷 n る を 光 に磨く冬の 俊 成 枢 0 攵 月

雪 定

家

朝

臣

み 此 1 U 御 カジ め め どものすくひたて、ぞのほせ侍 きなげしをもえものぼ 三位定家朝 太政 7 題皆よみ け ななほ 12 座 72 花 て此 やまの は攝 2 かっ T とすひん をま 大 省 1 いまり 一臣それ 政 歌 づ 跡 道 てき 12 臣 也 殿 0 1 えり を尋 殿 心 12 あ カジ 0) かっ になら 上 1, け 12 座 ^ 5 ると るに 人 とす Ō ひき すけられ せ 6 る雪の دن はそくた かうし 給 た せ 心个 1 か à りやら あ びて北ざまに 和 3 色に は 歌 せ n は お 7 12 72 るしう世 てまうの 所 7 0 でひ Ç 座 ろ かい 繪 たり 年 0 入道 し去とね かっ 0 南 所 2 た 1 L てこの る せらるこのし 0 じけ になが 公卿 を人 道 Š ばるた に攝 やくま お か 0 ましよそひて なく のう 72 3 政 屏 ħ 光 5 をそ h 72 š 風 きか Ł 殿 n 6 なら みえ侍 ける よろ ぎり 1 7 は 見 あ な 新 かっ る

源 家 長 H 部

有家朝 その It 臣 さのう 也 是ら たは Z 72 3 b 女房 重 座 10 ほ うぶ 0 占 1 人が 內 3 くすが 卿 らを ほ j 5 it 思 給 tz < \$2 15 枝 的 b 0 3 杖 3 15 3 tt 5 3 か たは 3 ~ かっ 3

てけ j や嬉 敷 老 0 波 八 千 代を懸 T 君 1 仕

3 入道 つぎ 源 大 が 所 百 1-納 朝 作 T 年 臣笛 その 入 言 人 2 0 通資は 道 は 近 h 0 2 5 T 納 シよ <  $\langle$ 5 1, 房 言拍隆 頭 6 坂 朝 せ !-中 1 臣 んに 子房 將 す お 突 和 73 初 公 權 6 さぶ C T 1 朝 T 宁 12 能 型 篳 築 新 言 統 家 雅 臣 3 行 3 0 祭 その 13 な Ŧi. 末 位 るやくそう b 3 1 殿 御 かっ ち Ŀ 3 1 Œ 御 人 礼 とそ 遊 13 一位經家 殿 3 13 10 1-思 せ 0 2

これ T 和 歌 は 多 2 な お 歌 0 道 E 12 づ 3 は 12 3 人 12 御 也 御 遊 お は b

近 逢 附 T 花 -杖 唤松 0 ょ は 猶 0 も又 跡 に越て 、君そ千 年 見 叁 の導 10 議 なり 老 大 V 坂 3 哉

け

Z

百

年

0

1

B

3

限

數

\$2

は三

1 6

3

萬 É 10 年 3 0 た 過 行 八 を君 2 多 かっ 始 6 3 山山 in 代 かっ 35 本金 心 君 祀 かっ 御 3 10 1-[11] 批 は

此 定 Hi 行

末

0

當合

は

1

君

かっ

經

h

T

红

た

松

修に

KE.

\$2

T

百 年 1-+ 年 及 は n 芸 0 剂 け 2 0 心 太 دم 包み 政 かね 32 3

老 かっ 代に千 111-經 h 君 を待 付 it t ella El 0) 仙や身に

動 な 3 はこや 0 Ш 0 3 隆に T Ŧ. 41 大 0 友と成 糾 ifi 好 行 敷

儿 + 0 J は 7 te 君 に譲 T 3 猶ころ 秋 とる人 iji. 化

łŸ.

大納

1 3

泽

Ti,

干 代 0) 導 0 儿 + H. なこ 12 3 113 納 るも 兼 嬉

權

1 3

納

公

則

君

かっ

~

h

例 とて 群 店 3 鶴 0 弊 7: カラ 6 滥 かっ きる 君 カジ 御 代 议

なきは こやの 山 0 隆なれ 11 干 年 0 坂 權 3 1 1 稻 納 越 n 箱 光

2 12 III. 海 洞 猾 波 ナこ 左 1 8 沂 君 1/1 將 カコ illi 代迄 光

參議 みちとも

數 へつる君が八千代の蔭なれは猶九十又も逢見ん

わ カコ 0 浦 に寄年波 も數 しる御代そ嬉敷老樂の 正 經 爲

從 三位成 家

有 家 朝 臣

秀能

なり御か

~

b

此杖は

わかには

あらず我君の八百萬代 かく奏せられて侍し

君

が代の苔の巖や無

は

てん空

より

お

ろ

す羽 の峰

衣 0

0 袖 為也

八千代を思ひ遣哉

九

千

弘

つをみ

るたに嬉敷に君が

一樂のさか行道をてらす也はこやの山の峰の 月影

君 石にけ ふ十 年の數を讓り置て九返りの萬代やへん 定 臣

舊にける松もかひある常盤山千世に千代添君 ねみ ちの かみ あそ 一陸に h

代に松の千年も斯そ有心古木の花はけふ咲に見 賴 臣

君が

君

カジ

代

は昔

13 かへる老の波なほ行末もわ かの浦 カコ 風

ま

3

和

君かへん千年の坂 を待人の鳩の杖をは突にそ有け る

濱干 跡 有 事 0 絕 n 世 1: 1 H る貝をばけ ふや拾 長 h

72

くみなりしさまはこのよにたぐひなくや侍け

**外方の雲に榮行古き跡を猶分の** ほ 3 末 るけ

鵬

長

明

ぶく 事はて、曉が 久しとは松をも言の御代に逢てこを老樂と思さる 杖などつぎの たにお 日 0 のくっまかり出 あし たに おくり 30 藤 0 かっ カコ \$2 はす たる 御使 ほう

返しせよとおほせられ 8

さば 6 つぎの年 月はなやかにさしいで、いと竹のしらべの 晴てあらき風もきこえず夜 此こときしか 撫果 はりもみだれざりけりとぞ聞え侍し か 八百 かっ な b る夜のさま也ことしは ん苔の岩 萬 0 冬比にかぎりあ ろに 3 た行 のみ ほを例にて千代もか 雲 ねの 末ありがたき御惠也さ こそし 峰 0 み深 n 杖 南 ばは 建 けが 猶 仁三 くも 3 たち カコ かなくなられ のし給 一年にな 3 行 あ か 和 h きに は 道 るは空さ J ん侍 ひけ n おとめ 0) 天 世 5 0 72 る其 12 h 三月 373 め 衣 也

言葉 見え侍べき入道うせられ たちよろづにくらか にゆかしう思し どへてのち申 かさまにせましとのみ思ひ りしされ 春ごろよろこび るげに 15 まいらせ 僧 わ どその を入道 よみ つかは 給 くち 83 (,) 3 事 せ して侍 单 侍 郎 され 2 たこ きこれ 0 370-2 りし 北 82 おとりはえ見しり侍らず 中 たり 將 か 俄 て後此 かっ あへ たは 返 を身には 勅判に から / に歌あはせ有て せ給 は なもあ り入道 人も 10 かっ づく te T T 6 侍 のし給 か 侍しその 10 の服 とら がたくみ 0 か け りてや カジ もの ちめ 君 はずばい ñ やはた Car. 御 Ł し給 はべ つさ程 には 判 30 申 b 0

返事返事を当のしほれは結ほへれ春の光を如何問へき

也 命 か 今のてをみせたてまつらぬしでの山ぢもやすくはこ 此世に 世 0 やうに ほどなら 30 てた 申 せ 0 ち別 問 12 n かっ 事の ど別 は 32 3 日數を數 しなどするたび たひ侍 0) 口 / 道 をしく をだにい 13 けれ たれ へても のみぞ侍をしか とによる Ł なにより 折恨 1-0 か 敷椎 なじ 13 もこの などこそむ 貊 3 な 12 柴 げ 入 新 ~" 0) 30 道 袖 古 3

行ら おぼし かな しかぎりある路に 給にき此 鄗 しるしもきこえずみ b ばかりかはなど世の まじき命のほどだに え給ざるらんかし一年の りことも させ給 めとふりすて しくこそさては かで給ひしこともの りのことく へばこちたきまでの御 後よりうちたえさはやか て消なん露 しもちか たちもい しう待 ん庭の めすら にきならはせ給 例 へのうく思しめしてつぎの b かにはからひ給に < るに け ならぬ 0 タく んと 1 しきも思ひやられ 1) 候はせ給 5 わ 御 0 で給 誰 もおくれ かっ 8 御 かっ 礼 たに るし よの 13 と付 て今更に 4 < もうちし もつひのごとくな 13 1= 1, かっ 37 かっ なり給 後この せ給 うい 62 ぞわたらせ給 聞え給 ほとけもすて給ひ八百 のりひまなけ なきを思ひ かっ しが 社. じと 御心 b 百 思ひ出 かっ 10 省 的 御 おもほ 3 136 にい 思しめ ざり 事もなく て侍 めかされ b つひには 3 ひてまか 子うま た 人 出出 3 か 17 0) 日またとう水 あ b 35 さまなること しか るに 此 12 12 かっ 12 ふとうけ れど更にそ つめら 1) 也萬 i がて絶 T 3 さるこよ かなくなり カコ T 13 やや h 2 13 12 を げ かっ からり かっ 12 侍 まし 当の 13 3 あ 八 かっ \$2

御

うに 打 しこに ん人めは 瀨 ひたり峰の松かぜも岩間の かせ給ひてもとみに ども御けしきはをさく 吹て曇わ 殿 つくさ むれ わ 10 72 2 び 5 カコ 72 御涙 つくし h せ 給 て思 る時 やすくませ給 2 神 も出させ給ずたれ 雨 めやかに時代 め 無月 の空 L b 水のおとなひもいと n 0 しるか もくよほし貌にや思食ら 比 ぬやうに なれ £ の物語 らん其比前大僧 めり水無瀬 ば風 . 8 もてな しつ ひや させ るわ 殿 1 1 12 か 4 īF. あ かっ 0

歎か 忠な せき 大空に覆 佪 これはよなさそ習ひそと思へ共歎く心そ結ほ 何 E となく慰むやとてきた しと思ひ取に 迄 返 ん中に今は る計の 2 時 去らす貌 12 7 て過 in る山 袖なれや濕れは る袖 月 と思ひ乍 のかひなきに し心に の宿 にて過 峰 の上 3 一室袖 か ir るみ 過る月日 も變ら 5 とも時 80 と鹽汲浦 n かに より外 を情 月の て時 すなが III. 雨そ か 0 雨 すへ に打 心とや 恨 n 0) 蜑 增 の驚 ら濕 る め き有 る冬山 しの に問 人の なかめけん 1 いれ管 貌 か る うよや 袖 なる す覽 はや 言覽 崩 哉 里 月

せ給 時 給 0 1 けしきなりしに思召あまらせ給たりける此御歌 とぞき 草なりやと思食 こそ 結ほ とに B ふるにそへてつゆわすれさせ給は ぞみな 驚かす袖の時 乾かなん時 亮けしな恨 君が袖今も濕へき時雨かはと思ふからに晴 情なしとみる人も非しみなせ川せいに 是迄も戀る我身を憑まなん君は忘れよ我 思はしと思ふ思ひはそれなからぬ 終に猶嬉 京 ふべ 御わ b 角に慰まてし るへ君 へか へ侍しさ ずれ でさせ給こそあらは きを何となきよの 人御心 しさ包め らせ給て後に若宮のまい みは . カゞ か 雨に濕る夜年の月鹽汲海士の 心 6 12 ばかりいろにいださじと思し 雨の夢のよを覺る心に思 のうち 思しり まいらせあは みも h つへき空ならは曇こそせめ 0 á 解 かしけふことさらことは 8 中々 如何 る 計りさそな習を変にてそし へ袖覆はん空の月 あはれさはえね なる御 せ 1h aĽ. 空 る覽袖に我 物思ひ しき空の冬の 3 ぬ御けしきの時 洩 らせ給 しく 行袖の氣 ひ もよ も亮 袖 は忘 h みえさせ 如 あ せさ 有明月 でぬ大空 社 め は に譲 何 みせさ りし 色を ほ 年 す せ i せ V Ш t H Ł ょ < 里

御

もとに奉られ

し歌侍

給ずや侍け

h

わ

か宮まい

らせ給などき

一侍

L

日

は

大とこ 物 は < 3 春 72 御 かっ あ 6 礼 お 語 此 カコ 游 は 心 人 S る h ž 3" 歌 0) 人 II b も V E な 10 12 0 0) 别 \$2 18 程 な な か 車 78 過 43 有 序 H 南 75 Ď から きて歌どもこ と見て 3 輛 2 b 1 b 消 h 南 む花 4 忘は 女房 まとわし は は 15 6 お 7 カコ \$2 たくまことになき人の もう ぼえさせ給か 111 j よ 人 h T 3 叁 1 1 1 3 12 打 3 てさせ給 12 け給事侍き岩き御 ちな h も年 世 枝 乘 大 か ば 3 ち をり T で T 内 あ 0) 0 8 (i) どや 連 な 35 にそへて 習自 どさぞ b かっ る は で 0) て歌 歌 女房 かっ 花 7 心 n 3, T 12 15 < な うり tz かっ ~ な 侍 かっ かっ づ 12 かどし t か あ 多 な な かっ E b 5 h n 8 1 12 U n 3 月 わ め ば は お もとより b あ お 侍 より ほ H 御 す るを かかい やうな < b 日 n は か 心には ば今 1/3 h n 數 1-3 心 20 せざら 0 將定 T B は ż カゴ 扩 Z. 思 T 1-とやが E g T į, 13 12 かっ あ 12 3 食 見 お ば和 なく か きな は 0 ま かん 0 んう まし 家 から 12 ょ B 1 け U T 12 7 70 n 0 0) 1. は 小御 なづ て引 花 歌 過 1= 3 ٠٠٤ 12 1 h 3 35 か to L 御 3 思 0) 3 所 1 かっ 12 カコ 난 냂

を

12

とい

は

も畏

L

機花

飽

Da

包

7

70

袖

1

任

44

7

多 御 幸 馴 L 花 0 陰 舊 行 身 をも良 とや 思 S

72

b

より きて 8 は 侍 れら 木 5 中 T 梢 かっ 花 る は 3 は T よ 枝を 作 L 中 7; 法 など 、原思の は 也 b 3 大 宗安 II: 内 て給 T 丛 かっ 11 3 ılı 0 しら h 人 根 か け な K 風 0 13 n h B とす 人 あ あ 护 12 御 3 b 北 所 1= L は T 女房 侍 か 8 b 0 3 h

て待ら ざり まし 返 雅 彌 ~ 0 T あ ŝ, 誰 りに しも 御 きないから 3 生 3 3 經 幸に 当江 W H 13 12 0 0) の事 + 侍 きして カジ È h U るこそ 花 門 ち L H 0 心 かっ より を記 御 < 12 ぞこぼれ か 人 とまる b もやすきと誰 n いまり 霓 3 りし 花 П L 12 15 ずべ 超 とよ 見 か 吹 n 歌 かっ 夢 0 1 0 1-お < しと ば笛 L 3 it 引 かっ お 月 め t i は せに b 0 礼 C 口 0 8 やう H なや をし な 0 h 12 をとり Ł / てま 0 ほ 3 0 なごり 北 T か が [11] 3 43 歌 3 わ かっ など は 5 70 かっ 出 0 か 1 à) t 18 T 7 ほ も 3 す 110 h 22 次 tz 間 Si 4 D 建 30 給 373 3 出 0 h は る 3 本 b あ 1-1= 1 3 よ T PH H 3 11 T 給 は かっ 3 より 寸 かっ 此 かっ まの 笛 } b 1/1 1) 5 小 6 將 將 82 10 食 かっ 1 から かり

き道 門より L 時計 御幸 より をとい げに な 6 馬 b 車 は めよと仰 るをみて けいけんきうはくの塵ぞはずと 多く らせ 御幸 るかな ゆきちが 南 る心 b もとより女房どもわけ ふ心もとなげに あ 忍び 礼 ばまかりて ちしてくつの聲 一つ仰 ふは お あ 7 b い お つれ ぼ S か 人 ħ どこな さは 8 0) おも め いそが 参るな r J ぎあ たこ J. 12 n H かっ は ば近 待賢 3 な 3 12

御す 人近く 口 1 まかせ 仰 7 は 10 ては て あ b 召よせてむげにのこりすく 紙 ili れ な 吹 ã) てさし ならなちりそ木の どめ 10 人? りとかひやな 3 歌を 事に申た 1 12 に紙どもを分 よす h L おく お をたびた かっ 其 0) らし 3 バびの たぶ花 h かっ h 歌 なくなりに ば 御 つかまつ 製 さて花下に人 枝をりて文

花

な

から

もとを

かっ 2

政 かっ 此 殿 H 天 らせ給しに 津 2 をもたせて三條坊 たに 参ら 風 しは せ も庭を盛 給 散た 吹とち と移 る花 2 門 よ化 6 にわ 70 3 花消 機雪 御 to 砚 12 た J らせ給ひし すは有共 のふた 散 か 2 1 雲の 雪 かき かっ か ばま 共 集 通 見 に攝 0 ょ 路

> ば て侍 3 72 でさせ給て御手づからとらせ給ふ御 しを分参て此 1" 今御 院 整とて よしを中資 御 せ h 御 朝臣 す 13 8 U てけ h 庭に か し侍 なみ ^ 72 かっ 5

と聞 2 733 誘 E はれ 待 0 P 人の Ħ. 節 爲 は とや残り剱 美濃國 1 いださるべし 明日より先 0 とて 花 の白 か 72 雪

朝臣 むすめかんざきのいやがおと、年ほ され りと દુ わらはども尋て我 よしを仰られ じほどなるをえりい à たりける人をぞ思し出 したてくまいらせさせ給其夜は忍びてわ よほしに隨ひて院司たちもあ ずにつとめらるべきことならぬをこなたか た其いとなみどもぞ侍院分の國などは かひ 申 のむすめなり郷三位 どことよろしきいは 何くれともよほす間もなしましてすくみて 南 もなか ることしの て此 b 1 B 比 ださる舞姫 は かっ ば遊女にて侍き江 殿 五 上殿二 と夜毎 節 0 上人諸大 てわら は大かた出 は 一條の殿 する はに は前 まりの にまうの みて 夫さも 大膳 20 どたけだちをな は ささだ 御 來 御心をきて 大輔 沙汰 カジ かっ 南 たら 此 まり ぎり 0 た h 崇綱 より 先 L な 南 ØQ. 有 せ給 お 12 かっ あ 支 0 かっ 3 力 す b 3

るべ

35

B n きとて

るが せば もち בנל 陣 出 ورلم られてあ h されどもゆへく も盡してざれ L 1 T 0 みじろぎせぬまでたちこみて何の 仕せらる又さもあ < かく心 役 うしの き所 0 みゆるほどに車どもさしよせなどするに棄てよ んくう六人近 光 りまふ きれ T ひるよりも をか 侍 1 **るこぼれ** あ は 12 b け かっ す しに 72 りて中 ねてより仰さだめられて侍きすみと は るより外 しきさらに殿上ゆるさる右衛 殿 3 < 0 to づきの 御隨 b は諸 72 T 上 はしたなし童に さうぞく あまり 々御前 朗 ねべきこわざうち b 人うちむれ つね 詠 のことなし五節所のよそほ 身どもつらなりたちて 大夫也殿 女房は有家朝臣 たちこめてた いまやうある夜はまひさ 3 0 せ いち めし 3 0 Ŀ 4 つくさ 中將 色あ よろ 人かず よりも つくべき殿上 に立 ばか 36 Ĺ ري ひ づ もは 萬 b は を盡して 72 御 りほ 也 よりて のこと おしを カコ 心 門督 立 えな な 舞 お 人 3 بخ あ 姬 É

כנל 櫛 しくしとり のさ てそ で 君 かっ 待 泛 n ٤ ける豐 T 0 諸 人 數 多 か \$2 共

櫛

のさしても何

か

憑む覽豐の諸人數ならね

身を

E

0

かゞ

は

1

h

萬 h U) 公事 かっ 1 ども 3 御 沙 2, 汰 3 も侍 きに る カコ な るべ 3 3 1 御 心 か 7 0 ã)

所

しに 元久元 せ給ふおり 心まどひども侍 て萬にたどく てにつねふえつ まなびおきたり そばさせ給べしとて常には あるほどの んにいかでかたどくしか しよりうちすて、行 72 n たぐひなきひいきにて侍 きしは からひて きこえ侍 づくりか 心 しらべ 年正 お もとなげ 3 月 させ いくも 弊 人の は 12 かっ L に朝ぎん なら 0 かり ~ てよりすり かぎり ¥ 賀 しが 御 給 1 しく 常にも人の かうまつれ びは ふり 人 E なくの h 3 b 12 思放應樂 のみ 衞 くどもへ常 たて 理の ば は しこそ 思 なくなりもてゆ 1 しみ 行 玄上 お へしり侍 かっ い ^ ばえ 幸有 b h 72 ぬなしてう らず侍べき行幸 おぼえぬ ならさる など侍ぞ今 しもの L から す ね な 待るさ 1 な 侍 かっ ど申 1-1 ~ h な 11 しとて ば かなひとくせくら n なきまで 給 ば 待 物 か n / カコ ばほ をひ 3 くに 8) 御 b 12 更 0 よろ ども こみ 吹 は な かっ b 遊 京 かっ p H 3 5 は T ٦٠٠ カコ 10 御 極 から 3 す 산 U JL. かつ T かっ H Z 1 CX 殿 7 な は 12 1= かっ T 地 0 御 12 h あ 1) 心 かっ か

跡も れた

4

め

か

の行幸は正

月九

H

なり雪

み

りて

になみ

ふる雪をはらひか なる廣き庭に左右

ね 近の

たるけし

きめ

つかさ じくふ

左右

8

也がくのほのきこえてときづかさの

みた

るてうしの

りなるべし糸竹の道はまづみくぎくのう

のそませ給ふことは侍らざりけん此度は

なる御ほどにわたらせ給し

か

あへる

さならせ給こうもつもらせ給へればか

12

べことは 御としも

か

ノへの事

也

とて御聲を

おぼ

しめすまくにい 又ことてうしのそれ

づち

8

カコ

へさせ給

す

4.

にいださん

ちにうか

べさ

へるなりされ

13

5

か

な

3

n

御

とこそ二條中納言たび

< せ給

おぼつかなき所はいたらせ給

**~こと**ぐさのやうに

申

あら はず 0 べて六てうしの中のさがりもあがりもたい御心のう

びはは され給 えつかふまつりなどし侍きその時さすが ず其時も藏人にて侍しに御ふえならさせ給しに き侍しされ 0 御 いかることはべりてこもりるて人 三條殿 事 ど御笛は其後打すてられてつね 12 ひすぐ へ朝ぎんの行 なしなど申 かうの あ 御 b 時ふえあそば に御としも づてにもき しにその 1= 3 侍ら もふ それ つ

ば かっ うまで御心 らぬ人々 る折とぞみえしひくれは ろに渡らせ給 さはぎの 御びは トしる所作人は おほゆかの 太政大臣和琴 ひし此世の もとへ V て、御遊はじまるまひ人さ たちこむほどのいまひと かりは今の御時きはまれ 左大臣

いみ打あはせた

つ程

少納言す

いの雪をめし

n

る姿

さへ

ぞめ

といまるにや春宮も出させ給てみとこ

朝臣付歌 宮權大夫 皇后宮大夫笛 侍從宰相<sup>鎮策</sup> 右大將<sup>第任</sup> 有 雅 東

業が ぼく はめしいでくみなすりし侍りき玄上をは きまことや行幸の さる、 そねみ思ふ人おほかるべし其比名だか 今で思ひしり給らんまことに重代のことにもあ 信 る也二條中納言そのたびの御びはのしやうに子息 當世に物の上手ときこゆるかぎりをゑらびめされ 申させ給 奉行にて此御比巴どもひろ御 馬、良道、木魚、小びは、とばどの 階にじよすとし比この あで、<br />
あけう、<br />
元興寺、<br />
うちの て新宰相勅使してとりいで 御遊の御ひでのしらべめづら まれ 所に 寶藏に侍 か 1 ひあり 寶藏 きふ てすり 3 め 8 るき しことは から ٤ 引 攝 b 御 5 かっ 兼 12

そふせよとおぼしくてるよしよにのくしりあへるをうちの女房はくきの局

かへしせよと仰あればしもつけよしといは、甚ら畏し津の國のこや前の世の導成覽

か 佪 L かっ 世 rj Ž. よと仰 3 今 あ 3 は 例 なく雲の しも 上迄ひ 1 くしら

多

かっ

Y

おなじ院の右衞門佐といふ女房又何かいる豊も令も仮るく雲の上迄ひへくし

かへし又下野承給る

人の でが 此 < そのは うちたえてよめ ょ 女房侍は むと聞 皇后宮に候け 下 歌とて 野は祝部 12 るへきけ 3 3 T からしとい た 食け かっ 八幡別當光清 少々 比 1 5 るをあまり心 成 な ナこ 見え侍 思へ み侍 法印 などくも仰 仰が 3 御 な 幸 がこぞ比 b 幸 孫 きつ り八幡 0 清こ され カジ 政 L しをぞ新古今に 行 3 孫成 1 1 末 しとめ 0 n なきはほ ばにやは かっ カジ 111 清 娘重 御 より より候とか しこくまめだ 待とる君 歌 カジ むすめ まろ 代 合とて侍しに 外 0 かざまよりその 10 0 かっ いと 人に C かっ も入られ 千 3 や又辨と申 よろ 也 代に任 なみ ちて これ 侍る 世 給 も歌 侍 ひて 打い も歌 び申 も もと せ 2

> にて 12 h ども程 せんと申 参り より逢人 なく 侍 から か T L けに 校 かっ もす ば の習あ 八 かっ から 幡 がら歌物 12 へまうでた は名残は 2 カジ L 12 T b 3 つきす 0 1 て長 秋 か で 秘 は きんど 御 削

又住より 思ひしりぬ習有 かから C け 1 る秋 夜を H こもり 我 身 に残す T げ かっ 東 3. 信 1)

道 君 よりまた か邊遠里 返事 申 小 0 かっ 野 は 方於 す は よに 任 11 3 店 -63-\$2 --

な ふし時につ 心やすき る 住 心に 吉を立 かっ 1 12 け は 返るにそれ つい 3 0 狀 1-1 3 よみ か 遣 专 1 1 か 思 h S j b 3 小後 カラ づ たく 浅 澤 か 聖 かっ 3 0 1-12 82 6 見を 非 3 寸 彩洁 は は te 折 [4]

て先中 より より 新 まくことにけをふきくずを求らる五 古 今の ぎ心の H 和 のく 歌 きば 部 所に 類 る とまも ·T をは か \まで手 b より 10 b って、 A T な į 12 此 30 たの す ち こな 四 ~ Ö 月 < は 1= T 此 侍 あ る あ 歌系 3 こぞ き心 0 人 は め 撰者をの 3 かっ T 3 0 37 Ĕ THI 4 陪 な 給 南) THE 3 11 < は 3 思 か 0) 3 h 比 食

侍

水

殿

わ

たらせ給ひし比あなが

ちにたい

よべ ばさばかり所せげなること侍らずくべて二千首にを 寺の法師ばらなどまで此道にたくみなるはおのづか ずたい歌のていをさきとして中々かずならぬか に人がらのたかくしたりかしこくおろかなるに ほど、はおもひまいらせざりしに心みよと仰られて ありがたきまでおぼへさせ給へるされどまさしうさ この歌どもを御心のうちにうかべさせ給へるぞさも をかきいだしたるをよせてびとつに部類せられしか らもれざるも侍べしその五人の撰者べちくに御點 のちそれを又御覧じて三度までかきいださるまこと せんじあげて後ことべくしく御覧じとをしてその中 昔もためしなき撰首に侍ればさりともと思ひ歌よみ をば皆おふせられんとて一卷をひきかへして上を讀 部類したるを二三句とり出されてかみをよめばしも なるか 上れば下はことべ を思召 さもあるを御點有て左近將監清範かきいだ るをそこら御覽じあさかへさせ給へればみな たもはべるたいかりに二三度御覧じたること 分ていづれ わすれ給ずまして度々さうせ給とてよしあ か御心 くにくらからずこれはことはり の所々にといまらざるべき して よら た 山 也家隆

げに思食てこの比はかやうの事の耳にもいらぬ也新 をさきとせりか て此刺撰にはやまひ有歌などをすてられずた のぬれてや鹿のとよみてやがて此集に入て侍りすべ さだむることはめしよせて勅判にをよべり家隆朝臣 どして老少をわかちて歌よみてつがひ侍きか たになりたりしにより人達おの まり心うごかずといふことなしさて部類 やさしくうけ給りしはかなき御たはぶれ事も耳とい 古今の部類をはりて耳はあはするぞと仰られし せる大事にはあらざるをくりかせ中侍しにむづかし かなと申あへる職事のよにことなきことの はこの歌のさたのみぞ侍職事も院司もいとまある比 しこの比は萬機のまつりごしもさしをかれ がたより申あへるさまことに雨のあしよりもし をよみてそへかしこき言葉を盡して申文をかきか どものもれて思ひくのよすがたづねあるひはうた の朝臣歌 つはいるきあとをもえらばるいゆへ (なごりをしみな もをは しかも て大事と ちま りよき りが

これもやまひ侍り此外にも猶や侍らん覺るばかりを逢とみて事そともなく明に是懜の夢の忘れ形見や

谿 0) 一議 通 4 朝 右 侍 臣 大 h 辨 其 公定 御 隆 遊 仲 琵 は 拍 琶 ~ -子h 3 叄 虚 談 所 飨 作 隆 篳篥 衡 人 は 從 位 親 高 Ti

にたけ 心う 6 3 みえ 其 る事 n 12 h 御 竟宴に さて 1= よの 3 御 遊 て今は کم 此 又 か ず なら を 0) カコ 宴を なみ 13 r, h 事 j は 6 1: ため 3 C ばやおくしても侍べきたいことに かっ て琵琶をひかるくことも度々 る人 b と心づ こそ侍 3 て今は 1-を奉 Ł は 3 る T 和 专 n は 72 b しすくなきことなれ 0 B お 12 7 を見るにこと人 る ~ L 22 0) い よく る人々 b B 5 n びはをとり い 3 かっ 猶清 < B もとよ か ~ なるもの (本コ、ヨリ よそ カジ あ なることい 和 きじろふ人侍きさ のな て詩 書 はせら 歌 いそが b 聖 袖 お げ 歌 T お ぐるを もひ だに まて エグシ É < n 12 合 n ば ざり もさぞなど思 か 0 此 ひ õ ず 聽聞 b ょ みずとこそ あ 集 ~ 侍き 5 12 其 L るさもきくも (= ~ 歌ども に 3 ほ n B h 0) T 63 事 12 it 人 は は T ば B 72 6 3 は 10 h 12 あ C かっ カコ 御 n 承給 U 3 なる 庭 6 侍 め h 5 游 人 1 3 る 入 7: 3 C 12 け 道 0

ど清

書いまだをはら

D

程

は

猶

思ひきらず

願

きく か 72 きと T め あ す 3 は な 12 n b 111 < 2 まな D 0 よ < 0 5 歌 0 < h 75 あ へりとぞ心 しく見え 深 3 かっ 0 程

ず承 御 ٢٠٠ 御 願 ならぬ 0 T は は 僧 申 眼 b つらせ給御 太 元 だ
う
し 今は なら 政 ことな かな 3 せさ 其 かっ b ただし JE. 久 也 外 大 72 ねるこそあ 12 は やうな わ け せ給 臣 n V かっ 年 す は 1 3 h うけ n お 法 n としごろく + は b T ń 御 堂 3 15 ١٠٠ع 3 月 1 る御 侍 B ま 1|1 た 御 7 b る千たひのぢぞうなら -11-10 つくりくやうせらる め は T つりごと 4: み か ~ T 七 お £ 72 行 5 ( 7 は n 0 な つく H をか うの الح 侍 12 御 W やうし か 12 かっ 水 なき 心 6 12 かっ 無 3 n ば B 1= 聞 -1}-12 0 湖 tu 4 めさせ給 1 侍りし 給 8 37 行 B C る つか U てきく お 殿 4 び まな 御 かっ 3. 細 ふさる 3 な を 御 4 te 佛 い 20 とそ 道 < 3 お 侍 か 72 0) は (ボドチギレテナ)本コ、ヨリ又四 で 侍 侍 な は 1-1 ば ~ 3 [ii] 2 GID 9 3 3 てすべ 8 3 te n L 思 まことに 御 身 5 は t 3 ば 身 1 1 は ٤ 3 め 道 0 111 常 3 師 あ か かっ 此 10 0 < 0 h か 15 1) 12 かっ 御 侍 37 る か 72 は 3 2 禪 T 6 党 h シ枚 ず 開 よ T n あ 覺 あ 前

古

あ

手の杜

0

露はしらす昨日

は袖の色に出に

山 如何 思ひ出 は 見 里に住かひあらは人しれぬ歎をはらへ峯の ならて れし山 とて 43 葉ちる奥 ħ る折焚柴の夕烟むせふもうれし忘 去年 の小川の薄氷今はかきなかす法の 雨 は昨 ili る空を詠てもはかなの雲 かっ つけ 里にすまゐして心 日と 0 忍は 小 枕 n B て涙 か 3 に物 曇る 淚 0) を 跡 思 れ形見に 山 枢 の哀や 颪 3 0 水波 木 思 比 0

安か 聞 君 か 500 くて山端深き住 の心は空になりぬ 御 御返し 身とそ成ね る逢難き法に逢身の わせは獨うき世に物や思はん 也野寺の鐘 0 前 音そかしこき 大 Ш 田 守比 正

朽ぬ苔の下に

も嬉しとや訪らふ鐘の音を聞覧

春の 猶てらせ 夕幕の雲も心の れにか 風こはいつよりそ秋の聲難波の夢 દુ 御 か Ш は今はいは しそへら 此 世 あ 思ふ道はよな君そ導の限なるへ 1= 君 り明に聲たになくて雁 にての杜 れた をくきて山 たる二首 0 露 書 端 思 0 袖 は芳の £ は 心 の行 昨 Z か 枯 H 也 3 葉 n る

> 憂事 ない つくも同し空の月都の 山 12 しは し休らへ

君か代をさしも思はの身なりせは少しもよそに思はさらまし 君かとふ其言葉にかくりてそうき身の露は消殘める 共に のへ の露とや消なまし君が 惠の春に逢すは IE

御かへし

ij

ふ迄も憂を見へき我身かは事も思に君を頼まは

惠の 言の葉に懸れる露そ哀なる爭か見まし深き色をは 賴ともこは叶はしと思ひしを深き心の色やみえ剱 (本上旬キエテナシ) へ春 0 H 影に なれ < 0 比神 て消 のひ せぬ るまなからん 露を哀とそ思

IE

卷も畏こき袖に置霜は消にし玉 か計り君忍はすは憂らまし無跡迄も是そ嬉 御か め のて何處空 敷行きに剱今は昔 0 0 ひかり 和 歌 成 0 けり 浦 風

掛

3

2

置 古 催 袖 すも慰むも猶 の波に返りし浦 0 S. も光 君 成 10 へくは へにうき世 風を今は 闇 きに むか 迷 l 中をさとり行 2 道 は 聞そ悲 あら しな ž

僧

正

君 かっ 爲 かっ 都 0 山 やすらひて慰 め かっ ね 0 春 0 枢 0) 夢

げきなればことしは花もてはやす人もおさく 歌どもおほく聞え侍 是もさそ慰 すみにくらされて心ある程の人のこれをなける 間脱簡多シト見ユン 12 8 兼し此 んへのよすがにつけてい L かど聞をよはずとしもよ 春は今さらしなの月や澄け Ch か よは な 0 な h

(殘歌見ェズ)

のあ ことを なく侍るわ れも皆世のならひ也これはい ならひ也さやうに思へども程 何事を思食 さる は おぼ れに忘が 淚 ざ地 せき かっ 出 め 12 たく侍かやうの別の道はさまことに し出 るに B なき御念珠 あ りて更にこそおも へずさまをしき迄なげ 12 かっ 御堂くやうの ית と思け h りける け の度毎 3 な其夜 かに しに此 ふれば忘れもて行 申 日 T もくことにふれ か おぼ げは おは 前大僧 3 は か な し出 3 せられ くは皆 Æ 1 かっ いりし御 御 御 時 12 房の 恵の もな をそ 人の じけ

> 御 詠 もとへつか 6 ん同 空より は 3 12 時 12 雨 る御 來て山 歌 也 里ならぬ 補

3

97

12

是

(此間又チギレテ) 風 山 3 心 思ひ出る折焚柴 なせ川とき流 もいなきみか山 颪 あ の空に れや形見由 成ねる心哉こは す覧法 と聞 なき雲の 陸茂 か らにたくひしられ 0) 12 跡 水 とも素よりなきは 1 は ili かに かっ 0 聖の なき色 4 さとり な 排 V) 歌 14 也 ふ風 州哉 也 V

みかづきといふ御びはおりにめそみてさるら < け 例 仰らるいかなる人のなまごちなくてしたり まじえよと仰 かっ か 元久二のとし玄も 3 わん たり御 の如 へらせ給 とう しその次の め びは カジ たるほど深きあさきへは 寺がく て御遊 12 りの U おか か せ給 n びはにてあそば ひをうち 13 H 月二日賀陽殿 て出 御 C ひけれ でに管絃 め あ んをしきこと侍 させ給 あ りきぞめ おりてたれが る は申 ~ 御 お しとてずさの のこと 0 は わ 0 だして 例 12 かっ まし の三 火災 らざり 後 條殿 也 H わ るに 人 3 12 か 侍 かっ

前 まれ侍しよりとりわき申つけ侍しかば我子のやうに らは母はとしあきが女に侍り此道にたぐひすくなき 子式賢ともに親にさらにおとらずなど御さたどもの そもとしあきが子もなきが口をしき事也むねかた 申やうつたへ侍とし比のもん所どもはみな景賢にた く侍しむかし宗賢にふえならひそめ侍しとむねか をぞかくるたとひに人々いふめるこのこわらは もの也など申侍を聞召てまことにあまりなるまでも のよひとつならぬ すくみこれ 所にも告も合もさるたぐひおほく びて候也すべがたくば今はの時とはつたへたぶべ おほしたて、既に七さいになり候にた つゐでに章賢四十にてまふけて侍た、ひとり侍こわ なる人々くちさだめ申に猶としあきむ でに樂人までに此御さだめにおよぶべかめれば御 侍とも世中さだめなく侍ればひまなき公事に くでけるものをみざりといふとらの子をうめ は かっ n ん事はかたかるべきにもあらず此樂 ありきてい もの にをとりなどさだめ仰 1上手也などおほせありそも かならん 所にてもお 聞え侍さればは る ねか せらる いは たはこ けな くう < 0) あ 12 3 0 つ

> いひくらぶべき人なしさらばこの景賢へ本コレヨリチギ 頭にてあひならびふえにはまことにまたかたならべ レ十行計ナシ) てのちとりわきてならひ侍きそれに宗賢景賢左右音 にこまかにおぼえて侍ればこれに申つけ侍なりと申 き比よりみなたび候にきたうじの東 もわ か るし

\

萬に は 告延喜天暦と申けん帝もかやうに萬の道々に ほせらるこれをうけ給るによろこびの涙すくみ侍き やすくあらんこれにめして元服せさすべきよし 祐宗賢までは當道にならびなきもの也いかでかたは にもなしてみせんと思ひてこまべ~と此ことをよき むるがゆへにかつはむねかたもちひやうをこたらず るにあはれにも侍ればとりわき我子のやうに見さだ いきとしいけるものくならひなれどこれはまた道を かくわたらせおはします事は ついでなれば申 つがん事を思へばまことにいたづらならん人の おこたりなくふのおくにかきてはべる子を思ふ道は んにはいまひといろはまさるべき也此心ざしをみ あやうげにたのみなくみゆれば目の前にをとこ 出 したるとおほせ下さるやう誠 おそらくも侍らじをと 御忠 利

かっ

72

と仰くだれりそのむねを申つかはすおほぢをやの心 おりこそあれ ひやる いしき心地 仰くださる此左 りはつ加冠の人々かねてよりさだめもよほさる る也 じけ 道 廿三日の はのそうぞく左大臣殿よりとくのへたぶべきよ など御たづね有十二月廿四日そのよしさ 12 かっ 0 ならんとをしをり思やり侍やが なくて たなく口をしよろづの事みなといめなど ものどもめ 也 あし して あすになりてかくる事 は か 是 L めもすてずつくべーとまもらさ 其 たに より 大臣殿はとしあきが いそぎてその 日 いっさ して御うら をまつも心もとなく 外 のい 1 カコ となみもなく むね 御 御 風 のいできたる 3 お 0 · の り ほ 氣 でしにも わ て陰陽 せふく など侍、 て心 たら おぼ だ あし 師 めよ せ W せ あ かっ 給 給 る は め h 1-卵殿 ちが かっ 例 極 てふり み をそ ٤ ^ ほく候中に 0 さねたり Ĺ 0 殿 か 申 Ŀ 0 りば 北御 分が とせ 人い 2 か

わら

あ

日

次

に女房右 をしとりに

門

0

扃

0

承給

にて

0

づけは

べち 庤

0 h

4

3

見

たるほどに廿

四

H

のうまの

かっ

たい

今御 衞

行 佐 3

水

などあ

زخ 御

せ給 風

~~

元服

0

b

5

ば

もうけよと仰

< りて出

だれ

りそのよしおやのも

て名字の事をうか

トひ申景基と仰下さる

げ

するにおやおほぢこれを聞きなが

おほいきをは

うくしつきるたる

B ば

h

めうちしてひ

3"

7

卵加冠 ばせられ とこそみえ侍 とこそうぞくに あひぐして御つぼねへまいれり に召 rþ のとにてあらたむ其そうぞくはすほ いはけなきものとも見えずしきりに御 もにこうば ふやくまたれてまい のぼ の役に侍しも庭にてつとめられ 言とりてうやをしいれてせさせらる庭 てぞ侍し利 所に くへ めら せら とり 加 み は かまも L 冠 0 す ともなくおしこ い 出 3 は あ É かっ わきめし ほどすこしゆへ 3 太 旅 ~: らた 力者どもの 御侍て太政大臣報 のきぬこきひとへこきうち かさねざまに へぎのきぬ しと 政大 1 1 髪おは めて 納言定輔 一臣は 1|1 n 5 させ給 ださ 36 りて御ゑぼうし ばそうぞくは あを ā) かっ 03 6 n 利 をきひ るべ しばらく庭に なきに 丽 みて常たり 沙色 Ú L 3. 0 3 以下 1 1 3 小 あ ん事 373 將 ٤ うの まし L より L 道 Ī 11 隆 2 もあら しいら 11/2 感侍 こきうち か b T 15 め 仰 此 ね ためり は やう りぎ 5 俠 L 8 か わ カコ ば 3 6 T 70 10 公 公 n 智

どてそうせよとおぼしくて

は基政か基也と仰せられしたいうち仰くだされんは基政が基也と仰せられしたいうち仰くだれりのおき景質はぐして候やと仰らる宗賢今日のびはよしうけ給あひぐして候やと仰らる宗賢今日のびはよしうけ給ありて雨八御つぼにめされて殊更に萬歳樂つかうまつりて出かくる御代にうまれあひ侍とあゆぐあしことらて出かくる御代にうまれあひ侍とあゆぐあしことらて出かくる御代にうまれあひ侍とあゆぐあしことがにひきくし出てことさらに酒すくめなどすとてかはらけとりて

返事

申遣はするひすぎておの~~かへり侍ぬ其次の日式賢許よりゑひすぎておの~~かへり侍ぬ其次の日式賢許より君かへん千代は傳へよこ紫初もとゆひに霜の置迄

紫の初元結のゆかり迄嬉しき色にむすほへれつる

せられけるにや為家と申それが一かいのこと申候な一年わらはにて參られたりし定家中將の小君も元服元結のこき紫の縁まて君か八千代の結ほヽれつヽ

三笠山雲井をかけて木高かれ初椎柴のはるの行末されて少將もといまりたりしかば申つかはす 道を思ふ心の色の深けれは此一入も君そへむへき 道を思ふ心の色の深けれは此一入も君そへむへき 道を思ふ深き涙の色にいて、あけの衣の一入も哉

位 れて侍しかくる官の闘あるべ 人にやとおぼ 侍らずたかきもくだれるも身のへぞみは申ぶみた これをみてあきれまどひてまつ返事をばせでまいら 又家隆朝臣宮内卿になりて侍に申つかはす もし侍しもさらにぬしくらで又さるおなじ名などの かさなりて御 の程おしはかりてむせ返て望をいだすことはいつも りなりしまかり出てぞけさのかへりたびた 宮の内をけ 入道申こともなかりけれど子息を侍從になされて 春かくる初椎柴の折に逢て是そ三笠の山の してなした あはれみもいでくべかめるをかく ふ踏見るも敷嶋の道の奥知殿ならすや めかれ すっ る なり てのみすぎ侍き宮内卿も家俊二 あさから しともしらぬうへに身 御 か まへのいた b か ひ有

六日 どろ まいらせらるくさらにひえはてさて給てけ 5 のことこそ侍らね七日の にちかくよのことはりもすぎて申 ひまなく侍にそれ 本宮やけさせ給りとり 人もそうし侍きさるは \$2 0 3 ても のま りさはぐ音世 時計りにこそ始めて H 43-せ給けん ば から ~程にぞいでさせ給にしさてよるの かせ給ければちかく候女房達まいりてお 給てよりやがておどろかせ給ず過ぬ b おどろきお Ú 大和 所 あや らせ給 h 3 元外三年ことし 攝 みことの 中 政殿夢のやうにてやませ給にしかば めきく人 日 2 もひ もこ ぼし 0 くしく例にかは てよの み 72 りけ 社 めい 世にの 72 あ 72 道 いくば もな ちに 5 あしたに例 へずや侍 御政ひめもすそうさせ L てか め のやよひ 12 か 御 12 ば し月の廿八 まし かっ こも かっ くしり りに 12 る世 は b あ Ú g h せばうたてきまで 5 n 迷 グ御 侍 たち it 1 h Ł るこそか 0) よりは L き事 など道々 H 袖 程 h 0 T. 5 3 日に熊野 御ましに は 也 から 3 か る程 馬 もや 35 T) は 赤 け ればうま 5 おそく まし 2 b 11 りども 3 かっ 0) か 月 0 給 光 ば h 也 な な わ 0 は 星 5 女 30 8 カコ 人 3 1-0 h

间

0

國

0

難

波

の意

い落標こやうきことの

L 2

辻殿上人上下り御なげきにおば 小 ては とい るに ぐるしう侍し さばことはみもしつべきまでうちし 召はもたるなり 中將など甲 ことな ぢりにいで つめていの からぬこと也内も なしし か にうつしだに候馴 御 12 di Co 난 こく 御門殿 みんへの ふむなしの ど更に べりし 山 12 とも Ł 水 12 侍け 1 h 侍 0) 72 つくり かかくなげき思 宴 とし あ 神馬さら 12 0) か しときより 北 ぼ るしもなし され 倩 0) 专 面人 h L くしりまい もしやとげ 外もあ た侍 るべ 程 御 め たてら ^ ば理 せるい まない な馬 なく 0 ずきやう 13 1) しとて ā) 82 12 大僧 たか 中にては tu はよ 君 りとか 3 111 と申なが らせて かっ 0) T らせ かからい 22 ん者 な 0 召も理に侍 6 īF: E 25 t) 山) しく II.'ê 二三月 御 0) j) 13 やするに かいみとみ 物数をつくして 計りに なせちが 高 を空には 6 け かどもさらに à) か ば より ひやら 8 御 なく ぼ 3 < かっ を待 b は 歎 6 か かっ え侍 人々皆 1) きりり なら ふ行 0 たるこそ心 こそよう 此 んか 12 け b 8 殿 な から to 1) 13 1 3 6 力; Hi.

春のよの夢に驚く名のみして覺ぬは人の心也けり

文僧正御房より 大方の憂世を夢と知人の無れはこそは袖を乾らめ津の國のあしかり鳧な賴こし人も渚そいとへ住憂

鷲の山近き光を見ぬ迄になきも惑ひぬ有も惑ひぬ

叉僧正御房より

即返し、一般の道を深く悟らぬ人は皆淺ましとのみ思ふ成鳧とそ此世の理と思へとも類なきにはねをのみそ鳴

又僧正御房より法の道悟る心はしかや有ん猶うち山の恨しの身や法の道悟る心はしかや有ん猶うち山の恨しの身や

御返し 神の色の類も秋は有なまし春の梢に我いかにせん

又僧正御房より神無月君につけこし思ひまて猶驚かす春のよの夢

春の花秋の月とて詠めしを其友いかに戀しかる覽

石上古き道こそ霞ぬれしるへはのへの露と消にき

御かへし

古道の導は露と消し野に一人殘りて袖濡らすころ其友のうちにや我を思ふ覽戀敷袖の色をみせはや

又僧正御房より

植置 引植 立なむる石間 池 一本薄此 の岩 ねを詠 の水に誰住てあらぬ陰に 秋は しけきの むれはいつか へとや誰 木高 も袖 もな き庭 0 め 松 風

御かへし

無影の石間の水に殘るやと問はや人のあとの故郷故郷の一村薄秋くともかりに立そふ人やなからん引植し岩ねの松に事間ん木高き風と人やたのめし

又僧正御房の御許より

烟立薪も今は盡ぬとてかへれはかねの聲そ悲し

**又僧正御房** 涙そふかへさや空もくもるらん野寺の鐘の曉

の夢

恥しや是をうれしと思ふ人の心をてらせ山

揣

0

月

かすかに是を嬉と月影の差て宿らぬ

袖は有

七百三

僧

あ P かっ カコ りし 南 0 Ш 0 煙哉 其 しるしとや北 0 彪

南 0 Ш 0 烟 故 Ď れに し袖そ 秋 は は す 37

僧 正

世 111 0 中 住 かっ 多 は 思 く思 ひ 细 n ^ は 1= 絕 成 果 3 せぬ深き心 n 落る 涙は には知人 叉 かっ ひもなし もない

世 世 中 を秋 誰 か思ひ知すと懸て言 も絶に し紅葉は 0 深きを誘 h 泪 0 色 は ふ風で悲し よこの 祖迄 3

僧 正

雪 此 秋 は事 は 普 を戀 問 跡 B る涙 思 U 故 出 月 をた ん消殘る 1 見 D き身には有 身 べとやな b ね な

秋 ころらは B 秋 先思ひ出 を戀しと h ひ置 君 カジ 宿 し其言の葉や思ひ出 1= 跡 なき跡 僧 袖 -正 1816 190 3

俤 をこは かっ カコ I せ h 昨日 なとけ ふを限と語 るり 劔

中

K

年やこそはさて置

n

馴

し昔

をい

カコ

ト忘

h

8

御 5

2 御

ぎりてか うども

なしと思しめ

さば

河

0

7:

0

今は

おどろ

0

跡

0

i)

IE

慰 20 3 御 カコ たよりな n Ł E 春 日 11 花散 る学 懸る TE.

1

今は 唯 花散嶺の 白雲に注か ん雨 よた よりと 3 なれ

絲子 30 御 我 カコ と我とか H に見てい カコ なる事 を思

沿

创

IF.

かっ < 綠 -な 僧 Ò る二葉のまつの L JF. てこれ 御 よをの ょ カゞ b 12 行 20 13 h 末 を稍古 せらる 心こよなく 0) かり pitfi 1-まか せよ

かすと 津 か 0 國 か ふことなし の難波 猶 世 0 夢 中 を歎 3 111 間 中 1-1-いとく 思 U 0 住 n 12 うき風 る草 0 0 ar. rik

勝寺 本の ばへ本又チギレテナシン るその 承 元 すり 其 程 外 年 て六十 には 0) 霜 た 月 CK 1 をよば 六くに は 白 はずそれ の寺 间 殿 0 わ 12 0) 3 1, づ 御 君 b 堂 かっ 8 ひ 供 72 L な 養 7 < 机 h 72 此 と思 T रेगाई 5 とな i): かっ め \$2 弘 12 沙: H

續

12

群書類從第十五終

なみは大小にはよらずみことの末になびか ども すてくた んやうにちひさくし ほりついじつき石たくみ ば國 めいていさく 12 て置 10 々の氏百 此 T 御堂の 末 0) 一姓もお かっ 世 おか いとなみに のすりくはゑんにもたよりあら 1= 5 のかじくの田はなげもうち b んと仰侍らざ 灰となら のぼ りあつまりて池 h 事 n ど世 0 ぬ人しな む さうに のいと

かとて ず歌どもまたさうしに こよなう筆をつくせりしは ぎやうなり れとかくるまれなる事のめづらかなる事はいかで か \れたれば しらぬ事な 誰 n もみることな ば か \$ お か

御堂は前大納言うけ給りてつくる御

佛

は

中

國

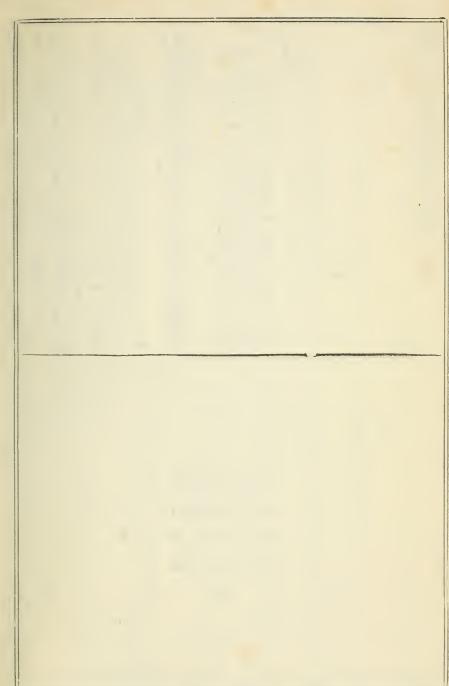
朝 臣

ぶ

かっ

# 古山矢黑 內 山 崎野川 速 弓太真 男代束郎道

校



明 明 治 治 四 四 十 十 年 年 七 七 月 月二十 廿 五 日 日 發 印 行 刷

發編

印

刷

者

本

間

季

男

東

京

市

本

所

區

番

場

町

四

番

地

行輯

者雜

市

國 書 刊 行 南傳

東京

市

京

橋

區

馬

町

丁目十二番地

會

代 表

者

謙

島

吉

印 刷 所

東

京 內 市 外 本 所 即 區 刷 番 場

町

四

番

地

株 式 會 社

非 賣 밆









